財団法人市原市文化財センター調査報告書第94集

上総国分寺台遺跡調査報告XV

市原市加茂遺跡Ａ・Ｂ地点

（第１分冊　本文編）

2005

市　原　市　教　育　委　員　会

財団法人　市原市文化財センター



上：国分寺台から東京湾を望む（手前白い建物が市庁舎：加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は左端中央で造成中）



下：西上空から遺跡を望む（手前は旧加茂の村落）



上：113号住居跡出土遺物一括（Ⅴ期Ｃ： 5 世紀後葉）



下： 1 号方形区画遺構土壙内出土遺物一括（Ⅷ期Ｃ： 8 世紀後葉）

序　　文

市原市の中央部を北流する養老川は、下流の西広周辺で台地に阻まれ、大きく西に向きを変えて東京湾に注いでいます。「国分寺台」と呼ばれるこの台地に、360ヘクタールにおよぶ大規模な土地区画整理事業が計画されたのは、昭和45年のことでした。事業の開始に先立って昭和47年から17年間にわたる発掘調査が実施されてきました。

調査の結果、数多くの遺跡や遺物が発見されました。中でも、昭和63年に公開された稲荷台１号墳出土の「王賜」銘鉄剣は、わが国で書かれた最古の文字資料として、今なお全国的に話題を提供しているところです。

今回報告する加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は、昭和50～52年に加茂地区で発掘調査された遺跡です。調査では古墳時代の竪穴住居跡を中心とする遺構群が検出され、古墳時代中期から奈良・平安時代の集落跡の存在が明らかになりました。古墳時代の竪穴住居跡からは、土器と共に土鈴や土製ペンダント・ミニチュア土器・手捏ね土器などの祭祀遺物が出土し、いにしえの人々の精神文化の解明などに欠かすことのできない多くの資料も、得ることができました。

本書は、これらの成果を纏めたものです。国分寺台地区の報告書としては、15冊目にあたります。この報告書が、学術資料としてはもとより、市民の方々に広く活用され、市原市の古代史解明に役立つことを願ってやみません。

遺跡の発掘調査ならびに報告書刊行にあたって、多くの方々にご尽力いただきました。

文化庁文化財部記念物課・（財）市原市文化財センターをはじめとする関係各位に対しまして、深く感謝するものでございます。

また、現場調査にあたって終始ご指導いただきました故滝口宏先生・故平野元三郎先生に謝意を表しますとともに、お名前をここに記して、報告書の刊行をご報告する次第であります。

平成17年３月

市原市教育委員会

教育長　山中　齊

例　言

1．本書は、千葉県市原市加茂字内山536－1番地他に所在した、遺物包蔵地として調査を行った発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、市原市教育委員会の委託を受け、市原市教育委員会の指導のもと、上総国分寺台遺跡調査団が実施し、整理・報告事業は財団法人市原市文化財センターが実施した。

3．発掘調査は、上総国分寺台遺跡調査会団長滝口宏指導のもと、当時同調査団副団長であった平野元三郎が代表を務めていた平野考古学研究所が中心となり実施し、調査員に谷島一馬・對馬郁夫が当たった。

4．発掘調査期間および調査担当者は以下のとおりである。

発掘調査	A地点	昭和50年7月～昭和51年1月	平野元三郎・谷島一馬・對馬郁夫
	B地点	昭和51年12月～昭和52年4月	平野元三郎・谷島一馬・對馬郁夫
整理作業		平成13年4月～平成15年7月	田中清美
		平成15年8月～平成16年12月	浅利幸一

5．本書で使用した地形図は以下のとおりである。第1図は国土地理院発行1／25,000地形図「五井」・「蘇我」・「姉崎」「海士有木」。第2図は市原市地形図1／3,000（昭和38年度）を元に一部修正した。第3図は市原市都市計画図1／2,500（現況図：平成7年度改訂版）と第2図（旧地形図）を使用した。第4図は千葉県地方法務局市原出張所が保管する明治9年に千葉県が作成した「上総國市原郡市原村大字地図帳」を元に国学院大学文学部教授木下良氏・吉田敏弘氏他の「上総国府推定地歴史地理学的調査団」が作成した字切り図と第2図（旧地形図）を合成した。第5図は第3図（現況図）に第4図のうち旧字名を合成した。第1～6図は座標北である。

6．遺跡の方位は、発掘調査時に磁北の任意座標で行い、本書に示した方位も磁北で示した。磁北と座標北の差は、磁北が座標北より7°弱西側に振れる。

7．本文中の竪穴住居跡床面状況については、当時の調査員、谷島一馬氏の作業日誌等の記録（谷島メモ）を元に記した。

8．本報告書に掲載した遺物実測図は田中清美が指導して行った。遺構図面の作成は田中作成のデーターを元に浅利幸一が行った。写真撮影は浅利。第1表「遺構一覧表」・「第3表遺物観察表」は浅利・田中。執筆分担は下記による。

第1章　第1節～第4節　浅利。　第2章　第1節遺構を田中、遺物を浅利。

第2章　第2節～第5節　浅利。　第2章　第1節・第5節の縄文土器解説は西野雅人。

第3章　第1節「加茂遺跡出土の貝類遺体について」鶴岡英一。

第3章　第2節「加茂遺跡A・B地点の中世遺物群について」桜井敦史。

第3章　第3節と編集　浅利。

9．遺構図面の縮尺は住居跡1／80・土坑1／50、それ以外は適宜とした。遺物に関しては、土器は1／4・鉄器1／2・石器1／3を原則とし、そのつど縮尺を明記した。

10．発掘調査参加者名

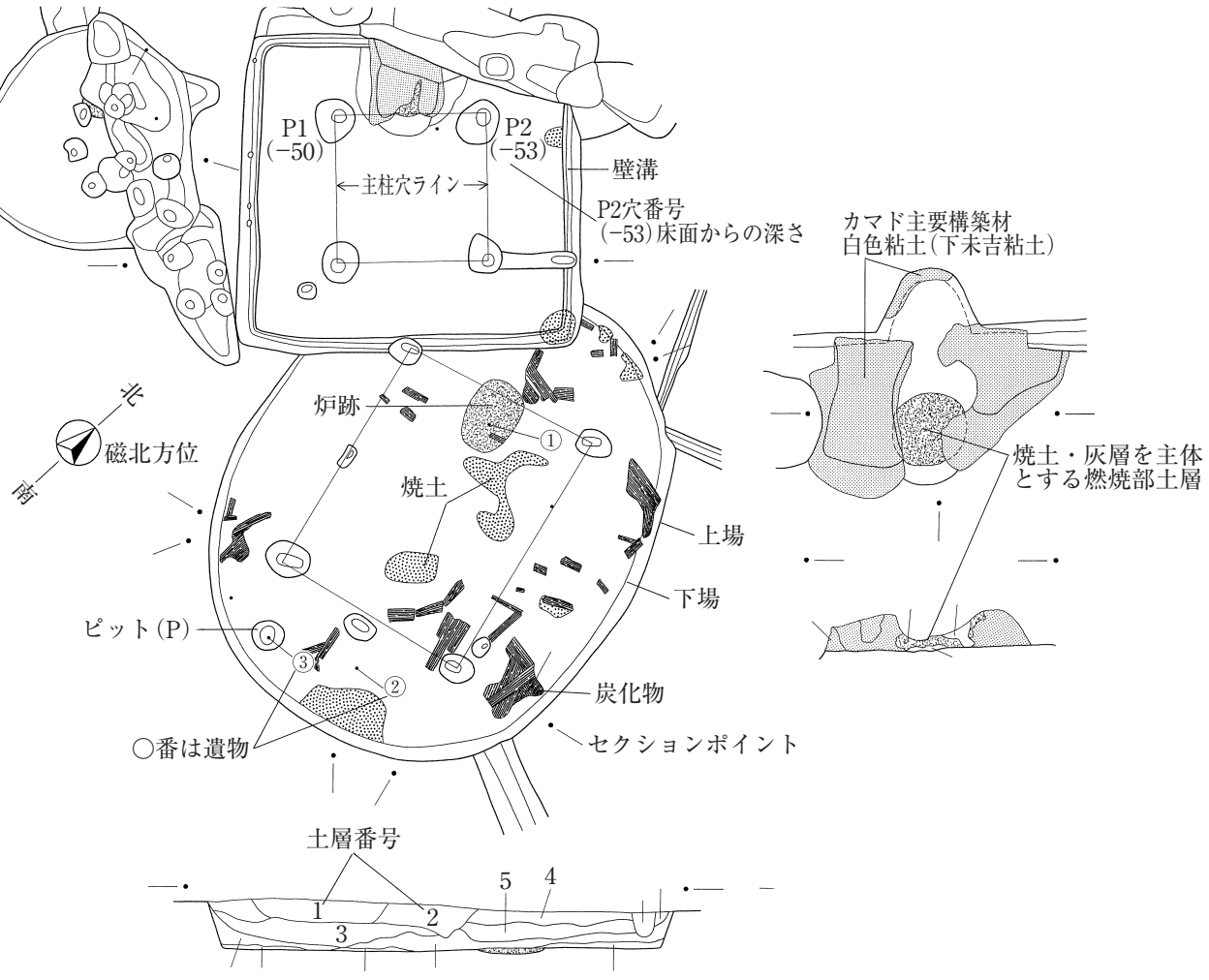
補助員：山崎信明・渡辺　幸・山田秋江・山崎節子・松本英世（富津市上総湊５名)、永野康雄(上高根)、宮原寿子（総社)、鈴木きん・吉野よし・建石てる（郡本地区３名)、泉水ふみゑ・泉水　育・泉水千代・泉水俊江・泉水とみ子（藤井地区６名)、斉藤志め・斉藤栄・斉藤くに（加茂地区３名)・中村やす・中村八重子・若菜たみ・若菜文（山田橋地区４名)、高橋シズヨ（根田)、田中清美（駒沢大学)、浅利幸一（和光大学)。(参加者名簿は、当時の協力者から聞き取り調査した。)

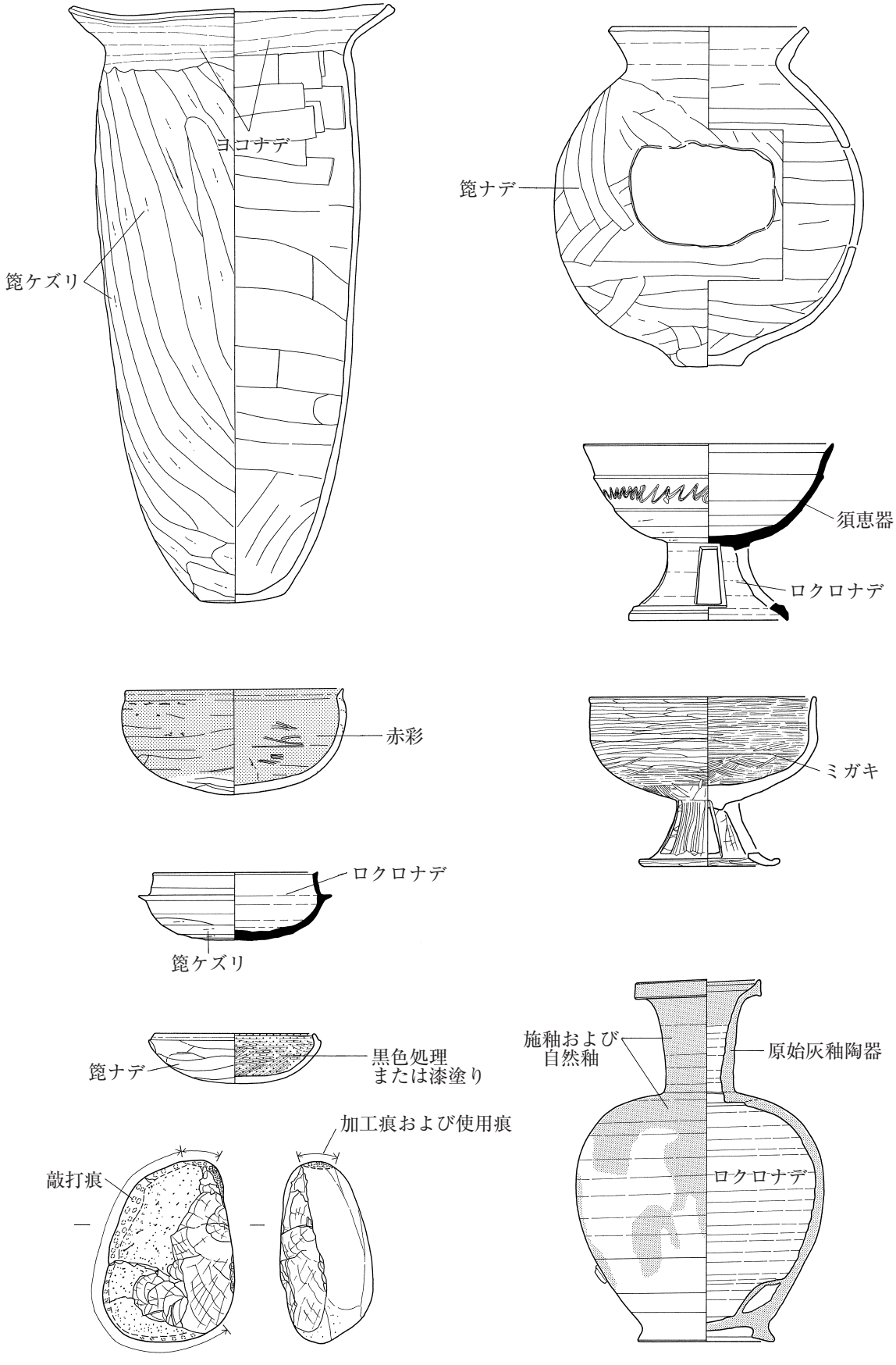
11. 整理作業は財団法人市原市文化財センター補助員が従事し、土器実測は清宮恵子・水野陽子・熱海千里・佐野鈴子・松本松代・多久和真津子、トレースは山崎朋子・半沢敏子（遺物)・林久美子・池内淳子（遺構)、挿図組は細田裕子・水野陽子・熱海千里、遺物観察表は熱海千里、写真図版組は細田裕子・重藤由紀子が主に行った。

12. 発掘調査にかかわる諸事項に関しては、体制がととのっていない時期であったこともあり、曖昧な部分もあり、上記各項目についても、遺漏のある可能性がある。その点については、原稿執筆者の責に帰すものである。

凡　　例

１．遺構実測図および土器実測図に示した表現およびスクリーントン表示は、以下のとおりである。




ヨコナデ
甕ケズリ
甕ナデ
須恵器
ロクロナデ
赤彩
ミガキ
ロクロナデ
甕ケズリ
甕ナデ
黒色処理
または漆塗り
加工痕および使用痕
敲打痕
施釉および
自然釉
原始灰釉陶器
ロクロナデ

本　文　目　次

第１章　　はじめに

第１節　調査に至る経緯と経過 …… 3
第２節　遺跡の位置と歴史的環境 …… 4
第３節　調査方法 ……19
第４節　遺跡の概要 ……20

第２章　　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡と出土遺物 ……33
第２節　方形区画遺構と出土遺物 ……426
第３節　溝状遺構 ……433
第４節　竪穴状遺構・地下式土壙等 ……443
第５節　遺構外の出土遺物 ……456

第３章　　まとめ

第１節　加茂遺跡出土の貝類遺体について ……467
第２節　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の中世陶磁器群について ……471
第３節　各期の設定と集落変遷 ……481

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図……5
第 2 図　国分寺台遺跡群主要遺跡分布図 ……7・8
第 3 図　遺跡周辺の現況図と旧地形図 ……14
第 4 図　遺跡周辺の字切り図 ……15
第 5 図　遺跡周辺の現況図と字切り図 ……16
第 6 図　加茂遺跡 A・B 地点と周辺の遺跡 ……17・18
第 7 図　加茂遺跡 A・B 地点全体図 ……21・22
第 8 図　加茂遺跡 A・B 地点グリット配置図 ……24
第 9 図　遺跡詳細区割り図（1） ……25・26
第 10 図　遺跡詳細区割り図（2） ……27・28
第 11 図　遺跡詳細区割り図（3） ……29・30
第 12 図　1 号住居跡とカマド ……34
第 13 図　1 号住居跡出土遺物 ……35
第 14 図　2 号住居跡とカマド ……36
第 15 図　2 号住居跡出土遺物 ……37
第 16 図　3 号住居跡とカマド ……38
第 17 図　3 号住居跡出土遺物 ……39
第 18 図　4 号・5 号住居跡とカマド ……41
第 19 図　4 号・5 号住居跡出土遺物（1） ……42
第 20 図　4 号・5 号住居跡出土遺物（2） ……43
第 21 図　6 号住居跡とカマド ……44
第 22 図　6 号住居跡出土遺物（1） ……45
第 23 図　6 号住居跡出土遺物（2） ……46
第 24 図　7 号住居跡とカマド ……48
第 25 図　7 号住居跡出土遺物 ……49
第 26 図　8 号住居跡と出土遺物（1） ……50
第 27 図　8 号住居跡出土遺物（2） ……51
第 28 図　8 号住居跡出土遺物（3） ……52
第 29 図　9 号住居跡とカマド ……54
第 30 図　9 号住居跡出土遺物 ……55
第 31 図　10号住居跡と出土遺物（1） ……56
第 32 図　10号住居跡出土遺物（2） ……57
第 33 図　11号・12号住居跡とカマド ……59
第 34 図　11号住居跡出土遺物 ……60
第 35 図　12号住居跡出土遺物 ……60
第 36 図　13号・14号住居跡と出土遺物 ……61
第 37 図　15号住居跡とカマド ……62
第 38 図　15号住居跡出土遺物（1） ……63
第 39 図　15号住居跡出土遺物（2） ……64
第 40 図　16号住居跡 ……66
第 41 図　17号住居跡 ……66
第 42 図　16号住居跡出土遺物 ……67
第 43 図　17号住居跡出土遺物 ……68
第 44 図　18号・19号住居跡とカマド ……70
第 45 図　18号住居跡出土遺物 ……71
第 46 図　19号住居跡出土遺物 ……72
第 47 図　20号住居跡と出土遺物 ……72
第 48 図　21号住居跡とカマド ……74
第 49 図　21号住居跡出土遺物 ……75
第 50 図　22号住居跡 ……76
第 51 図　22号住居跡出土遺物（1） ……77
第 52 図　22号住居跡出土遺物（2） ……78
第 53 図　23号住居跡と出土遺物 ……80
第 54 図　24号住居跡と出土遺物 ……81
第 55 図　25号住居跡と出土遺物 ……83
第 56 図　26号住居跡 ……84
第 57 図　26号住居跡出土遺物 ……85
第 58 図　27号住居跡と出土遺物 ……87
第 59 図　28号住居跡 ……88
第 60 図　28号住居跡出土遺物 ……89
第 61 図　29号・30号・31号住居跡 ……90
第 62 図　29号住居跡出土遺物 ……92
第 63 図　30号住居跡出土遺物（1） ……92
第 64 図　30号住居跡出土遺物（2） ……93
第 65 図　30号住居跡出土遺物（3） ……94
第 66 図　31号住居跡出土遺物 ……94
第 67 図　32号住居跡と出土遺物（1） ……96
第 68 図　32号住居跡出土遺物（2） ……97
第 69 図　33号・34号住居跡 ……98
第 70 図　33号住居跡出土遺物 ……99
第 71 図　34号住居跡出土遺物……101
第 72 図　35号住居跡……102
第 73 図　35号住居跡出土遺物……103
第 74 図　36号住居跡出土遺物……103
第 75 図　36号・37号・38号住居跡……105
第 76 図　37号住居跡出土遺物……106
第 77 図　38号住居跡出土遺物……107
第 78 図　39号～43号住居跡……109
第 79 図　39号住居跡と出土遺物……110
第 80 図　40号・41号住居跡と出土遺物……111
第 81 図　42号・43号住居跡と43号
　　住居跡出土遺物 ……113
第 82 図　42号住居跡出土遺物……114
第 83 図　44号～48号住居跡……116
第 84 図　44号～48号住居跡断面図……117
第 85 図　44号住居跡出土遺物……118
第 86 図　45号住居跡出土遺物……118
第 87 図　46号住居跡出土遺物……118
第 88 図　47号住居跡出土遺物……120
第 89 図　48号住居跡出土遺物……120
第 90 図　49号・50号住居跡……122
第 91 図　49号住居跡出土遺物……123
第 92 図　50号住居跡出土遺物……123
第 93 図　51号住居跡と出土遺物……124
第 94 図　52号・53号住居跡……126
第 95 図　52号・53号住居跡断面図……127
第 96 図　52号住居跡出土遺物……128
第 97 図　53号住居跡出土遺物……129
第 98 図　54号～57号住居跡……131
第 99 図　54号住居跡出土遺物……132
第100図　55号住居跡出土遺物……132
第101図　56号住居跡出土遺物……132
第102図　57号住居跡出土遺物……133
第103図　58号住居跡出土遺物……133
第104図　58・59号住居跡……134
第105図　59号住居跡出土遺物……134
第106図　60号住居跡と出土遺物……136
第107図　61号住居跡と出土遺物……137
第108図　62号住居跡とカマド……139
第109図　62号住居跡と出土遺物……140
第110図　63号住居跡と出土遺物……141
第111図　64号住居跡と出土遺物……143
第112図　65号住居跡とカマド……144
第113図　65号住居跡出土遺物……145
第114図　66号住居跡と出土遺物（1） ……147
第115図　66号住居跡出土遺物（2） ……148

第116図　66号住居跡出土遺物（３）……149
第117図　67号住居跡と出土遺物……150
第118図　68号・69号・70号住居跡……152
第119図　69号住居跡とカマド……153
第120図　70号住居跡とカマド……153
第121図　68～70号住居跡出土遺物……154
第122図　71号住居跡とカマド……156
第123図　71号住居跡出土遺物……157
第124図　72号・73号・74号住居跡……159
第125図　72号住居跡カマド……160
第126図　74号住居跡カマド……160
第127図　72号住居跡出土遺物……161
第128図　73号住居跡出土遺物……161
第129図　74号住居跡出土遺物……161
第130図　75号・76号・77号住居跡……163
第131図　75号住居跡カマドと75～81号
　住居跡複合状況 ……164
第132図　75号住居跡出土遺物……165
第133図　76号住居跡出土遺物……166
第134図　77号住居跡出土遺物……167
第135図　78号住居跡とカマド……169
第136図　78号住居跡出土遺物……170
第137図　79号・80号・81号住居跡
　とカマド ……172
第138図　79号住居跡出土遺物（１）……173
第139図　79号住居跡出土遺物（２）……174
第140図　80号・81号住居跡出土遺物……174
第141図　82号・83号住居跡とカマド……175
第142図　82号・83号住居跡出土遺物……176
第143図　84号～89号住居跡……178
第144図　84号～89号住居跡断面図……179
第145図　84号住居跡出土遺物……180
第146図　85号住居跡出土遺物……180
第147図　86号住居跡出土遺物……180
第148図　87号住居跡出土遺物……182
第149図　88号住居跡出土遺物……182
第150図　89号住居跡と出土遺物……184
第151図　90号・91号・92号住居跡……186
第152図　91号住居跡出土遺物……186
第153図　91号・92号住居跡カマド……187
第154図　92号住居跡出土遺物……188
第155図　93号住居跡とカマド……189
第156図　93号住居跡出土遺物……190
第157図　94号住居跡とカマド……192
第158図　94号住居跡出土遺物……193
第159図　95号住居跡と出土遺物……194
第160図　96号住居跡と出土遺物……196
第161図　97号・98号号住居跡……197
第162図　97号住居跡出土遺物……198
第163図　98号住居跡出土遺物……198
第164図　99号・100号住居跡 ……200
第165図　100号住居跡カマド ……201
第166図　99号住居跡出土遺物……201
第167図　100号住居跡出土遺物 ……202
第168図　101号住居跡とカマド ……203
第169図　101号住居跡出土遺物 ……204
第170図　102号住居跡と出土遺物 ……205
第171図　103号～107号住居跡……207
第172図　103号～107号住居跡断面図……208
第173図　103号住居跡カマド ……208
第174図　103号住居跡出土遺物 ……209
第175図　104号住居跡出土遺物 ……209
第176図　105号住居跡出土遺物 ……209
第177図　106号住居跡出土遺物 ……209
第178図　108号住居跡 ……211
第179図　108号住居跡出土遺物（１） ……212
第180図　108号住居跡出土遺物（２） ……213
第181図　108号住居跡出土遺物（３） ……214
第182図　109号・110号住居跡とカマド……215
第183図　109号住居跡出土遺物（１） ……216
第184図　109号住居跡出土遺物（２） ……218
第185図　110号住居跡出土遺物 ……219
第186図　111号住居跡と出土遺物 ……220
第187図　112号住居跡と出土遺物 ……221
第188図　113号住居跡 ……223
第189図　113号住居跡出土遺物（１） ……224
第190図　113号住居跡出土遺物（２） ……225
第191図　113号住居跡出土遺物（３） ……226
第192図　113号住居跡出土遺物（４） ……227
第193図　113号住居跡出土遺物（５） ……228
第194図　113号住居跡出土遺物（６） ……229
第195図　113号住居跡遺物出土状況 ……230
第196図　114号住居跡とカマド ……232
第197図　114号住居跡出土遺物 ……233
第198図　115号住居跡と出土遺物 ……234
第199図　116号住居跡と出土遺物 ……236
第200図　117号住居跡と出土遺物 ……237
第201図　118号住居跡とカマド ……238
第202図　118号住居跡出土遺物 ……240
第203図　119号住居跡 ……240
第204図　119号住居跡カマドと出土遺物 ……241
第205図　120号・121号住居跡……242
第206図　120号住居跡カマド ……243
第207図　121号住居跡カマド ……243
第208図　120号住居跡出土遺物 ……244
第209図　121号住居跡出土遺物 ……244
第210図　122号・123号住居跡……246
第211図　122号住居跡出土遺物 ……247
第212図　123号住居跡断面図と出土遺物 ……248
第213図　124号住居跡と出土遺物 ……250
第214図　125号住居跡と出土遺物 ……251
第215図　126号・127号住居跡……253
第216図　126号・127号住居跡出土遺物……254
第217図　128号・129号住居跡……256
第218図　128号住居跡出土遺物 ……257
第219図　129号住居跡出土遺物 ……257
第220図　130号住居跡と出土遺物 ……258
第221図　131号住居跡 ……260
第222図　131号住居跡出土遺物 ……261
第223図　132号住居跡と出土遺物 ……262
第224図　133号～138号住居跡……264
第225図　133号～138号住居跡断面図……265
第226図　133号住居跡出土遺物 ……266
第227図　134号住居跡出土遺物 ……266
第228図　135号・136号住居跡出土遺物……266
第229図　137号住居跡出土遺物 ……268
第230図　138号住居跡出土遺物 ……268
第231図　139号・140号住居跡……270
第232図　139号住居跡出土遺物 ……271
第233図　140号住居跡出土遺物 ……271
第234図　141号・142号住居跡と出土遺物……272
第235図　143号～146号住居跡……273

第236図　143号～146号住居跡断面図……274
第237図　143号住居跡カマド ……275
第238図　144号住居跡カマド ……275
第239図　145号住居跡カマド ……276
第240図　146号住居跡カマド ……276
第241図　143号住居跡出土遺物 ……277
第242図　144号住居跡出土遺物 ……279
第243図　145号住居跡出土遺物 ……280
第244図　146号住居跡出土遺物 ……280
第245図　147号住居跡とカマド ……282
第246図　147号住居跡出土遺物 ……283
第247図　148号・149号住居跡……284
第248図　148号住居跡出土遺物 ……285
第249図　149号住居跡カマド ……285
第250図　150号住居跡と出土遺物 ……287
第251図　151号住居跡と出土遺物 ……288
第252図　152号～159号住居跡……290
第253図　152号～159号住居跡断面図……291
第254図　152号・154号住居跡と出土遺物……292
第255図　156号住居跡カマド ……294
第256図　157号住居跡カマド ……294
第257図　155号住居跡出土遺物 ……295
第258図　156号住居跡出土遺物 ……295
第259図　157号住居跡出土遺物 ……296
第260図　158号住居跡出土遺物 ……297
第261図　159号住居跡カマドと出土遺物 ……298
第262図　160号・161号・162号住居跡 ……300
第263図　161号住居跡断面図 ……301
第264図　161号住居跡カマド ……301
第265図　162号住居跡カマド ……301
第266図　160号住居跡出土遺物 ……303
第267図　162号住居跡出土遺物 ……303
第268図　161号住居跡出土遺物 ……304
第269図　163号住居跡と出土遺物 ……305
第270図　164号～167号住居跡……307
第271図　164号～167号住居跡断面図……308
第272図　164号住居跡出土遺物 ……309
第273図　165号住居跡出土遺物 ……310
第274図　166号住居跡出土遺物 ……311
第275図　167号住居跡出土遺物 ……311
第276図　168号住居跡と遺物出土状況 ……313
第277図　168号住居跡出土遺物 ……314
第278図　169号～171号住居跡……316
第279図　172号～175号住居跡……318
第280図　170号住居跡カマド ……319
第281図　174号住居跡カマド ……319
第282図　175号住居跡カマド ……319
第283図　169号住居跡出土遺物（１） ……320
第284図　169号住居跡出土遺物（２） ……321
第285図　170号住居跡出土遺物 ……322
第286図　171号住居跡出土遺物 ……322
第287図　172号住居跡出土遺物 ……322
第288図　173号住居跡出土遺物 ……322
第289図　174号住居跡出土遺物 ……323
第290図　175号住居跡出土遺物 ……323
第291図　176号・177号・178号住居跡 ……325
第292図　176号住居跡出土遺物 ……326
第293図　177号住居跡出土遺物 ……326
第294図　178号住居跡出土遺物 ……326
第295図　179号・180号住居跡とカマド……328
第296図　180号住居跡出土遺物 ……329
第297図　181号住居跡と出土遺物 ……331
第298図　182号住居跡と出土遺物 ……332
第299図　183号・184号・185号住居跡 ……334
第300図　183号住居跡出土遺物 ……335
第301図　184号住居跡出土遺物 ……335
第302図　185号住居跡出土遺物 ……335
第303図　186号・187号住居跡と出土遺物……337
第304図　188号～190号住居跡……339
第305図　188号住居跡出土遺物 ……339
第306図　189号住居跡出土遺物 ……340
第307図　190号住居跡出土遺物 ……340
第308図　191号～193号住居跡……341
第309図　192号住居跡カマド ……342
第310図　191号住居跡出土遺物 ……342
第311図　193号住居跡出土遺物 ……342
第312図　192号住居跡出土遺物 ……343
第313図　194号～199号住居跡……344
第314図　194号～199号住居跡断面図……346
第315図　196号住居跡カマド ……348
第316図　197号住居跡カマド ……348
第317図　194号住居跡出土遺物 ……349
第318図　195号住居跡出土遺物 ……349
第319図　196号住居跡出土遺物 ……350
第320図　197号住居跡出土遺物１ ……350
第321図　196号住居跡上層出土遺物 ……350
第322図　198号住居跡出土遺物 ……351
第323図　199号住居跡出土遺物 ……351
第324図　200号住居跡出土遺物 ……351
第325図　200号・201号・202号住居跡 ……353
第326図　200号・201号・202号
　住居跡断面図 ……354
第327図　201号住居跡カマド ……354
第328図　201号住居跡出土遺物 ……355
第329図　202号住居跡出土遺物 ……355
第330図　203号・204号住居跡……357
第331図　204号住居跡出土遺物 ……358
第332図　205号住居跡とカマド ……359
第333図　205号住居跡出土遺物 ……360
第334図　206号・207号住居跡と出土遺物……362
第335図　207号住居跡カマドと出土遺物 ……363
第336図　208号住居跡 ……365
第337図　208号住居跡カマドと出土遺物 ……366
第338図　209号・210号・211号住居跡 ……368
第339図　209号・210号・211号
　住居跡断面図 ……369
第340図　211号住居跡カマド ……369
第341図　209号住居跡出土遺物 ……370
第342図　210号住居跡出土遺物 ……370
第343図　211号住居跡出土遺物 ……370
第344図　212号住居跡と出土遺物 ……371
第345図　213号住居跡 ……373
第346図　213号住居跡カマドと出土遺物 ……374
第347図　214号住居跡とカマド ……375
第348図　214号住居跡出土遺物（１） ……376
第349図　214号住居跡出土遺物（２） ……377
第350図　215号～218号住居跡……379
第351図　215号住居跡出土遺物 ……380
第352図　217号住居跡出土遺物 ……380
第353図　218号住居跡出土遺物 ……380
第354図　216号住居跡出土遺物 ……382
第355図　219号～223号住居跡……384

第356図　219号～223号住居跡断面図……385
第357図　220号住居跡カマド ……386
第358図　221号住居跡カマド ……386
第359図　223号住居跡カマド ……386
第360図　219号住居跡出土遺物 ……387
第361図　220号住居跡出土遺物 ……387
第362図　221号住居跡出土遺物 ……387
第363図　222号住居跡出土遺物 ……387
第364図　223号住居跡出土遺物 ……389
第365図　224号住居跡と出土遺物 ……390
第366図　225号住居跡と出土遺物 ……392
第367図　226号～231号住居跡……393
第368図　226号～231号住居跡断面図……394
第369図　228号住居跡カマド ……395
第370図　229号住居跡カマド ……395
第371図　230号住居跡カマド ……396
第372図　231号住居跡カマド ……396
第373図　226号住居跡出土遺物 ……397
第374図　227号住居跡出土遺物 ……397
第375図　228号住居跡出土遺物 ……397
第376図　230号住居跡出土遺物 ……397
第377図　231号住居跡出土遺物 ……397
第378図　229号住居跡出土遺物 ……399
第379図　232号～235号住居跡……400
第380図　232号～235号住居跡断面図……401
第381図　234号住居跡カマド ……402
第382図　235号住居跡カマド ……402
第383図　233号住居跡出土遺物 ……404
第384図　234号住居跡出土遺物 ……404
第385図　235号住居跡出土遺物 ……406
第386図　236号～239号・242号住居跡 ……407
第387図　236号～239号住居跡断面図……408
第388図　238号住居跡カマド ……408
第389図　240・241号住居跡……410
第390図　240号住居跡カマド ……411
第391図　241号住居跡カマド ……411
第392図　242号住居跡カマド ……411
第393図　237号住居跡出土遺物 ……412
第394図　238号住居跡出土遺物 ……412
第395図　239号住居跡出土遺物 ……414
第396図　240号住居跡出土遺物 ……414
第397図　241号住居跡出土遺物 ……414
第398図　243号住居跡とカマド ……416
第399図　243号住居跡出土遺物（１） ……417
第400図　243号住居跡出土遺物（２） ……418
第401図　244号住居跡と出土遺物 ……419
第402図　245号住居跡とカマド ……421
第403図　245号住居跡出土遺物（１） ……422
第404図　245号住居跡出土遺物（２） ……423
第405図　246号住居跡と出土遺物 ……424
第406図　247号住居跡と出土遺物 ……425
第407図　１号方形区画溝遺構……427
第408図　１号方形区画溝遺構出土遺物（１）……428
第409図　１号方形区画溝遺構出土遺物（２）……429
第410図　１号方形区画溝遺構出土遺物（３）……430
第411図　１号方形区画溝遺構出土遺物（４）……431
第412図　２号方形区画溝遺構……432
第413図　３号方形区画溝遺構……432
第414図　溝状遺構配置図（１） ……435・436
第415図　溝状遺構配置図（２） ……437・438
第416図　溝状遺構配置図（３） ……439・440
第417図　１・２・３号溝……442
第418図　１号大形竪穴状遺構……444
第419図　２・３号大形竪穴状遺構……445
第420図　４号大形竪穴状遺構……446
第421図　５号大形竪穴状遺構……447
第422図　１～４地下式土壙……449
第423図　５～７・９・10号地下式土壙……451
第424図　11～13号地下式土壙と１・２号土壙墓……453
第425図　３～22号土壙墓……455
第426図　縄文土器拓影図（１）……457
第427図　縄文土器拓影図（２）……458
第428図　弥生土器拓影図……459
第429図　その他の出土遺物（１）……461
第430図　その他の出土遺物（２）……462
第431図　その他の出土遺物（３）……463
第432図　中世の遺物（１）……474
第433図　中世の遺物（２）……475
第434図　Ⅴ期の土器 ……483・484
第435図　Ⅵ期の土器 ……485・486
第436図　Ⅶ期の土器 ……487・488
第437図　Ⅷ～Ⅸ期の土器 ……489・490
第438図　竪穴住居跡時期別主軸方位図……492
第439図　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点集落変遷図（１）……501
第440図　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点集落変遷図（２）……502

巻頭カラー

巻頭カラー１　上：　国分寺台から東京湾を望む（手前白い建物が市庁舎：加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は左端中央で造成中）
　　下：　西上空から遺跡を望む（手前は旧加茂の村落）
巻頭カラー２　上：　113号住居跡出土遺物一括　（Ⅴ期Ｃ：５世紀後葉）
　　下：　１号方形区画遺構土壙内出土遺物一括（Ⅷ期Ｃ：８世紀後葉）

表目次

別表１　中世実測遺物観察表 ……477～479
別表２　中世陶磁器類全体の内訳 ……480
第１表　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点住居跡一覧表 ……494～498
第２表　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点検出遺構時期別一覧表 ……500
第３表　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点土器観察表 ……504～593

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と経過

第２節　遺跡の位置と歴史的環境

第３節　調査方法

第４節　遺跡の概要

第１章　　は　じ　め　に

第１節　調査に至る経緯と経過

市原市は、昭和38年５月１日、市原町・五井町・三和町・姉崎町・市津町の５町が合併し、面積184,329㎢・総人口10万２千人の県下19番目の市として誕生しました。更に、昭和42年10月１日に南総町・加茂村の一町一村が加わり、東西22㎞・南北36㎞・面積362,139㎢・総人口13万４千人あまりとなり、現在の市域とほぼ同じになりました。平成16年12月１日現在の市の人口は280,968人です。

市原市は房総半島中央部の東京湾東岸に面し、海岸線には京葉工業地帯が形成され、昭和30年代から40年代にかけて首都圏や工業地帯のベットタウンや大規模なゴルフ場などのレジャー施設の建設が展開され急速に発展しました。こうした状況の中、新市庁舎を中心とした新しい街づくりが市原台地南側一帯の国分寺台と呼称される地域に計画され、昭和45年に市原市国分寺台土地区画整理事業組合が設立され、土地造成が開始されました。「国分寺台」の名が示すようにこの台地上には、国分僧寺跡・国分尼寺跡の遺跡の存在が知られ、1200年程前には天平の甍を連ねた七堂伽藍が咲き誇っていました。また、「和名類聚抄」には上総国府は市原郡にありと記述され、古来より上総国府跡や関連遺跡の存在が推定され、上総国の中心地域でもあります。

この区画整理事業地内の埋蔵文化財を保護調査するため、昭和46年12月27日付けで市原市文化財審議会切替尊文会長を理事長とする市原市国分寺台埋蔵文化財調査会が組織されました。実際の調査を担当する機関として調査会の下に、早稲田大学滝口宏教授を団長に、平野元三郎元千葉県知事文化財顧問と市毛勲早稲田実業学校教諭を副団長とした調査団が結成された。翌昭和47年６月24日に、市原市長と市原市国分寺台埋蔵文化財調査会理事長との間に、「市原市国分寺台埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結され、東間部多古墳群の発掘調査から国分寺台遺跡群の発掘調査が開始されました。

発掘調査は当初、昭和47～49年の３ヵ年で実施する計画で始められましたが、調査の進捗に伴い、当初見込まれていた遺跡数が大幅に増加したことや、大規模開発要項の見直しなど当時の社会情勢から計画が大幅に変更され、昭和63年度までの17年間の長期におよぶことになりました。調査は進捗する工事側と発掘調査の遅れから難航を極め、調査員不足の解消から、昭和55年には千葉県教育庁から専門職員の増員を得て行われることになりました。後、調査には昭和58年度から前年に設立された（財）市原市文化財センターが新たに調査に加わり、調査団は昭和60年３月に解散しました。調査団の解散後は（財）市原市文化財センターが調査を引き継ぎ、保存区域や現状換地以外の文化財調査は昭和63年にほぼ終了しました。

その後、整理報告作業は費用の問題から進捗を見なかったが、文化庁文化財保護部記念物課ならびに千葉県教育庁文化課の御配慮により、国庫補助事業として実施する方針が決定し、平成６年度から本格的な補助事業による整理作業が開始されることとなり、これを決起に費用負担の問題が解決され、平成９年度からは、補助事業に加え、事業者負担分の事業が加わり本格的な整理報告作業が開始されています。国庫補助事業では、祇園原貝塚（平成10年）、坊作遺跡（平成14年）、台遺跡Ｂ地点

（平成15年）の３冊、事業者負担分では向原台遺跡（平成14年）、南祇園原遺跡・持塚５号墳・上神台塚群（平成14年）、稲荷台遺跡（平成15年）、辺田古墳群・御林跡遺跡（平成16年）、山倉古墳群（平成16年）の５冊が刊行され、今年度は本報告書の他に２冊が刊行予定である。

第２節　遺跡の位置と歴史的環境

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は、千葉県市原市加茂字内山・掘込536―１番地一帯に所在する。遺跡東南隣接地には浅い埋没谷を挟んで加茂遺跡Ｄ地点、西側小谷を隔てた台地上には西谷古墳群・台遺跡、北東側小谷を隔て対位置する台地上には南向原古墳群・向原台遺跡等が選地する。

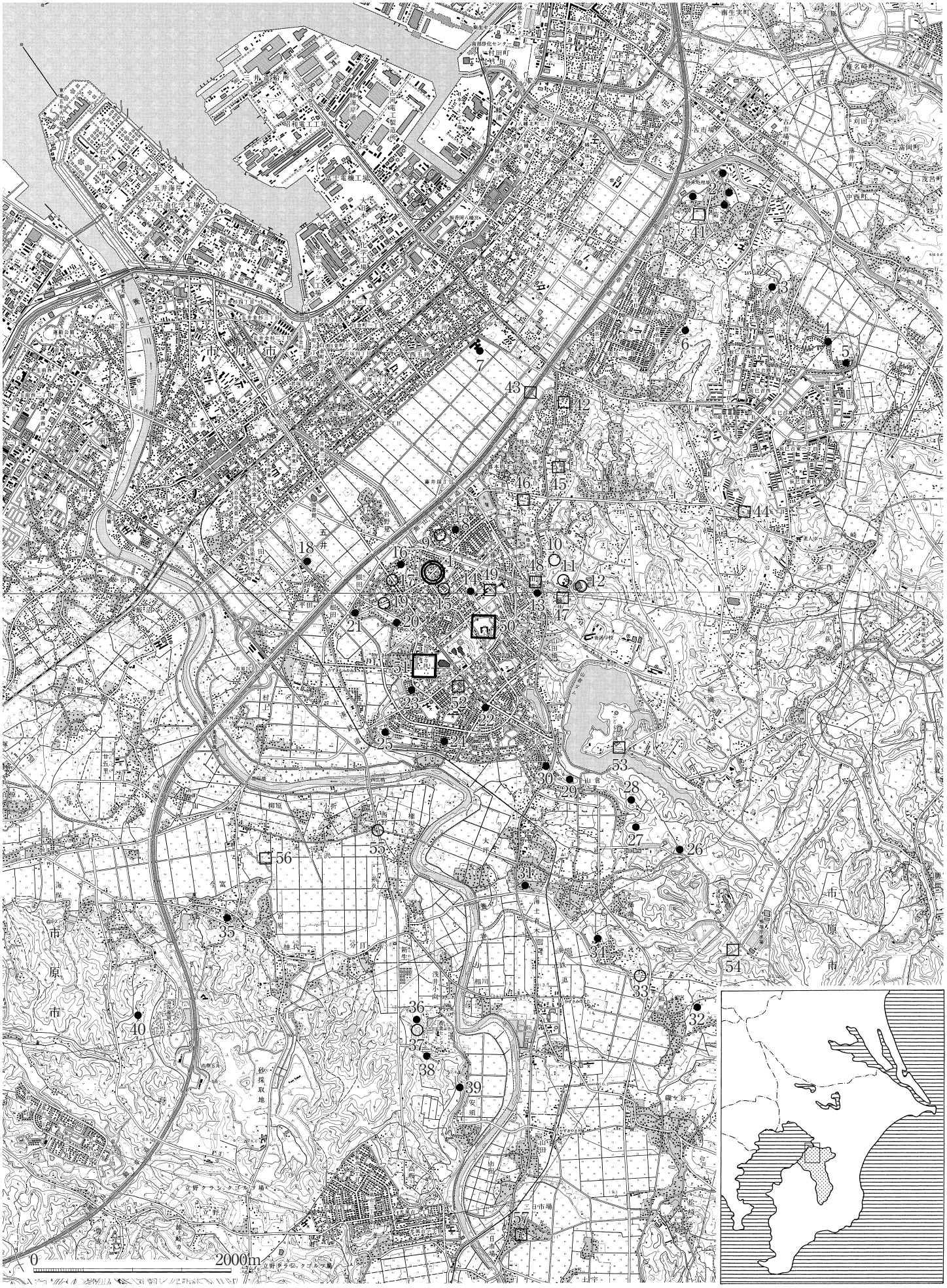
房総半島の中央部を北流して洪積台地に行く手を阻まれ西流して東京湾に注ぐ養老川と、嘗ての上総と下総のほぼ国境を西流して東京湾に注ぐ村田川とに挟まれた海岸平野に面する洪積台地は、市原台地とも呼称されている。広義の市原台地は、南北６㎞、東西3.5㎞程の標高16～40ｍの広大な台地上の地域で、この範囲には縄文時代から中近世に至る数多くの遺跡が分布している。そしてこの市原台地の南西一帯の南北2.7㎞・東西2.0㎞の範囲が国分寺台とも呼称されている。市原台地での主要遺跡は、最北端の村田川河口一帯を直接望む台地先端部に菊間国造代々の墓とされる菊間新皇塚古墳や菊間東関山古墳等の前期・中期・後期の大型前方後円墳を主体とする菊間古墳群が形成されて、南西端の養老川河口ならびに東京湾を一望する国分寺台には出現期古墳の神門古墳群や上総国分二寺を始めとする国分寺台遺跡群が所在し、縄文時代から古代までの数多くの遺跡が確認・調査されている。国分寺台遺跡群では、馬蹄形貝塚の西広貝塚・祇園原貝塚、国分僧寺跡や国分尼寺跡の他に、出現期古墳の神門古墳群、前期・後期～終末期群集墳の諏訪台古墳群・天神台遺跡、「王賜」銘鉄剣出土の稲荷台１号墳、形象埴輪の樹立した後期古墳の山倉１号墳が著名な遺跡として挙げられる。

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は、この国分寺台遺跡群が立地する北西側の東京湾に面する海岸平野に開く小谷に面している。東京湾の旧海岸線より南東方向に直線距離にして約2.5㎞の台地上に位置し、未調査の台地先端部からは直接海岸平野を見下ろすことができる。遺跡の位置する台地は南に基部を有し、標高21ｍ前後を測り、西・北・北東側の海岸平野に直接開く小谷に面している。台地平坦面の規模は東西400ｍ・南北600ｍ程である。この台地上では、加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の南側300ｍの台地基部で加茂遺跡Ｃ地点（(註１)、また、東南側隣接地域で加茂遺跡Ｄ地点が調査されている。加茂遺跡Ａ・Ｂ地点は、古墳時代後期から古墳時代終末期の５世紀後葉から７世紀中葉を主体とし、９世紀代までの竪穴住居跡を検出する断続的な集落跡である。

国分寺台遺跡群で加茂遺跡Ａ・Ｂ地点と同時期の遺跡には、古墳時代集落跡では向原台遺跡・加茂遺跡Ｄ地点・台遺跡・御林跡遺跡、主要古墳群では向原古墳群・南向原古墳群・西谷古墳群・根田古墳群、稲荷台古墳群・山倉古墳群・諏訪台古墳群・東間部多古墳群・持塚古墳群・東古墳群が、また、奈良～平安時代の集落跡では荒久遺跡・坊作遺跡・稲荷台遺跡などを挙げることができる。

国分寺台遺跡群の古墳時代集落跡

向原台（むこうばらだい）遺跡は、加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の北側に小谷を隔て位置し、弥生中期から古墳時代後期の竪穴住居跡が82軒・円墳２基・方形周溝遺構１基等が調査され、竪穴住居跡は弥生中期後半の宮ノ台期約20軒、弥生後期40軒、古墳時代後期23軒が調査されている。古墳時代後期の竪穴



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（遺跡名称は13ページに記載）

住居跡は、9号住居跡に和泉期の影響を受けた高杯が出土する以外は、MT15型式期～TK209型式期の6世紀中葉から7世紀初頭の集落跡である。（註2）

加茂（かも）遺跡D地点は、加茂遺跡A・B地点の東南の同台地上に北東から入り込む浅い谷に寄って仕切られるに過ぎず、本来は加茂遺跡A・B地点と同一の集落跡と言える遺跡である。竪穴住居跡は弥生中期～奈良時代の42軒が検出され、弥生中期後半の宮ノ台期約8軒、弥生後期2軒、弥生終末期1軒、古墳時代中期後半16軒、後期14軒、奈良時代1軒が調査され、その他に、古墳時代の掘立柱建物1棟、古墳時代～古代の掘立柱建物10棟等が調査されている。古墳時代中期後半の竪穴住居跡はTK208～TK23型式期に位置づけられる。（註3）

台（だい）遺跡は、国分寺台北西辺の東京湾に面する台地縁辺の好適地に選地し、弥生中期～古墳時代前期、古墳時代中期後半～奈良時代前半の集落跡でA～E地点が調査されている。報告が既刊されたB地点では、竪穴住居跡は弥生中期から奈良時代までの317軒が検出され、弥生中期9軒、弥生後期108軒、古墳時代前期43軒、古墳時代中期後半43軒、古墳時代後期77軒等が調査され、B地点は更にA・C地点と広がり既刊報告書の竪穴住居跡数は少なく見ても3分の1程で、遺跡全体では調査以前に失われた範囲や未調査部分を加味すると3倍以上に達するもので、国分寺台遺跡群の弥生中期～古墳時代集落跡では、最大規模を誇る。（註4）

御林跡（おはやしあと）遺跡は、既に報告書刊行された辺田古墳群下層および台地縁辺部（註5）と未報告の北に隣接する御林跡遺跡（註6）が調査されている。前者では、竪穴住居跡172軒が検出され、弥生時代後期101軒、古墳時代前期17軒、中期～後期10軒、終末期8軒が調査されている。後期10軒の内33住・44住・60住・72住・82住の5軒は5世紀中葉から後葉に比定されるものである。
未報告部分では325軒程の弥生中期から古墳時代の竪穴住居跡が検出され、弥生時代85軒、古墳時代210軒が検出され、古墳時代は前期およびTK216～TK47型式期平行段階までの中期から後期に継続するであろう集落跡が調査され今後の報告が待たれる。本遺跡は国分寺台遺跡群中で台遺跡と並び古墳時代中期後半の母村的存在と言えよう。

国分寺台遺跡群中における古墳時代中期後半の5世紀中葉から後期・終末期の7世紀代の集落跡は、向原台遺跡、加茂遺跡A・B地点、加茂遺跡D地点、台遺跡A～E地点、御林跡遺跡に集中し、地理的には国分寺台の北西辺の直接東京湾に面する台地上に集中し、弥生時代後期から終末期と古墳時代前期の集落跡が台地内陸部まで分布する様相とは際だった分布傾向を示していると言えよう。

国分寺台遺跡群の古墳群

向原古墳群は向原台遺跡の上層ならびに北東側に存在し、昭和36年の調査では13基の分布が記されている。（註7）1～4号墳のトレンチ調査が行われている。また、1号墳墳丘下からはMT85～TK43型式期の杯身模倣杯を伴う竪穴住居跡が検出され、その後の昭和48年度調査では3基の円墳が調査されたが、3号墳は昭和36年度調査の4号墳と同一の古墳で計6基が調査されたことになる。何れも古墳時代後期の6世紀前半から後半に比定されている。

南向原（みなみむかいはら）古墳群は、加茂遺跡A・B地点の東側小谷を隔てた台地上の南東に位置し、8基の円墳が調査されている。（註8）4号→3号→1号→2号の変遷が示されている。出土土器には、4号墳から深い赤彩椀形杯、2号墳からTK217型式の須恵器杯身や細頸の口縁が開くハソウなどが出土している。また、3号墳中央埋葬施設から三角形式の長頸鏃で深い逆刺を有するものや、



第２図　国分寺台遺跡群主要遺跡分布図

2号墳の無関両刃系鉄鏃などが検出され、5世紀中葉から7世紀中葉段階の築造とされている。(註8)

西谷（にしやつ）古墳群は、加茂遺跡A・B地点の小谷を隔て西側の直接東京湾を眺望する台地上に位置し、当該地域の古墳時代集落の一大拠点である台遺跡北側に選地し、20基から構成される。遺物が公表されていないが、調査担当者の私見が公表されている。前期古墳は小規模方墳4基。中期古墳は確認されない。後期古墳12基は、前半には4基の円墳で内1基が前方部を敷設し、これを含めて5基、後期後半では7基の円墳、終末期では4基の方墳を調査している。(註9)・(註10)

根田（ねだ）古墳群は、国分寺台西縁中央部に南北250m・東西160mほどの東側基部に大規模な土木工事を行い人工的な土橋状を附設したかの様な三角形を呈する独立台地上に選地する。台地縁辺には地形に則して弥生中期後半の宮ノ台期の環濠が回り、環濠集落跡（根田代遺跡）を形成しているが、台地中央は区画整理施工以前に3分の2以上を削平され未調査部分が多い。古墳は、前期方墳3基、後期後半の埴輪を樹立する帆立貝型前方後円墳1基、内部施設に片袖の横穴石室を伴う帆立貝型古墳1基。極めて定角な掘方で組み合わせ式の箱形木棺を有し、埋葬施設が不規則な位置に設ける終末期方墳3基、他に時期不明の3乃至5基の方丘形墳が存在する。調査範囲内からは古墳時代中期から終末期の竪穴住居跡は確認されていない。(註11～13)

稲荷台（いなりだい）古墳群は、加茂遺跡A・B地点から1㎞東の東京湾に開く小谷に面する奥まった台地上に占地し、北支群11基と南支群2基の計13基の円墳から構成される。1号墳から『王賜』銘鉄剣を出土している。この1号墳を含む北支群が中期古墳を主に形成し、2号→3号→1号→4号墳の変遷が示され、5号・6号も5世紀代とされている。北支群の南側150mに位置する南支群2基は、変則的な木棺直葬と横穴石室の埋葬施設を有し後期後半とされている。同台地上からの古墳と同時期の集落跡は確認されないが、東側の小谷を隔てた台地上には古墳時代後期集落跡の千草山遺跡が所在するだけで、古墳時代中期に遡る竪穴住居跡例は無く、西方2㎞の台遺跡や御林跡遺跡があるだけである。(註14・15)

山倉（やまくら）古墳群は、国分寺台の南東端に位置し、広義では20数基からなる古墳群であるが、台地南側に連なる東側3分の2は未開発地域で、調査された古墳は前方後円墳2基、円墳3基、方墳3基である。8基の内5基は、基部を東に有し西に舌状に延びたやせた尾根上に、先端の西から5号→4号→3号→2号→1号と並び、台地先端部の5号墳→東側1号墳へ地形の占地状況に即して順次変遷している。6号墳は1号墳の北100mに、7号墳は更に80m北にそれぞれ単独占地する方墳である。6号墳は、1辺16m程の方墳で出土遺物から前期に比定される。7号墳は奈良・平安時代の方形区画遺構である。5号墳は前期前半で1号墳は前方後円墳で後円部中段に南側に開口した横穴石室が設けられ、くびれ部を中心に中段に人物埴輪列を配列し、墳頂部に器財形埴輪を配列したことが推定されている。1号墳は、古墳時代後期後半の6世紀後葉に比定されている。(註16)

東間部多（とうかんべた）古墳群は国分寺台南縁部の直接養老川を見下ろす南北400m・東西300m程の台地上に位置し、北側に出現期から古墳時代中期前半に至る集落跡である蛇谷遺跡が選地し、古墳群はこの南側台地縁辺を中心に前方後円墳3基、円墳2基、方墳10基から構成される。前期古墳は方墳1基・前方後方墳2基、中期古墳円墳2基、後期古墳は未確認、終末期古墳は9基の方墳が確認されている。15号墳からは叩き整形甕などが出土し、出現期の神門4号墳と平行する時期である。中期古墳1号墳は墳頂中央部から横矧板鋲留短甲が出土し中期後半に比定されて、国分寺台の稲荷台1

号墳の次段階、持塚１号墳の前段階の首長墳が孤立的に存在することが指摘されている。(註17)

持塚（もちづか）は、東間部多古墳群の東側台地上にやや距離を隔て選地する。中期前半隋一の方墳（前方後方墳可能性有り）の４号墳、円墳３基、後期前方後円墳１基、終末期方墳１基で構成され、未調査部分が多くかならずしも特徴とは言い切れないが、前期古墳を含まない中期の大型古墳が集中する地域であることが示されている。(註18)

東（ひがし）古墳群は、持塚古墳群のさらに東側に占地し、山倉古墳群はこれよりふたつの小谷を隔てた西500ｍに位置している。古墳は出現期の方丘形１基、中期円墳２基、終末期方墳４基である。周辺の遺構については、持塚古墳群と同様で、多くの古墳や集落跡の存在も比定できない。(註19)

諏訪台（すわだい）古墳群は、国分寺台の南西隅の養老川河口一帯を直接望む好適地に位置し、縄文時代早期・前期の竪穴住居跡、弥生中期の方形周溝墓・後期の方形周溝墓と竪穴住居跡、古墳時代前期竪穴住居跡群と前期古墳・後期から終末期古墳を経て奈良から平安時代の方形区画墓が面々と築造され、墓域では市原台地随一、集落跡では台遺跡に継ぐ密集度を誇る。墓域を形成する方形周溝墓や古墳は幾つかの群から成るが集落跡との関係は必ずしも明確ではない。弥生中期宮ノ台期の方形周溝墓50基が確認されるが、住居跡は２軒が検出されるだけである。弥生後期から終末期の方形周溝墓12基、住居跡は正確な数字は不明だが弥生後期から古墳時代前期住居跡460軒以上の内２分の１近くが当たろう。古墳時代前期では、未調査の国分寺台最大級の10号墳の時期が不明だが前方後方墳５基・円丘形墳２基・方墳31基が台地西と南縁辺に３乃至５支群を形成する。５世紀代の中期に該当する古墳は今のところ確認されず、東側台地の東間部多古墳１号墳が最も近接する。後期古墳は、前期古墳群の中に周溝を切断して墳丘を避け縫う様に25基の円墳が築造され、内４基は前方後円墳部を附設し前方後円墳に改変される。古墳は時期が降るに従い台地内側の前期古墳群の背後に築造される。後期円墳群の発生時期が問題となるがMT85乃至TK43型式期以降であろう。終末期の方墳群の選地状況も後期古墳同様の状況を呈し、時期が下るに従い後期円墳群の背後に形成される。古墳は、前方後方墳６基（うち３基は方墳に前方部を附設、１基は横長の方墳でくびれ部存在）・方墳94基以上がある。奈良～平安時代の方形区画遺構50基以上が検出される。古墳時代中期から終末期の竪穴住居跡の存在は無く、方形区画遺構の時期に求められる８世紀中葉以降に数軒が南側台地縁辺中央に確認されるだけである。(註20)

国分寺台遺跡群の周辺の遺跡

国分寺台遺跡群以外の市原台地では、集落跡では稲荷台古墳群の北東側に郡本大宮遺跡、東側小谷を隔て千草山遺跡が、北側には菊間遺跡・大厩遺跡が挙げられる。また、古墳群では菊間古墳群・大厩古墳群が所在する。

郡本大宮遺跡では72軒の竪穴住居跡が調査され、弥生後期２軒・古墳時代後期20軒・終末期12軒・奈良時代９軒・平安時代17軒・時期不明12軒が調査され、その他に10世紀代前半の土師器窯２基が確認されている。台地中央部が削平され検出状況は必ずしも良好では無いが、古墳時代中期に該当する竪穴住居跡の可能性のあるものは、後期前半に比定した１軒のみで、６世紀前葉２軒・中葉５軒・後葉13軒・終末期13軒で集落の中心は後期後半から終末期に存在する。(註21)

千草山遺跡では、１次（昭和50～51年）～３次（昭和61年）の調査で古墳時代～平安時代の竪穴住居跡123軒が調査されている。古墳時代では、古墳時代中期の小円墳１基・後期～終末期の竪穴住居

跡102軒が確認され、その内70%程が7世紀代とされ、古墳時代後期末から終末期の集落跡であることが概ね予想される。この他では、奈良～平安時代の21軒の竪穴住居跡・鍛冶遺構1基・掘立柱建物跡13棟が検出されている。また、千草山遺跡南西に近接する千草山廃寺跡は昭和38年に平野元三郎氏がトレンチ調査を実施し、南北約7ｍ・東西10ｍ・高さ0.9ｍの土壇が確認され、凝灰質砂岩の径30㎝の小礎石が3点検出されている。出土瓦は国分寺と同笵の瓦で、土師器・須恵器の他、僅かな調査面積にもかかわらず多量の瓦が出土し、礎石や土壇状の基壇の存在を考え合わせると瓦葺建物が存在したことは疑う余地のない事であろう。(註22・23)

市原台地北端の東京湾や村田川河口一帯を直接望む台地上には大型前方後円墳を主体とする菊間古墳群が形成され、『国造本記』の「菊麻国造」の墓域と解されている。前期古墳の前方後方墳と推定される後方部径40ｍの新皇塚古墳群、径44ｍの円墳の天神山古墳、中期古墳で復元全長75ｍの前方後円墳権現山古墳、全長61ｍの前方後円墳の東関山古墳、全長51ｍの前方後円墳の姫宮古墳が近接して形成されている。(註24) この台地上の菊間遺跡の調査では、竪穴住居跡54軒が検出され、弥生中期～後期34軒、奈良・平安時代6軒と時期不明14軒が調査されるが、古墳時代中期から後期と終末期の竪穴住居跡は確認されていない。(註25)

また、村田川河口から2㎞上流域左岸台地上には、前期末の墳丘径50ｍ強の円墳、大厩浅間様古墳が存在している。(註26) 同台地上南側に位置する「大厩遺跡」では9基の古墳と79軒の竪穴住居跡が調査されている。前期方墳3基、前期末～中期古墳の方墳3基、後期～終末期の前方後円型を含む円丘形墳3基が存在する。住居跡は、弥生中期～後期65軒、古墳時代前期2軒、中期4軒、後期8軒がある。後期8軒も同時に存在した可能性は、2～3軒で12,000㎡の調査面積を考えると、中期から後期の集落跡の存在は見出せないものである。(註27・28)

国分寺台の西、東京湾に面する標高6～7ｍの微高地上には、古墳が点在する。御蔭目浅間神社古墳は、推定全長30.5ｍの帆立貝型の古墳で周溝内からは、3条4段の円筒埴輪や猪・鶏・馬・鹿・力士などの形象埴輪が検出され、5世紀末から6世紀初頭の時期が当てられている。また、この微高地上には、古墳時代中期～後期の失われた古墳が多数存在することが予測される。(註29)

今一つ重要な遺跡に五所四反田遺跡が挙げられる。市原台地の北西に広がる標高5ｍ程の沖積平野上に立地する一帯は、市原条里制遺跡として知られ、明治9年に千葉県が作成した「上総國市原郡市原村大字地図帳」等によると、長地型の坪内地割を基本とする条里地割が確認でき、「一の坪」「二の坪」「三條町」「四ノ瀬」「一ノ町」「二ノ町」「三ノ町」といった坪の数に由来する字名が台地側から海岸線に向かい整然と並んで残されていた。遺跡は坪名が残る位置から更に旧海岸線に寄り、台地縁辺から1㎞程に位置する。墳丘径15ｍ程の小規模円墳、幅10ｍ程の溝、井戸状遺構が検出されている。出土遺物には、古墳時代前期から中期の和泉式の高杯・小形丸底壺・剣型石製模造品・子持ち勾玉の他に、黒漆塗りの儀仗用杖が出土し、台地上には希薄な存在である古墳時代中期前葉～中葉の古墳群や集落跡の存在が予測される遺跡である。(註30)

国分寺台の奈良～平安時代の主要遺跡

国分寺台遺跡群では、上総国分僧寺跡、上総国分尼寺跡、稲荷台遺跡、荒久遺跡、坊作遺跡などが挙げられる。

上総国分僧寺跡は南北480ｍ（4.4町）・北辺東西236ｍ（2.2町）・南辺東西299ｍ（2.8町）と変則的

な形をとる寺域外郭溝で区画された寺域が確認され、伽藍はＡ・Ｂ期の大きく２時期が確認されている。Ａ期は中軸線方位Ｎ－５°30′―Ｅを指向し、僧寺が最初に造営された仮設的な国分寺で寺域外郭溝もＡ期に設けられている。Ｂ期の国分寺はＡ期の寺域外郭溝をそのままに踏襲し、中軸線方位Ｎ－３°―Ｗを指向する。主要伽藍は南大門・中門・回廊・塔・金堂で塔は回廊内に東塔の礎石が残っている。大官大寺に似た伽藍様式と考えられている。寺域北辺の調査では僧坊相当の施設が調査される他、「東院」・「西館」・「油菜所」などの墨書土器から造営に必要な諸施設が集約されていたことが指摘されている。また、荒久遺跡は僧寺東側一帯に広がる、僧寺造営に関わる遺跡として知られ、灰釉浄瓶の優品が著名である。(註31)

上総国分尼寺跡は、南北372m（3.5町）・東西は北辺で285m（2.5町60尺）・最も広いところで350mを計測する概ね長方形をなす寺域外郭溝に囲まれ、寺域面積は12.3万㎡および国分尼寺では全国最大の面積を誇っている。僧寺同様に大きくＡ・Ｂ期に伽藍中軸線の方位の異なる伽藍が確認されている。尼寺では中心伽藍とともに北側一帯に広がる付属雑舎の諸施設の全容がほぼ明らかにされている。(註32) また、坊作遺跡は尼寺北側に在り、僧寺と荒久遺跡同様の関連にある。(註33)

稲荷台遺跡は、稲荷台古墳群北支群をほぼ包括する遺跡である。遺跡からは、墳丘が残存した古墳時代中期の稲荷台１号・３号・４号墳や墳丘が削平され周溝のみを検出した小円墳の他、奈良～平安時代の竪穴住居跡79軒・掘立柱建物跡45棟以上・祭祀遺構13カ所・土器廃棄遺構４カ所、遺物では灰釉陶器や緑釉陶器の施釉陶器、墨書土器などが多量に検出され、平安時代の９世紀代前半から10世紀中葉までの百数十年間に亘り、上総の国が関与した祭祀行為が行われた官衙に付随した施設と考えられている。遺跡は溝や古代道で区画され、東西120m・南北270m乃至360mの南北に長い定格な方形区画で32,000㎡～43,000㎡の広大な地域が想定されている。遺跡中央には、稲荷台１号墳径約28m・高さ2.2mの土壇に残存した墳丘をも取り込んでいた。竪穴住居跡と掘立柱建物跡の各時期の数は、Ａ期８世紀後半代に15軒、Ⅰ期９世紀初頭７軒・６棟、Ⅱａ期９世紀第２四半期14軒・12棟、Ⅱｂ期９世紀第３四半期５軒・13棟、Ⅲａ期９世紀第４四半期３軒・６棟、Ⅲｂ期９世紀末葉～10世紀初頭３軒・５棟、Ⅳ期10世紀第１～第２四半期14軒・５棟、Ⅴ期10世紀後半代４軒・３棟、Ⅵ期10世紀末葉～11世紀前葉２軒の変遷が想定されている。(註34)

８～９世紀代の国府関連遺跡では、国分寺台の西南に広がる総社・村上地区、市原台地の市原地区・郡本・能満地区が上げられる。総社・村上地区は養老川が蛇行して国分寺台との間に広大な洪積地の河岸段丘を形成するが、この地域に須田・石井が国府域をそれぞれ推定している。

国分寺台の北方に広がる市原・郡本地区では、北から光善寺廃寺・古甲遺跡・郡本八幡神社が挙げられる。光善寺廃寺は７世紀第４四半期の成立とされ、市原郡衙推定地など考慮して、市原郡の郡名寺院として性格付けがなされている。古甲遺跡は、「古甲」の字名が「古国府」の転化であり、上総国府の推定地として注目される遺跡である。

また、国分寺台遺跡群の南、養老川対岸の標高７～10mを測る自然堤防上に立地する西野遺跡は、「倭名類聚抄」の上海上郡の郡衙推定地で、大字西野・小折・十五沢・柳原・今富地区にまたがる範囲で数次にわたる調査が行なわれ、竪穴住居跡・井戸跡・溝・規則的に並ぶ掘立柱建物跡が確認され、時期も郡衙造営期とかさなる奈良～平安時代とされている。西端に位置する今富廃寺からは、鐙瓦に三重圏文縁単弁八葉蓮華文と二重圏文縁単弁八葉蓮華文が検出されることから、７世紀末から８

世紀初頭の創建とされる。

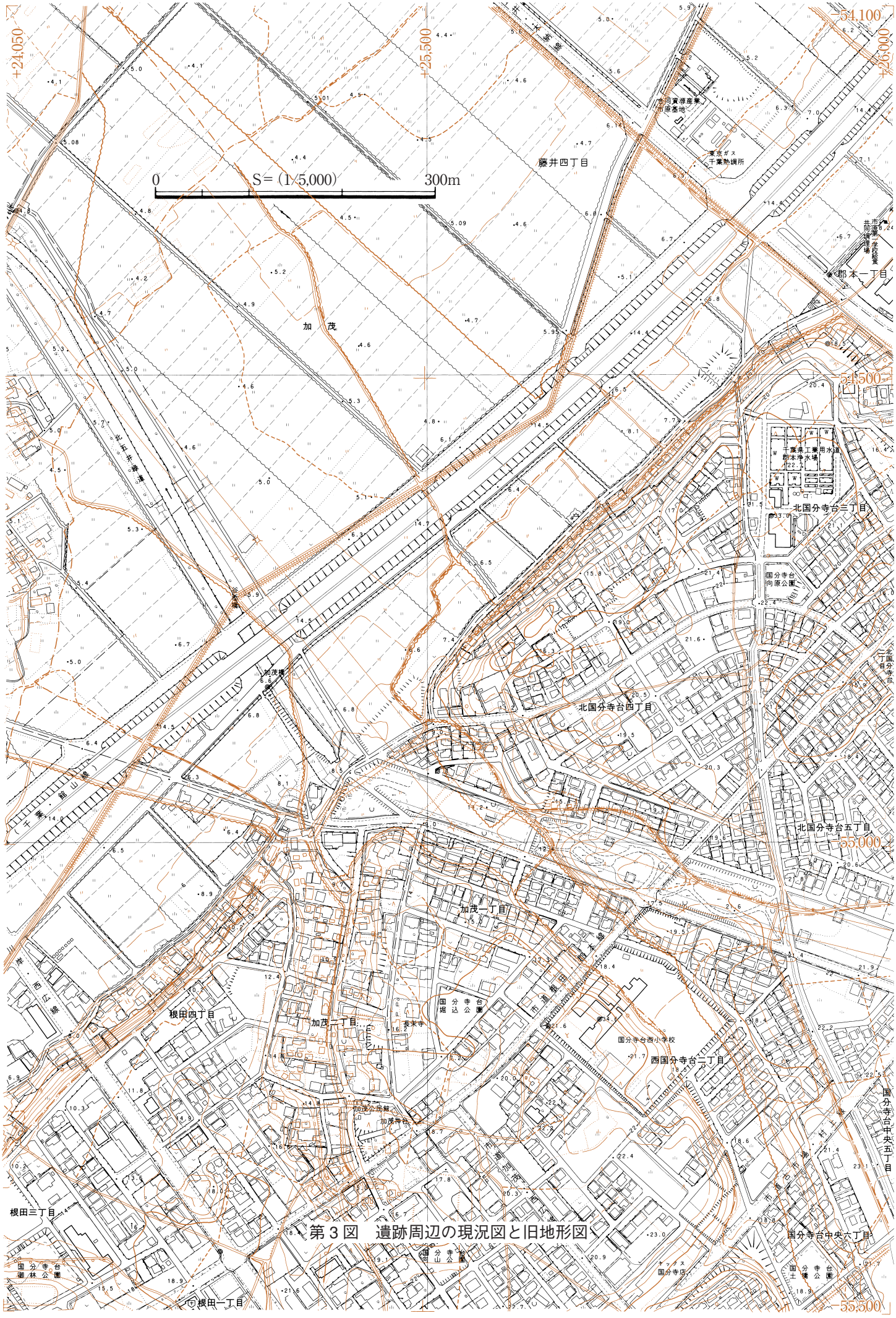
市原台地には、国分寺台遺跡群所在する遺跡以外にも縄文・弥生・古墳時代～奈良・平安時代に至る重要遺跡が存在し、まさに古代上総国の中心地域と言っても言い過ぎではあるまい。

註

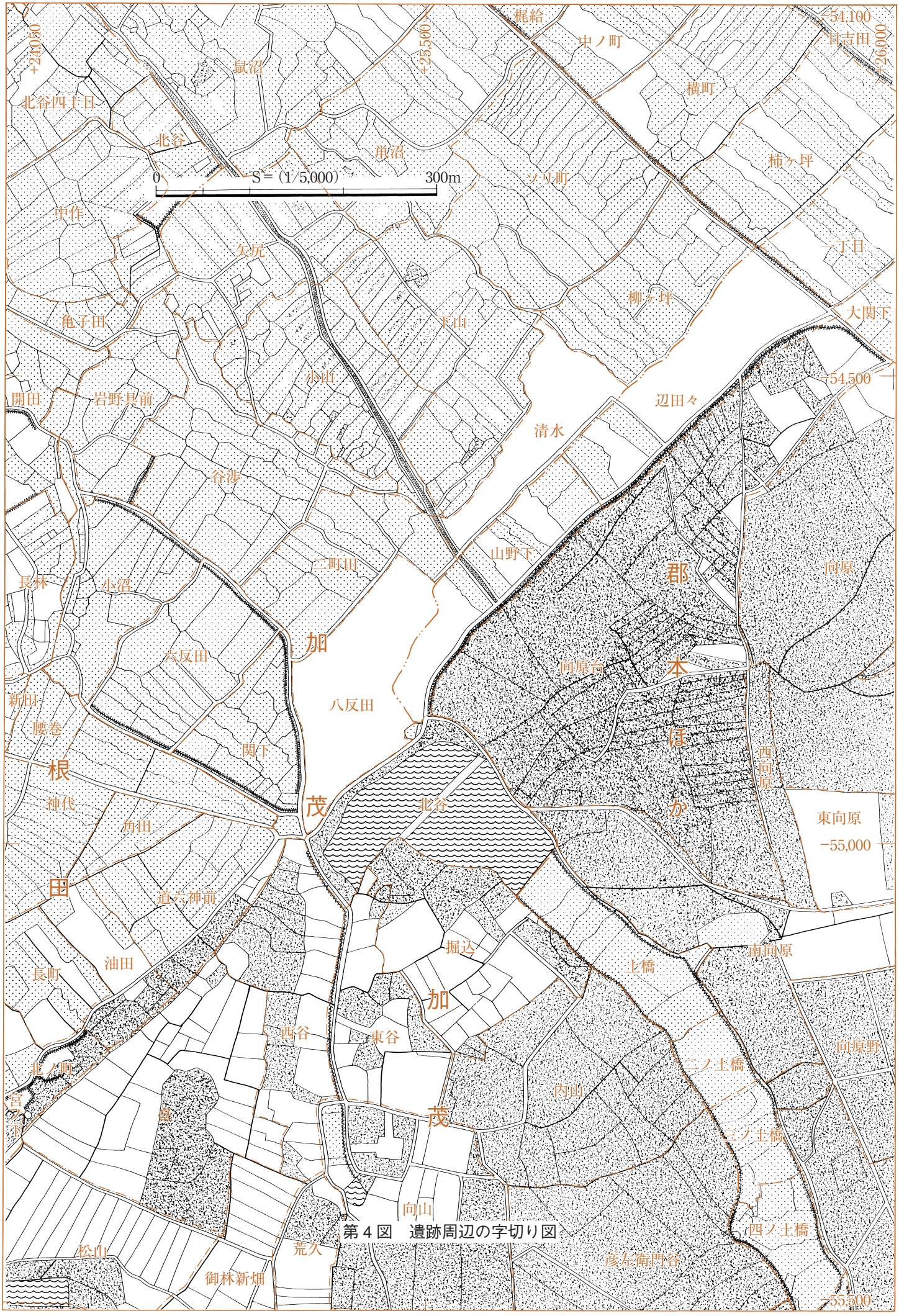
（註１）対馬郁夫・谷島一馬ほか「加茂遺跡Ｃ地点の調査」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅲ』上総国分寺台遺跡調査団　1976年
（註２）高橋康男『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』財団法人市原市文化財センター　2002年
（註３）小橋健司『市原市加茂遺跡Ｄ地点』財団法人市原市文化財センター　2002年
（註４）半田堅三『市原市台遺跡Ｂ地点』市原市教育委員会　2003年
（註５）木對和紀『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』財団法人市原市文化財センター　2003年
（註６）谷島一馬「御林跡遺跡の調査」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅲ』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会1979年
（註７）大場磐雄・寺村光晴「上総市原古墳群の調査」『國學院雑誌第六十二巻　第九号』1961年
（註８）須田　勉・田中新史　『南向原』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会　1976年
（註９）田中新史「古墳時代終末期の地域色―東国の地下式系土壙墓を中心としてー」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学　1985年
（註10）田中新史『上総市原台の光芒－市原古墳群と上総国分寺台遺跡調査団－』市原古墳群刊行会　2000年
（註11）田中新史「西谷･諏訪台･根田古墳群」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会1980年
（註12）田中新史「根田古墳群の調査」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会　1981年
（註13）浅利幸一「根田遺跡の調査」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会　1981年
（註14）滝口　宏ほか『「王賜」銘鉄剣概報―千葉県市原市稲荷台１号墳出土―』市原市教育委員会1988年
（註15）田中新史「稲荷台古墳群の調査―1976年度の古墳調査」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団　1977年
〃　「稲荷台古墳群の調査―1977年度の古墳調査」『上総国分寺台発掘調査概報』上総国分寺台遺跡調査団　1978年
（註16）小出紳夫・桜井敦史・小橋健司『市原市山倉古墳群』財団法人市原市文化財センター2004年
（註17）須田　勉ほか　『東間部多古墳群』上総国分寺台遺跡調査団・市原市教育委員会　1974年
（註18）註10に同じ。　（註19）註10に同じ。
（註20）浅利幸一「諏訪台古墳群」『千葉県の歴史　資料編考古２（弥生・古墳時代）』千葉県　2003年
（註21）浅利幸一『郡本大宮遺跡』（財）市原市文化財センター　1991年
（註22）安藤鴻基・田中清美『千草山遺跡』千草山遺跡発掘調査団　1979年
（註23）田中清美ほか『千草山遺跡・東千草山遺跡』（財）市原市文化財センター　1989年
（註24）斎木勝ほか『市原市菊間遺跡』（財）千葉県都市公社　1979年
（註25）白井久美子「菊間古墳群」『千葉県の歴史　資料編考古２（弥生・古墳時代）』千葉県　2003年
（註26）浅利幸一『市原市大厩浅間様古墳調査報告書』（財）市原市文化財センター　1999年
（註27）三森俊彦ほか『市原市大厩遺跡』（財）千葉県都市公社　1974年
（註28）古内　茂　「大厩遺跡」『千葉県の歴史　資料編考古２（弥生・古墳時代）』千葉県　2003年
（註29）浅利幸一・大村　直『御蔵目浅間神社古墳』（財）市原市文化財センター　1987年
（註30）近藤　敏　「五所四反田遺跡について」『市原市八幡地区の遺跡と文化財』市原市地方史連絡協議会　2004年
（註31）須田　勉「上総国分僧寺跡」『千葉県の歴史　資料編考古３（奈良・平安時代）』千葉県　1998年
（註32）宮本敬一「上総国分尼寺」『千葉県の歴史　資料編考古３（奈良・平安時代）』千葉県　1998年
（註33）小出紳夫『坊作遺跡』（財）市原市文化財センター　2002年
（註34）浅利幸一ほか『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター　2003年

第１図　遺跡名称

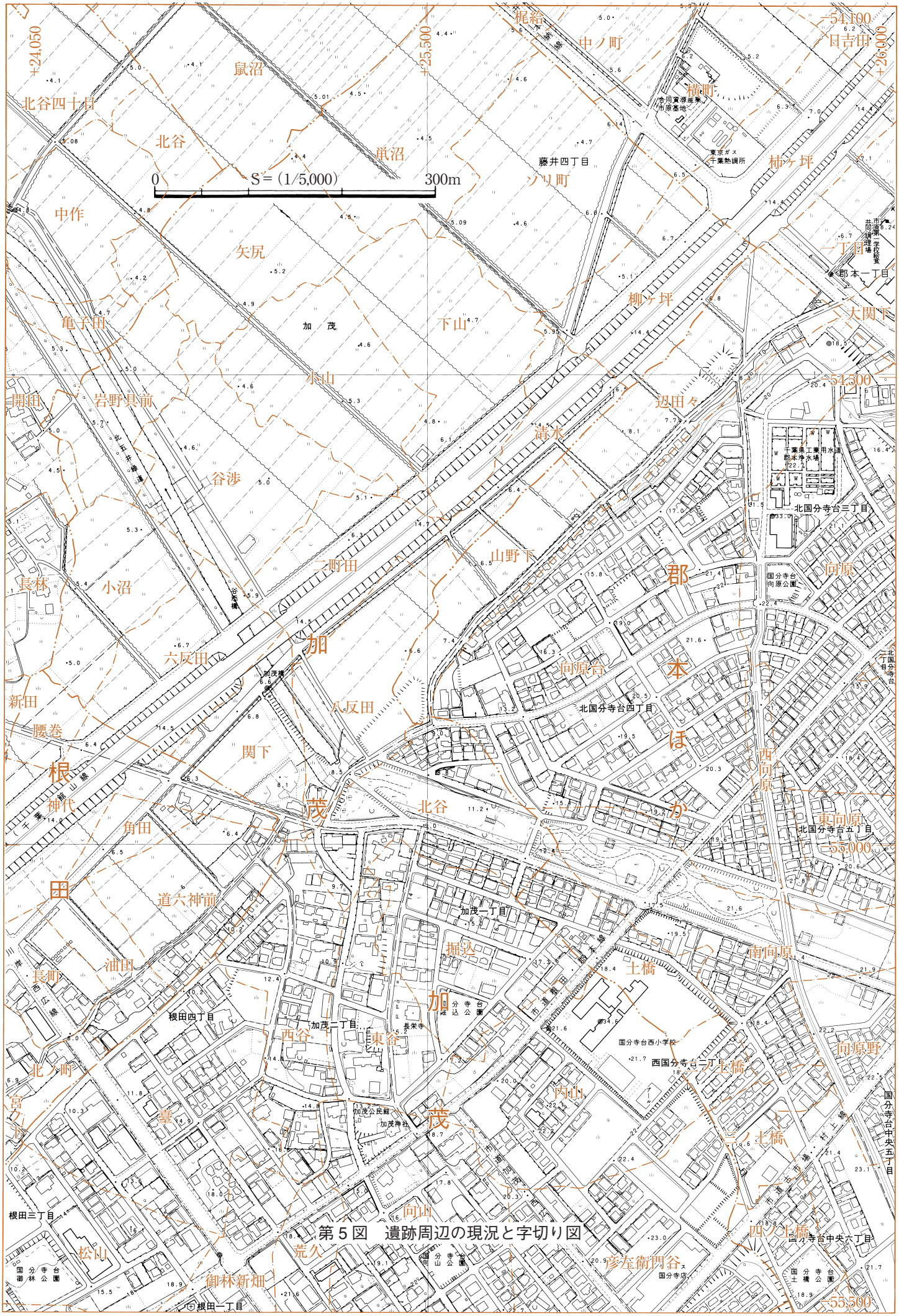
１．加茂遺跡Ａ・Ｂ地点　２．菊間古墳群　３．大厩二子塚古墳　４．大厩浅間様古墳　５．大厩遺跡　６．菊間仙台原古墳群
７．五所四反田遺跡　８．向原台古墳群　９．向原台遺跡　10．郡本大宮遺跡　11．千草山遺跡　12．東千草山遺跡
13．稲荷台古墳群　14．南向原古墳群　15．加茂遺跡Ｄ地点　16．西谷古墳群　17．台遺跡　18．御蔵目浅間神社古墳
19．御林跡遺跡　20．辺田古墳群　21．根田代遺跡　22．持塚古墳群　23．神門古墳群　24．東間部多古墳群　25．諏訪台古墳群
26．福増古墳群　27．山倉猿ヶ谷古墳群　28．山倉堂谷古墳群　29．山倉八郎作古墳群　30．山倉古墳群　31．新殿古墳群
32．武士古墳群　33．叶台遺跡　34．数郷古墳群　35．今富塚山古墳　36．釜神古墳群　37．釜神遺跡　38．安須古墳群
39．安須遠目塚古墳　40．海保山王古墳群　41．菊間廃寺跡　42．光善寺廃寺跡　43．市原条里制遺跡　44．南大広遺跡
45．古甲遺跡　46．郡本遺跡群（八幡神社）　47．千草山廃寺跡　48．稲荷台遺跡　49．坊作遺跡　50．上総国分尼寺跡
51.上総国分僧寺跡　52.荒久遺跡　53.孟地遺跡　54.武士廃寺跡　55.西野遺跡群　56.今富廃寺跡　57.二日市場廃寺跡



第３図　遺跡周辺の現況図と旧地形図



第４図　遺跡周辺の字切り図



第５図　遺跡周辺の現況と字切り図



第 6 図　加茂遺跡A・B地点と周辺遺跡

第３節　調査方法

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の調査は、Ａ地点とＢ地点を地権者同意の関係から分けて行われ、Ａ地点が昭和50年７月16日～昭和51年１月31日に、Ｂ地点は昭和51年12月８日～昭和52年４月22日に実施された。Ａ地点の調査に先立ち、昭和50年７月12日に、市側担当者の田中喜作氏、区画整地組合出口氏他３名、調査担当者谷島一馬氏の三者により現地確認を行い、調査区域の地境の確認を行った後、調査面積10,000㎡の調査に着手した。

表土除去に大型のブルドーザー１台を導入して、確認面のソフトローム上層までの表土除去を行い12日間で作業を終了している。発掘調査は、表土除去と平行して７月26日から実施された。遺構検出には、ジョレンとハンドドーザーおよびベルトコンベアー、小型ブルドーザーを随時使用して進められた。各遺構の平面プラン検出に続き遺構の調査が開始された。今日では、表土除去にバックホーなどの重機が恒常的に使用されて行われているが、当時としては画期的な出来事であった。平野元三郎氏が代表を務めていた平野考古学研究所の市原市での発掘調査は、昭和46年度の市民会館建設に先立って実施された発掘調査当初から実施され、手永貝塚・南中台遺跡・向原台遺跡・千草山遺跡・加茂遺跡Ａ・Ｂ地点と行い、その調査方法には、上総国分寺台遺跡調査団のメンバーからも批判されていたが、散布地等の集落跡調査では費用面から見て有効であった。

表土除去大型ブルドーザー１台で行った力量は、仮に表土厚0.5ｍに換算すると。

10,000㎡（面積）×0.5ｍ（表土厚）÷12日（ブルドーザー稼働日数）≒417㎡／１日。

測量調査に際しては、座標値は任意座標を組、方位は磁北で行い。竪穴住居跡等の各遺構の測量は、平板測量で１／20を原則とし、遺構の大きさで１／30も使用した。カマド実測は、１／10で行った。水準測量は、国分寺台土地区画整理作成した現況図に記入された標高を基準としたが、記録の紛失により不確定要素が強く確実な一部の記載に留め､断面図および土層図には水平線のみを記入した。全体図作成は、任意座標の10ｍ方眼を基準とし、縮尺100分の１で行った。この全体図作成に使用した10ｍ方眼を報告書で遺構位置を表す為のグリッドとして使用し、現地調査時にはグリッド測量は使用してない。

遺構番号は、Ａ・Ｂ地点を分けて調査を実施し、通し番号を使用せず、Ａ地点は１～138号住居跡、Ｂ地点は１～90号住居跡の番号が調査順に付けられ、複合する住居跡にはＡ・Ｂ・Ｃの枝番号を追加して行った。Ａ地点では149軒・Ｂ地点では96軒の竪穴住居跡が調査され、Ｂ地点の整理作業で新発見された住居跡２軒を加え247軒を調査した。溝・土壙・地下式土壙も同様に番号が付けられ記録されているが、報告書作成に当たり、性格不明や実測図等の記録が存在しない遺構については掲載していない。

調査時の遺物取り上げは、床面や覆土中の大きな破片に番号を付け、床面とのレベル差を記入して取り上げている。遺物台帳は直接図面に遺物番号とレベルを記している。注記番号例ＫＡＨ１Ｐｏ１は、Ｋは加茂遺跡、ＡはＡ地点、Ｈ１は１号住居跡、Ｐｏ１は土器出土位置でポイント番号である。報告書では、出土位置が明確なものについて平面図に○番で示した。

報告書では、住居跡番号をＡ・Ｂ地点を通し番号とし、第１表住居跡一覧表に新旧遺構番号対照を明記した。

第４節　遺跡の概要

発掘調査範囲は、地権者同意が得られた範囲を対象に実施された。調査面積はＡ地点10,050㎡・Ｂ地点5,230㎡で合計15,280㎡である。調査面積に対する竪穴住居跡の密度は61.8㎡に１軒となる。
その後の平成12年に、東南に隣接する現状換地されていた地域を加茂Ｄ地点として7,220㎡の調査が行われている。46軒の竪穴住居跡が検出され、調査面積に対する竪穴住居跡の密度は157㎡に１軒となる。因みに南方三百数十メートルに所在する加茂遺跡Ｃ地点は、、5,000㎡の調査で弥生時代後期の竪穴住居跡３軒、方形周溝墓１基を検出している。方形周溝墓は、出現期古墳の神門５号墳に先行する墳丘径約20ｍ・周溝外径24ｍの当該期最大級規模が調査されている。

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の調査では、竪穴住居跡247軒・方形区画遺構３基・溝24条・大形竪穴状遺構５基・地下式土壙15基・土壙２基等を検出した。縄文時代では、前期関山期の不整形の竪穴住居跡１軒が台地西北の先端部に近い西側離れ調査区から検出されている。これ以降、縄文時代の遺構の確認は無いが、縄文時代の早期・中期・後期の土器片が僅かに検出されている。

弥生時代では、中期後半宮ノ台期の竪穴住居跡５軒、後期～終末期が28軒である。中期の住居跡は、調査区西側のＢ地点にのみ確認され、台地先端部に寄った選地状況を示している。また、加茂遺跡Ｄ地点で中期８軒の竪穴住居跡が調査され、加茂遺跡Ａ・Ｂ地点とは異なった中期集落跡の存在が確認されている。弥生後期の竪穴住居跡は、Ｂ地点27軒、Ａ地点では東側に１軒が離れて検出されている。分布範囲は、中期と比較すると範囲を台地先端から東南に拡大し、密度は５倍以上に達している。加茂遺跡Ｄ地点では、３軒が確認され、Ａ地点同様に離れ単独で選地する状況にある。また、南側の加茂遺跡Ｃ地点でも３軒の弥生後期の住居跡を確認しているが、これは更に南に位置する長平台遺跡検出の集落跡の北限を示すものである。

古墳時代中期後半の５世紀中葉に突如として竪穴住居跡が出現する。加茂遺跡Ａ・Ｂ地点では、古墳時代中期後半（５世紀中葉）から終末期（７世紀末）の竪穴住居跡162軒、奈良時代から平安時代46軒を検出した。古墳時代の竪穴住居跡の各時期では、中期後半～後期初頭（５世紀代）48軒、後期～終末期（６世紀～７世紀）116軒である。５世紀代の竪穴住居跡の内５軒が中葉に位置づけ可能で西側の台地先端部寄りから検出され、集落の主体が未調査部分に想定される。５世紀後葉の住居跡42軒は、調査区全体に検出され急速に集落規模を増し画期が伺われる。後期～終末期の６世紀代には住居跡が半減し、前葉19軒、中葉９軒、後葉22軒、６世紀～７世紀初頭18軒、７世紀前葉15軒、中葉19軒、７世紀後葉～８世紀前葉14軒と集落跡の衰退期である。遺物には、土師器甕、甑、赤彩杯、赤彩椀形杯、赤彩高杯、杯身模倣杯、半円球状杯、半円状杯、杯蓋模倣杯、赤彩坩形土器、赤彩短頸壺、須恵器模倣高杯、須恵器身、須恵器蓋、須恵器高杯、須恵器ハソウ等の器と、土製の土玉・小玉、石製模造品、ミニチュア土器、手捏ね土器、土鈴、土製ペンダント等の祭祀関連の特異な遺物も見られる。

奈良～平安時代では、８世紀前葉～中葉19軒、後葉17軒、８世紀末葉～９世紀代前半９軒、10世紀後半代の可能性のある住居跡１軒が存在する。９世紀前葉で集落がほぼ消滅したことが解る。主な遺物は、土師器甕、須恵器甑、非ロクロ土師器杯、ロクロ土師器杯、須恵器甕、須恵器杯、須恵器高台



第７図　加茂遺跡A・B地点全体図

付杯、須恵器蓋、須恵器高盤、須恵器盤、暗文土器、灰釉長頸壺、灰釉平瓶等がある。

平安時代以降の中世～近世に至る遺構は、溝や墓壙を検出するが遺物が僅少で必ずしも明確に時期を示せない。また、記録類の不備で示せない遺構も存在する。報告書に掲載した遺構は、方形区画遺構 3 基・大形竪穴状遺構 5 基、溝24条・地下式土壙13基・墓壙24基等である。

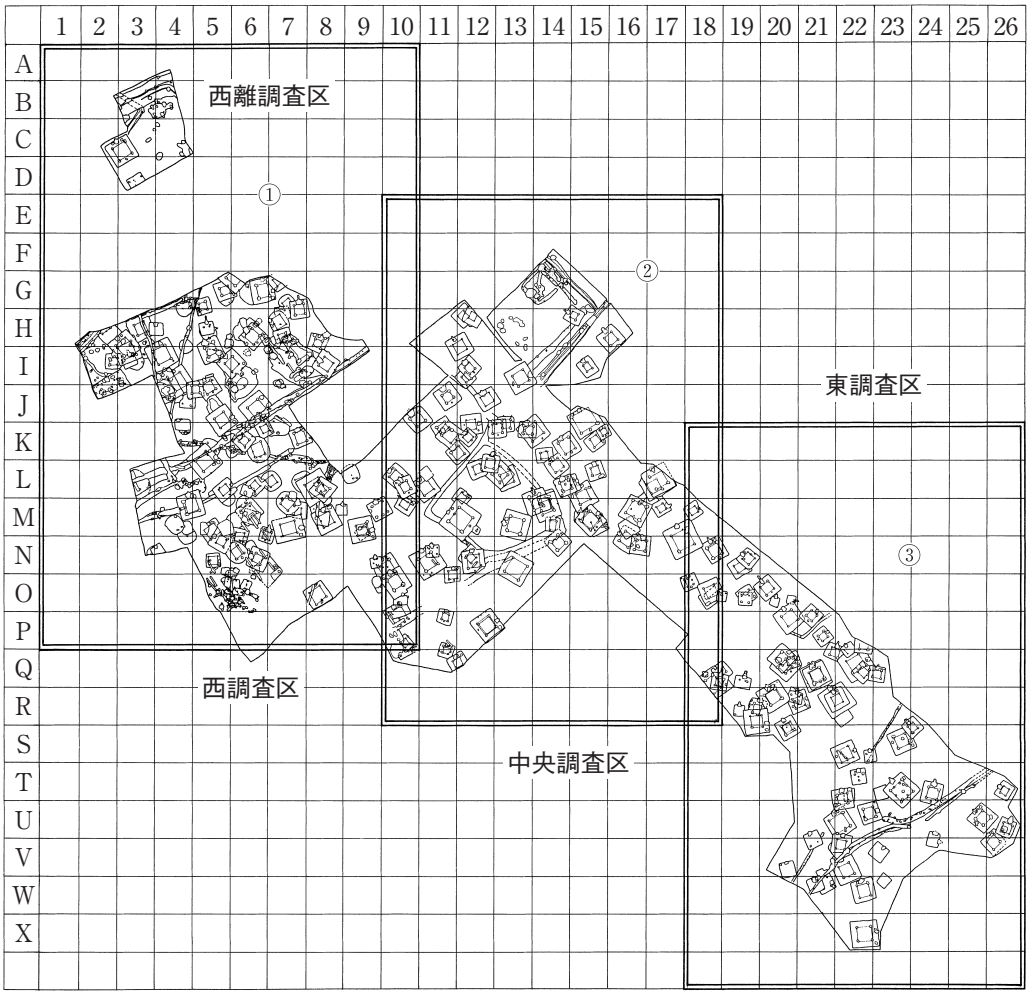
下記写真は、発掘調査時に行われた供養の写真である。地元区画整理組合理事齋藤一茂氏、同理事齋藤美彦氏、調査担当者平野元三郎氏、調査員谷島一馬氏、同對馬郁夫氏と発掘参加者の顔が見られる。改めて敬意を表したい。



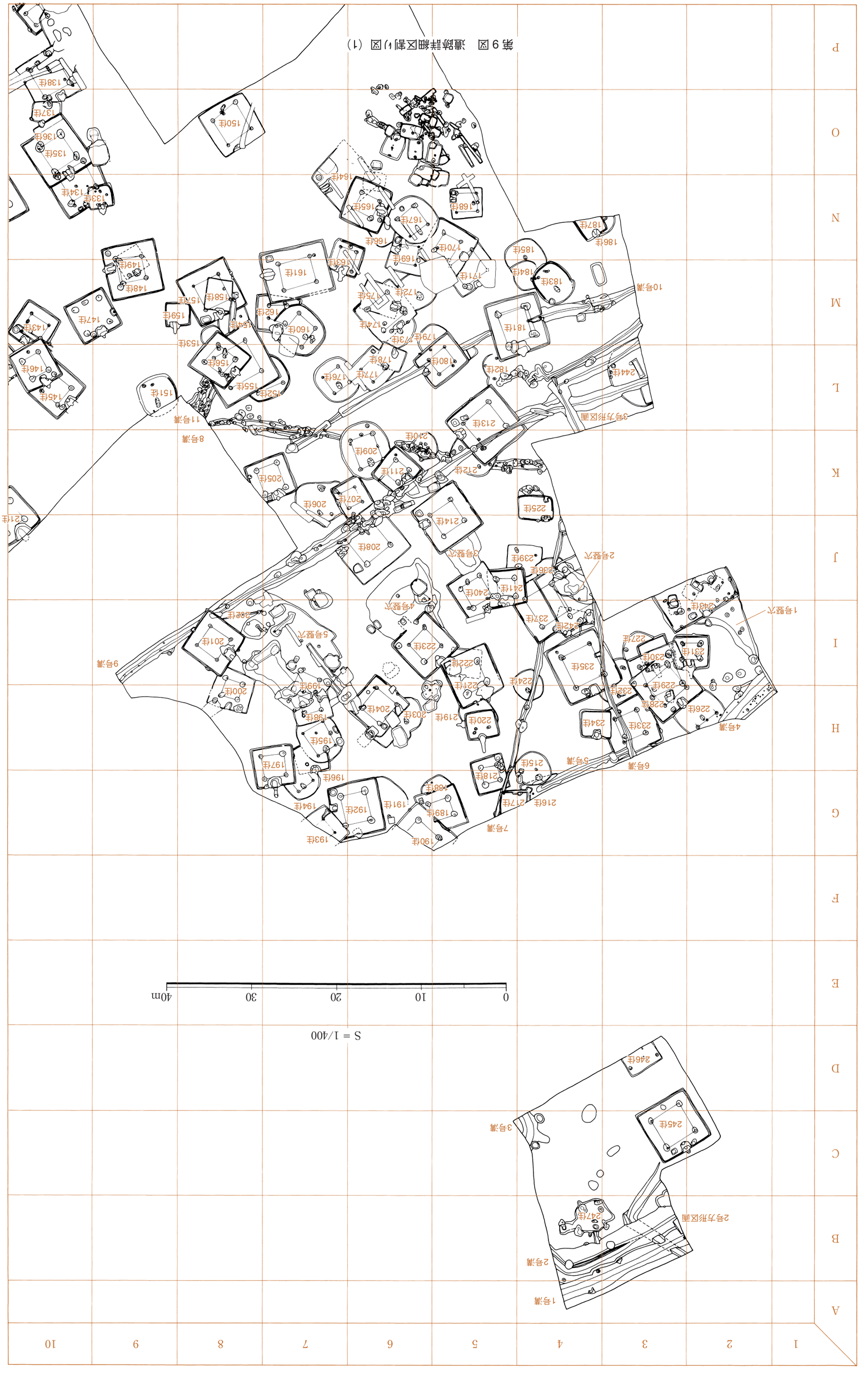


グリッドの設定

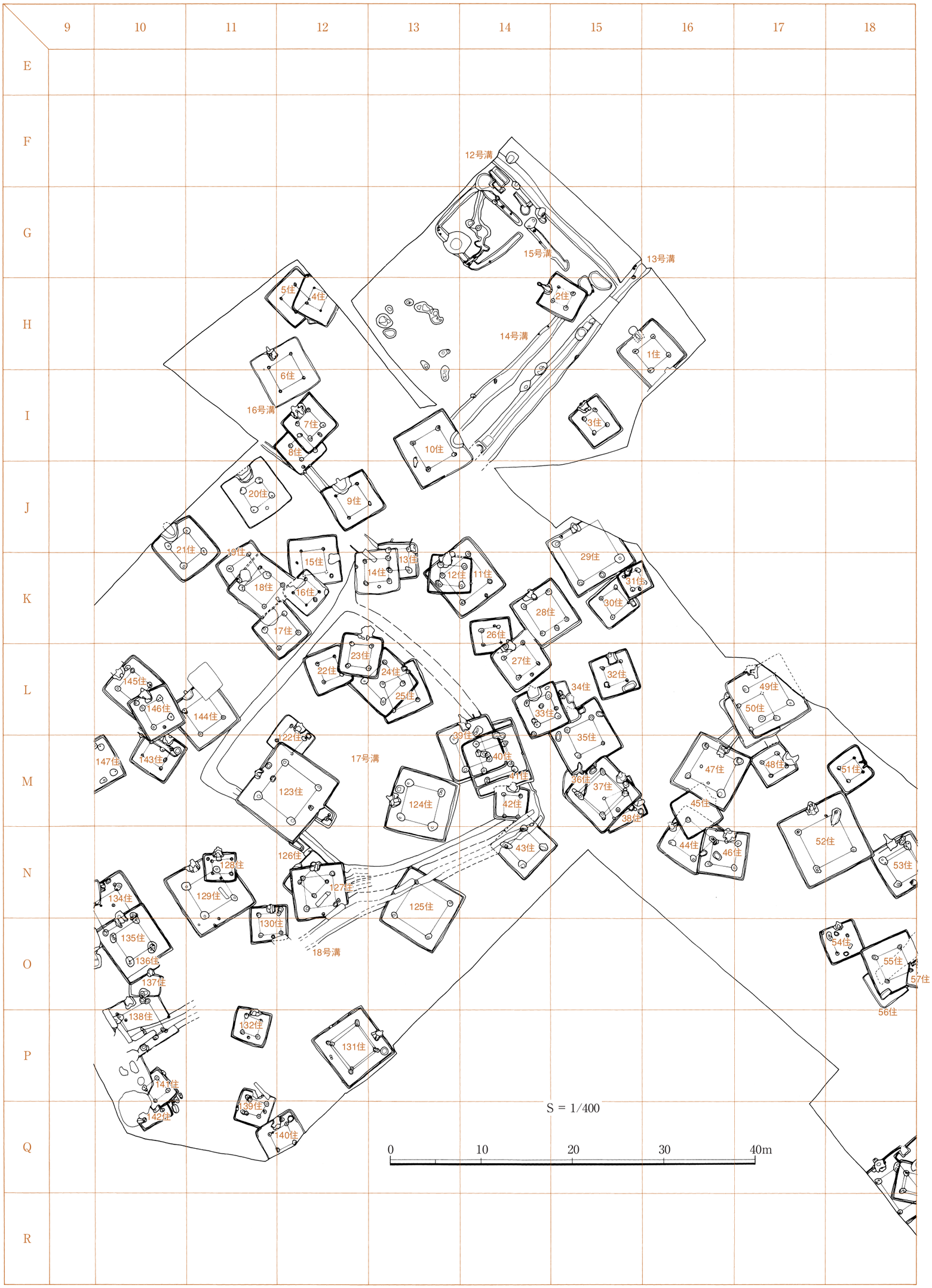
第８図に調査区全体に10×10m方眼のグリッドを設定して、遺構の位置等を示した。グリッド方眼は、磁北で調査時に使用した測量用のグリッドと同一である。また、このグリッド配置図に西調査区・中央調査区・東調査区を区割りし、第９～11図の遺跡詳細図を示した。



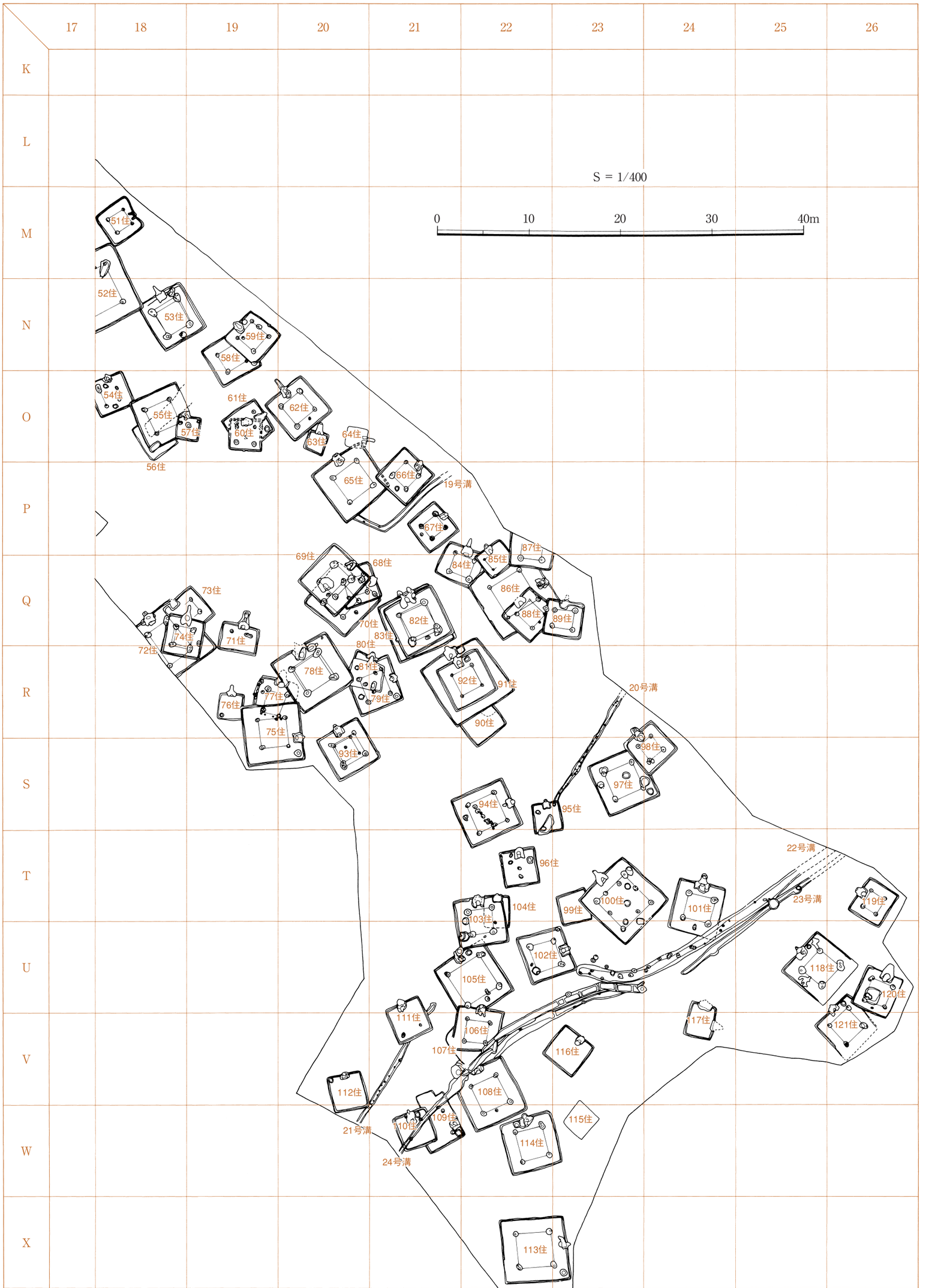
第8図　加茂遺跡A・B地点グリット配置図



第９図　遺跡詳細区割り図（1）



第10図　遺跡詳細区割り図（2）



第11図　遺跡詳細区割り図（3）

第２章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡と出土遺物

第２節　方形区画遺構と出土遺物

第３節　溝状遺構

第４節　竪穴状遺構・地下式土壙等

第５節　遺構外の出土遺物

第２章　遺構と遺物

第Ⅰ節　竪穴住居跡と出土遺物

１号住居跡（第12・13図、図版３・61）

位置　中央調査区北端。　H15・H16。　**複合切り合い関係**　南東辺攪乱され調査区域外に接し、単独で検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－43°－Ｗ。　**床面規模**　5.35ｍ（主軸）×5.36ｍ（副軸）。　**床面積**　28.78㎡　**残存壁高**　0.35～0.61ｍ。　**カマド**　北西辺中央に設けられ煙道部は攪乱を受けている。カマド平面図の記録が無く、平面は土層断面図と記録写真から復元した。左右の袖部は下末吉層の白色粘土を主に構築されている。　**床面**　ハードローム層上に形成され顕著な踏みしめ痕は認められない。　**壁溝**　幅18㎝前後・深さ14㎝前後。　**覆土**　断面レンズ状の堆積をするもロームブロックを含み、床面には焼土が広範囲に散在し火災で埋め戻された状況を呈する。

出土遺物　１は胴外面縦位箆ケズリの甕である。２は球胴甕で胴部横位と斜位の箆削りを施す。３は須恵器身で受部稜は端部丸身を有し鈍く、TK209～TK217型式期に比定されよう。４・５は口縁僅かに内湾する無彩の椀形杯。６は内面ミガキで黒色処理を施す平底の椀である。遺物出土位置は、２・５・９が床面直上、１がほぼ床面、他は覆土からの出土で、全ての遺物が住居の帰属を示す資料と見なしてよかろう。

２号住居跡（第14・15図、図版３・61）

位置　中央調査区北端。H14・H15。　**複合切り合い関係**　南西辺に14号溝、東隅を土壙状の落ち込みに壁をそれぞれ掘り込まれ検出する。　**平面形**　縦長の方形。　**主軸方位**　Ｎ－60°－Ｗ。

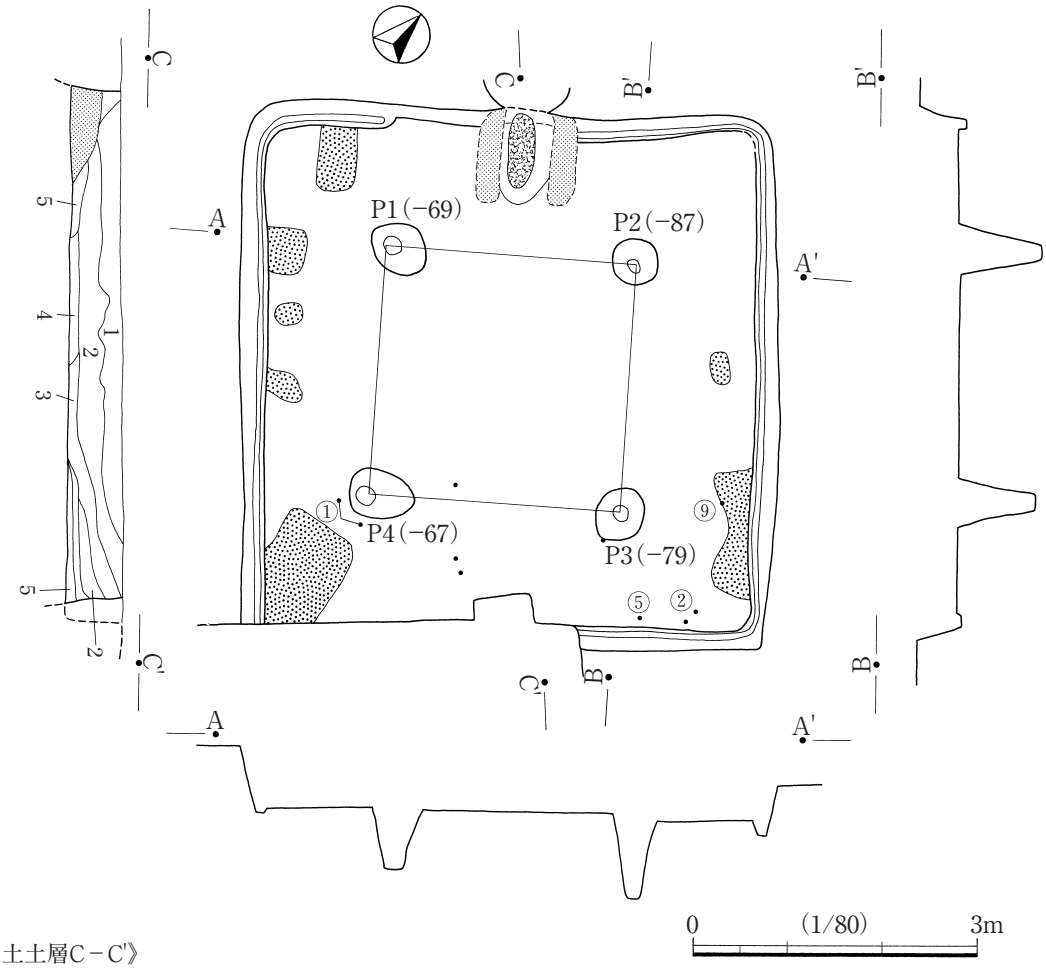
床面規模　4.16ｍ（主軸）×3.82ｍ（副軸）。　**床面積**　16.29㎡。　**残存壁高**　0.38～0.47ｍ。

カマド　西辺中央に設けられ、煙道部は壁から1.0ｍ程突出する。左右の袖部は下末吉層の白色粘土を主に構築されている。　**床面**　ハードローム層上に形成され全体的に堅緻で凹凸が目立つ。　**壁溝**　幅８～10㎝・深さ７～９㎝。　**覆土**　幾層かに分層されロームブッロックを主にした層位も認められることから埋め戻された状況を呈する。

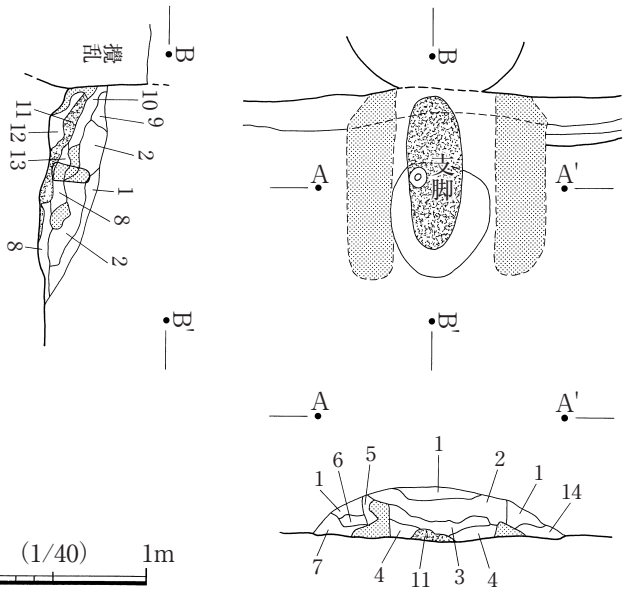
出土遺物　１は胴外面縦位、下端斜位箆削りで当該期の市原台地で普遍的な甕である。２は口縁端部玉状を呈し、胴外面箆ケズリを消し去る縦位の箆ナデを施す球胴甕。３・４は甑で内面ミガキ状のヘラナデを施す口縁が大きく開く。５はほぼ完形の須恵器杯身で口縁径10㎝を計る。６の土師器杯は口唇内面に弱い凹線状の条線を有し、口縁外面と内面に赤彩を施す比企型杯である。７・８は椀形杯で８内面は丁寧なミガキを施している。出土状況から１・２・５・６・７・８の土器が住居の帰属を示す資料である。

３号住居跡（第16・17図、図版３・62）

位置　中央調査区北端。I15。　**複合切り合い関係**　単独で検出する。　**平面形**　縦長の長方形。

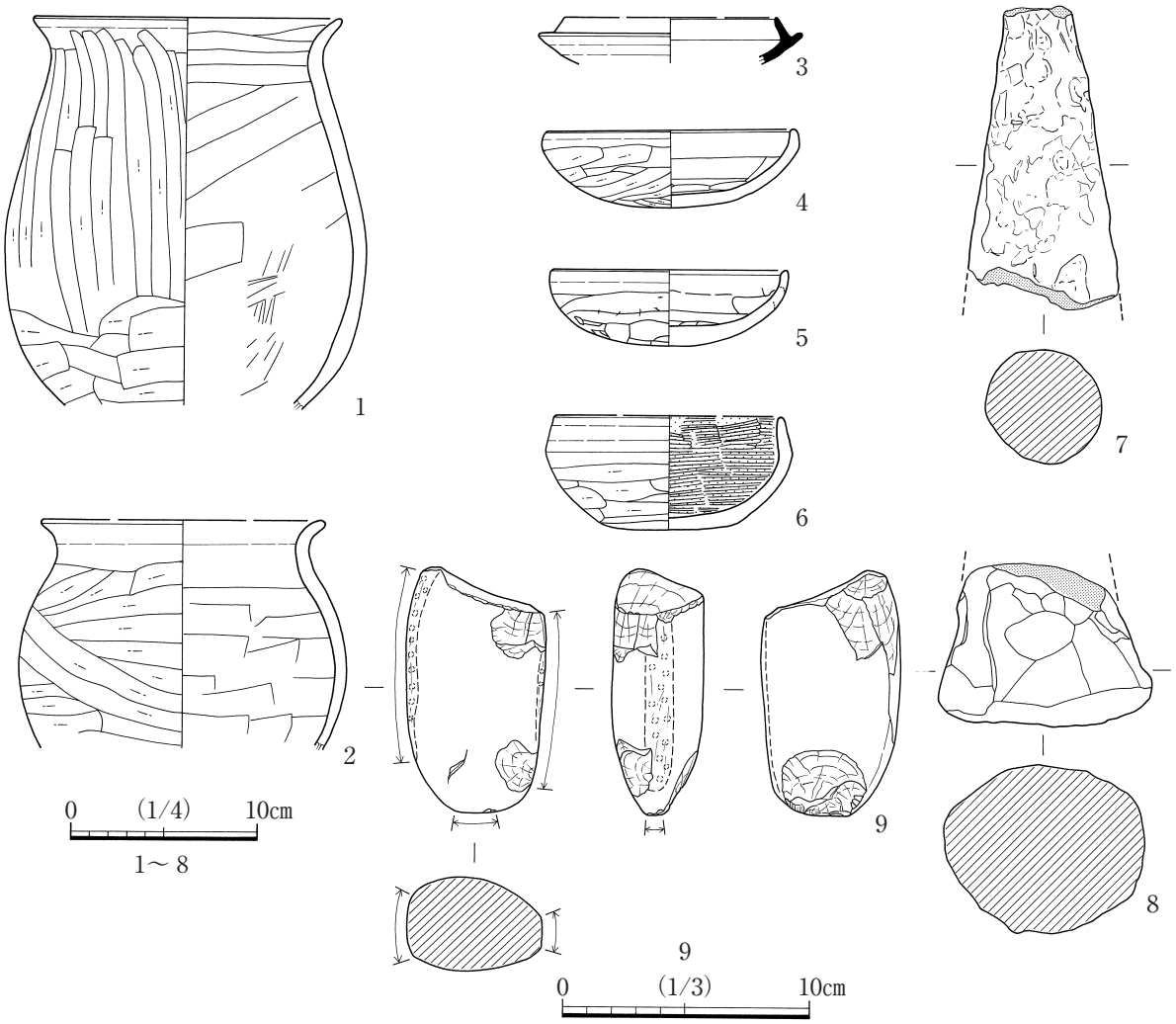


《1号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ソフトロームを染み状に含む。
2　茶褐色土層。ローム粒と焼土塊を少量含む。
3　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黄褐色土層。ロームブロックと焼土ブロックを少量含む。
5　茶褐色土層。粘土と焼土ブロックを含む。



《1号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　褐色土層。粘土と焼土（少量）を含む。
3　褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
4　褐色土層。粘土とローム（少量）を含む。
5　暗褐色土層。粘土を多く含む。
6　暗褐色土層。焼土（多量）と粘土（少量）を含む。
7　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土と灰及び粘土（少量）含む。
9　粘土と焼土の混合土層。
10　暗褐色土層。焼土を含む。
11　暗褐色土層。焼土を多く含む。
12　暗褐色土層。焼土と粘土を多く含む。
13　暗褐色土層。焼土と粘土を多く含む。
14　褐色土層。粘土と焼土を含む。

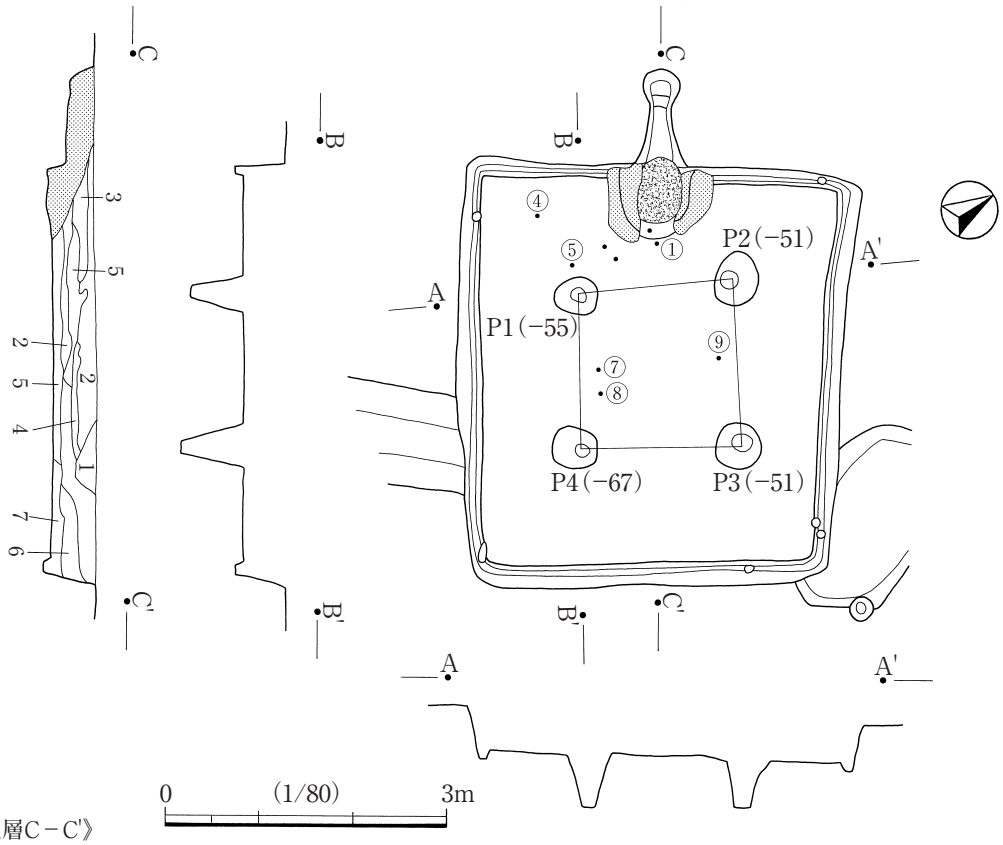
第12図　１号住居跡とカマド



第13図　1号住居跡出土遺物

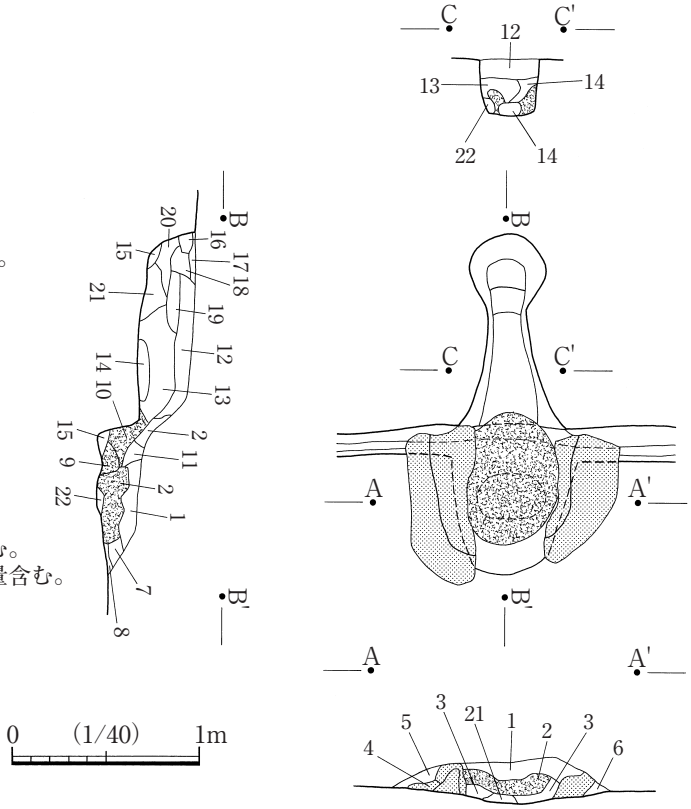
主軸方位　N－36°－W。　**床面規模**　4.58m（主軸）×3.85m（副軸）。　**床面積**　17.83㎡。　**残存壁高**　0.37～0.46m。　**カマド**　北西辺中央に造り替えにより2基が認められる。これについては、当初2連式のカマドが1基に造り替えられたものと考えられる。煙道部は壁から0.24m程突出する。袖部および天井部は下末吉層の白色粘土を主に構築されている。　**床面**　ハードローム層上に形成され全体的に堅緻で凹凸が目立つ。床面中央がやや盛り上がる。　**壁溝**　幅8～13cm・深さ9～15cm。　**覆土**　各層ともロームブッロックを含み、埋め戻された状況を呈する。僅かに床面中央付近に焼土の堆積痕が認められ（谷島メモ）火災住居の可能性がある。また、覆土上層にも焼土粒を含む土層が確認され、焚き火（護摩）の跡を連想させる。

出土遺物　1は口頸に対する胴径比および器高比の小さい胴外面縦位箆ケズリの小形甕である。2は口縁が大きく外反する甑。5は内面黒色処理を施す杯身蓋模倣杯。6は内面黒色の大型模倣杯。7は内面ミガキで黒色処理を施す高杯。8～18は須恵器甕片で覆土上層からの出土である。出土状況から1・2・3・7の土器が床面やカマド燃焼部から出土し、住居の帰属を示す資料である。

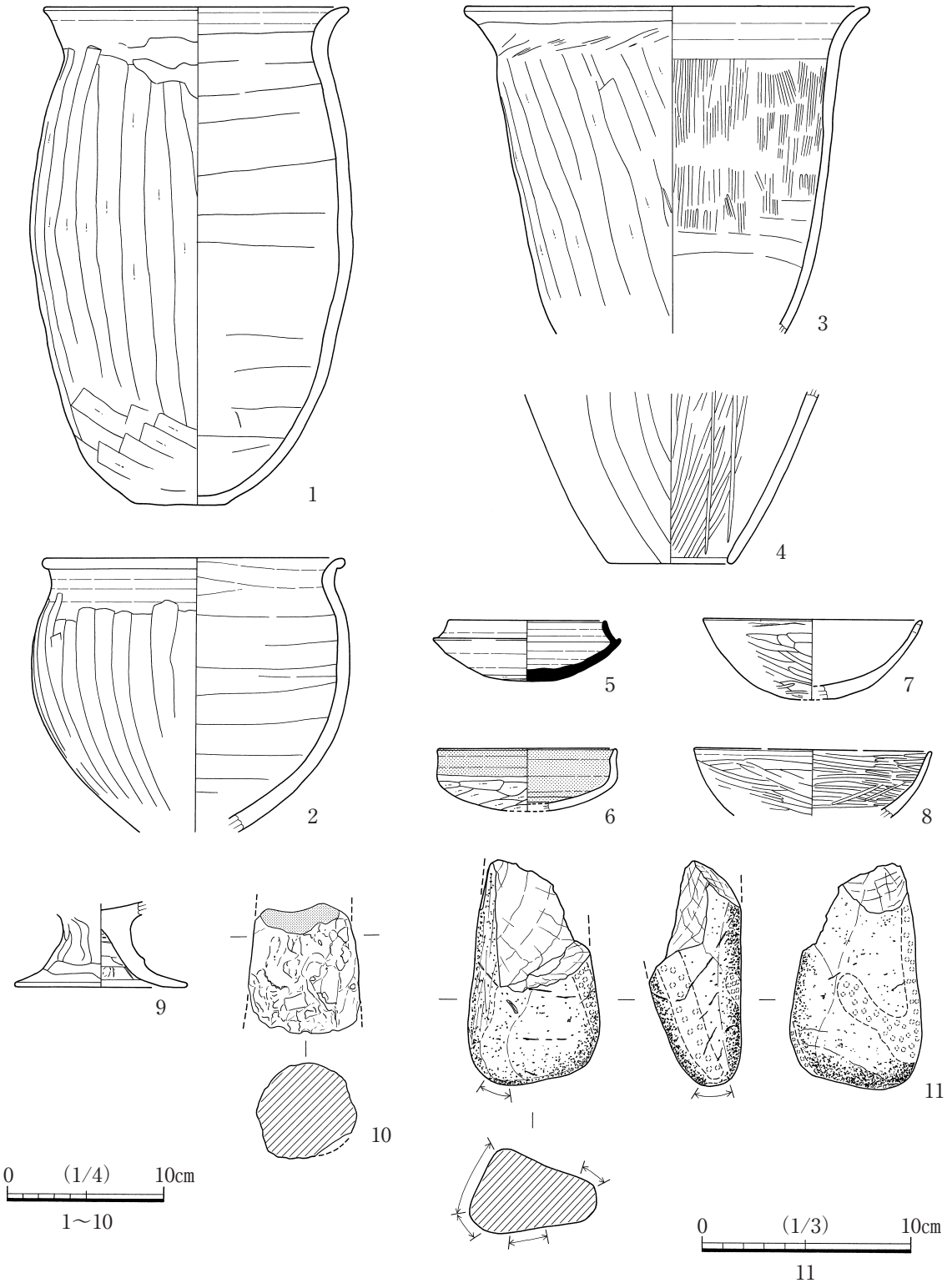


《2号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。大小のロームブロックを含む。
3　黒色土層。粘土とローム粒を含む。
4　黒褐色土層。ローム土塊を少量含む。
5　茶褐色土層。粘土と大小のロームブロック及び焼土粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム土塊を少量含む。
7　黄褐色土層。ローム土塊を多量に含む。

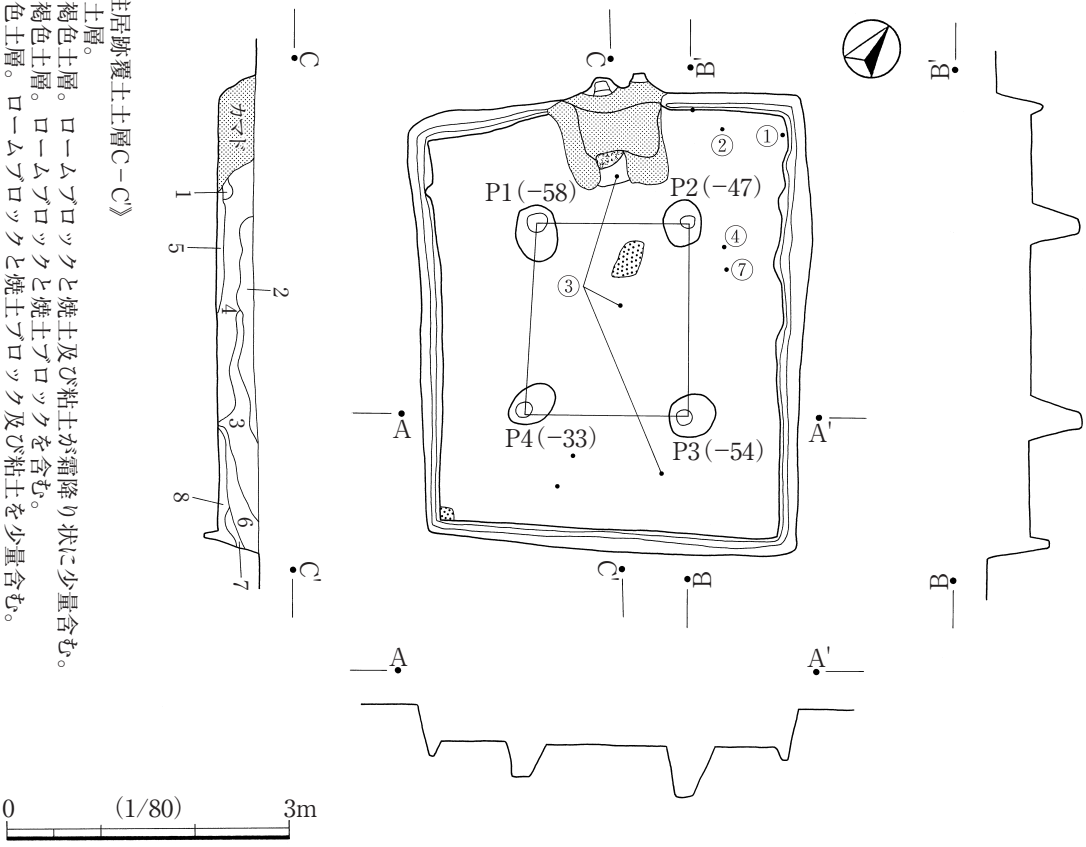
《2号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。焼土を少量含む。
2　焼土と灰の混合土層。粘土も少量含む。
3　暗褐色土層。粘土と焼土を全体に少量含む。
4　褐色土層。粘土を多く含む。
5　暗褐色土層。ロームを多く含む。
6　褐色土層。粘土とローム粒を全体に少量含む。
7　褐色土層。焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。灰と焼土を少量含む。
9　暗褐色土層。焼土と灰を含む。
10　褐色土層。焼土と粘土を全体に少量含む。
11　褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
12　褐色土層。粘土とローム粒を少量含む。
13　褐色土層。焼土を含む。
14　褐色土層。焼土を少量含む。
15　褐色土層。ローム粒を多く含む。
16　褐色土層。ローム土を含む。
17　褐色土層（少し暗い）。粘土と焼土を少量含む。
18　黒褐色土層（少し明るい）。粘土と焼土を少量含む。
19　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
20　褐色土層。ローム土と粘土（軟質）を含む。
21　褐色土層。焼土粒と粘土粒（少量）を含む。
22　灰層。炭粒を含む。



第14図　２号住居跡とカマド

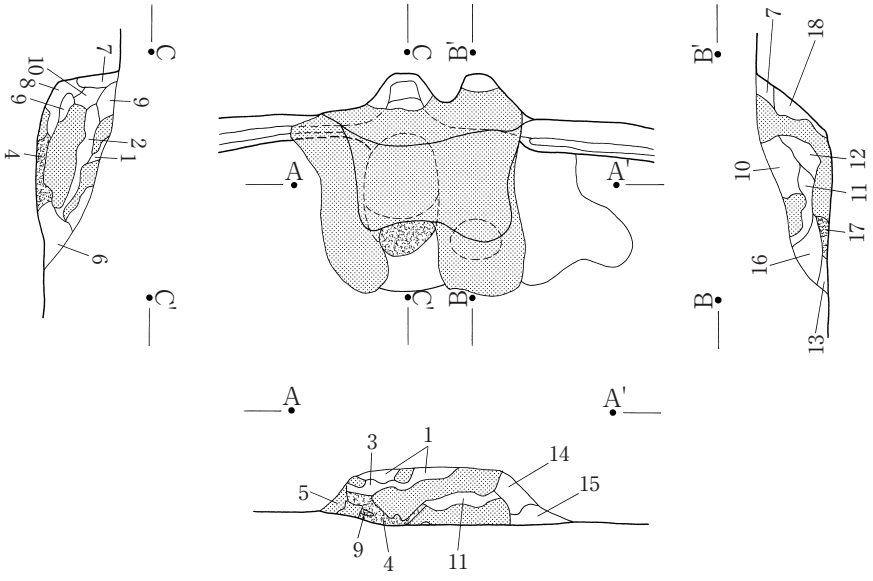


第15図　２号住居跡出土遺物



0 (1/80) 3m

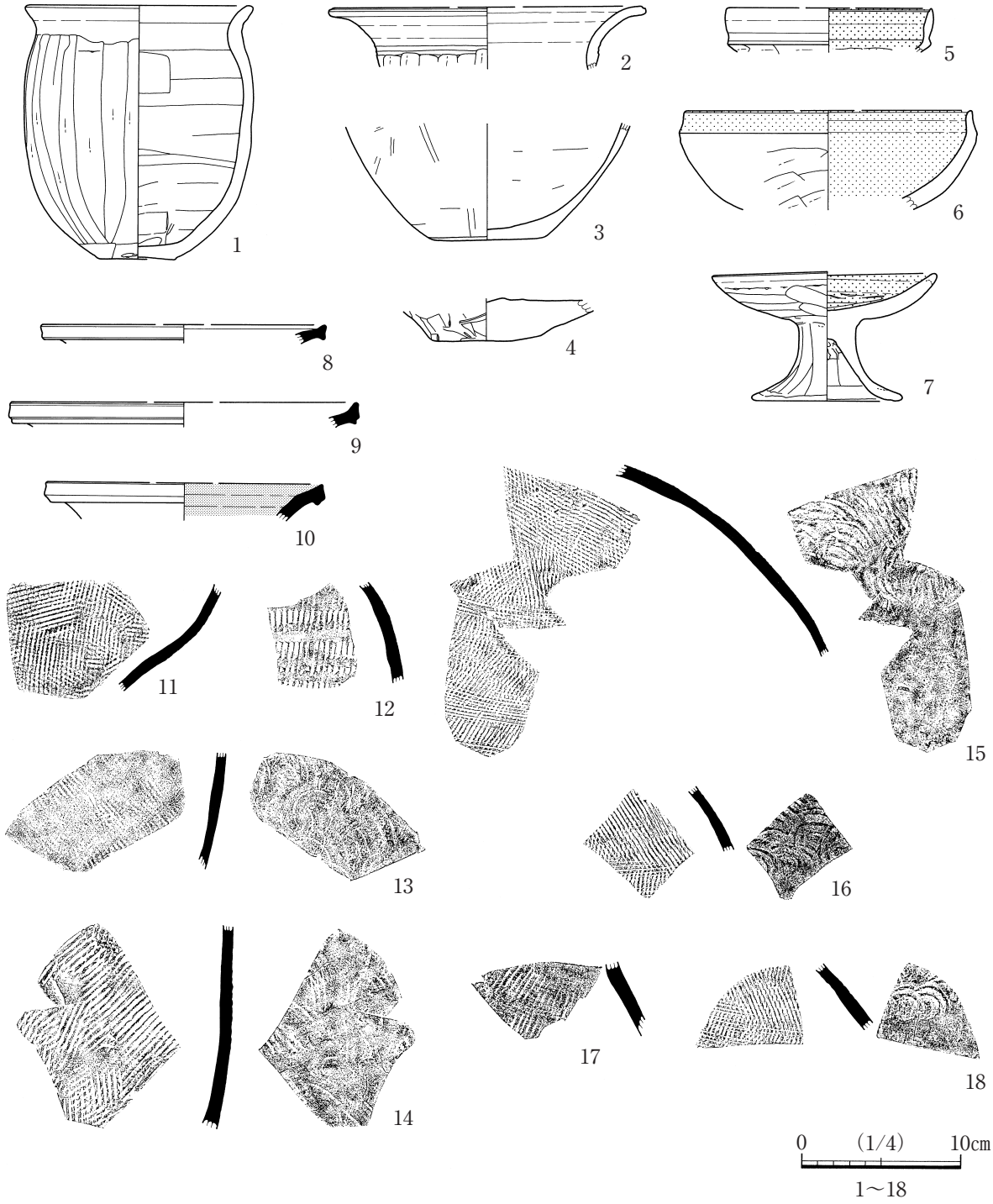
《3号住居跡覆土土層C－C'》
1 粘土層。
2 黒褐色土層。ロームブロックと焼土及び粘土が霜降り状に少量含む。
3 茶褐色土層。ロームブロックと焼土ブロックを含む。
4 黒色土層。ロームブロックと焼土ブロック及び粘土を少量含む。
5 茶褐色土層。ロームブロックと粘土及び焼土を霜降り状に含む。
6 黒褐色土層。ロームブロックを含む。
7 茶褐色土層。
8 茶褐色土層。焼土を少量含む。



《3号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。ローム土と粘土（少量）を含む。
2 暗褐色土層。粘土を少量含む。
3 暗褐色土層。粘土を含む。
4 褐色土層。粘土と焼土を含む。（灰も少量含む）
5 暗褐色土層。第1層に似る。（第1層より暗い）
6 暗褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
7 暗褐色土層。焼土と炭及びロームを含む。
8 暗褐色土層。焼土と粘土及び炭を含む。
9 褐色土層。粘土を多く含む。
10 褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
11 褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
12 暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
13 暗褐色土層。第11層に似る。
14 暗褐色土層。ロームを含む。
15 暗褐色土層。ロームと粘土（少量）を含む。
16 粘土と焼土及び炭の混合土層。
17 灰層。
18 焼土化したローム

0 (1/40) 1m

第16図　3号住居跡とカマド



第17図　3号住居跡出土遺物

4号住居跡（第18～20図、図版3・4・62～64）

位置　中央調査区北西端。H12。　**複合切り合い関係**　西側で5住を大きく掘り込み、東隅を調査区域外に置き検出する。　**平面形**　隅丸方形気味。　**主軸方位**　N－64°－W。　**床面規模**　4.45m（主軸）×4.46m（副軸）。　**推定床面積**　19.65㎡。　**残存壁高**　0.50～0.74m。　**カマド**　西辺中央に設けられているが、煙道部構造は不明である。　**床面**　ハードローム層を掘り込み平坦で堅緻で、カマドから床面中央にかけてやや盛り上がり気味である。　**壁溝**　幅8～15cm・深さ8～15cm。

出土遺物　5号住居跡で説明。

５号住居跡（第18～20図、図版３・４・62～64）

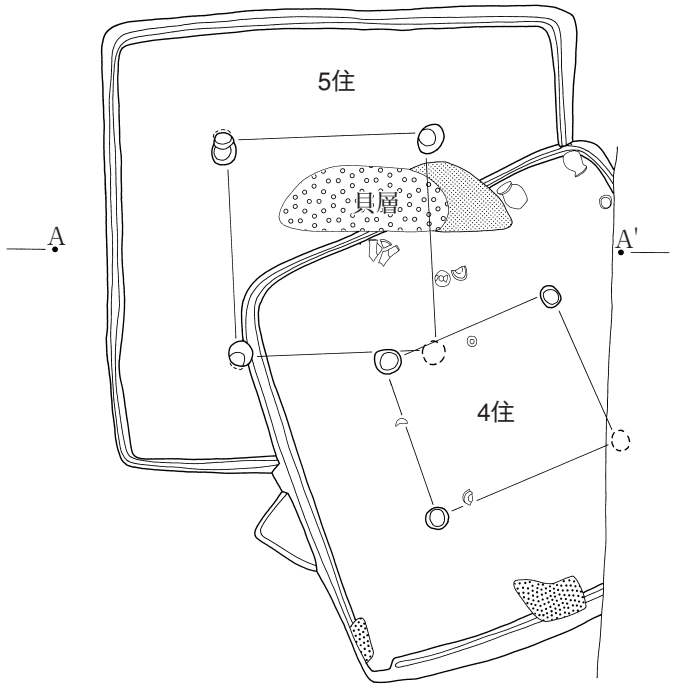
位置　中央調査区北西端。H12。　**複合切り合い関係**　４住に東側を大きく切り込まれ検出する。**平面形**　ほぼ正方形。　**主軸方位**　N－44.5°－E？　**床面規模**　4.74m（主軸）×4.64m（副軸）。**推定床面積**　21.87㎡。　**残存壁高**　0.38～0.55m。　**カマド**　北東辺および南東辺を４住に切り込まれ不明だが、北東辺に想定できよう。　**床面**　ハードローム層を掘り込み構築、平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅８～10cm・深さ８～10cm。　**覆土**　４・５住覆土上層には、４住カマドを削平する貝層で形成される層位が存在するが、貝層についてはサンプルが存在しないため不明である。この貝層は1.70×0.70m・厚さ25mを測り、貝層中には土師器破片が含まれ、また貝層南側には焼土の堆積が存在した。

４・５号住居出土遺物　４住・５住の竪穴住居跡の出土遺物は混在して取り上げられ、やや出土位置に不明瞭な点があり一緒に取り扱う。出土状況写真や注記番号から１・３・４・15・16・27～30が４号住居跡に、17～25の赤彩土器が５号住居跡に伴い、31～39が覆土上層を掘り込む貝層中に混在した遺物と考えられる。１は胴外面縦位箆ケズリの球胴甕。２は頸部が直立し口縁が短く外反する。３・４は胴外面縦位箆ケズリの胴長甕で市原台地上の当該期の特徴的な上総型甕とも言えるものである。17～20は赤彩の椀形杯、21～23は赤彩椀形高杯で22は僅かに長脚の兆しが認められる。24は口縁を薄く仕上げ外面ヨコナデにより口縁直下に稜を作り出す。25は内外面赤彩を施し、口頸部が短く直立する短頸壺。26は須恵器短頸壺でシャープなヨコナデで口唇内面と口頸部から胴部外面に降灰による自然釉を被る。27～30は杯蓋杯模倣杯で、27は内面に放射状の暗文状のミガキを施している。31は有段口縁杯。46は全面に気泡状の釉を被る施釉陶器で、高台は低い三角形を呈し、古代以降の所産と思われる。

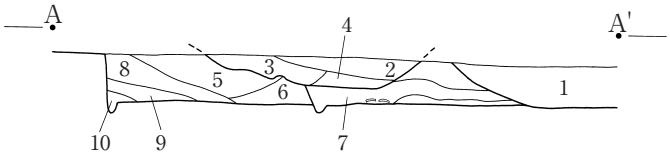
６号住居跡（第21～23図、図版４・５・64・65）

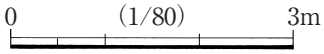
位置　中央調査区北西。H16・I16。　**複合切り合い関係**　単独で検出する。　**平面形**　正方形。**主軸方位**　N－26.5°－W。　**床面規模**　5.62m（主軸）×5.62m（副軸）。　**床面積**　31.94㎡。**残存壁高**　0.23～0.34m。　**カマド**　北西辺中央から左寄りに設けられる。煙道部は壁から0.4m程突出する。袖部および天井部は下末吉層の白色粘土を主に構築されている。　**床面**　ソフトローム層中に形成されているが比較的硬く踏みしめられ、やや傾斜し南西部が高い。　**壁溝**　検出されない。**覆土**　概ね自然堆積状況を示す。南西壁面に焼土が検出され、カマド燃焼部から比較的良好な状態で遺物が検出されたことを考え合わせると火災住居であろう。

出土遺物　１はカマド燃焼部からの出土で、胴部外面上半と底部に刷毛目を残す。２は、床面出土で胴外面中位にタール状の煤の付着が顕著である。12は甑底部で内面に２本の突起が認められる。14は中央のほぼ床面出土須恵器身で口唇や稜端部にシャープさが無いが底部 TK47型式と考えられる。15～18は赤彩椀形杯。21～23が赤彩の高杯で23の杯内面には赤彩が残るが脚外面の赤彩は完全に剥離している。21・23の脚裾は稜を有し開く。30～40の径3.0～4.7cmのやや大ぶりな土製土玉はプランの南東から集中してほぼ床面から出土し、28の手捏ね土器の出土を考え合わせると、住居跡内でこれらの遺物を使用した祭祀行為が行われた事を物語っていると言えよう。出土状況から１～12・14～18・21～26・28・29の土器、30～40の土玉、41・42の石器が住居跡共伴遺物と判断できる。

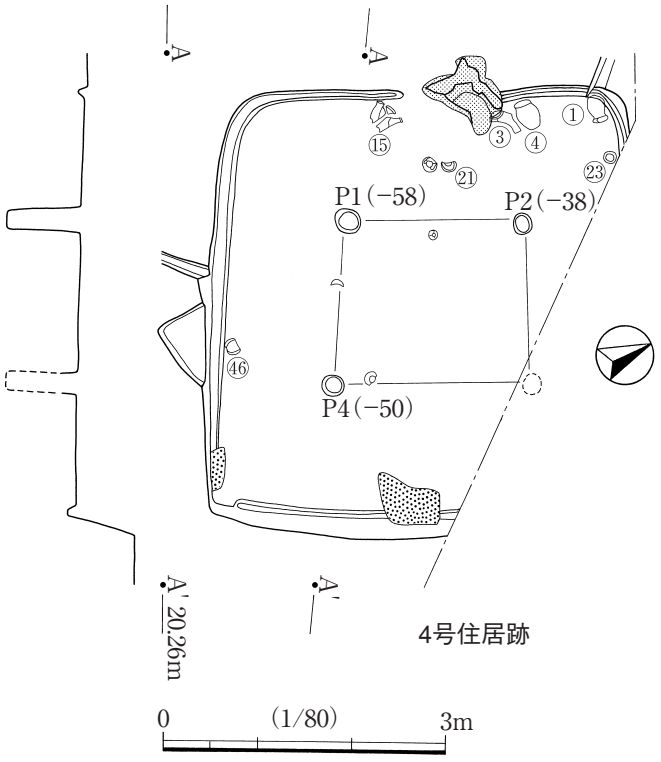


《4・5号住居跡覆土土層A－A'》
1　漆黒色土層。ローム粒を含む。
2　漆黒色土層。硬質。ローム粒を含む。
3　茶褐色土層。ローム土を全体に含む。
4　茶褐色土層。第3層に似る。
5　黒褐色土層。軟質。ローム土塊を含む。
6　淡黒褐色土層。焼土粒を含む。
7　淡黒褐色土層。第6層に似るが、少量の灰を含む。
8　淡茶褐色土層。ローム土塊を含む。
9　淡黒褐色土層。ローム土塊を含む。
10　淡黒褐色土層。第9層に似るが、焼土粒を含む。

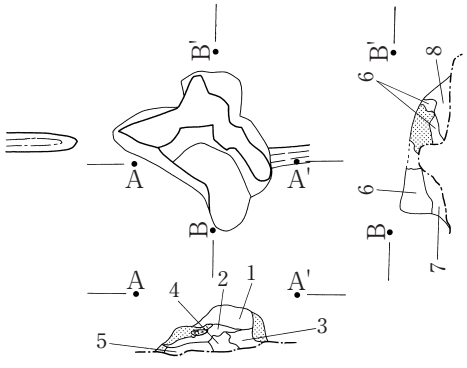




《4号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。少し硬質。
2　灰層。焼土粒を含む。
3　暗褐色土層。粘土塊を多く含む。
4　暗褐色土層。ローム土塊を多く含む。
5　暗褐色土層。ローム粒を含む。
6　暗褐色土層。粘土を少量含む。
7　黒褐色土層。粘土を少量含む。
8　暗褐色土層。ローム粒と粘土粒を含む。



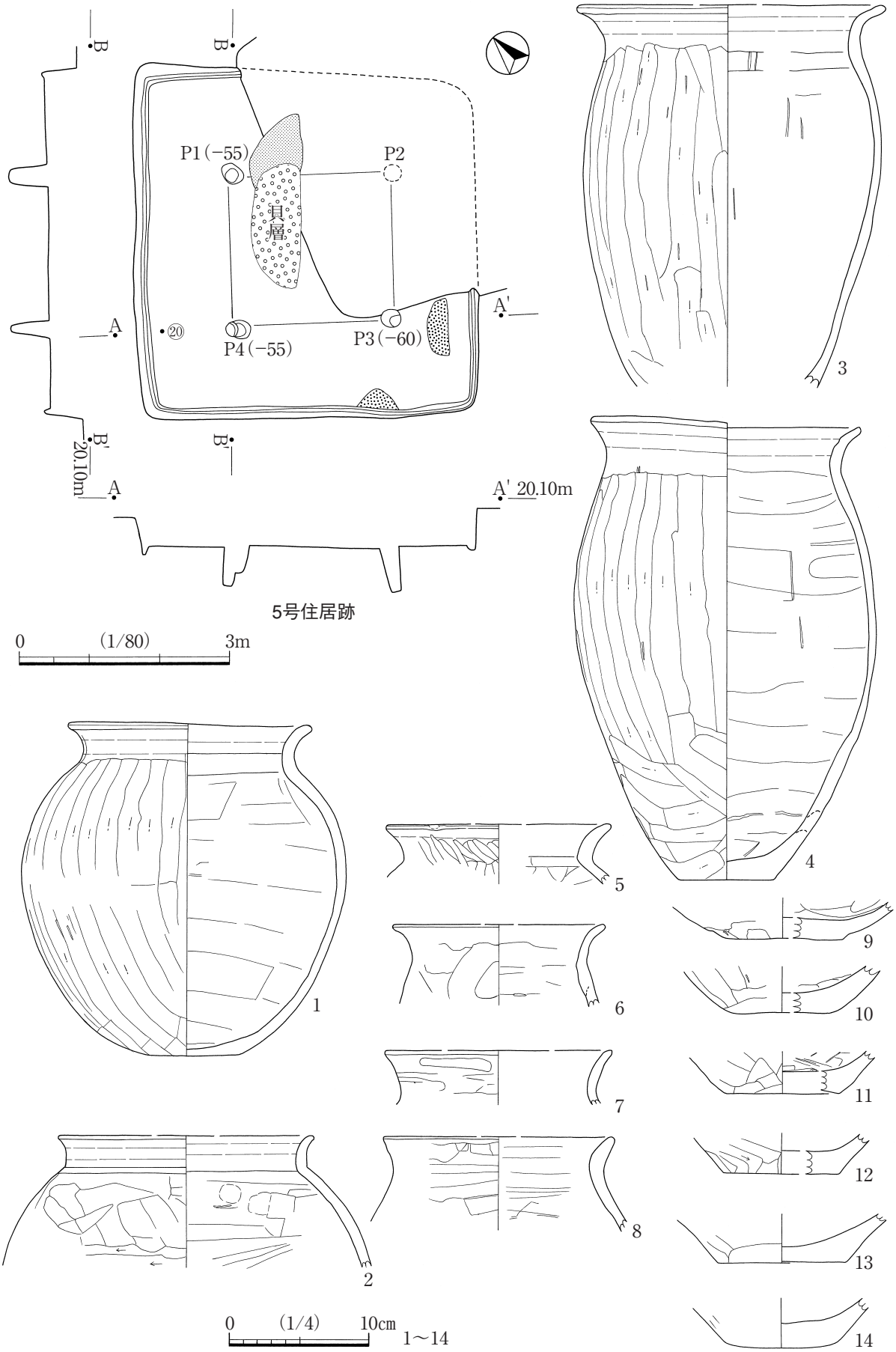
4号住居跡



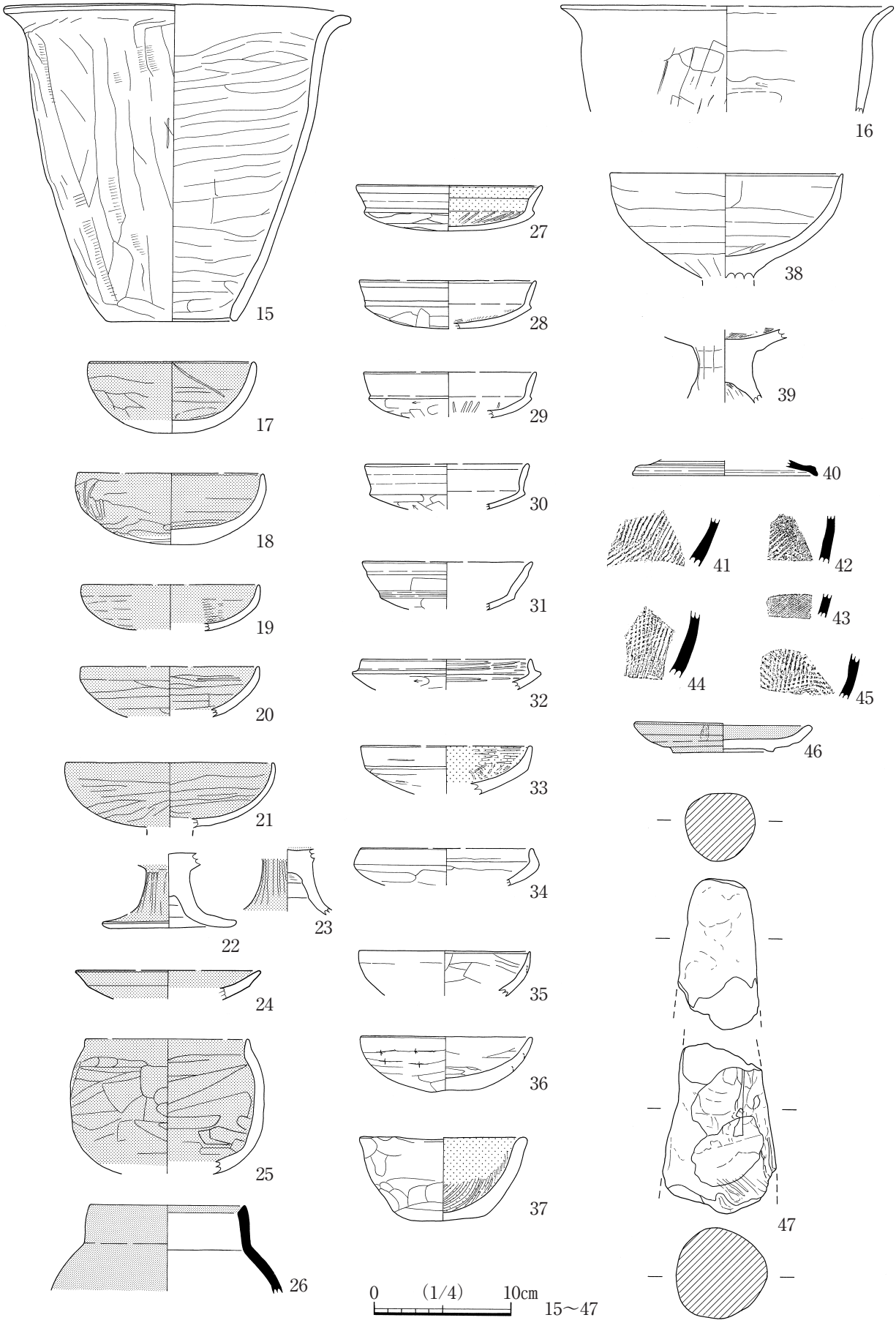




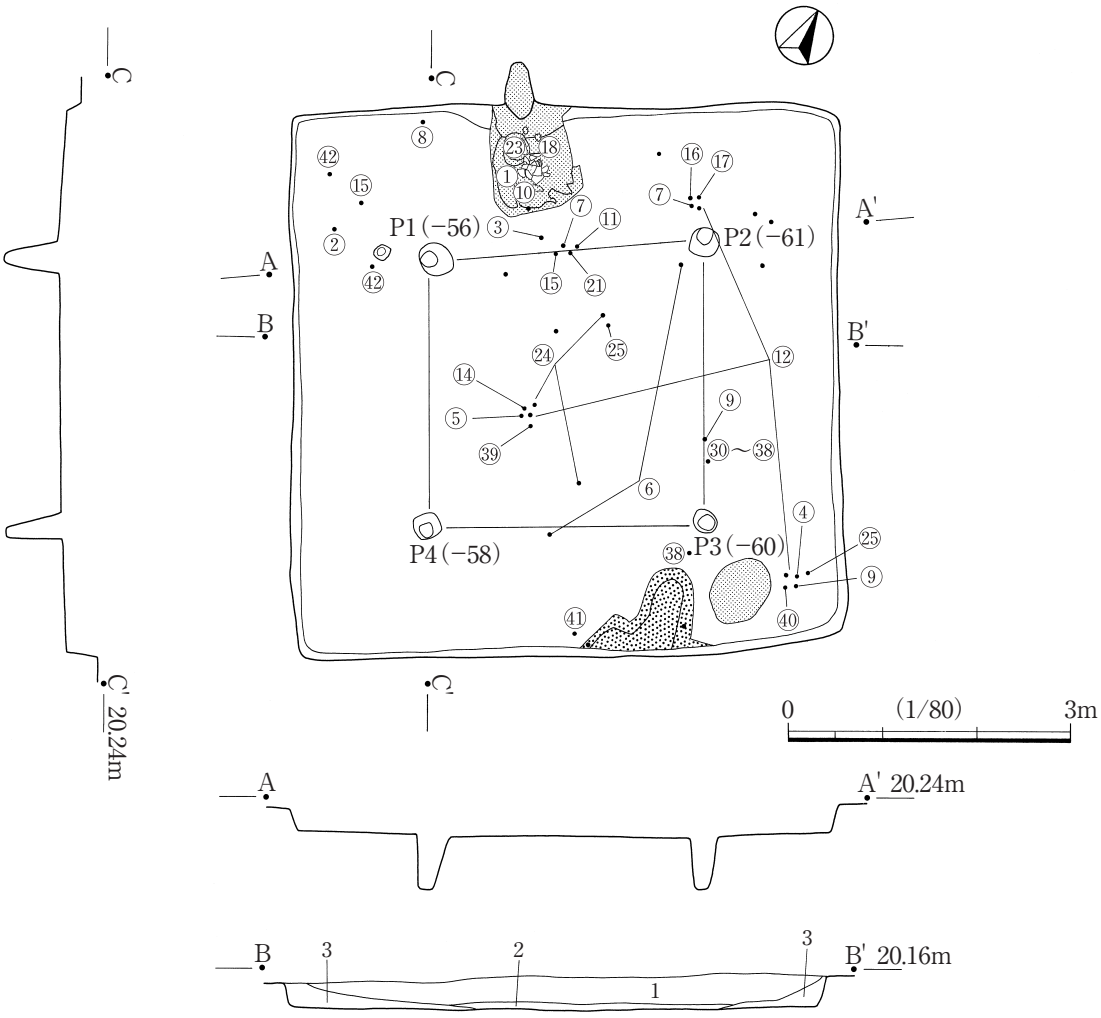
第18図　４号・５号住居跡とカマド



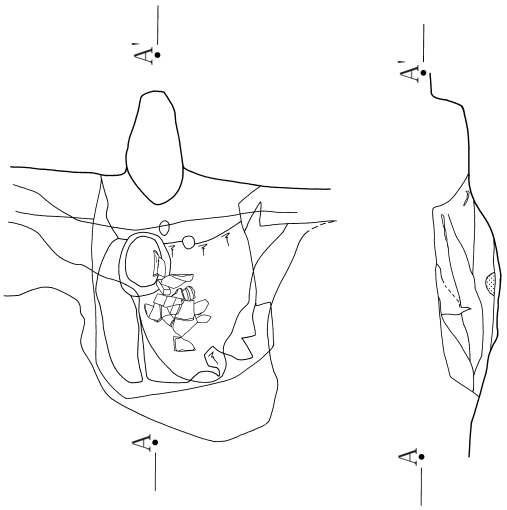
第19図　4号・5号住居跡と出土遺物（1）



第20図　4号・5号住居跡出土遺物（2）

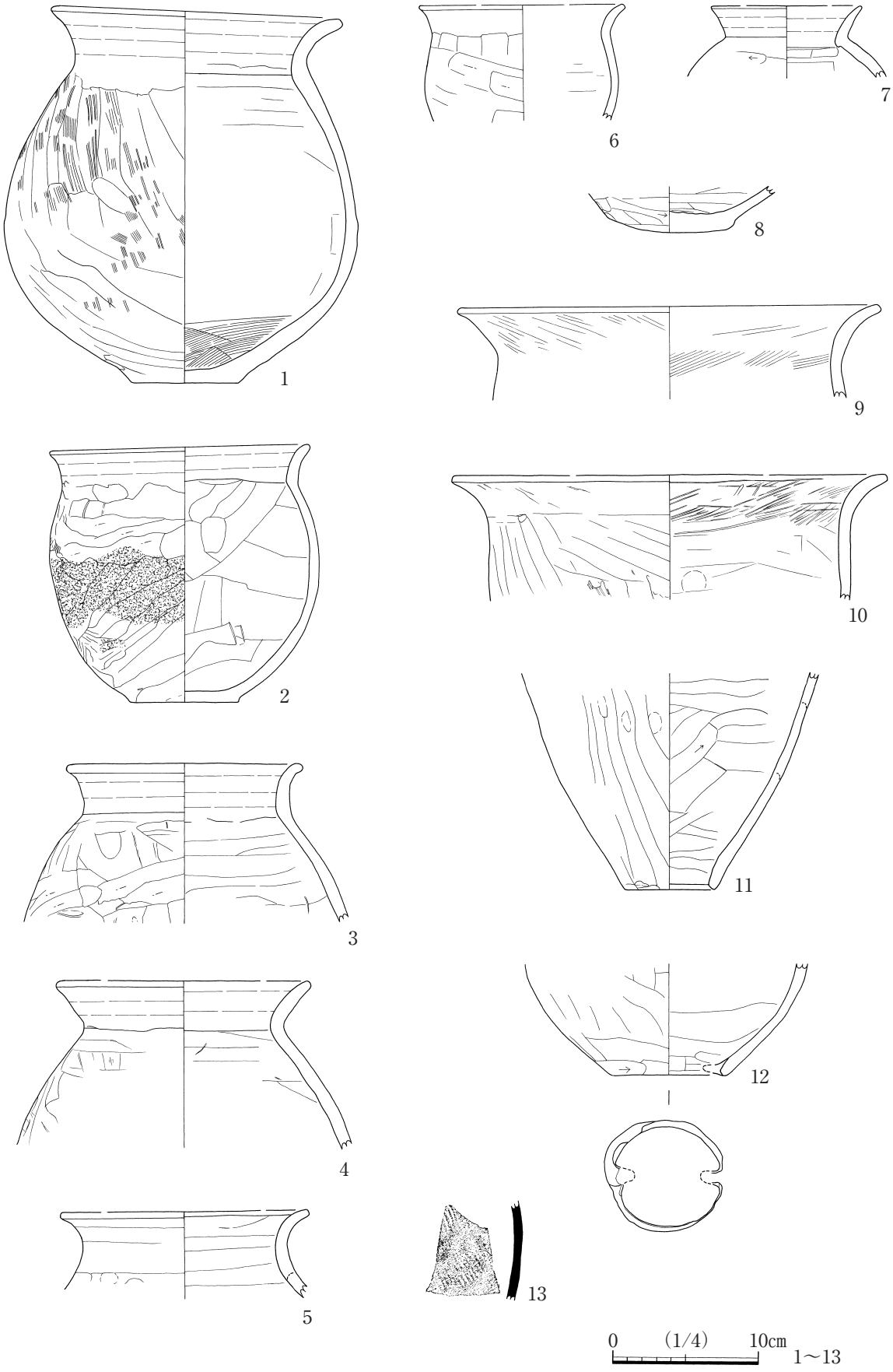


《6号住居跡覆土土層B－B'》
1　淡黒色土層。
2　淡黒褐色土層。ローム土塊を少量含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。

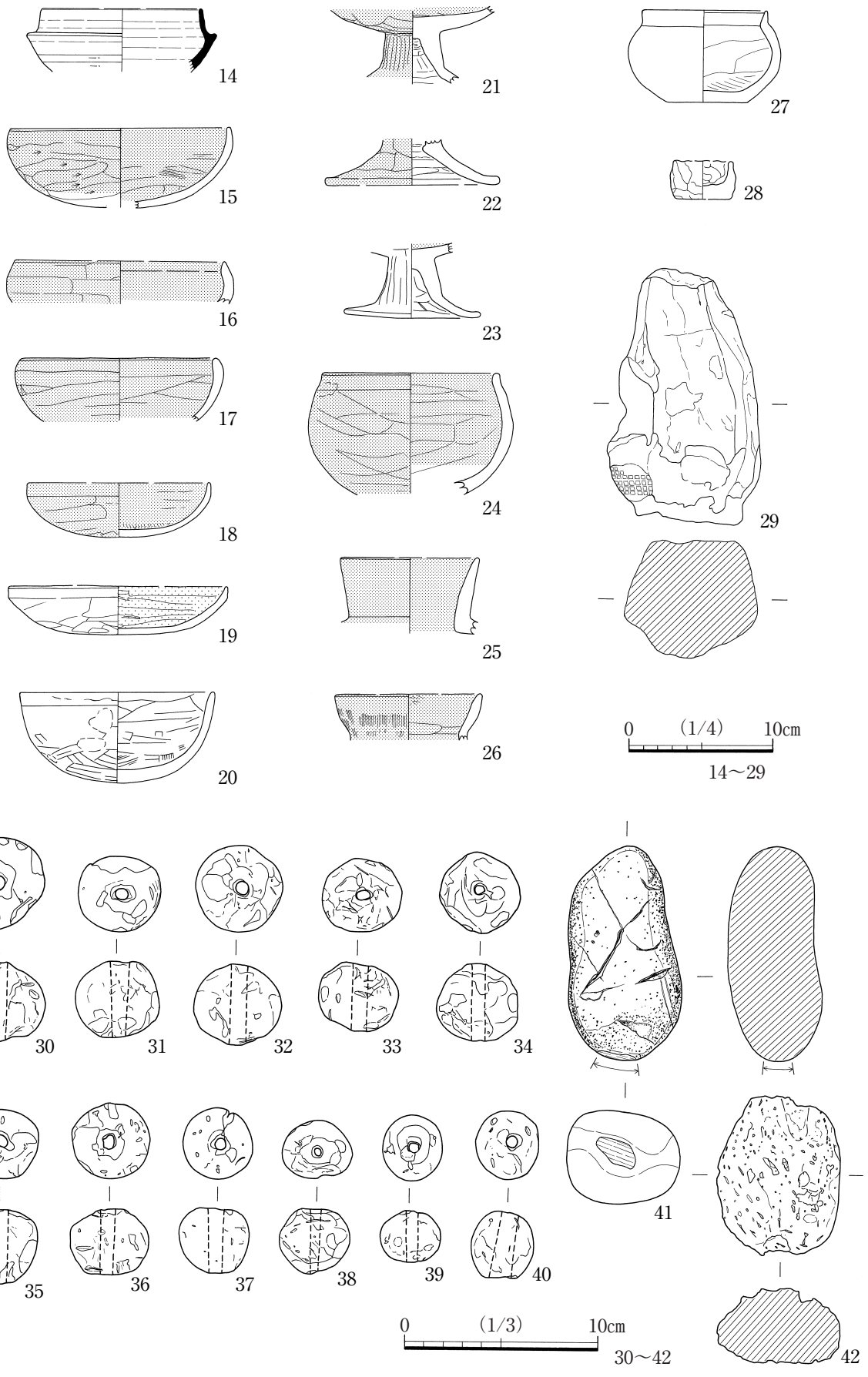




第21図　６号住居跡とカマド



第22図　6号住居跡出土遺物（1）



第23図　6号住居跡出土遺物（2）

７号住居跡（第24・25図、図版５・６・66）

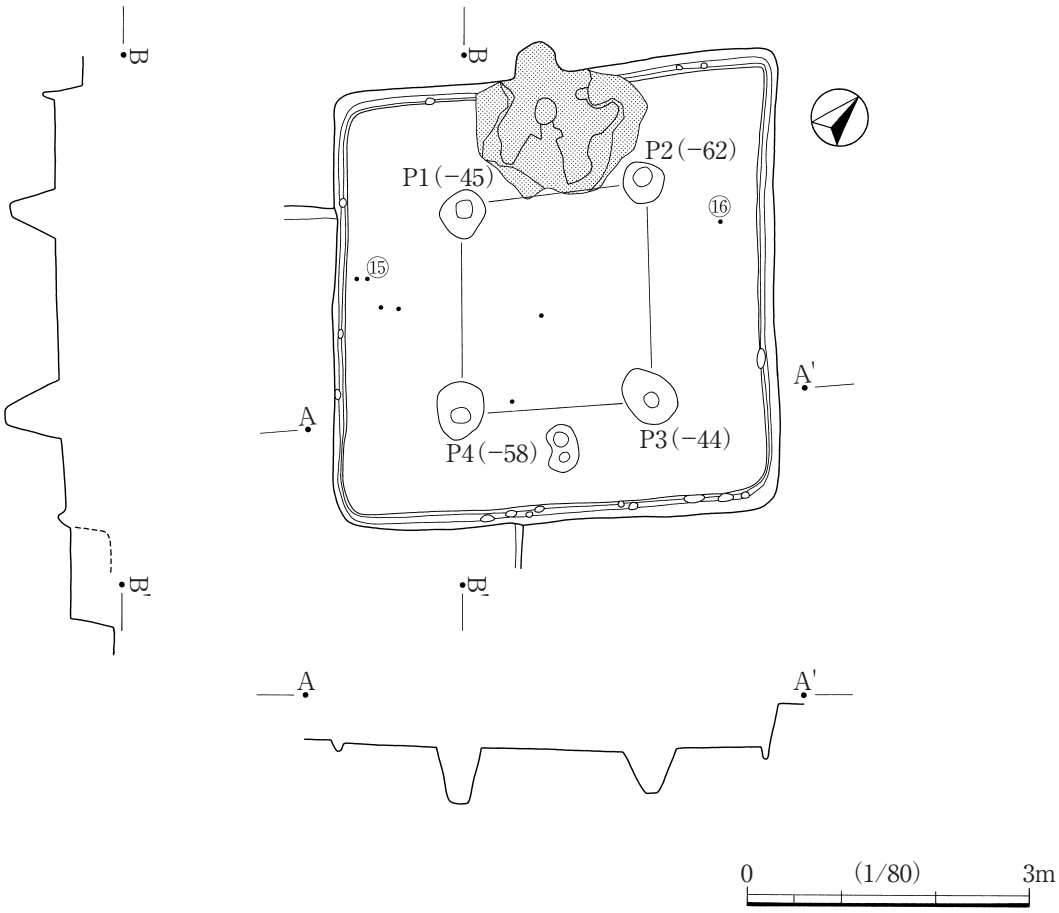
位置　中央調査区北西。I12。　複合切り合い関係　８住の北東側を大きく掘り込んで検出する。
平面形　ほぼ正方形。　主軸方位　Ｎ－43°－Ｗ。　床面規模　4.62m（主軸）×4.50m（副軸）。
床面積　20.78㎡。　残存壁高　0.32～0.55m。　カマド　北西辺中央。煙道部は壁から0.35m程突出する。袖部および天井部は下末吉層の白色粘土を主に構築されている。　床面　平坦で硬く踏みしめられている。　壁溝　幅10cm前後・深さ５～10cmで四周する。　覆土　不明。
出土遺物　１はカマド燃焼部からの出土した、胴部外面縦位箆ケズリの甕。２は肉厚で口頸部が立ち口縁端部で僅かに外反する胴外面横位の箆ケズリ甕。３は外面箆ケズリ、内面ミガキ状箆ナデを施す甑。４・５は須恵器身でTK217型式期に比定されよう。６は口縁が立ち内外面に僅かに稜を有する。７は無彩の椀形杯。８～11は平底の鉢状を呈する椀。12は赤彩の椀形杯。13～16は赤彩高杯で８住からの混入遺物であろう。出土状況から１～11・17・18が本住居跡に伴うものと判断できる。

８号住居跡（第26～28図、図版５・６・66～68）

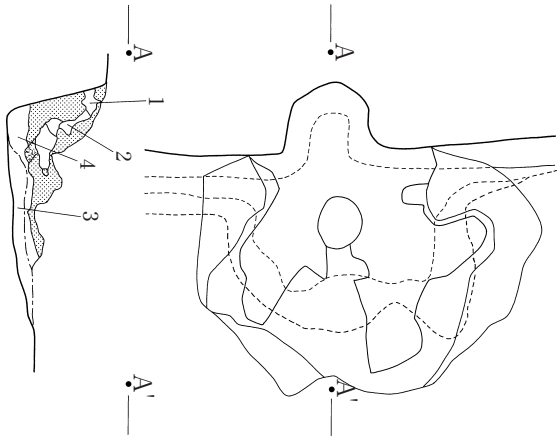
位置　中央調査区北西。I12。　複合切り合い関係　７住にプラン北東側を大きく掘り込まれ検出する。　平面形　ほぼ正方形。　主軸方位　Ｎ－40°－Ｅ？　床面規模　4.32m（主軸）×4.42m（副軸）。　推定床面積　17.93㎡。　残存壁高　0.21～0.48m。　カマド　７住に削平され北東辺と想定される。　床面　ソフトローム層中に形成され凹凸が目立つ。平坦で硬く踏みしめられている。
壁溝　幅５～８cm・深さ５～８cmで途切れる。　覆土　東隅付近に貝層と焼土の廃棄跡が確認される。
出土遺物　１～４・６～10は胴外面に箆ナデないしケズリ状の箆ナデを施す甕。４は口縁が短く僅かく外反する。５は口縁内外面刷毛目を消し去るヨコナデを施し、胴外面刷毛目を残す。11は小型球胴甕で口縁短く開く。12・13は口頸部が大きく外反し胴部が球状を呈する壺形土器となろう。14・15は甑または鉢形甕で、14外面には箆ケズリを残す雑なミガキを施す。16の甕胴下は上端の断面に成形時に胴上半と下半を接合する為に刻まれたと思われる刻み状の条線が認められ、部位毎の製作を思わせる資料である。21は外面刷毛目成形の甕胴部片。22～35が赤彩土器で22が椀、23～25が椀形杯。26～30は椀形高杯。31～34は高杯脚。30は短脚、33は僅かに長脚気味。34は大形の赤彩高杯で口径35cm程を計り、古相を呈し客体的な存在である。36・37はやや丁寧な成形の手捏ね土器で高杯形とコップ形である。38～40は土製土玉片。41は砥石。ほとんどの遺物が覆土層中の出土で直接竪穴住居跡の帰属を示す遺物を特定できないが、これら覆土層中の遺物を住居跡の帰属を示す資料と見なしても差し支えないと看取される。

９号住居跡（第29・30図、図版６・69）

位置　中央調査区北側。J12。　複合切り合い関係　北西隅を時期不明の溝に掘り込まれ検出する。
平面形　やや歪んだ方形。　主軸方位　Ｎ－29.5°－Ｗ。　床面規模　4.86m（主軸）×5.08m（副軸）。　床面積　25.68㎡。　残存壁高　0.38～0.50m。　カマド　北西辺中央。（詳細図なし）
床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　壁溝　幅10～15cm・深さ８～10cmを測り四周する。　覆土　１は溝覆土。３層にローム土塊を含み、覆土下層に焼土が認められることから火災住居で埋め戻された状況が窺える。

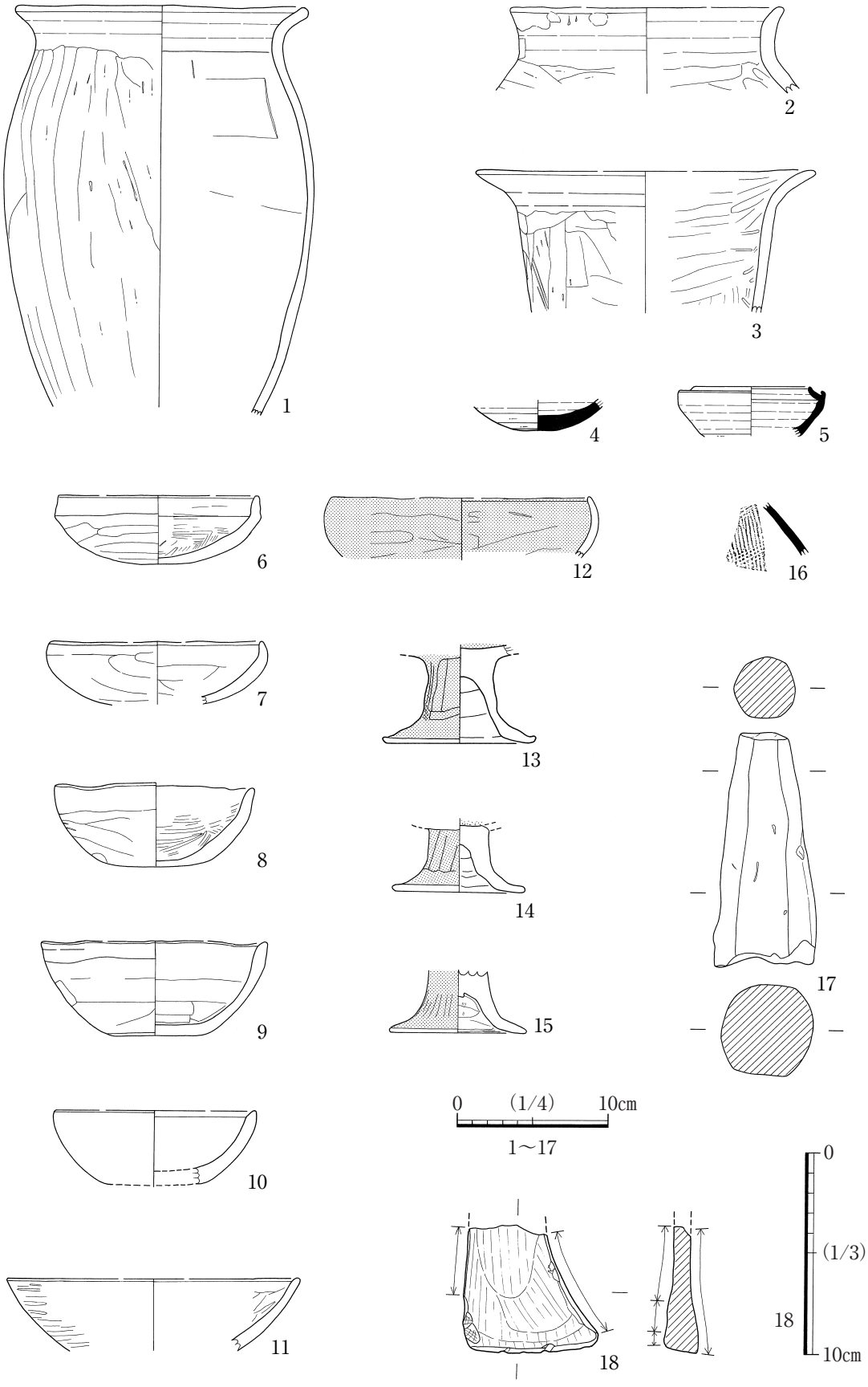




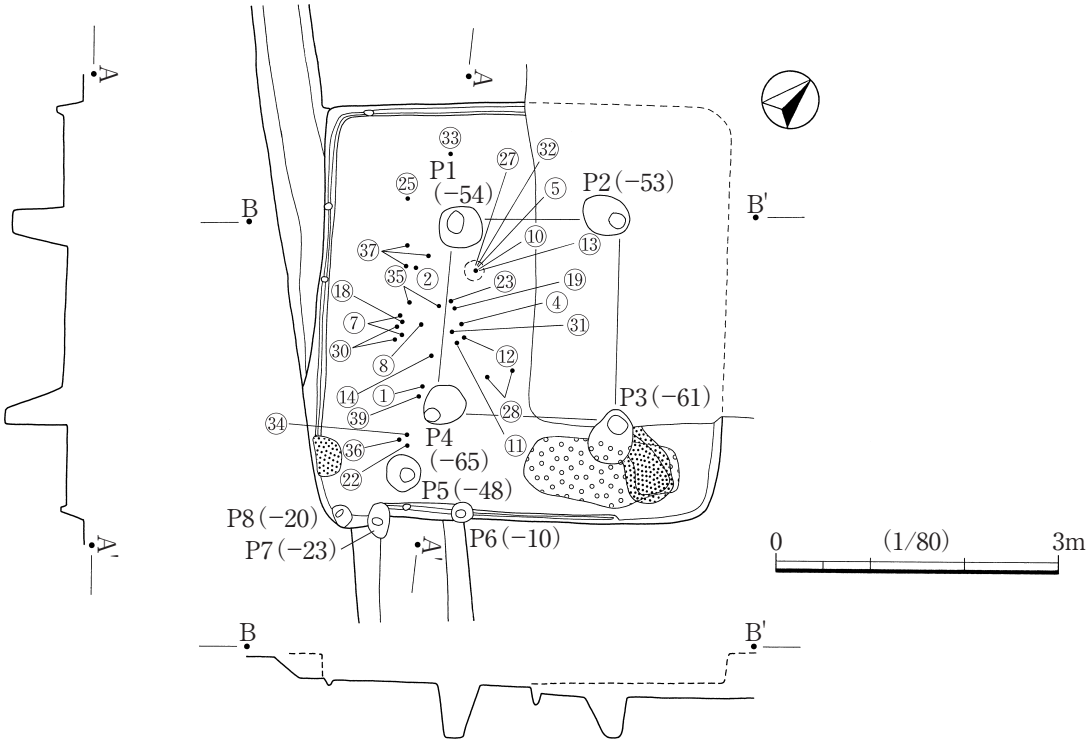


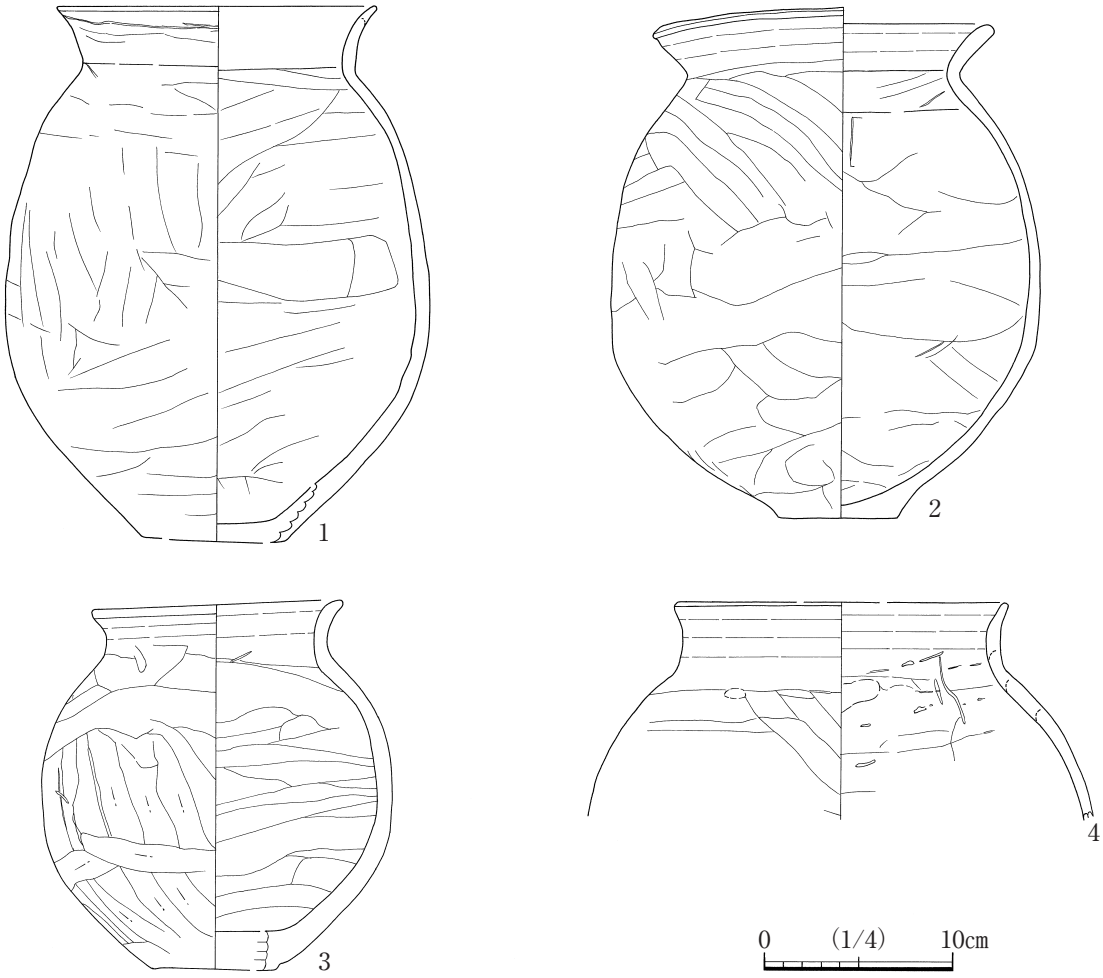
《7号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　粘土層が焼土化。
3　暗褐色土層。粘土を多量に含む。焼土粒を少量含む。
4　暗褐色土層。硬質のロームブロックを含む。

第24図　７号住居跡とカマド

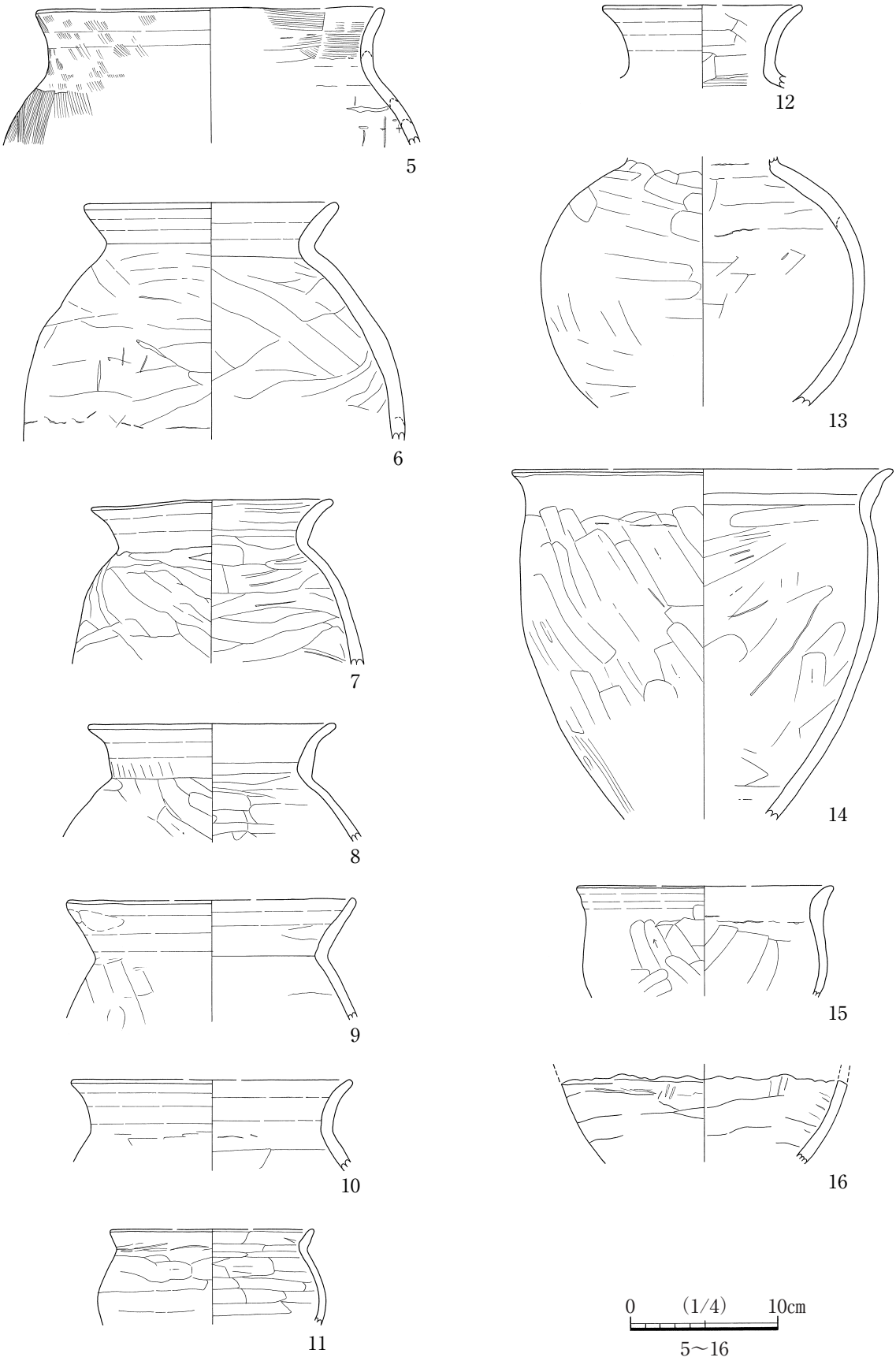


第25図　7号住居跡出土遺物

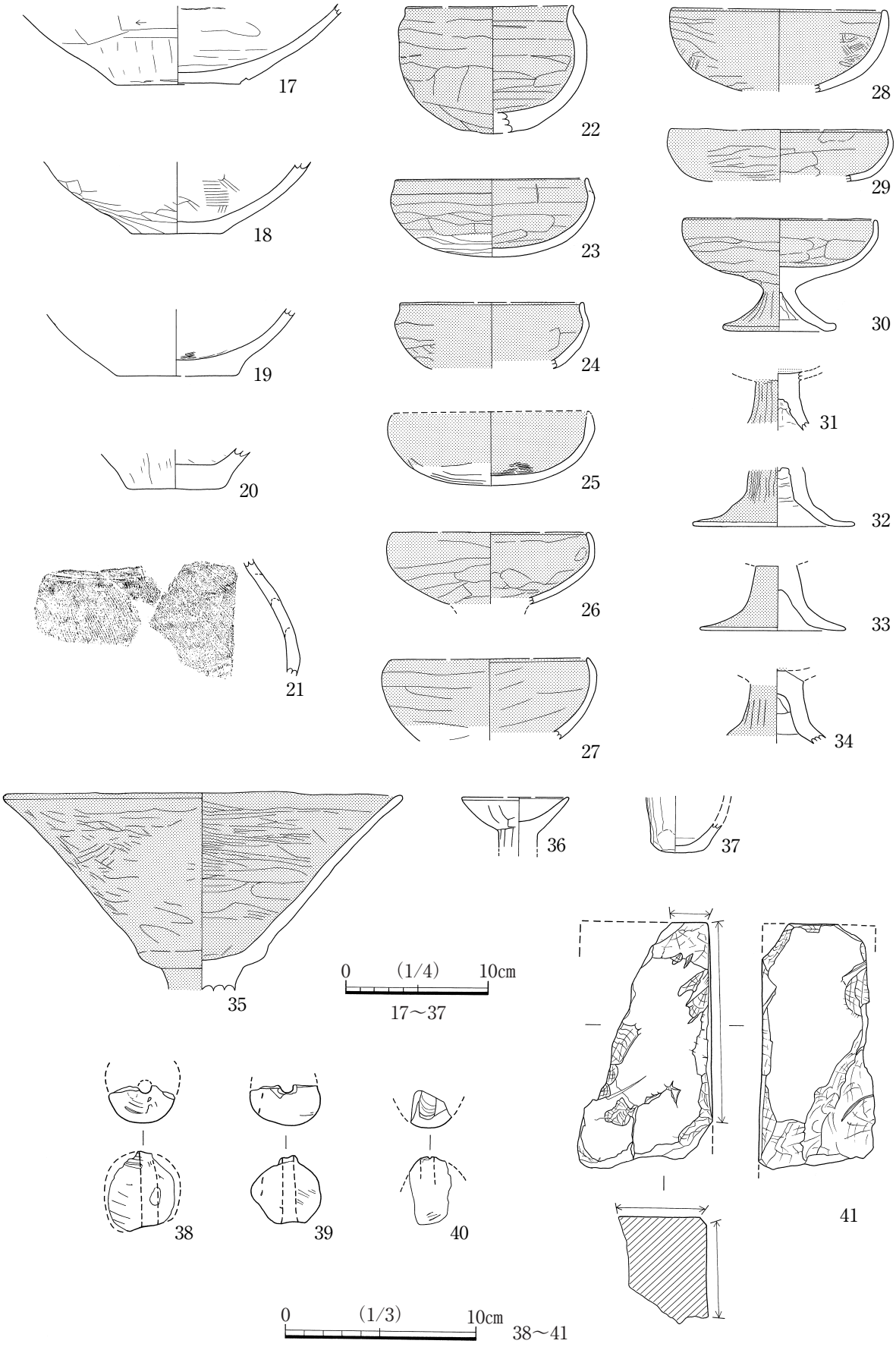




第26図　8 号住居跡と出土遺物（1）



第27図　8 号住居跡出土遺物（2）



第28図　8 号住居跡出土遺物（3）

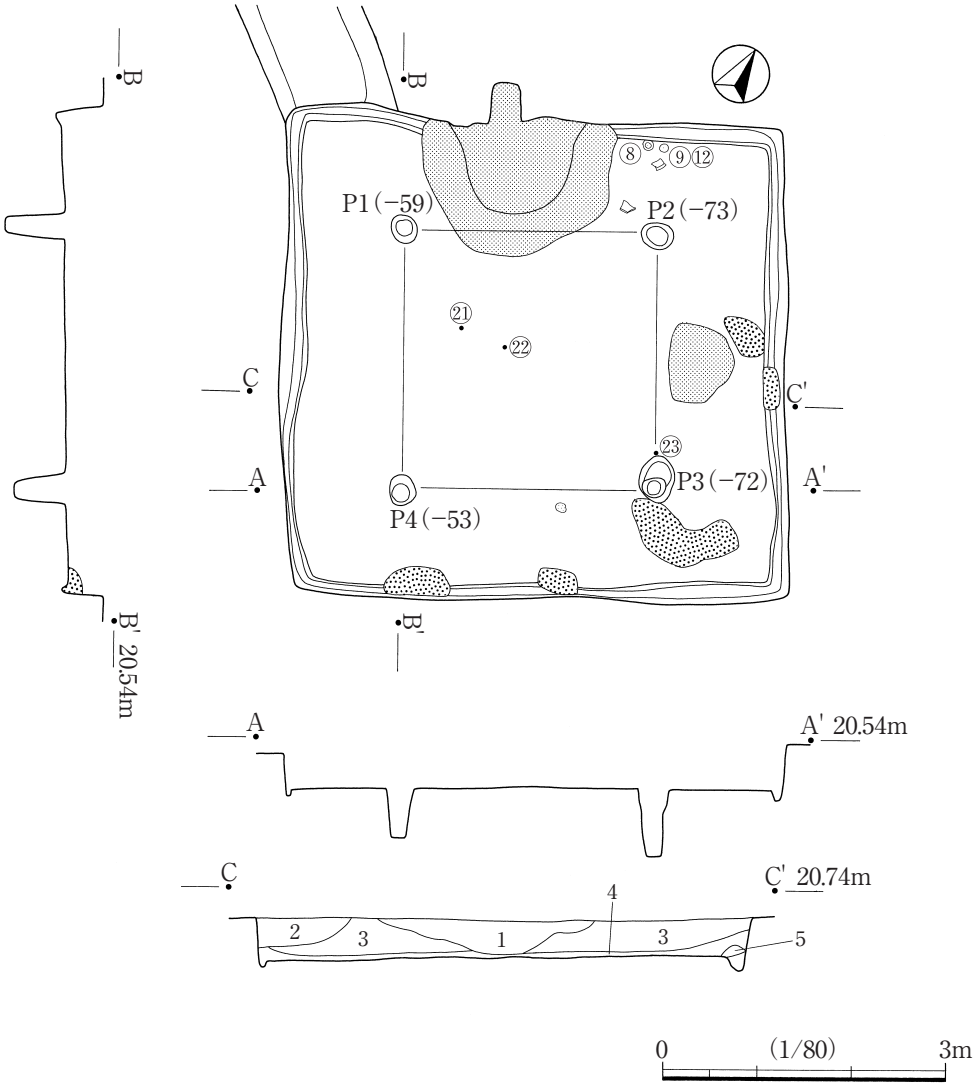
出土遺物　１・２は胴外面ケズリ状篦ナデの甕。５は口頸部が直立気味で胴外面雑な篦ミガキを施す。６～８は甑。９は口縁「く」の字に内傾する杯で杯身模倣の最終段階の様相を呈する。10は口縁直下に稜を有する杯蓋模倣杯。11・12はやや深い丸底で口縁が開く鉢形杯。13は須恵器高杯脚片。14は土師器高杯脚。15・16は須恵器甕片。17・18は中世大甕片で、18は須恵器甕片で一辺に研磨痕跡が認められる砥石転用甕片である。19はミニチュア土器で身型を呈する。21～23の土製土玉は径3.6～4.0cmを計る。出土位置は、８・10・11・20がカマド燃焼部、９・12・21～23がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。本住居跡と共伴する遺物を考えると、本遺構上層に溝が掘り込む以外が他の住居跡との切り合いが無い事を考慮するなら、17・18の中世の甕片以外の土器全てが住居跡の所属時期を示すものといえようか。

10号住居跡（第31・32図、図版７・69・70）

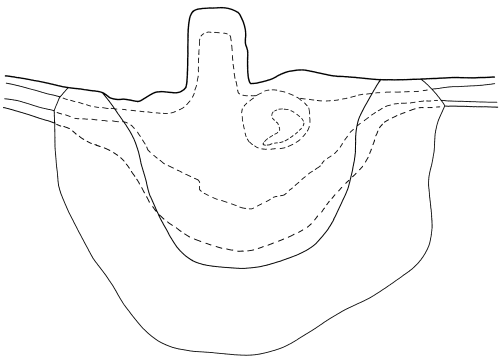
位置　中央調査区北側。I13。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　ほぼ正方形。
主軸方位　Ｎ－58°－Ｅ。　床面規模　6.50m（主軸）×6.44m（副軸）。　床面積　41.29㎡。
残存壁高　0.32～0.67m。　カマド　北東辺中央。　床面　ソフトローム層中に形成され平坦土で堅く踏みしめられている。　壁溝　幅10～15cm・深さ３～９cm東南付近で途切れている。　覆土　概ね自然堆積状況を示す。
出土遺物　１は口縁が短く立ち細頸の甕で胴外面篦ナデを施し、胴最大径を下半に有し安定感の悪い突出気味の柱状の底部を呈する。２は手捏ね状の小形甕、カマド精査時に出土するが詳細が不明である。３は外面斜位の篦削り甕。４は縦位の削り甕。５・６は深鉢形の甑または甕。７はやや小形の手捏ね状の鉢形甕。10の丸底気味の甕底部に木ノ葉が残る。16は中世の大甕の底部片。20・24～33は赤彩土器で、20は坩口縁片の小片。24・25は平底である。27・28は高杯または椀形杯。29～33は高杯で、31・32・33の脚はやや柱状で長脚気味である。34は砥石。35は磨石で軽石。２と７は内外面に輪積みと指頭圧痕を残す手捏ね状の土器でカマド精査時にカマド覆土から検出され、非実用土器でカマド祀りに伴う土器と判断できる。遺物出土位置は、２・６・７・８・11・12・21がカマド燃焼部およびカマド周辺覆土、１・３・４・５・10・33がカマド右袖やカマド前面床面、33が床面直上から出土し、他は覆土からの検出である。本遺構上層に溝が掘り込む以外、他の住居跡との切り合いが無い事を考慮するなら、16の中世甕片および22の須恵器杯、23の土師器杯以外は本住居跡の所属時期を示すものと言えようか。

11号住居跡（第33・34図、図版７・71）

位置　中央調査区中央北側。K13・K14。　複合切り合い関係　プラン西半分を12住に大きく掘り込まれる。　平面形　やや縦長の方形。　主軸方位　Ｎ－38°－Ｗ。　床面規模　6.68m（主軸）×6.14m（副軸）。　床面積　40.85㎡。　残存壁高　0.40～0.54m。　カマド　11住に削平され北西辺と想定される。　床面　ハードローム層中に形成され堅緻で平坦である。　壁溝　幅10～13cm前後・深さ３～15cmで四周する。　覆土　不明。
出土遺物　１・２は杯身模倣杯で１は口縁が僅かに外反気味で、２は口縁が短く内傾する。３・４は杯蓋模倣杯で内面ミガキを施す。５～７は須恵器甕片。８は赤彩高杯脚片。９は板状の砥石である。

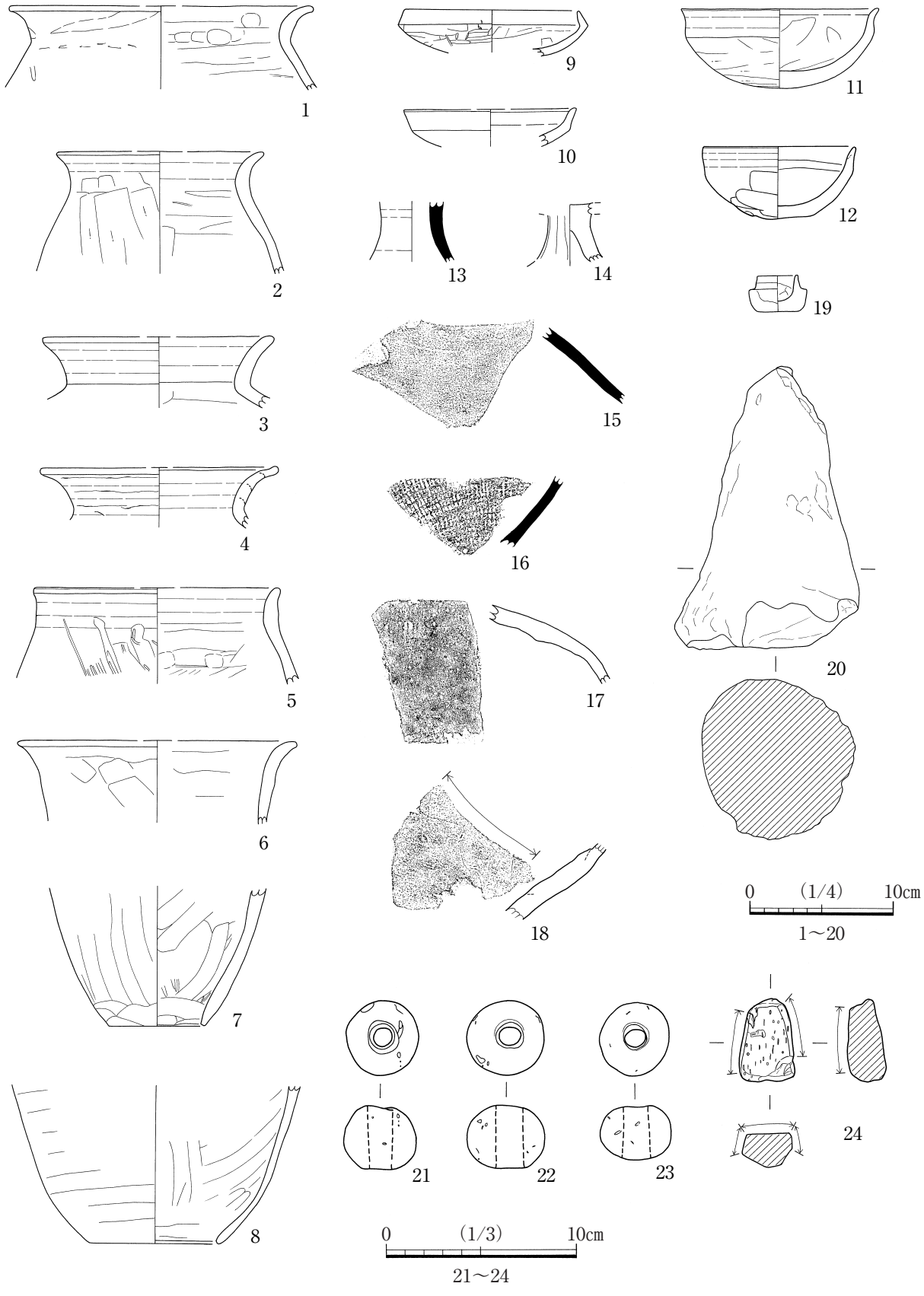


《9号住居跡覆土土層C－C'》
1　淡黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　淡黒褐色土層。第1層に似る。
3　淡茶褐色土層。ロームブロックを多く含む。
4　茶褐色土層。ソフトロームを全体に含む。
5　黒褐色土層。多量の焼土を含む。

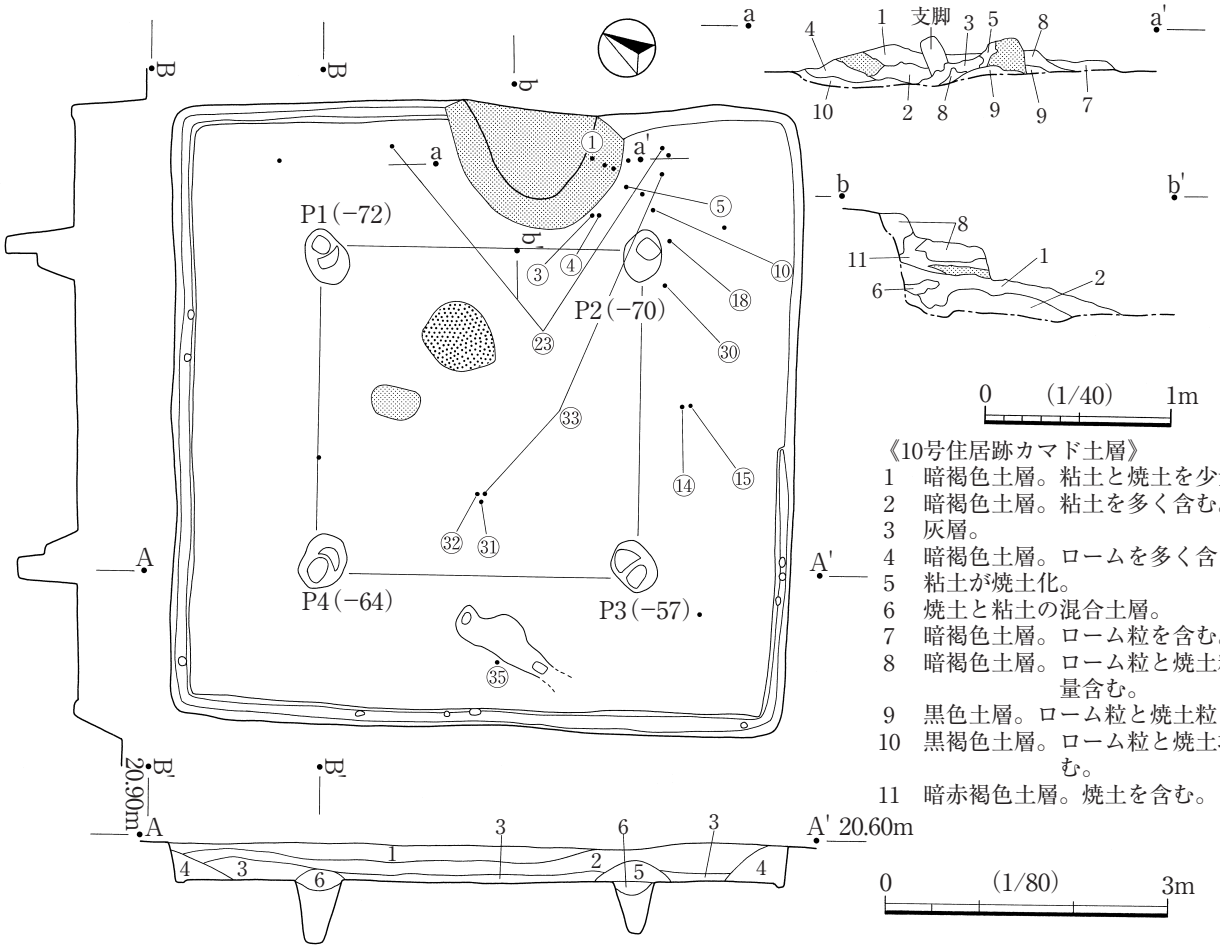




第29図　9号住居跡とカマド



第30図　9号住居跡出土遺物

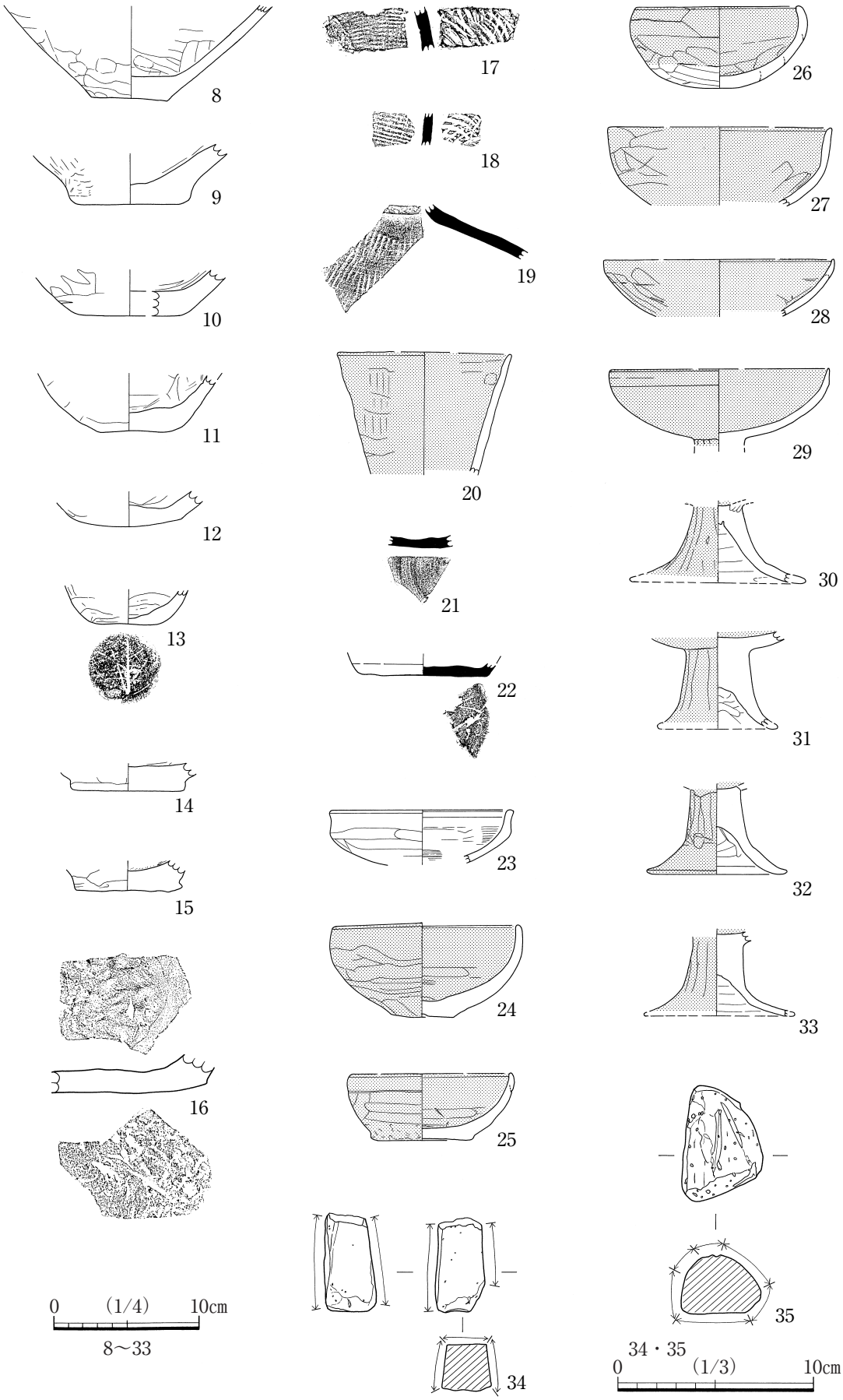


《10号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
2 暗褐色土層。粘土を多く含む。
3 灰層。
4 暗褐色土層。ロームを多く含む。
5 粘土が焼土化。
6 焼土と粘土の混合土層。
7 暗褐色土層。ローム粒を含む。
8 暗褐色土層。ローム粒と焼土粒を少量含む。
9 黒色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
10 黒褐色土層。ローム粒と焼土塊を含む。
11 暗赤褐色土層。焼土を含む。

《10号住居跡覆土土層A－A'》
1 淡茶褐色土層。多量のソフトローム粒を含む。
2 黒褐色土層。
3 黒褐色土層。ソフトローム粒を含む。
4 茶褐色土層。ソフトロームを全体に含む。
5 淡黄褐色土層。ブロック状のハードロームを多量に含む。
6 黒色土層。



第31図　10号住居跡と出土遺物（1）



第32図　10号住居跡出土遺物（2）

全ての遺物が覆土層中の出土であるが、１～４の土師器杯類が遺構の帰属を示す資料となる。

12号住居跡（第33・35図、図版７・71）

位置　中央調査区中央北側。K13・K14。　**複合切り合い関係**　11住のプラン西半分を大きく掘り込み検出する。　**平面形**　やや横長のほぼ方形。　**主軸方位**　Ｎ－５°－Ｅ。　**床面規模**　4.16m（主軸）×4.48m（副軸）。　**床面積**　18.27㎡。　**残存壁高**　0.35～0.55m。　**カマド**　北辺中央。
床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅く踏みしめられ、特に中央部は堅緻である。　**壁溝**　幅10cm前後・深さ８cm前後でほぼ四周する。　**覆土**　不明。
出土遺物　１～３は外面箆ケズリの甕、４は口縁内面と外面頸部上に赤彩を施す甕である。５は畿内産の丸底甕を模倣した在地産甕底部か。７は小形椀形杯。８は底部突出する杯。９は畿内産の搬入品と考えられる盤で、口縁内面には放射状暗文が明確に認められる。10は不整円形の石製紡錘車。11は石剣断片の再利用製品か。全て覆土層中の検出であるが、１・２・３・５・７・８・９の土器が本住居跡の帰属を示す資料となろう。４の赤彩甕は11号住居跡からの混入遺物と理解できようか。

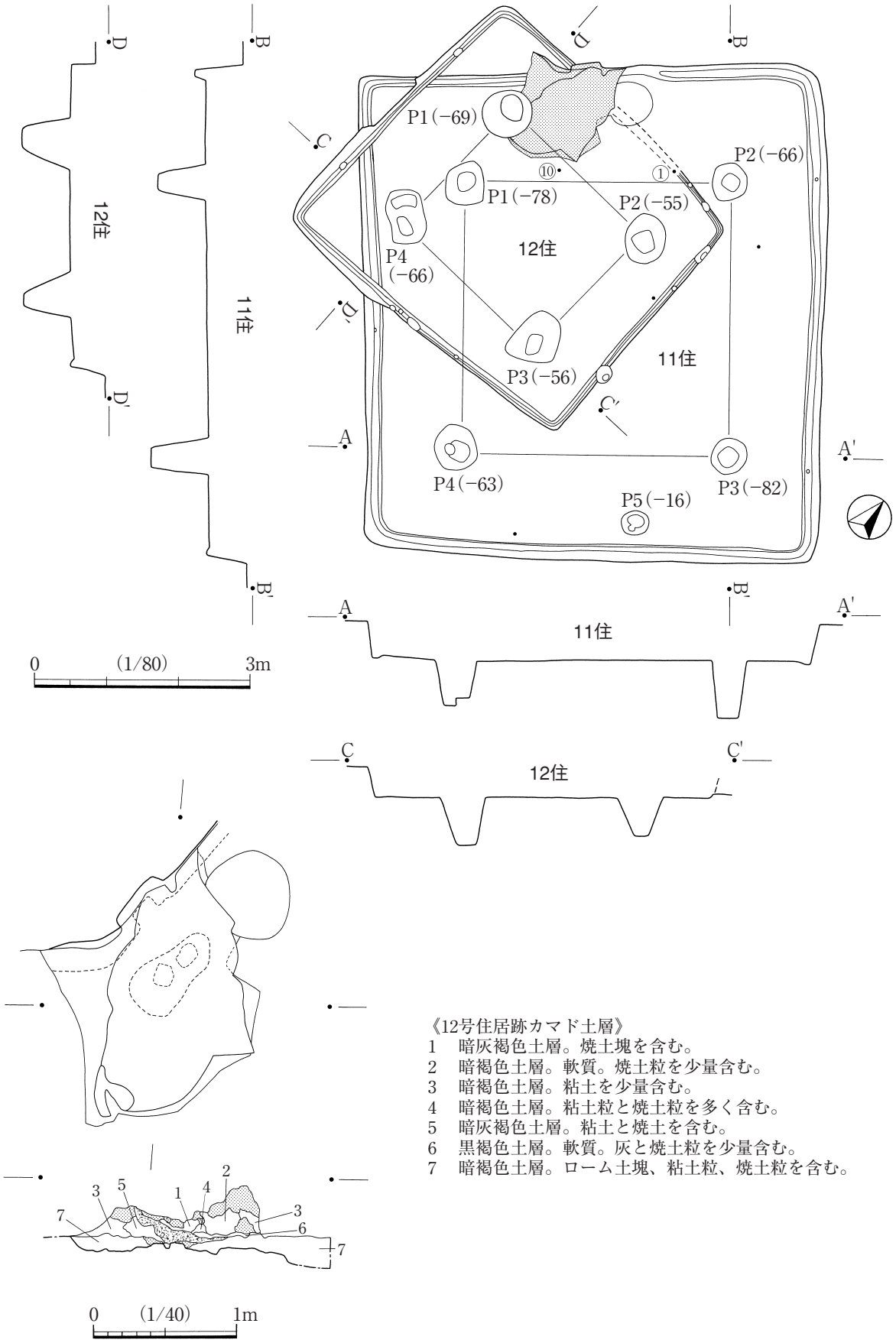
13号住居跡（第36図、図版７・71）

位置　中央調査区中央北側。J13・K13。　**複合切り合い関係**　14住の北東辺を大きく掘り込み、また西側辺を16号溝に掘り込まれ検出する。　**平面形**　やや胴張気味の正方形。
主軸方位　Ｎ－１°－Ｅ？　**床面規模**　3.98m（主軸）×3.92m（副軸）。　**推定床面積**　15.18㎡。
残存壁高　0.26～0.39m。　**カマド**　西カマドの可能性有るが詳細不明。　**床面**　西南側を大きく14住覆土中に張床する。　**壁溝**　幅８～12cm・深さ10cm前後。　**覆土**　茶褐色主体にロームブロックを含み埋め戻しが推察される。
出土遺物　14号住居跡で説明。

14号住居跡（第36図、図版７・71）

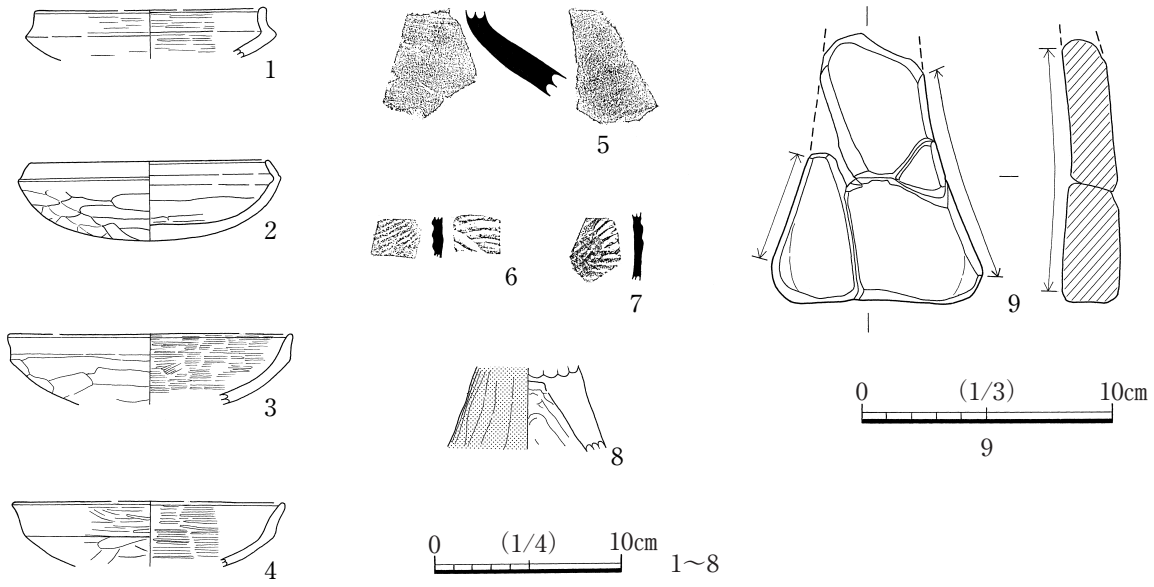
位置　中央調査区中央北側。K12・K13。　**複合切り合い関係**　13住にプラン北東側を大きく掘り込まれる。　**平面形**　ほぼ正方形。　**主軸方位**　Ｎ－２°－Ｗ。　**床面規模**　4.78m（主軸）×4.54m（副軸）。　**床面積**　20.53㎡。　**残存壁高**　0.28～0.55m。　**カマド**　北辺中央に粘土と焼土混じりの痕跡が有りカマドの存在を明瞭にしているが16号溝に掘り込まれる。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦に踏みしめられている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　16号溝に大きく掘り込まれ、プラン東には13住が張床される。
13・14号住居出土遺物　１・２は肉薄で口縁内外面丁寧なヨコナデ、胴外面横位の鋭い箆ケズリを施し、武蔵型甕の影響を色濃く残す。３は壺の須恵器蓋か？５・６は外面箆ケズリで、５は椀、６は鉢。７は須恵器長頸壺の口縁部片で口唇端部上下摘み出し、降灰は認められない。全ての遺物が覆土層中の出土で、直接竪穴住居跡の帰属を示す遺物を特定できないが、１～３の甕が13号住居跡、５・６が14号住居跡の帰属を示す資料となろう。

15号住居跡（第37～39図、図版８・72・73）

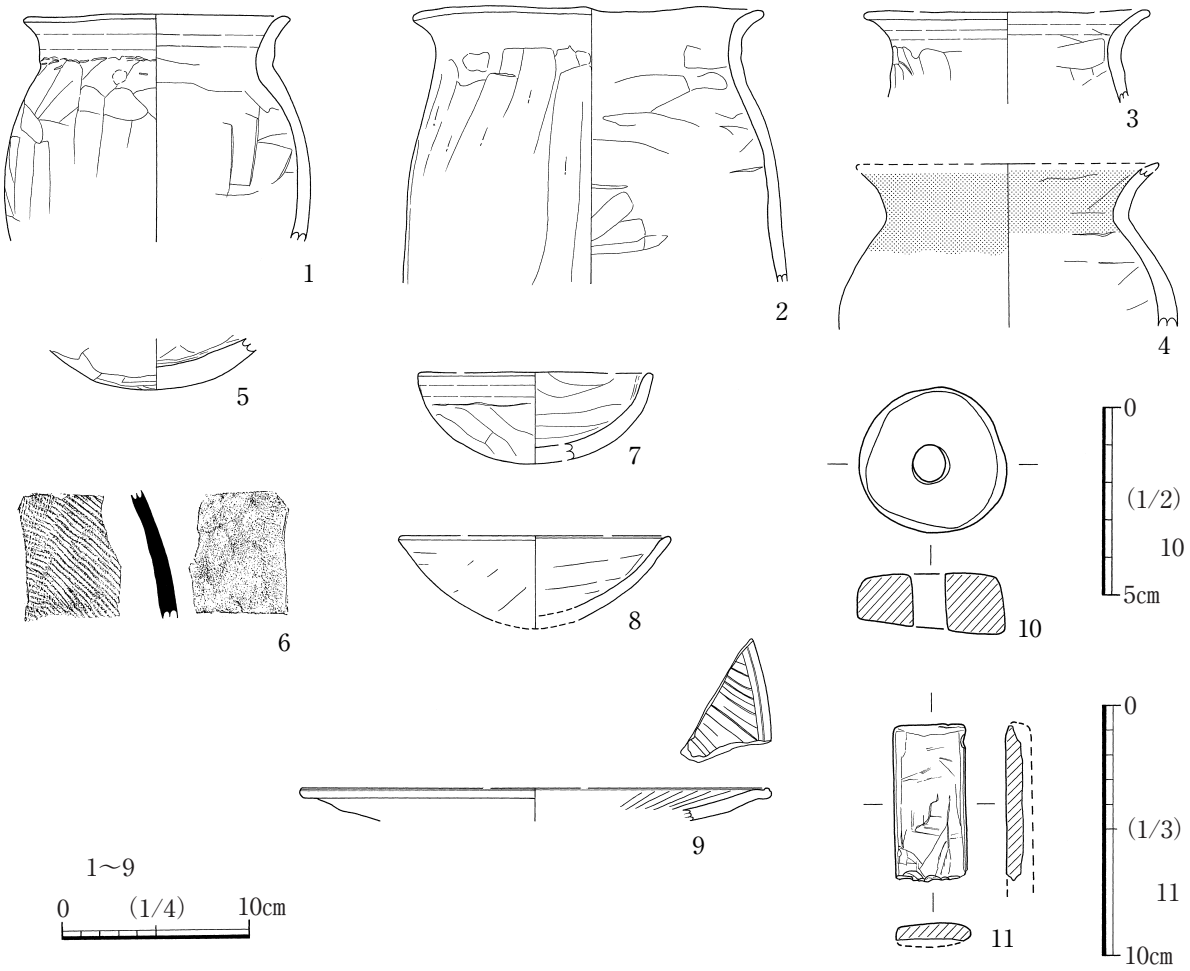


《12号住居跡カマド土層》
1　暗灰褐色土層。焼土塊を含む。
2　暗褐色土層。軟質。焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土層。粘土を少量含む。
4　暗褐色土層。粘土粒と焼土粒を多く含む。
5　暗灰褐色土層。粘土と焼土を含む。
6　黒褐色土層。軟質。灰と焼土粒を少量含む。
7　暗褐色土層。ローム土塊、粘土粒、焼土粒を含む。

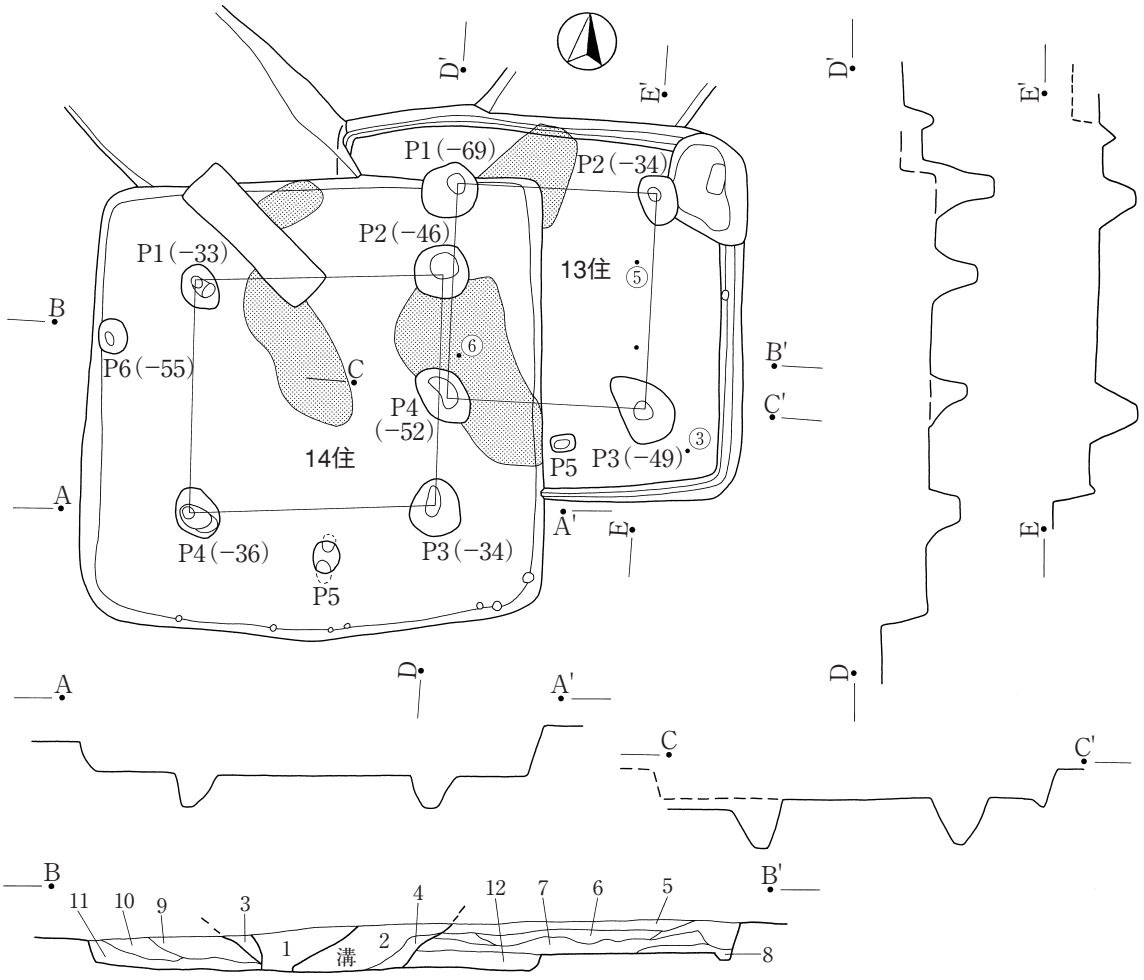
第33図　11号・12号住居跡とカマド



第34図　11号住居跡出土遺物



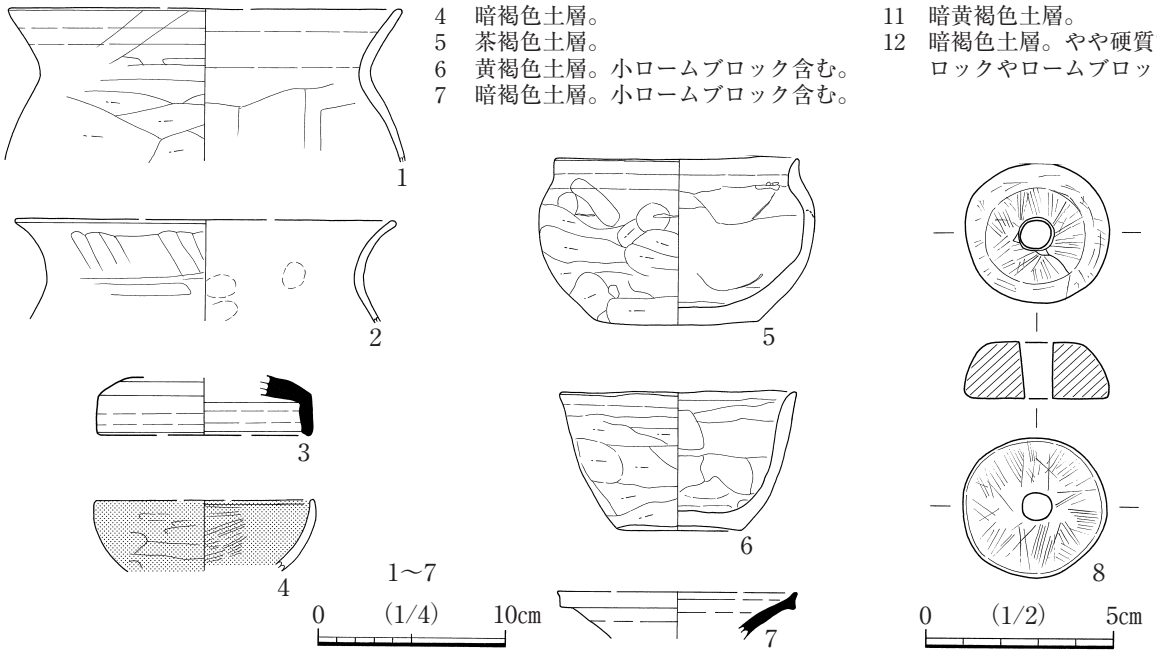
第35図　12号住居跡出土遺物



0 (1/80) 3m

《13・14号住居跡覆土土層B－B'》

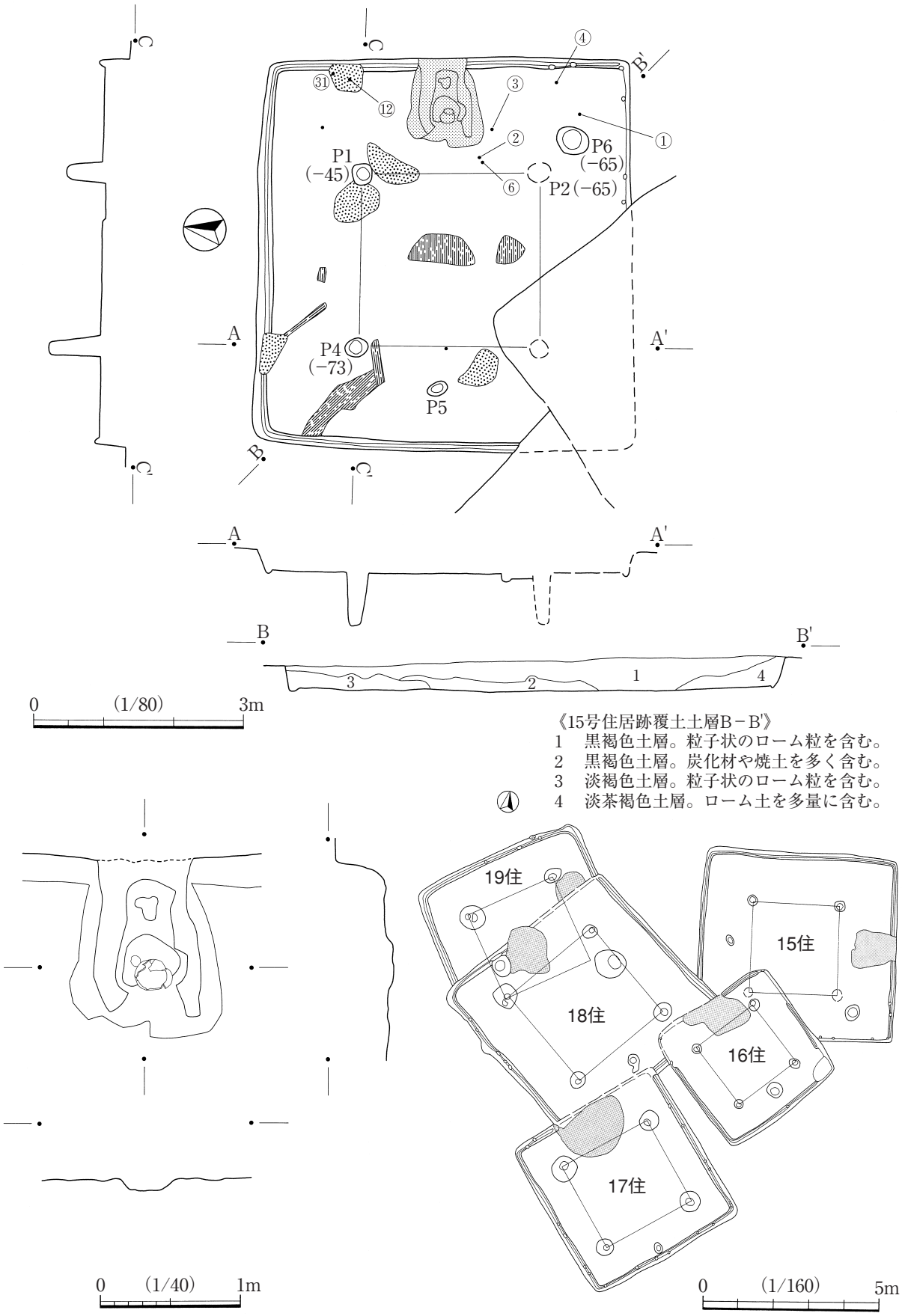
1 攪乱層。
2 茶褐色土層。
3 黄褐色土層。(1～4層は溝の土層。)
4 暗褐色土層。
5 茶褐色土層。
6 黄褐色土層。小ロームブロック含む。
7 暗褐色土層。小ロームブロック含む。
8 茶褐色土層。
9 暗褐色土層。
10 暗褐色土層。ロームブロック含む。
11 暗黄褐色土層。
12 暗褐色土層。やや硬質で褐色土ブロックやロームブロック含む。



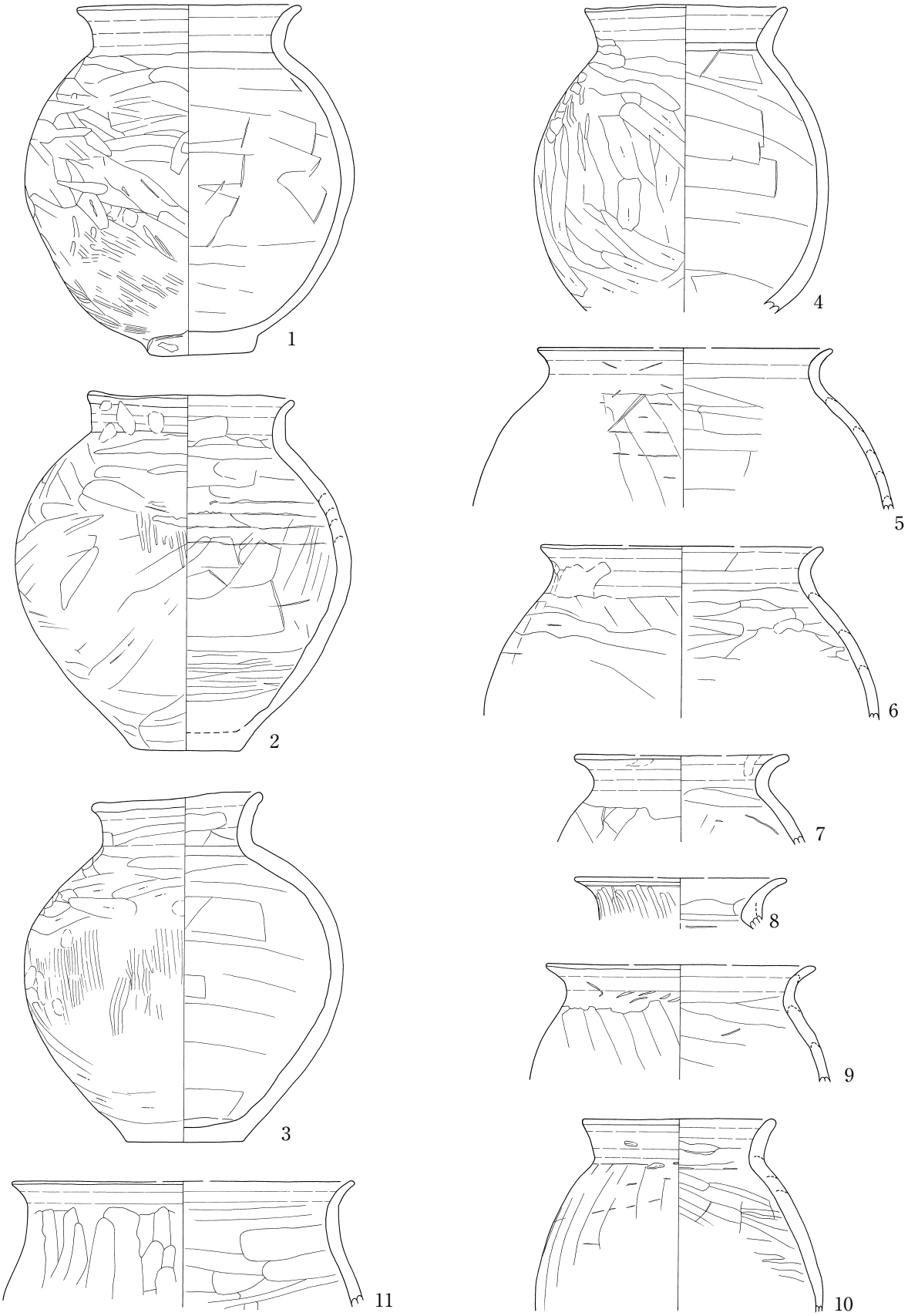
1～7
0 (1/4) 10cm

0 (1/2) 5cm

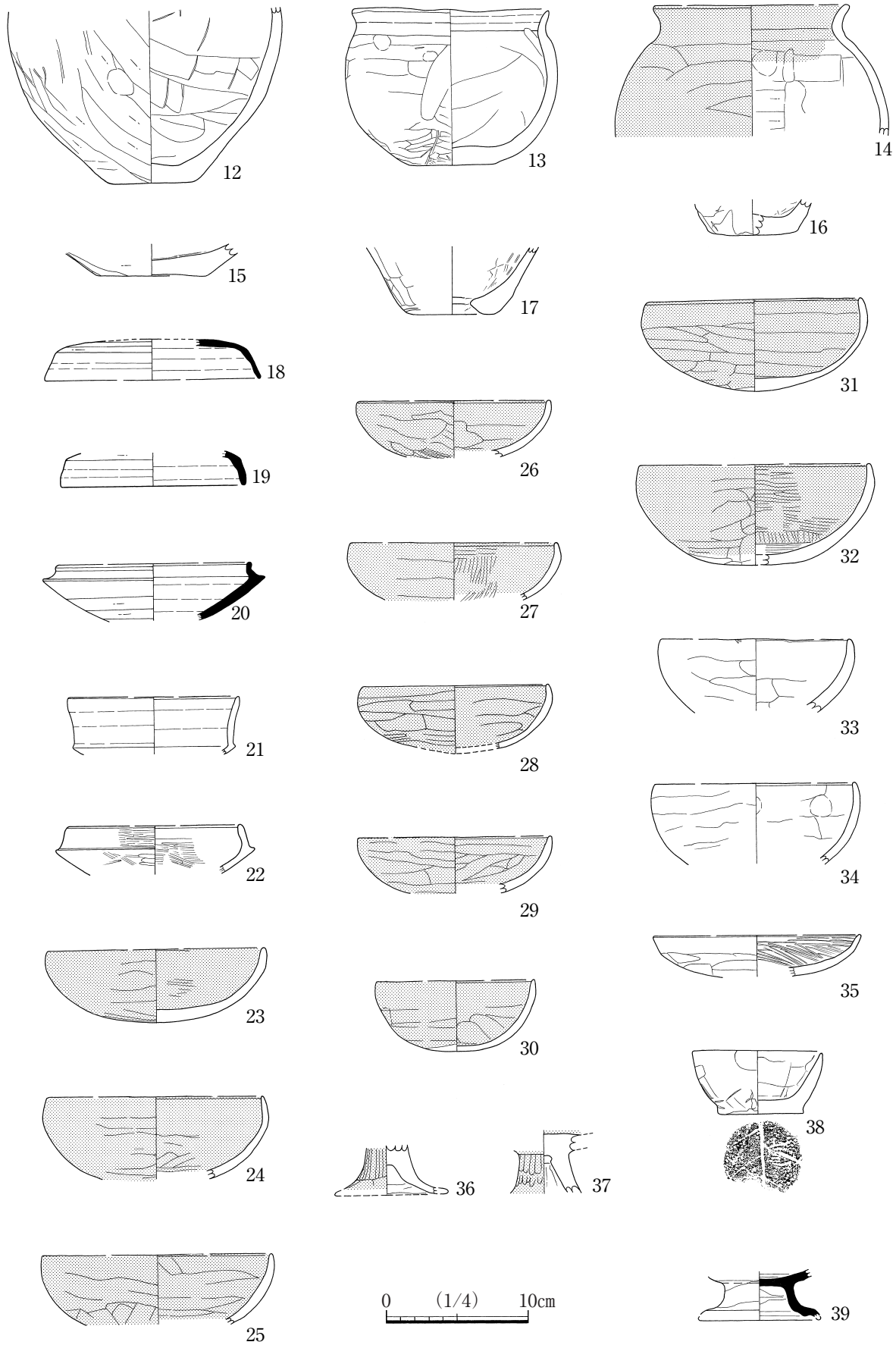
第36図　13号・14号住居跡と出土遺物



第37図　15号住居跡とカマド



第38図　15号住居跡出土遺物（1）



第39図　15号住居跡出土遺物（2）

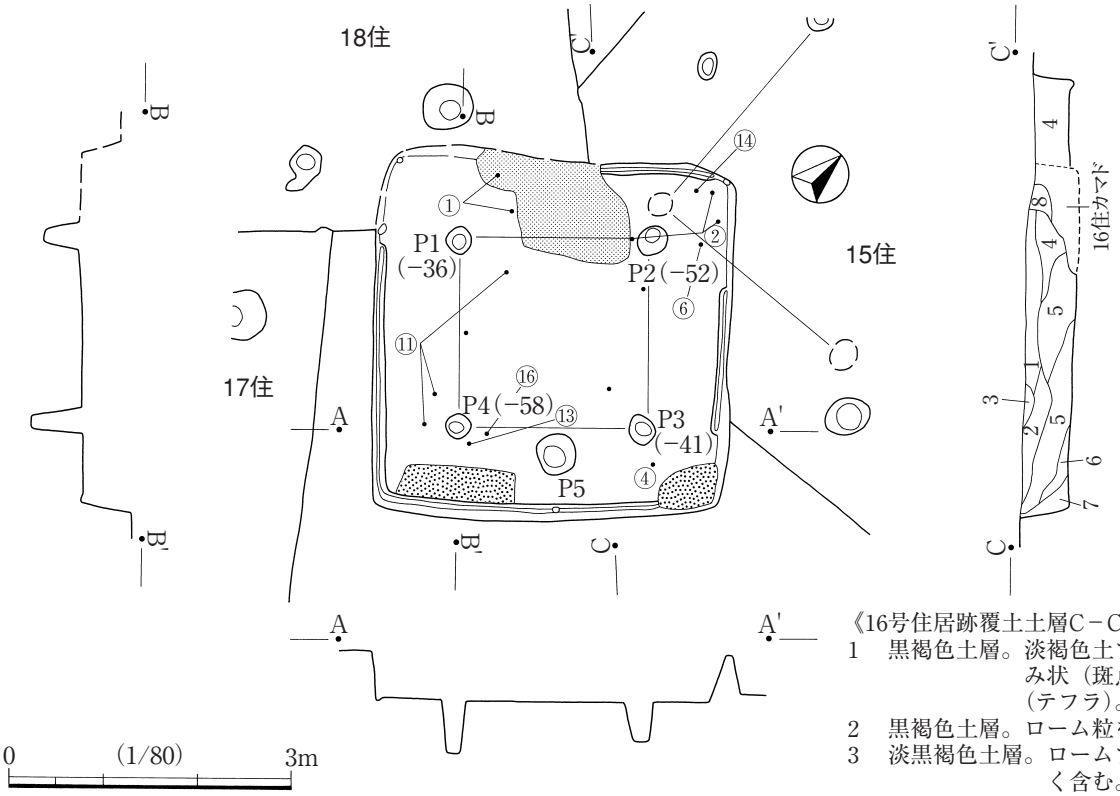
位置　中央調査区中央北側。J12・K12。　複合切り合い関係　南西半分を16住に掘り込まれる。平面形　やや縦長方形。　主軸方位　N－82°－E。　床面規模　5.42m（主軸）×5.16m（副軸）。　床面積　28.05㎡。　残存壁高　0.30～0.38m。　カマド　東辺中央。　床面　ソフトローム層中に形成され張床でやや軟弱である。（谷島メモ）　壁溝　幅８～10cm前後・深さ２～７cmで南辺が途切れる。　覆土　多量の炭化材や焼土が床面直上および覆土層中から確認され、火災住居である。出土遺物　１は底部が突出する球胴甕で胴外面上半は丁寧な篦ナデで下半は雑なミガキ状篦ナデを施す。２・３は球胴甕で胴外面篦ナデで雑なミガキが部分的に認められる。４はケズリ状篦ナデの球胴。５・６は口縁が短く外反し、外面に輪積みを残す外面ケズリ状篦ナデを施す球胴甕。１～12の甕は斜位のやや不規則なミガキ状篦ナデやケズリ状篦ナデを基調としている。13は外面ケズリ状篦ナデの小形甕。14は外面と口縁内面に赤彩を施す球胴甕。18・19は須恵器蓋、20は須恵器身でTK209型式期であろう。21は杯蓋模倣杯で口縁が長く外傾し、底体部は浅いものと看取され古相の様相を呈する。22は光沢のある褐色を呈し漆塗りの杯身模倣杯であろう。23～32は赤彩の椀形杯で底部欠損のものは高杯の可能性もある。30の口径11cmと31・32の口径16cmを計る小形と大形品が認められる。33・34は無彩の椀形杯。35は内面ミガキの器高が低く半円状の皿状杯。36・37は赤彩高杯の脚。38は手捏ね状の平底の小鉢で底部に木ノ葉痕が残る。39は須恵器脚である。遺物出土位置は、２・３・４が床面直上、１・６・12・31・34がほぼ床面から出土し、他は覆土層からの検出である。18～22・35・39の遺物は覆土から検出し、複合する16住に帰属する遺物と考えられる。また、本住居跡に伴う遺物には、13・14の甕、23～34の赤彩椀形杯類や36～38の土器が当てられよう。

16号住居跡（第40・42図、図版８・73）

位置　中央調査区中央北側。K12。　複合切り合い関係　北東側に15住を北西側で18住をそれぞれ掘り込んで検出する。　平面形　やや胴張り気味の方形。　主軸方位　N－46°－W。　床面規模　3.64m（主軸）×3.70m（副軸）。　床面積　13.21㎡。　残存壁高　0.49～0.55m。　カマド　北西辺のほぼ中央に構築されるが詳細不明。　床面　貼床で堅く踏みしまり平坦である　壁溝　幅８～10cm・深さ５cm前後でほぼ四周する。　覆土　ロームブロックを含むことから埋め戻しが想定される。出土遺物　１・２は甑で、１は外面縦位篦ケズリで内面篦ナデ。２は外面ナデ状の篦ケズリで内面篦ケズリを消し去るミガキを施す。３は口頸部が長く大きく外反し口縁端部を上方へ摘み出し、頸部外面に縦位のミガキを施す、非在地系の甕であろう。４～６は土師器甕底部。７は肉厚の須恵器身でTK217型式期であろう。８は杯身模倣杯で漆塗り。９・10は杯蓋模倣坏で10内外面は光沢のあるミガキを施す。14は土製支脚片。15は径0.53cm前後を計る石製の玉。16は土製土玉。17は四面に仕様痕跡のある砥石である。遺物出土位置は、１がカマド左のほぼ床面、２はカマド右の床面から出土し、他は覆土からの検出である。坏類では８・９が本住居跡の帰属を示す資料となろう。

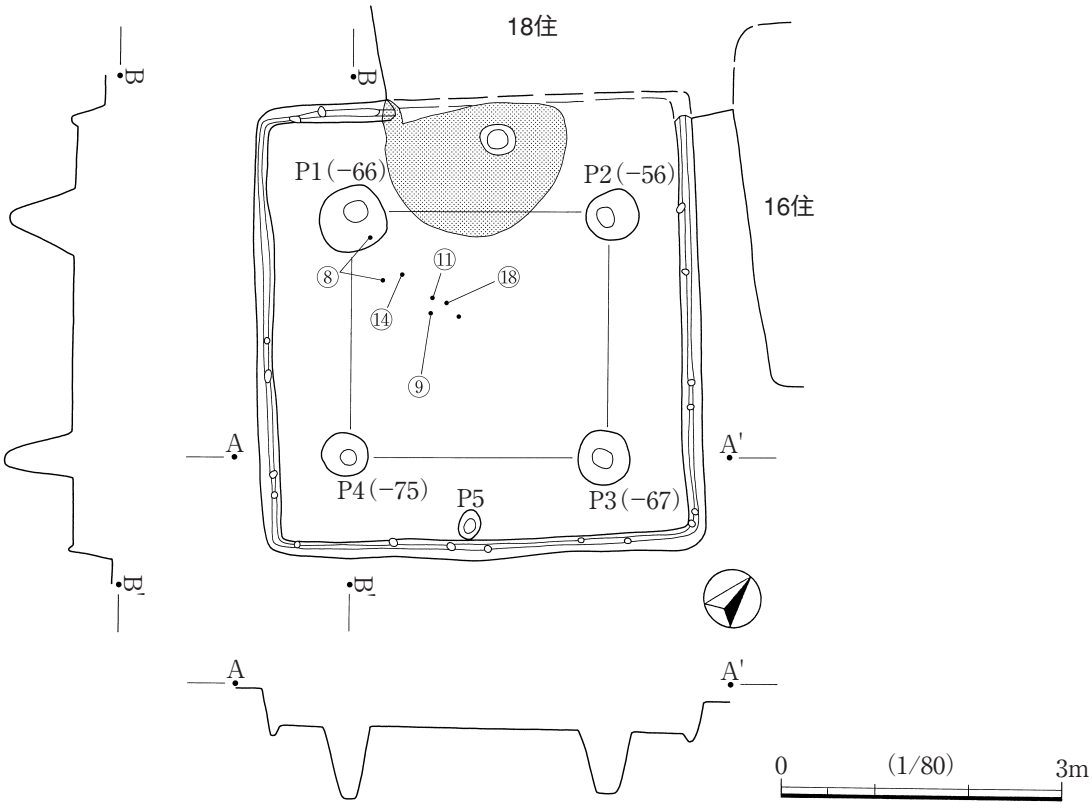
17号住居跡（第41・43図、図版８・74）

位置　中央調査区中央西側。K11・K12。　複合切り合い関係　北西辺で18住の南東辺を僅かに掘り込む。　平面形　ほぼ正方形。　主軸方位　N－40°－W。　床面規模　4.61m（主軸）×4.54m（副軸）。　床面積　20.26㎡。　残存壁高　0.28～0.42m。　カマド　北西辺のほぼ中央に構築され

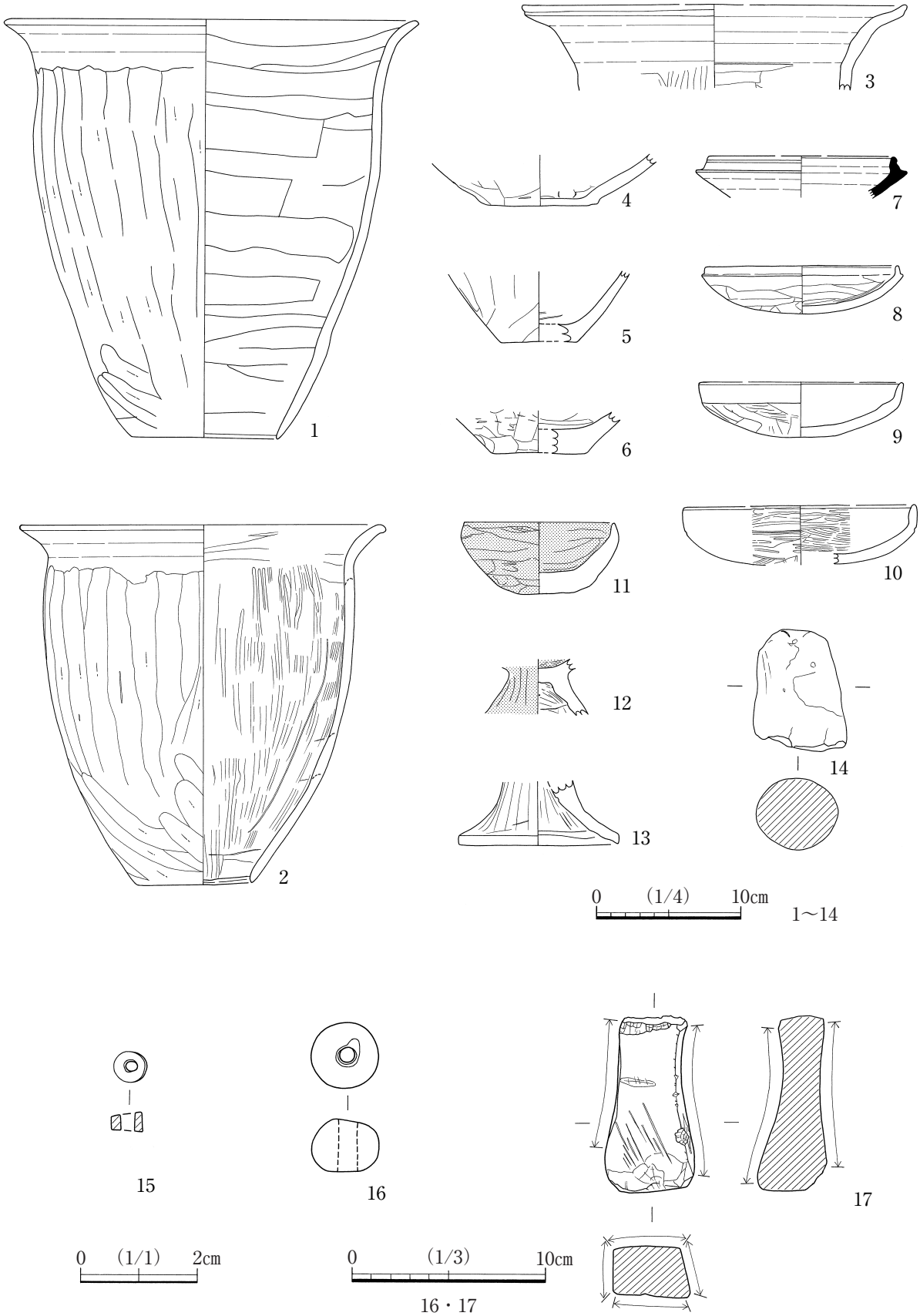


《16号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。淡褐色土ブロックを染み状（斑点状）に含む（テフラ）。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　淡黒褐色土層。ロームブロックを多く含む。
4　暗茶褐色土層。粘土粒とローム粒を含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
6　茶褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状（染み状）に含む。
7　暗褐色土層。
8　茶褐色土層。

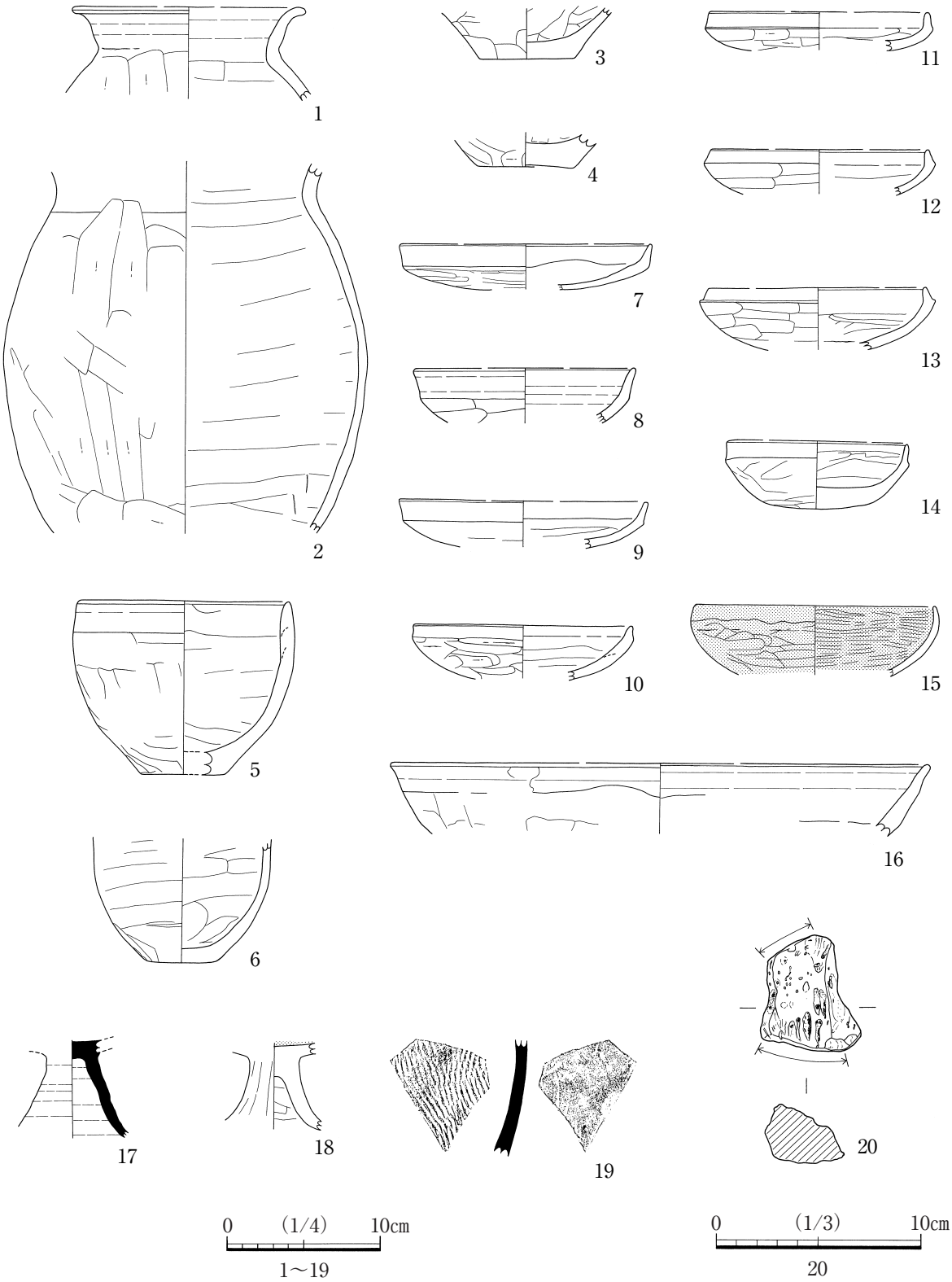
第40図　16号住居跡



第41図　17号住居跡



第42図　16号住居跡出土遺物

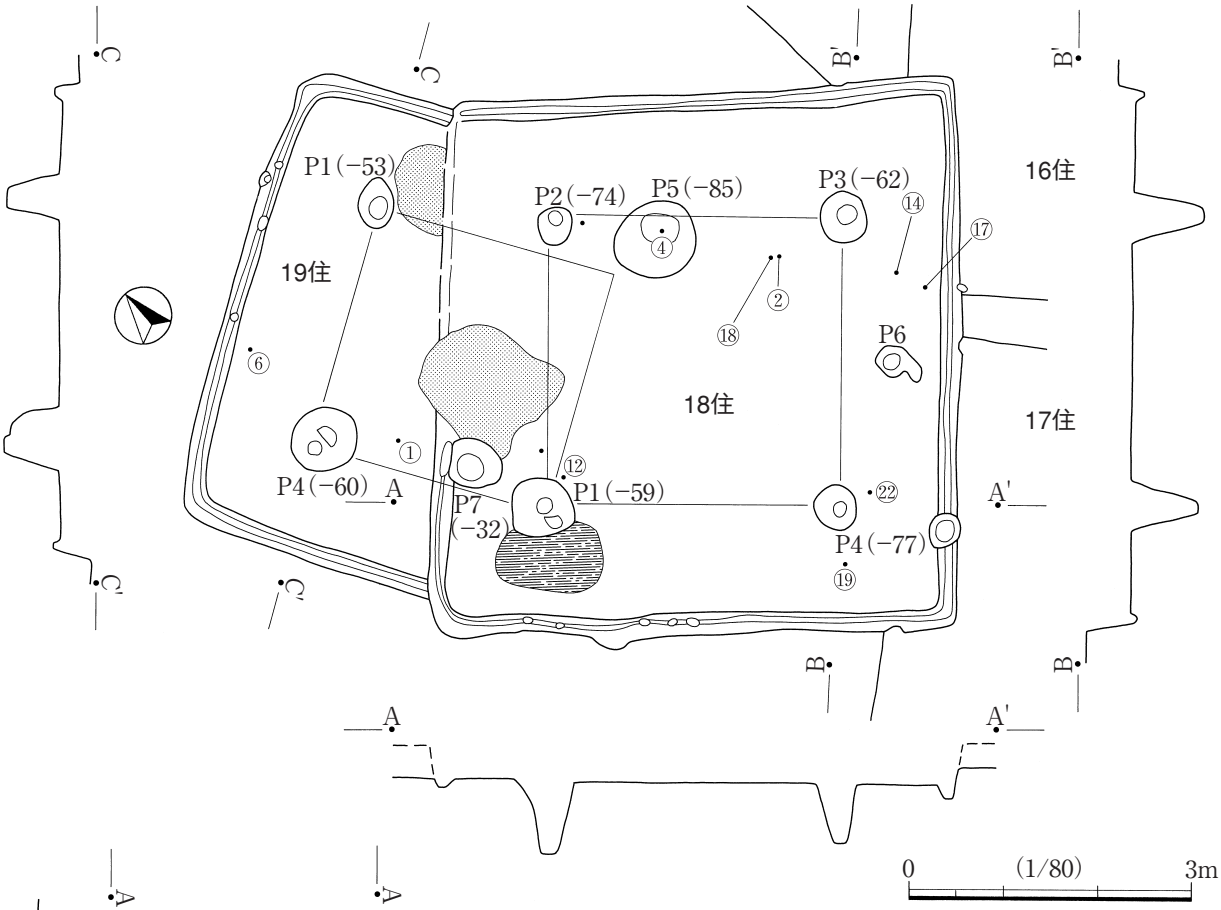


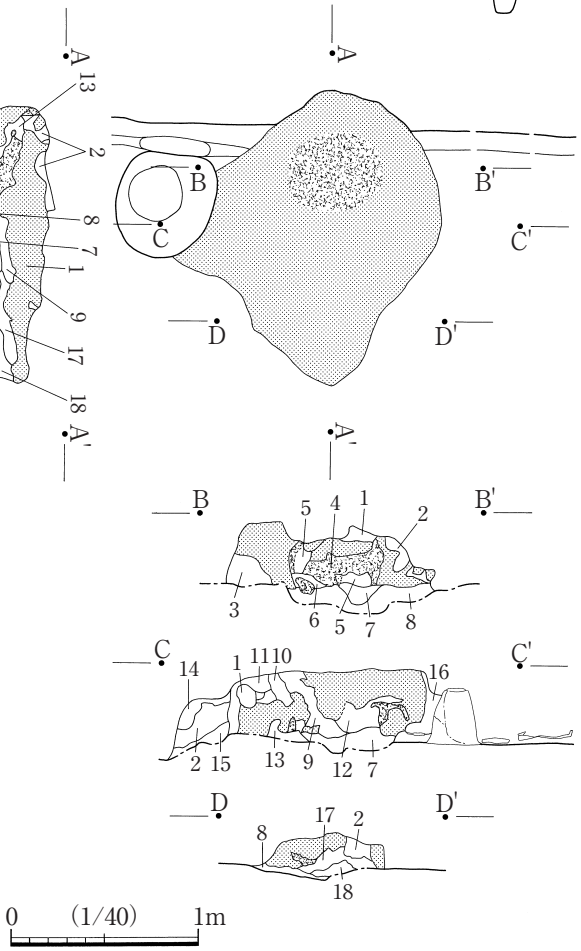
第43図　17号住居跡出土遺物

るが詳細不明。　**床面**　平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10㎝前後・深さ５～10㎝で四周すると思われるが、18住覆土中に構築される北西辺の壁溝が不明である。　**覆土**　詳細不明。
出土遺物　１・２は胴外面縦位箆ケズリの中胴甕。３・４は甕底部。５・６は胴外面箆ナデの鉢。７～10は杯蓋模倣杯。11～13は杯身模倣杯。14は小形杯で深い。15は赤彩椀形杯。16は雑な整形の大型鉢。17は須恵器高杯脚片。18は杯内面に赤彩を僅かに残す椀形高杯である。遺物出土位置は、１・２・３・12がカマド燃焼部、８～11・14・18がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。本住居跡と共伴する遺物はカマドやほぼ床面から出土したもの意外に、覆土層中の15・18以外の遺物も本住居跡の帰属を示す資料と言える。

18号住居跡（第44・45図、図版８・75）
位置　中央調査区中央西側。K11。　**複合切り合い関係**　南東辺を16・17住に掘り込まれ、北西辺で19住を大きく掘り込んで検出する。　**平面形**　ほぼ正方形。　**主軸方位**　Ｎ－54°－Ｗ。
床面規模　5.32ｍ（主軸）×5.54ｍ（副軸）。　**床面積**　28.88㎡。　**残存壁高**　0.35～0.46ｍ。
カマド　北西辺のほぼ中央に構築されるが詳細不明。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅８～13㎝・深さ10㎝で前後ほぼ四周する。　**覆土**　詳細不明。
出土遺物　１は胴外面中位から上半縦位、下端斜位の箆ケズリ、内面箆ナデを施す中胴甕。２・３は口縁短く外反。４は頸部が「コ」の字状で輪積みを残し口縁が大きく外傾し、胴外面丁寧な箆ナデによる大形球胴甕。５は頸部片で肩が強く張る大形の球胴甕であろう。６・７は杯蓋模倣杯。９～11は坏身模倣杯で10は内面黒色処理、11は漆塗りと思われる。12・13は赤彩土器で、12は浅い椀形杯、13は平底の鉢形を呈する。14は内外面ミガキ状の箆ナデの短頸壺。15は外面ミガキ状箆ナデで内面丁寧な箆ナデを施す鉢。16は杯部内面ミガキの高杯。17は赤彩の高杯脚。18は杯内面黒色処理の高杯。21は径１㎝程の土製の小玉である。22は四面に仕様痕跡のある砥石。他に図版７－⑧のカマド調査時の甑・杯は盗難に合う。遺物出土位置は、１・７・９・18・20・21がカマド燃焼部、11・22が床面直上とほぼ床面、４がＰ５内、５が主柱穴Ｐ４内からそれぞれ出土し、他は覆土層内からの検出である。覆土検出の12・13・17の赤彩土器は19号住居跡と共伴遺物であろうか。

19号住居跡（第44・46図、図版９・75）
位置　中央調査区西側。J11・K11。　**複合切り合い関係**　18住にプラン南東側半分を大きく掘り込まれる。　**平面形**　胴張りする方形。　**主軸方位**　Ｎ－55°－Ｅ？　**床面規模**　4.88ｍ（主軸）×4.75ｍ（推定副軸）。　**推定床面積**　22.79㎡。　**残存壁高**　0.25～0.33ｍ。　**カマド**　18住に削平され、僅かに左袖の存在を伺わせる粘土を検出。　**床面**　ほぼ平坦で硬く踏みしめられている。
壁溝　幅10～13㎝前後・深さ７～９㎝。　**覆土**　詳細不明。
出土遺物　１は肉厚の甕口縁で、口頸部に指頭圧痕を残す球胴甕であろう。２は赤彩の杯身模倣杯。３・４は赤彩の椀形杯で、３は口径10㎝以下である。４は手捏ね土器、５は径2.7㎝の土玉である。出土位置は、１の甕が床面直上から出土し、それ以外は覆土中からの出土であるが本住居跡に伴う遺物であろう。これ以外に本住居跡の帰属を示す遺物として、18号住居跡覆土出土の12・13・17の土器も考えられる。

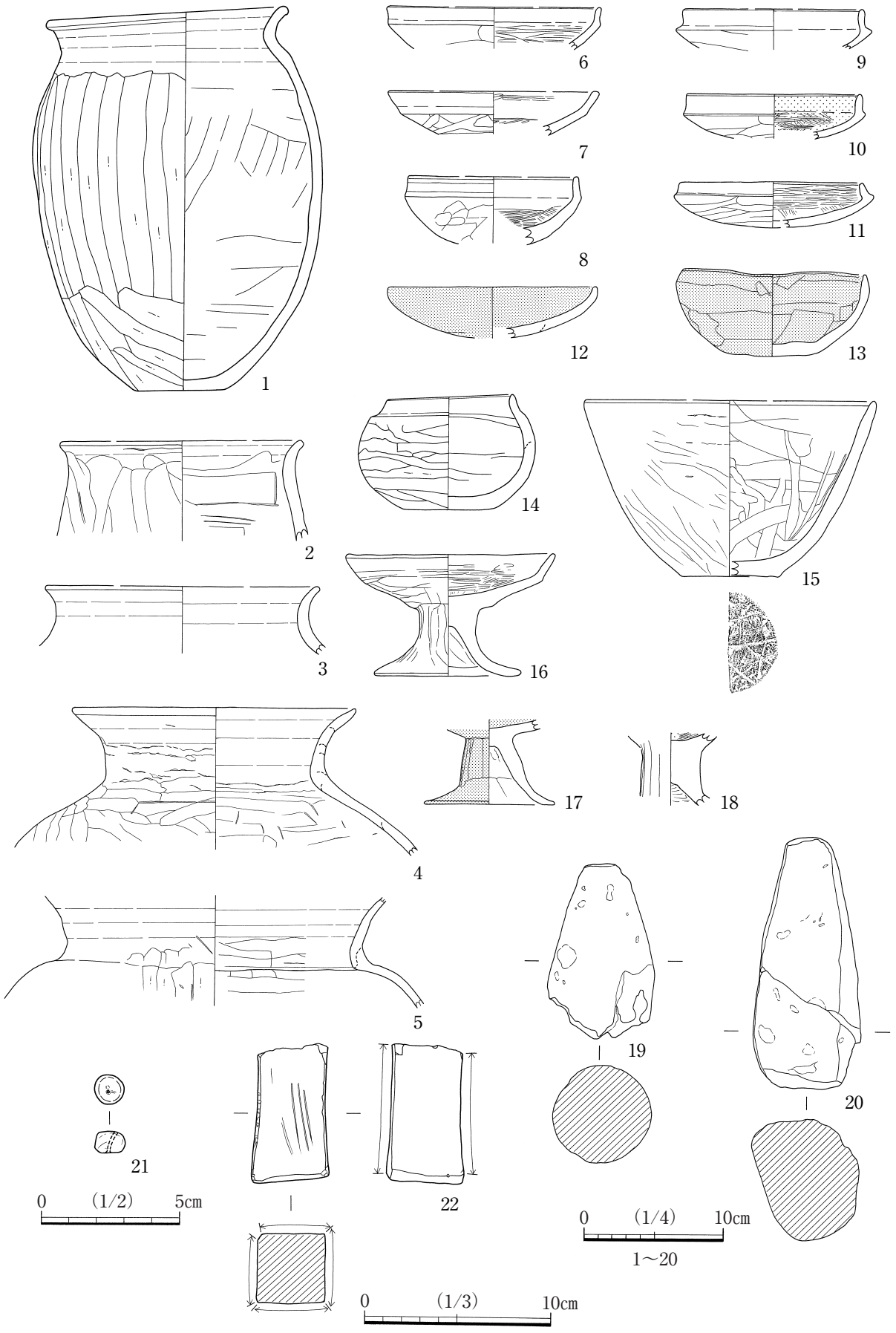




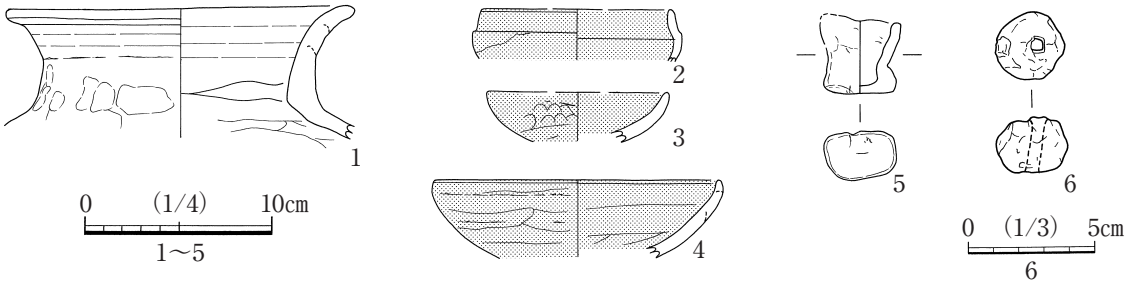
《18号住居跡カマド土層》

1　粘土層が主体で暗褐色土が全体に少量入る。
2　暗褐色土層。暗く、粘土を少量含む。
3　暗褐色土層。粘土とのブロック。
4　焼土層。少し暗く軟質。
5　暗赤褐色土層。焼土粒を多く含む。粘土粒と灰及び黒色土粒を含む。
6　黒色土層。軟質。焼土粒（3㎜以下）を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒と焼土粒（2㎜以下）を含む。
8　暗褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
9　暗褐色土層。粘土粒（3㎜以下）を含む。
10　暗褐色土層。粘土粒（3㎜）を多く含む。
11　粘土層が主体で硬質の暗褐色土を含む。
12　暗褐色粘土層と焼土粒を含む。
13　暗灰褐色土層。灰が主体で焼土粒（3㎜以下）を含む。
14　暗褐色土層。ローム粒を含む。
15　暗褐色土層。硬質のロームブロックを含む。
16　黒褐色土層。粘土粒とローム粒を多く含む。
17　暗褐色土層。ローム粒、粘土粒、焼土粒を多く含む。
18　暗褐色土層。粘土を全体に含む。焼土粒を多く含む。

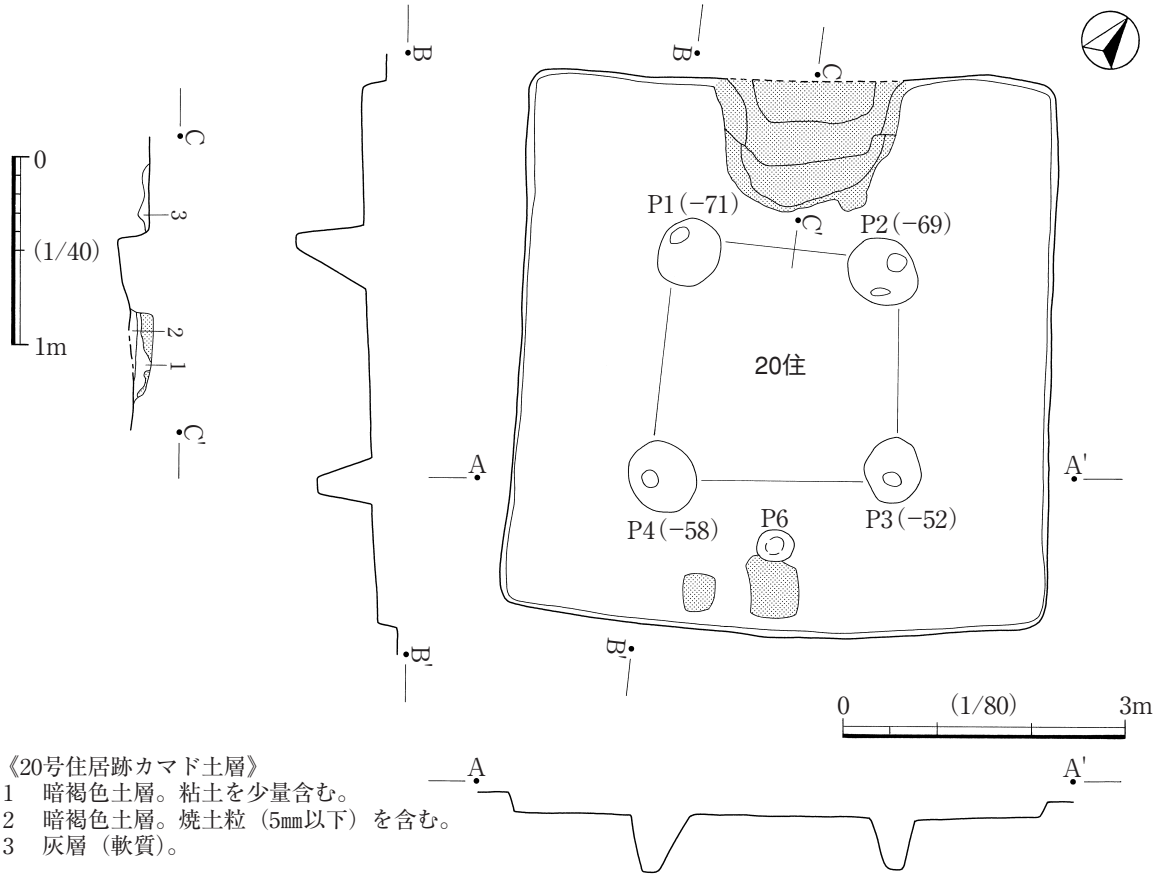
第44図　18号・19号住居跡とカマド



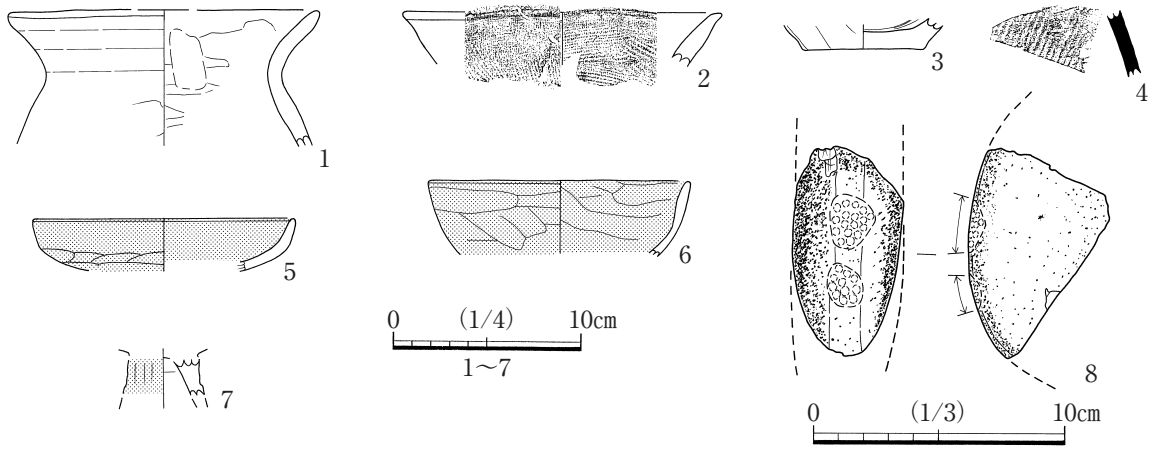
第45図　18号住居跡出土遺物



第46図　19号住居跡出土遺物



《20号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土粒（5㎜以下）を含む。
3　灰層（軟質）。



第47図　20号住居跡と出土遺物

20号住居跡（第47図、図版９・76）

位置　中央調査区北西端。J11。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－37°－W。　床面規模　5.70m（主軸）×5.52m（副軸）。　床面積　31.66㎡。　残存壁高　0.20～0.26m。　カマド　北西辺のほぼ中央に構築されるが詳細不明。　床面　張床で堅く踏みしめられ比較的平坦である。　壁溝　検出されない。　覆土　詳細不明。

出土遺物　１・２は甕で、２の甕小片の内外面に刷毛目を残す。５・６は赤彩の椀形杯と看取され、５は浅く、６は深い。７は赤彩の高杯脚片。７は敲打石の一部である。全ての遺物が覆土層中の出土で、直接竪穴住居跡の帰属を示す遺物かは特定できない。

21号住居跡（第48・49図、図版９・76）

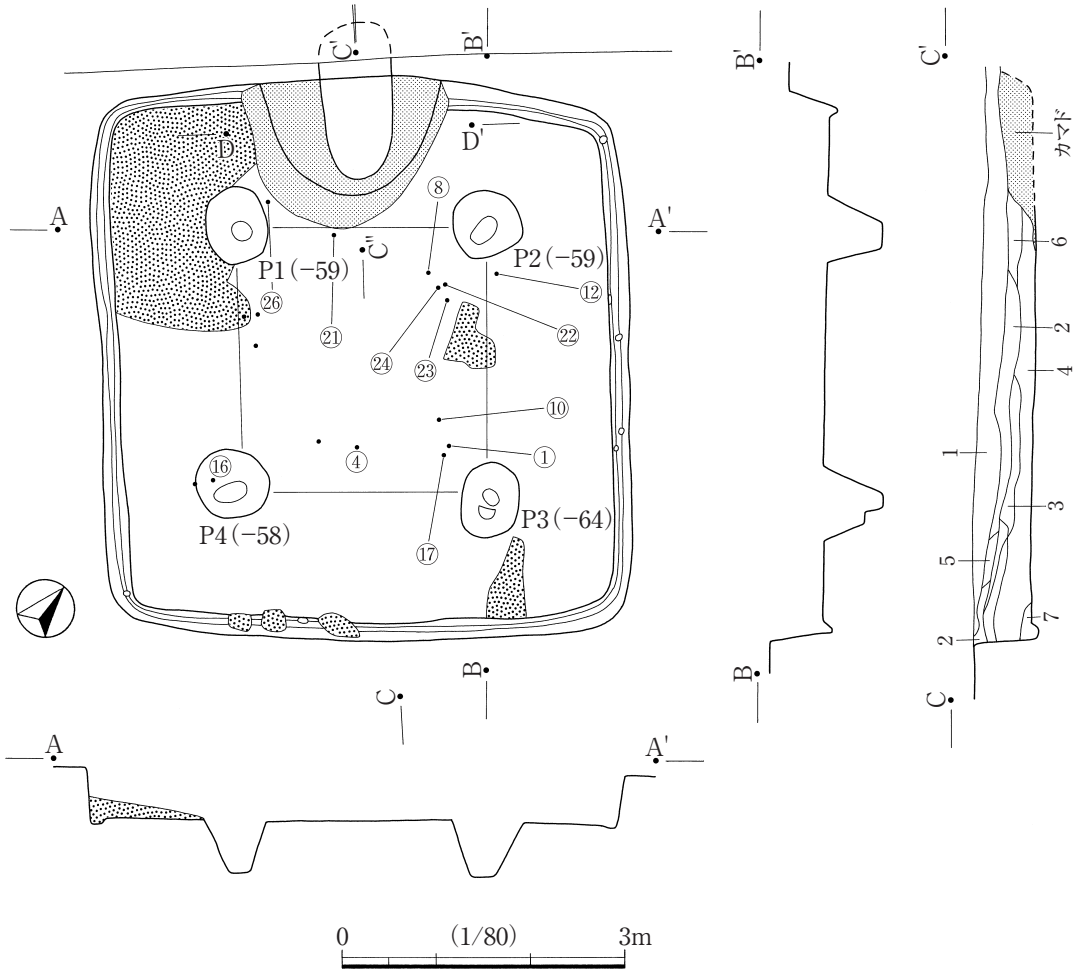
位置　中央調査区北西端。J10・J11・K10・K11。　複合切り合い関係　単独で検出するが北西辺が調査区域外と接する。　平面形　隅丸方形気味で北西辺がカマドを頂点に胴張りする。　主軸方位　N－40°－W。　床面規模　5.60m（主軸）×5.44m（副軸）。　床面積　30.04㎡。　残存壁高　0.43～0.51m。　カマド　北西辺のほぼ中央に構築され、中央に攪乱受ける。　床面　ハードローム層中に張床され､ほぼ平坦で堅く踏みしめられている。　壁溝　幅10～15cm・深さ５～８cmで四周する。　覆土　床面直上に焼土が堆積する。また、覆土中位には白色粘土やロームブロック混じりの層位が記録され、火災住居跡で埋め戻された状況を呈する。

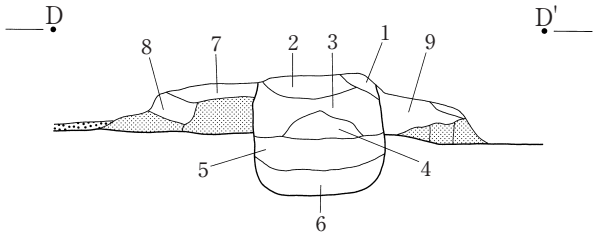
出土遺物　１は須恵器短頸壺で焼成も良好で、胎土微密の優品である。２・３は須恵器甕小片。４・５は甕で、４は外面ナデ状箆ケズリ、５は箆ナデを施す。６・７は無頸の鉢形甕で、６はケズリ状箆ナデ、７は箆ケズリを施す。８・９は大型の球胴甕で、８は外面ケズリ状箆ナデ、９は箆ケズリを施す。10・11は杯蓋模倣杯、10は口縁が大きく外反し、11は内面漆塗りを施す。12は皿状の椀形状で内面には丁寧なミガキを施す。13・14は半球状の杯で、14は内面黒色処理を施す。15は口縁外面と内面に赤彩を施し口唇内面には凹状の条線を有する比企型杯である。16～20は杯身模倣杯で、17・18内面黒色処理を施す。21～23は高杯脚で、22は赤彩を施す。24は内面黒色処理の内湾鉢。25は小形鉢ないしコップ形か？26は支脚断片。27は土玉。遺物出土位置は、１・８・10・12・16・17・21・23・24が床面などから出土し、本住居跡に共伴する資料と言える。また、覆土層検出の22の赤彩高杯以外の土器も同等であろう。

22号住居跡（第50～52図、図版９・77・78）

位置　中央調査区中央。L12。　複合切り合い関係　プラン北東部を23・24住に掘り込まれ検出。　平面形　隅丸方形。　主軸方位　N－66.5°－E？　床面規模　4.40m（主軸）×4.40m（副軸）。　推定床面積　19.12㎡。　残存壁高　0.31～0.44m。　カマド　北東辺に設けられたものと思われるが23住により削平される。また、時期から炉跡の可能性もあり詳細不明である。　床面　ハードローム層中に形成され、中央部でやや凹凸が目立つが壁よりは平坦で堅く踏みしめられている。　壁溝　幅10cm前後・深さ10cm前後で四周するものと思われる。　覆土　北東隅と北西隅に貝層を形成する。

出土遺物　１は須恵器甕で口縁端部を摘み上下に摘み出し、口縁直下にシャープな１条の突帯を有する。２は推定口縁径27.4cmの大形の土師器球胴甕で口唇部はシャープな「コ」の字状を呈する。４～

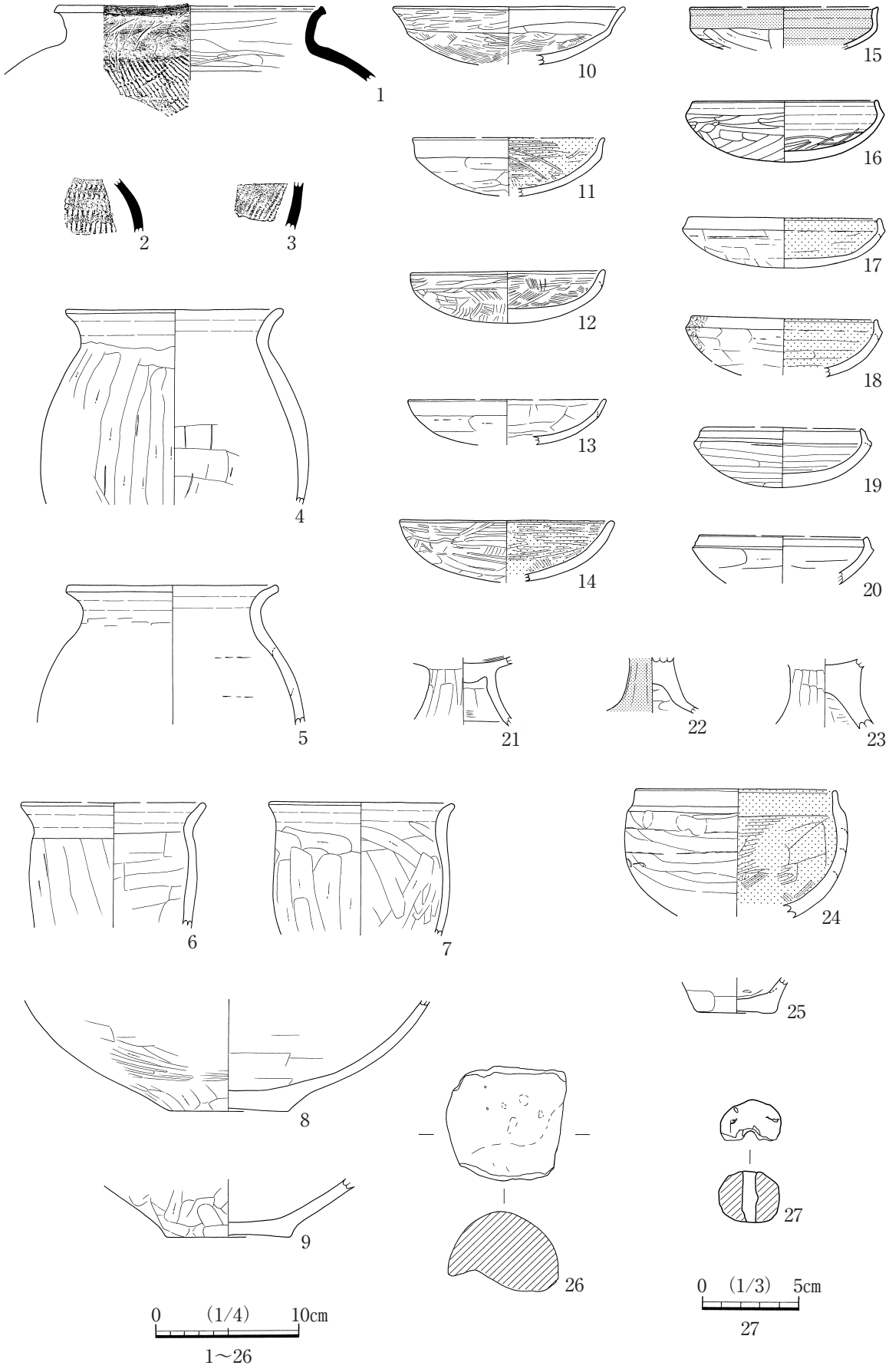




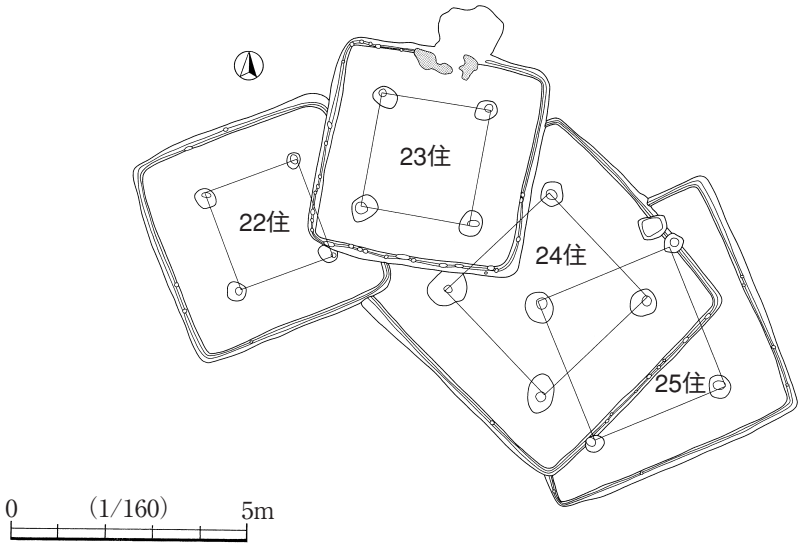
《21号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
2　暗褐色土層。粘土を多量に含む。
3　暗黒褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。
5　暗黒褐色土層。大ロームブロックを含む。
6　黒褐色土層。粘土粒を含む。
7　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。

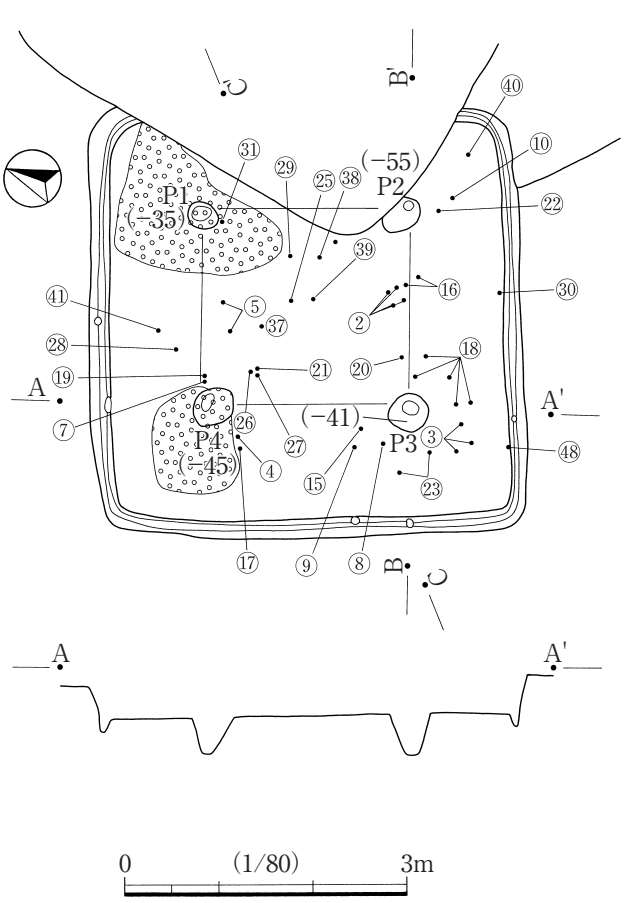
《21号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。ぼろぼろの粘土塊を含む。
2　黒褐色土層。ローム土塊を混入。
3　暗褐色土層。粘土粒を混入。
4　暗褐色土層。
5　黒褐色土層。柔らかく僅かに粘土粒を含む。
6　暗茶褐色土層。ローム土塊。
7　暗褐色土層。硬質粘土を含む。
8　暗褐色土層。硬質粘土を僅かに含む。
9　暗褐色土層。粘土粒とローム粒を含む。
10　暗褐色土層。粘土粒を含む。
11　暗黒褐色土層。ローム粒を含む。
12　暗褐色土層。柔らかいローム土塊を含む。
13　暗茶褐色土層。ローム土塊に柔らかな粘土塊を含む。

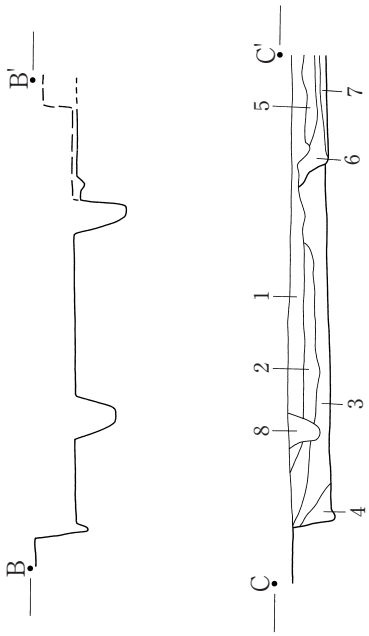
第48図　21号住居跡とカマド



第49図　21号住居跡出土遺物

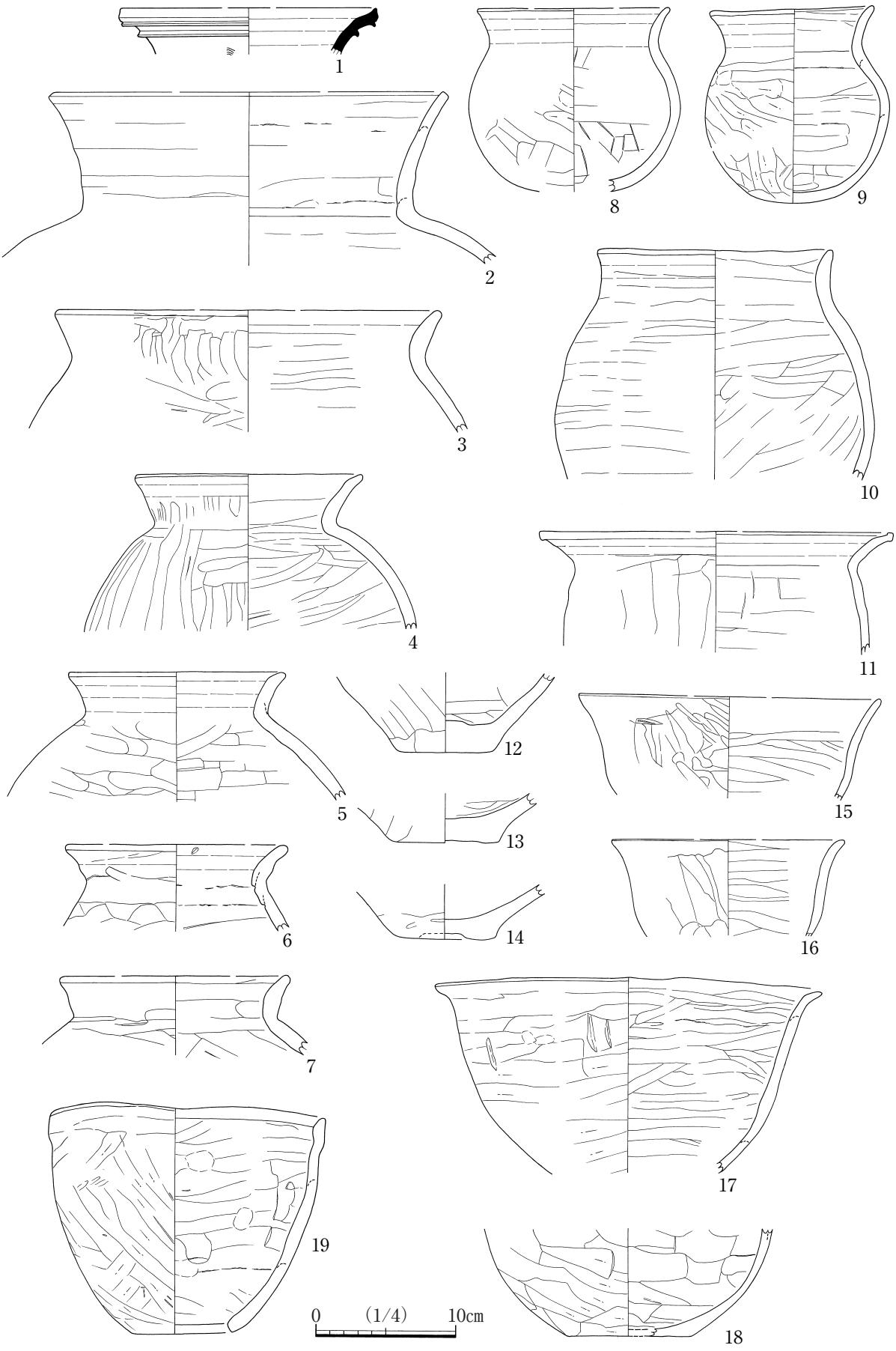




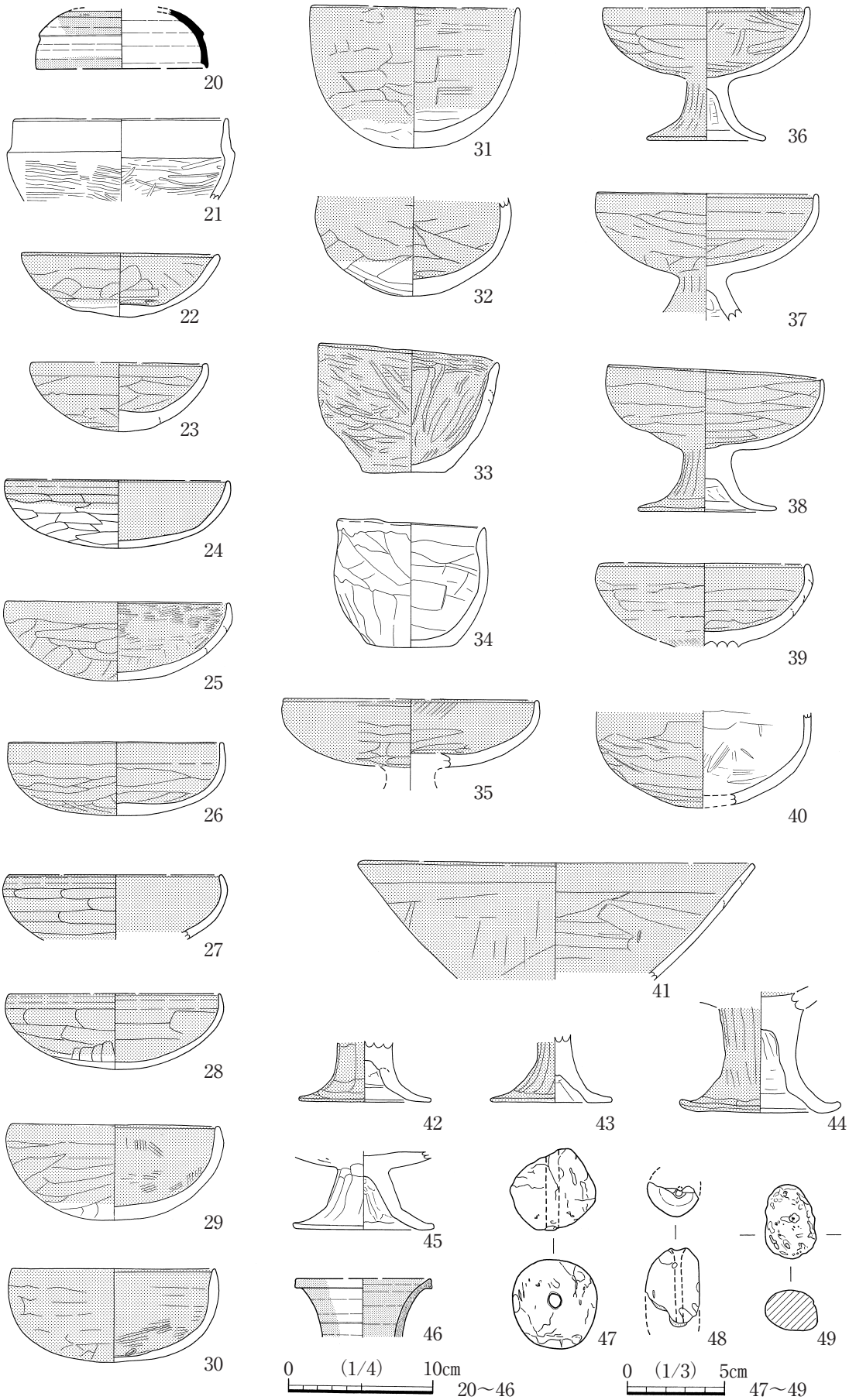


《22号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。粘土ブロックを含む。
3　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黄褐色土層。ローム粒を含む。
5　暗褐色土層。大ロームブロックを混入。
6　暗褐色土層。ローム粒を含む。
7　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
8　茶褐色土層。

第50図　22号住居跡



第51図　22号住居跡出土遺物（1）



第52図　22号住居跡出土遺物（2）

7は球胴甕で胴外面ケズリ状の篦ナデ。8・9は口縁部がやや長く外反する小形の丸底甕で、8は外面斜位のケズリ状篦ナデ、9は不規則な篦ケズリを消し去るミガキを施す。10は口縁が直立気味で外面横位の篦ナデ。11は口縁が大きく外反気味に開き、口唇部を僅かに上方に摘み出す無頸気味の甕。15～17は鉢形甕ないし甑であろう。19は鉢形甑。20は須恵器蓋で天井部外面に僅かに降灰を被り、口縁内面に鋭い稜を有す。21は大形模倣杯で内外面にミガキを施す。22～33・35～41は赤彩土器。24～30が椀形杯、31・32が丸底の椀。33・34は平底の鉢で34は無彩である。35～39は椀形高杯、41は杯部が鉢状で大きく開く。40は内面に赤彩が無く坩形土器の胴下半であろう。42～44は赤彩高杯の脚で44は長脚の大形品である。45は無彩の高杯。46は灰釉長頸壺口頸部で内外面に釉を被る。47は径4.5cm前後の土玉。48はやや長い土錘状の土玉か？49は軽石である。遺物出土位置は、2・22～27・29・35～37が床面直上、4・5・17・28・30・32・39・40がほぼ床面、11・13・15・31・33・34・42が住居内覆土貝層中から出土し、1・2の須恵器を含めた他の遺物は覆土層内から検出する。本住居跡共伴遺物は、床面直上やほぼ床面出土の遺物の他に、覆土中の1の須恵器甕や3・4・10・17・18・19の甕類、23・24・28・30の赤彩椀形杯、32の赤彩椀、35・38・39の赤彩高杯、40の赤彩坩、41の赤彩大形高杯が当てられよう。8・9の丸底甕は23号住居跡の混入遺物の可能性も含め共伴関係については不明である。11の無頸甕は23住からの混入遺物と理解できよう。45の無彩の高杯は24住からの混入遺物であろう。

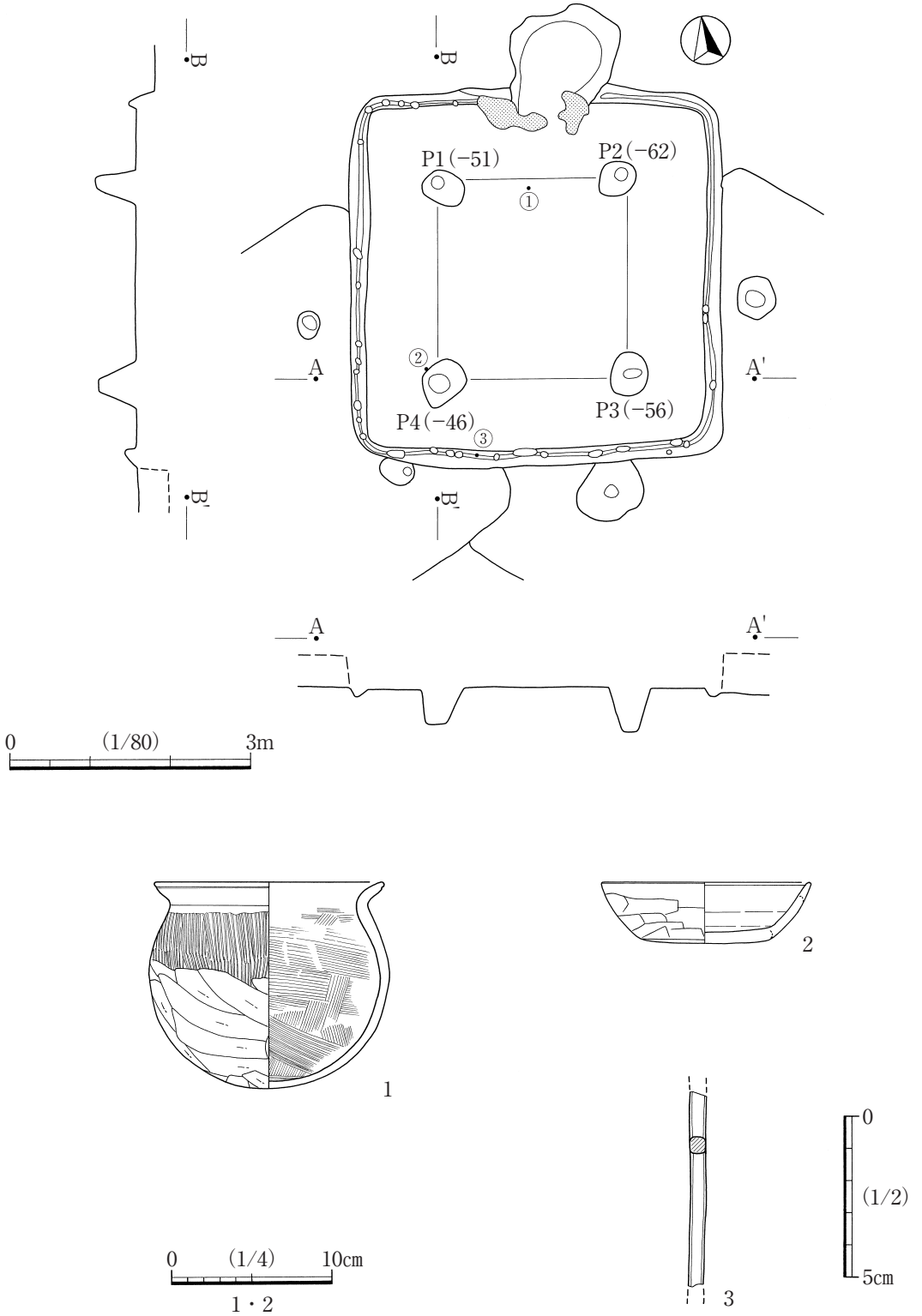
23号住居跡（第53図、図版9・10・78）

位置　中央調査区中央。L12・L13。　**複合切り合い関係**　西側で22住、東側で24住にそれぞれ掘り込んで検出。　**平面形**　隅丸方形。　**主軸方位**　N－11°－E。　**床面規模**　4.40m（主軸）×4.38m（副軸）。　**床面積**　19.07㎡。　**残存壁高**　0.21～0.25m。　**カマド**　北辺の中央に構築され、燃焼部が壁外に設けられる。　**床面**　ハードローム層中に形成され、比較的平坦で堅く踏みしめられている。しかし、主柱穴を結んだ北側床面以外は余り踏みしめられていない。　**壁溝**　幅15cm前後・深さ10cm前後を測り四周する。　**覆土**　詳細不明。

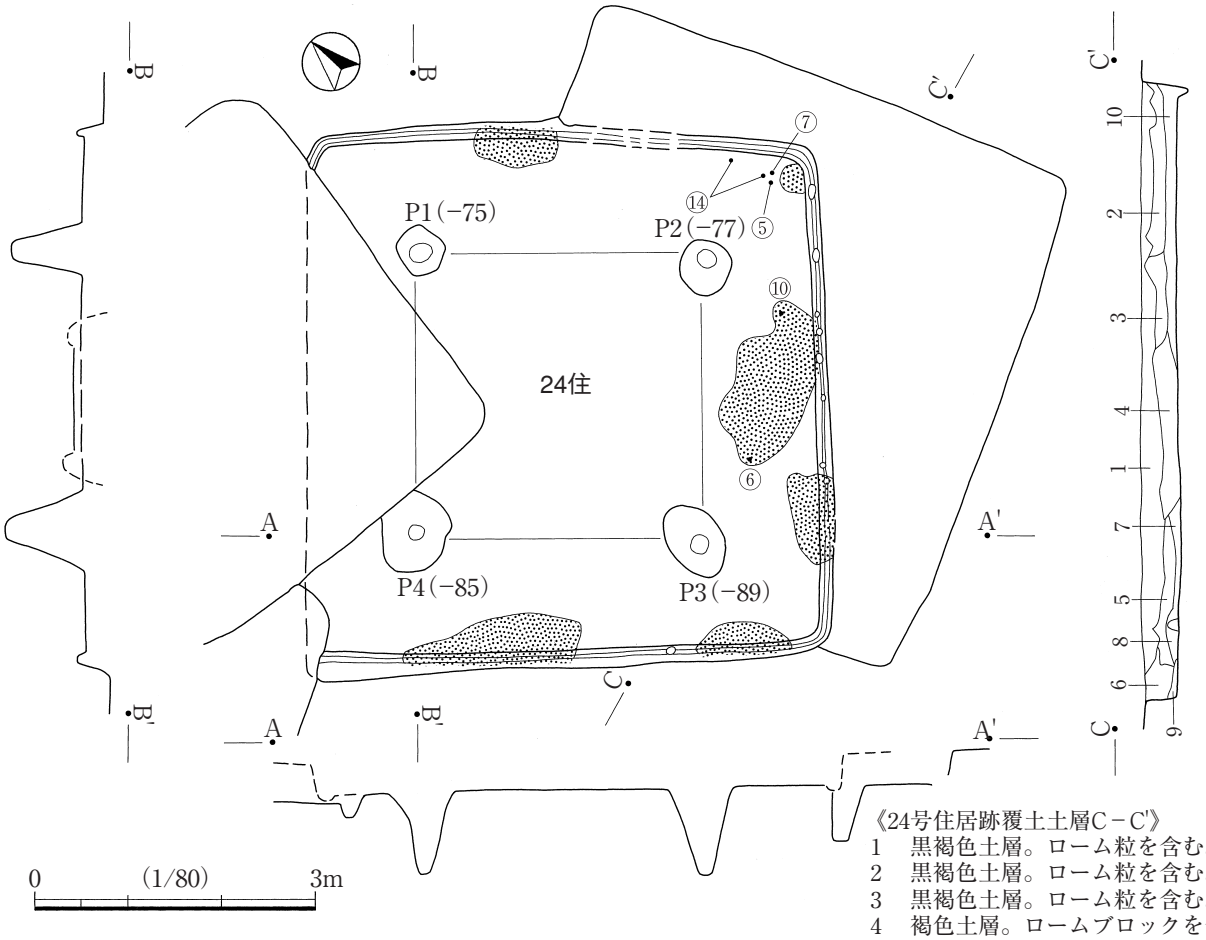
出土遺物　1はカマド前面の床面直上から出土した畿内産の甕で胴上半に縦位の刷毛目、下半は篦ケズリ、内面不規則な刷毛目整形による。畿内産でも山城地域特有の整形技法を備えている。2は上総地域の東京湾岸で普遍的に検出される当該期の非ロクロ土師器杯で底・体部とも手持ち篦ケズリを施し、内面の底と体部との境に明瞭な稜線を有する。同種の非ロクロ土師器杯には斜格子や螺旋状の暗文を有する土器も存在する。3は鉄鏃の茎か。本住居跡に帰属を示す資料には上記2点の他に、22住－11の土師器甕も考えられる。

24号住居跡（第54図、図版10・79）

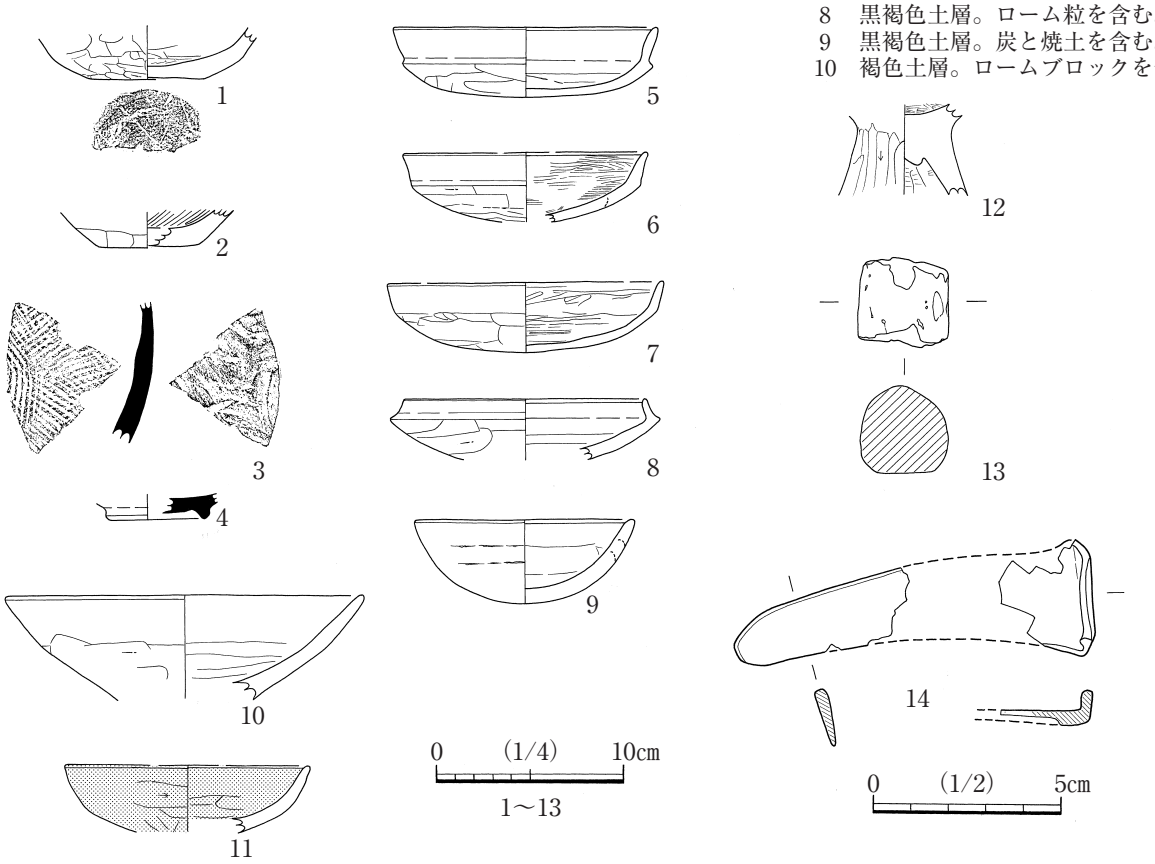
位置　中央調査区中央。L12・L13。　**複合切り合い関係**　プラン北西部を23住に掘り込まれ、東南側で25住を大きく掘り込む。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－45°－W？　**床面規模**　5.58m（主軸）×5.40m（副軸）。　**推定床面積**　29.61㎡。　**残存壁高**　0.13～0.40m。　**カマド**　北西辺に設けられたものであろうが23住に削平される。　**床面**　平坦であるがやや踏まれている程度である。　**壁溝**　幅13cm前後・深さ10cm前後で四周すると思われる。　**覆土**　部分的にローム土塊を含み



第53図　23号住居跡と出土遺物



《24号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。ローム粒を含む。
4　褐色土層。ローム粒を含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を含む。
6　褐色土層。ローム粒を含む。
7　褐色土層。ローム粒を含む。
8　黒褐色土層。ローム粒を含む。
9　黒褐色土層。炭と焼土を含む。
10　褐色土層。ローム粒を含む。

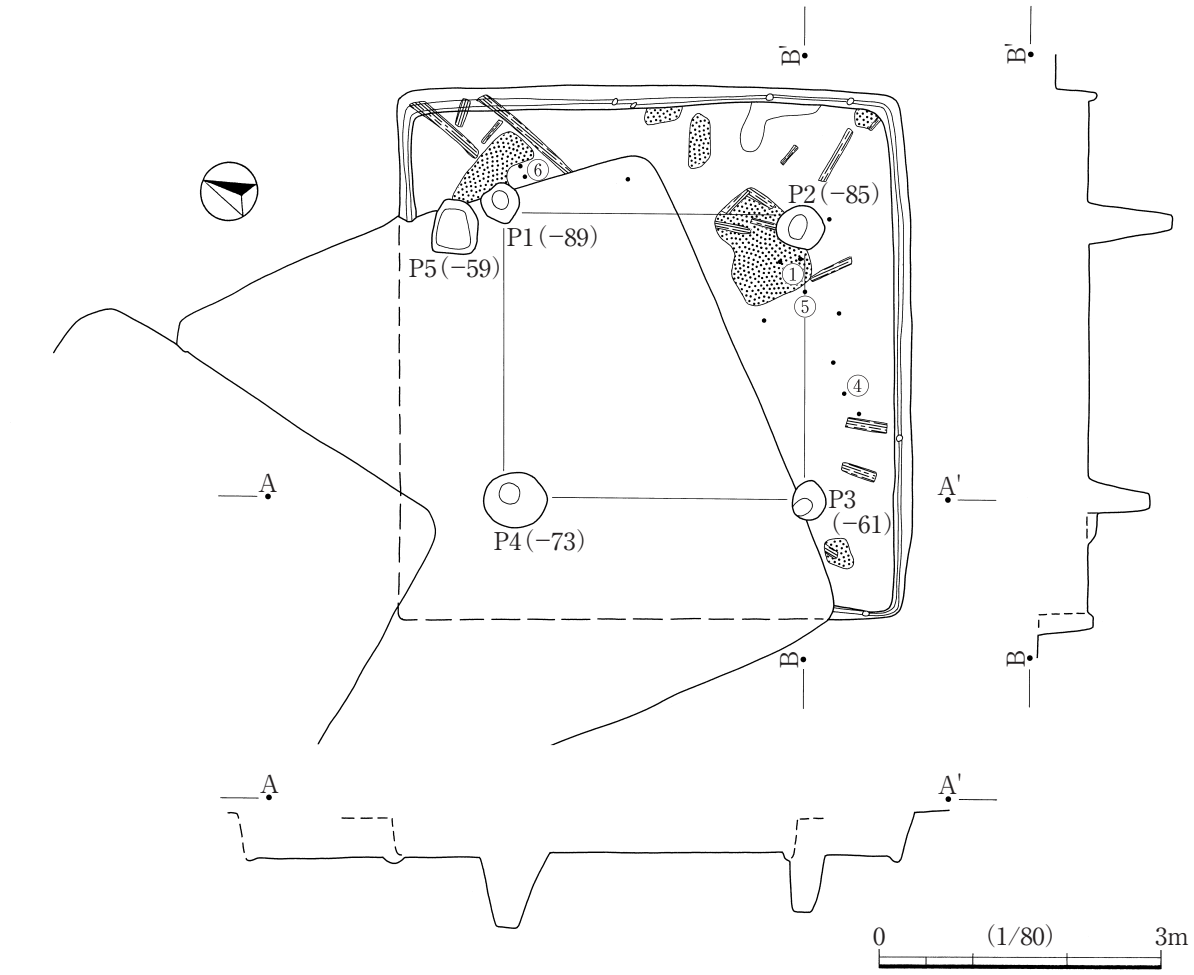


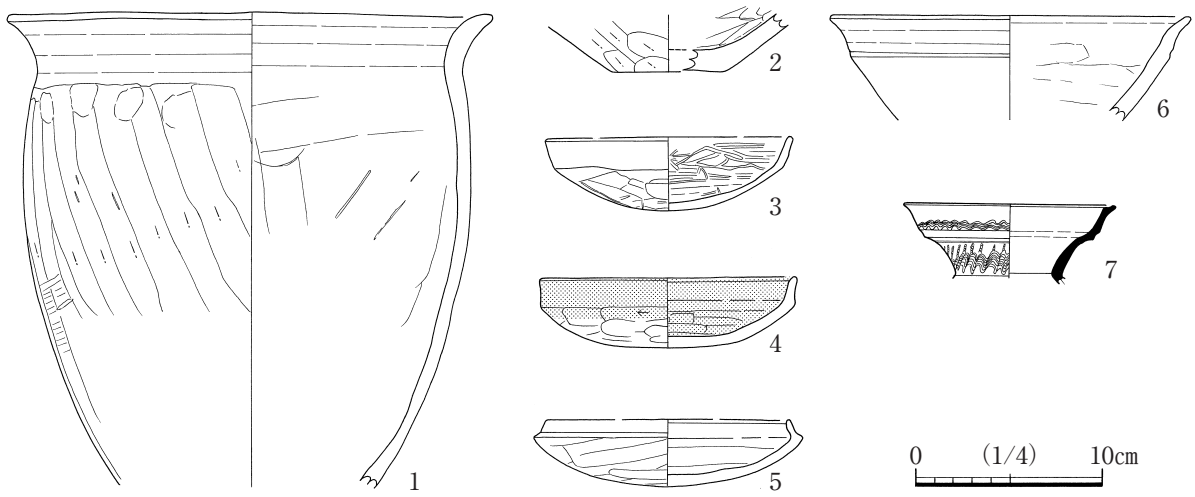
第54図　24号住居跡と出土遺物

埋め戻された状況を示し、また、床面には焼土が散在し火災住居である。
出土遺物　1・2は鉢底部か？3は須恵器甕片。4は灰釉椀で低い三角形の貼付高台を有する。5～7は杯蓋模倣杯で、5は稜を突出し、6は「く」の字、7の稜は鈍い「く」の字となる。8は杯身模倣杯。9は半円球状の小形椀形杯。10は杯部が大きく開く高杯である。11は赤彩椀形高杯であろう。12は杯内面ミガキを施す高杯。13は土製支脚片。14は鉄製鎌である。出土位置は、10が床面直上、5・7がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。住居跡共伴遺物は、5・7・10の他に覆土内の6・8・12の杯類も同様に扱えよう。

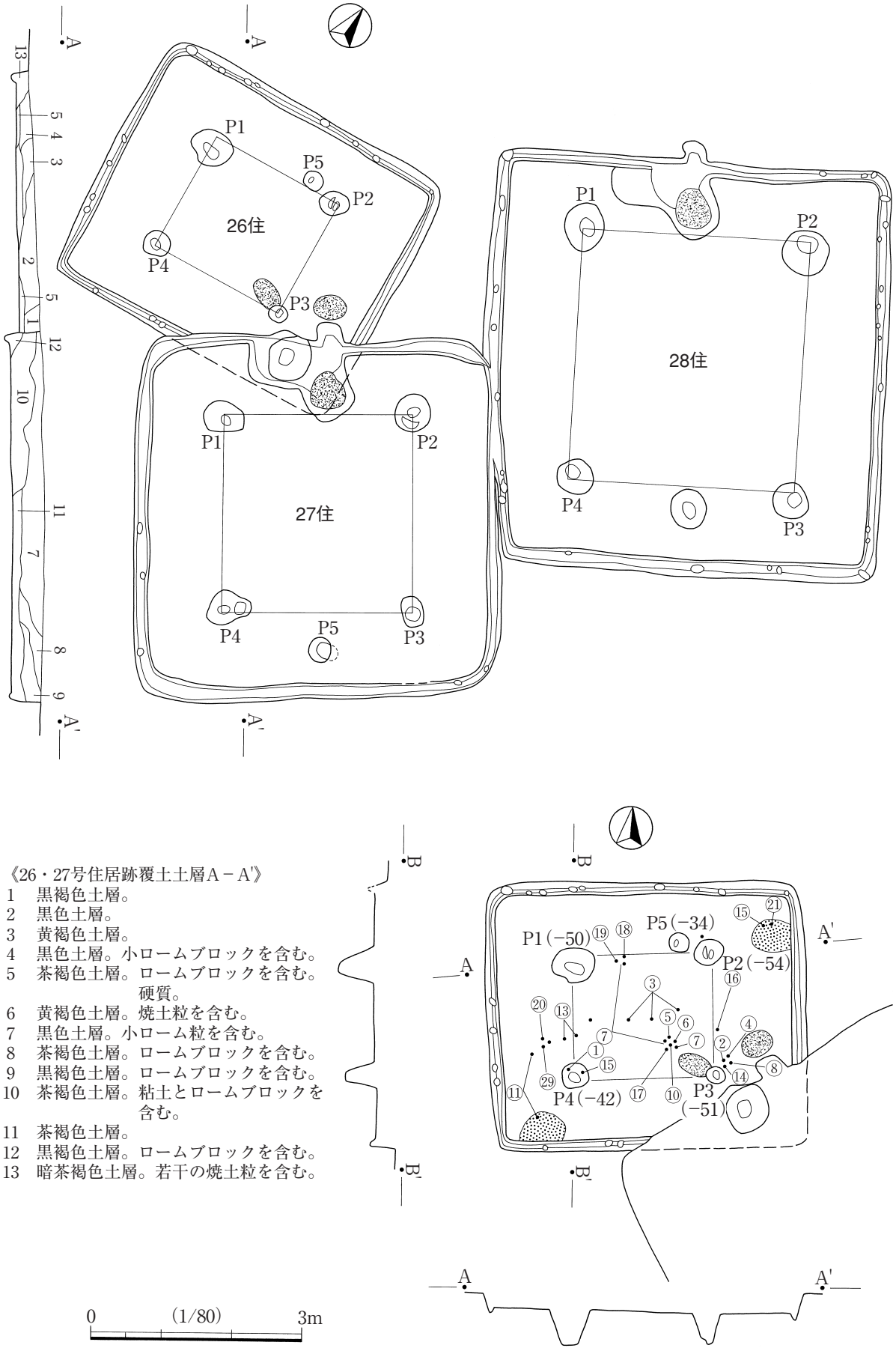
25号住居跡（第55図、図版10・79）
位置　中央調査区中央。L13。　**複合切り合い関係**　プラン北西側を24住に大きく掘り込まれ検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－23°－W？　**床面規模**　5.40m（主軸）×5.26m（副軸）。**推定床面積**　28.38㎡。　**残存壁高**　0.30～0.52m。　**カマド**　北西辺に設けられたものであろうが24住に削平される。　**床面**　平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10cm前後・深さ5cm前後で四周すると思われる。　**覆土**　床面直上に焼土や住居跡構築部材が炭化した状態で検出され火災住居である。
出土遺物　1は無頸部タイプの鉢形甕か甑で、外面縦位箆ケズリを施す。2は甕底部で、外面斜位の箆ケズリ、内面丁寧なナデを施す。3・4は杯蓋模倣杯で、3は内面光沢のあるミガキを施し、4の口縁外面と内面に赤彩を施す。5は杯身模倣杯で受部稜は突出する。6は鉢片で口縁内外面を強く摘み出すヨコナデによる。7は須恵器ハソウの口頸部で33住と接合して2分の1の遺存となる。TK23～TK47型式期と看取され、混入遺物である。1と5がほぼ床面から検出され、3・4も同様に考えてよかろう。

26号住居跡（第56・57図、図版10・80）
位置　中央調査区中央。K14・L14。　**複合切り合い関係**　南東隅を大きく27住に掘り込まれ検出。**平面形**　長方形。　**主軸方位**　N－87°－E？　**床面規模**　4.34m（主軸）×3.60m（副軸）。**床面積**　15.45㎡。　**残存壁高**　0.22～0.27m。　**カマド**　カマドは構築されず炉跡2カ所。　**床面**　ハードローム層を掘り込み15cmほど張床し、主柱穴間を結ぶ内側が堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅13cm前後・深さ8cm前後で四周すると思われる。　**覆土**　床面直上に焼土の集中地点が2カ所検出され火災住居跡の可能性があり、土層にロームブッロックを含み埋め戻された状況を呈する。
出土遺物　1は頸部外面にミガキ状の箆ナデを施す球胴甕。2は外面に強い箆ナデを施す小形甕。3は口縁内面刷毛目消し去るヨコナデ、胴外面ケズリ状箆ナデを施す。5の口縁内外面刷毛目残すヨコナデを施す。6は口縁の短い直口壺形を呈し、外面ミガキ状の箆ナデを施す。7～15は赤彩の椀形杯である。口縁は7～14が内湾し、15が内湾気味で開く。16は赤彩椀形高杯脚。17は大形の赤彩高杯脚で裾部径17.5cm前後を計る。18～22は赤彩椀や鉢である。25～28は土玉である。遺物出土位置は、1～8・10・11・13・14・16～20・23がほぼ床面、15・21が主柱穴のP4内から出土し、他の遺物は覆土から検出する。図示した全ての遺物が本住居に伴うものと判断できよう。覆土出土の土玉4点も同様に考えて良く、住居跡内祭祀が行われた事を物語るものであろう。



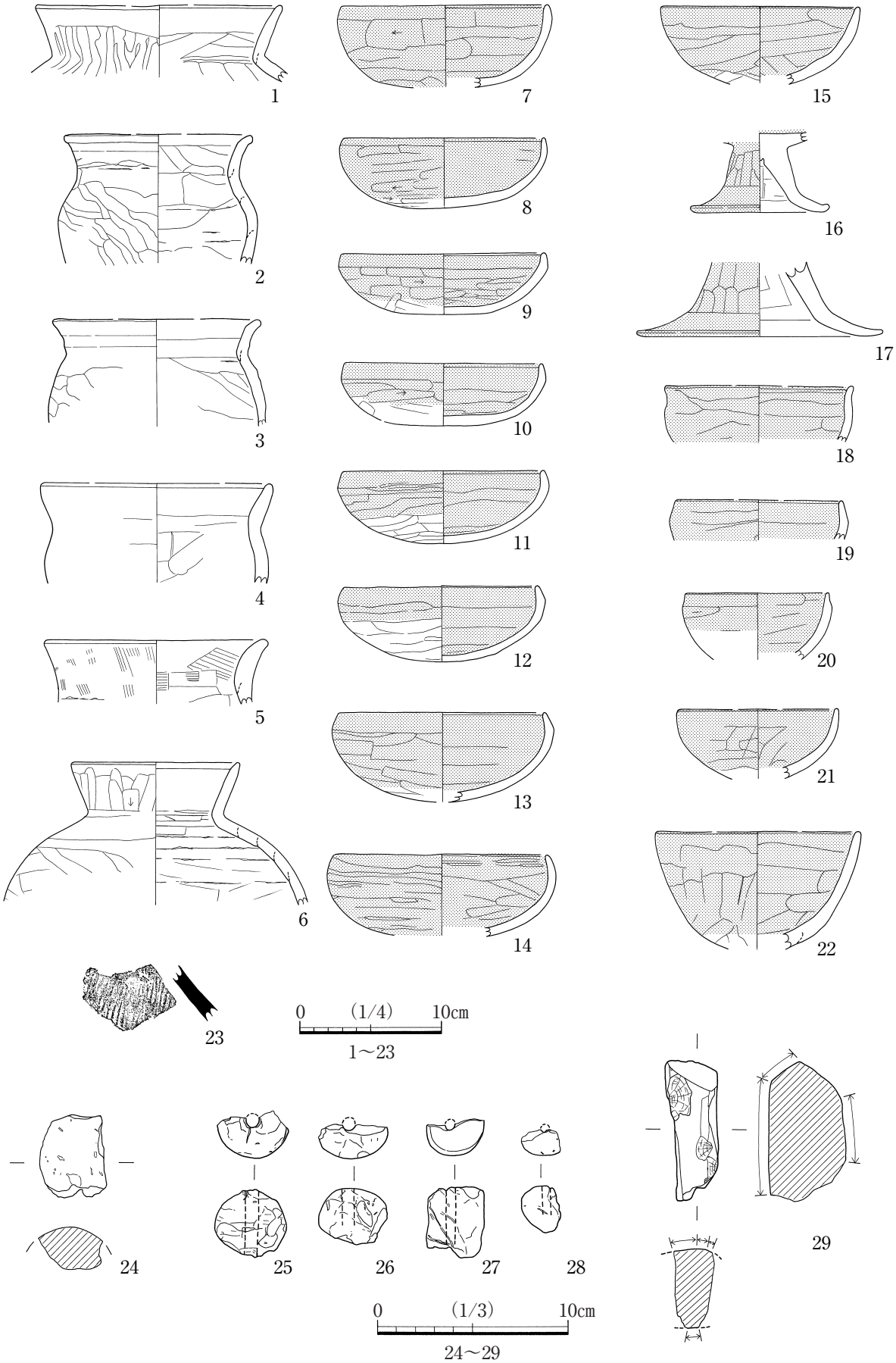


第55図　25号住居跡と出土遺物



《26・27号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　黒色土層。
3　黄褐色土層。
4　黒色土層。小ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックを含む。硬質。
6　黄褐色土層。焼土粒を含む。
7　黒色土層。小ローム粒を含む。
8　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
9　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
10　茶褐色土層。粘土とロームブロックを含む。
11　茶褐色土層。
12　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
13　暗茶褐色土層。若干の焼土粒を含む。

第56図　26号住居跡



第57図　26号住居跡出土遺物

27号住居跡（第58図、図版79）

位置　中央調査区中央。K14・L14。　複合切り合い関係　北西辺で26住、北東辺で28住をそれぞれ掘り込んで検出する。　平面形　隅丸方形。　主軸方位　N－36°－W。　床面規模　5.06m（主軸）×5.12m（副軸）。　床面積　25.20㎡。　残存壁高　0.43～0.50m。　カマド　北西辺の中央に構築される。　床面　張床で平坦で堅く踏みしめられている。　壁溝　幅15～17cm・深さ6～12cmで四周すると思われる。　覆土　床上に焼土の集中地点1カ所検出され火災住居跡の可能性がある。

出土遺物　1は外面篦ナデ状のミガキを施す中胴甕。2は口縁僅かに外傾気味の鉢形の甕。3は須恵器杯身でTK209型式期に比定できよう。4・5は杯蓋模倣杯で内面にミガキを施す。6は赤彩の椀形杯。7は小形の半円球状の椀。8・9は須恵器甕類の小片。10は鍬形の石器であろうか。遺物出土位置は、1・4・7・8がカマド燃焼部、2・10がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。7の赤彩土器は、26住の混入遺物であろう。

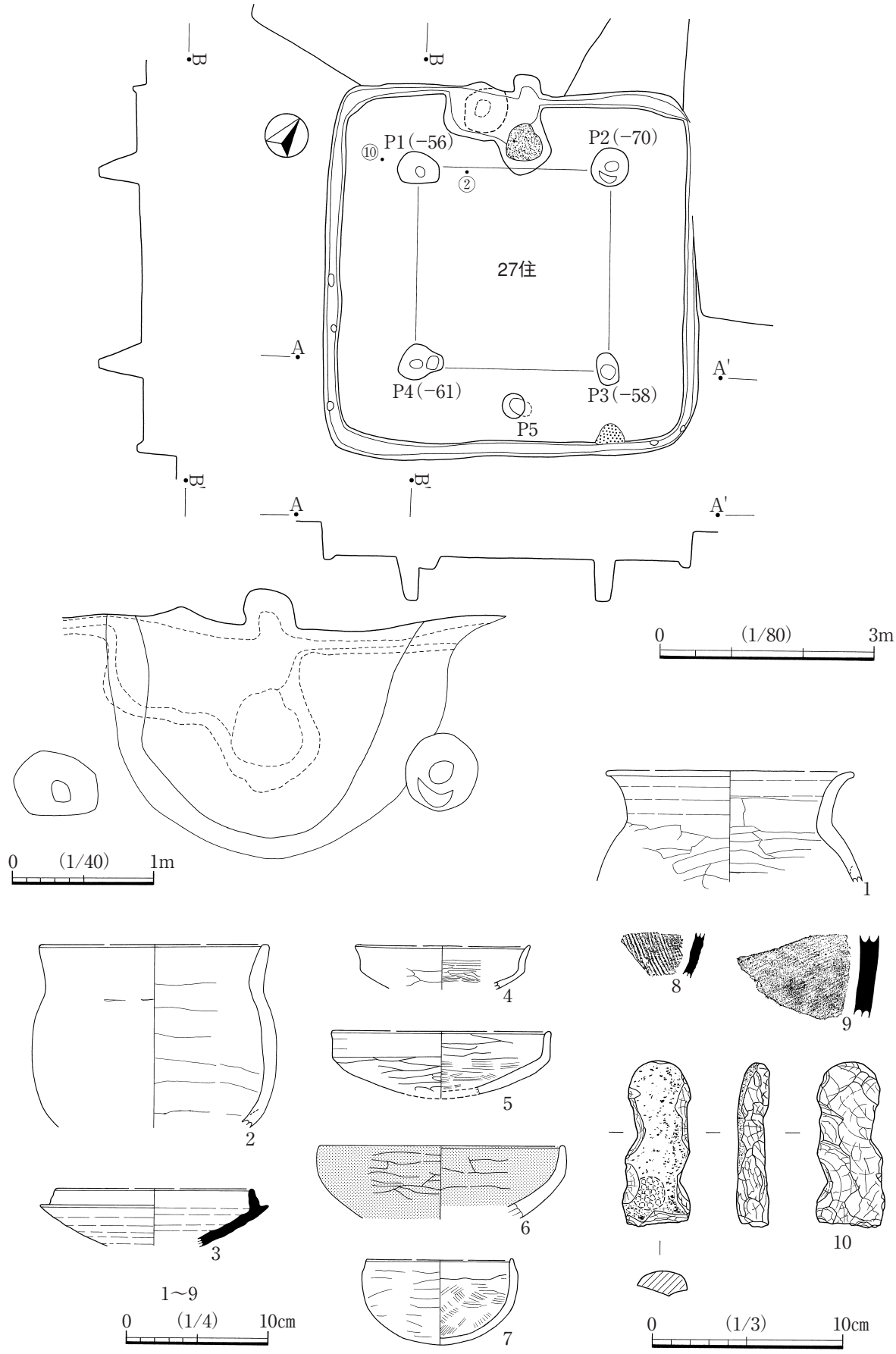
28号住居跡（第59・60図、図版10・81）

位置　中央調査区北東側。K14・K15。　複合切り合い関係　南西辺の南半分を27住に僅かに掘り込まれ検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－36°－W。　床面規模　5.68m（主軸）×5.56m（副軸）。　床面積　30.91㎡。　残存壁高　0.26～0.45m。　カマド　北西辺の中央に構築される。　床面　ハードローム層中に構築され平坦で堅緻である。　壁溝　幅12～15cm・深さ7cm前後で四周する。　覆土　壁よりの床面直上に多量の焼土が検出され、また、覆土にはロームブッロックを多量に含み、火災住居跡を埋め戻した状況が明らかである。但し、床面直上やカマド周辺から遺存度の良い遺物の出土が無く、住居跡廃棄後に火災にあったものと思われる。

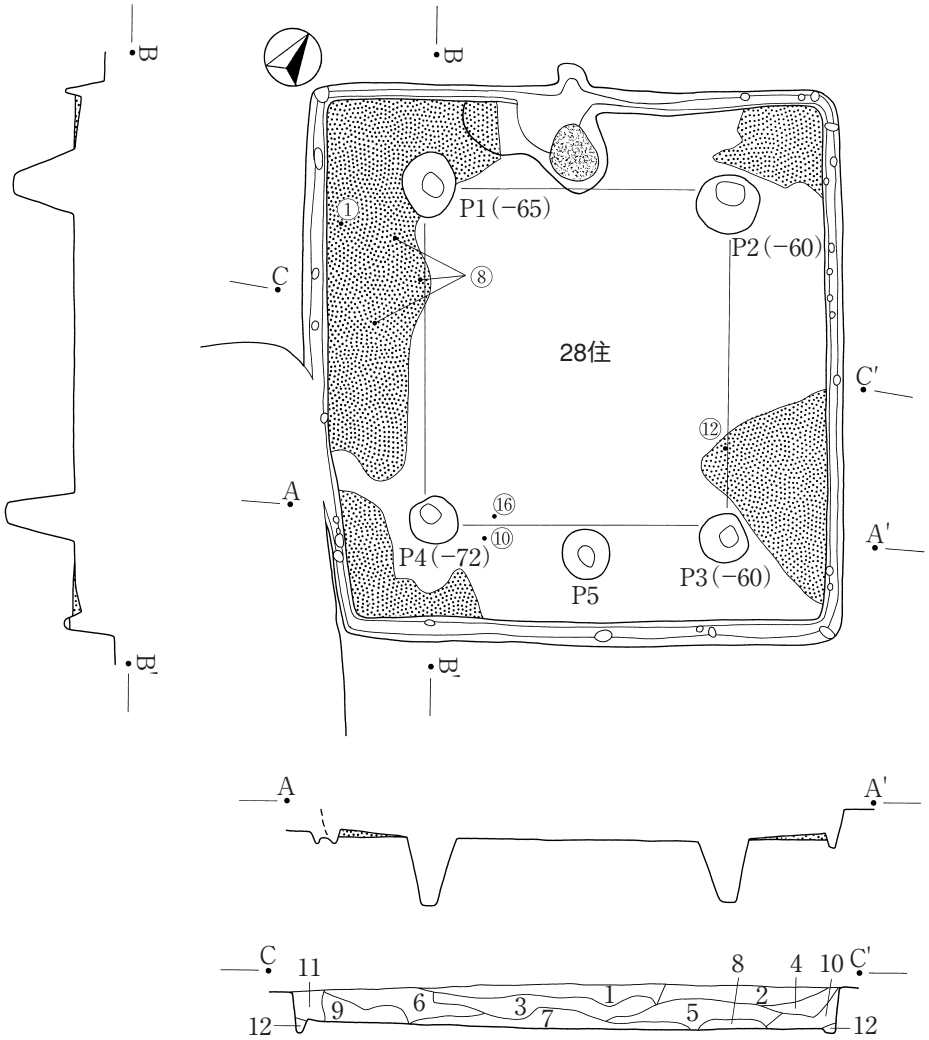
出土遺物　1は口縁内外面シャープなヨコナデで長く大きく外反し、胴外面篦ケズリを施す土師器大形甕。2は1より口縁が短いものの長く開く中胴甕で、胴外面縦位篦ケズリを施す。3～7は甕小片で、3が球胴甕、4～6が中胴甕、7は鉢形甕。8は球胴甕の胴下半で外面斜位篦ケズリを施す。10・11は須恵器杯身でMT85～TK43型式期に比定できようか。12は赤彩の杯蓋模倣杯。13・14は赤彩の杯身模倣杯。15は無彩である。16は赤彩の浅い椀形杯。17は赤彩の椀形杯。18は内面ミガキを施す。19のやや大振りの鉢口縁片の内外面に微かに赤彩を残し、外面ミガキ状篦ナデを施す。20・21は須恵器甕片。22・23は径3.4～3.7cmを計る土玉。遺物出土位置は、1が床面直上、2～7がカマド燃焼部、8がほぼ床面、10～23は覆土からの出土である。時期は、覆土層中から出土した10・11の須恵器杯身がMT85～TK43型式期であることから6世紀中葉～後葉の年代観が与えられ住居跡の帰属時期を示す資料となろう。

29号住居跡（第61・62図、図版10・81・82）

位置　中央調査区北東端。J15・K15。　複合切り合い関係　北隅を調査区域外に置き、南東辺で30住と31住と僅かに壁を接する。　平面形　方形。　主軸方位　N－32°－W。　床面規模　6.58m（主軸）×7.14m（副軸）。　推定床面積　47.07㎡。　残存壁高　0.25～0.38m前後。　カマド　北西辺の中央に構築される。　床面　中央にやや凹凸が目立つものの相対的に平坦で堅く踏みしめられている。　壁溝　幅8～10cm・深さ10cm前後で北西辺以外は廻る。　覆土　詳細不明。



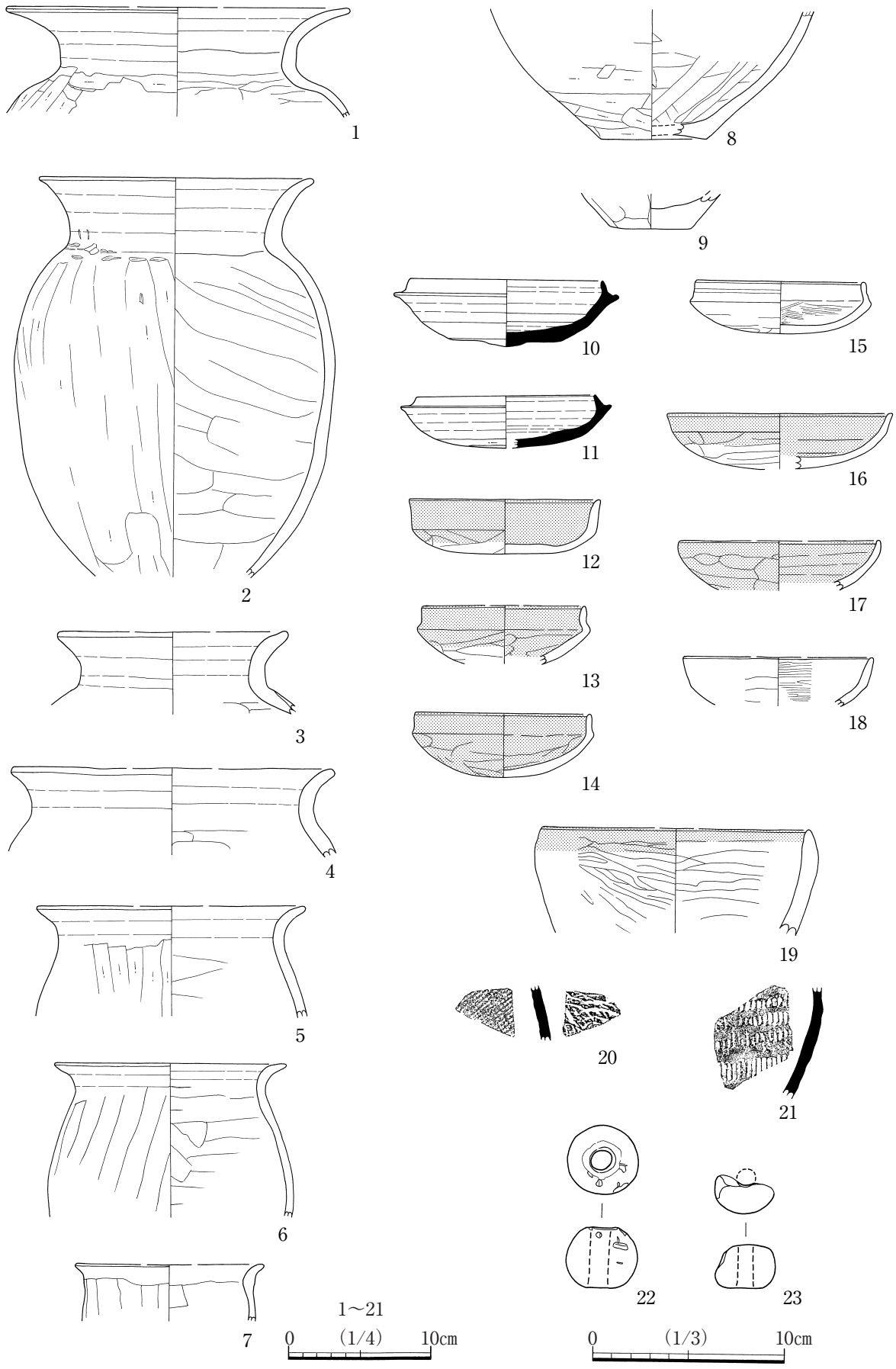
第58図　27号住居跡と出土遺跡



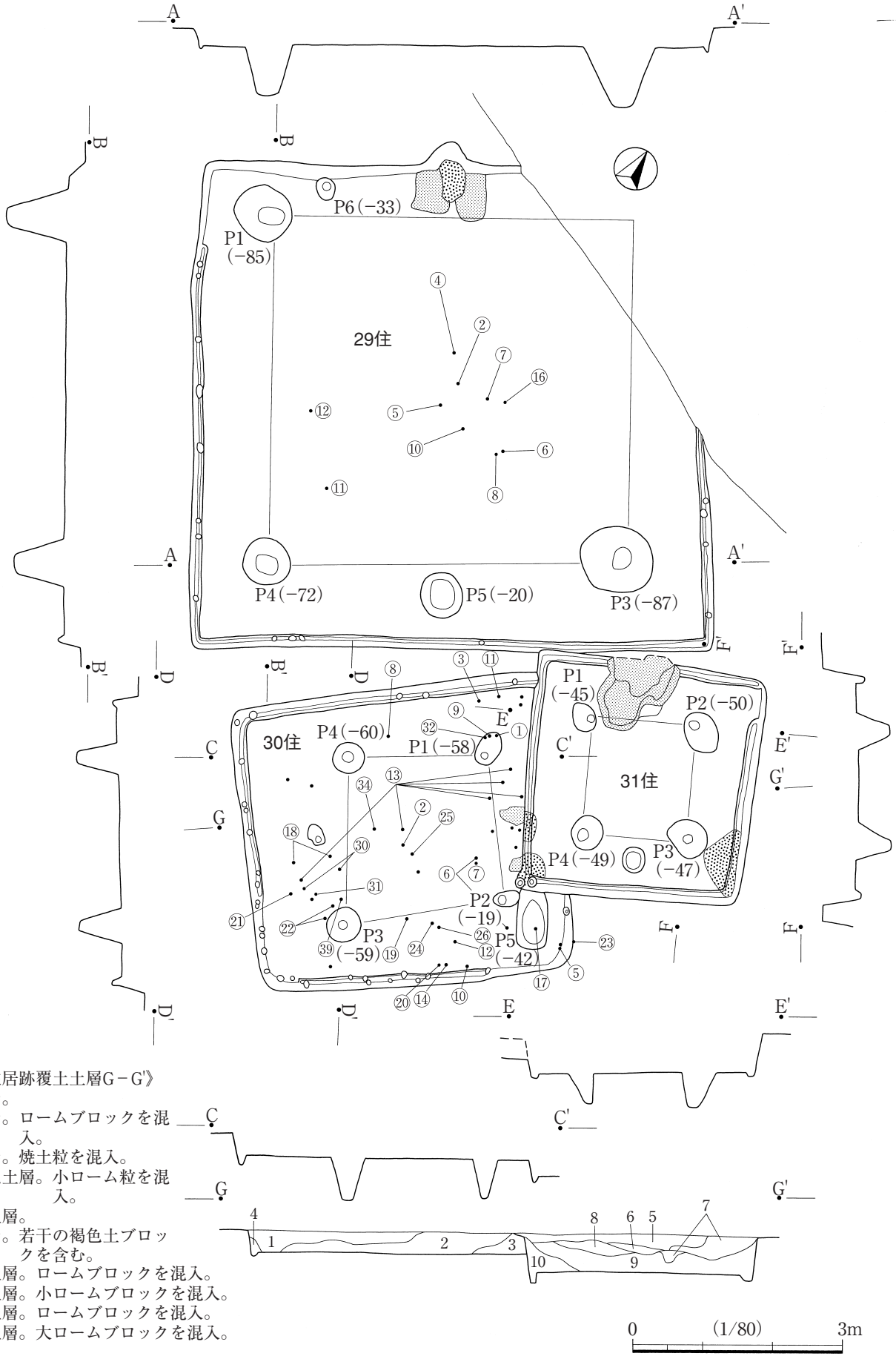
0　(1/80)　3m

《28号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
2　茶褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒色土層。ロームブロックを含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。第4層に似る。
6　茶褐色土層。粘土粒とローム土粒を含む。
7　茶褐色土層。粘土粒とロームブロックを含む。
8　茶褐色土層。第2層に似る。
9　黒褐色土層。第1層に似る。
10　黒褐色土層。
11　茶褐色土層。
12　褐色土層。ロームブロックを多く含む。少し軟質。

第59図　28号住居跡



第60図　28号住居跡出土遺物



《30・31号住居跡覆土土層G－G'》

1　黒色土層。
2　黒色土層。ロームブロックを混入。
3　黒色土層。焼土粒を混入。
4　暗茶褐色土層。小ローム粒を混入。
5　茶褐色土層。
6　黒色土層。若干の褐色土ブロックを含む。
7　茶褐色土層。ロームブロックを混入。
8　黒褐色土層。小ロームブロックを混入。
9　黄褐色土層。ロームブロックを混入。
10　茶褐色土層。大ロームブロックを混入。

第61図　29号・30号・31号住居跡

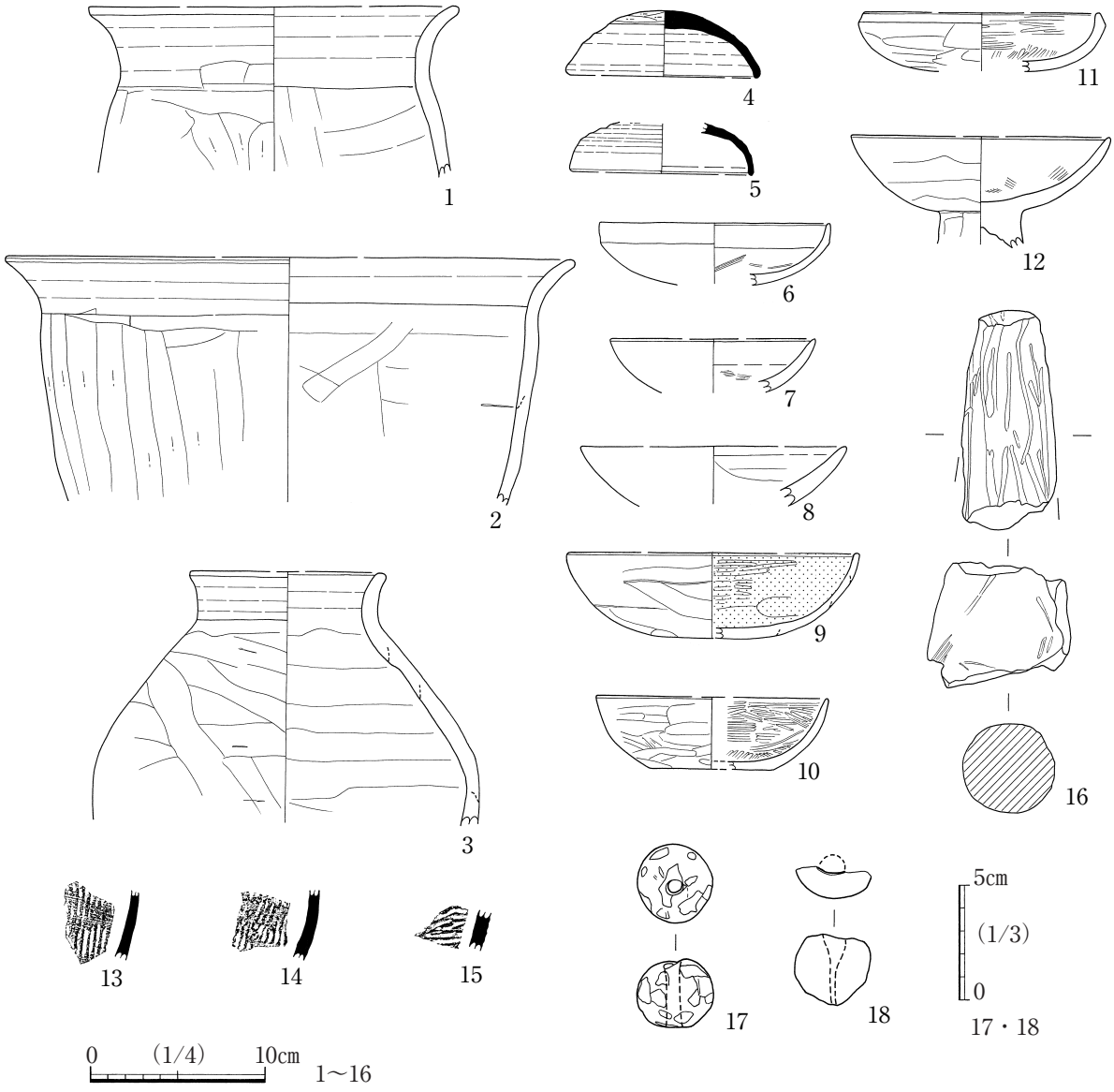
出土遺物　1は外面篦ケズリの長胴系甕。2は無頸の甑で、外面縦位篦ケズリを施す。3は口縁が短く立つ壺形の甕で、外面斜位の不規則な篦ケズリを施す。4・5は半円球状を呈し、器高がやや低いことから須恵器杯蓋でTK217型式でも新相を呈する。6は杯蓋模倣杯。7～9は大きさが異なるが丸底の杯で9は内面内黒ミガキ。10は内外面ミガキの平底の杯。11は杯身模倣杯。12は杯内面ミガキの高杯。13～15は須恵器甕の小片。17・18は土玉で径3.0～3.3cmを計る。出土遺物は、小片が多いが、1・9がカマド燃焼部、2・4～8・10～12・16がほぼ床面から出土し、3・13・17・18が覆土からの検出である。

30号住居跡（第61・63～65図、図版11・82・83）

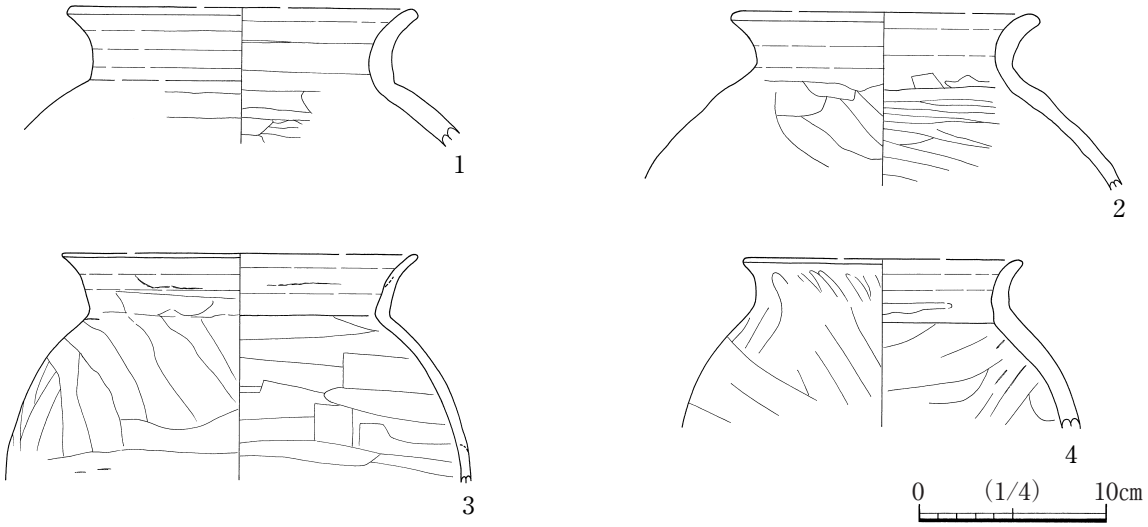
位置　中央調査区北東端。K15。　複合切り合い関係　　北東辺を31住に大きく掘り込まれ検出。
平面形　方形。　主軸方位　N－51°－E。　床面規模　4.48m（主軸）×4.04m（副軸）。　推定床面積　17.87㎡。　残存壁高　0.22～0.32m。　カマド　北東辺に袖部の一部が検出されるが大部分を31住に削平されている。　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で且つ堅緻である。
壁溝　幅8～10cm・深さ2～9cmでほぼ廻る。　覆土　床面直上の覆土にロームブロックを含む土層が確認できる。
出土遺物　1は肉厚で外面丁寧な篦ナデの球胴甕。2～4も同様な外面斜位の篦ナデの球胴甕。5は口縁が短く外反し、肩が直線的に下向する外面ナデ状の篦ケズリ甕。6は口縁が短く外反する外面篦ナデ状の篦ケズリを施す近球胴甕。7・8は口縁が直立気味の小型球胴甕。9は口縁内面ミガキ。10は口縁外面に僅かに赤彩痕跡を残す短頸の球胴系甕。11・12は鉢形の甕か甑？13は胴部扁平で柱状気味の底部を有する球胴甕。14～20は突出する底部。22～24は甕底部。21は底部と胴部は直接接合しないものの同一個体で、胴外面に線刻が意識的に刻まれている。25～29は内面赤彩の椀形杯である。30・31は赤彩の椀形高杯。32は椀形杯であるが赤彩は施されないものと判断できる。34は肉厚で平底気味の内外面ミガキを施す鉢。35は内面黒色処理の半円球状の小形杯。37・38は径3.8cm程の土玉。39は敲打痕を残す叩き石である。遺物出土位置は、1・2・3・6～9・25・30・39が床面直上、11～13・19・24・26がほぼ床面、15・33・35がカマド燃焼部から出土し、他は覆土からの検出である。33～35は7世紀代後葉の遺物で29住からの混入遺物であろう。

31号住居跡（第61・66図、図版11・84）

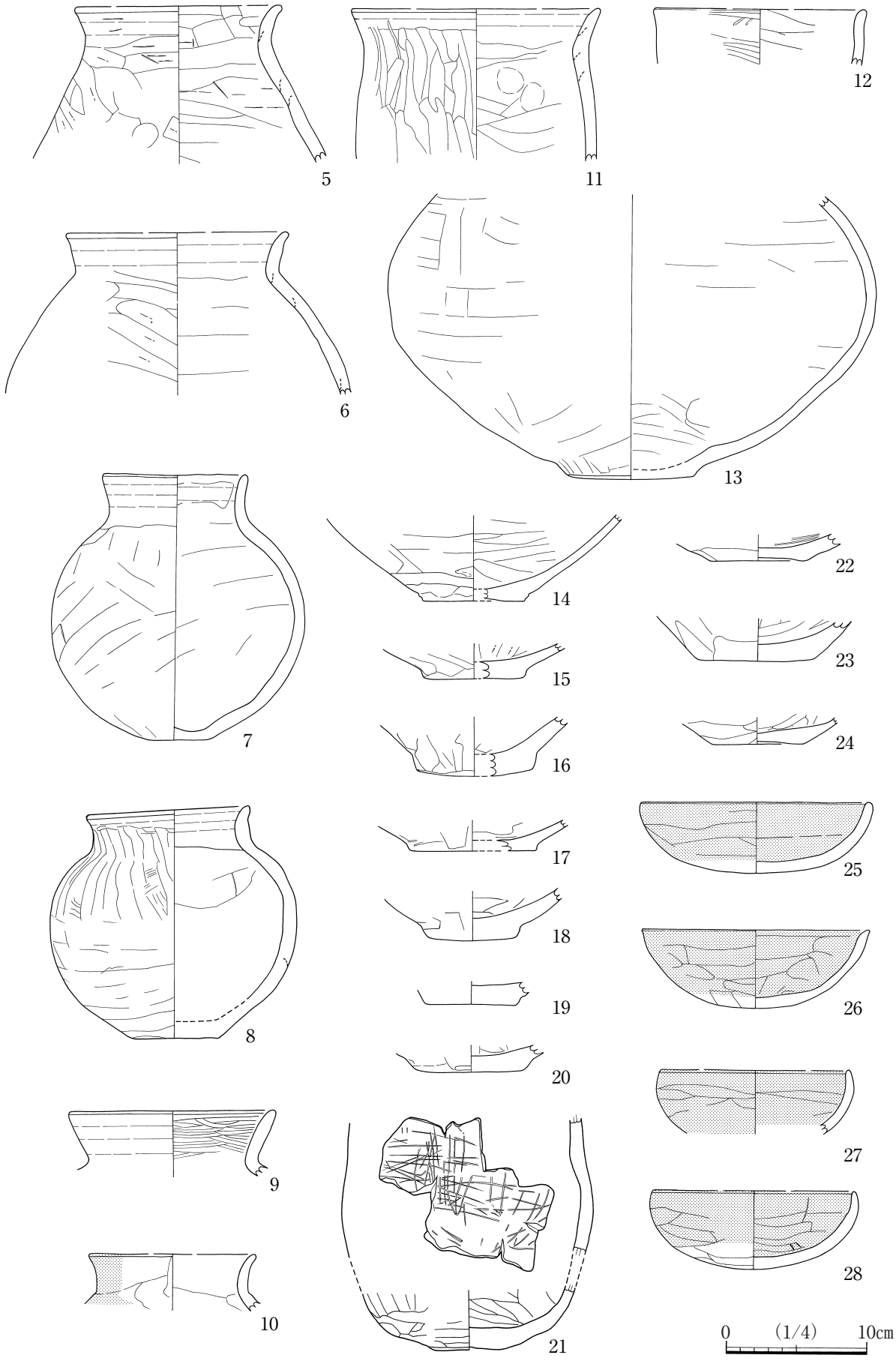
位置　中央調査区北東端。K15・K15。　複合切り合い関係　　南西辺で30住を掘り込んで検出。
平面形　方形。　主軸方位　N－26°－W。　床面規模　3.20m（主軸）×3.10m（副軸）。　床面積　9.94㎡。　残存壁高　0.47～0.51m。　カマド　北西辺に中央。　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で且つ堅緻である。　壁溝　幅10～13cm・深さ5～10cmでほぼ廻る。　覆土　床面直上や覆土下層中に焼土を多量に含む。また、覆土にロームブロックを含み火災住居が埋め戻された状況を呈する。
出土遺物　1～3は外面縦位篦ケズリの胴長甕。4は甕底部。5は須恵器胴甕片。6は土師器甕肩部の小片で破片右端に2条の細い線刻がある。7は杯蓋模倣杯。8は杯身模倣杯。10は土製支脚。11は一方の端部を欠損し径1.2cm・長さ3.3cm・孔径0.25cmを計測する。此は、棒状の土錘とは明らかに形



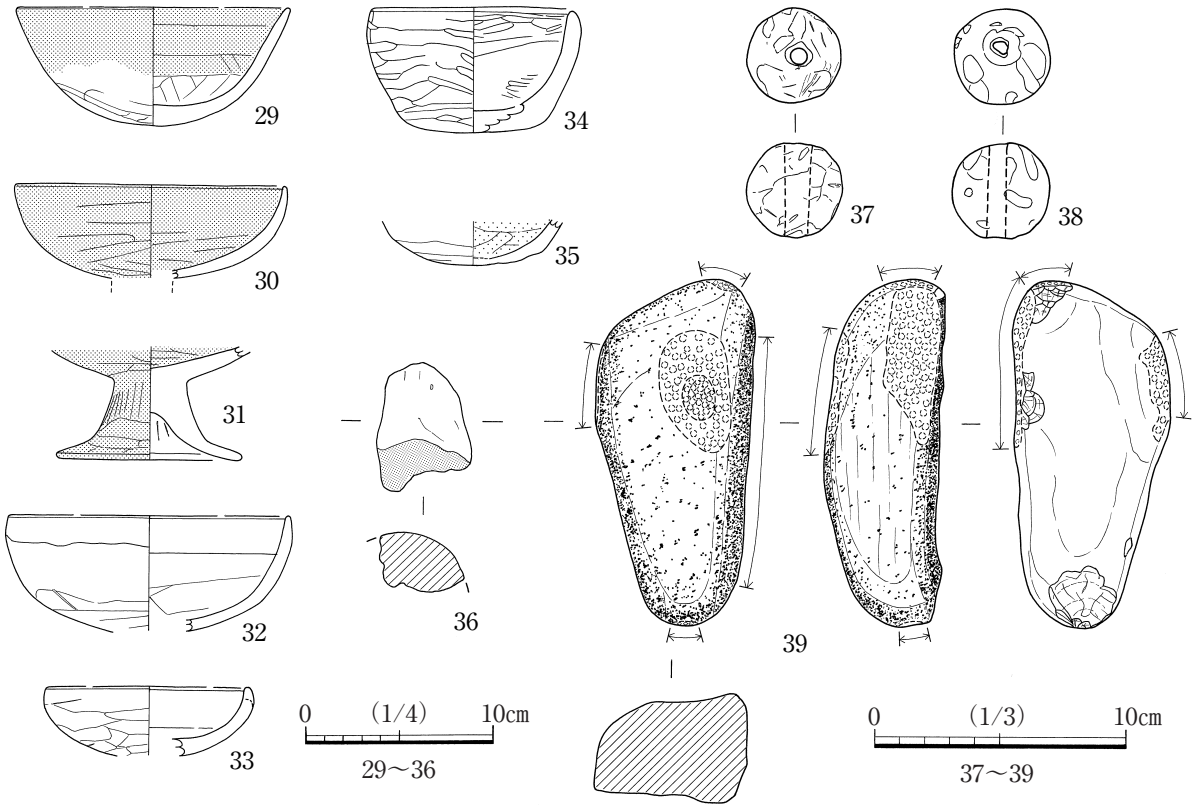
第62図　29号住居跡出土遺物



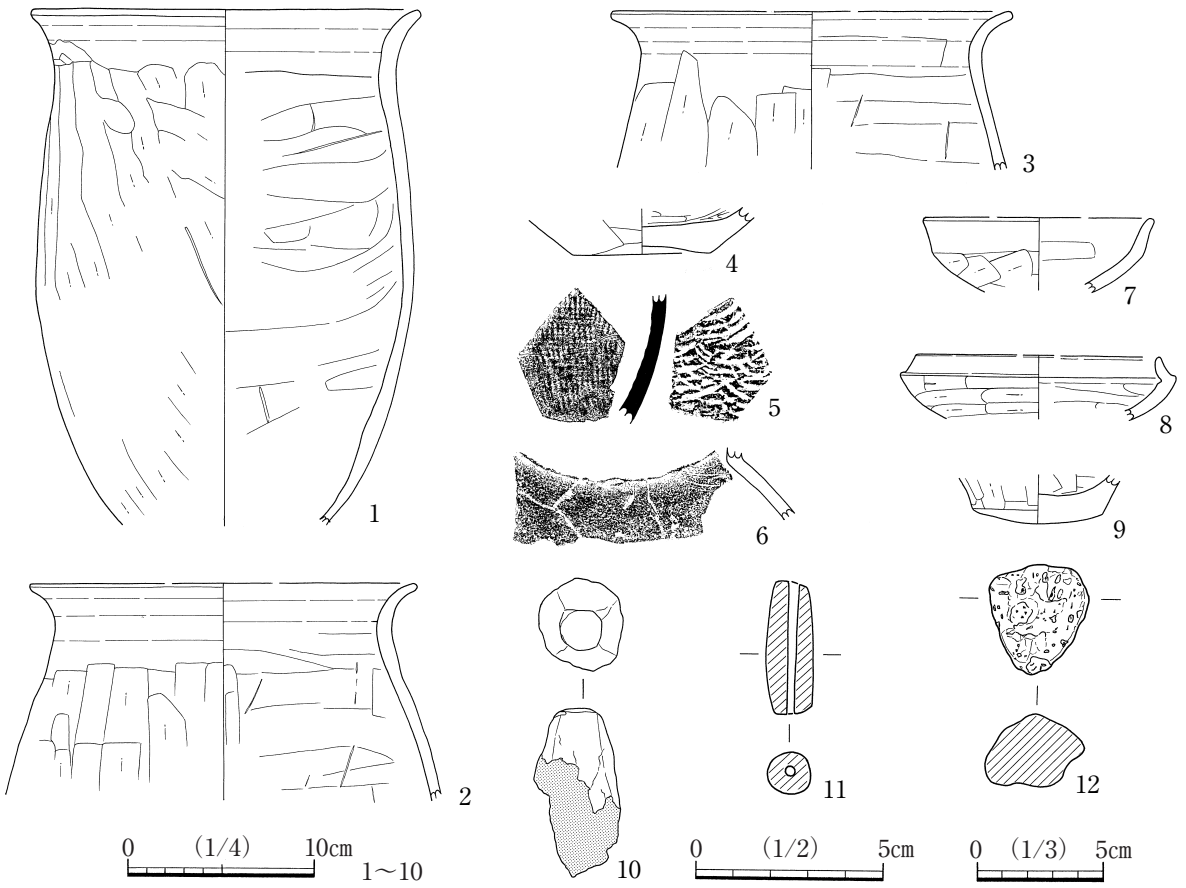
第63図　30号住居跡出土遺物（1）



第64図　30号住居跡出土遺物（2）



第65図　30号住居跡出土遺物（3）



第66図　31号住居跡出土遺物

状が異なることから土製の管玉と思われる。すべて覆土層からの出土で、５・６以外の遺物が住居跡の帰属を示す資料と判断できる。

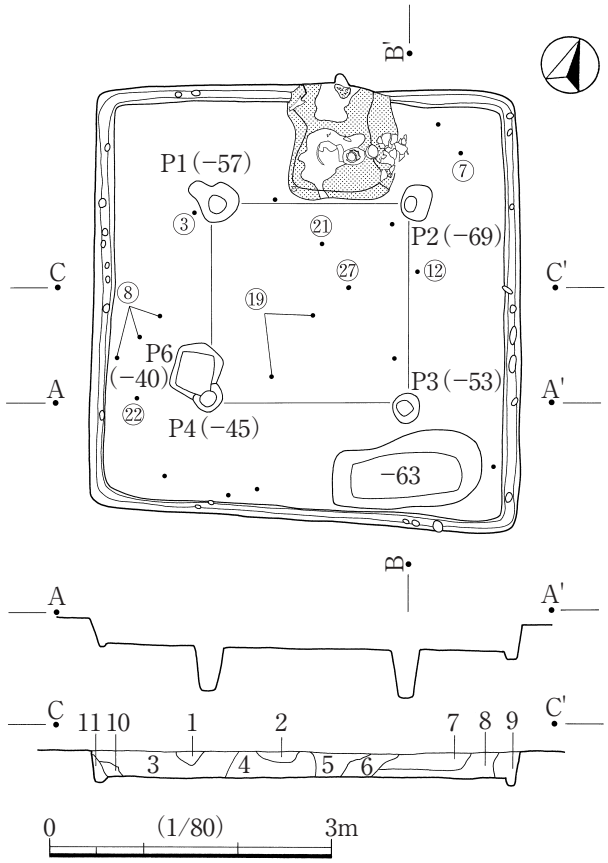
32号住居跡（第67・68図、図版11・84・85）

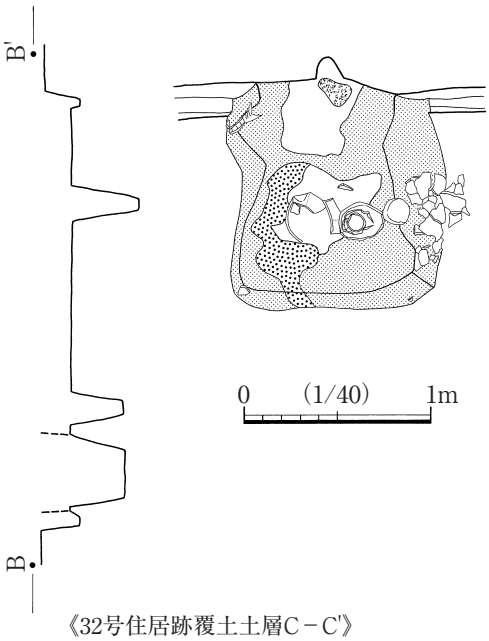
位置　中央調査区北東側。L15。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　方形。
主軸方位　N－20°－W。　床面規模　4.48m（主軸）×4.38m（副軸）。　床面積　19.77㎡。
残存壁高　0.24～0.31m。　カマド　北辺中央よりやや右側。　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で且つ堅緻である。　壁溝　幅10cm前後・深さ10cm前後で四周する。　覆土　各層にロームブロックを含み人為的に埋め戻された状況を示す。
出土遺物　１は口縁にシャープなヨコナデを施し大きく外反する球胴甕で胴外面丁寧な箆ナデで胴外面に部分的にミガキを施す。２は球胴甕で口縁外反し、胴外面箆ナデで部分ミガキを施す。３～５は中胴甕で胴外面箆ナデを基調とし、５の口頸部外面には刷毛目が残る。６は肩部の張りが無く長胴系甕であろう。７の球胴甕は胴外面ミガキ状箆ナデを施し光沢が認められる。８・９は内面ミガキ・外面ミガキ状箆ナデを施し、口径に対して器高の低い甑である。10～12は球胴系甕底部。13は肉厚で内面ミガキ状箆ナデの鉢か。14は内湾する鉢か。15は口縁が長く僅かに外傾する杯蓋模倣杯である。16～22は赤彩の椀形杯で21には口縁外面直下に鈍い稜を有する。23は赤彩高杯杯部下半で明瞭な段を有す。24・27は赤彩の袋状を呈する高杯脚柱。25・26は短脚気味の赤彩高杯脚。28は外面赤彩を施し坩形土器胴部か。29は外面にロクロナデによる凹凸を明瞭に残す須恵器壺の頸部か。30・31は手捏ね土器。32はコップ形のミニチュア土器。33は紐状の条線の残る土製品である。

遺物出土位置は、１・２・４～６・９～11・15・17・18・20・23～25・28・30・31がカマド燃焼部や左右の袖に接し、12・32が床面直上、３・７・８・19・21・22・27がほぼ床面から出土し、他は覆土検出である。本住居跡は、複合関係が無く、覆土から検出された遺物もほぼ床面から出土した遺物と同様に住居跡の帰属を示す資料でⅤ期Ｃの標準資料となろう。

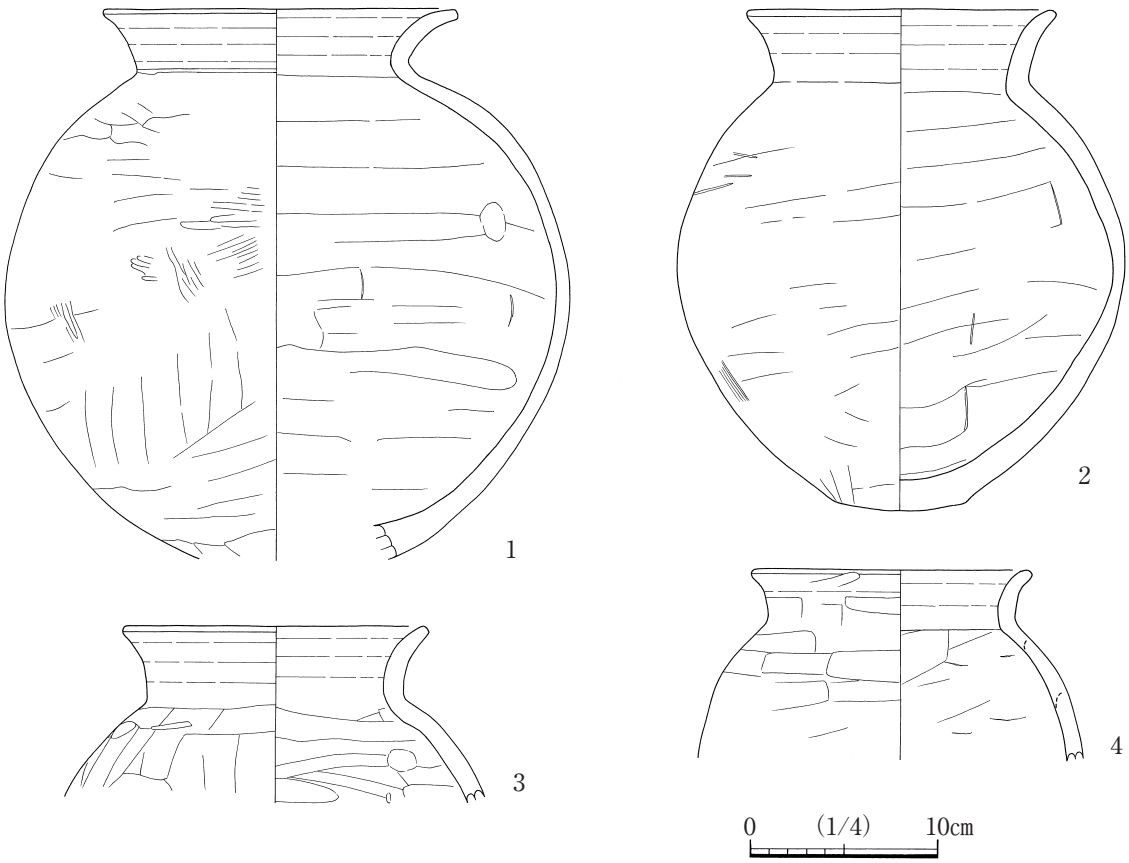
33号住居跡（第69・70図、図版12・85・86）

位置　中央調査区中央東側。L14・L15。　複合切り合い関係　北東辺で34住、西隅から南西辺で35住をそれぞれ掘り込んで検出。　平面形　方形。　主軸方位　N－24°－W。　床面規模　4.96m（主軸）×4.71m（副軸）。　床面積　24.94㎡。　残存壁高　0.26～0.33m。　カマド　北西辺中央。　床面　ハードローム層中に形成され、堅緻である。　壁溝　幅10cm前後・深さ５cm前後で四周する。　覆土　床面直上に焼土が見られ火災住居跡の可能性がある。
出土遺物　１は外面縦位箆ケズリの甕。２は中胴甕で外面上半縦位、下半斜位の箆ケズリを施す。３・４はやや小形の中胴系甕で外面縦位箆ケズリを施す。５は箆ケズリを施す甕下半。８・９は杯蓋模倣杯で口縁部が長く外反し、浅い底体部を特徴とし、口縁内外面および内面ヨコナデ、底体部外面箆ケズリを施す。10は杯身模倣杯。11は小形の半円球状の杯の口縁が立つタイプ。12は平底気味の赤彩椀形杯。13～14は赤彩椀形高杯の脚で僅かに段を有す。17は大形模倣杯。18は須恵器甕口縁でシャープさがない。19はハソウ口縁で25住－７と接合する。TK23～TK47型式と看取され混入遺物である。20は土製支脚。21・22は径3.5cmの土玉である。遺構に共伴する遺物は、１・２・４・６・





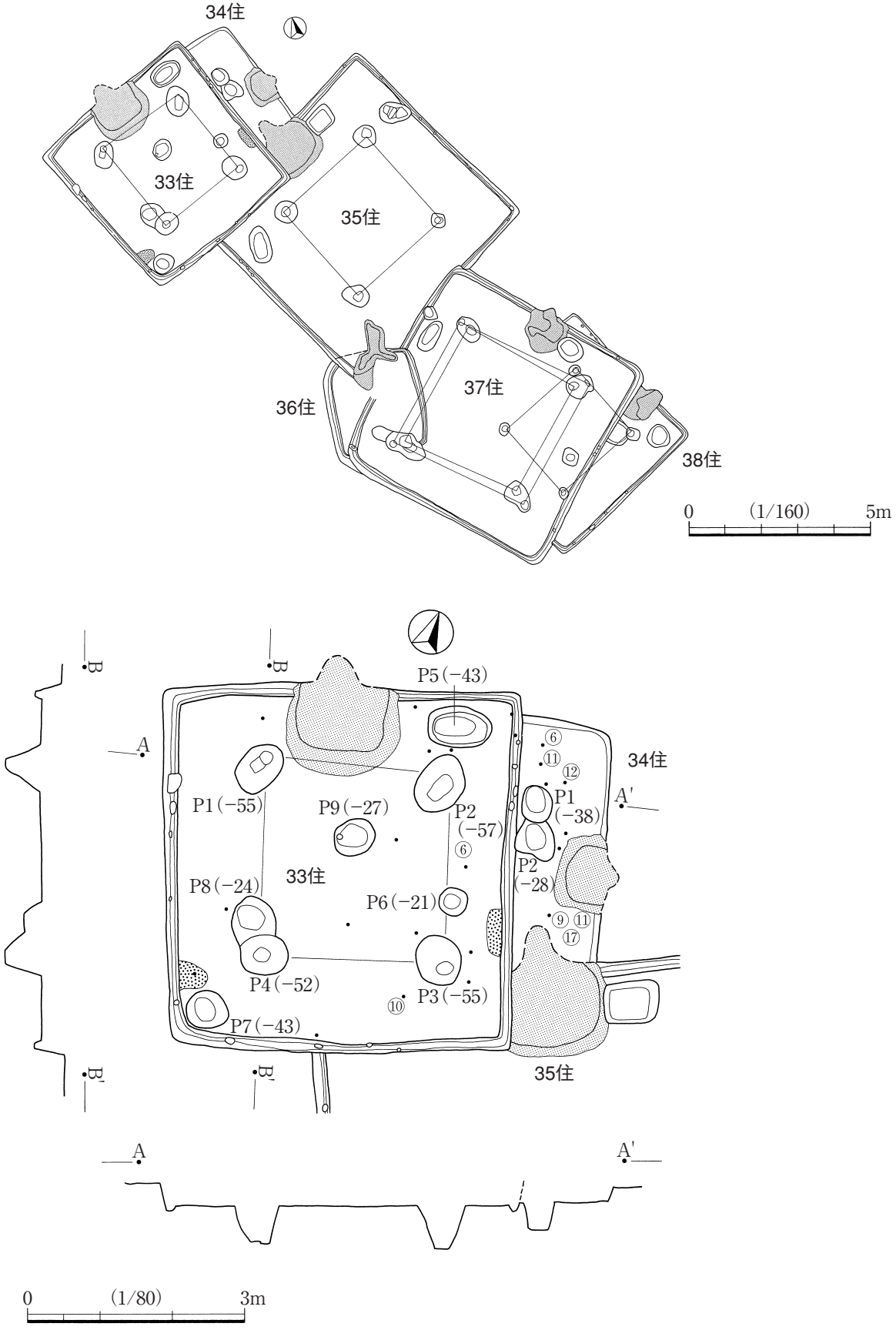
《32号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。
2　茶褐色土層。ロームブロックを混入。
3　黒褐色土層。黒色土に褐色土ブロックを含む。
4　黒褐色土層。第3層とほぼ同一だがやや暗い。
5　黄褐色土層。褐色土ブロックを含む。
6　黒土層。褐色土ブロックを含む。
7　黒褐色土層。第3層と同一。
8　黄褐色土層。ローム主体。
9　茶褐色土層。
10　黒色土層。ロームブロック混入。
11　黒褐色土層。ローム混じり。



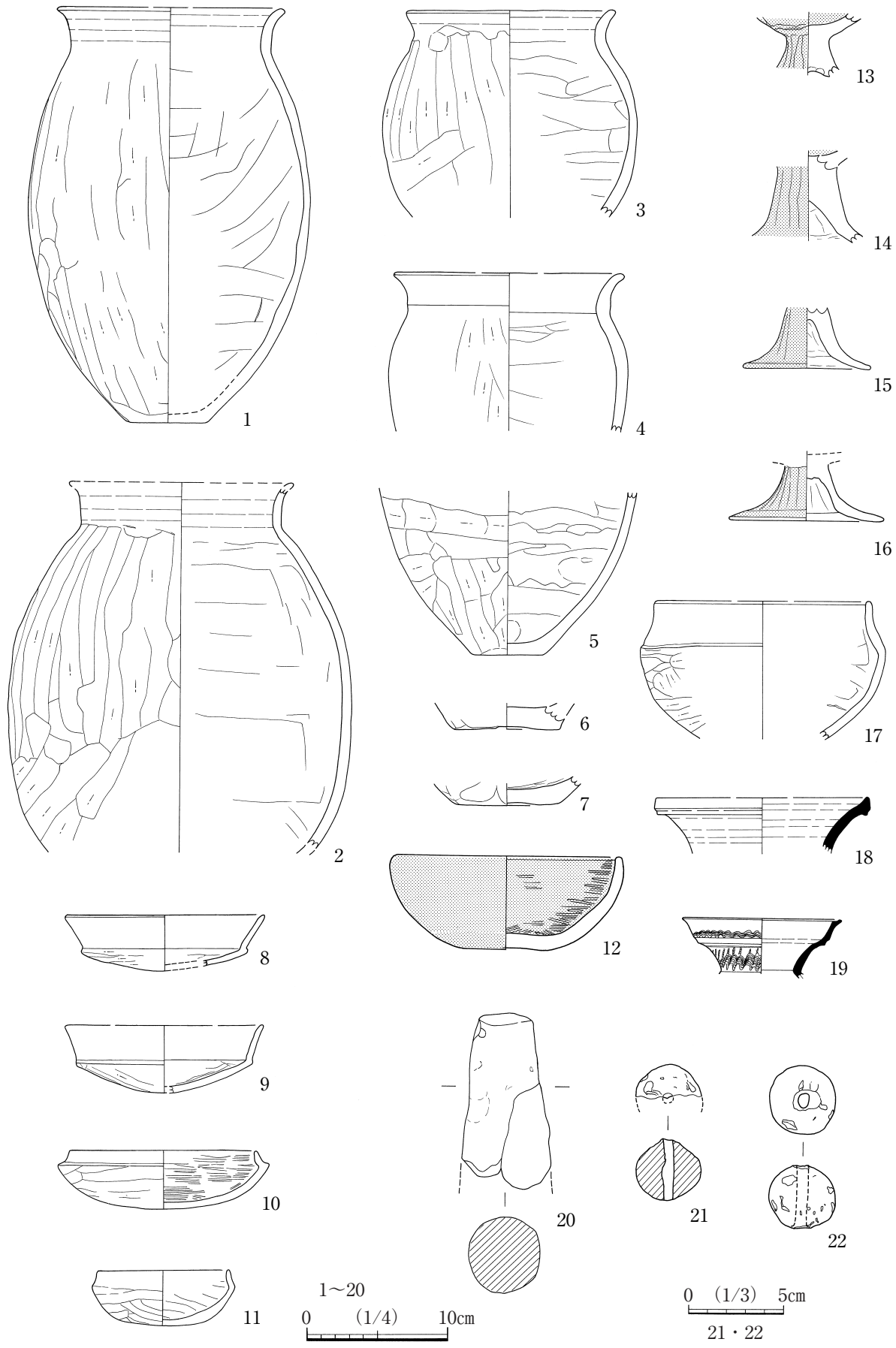
第67図　32号住居跡と出土遺物（1）



第68図　32号住居跡出土遺物（2）



第69図　33号・34号住居跡



第70図　33号住居跡出土遺物

9・10・20がカマド燃焼部やほぼ床面から出土する。8・9の杯蓋模倣杯は古相の模倣杯と考えられ、本遺構との共伴関係に疑問が残る。13～16・19の遺物は34住からの混入と考えられる。

34号住居跡（第69・71図、図版12・86）

位置　中央調査区中央東側。L15・M15。　複合切り合い関係　　西床面を33住、南床面をそれぞれ大きく掘り込まれ、カマドと北東辺のプラン4分の1程を残す程度。　平面形　方形？　主軸方位　N－70°－E。　床面規模　一辺4m前後。　残存壁高　0.22m。　カマド　北東辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層上に形成され、堅緻である。　壁溝　確認されない。　覆土　不明。

出土遺物　1～4は球胴甕口縁で3は口縁短く外反する。4は外面に赤彩を残す。5は細頸の球胴系甕。6は胴外面上半に刷毛目を残す小形甕。11～13は鉢形甕で、12・13は口縁が僅かに外傾する。14は杯蓋模倣杯。15は赤彩の椀形杯。16は全面赤彩を施す椀であろうか？。17は口縁直下に鈍い段を有する土師器有段口縁状の壺。19は鉄鏃。遺構と共伴する遺物は、3・5・6～17がカマド燃焼部やほぼ床面から出土し、他の遺物は覆土からの検出である。1～4の球胴甕も本住居跡に伴うものとして差し支えないものであろう。

35号住居跡（第72・73図、図版12・87）

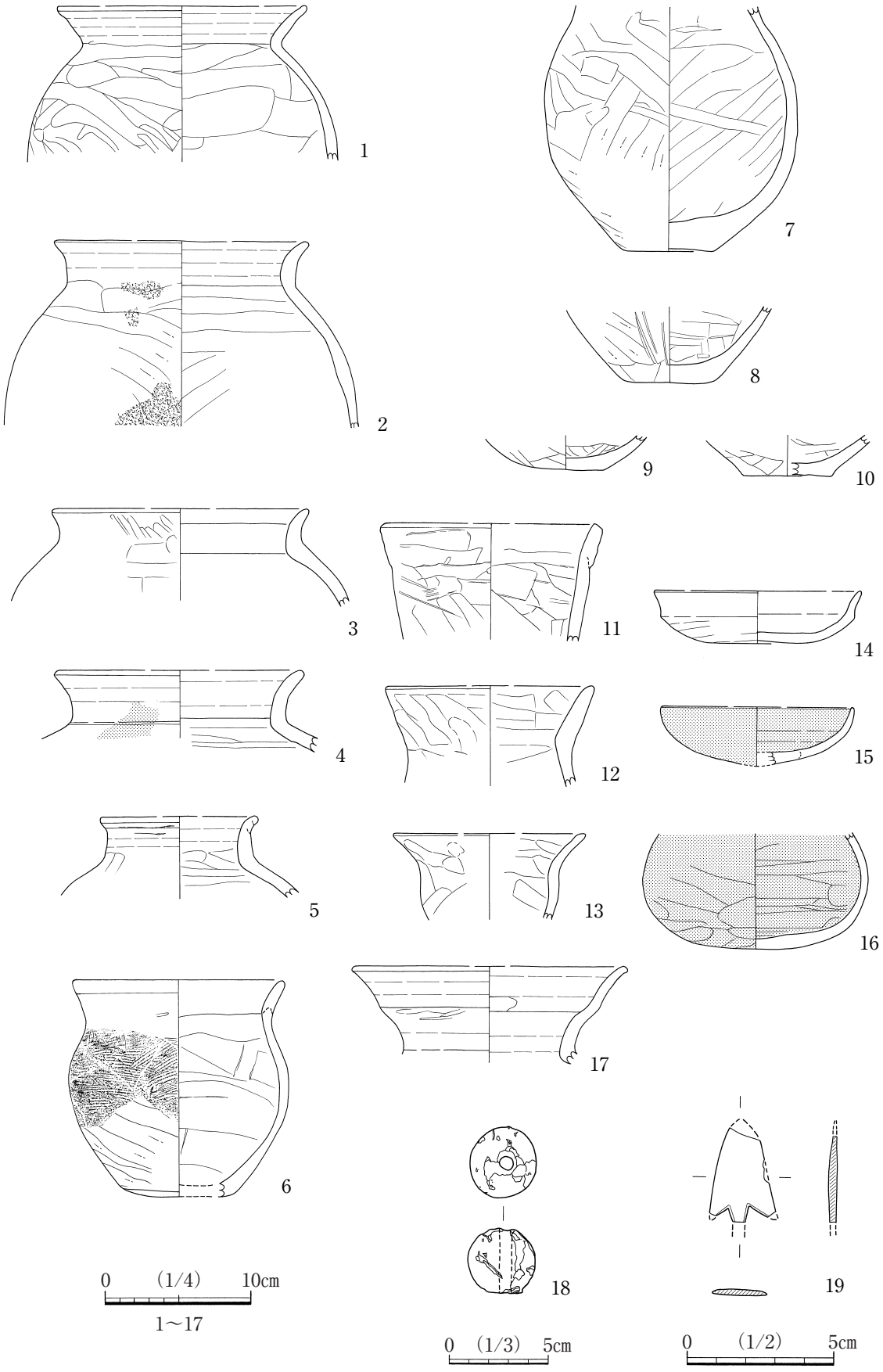
位置　中央調査区中央東側。L14・L15。　複合切り合い関係　　北西辺で34住を掘り込み、北西隅を33住に大きく切られ、南隅で36住に切り込まれ、南東辺で37住を掘り込んでいる。　平面形　方形。　主軸方位　N－27°－W。　床面規模　6.16m（主軸）×6.32m（副軸）。　床面積　39.22㎡。　残存壁高　0.26～0.41m。　カマド　北西辺中央。　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　壁溝　幅12cm前後・深さ8cm前後で四周する。　覆土　床面直上に焼土が多く検出され火災住居跡である。

出土遺物　1～5は胴部外面縦位の箆ケズリの甕で2が中胴系タイプである以外は、長胴系となろう。8～11は杯蓋模倣杯で8は内面光沢のあるミガキを施し漆塗りの可能性が強い。11は小形のやや浅い半円球杯。12・13は杯身模倣杯。14は赤彩土器の高杯脚。15・16は大形の模倣椀。17は口縁部が長く外反する丸底の鉢で非在地系であろうか。18は扁平な球胴を有する土師器短頸壺。19は手捏ね土器である。遺物出土位置は、5・6・11・19がカマド燃焼部、4・10・13がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。複合関係が激しく、カマドから出土する遺物にも共伴関係には疑問も残るが、8～10・12・13の模倣杯類が本住居跡の帰属を示す資料と考えてよかろう。

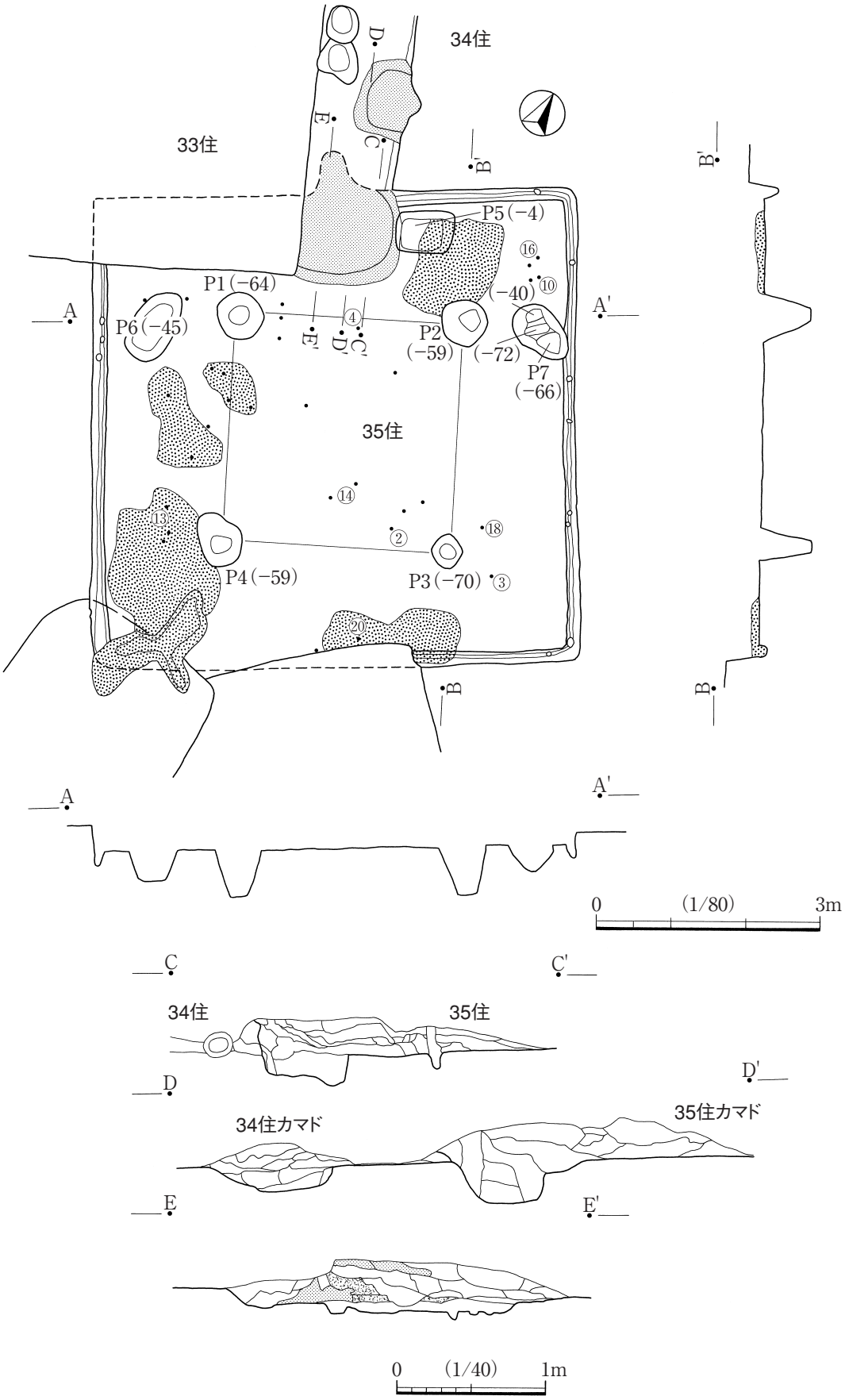
36号住居跡（第74・75図、図版13・87）

位置　中央調査区中央東側。M15。　複合切り合い関係　35住・37住をそれぞれ切り込んでいる。　平面形　隅丸方形。　主軸方位　N－6°－E。　床面規模　2.50m（主軸）×2.52m（副軸）。　推定床面積　6.03㎡。　残存壁高　0.42～0.52m前後。　カマド　北辺中央。　床面　ハードローム層中に形成され、やや凹凸が目立つが堅緻である。　壁溝　幅8～15cm・深さ4cm前後でほぼ廻る。　覆土　不明。

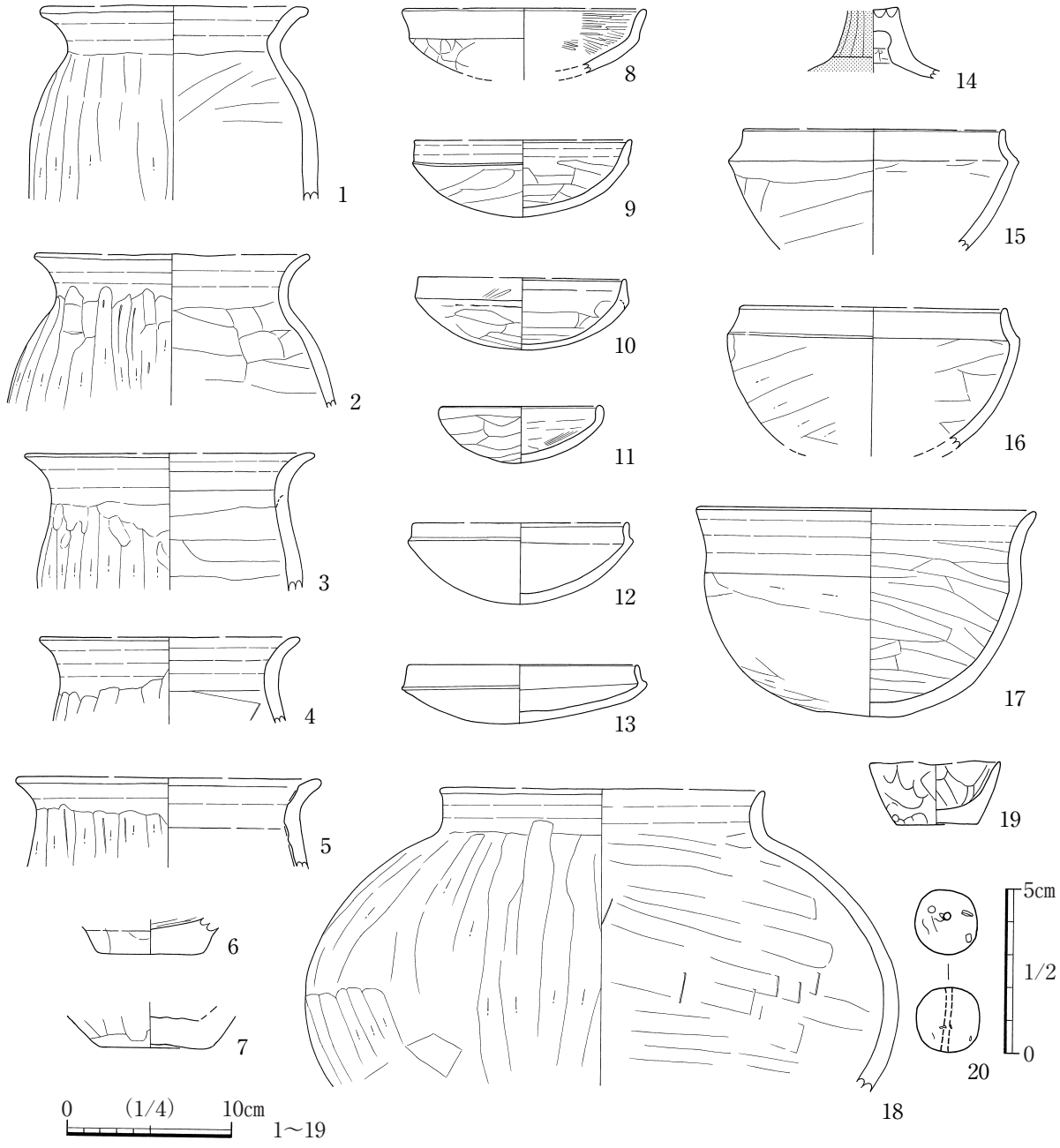
出土遺物　1・2は器肉の薄い箆ケズリ甕。2は縦位箆ケズリ甕胴下半。3は千葉市域産の須恵器



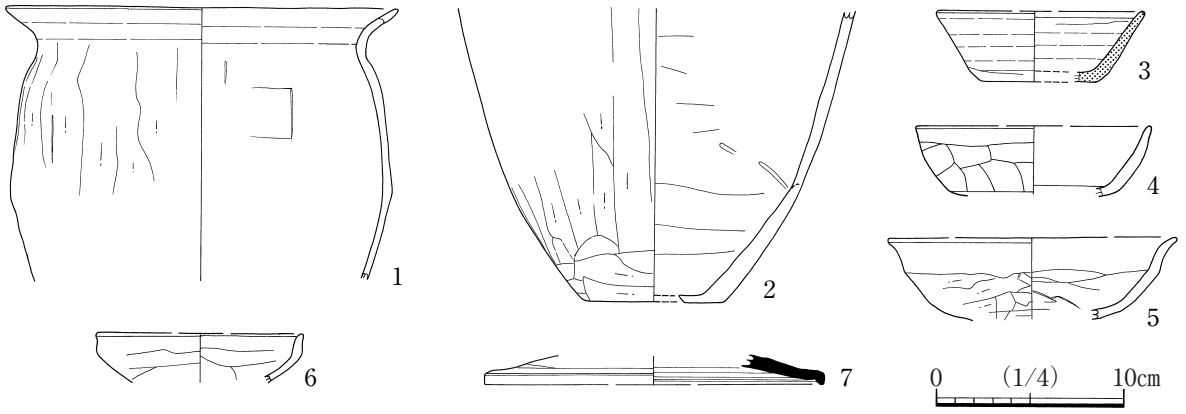
第71図　34号住居跡出土遺物


34住
33住
35住
P1(−64)
P2
(−59)
(−72)
P3(−70)
P4(−59)
P5(−4)
(−40)
P6(−45)
P7
(−66)
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
34住カマド
35住カマド
0 (1/80) 3m
0 (1/40) 1m

第72図　35号住居跡



第73図　35号住居跡出土遺物



第74図　36号住居跡出土遺物

杯。4は内外面に稜線を有し出尻気味で体部および底部手持ち篦ケズリの非ロクロ土師器杯。5は口縁が大きく外反する丸底の杯。6は小形の稜の鈍い杯。7は須恵器蓋である。住居に共伴する遺物は、1～7のカマド燃焼部から出土した遺物で、6は混入であろう。

37号住居跡（第75・76図、図版13・88）

位置　中央調査区中央東側。M15。　複合切り合い関係　南隅を36住に切り込まれ、北西辺で35住壁を東側で38住を大きく掘り込んでいる。　平面形　正方形。　主軸方位　N－45°－E。　床面規模　6.10m（主軸）×6.14m（副軸）。　推定床面積　37.18㎡。　残存壁高　0.30～0.52m。

カマド　北東辺中央。

床面　ハードローム層中に形成され、カマド周辺から床中央にかけて堅緻で、壁寄りは軟である。

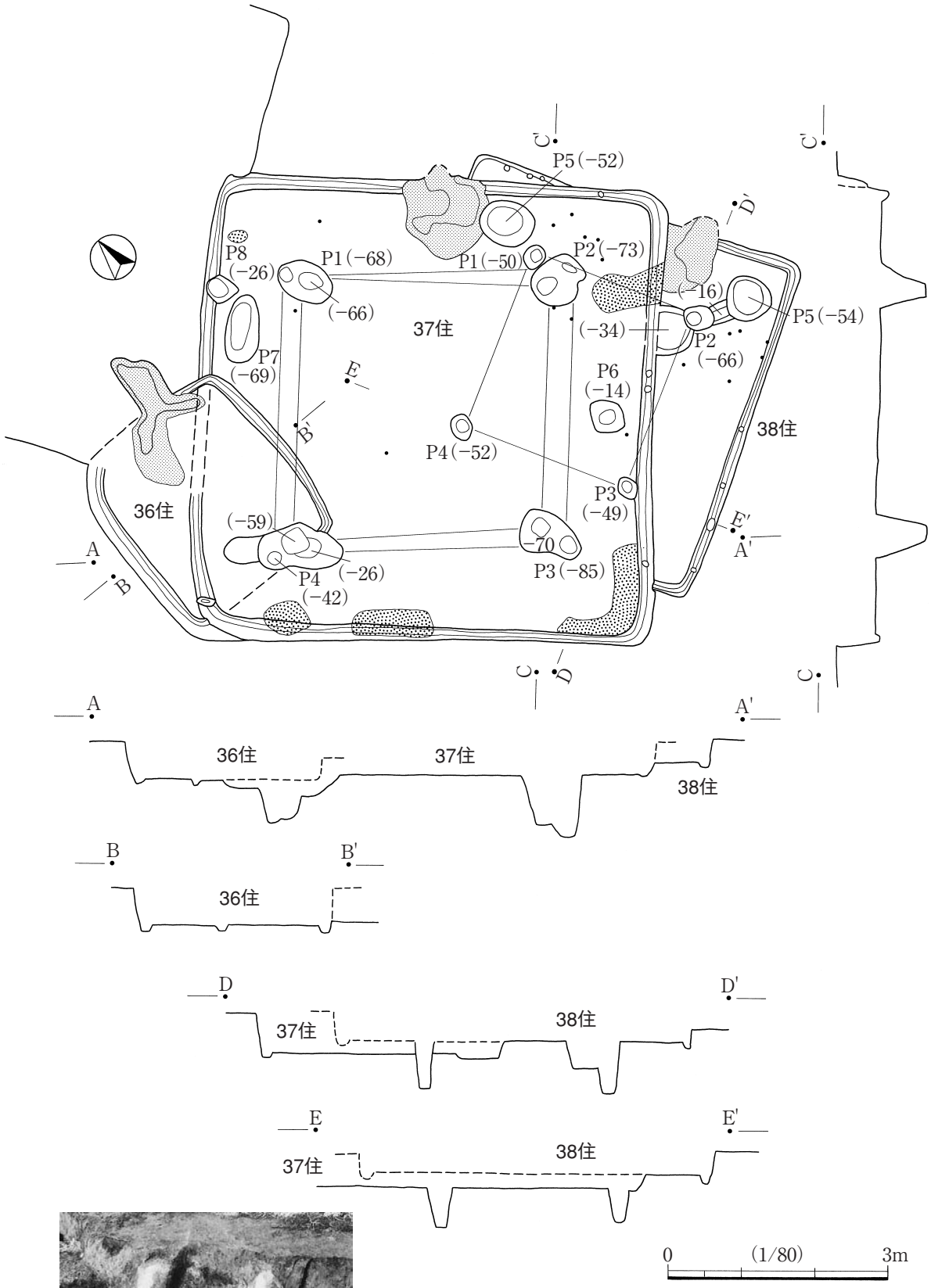
壁溝　幅8～10cm・深さ5cm前後でほぼ廻る。覆土　壁寄りの床面直上に焼土が多数点在し、火災住居跡である。

出土遺物　1・2・3は胴外面縦位の篦ケズリ甕。3は外面縦位篦ケズリの小形甕。4は球胴甕胴部で、上半篦ナデ状のミガキで下半篦ケズリを施す。5～7は須恵器甕胴小片。8～9は須恵器身でTK209型式に比定されよう。8・10は底体部が浅く、9は底体部に張りを有する。11・12はやや浅い半円状の底体部を有する杯で、11は内面黒色処理でミガキを施す。13は半円状の皿状を呈し、口縁直下に鈍い稜を有する。14・15は杯身模倣杯で、14の内面は内黒処理でミガキを施す。16は内黒ミガキの小形の半円球状の椀。17は深い椀で銅椀模倣か。18は赤彩の椀形杯。19～21は赤彩椀形杯の脚。22は内面光沢のあるミガキを施す漆塗りの高杯であろう。23は杯内面ミガキを施す高杯脚。24～26は小形鉢で24の底部は柱状を呈する。27は内面黒色処理の丸底の小形短頸壺。28・29は土製支脚である。遺物出土位置は、1が床面直上、2・4・8・10がカマド燃焼部、3・11・13～15・26・28がほぼ床面から出土し、住居跡に共伴する遺物である。他の覆土出土の赤彩以外の遺物も共伴遺物と見なしてよかろう。

38号住居跡（第75・77図、図版13・88・89）

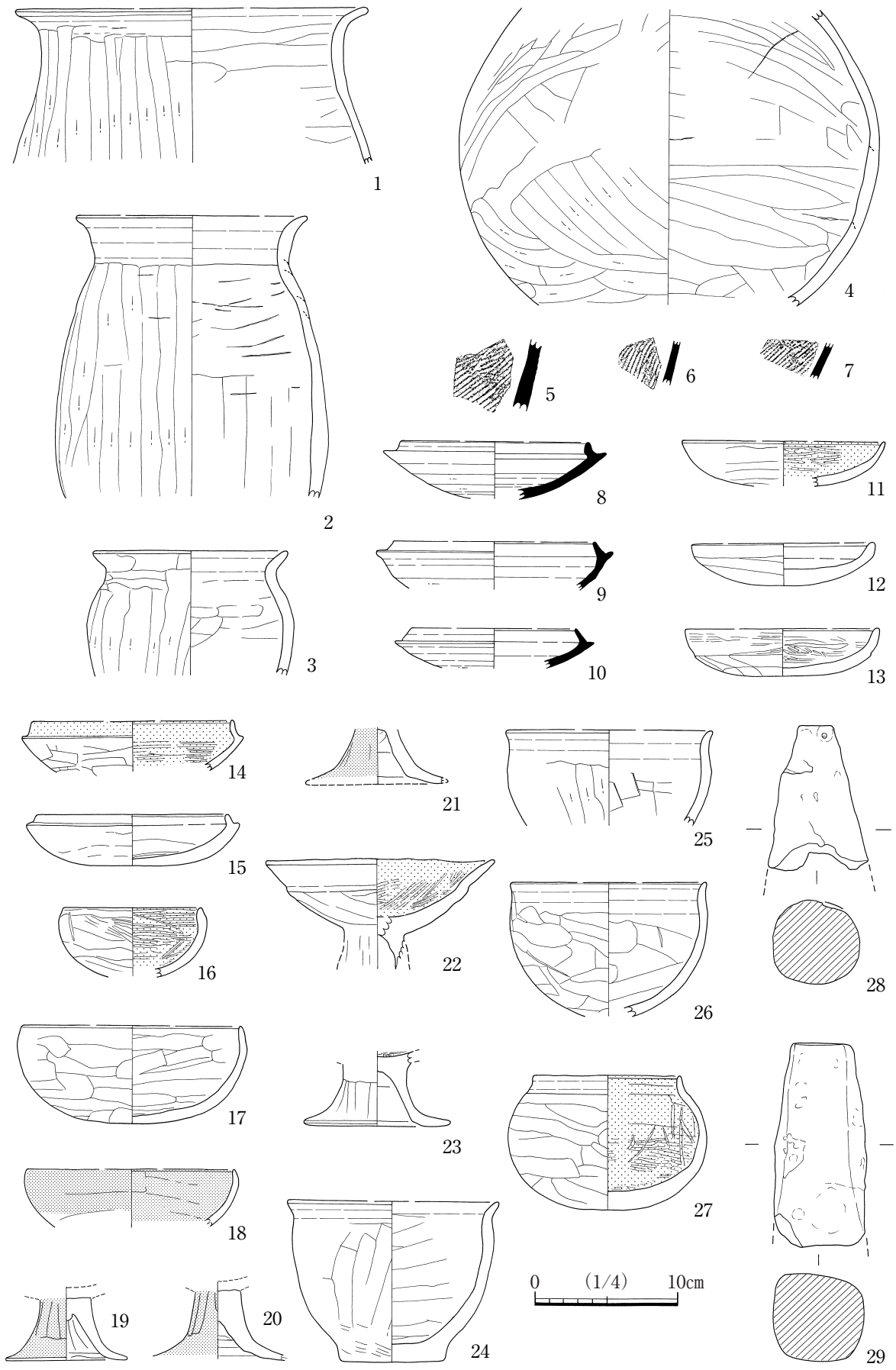
位置　中央調査区中央東側。M15。　複合切り合い関係　プランの北西側を37住に大きく掘り込まれ全体の4分の1程の残存である。　平面形　正方形。　主軸方位　N－64°－E。　床面規模　4.60m（主軸）×4.68m（副軸）。　推定床面積　21.57㎡。　残存壁高　0.24m前後。　カマド　北東辺の右よりか？　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　壁溝　幅8cm前後・深さ4～12cmで南壁下に良好に残存する。　覆土　不明。

出土遺物　1は器高と胴径の計測値が同一で口径に対する器高の割合が（器高÷口径）1.12を示す球胴の甕で、胴外面篦ナデを施す。2～4も外面篦ナデを基調とする甕で、2は細頸気味で口縁が直立し僅かに外反する球胴甕。3は口縁「く」の字気味に外反する中胴甕。4は小形甕胴下半。7・8は鉢形で口縁が僅かに外傾して開く甑で、胴外面篦ナデを施す。9は須恵器口縁片で口縁直下に櫛状工具で波状文を施す。10・11は甕小片。12は有段口縁の杯。13は赤彩で底体部の張る椀形杯。14は赤彩の大形高杯で口縁が大きく開く。15は器表面の摩耗が激しく赤彩の可能性があり杯部下端に稜を有する高杯。16・17は赤彩の高杯脚。19は径3.6cmの土玉。20は縦長の土玉である。遺物出土位置は、

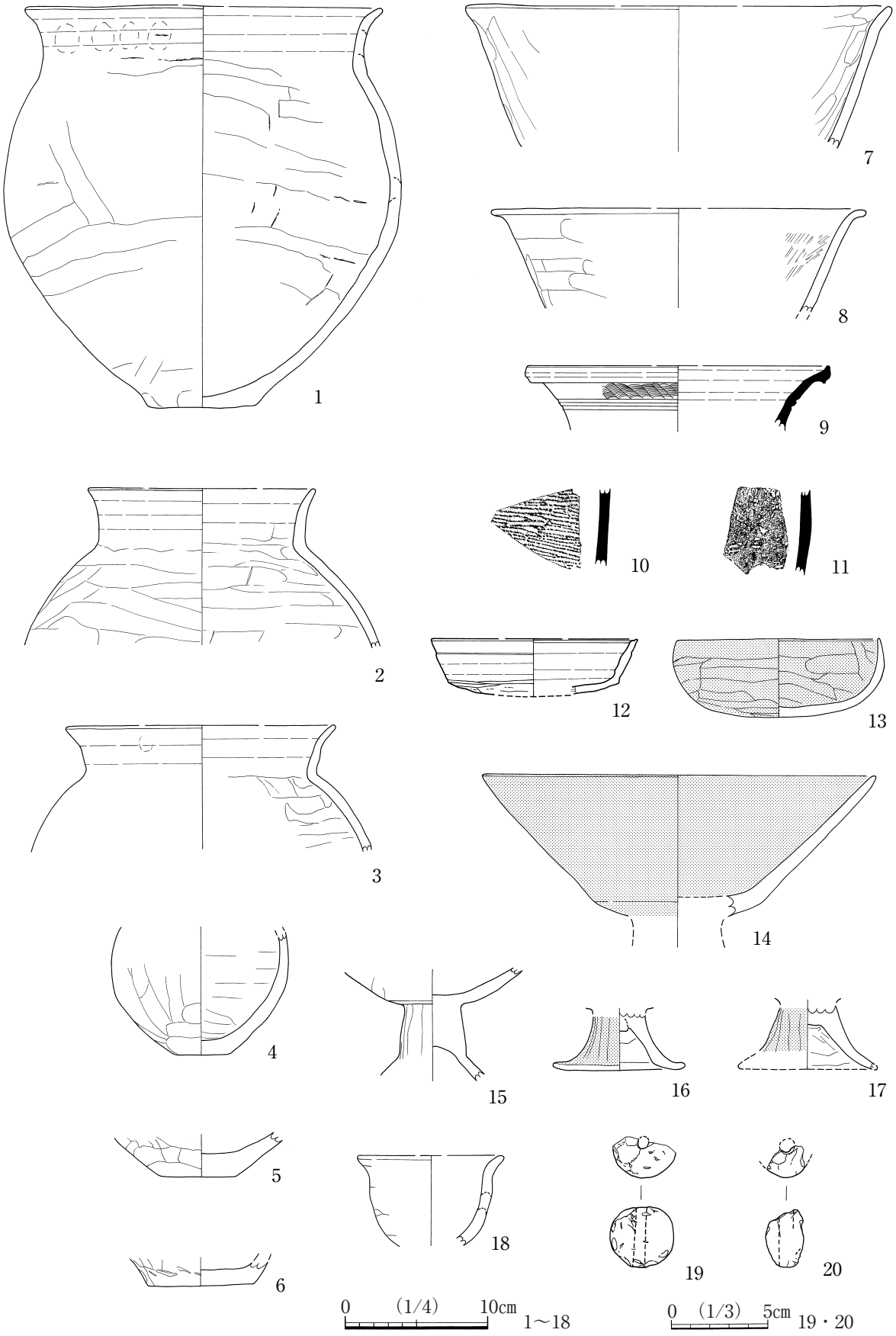




第75図　36号・37号・38号住居跡



第76図　37号住居跡出土遺物



第77図　38号住居跡出土遺物

２・４・13・18が床面直上、６・14・15がカマド燃焼部、３・７・８・16・17がほぼ床面から出土し、住居跡に共伴する遺物である。この他に覆土検出の１も共伴遺物と見なしてよかろう。12の有段口縁杯は37住の混入遺物であろう。

39号住居跡（第79図、図版13・89）

位置　中央調査区中央。L13・L14・M13・M14。　**複合切り合い関係**　プラン南東側を40住・41住に大きく掘り込まれる。　**平面形**　隅丸方形。　**主軸方位**　N－21°－W。　**床面規模**　6.04m（主軸）×6.08m（副軸）。　**床面積**　36.35㎡。　**残存壁高**　0.43～0.59m前後。　**カマド**　北辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅８～15cm前後・深さ８～20cmで四周する。　**覆土**　床面直上に焼土が点在し火災住居と看取される。各層にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。P（ピット）１・P２に底面が２カ所確認でき竪穴住居跡が建て替えられた可能性がある。

出土遺物　１は胴外面縦位箆ケズリの甕、２も同形の底部。３は須恵器甕胴部片で外面平行叩き目後に沈線を引く。４は半円球状の小形の須恵器杯で口縁直下に３条の沈線が廻り、受部逆転後の杯身と判断されTK217型式期でも新相に比定できよう。５は無彩の椀形杯。６・７は土師器高杯で、６の杯内面はミガキを施す。８は細頸のハソウの口縁であろう内外面にやや厚い降灰を被る。９はミニチュアのコップ。住居跡に共伴する遺物は、２・３・４・６・がほぼ床面から出土し、やや床面から浮いて出土した１・５・７・８も共伴遺物と考えてよかろう。

40号住居跡（第80図、図版13・89）

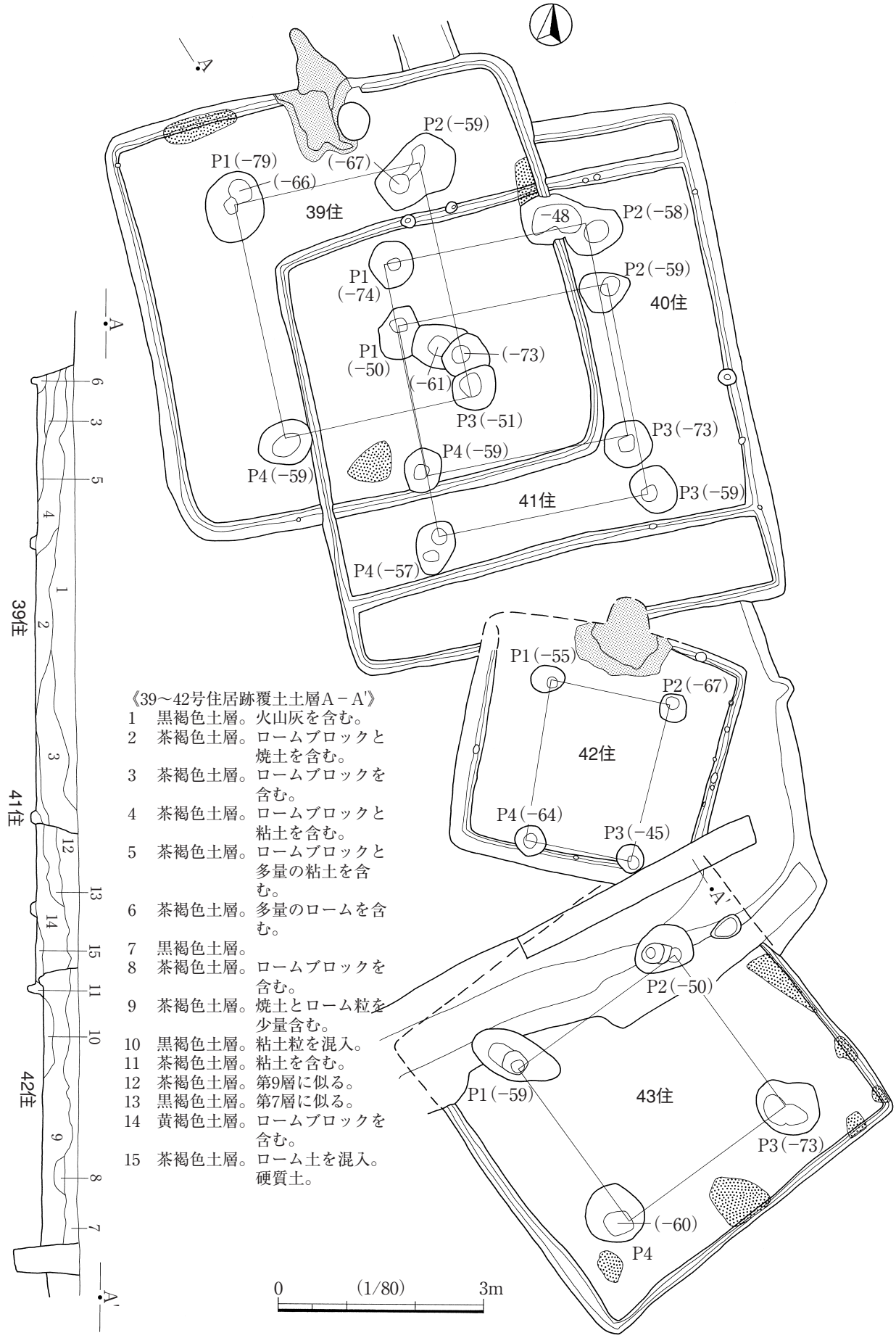
位置　中央調査区中央。L14・M14。　**複合切り合い関係**　プラン北西側を39住に、また重複する41住にそれぞれ掘り込まれる。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－20°－W。　**床面規模**　5.94m（主軸）×6.20m（副軸）。　**推定床面積**　36.42㎡。　**残存壁高**　0.51～0.58m前後　**カマド**　北辺に設置されたと思われるが39住に削平。　**床面**　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅８～10cm前後・深さ６～８cmで壁下に認められる。　**覆土**　覆土最上層に焼土粒を含む土層が確認できる以外は自然堆積状況を示す。

出土遺物　41住で説明。

41号住居跡（第80図、図版13・89）

位置　中央調査区中央。L14・M14。　**複合切り合い関係**　プラン北西側を39住に、また、北側では主軸方位と東西の壁を等しくする40住とほぼ重複し、南側で42住にそれぞれ掘り込まれ検出する。

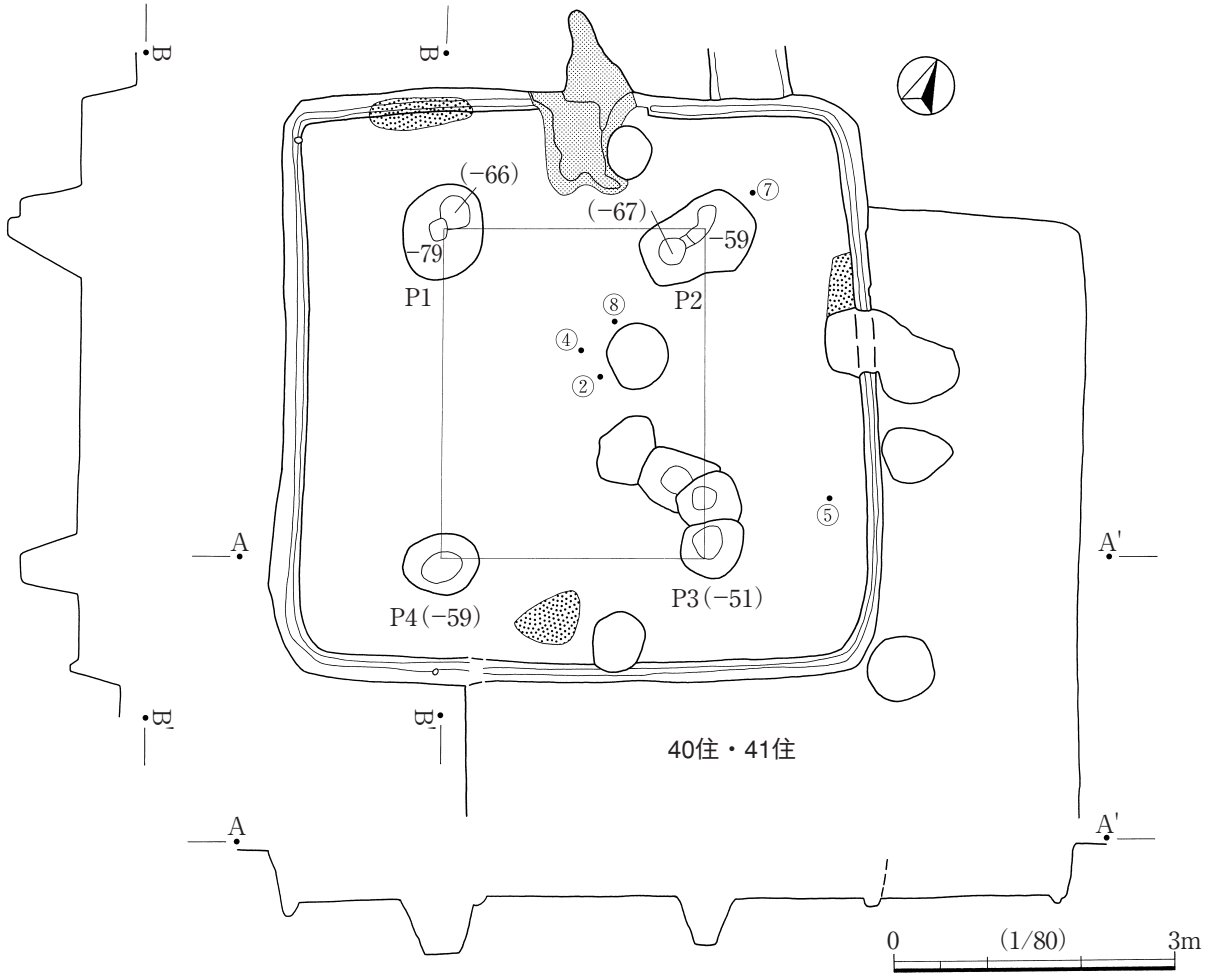
平面形　方形。　**主軸方位**　N－20°－W。　**床面規模**　6.36m（主軸）×6.20m（副軸）。　**床面積**　39.78㎡。　**残存壁高**　0.51～0.61m。　**カマド**　北辺に設置されたと思われるが39住に削平。　**床面**　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　**壁溝**　41住と共有。南壁溝は幅８～10cm前後・深さ６～８cmで確認し壁下に認められる。　**覆土**　覆土最上層に焼土粒を含む土層が確認できる以外は自然堆積状況を示す。40住と41住は東・西壁を共有してプランがほぼ重複する。床面レベルも39住を±０とするならば40住が＋５～８cm、41住が＋５～10cmで40住と41住は同一である。建て替

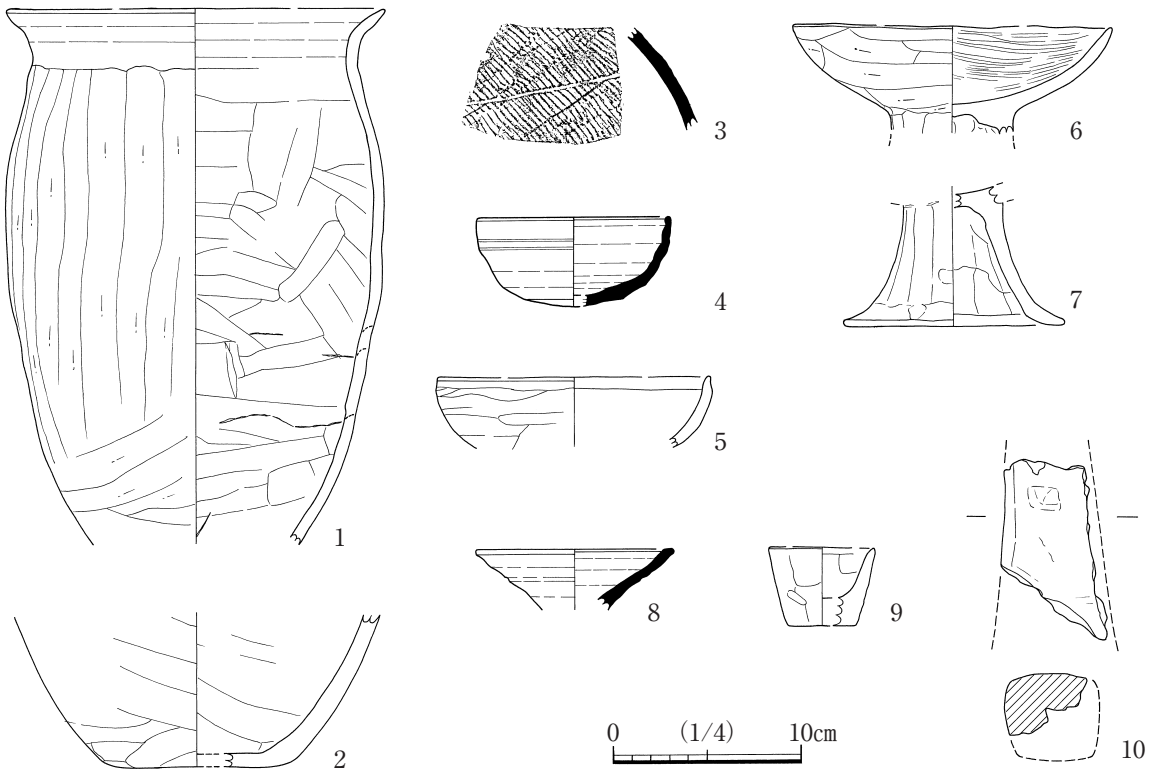


《39～42号住居跡覆土土層A－A'》

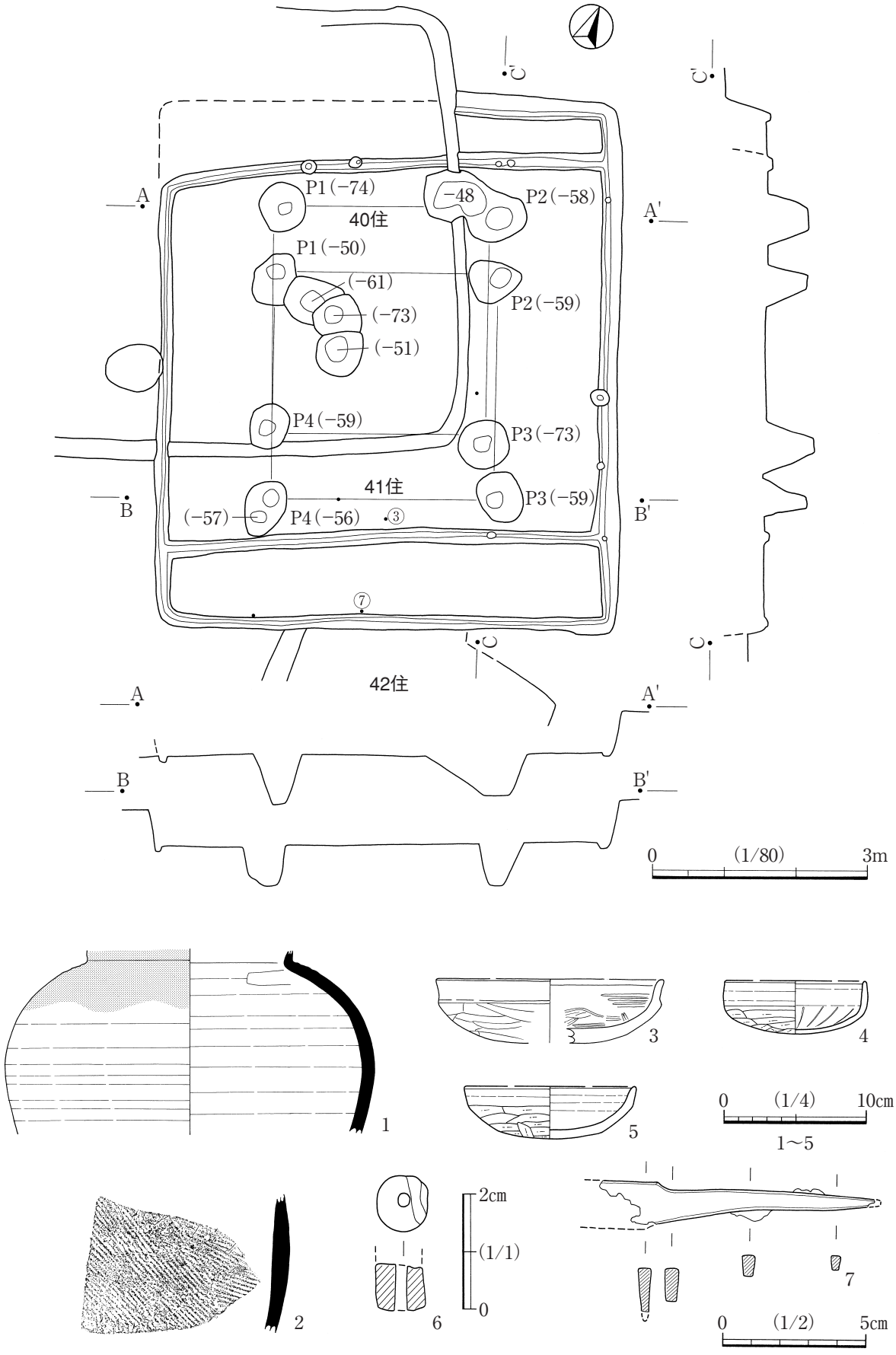
1　黒褐色土層。火山灰を含む。
2　茶褐色土層。ロームブロックと焼土を含む。
3　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックと粘土を含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックと多量の粘土を含む。
6　茶褐色土層。多量のロームを含む。
7　黒褐色土層。
8　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
9　茶褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
10　黒褐色土層。粘土粒を混入。
11　茶褐色土層。粘土を含む。
12　茶褐色土層。第9層に似る。
13　黒褐色土層。第7層に似る。
14　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
15　茶褐色土層。ローム土を混入。硬質土。

第78図　39号～43号住居跡





第79図　39号住居跡と出土遺物



第80図　40号・41号住居跡と出土遺物

えの可能性があるとするならば40住→41住となろう。

40・41住出土遺物　1は須恵器短頸壺の胴部3分の1で肩部に降灰を被る。2は須恵器大甕胴部破片。3は杯蓋模倣杯。4は口縁部が直立気味でやや高く内面放射状暗文を施す非在地系の杯。5は半円状の土師器杯。6は管玉状の石製品で径0.95cm・長さ0.85cmを計り、一方を欠損する。7は刃部を欠損した刀子である。3が床面直上から出土する以外は覆土からの出土である。3は出土状況から41住の共伴遺物と判断できる。4は39住の混入遺物か？

42号住居跡（第81・82図、図版14・90）

位置　中央調査区中央。M14。　**複合切り合い関係**　北辺で41住を南東隅で43住をそれぞれ掘り込み、覆土上層を17号溝に切り込まれている。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－3°－E。　**床面規模**　3.34m（主軸）×3.52m（副軸）。　**床面積**　11.84㎡。　**残存壁高**　0.55m前後。　**カマド**　北辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成され、中央から南側が踏みしめられていないが他は平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅6～10cm前後・深さ9cm前後でほぼ四周する。　**覆土**　焼土粒を含む土層が広範囲に認められるが焼失については可能性にとどまる。主柱穴の柱位置に関して、P3・P4が南壁に接し、他の住居跡構造と異質である。

出土遺物　1は外面縦位の篦ケズリで肉薄の甕で当該期の上総地域を特徴づけるケズリ甕である。2・3は千葉市域産の須恵器甕で外面平行叩き目と下半に鋭い篦ケズリを施す。4～7も同種の千葉市域産須恵器甕片。8・9は須恵器甕の胴部破片。10は市原産の石川窯跡産の須恵器杯で底部回転糸切りを残す。11～14はロクロ土師器杯。11・12・14は底部回転糸切りで、14は体部下端に手持ち篦ケズリを施す。13は体部下端と底部に手持ち篦ケズリを施す。15～18は一枚造りの平瓦で内面布目、外面縄叩き目。19は丸瓦。20は土玉。遺構に伴う遺物は1・3・4・7～12・15が床面やカマド燃焼部から出土し、他の20以外の遺物も住居に帰属するものであろう。

43号住居跡（第81図、図版14・90）

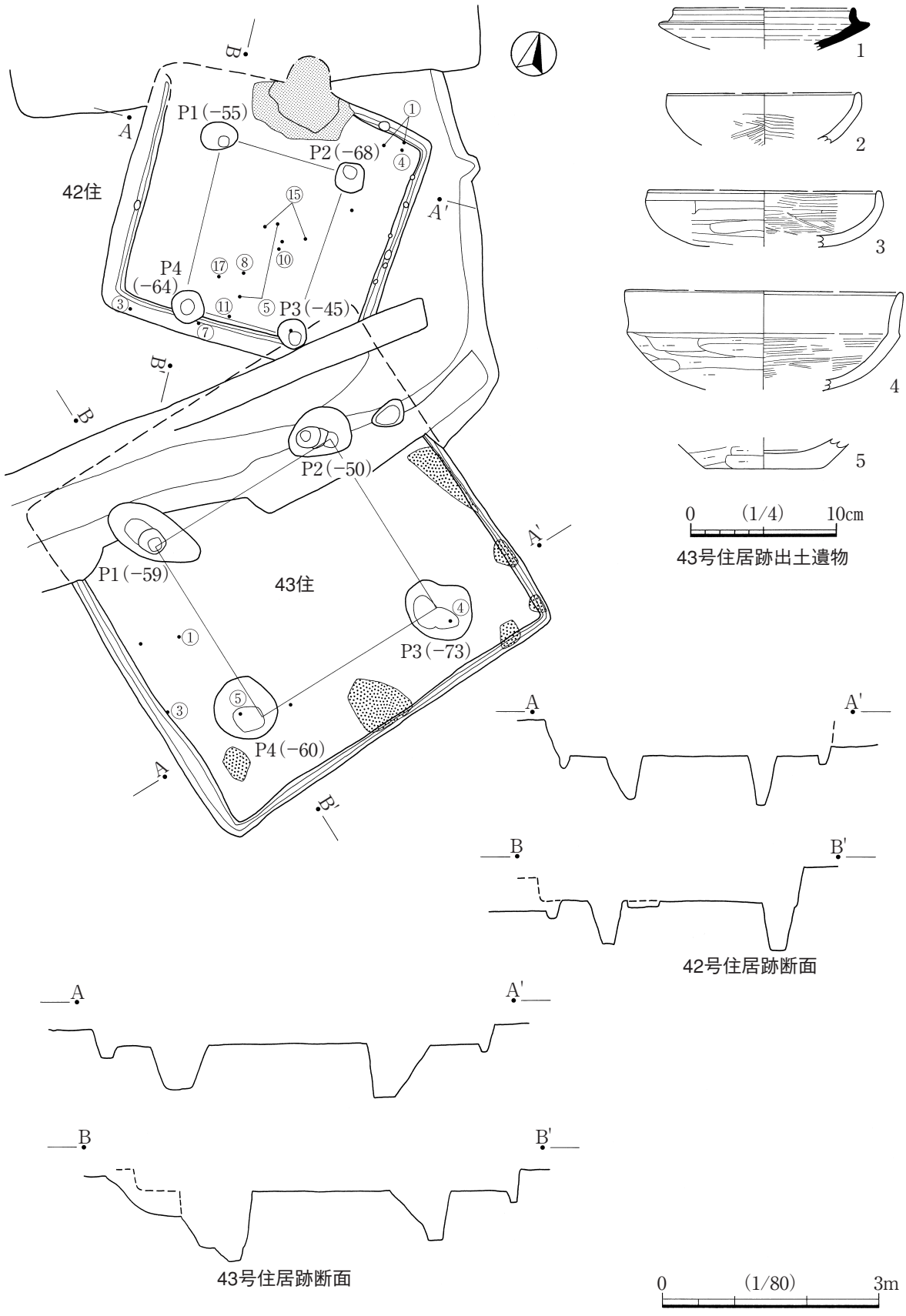
位置　中央調査区中央。N14。　**複合切り合い関係**　プラン北西辺で17号溝に大きく掘り込まれている。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－47°－W？　**床面規模**　5.30m（主軸）×5.30m（副軸）。　**推定床面積**　27.63㎡。　**残存壁高**　0.51m前後。　**カマド**　北西辺に設けられたものと思われるが18号溝に削平されたものであろう。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平坦で堅緻である。

壁溝　幅7～14cm・深さ12cm前後であるが幅は一定しない。　**覆土**　壁際に焼土の堆積が確認でき火災住居であろう。

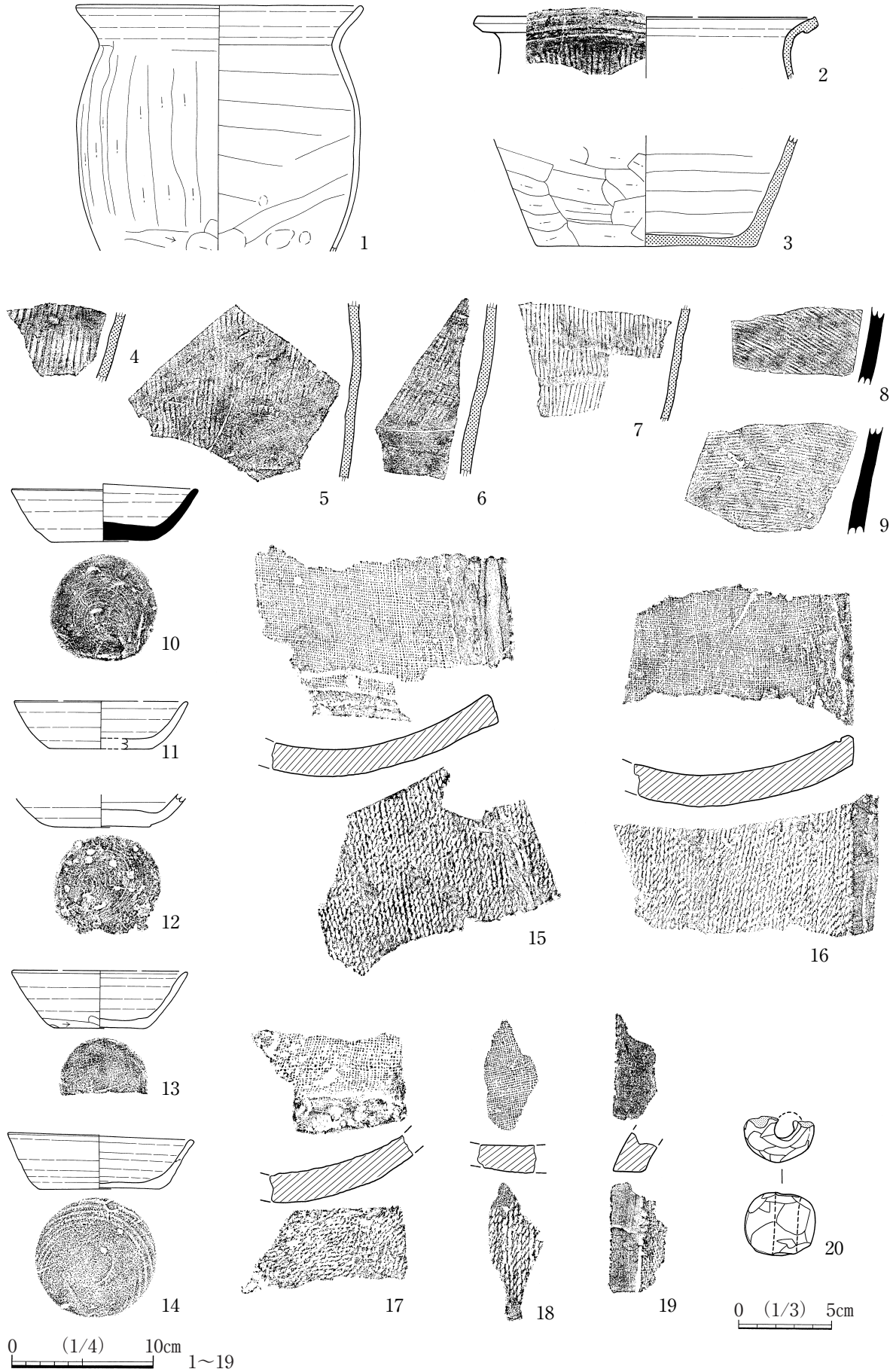
出土遺物　1は須恵器身の小片で稜端や口縁は丸味を有すTK209～217型式に比定できよう。2・3は内面ミガキの椀形杯。4は大形の杯身模倣杯で内面ミガキを施す。5は甕底部。2以外の遺物は床面直上などから出土し、住居跡の時期を示す資料となる。

44号住居跡（第83～85図、図版14・90）

位置　中央調査区東側。M16・N16。　**複合切り合い関係**　プラン北側で45住に、東側で46住にそれぞれ掘り込まれ全体の2分の1ほどを残す。　**平面形**　隅丸方形。　**主軸方位**　N－55°－W。　**床**



第81図　42号・43号住居跡と43号住居跡出土遺物



第82図　42号住居跡出土遺物

面規模　5.22m（主軸）×5.66m（副軸）。　推定床面積　29.13㎡。　残存壁高　0.31～0.40m。　カマド　北西辺中央。　床面　45住とほぼ同一レベルに有り、ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。　壁溝　幅５～９cm・深さ５cm前後。　覆土　黒色土が主体だが覆土上層にロームブロックを含む土層が見られる。また、壁際に焼土の堆積が確認でき火災住居の可能性も捨てきれない。　出土遺物　１は篦ケズリ甕底部。２は外面平行叩き目をナデ消す須恵器甕片。３・４は千葉市域産須恵器甕胴片。５・６は非ロクロ土師器杯。７は内面篦ナデで頸部がすぼまることから小形壺であろう。８・９は赤彩の高杯で８は長脚気味である。何れも覆土からの出土で１・３～６は46住からの混入と考えると７～９が本住居跡の共伴遺物と思われる。

45号住居跡（第83・86図、図版14・90）

位置　中央調査区東側。M16・N16。　複合切り合い関係　プラン南側で44住を大きく掘り込み、北隅を47住に大きく掘り込まれ検出。　平面形　方形。　主軸方位　N－60°－E。　床面規模　4.41m（主軸）×4.58m（副軸）。　推定床面積　19.90㎡。　残存壁高　0.26～0.35m前後。　カマド　北東辺に設けられたもと考えられ47住に削平される。　床面　ハードローム層上に形成され、平坦で堅緻である。　壁溝　幅10cm前後・深さ８cm前後で廻る。　覆土　ロームブロックを含む黒褐色土が主体を成す。

出土遺物　１は口唇摘み上げ口縁が水平に大きく開きシャープなヨコナデ整形である。２～７は須恵器片で６は千葉市域産甕片、７は壁に接し検出する。８は赤彩の杯蓋模倣杯。９はほぼ完形の内面ミガキの小形杯身模倣杯で床面直上の出土。10は杯内面ミガキの高杯。遺物出土位置から７・９・11が本住居跡に共伴する遺物である。

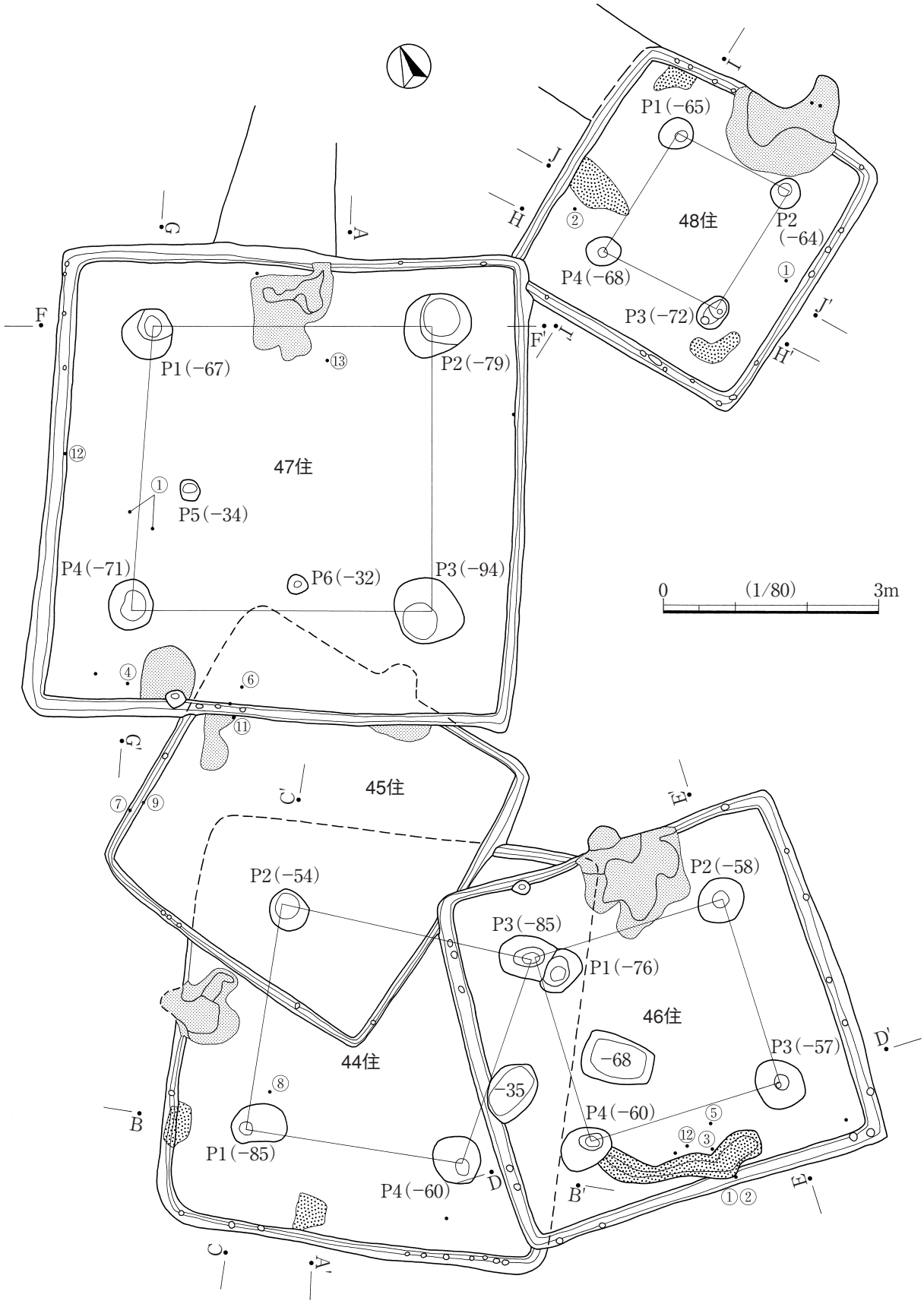
46号住居跡（第83・87図、図版14・91）

位置　中央調査区東側。N16・N17。　複合切り合い関係　プラン東側で45住を掘り込んで検出。　平面形　方形。　主軸方位　N－11°－E。　床面規模　4.96m（主軸）×5.16m（副軸）。　床面積　25.52㎡。　残存壁高　0.36～0.46m。　カマド　北辺中央。　床面　ハードローム層中に形成され、平坦で堅緻である。南側床面の南壁寄りに焼土が帯状に残る。　壁溝　幅10～17cm・深さ10～15cm。　覆土　不明。

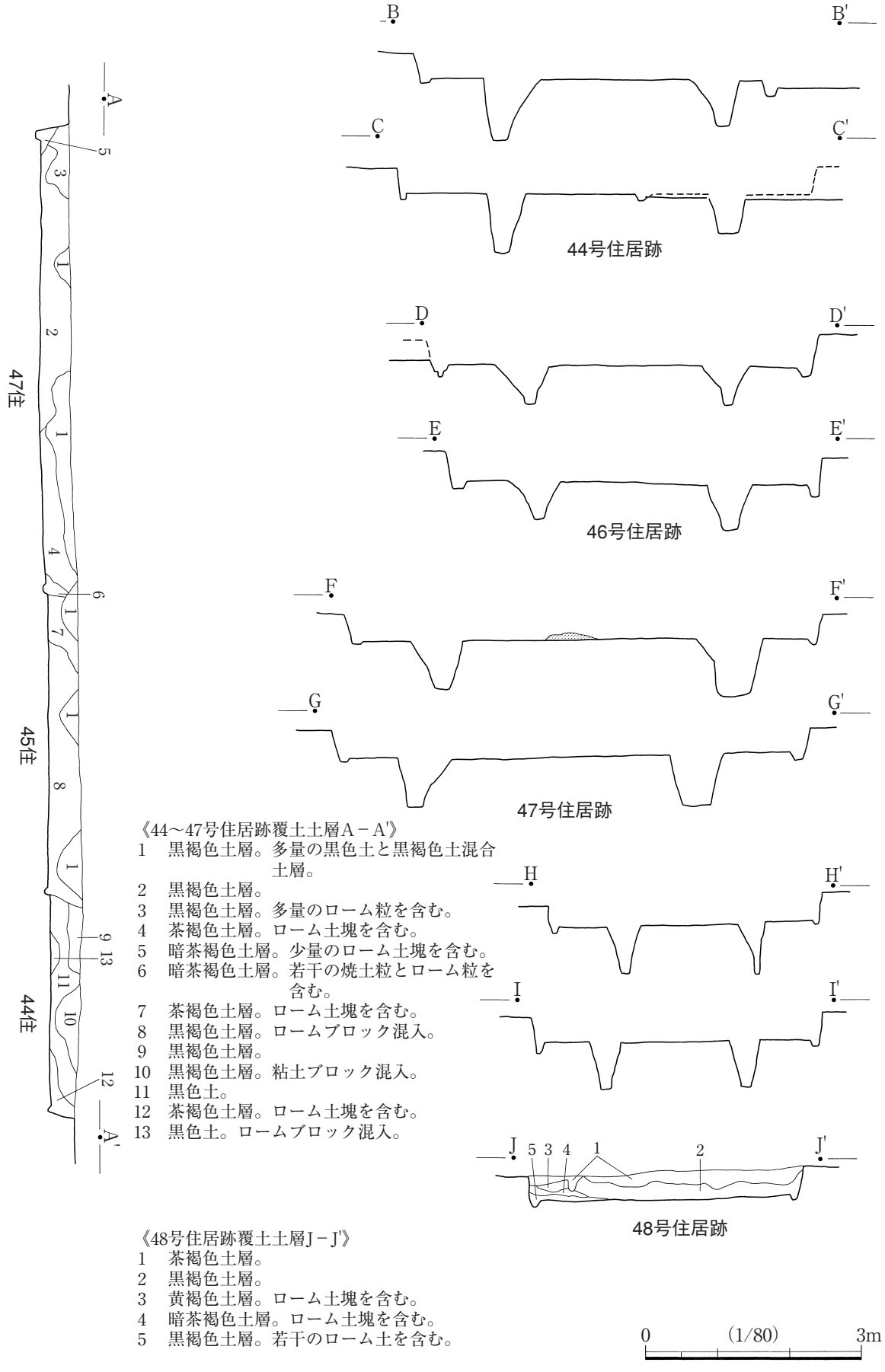
出土遺物　１・２は器肉が薄く胴外面横位ないし斜位の鋭い篦ケズリで武蔵型甕の影響を強く認める事ができる。３は須恵器甕胴片。４は小形で平底の須恵器杯。５～７はやや器高の低い体部および底部手持ち篦ケズリの非ロクロ土師器杯であるが暗文は施されていない。８・９は椀形の杯。10・11は杯身模倣杯で11の外面は赤彩。12は底部に回転糸切りを残し体部下端および底部周縁に手持ち篦ケズリを施す小形のロクロ土師器杯。13は手捏ね土器。住居跡と共伴する遺物は１・２が壁に接し、３・５・７・12がほぼ床面やカマド燃焼部から出土する。また44住の５・６の非ロクロ杯も本住居跡の遺物と見なすことができよう。

47号住居跡（第83・88図、図版14・91）

位置　中央調査区東側。M16・M17。　複合切り合い関係　プラン南辺で45住を大きく掘り込み、北



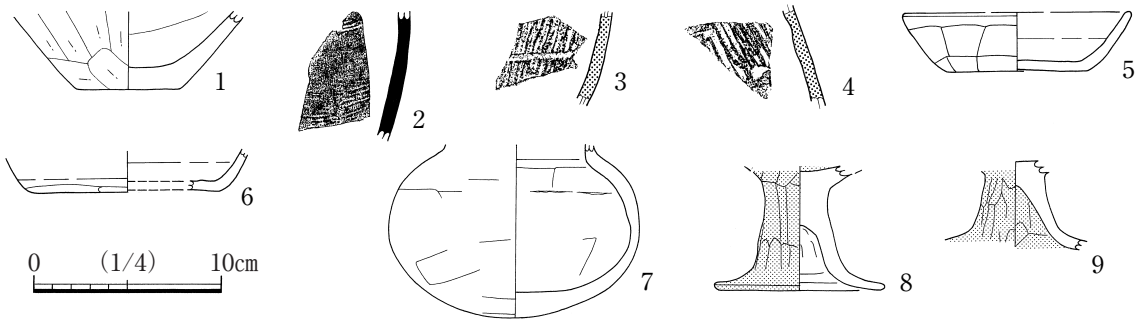
第83図　44号～48号住居跡



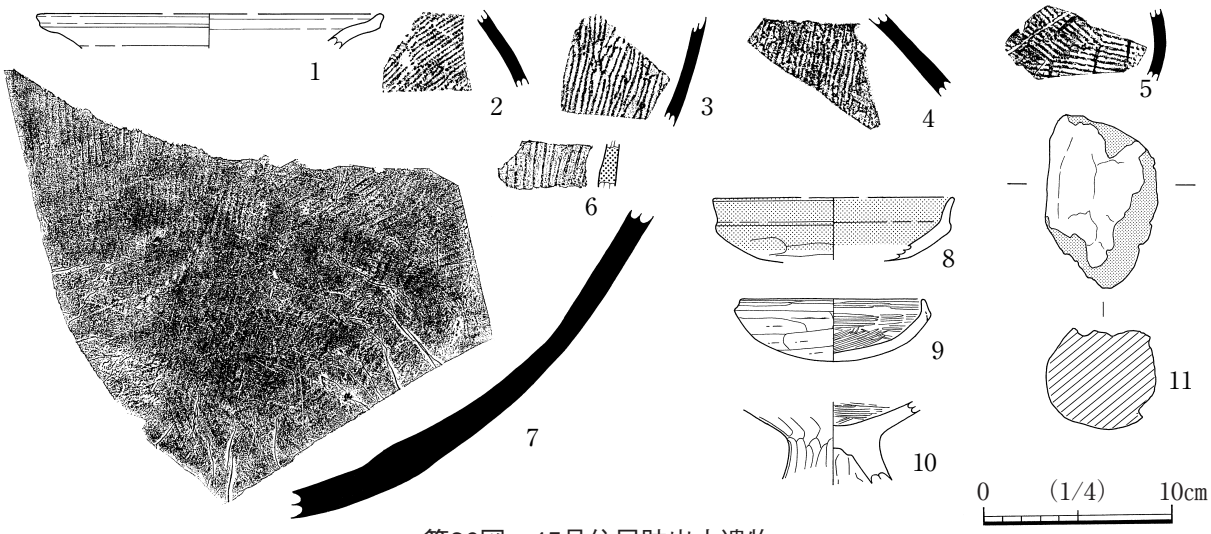
《44～47号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。多量の黒色土と黒褐色土混合土層。
2　黒褐色土層。
3　黒褐色土層。多量のローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
5　暗茶褐色土層。少量のローム土塊を含む。
6　暗茶褐色土層。若干の焼土粒とローム粒を含む。
7　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
8　黒褐色土層。ロームブロック混入。
9　黒褐色土層。
10　黒褐色土層。粘土ブロック混入。
11　黒色土。
12　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
13　黒色土。ロームブロック混入。

《48号住居跡覆土土層J－J'》
1　茶褐色土層。
2　黒褐色土層。
3　黄褐色土層。ローム土塊を含む。
4　暗茶褐色土層。ローム土塊を含む。
5　黒褐色土層。若干のローム土を含む。

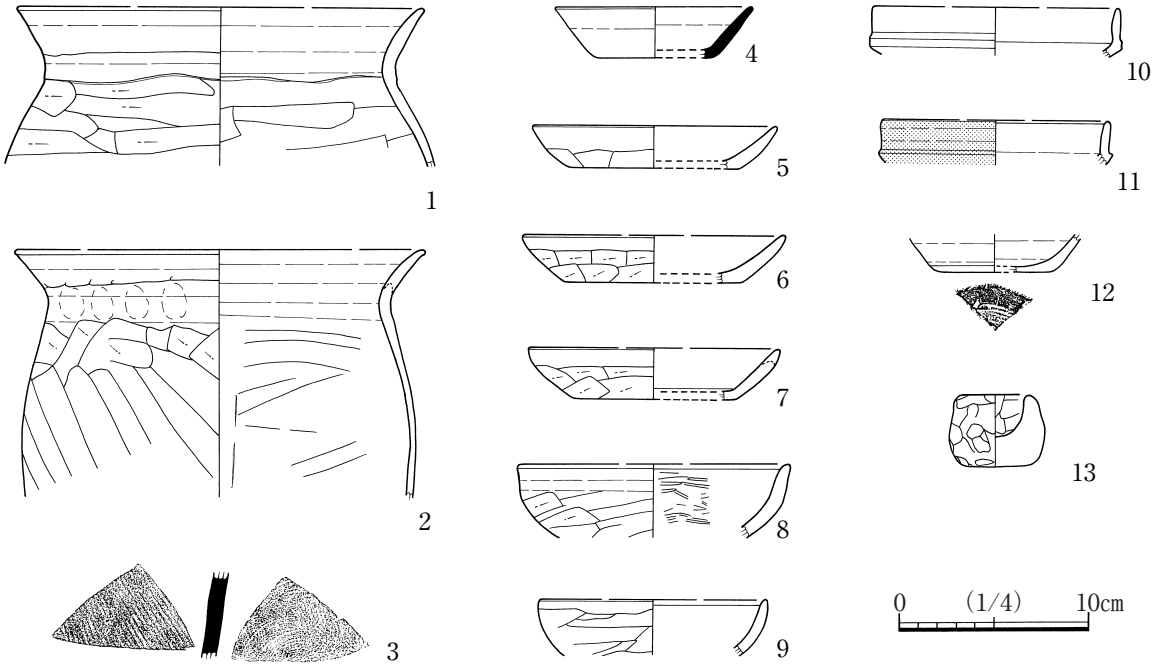
第84図　44号～48号住居跡土層断面図および断面図



第85図　44号住居跡出土遺物



第86図　45号住居跡出土遺物



第87図　46号住居跡出土遺物

東隅で48住を僅かに掘り込む。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－32°－E。　**床面規模**　6.36m（主軸）×6.55m（副軸）。　**推定床面積**　41.86㎡。　**残存壁高**　0.41～0.45m。　**カマド**　北東辺中央。　**床面**　ハードローム層上に形成され踏みしめられ平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅10～18cm前後・深さ６～９cmで廻る。　**覆土**　黒褐色土を主体とする。

出土遺物　１・２は胴外面縦位の篦ケズリ甕。３は須恵器甕片。４は小形の短頸壺で外面横位の篦ケズリを施す。５・６は須恵器蓋で天井部外面僅かに回転篦ケズリを施す。７・８は須恵器身でそれぞれ底部を欠損し７の下端には回転篦ケズリが観察できる。５～８の須恵器身と蓋はTK217型式期古相に比定できよう。９は赤彩の椀形杯。10は高杯脚基部。11は手捏ねのコップ形。12・13は表面に太い紐状の圧痕が残る土製支脚。遺物出土位置は、１・２・４・６・12・13が床面やカマド燃焼部から出土する。また、覆土中から出土した５・７・８の須恵器も同様に扱える。本住居跡の所属時期にはこの須恵器杯類が当てられよう。

48号住居跡（第83・89図、図版15・91）

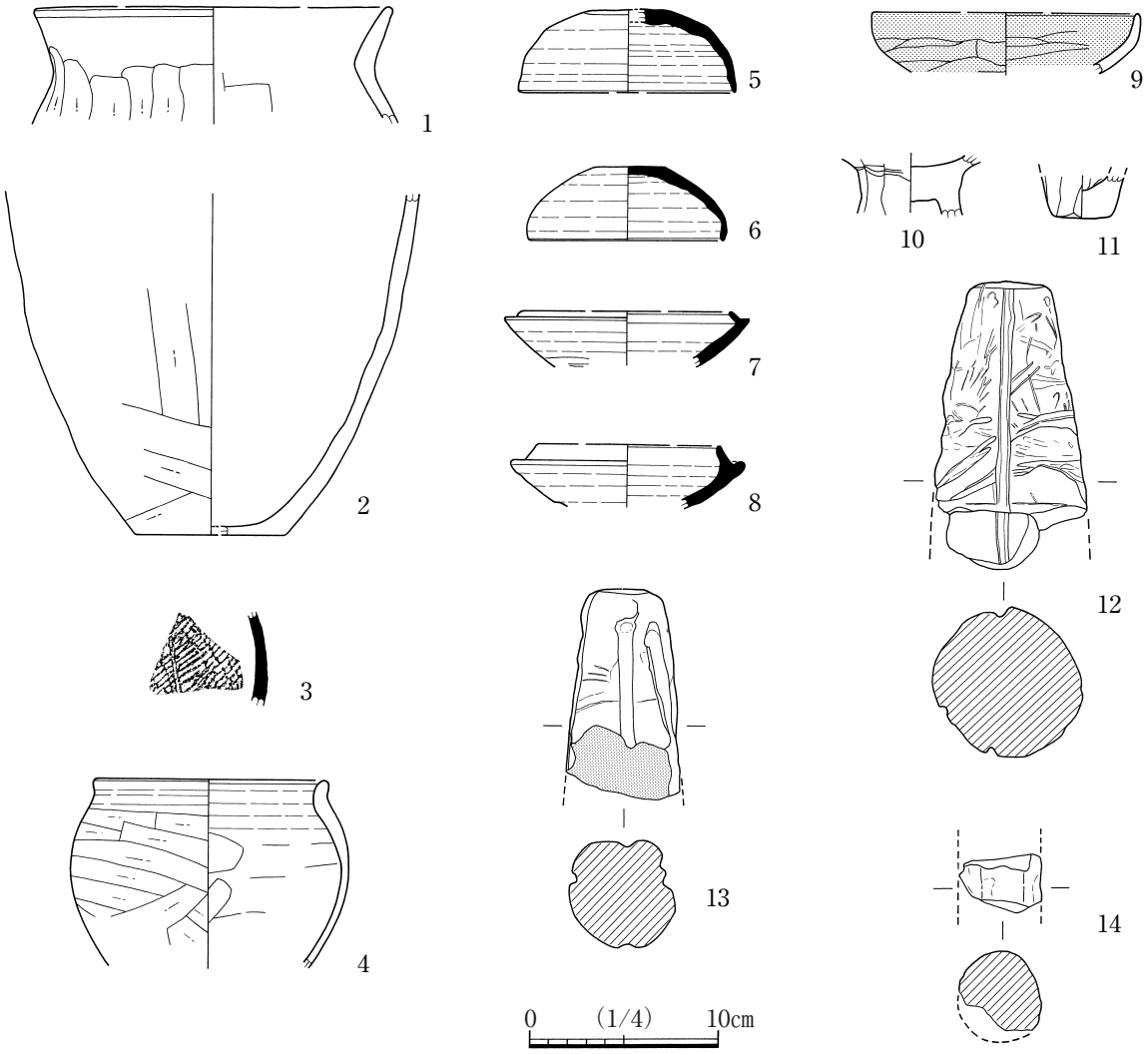
位置　中央調査区東側。L15。　**複合切り合い関係**　西隅で47住西隅を僅かに掘り込み検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－58°－E。　**床面規模**　3.96m（主軸）×3.76m（副軸）。　**床面積**　14.45㎡。　**残存壁高**　0.35～0.42m。　**カマド**　北東辺中央より南側に設置。　**床面**　ハードローム層上に形成され踏みしめられ平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅10～15cm・深さ９cm前後で廻る。　**覆土**　黒褐色土を主体とし概ね自然堆積状況を示すものと思われ、床面には焼土がみられ火災住居の可能性もある。

出土遺物　１は外面縦位篦ケズリ甕で口縁外面に指頭圧痕が認められる。２・３は外面篦ナデの甕。４は外面と口縁内面に赤彩を施した短頸壺。５は赤彩の椀形高杯の脚。６は円柱状の土製支脚。２・３がほぼ床面から出土し時期判断の根拠となるが明確さを欠く。

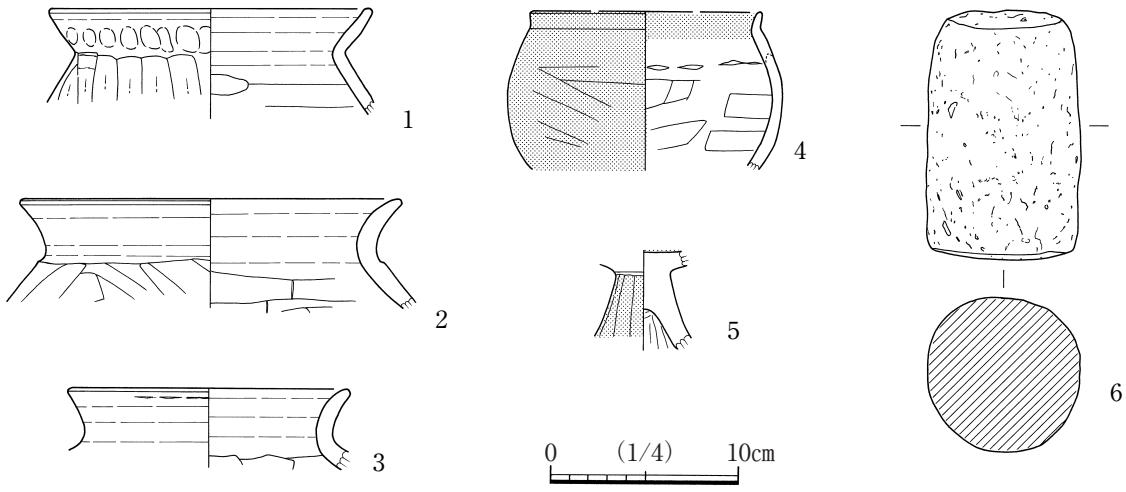
49号住居跡（第90・91図、図版15・92）

位置　中央調査区東側。L17。　**複合切り合い関係**　プラン南西で50住を大きく掘り込み重複し、北辺から東辺を調査区域外に置く。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－30°－W。　**床面規模**　6.98m（主軸）×6.81m（副軸）。　**推定床面積**　46.95㎡。　**残存壁高**　0.38～0.54m。　**カマド**　北西辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成され踏みしめられ平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅５～10cm・深さ10cm前後で廻る。　**覆土**　ロームブロックを含み東側から埋め戻されて状況を呈する。また、床面南辺と西辺の中央に床に接し焼土の堆積が見られる。

出土遺物　１は外面篦ナデの平底の球胴甕。２は外面篦ナデで底部柱状に突出する甕底部。３は底部出尻気味の甕底部。４は胴外面ケズリ状の篦ナデによる甑。５はやや雑な整形の鉢。６は内面ミガキの大形椀。７は須恵器蓋で天井部外面を広く回転篦ケズリを施し、TK209型式期に比定できよう。８は内黒ミガキの椀形杯。９は鈍い稜の杯身模倣杯。10は小形の半円球状で口縁内傾する杯。11は底体部の張り内面ミガキの杯身模倣杯。14は側面に敲打、正面と背面にミガキを残す敲打石である。遺物出土位置は、２・５・７・10・11・14がほぼ床面から出土し、他は覆土からの検出である。住居跡の時期判断には７～11の杯類が当てられる。



第88図　47号住居跡出土遺物



第89図　48号住居跡出土遺物

50号住居跡（第90・92図、図版15・92）

位置　中央調査区東側。L17。　複合切り合い関係　プラン大部分を49住に掘り込まれ南東辺と南西辺を残すだけである。　平面形　方形。　主軸方位　N－30°－W？　推定床面規模　一辺5.3m。　推定床面積　26.0㎡。　残存壁高　0.27m前後。　カマド　北西辺中央。　床面　ソフトローム層中に形成され踏みしめられ平坦である。　壁溝　西南辺幅５～10cm・深さ10cm前後で廻る。　覆土　覆土下層および床面状上に多量の焼土が点在し、火災住居の可能性が強い。

出土遺物　１は胴外面縦位の箆ケズリ甕。２は外面不規則な箆ケズリ甕。３はケズリ甕底部。４は外面縦位の箆ケズリの甑。５は須恵器提瓶の胴片。６・７は口縁外面と内面に赤彩施す模倣杯で、６は杯身模倣、７は杯蓋模倣杯。８は土製支脚断片。９は側面に敲打正面と背面にミガキを残す敲打石。土器は全て覆土出土で共伴遺物が明確でないが、49住７～11と50住６・７の杯類を見ると時期差が明瞭となり切り合い関係にも矛盾しない点を考慮するなら、本住居跡の時期判断には６・７の赤彩の模倣杯を当てることができる。

51号住居跡（第93図、図版15・92）

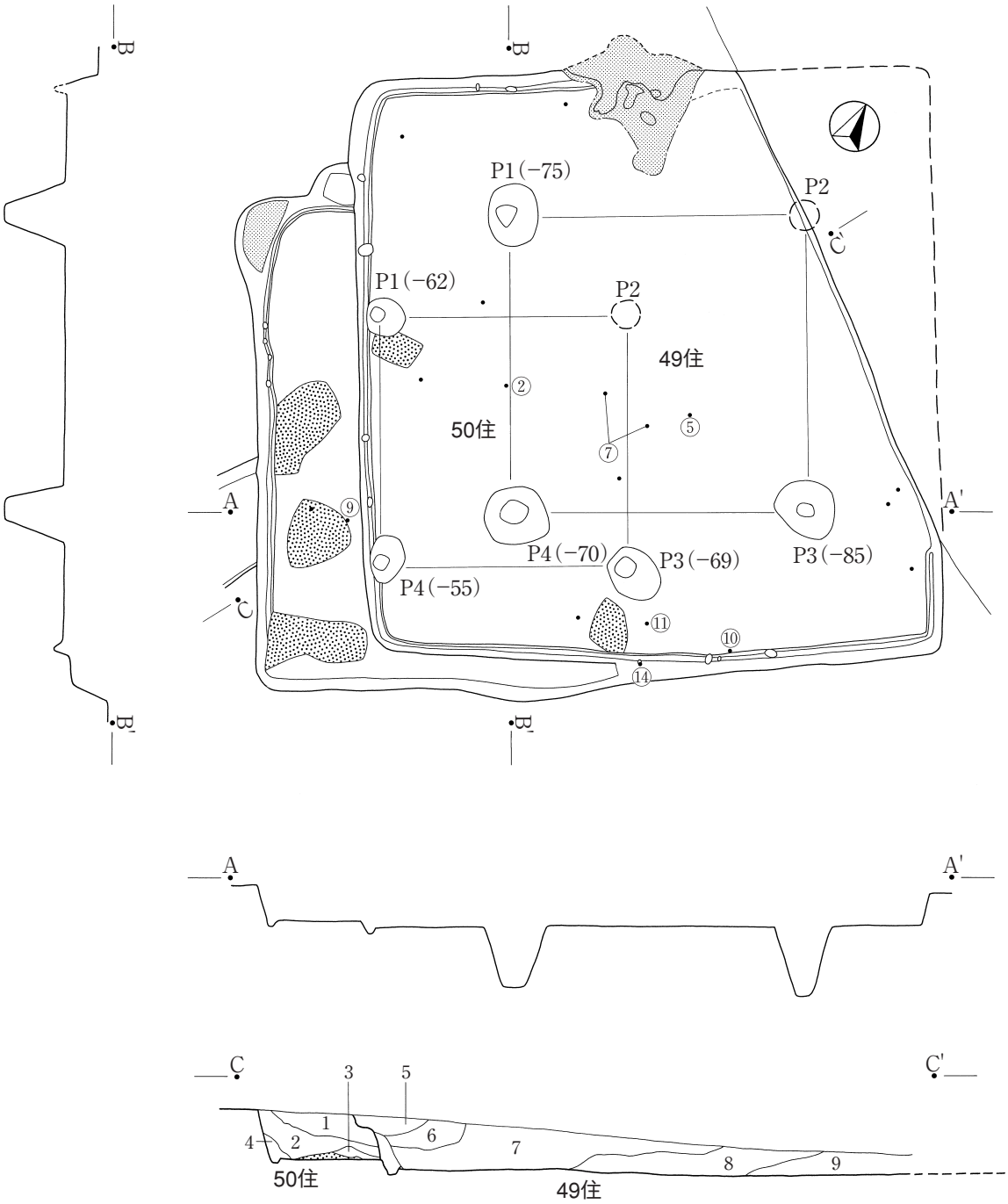
位置　中央調査区東端。M18。　複合切り合い関係　南隅で僅かに52住と接するがほぼ単独で検出する。　平面形　隅丸方形。　主軸方位　N－53°－E。　床面規模　3.85m（主軸）×4.00m（副軸）。　床面積　15.38㎡。　残存壁高　0.23～0.37m。　カマド　北東辺南より。　床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻あるが、カマド周辺特に前面は凹凸が激しい。　壁溝　幅10～15cm・深さ５cm前後で廻る。　覆土　床面直上の土層には焼土粒を含み且つ南隅には広範囲に焼土が堆積し火災住居と思われる。

出土遺物　１は胴外面箆ナデを施す球胴甕。２・３は外面箆ナデ甕で３はやや小形。４・５は赤彩の椀形高杯。６は赤彩の椀か。７は紐状の圧痕が強く残す土製支脚断片。８は敲打石。遺物出土位置は、１・５がカマド燃焼部、２・３・４が床面から出土している。

52号住居跡（第94～96図、図版15・93）

位置　中央調査区東端。M17・M18・N17・N18。　複合切り合い関係　南東隅で僅かに53住と接するがほぼ単独で検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－26°－W。　床面規模　8.02m（主軸）×7.92m（副軸）。　床面積　63.49㎡を計測し集落跡中最大規模を誇る。　残存壁高　0.36～0.54m。　カマド　北西辺中央。　床面　総体的に凹凸が目立つが堅く踏みしめられ、特に中央部は堅緻である。　壁溝　幅11～13cm・深さ７cm前後で廻る。　覆土　床面直上の土層には焼土粒を含み壁よりの床面上には焼土の堆積が数カ所確認でき火災住居と思われる。

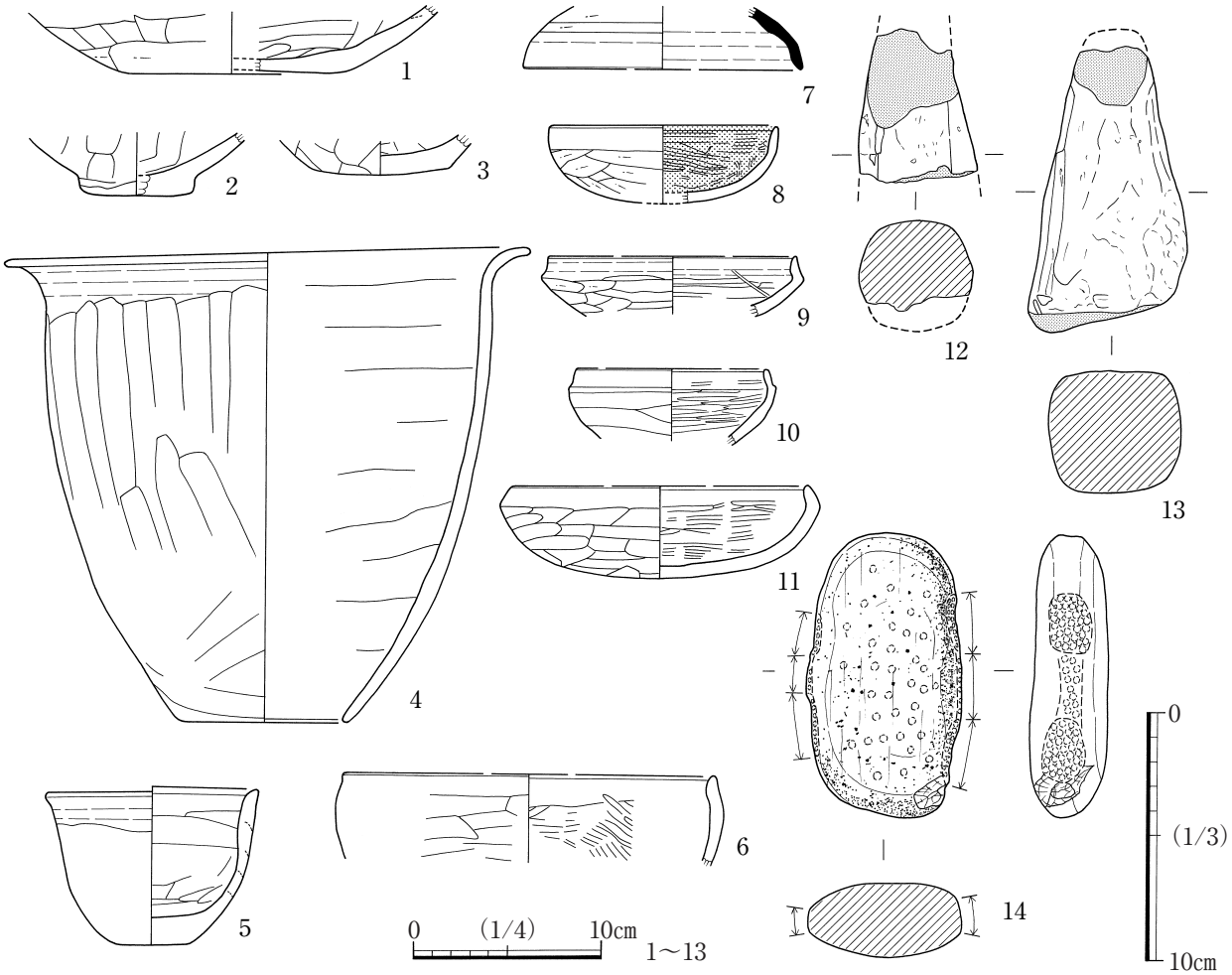
出土遺物　１～３は頸部口縁が外反する胴外面縦位の箆ケズリ甕。４・５は無頸で口縁が開く、外面縦位箆ケズリで甕ないし甑であろう。６～10は甕底部、６・９・11は球胴系甕底部で10は柱状で突出し木の葉を残す。11は平底で外面不規則な箆ケズリの甕。12は丸底のケズリ甕。13は小形鉢か。14は須恵器甕胴片。15～18は須恵器身。15・16は底部の箆ケズリも狭く受部引き出しも短くTK217形式期の古相段階に比定できよう。20は扁平な半円状杯。21～24は口縁が「く」の字に内傾する杯蓋模倣杯。25は内外面ミガキの半円状坏。26・27は大形の鉢で平底か。28は内面黒色処理でミガキの鉢形を



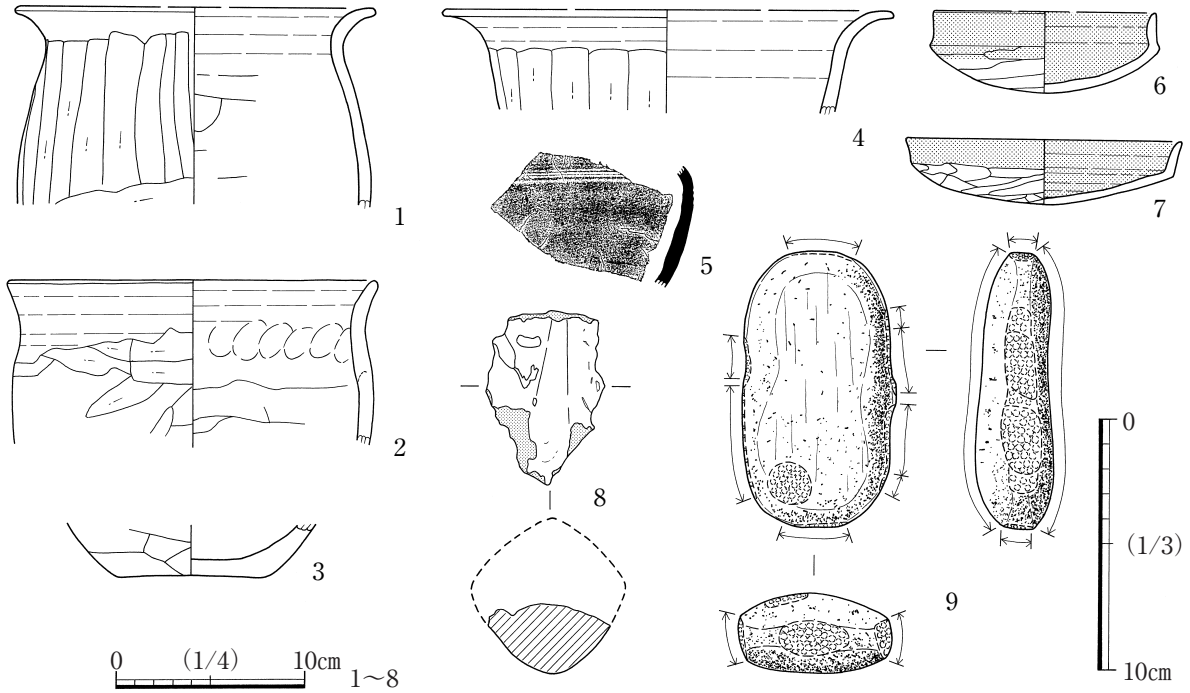
《49・50号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。少量のローム粒を含む。
2　黒色土層。
3　黒褐色土層。ブロック状に粘土を混入。
4　茶褐色土層。焼土とローム粒を含む。
5　黒褐色土層。
6　黒褐色土層。木の根（攪乱）。
7　黒褐色土層。ローム粒を含む。
8　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
9　茶褐色土層。ローム土塊を多く含む。

0　(1/80)　3m

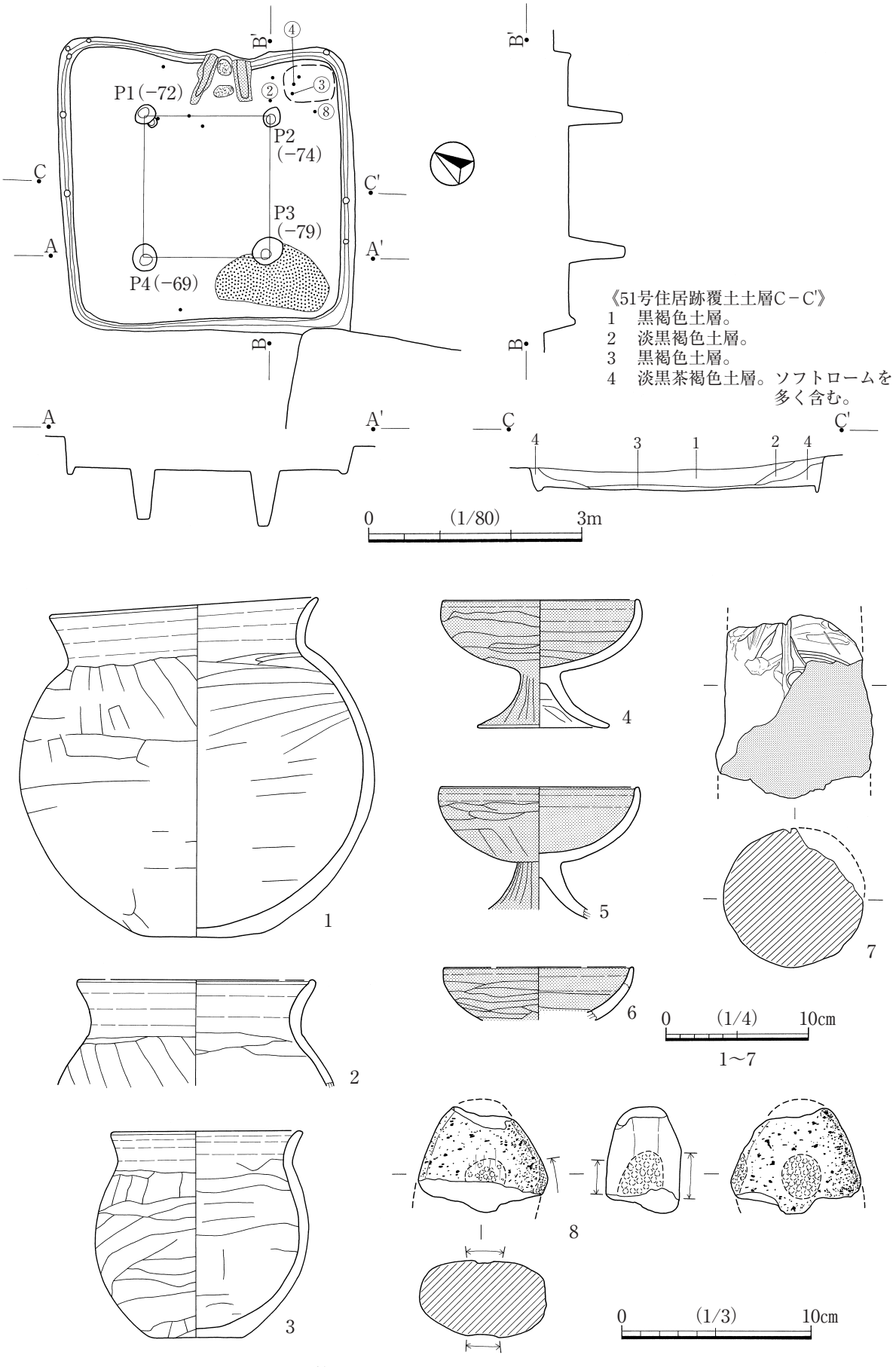
第90図　49号・50号住居跡



第91図　49号住居跡出土遺物



第92図　50号住居跡出土遺物



第93図　51住居跡と出土遺物

呈する。29は内面ナデの小形椀。30～33は高杯で34は赤彩。35は土製支脚。36は軽石の磨石である。遺物出土位置は、２・35がカマド燃焼部、１・６・11・15・21・23が床面直上、４・12・16・17・20・26・28・32・33がほぼ床面から出土している。また、覆土中出土の18・19・22等も住居跡の帰属を示す資料となろう。28・34は混入遺物と見なした方がよかろう。

53号住居跡（第94・97図、図版16・94）

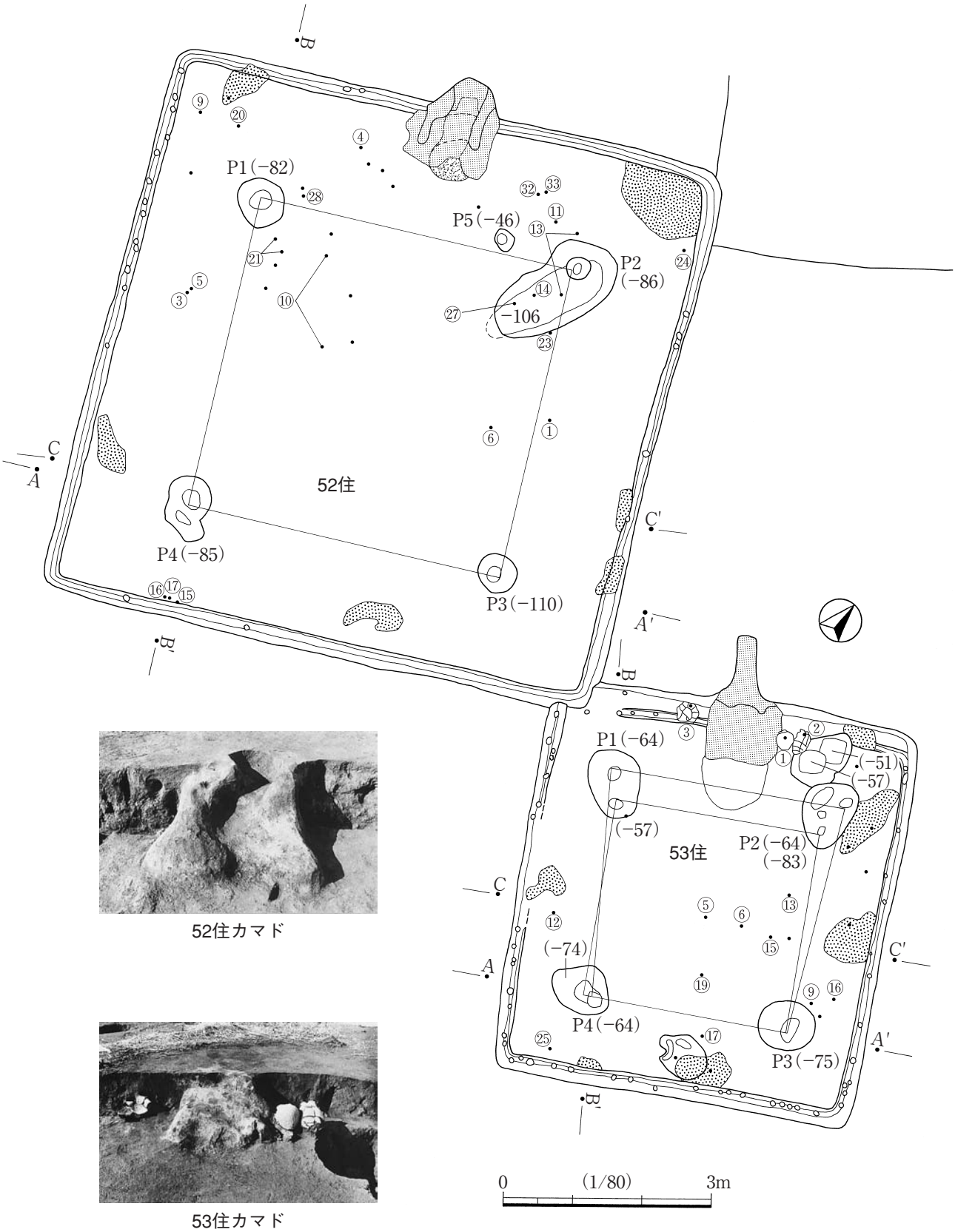
位置　中央調査区東端。N18・N19。　**複合切り合い関係**　西隅で52住と僅かに接するがほぼ単独で検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－29°－W。　**床面規模**　5.32m（主軸）×5.12m（副軸）。　**床面積**　27.10㎡。　**残存壁高**　0.40～0.45m。　**カマド**　北西辺中央に敷設され、煙道部壁から１mほど突出する。　**床面**　ハードローム層中に形成され南側が良く踏みしめられているがその他はさほどの堅さではない。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ10cm前後で廻る。　**覆土**　上層にはロームブロックを含む層位が、床面直上には焼土粒を含む層位が広範囲に堆積し火災住居と思われる。また、本住居跡は主柱穴底面に２カ所以上の底面を有し、柱位置からも建て替えにより拡張されたものと判断できる。

出土遺物　１は口径値（器高÷口径）1.27・胴径値（器高÷胴径）1.13、２は口径値1.80・胴径値1.41、３は口径値1.93・胴径値1.58をそれぞれ計測する胴外面縦位の箆ケズリ甕である。４も同種のケズリ甕口縁である。５は口頸部が「コ」の字状を呈し口縁水平に開く大形甕。６も口頸部「コ」の字状で肩の張りが強い。７は須恵器身でTK217型式古段階に比定できよう。８～12は杯蓋模倣杯。９は有段口縁杯。10は内外面ミガキ。13～15は杯身模倣杯。13には赤彩を施す。16は内外面ミガキの椀形杯。17・18は鉢。19は外面箆ナデだが甕の可能性もある。20は口縁が水平に開く小形鉢。22は手捏ね土器。24は軽石の磨石。25は刀子である。遺物出土位置は、１・２はカマド右側床面直上、３はカマド左床面直上、４・20がカマド燃焼部、17・19・25が床面直上から出土し、他の遺物は覆土中からの検出である。覆土検出の７～15の杯類の内、13は混入遺物で他は住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。

54号住居跡（第98・99図、図版16・94）

位置　中央調査区東端。O18。　**複合切り合い関係**　東隅で僅かに55住と接する。　**平面形**　隅丸方形。　**主軸方位**　N－21°－W。　**床面規模**　3.96m（主軸）×4.04m（副軸）。　**床面積**　15.57㎡。　**残存壁高**　0.19～0.29m。　**カマド**　北辺中央。　**床面**　ソフトローム層上に形成されほぼ平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ10cm前後で廻る。　**覆土**　焼土混入土層が厚く確認される。またロームブロックを含む層位も広範囲に堆積し火災住居と思われる。

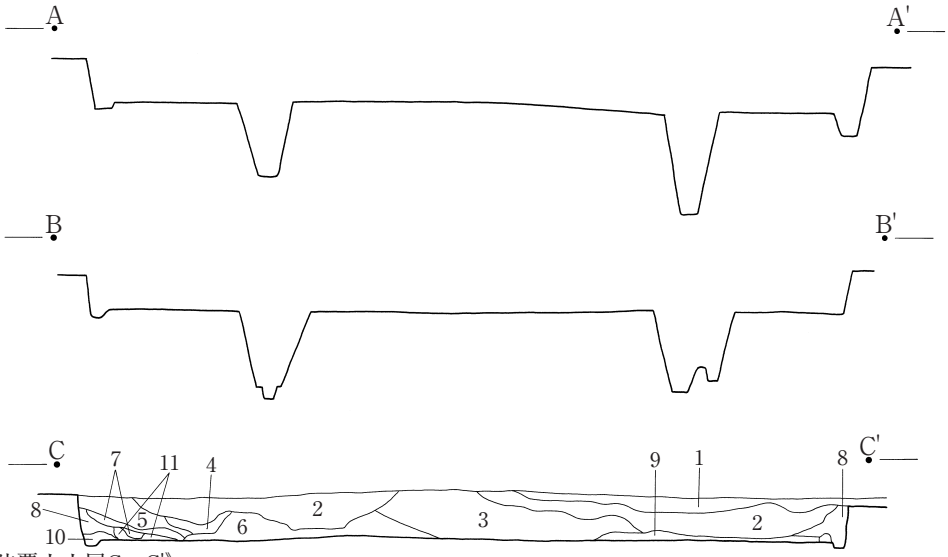
出土遺物　１は口唇部「コ」の字状のシャープな甕。２・３は球胴甕の底部片。４・５は稜の鈍い杯身模倣杯で、４の内面はミガキを施す。６は底部と体部に手持ち箆ケズリを施すロクロ土師器杯。７は千葉市域産須恵器杯。８は４面に仕様痕のある鉄器用砥石。覆土中の出土遺物が多いが、６のロクロ土師器がカマド左袖の粘土中から出土することから、１・６・７・８が住居跡に共伴する資料となろう。他の遺物は混入品である。



52住カマド

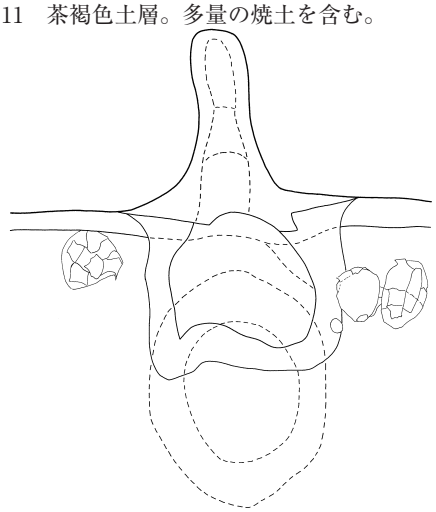
53住カマド

第94図　52号・53号住居跡



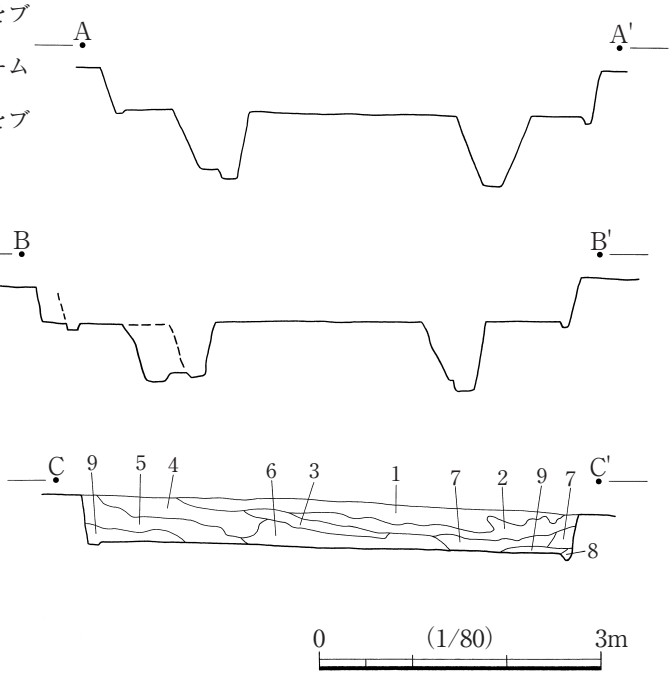
52号住居跡

《52号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。表土直下土層で汚れている。
2　黒褐色土層。多量の炭化物が廃棄された状態で混入する。
3　淡黒褐色土層。ソフトロームと黒色土混合土層。
4　淡黒褐色土層。若干のソフトとハードロームをブロック状に含む。
5　淡黒褐色土層。やや多めのソフトとハードロームをブロック状に含む。
6　淡黒褐色土層。多量のソフトとハードロームをブロック状に含む。
7　茶褐色土層。若干の焼土を含む。
8　黒褐色土層。
9　茶褐色土層。やや多めの焼土を含む。
10　明茶褐色土層。ロームブロック土層。
11　茶褐色土層。多量の焼土を含む。



0　(1/40)　1m

53号住居跡カマド

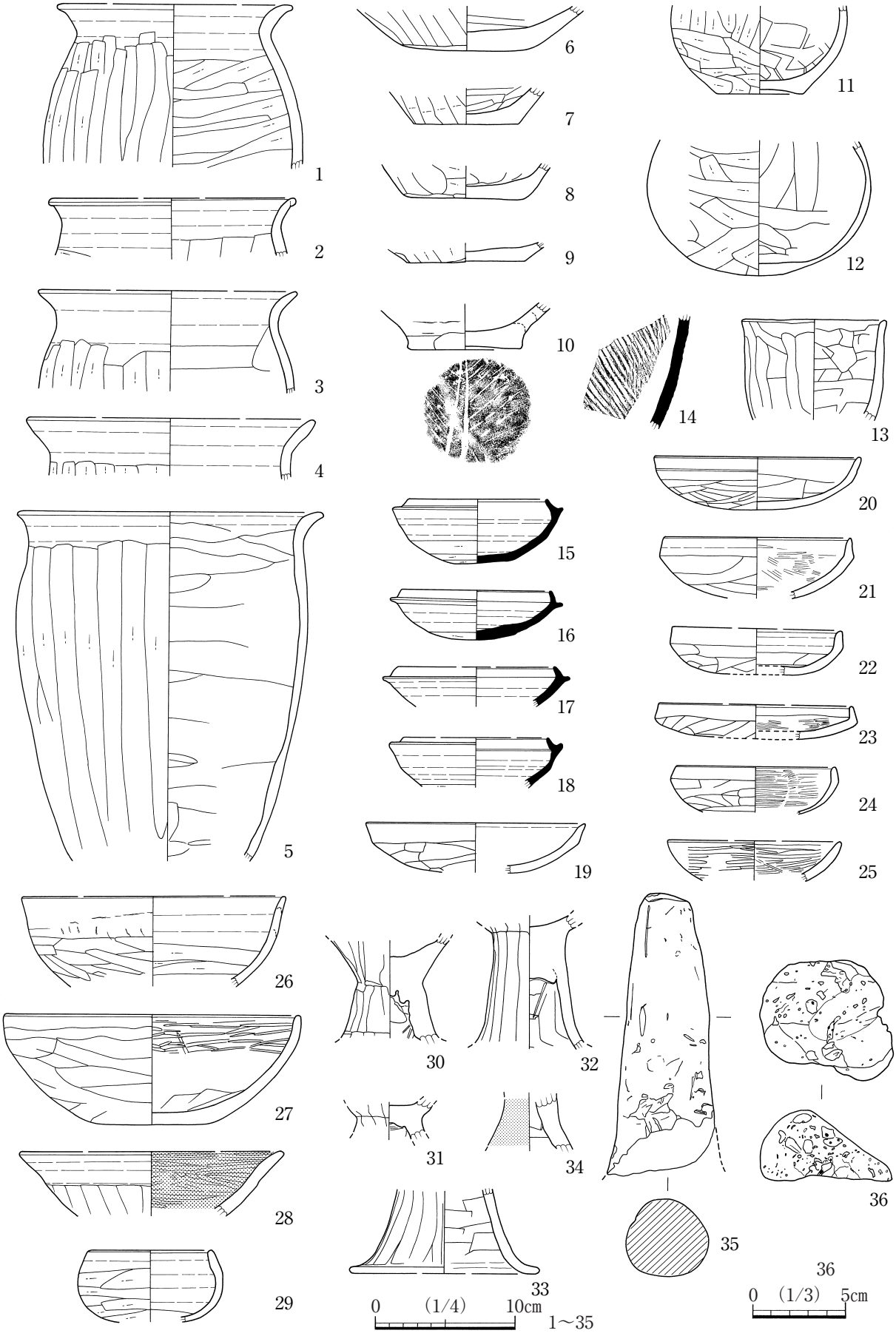


0　(1/80)　3m

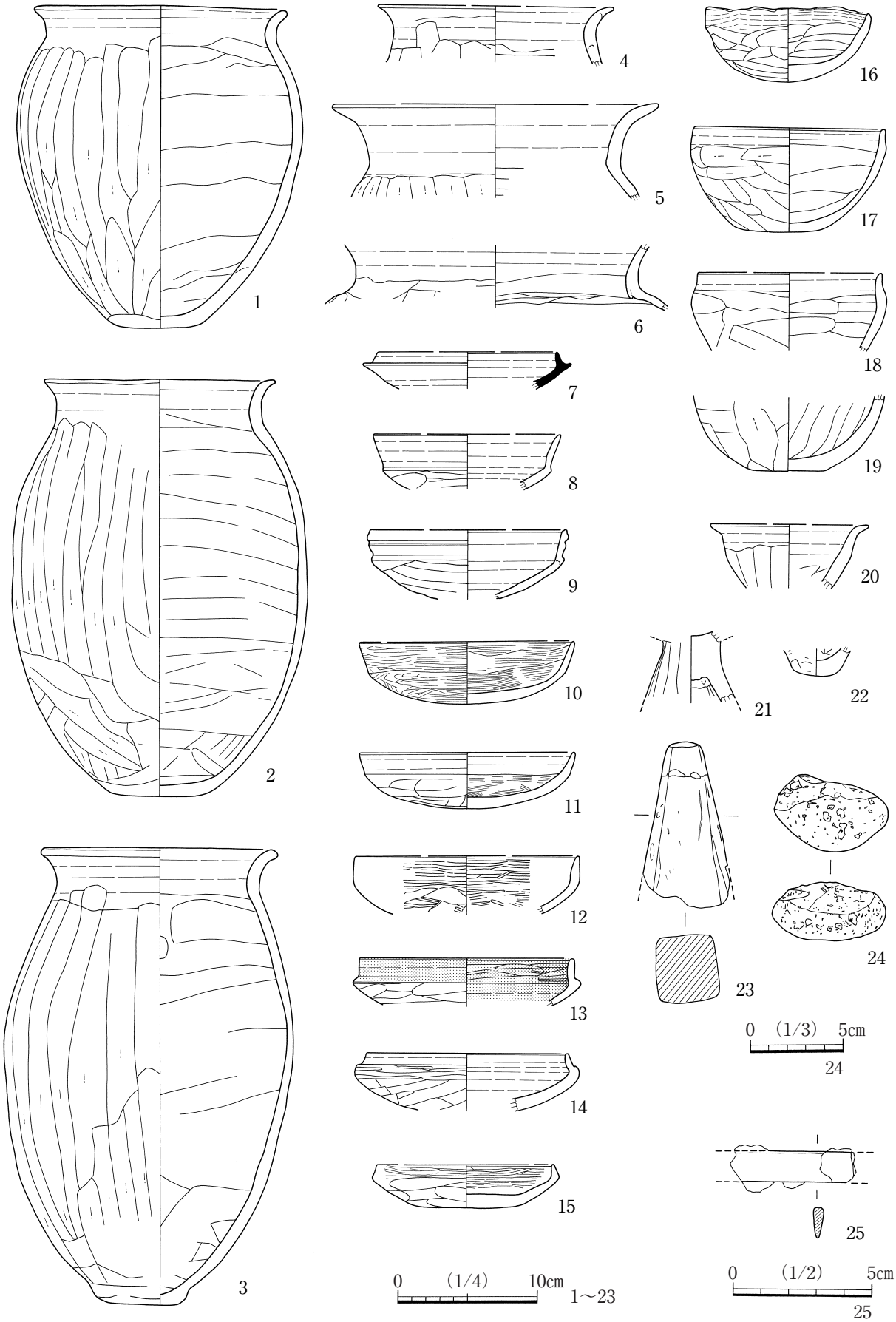
53号住居跡

《53号住居跡覆土土層C－C'》
1　茶褐色土層。ローム土塊を多く含む。
2　茶褐色土層。焼土とロームを含む。
3　黒色土層。ローム土塊を含む。
4　黒色土層。3層に似る。
5　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
6　茶褐色土層。ローム土塊を多く含む。
7　黒褐色土層。
8　黄褐色土層。
9　茶褐色土層。焼土を多量に含む。

第95図　52号・53号住居跡土層断面図とカマド



第96図　52号住居跡出土遺物



第97図　53号住居跡出土遺物

55号住居跡（第98・100図、図版16・95）

位置　東調査区北西端。O18。　複合切り合い関係　北西隅で僅かに54住と接し、南東隅で57住に大きく掘り込まれ、南側上層に56住が覆土中に床面を置く。また、性格不明の溝状遺構に床面を大きく攪乱され遺存状態は不良である。　平面形　方形。　主軸方位　N－62°－E？　床面規模　5.56m（主軸）×5.62m（副軸）。　推定床面積　31.18㎡。　残存壁高　0.31～0.36m。　カマド　北東辺に設けられたと思われるが溝状遺構に攪乱削平される。　床面　ハードローム層中に形成されるが残存部分の壁寄りは平坦であるがやや軟弱である。　壁溝　幅11cm前後・深さ9cm前後で廻る。　覆土　床面上の数カ所に焼土の堆積が確認されるが火災の住居の可能性を残すに留まる。

出土遺物　1は外面縦位の箆ケズリの中胴甕。2は外面ケズリ状の箆ナデの中胴甕。4は須恵器甕口頸部片。5は椀形杯。1・2はほぼ床面から出土するが、他の遺物は覆土からの検出である。

56号住居跡（第98・101図、図版95）

位置　東調査区北西端。O18。　複合切り合い関係　55住の南側プラン内にほぼ重複し、55住とほぼ床面を同一レベルに置く。　平面形　長方形。　主軸方位　（長軸）N－38°－W？　床面規模　3.96m（長軸）×3.34m（短軸）。　推定床面積　12.83㎡。　残存壁高　0.36m前後。　カマド　検出されない。　床面　詳細不明。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。

出土遺物　1は口縁水平に開く胴縦位のケズリ甕。2・3は出尻気味の須恵器有台椀。4は回転箆ケズリの無台杯である。本住居跡の帰属は1・2が資料となろう。

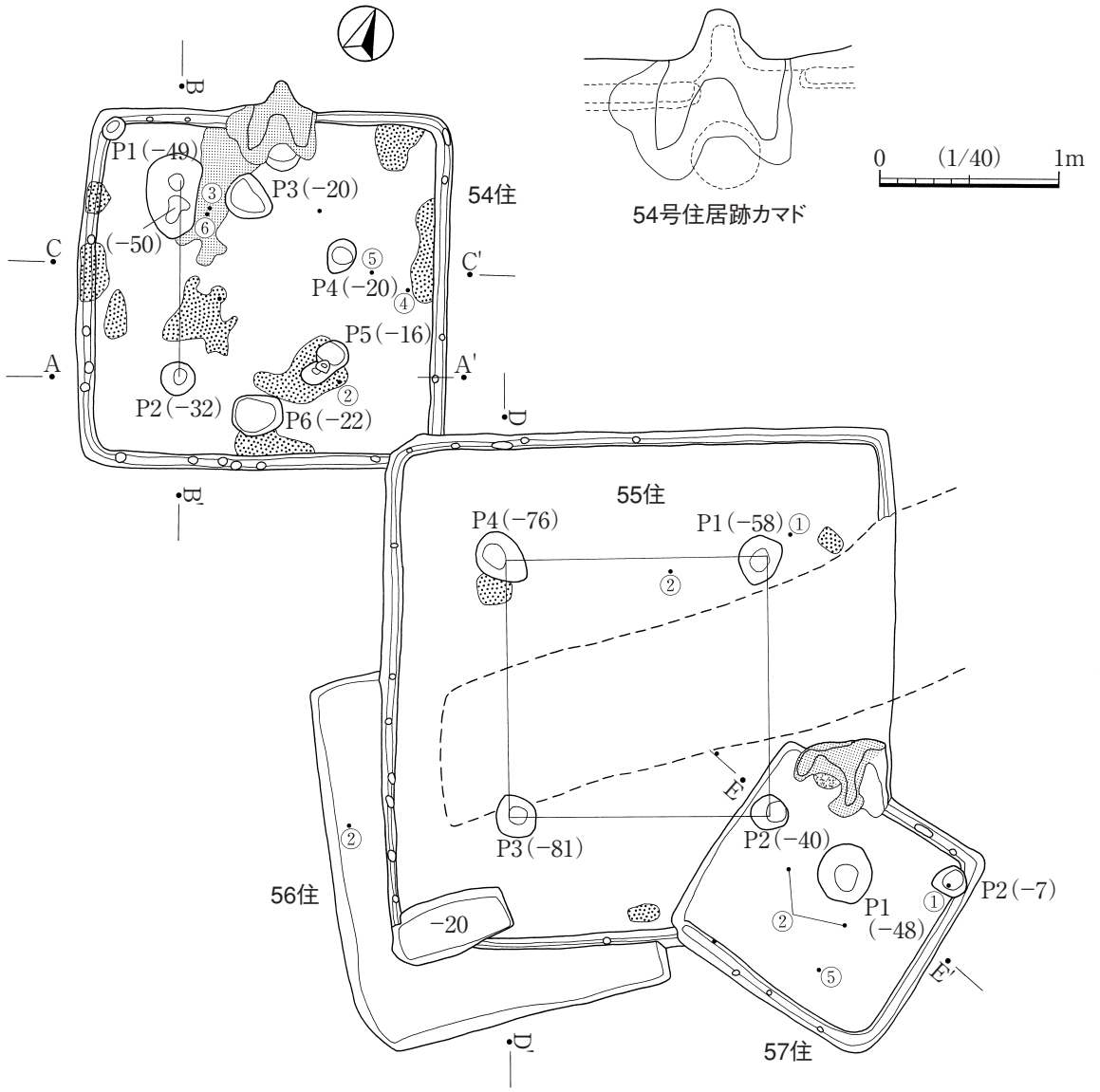
57号住居跡（第98・102図、図版95）

位置　東調査区北西端。O18・O19。　複合切り合い関係　55住の東隅を大きく掘り込んで検出する。　平面形　隅丸方形。　主軸方位　N－10°－E。　床面規模　2.54m（主軸）×2.64m（副軸）。　床面積　6.51㎡。　残存壁高　0.40～0.47m。　カマド　北辺西隅に接する。　床面　ハードローム層中に形成され比較的堅く踏みしめられている。　壁溝　幅13～15cm・深さ7cm前後を計測し、西壁以外で廻る。　覆土　不明。

出土遺物　1・2は口縁の大きく開く縦位の箆ケズリ甕。3は口縁直立気味で僅かに外傾し、胴外面雑な箆ケズリの甕。4は甑で胴外面箆ケズリを残す箆ナデを施す。5は須恵器甕片。6は杯蓋模倣杯の最終段階の杯であろう。7は内面ミガキの平底の杯。8はカマドの補強部材に使用されたと考えられる1枚造りの平瓦である。遺物出土位置は、3・4がカマド燃焼部、1・2・7・8がほぼ床面出土で、覆土検出の9の手鎌も住居跡に共伴する遺物と見なしてよかろう。

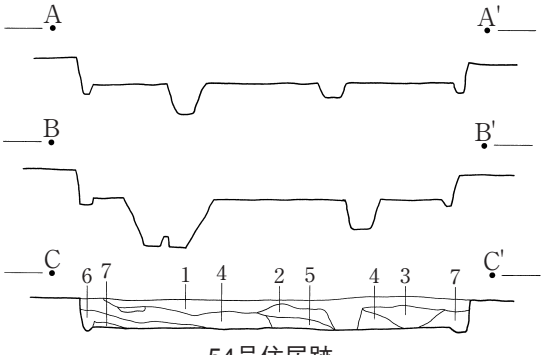
58号住居跡（第103・104図、図版95）

位置　東調査区北西側。N19・O19。　複合切り合い関係　プラン北東側を59住に大きく掘り込まれる。　平面形　方形。　主軸方位　N－59°－E。　床面規模　4.72m（主軸）×4.62m（副軸）。　推定床面積　21.95㎡。　残存壁高　0.19～0.31m。　カマド　北東辺に設けられたと思われるが59住に削平される。　床面　ソフトローム層中に形成され、張床で余り堅く踏みしめられていない。　壁溝　幅10cm前後・深さ13～15cmで残存部分は廻る。　覆土　不明。

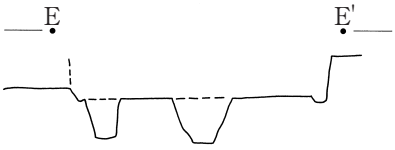


54号住居跡カマド

0 (1/40) 1m

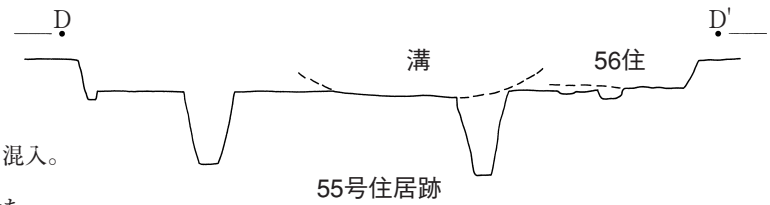


54号住居跡



57号住居跡

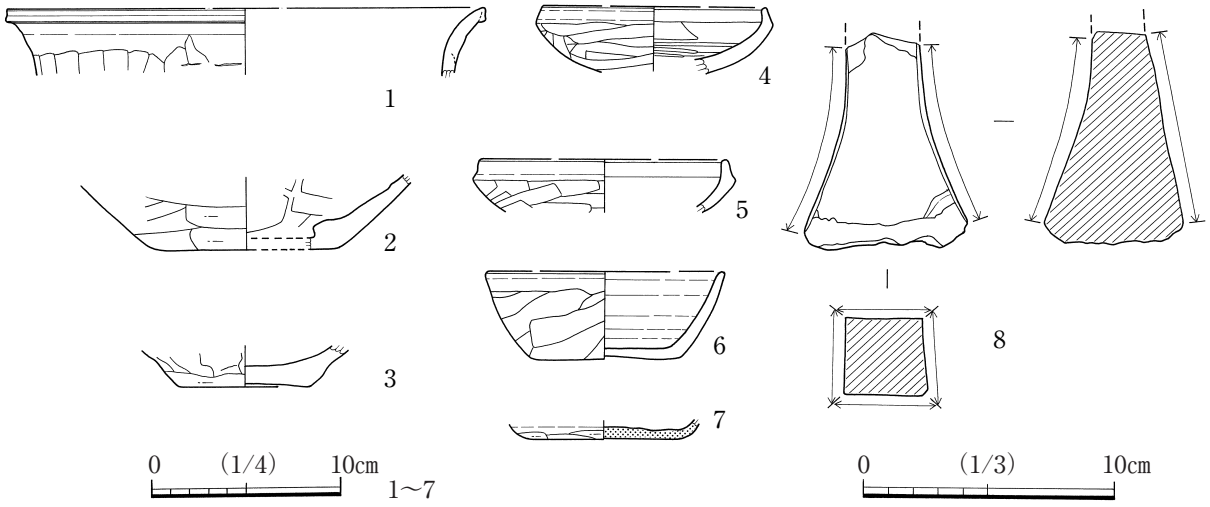
0 (1/80) 3m



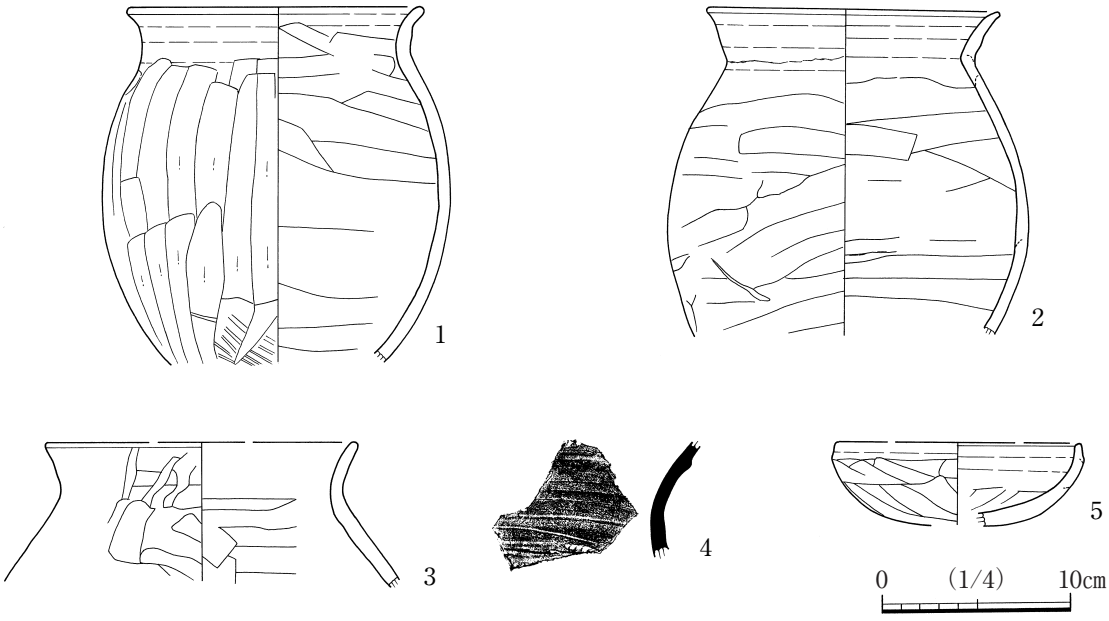
55号住居跡

《54号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黄褐色土層。ロームブロック混入。
3　茶褐色土層。若干のロームブロック混入。
4　茶褐色土層。焼土が全体に混入。
5　黒褐色土層。木炭と焼土を多量に含む。
6　黒褐色土層。ロームブロックと焼土粒を多量に含む。
7　焼土層。

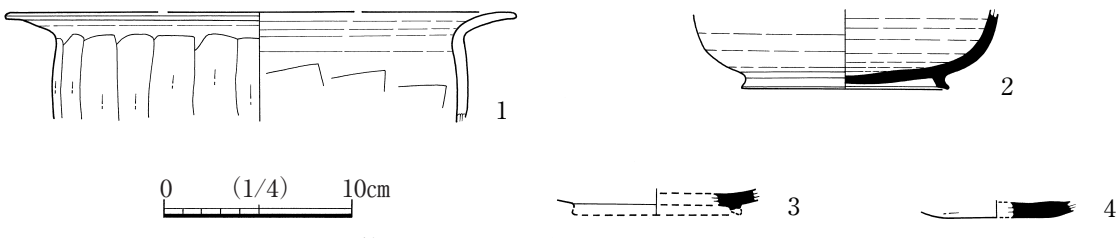
第98図　54号～57号住居跡



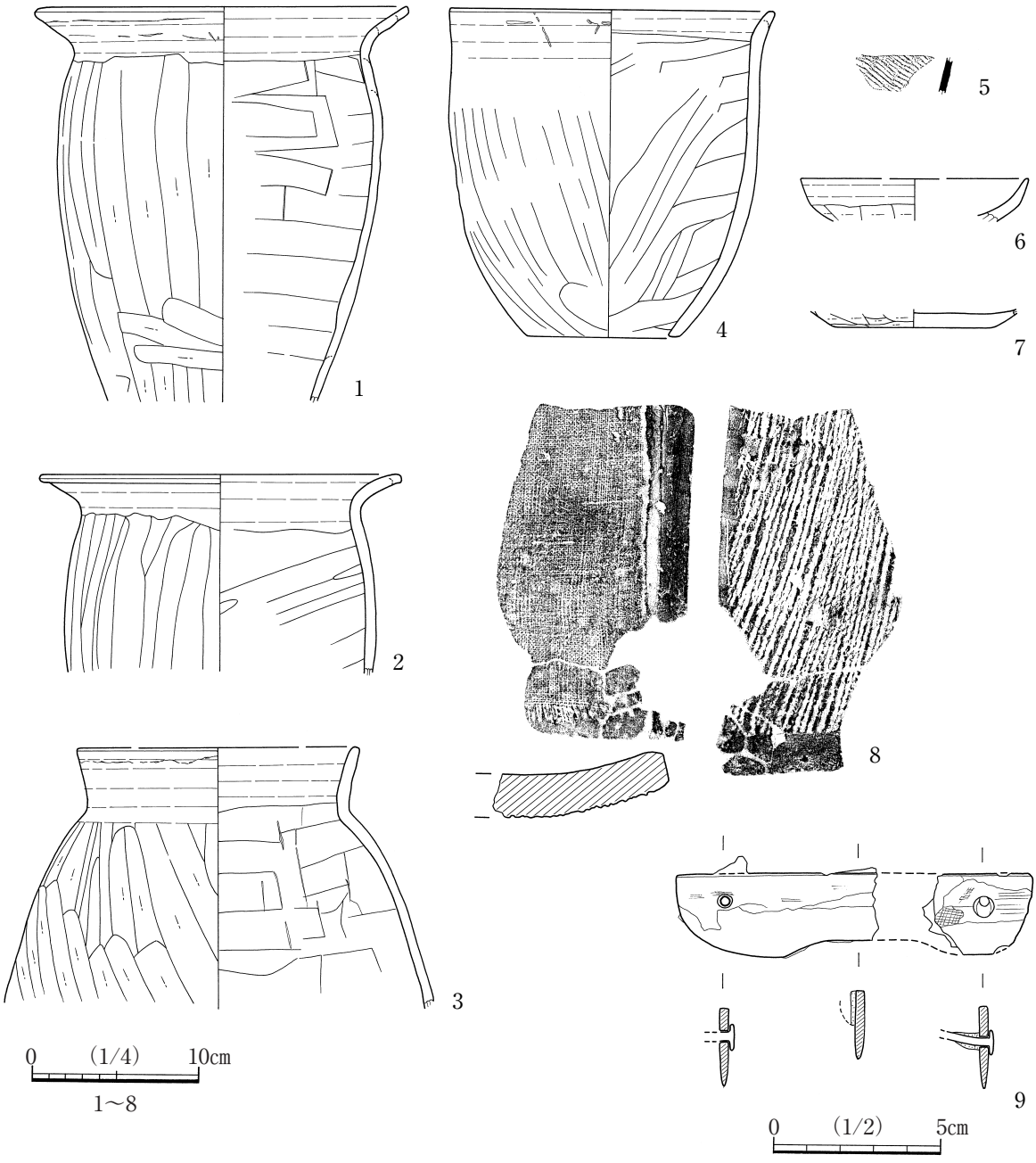
第99図　54号住居跡出土遺物



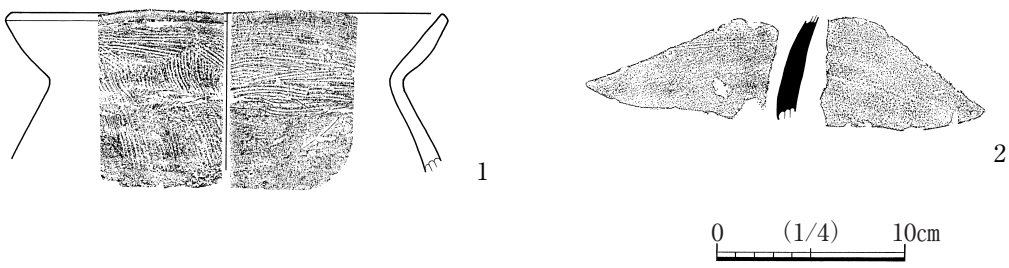
第100図　55号住居跡出土遺物



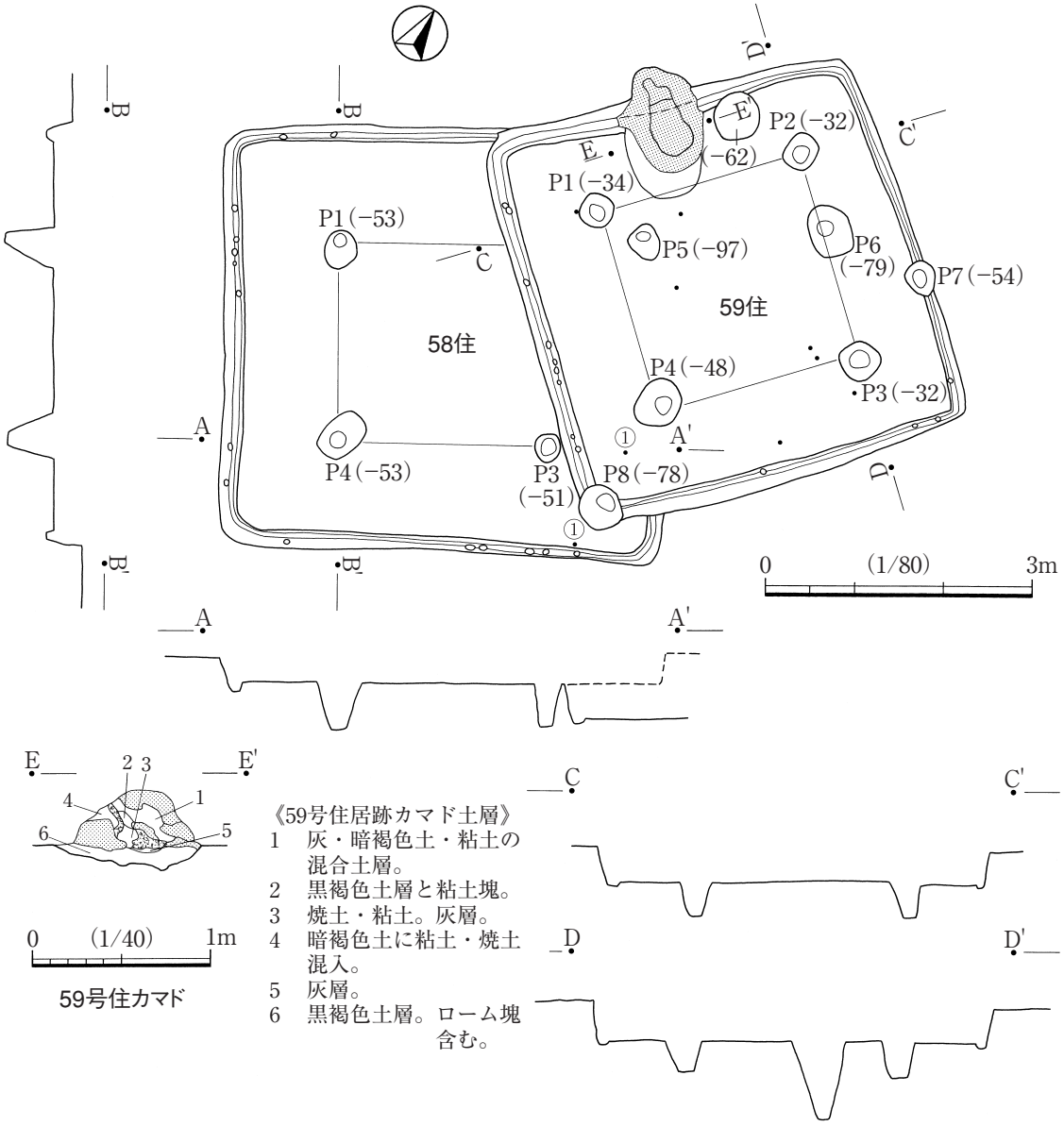
第101図　56号住居跡出土遺物



第102図　57号住居跡出土遺物



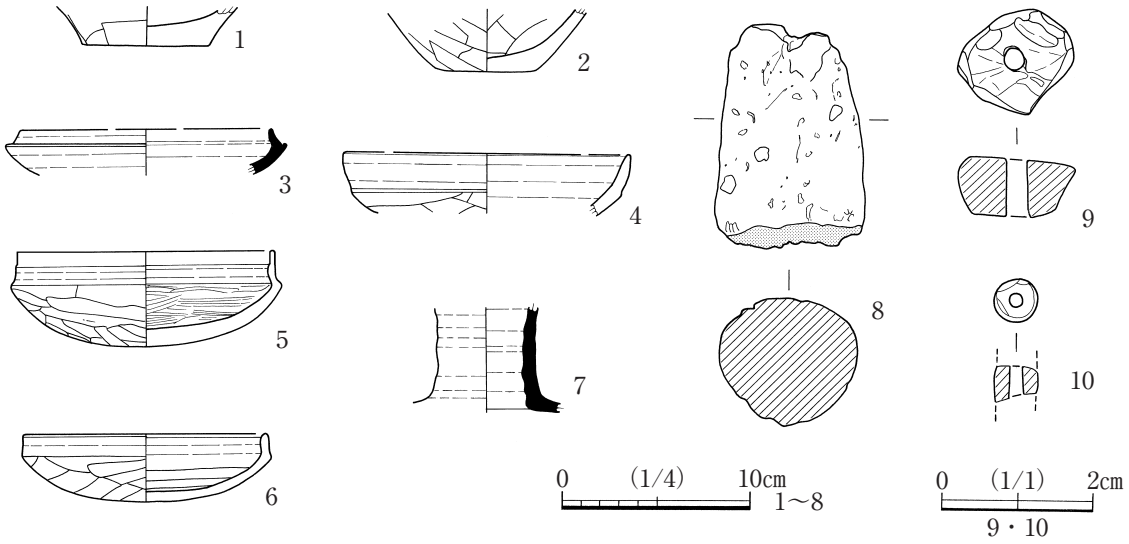
第103図　58号住居跡出土遺物



59号住カマド

《59号住居跡カマド土層》
1 灰・暗褐色土・粘土の混合土層。
2 黒褐色土層と粘土塊。
3 焼土・粘土。灰層。
4 暗褐色土に粘土・焼土混入。
5 灰層。
6 黒褐色土層。ローム塊含む。

第104図　58・59号住居跡



第105図　59号住居跡出土遺物

出土遺物　1は口縁内面と胴外面に刷毛目を施す刷毛目整形甕。2は須恵器甕小片である。1が床面直上、2は覆土からの出土である。1が住居跡の帰属を示す資料となり、カマドは検出されないが、カマド位置が東辺ないし炉跡と推定される。

59号住居跡（第104・105図、図版16・95）

位置　東調査区北西側。N19。　**複合切り合い関係**　プラン南西半分で58住を大きく掘り込み検出。**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－49°－W。　**床面規模**　4.25m（主軸）×4.28m（副軸）。**床面積**　17.98㎡。　**残存壁高**　0.40～0.53m。　**カマド**　北西辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅6～12cm前後・深さ8cm前後で廻る。　**覆土**　不明。

出土遺物　1・2は外面篦ケズリの甕底部。3は受部が丸く僅かに突出する須恵器身。4は杯蓋模倣杯。5・6は杯身模倣杯で、5の内面にはミガキを施す。7は3段構成須恵器長頸壺で外面には降灰による釉を厚く被る。3は土製支脚。9は石製玉の未製品。10は石製の管玉で両端を欠損する。住居跡と共伴する遺物は、1が床面直上、2・4・5・がカマド燃焼部からの出土、7は混入遺物である。

60号住居跡（第106図、図版16・96）

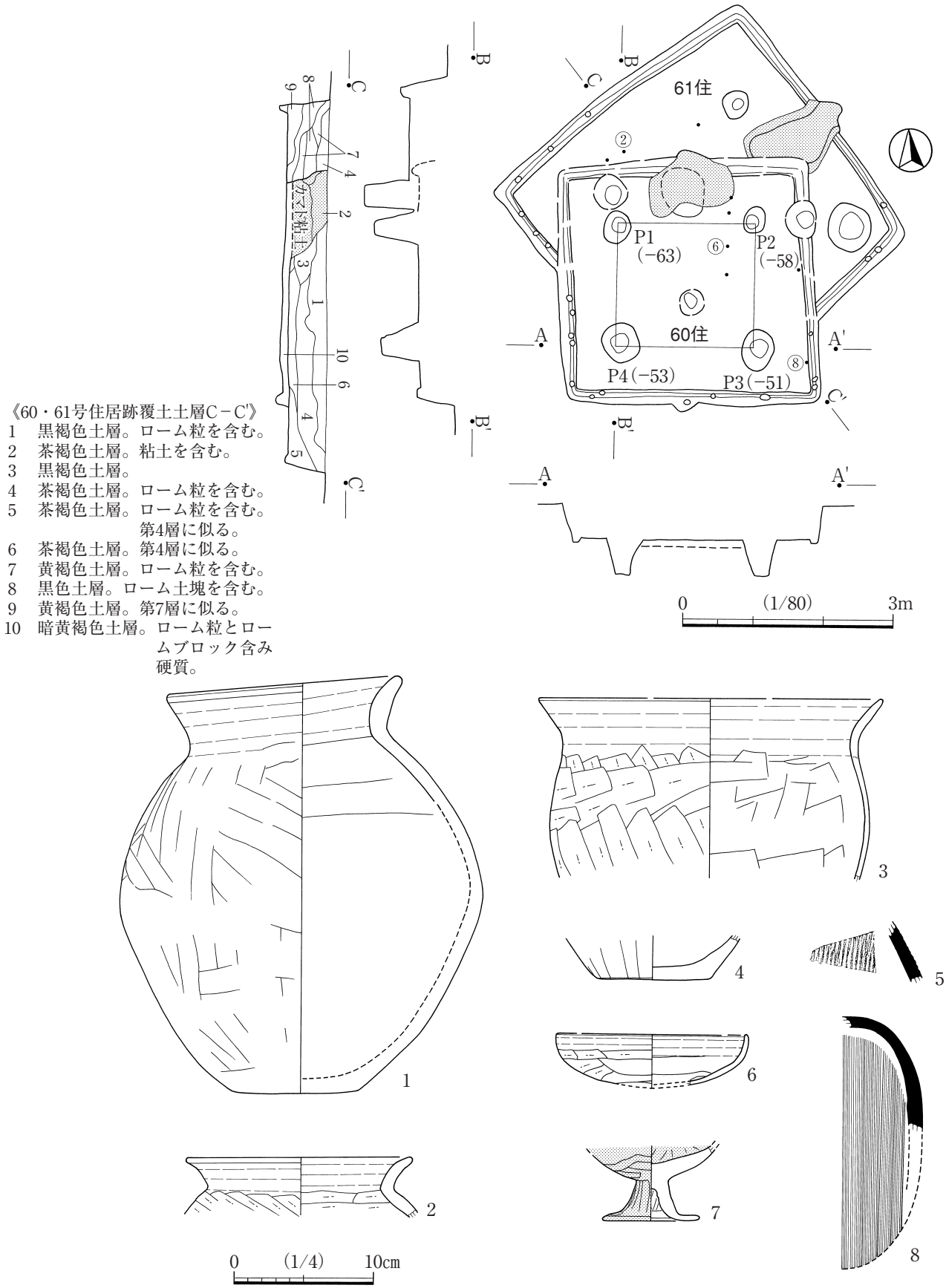
位置　東調査区北西側。O19。　**複合切り合い関係**　61住プランと主軸方位を西に55°変えて重複し掘り込み、床面レベルは61住床面の10cm上に置く。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－5°－E。**床面規模**　3.32m（主軸）×3.45m（副軸）。　**推定床面積**　11.14㎡。　**残存壁高**　0.48～0.55m。**カマド**　北辺中央。　**床面**　61住覆土中に張床され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅8～10cm・深さ6cm前後で廻るものと推定される。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示す。

出土遺物　1は胴外面篦ナデのやや歪な球胴甕。2は肉厚気味の斜位の篦ケズリ甕。3は肉薄の胴外面横位および斜位のケズリ甕で武蔵型甕の影響が色濃い。5は須恵器甕片。6は半円状の杯。7は赤彩の小形椀形高杯。8はカキ目を施す提瓶であろうか。遺物出土位置は、1・4・6がカマド燃焼部、2・6・8がほぼ床面出土で、3・5覆土である。61住居跡遺物と混在するが、3・4や61住の4・5の甕が本住居跡に共伴する遺物であろう。

61号住居跡（第107図、図版16・96）

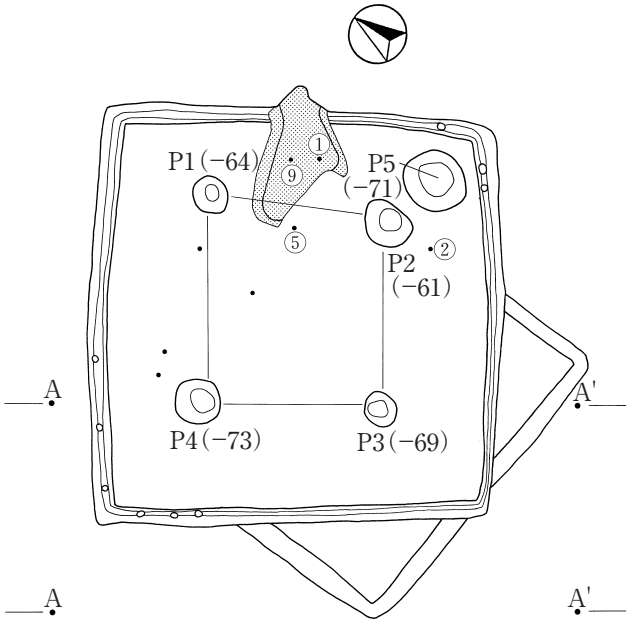
位置　東調査区北西側。O19。　**複合切り合い関係**　60住プランと主軸方位を東に55°変えて重複し、床面レベルは60住床面の10cm下に置き検出。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－60°－E。**床面規模**　4.20m（主軸）×4.28m（副軸）。　**床面積**　17.32㎡。　**残存壁高**　0.46～0.60m。**カマド**　北東辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成されほぼ平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅9～12cm・深さ12～23cmで四周する。　**覆土**　細かな土層に分層され層位中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。

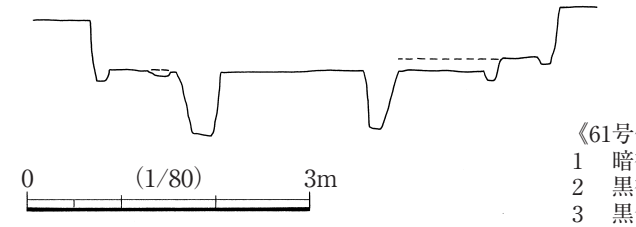
出土遺物　1は口縁が僅かに外反して立つ胴外面篦ナデの中胴甕。2は肉厚気味の胴外面篦ナデの甕。3は口縁が大きく外反する外面篦ナデの甕。4・5は口縁が大きく開く胴外面縦位のケズリ甕。6は扁平な半円状の杯で内面ヨコナデを施す。7は6よりやや深く内面底部と体部境に見込みを有

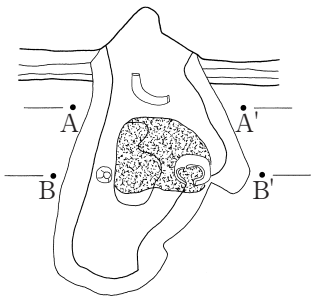


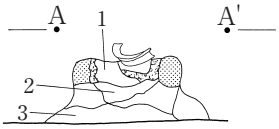
《60・61号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　茶褐色土層。粘土を含む。
3　黒褐色土層。
4　茶褐色土層。ローム粒を含む。
5　茶褐色土層。ローム粒を含む。第4層に似る。
6　茶褐色土層。第4層に似る。
7　黄褐色土層。ローム粒を含む。
8　黒色土層。ローム土塊を含む。
9　黄褐色土層。第7層に似る。
10　暗黄褐色土層。ローム粒とロームブロック含み硬質。

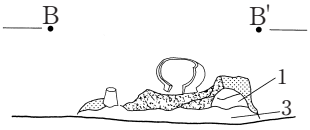
第106図　60号住居跡と出土遺物



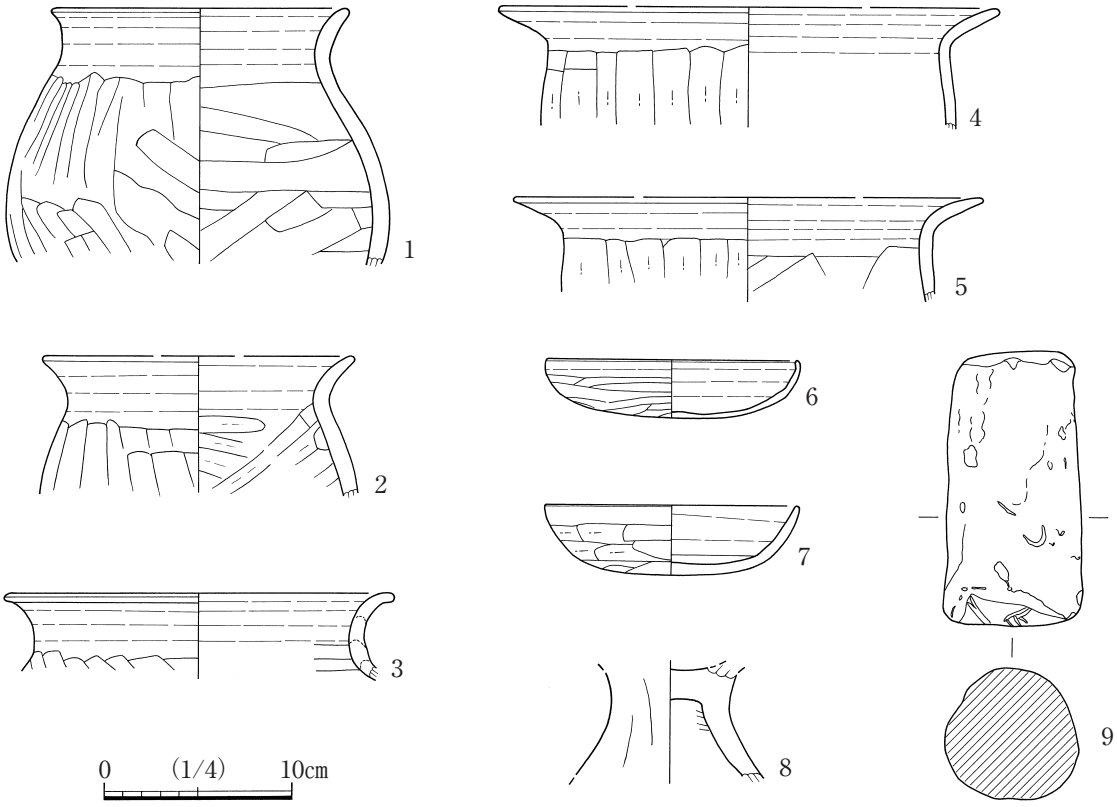








《61号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土と灰及び焼土粒を含む。
2　黒褐色土層。粘土とローム土及び焼土粒を含む。
3　黒色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。



第107図　61号住居跡と出土遺物

し、平底気味となる。８は高杯脚片。９は柱状の土製支脚。遺物出土位置は、１・３・４・６・７・９がカマド燃焼部、２がほぼ床面から出土し、５・８が覆土から検出する。本住居跡は60住居跡と重複し、遺物取り上げ時の誤認が認められ、61住４～７の遺物は60住の可能性が強い。また、60住－１の甕は61住の可能性が強い。

62号住居跡（第108・109図、図版17・96・97）

位置　東調査区北西側。O19・O20。　**複合切り合い関係**　単独で位置するが南辺に63住が接する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－40°－W。　**床面規模**　5.18m（主軸）×5.22m（副軸）。　**床面積**　26.84㎡。　**残存壁高**　0.46～0.53m。　**カマド**　北西辺中央に設けられ、煙道部が壁から1.4mほど大きく突出する。　**床面**　ハードローム層中に形成され総体的に平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅12～18cm・深さ10cm前後で四周し、壁高内に小ピットが多数確認される。　**覆土**　床面直上の土層にロームブロックを含むが他は黒褐色を基調とし、概ね自然堆積状況を示すものである。

出土遺物　１は胴外面上半縦位、下半斜位篦ケズリの甕。２は無頸タイプの外面縦位篦ケズリ甕。３～５は縦位篦ケズリの甕。６は球胴甕下半で篦ケズリを施す。７は甕下半で斜位篦ケズリを施す。９は肉厚の丸底甕底部で胴外面篦ケズリを施す。10は肉厚の丸底の椀形杯で口縁端部が短く僅かに外反する。11・12は半円球状の杯で内面ミガキを施す。13は平底気味の内面黒色処理でミガキを施す小形鉢。14は杯身模倣杯。15は大形高杯で杯内面ミガキ。16～19は須恵器甕片。20は土製支脚。21は敲打と研磨痕の残る石器。遺物出土位置は、７・11・12・20・21が床面直上やほぼ床面、１～５・10がカマドから出土し、他は覆土の検出である。覆土の９は共伴遺物と見なして良く、６・14は混入遺物であろう。

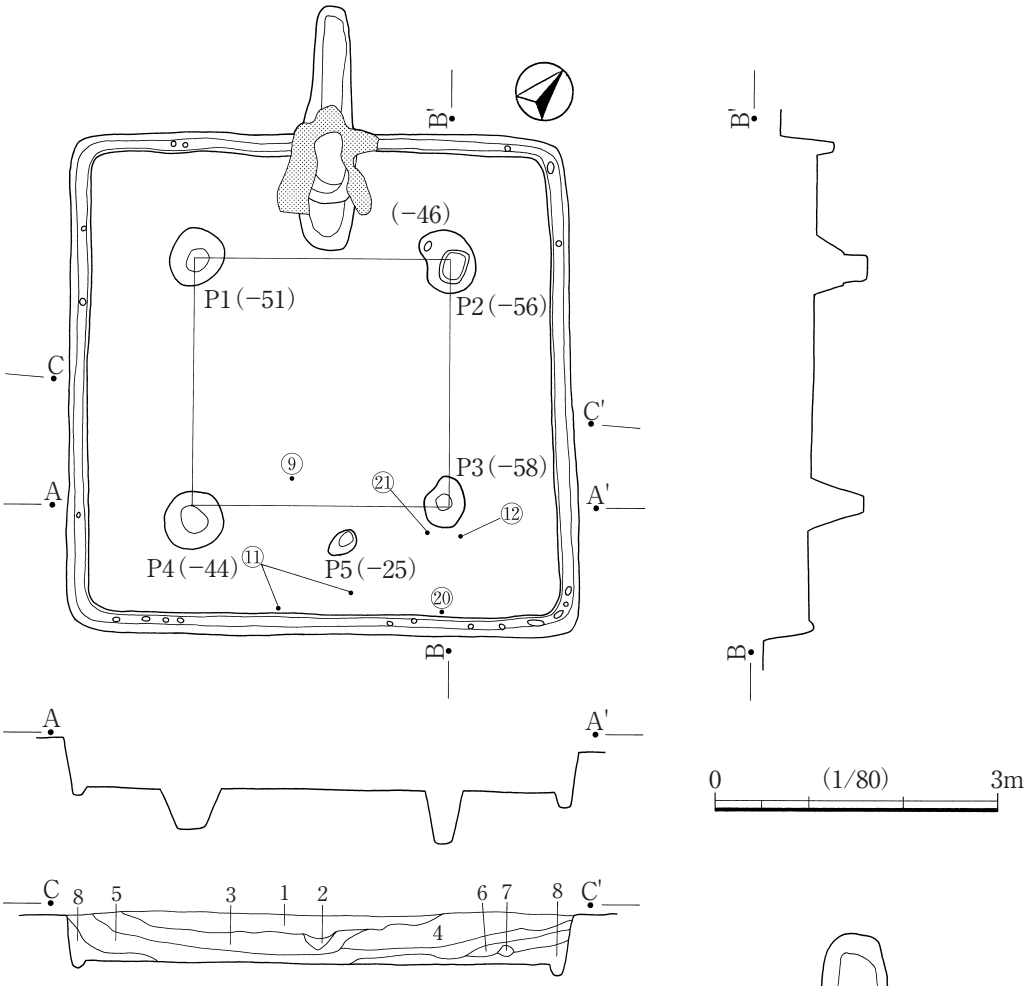
63号住居跡（第110図、図版17・97）

位置　東調査区北西側。O20。　**複合切り合い関係**　単独で位置するが北西側に62住が僅かに壁を接する。　**平面形**　不整方形。他の東辺が他の辺より長く不整な台形状を呈する。（床面長さ　北辺2.04m・西辺2.04m・南辺2.10m・東辺2.30m）　**主軸方位**　N－17°－E。　**床面規模**　2.15m（主軸）×2.12m（副軸）。　**床面積**　4.53㎡。　**残存壁高**　0.44～0.55m。　**カマド**　北辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成されるがあまり踏みしめられた状態ではない。　**壁溝**　幅９～15cm・深さ11cm前後で四周する。　**覆土**　全体にロームブロックを含み埋め戻された状況を示す。南壁よりには床面から15cmの厚さで白色の下末吉粘土が堆積する。

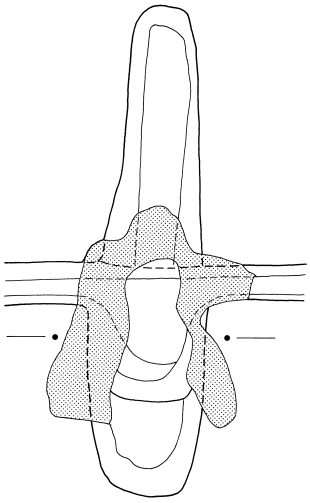
出土遺物　１は外面篦ナデの小形甕。２は外面篦ケズリ甕。３は底部および体部外面手持ち篦ケズリの非ロクロ土師器杯で暗文は認められない。４は、現存長17cmの刀子で僅かに切先を欠損するだけである。遺物出土位置は、１が覆土内、２がカマド燃焼部、３が南側床面直上、４はカマド右袖に接する床面からそれぞれ出土する。１が覆土内でやや疑問もあるが、２～４は住居跡共伴遺物である。

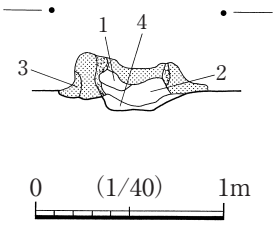
64号住居跡（第111図、図版17・97）

位置　東調査区北側。O20。　**複合切り合い関係**　南辺部で床面をほぼ同一レベルに置いて65住北隅を掘り込む。　**平面形**　隅丸方形。　**主軸方位**　N－98°－E。　**床面規模**　2.28m（主軸）×2.14



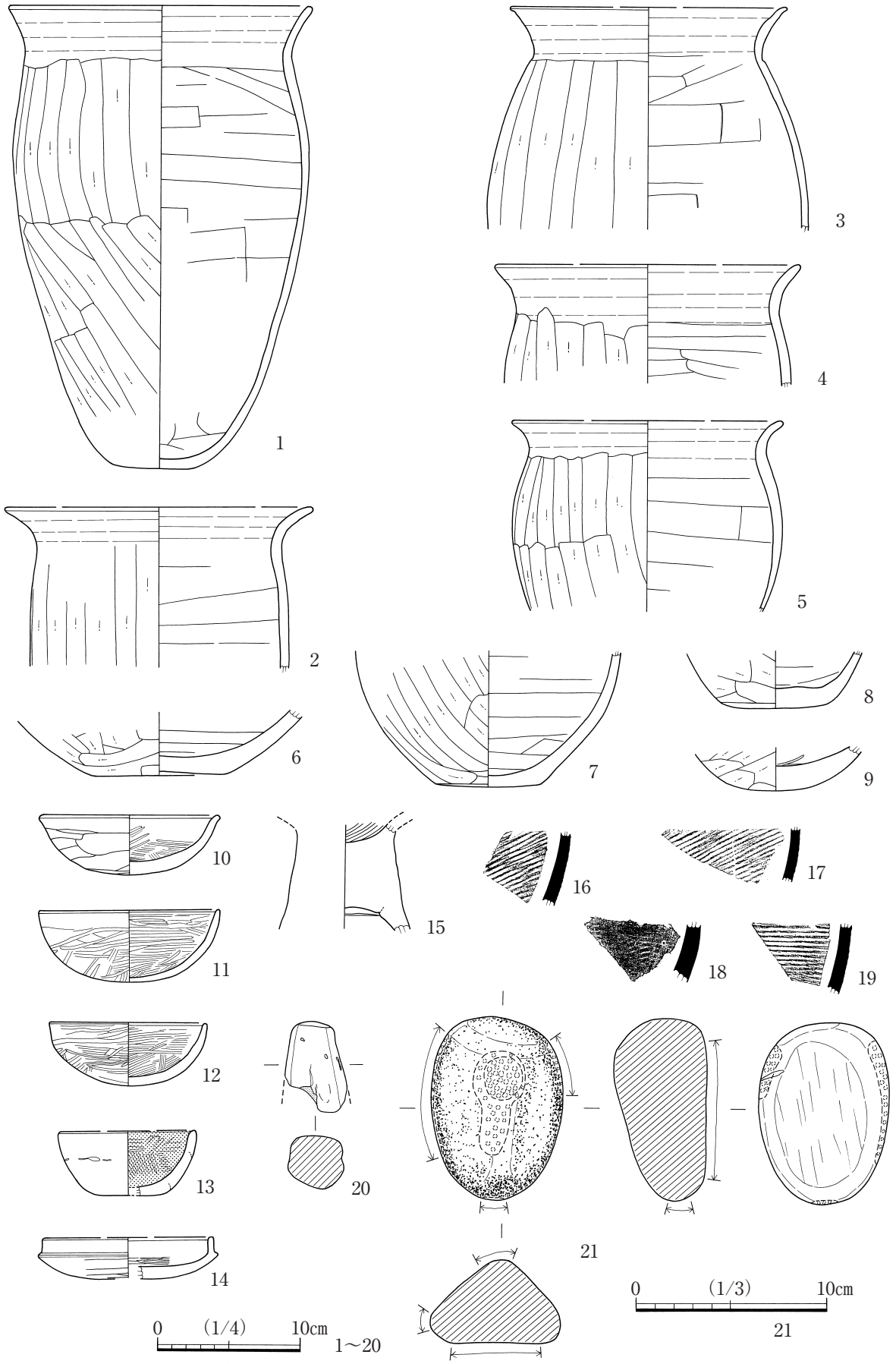
《62号住居跡覆土土層C－C'》
1　茶褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒色土層。
3　黒褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。
5　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
6　黒褐色土層。大ローム土塊を含む。
7　ローム土塊。
8　黄褐色土層。ローム粒を含む。



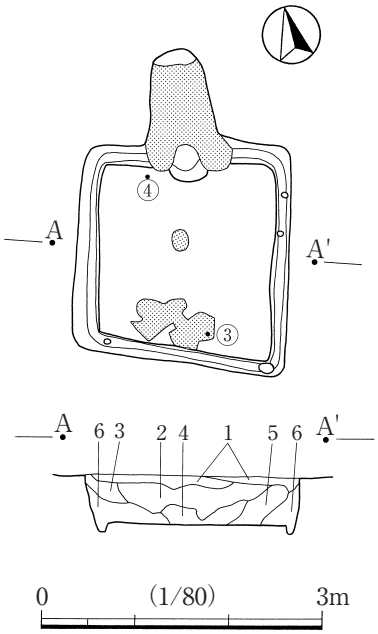


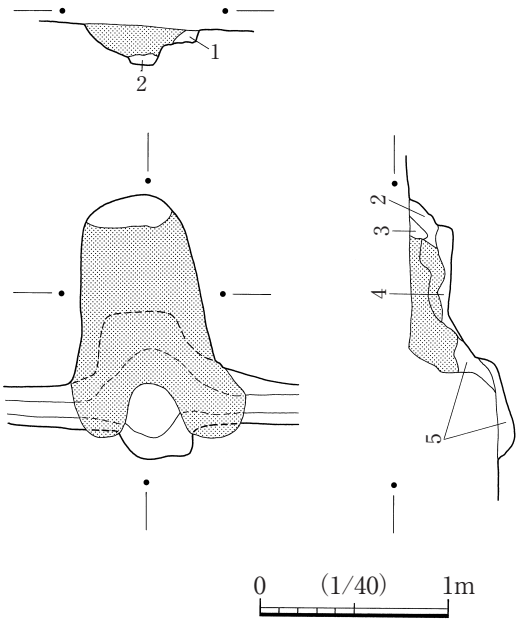
《62号住居跡カマド土層》
1　粘土と灰の混合土層。
2　灰層。ローム粒（5㎜大以下）と焼土粒（3㎜以下）を含む。
3　暗褐色土層。粘土を全体に含む。
4　黒褐色土層。硬質のローム土塊（1㎝以下）を多く含む。

第108図　62号住居跡とカマド



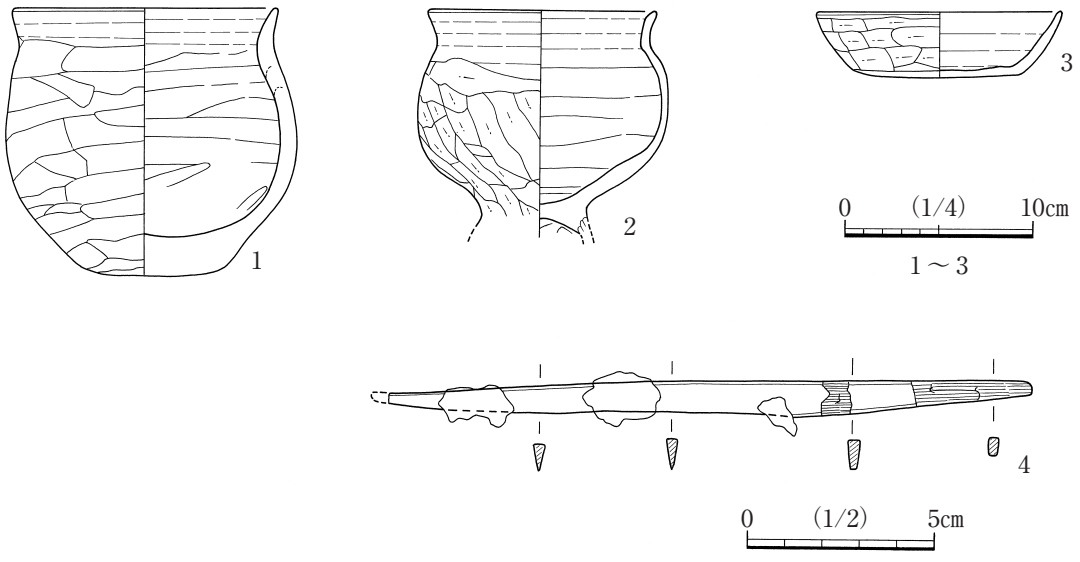
第109図　62号住居跡と出土遺物





《63号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
3　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
4　黒褐色土層。ローム粒を含む。
5　黄褐色土層。ローム土塊を含む。
6　茶褐色土層。

《63号住居跡カマド土層》
1　ローム土に粘土が少量含まれる。
2　灰と粘土の混合土層。ローム粒と炭粒を少量含む。
3　粘土とローム粒の混合土層。
4　灰層。粘土を少量含む。
5　黒褐色土層。粘土粒と炭及び灰を少量含む。



第110図　63号住居跡と出土遺物

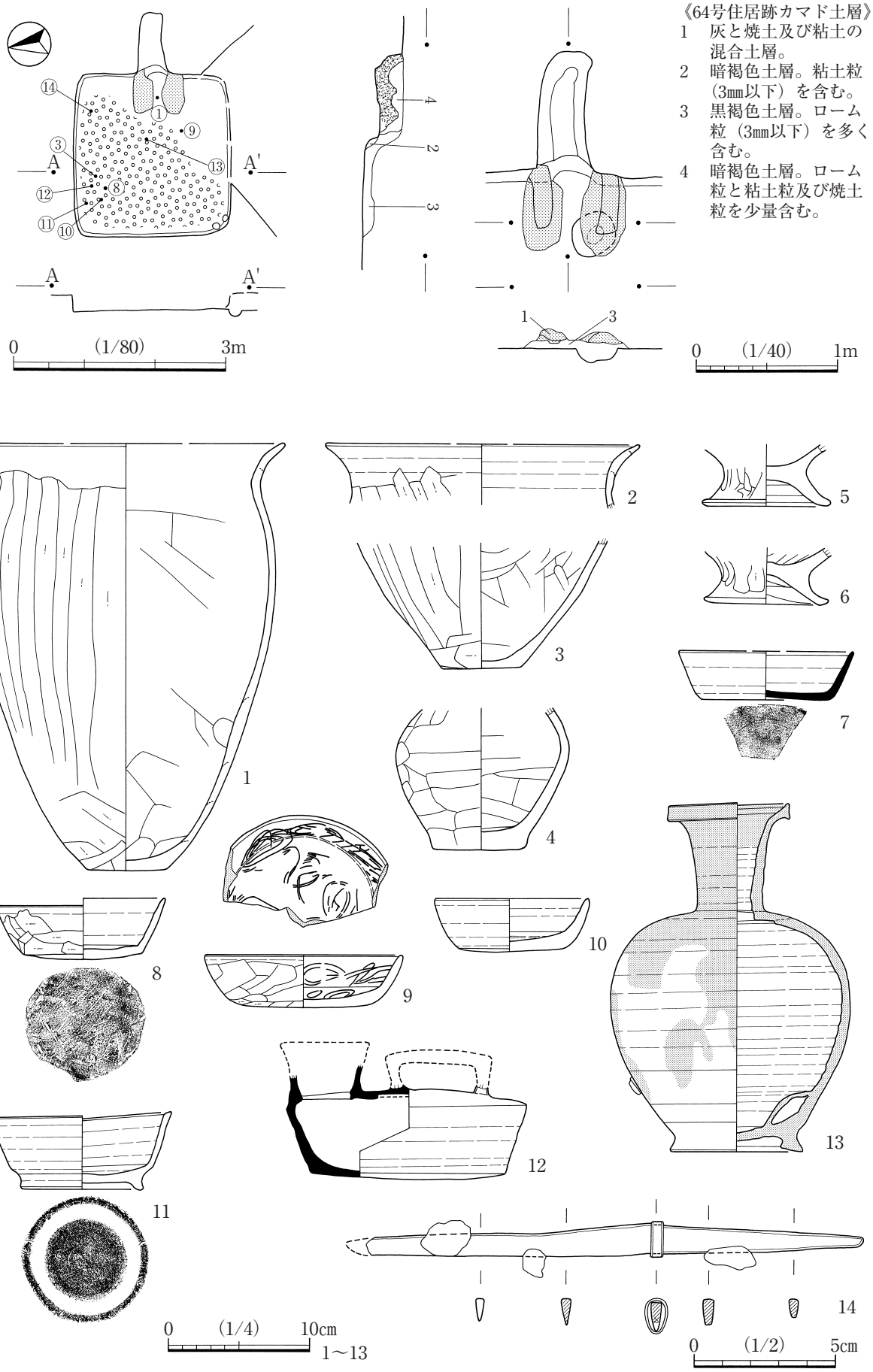
m（副軸）。　**床面積**　4.69㎡。　**残存壁高**　0.18～0.28m。　**カマド**　東辺中央に敷設され煙道部は壁から0.85mほど突出し、カマド両袖部は白色の下末吉粘土で構築されている。　**床面**　ソフトローム層中に形成され、中央部は凹凸が激しいが堅く踏みしめられ、壁寄りはやや軟弱となる。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　プラン内全体に床面から30cm程の厚さで混土貝層が堆積している。　**柱穴**　無柱。

出土遺物　1はやや肉薄の外面縦位箆ケズリの胴最大径が頸部直下に有る無頸気味の甕。2・3も同様であろう。4は口縁を欠損し器表面摩耗で整形不鮮明で壺か甕形か。5・6は台付甕台部。7は体部下端および底部回転箆ケズリを施すの須恵器杯。8はやや出尻気味の非ロクロ土師器杯。9はやや扁平な同種の杯で内面に不鮮明な螺旋状暗文を施す。10は肉厚のロクロ土師器杯で内面に見込みが認められ、底部は摩耗で整形不鮮明ながら一定方向の箆切りと思われる。11はロクロ土師器で箱形の高台付杯で底部は回転箆ケズリを消し去るロクロナデで、高台は内面面取りで外方へ踏ん張る形状を呈する。12は無台の平瓶で口縁と把手を欠損し、胎土色調は灰白色で微黒粒を含み猿投窯跡と思われる。体部は箆ケズリを消し去るロクロナデ、天井部には釉を被るが施釉については不明。13の長頸壺は、底部を含めた下半が本住居跡から出土し、上半は1号方形区画遺構の土壙内から出土する。長頸壺は、3段構成で全面に薄く淡黄緑色と淡赤褐色の釉を被り施釉の可能性が感じられる。14は切先を僅かに欠損し、現存長17.4cmを計る刀子。遺物出土位置は、1・2がカマド燃焼部。8～10・13・14が床面直上、3がほぼ床面から出土し、他は覆土検出である。4の覆土中から出土した土師器壺に疑問が残るが、他の遺物は覆土に充満する貝層下から出土し、ほぼ住居跡の帰属を示す資料と判断できる。特に3・8・10・11・12は比較的良好な状態でまとまりを持って住居跡北隅付近から出土している。13の長頸壺は口縁から胴部を1号方形区画遺構の土壙内から出土し、カマド前面の床面から出土し底部と接合し、ほぼ完形に復元できたものである。1号方形区画遺構土壙内出土遺物は祭祀行為に関わる遺物と判断でき、また、本遺構覆土中に充満した貝なども祭祀に関わるものと判断できる。

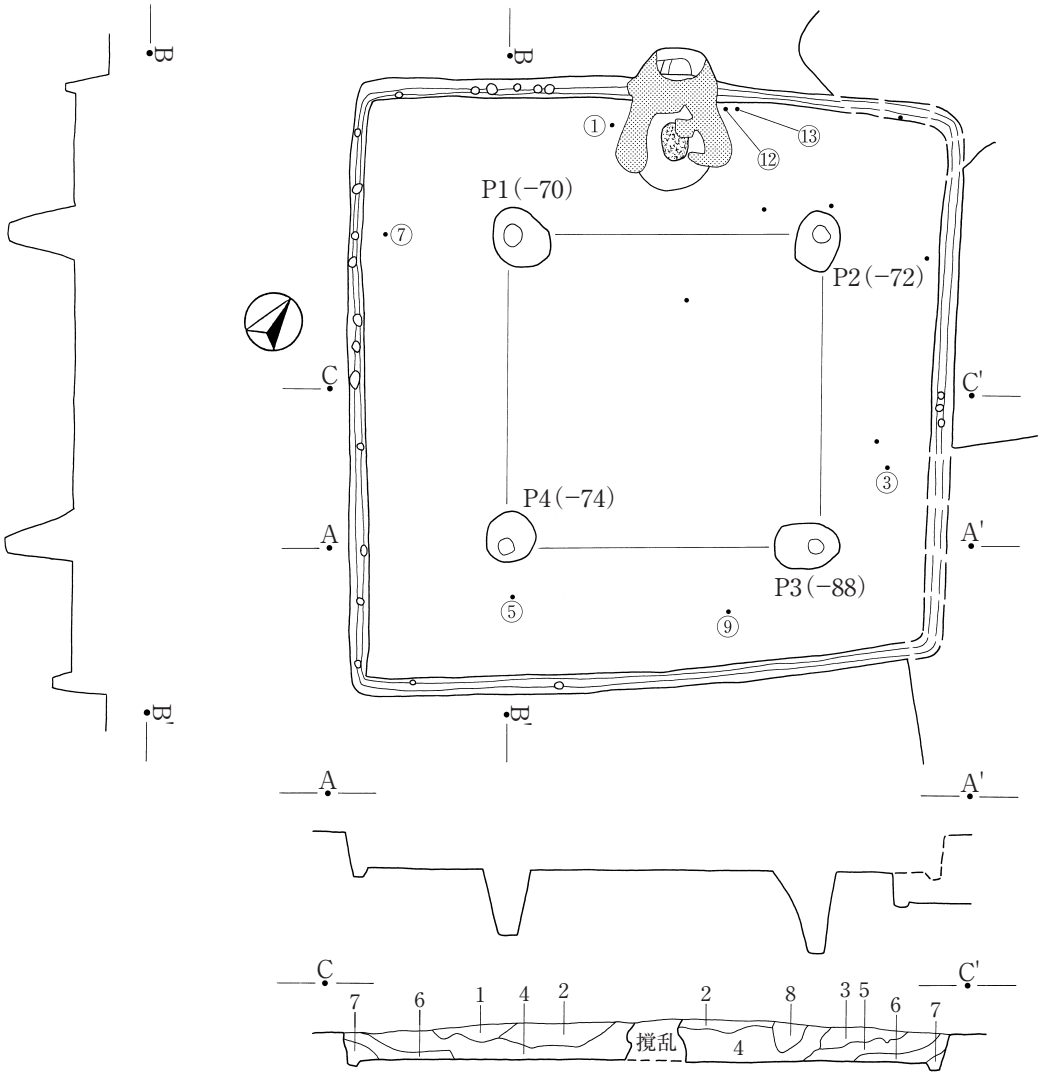
65号住居跡（第112・113図、図版18・98）

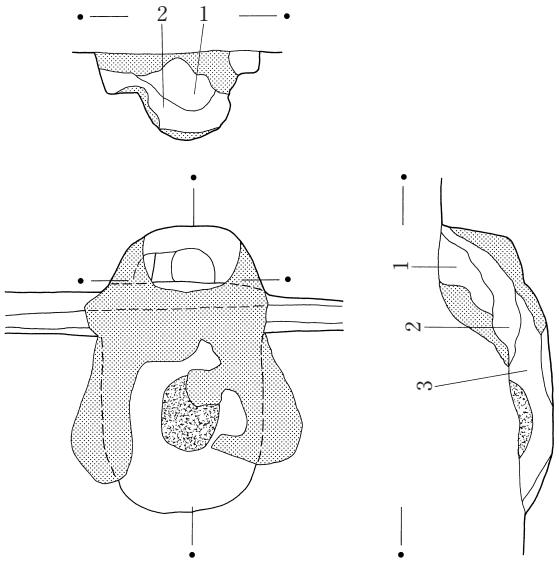
位置　東調査区北側。O20・P20・P21。　**複合切り合い関係**　北隅を64住に掘り込まれ、東隅で66住を掘り込んで検出する。床面高低差は64住とはほぼ同一で66住床面は25cm程下に位置する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－35°－W。　**床面規模**　6.26m（主軸）×6.24m（副軸）。　**床面積**　38.67㎡。　**残存壁高**　0.24～0.35m。　**カマド**　北西辺中央に敷設、煙道部は0.3m程突出する。　**床面**　総体的に軟弱で中央部は特に柔らかく確認に苦労するほどであった。　**壁溝**　幅10cm前後・深さ13～23cmで四周する。　**覆土**　全体的に不規則な堆積で埋め戻された状況が窺える。

出土遺物　1は外面縦位の箆ケズリで胴長甕。2は肉厚気味の横位のケズリで胴長系甕。3は外面に輪積み痕を残す縦位の箆ケズリを施すほぼ完形の小形甕。5は須恵器身で底体部2分の1が回転箆ケズリを施し、TK209型式期に比定できよう。6～9は杯蓋模倣杯。6は有段口縁杯か。7～9は内面ミガキを施す。10は高杯脚。11は須恵器ハソウで細い頸部、扁平気味な胴部で、胴外面には櫛状工具による刺突文と1孔を有し、口縁が大きく開くタイプであろう。12・13は土製支脚である。遺物出土位置は、1・3・10・12・13が床面直上、2・7・9がほぼ床面、8がカマド燃焼部から出土し、他は覆土検出である。住居跡共伴遺物は、1～3・7～10・12・13が有るが、5の須恵器身や6の杯も



第111図　64号住居跡と出土遺物

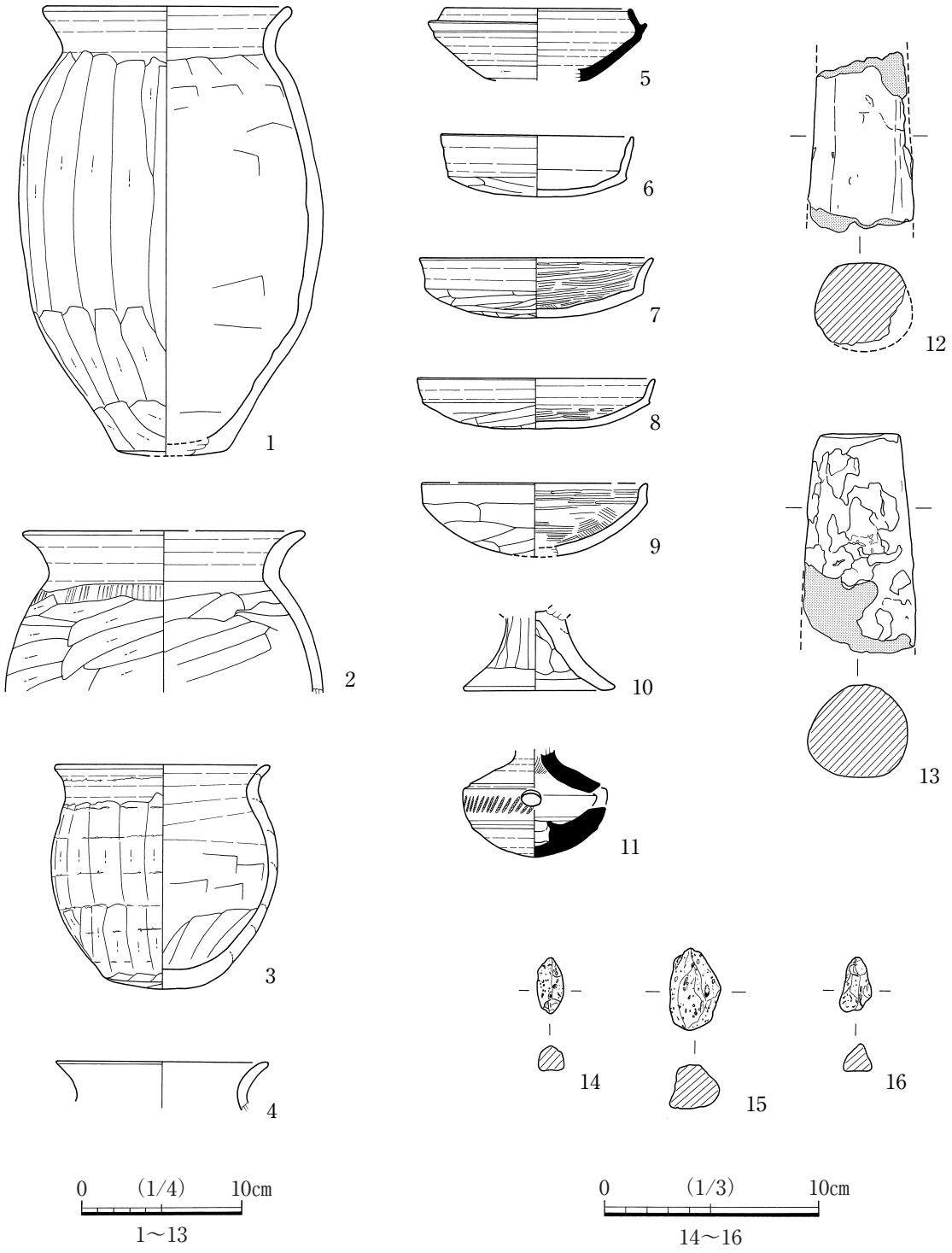




《65号住居跡覆土土層C－C'》
1　茶褐色土層。淡褐色土塊を含む（テフラか）。
2　黒褐色土層。
3　黒色土層。
4　黒褐色土層。淡褐色土塊を少量含む。
5　黒褐色土層。淡褐色土塊を大量に含む。
6　黄褐色土層。ローム粒を含む。
7　黄褐色土層。
8　ローム土塊。

《65号住居跡カマド土層》
1　粘土層と暗褐色土層のブロック。焼土粒（3㎜以下）も含まれる。
2　灰層と粘土層及び焼土塊の混合土層。
3　黒褐色土層。軟質。ローム土塊（5㎜以下）を含む。

第112図　65号住居跡とカマド



第113図　65号住居跡出土遺物

当てられよう。11は後出であろう。

66号住居跡（第114～116図、図版18・98～100）

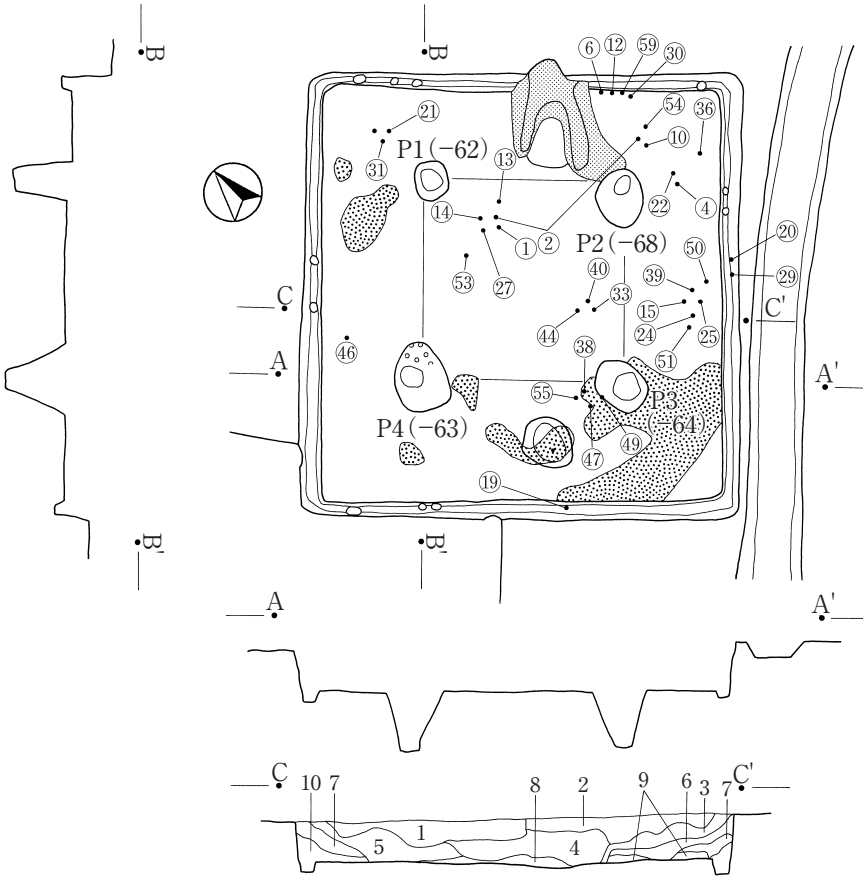
位置　東調査区北側。O21・P21。　**複合切り合い関係**　西隅で65住に壁を掘り込まれる。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－47°－E。　**床面規模**　4.60m（主軸）×4.44m（副軸）。　**床面積**　20.46

㎡。　**残存壁高**　0.43～0.56m。　**カマド**　北東辺中央。　**床面**　不明。　**壁溝**　幅６～13cm・深さ８～15cmで四周する。　**覆土**　床面直上には焼土が広範囲に、また覆土中にロームブロックが含み各層位も不規則で火災住居が埋め戻された状況を呈している。遺物はプラン東～南側覆土中から多く出土し、中には勾玉の石製模造品や土玉・軽石などが有り、土器は球胴系甕や赤彩の椀形土器が多く祭祀場所や祭祀に使用された遺物の廃棄場所と想定できる。

出土遺物　１～16は胴部篦ナデ整形の甕。１は口縁「く」の字に開き口径値は1.45・胴径値1.27を示し、２は口頸部が直立し口縁端部で僅かに開き口径値1.28・胴径値1.14を示す。６・７は外面ケズリ状篦ナデを施す。１の口縁が開くタイプには３・４・７・８・９・10が、２の口縁が直立気味のものには５・６・11がある。17・18は甑で外面篦ナデを施す。19は外面丁寧な篦ナデで、口縁内面と外面に赤彩を施す小壺。20は内外面赤彩の内湾鉢。21は外面赤彩でやや大ぶりな肉厚気味球状を呈し坩であろう。24は須恵器高杯の口縁小片と思われ、口縁外面の篦描き条線が見られ内外面降灰による釉を厚く被る。25は須恵器ハソウ口縁片で口唇に凹状の条線と口縁直下外面にシャープな稜線を有し、TK208～TK23型式に比定できよう。26は口縁内外面に僅かに赤彩をとどめる坩。27は口頸部内面と外面に赤彩を施し、扁平な胴部を呈する坩形土器。28は焼成良好の口縁を外方に摘み上げ内面に明瞭な稜線を有し、内面放射状のミガキ、底体部上半篦ナデで、下端篦ケズリを施す丸底の小形鉢？29は口径15.8cm・器高9.2cmを計り、口唇凹状の条線を有し、直立する口縁と球状の底体部を特徴とし、成形は口縁外面および内面丁寧なヨコナデ、底体部外面丁寧な篦ナデを施す杯である。30～44は赤彩の椀形杯で45・46は深い椀形杯となろう。47は赤彩でやや平底気味。48・49は無彩でミガキを施し、49は平底気味である。50・51は赤彩の椀形高杯。52は杯部と脚のバランスが悪く深い椀形高杯を呈しよう。53は杯部下端に稜を有する赤彩高杯。54・55は赤彩の高杯脚で裾が屈曲気味である。56・57はミニチュア土器。58は土製支脚。59・60は径3.2～3.6cmの土玉。61は長さ4.9cm勾玉の石製模造品である。62は研磨面に凹凸があり非鉄器砥石と判断できる。63は磨製の軽石。遺物出土位置は、１・３・５・８・11・16・17・42・60がカマド燃焼部など、２・38・39・40・44が床面直上、７・10・13・18・21・22・31・33・36・46・47・49・53～55がほぼ床面、19・20・29が壁溝や壁に接して出土し、他は覆土内遺物として廃棄された状況で検出された。また、56・57のミニチュア土器と61勾玉の石製模造品の正確な出土位置不明だが、カマド左袖に接す場所からの記録（谷島メモ）が見られる。床面直上と覆土の赤彩椀形杯を比較で差が見られないことから、住居跡床面と覆土の遺物は住居跡の所属時期を示す資料として扱えよう。但し、48・49の無彩の椀形杯にはミガキが施され７世紀以降の所産であろう。また、28の土器についても７世紀代の所産の可能性が強く、非在地の土器であることから類例を確認後に結論したい。本住居跡の遺物は、Ⅴ期Ｂ～Ｃの標準資料となろう。

67号住居跡（第117図、図版19・101）

位置　東調査区中央北側。P21。　**複合切り合い関係**　単独で検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－53°－Ｅ。　**床面規模**　4.04m（主軸）×4.10m（副軸）。　**床面積**　16.24㎡。　**残存壁高**　0.21～0.33m。　**カマド**　北東辺ほぼ中央。　**床面**　ほぼ平坦で堅く踏まれている。　**壁溝**　幅11cm・深さ10～19cmで四周する。壁溝内に小ピットが検出される。　**覆土**　床面直上には焼土が広範囲にまた覆土中にロームブロックを含み、各層位も不規則で火災住居が埋め戻された状況を呈してい

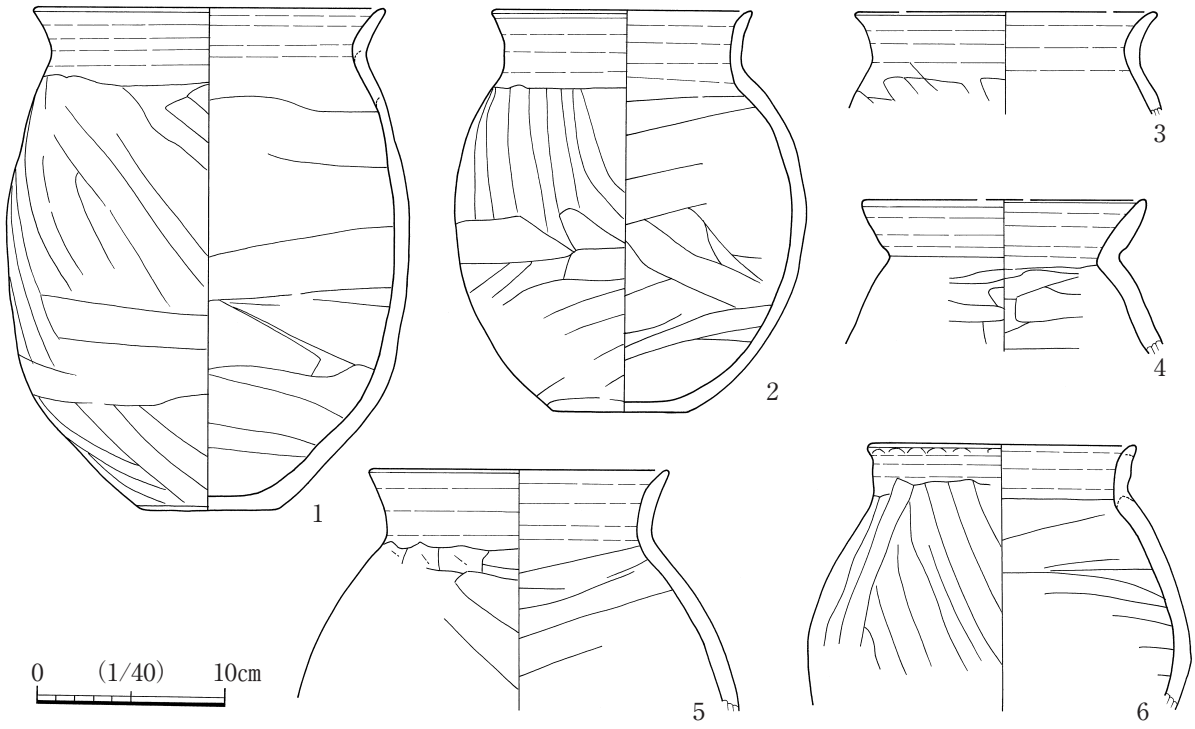




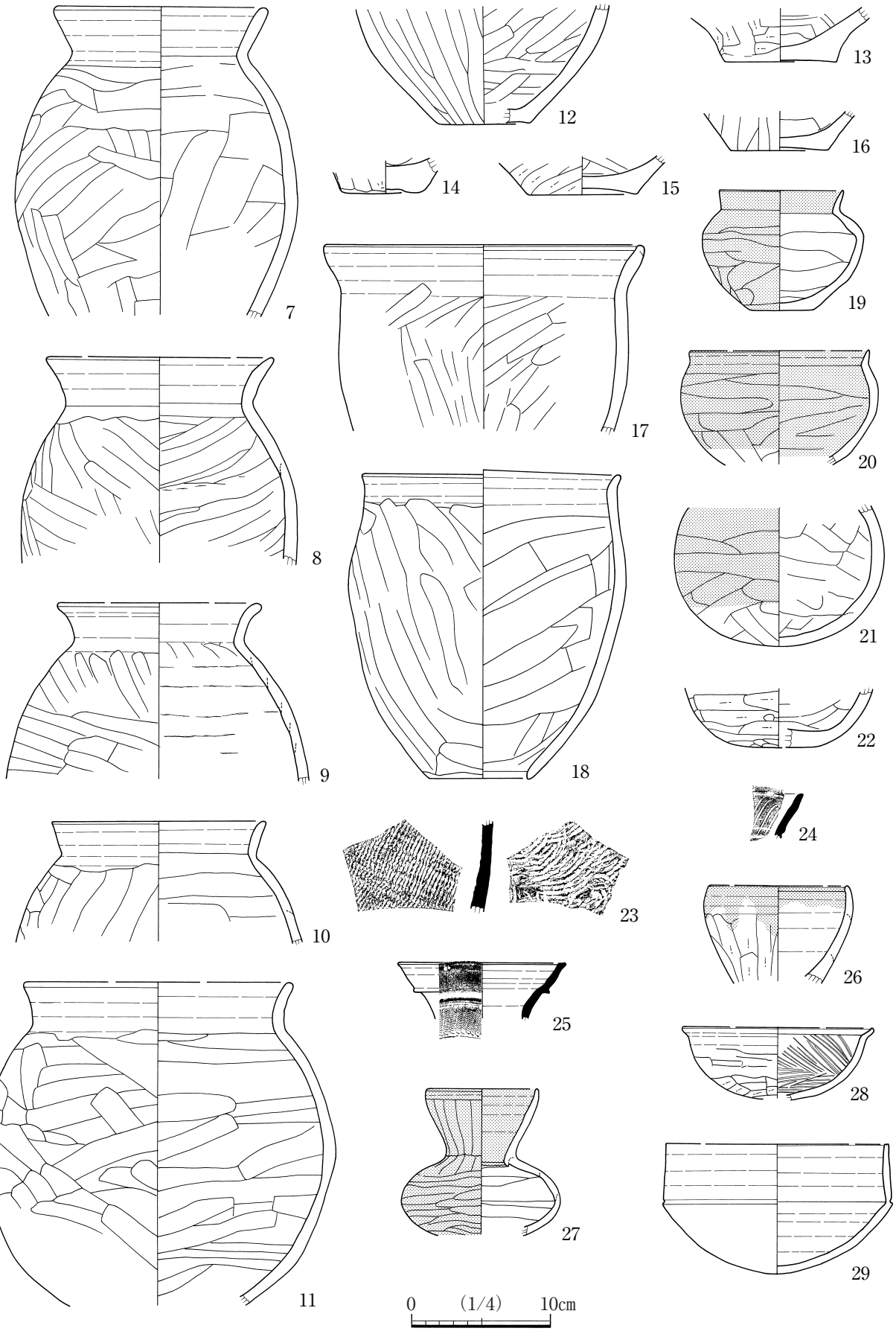
《66号住居跡覆土土層C－C'》

1　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。
3　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
4　茶褐色土層。ローム土塊を多く含む。
5　黒色土層。ローム土塊を含む。
6　黄褐色土層。ローム土塊を含む。
7　黒褐色土層。第2層に似る。
8　焼土層。
9　黒褐色土層。ローム粒と焼土を含む。
10　黄褐色土層。第6層に似る。

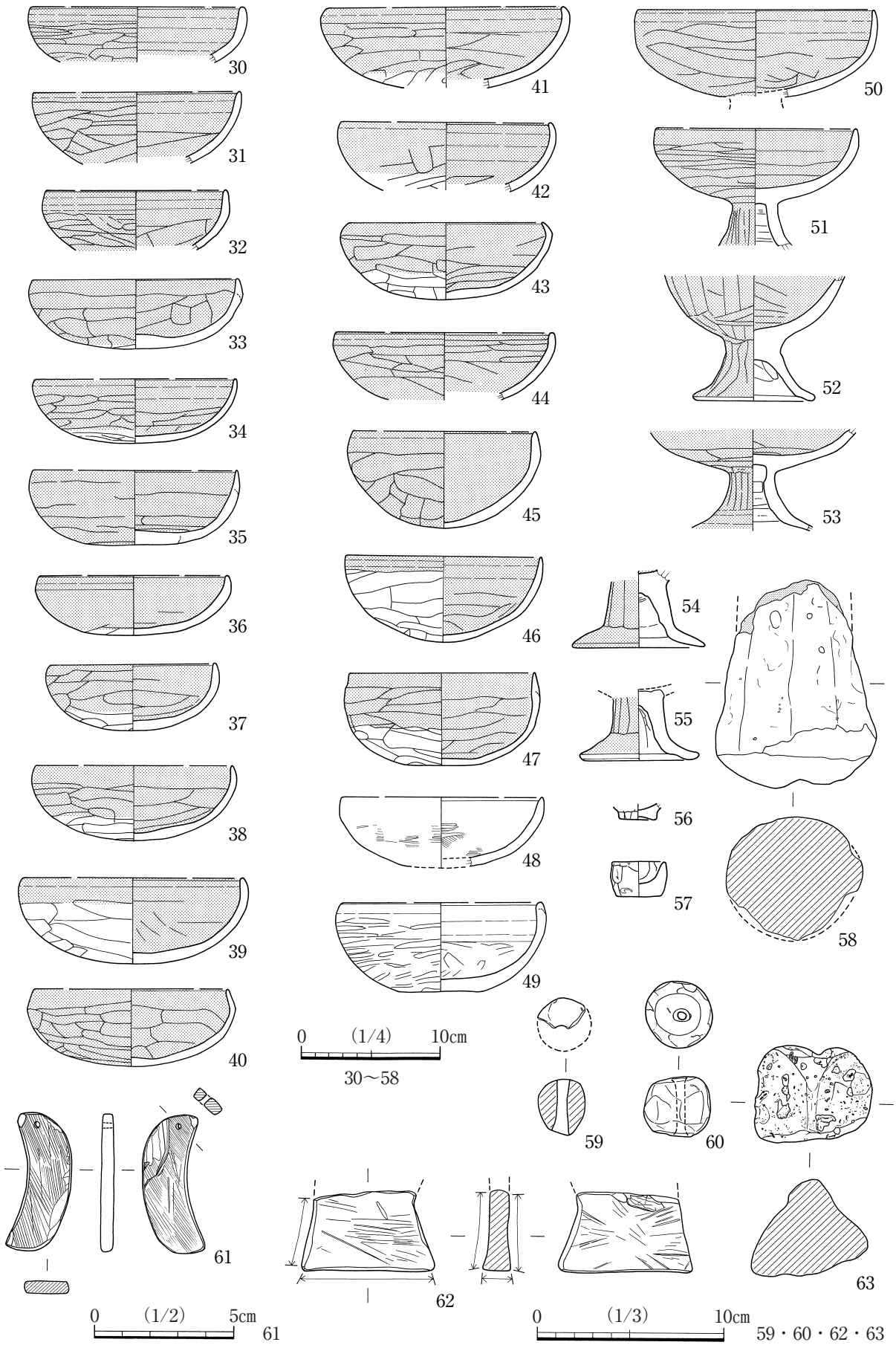
0　(1/80)　3m



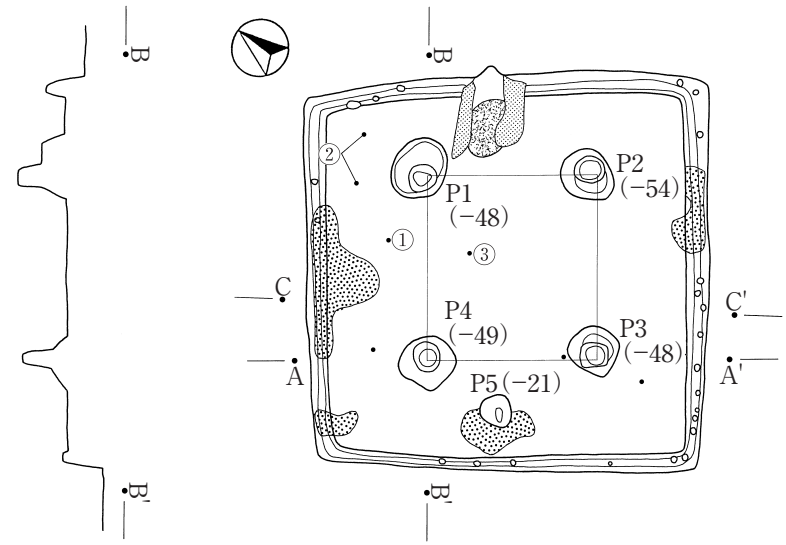
第114図　66号住居跡と出土遺物（1）



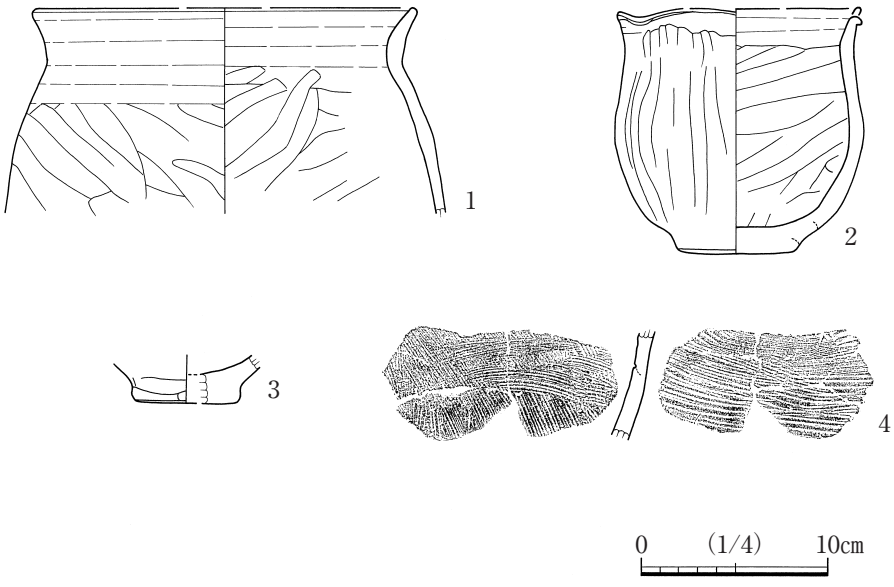
第115図　66号住居跡出土遺物（2）



第116図　66号住居跡出土遺物（3）



《67号住居跡覆土土層C－C'》
1　茶褐色土層。黒色土を含む。
2　茶褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。ローム土塊を少量含む。
4　茶褐色土層。
5　黄褐色土層。ソフトロームを含む。
6　黄褐色土層。ローム粒を含む。
7　黒色土層。
8　粘土層。
9　ローム土塊。



第117図　67号住居跡と出土遺物

る。遺物出土は僅かである。

出土遺物　1は口縁が僅かに開く外面篦ナデの甕。2は無頸で鉢形の小甕で片口を有する。3は小形の柱状底部の甕。4は内外面刷毛目整形の甕片である。1・3が床面直上、2がカマド、4は覆土内から出土している。

68号住居跡（第118図・121、図版19・101）

位置　東調査区中央。Q20・Q21。　**複合切り合い関係**　東辺とカマドを残し69住には北西床面、70住には西側覆土をそれぞれ大きく掘り込まれる。床面レベルは、69住は5㎝程低く、70住は10㎝程上の覆土層中床面が構築される。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－72°－E。　**床面規模**　4.04m（主軸）×3.92m（副軸）。　**推定床面積**　15.94㎡。　**残存壁高**　0.45～0.49m。　**カマド**　東辺中央、煙道部は僅かに突出するだけである。　**床面**　詳細不明。　**壁溝**　残存部分で幅8～12㎝・深さ9㎝前後で廻り、本来は四周するものと思われる。

覆土　詳細不明。　**主柱穴**　4本構造。

出土遺物　70住で記載。

69号住居跡（第119・121図、図版19・101）

位置　東調査区中央。P20・Q20。　**複合切り合い関係**　東側で68住を大きく掘り込み、南側で70住に切り込まれている。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－45°－E。　**床面規模**　5.64m（主軸）×5.58m（副軸）。　**床面積**　31.23㎡。　**残存壁高**　0.62m前後。**カマド**　北東辺中央、煙道部は僅かに突出するだけである。　**床面**　ほぼ平坦で堅く踏まれている。　**壁溝**　幅8～15㎝・深さ8～12㎝で四周する。　**覆土**　詳細不明。　**主柱穴**　4本構造でP3の底面が2カ所存在し、建て替えか主柱の取り替えが行われたものであろう。

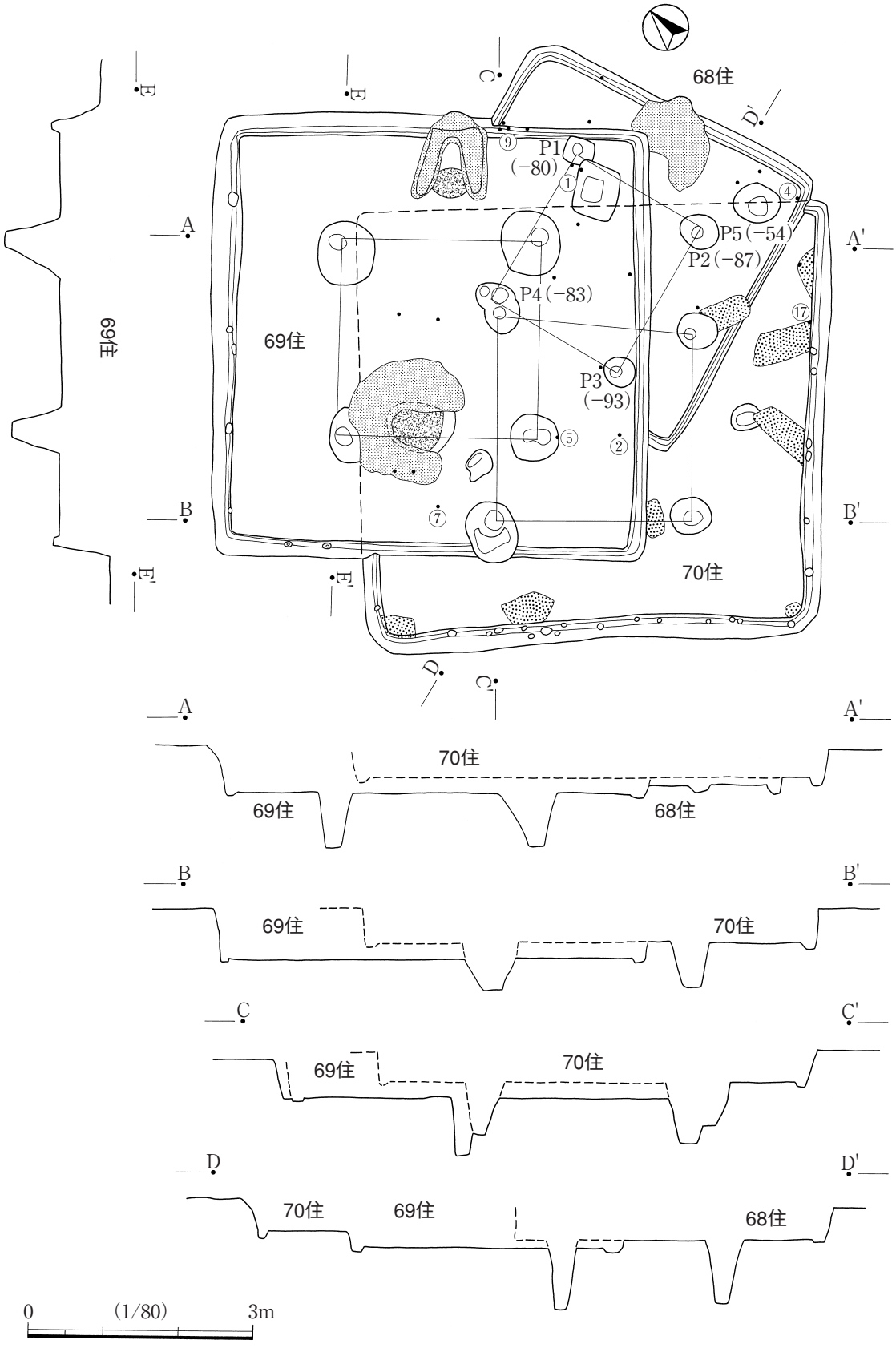
出土遺物　70住で記載．。

70号住居跡（第120・121図、図版19・101）

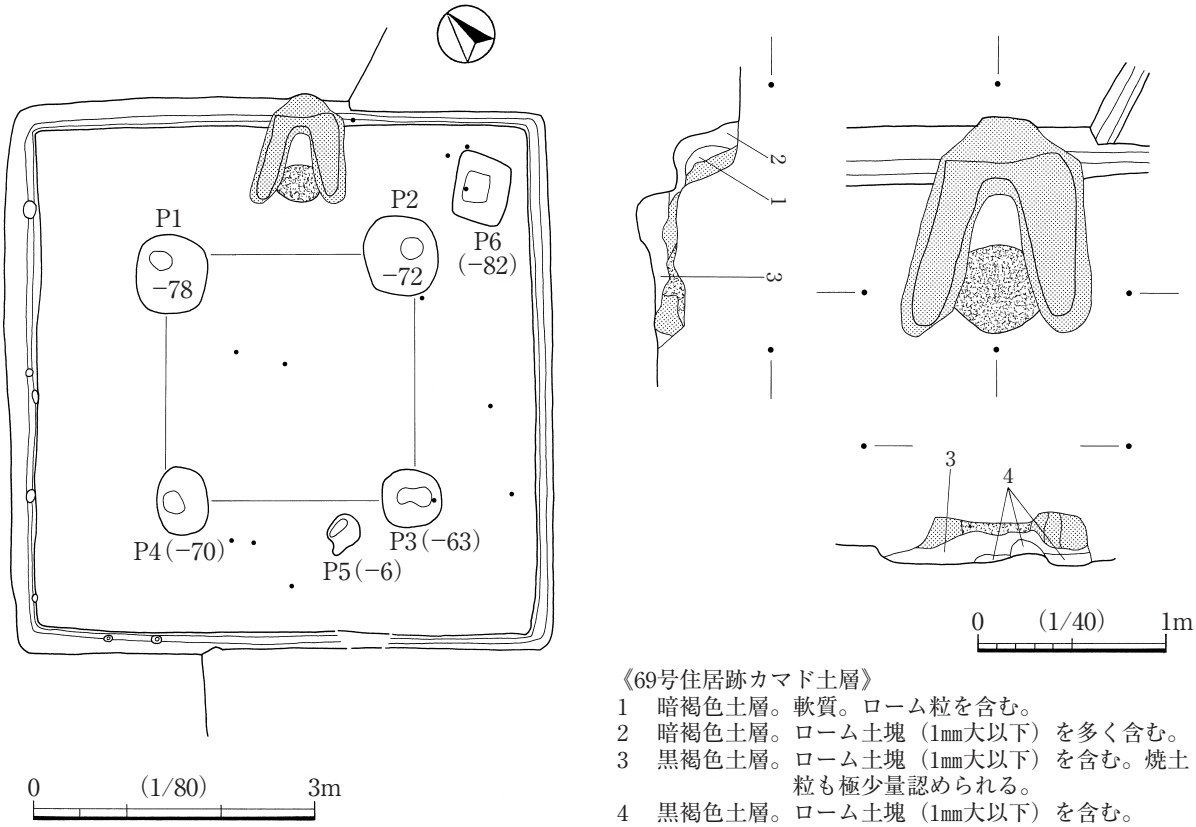
位置　東調査区中央。Q20・Q21。　**複合切り合い関係**　プラン北側で68住・69住をそれぞれ掘り込む。床面は68住から10㎝、69住より15㎝程上層に置き、先行する両住居跡覆土中に構築される壁は確認できなかった。　**平面形**　隅丸方形を呈するものと思われる。　**主軸方位**　N－55°－W。　**床面規模**　5.80m（主軸）×5.60m（副軸）程を計測。　**推定床面積**　32.46㎡。　**残存壁高**　0.39m前後。　**カマド**　北西辺中央。　**床面**　比較的平坦で堅く踏まれている。　**壁溝**　幅10～12㎝・深さ10～14㎝周り、本来は四周するものであろう。　**覆土**　詳細不明。

出土遺物　68住から70住の出土遺物は出土状況が混在するため一緒に取り扱う。

1は口縁内外面と胴外面刷毛目、胴内面篦ケズリを施す。2は須恵器甕片。3～5は球胴系甕で胴外面篦ナデ。6・7は外面ナデ甕の底部。8は中胴系の胴外面篦ケズリの甕。9は胴外面横位の篦ケズリを施す小形の球胴系甕。10は外面に雑なミガキを施した鉢。11は赤彩の椀形杯。12は内面ミガキで漆塗りの可能性が強い杯蓋模倣杯。13はほぼ完形で器高6.4㎝を計る模倣杯。14は残存2分の1の長脚の高杯。15はやや深い杯を連想させる雑な長脚の高杯。16は杯内面光沢のあるミガキを施す高

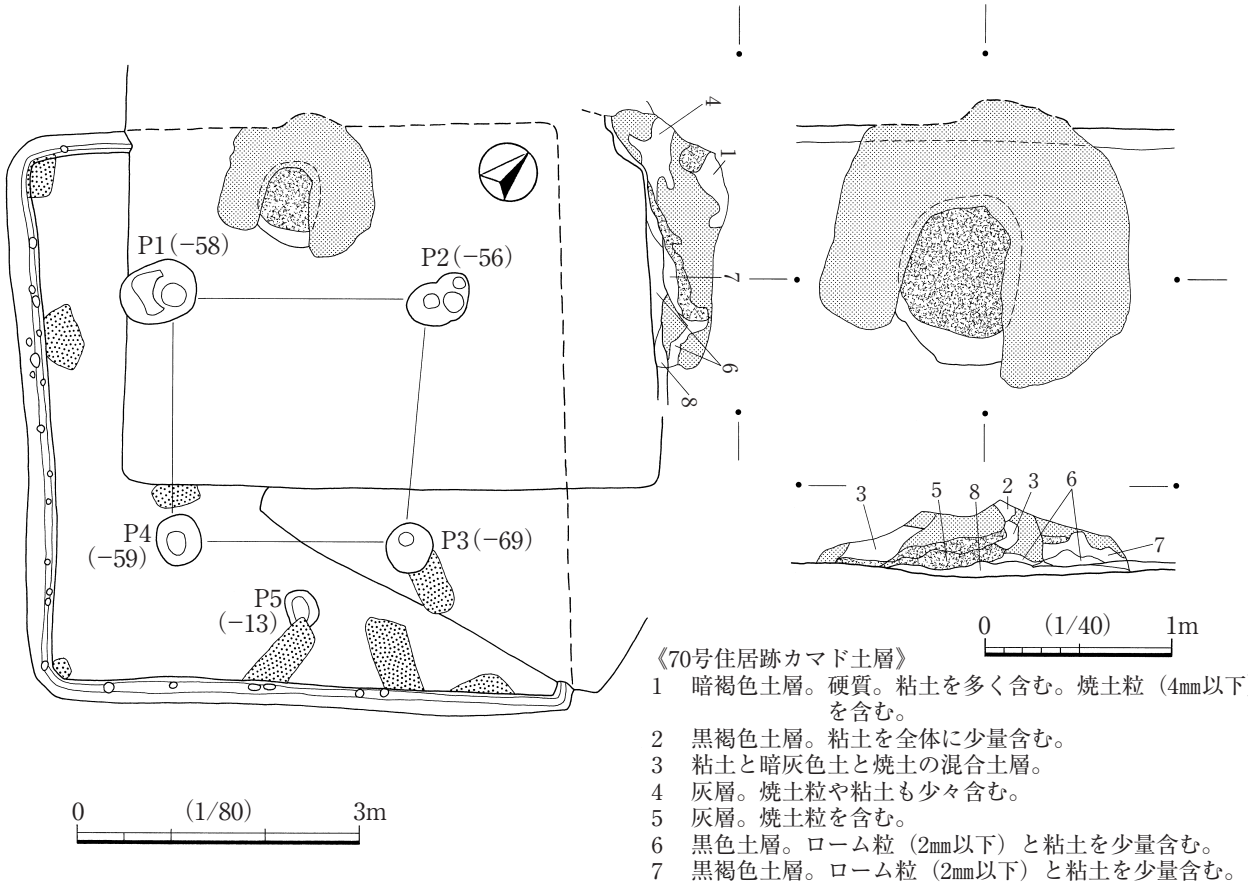


第118図　68号・69号・70号住居跡



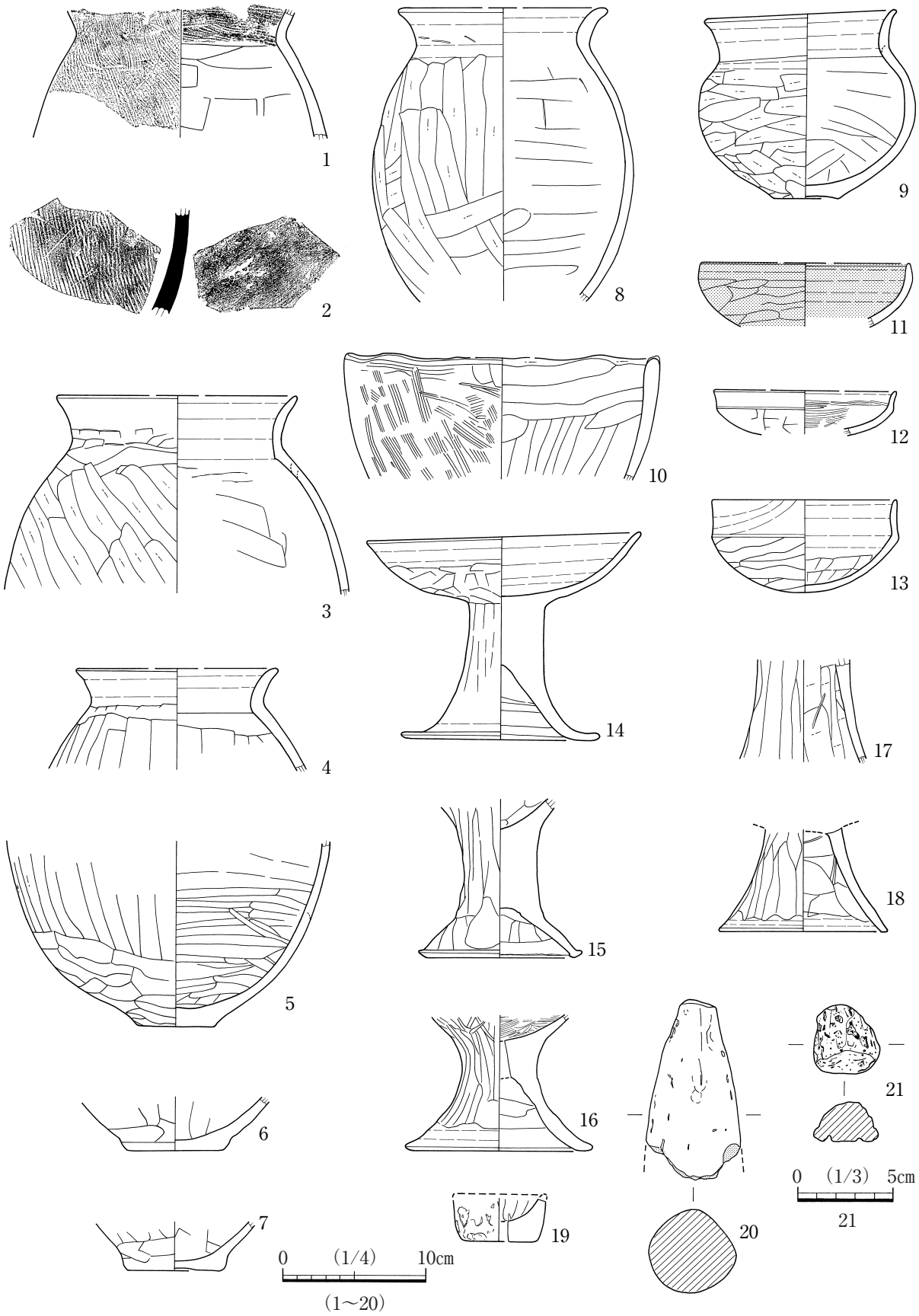
《69号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。軟質。ローム粒を含む。
2　暗褐色土層。ローム土塊（1㎜大以下）を多く含む。
3　黒褐色土層。ローム土塊（1㎜大以下）を含む。焼土粒も極少量認められる。
4　黒褐色土層。ローム土塊（1㎜大以下）を含む。

第119図　69号住居跡とカマド



《70号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。硬質。粘土を多く含む。焼土粒（4㎜以下）を含む。
2　黒褐色土層。粘土を全体に少量含む。
3　粘土と暗灰色土と焼土の混合土層。
4　灰層。焼土粒や粘土も少々含む。
5　灰層。焼土粒を含む。
6　黒色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土を少量含む。
7　黒褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土を少量含む。
8　黒褐色土層。ローム土塊（2㎝大以下）を含む。

第120図　70号住居跡とカマド



第121図　68～70号住居跡出土遺物

杯。17・18は肉薄の高杯脚。19は手捏土器。20は土製支脚。21は磨石で軽石である。

遺構の新旧関係では、68住→69住→70住である。出土遺物を各住居跡に当てはめると１の刷毛目整形甕が最も古い要素であるが、他に本遺構に無いことから混入遺物と見ることができよう。甕では３～７の箆ナデ甕と８・９の箆ケズリ甕に新旧関係を見出すことができる。杯類は11→12・13。高杯は同一時期と見られる。68住は３・４・５・11、69住は８・９・11・12・13、70住には14～18・20の遺物を所属として当てられよう。19と21の祭祀関連遺物は68住の混入遺物か？

71号住居跡（第122・123図、図版19・102）

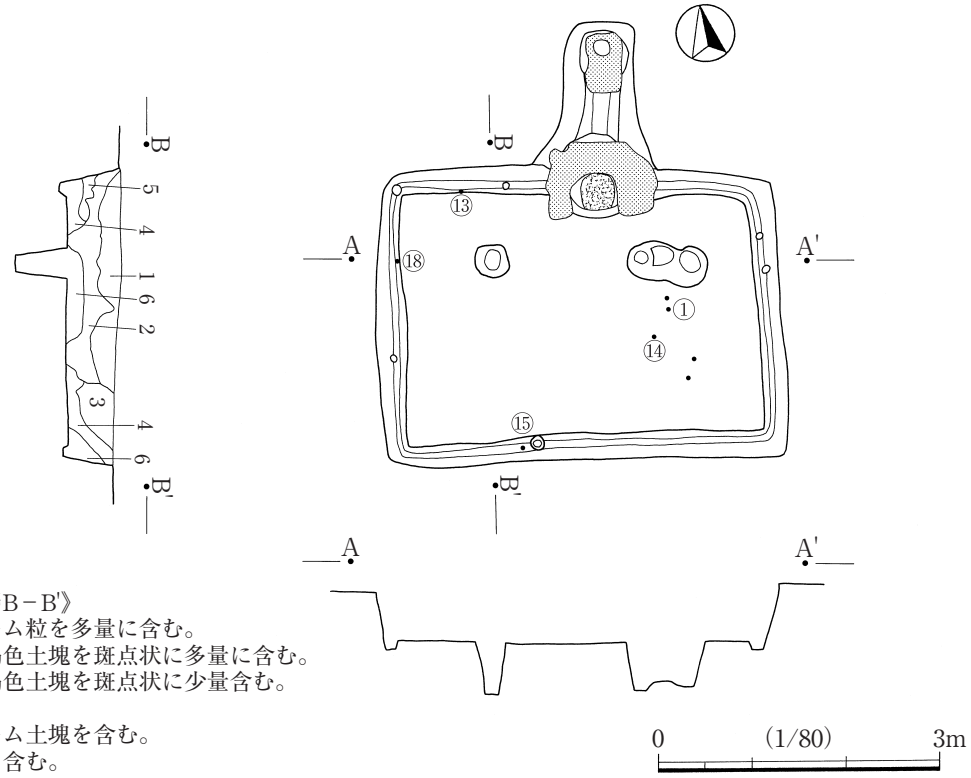
位置　東調査区西側。Q19・R19。　**複合切り合い関係**　単独で検出するが、南西隅で72住東隅と僅かに接する。　**平面形**　横長方形。　**主軸方位**　N－９°－E。　**床面規模**　2.78m（主軸）×4.00m（副軸）。　**床面積**　11.09㎡。　**残存壁高**　0.50～0.60m。　**カマド**　北辺中央に敷設され、煙道部は壁から1.55m程突出する。燃焼部は壁に食い込み設けられ、煙道部先端には甕が２段に直立し煙突の用をなすものであろう。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅14～18cm・深さ７cm前後で四周する。　**覆土**　各層位に異なる土がブロック状に混入し埋め戻されたものと推定できる。

出土遺物　１～９は口縁が大きく外反する胴外面縦位の箆ケズリ甕。６・８は無頸である。９・10は小形甕で外面縦位箆ケズリを施す。11は箆ケズリの甕底部。12は台付甕で10が口縁部であろうか。13は須恵器大甕の胴片。14は口縁外面にミガキを施し、土師器壺口縁か。15は箱形の須恵器高台付杯である。16・17は体部および底部外面手持ち箆ケズリの内面に明瞭な変換線を有する杯。18は円盤状の石製紡錘車。19は砥石断片である。遺物出土位置は、１～５・７～11・16・17がカマド燃焼部、６・14・18が床面直上やほぼ床面、13は壁溝内から出土し、14以外は住居跡の所属時期を示す資料である。

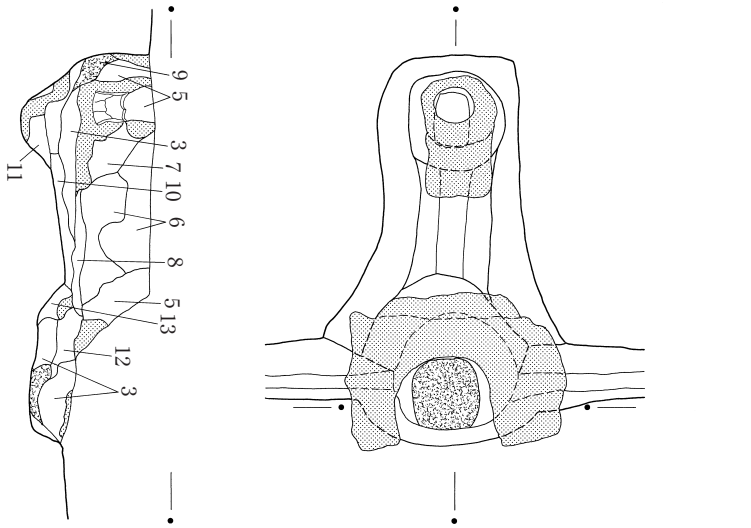
72号住居跡（第124・127図、図版19・102）

位置　東調査区西側。Q18・Q19・R18・R19。　**複合切り合い関係**　プラン南西部を大きく調査区域外に置き、中央部から北東に73住→74住にそれぞれ掘り込まれる。床面レベルは72住が最も浅く、73住はマイナス10cm、74住はマイナス15cm程の72住と比高差がある。　**平面形**　南西辺が未確認で詳細は不明であるが、カマドが敷設される北西辺が他の辺より短く台形を呈するものと思われる。　**主軸方位**　N－38°－W。　**床面規模**　7.00m（主軸）×7.50m（副軸）程を計測する。　**推定床面積**　49.00㎡。　**残存壁高**　0.25m前後。　**カマド**　北西辺中央？　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅12cm前後・深さ７cm前後で四周するものであろう。　**覆土**　不明。

出土遺物　１は口縁長く外反し、胴外面縦位箆ケズリの甕。２は甑で胴外面箆ナデを施し歪みが著しい。３は須恵器甕片。４は内面ミガキの椀形杯。５は内面ミガキで平底気味である。６は口縁シャープなナデの手捏ね状の杯で底部には木の葉を残す。７はミニチュアの手捏ね土器である。８・９は土製支脚。遺物出土位置は、２・４・８が床面直上、１・５がカマド燃焼部から出土し、他は覆土の検出である。本住居跡の帰属資料には、４の杯が当てられ、５のカマド燃焼部とある杯は、新相を呈し73住居跡の混入遺物と思われる。

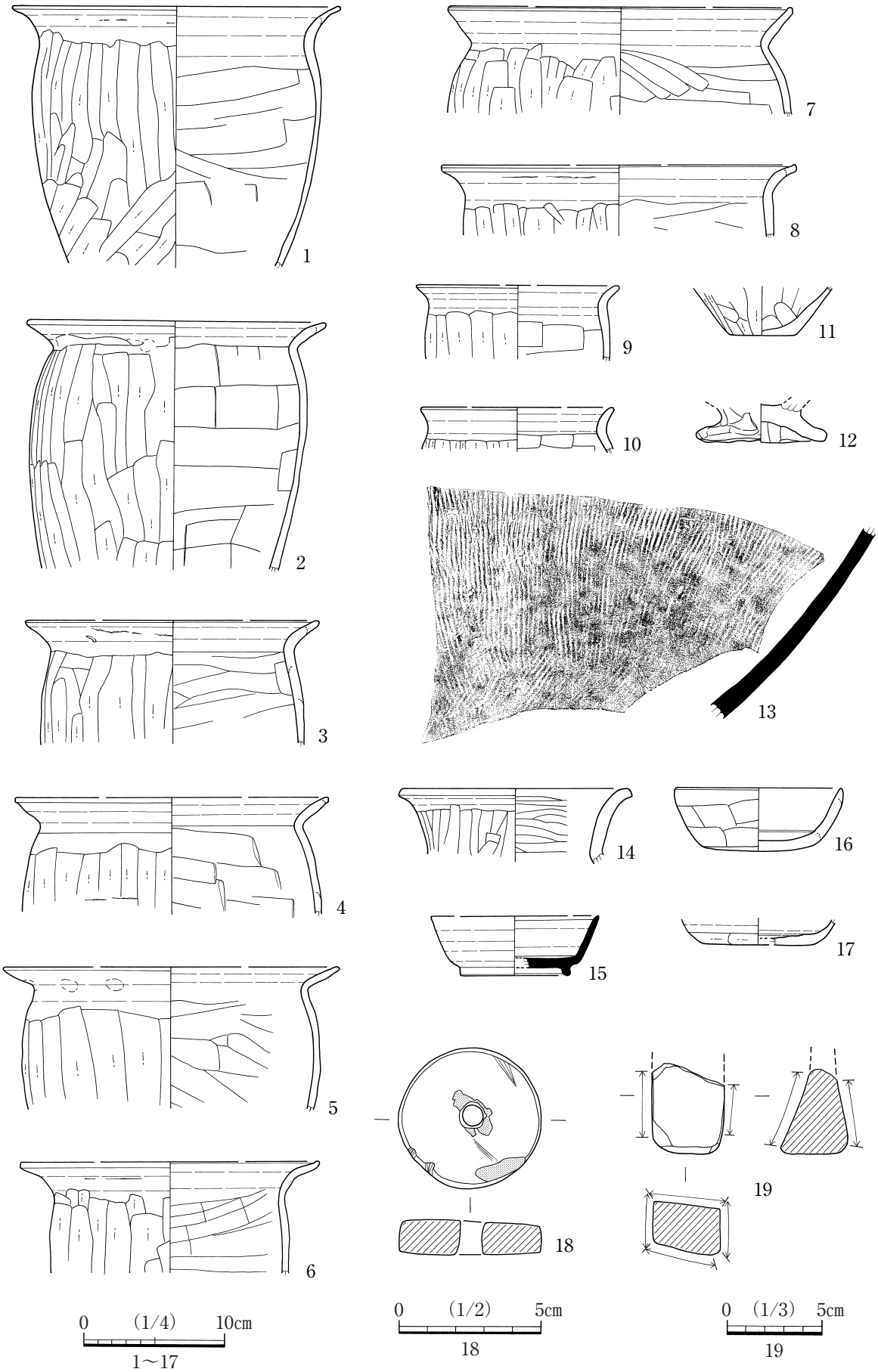


《71号住居跡覆土土層B－B'》
1　黒褐色土層。ローム粒を多量に含む。
2　茶褐色土層。淡褐色土塊を斑点状に多量に含む。
3　黒褐色土層。淡褐色土塊を斑点状に少量含む。
4　黄褐色土層。
5　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
6　黒色土層。粘土を含む。



《71号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を多く含み、焼土粒（3㎜以下）も入る。
2　黒褐色土層。焼土粒（1㎜以下）と灰を少量含む。
3　灰層。焼土粒と粘土粒を少量含む。
4　灰と粘土の混合土層。
5　黒色土層。粘土とロームを少量含む。
6　暗褐色土層。粘土とロームを少量含む。焼土粒も極少量含まれる。
7　暗褐色土層。焼土粒を少量含む。
8　黒色土層。焼土塊と灰を含む。
9　黒褐色土層。軟質。灰と粘土を少量含む。
10　黒褐色土層。粘土と焼土を全体に少量含む。
11　粘土とロームの混合土層。
12　灰と焼土と粘土の混合土層。
13　黒褐色土層。ローム土塊を含む。

第122図　71号住居跡とカマド



第123図　71号住居跡出土遺物

73号住居跡（第124・128図、図版20・103）

位置　東調査区西側。Q18・Q19。　複合切り合い関係　72住の北東部床面を大きく掘り込み、プラン南西部で74住に床面を大きく掘り込まれ検出。　平面形　方形。　主軸方位　N－39°－W。　床面規模　4.00m（主軸）×4.00m（副軸）。　推定床面積　16.00㎡。　残存壁高　0.38～0.44m。　カマド　北西辺西寄り。　床面　ハードローム層中に形成される張床で平坦であるがやや軟弱である。　壁溝　幅８～10cm・深さ16～18cmで周り、本来は四周するものであろう。　覆土　東壁に接し焼土の堆積が認められる。

出土遺物　１は胴外面箆ケズリを残す箆ナデの球胴系甕。２は須恵器甕片。３は杯蓋模倣杯で内外面赤彩を施し、口縁直下に稜を有する。４・５は無彩の椀形杯。６は内面ミガキを施す平底気味の皿状杯である。遺物出土位置は、３がやや床面に近い覆土中から出土し、他は全て覆土からの出土である。72住と73住の複合関係ならび土器の取り上げ時に誤認があり遺物が混在するものと推定される。72住の時期判断には72住２・４と73住３～５、73住居跡では６と72住５を時期決定の資料と考えて良いものと思われる。

74号住居跡（第124・126・129図、図版103）

位置　東調査区西側。Q18・Q19・R18・R19。　複合切り合い関係　72住覆土内に重複し床面を掘り込み、プラン北側で73住をも掘り込んで検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－13°－W。　床面規模　4.26m（主軸）×4.18m（副軸）。　床面積　17.60㎡。　残存壁高　0.42～0.48m。カマド　北辺中央。　床面　ハードローム層中に形成され中央部は平坦で堅緻であるが壁寄りは張床でやや柔らかい。　壁溝　幅15cm前後・深さ10～16cmで四周する。　覆土　南西隅付近の床面に焼土が堆積し火災住居の可能性がある。

主柱穴の深さは一様ではないがＰ１～Ｐ４の底面がそれぞれ２カ所確認でき、主柱穴を備え替え、建て替えが行われた状況を示している。

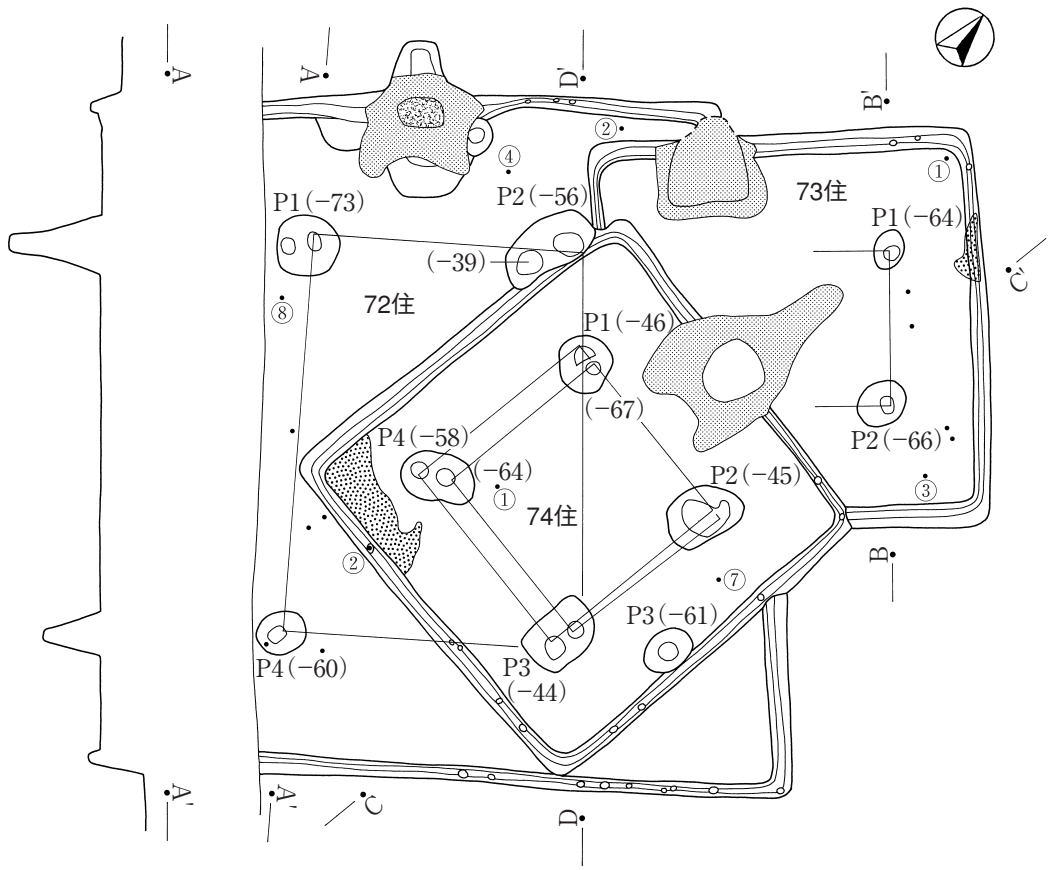
出土遺物　１は胴外面縦位の箆ケズリ甕。２は須恵器甕片。３は須恵器杯。４・５は底体部手持ち箆ケズリの非ロクロ土師器杯であるが暗文は認められない。６はロクロ整形の杯である。

遺物出土位置は、１が床面直上、４がカマド燃焼部からの出土で、他の遺物は覆土からの検出であるが、全ての遺物が本住居跡の帰属を示す資料となろう。

75号住居跡（第130・131・132図、図版20・103）

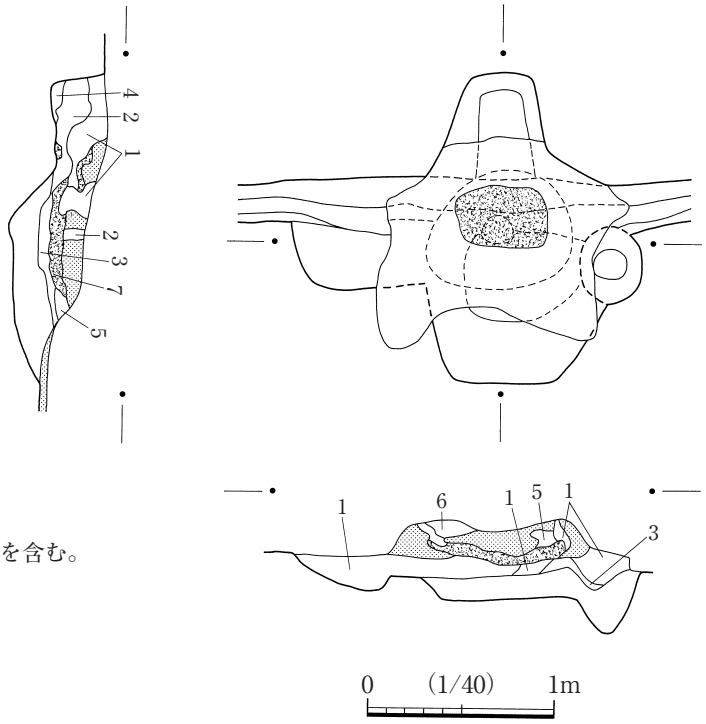
位置　東調査区中央。R19・R20・S19・S20。　複合切り合い関係　北辺壁で77住が掘り込み、西北隅に76住が僅かに壁を掘り込んでいる。　平面形　方形。　主軸方位　N－84°－E。　床面規模　6.28m（主軸）×6.14m（副軸）。　床面積　38.59㎡。　残存壁高　0.46～0.55m。　カマド　東辺中央から南寄りに設けられる。　床面　ハードローム層中に形成され中央部は平坦で堅緻である。　壁溝　幅８～13cm・深さ５cm前後で四周する。　覆土　カマドと西辺で対置する床面に焼土の堆積が認められ火災住居の可能性がある。

出土遺物　１は胴外面斜位箆ナデの球胴甕で胴下半に不自然な屈曲が見られ、部位毎の成形が感じられる。２は中胴甕。３は無頸気味の外面縦位箆ケズリ甕。４は外面箆ナデの近球胴甕で胴中位に鈍い



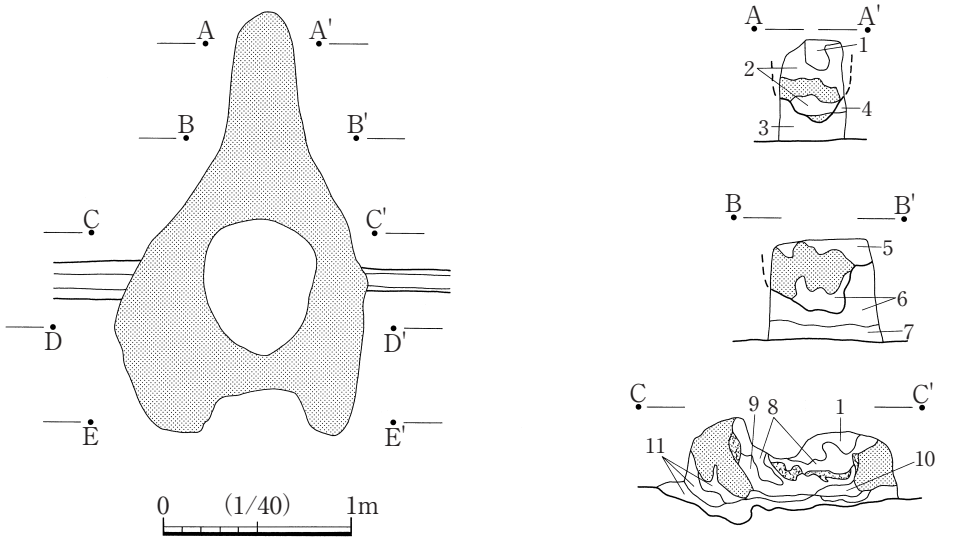
《72・74号住居跡覆土土層D－D'》
1　茶褐色土層。ソフトロームブロックを少量含む。
2　黒褐色土層。小ロームブロックと焼土ブロック混入。
3　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黒色土層。ロームブロックを含む。
5　黒色土層。小ロームブロックと焼土ブロック混入。
6　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
7　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
8　黄褐色土層。硬質なローム土と黒褐色土層。
9　黒褐色土層。
10　黒褐色土層。少量のローム土含む。
11　黄褐色土層。
12　茶褐色土層。ソフトロームブロックを少量含む。
13　茶褐色土層。粘土と焼土を混入。
14　黄褐色土層。ローム土。

第124図　72号・73号・74号住居跡



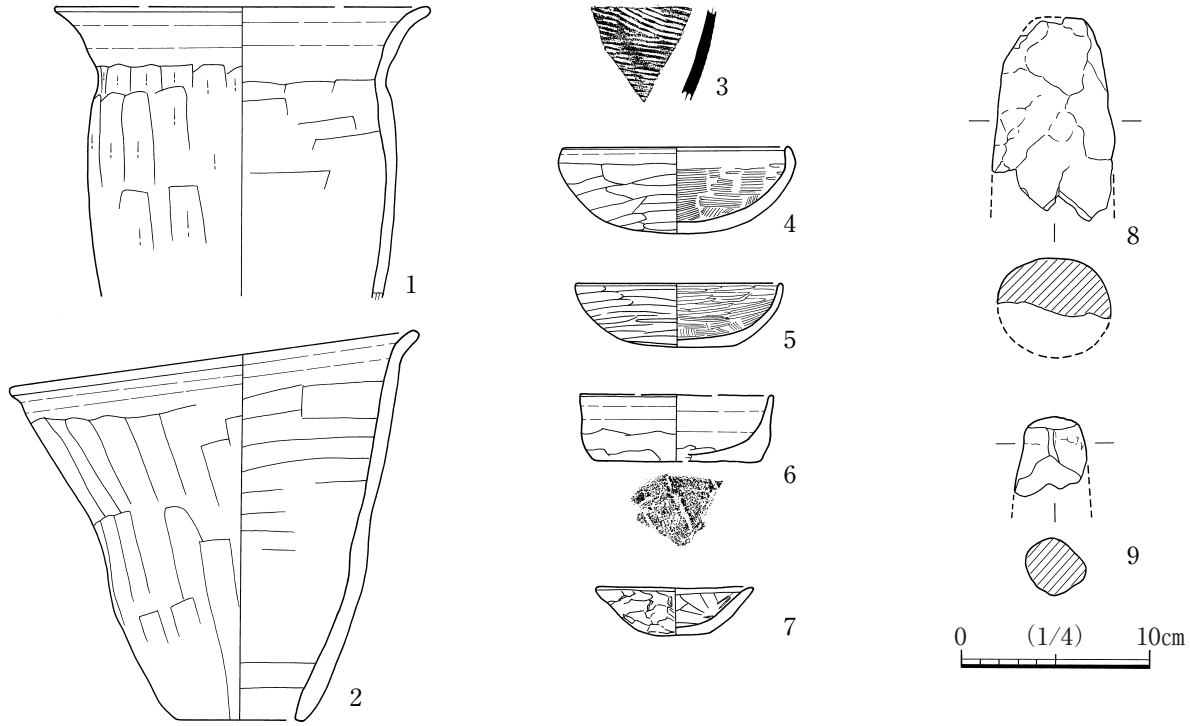
《72号住居跡カマド土層》
1　粘土と暗褐色土層の混合土層。
2　黒褐色土層。粘土と灰とローム及び焼土粒を含む。
3　暗褐色土層。ローム粒を含む、
4　黒褐色土層。粘土と焼土粒を少量含む。
5　粘土層。焼土粒を少量含む。
6　粘土層。暗褐色土層と焼土を含む。
7　灰層。焼土粒（3㎜以下）を少量含む。

第125図　72号住居跡カマド

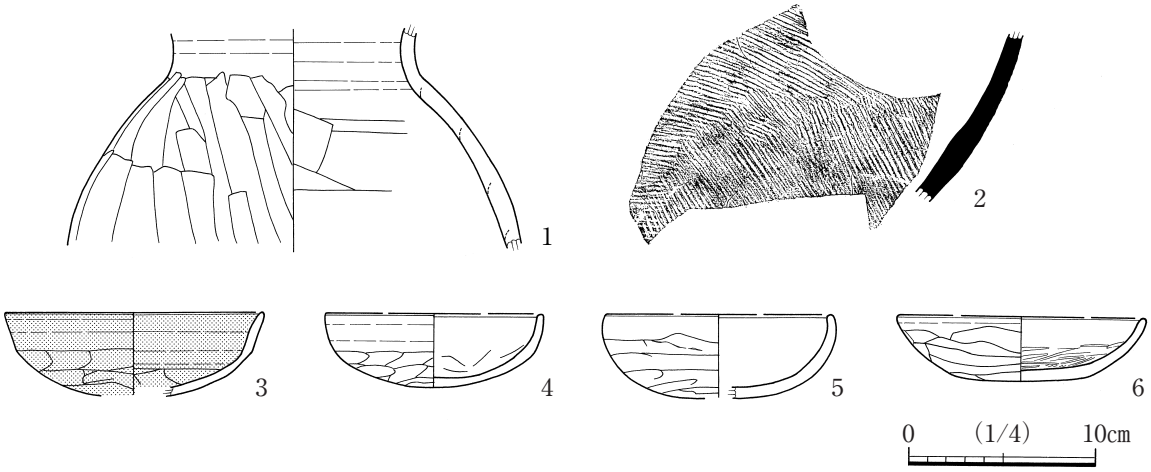


《74号住居跡カマド土層》
1　粘土層。暗褐色土を全体に少量含む。
2　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
3　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
4　粘土と焼土と灰の混合土層。
5　暗褐色土層。粘土を多く含む。
6　黒褐色土層。ローム土塊（1㎝大以下）を含む。
7　黒色土層。ローム粒（1㎜以下）を極少量含む。
8　粘土層。焼土粒と暗褐色土塊を少量含む。
9　灰層。焼土粒を少量含む。
10　暗褐色土層。ローム土塊（2㎝以下）を含む。
11　黒褐色土層。ローム土塊（1㎝以下）を含む。粘土粒を少量含む。

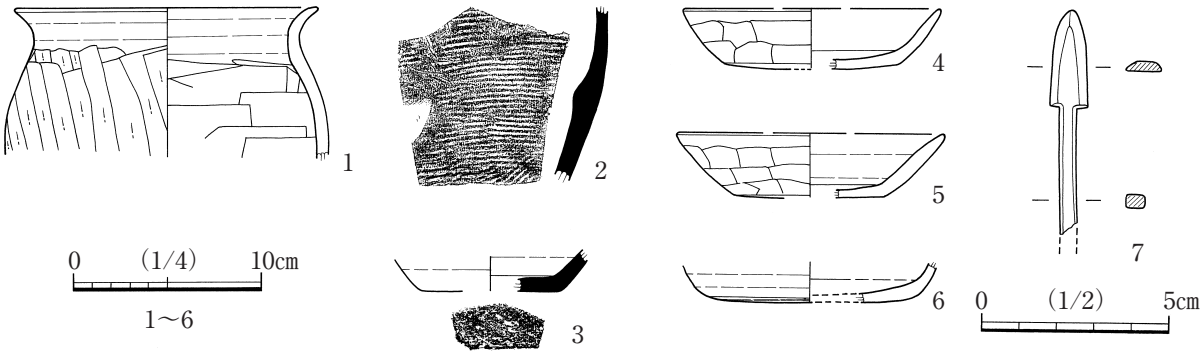
第126図　74号住居跡カマド



第127図　72号住居跡出土遺物



第128図　73号住居跡出土遺物



第129図　74号住居跡出土遺物

屈曲を有し、1同様部位毎の成形が感じられる。5は無頸気味で口縁が大きく外反し、外面斜位のケズリ状篦ナデを施す甑か。6・7は篦ナデの甕片で、6の内外面には漆塗が厚く塗られる。8は篦ケズリを施す球胴甕底部。9の甕底部は内面に刷毛目、底部は粗い篦ケズリを施す。10・11は須恵器甕片。13はやや深い内外面ミガキを施す無彩の椀形杯。14は無彩の脚が柱状で雑な整形の高杯である。12・15～20は赤彩の高杯である。15は腰の張る深い椀形。16は口縁直立気味の椀形を呈する。17は杯部に比して脚が短い。18～20は裾部がなだらかに外反する。21は手捏ね土器。22は断面台形の紡錘車で側面には刀子などの鉄器状工具を使用して加工したと思われる線状の加工痕が明瞭に認められる。23は板状を呈する砥石であるが磨り面が平らでないことから非鉄器砥石と思われる。24は刀子の茎から関部の部分依存で77住からの混入遺物であろうか。1・4の胴部に鈍い屈曲を有する甕は、各部位が整形時に接合された事を臭わすものであろう。4は特に胴の上半・中位・下端と部位により篦ナデの方向が異なり、部位毎での成形を強く印象づける。遺物出土位置は、4・7～9・12がカマド燃焼部、1・2が床面直上、13・19・20がほぼ床面から出土し、他は覆土検出である。

76号住居跡（第130・133図、図版20・104）

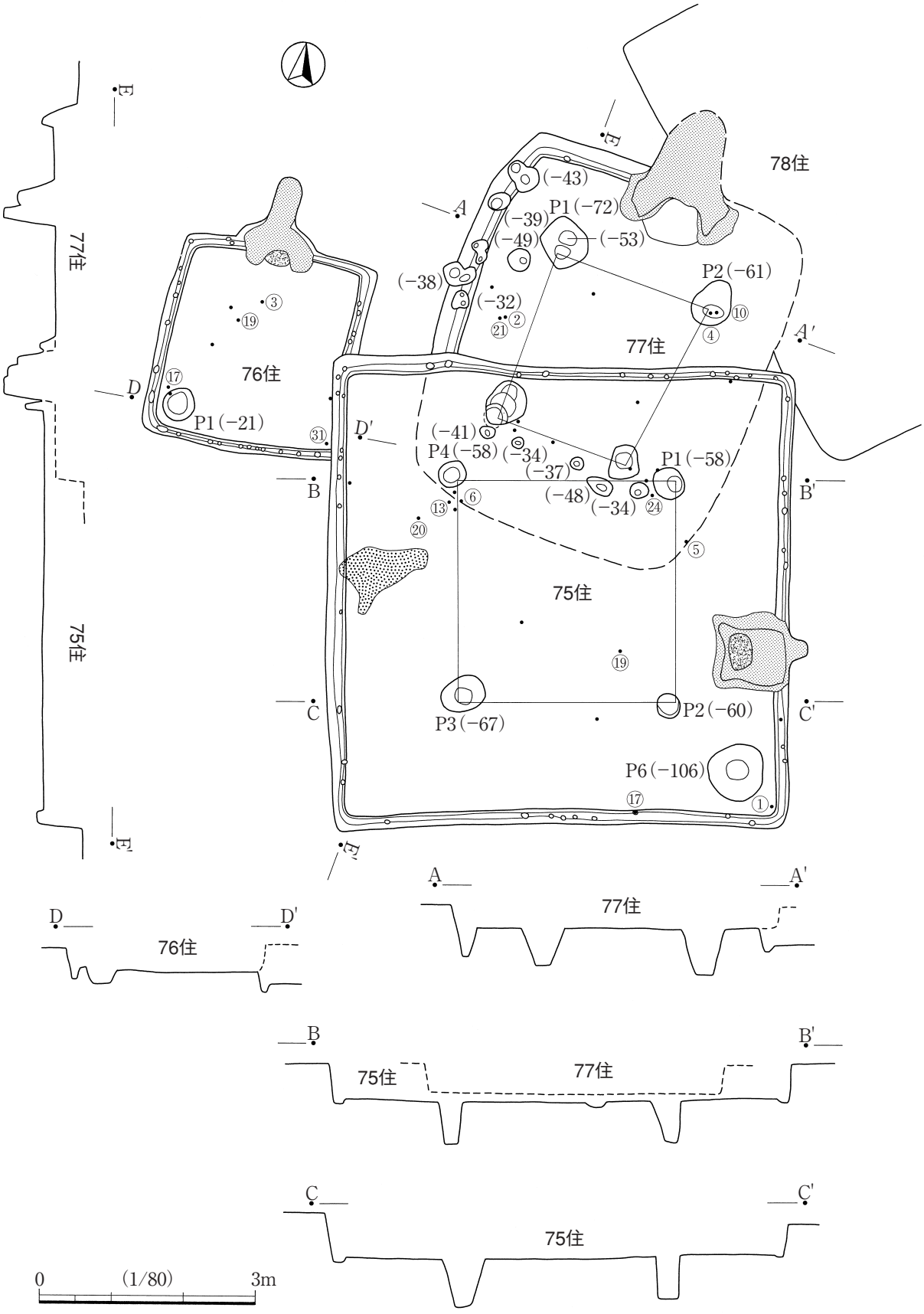
位置　東調査区中央。R19。　**複合切り合い関係**　東辺中央から南側で75住と壁を掘り込んで検出。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－6°－E。　**床面規模**　2.78m（主軸）×2.58m（副軸）。　**床面積**　7.06㎡。　**残存壁高**　0.24～0.28m。　**カマド**　北辺中央に設けられる。　**床面**　ハードローム層中に形成され中央部は平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅8～13cm・深さ5cm前後で四周するものであろう。　**覆土**　不明。

出土遺物　1・2は土師器甕。1は口縁端部を摘み出し、内面に段を有し、側面に鋭い面取りにより凹線を有し外面は縦位篦ケズリを施す。2も口縁端部を摘み出し僅かに外傾し外面縦位の篦ケズリを施す。3～12は千葉市域産の須恵器である。3・4は甕で、3の胴部は斜傾する平行叩き目で下端に鋭い篦ケズリを施す。5・6は同様な甑である。7～12も千葉市域産の須恵器甕片で、8には把手状の突起が見られる。13・14は須恵器甕片で13の須恵器内面には同心円紋が深く残る。15は底部回転篦ケズリの須恵器杯。16は千葉市域産須恵器で底部手持ち篦ケズリを施す。17～27はロクロ土師器杯で体部下端および底部に回転篦ケズリを施す。28は内面ミガキを施す小形鉢。29は長頸壺外面に施釉される。30は平瓶天井部片で施釉される。31は住居跡南東隅の床面から出土した丸瓦である。

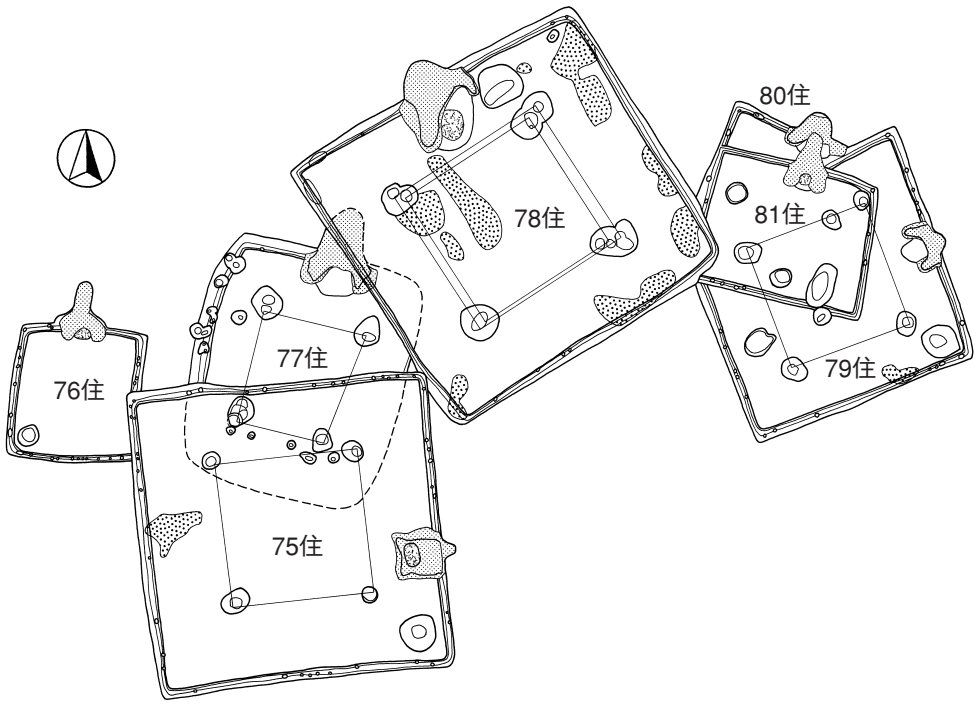
遺物出土位置は、2がカマド燃焼部、3・28・31が床面直上から出土し、他は覆土からの検出であるが、覆土出土の遺物も住居跡に伴うものであろう。28が床面出土であるが、住居跡共伴遺物であるなら後世の転用であろう。

77号住居跡（第130・134図、図版20・104）

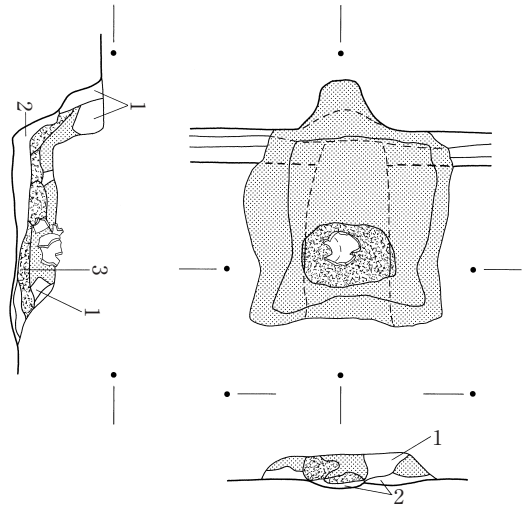
位置　東調査区中央。R19・R20。　**複合切り合い関係**　プラン南側半分で75住北辺壁を掘り込み75住床面上10～20cmに床面を形成する。また、北西部で78住南西辺壁を掘り込む。　**平面形**　胴張り縦長方形。　**主軸方位**　N－20°－E。　**推定床面規模**　5.00m（主軸）×4.10m（副軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.35m前後。　**カマド**　北辺中央？　**床面**　ハードローム層中に形成されるが張床。中央はやや凹凸があるものの堅緻で壁寄りはやや軟である。　**壁溝**　幅16～18cm・深さ10cm前後



第130図　75号・76号・77号住居跡



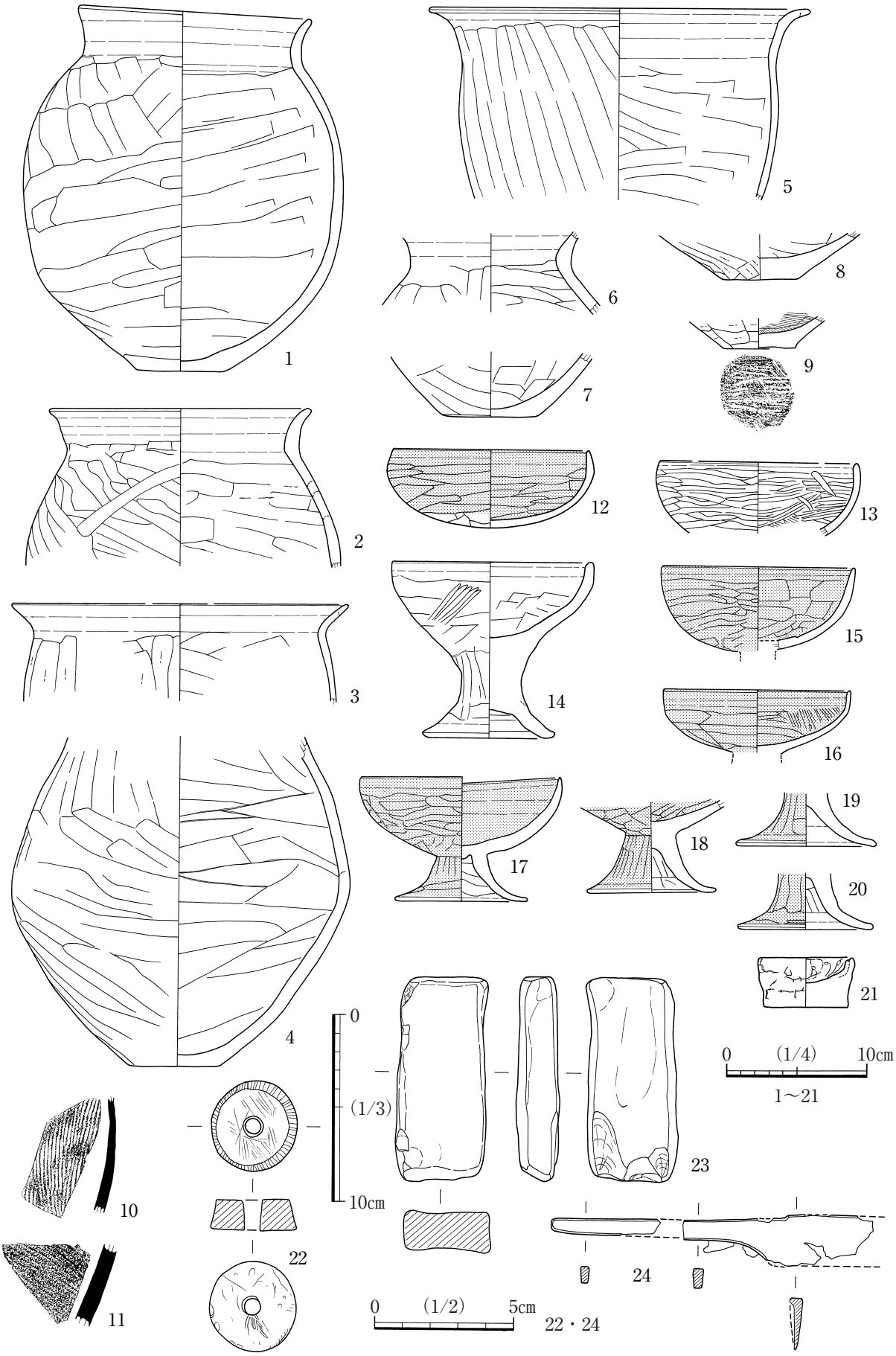
0　（1/160）　5m



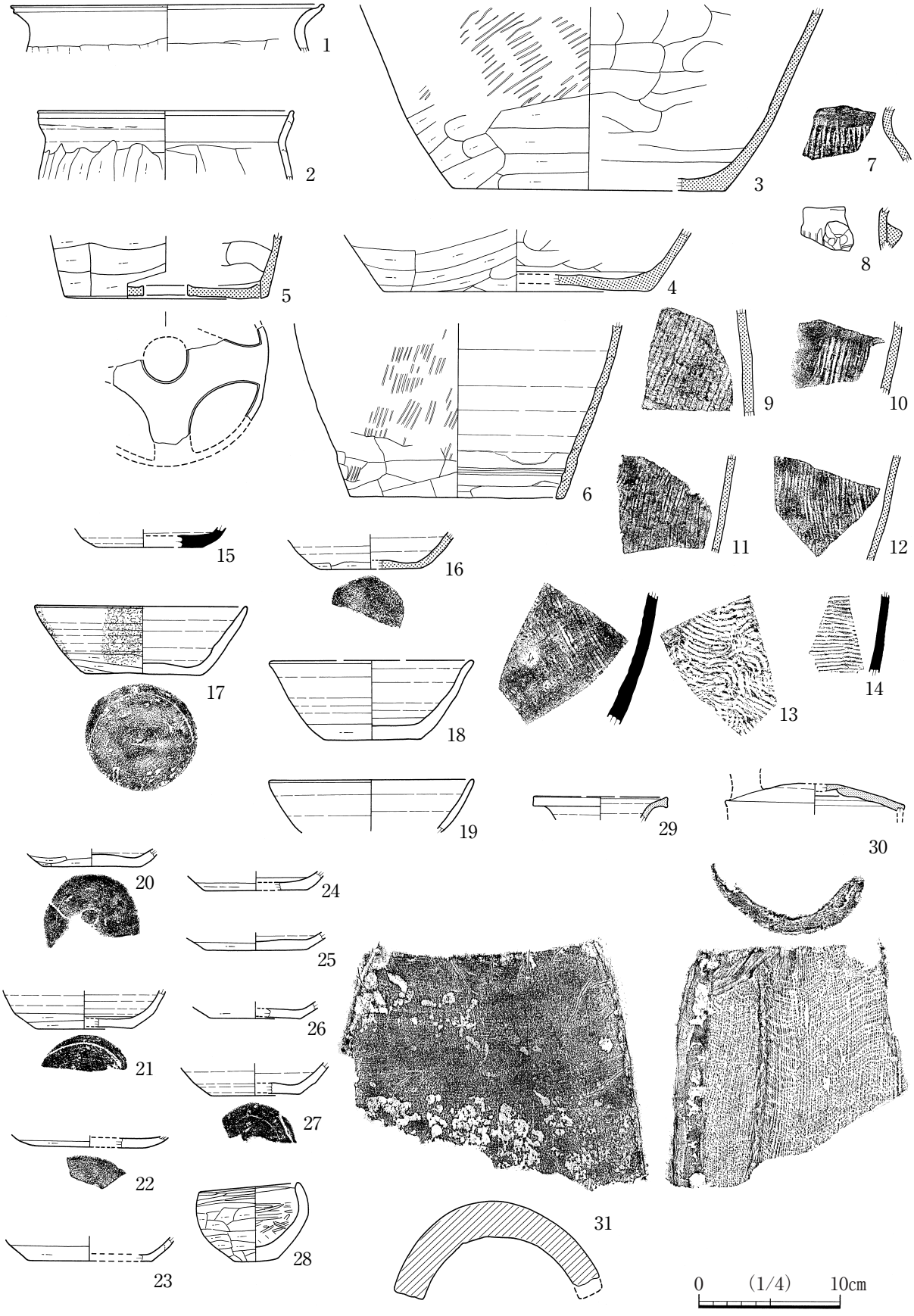
《75号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を多く含み、焼土粒（3㎜以下）を少量含む。
2　黒褐色土層。ローム粒を含む。
3　灰層。焼土と粘土を少量含む。

0　（1/40）　1m

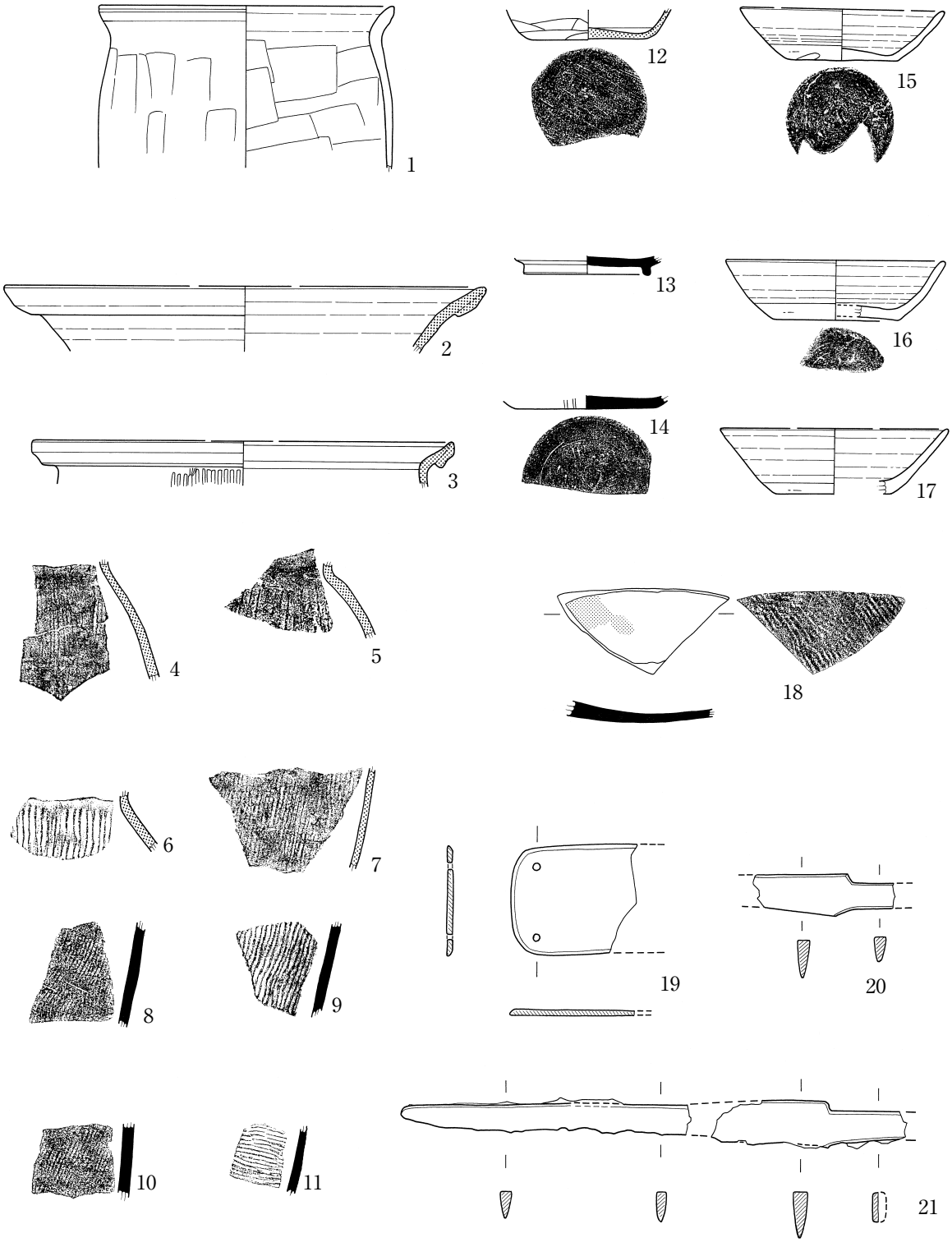
第131図　75号住居跡カマドと75～81号住居跡複合状況



第132図　75号住居跡出土遺物



第133図　76号住居跡出土遺物



第134図　77号住居跡出土遺物

で四周する。　**覆土**　不明。

出土遺物　1は76住－1同様の土師器甕であるが口縁端部の摘み出しが弱く、胴外面箆ケズリ消し去る箆ナデを施す。2～7は千葉市域産の須恵器甕類で2・3は口縁貼付で肉厚となり、2は口縁が大きく外反し、3は短く外反する。8～11は外面平行叩き目の須恵器甕片。12は千葉市域産須恵器杯。13は須恵器高台付杯。14は永田不入窯跡産須恵器杯。15～17はロクロ土師器杯で体部下端および底部回転箆ケズリを施す。18は須恵器甕片で凹面に朱墨の痕跡が認められる。19は銅製帯金具で目釘孔2穴を有する。20・21は刀子である。遺物出土位置は、21が床面直上から出土する以外は床面から10㎝以上浮いて覆土から検出し、明確な共伴遺物が特定できないが、全ての遺物が本住居跡の時期を示す資料として差し支えないものであろう。

78号住居跡（第135・136図、図版21・105）

位置　東調査区中央。G20・R19・R20。　**複合切り合い関係**　西南辺壁を77住に、東隅で80住・81住にそれぞれ掘り込まれている。　**平面形**　やや横長の方形。　**主軸方位**　N－32.5°－W。　**床面規模**　6.28m（主軸）×6.64m（副軸）。　**床面積**　41.59㎡。　**残存壁高**　0.52～0.58m。

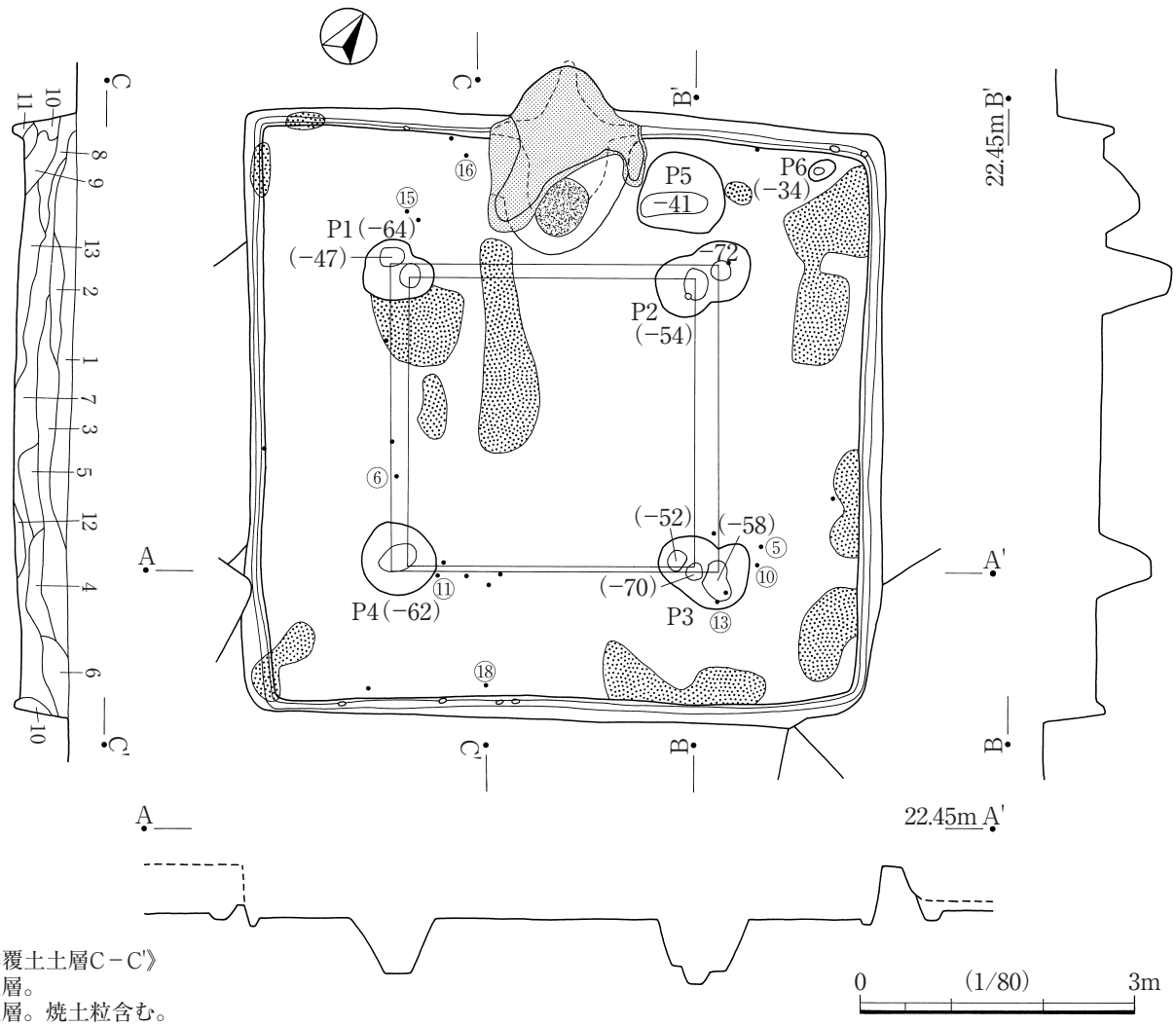
カマド　北西辺中央。　**床面**　ハードローム層中に形成されほぼ平坦に踏みしめられている。　**壁溝**　幅7～12㎝・深さ7～10㎝程で四周する。　**覆土**　上層は黒褐色土を主体に自然堆積状況をしめし、中位層には焼土・粘土粒・木炭を含み、また床面直上も焼土に覆われる部分も多く火災住居の様相を呈している。また、主柱穴P1～P2には底面が複数あり柱の建て替えが行われた状況を示す。

出土遺物　1は胴外面縦位の箆ケズリ甕。2は口頸部が長く大きく外反し、シャープなヨコナデによって仕上げられる。3は口縁端部摘み出し側面に凹状の条線が回り、胴外面は箆ナデによる甕。4は外面漆塗りの可能性のある球胴甕底部。5・6は扁平な半円状の杯で、5の内面はミガキを施す。7・8は杯蓋模倣杯で、8の内面はミガキを施す。9は杯内面黒色処理を施す小形の高杯。10は無彩の高杯脚。11は赤彩高杯脚。12は大きく開く杯部内外面にミガキを施す高杯。13は杯内面ミガキの高杯。14～16は土製支脚。17は土玉。18は敲打石。11は軽石である。7・9がカマド燃焼部などから出土する以外は、覆土からの出土で共伴遺物は明確にできないが5～8の土師器杯や11の赤彩高杯以外の高杯も住居跡の所属時期を示す資料と見ることができる。

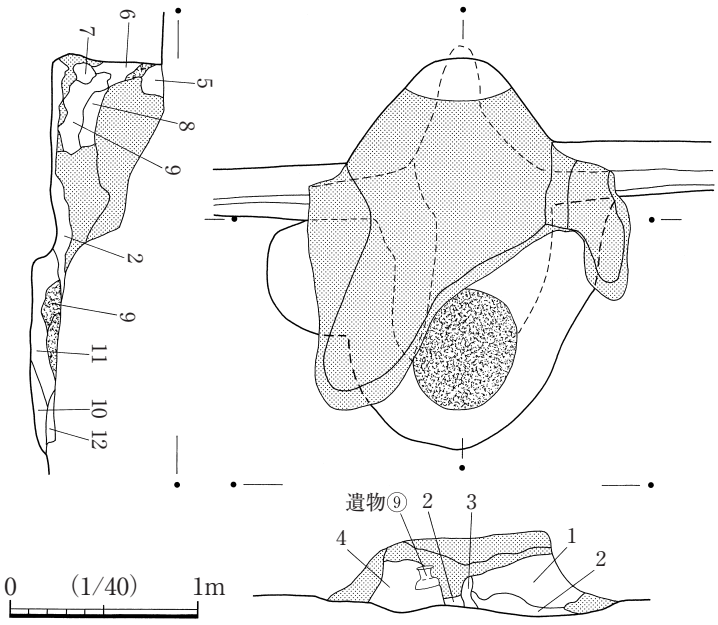
79号住居跡（第137・138・139図、図版21・105・106）

位置　東調査区中央。R20・R21。　**複合切り合い関係**　北西隅で78住東隅と接し、プラン西側床面を80住・81住に大きく掘り込まれる。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－65°－E。　**床面規模**　4.92m（主軸）×4.86m（副軸）。　**床面積**　23.24㎡。　**残存壁高**　0.23～0.36m。　**カマド**　東辺中央。**床面**　張床で総体的に余り踏みしめられた様子が無い。　**壁溝**　幅8～10㎝・深さ7㎝前後で四周するものと思われる。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示すものである。

出土遺物　1は口径値1.31を呈する中胴甕で、胴上半刷毛目整形、下半刷毛目を消す箆ナデを施す。2・3は胴外縦位と斜位の箆ナデを施す。4は胴部内外面に刷毛目整形を残すが下半と口縁内外面には刷毛目は認められない。5の甕は口頸部が長く「コ」の字状を呈し大きく水平に開き、外面箆ナデを施す。6・7は無頸の鉢形を呈し、胴外面縦位箆ケズリで底部を欠損するが甑であろう。8は須恵

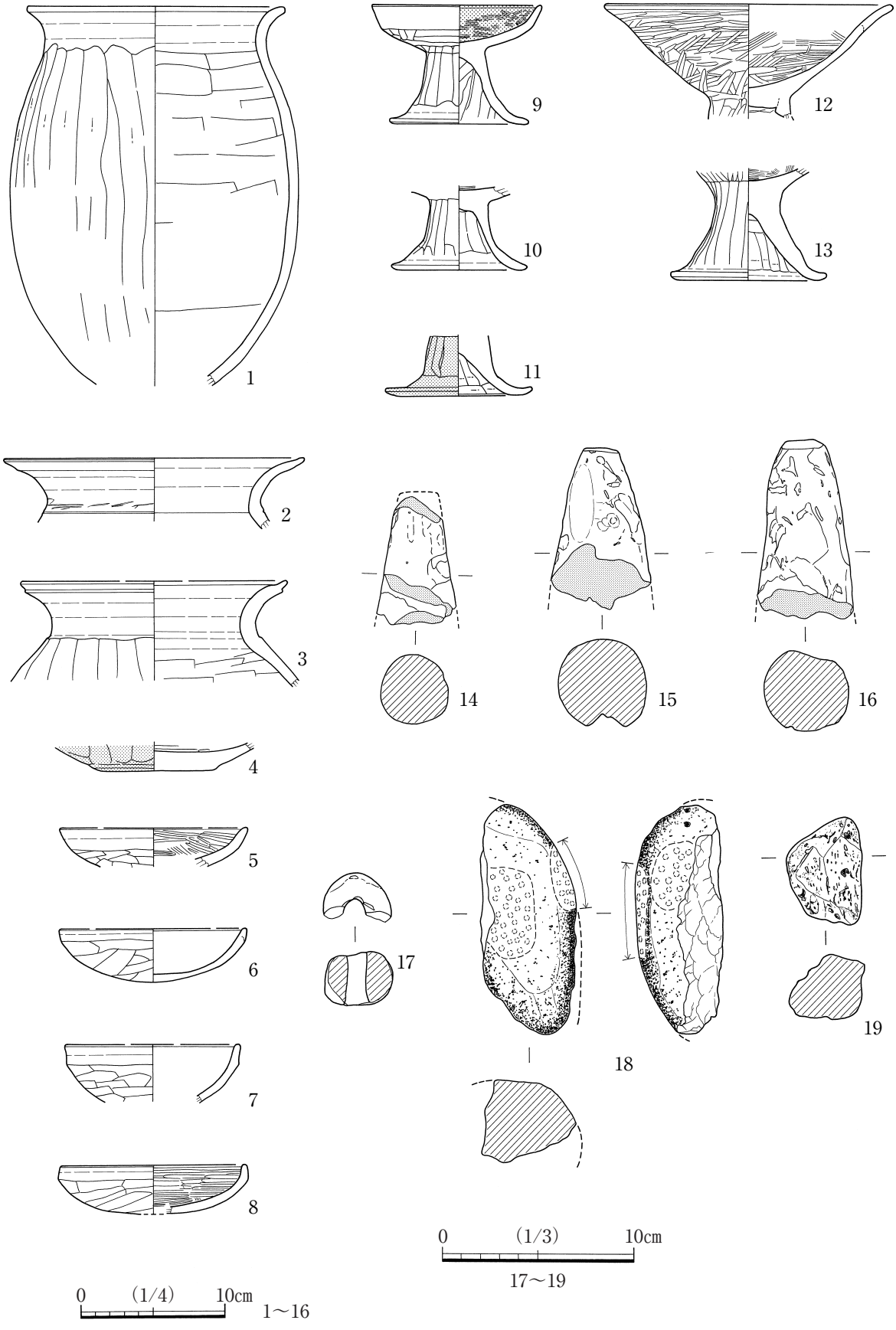


《78号住居跡覆土土層C－C'》
1 暗褐色土層。
2 黒褐色土層。焼土粒含む。
3 茶褐色土層。ソフトローム含む。
4 黒褐色土層。ロームブロック混入。
5 黄褐色土層。ロームブロック多量に混入。
6 茶褐色土層。小ロームブロック混入。
7 黒褐色土層。木炭粒と焼土を含む。
8 茶褐色土層。粘土粒を含む。
9 黒褐色土層。粘土粒を含む。
10 黒褐色土層。ソフトローム含む。
11 白色粘土層。
12 黄褐色土層。ソフトロームとハードロームブロック土層。
13 茶褐色土層。粘土粒と焼土を含む。



《78号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。ローム粒（5㎜大以下）を多く含む。
2 黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）と粘土塊（1㎜以下）を含む。
3 灰層。焼土粒と粘土粒を含む。
4 暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。ローム粒を含む。
5 粘土層。焼土とローム土を含む。
6 ローム土層に焼土粒（5㎜以下）を含む。
7 熱を受けたローム土層。
8 暗灰色（明るい）土層。ローム土塊（1㎝大）を含む。
9 灰層。粘土粒と焼土粒を含む。
10 暗褐色土層（明るい）ローム土塊（1㎝大）を含む。
11 暗褐色土層。粘土粒とローム土塊を含む。
12 ロームブロック（硬質）。

第135図　78号住居跡とカマド



第136図　78号住居跡出土遺物

器蓋杯で口唇および稜にややシャープさを欠きTK23～TK47型式と看取される。9は内面黒色処理でミガキを施す、平底気味の杯。10は深い椀状で口縁内面に刷毛目を残し、底体部外面篦ナデを施す。11～17は赤彩の高杯。18は手捏ね状のミニチュアの壺形を呈する。19は土製支脚。20は断面台形の石製紡錘車。21は磨石である。遺物出土位置は、4・14・19がカマド燃焼部、1・13が南西隅の貯蔵穴P5内、5・10・15・16・21が床面直上、11・12が壁溝などから出土し、他は覆土からの検出である。覆土の2・3・8・17・20も住居跡の所属時期を示す資料と見ることができる。9は82住の混入遺物であろう。

80号住居跡（第137・140図、図版22・106）

位置　東調査区中央。R20・R21。　複合切り合い関係　プラン南側で79住を掘り込み、また81住にカマド西側床面を残し大きく掘り込まれ重複する。　平面形　方形？　主軸方位　N－19°－E。床面規模および床面積ともに不明。　残存壁高　0.36m前後。　カマド　北辺中央。　床面　張床で総体的に余り踏みしめられた様子が無い。　壁溝　幅10cm前後・深さ8cm前後で確認壁下に廻り本来は四周するものと思われる。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造。

出土遺物　遺物はは81住で説明。

81号住居跡（第137・140図、図版22・106）

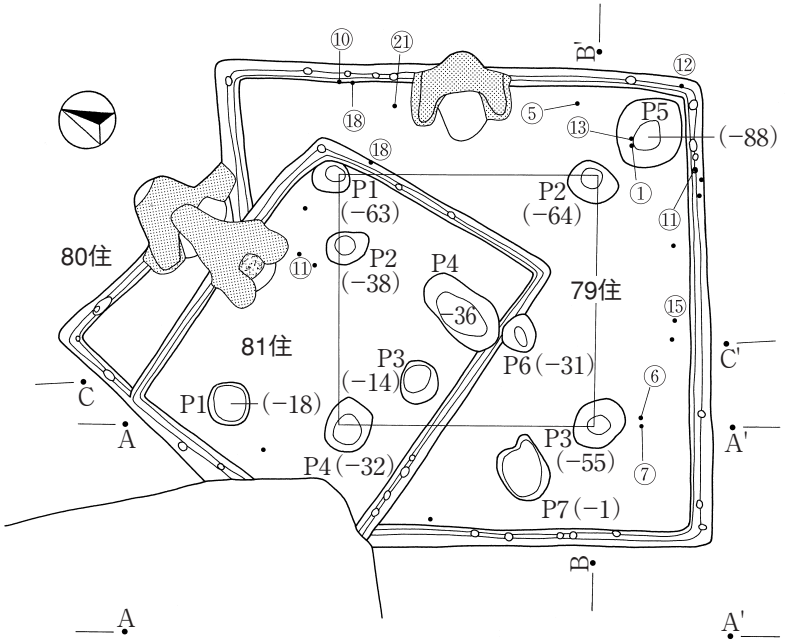
位置　東調査区中央。R20・R21。　複合切り合い関係　プランの大半は79住と80住床面を大きく掘り込み検出する。78住東覆土中に床面を置き西隅壁が不明確である。　平面形　横長方形。　主軸方位　N－15°－E。　床面規模　2.82m（主軸）×3.54m（副軸）。　床面積　9.76㎡。　残存壁高　0.44m前後。　カマド　北辺中央。　床面　張床で比較的堅く踏みしめられている。　壁溝　幅8～10cm・深さ9cm前後で廻り、本来は四周するものと思われる。　覆土　概ね自然堆積状況を示すものである。　主柱穴　P1・P2で2柱構造と考えられる。

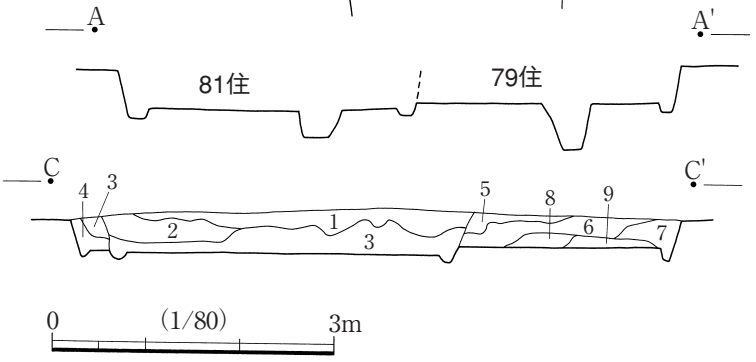
80・81住出土遺物　80・81住が重複し、カマド燃焼部出土遺物にも混在が見られ一緒に扱う。

1・2は口縁端部を摘み出し外面に段を有し、無頸気味の外面縦位篦ケズリの甕。3は口縁側面に面を有する外面縦位篦ケズリの甕。6は内面黒色処理のミガキを施す杯。8は須恵器杯で底部回転糸切りを残す回転篦ケズリを施す。9は体部手持ち篦ケズリの非ロクロ土師器杯。10は断面円盤状の紡錘車。11は自然面を残す硬質の非鉄器砥石と思われる。12は石皿断片である。　遺物出土位置は、1がP1内、3・4・5・12がカマド燃焼部、11が床面直上から出土し、2・6～10が覆土からの検出である。覆土出土の8・9も本住居跡に伴うものであろう。2軒の住居が切り合い共伴遺物は明確でなく二時期に分けられず、80・81号住居跡は近接した時期で切り合うものと判断できる。

82号住居跡（第141・142図、図版22・106・107）

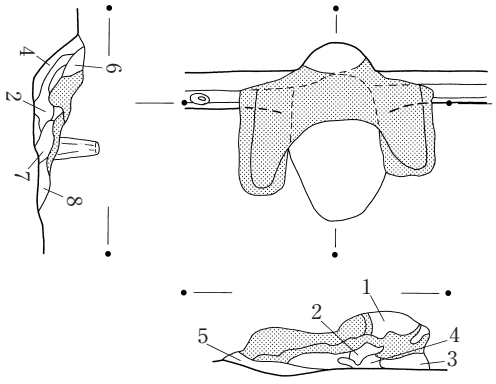
位置　東調査区中央。Q21。　複合切り合い関係　主軸方位・規模等をほぼ等しくする83住を掘り込んで重複する。　平面形　方形。　主軸方位　N－26°－W。　床面規模　5.70m（主軸）×5.88m（副軸）。　床面積　32.83㎡。　残存壁高　0.50～0.70m。　カマド　北西辺中央に敷設され火床が2カ所確認でき東側から西側カマドへの造り替えが行われている。　床面　ハードローム層中に形成



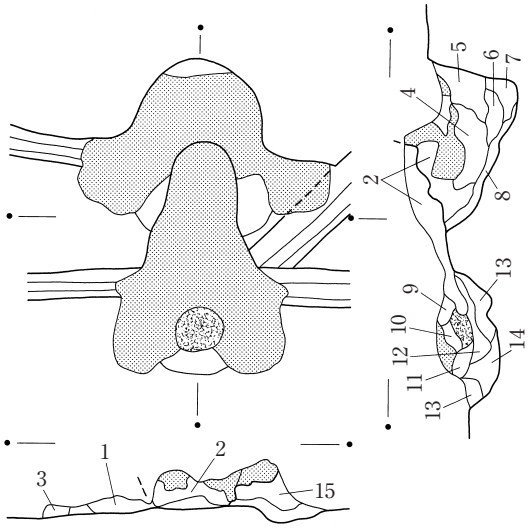


0 (1/80) 3m

《79～81号住居跡覆土土層C－C'》
1 黒褐色土層。ローム粒を含む。
2 茶褐色土層。ローム粒と小ロームブロック含む。
3 茶褐色土層。小ロームブロック含む。
4 茶褐色土層。ロームブロック含む。
5 黒褐色土層。
6 黒色土層。小ロームブロック含む。
7 茶褐色土層。
8 茶褐色土層。小ロームブロック含む。
9 茶褐色土層。若干の焼土粒含む。



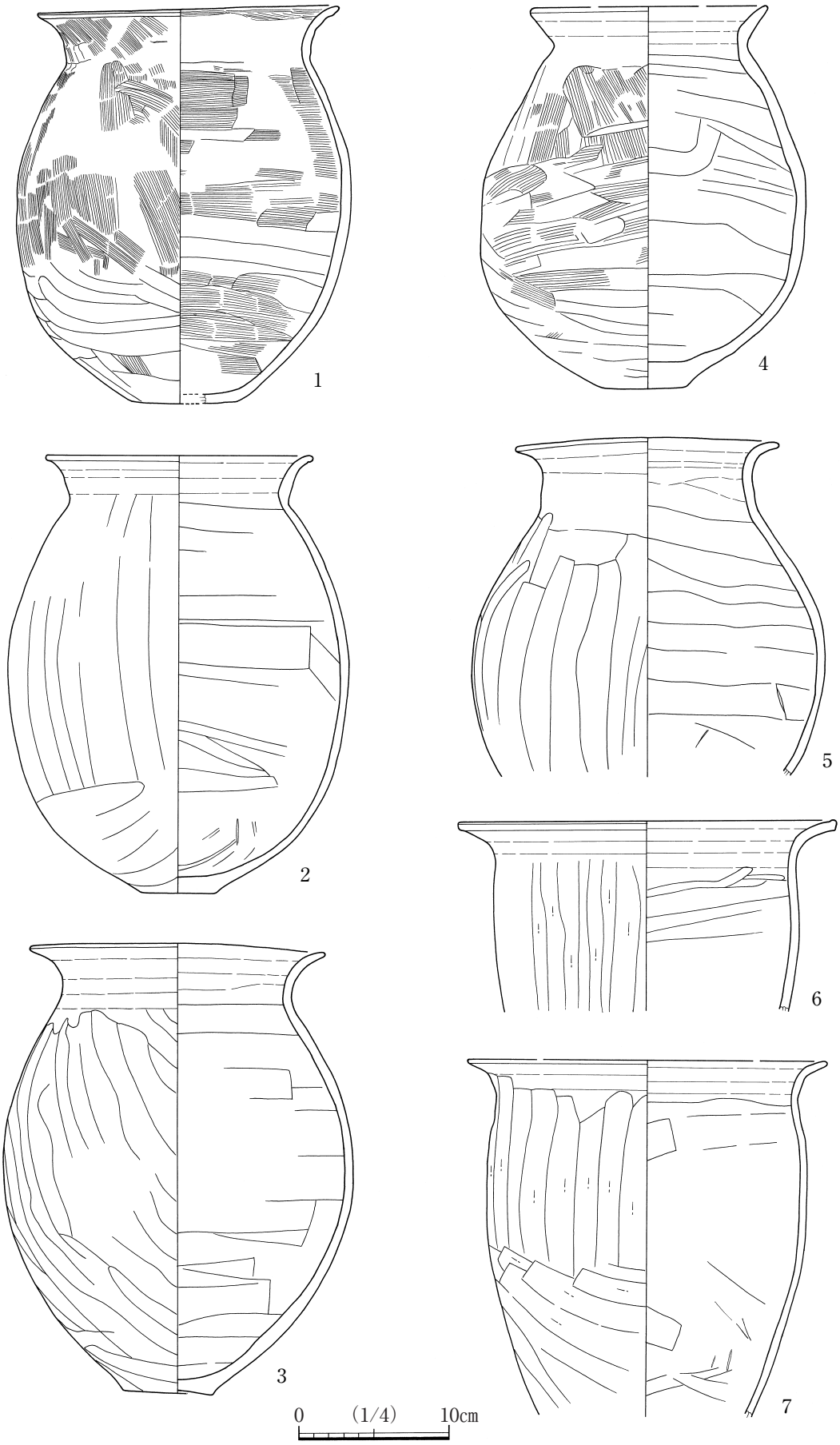
《79号住居跡カマド土層》
1 粘土層。暗褐色土を多く含む。
2 灰と粘土と焼土粒（5㎜以下）のブロック。
3 暗褐色土層。ローム粒（3㎜以下）を含む。
4 暗褐色土層（少し暗い）。焼土粒（3㎜以下）を含む。
5 黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
6 粘土と暗褐色土と焼土粒（3㎜以下）のブロック。
7 粘土と灰のブロック。
8 黒褐色土層。粘土状と焼土粒（2㎜以下）を含む。



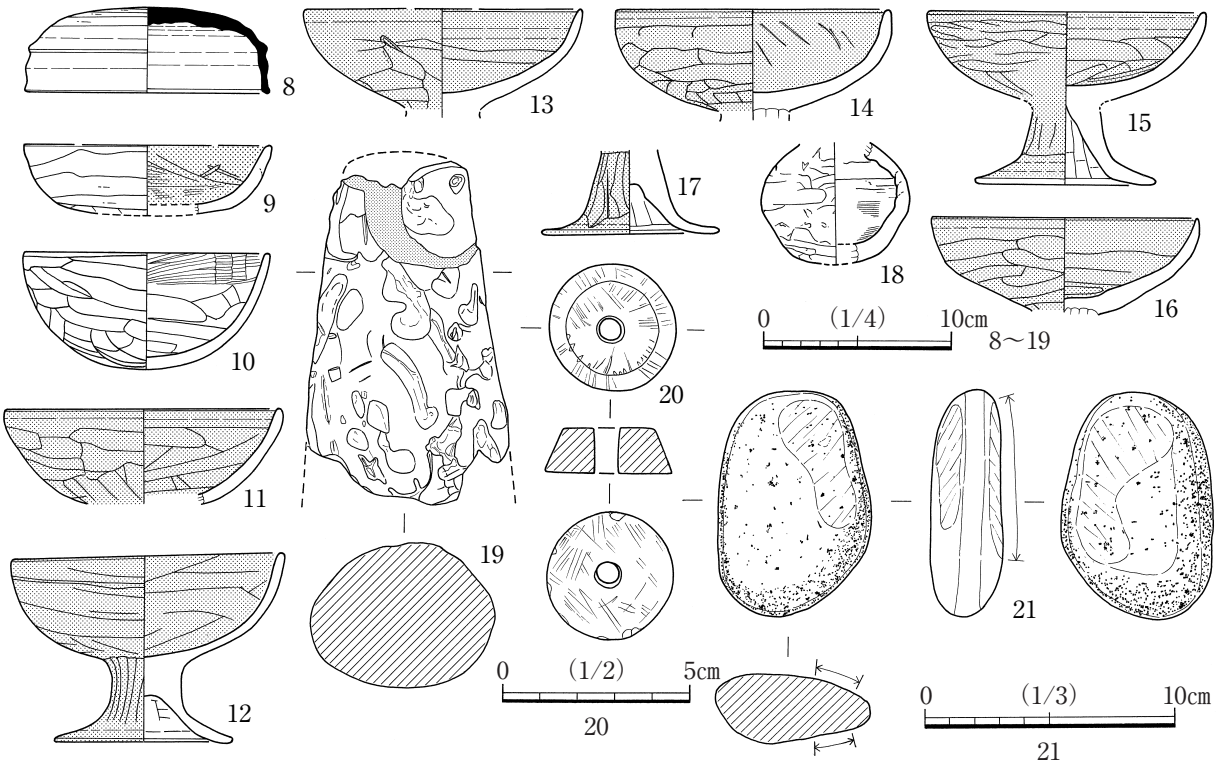
《80・81号住居跡カマド土層》
1 粘土層。暗褐色土層を全体に少量含む。
2 暗褐色土層。粘土層を全体に少量含む。
3 ローム土塊と粘土が全体にうすく混合する。
4 黒褐色土層。粘土を全体に少量含む。焼土粒（3㎜以下）を極少量含む。
5 黒色土層。1㎜以下のローム粒・粘土粒・焼土粒を含む。
6 黒褐色土層。粘土を全体に少量含む。ローム粒（3㎜以下）を含む。
7 暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）をブロック状に含む。
8 暗褐色土層。（少し硬質）。ロームと粘土を全体に少量含む。
9 灰にうすく焼土を含む。
10 粘土と焼土のブロック。
11 暗褐色土層。ローム土を全体に薄く含む。
12 黒褐色土層。全体に粘土を少量含む。
13 暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。ローム粒（3㎜以下）も含む。
14 ローム土塊のブロック（硬質）。
15 黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。

0 (1/40) 1m

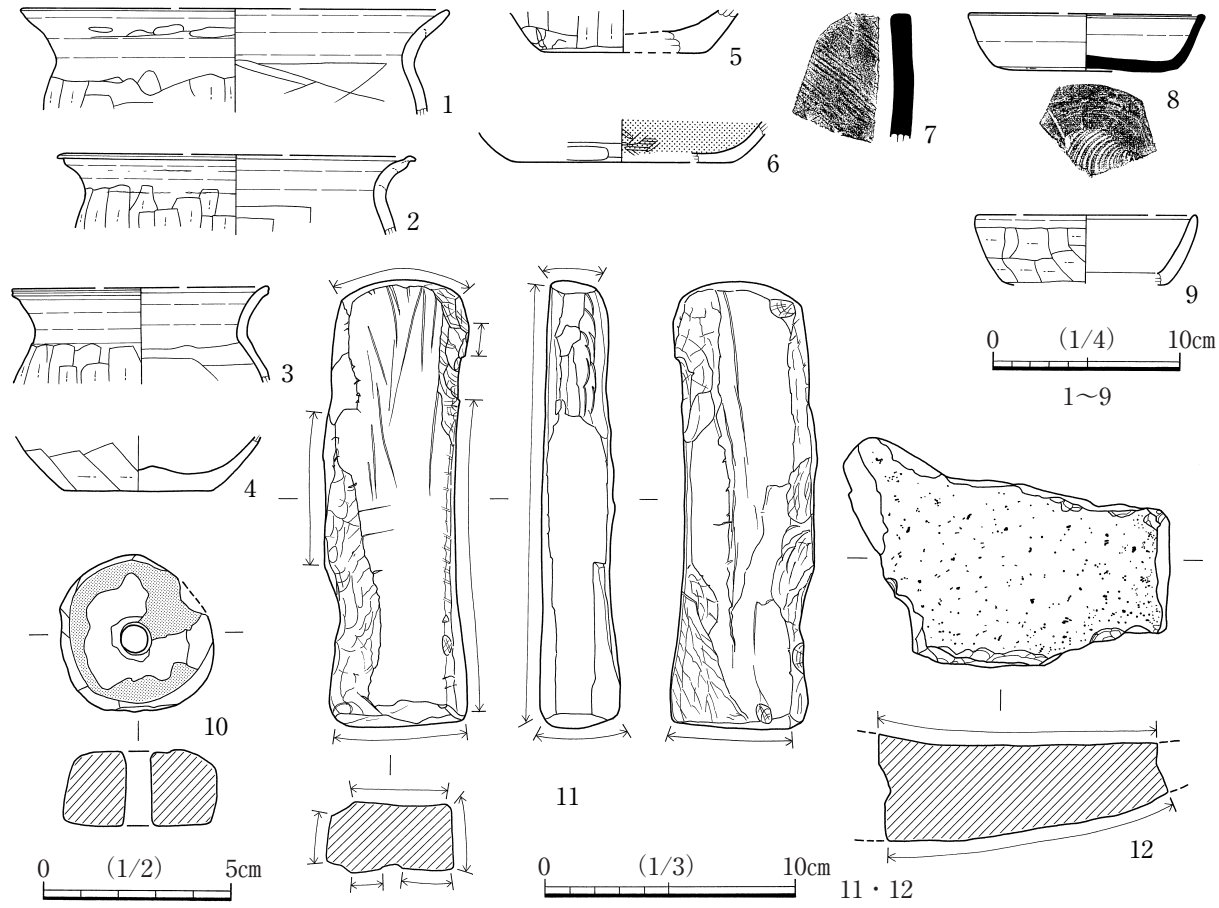
第137図　79号・80号・81号住居跡



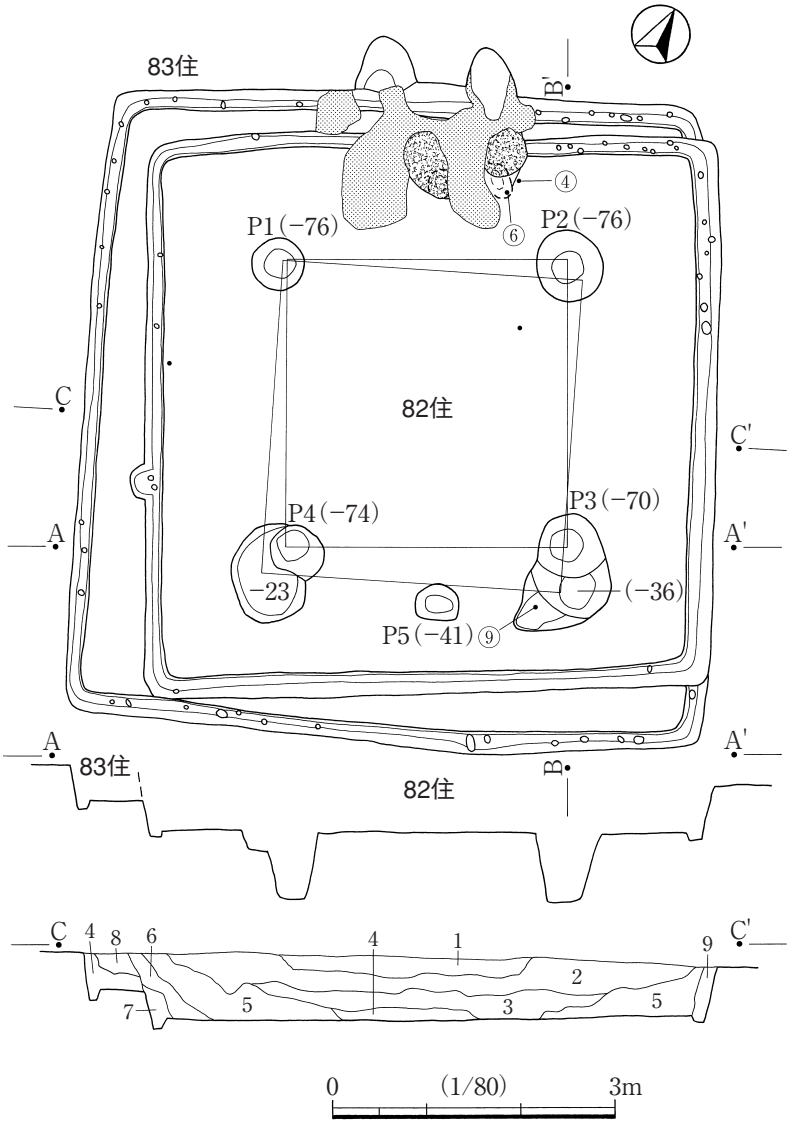
第138図　79号住居跡出土遺物（1）



第139図　79号住居跡出土遺物（2）



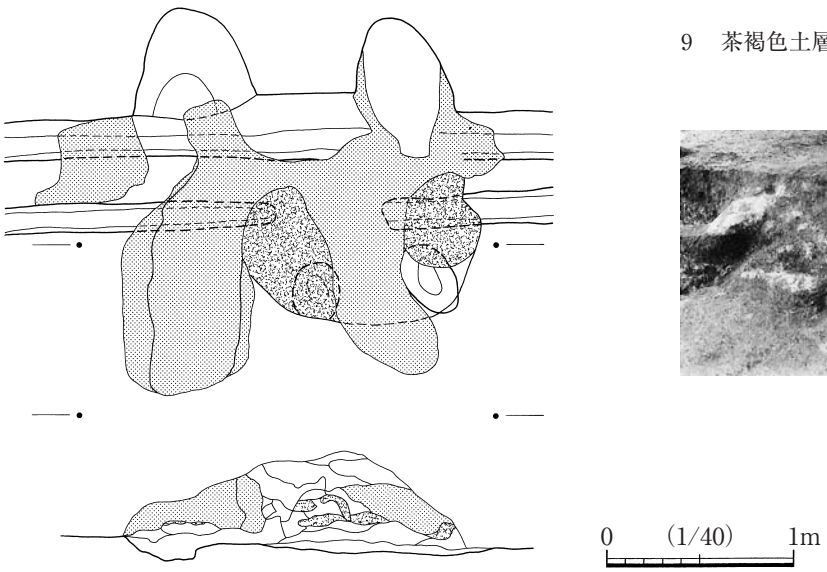
第140図　80号・81号住居跡出土遺物



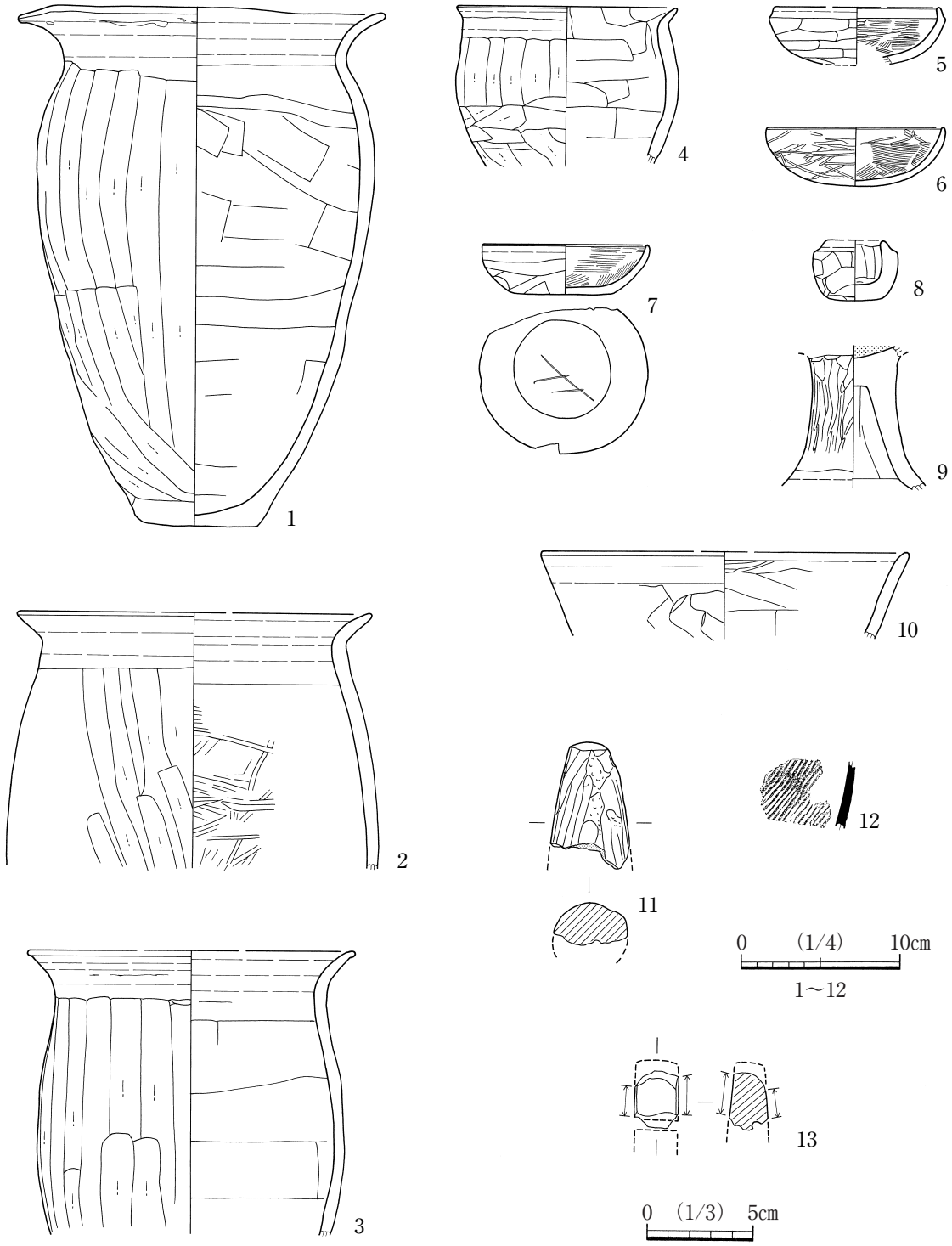
《82号住居跡覆土土層C－C'》

1　黒色土層。淡褐色土塊（斑点状）を含む（テフラ）。
2　黒褐色土層。淡褐色土塊（斑点状）を含む（テフラ）。
3　茶褐色土層。淡褐色土塊（斑点状）を含む（テフラ）。土塊の大きさが小さい。
4　茶褐色土層。ローム粒を含む。
5　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
6　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
7　茶褐色土層。
8　黒褐色土層。第6層に似る。ローム粒を含む。
9　茶褐色土層。第7層に似る。ローム粒を多く含む。





第141図　82号・83号住居跡とカマド



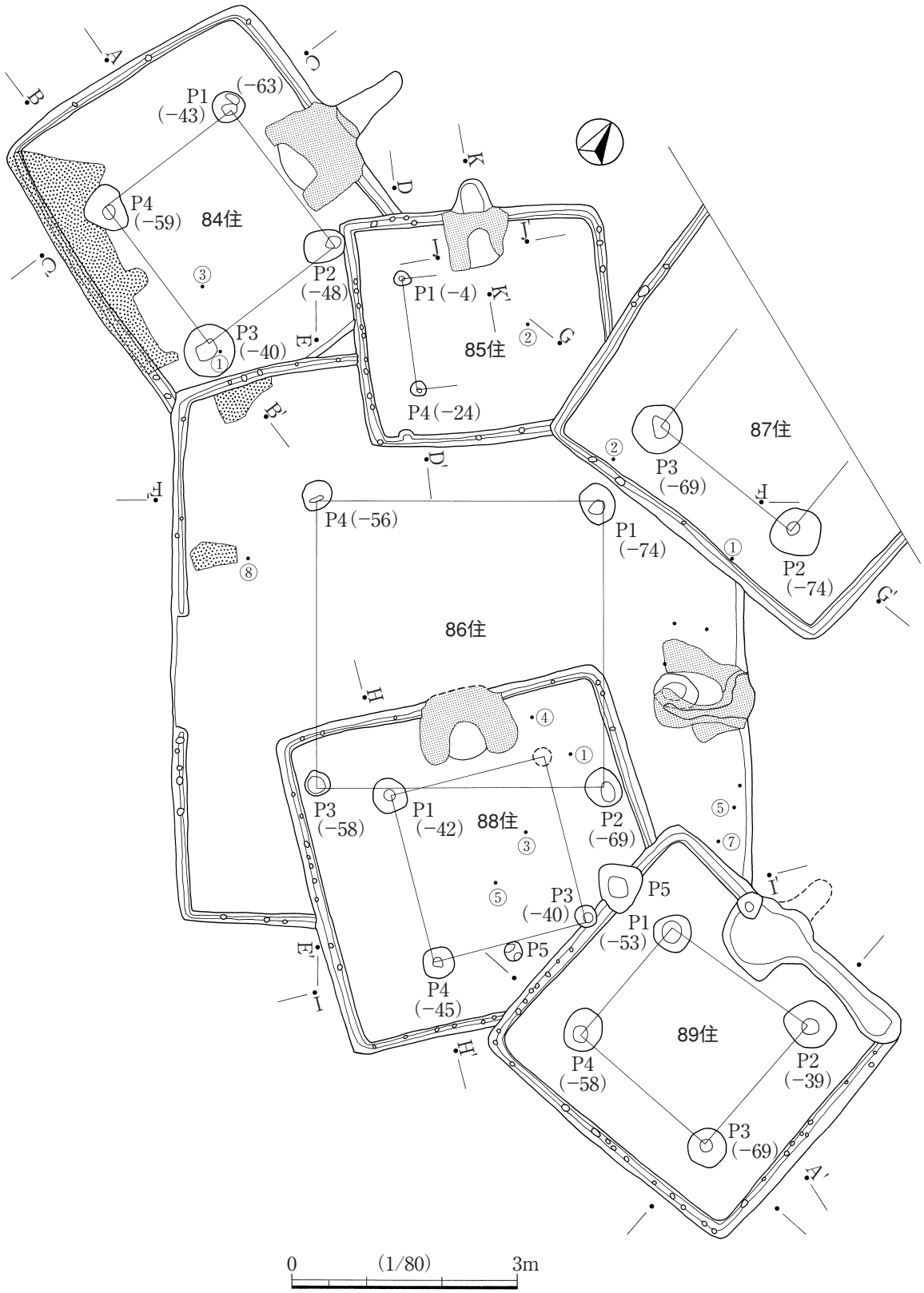
第142図　82号・83号住居跡出土遺物

され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅９～12cm・深さ８～10cmで四周する。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示すものである。　**主柱穴**　４本柱で深さ75cm程を計測する。
出土遺物　遺物は83住で説明。

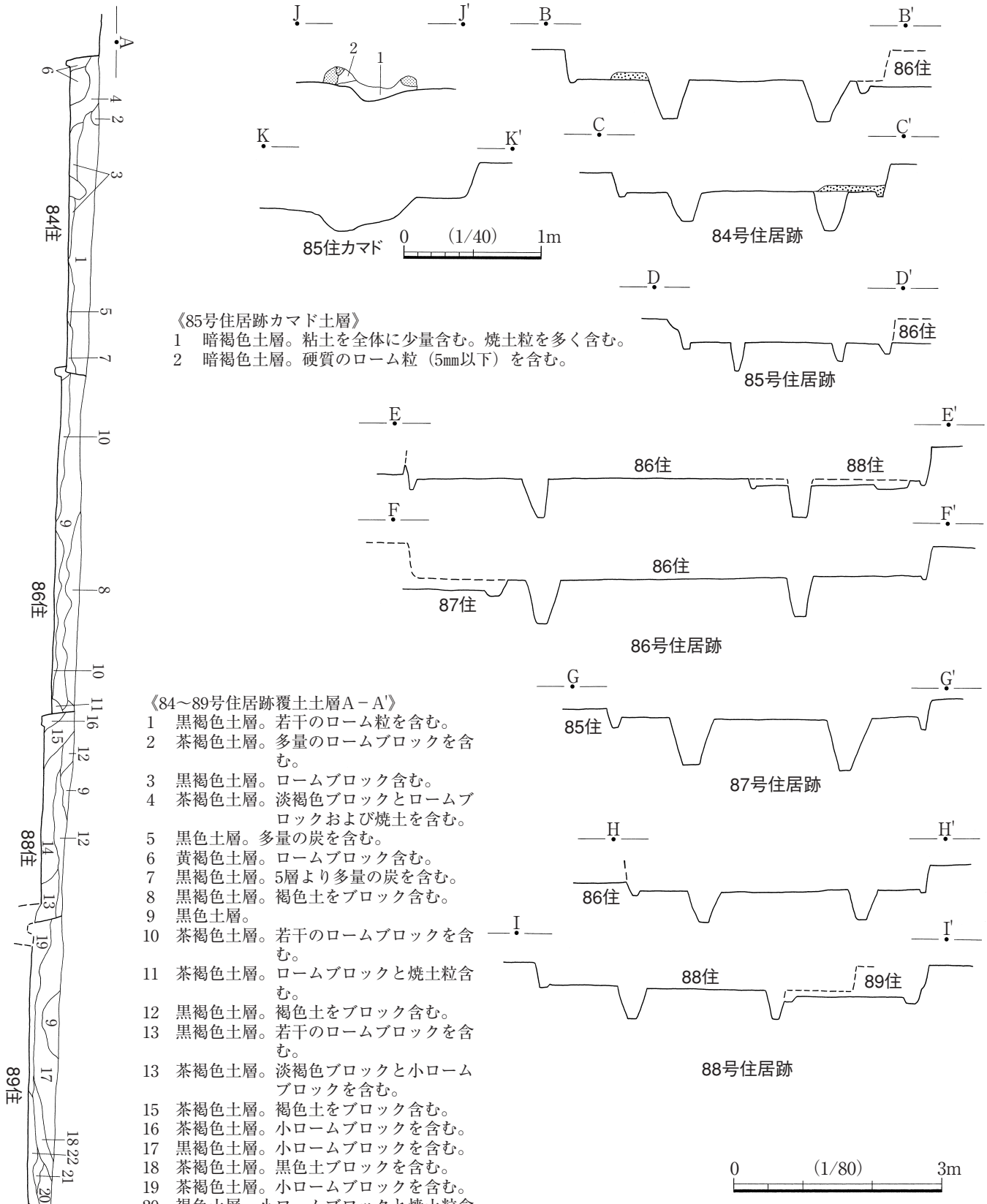
83号住居跡（第141・142図、図版22・106・107）
位置　東調査区中央。Q21。　**複合切り合い関係**　主軸方位・規模等をほぼ等しくする82住に床面と北東壁を大きく掘り込まれる。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－25°－W。　**床面規模**　6.61m（主軸）×6.52m（副軸）。　**床面積**　42.12㎡。　**残存壁高**　0.25～0.36m。　**カマド**　北西辺のほぼ中央に敷設され煙道部と左袖部を僅かに残すだけである。　**床面**　東南辺以外の各辺の壁際に僅かに残すだけで平坦である。　**壁溝**　幅12～14cm・深さ４～８cmで四周するものと思われる。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示すものである。　**主柱穴**　82住のＰ３・Ｐ４と重複し落ち込み状のピットを検出し、Ｐ１・Ｐ２は未検出であるが本来は４本柱で深さ50cm程を計測するものと思われる。
82・83住出土遺物　１・３は口縁が大きく開く胴外面縦位篦ケズリ甕。２は口縁が短く開き、胴内面ミガキを施す。４は小形甕で胴上半は縦位篦ケズリで下半斜位篦ケズリを施す。５は口縁が短く内傾する杯蓋模倣杯で内面光沢の有るミガキを施す。６は椀形杯で内面ミガキ。７は平底の内面ミガキの杯で底部に焼成前線刻による「キ」が施される。８は受口状の合子身形を呈するミニチュア土器。９は杯部内面内黒ミガキの長脚高杯。10は内面ミガキ状篦ナデの鉢？11は土製支脚。12は須恵器甕片。13は１孔を有する砥石頭部である。１・３・４・５・７がカマド燃焼部、９が床面下から出土し、他は覆土からの検出である。これらの遺物は82住居跡に共伴し、83住居跡の共伴遺物は不明である。

84号住居跡（第143・144・145図、図版22・107）
位置　P21・P22・Q21・Q22。　**複合切り合い関係**　東北隅を85住に掘り込まれ、東辺南側で86住の北西壁を掘り込む。　**平面形**　横長方形。　**主軸方位**　N－22°－E。　**床面規模**　3.88m（主軸）×4.40m（副軸）。　**床面積**　16.68㎡。　**残存壁高**　0.20～0.30m。　**カマド**　北辺中央に敷設され煙道部は１m程突出する。　**床面**　中央部は凹凸が目立ち堅いが、壁際は堅く踏まれていない。　**壁溝**　幅10～13cm・深さ10cm前後で廻る。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示し、床面上に焼土が散見され特に南辺部に集中し、火災住居跡と判断できる。　**主柱穴**　４本柱で深さ40～59cm程を計測するものと思われる。
出土遺物　１は口縁側面に面を有する縦位篦ケズリ甕。２は内面ミガキの鉢。３は高杯脚片。４は土製支脚。５は軽石である。１は主柱穴Ｐ３内、２・４はカマド燃焼部、３は床面直上、５は覆土から出土する。住居跡共伴遺物には、１～４の遺物が上げられる。

85号住居跡（第143・144・146図、図版22・107）
位置　東調査区北東辺側。P22・Q22。　**複合切り合い関係**　西隅で84住を南辺で86住をそれぞれ掘り込み東辺で87住と複合する。87住との複合関係は明確ではないが87住が先行するものと看取される。　**平面形**　横長方形。　**主軸方位**　N－40°－W。　**床面規模**　2.96m（主軸）×3.29m（副軸）。　**床面積**　9.39㎡。　**残存壁高**　0.13～0.35m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。



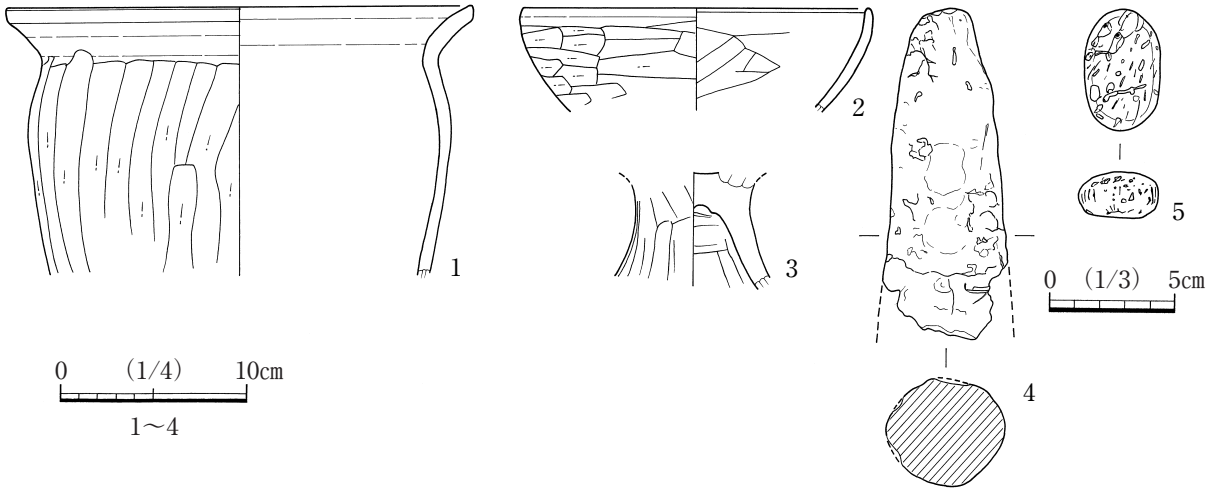
第143図　84号～89号住居跡



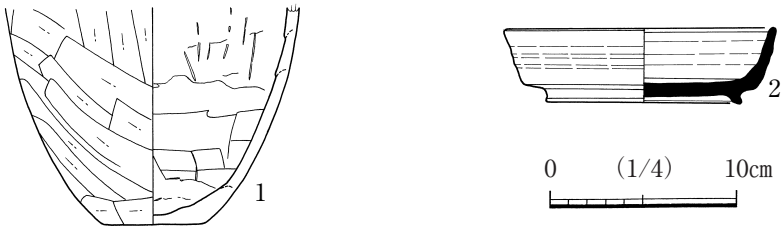
《85号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。焼土粒を多く含む。
2　暗褐色土層。硬質のローム粒（5㎜以下）を含む。

《84～89号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。若干のローム粒を含む。
2　茶褐色土層。多量のロームブロックを含む。
3　黒褐色土層。ロームブロック含む。
4　茶褐色土層。淡褐色ブロックとロームブロックおよび焼土を含む。
5　黒色土層。多量の炭を含む。
6　黄褐色土層。ロームブロック含む。
7　黒褐色土層。5層より多量の炭を含む。
8　黒褐色土層。褐色土をブロック含む。
9　黒色土層。
10　茶褐色土層。若干のロームブロックを含む。
11　茶褐色土層。ロームブロックと焼土粒含む。
12　黒褐色土層。褐色土をブロック含む。
13　黒褐色土層。若干のロームブロックを含む。
13　茶褐色土層。淡褐色ブロックと小ロームブロックを含む。
15　茶褐色土層。褐色土をブロック含む。
16　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
17　黒褐色土層。小ロームブロックを含む。
18　茶褐色土層。黒色土ブロックを含む。
19　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
20　褐色土層。小ロームブロックと焼土粒含む。
21　黒褐色土層。焼土粒含む。
22　茶褐色土層。若干の粘土粒とロームブロック含む。
23　黒褐色土層。小ロームブロックを含む。

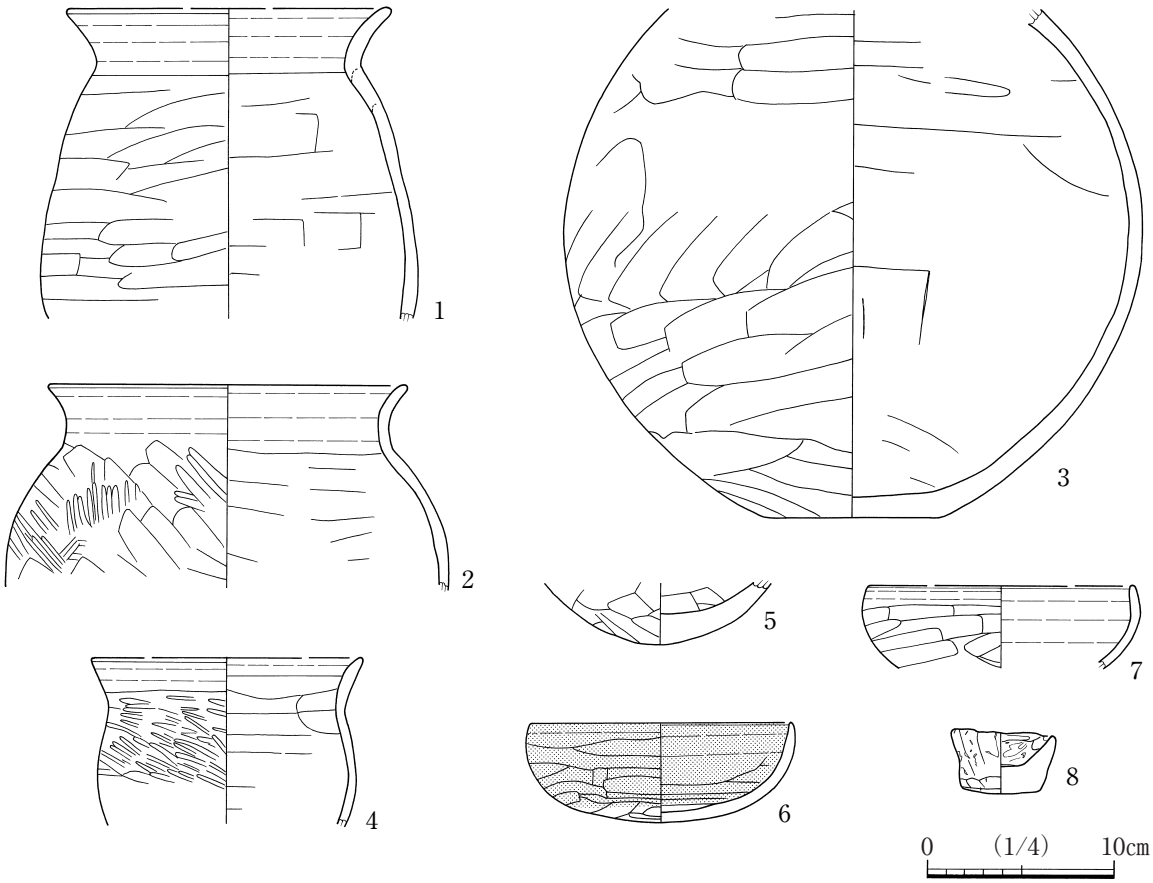
第144図　84号～89号住居跡土層断面図および断面図



第145図　84号住居跡出土遺物



第146図　85号住居跡出土遺物



第147図　86号住居跡出土遺物

床面　平坦で堅く踏まれている。　**壁溝**　幅８～10cm・深さ８～15cmで四周するものと思われる。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１とＰ４の２柱は検出したもののＰ２・Ｐ３の２柱は未検出で２本柱構造も考えられる。

出土遺物　１は胴上半縦位、下半斜位の篦ケズリ甕。２は底部がほぼ水平で内面見込みが明瞭で浅い箱形を呈する須恵器高台付杯で、高台は低く内面を面取りし「ハ」の字に開く。１がカマド燃焼部、２が床面直上から出土し、住居跡の共伴が明確な遺物である。

86号住居跡（第143・144・147図、図版22・107）

位置　東調査区北東辺側。Q22。　**複合切り合い関係**　北辺で84住・85住・87住に南辺で88住・89住にそれぞれ掘り込まれる。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　Ｎ－58°－Ｅ。　**床面規模**　7.40m（主軸）×7.40m（副軸）。　**推定床面積**　54.13㎡。　**残存壁高**　0.46m前後。　**カマド**　北東辺中央に敷設され、煙道部の突出もほとんど無く火床部も壁から離れ床面側にある。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ５～15cmで途切れる。　**覆土**　不明。西隅付近の床面に床面焼土の堆積が見られ火災住居跡の可能性がある。　**主柱穴**　４本柱で深さ56～74cmを計る。

出土遺物　１は胴外面横位篦ナデの甕。２は外面篦ナデに部分ミガキを施す球胴気味の甕。３は内外面丁寧な篦ナデを施す球胴甕胴部。４は外面雑なミガキの鉢甕。５は外面篦ナデの丸底甕。６は赤彩、７は無彩の椀形杯。８は手捏ね土器。１・２・４がカマドから、３はＰ５内、５・７・８が床面直上から出土する。７の無彩の椀形杯には疑問が残るが、全ての遺物が住居跡共伴遺物となろう。

87号住居跡（第143・144・148図、図版23・108）

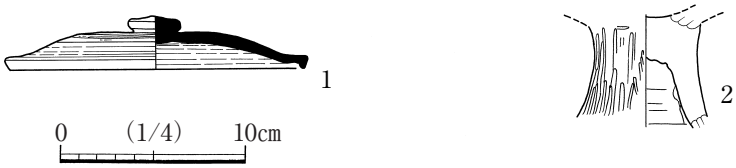
位置　東調査区北東辺側。P22・Q22。　**複合切り合い関係**　北側半分を調査区域外に置き南辺で86住を掘り込み、南西隅で85住と複合する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－８°－Ｅ？　**床面規模**　4.50m（副軸）を計測し主軸規模も同等？　**推定床面積**　20.80㎡。　**残存壁高**　0.28m前後。　**カマド**　北辺に敷設されたものと思われる。　**床面**　ソフトローム層中に形成され平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ12cm前後で四周するものと思われる。　**覆土**　不明。

主柱穴　Ｐ３・Ｐ４を検出し本来は４本柱であろう。

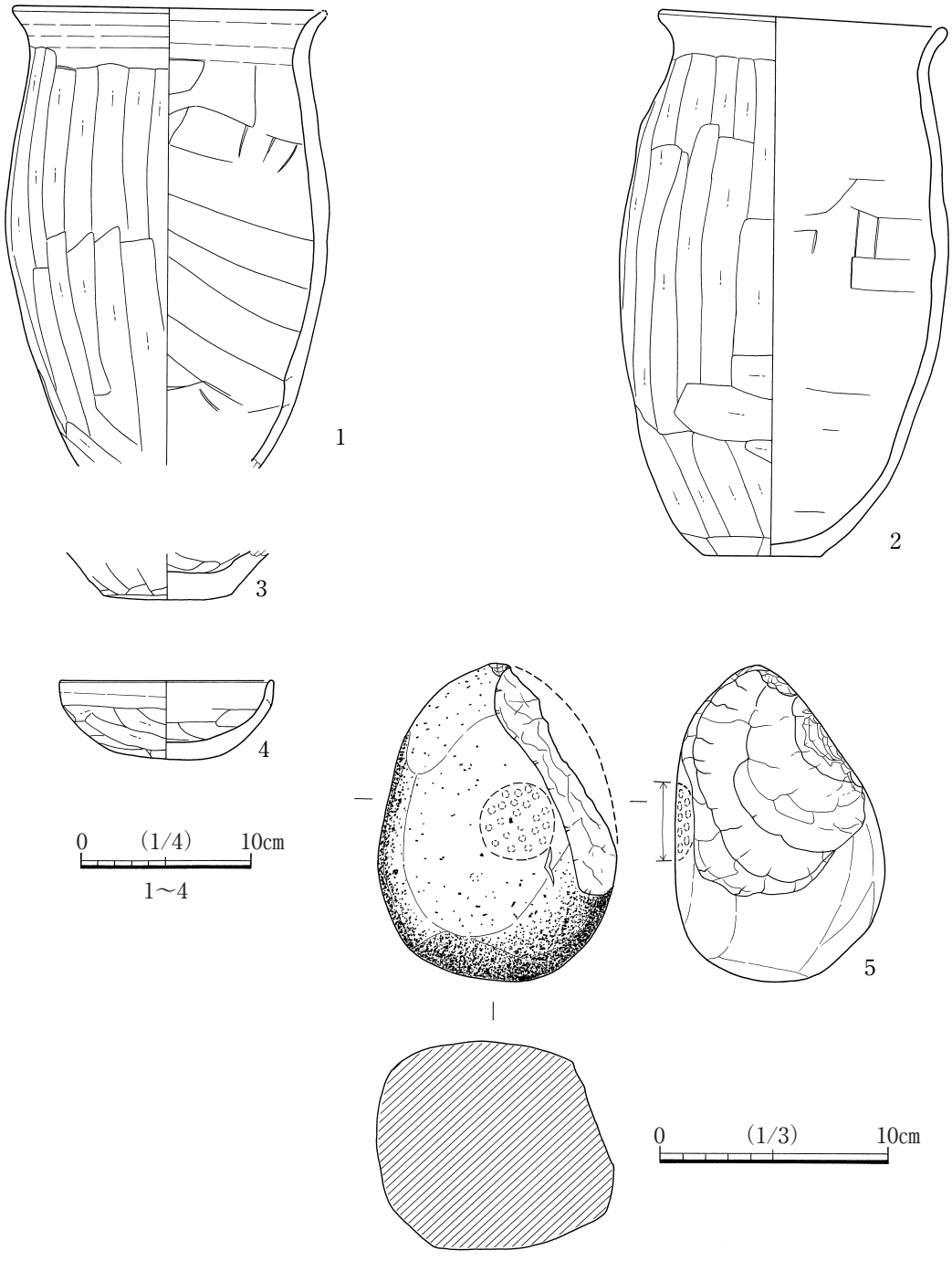
出土遺物　１は完形の須恵器蓋で天井部外面の２分の１に回転篦ケズリを施し、摘みは扁平な宝珠形を呈する。２は高杯脚柱で外面ミガキ、漆塗りを施す。何れも住居跡床面の出土である。

88号住居跡（第143・144・149図、図版23・108）

位置　東調査区北東辺側。Q22。　**複合切り合い関係**　プラン北側で大きく86住床面を掘り込み、東側で89住に東隅および床面を大きく掘り込まれ検出する。　**平面形**　やや横長方形。　**主軸方位**　Ｎ－44°－Ｗ。　**床面規模**　4.16m（主軸）×4.42m（副軸）。　**推定床面積**　18.16㎡。　**残存壁高**　0.30～0.35m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅８～17cm・深さ８～10cmで四周するものと思われる。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ２が未検出であるが本来は４本柱であろう。ピット深さ45cm前後を計る。



第148図　87号住居跡出土遺物



第149図　88号住居跡出土遺物

出土遺物　１・２は口縁の外反が少ない胴外面縦位の篦ケズリ甕。３は甕底部。４は口縁直下に僅かに稜を有する肉厚の無彩の椀形杯。５はハンマー型の叩き石である。２がカマド燃焼部、４・５が床面直上、１・３がほぼ床面出土し、全ての遺物が住居跡に共伴する。

89号住居跡（第150図、図版23・108）

位置　東調査区北東辺側。Q22・Q23。　複合切り合い関係　北西辺で86住・88住床面をそれどれ掘り込み検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－11°－E。　床面規模　3.74m（主軸）×3.96m（副軸）。　床面積　14.57㎡。　残存壁高　0.35～0.55m。　カマド　北辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　壁溝　幅８～15cm・深さ６～９cmで四周する。　覆土　不明。　主柱穴　４本柱でピット深さ39～69cmを計り、均整を欠く配列となる。

出土遺物　１は口縁端部を僅かに上方へ摘み上げ胴外面縦位の篦ケズリを施す胴長甕。２も同様の胴下半。３は口径が胴径より大きく、口縁が短く折れて開き胴外面縦位篦ケズリを施す小形甕。４は口縁が短く僅かに外傾する外面縦位篦ケズリの小形甕。５は須恵器甕口縁。６は細かな平行叩き目の須恵器甕片。７は須恵器蓋で扁平な摘みを有す。８は須恵器高盤であろう。９～13は内面見込みが明瞭な体部および底部手持ち篦ケズリを施す非ロクロ土師器杯。９の内面には斜格子と螺旋状暗文が認められ上総特有の杯である。12は器高が高く箱形を呈する。共伴遺物は１・２・７が床面、３がカマド燃焼部で他の遺物も住居跡の時期判断として差し支えない遺物である。

90号住居跡（第151図、図版23）

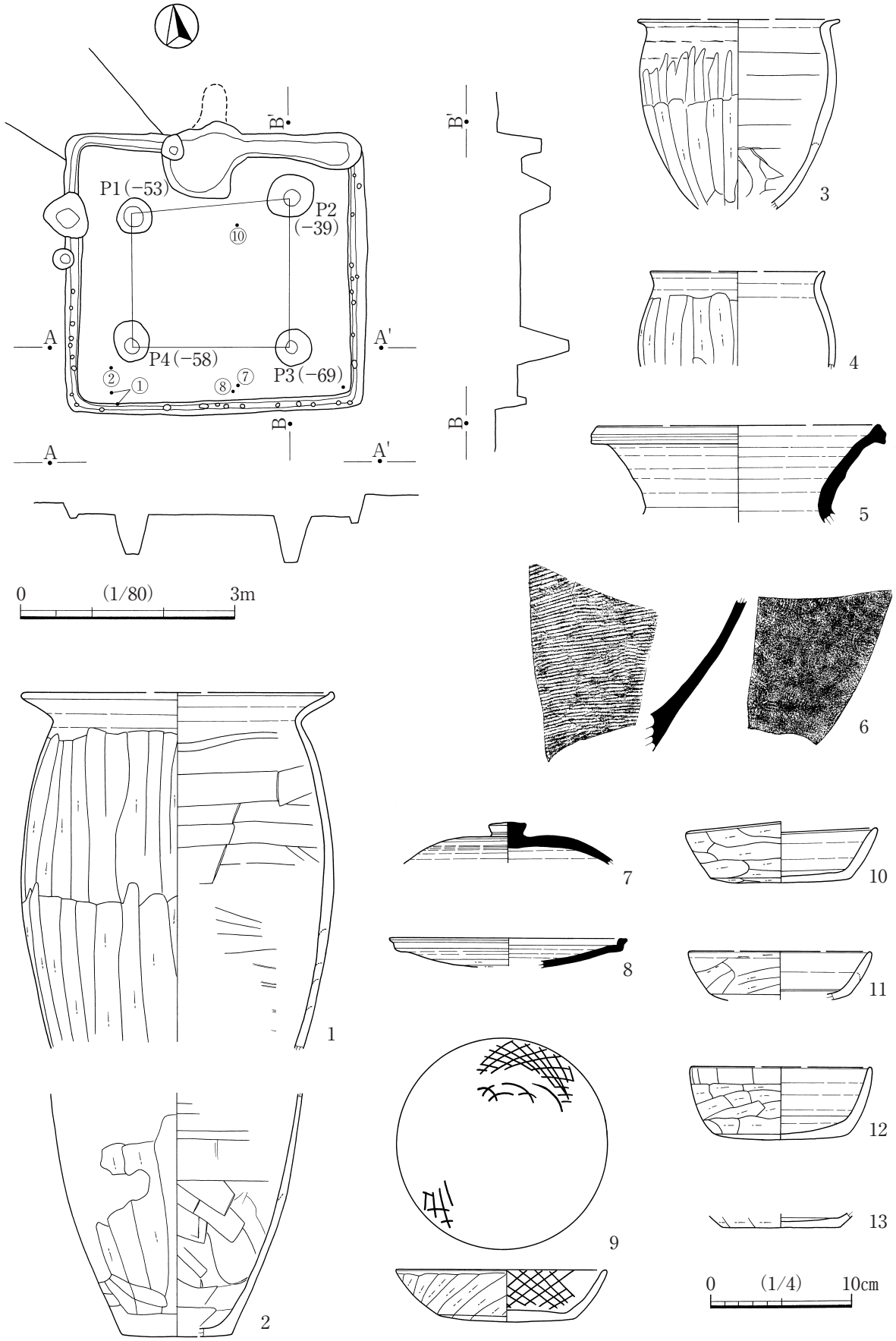
位置　東調査区中央。R22。　複合切り合い関係　北西辺で91住にプラン３分の１程を掘り込まれる。　平面形　方形？。　主軸方位　N－34°－W？　推定床面規模　4.20m（副軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.14～0.27m。カマド　北西辺に設けられたと看取される。　床面　中央は凹凸が目立ち堅いが壁周辺は軟らかくあまり踏みしめられていない。但し、平面図点線内は僅かにレベルが下がる。　壁溝　幅13cm前後・深さ15～19cmで廻る。　覆土　概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　無柱。

出土遺物は無く時期は不明だが91住より先行する。

91号住居跡（第151～153図、図版23・108）

位置　東調査区中央。R21・R22。　複合切り合い関係　南東辺で90住を掘り込み、床面中央を重複する92住に大きく切り込まれている。　平面形　正方形。　主軸方位　N－30°－W。　床面規模　7.40m（主軸）×7.38m（副軸）。　床面積　54.16㎡。　残存壁高　0.36～0.44m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　壁溝　幅８～10cm・深さ10cm前後で四周する。　覆土　中央を92住に掘り込まれるものの壁よりの覆土中にも木炭粒を含み、床面一面に炭化材や木炭・焼土で覆われ火災住居跡である。　主柱穴　重複する92住に掘り込まれ検出されない。

出土遺物　１は内外面赤彩の鉢。２は口縁内外面に僅かに赤彩の残る椀。３はやや大ぶりの内外面赤彩で鉢であろう。４は甕底部。共伴遺物は１～３がほぼ床面、４がカマド燃焼部から出土し、全ての



第150図　89号住居跡と出土遺物

遺物が住居跡に共伴する。

92号住居跡（第151・153・154図、図版23・24・109）

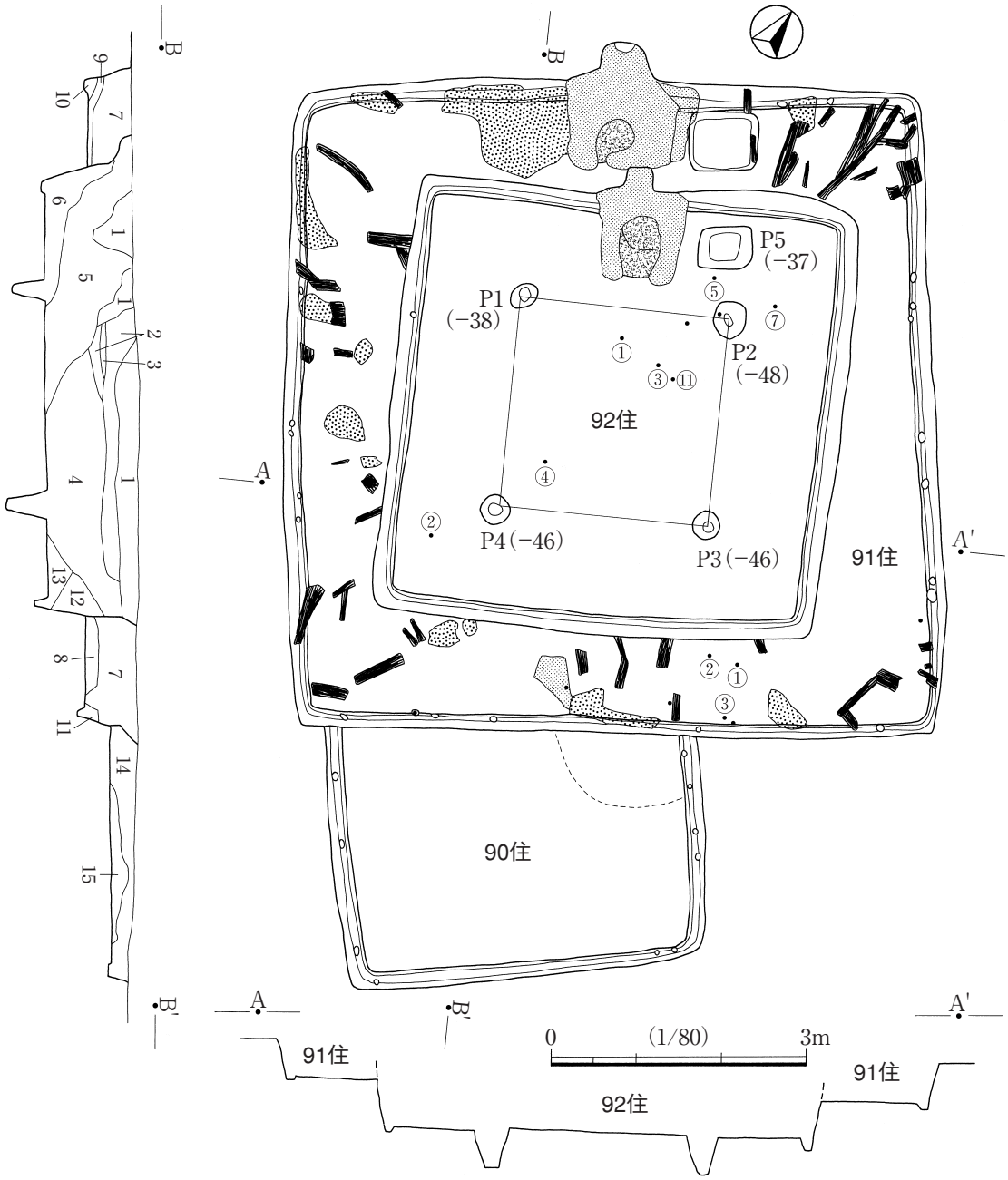
位置　東調査区中央。R21・R22。　複合切り合い関係　床面中央を91住が掘り込み重複して検出する。　平面形　正方形。　主軸方位　N－26°－W。　床面規模　4.98m（主軸）×4.98m（副軸）。　床面積　24.32㎡。　残存壁高　0.81～1.01m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され中央にやや凹凸が目立つが堅緻である。　壁溝　幅７～11cm・深さ５～11cmで四周する。　覆土　上層に炭化物を含む層が覆土中の平坦面上に認められ、その下層もロームブロックを含み埋め戻されている。　主柱穴　４本柱で深さ38～48cmを計測する。

出土遺物　１は口縁が「く」の字に大きく開き、胴外面横位および斜位の箆ナデを施す土師器の大形球胴甕で、底部を欠損するが口径26.6cm・胴径38.3cm・器高は40cm程を計るものと思われる。２は胴外面縦位の箆ケズリ甕。３は口縁端部摘み上げで外面に面を作り出し、頸部内面に明瞭な接合痕を残す。４は外面箆ケズリの甕下半。５は球胴甕底部で木の葉を残す。６は口頸部が「コ」の字状に大きく開く小形甕で胴外面縦位の箆ナデを施す。７は須恵器杯身でMT85～TK43型式期に比定できよう。８は杯身模倣杯。９は杯蓋模倣杯で内面ナデ、外面ケズリ状の箆ナデで内外面に赤彩を施す。10は半円状の杯。11～13は軽石小片。15は全長12.6cmのほぼ完存する鎌である。遺物出土位置は、１・２・４・８が床面直上、９・11がカマド燃焼部、５・６・12がほぼ床面、他は覆土から出土する。10の杯は混入遺物であろう。

93号住居跡（第155・156図、図版24・109・110）

位置　東調査区中央南側。R20・S20。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　正方形。　主軸方位　N－30°－W。　床面規模　5.06m（主軸）×5.11m（副軸）。　床面積　25.43㎡。　残存壁高　0.30～0.35m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され柱穴を結ぶ線の内側は堅く踏みしめられているが壁際は余り踏みしめれれていない。　壁溝　幅12～14cm・深さ５～７cmで四周する。　覆土　幾層かに細分され複雑な堆積を成すが黒褐色土主体で自然堆積を示すものと思われる。　主柱穴　規模の異なる４本柱構造が２組確認され建て替えのなされた事を示すが、前後関係は不明である。

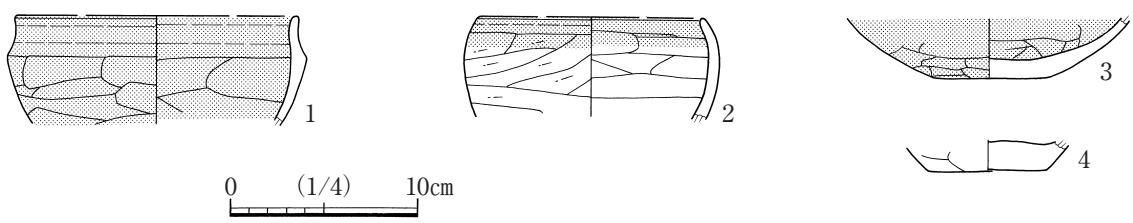
出土遺物　１は内外摩耗が著しく胴外面上半縦位箆ケズリ、下半横位箆ナデを施す球胴甕。２・５は胴上半縦位、下半横位の箆ケズリを施す中胴甕。３は外面縦位箆ナデか。４・６・７・８は外面縦位箆ケズリを施す長胴甕。９・10は胴と底部の変換線の鈍い底部。11は外面赤彩の扁平な胴部で坩。12は赤彩の深い椀形杯。13・14は内面ミガキで漆塗りか。13は半円球状の杯、14は杯身模倣杯。15は手捏ね状の土器で内面黒色処理を施す。16～18は高杯で17は赤彩を施す。16・17の杯内面はミガキを施す。19は敲打石である。遺物出土位置は、６・11・13・15・19が床面直上、４・５・７・８・10・14・17がほぼ床面、他は覆土から出土し、床面から出土する遺物に時期差が明瞭に認められ、記録類に誤認があるものと考えられる。住居跡共伴遺物は、本住居跡北側５ｍに向きを同じく占地する78住の時期を考慮し、78住と同一時期と見なし、４～７の甕、13～16等の新相を示す土器を当てるのが妥当と思われる。



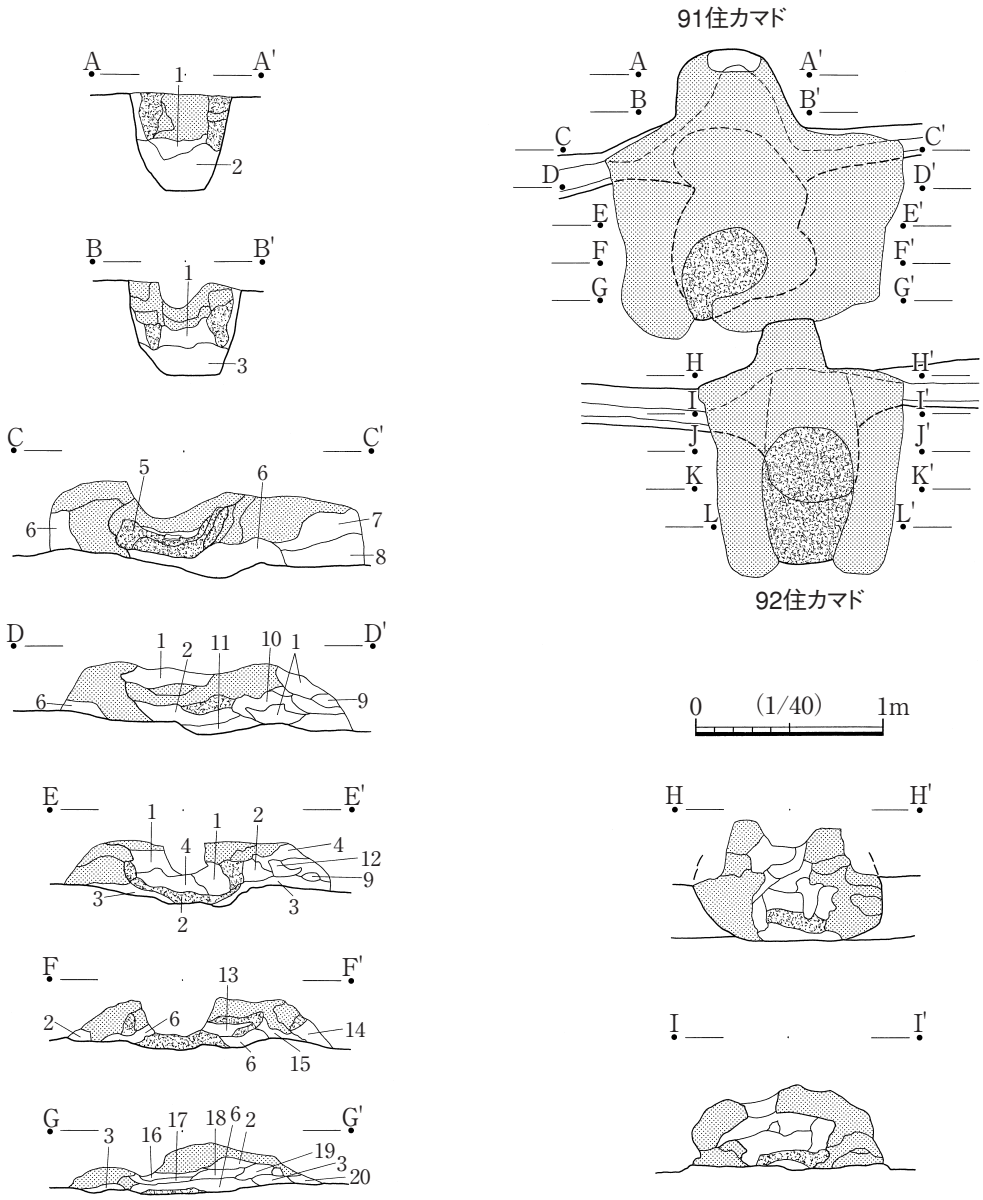
《90～92号住居跡覆土土層B－B'》

1　黒色土層。
2　黒褐色土層。
3　炭層。
4　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
6　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
7　黒褐色土層。ローム粒と炭を少量含む。
8　茶褐色土層。ローム粒と焼土を含む。
9　黒褐色土層。粘土と焼土を含む。
10　粘土層。
11　黒色土層。ロームブロックを含む。
12　茶褐色土層。多量のロームブロックを含む。
13　黒褐色土層。多量のロームブロックを含む。
14　黒褐色土層。
15　茶褐色土層。

第151図　90号・91号・92号住居跡



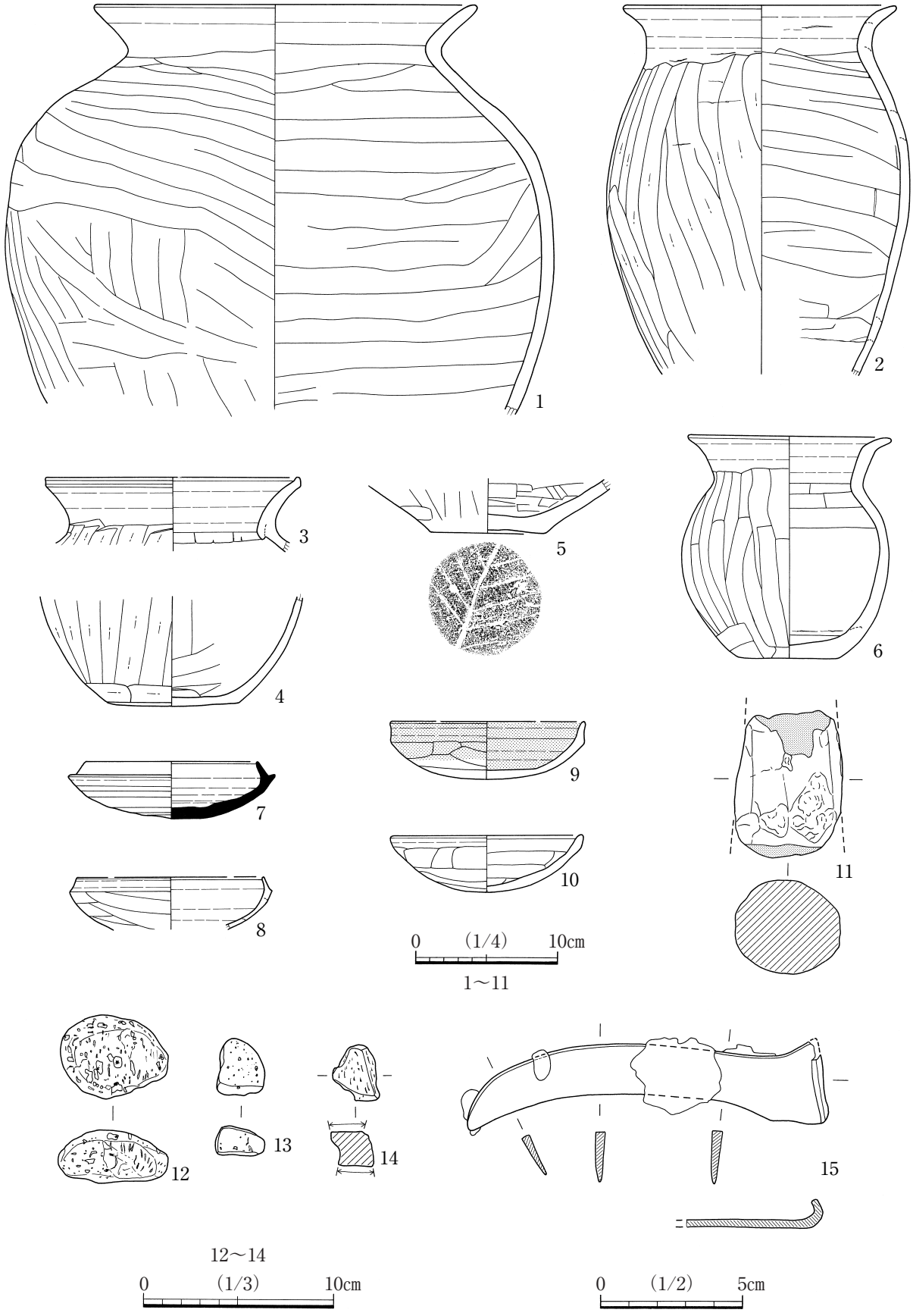
第152図　91号住居跡出土遺物



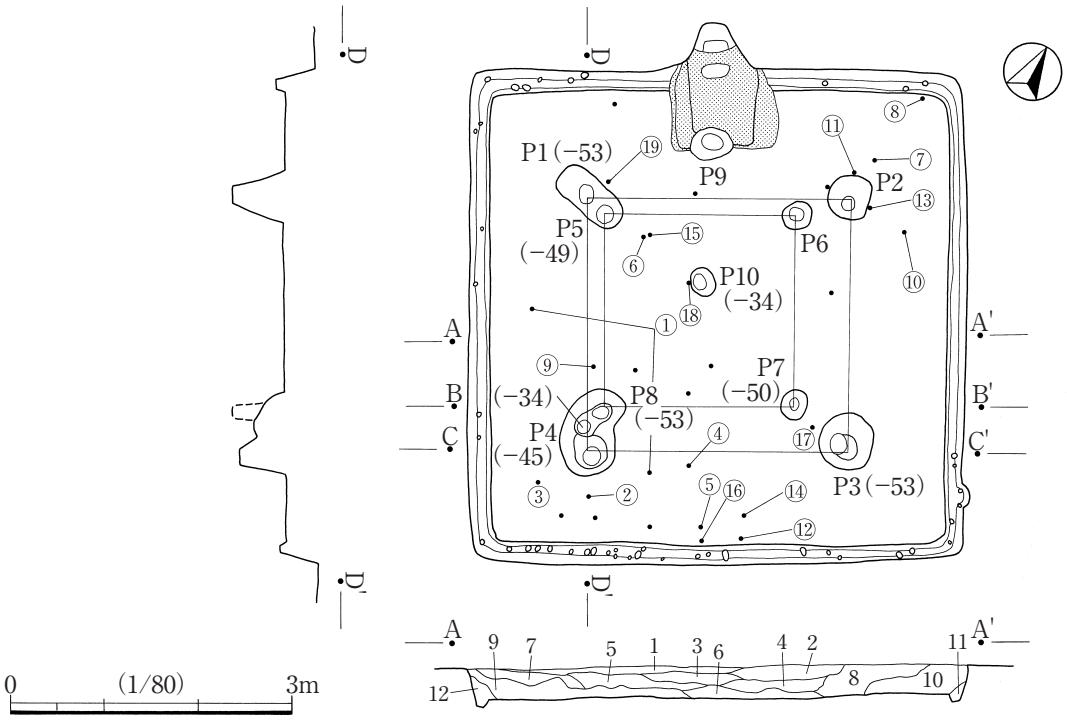
《91号住居跡カマド土層》

1　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を少量含む。
2　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土粒を少量含む。
3　暗褐色土層。ローム土塊（1㎜以下）を含む。
4　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土及び焼土粒を含む。
5　暗褐色土層。灰と焼土を含む。
6　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と炭片を含む。
8　ロームブロック。
9　炭層。
10　褐色土層。ローム粒と焼土粒と灰を少量含む。
11　褐色土層。ローム粒を極少量含む。
12　黒褐色土層。ローム粒と焼土粒と灰を含む。
13　褐色土層。ローム粒と焼土粒（2㎜以下）を含む。
14　黒褐色土層。焼土粒と炭粒を含む。
15　暗褐色土層。ローム粒と粘土粒を含む。
16　ローム粒（1㎜大以下）と炭粒のブロック
17　褐色土層。炭と焼土と粘土を含む。
18　褐色土層。焼土粒と粘土粒を少々含む。
19　黒褐色土層。粘土粒とローム粒を少量含む。
20　黒褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を多く含む。

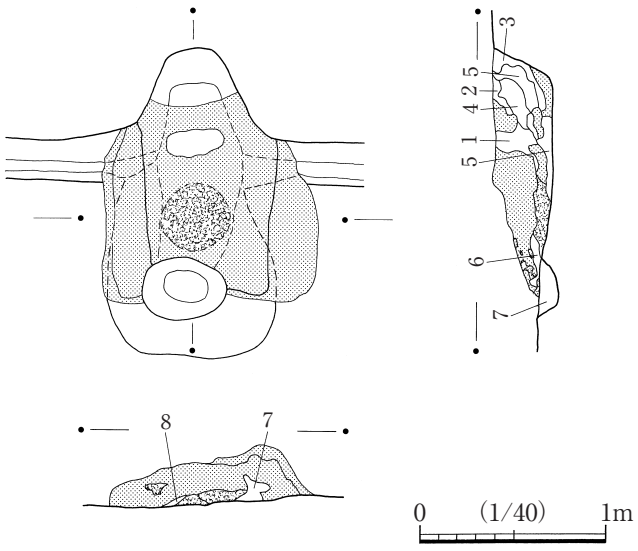
第153図　91号・92号住居跡カマド



第154図　92号住居跡出土遺物

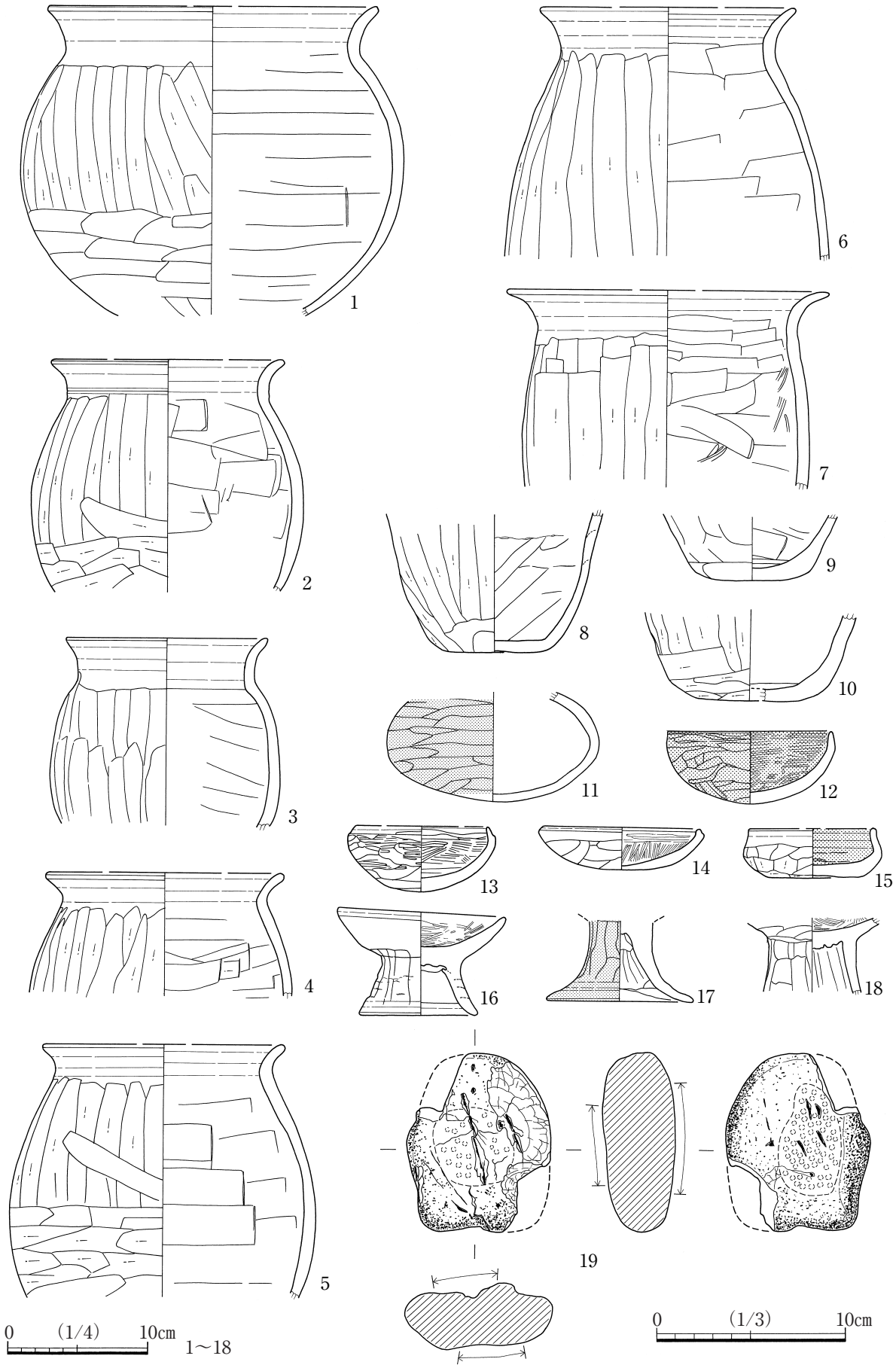


《93号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　黄褐色土層。ローム粒を含む。
3　黄褐色土層。第2層に似る。
4　黒褐色土層。第8層に似る。
5　黒色土層。
6　黄褐色土層。
7　黄褐色土層。第2層に似る。
8　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
9　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
10　茶褐色土層。ローム粒を含む。
11　黒色土層。第5層に似る。
12　黒褐色土層。第8層に似る。



《93号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　黒褐色土層。ローム土を少量含む。
3　黒褐色土層。ローム粒と粘土と焼土粒を少量含む。
4　粘土と焼土とロームがブロック状に入る。
5　暗褐色土層。粘土が多く入る。
6　粘土層に灰が少量入る。
7　粘土層に暗褐色土層が少量入る。
8　灰層。

第155図　93号住居跡とカマド



第156図　93号住居跡出土遺物

94号住居跡（第157・158図、図版24・110）

位置　東調査区中央南側。S22。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　縦長方形。　主軸方位　N－69°－E。　床面規模　6.05m（主軸）×5.41m（副軸）。　床面積　32.59㎡。　残存壁高　0.32～0.55m。　カマド　東辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻であるが床面中央に後世のピットが掘られプランを縦断する。　壁溝　幅10～13cm・深さ10～19cmで四周し、壁溝内には小ピットがやや規則的に設けられている。　覆土　最下層の５層中に焼土粒を含むが床面からまとまった検出はない。　主柱穴　４本柱構造でピットの深さは60～83cmを計測する。

出土遺物　１・２は中胴甕の箆ケズリ甕で、２は上半縦位、中位斜位、下半横位の箆ケズリとなり全体で３方向の箆ケズリが施される。３～５は赤彩の椀形杯で杯内面はナデによる。６・７は無彩の高杯脚で、７の内面にはミガキを施す。８は内外面赤彩で深い丸底で口縁が直立気味に僅かに外反し、内面ナデとミガキを施す杯である。９は須恵器甕片で内面にやや深い同心円文が施される。10は４面に摩耗面を有する鉄器用砥石であろう。遺物出土位置は、１・５がカマド燃焼部、３・10が床面直上、７がほぼ床面から出土する以外は覆土の検出である。６・７・９は、混入遺物であろう。

95号住居跡（第159図、図版24・110・111）

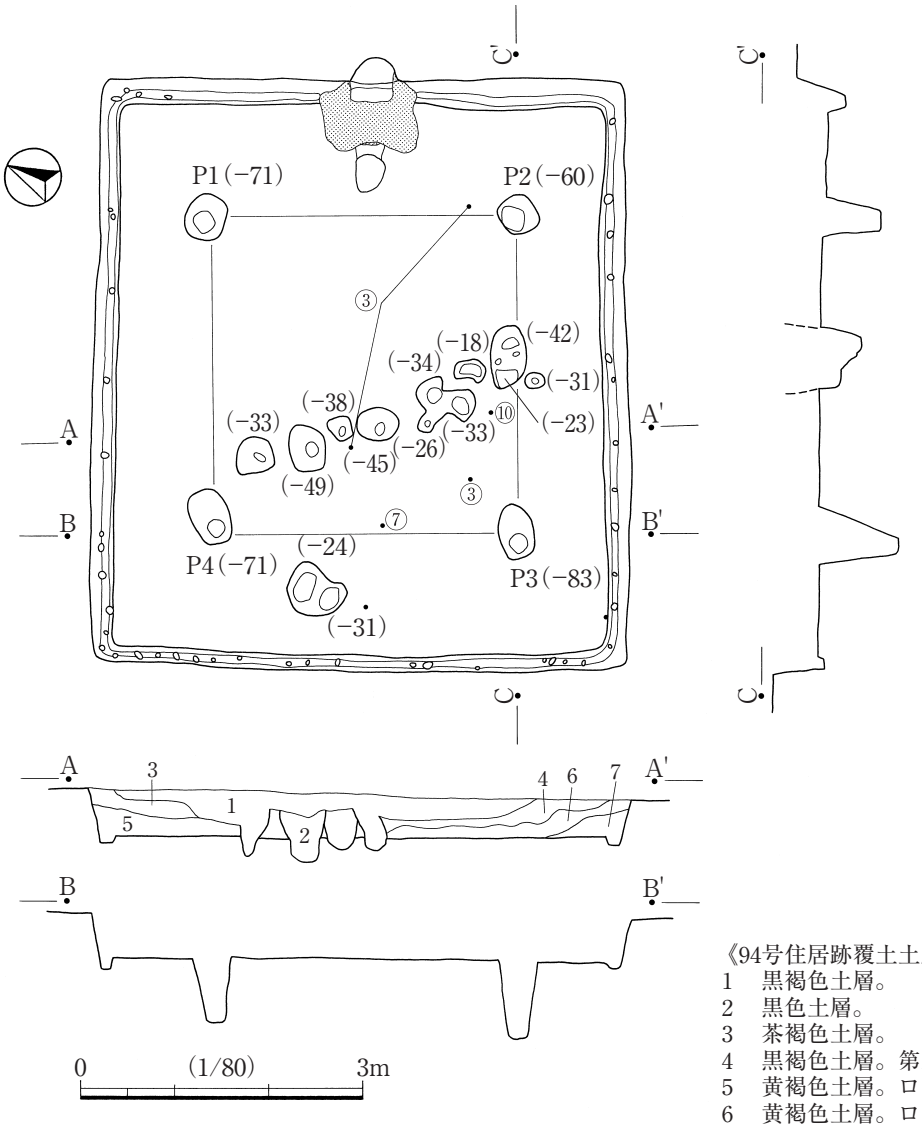
位置　東調査区中央南側。S22・S23。　複合切り合い関係　単独で検出するが北東隅に20号溝、床面中央から南壁に後世の土壙状の遺構に掘り込まれる。　平面形　方形。　主軸方位　N－７°－W。　床面規模　3.20m（主軸）×3.08m（副軸）。　床面積　9.49㎡。　残存壁高　0.25～0.39m。　カマド　北辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され平坦で堅緻である。　壁溝　幅10cm前後・深さ10cm前後で四周する。　覆土　概ね自然堆積を示すものと思われる。　主柱穴　無柱。

出土遺物　１は口唇玉状で胴外面縦位の箆ケズリ甕で、２もほぼ同様である。３は球胴で外面箆ナデとミガキを施す。４は外面縦位の箆ケズリに粗いミガキで内面ミガキの甑。５は須恵器身で底部回転箆ケズリを施すTK217型式期に比定できよう。６・７は半円状の椀形杯で、６は内面黒色処理でミガキを施す。８は口縁が僅かに外反する内面黒色処理でミガキを施す。９は土製支脚。共伴遺物は、１・２・７・８がカマド燃焼部、３がほぼ床面、４がピット内から出土し、他の遺物は覆土からの検出である。３の古相を呈する球胴甕の出土状況に疑問が残る他は住居跡に共伴する遺物であろう。

96号住居跡（第160図、図25・111）

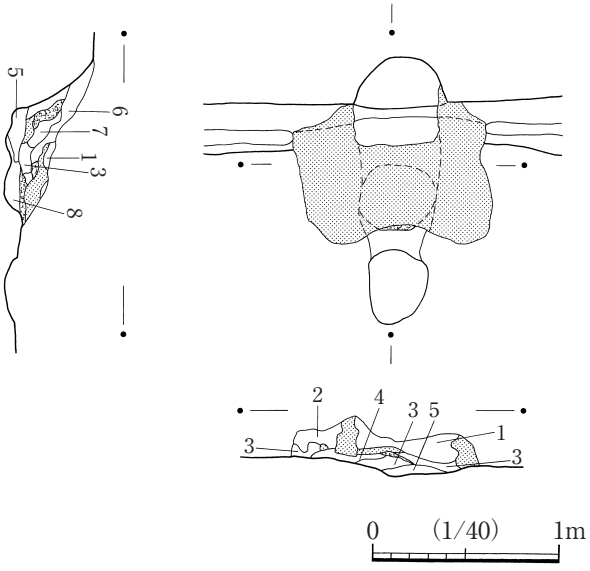
位置　東調査区中央南側。T22。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－10°－W。　床面規模　3.82m（主軸）×3.70m（副軸）。　床面積　14.13㎡。　残存壁高　0.23～0.54m。　カマド　北辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層を10cm余り掘り込み形成される張床で余り踏み固められていない。　壁溝　幅10～12cm前後・深さ６～９cmでほぼ四周する。　覆土　概ね自然堆積を示すものと思われる。　主柱穴　不規則に５穴を検出し、Ｐ１・Ｐ２が２柱構造を前提とした位置にあるがＰ３～Ｐ５は不明である。

出土遺物　１・３は口縁が小さく外反する胴外面縦位箆ケズリの甕で、３は無頸気味。２は胴外面斜

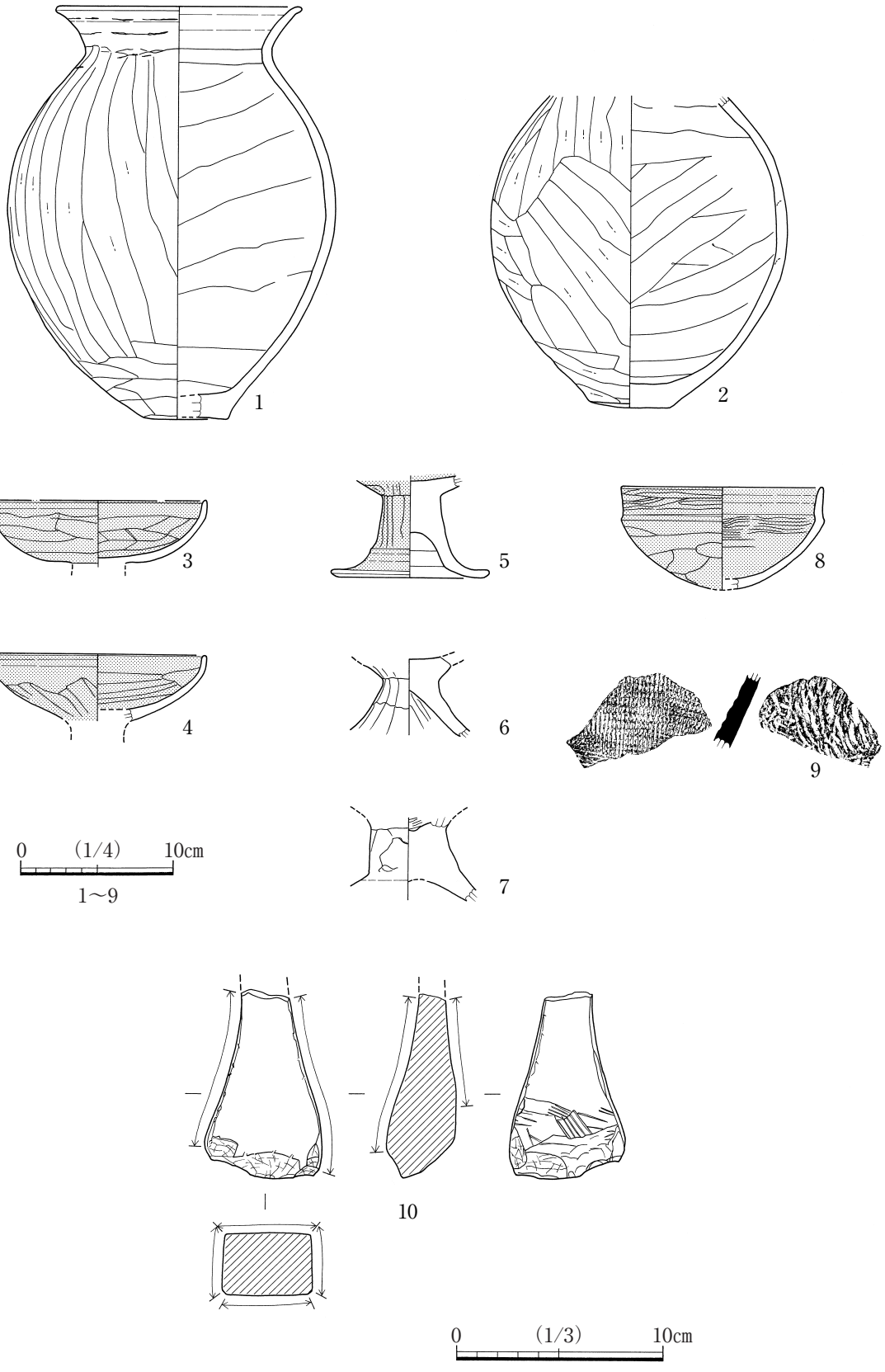


《94号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　黒色土層。
3　茶褐色土層。
4　黒褐色土層。第1層に似る。
5　黄褐色土層。ローム土塊を含む。
6　黄褐色土層。ローム粒を含む。
7　茶褐色土層。ローム粒を含む。

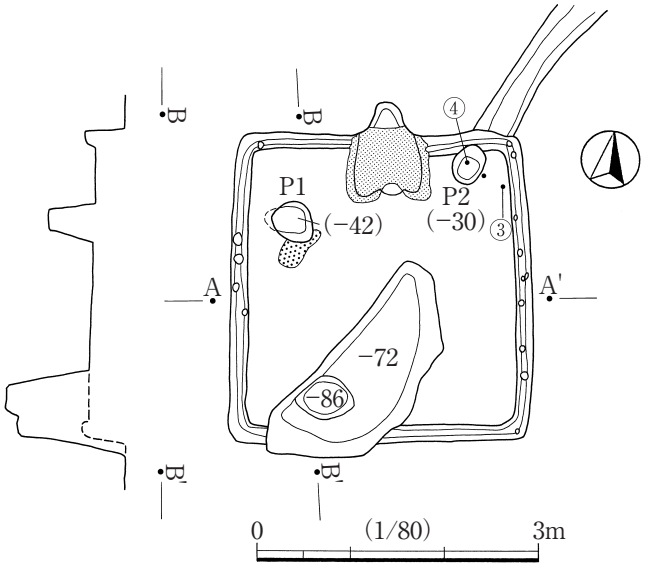
《94号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土粒とローム粒と焼土粒（2㎜以下）を含む。
2　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
3　暗褐色土層。焼土粒（1㎜以下）を含む。
4　暗褐色土層。ローム粒（3㎜以下）を含む。
5　黒褐色土層。焼土粒とローム粒（2㎜以下）を含む。
6　暗褐色土層。第2層に似るが、少量の焼土粒を含む。
7　暗褐色土層。焼土粒とローム粒を少量含む。
8　ロームブロック土層。

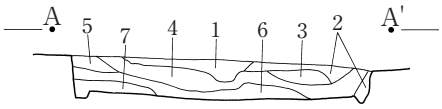


第157図　94号住居跡とカマド

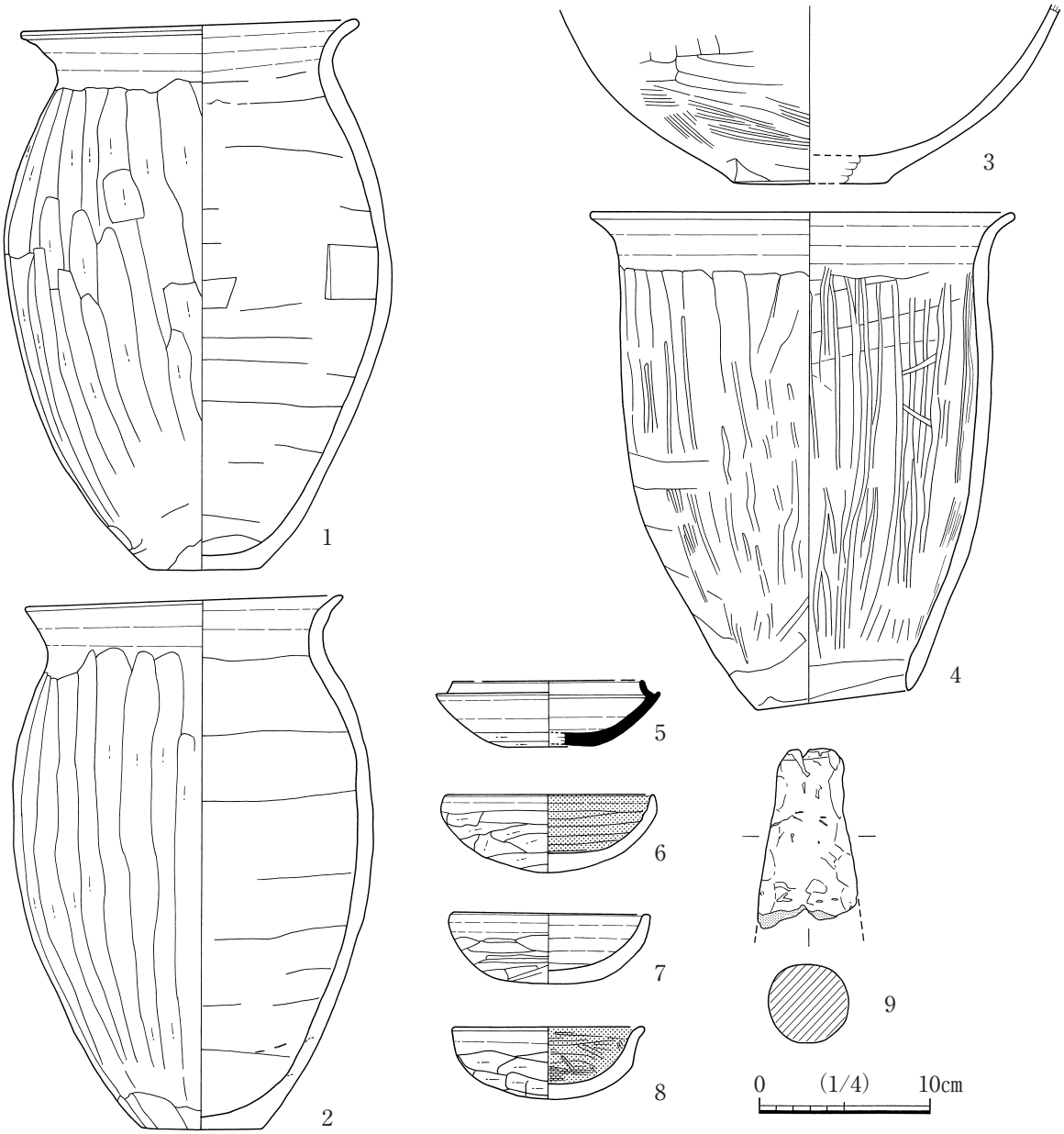


第158図　94号住居跡出土遺物





《95号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土層。
4　黒褐色土層。ローム粒を含む。
5　黄褐色土層。ローム粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒と焼土を少量含む。
7　茶褐色土層。



第159図　95号住居跡と出土遺物

位篦ケズリを施す。4は内外面に篦ナデをそれぞれ施す甕である。5は口縁が短く立ち、篦ケズリに雑なミガキ、内面ミガキを施す。6は内面漆塗りでミガキを施す平底の杯。7は杯内面黒色処理でミガキを施す高杯である。遺物出土位置は、1がカマド燃焼部、4が床面直上、3・5・7がほぼ床面から検出され、6の杯も同時期と判断できる。

97号住居跡（第161・162図、図版25・111）

位置　東調査区東側。S23・S24。　**複合切り合い関係**　東辺北半分とカマドを98住に大きく掘り込まれて検出する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－66°－E。　**床面規模**　5.88m（主軸）×5.88m（副軸）。　**床面積**　34.22㎡。　**残存壁高**　0.27～0.58m。　**カマド**　北東辺中央に敷設されるが98住に掘り込まれる。　**床面**　ソフトローム層中に形成される張床でやや軟弱である。　**壁溝**　幅9～12cm・深さ8～13cmで四周する。　**覆土**　床面壁際に焼土が広範囲に残り火災住居であることが容易に想定され、覆土の大半を占める12層中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　4本柱構造で深さ77～93cmを計測する。

出土遺物　1は胴外面篦ナデに雑なミガキを施す甑であろう。2は外面ミガキ状の篦ナデの甕。3は甑胴部下半で外面ミガキ状篦ナデを施す。4は短く立つ口縁内外面に指圧痕を残し口縁内外面赤彩のある甕。6～8は赤彩の椀形杯。9・10は赤彩高杯脚で裾部は屈曲気味である。11は大形赤彩高杯口縁で、内外面丁寧な篦ナデを施す。12はコップ形の手捏ね土器。13は断面円盤状の紡錘車で片面に文字ないし記号とおもわれる線刻3点が認められる。4と12は祭祀関連遺物であろう。遺物出土位置は、7・12が壁溝、10床面直上、11がほぼ床面から出土する以外は覆土からの検出である。覆土検出の遺物も同時期とみなして良かろう。

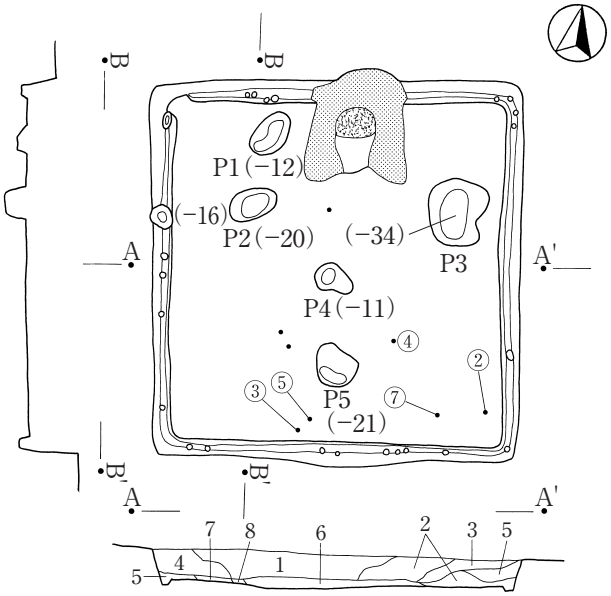
98号住居跡（第161・163図、図版25・112）

位置　東調査区東側。R23・R24・S23・S24。　**複合切り合い関係**　西南辺で97住床面を大きく掘り込む。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－41°－W。　**床面規模**　4.10m（主軸）×4.10m（副軸）。　**床面積**　16.59㎡。　**残存壁高**　0.34～0.52m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　ソフトローム層中に形成され、総体的に軟らかく余り踏みしめられていない。　**壁溝**　幅10～20cm・深さ10～15cmで四周する。　**覆土**　床面上には焼土が広範囲に残り火災住居であることが容易に想定され、覆土の大半を占める1～3層中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　4本柱構造で深さ44～77cmを計測する。

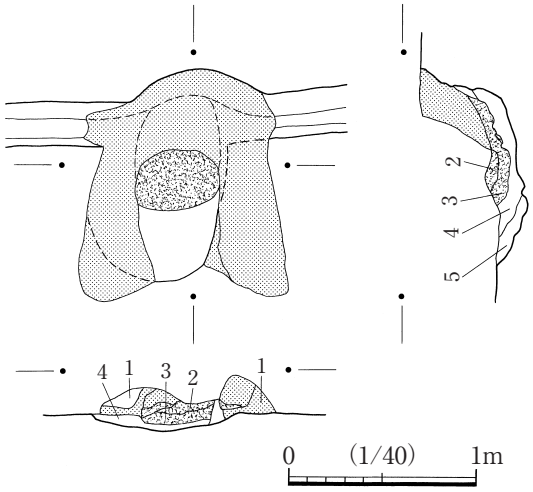
出土遺物　1は口縁摘み上げ気味の鉢形甕。2は肉厚のカワラケ状の杯。3は内面黒色処理でミガキを施す三角形の高台付椀。4は手捏ね土器。5は短頸壺形の鉢。6は土製支脚。7は加工痕を有す軽石。明確な共伴遺物が認められず時期を判断する資料に乏しいが、3の高台付椀を共伴遺物と見るならX期以降の所産となろう。

99号住居跡（第164・166図、図版25・112）

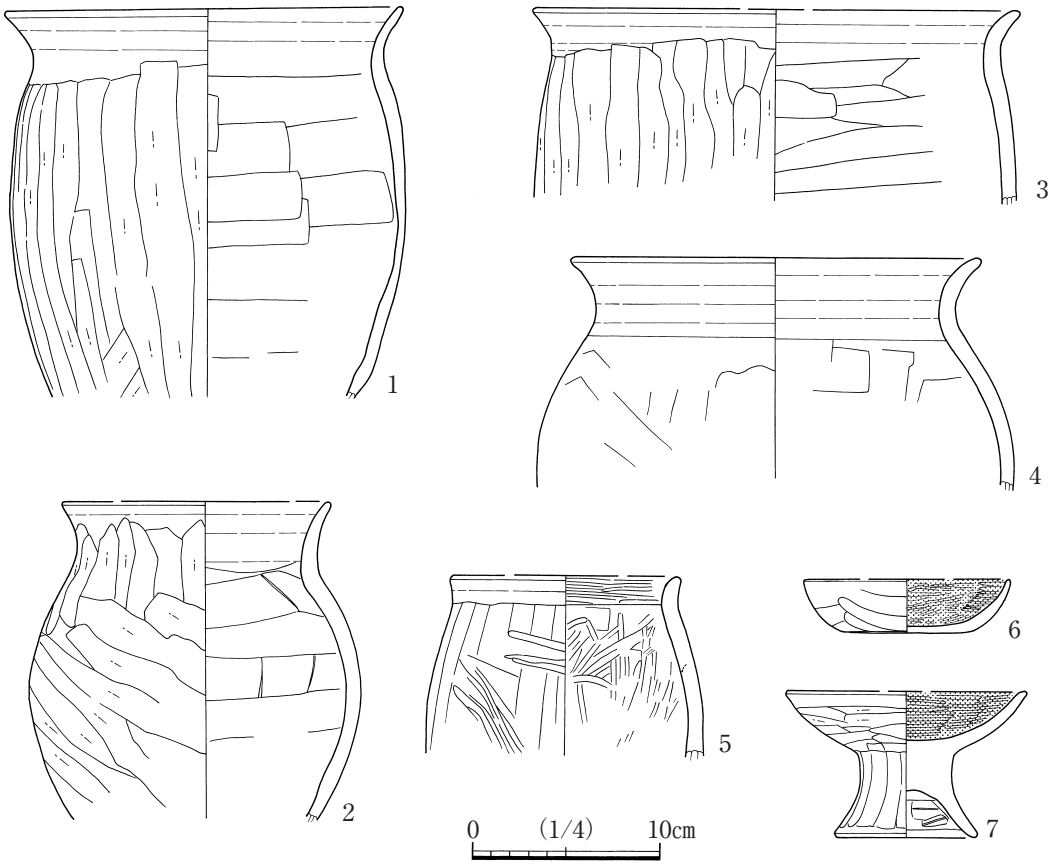
位置　東調査区東南側。T23。　**複合切り合い関係**　東辺および床面を100住に大きく掘り込まれて検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－79°－E。　**床面規模**　3.24m（主軸）×3.38m（副



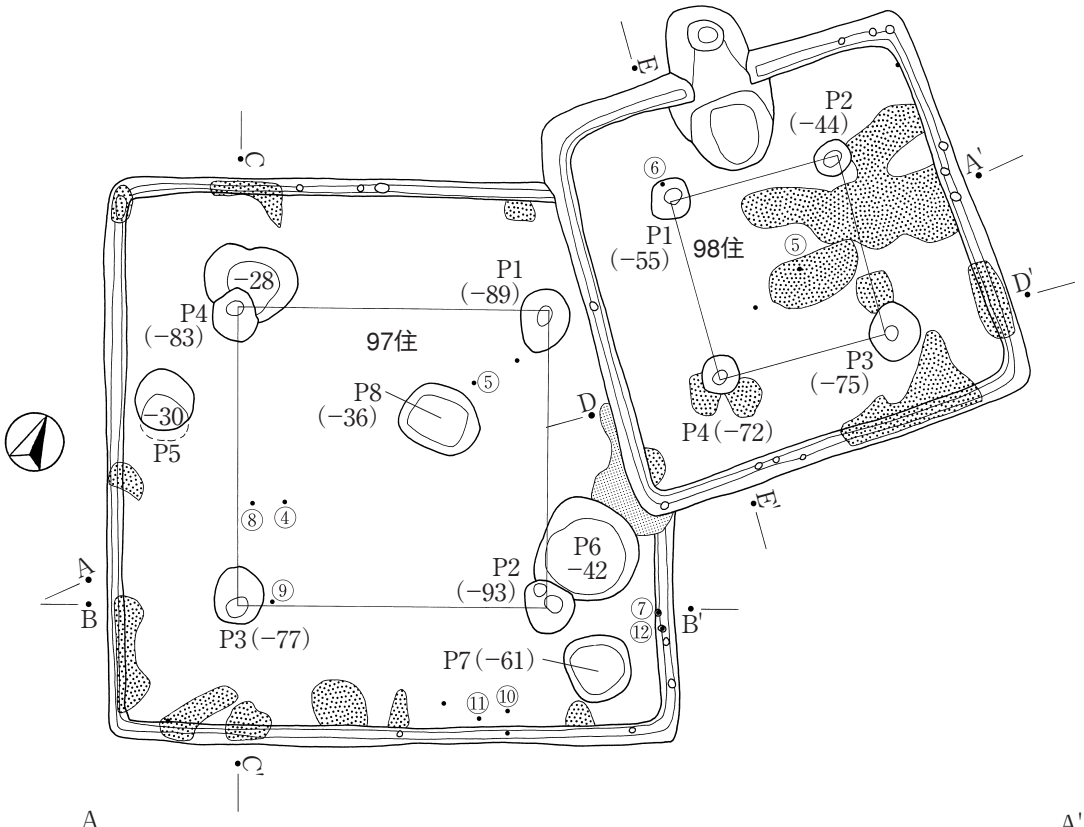
《96号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。
3　黒色土層。
4　茶褐色土層。ローム粒を含む。
5　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
6　茶褐色土層。
7　黄褐色土層。
8　ローム土塊。

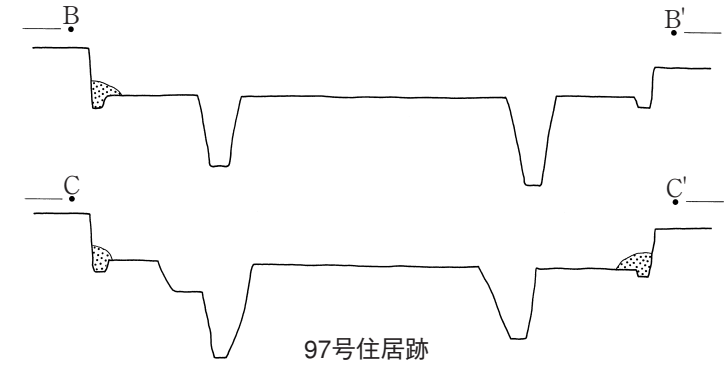


《96号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
2　灰層。
3　暗褐色土層。焼土粒（3㎜以下）を含む。
4　褐色土層。ロームブロック。焼土粒（1㎜以下）を極少量含む。
5　ロームブロック土層。



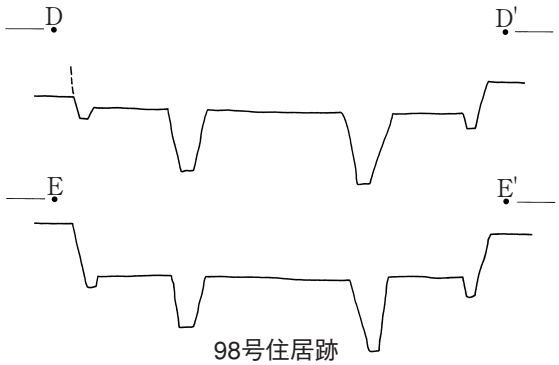
第160図　96号住居跡と出土遺物





97号住居跡

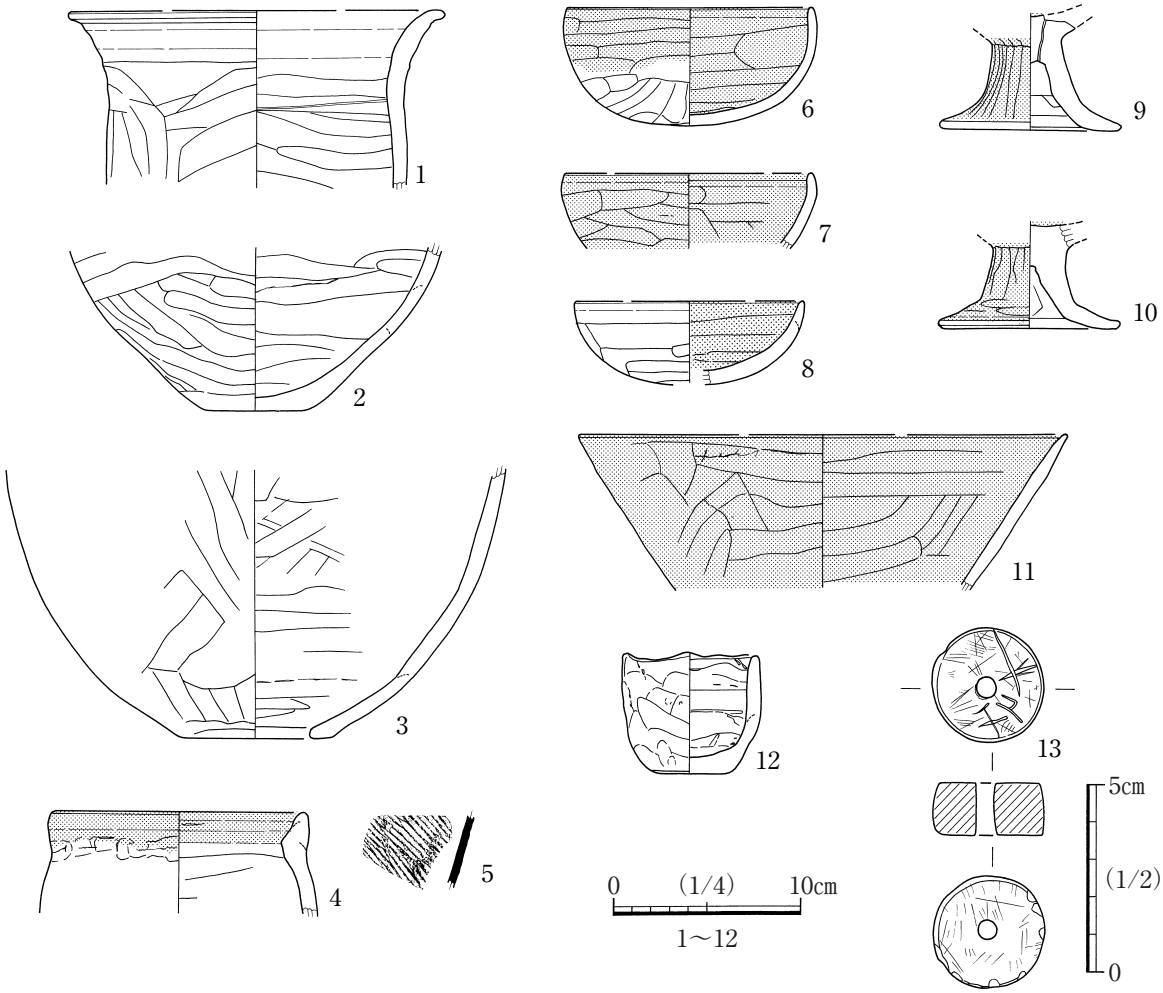
《97・98号住居跡覆土土層A－A'》
1　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
2　黒色土層。小ロームブロックを含む。
3　黒色土層。小ロームブロックを含む。
4　黒色土層。炭と焼土を多く含む。
5　茶褐色土層。小ロームブロックと焼土を含む。
6　黒色土層。粘土粒を含む。
7　黒褐色土層。淡褐色土をブロックと斑点状に含む。
8　茶褐色土層。
9　茶褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状に含む。
10　黄褐色土層。小ロームブロックを含む。
11　黒色土層。淡褐色土をブロックと斑点状に含む。
12　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
13　黒色土層。
14　焼土層。
15　茶褐色土層。焼土を含む。



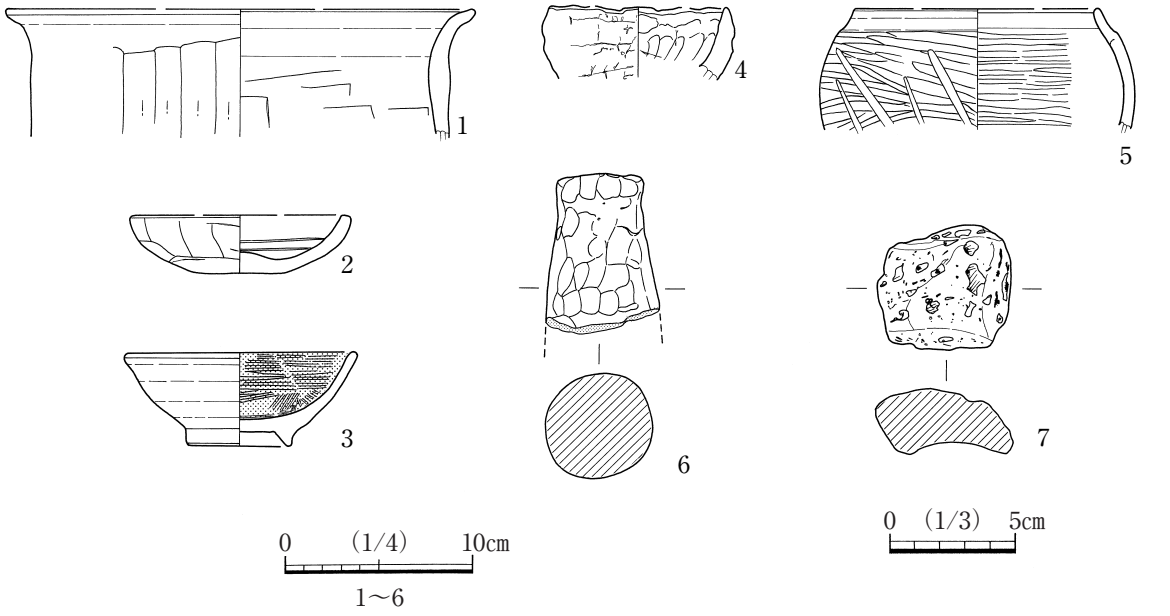
98号住居跡

0　(1/80)　3m

第161図　97号・98号住居跡



第162図　97号住居跡出土遺物

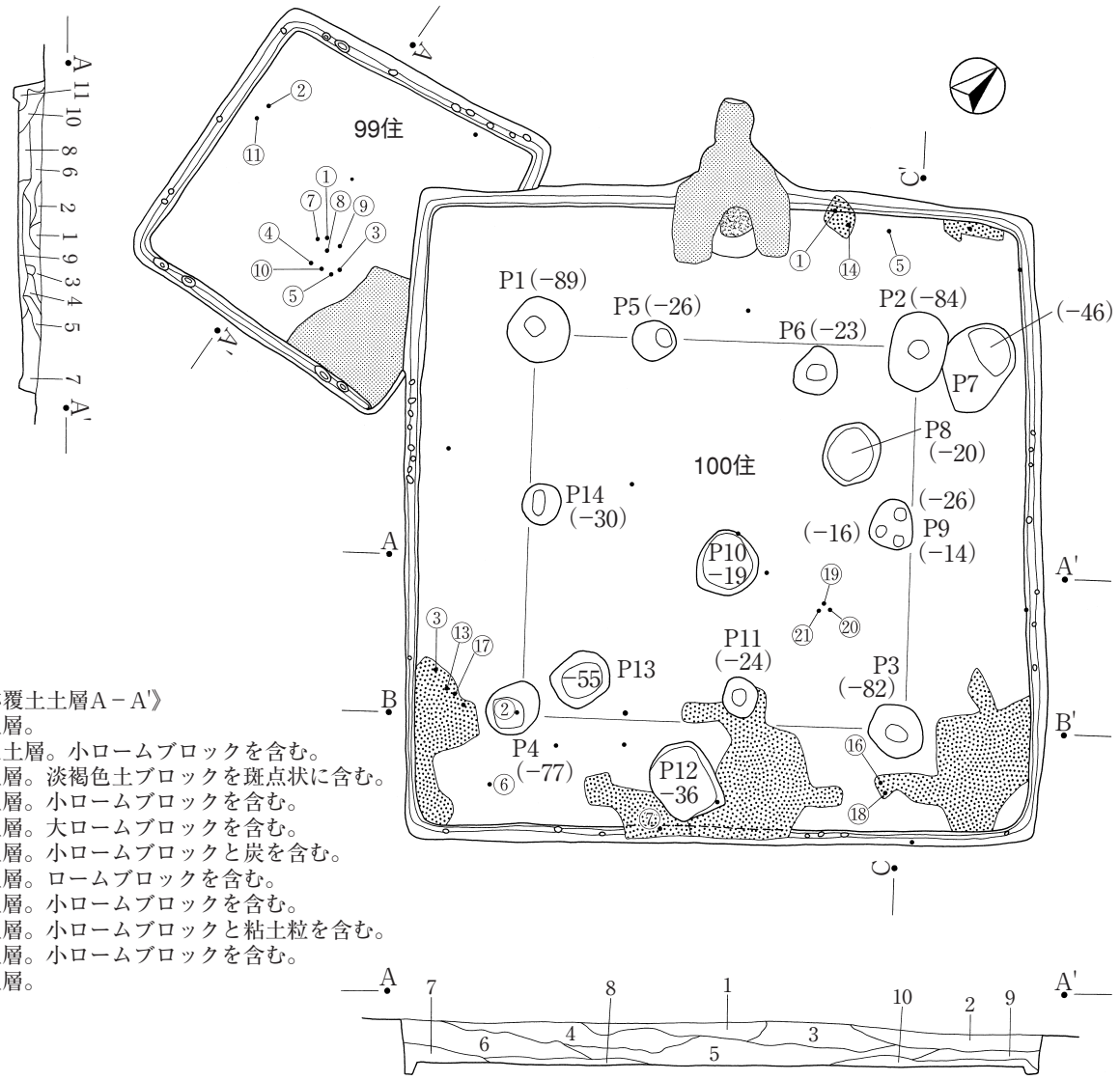


第163図　98号住居跡出土遺物

軸)。　**床面積**　10.51㎡。　**残存壁高**　0.08～0.37m。　**カマド**　東辺に敷設されたと思われ100住に削平される。　**床面**　ソフトローム層中に形成される張床であるが堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10cm前後・深さ５～10cmで四周する。　**覆土**　覆土中にはロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。また、南西隅に広範囲に粘土が床面直上に張られている。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　１は口縁外面に強いヨコナデにより段を有し、胴外面上半縦位篦ナデで、下半にミガキを施す中胴甕。２は肉厚で胴外面斜位の篦ケズリを施す甕。３～７は赤彩の椀形杯。８は赤彩椀形高杯。９は赤彩の高杯で長脚を呈する。10は赤彩高杯脚。11は須恵器蓋。12は内面篦ミガキの椀形杯である。遺物出土位置は、１・４が床面直上、３・５・７～10がほぼ床面から検出される。他は覆土からの出土である。覆土検出の２・６も住居跡共伴遺物で、11・12は混入遺物である。

100号住居跡（第164・165・167図、図版25・112・113）
位置　東調査区東南側。T23・T24・U23。　**複合切り合い関係**　西隅で99住の東壁と床面を大きく掘り込んでいる。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－42°－W。　**床面規模**　7.00m（主軸）×6.88m（副軸)。　**床面積**　47.23㎡。　**残存壁高**　0.19～0.50m。　**カマド**　北西壁中央に敷設され煙道部が壁から１mほど突出する。　**床面**　張床であるが、平滑で堅緻。　**壁溝**　幅８～15cm　深さ４～12cm。　**覆土**　覆土中には大小のロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。また、東南側床面上には広範囲に焼土が堆積し、火災住居であろう。　**主柱穴**　主柱穴は４穴であるが主軸方向の柱筋の中間に浅い補助的なピットを検出する。
出土遺物　１は胴外面縦位篦ケズリの長胴甕。２は球胴甕で胴外面縦位篦ケズリ。４は斜位のケズリ状の篦ナデ甕。５は胴部外面篦ナデ状の篦ケズリ、６はケズリ状篦ナデを施す甑である。８は短い口縁を有する須恵器身でTK217型式期に比定できよう。９は内外面ミガキの内面黒色処理の杯。10は杯身模倣の内面ミガキを施す。11は内面ミガキの内外面に漆塗りを施す半円状の杯。12は内外面雑なミガキの杯。13は内外面ミガキで漆塗りの可能性のある内湾口縁杯。14は長脚の大形高杯で杯内面ミガキを施す。15は湖西産の須恵器で底部に焼成前線刻による「廾」が施される。16は内面黒色処理でミガキを施す鉢。17は手捏ね土器で底部に木の葉を施す。18は加工痕を有す軽石。19は直刀断片か。20は柳葉形の鉄鏃。21は釘である。遺物出土位置は、１・５・14は床面直上。５・６・７・８・13・16・17・19～21が床面上の焼土中やほぼ床面、11・12がカマド燃焼部から出土している。15の須恵器がやや古相である他はほぼ同一時期と見なし、住居跡共伴遺物となろう。

101号住居跡（第168・169図、図版26・113）
位置　東調査区東南側。T24・U24。　**複合切り合い関係**　南東隅を22号溝に掘り込まれる他は遺構の切り合い関係は無い。　**平面形**　縦長方形。　**主軸方位**　N－13°－E。　**床面規模**　5.58m（主軸）×5.12m（副軸)。　**床面積**　28.34㎡。　**残存壁高**　0.26～0.36m。　**カマド**　北壁のほぼ中央に敷設され煙道部が壁から１mほど突出する。　**床面**　ソフトローム層上に形成されているが、比較的堅緻である。　**壁溝**　幅15cm・深さ13cm前後。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４穴でＰ５は出入り口に敷設されたピットであろう。
出土遺物　１・２は須恵器盤で１は口縁が立つ、２は端部が水平に外方に折れる。３は箱形の須恵器

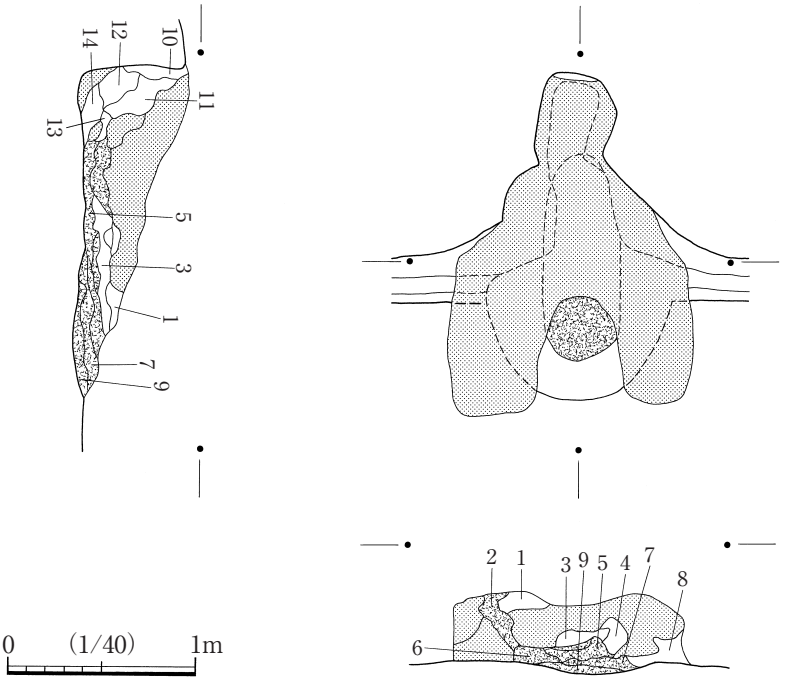


《99号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　暗茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
3　茶褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状に含む。
4　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。大ロームブロックを含む。
6　黒褐色土層。小ロームブロックと炭を含む。
7　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
8　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
9　黄褐色土層。小ロームブロックと粘土粒を含む。
10　黒褐色土層。小ロームブロックを含む。
11　茶褐色土層。

《100号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒色土層。
2　黒褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状に含む。
3　黒色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
5　黒褐色土層。
6　黒褐色土層。ローム粒と焼土をブロックに含む。
7　茶褐色土層。焼土粒を含む。
8　黄褐色土層。ローム土。
9　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
10　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。

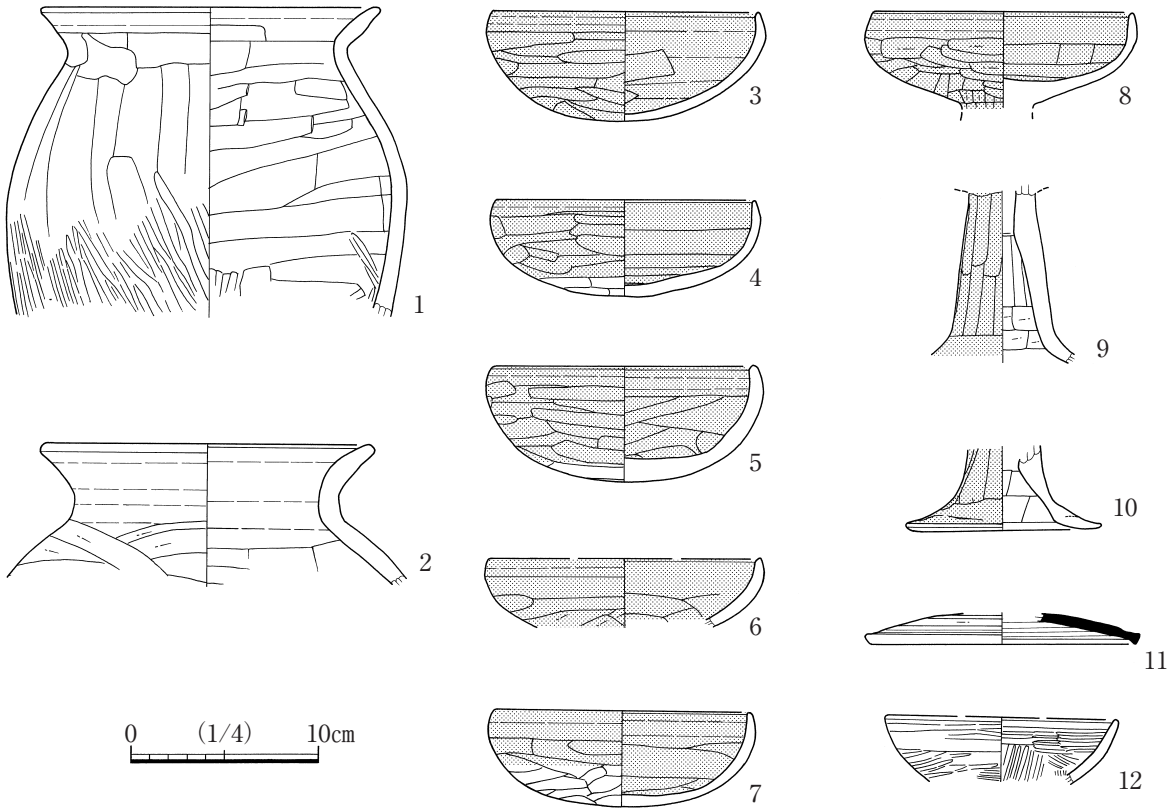
0　(1/80)　3m

第164図　99号・100号住居跡

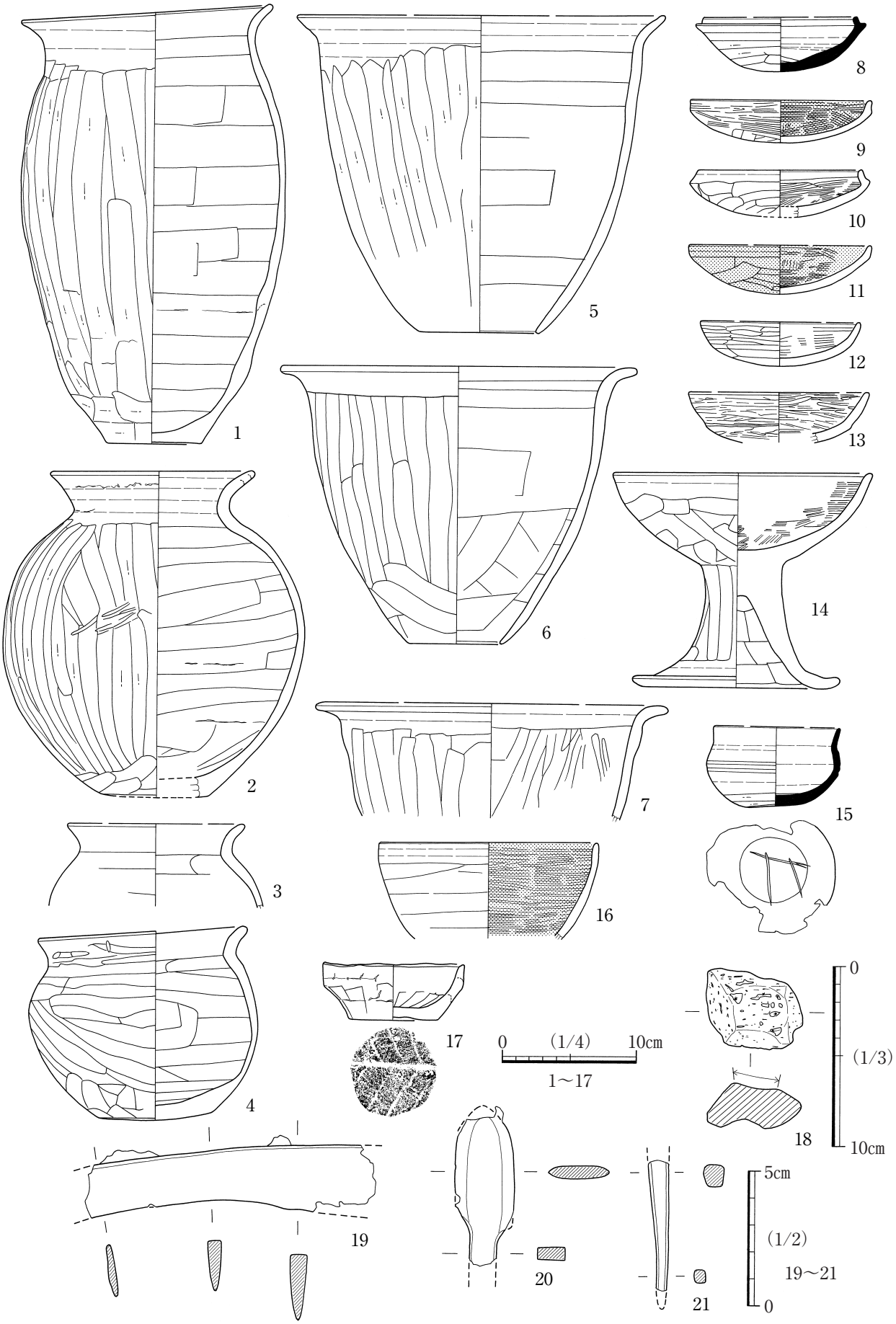


《100号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。粘土粒を少量含む。
2 暗褐色土層。粘土に焼土を含む。
3 黒灰色土層。粘土と灰の混合土に少量の焼土を含む。
4 黒灰赤褐色土層。粘土と焼土がブロック状に混じる。
5 黒灰赤褐色土層。灰層に焼土粒混入。
6 灰褐色土層。灰層に少量の焼土粒含む。
7 暗赤褐色土層。サクサク焼土層。
8 茶褐色土層。硬質のロームブロックに粘土粒混入。
9 灰褐色土層。灰層に焼土粒含む。
10 暗褐色土層。粘土粒と焼土粒を含む。
11 黄褐色土層。ロームと粘土が薄く混じり、焼土粒を含む。
12 黒褐色土層。粘土と焼土を含む。
13 灰褐色土層。粘土粒に灰と焼土を含む。
14 灰層。灰層に少量の粘土・焼土粒を含む。

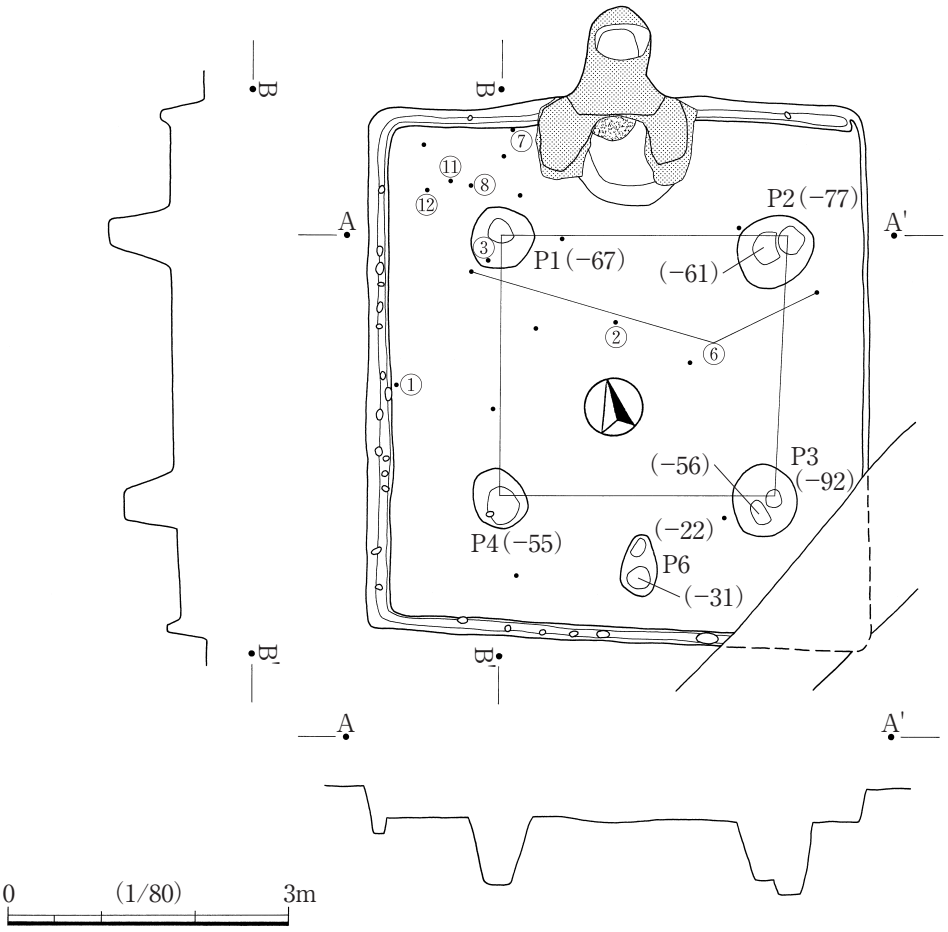
第165図　100号住居跡カマド



第166図　99号住居跡出土遺物

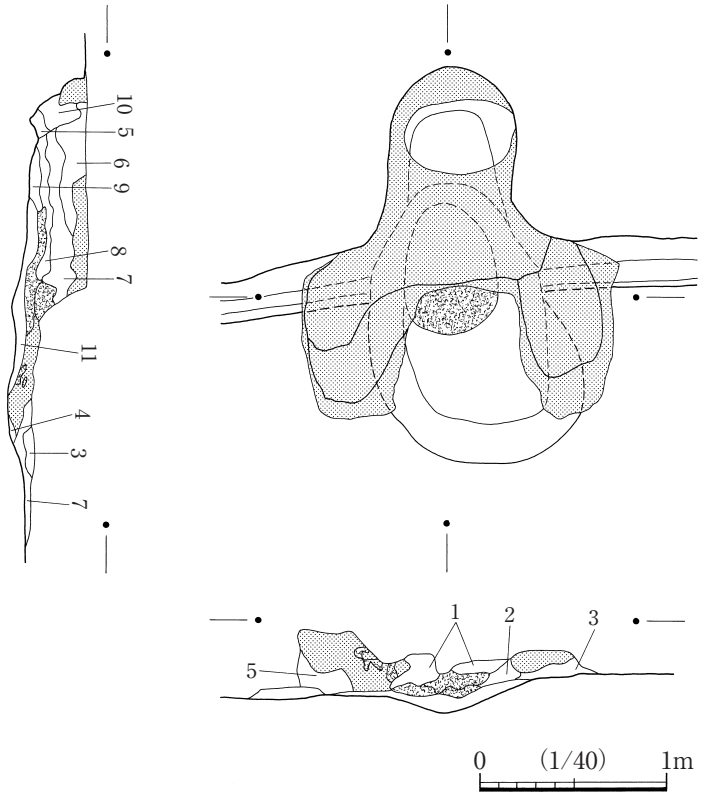


第167図　100号住居跡出土遺物

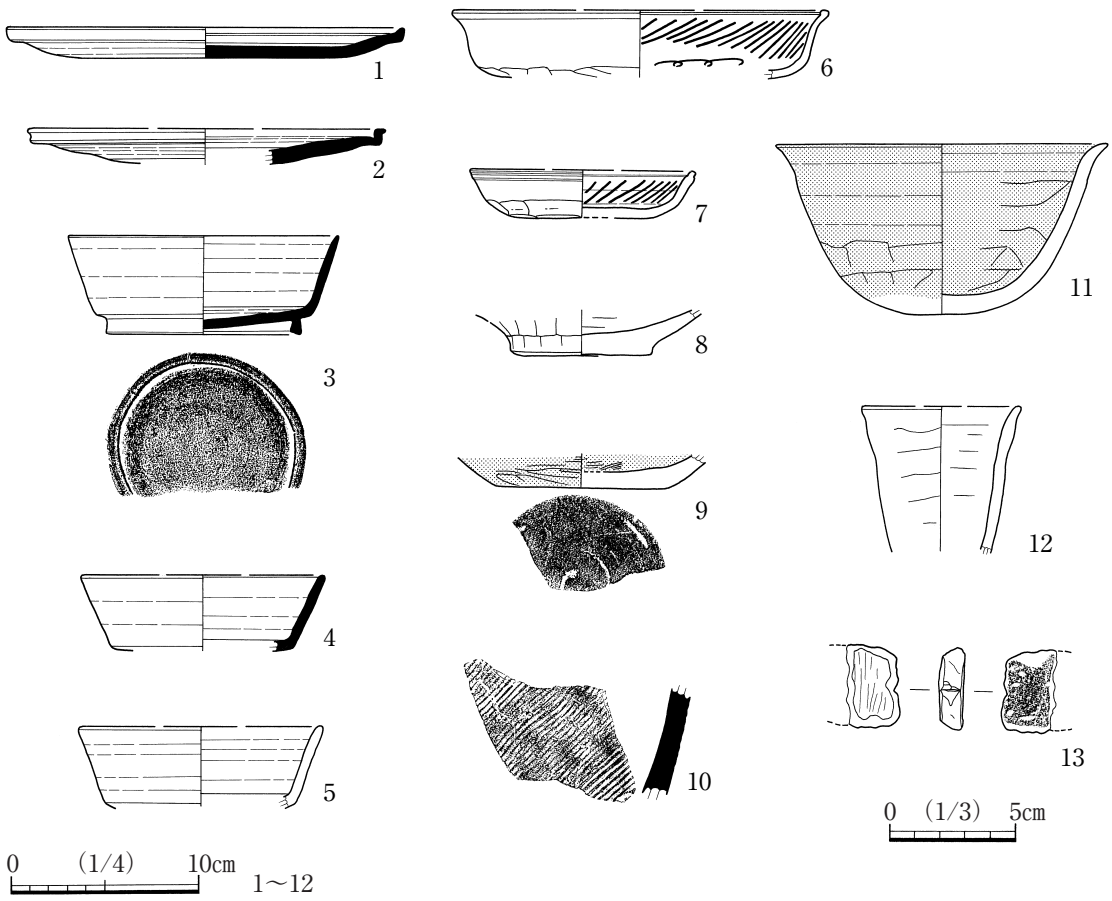


《101号住居跡カマド土層》

1　暗褐色土層。粘土粒を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土粒（3㎜以下）を多く含む。
3　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
4　黒褐色土層。焼土粒（5㎜以下）、灰や炭を少量含む。
5　黒褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を含む。
6　黒褐色土層。粘土塊とローム土塊を少量含む。
7　暗褐色土層。粘土塊とローム土塊を含む。
8　黒色土層。粘土粒とローム粒を含む。
9　黒褐色土層。第8層に似るが、明るく粘土粒とローム粒少量混入。
10　暗褐色土層。粘土（1㎜大以下）を含む。
11　黄褐色土層。加熱されたローム土。



第168図　101号住居跡とカマド

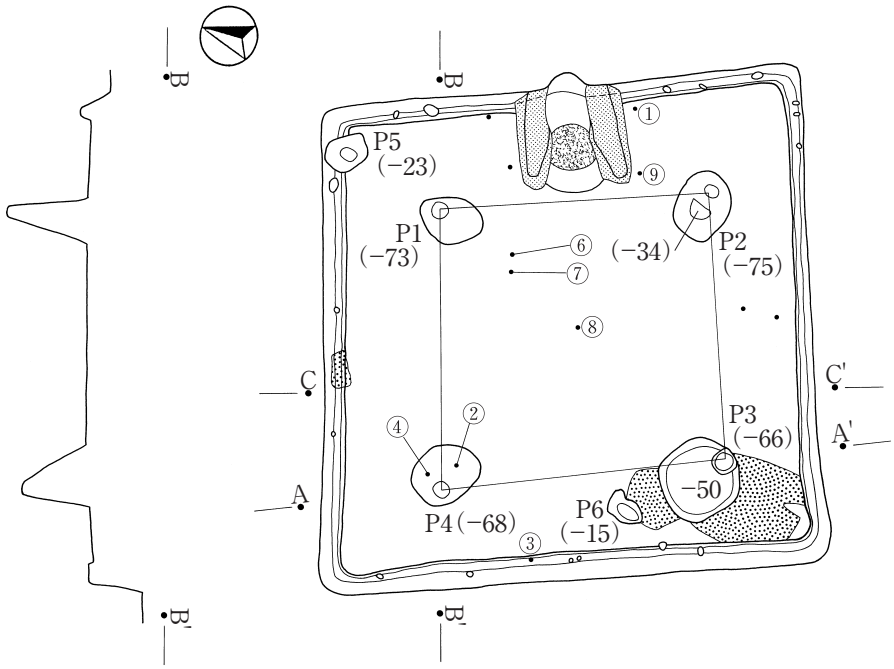


第169図　101号住居跡出土遺物

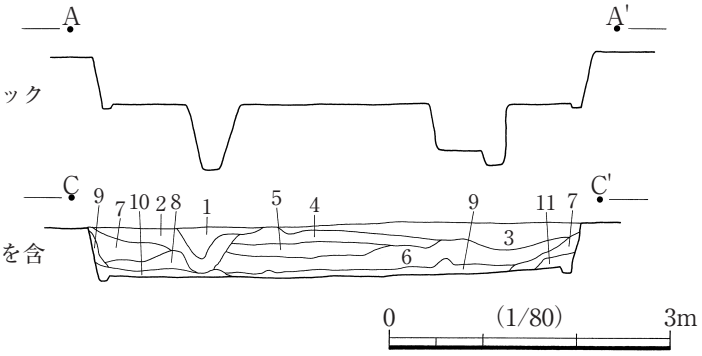
高台付杯で底部が出尻気味で、高台はシャープな角状を呈する。4も3同様と思われるが高台を欠損する。5は箱形のロクロ土師器杯である。6は畿内系の暗文土器で体部に斜状、底部に螺旋暗文が施される。7も同様で体部内面に斜行の暗文を施す小形杯である。6・7は胎土・色調とも非在地系で搬入品と思われる。8は突出の球胴甕底部。9は内外面ミガキで赤彩を施す大形の杯。11は内外面赤彩の丸底鉢。12は無彩色の坩形土器の口縁部か。13は縄文土器片の土錘であろう。遺物出土位置は、1～3・6・7・11が床面直上やほぼ床面ないしカマド燃焼部から検出されるが、11のカマド燃焼部から検出された赤彩の鉢は二次的にカマドの補強材に使用した物であろう。

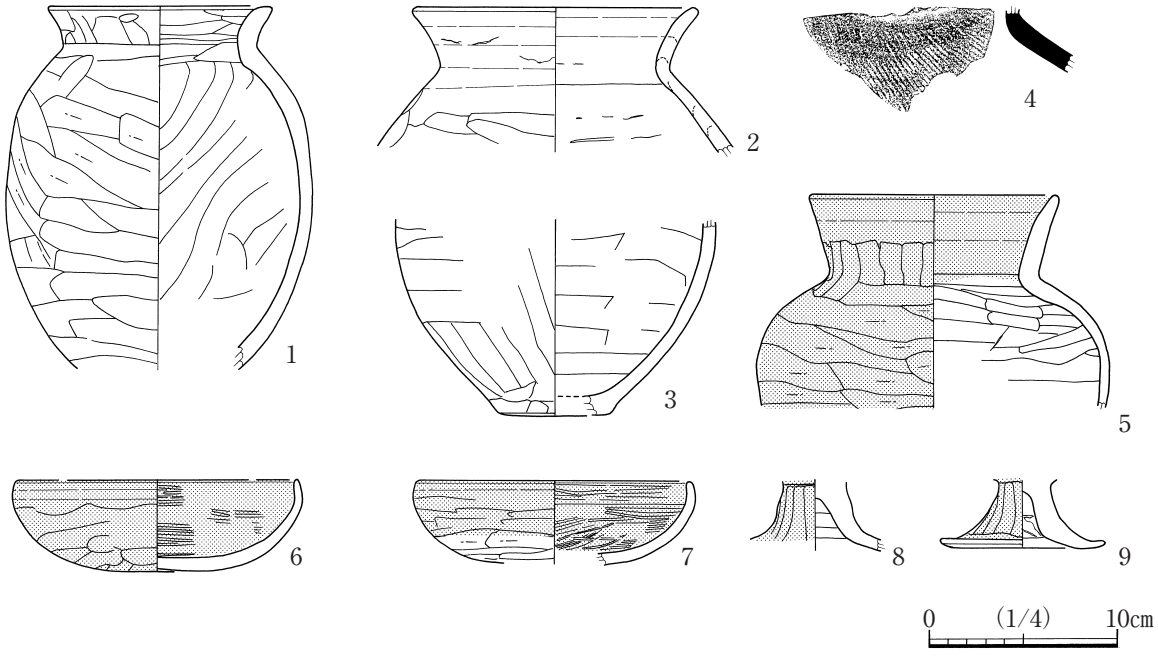
102号住居跡（第170図、図版26・113）

位置　東調査区南側。U22・U23。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、北東に99住、西に103～105住とそれぞれ近距離にある。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－73°－E。　**床面規模**　4.92m（主軸）×4.98m（副軸）。　**床面積**　26.64㎡。　**残存壁高**　0.24～0.61m。　**カマド**　東壁中央に敷設され煙道部は僅かに突出するだけである。　**床面**　ソフトローム層上に形成されているが、平滑で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅8～12cm・深さ4～9cm。　**覆土**　北側上層にロームブロックを含む撹乱層が認められるが床面には達していない。西南床面に広く焼土の堆積が認められ火災住居で



《102号住居跡覆土土層C－C'》
1　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
2　黄褐色土層。黒褐色土層とロームブロックの混合土。
3　黒褐色土層。ローム粒を含む。
4　黒色土層。
5　黒褐色土層。ローム粒を含む。
6　暗黒褐色土層。ローム粒を含む。
7　茶褐色土層。ソフトローム小ブロックを含む。
8　茶褐色土層。ローム粒を含む。
9　茶褐色土層。
10　黒褐色土層。若干の焼土粒を含む。
11　黒褐色土層。ロームブロックと多量の焼土を含む。





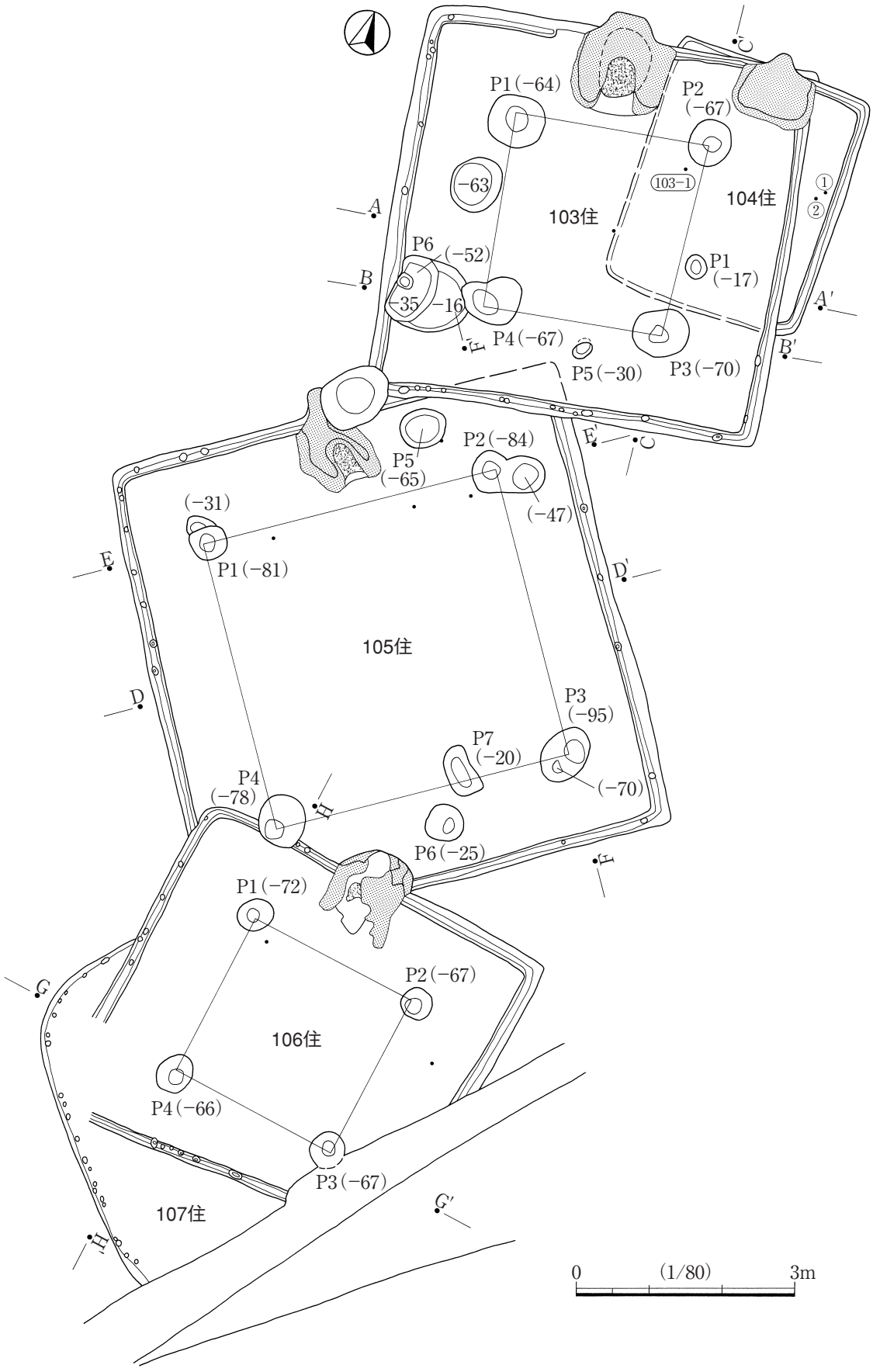
第170図　102号住居跡と出土遺物

あろう。　**主柱穴**　4本柱である。
出土遺物　1は肉厚の中胴甕で胴外面斜位の箆ケズリ。2・3は外面箆ナデ。4は須恵器大甕片。5は口縁が僅かに外傾して立つ赤彩の壺で赤彩は口縁内面にまで及ぶ。6・7は赤彩の椀形杯で内面に弱いミガキを施す。8・9は赤彩高杯脚である。遺物出土位置は、1がカマド右袖の床面直上。2・4はP3内。3・6～8がほぼ床面。9が床面直上からそれぞれ出土する。覆土から出土した5も住居跡の帰属を示す資料であろう。

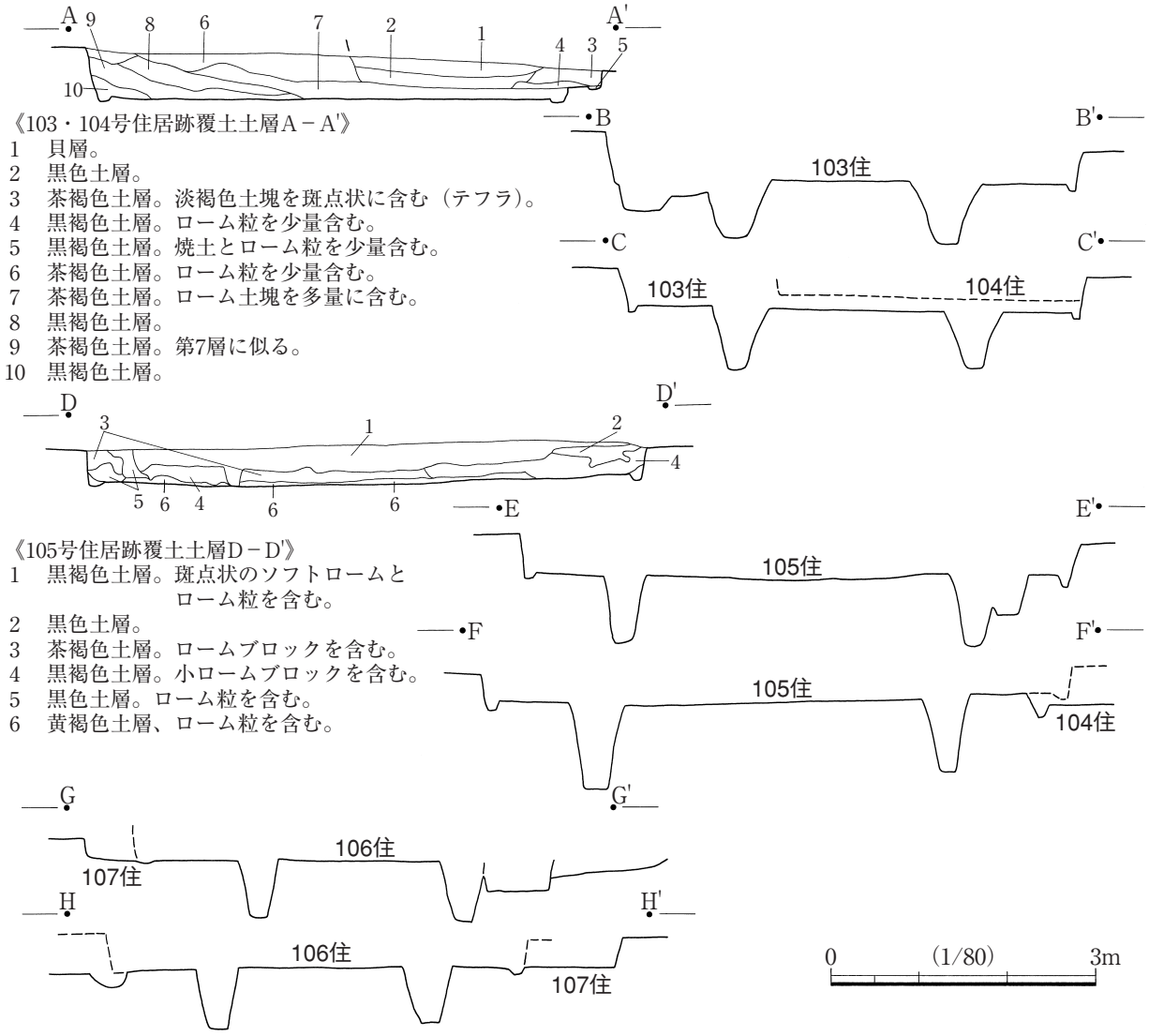
103号住居跡（第171～174図、図版26・113）
位置　東調査区南側。T21・T22・U21・U22。　**複合切り合い関係**　プラン北東部上層に104住が、南壁に105住がそれぞれ掘り込む。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－8°－W。　**床面規模**　5.12m（主軸）×5.24m（副軸）。　**床面積**　26.37㎡。　**残存壁高**　0.33～0.48m。　**カマド**　北辺の中央に敷設され煙道部が僅かに突出する。　**床面**　ソフトローム層上に形成されているが、比較的堅く踏みしめられており、総体的に堅緻。　**壁溝**　幅8～12cm・深さ10～14cm。　**覆土**　概ね自然地形に即した西からの自然堆積状況と104住床面が覆土中に形成される状況を良好に示している。　**主柱穴**　P1～P4の4本柱穴構造でP5は出入り口関連ピットであろう。
出土遺物　1は須恵器甕片。2は内面ミガキの椀形杯。3は外面口縁直下に鈍い稜線を有する杯。出土遺物が僅かで時期判断をする資料が無く、切り合い関係からⅦ期Aであろうか。

104号住居跡（第171・172・175図、図版26・113）
位置　東調査区南側。T22。　**複合切り合い関係**　平面プランのほとんどを103住と重複し、床面も103住覆土中に構築される。　**平面形**　縦長方形。　**主軸方位**　N－1°－W。　**床面規模**　2.74m（主軸）×3.40m（副軸）。　**推定床面積**　8.96㎡。　**残存壁高**　0.18m前後。**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　103住のプラン内に床が形成されており、あまり堅緻ではない。　**壁溝**　幅8～10cm・深さ5cm。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　1はやや小振りの須恵器高台付杯。2は須恵器コップで体部下端から底部に回転箆ケズリを施す。何れも市原産の永田・不入窯産須恵器で、2点とも東辺壁寄りの中央の床面から出土する。

105号住居跡（第171・172・176図、図版26・114）
位置　東調査区南側。U21・U22。　**複合切り合い関係**　北東隅で103住南壁を掘り込み、南西隅および周辺床面を106住に掘り込まれている。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－32°－W。　**床面規模**　6.44m（主軸）×6.25m（副軸）。　**床面積**　39.76㎡。　**残存壁高**　0.28～0.36m。　**カマド**　北辺中央に敷設され煙道部および右袖を後世のピットに攪乱される。　**床面**　P1～P4の主柱穴を結ぶ線の中央床面とP1・P4の壁間にはハードロームを主に張床され全体的に硬く踏みしめられている。　**壁溝**　幅15cm・深さ13cm前後で四周する。　**覆土**　覆土中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　4本柱でP5は貯蔵穴、P6は出入り口関連ピットである。
出土遺物　1・2は外面縦位箆ケズリ甕。3は丸底のやや扁平な無彩の椀形杯である。4は口縁直下に鈍い稜を有する内面ミガキの杯。1・2の甕が床面よりやや浮いて出土するが住居の共伴遺物であ



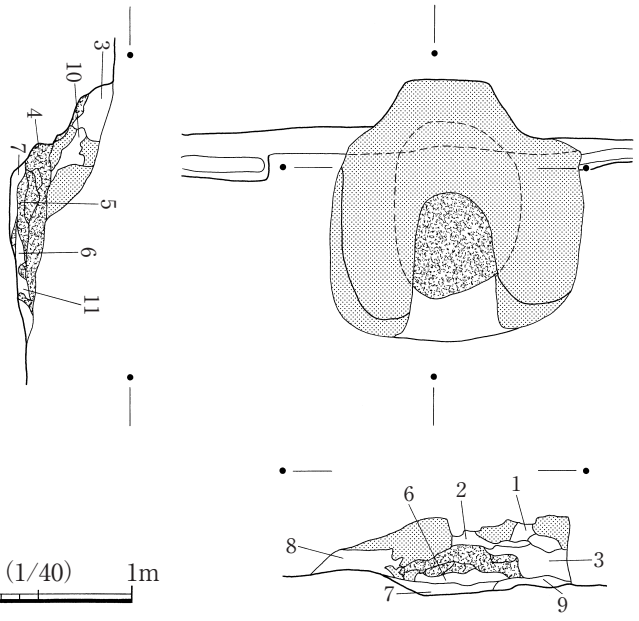
第171図　103号～107号住居跡



《103・104号住居跡覆土土層A－A'》
1　貝層。
2　黒色土層。
3　茶褐色土層。淡褐色土塊を斑点状に含む（テフラ）。
4　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
5　黒褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
6　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
7　茶褐色土層。ローム土塊を多量に含む。
8　黒褐色土層。
9　茶褐色土層。第7層に似る。
10　黒褐色土層。

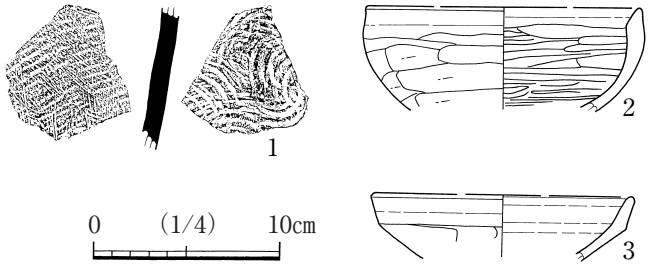
《105号住居跡覆土土層D－D'》
1　黒褐色土層。斑点状のソフトロームとローム粒を含む。
2　黒色土層。
3　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黒褐色土層。小ロームブロックを含む。
5　黒色土層。ローム粒を含む。
6　黄褐色土層、ローム粒を含む。

第172図　103号～107号住居跡土層断面図および断面図

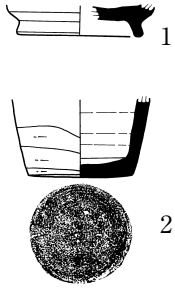


《103号住居跡カマド土層》
1　ロームブロック（1㎝以下）。
2　黒色土と粘土と焼土が混合する。
3　暗褐色土層（軟質）。粘土とローム土塊のブロック状。
4　灰と焼土の混合土層。
5　暗褐色土と灰と焼土の混合土層。
6　粘土層（薄い）に灰が少量混入。
7　硬質のローム土塊群。
8　暗褐色土層。粘土粒（1㎜以下）ローム粒も極少量含む。
9　薄いローム層（少し軟質）。
10　黒色土層。粘土を少量含む。
11　暗褐色土層。焼土粒（2㎜以下）を含む。

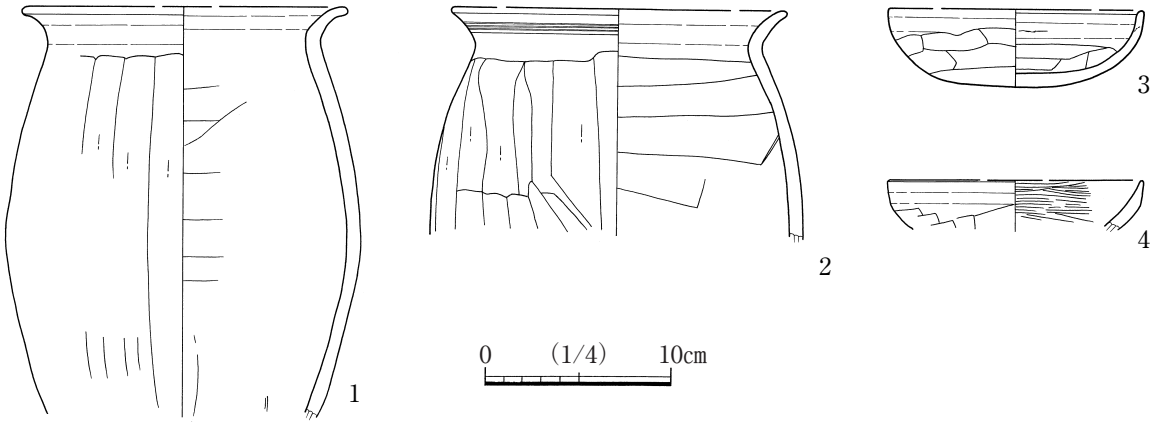
第173図　103号住居跡カマド



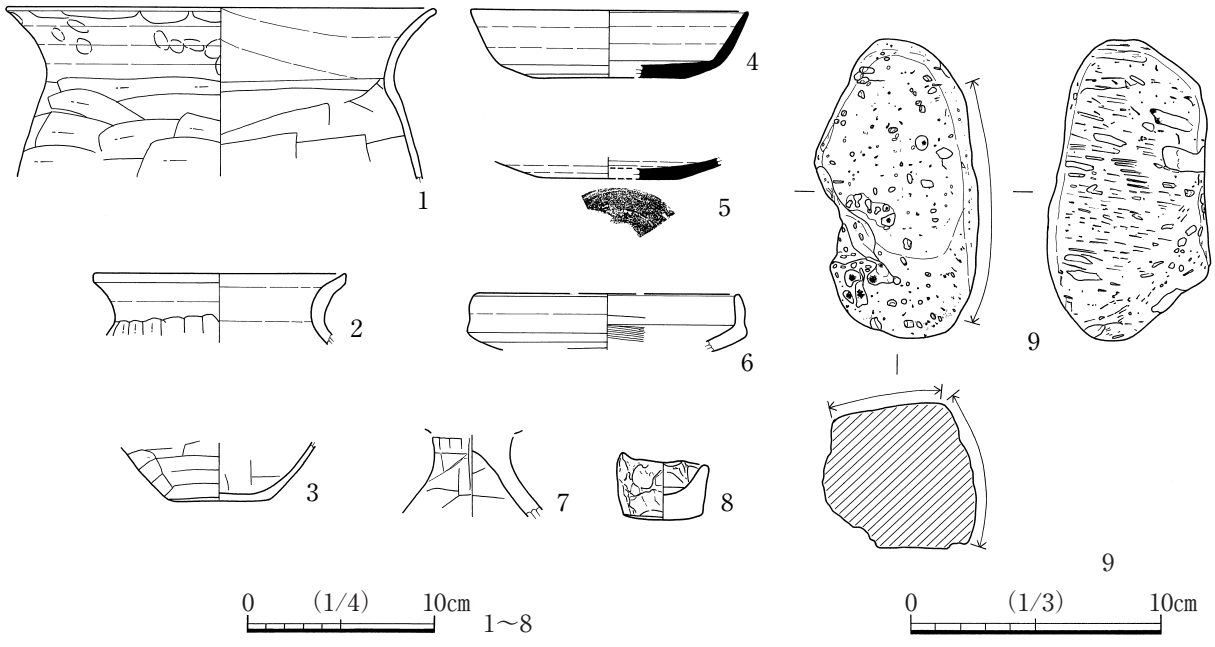
第174図　103号住居跡出土遺物



第175図　104号住居跡出土遺物



第176図　105号住居跡出土遺物



第177図　106号住居跡出土遺物

ろう。３・４の覆土から出土した杯も同様であろう。

106号住居跡（第171・172・177図、図版26・114）

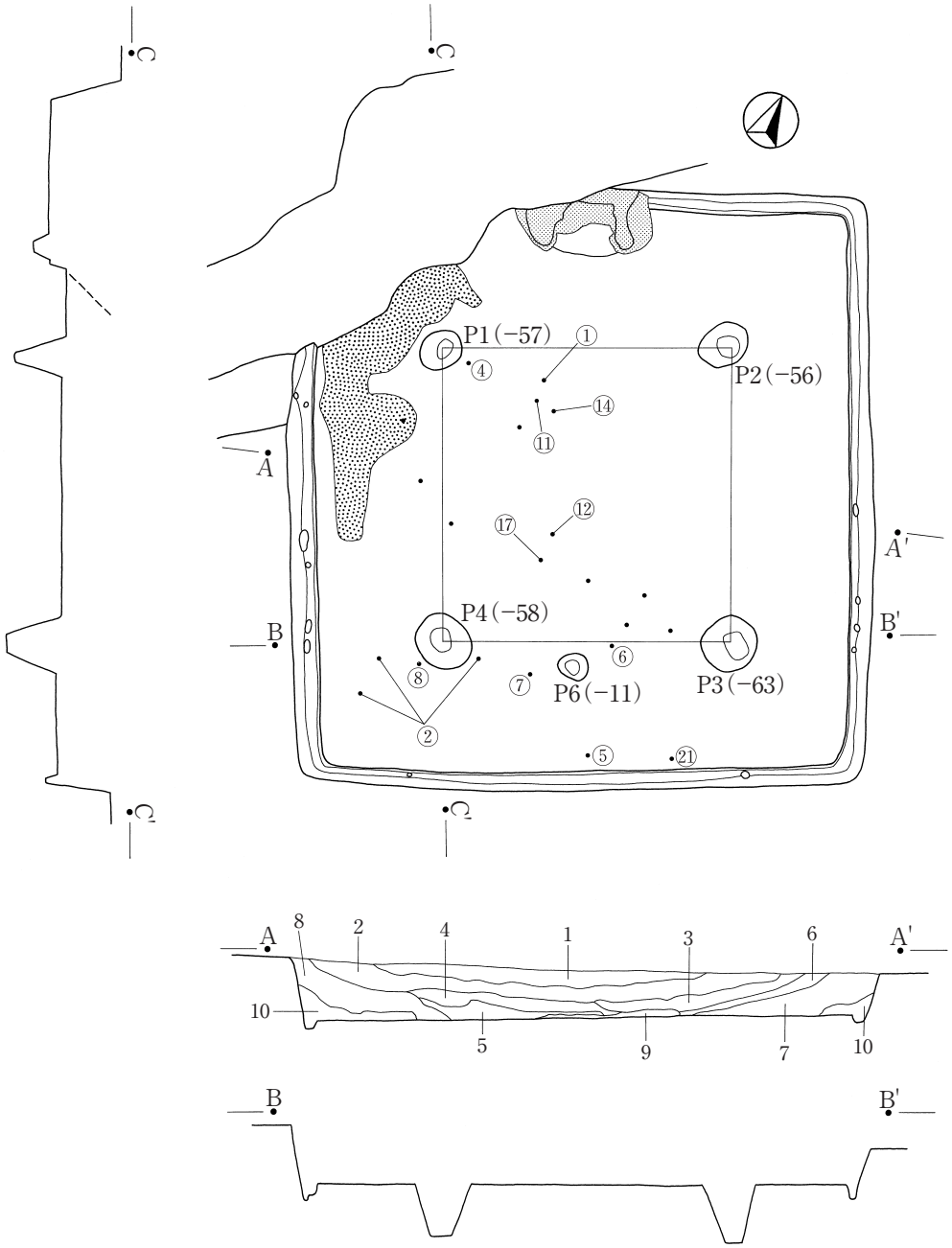
位置　東調査区南側。V21・V22。　**複合切り合い関係**　北辺の西半分で105住南壁を掘り込み、プラン西南部で床面をほぼ同一レベルに置く平面形楕円形の107住を大きく掘り込み、また、南東隅を24号溝に掘り込まれて検出する。　**平面形**　西辺と東辺の長さが異なる均整を欠く方形。　**主軸方位**　N－13°－E。　**床面規模**　4.42m（主軸）×4.96m（副軸）。　**床面積**　21.86㎡。　**残存壁高**　0.45m前後。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、総体的に堅緻である。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ６～９cm。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱である。
出土遺物　１は肉薄の胴外面横位の鋭い箆ケズリ甕。２は外面縦位箆ケズリ甕。４・５の須恵器杯は体部下端に稜を有して口頸に比して底径の小さな底部回転箆ケズリを施す。６は杯身模倣の最終段階の杯。８は手捏ね土器。９は加工痕跡を残す軽石。８がカマド精査時に出土するだけで、明確な共伴遺物が無く時期の判断できる資料に乏しいが、１・２・４・５を当てても差し支えないであろう。

107号住居跡（弥生時代？）（第171・172図、図版26）

位置　東調査区南側。V21・V22。　**複合切り合い関係**　平面プランの大部分が床面をほぼ同一レベルに置く106住と重複し、また、南辺部を大きく24号溝にそれぞれ掘り込まれる。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　N－40°－W？　**床面規模**　4.2m（長軸）以上。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.33m前後。　**炉跡**　不明。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻。　**壁溝**　未検出で壁直下に小ピット連なる。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　検出されない。
出土遺物　時期判断できる遺物が無いが、弥生後期の所産であろう。

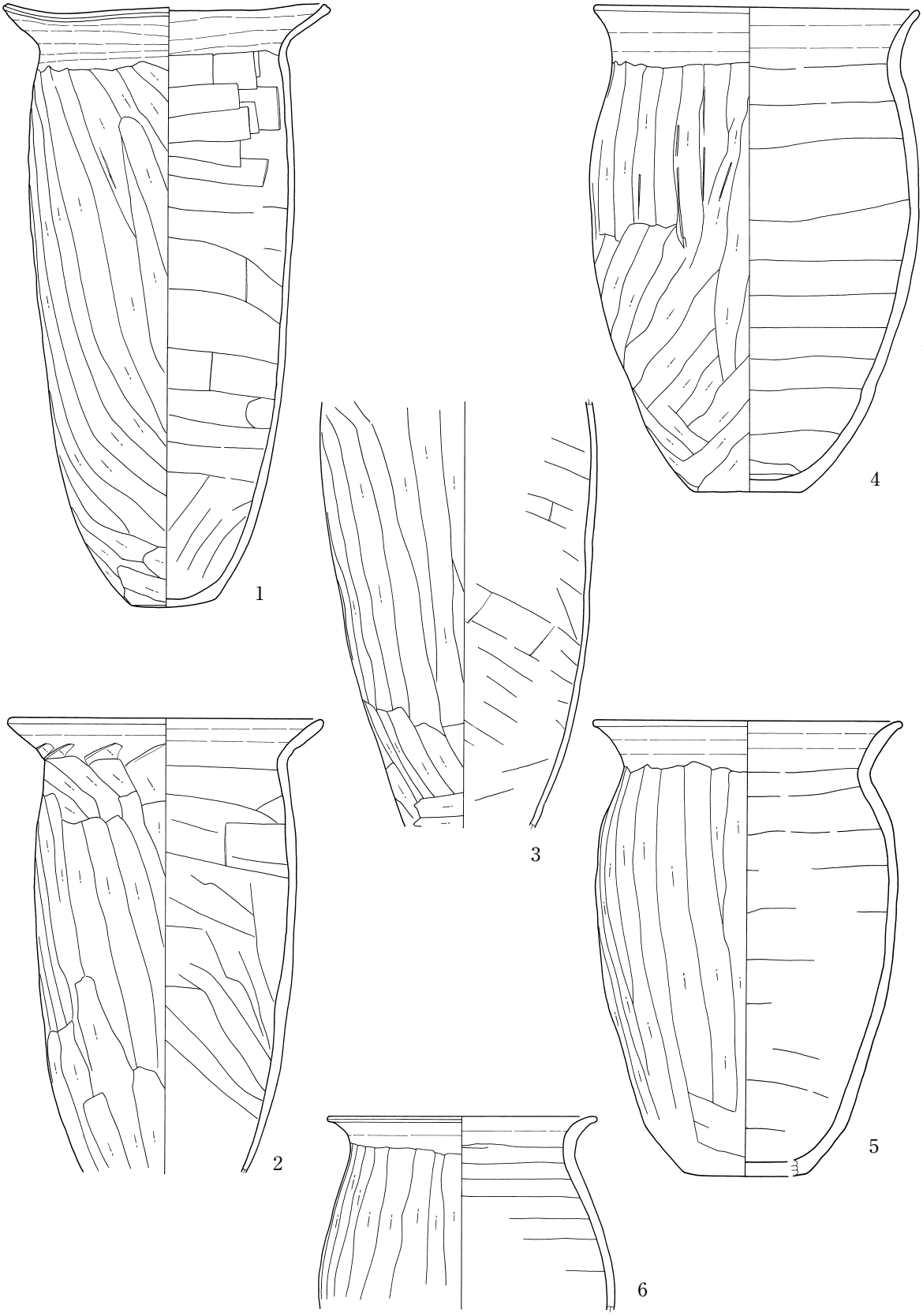
108号住居跡（第178～181図、図版26・27・114・115）

位置　東調査区南側。V22・W22。　**複合切り合い関係**　北西辺を後世の24号溝に大きく掘り込まれ、南側に114住が近接する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－26°－W。　**床面規模**　6.28m（主軸）×6.14m（副軸）。　**床面積**　38.26㎡。　**残存壁高**　0.35～0.67m。　**カマド**　北西辺中央に敷設されるが24号溝に煙道部を攪乱される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅８～17cm・深さ10～15cm。　**覆土**　覆土中にはロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。また、西北床面上には広範囲に焼土が堆積し火災後埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱で、Ｐ５は出入り口関連ピットである。
出土遺物　１～８は胴外面箆ケズリを施す甕である。１は器高40.3cm・口径22.1cm・胴最大径17.8cmを計る胴長の武蔵型甕で、口縁が「く」の字に折れ大きく開き、外面斜位の箆ケズリを施す。２・３も同様な甕である。１～３は他の甕と焼成・胎土等が異なり搬入品であろう。４～８は在地の胴外面に縦位の箆ケズリを施す甕である。４は器高32.9・口径21.9cm・胴最大径22.1cmを計る。５は器高30.7cmを計る。10～13は甑で、外面箆ケズリを残す縦位の線状のミガキを、内面には外面より丁寧なミガキを施す。10は器高29.9・口径27.4cm・胴最大径22.4cmを計る。13は胴下半に丸味を有する。14・15は口縁直下に鈍い稜を有する杯蓋模倣杯の最終段階の杯で内面ミガキを施し、14は内面漆塗り

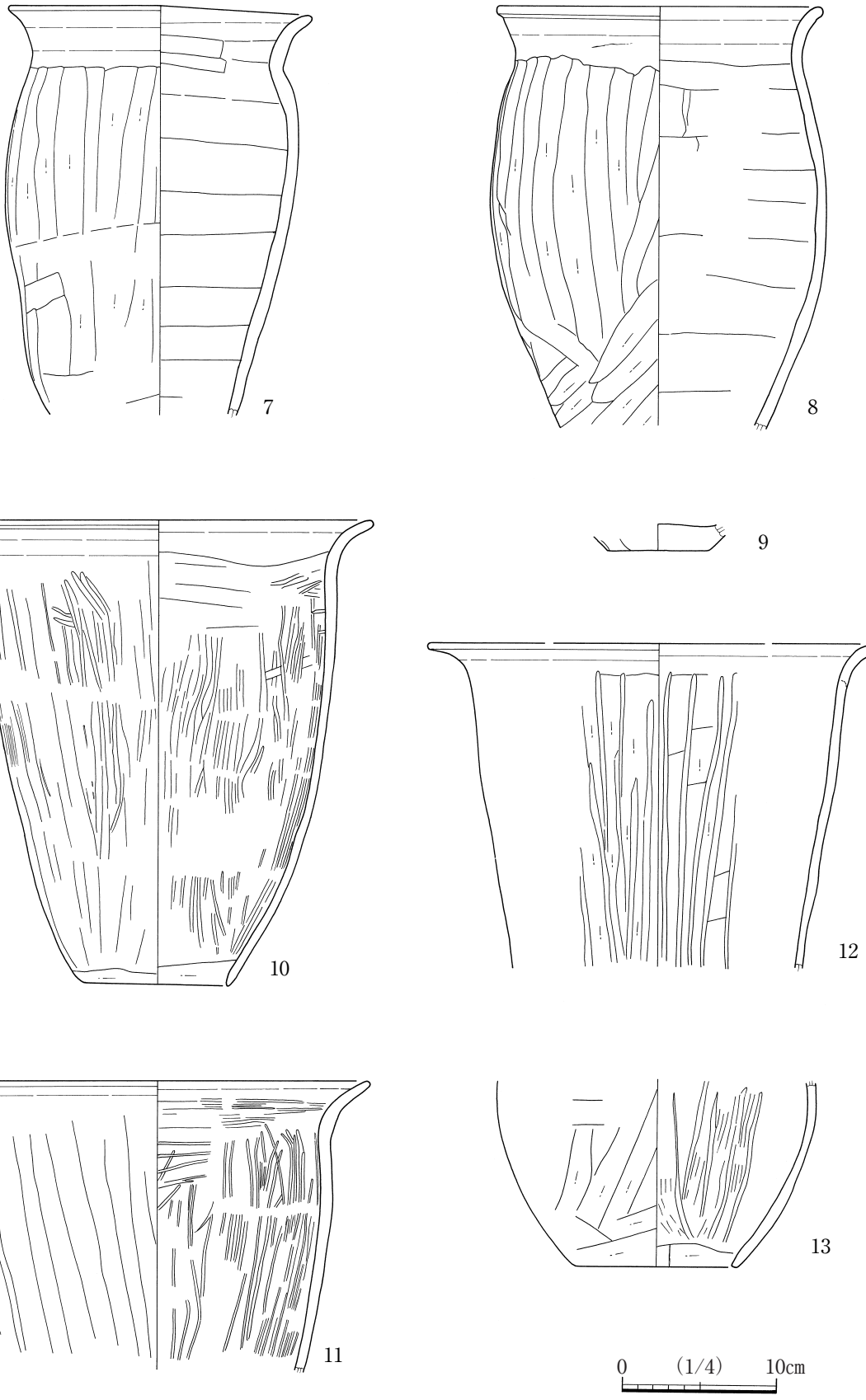


《108号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。ローム土塊を含む。
2　黒色土層。
3　黄褐色土層。ローム土塊を含む。
4　茶褐色土層。ローム土塊を含む。
5　黒色土層。ローム土塊を含む。
6　黒褐色土層。ローム粒を含む。
7　黄褐色土層。ローム土塊を多く含む。
8　黄褐色土層。第3層に似る。ローム土塊を多く含む。
9　粘土層。
10　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。

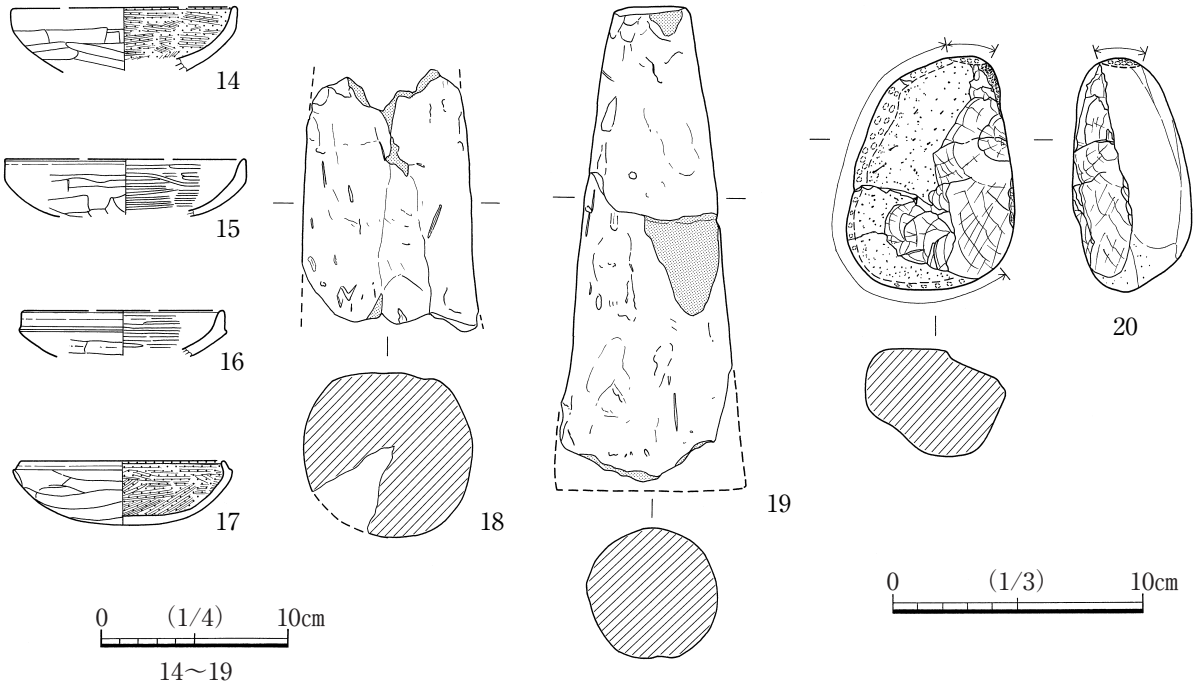
第178図　108号住居跡



第179図　108号住居跡出土遺物（1）



第180図　108号住居跡出土遺物（2）

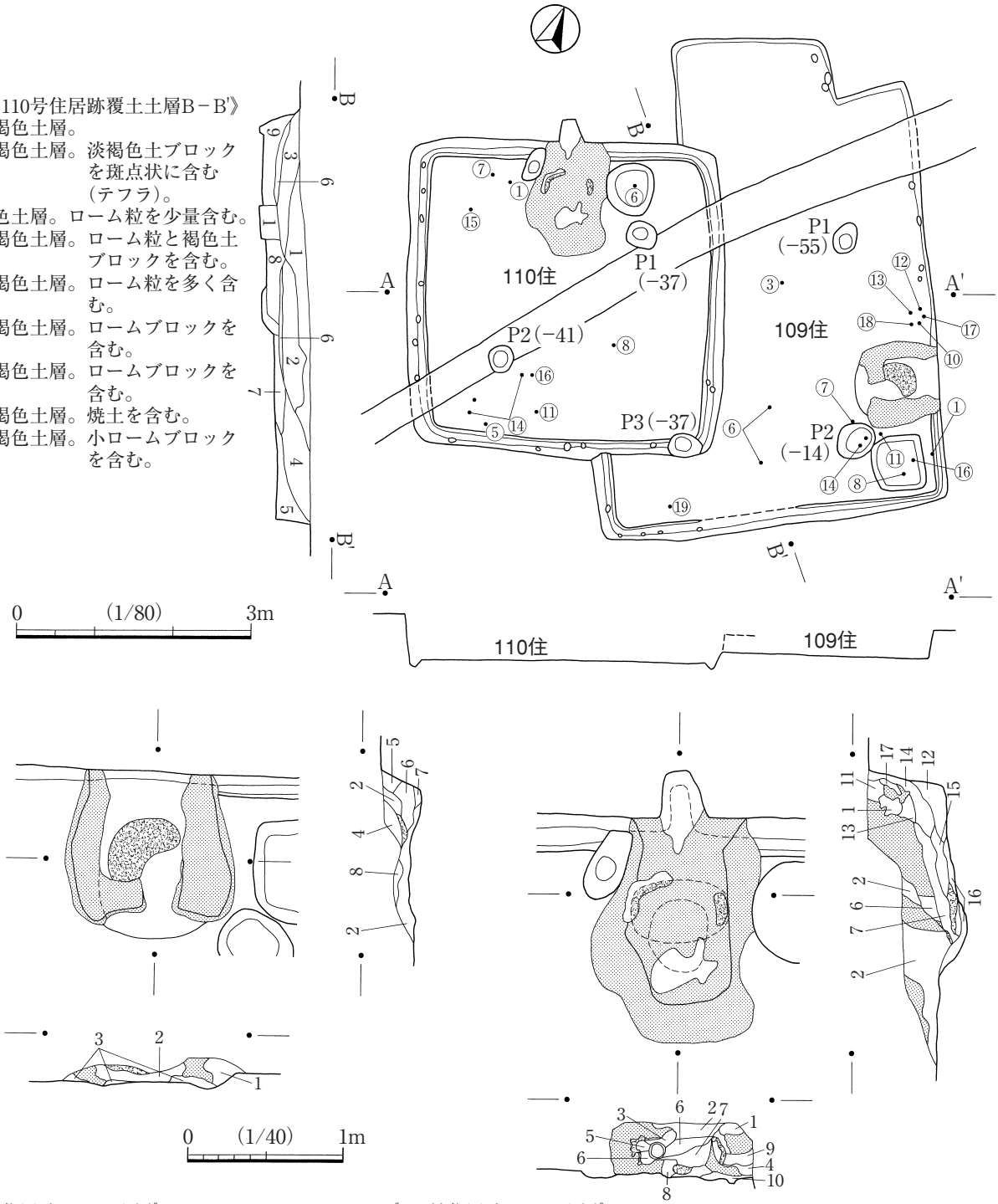


第181図　108号住居跡出土遺物（3）

である。16・17は杯身模倣の最終段階の杯で17の内面は漆塗りを施す。18・19は土製支脚。20は敲打痕を側面に残す。遺物出土位置は、13・18・19がカマド燃焼部１・４・５・12・17が床面直上、２・６・７・10・20がほぼ床面から出土し、帰属時期を示す資料となる。

109号住居跡（第182～184図、図版27・28・115・116）

位置　東調査区南側。V21・W21。　**複合切り合い関係**　プラン西辺と床面を110住と北側を後世の24号溝に大きく掘り込まれ、また、溝で分断された北辺に方形の張り出し状の遺構が付随し、北辺の平面プランは別な住居跡の可能性もある。　**平面形**　横方形？。　**主軸方位**　N－61°－E。　**床面規模**　4.32m（主軸）×4.36m（副軸）。　**推定床面積**　18.70㎡。　**残存壁高**　0.22～0.44m。　**カマド**　北東辺の南隅に寄って敷設される。　**床面**　比較的平滑で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ８cm。北側は検出されない。　**覆土**　覆土上層は24号溝覆土によって構成されものの概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ３が確認されＰ４は未検出であることが想定され本来はＰ１～Ｐ４の４本柱であろう。カマド右側の南東隅には方形の貯蔵穴Ｐ５が設けられている。**出土遺物**　全体に遺存率が良好である。１～４は中胴の縦位ケズリ甕で１・２の底部はやや突出気味である。５は肉薄で外面篦ケズリの球胴甕。６は外面斜位篦ナデの大形の球胴甕。７は外面篦ケズリの小形甕。８は外面に不規則なミガキを施す甑。９は口縁部だけであるが赤彩椀形杯か。10～17は赤彩の高杯で、脚は長脚気味である。10・16は口縁が僅かに外反し杯部下端に稜を有する。11～15は椀形高杯。18は土製支脚。19は正面と背面に敲打痕を残す。遺物出土位置は、10・12・13・17・18がカマド左袖の床面直上、８・11・16が貯蔵穴内から出土し、１・３・６・７も床面直上、14はほぼ床面

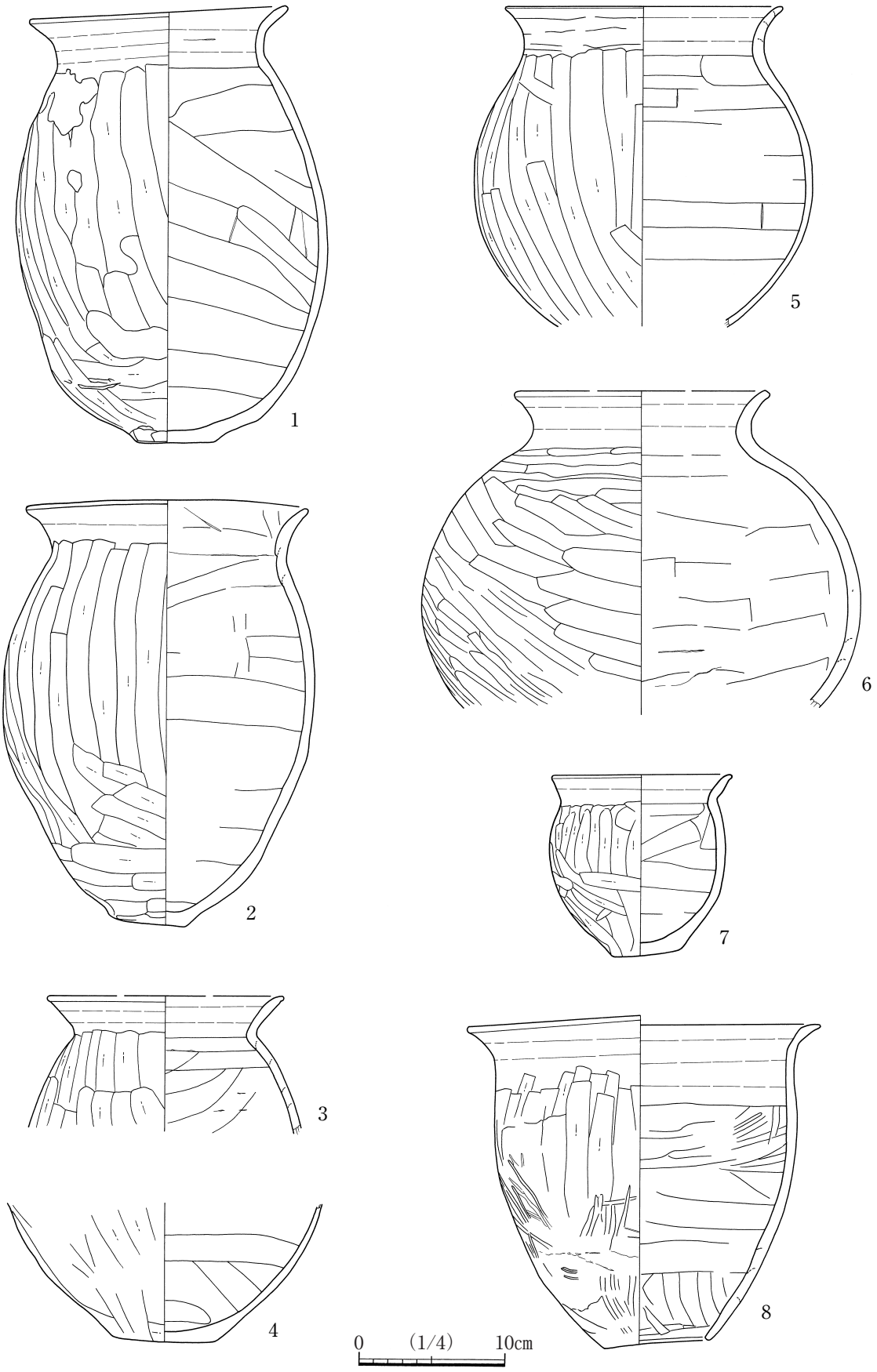


《109・110号住居跡覆土土層B－B'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状に含む（テフラ）。
3　黒色土層。ローム粒を少量含む。
4　黒褐色土層。ローム粒と褐色土ブロックを含む。
5　茶褐色土層。ローム粒を多く含む。
6　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
7　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
8　黒褐色土層。焼土を含む。
9　黒褐色土層。小ロームブロックを含む。

《109号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層（明るい）。ローム粒（2㎜以下）を多く含む。
2　暗褐色土層。粘土を全体に少量含み、焼土粒（2㎜以下）を極少量含む。
3　暗褐色土層。硬質のローム土塊群。粘土粒を少量含む。
4　暗褐色土層。粘土粒を多く含む。
5　褐色土層。軟質のローム。
6　灰層。
7　暗褐色土層。ローム土を全体に少量含む。
8　暗褐色土層。焼土粒（3㎜以下）を多く含む。

《110号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土が少量含まれる。
2　粘土層にローム土塊（1㎝以下）と暗褐色土が少量含まれる。
3　粘土層に焼土塊（1㎝以下）を含む。
4　灰層。粘土粒と焼土粒を少量含む
5　粘土層に暗褐色土層を全体に少量含む。
6　黒色土層。灰と炭の混合土層。粘土塊（1㎝以下）も少量含まれる。
7　暗褐色土層。ローム粒と粘土塊と焼土粒を含む。
8　粘土と焼土の混合土層。
9　暗褐色土層。焼土を少量混入する。
10　ロームブロック。
11　粘土層にローム粒が全体に少量含まれる。
12　暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
13　暗褐色土層。粘土が主体で中にローム粒と焼土粒を含む。
14　灰と暗褐色土の混合土層。
15　灰層。ローム粒と焼土粒を含む。
16　暗褐色土層。ローム土塊（1㎝以下）を含む。
17　黒褐色土層。粘土粒（2㎜以下）を少量含む。

第182図　109号・110号住居跡とカマド



第183図　109号住居跡出土遺物（1）

から出土し、２・４・５・９・15・16・19が覆土からの検出で、全ての遺物が住居跡共伴遺物と見なしてよく、Ⅴ期Cbの標準資料となる。

110号住居跡（第182・185図、図版28・116・117）

位置　東調査区南側。W21。　複合切り合い関係　プラン東側で109住の床面を大きく掘り込み、また、東西に貫く後世の24号溝に中央床面を大きく貫き掘り込まれ検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－21°－W。　床面規模　3.76m（主軸）×3.82m（副軸）。　床面積　13.94㎡。　残存壁高　0.46～0.64m。　カマド　北辺中央に設けられ、カマド構築材の白色粘土が床面側に散在していた。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅10～12cm・深さ７～８cm。　覆土　覆土上層を後世の24号溝で構成され、８・９層が覆土層となる平面図には記録されないが床面直上の８層に焼土を含むことから火災住居跡の可能性がある。　主柱穴　Ｐ１・Ｐ２の対角線上に検出される。Ｐ３は貯蔵穴。

出土遺物　１～４は当該期の市原台地の普遍的な胴外面縦位の箆ケズリ甕である。１は器高31.8cm・口径18.6cm・胴最大径19.7cm、２は器高29.5cm・口径18.9cm・胴最大径19.3cm、３は器高32.1cm・口径18.4cm・胴最大径20.2cmをそれぞれ計る。５は胴部が歪むがやや球胴気味の胴部ケズリ甕。６は小形の胴外面箆ナデを施す球胴甕である。９・10は口縁「く」の字に内傾する内面ミガキの杯身模倣杯。11～13は半円状の椀形杯で13は扁平気味である。14・15は杯内面ミガキの高杯。16は、手捏ね土器。17・18は土製支脚である。遺物出土位置は、１・８が床面直上、２～４・９・10・12・13がカマド燃焼部、５・７・11・14～16がほぼ床面直上、６はカマド右側の貯蔵穴から出土し、全ての遺物が住居跡の帰属を示す資料となろう。８は混入品であろう。

111号住居跡（第186図、図版28・117）

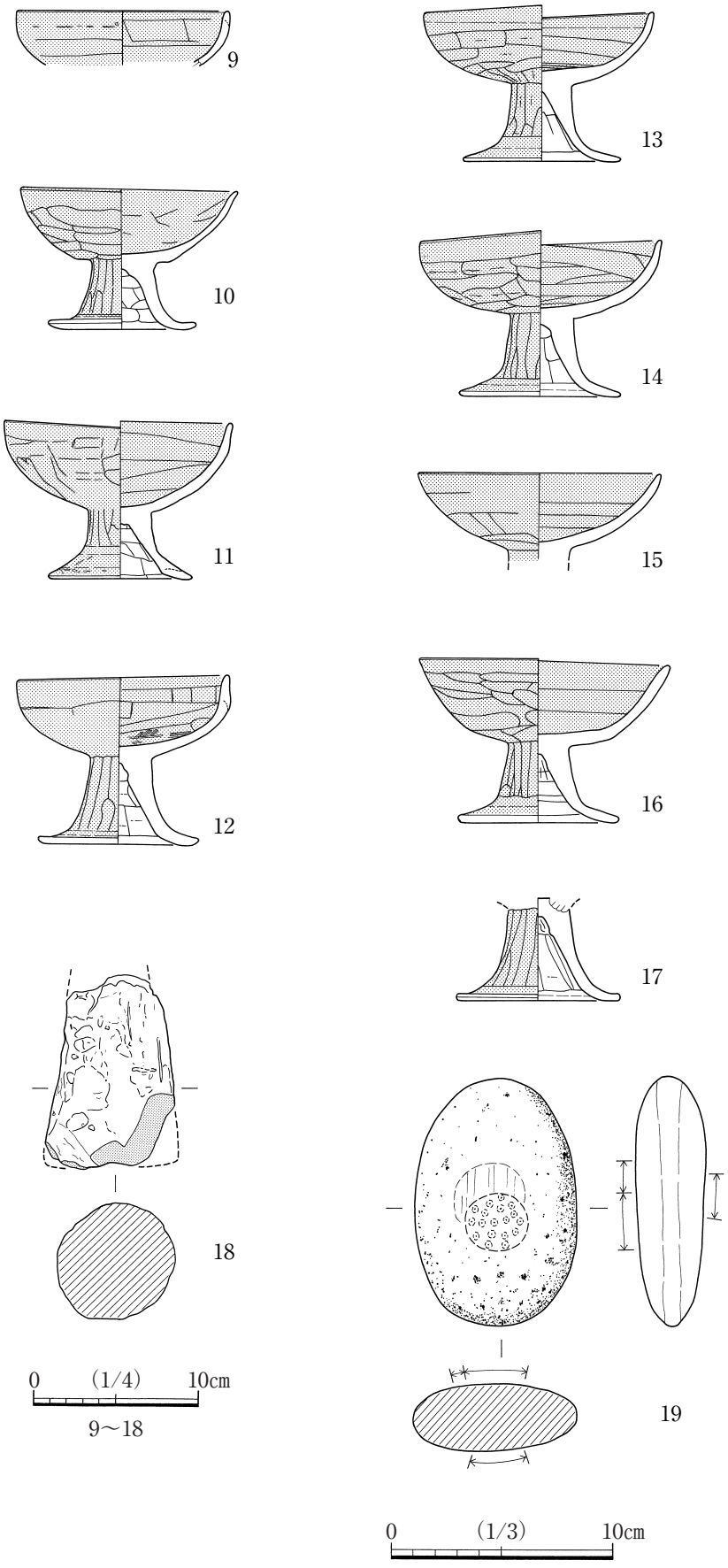
位置　東調査区南側。U21・V21。　複合切り合い関係　単独で検出するが上層に南北に貫く後世の21号溝が存在する。　平面形　方形。　主軸方位　N－24°－W。　床面規模　3.86m（主軸）×3.97m（副軸）。　床面積　15.10㎡。　残存壁高　0.30～0.50m。　カマド　北西辺の中央よりやや左側に寄って設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅８～15cm・深さ８～15cm。　覆土　覆土の主体を成す２～４層にロームブロックを含み、また、床面直上の６層には粘土および焼土粒を僅かに含み火災住居の可能性を残す。　主柱穴　Ｐ１・Ｐ２を検出するが無柱構造であろう。

出土遺物　１は頸部のくびれが無く鉢形の甕か。２は小形のケズリ甕。３は出尻気味の須恵器高台椀である。共伴遺物は２・３が床面から僅かに浮くがほぼ床面から検出される。

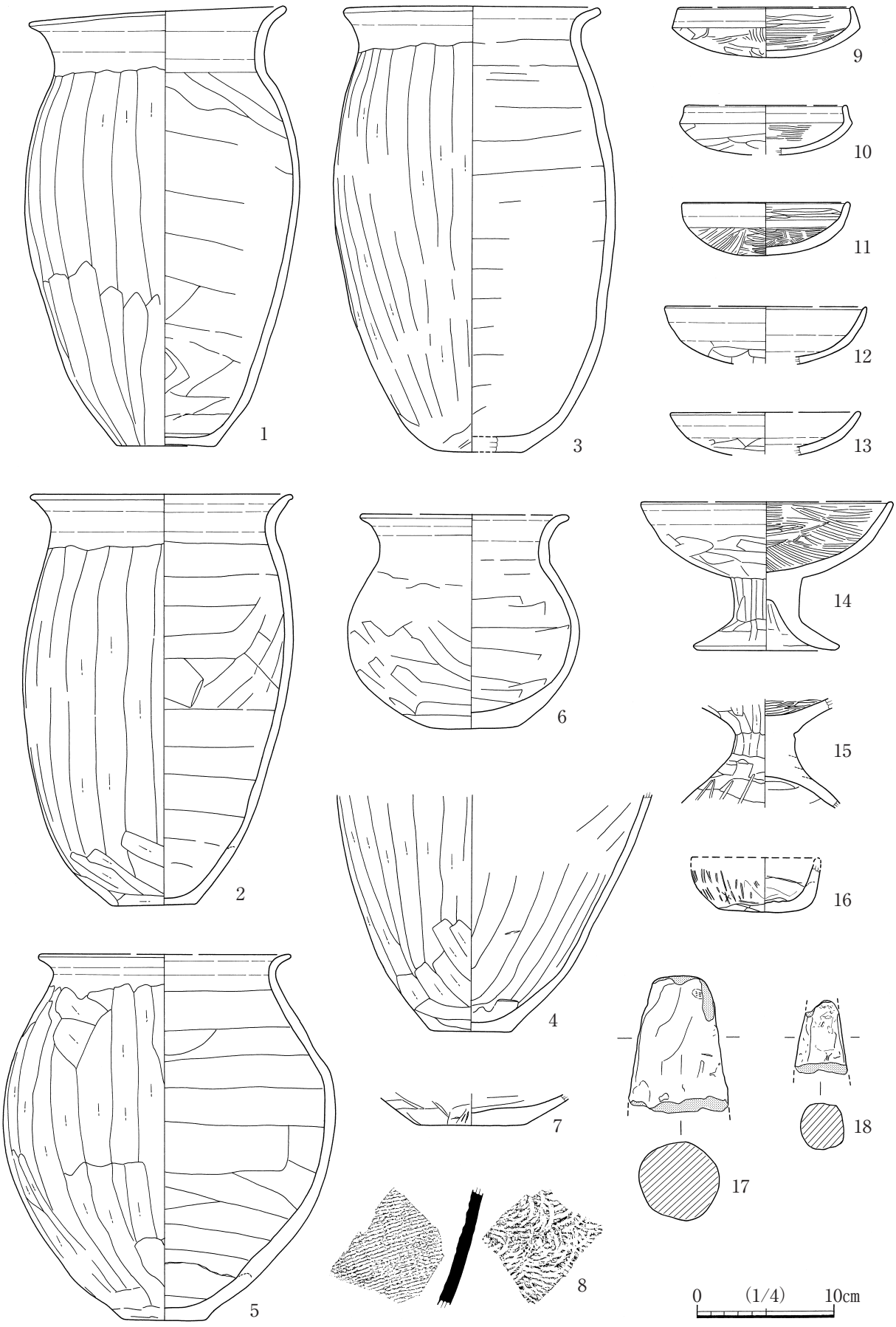
112号住居跡（第187図、図版28・117）

位置　東調査区南西端。V20・W20。　複合切り合い関係　単独で検出するが南西隅上層に後世の21号溝が存在する。　平面形　方形。　主軸方位　N－18°－W。　床面規模　3.89m（主軸）×3.78m（副軸）。　床面積　14.27㎡。　残存壁高　0.25～0.29m。カマド　北辺中央に設けられる。

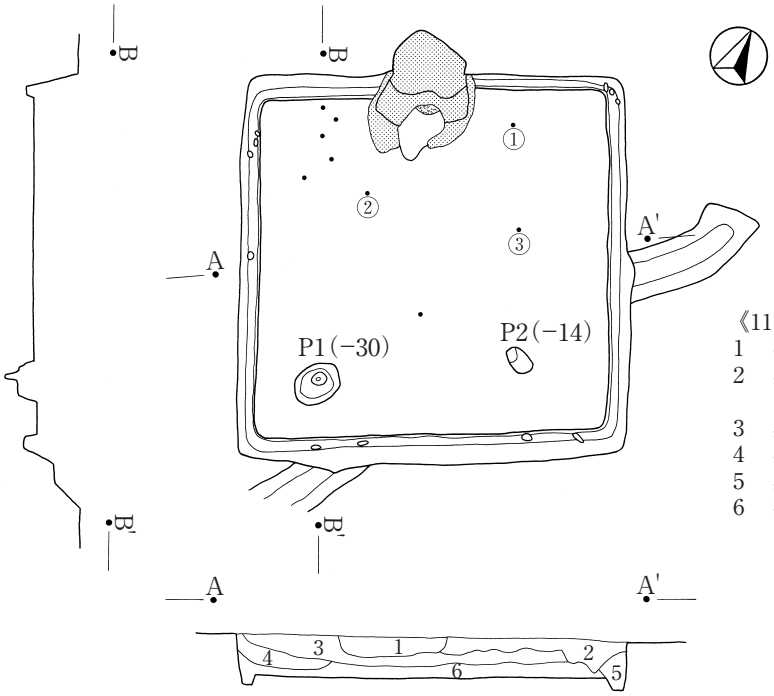
床面　ソフトローム層上に形成され、中央部は堅く踏みしめられているが、中央部以外は軟弱であ



第184図　109号住居跡出土遺物（2）

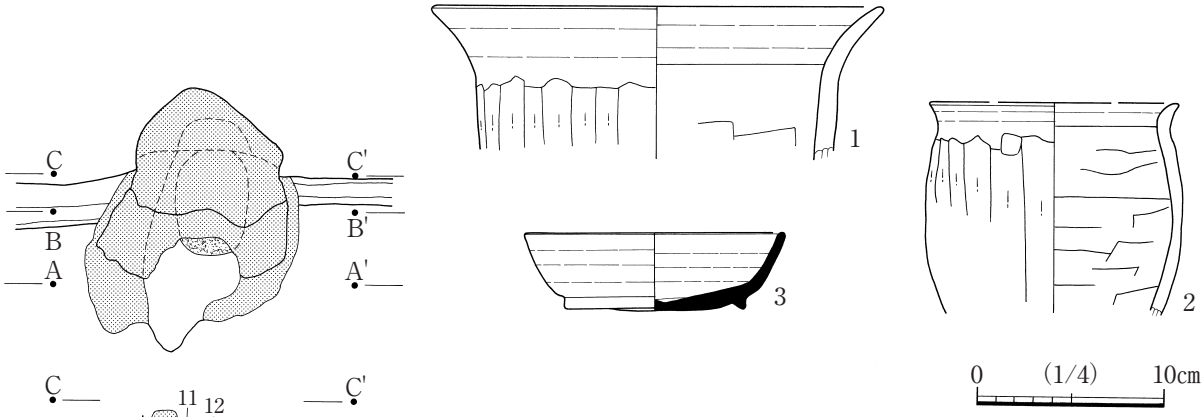


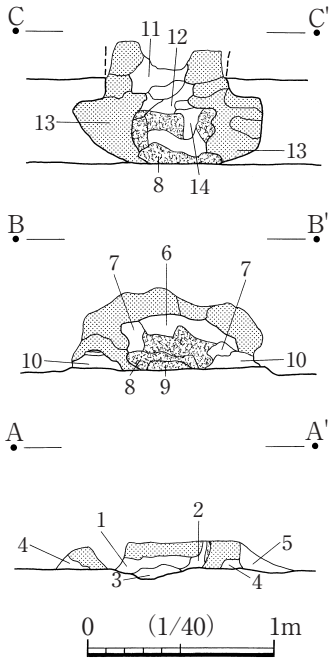
第185図　110号住居跡出土遺物



《111号住居跡覆土土層A－A'》
1　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
2　黒色土層。淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
3　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黒色土層。ロームブロックを含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
6　茶褐色土層。ローム粒と粘土及び焼土を少量含む。

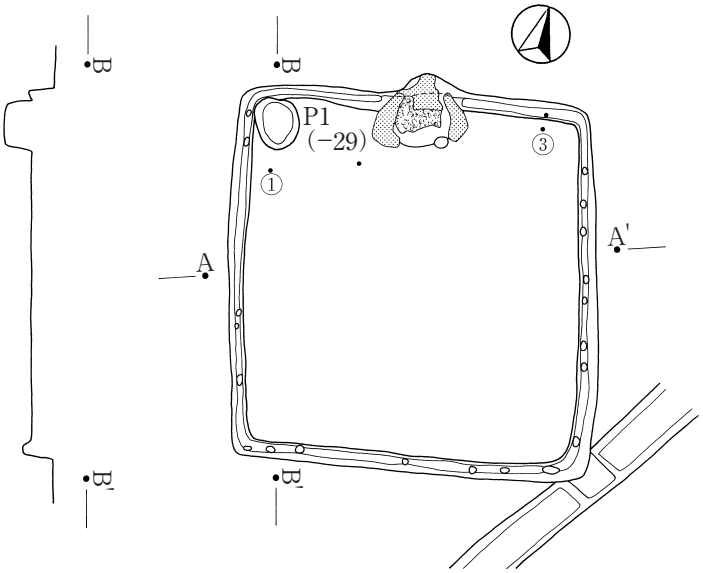
0　(1/80)　3m





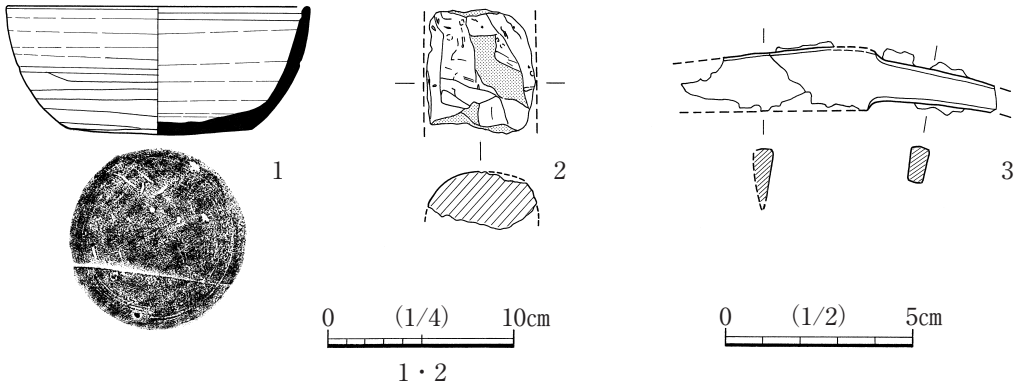
《111号住居跡カマド土層》
1　灰層。焼土粒を少量含む。暗い。
2　灰層。焼土粒と粘土粒を少量含む。
3　粘土層。焼土と灰を全体に少量含む。
4　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を多く含む。
5　暗褐色土層。ローム粒（2㎜大以下）を含む。
6　粘土層。ローム粒と粘土粒を少量含む。
7　焼土粒。ローム粒と粘土粒を含む。
8　灰層。焼土を全体に少量含む。
9　灰層。焼土とロームを少量含む。
10　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を多く、粘土粒を少量含む。
11　暗褐色土層。ローム粒と粘土粒を含む。
12　焼土層。ローム粒（1㎜大以下）を含む。
13　粘土層。ローム粒を少量含む。
14　暗褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。

第186図　111号住居跡と出土遺物



0 (1/80) 3m

《112号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
2　黒色土層。淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
3　茶褐色土層。淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
4　黒褐色土層。黒色土層。粘土粒を混入。
5　黒褐色土層。黄褐色土層。ロームブロックを混入。
6　黒褐色土層。ロームブロックを混入。



0 (1/4) 10cm

0 (1/2) 5cm

1・2

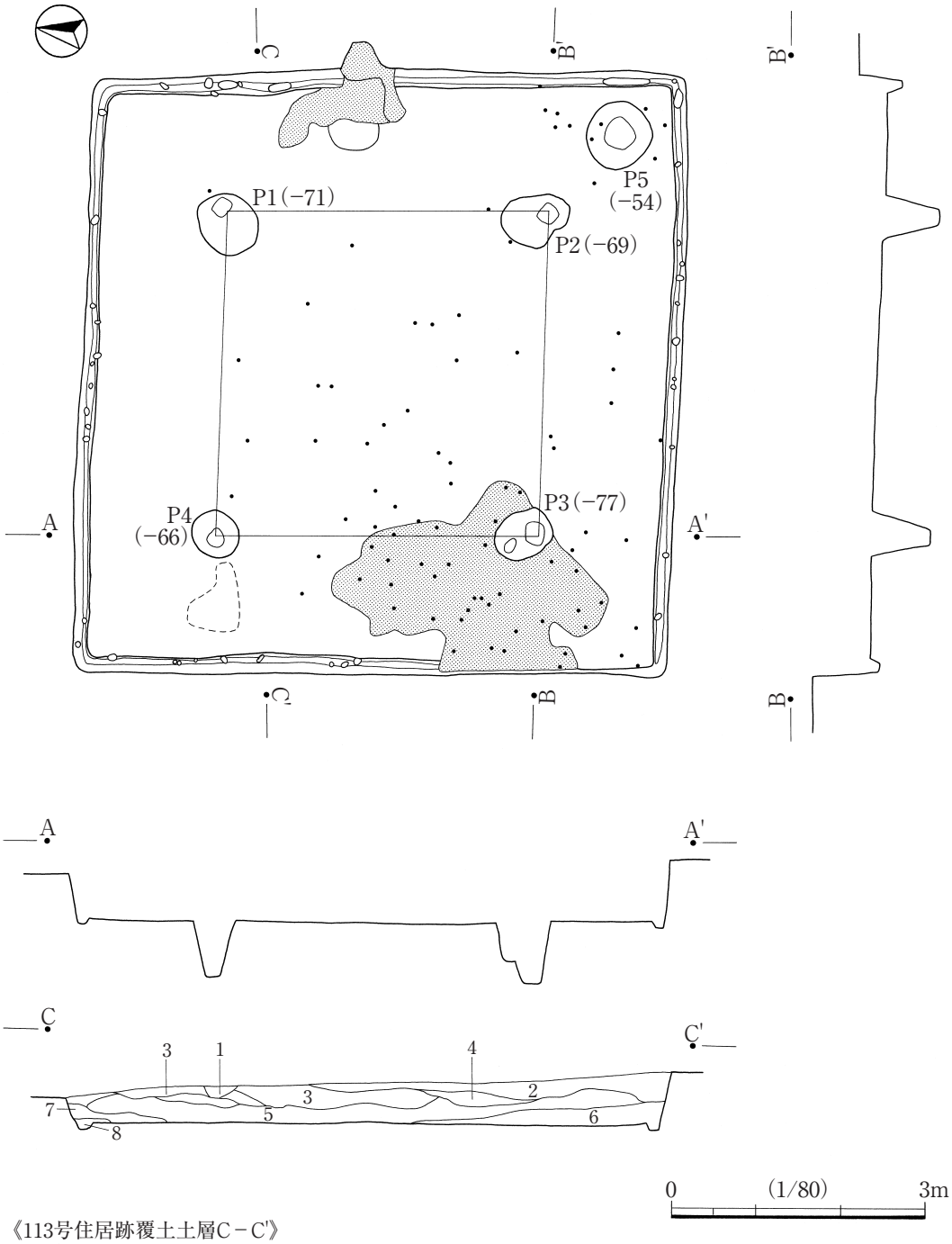
第187図　112号住居跡と出土遺物

る。　**壁溝**　幅10～15cm・深さ５～10cm。　**覆土**　ロームブロックは含まないものの全体に褐色土ブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　北西隅にＰ１を検出するだけで無柱構造である。　**出土遺物**　１は須恵器無台椀で体部中位から底部回転篦ケズリを施す。２は土製支脚断片。３は刀子関部片である。１と３が床面直上ないしほぼ床面から出土する。

113号住居跡（第188～195図、図版28・29・117～121）

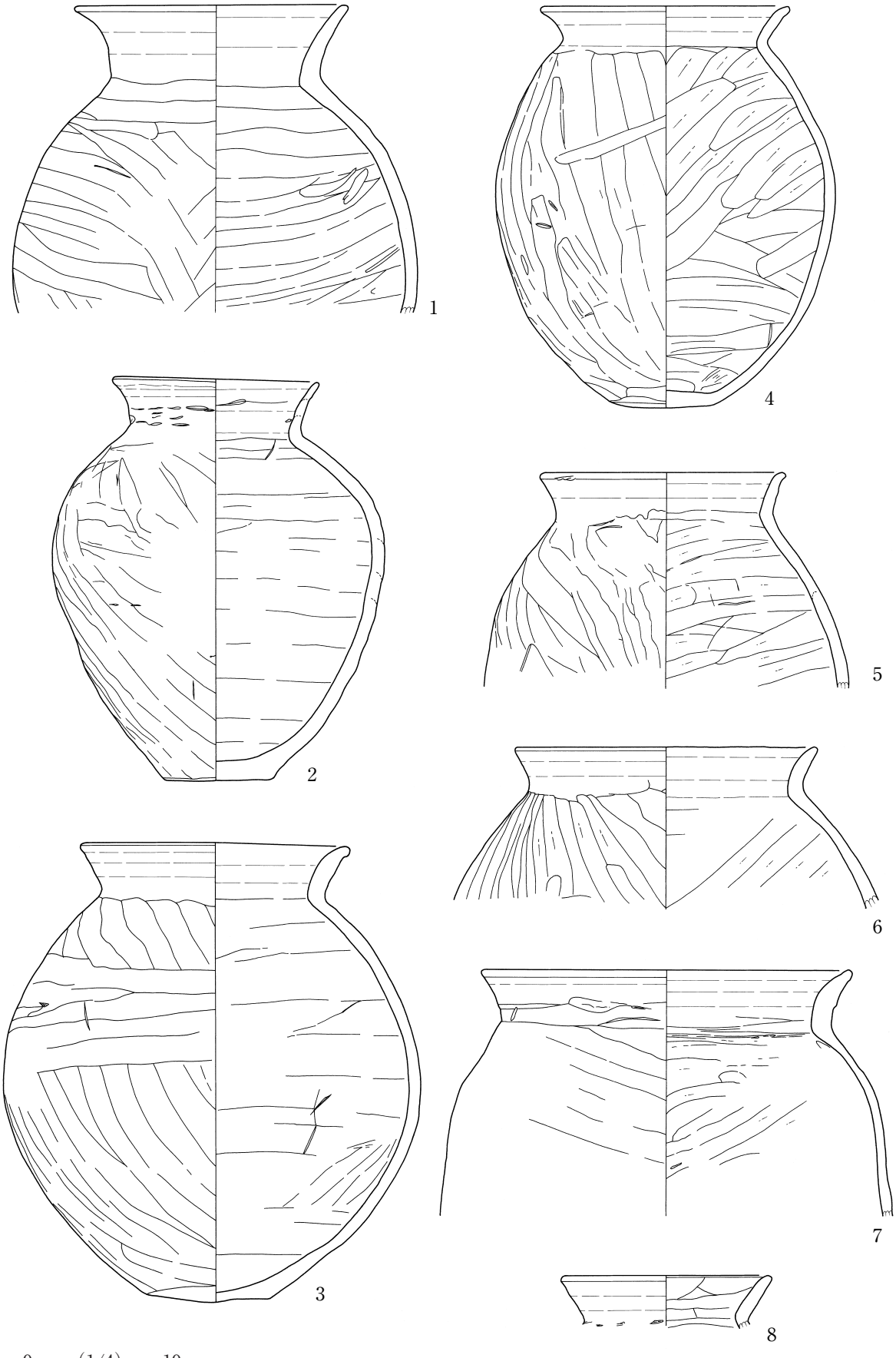
位置　東調査区最南端。X22・X23。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、南・東側は調査区域外と接する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－85°－E。　**床面規模**　6.98m（主軸）×6.92m（副軸）。　**床面積**　47.74㎡。　**残存壁高**　0.29～0.71mを測り自然地形に即して南西が高く東北が低い。　**カマド**　東辺中央よりやや北に設けられる。　**床面**　平滑で且つ堅緻。プランの中央部はやや堅く、極めて平らである。　**壁溝**　幅15cm・深さ13cm前後。　**覆土**　下層の５～７層中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。上層もまた黒色土や茶褐色土・粘土層が混在し同様な状況であるが、上層と下層の埋め戻しには時間差が感じられ上層には多量の廃棄遺物を伴う。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ３には掘直しを認める。

出土遺物　１は口縁が長く外反し、胴外面斜位の篦ナデを施す中胴甕。２は重心が胴部上方にあり腰高の器形を特徴とし、外面斜位の篦ナデを施す中胴甕で口径値1.94・胴径値1.22を示す。３は口縁肉厚で口唇が玉状で球胴を呈し、胴外面上半斜位篦ナデ、中位横位篦ナデ、下半ケズリ状の篦ナデを施し、口径値1.70・胴径値1.10を示す球胴甕。４は胴外面上半やや斜位の篦ナデで下半ケズリ状の篦ナデ、内面篦ケズリを施し、口径値1.60・胴径値1.18を示す球胴甕。５・６は胴外面篦ナデで内面篦ケズリを施す。７は口縁外面に段を有し、胴外面篦ナデ内面篦ケズリを施す。９は胴外面ミガキ状篦ナデで内面篦ケズリを残す篦ナデを施す。10は胴外面ケズリ状篦ナデを施す。11は胴外面ミガキ状篦ナデで内面篦ナデ。12は口縁が短く僅かに外傾して立つ、篦ナデに部分ミガキ。13は12同様の口縁で胴外面に篦ナデ状のミガキを施す。15は胴外面ミガキ状の雑な篦ナデで内面雑な篦ケズリを施す。18は胴外面ミガキ状篦ナデで内面篦ケズリと篦ナデを施す大形の球胴甕。19は外面篦ケズリで内面ナデを施す。20は外面篦ナデで内面ナデを施す。21～29は甕底部で25・26・29の突出する底部も一定量存在する。30は頸部が僅かに屈曲する鉢形の甕で外面に輪積みを残す篦ナデを施す。31は胴と頸部の境が無く頸部直下の胴部上端に刷毛目、内面に丁寧な篦ケズリが施される。32は器高に比して口径の大きな鉢形の甕で、外面斜位篦ナデで内面ヨコナデと下半篦ナデを施す。33・34は雑な整形の鉢で、口縁は押捺で波状を呈し外面雑な篦ミガキで内面篦ケズリを残す篦ナデを施す。35～37は甑で、35外面は縦位の篦ナデ状篦ケズリに線条のミガキで内面丁寧な篦ケズリを施す。36は外面ミガキ状篦ナデで内面篦ナデを残す篦ミガキを施す。37は内外面篦ケズリを施す。38は胴中位に窓状の円孔を有す底部突出気味の甕で、胴外面ミガキ状篦ナデで内面ナデを施す。39・40は内外面赤彩のやや小形の甕で、39底部は突出する。41は須恵器甕で口縁が折れて立つ。42～44は須恵器ハソウである。44は胴部上半には上下沈線で仕切られた中には櫛状工具による刺突文が施され、肩部は自然釉を厚く被る。45は須恵器高杯で脚に長方形の四方透かしを有す。また、杯部腰部外面には上下突帯仕切られた中に櫛状工具による波状文が施される。46～49は須恵器蓋で天井部外面には稜部付近まで回転篦ケズリを施し、稜はやや鋭さを欠くもののシャープな整形である。50・51は須恵器身で底体部外面に稜付近までおよぶ回転篦ケズリを施し、口唇および受部稜はやや鋭いシャープな整形である。46～51の須恵器杯類はその特徴からTK23型式と看取される。52は完形の全面光沢を帯びたミガキを施し、脚に長い三角形の透かしを三方に有する須恵器模倣の高杯の優品である。53・54は内外面赤彩の模倣高杯。55は赤彩の短頸壺。56・57は口縁が短く僅かに外傾する赤彩の深い椀形鉢。58・59は胴部が強く内湾する赤彩の椀。60・61は無彩の平底の椀。62は平底の椀形杯。63～77は赤彩の椀形杯。63や66の肉薄の丁寧な整

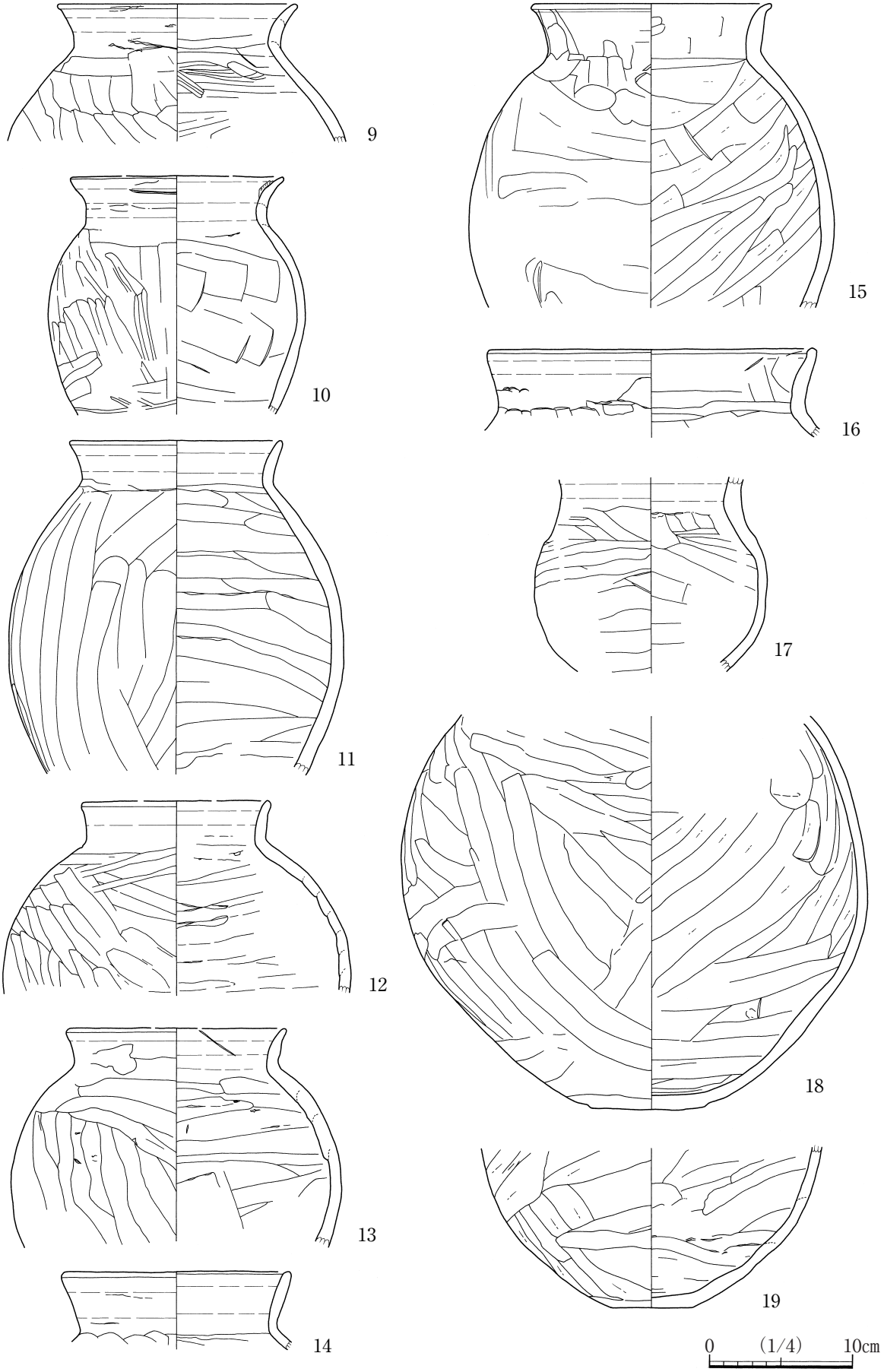


《113号住居跡覆土土層C－C'》
1　撹乱層。
2　黒色土層。　淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
3　茶褐色土層。淡褐色ブロック（斑点状）とローム粒を少量含む。
4　黒色土層。　粘土粒を混入。
5　黄褐色土層。ロームブロックを混入。
6　黒褐色土層。ロームブロックを混入。
7　黒色土層。　ロームブロックを混入。
8　茶褐色土層。

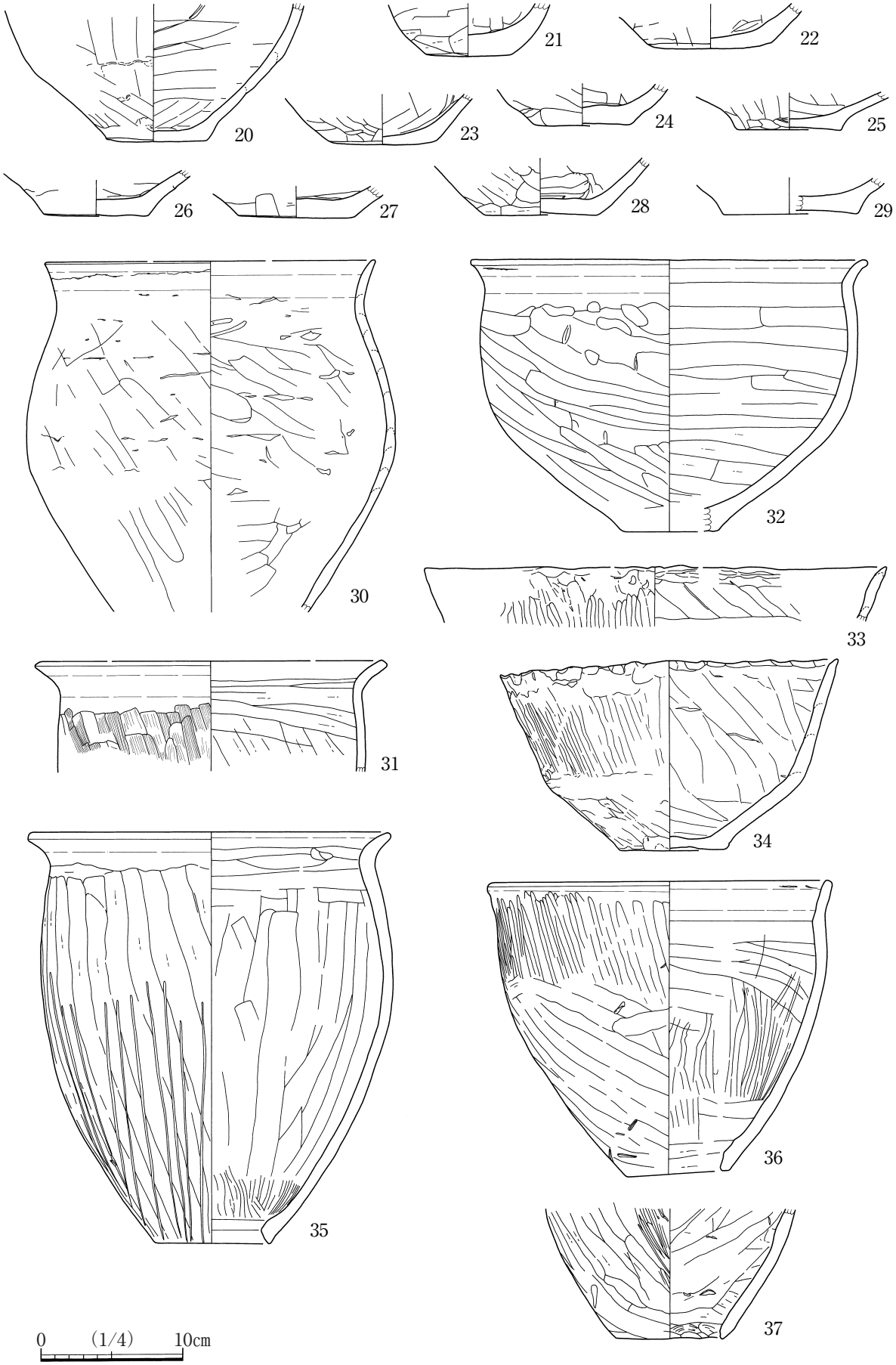
第188図　113号住居跡



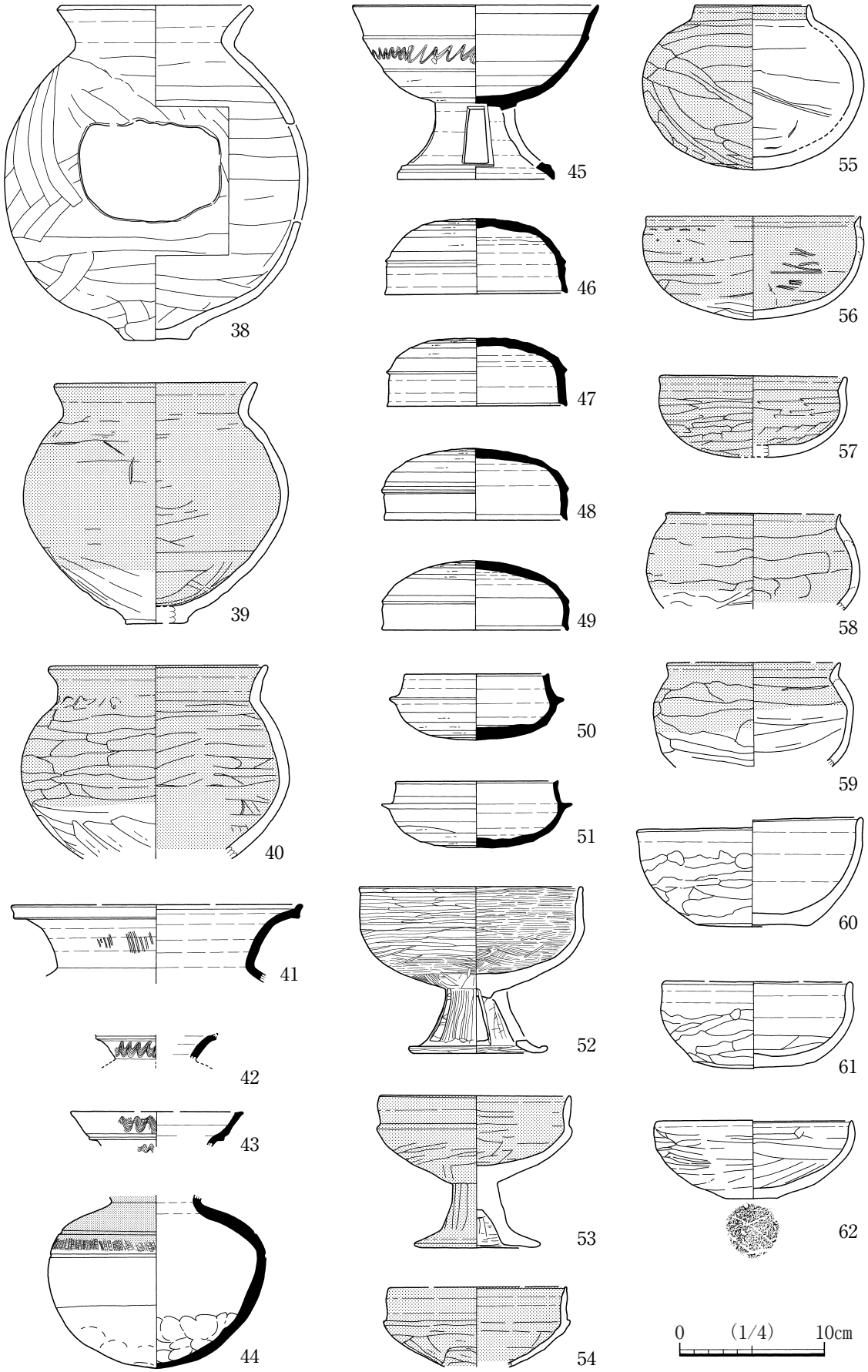
第189図　113号住居跡出土遺物（1）



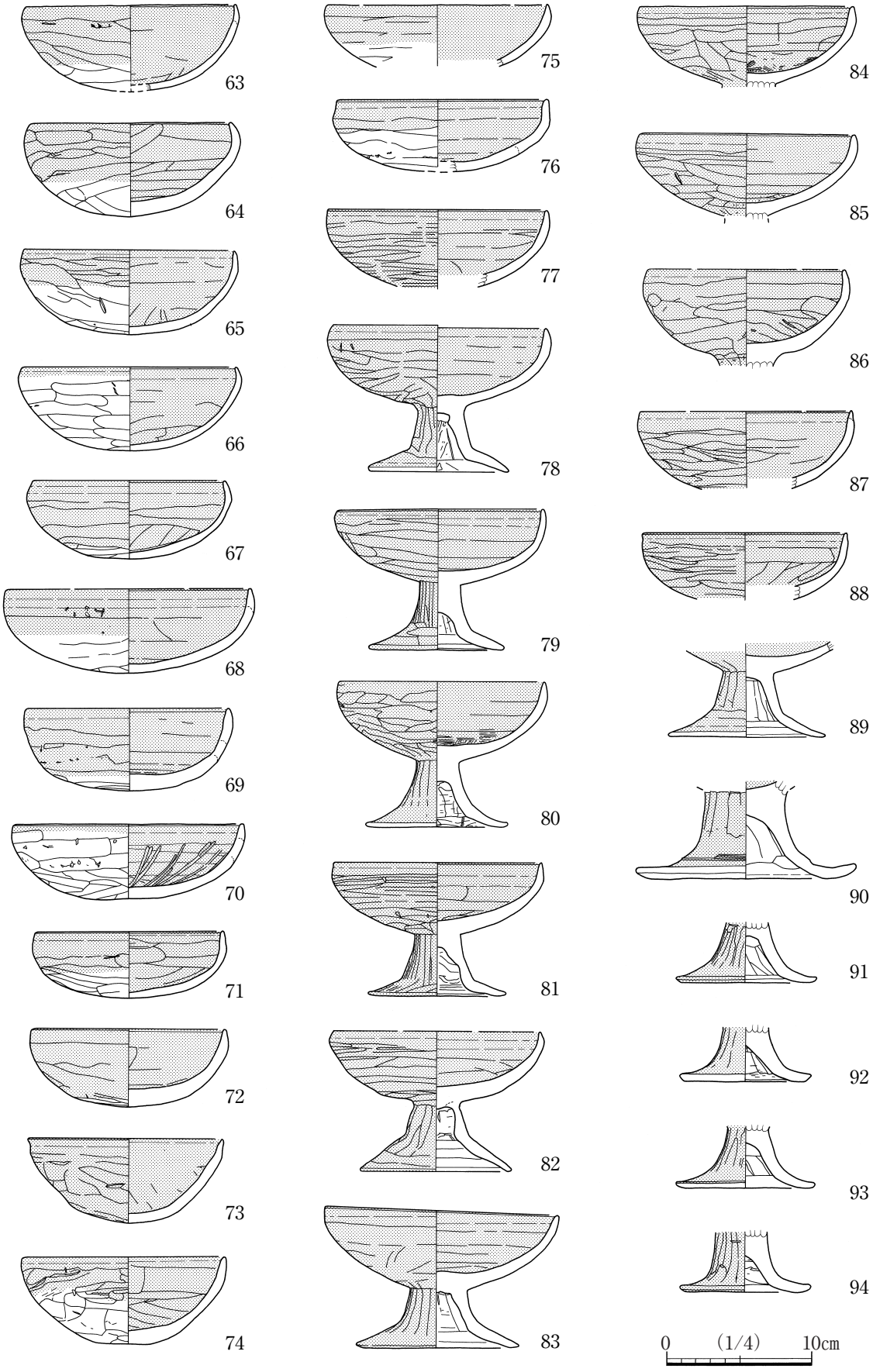
第190図　113号住居跡出土遺物（2）



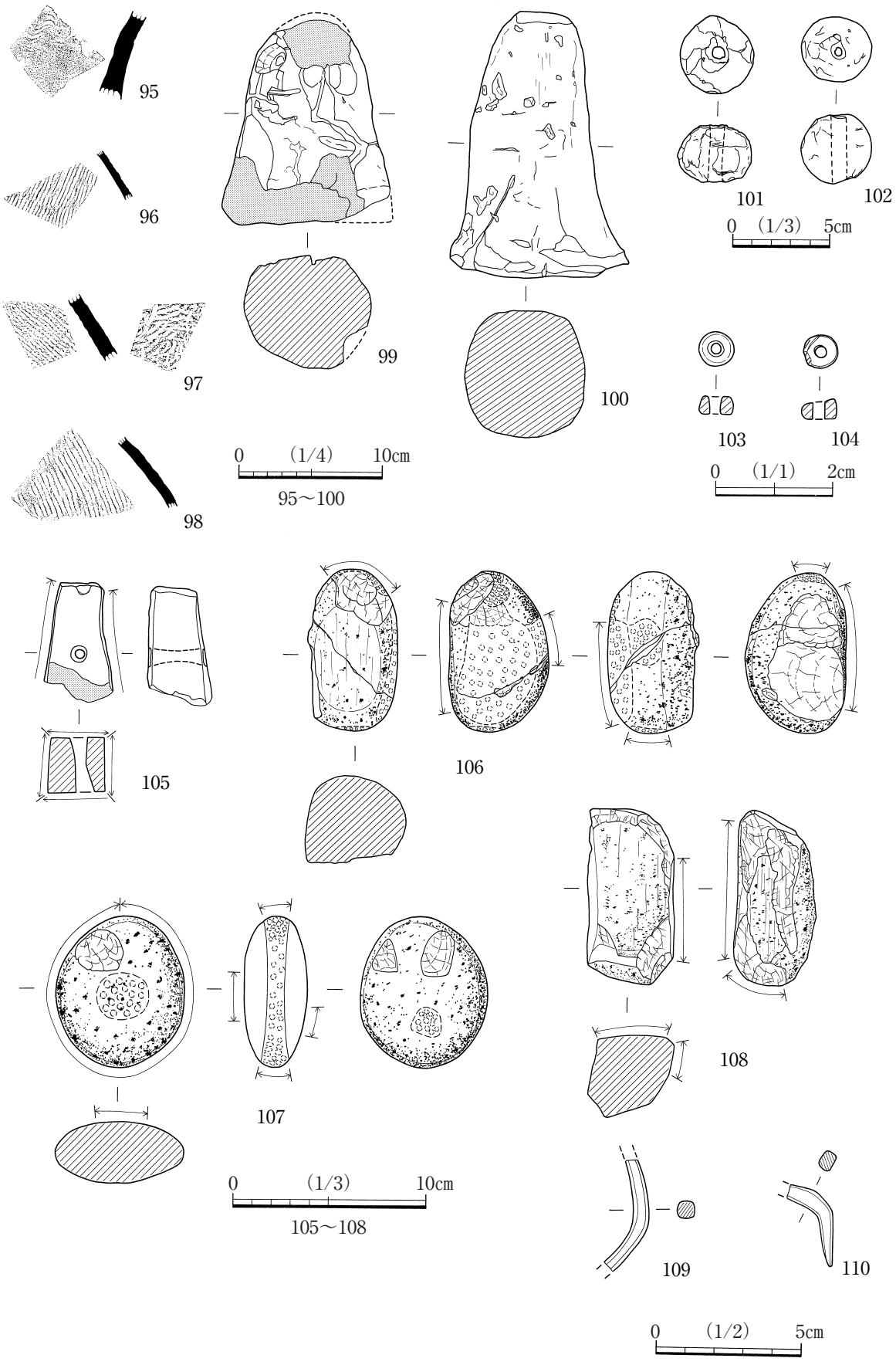
第191図　113号住居跡出土遺物（3）



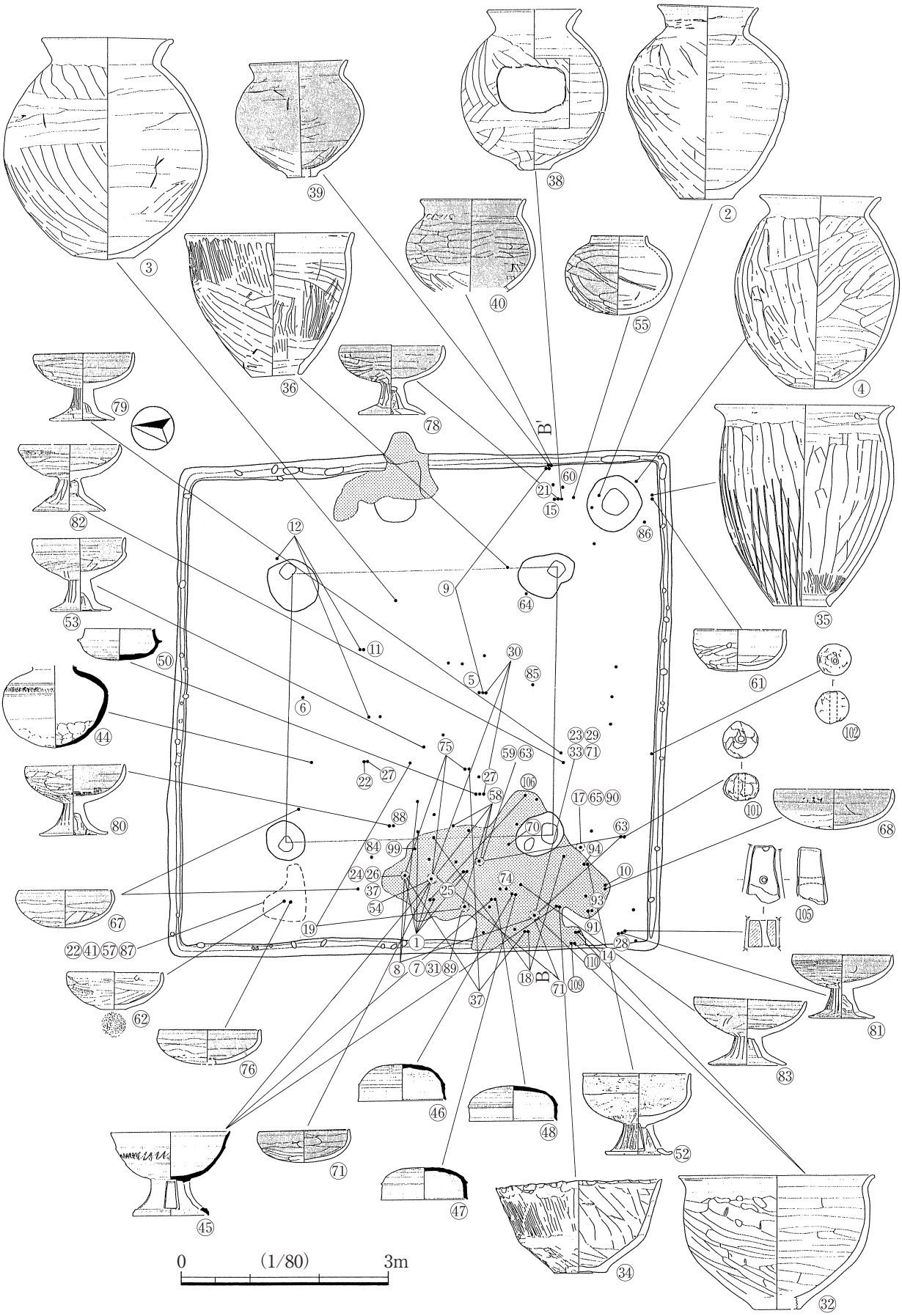
第192図　113号住居跡出土遺物（4）



第193図　113号住居跡出土遺物（5）



第194図　113号住居跡出土遺物（6）



第195図　113号住居跡遺物出土状況

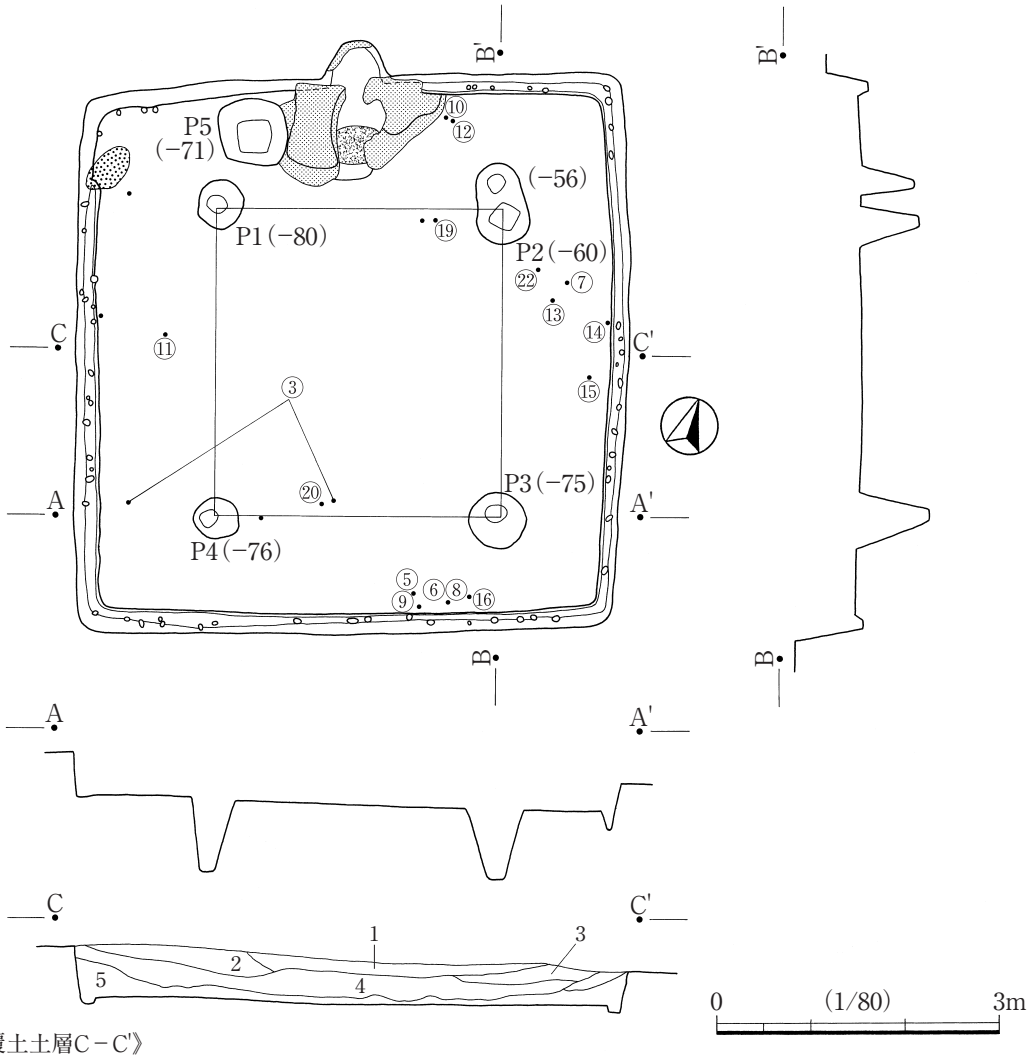
形や72～74の肉厚気味の雑な整形が見られ、赤彩範囲は内面全体と体部下半を基調とするもののバリエーションに富む。78～94は赤彩の高杯である。脚には強い屈曲を有する78・81、屈曲が明瞭でない79・80・82・83・89が見受けられる。また、大形の裾部に段を有する90も存在する。95～98は須恵器甕片。99・100は土製支脚。101・102は土玉。103・104は滑石製小玉。105は基部に１孔を有する砥石で両側穿孔である。106～108は敲打痕や研磨痕を有する。109・110は断面角形の釘であろう。本住居跡出土遺物の出土状況は、床面から出土し住居跡に直接帰属するものと南西の方向から廃棄された遺物からなる。床面直上から出土する遺物は、１・３～６・９・18・19・43～36・50・59～61・64・67・70・85・86・99・100・102で、２・66は南東隅の貯蔵穴から、15はカマド燃焼部から出土し住居跡に直接伴う。また、ほぼ床面は、７・12・14・20・21・23・25・29・31・32・33・38・39・40・45～48・55・58・63・72～74・77・83・91・94・101で床面から僅かに浮いて検出する。覆土からは41～44の須恵器甕・ハソウや51～54・62・75・76、79～82・87～89・92の椀形高杯などである。床面直上やほぼ床面また、覆土層中から出土する須恵器類で見ると型式差は無く一時期の遺物と見ることができる。覆土中の廃棄された出土状況を呈する出土遺物群には、椀形高杯や須恵器杯類が多く見られ、廃棄遺物の性格が問題となるが祭祀廃棄遺物と看取される。本住居跡の出土遺物もⅤ期Ｃの標準資料となる。

114号住居跡（第196・197図、図版29・121・122）

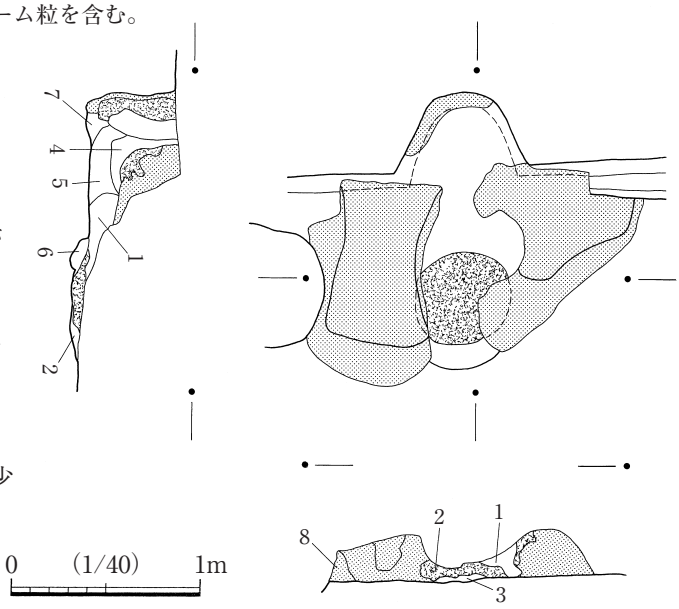
位置　東調査区南側。W22・W23。　複合切り合い関係　113住北側に単独で検出し、北辺には108住が接する。　平面形　正方形。　主軸方位　Ｎ－13°－Ｗ。　床面規模　5.62m（主軸）×5.71m（副軸）。　床面積　31.21㎡。　残存壁高　0.27～0.57mを測り自然地形に即して南西が高く東北が低い。　カマド　北辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅10～18cm・深さ６～９cm。　覆土　黒褐色土層を主体とし自然堆積状況を示す。
主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ２には掘直しを認める。
出土遺物　１・２は胴部縦位箆ケズリの長胴甕。４は外面丁寧な箆ナデの小形甕。５は外面箆ケズリの小形甕。６～８は杯身模倣杯で、６・７は内面ミガキで、６は漆塗りされる。９～11は杯蓋模倣杯。12は扁平皿状杯。14・15はやや小振りの内面ミガキの杯。16・17は手捏ね土器。18～20はミニチュア土器。21は土製支脚である。遺物出土位置は、１・２・４・17・18・21がカマド燃焼部、７・13・14・15・19・22が床面直上、３・６・８～12・16・20がほぼ床面から出土し、覆土出土の６も記録ミスで出土位置が不明扱いになったもので本来床面から出土したものであろう。本住居跡の遺物はⅦ期 Ab の標準資料となる。

115号住居跡（第198図、図版30・122）

位置　東調査区南側。W23・V23。　複合切り合い関係　114住東側に隣接し、単独で検出される。
平面形　不整方形。　主軸方位　Ｎ－38°－Ｅ。（長軸）　床面規模　3.02m（主軸）×2.92m（副軸）。　床面積　8.63㎡。　残存壁高　0.03～0.18m。　カマド　検出されない。　床面　ソフトローム層上に形成され、軟弱である。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。
出土遺物　１は頸部外面に刷毛目を残し、胴外面箆ケズリを施す球胴系甕。２は底部に接合カ所を明

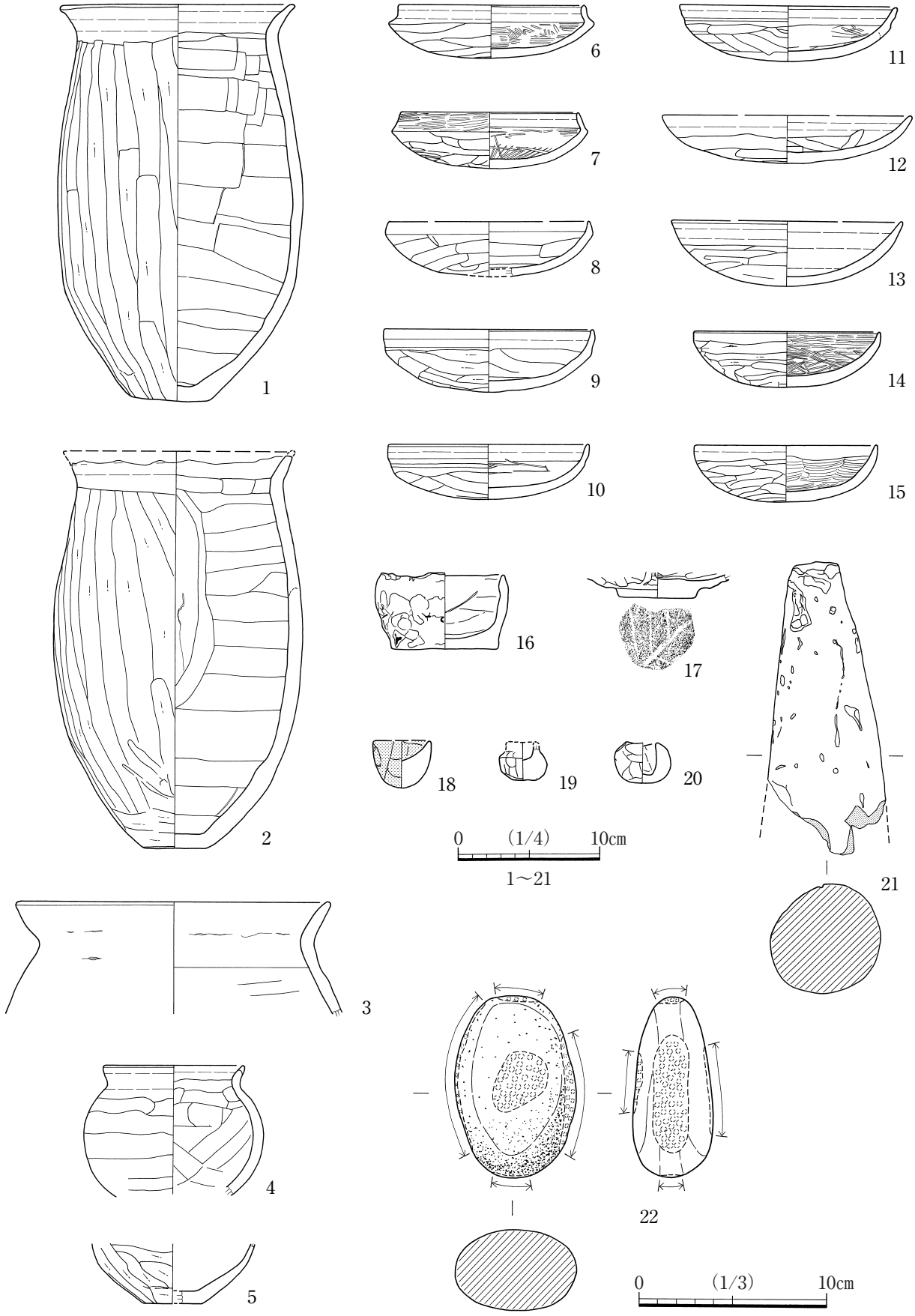


《114号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。ローム粒を霜降り状に含む。
3　黒褐色土層。
4　黒褐色土層。淡褐色土塊（斑点状）とローム粒を含む。
5　黒褐色土層。ローム土塊を含む。

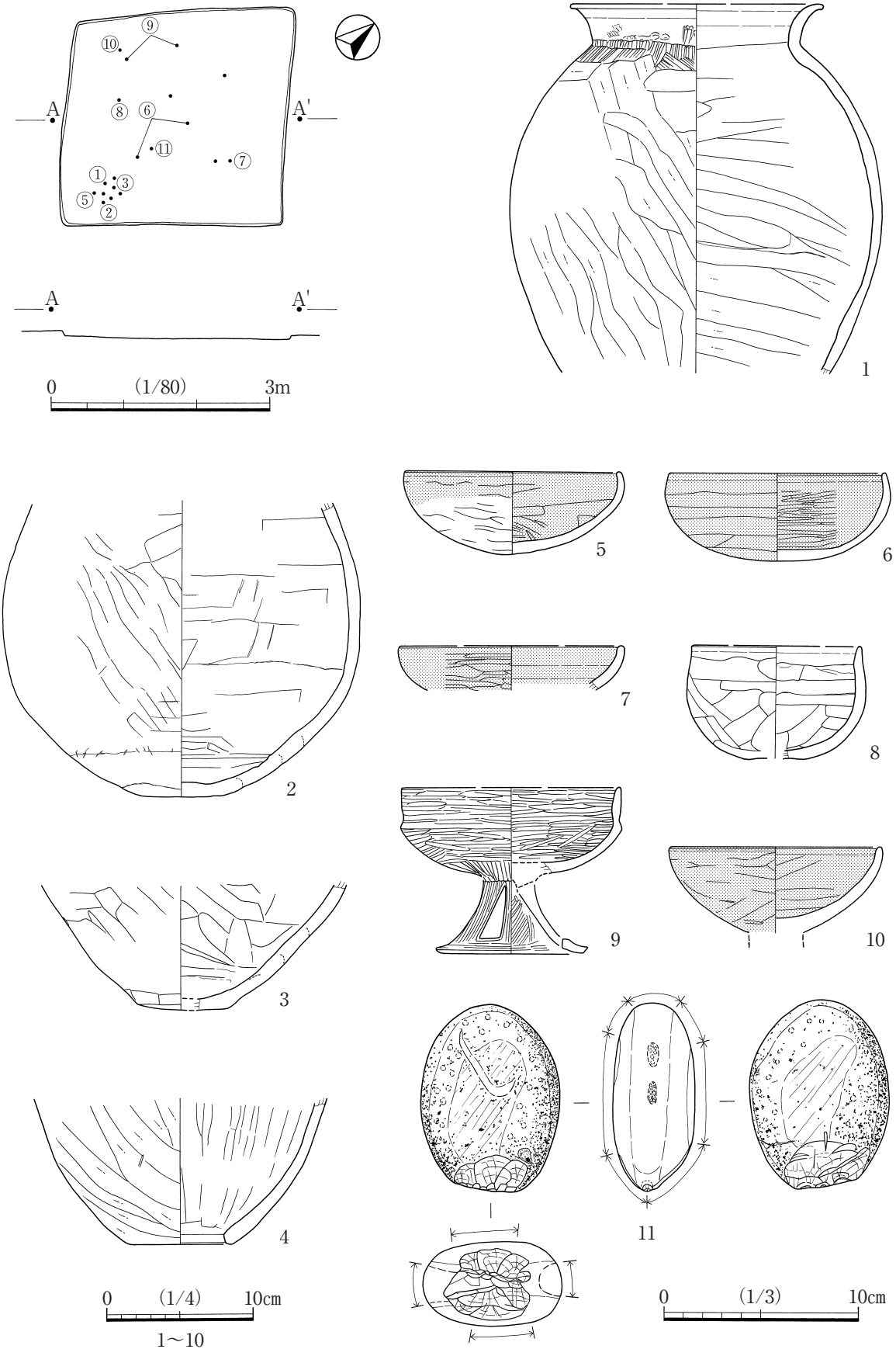


《114号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層（明るい）。ローム土と粘土が混合する。
2　灰と炭の混合土層。焼土粒（2㎜以下）を含む。
3　黒褐色土層。ローム粒（5㎜大以下）を多く含む。
4　焼土層（軟質）。粘土を全体に含む。
5　焼土層。ローム土と灰を含む。
6　熱を受けたローム土層。
7　ローム粒と粘土粒の混合土層。焼土粒を少量含む。
8　粘土とローム土塊のブロック。

第196図　114号住居跡とカマド



第197図　114号住居跡出土遺物



第198図　115号住居跡と出土遺物

瞭に残す甕。4は胴部外面篦ケズリの甑。5～7は赤彩椀形杯で6は深く内湾する。8は外面篦ナデの小形鉢。9は杯部と脚が接合しないが同一個体の全面篦ミガキで脚内面にまでミガキを施す模倣高杯で、脚透かしは長三角形の三方であろう。遺物出土位置は、7が床面直上以外は他はほぼ床面からの検出で、全ての遺物が住居跡と共伴する。

116号住居跡（第199図、図版30・123）

位置　東調査区南側。V22・V23。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、西から東に向かって緩やかな傾斜面に位置する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－39°－E。　**床面規模**　4.02m（主軸）×4.02m（副軸）。　**床面積**　15.98㎡。　**残存壁高**　0.20～0.55mを測り自然地形に即して南西が高く東北が低い。　**カマド**　北東辺中央よりやや南側に寄って敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、堅緻である。中央部はやや凹凸が目立つが、比較的平滑である。　**壁溝**　幅8～10cm・深さ3～8㎝。　**覆土**　下層にはロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。上層は概ね自然堆積状況を示すものと思われる。　**主柱穴**　柱構造である。

出土遺物　1～3は胴外面篦ケズリを施す中胴甕。4は外面赤彩の高杯。5・6は土玉で、6の径は3.8cmを計る。7は研磨痕を有する石器で非鉄器砥石であろう。遺物出土位置は、1・3・7が床面直上で他は覆土からの出土である。

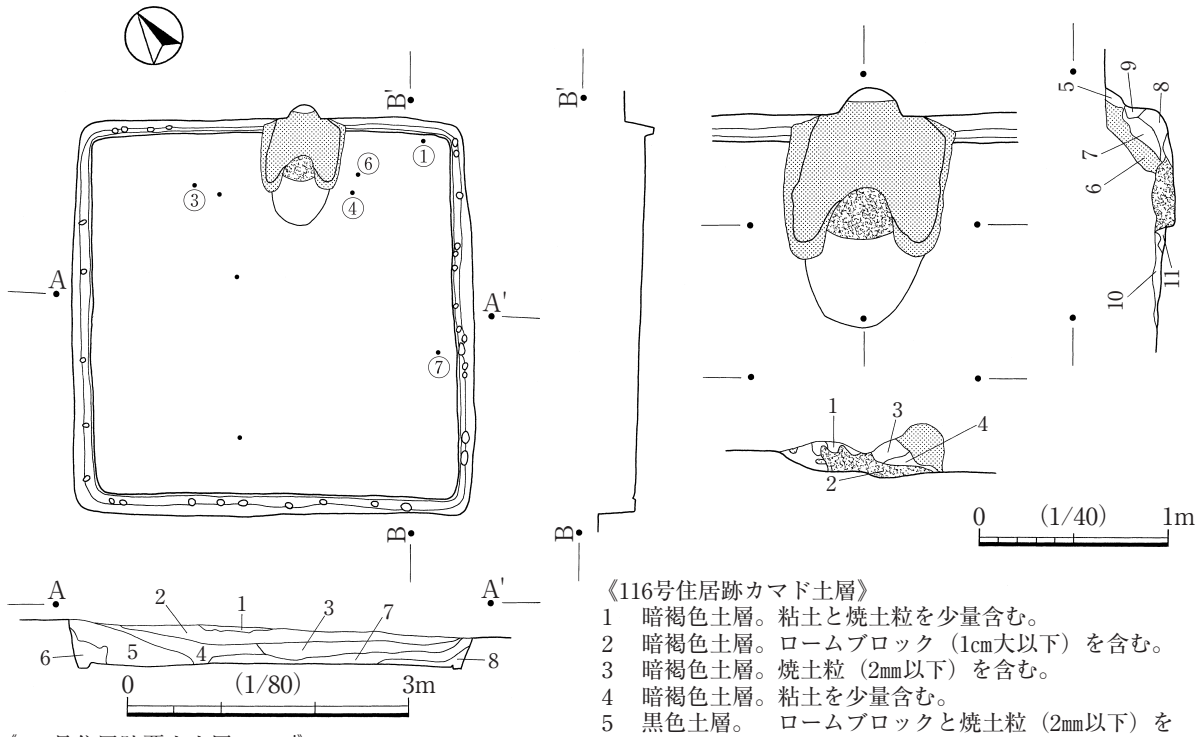
117号住居跡（第200図、図版30・123）

位置　東調査区東側。U24・V24。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、北から南に向かって緩やかな傾斜面に位置する。　**平面形**　長方形。　**主軸方位**　N－20°－E。（長軸）　**床面規模**　3.52m（主軸）×2.84m（副軸）。　**床面積**　9.65㎡。　**残存壁高**　0.26～0.68mを測り西が高く東が低い。　**カマド**　北辺中央と東辺中央の2カ所に設けられる。カマドは住居廃棄段階では北カマドの袖構造が良好に残り、東カマドは袖部が取り除かれた状況を呈していた。　**床面**　ハードローム層上であるが、張床でやや軟弱である。　**壁溝**　幅8～10cm・深さ8～10cm。　**覆土**　南西隅から中央に広範囲に床面直上から厚さ20cmの貝層の堆積が認められる。　**主柱穴**　無柱構造である。

出土遺物　1～2は肉薄の胴外面縦位篦ケズリで無頸タイプの甕か。3は外面篦ケズリの甑。4・5は脚を欠損するが肉厚気味の須恵器高盤であろう。6はロクロ土師器杯。7は須恵器杯。8は土師器杯。9は須恵器甕片。10は径4.3cmの土玉である。遺物出土位置は、2・5が床面直上ないしほぼ床面出土で他は覆土検出である。8・10は混入遺物であろう。

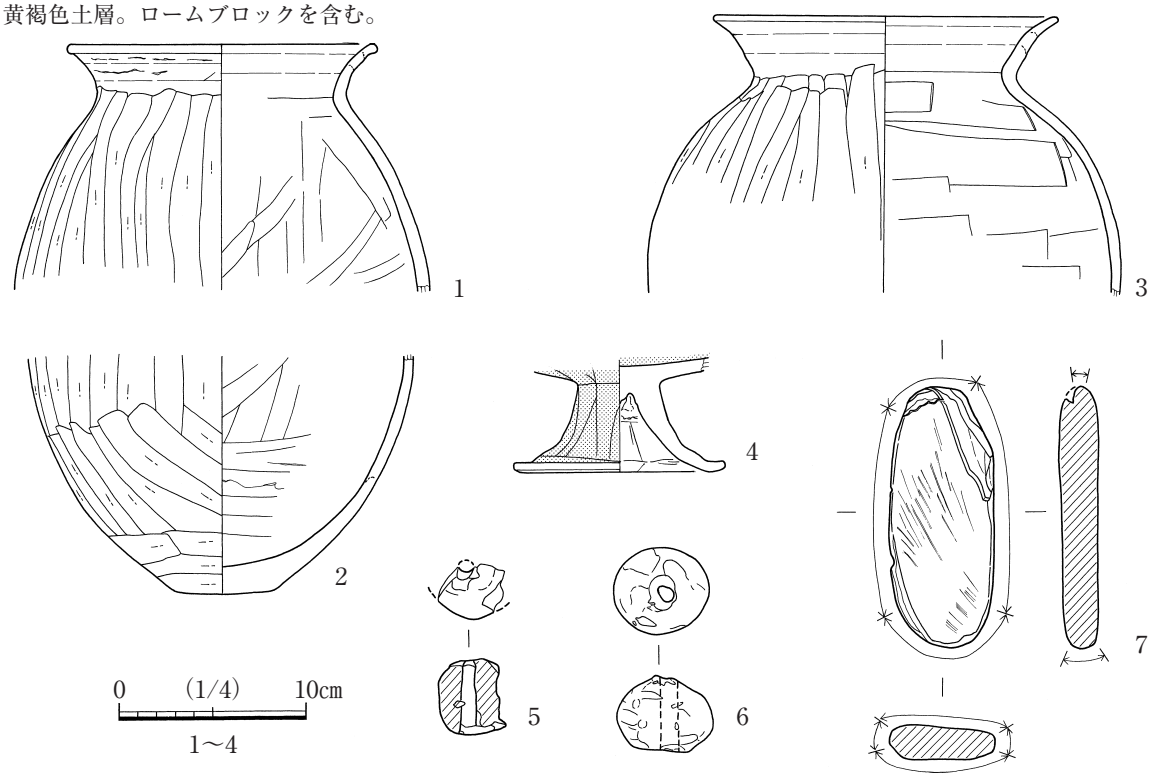
118号住居跡（第201・202図）

位置　東調査区東端。U25・U26。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、西から東に向かって緩やかな傾斜面に位置する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　N－49°－W。　**床面規模**　5.78m（主軸）×5.76m（副軸）。　**床面積**　33.49㎡。　**残存壁高**　0.17～0.51m。　**カマド**　北西辺中央に設けられる。　**床面**　ハードローム層上に形成され、総体的に堅いが、特に中央部は堅く踏みならされている。　**壁溝**　幅8～12cmで囲繞するが、東側は壁と共に途切れ検出されない。　**覆土**　床面直上には焼土が点在し火災住居であることを物語っている。また、覆土にはロームブロックをやや多く含み埋

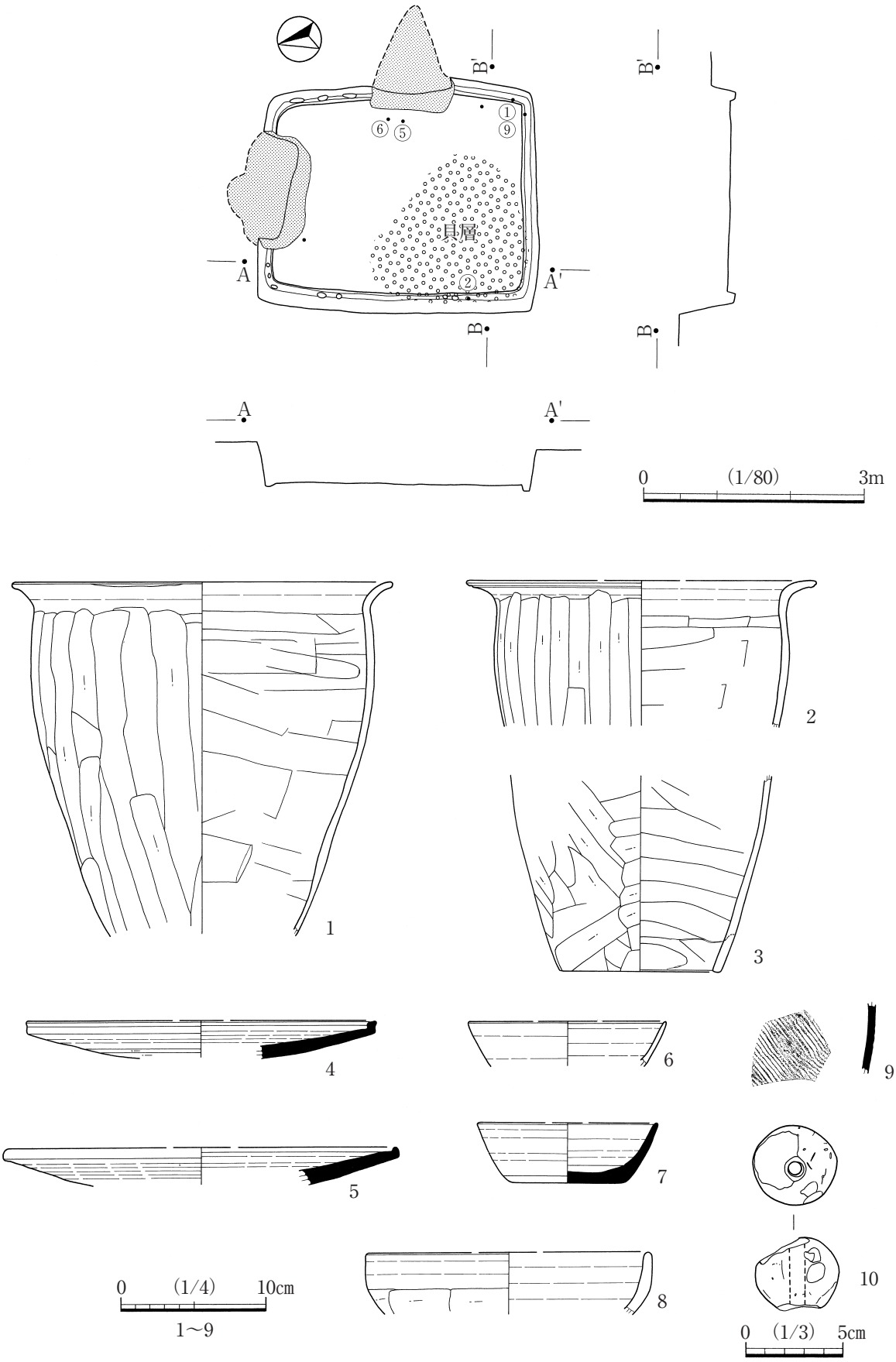


《116号住居跡覆土土層A－A'》
1　茶褐色土層。
2　黒色土層。ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
4　黒褐色土層。
5　茶褐色土層。ローム粒を含む。
6　茶褐色土層。ロームブロックを少量含む。
7　黄褐色土層。
8　黄褐色土層。ロームブロックを含む。

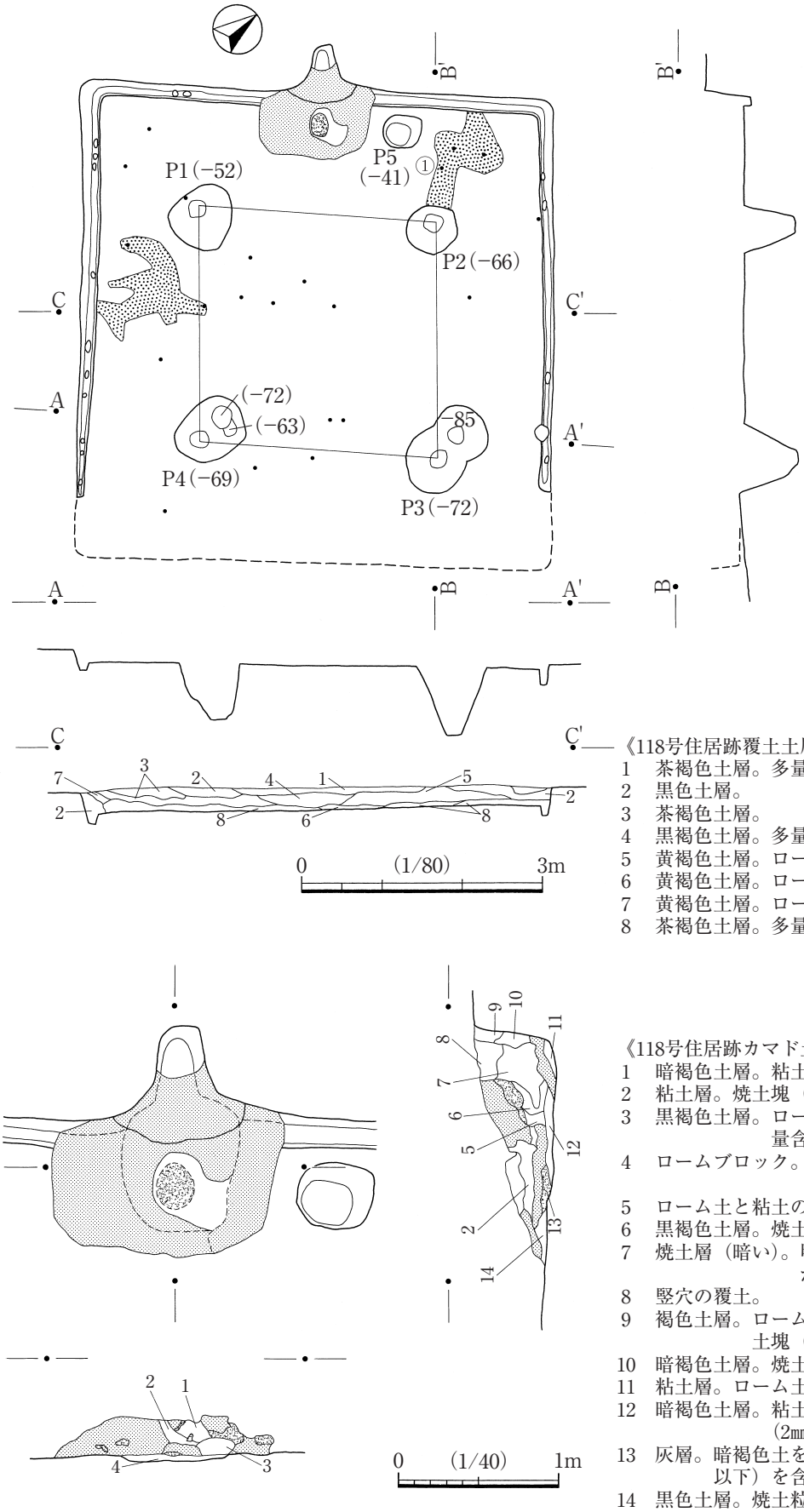
《116号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土と焼土粒を少量含む。
2　暗褐色土層。ロームブロック（1cm大以下）を含む。
3　暗褐色土層。焼土粒（2㎜以下）を含む。
4　暗褐色土層。粘土を少量含む。
5　黒色土層。　ロームブロックと焼土粒（2㎜以下）を少量含む。
6　粘土とロームのブロック。
7　灰層。焼土類（3㎜以下）を含む。
8　灰とローム土の混合土層。
9　ロームと粘土の混合土層。
10　暗褐色土層。ローム土粒と焼土粒を含む。
11　ロームブロック。



第199図　116号住居跡と出土遺物



第200図　117号住居跡と出土遺物



《118号住居跡覆土土層C－C'》
1 茶褐色土層。多量のローム粒含む。
2 黒色土層。
3 茶褐色土層。
4 黒褐色土層。多量のローム粒含む。
5 黄褐色土層。ロームのブロック含む。
6 黄褐色土層。ローム質土。
7 黄褐色土層。ロームのブロック土。
8 茶褐色土層。多量の焼土少量の粘土粒含む。

《118号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
2 粘土層。焼土塊（1cm以下）を多く含む。
3 黒褐色土層。ローム土と粘土を全体に少量含む。
4 ロームブロック。焼土粒（2㎜以下）を少量含む。
5 ローム土と粘土の混合土層。
6 黒褐色土層。焼土粒（3㎜以下）を含む。
7 焼土層（暗い）。明るい焼土粒（2㎜以下）が目立つ。
8 竪穴の覆土。
9 褐色土層。ロームを全体に少量含む。焼土塊（1cm以下）を含む。
10 暗褐色土層。焼土塊（1cm以下）を含む。
11 粘土層。ローム土を全体に少量含む。
12 暗褐色土層。粘土を全体に含む。焼土粒（2㎜以下）を含む。
13 灰層。暗褐色土を少量含む。焼土粒（2㎜以下）を含む。
14 黒色土層。焼土粒（2㎜以下）を含む。

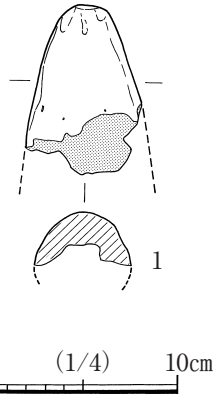
第201図　118号住居跡とカマド

め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ３・Ｐ４には掘直しが認められる。
出土遺物　土製支脚１点だけである。

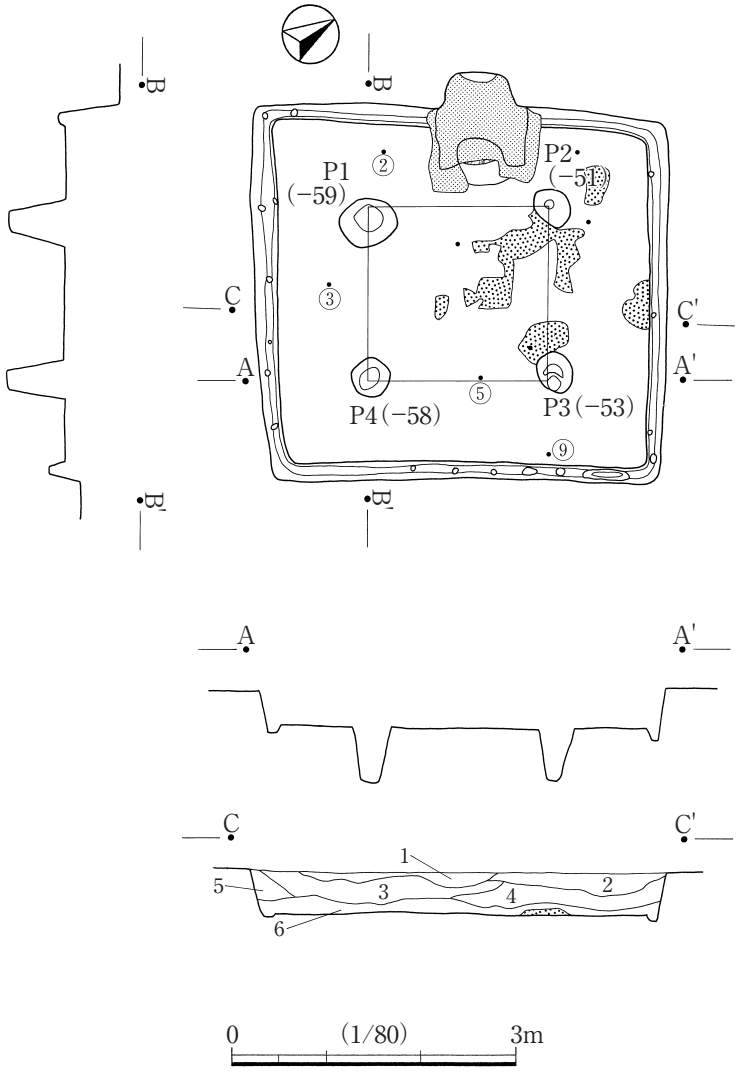
119号住居跡（第203・204図、図版30・123）
位置　東調査区東端。T26。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、西から東に向かって緩やかな傾斜面に位置する。また、北・東は調査区域外と接する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－58°－Ｗ。**床面規模**　3.78m（主軸）×4.16m（副軸）。　**床面積**　15.63㎡。　**残存壁高**　0.18～0.58mを測り西壁が他の壁に比して高さを減じる。　**カマド**　北西辺中央に設けられる。　**床面**　ハードローム層上に形成されており、堅緻である。中央に凹凸が目立つ。　**壁溝**　幅10～12cm・深さ７～12cmを測り四周する。　**覆土**　床面直上には焼土が点在し火災住居であることを物語っている。また、覆土にはロームブロックをやや多く含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造である。
出土遺物　１・２は胴外面縦位篦ケズリ甕。４は内面見込みが明瞭なロクロ土師器杯。５は内面黒色処理を施した杯で。６は外面口縁直下に鈍い稜を有する杯。７は内外面光沢の有るミガキを施す漆塗りの内湾口縁杯。８は手捏ね状の小形杯。９は外面篦ケズリの小形鉢。10は土製支脚。11は研磨痕を有する軽石である。遺物出土位置は、２・３・５・９がほぼ床面で、他の遺物は覆土から検出する。覆土検出４のロクロ土師器杯以外は、本住居跡に共伴するものであろう。

120号住居跡（第205・206・208図、図版123）
位置　東調査区最東端。U26。　**複合切り合い関係**　プラン南西隅で121住を掘り込み検出し、西から東に向かって緩やかな傾斜面に位置する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－26°－Ｅ。　**床面規模**　4.46m（主軸）×4.20m（副軸）。　**床面積**　18.38㎡。　**残存壁高**　0.06～0.58mを測り自然地形に即して南西が高く東北が低い。　**カマド**　北東辺のほぼ中央に設けられる。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。また床面下に先行する時期不明の方形の竪穴状の遺構を検出する。この遺構からは縄文土器片の出土の記録が残るが遺物は行方不明である。　**壁溝**　幅11～13cm・深さ９～17cm。北辺と東辺には検出されない。　**覆土**　覆土中には小ロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ１には掘直しを認める。
出土遺物　１は小形化した口縁立ち上がりが短く受部稜に丸味を有する須恵器身でTK217型式期に比定できよう。２・３は鈍い稜を有する土師器杯の口縁小片。４は支脚先端部。５は扁平な自然石の両面に敲打痕を残す。６は現存長10.6cm・幅3.2cm・厚さ0.3cm程の「く」の字に曲がった板状鉄器で、片方がやや刃部を臭わせる様な薄い仕上がりで鎌の可能性も残すが不明鉄器である。遺物出土位置は、１・６が床面直上、４・５がカマド燃焼部で、２・３は覆土からの出土である。住居跡の所属時期には、１の須恵器身が好資料となろう。

121号住居跡（第205・207・209図、図版30・124）
位置　東調査区最東端。U26・V25・V26。　**複合切り合い関係**　北東辺中央で壁と床面を僅かに120住に掘り込まれ検出し、東南辺の壁および床面は自然地形に即した浸食作用で流失する。　**平面形**

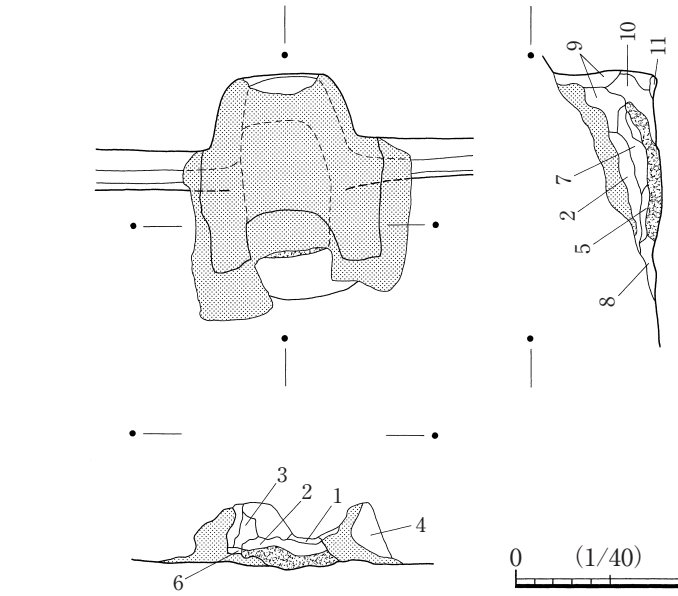


第202図　118号住居跡出土遺物

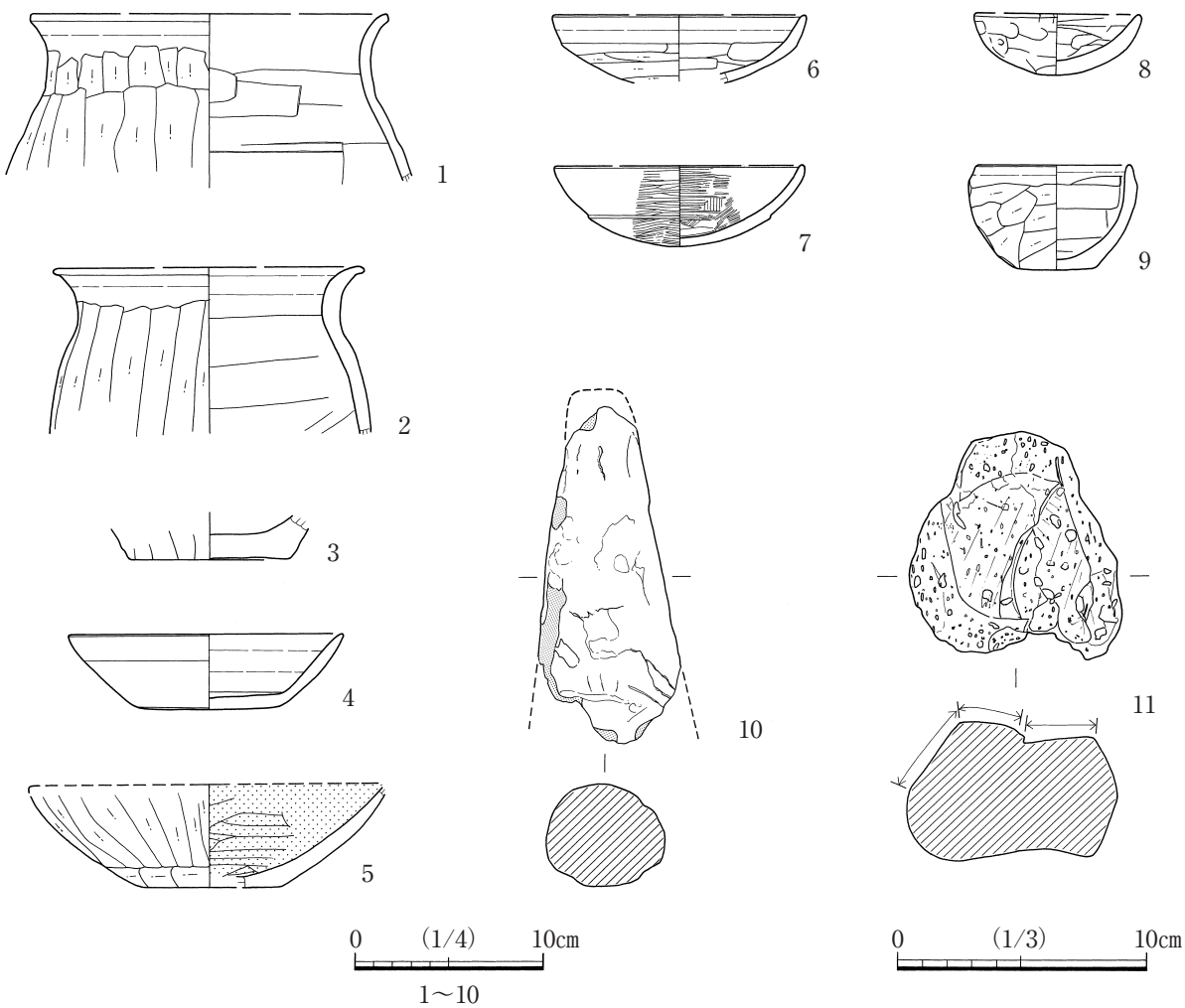


《119号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　黄褐色土層。ローム粒を多量に含む。
4　茶褐色土層。ローム粒を多量に含む。
5　茶褐色土層。
6　茶褐色土層。ローム粒と焼土及び炭を含む。

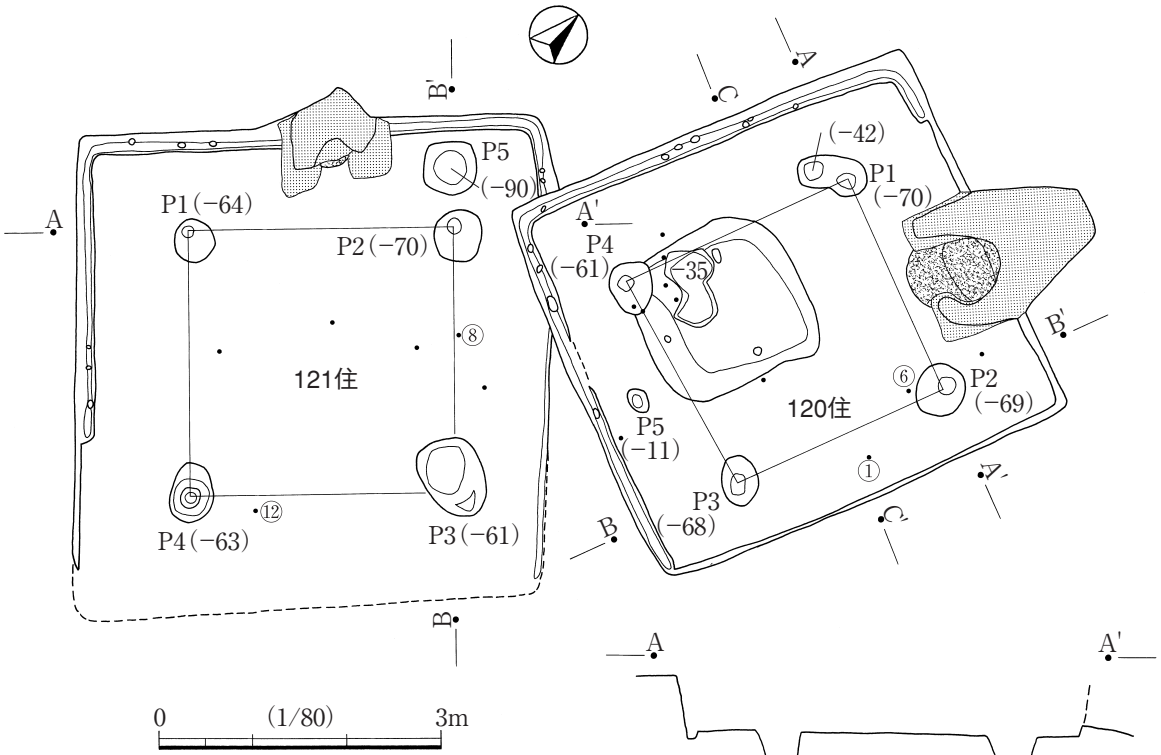
第203図　119号住居跡

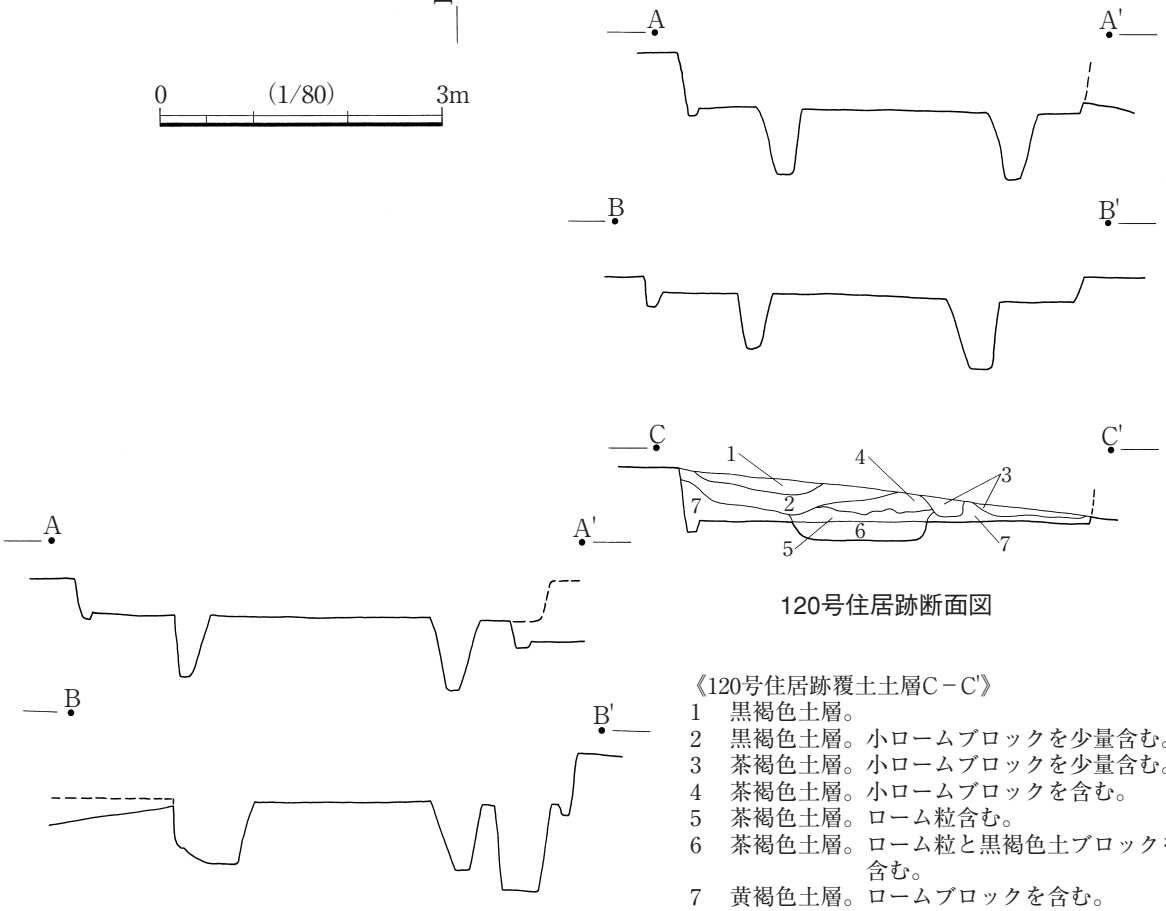


《119号住居跡カマド土層》
1 灰層。
2 暗褐色土層。粘土粒と焼土粒を含む。
3 黒褐色土層。粘土を全体に少量含む。
4 暗褐色土層。ローム粒（3㎜以下）を含む。
5 暗褐色土層。ローム粒と粘土粒及び焼土粒を多く含む。
6 粘土と焼土の混合土層。
7 粘土層。焼土塊（1㎝大以下）を含む。
8 黒色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
9 暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。
10 粘土層。暗褐色土を全体に少量含む。
11 粘土とローム土の混合土層。



第204図　119号住居跡カマドと出土遺物





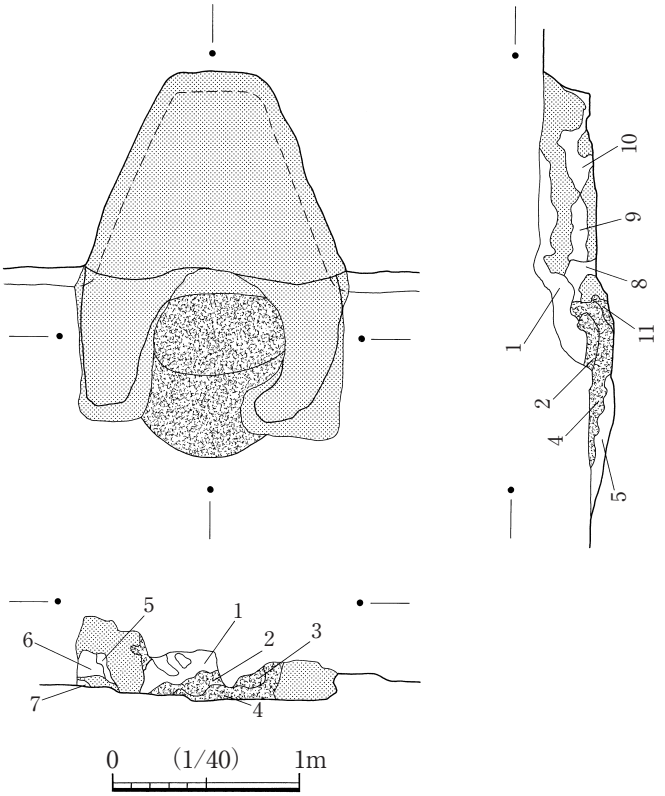
120号住居跡断面図

《120号住居跡覆土土層C－C'》

1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。小ロームブロックを少量含む。
3　茶褐色土層。小ロームブロックを少量含む。
4　茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。ローム粒含む。
6　茶褐色土層。ローム粒と黒褐色土ブロックを含む。
7　黄褐色土層。ロームブロックを含む。

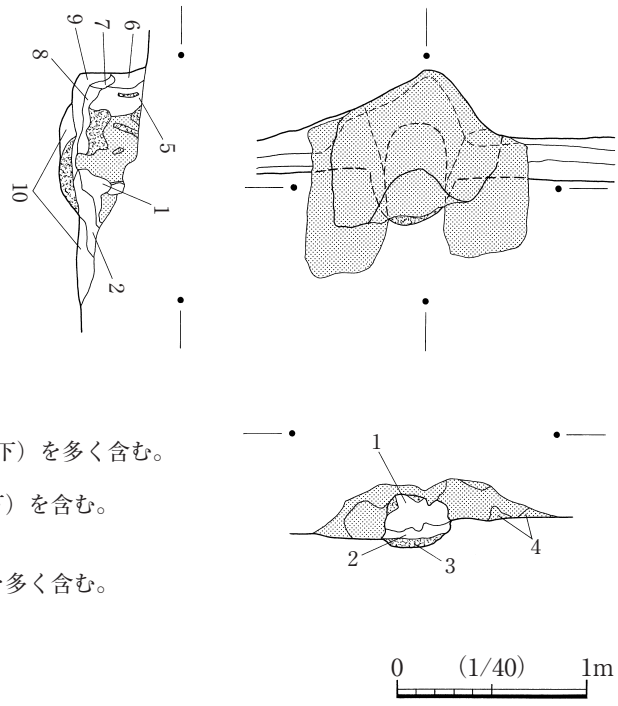
121号住居跡断面図

第205図　120号・121号住居跡



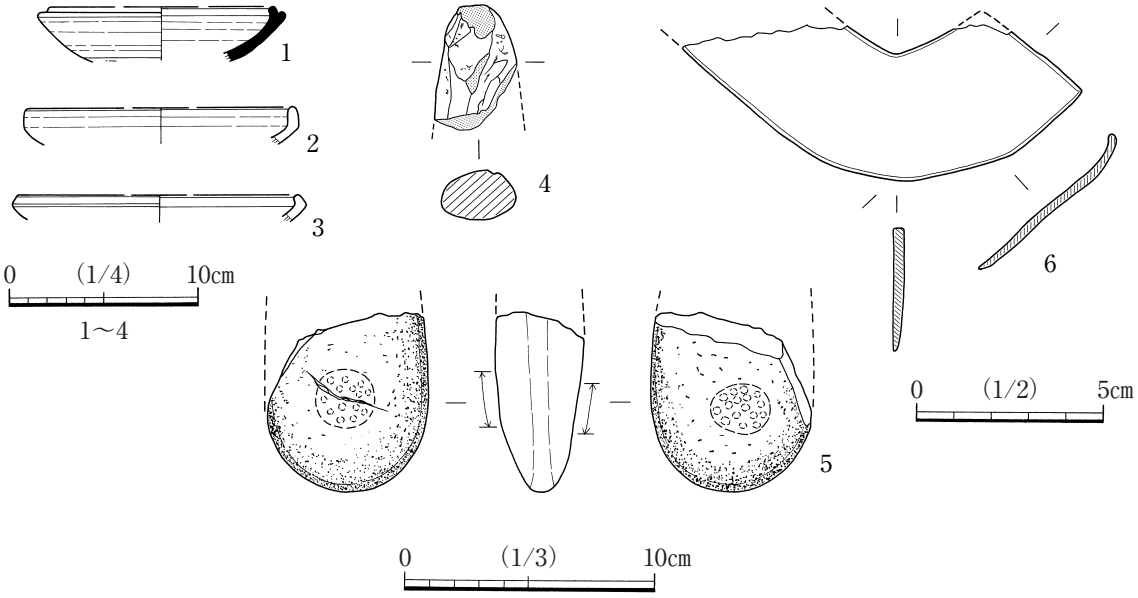
《120号住居跡カマド土層》
1　粘土と暗褐色土の混合土層。焼土塊（1cm大以下）も少量含む。
2　ローム土粒と灰の混合土層。
3　ローム土粒と焼土粒（3㎜以下）の混合土層。
4　黒色土層（軟質）。粘土粒（5㎜大以下）を含む。
5　ロームブロック。
6　暗褐色土層（暗い）。ローム粒（3㎜以下）と焼土粒を含む。
7　褐色土層。軟質。
8　粘土層。焼土粒（3㎜以下）を含む。
9　灰と粘土の混合土層。焼土粒（5㎜以下）を含む。
10　暗褐色土層。ローム粒（3㎜以下）を含む。
11　炭とローム粒と粘土の混合土層。

第206図　120号住居跡カマド

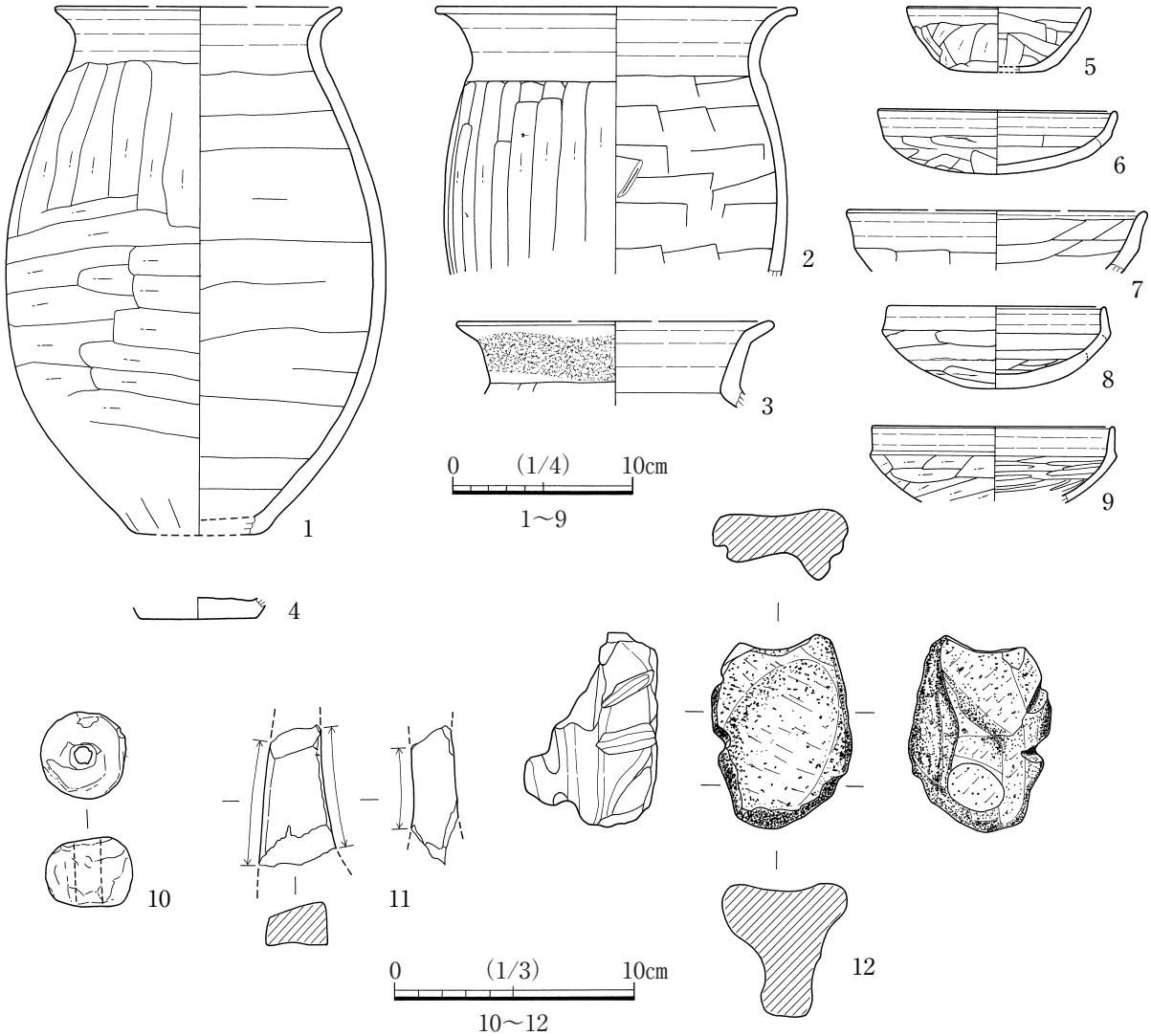


《121号住居跡カマド土層》
1　粘土層。暗褐色土と焼土を全体に少量含む。
2　黒褐色土層。焼土粒（2㎜以下）を多く含む。
3　暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）と焼土粒（2㎜以下）を多く含む。
4　粘土とロームを全体に少量混合する。
5　暗赤褐色土層。粘土と焼土の混合。焼土粒（3㎜以下）を含む。
6　第4層に似るが、焼土粒（3㎜以下）を含む。
7　ローム土塊（軟質）。
8　黒色土と暗褐色土の混合土層。焼土粒（3㎜以下）を多く含む。
9　黒色土とローム土及び粘土の混合土層。
10　ロームブロック。

第207図　121号住居跡カマド



第208図　120号住居跡出土遺物



第209図　121号住居跡出土遺物

方形。　**主軸方位**　N－43°－W。　**床面規模**　4.90m（主軸）×4.86m（副軸）。　**推定床面積**　23.90㎡。　**残存壁高**　0.14～0.56mを測り自然地形に即して北西が高く南東が低い。　**カマド**　北西辺中央に設けられる。　**床面**　ソフトローム層上に形成されているが、平滑で比較的堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅７～10cm・深さ７cm前後。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ３とＰ４には掘直しを認める。

出土遺物　１・２は胴外面篦ケズリの甕である。１は胴部上半縦位、中位横位の篦ケズリを施す。３は口頸部「コ」の字状で頸部にタール状のカーボンが付着する。５は手捏ね状の小形杯。６～９は土師器杯で、６は半円状で口縁直下に鈍い稜、７は口縁外反、８は口縁が僅かに内傾し内面光沢の有るミガキで漆塗りの可能性が強い。９は杯身模倣杯で内面ミガキを施す。10は径3.6cmの土玉。11は両端欠損の鉄器用砥石。12は不規則に加工された石製品である。遺物出土位置は、１・２がカマド燃焼部、８・12が床面直上から出土し、他は不明ないし覆土の検出である。

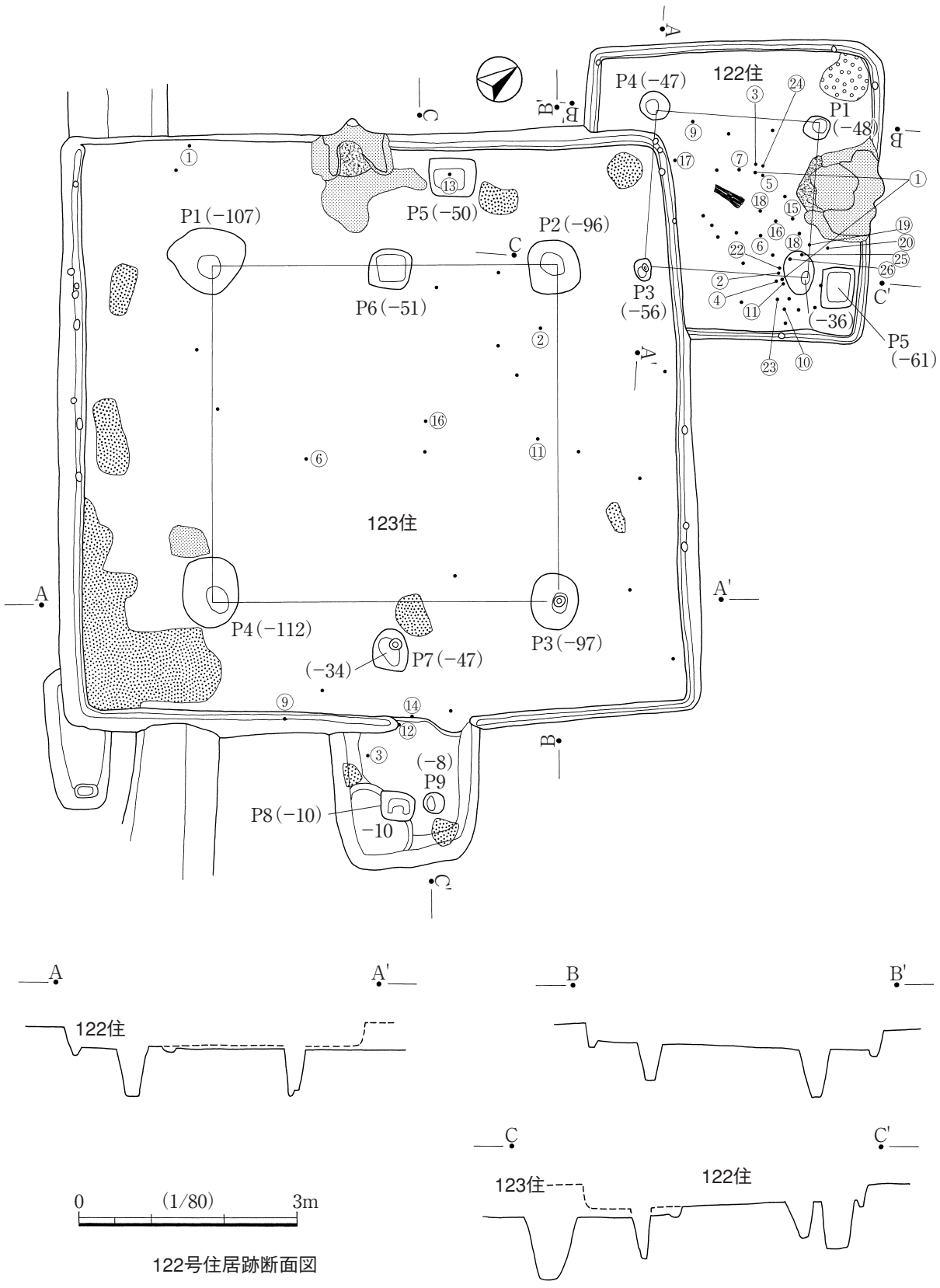
122号住居跡（第210・211図、図版31・124・125）

位置　中央調査区中央。L12・M12・M13。　**複合切り合い関係**　プラン南側床面を123住に大きく掘り込まれて検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－38°－E。　**床面規模**　3.88m（主軸）×3.96m（副軸）。　**床面積**　15.22㎡。　**残存壁高**　0.22～0.27m。　**カマド**　北東辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅７～９cm・深さ７～９cm四周するものであろう。　**覆土**　詳細は不明であるが、北隅覆土中に僅かに貝層の堆積が確認された。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ５は貯蔵穴となる。

出土遺物　１は肉厚の大形球胴甕で、口径23.5cm・胴現存径37.5cmで推定胴径40cm程を計測するものと思われ、胴部上半は横位の篦ナデ、中位は斜位の篦ケズリを施す。２は口縁が外傾して立ち肩部が張る小形甕で外面篦ナデを施す。３～５は口縁が「く」の字状に外反する甕で、３は胴外面篦ナデ、４は横位篦ナデ、５は縦位篦ナデを施す。６は肉厚の口縁内湾する甕。７は口縁内外面輪積みと指頭圧痕を明瞭に残し、直立気味で僅かに内湾する口縁の雑な整形甕。10は胴外面斜位のケズリ状篦ナデを施す甑。11は外面刷毛目とミガキを施す鉢であろう。12は大形の土師器甕。13～16は赤彩の椀形杯で、15・16は深い椀形を呈する。17は須恵器ハソウで口頸部と胴中位に上下沈線で仕切られた間に櫛状工具によるそれぞれに波状文を施し、胴中位に１孔を有す。18は赤彩の短頸壺。19～21は赤彩の高杯脚で19は長脚気味、20・21は裾が屈曲する。22は土製支脚片。23・24はミニチュア土器。25・26は径4.2cmの土玉。27は軽石片である。遺物出土位置は、８がカマド燃焼部、10・17がほぼ床面、12～14が北隅貝層中から出土する以外は、覆土からの検出である。住居跡共伴遺物は、８・10・17が認められ、覆土内の土器は廃棄遺物された遺物であろう。これらの廃棄遺物は住居廃絶直後と思われ、住居跡の帰属時期を示す資料と扱えよう。

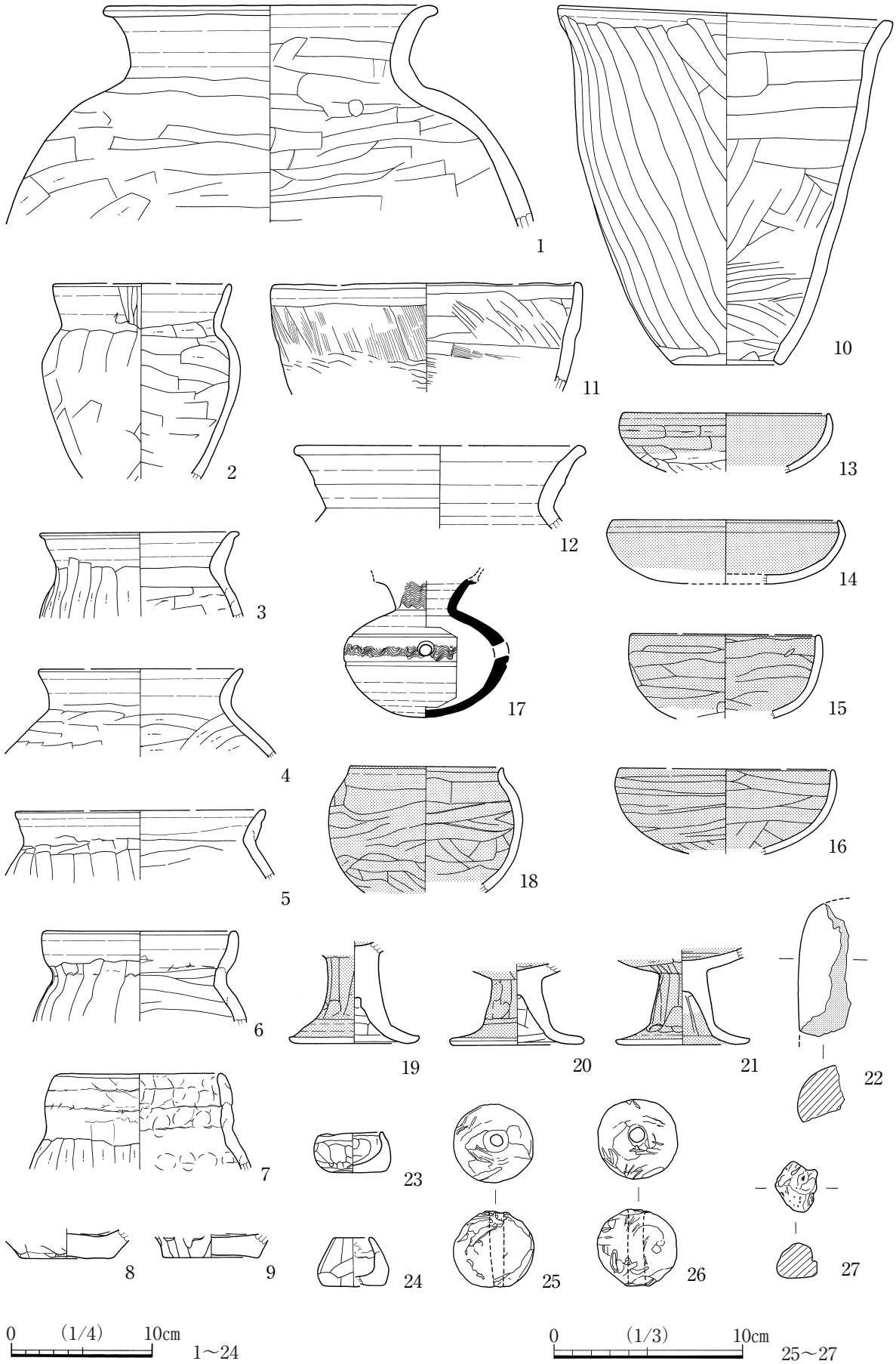
123号住居跡（第210・212図、図版31・125）

位置　中央調査区中央。M12・M13・N12。　**複合切り合い関係**　プラン北隅で122住の床面を掘り込んで検出する。集落内で確認された最大規模の竪穴住居跡である。　**平面形**　方形で南東壁中央に長さ1.95m・幅1.80mの張り出しを有する。　**主軸方位**　N－54°－W。　**床面規模**　7.84m（主

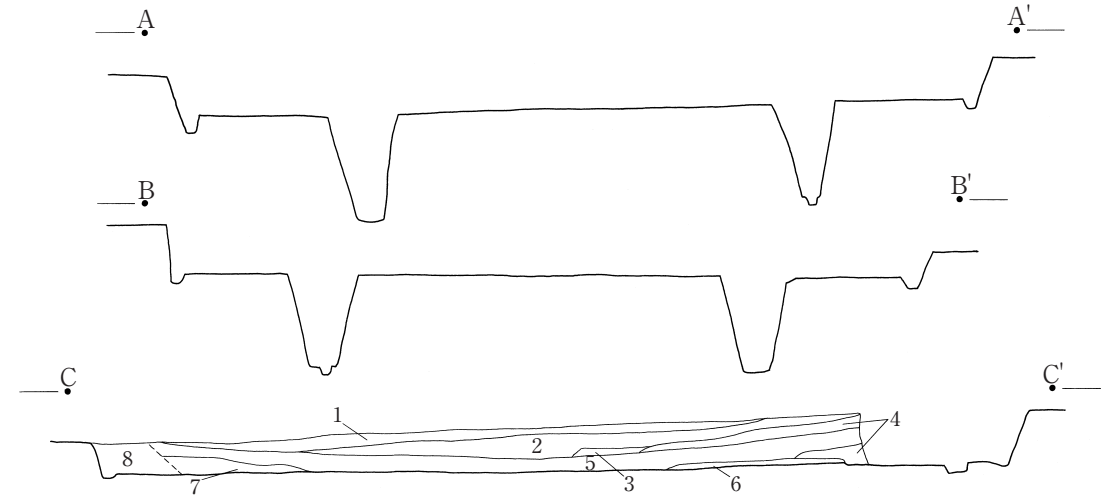


122号住居跡断面図

第210図　122号・123号住居跡

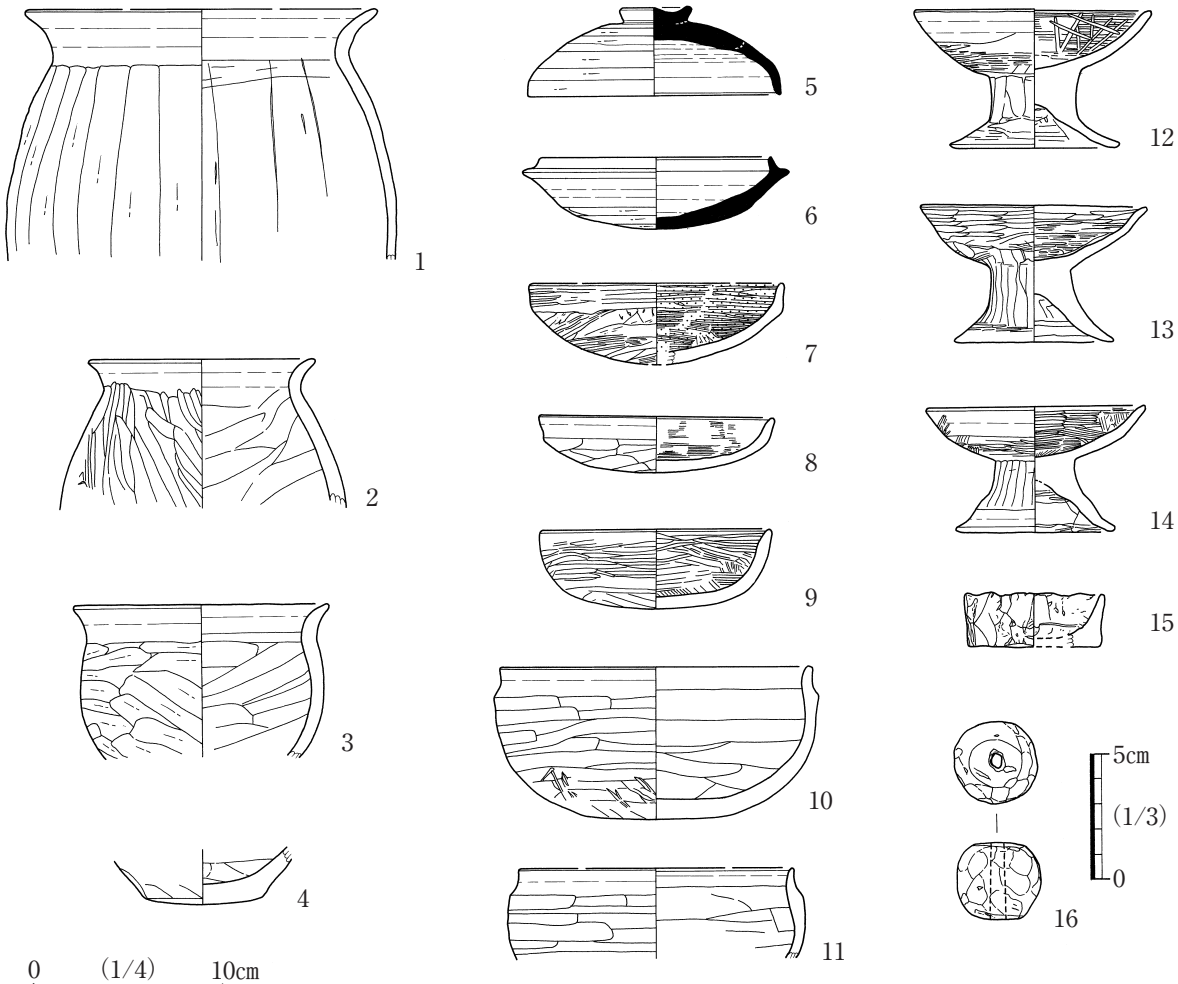


第211図　122号住居跡出土遺物



0　(1/80)　3m

《123号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒を霜降り状に含む。
3　黄褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。焼土粒を含む。
5　茶褐色土層。ローム粒を含む。
6　黄褐色土層。炭を含む。
7　黄褐色土層。粘土と焼土を含む。
8　黒褐色土層。粘土粒を多量に含む。(カマド覆土)



第212図　123号住居跡断面図と出土遺物

軸）×8.26m（副軸）。　**床面積**　63.50㎡。　**残存壁高**　0.27～0.52m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。中央部に若干凹凸が目立つ。**壁溝**　幅６～10cm・深さ10～11cmを測りほぼ四周する。　**覆土**　床面直上に広範囲に焼土の堆積が認められ火災住居である。また、覆土中層にも焼土のレンズ状の堆積が確認される。　**主柱穴**　基本的にはＰ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ６とＰ７は補助的な主柱穴となろう。Ｐ５は貯蔵穴となる。

出土遺物　１は胴外面縦位の箆ケズリ甕。２は外面雑なミガキ状の箆ナデの甕。３は外面斜位の箆ケズリの鉢形甕。５は須恵器蓋で扁平な摘みを有する。６は須恵器身で底部２分の１に回転箆ケズリを施TK209型式期に比定できよう。７～８は土師器杯で７は内面黒色処理を施す。10・11は大形の椀。12～14はやや小型化した杯内面ミガキを施した高杯。15は手捏ね土器。16は径3.2cmの土玉である。遺物出土位置は、１～３・５～７・10・12・14が床面直上、４がカマド燃焼部、８・11はほぼ床面、９が壁溝内、13がカマド燃焼部右側貯蔵穴内のＰ５から出土し、15・16が覆土検出である。遺存状態もほぼ良好で本住居跡の遺物はⅥ期Ｃ～Ⅶ期Ａの標準資料となる。

124号住居跡（第213図、図版31・125）

位置　中央調査区中央。M13・N13。　**複合切り合い関係**　北東隅で39住と壁を接して検出する。**平面形**　ほぼ方形を呈するが各辺長が異なりやや歪む。　**主軸方位**　Ｎ－74°－Ｗ。　**床面規模**　6.58m（主軸）×6.86m（副軸）。　**床面積**　44.32㎡。　**残存壁高**　0.37～0.53m。　**カマド**　西辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。

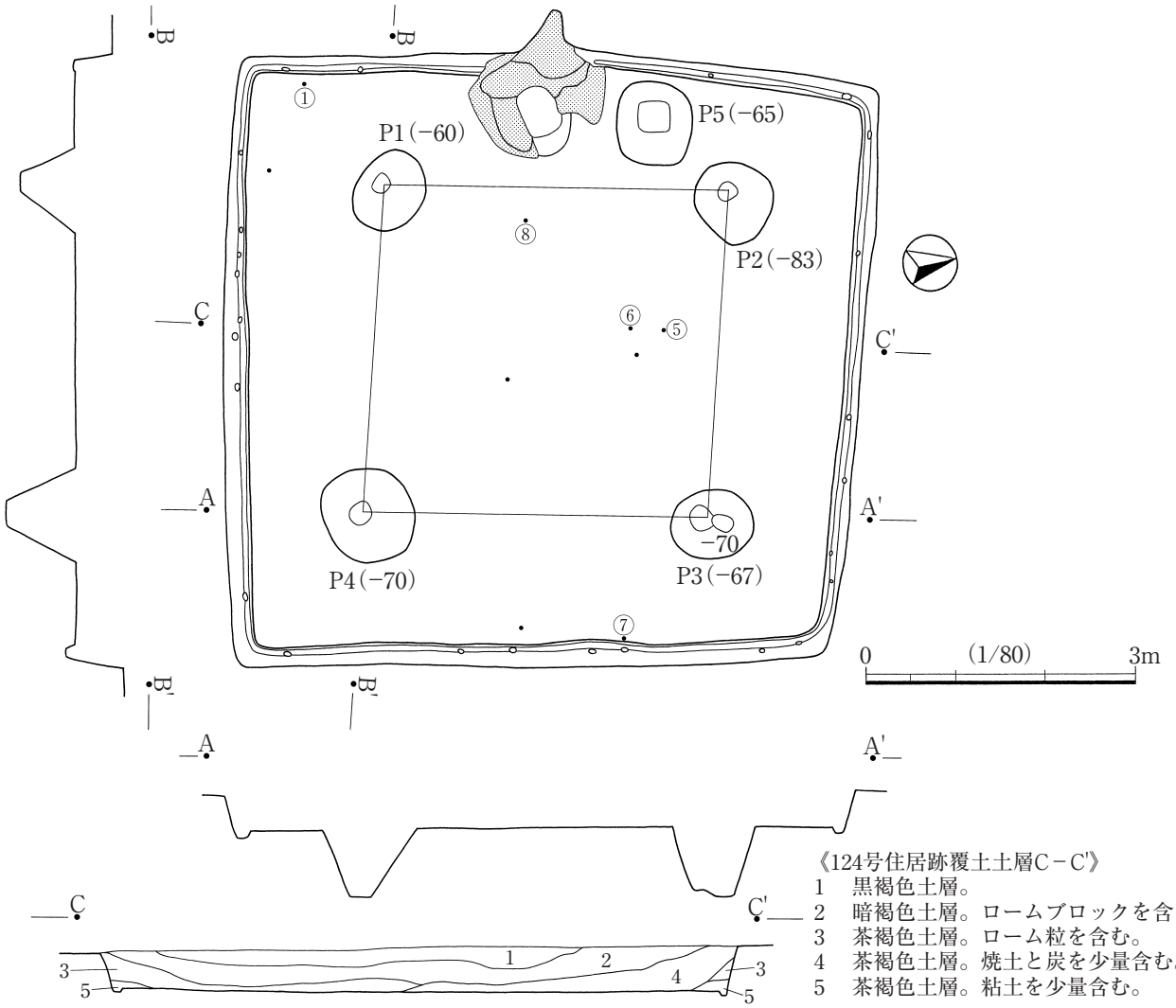
壁溝　幅10cm・深さ５～８cmを測り四周する。　**覆土**　レンズ状の堆積を呈し概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ５はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。

出土遺物　１は外面縦位の箆ケズリ、内面に条線状のミガキを施し甑であろう。２は口縁の大きく外反する胴箆ナデの甕。３は小形の鉢形甕。４～７は甕底部で４・５は球胴系甕の大形品となろう。８は須恵器身で口縁欠損する。９は内面ミガキを施す小形の半円球状の杯。10は赤彩の椀形杯。11は土製支脚である。遺物出土位置は、２・４・６が床面直上、１・６がほぼ床面出土で、他の遺物は覆土内検出である。覆土遺物が時期的に混在している。

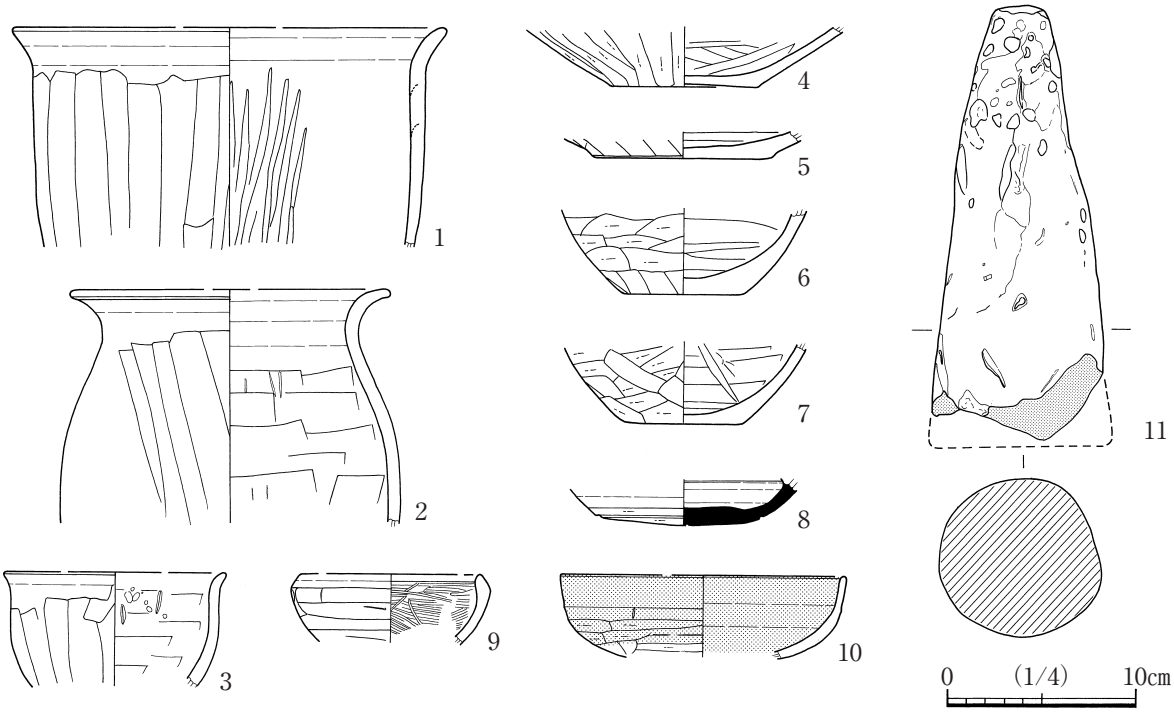
125号住居跡（第214図、図版31・126）

位置　中央調査区南側。N13・O13。　**複合切り合い関係**　単独で検出され、北西隅周辺の床面およびカマドを後世の18号溝に削平される。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　Ｎ－58°－Ｗ。　**床面規模**　7.02m（主軸）×7.08m（副軸）。　**床面積**　48.38㎡。　**残存壁高**　0.29～0.62m。　**カマド**　西辺中央に敷設され燃焼部火床の一部が残る。　**床面**　ハードローム層上に形成されている。中央部はやや高く盛り上がるが平滑で且つ堅緻である。　**壁溝**　幅８～12cm・深さ13～18cm。　**覆土**　ロームブロックや焼土ブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造である。

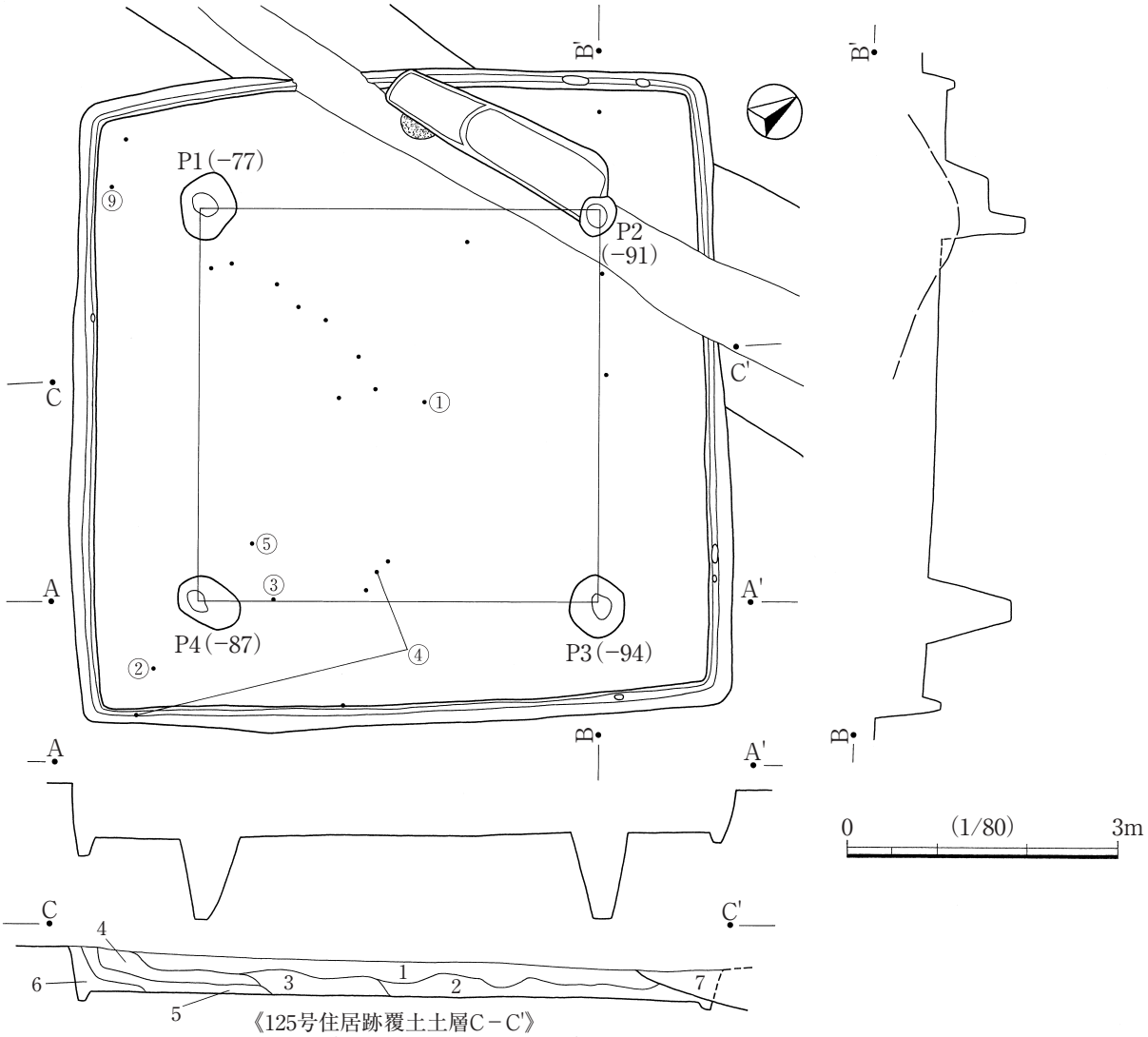
出土遺物　１は底部盤状を呈する球胴系甕底部で外面シャープな箆ケズリを施す。３は細頸を呈するハソウで胴中位に上下沈線で仕切られた間に櫛状工具による刺突文を施し、口縁を欠損するがラッパ状に大きく開くものであろう。４は内面ミガキの半円状の椀形杯。５は内外面漆塗りで光沢の有るミ



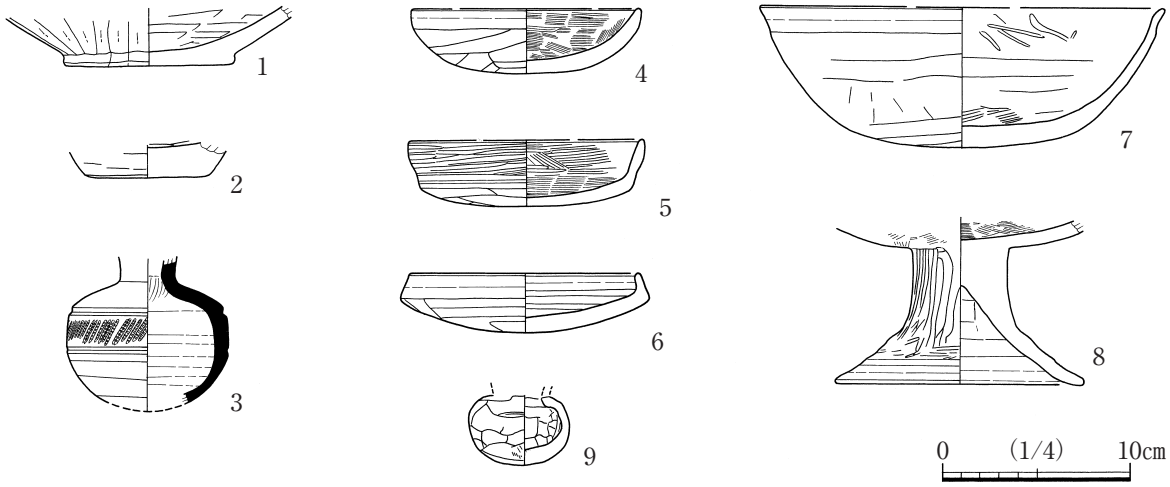
《124号住居跡覆土土層C－C'》
1 黒褐色土層。
2 暗褐色土層。ロームブロックを含む。
3 茶褐色土層。ローム粒を含む。
4 茶褐色土層。焼土と炭を少量含む。
5 茶褐色土層。粘土を少量含む。



第213図　124号住居跡と出土遺物



《125号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。ローム粒と焼土塊を少量含む。
3　黒褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒を含む。
7　溝覆土。



第214図　125号住居跡と出土遺物

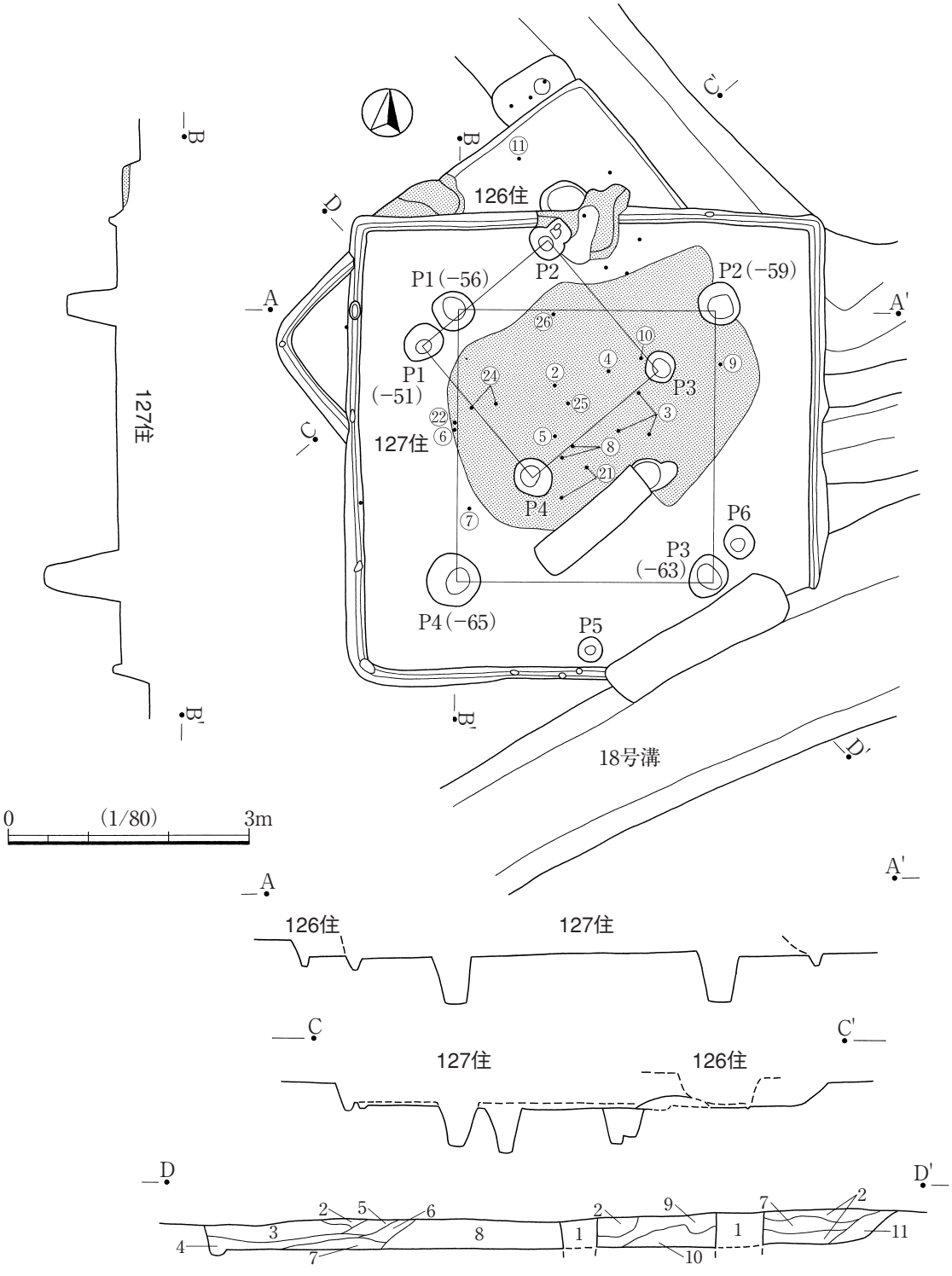
ガキを施す。6は口縁が鈍い「く」の字の稜を有し、杯身模倣杯の最終段階のものであろう。7は丸底の大形の鉢。8は高杯脚で杯内面ミガキ、脚には鈍い段を有する。9はミニチュアの壺形土器。遺物出土位置は、2・4・8が床面直上、1・3がほぼ床面から出土し、他は覆土からの出土である。5～7の覆土検出の土器も、住居跡共伴遺物と見なして差し支えないものであろう。

126号住居跡（第215・216図、図版32・126）

位置　中央調査区南側。N12。　**複合切り合い関係**　プランの大部分を127住と後世の17号溝に削平され、残る遺構は北・西の両隅および周辺床面とカマドの一部で、遺存状態は不良である。　**平面形**　方形？　**主軸方位**　N－46°－W。　**床面規模**　5.02m（副軸）で長軸は不明。　**推定床面積**　26.44㎡。　**残存壁高**　0.18～0.34m。　**カマド**　北西辺中央に敷設され、右袖を残すだけである。　**床面**　ハードローム層上に形成され、比較的平坦で堅緻である。　**壁溝**　西隅周辺に幅10cm前後・深さ8cmを残す。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　127住床面下に検出したP1～P4の4本柱構造である。　**出土遺物**　記録類が不明な為、複合する127号住居跡出土遺物と一緒に扱う。

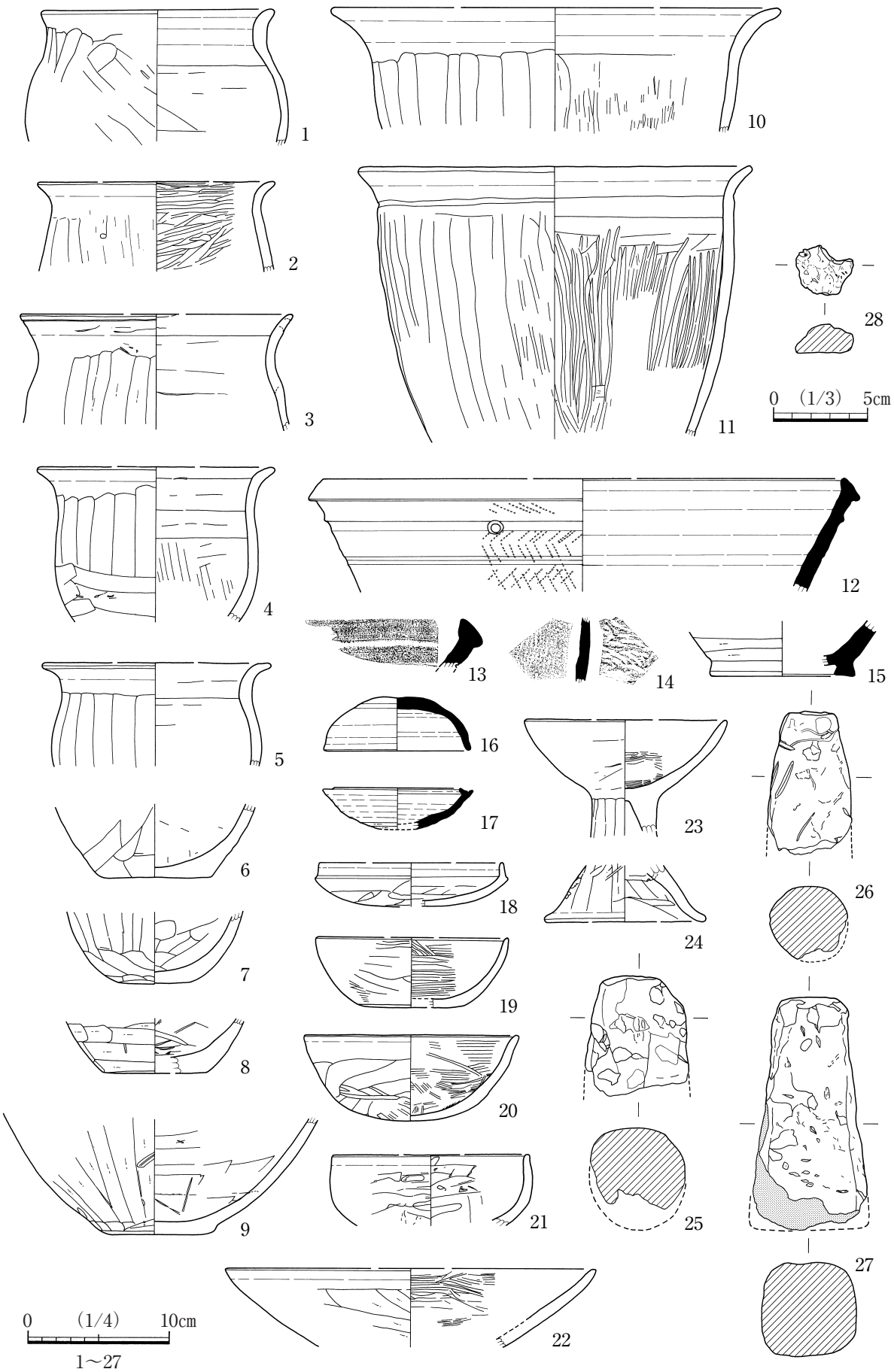
127号住居跡（第215・216図、図版32・126）

位置　中央調査区南側。N12。　**複合切り合い関係**　126住を大きく掘り込み重複し、東側上層と南東隅を後世の18号溝に削平される。また、床面中央に農作物保存用の攪乱穴がある。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－8°－W。　**床面規模**　5.62m（主軸）×5.84m（副軸）。　**床面積**　32.68㎡。　**残存壁高**　0.04～0.39m。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅8～12cm・深さ12cm前後を測り四周するものであろう。　**覆土**　後世の攪乱や溝の覆土層により不明確であるが、覆土中央に白色粘土を含む黒褐色土層が床面直上から厚く堆積する。　**主柱穴**　P1～P4の4本柱構造でP5は出入り口施設のピットであろう。　**出土遺物**　1～9は甕で外面篦ナデを基調とするが、8・9のケズリを施す甕が混在する。10・11は外面縦位篦ナデで内面には線状のミガキを施す甑であろう。12は須恵器口縁片で口唇部に面を有し口頸部に円形ボタンと櫛状工具による刺突で羽状文を施す。13は12と同様の口縁片。14は須恵器甕胴部片。15は須恵器長頸壺の底部であろう。16は半円球状の須恵器蓋ないし身であろう。17は須恵器身ないし蓋であろう。16・17は蓋と身が入れ替わる可能性もある。18は杯身模倣杯。19は平底の内面ミガキを施す杯。20は内面に弱いミガキを施す丸底の鉢。21は口縁が僅かに内湾気味で椀と思われる。22は口縁が大きく開き内面ミガキを施し、高杯であろうか。23・24は高杯で同一個体の可能性もある、23の杯内面には弱いミガキを施す。25～27は土製支脚。遺物出土位置は、1が126住居跡カマド燃焼部、11が126住居跡床面直上、24・26が127住居跡床面直上、2・3・5・7・21が127住居跡のほぼ床面、20・27が127住居跡カマド燃焼部、4・6・8・9・10・12～16・18・19・22・25・28が127住居跡覆土内から出土する。126住・127住の床面出土の遺物は正確な時期判断根拠に乏しく、127住覆土杯類は16・17・19・20と18などの新・古相に分けられ、甕も杯類ほど明確でないものの同様なことが言え。新旧の複合関係から、126住→127住が言えることから、この切り合い関係に土器の新旧関係を当て、住居跡の帰属時期の資料とする。



《126・127号住居跡覆土土層D－D'》
1　黒褐色土層。撹乱層。
2　黒褐色土層。
3　黒褐色土層。ローム粒と焼土粒を少量含む。
4　黒褐色土層。ロームブロックと焼土粒及び粘土を少量含む。
5　黒褐色土層。少量の粘土粒含む。
6　黒褐色土層。多量の粘土と焼土を少量含む。
7　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
8　粘土に黒褐色土含む。
9　黄褐色土。ローム土を多量に含む。
10　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
11　黄褐色土。ローム土にロームブロックを含む。

第215図　126号・127号住居跡



第216図　126号・127号住居跡出土遺物

128号住居跡（第217・218図、図版126）

位置　中央調査区南西側。N11。　複合切り合い関係　129住北東隅を大きく掘り込み検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－2°－E。　床面規模　3.04m（主軸）×3.41m（副軸）。　床面積　10.43㎡。　残存壁高　0.43m前後。　カマド　北辺中央に敷設される。　床面　プランの中央部は、堅く踏みしめられているが、中央部以外はやや軟らかであまり踏まれていない。　壁溝　幅9～13cm・深さ8～15cmを測り四周する。　覆土　黒色土を主体とし自然堆積状況を示すものである。　主柱穴　P1～P4の4本柱構造でP5は出入り口施設のピットであろう。

出土遺物　1は外面縦位のケズリ甕。2は横位の篦ケズリ甕。3は小形の横位篦ケズリ甕。4・5は篦ケズリ甕底部。6は台付甕口縁部であろう。7は須恵器甕片。8は市原産の永田・不入窯産の須恵器杯。9は非ロクロ土師器杯。10は内面黒色処理を施した杯。11は刀子茎部か？

住居跡共伴遺物は、1・3・4・5・8などがカマド燃焼部などから出土し、住居跡の帰属時期を示す資料となろう。

129号住居跡（第217・219図、図版32・127）

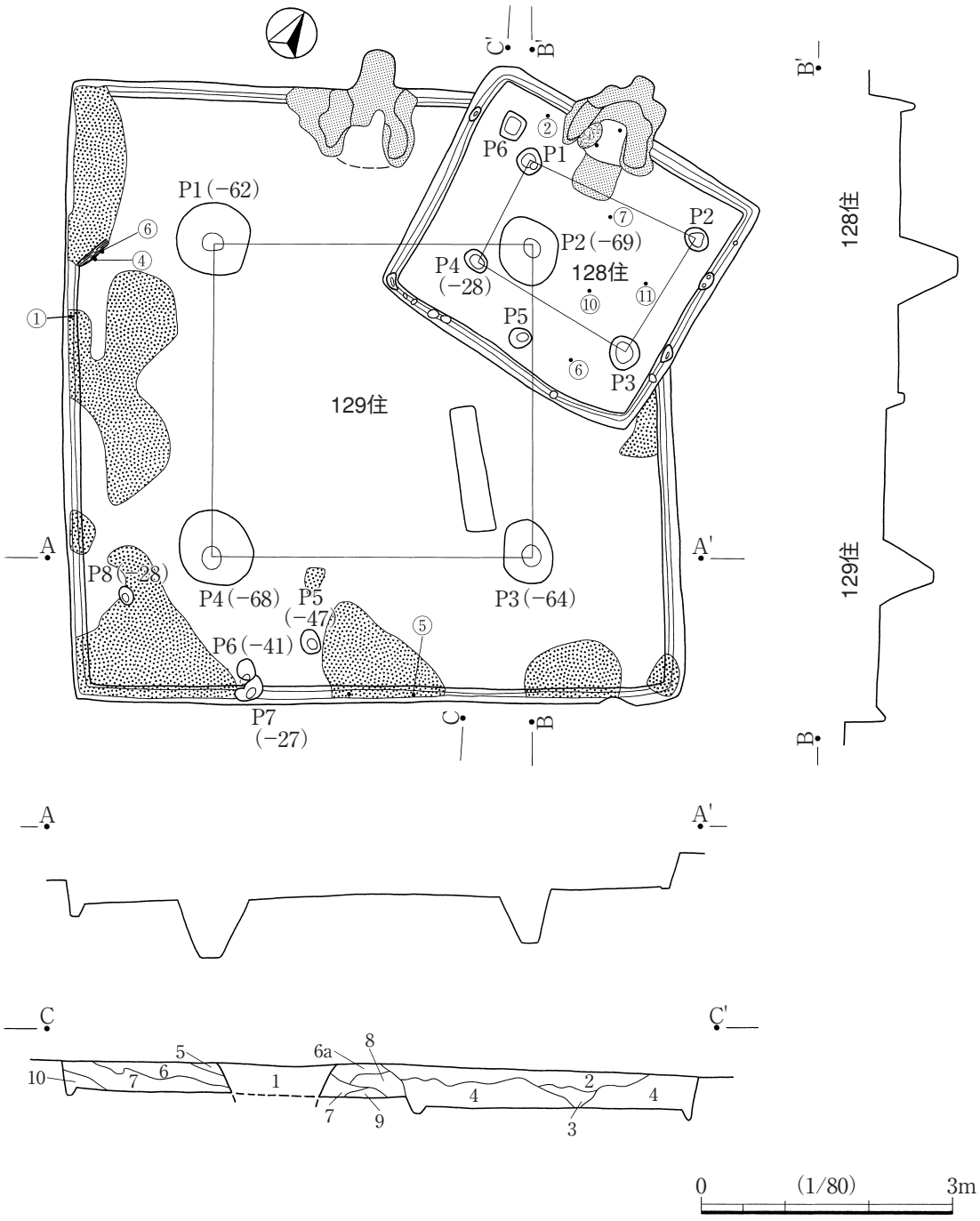
位置　中央調査区南西側。N10・N11・O11。　複合切り合い関係　北東隅および床面を128住に大きく掘り込まれる。　平面形　方形。　主軸方位　N－32°－W。　床面規模　7.25m（主軸）×7.06m（副軸）。　床面積　50.62㎡。　残存壁高　0.30～0.42m。　カマド　北西辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され中央部にはやや凹凸が目立つが、比較的平滑で堅緻である。　壁溝　幅10～15cm・深さ8～15cmを測り四周する。　覆土　床面直上に焼土が広範囲に堆積し、また、黄褐色を主体とするローム土が確認され埋め戻された状況を呈する。　主柱穴　P1～P4の4本柱構造である。

出土遺物　1は須恵器小鉢。2・3は須恵器甕片。4は球胴甕底部。5は平底気味の受部稜の鈍い杯身模倣杯で内面ミガキを施す。6は内面ミガキの半円状の扁平気味な杯。7・8は土製支脚である。遺物出土位置は、1・4・5・6・7などがカマド燃焼部や床面直上などから出土し住居跡の帰属時期を示す資料となろう。

130号住居跡（第220図、図版32・127）

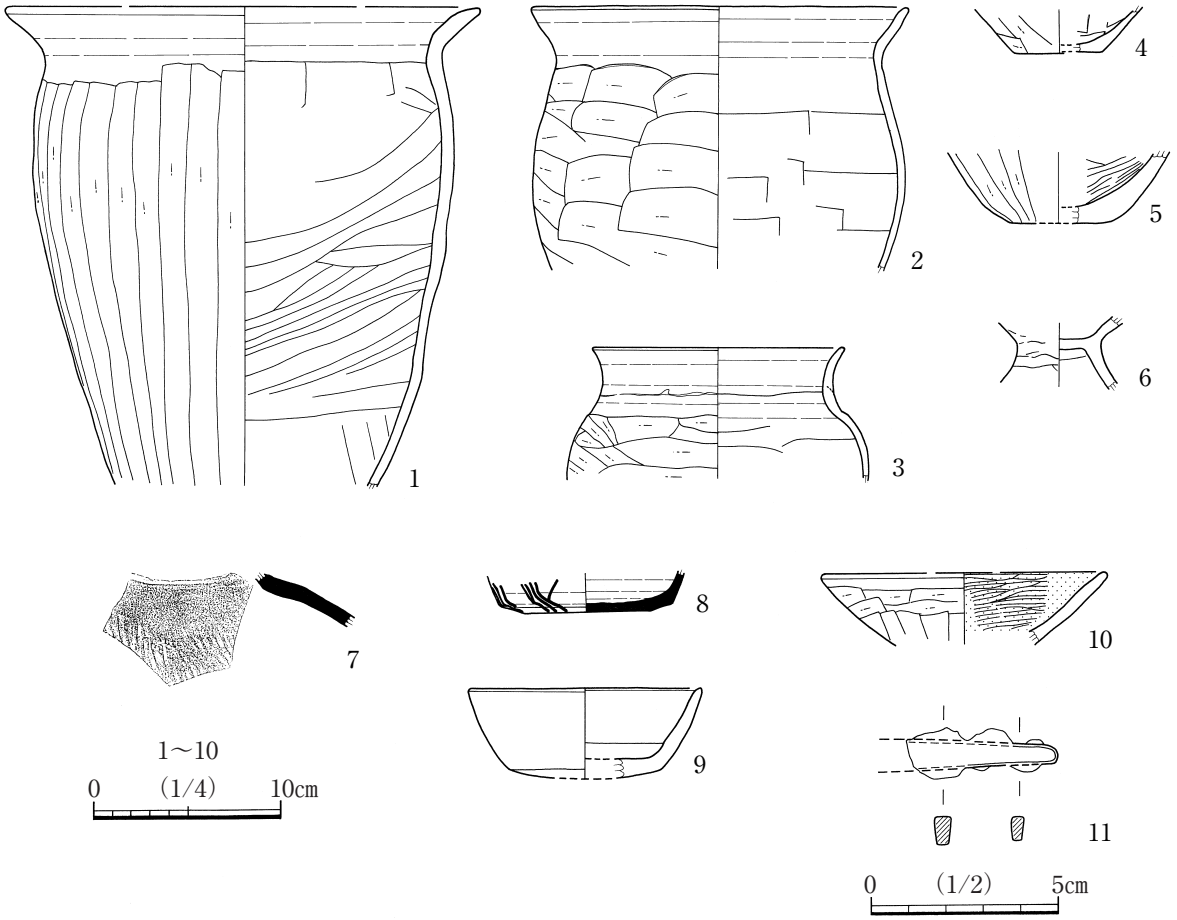
位置　中央調査区南西側。N11・N12・O11・O12。　複合切り合い関係　北西隅で129住と接し、南辺東半分を攪乱されるが、単独で検出。　平面形　方形。　主軸方位　N－1°－W。　床面規模　3.78m（主軸）×3.94m（副軸）。　床面積　14.64㎡。　残存壁高　0.19～0.33m。　カマド　北辺中央に設けられる。　床面　張床であるが、平滑で堅く踏みしめられている。特にカマド周辺からプランの中央部にかけて堅緻である。　壁溝　幅8～12cm・深さ4～11cmで四周するものであろう。　覆土　不明。　主柱穴　P1～P4の4本柱構造で、P5は出入り口ピット、P6はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。

出土遺物　1は口縁が短く外反する胴外面不規則なケズリ甕。2は胴外面縦位のケズリ甕。3は内面黒色処理の半円状の杯。4・5は杯身模倣杯で4の内面はミガキを施す。6・8は内湾気味の鉢。7はやや歪んだ半円球状の小形鉢。9は管状の土製支脚である。遺物出土位置は、1・4・6・8・9

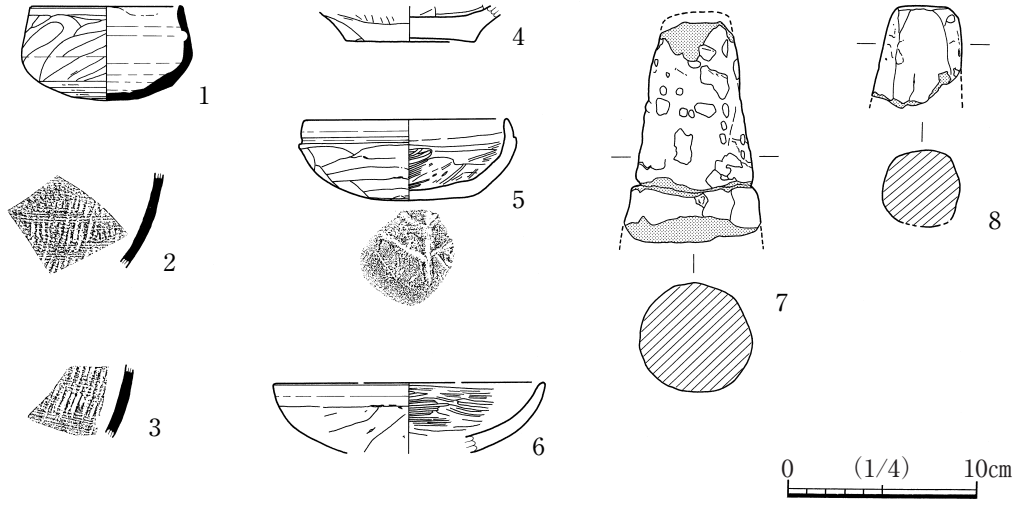


《129号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。撹乱層。
2　黒色土層。
3　黒色土層。ローム粒を少量含む。
4　黒色土層。ロームブロックを含む。
5　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
6　黒色土層。少量のローム粒含む。
6a　第6層に似るが少し硬質。
7　黄褐色土層。
8　黒色土層。焼土粒を少量含む。
9　黒褐色土層。多量の焼土粒を少量含む。
10　暗黄褐色土層。多量の焼土粒を少量含む。

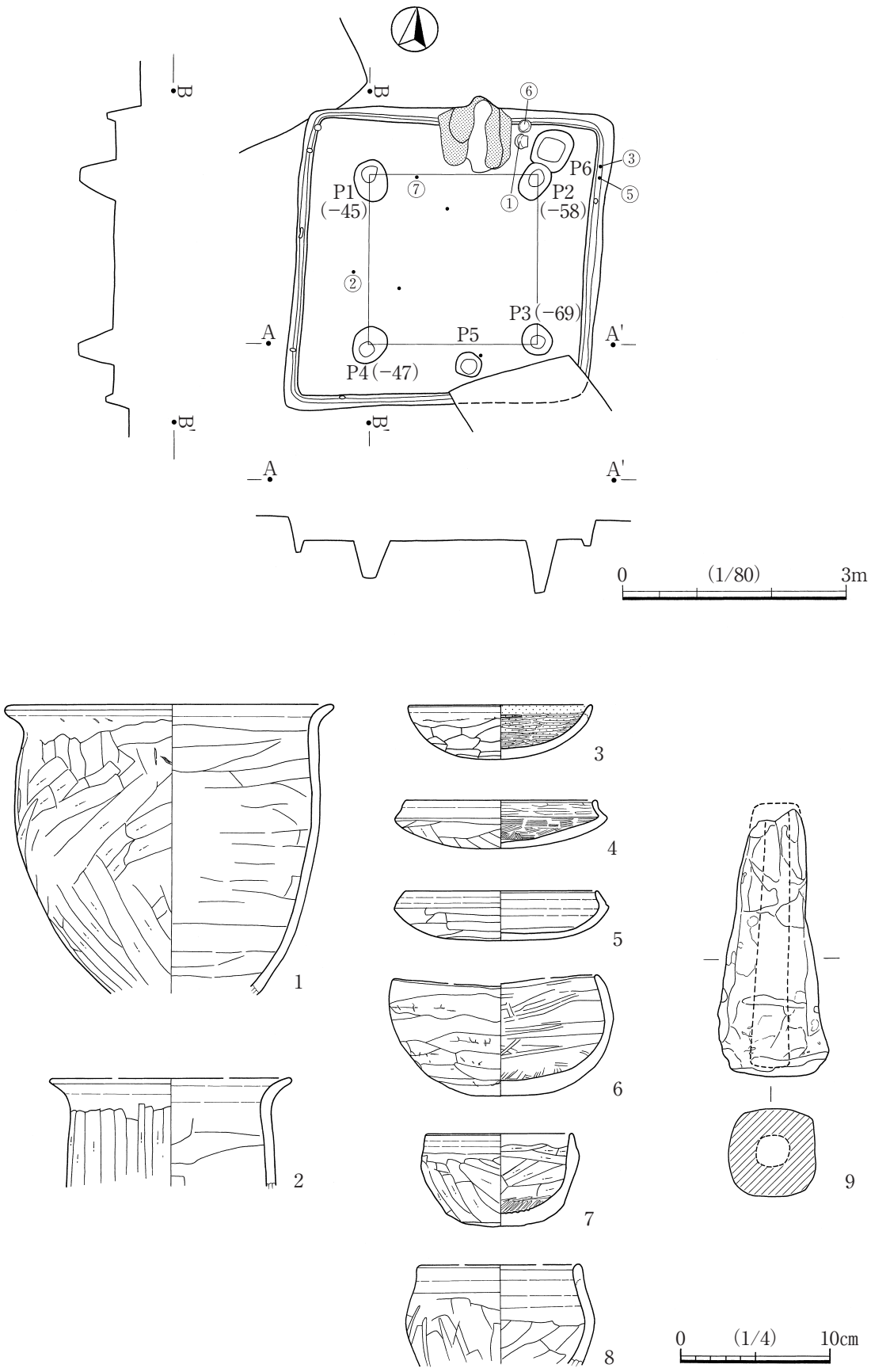
第217図　128号・129号住居跡



第218図　128号住居跡出土遺物



第219図　129号住居跡出土遺物



第220図　130号住居跡と出土遺物

がカマド燃焼部や覆土、２・７がほぼ床面、３が壁溝内から出土する。４・５の古相の杯身模倣杯と３・７にはやや時期差が認められが、住居跡共伴遺物で、住居跡の帰属を示すものであろう。

131号住居跡（第221・222図、図版32・33・127）

位置　中央調査区南西側。P12・P13。　複合切り合い関係　単独で検出し、東南辺は調査区域外と接する。　平面形　方形。　主軸方位　N－54°－E。　床面規模　6.41m（主軸）×6.31m（副軸）。　床面積　40.80㎡。　残存壁高　0.36～0.50m。　カマド　北東辺中央から南に寄って設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、堅緻で且つ平滑である。　壁溝　幅７～13cm・深さ３～６cmを測り四周する。　覆土　床面直上に焼土含む茶褐色土層が僅かに確認でき火災住居跡の様相を呈する。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造で、それぞれ掘直しが認められ、柱間をやや広げ建て替えがおこなわれた住居であろう。Ｐ５・Ｐ６は出入り口ピットであろう。

出土遺物　１は胴外面斜位の篦ケズリを施す中胴甕。２は口縁がやや長く外反し、外面篦ナデにミガキ状ナデを施す中胴甕。３はやや突出気味の底部で外面篦ケズリの中胴甕。４～７は赤彩の椀形高杯で、４・５の脚裾部は鈍く屈曲する。８・９は砥石で、８は一方を欠損するが面取りが比較的定角を呈し鉄器用砥石と判断できる。また、９は摩面が僅かに凹凸面を呈し非鉄器砥石と思われる。

遺物出土位置は、１・２がＰ７の貯蔵穴内、４・５・７が床面直上、３がほぼ床面、６が壁溝内から出土し、８・９の砥石は覆土内である。全て住居跡に共伴する遺物である。

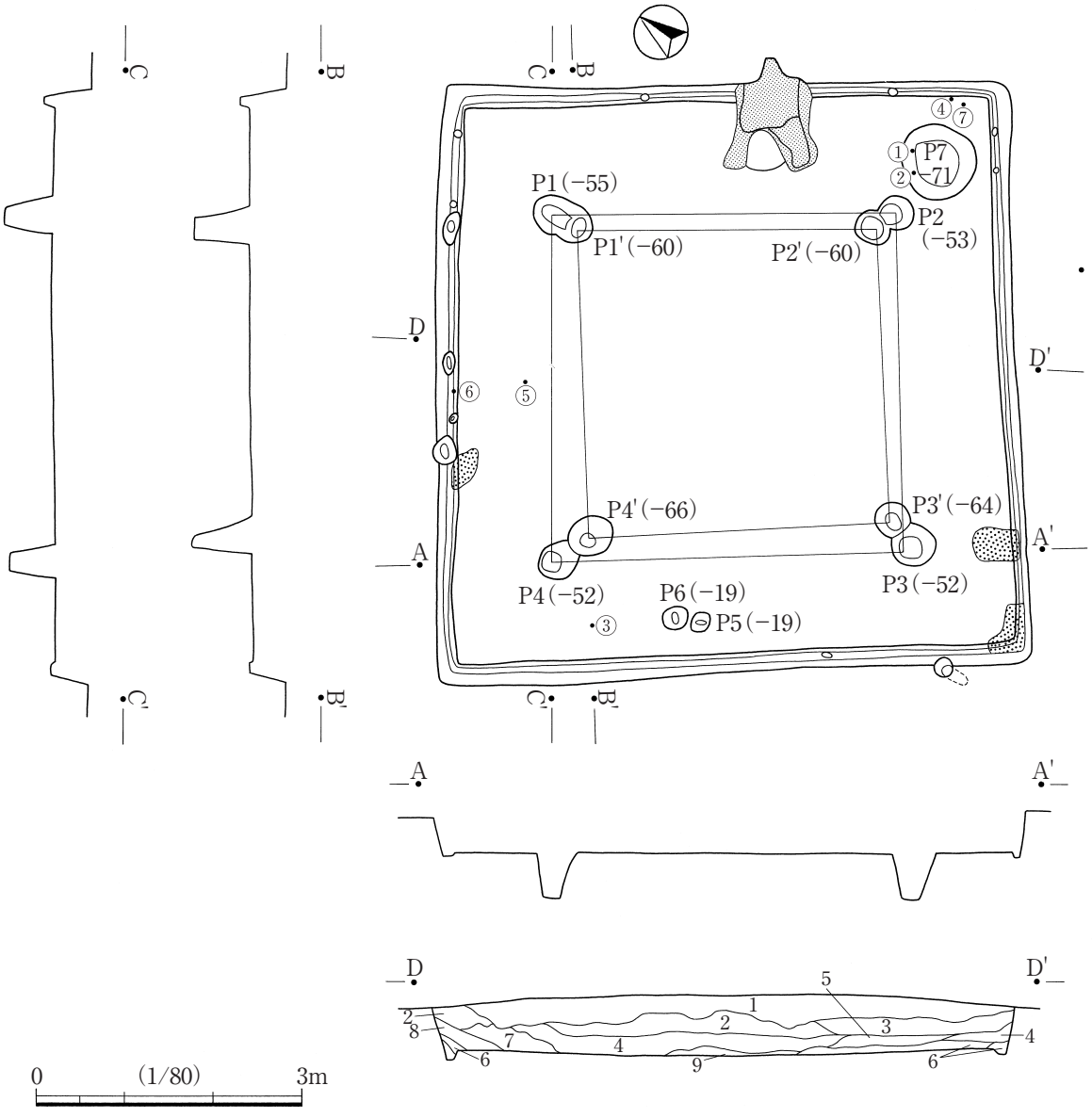
132号住居跡（第223図、図版33・128）

位置　中央調査区南西側。P11。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　各辺長がやや異なり不整な方形を呈する。　主軸方位　N－13°－E。　床面規模　3.62m（主軸）×3.84m（副軸）。　床面積　13.49㎡。　残存壁高　0.33～0.42m。　カマド　北辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、堅緻で且つ平滑である。　壁溝　幅８～12cm・深さ６～８cmを測り四周する。　覆土　概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造で、Ｐ５は出入り口ピットである。

出土遺物　１・２は須恵器大甕片で１はカマド燃焼部から出土し、カマド補強材に使用されたものであろう。３・４は口縁が大きく外反し口唇部を僅かに上方に摘み出す、胴外面縦位の篦ケズリを施す。５は箱形の須恵器高台付杯。６・７は非ロクロ土師器杯。８は定角の２面に研磨面を有する鉄器用砥石。９は変換線に丸味を有し、断面鈍い台形の紡錘車である。10は目釘が認められる手鎌である。遺物出土位置は、１・３・４・６・８がカマド燃焼部、５がほぼ床面、２は壁に接して出土し、他は覆土からの検出である。また、覆土検出の６・７の杯も住居跡共伴遺物であろう。

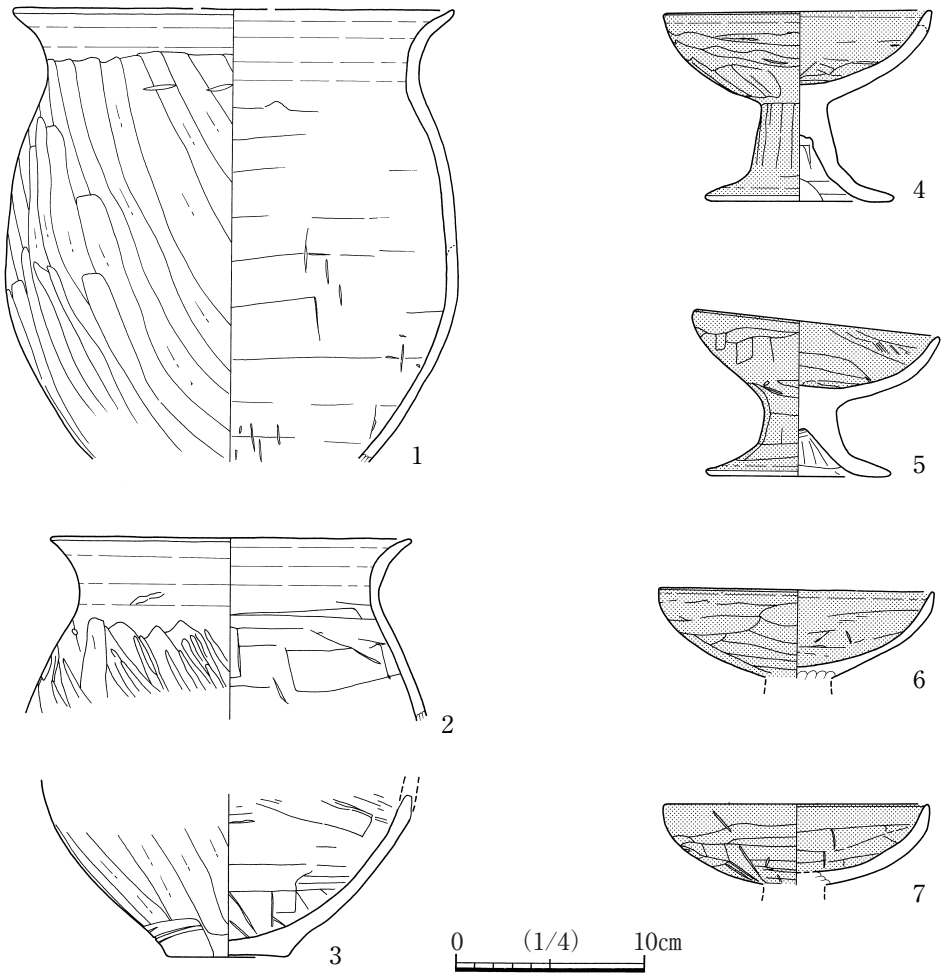
133号住居跡（第224～226図、図版33・128）

位置　西調査区東南側。Ｎ９・N10。　複合切り合い関係　134住床面を大きく掘り込み検出する。　平面形　各辺長がやや異なり不整な方形を呈する。　主軸方位　N－10°－W。　床面規模　2.38m（主軸）×2.76m（副軸）。　床面積　6.46㎡。　残存壁高　0.19～0.32m。　カマド　北辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、堅緻で且つ平滑である。　壁溝　西と南辺に幅

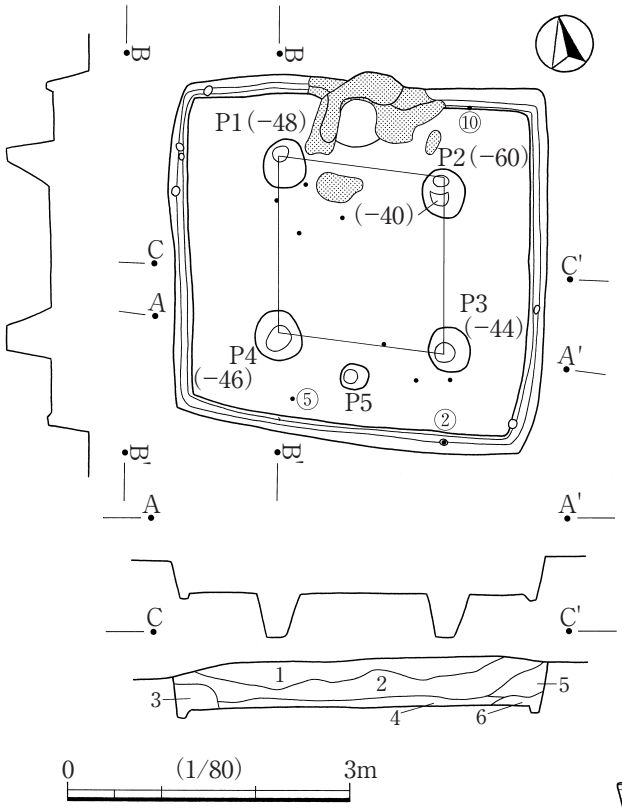


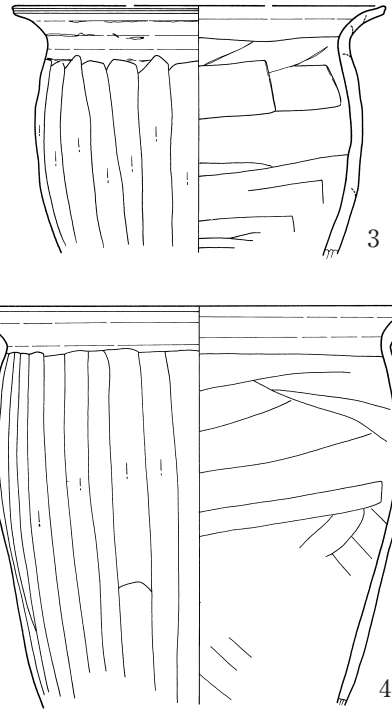
《131号住居跡覆土土層D－D'》
1　黒褐色土層。茶褐色土ブロックを斑点状に含む。
2　黒褐色土層。
3　黒褐色土層。
4　黒色土層。
5　茶褐色土層。少量のロームブロック混入。
6　茶褐色土層。焼土を少量含む。
7　黒色土層。炭粒とロームブロックを少量含む。
8　黄褐色土層。粘土を含む。
9　黒褐色土層。ローム粒を霜降り状に含む。

第221図　131号住居跡



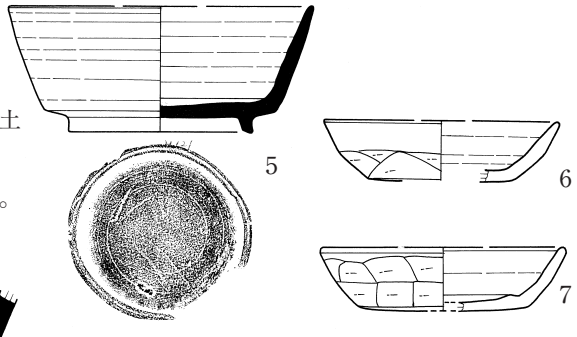
第222図　131号住居跡出土遺物

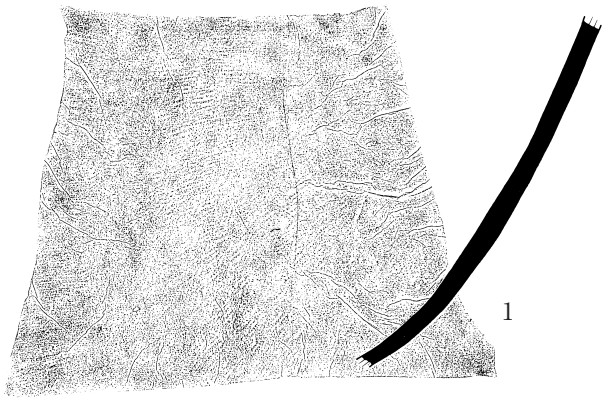


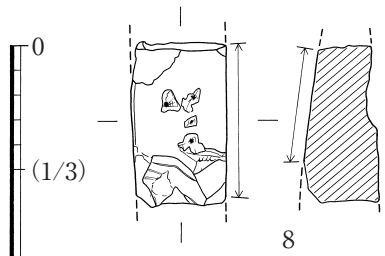


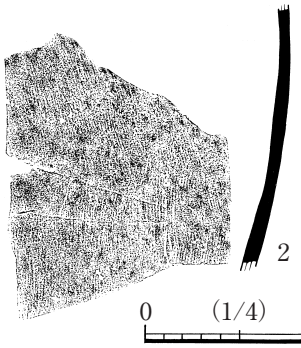
0 (1/80) 3m

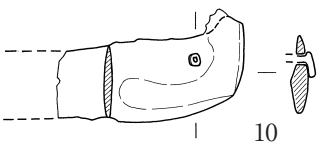
《132号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒色土層。淡褐色土ブロックを斑点状とローム粒及び焼土粒を少量含む。
3　茶褐色土層。
4　茶褐色土層。粘土ブロックとロームブロックを少量含む。
5　黒褐色土層。第1層に似る。
6　黄褐色土層。

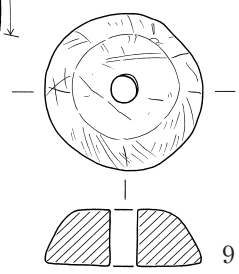












0 (1/4) 10cm　1～7

0 (1/2) 5cm　9・10

第223図　132号住居跡と出土遺物

８～12cm・深さ６～８cmを計測する。　覆土　不明。　主柱穴　不規則にＰ１～Ｐ５を検出するだけで規則的な主柱穴は認められない。

出土遺物　１は外面篦ケズリの甕胴下半。２は胎土に雲母粒を含み体部下端および底部手持ち篦ケズリを施し、新治産の須恵器杯と思われる。３は回転篦ケズリを施すロクロ土師器杯で内面に見込みが明瞭に認められる。４・５は体部および底部に手持ち篦ケズリを施す非ロクロ土師器杯である。遺物出土位置は、１・４がカマド燃焼部、５が床面直上、３がほぼ床面、２が覆土から出土する。２は覆土の遺物であるが住居跡に共伴する遺物であろう。

134号住居跡（第224・225図・227、図版33・128）

位置　西調査区東南側。N10・O10。　複合切り合い関係　北西隅を133住に南半分を135住にそれぞれ大きく掘り込まれ検出する。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－26°－Ｗ。　床面規模　6.08m（副軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.32m前後。　カマド　北西辺中央に設けられるが左袖部は133住に掘り込まれる。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅８～12cm・深さ８cm前後を測り検出カ所では回る。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造である。

出土遺物　１・２は胴外面縦位ケズリ甕。３は短頸壺で胴外面篦ナデを施す。４はやや深めの杯蓋模倣杯。５は内外面にミガキを施す底体部の浅い杯蓋模倣杯。６は丸い稜を有する杯身模倣杯。７は平底の小形杯である。遺物出土位置は、１がカマド燃焼部、５・７がカマド右袖のＰ５内、２・３・６が床面直上、４が覆土からの出土である。４は覆土の遺物であるが住居跡に共伴する遺物であろう。

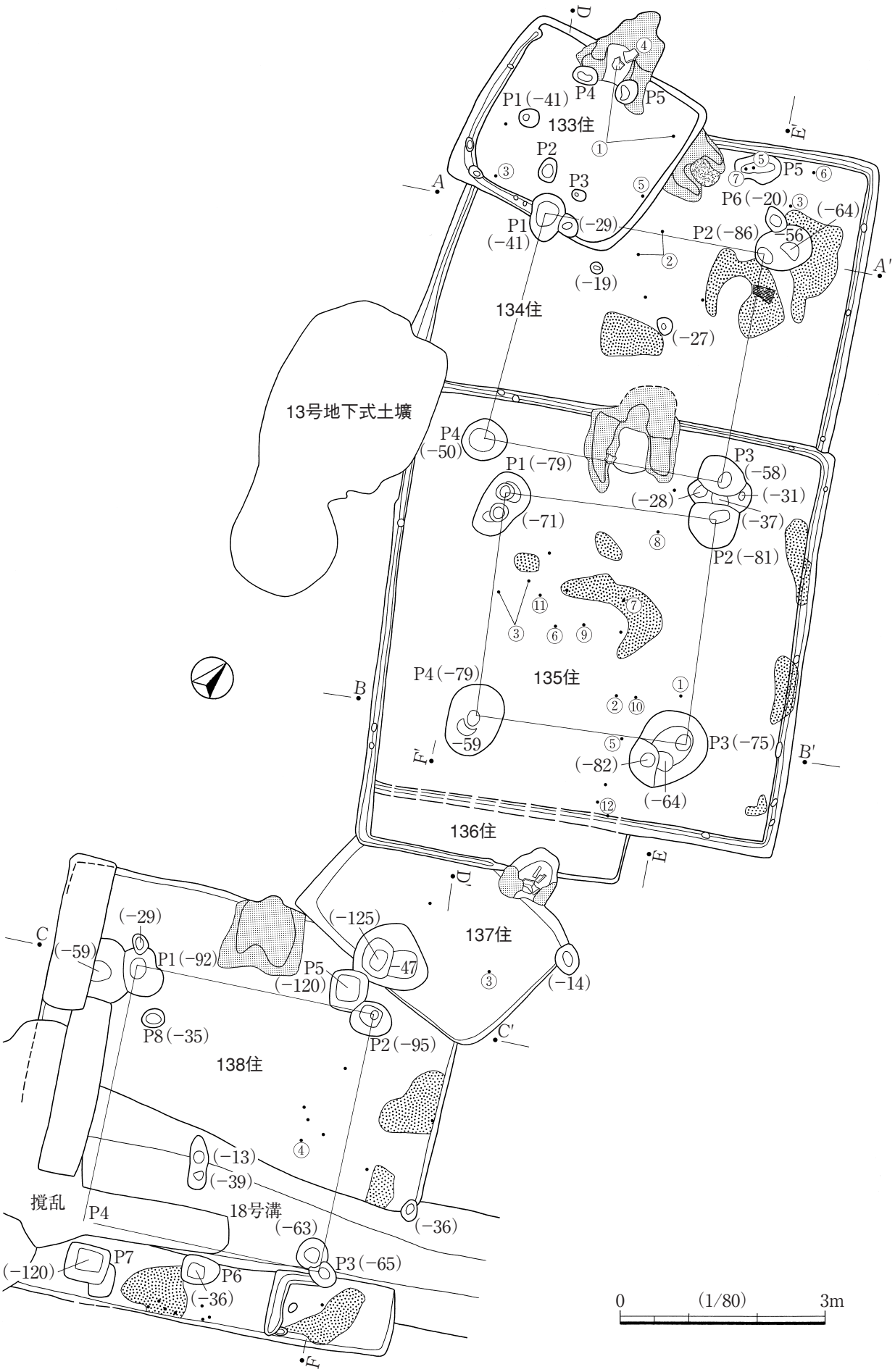
135号住居跡（第224・225・228図、図版33・128・129）

位置　西調査区東南側。N10・O10。　複合切り合い関係　北側で134住を南側で136住をそれぞれ掘り込み検出する。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－36°－Ｗ。　床面規模　6.14m（主軸）×6.10m（副軸）。　床面積　37.97㎡。　残存壁高　0.22～0.34m。　カマド　北西辺中央に設けられる。　床面　ソフトローム層上に形成され、比較的堅く踏みしめられている。特に中央部はカマドが堅く踏みしめられている。　壁溝　幅８～12cm・深さ８cm前後を計測し136住複合カ所で未検出の他は回る。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でそれぞれに掘替えの跡が認められる。

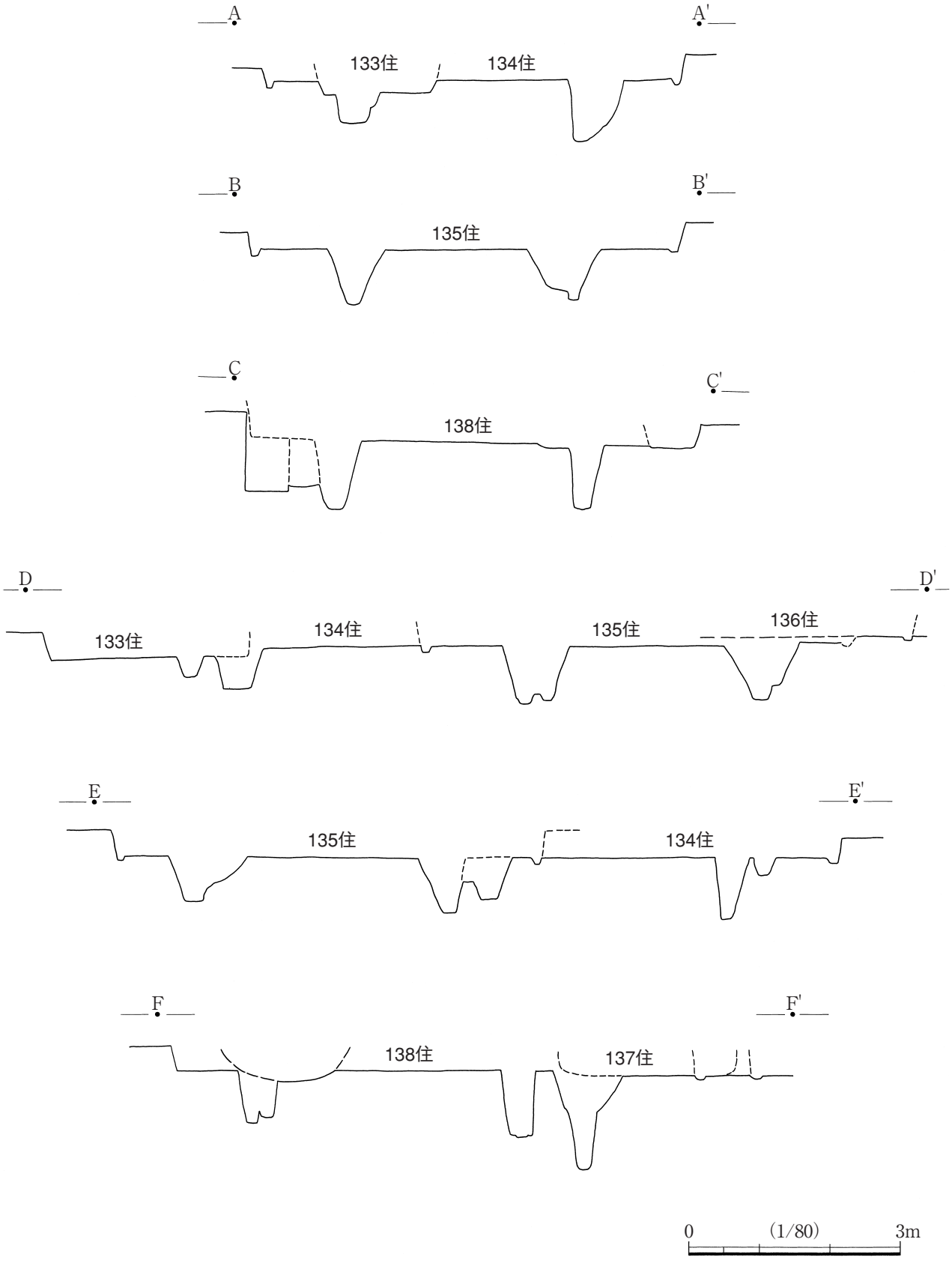
出土遺物　１・２は胴外面縦位ケズリ甕で、１は底部を欠損し胴長気味である。３は口縁が短く外反し、外面篦ケズリの球胴甕。４は口縁が長く外反する球胴甕で口唇は「コ」の字状を呈する。５～７は甕底部で５は突出気味となる。８は内面ミガキの小形杯で底部に木の葉痕を残す。９は平底気味の鉢。10はロクロ土師器杯底部。11・12は高杯脚部で脚柱は長めで太く裾は短く外反する。13は径3.6cmの土玉である。遺物出土位置は、１・５・11が床面直上、２・３・６・７・８・10・12がほぼ床面からの出土で４・13は覆土中の出土である。覆土検出の４・13も本住居跡の帰属を示す資料と言えるが、10は混入遺物である。

136号住居跡（第224・225・228図、図版128・129）

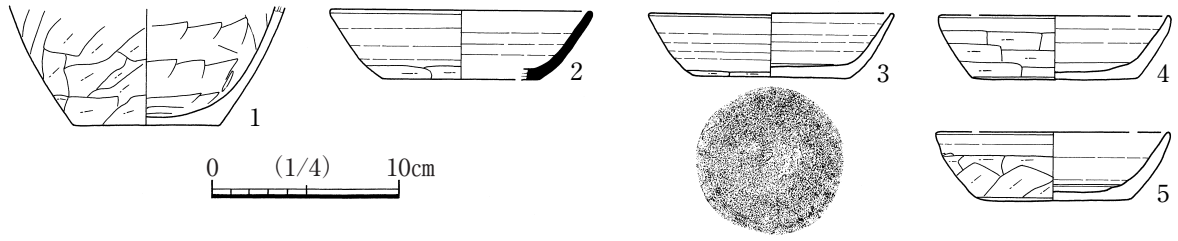
位置　西調査区東南側。O10。　複合切り合い関係　プラン北側を大きく135住に削平され、また南



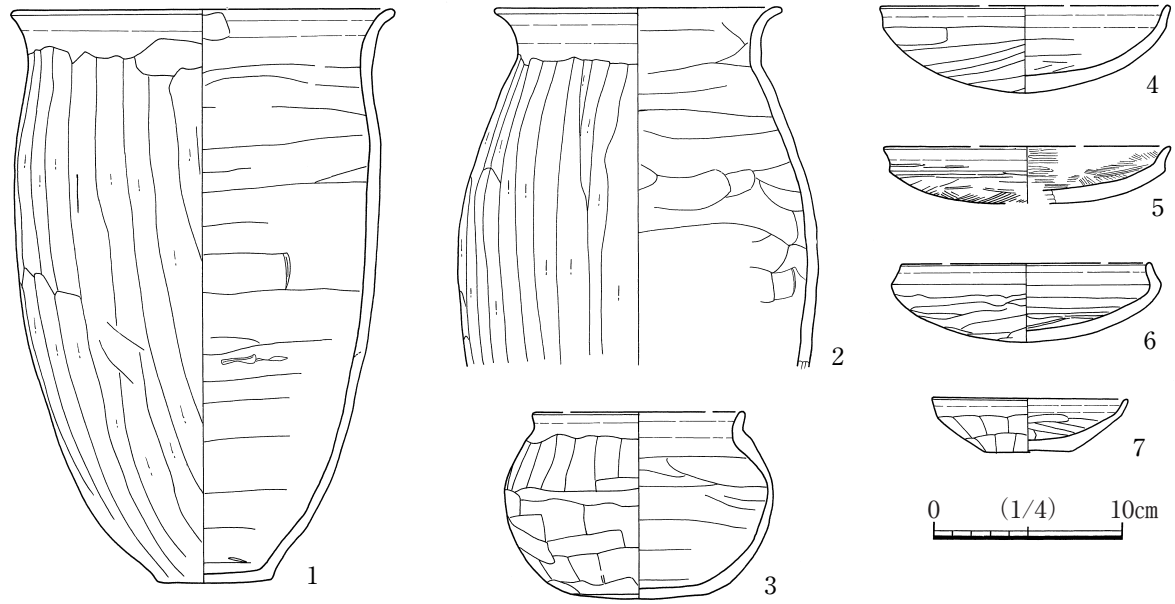
第224図　133号～138号住居跡



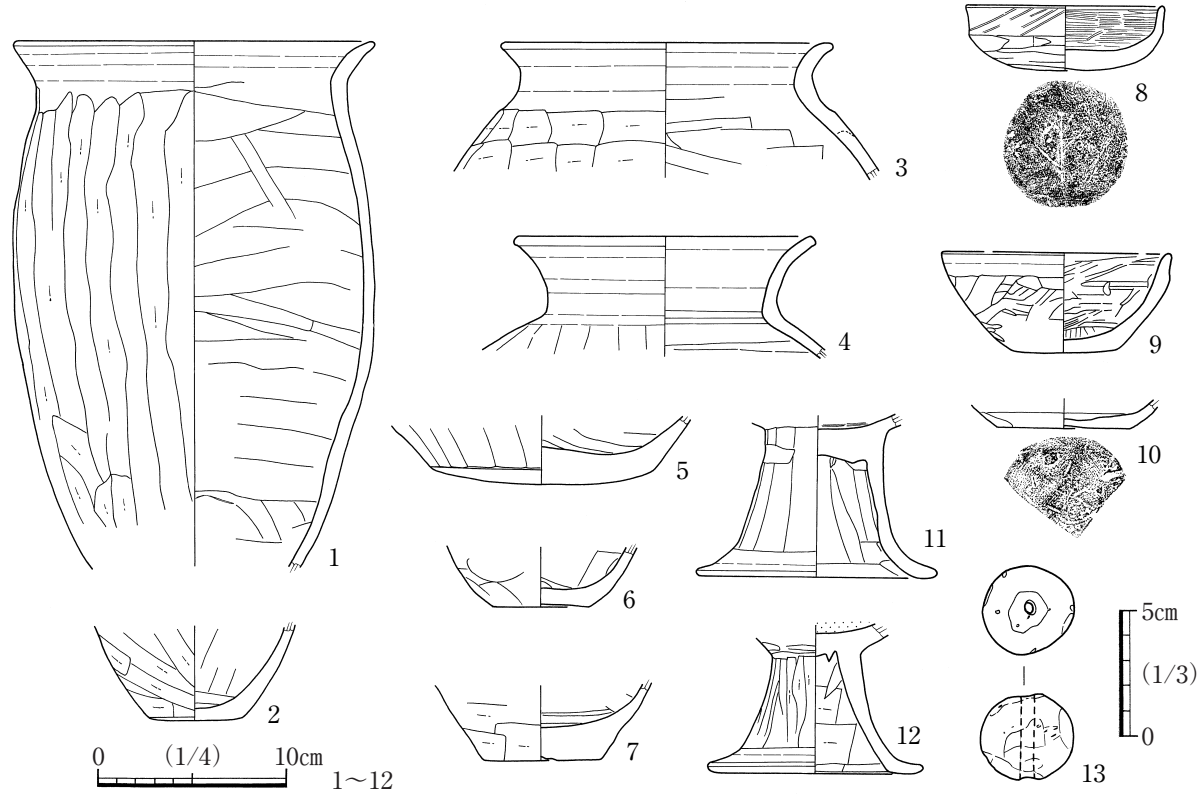
第225図　133号～138号住居跡断面図



第226図　133号住居跡出土遺物



第227図　134号住居跡出土遺物



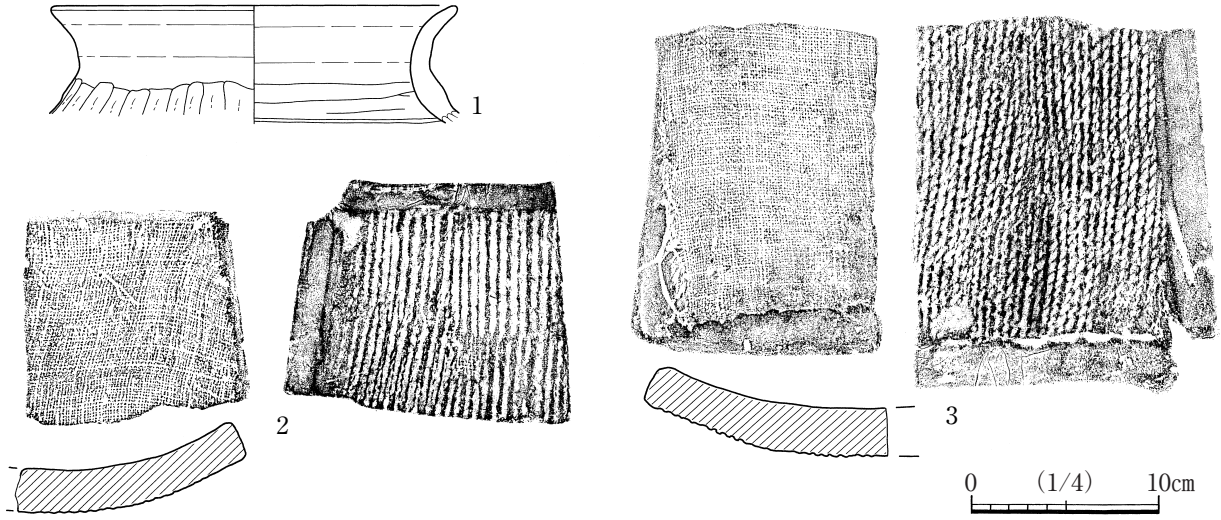
第228図　135号・136号住居跡出土遺物

側上層に137住が重複する。　平面形　方形？。　主軸方位　不明。　床面規模　4.00m（副軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.30m。　カマド　不明。　壁溝　南辺西半分と西辺に検出。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。
出土遺物　帰属を示す資料の出土は無い。

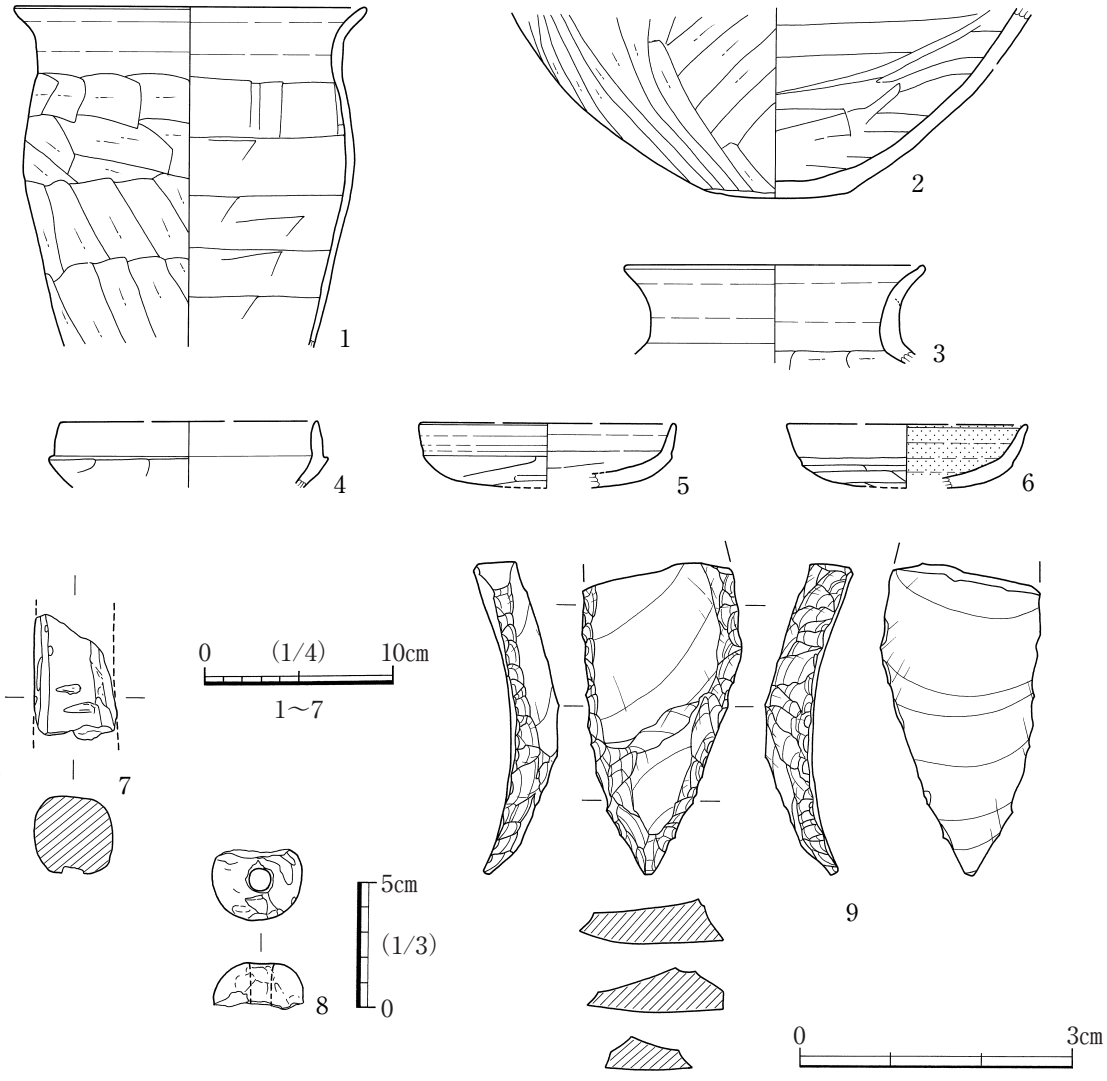
137号住居跡（第224・225・229図、図版129）
位置　西調査区東南側。O10。　複合切り合い関係　プラン北側で136住覆土上層に床面を構築し、南西で138住を掘り込み検出する。　平面形　横方形。　主軸方位　N－2°－E。　床面規模　3.32m（主軸）×2.42m（副軸）。　床面積　7.72㎡。　残存壁高　0.31m前後。　カマド　北辺中央から東に寄って設けられる。　床面　ソフトローム層上に形成され、あまり堅く踏まれた形跡はない。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。
出土遺物　1はカマド燃焼部から出土した甕口縁部で外面縦位箆ケズリを施す。2・3は平瓦である。何れの遺物も住居跡共伴遺物である。

138号住居跡（第224・225・230図、図版34・129）
位置　西調査区東南側。O10・P10。　複合切り合い関係　プラン北東隅を137住に掘り込まれ、南側中央は東西に走る後世の18号溝に、西辺は芋穴に攪乱される。　平面形　方形。
主軸方位　N－30°－W。　床面規模　6.10m（主軸）×6.06m（副軸）。　推定床面積　36.83㎡。　残存壁高　0.20～0.39m。　カマド　北西辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成されており、堅緻であるが中央には凹凸が目立つ。　壁溝　検出されない。　覆土　床面直上に広範囲に焼土が堆積し火災住居跡であろう。　主柱穴　P1～P4の4本柱構造と思われるがP4は攪乱され未検出である。
出土遺物　1は胴外面横位の箆ケズリを施す肉薄の甕。2は胴外面箆ケズリの球胴甕下半。3は口縁が長く外反する甕。4は受部稜がシャープで口縁立ち上がりも長めの杯身模倣杯。5・6は杯蓋模倣杯で6の内面には黒色処理を施す。7は土製支脚片。8は土玉。9はナイフ形石器である。遺物出土位置は、1・2がカマド燃焼部、4がほぼ床面で他は覆土出土との記録がある。しかしながら1の甕については複合する137住カマドと誤認した可能性がある。4の杯身模倣杯が住居跡の帰属を示す良好な資料となり、覆土出土の5・6の杯蓋模倣杯や3の甕も同一時期と見なすことができよう。

139号住居跡（第231・232図、図版129）
位置　中央調査区最南端。P11・Q11。　複合切り合い関係　南東隅で140住壁を掘り込み検出し、上層に近世の道が存在する。　平面形　方形。　主軸方位　N－17°－E。　床面規模　3.54m（主軸）×3.65m（副軸）。　床面積　12.93㎡。　残存壁高　0.29～0.42m。　カマド　北辺中央に設けられる。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅8～10㎝・深さ7～12㎝を測り、東と南壁に設けられる。　覆土　上層に古道が存在し、やや不規則な堆積状況を示す。また、東辺に接し焼土を検出し火災住居跡の可能性がある。　主柱穴　P1～P4の4本柱構造であるが、主柱穴を結ぶ平面は逆台形を呈する。また、P1・P4には掘り直しを確認できる。



第229図　137号住居跡出土遺物



第230図　138号住居跡出土遺物

出土遺物　１は口縁「く」の字を呈し胴外面縦位箆ケズリ甕。２は須恵器甕片で内面に研磨が認められる事から転用硯であろう。３～７は、体部および底部手持ち箆ケズリを施す非ロクロ土師器杯で、３はやや出尻気味である。７は土製支脚断片。８は平瓦片。遺物出土位置は、１・２が床面直上、３・５がほぼ床面で４も同様と見なして良い。

140号住居跡（第231・233図、図版130）

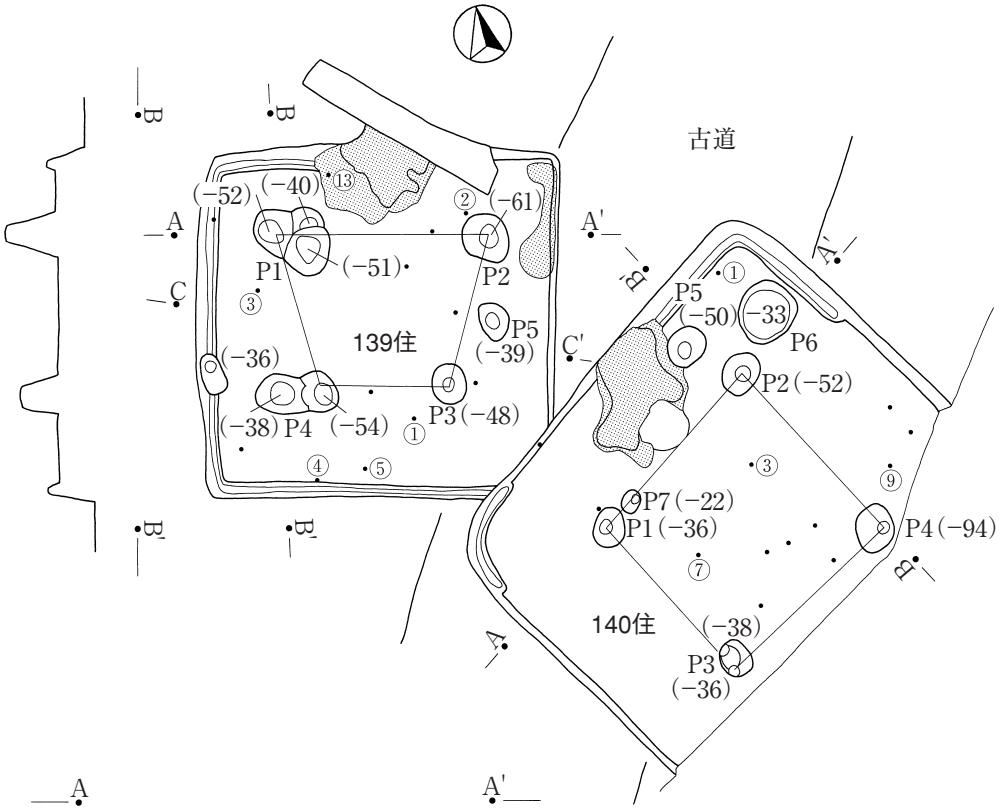
位置　中央調査区最南端。Q11・Q12。　複合切り合い関係　北辺西側で139住に壁を掘り込まれ南辺を調査区域外に置く。上層に道状の硬化面を検出し、近世の古道の存在を思わせるものである。
平面形　隅円方形。　主軸方位　Ｎ－30°－Ｗ。　床面規模　4.50m（主軸）×4.56m（副軸）。
推定床面積　20.50㎡。　残存壁高　0.37～0.54m。　カマド　北西辺中央に設けられる。　床面　総体的に平滑で堅く踏みしめられているが、カマドの周辺から中央部にかけて特に堅緻である。　壁溝　幅15cm前後・深さ４～８cm。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造でＰ５はカマド右袖に接して設けられた円形の貯蔵穴である。
出土遺物　１は口縁「く」の字を呈し胴外面縦位箆ケズリ甕。２は外面ケズリ状箆ナデを施す甕。３は、外面ケズリ状箆ナデを施す中胴甕。４・５は口縁が短く外反し、外面斜位の箆ケズリを施す。６は外面斜位のミガキを施す球胴甕。７はケズリ甕底部。８は箆ナデ甕底部。10は半円球状の須恵器蓋か。11は口縁が短く内径し、小型化する須恵器身。12は内面黒色処理の杯蓋模倣杯。13は土製支脚。14は軽石片である。遺物出土位置は、６が床面直上、３・７がほぼ床面、他は覆土からの出土である。覆土検出の１～５の甕も住居跡共伴遺物であろう。覆土の10～12の杯類は混入遺物であろう。

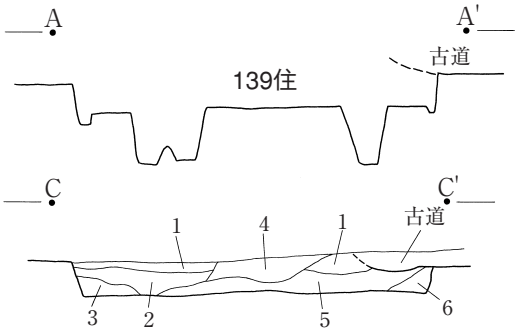
141号住居跡（第234図、図版34・130）

位置　中央調査区最南西端。P10・Q10。　複合切り合い関係　南側で142住床面を大きく掘り込む。また、東側には中世の地下式土壙と大規模な竪穴状の台地整形痕が認められる。　平面形　方形。
主軸方位　Ｎ－38°－Ｗ。　床面規模　3.58m（主軸）×3.34m（副軸）。　床面積　11.59㎡。　残存壁高　0.23～0.40m。　カマド　竪穴状の台地整形跡に削平されたものと思われ、北西辺に設けられたものと推測する。　床面　比較的堅く踏みしめられている。　壁溝　幅８～10cm・深さ９～13cm。　覆土　床面全体に焼土および炭化材が認められ火災住居跡である。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４本柱構造である。
出土遺物　141住と142住は複合し、遺物取り上げが一括であることから142住で取り扱う。

142号住居跡（第234図、図版34・130）

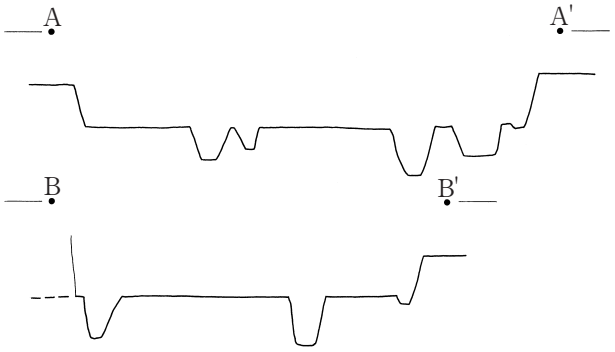
位置　中央調査区最南西端。Q10。　複合切り合い関係　北東で141住に、北西側で地下式土壙乃至攪乱穴と思われる遺構にそれぞれ床面を大きく掘り込まれる。　平面形　方形？　主軸方位　不明。
床面規模　3.6m。　床面積　不明。　残存壁高　0.20m。　カマド　不明。　床面　軟弱であまり踏みしめられていない。　壁溝　幅８～20cm・深さ10cm前後。　覆土　不明。　主柱穴　４本柱構造のうち２穴を検出する。
出土遺物　１は盤状に突出する甕底部。２は有段口縁杯口縁部片。３は肉厚の半円球状の杯。４～５





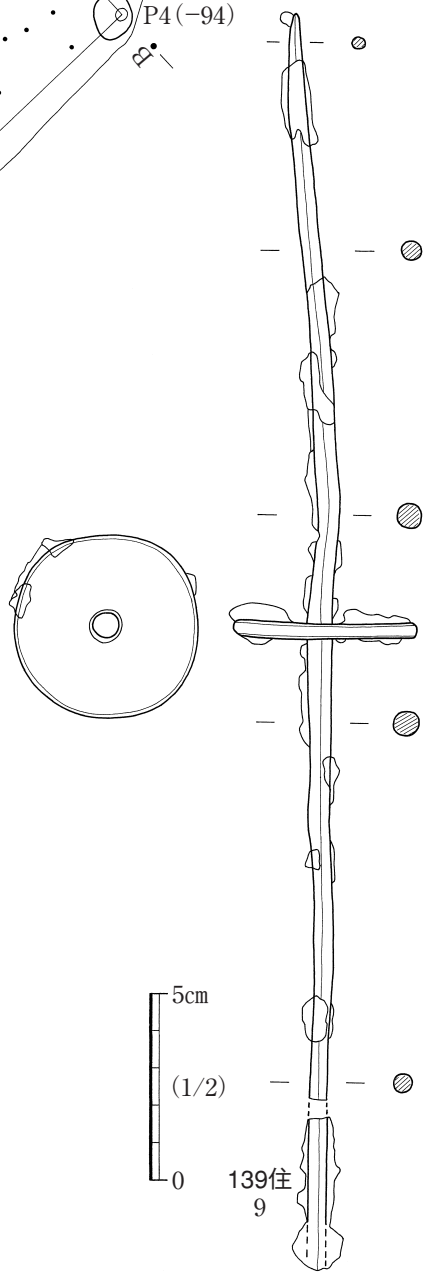
139号住居跡断面図

《139号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。淡褐色土ブロックを斑点状に含む。テフラか。
2　茶褐色土層。淡褐色土ブロック及び粘土を少量含む。
3　茶褐色土層。淡褐色土ブロック及び焼土粒を少量含む。
4　茶褐色土層。淡褐色土ブロックとローム粒及び粘土を含む。
5　黒色土層。淡褐色土ブロックとローム粒を少量含む。
6　茶褐色土層。ロームブロックと焼土粒を含む。

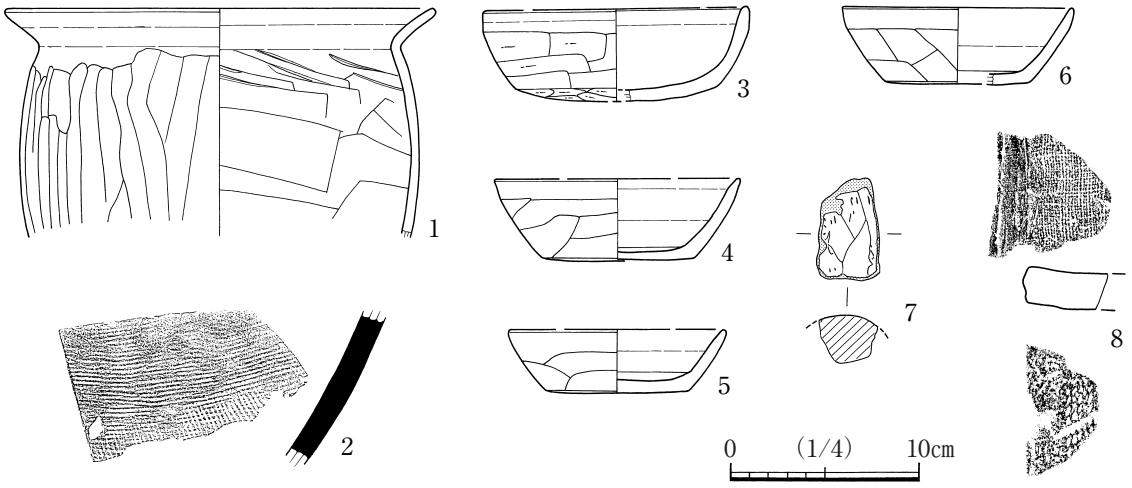


140号住居跡断面図

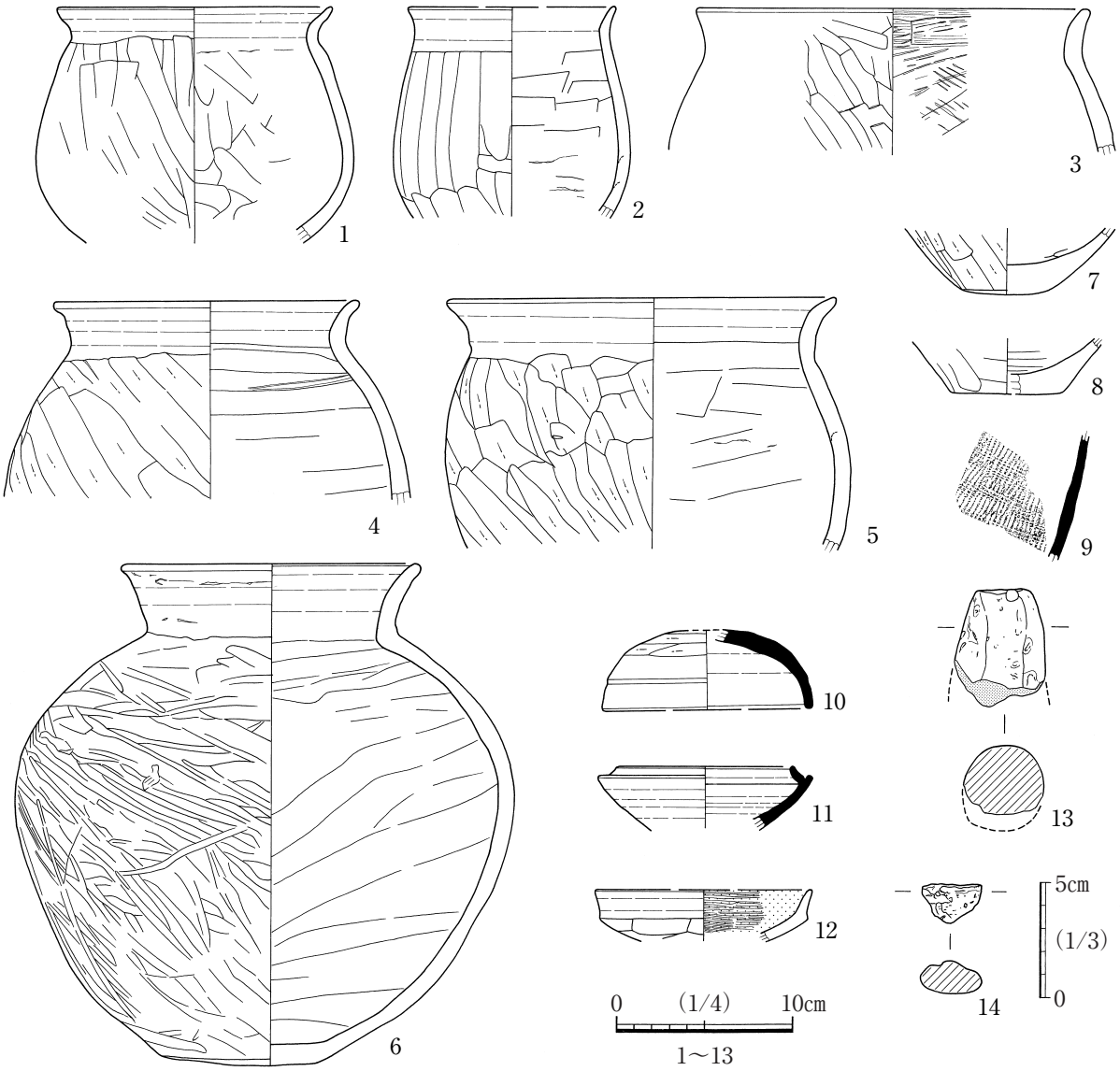
0　(1/80)　3m



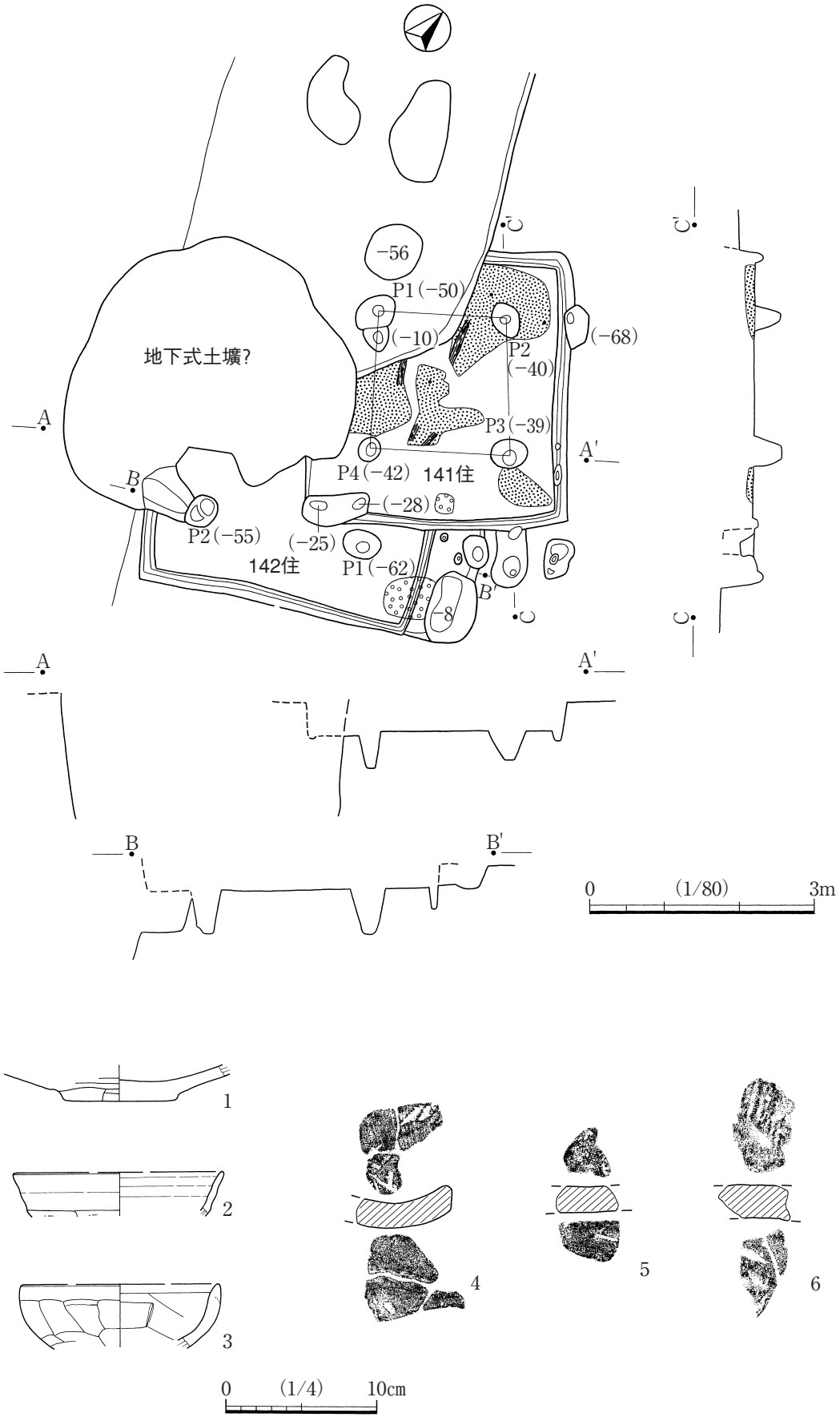
第231図　139号・140号住居跡



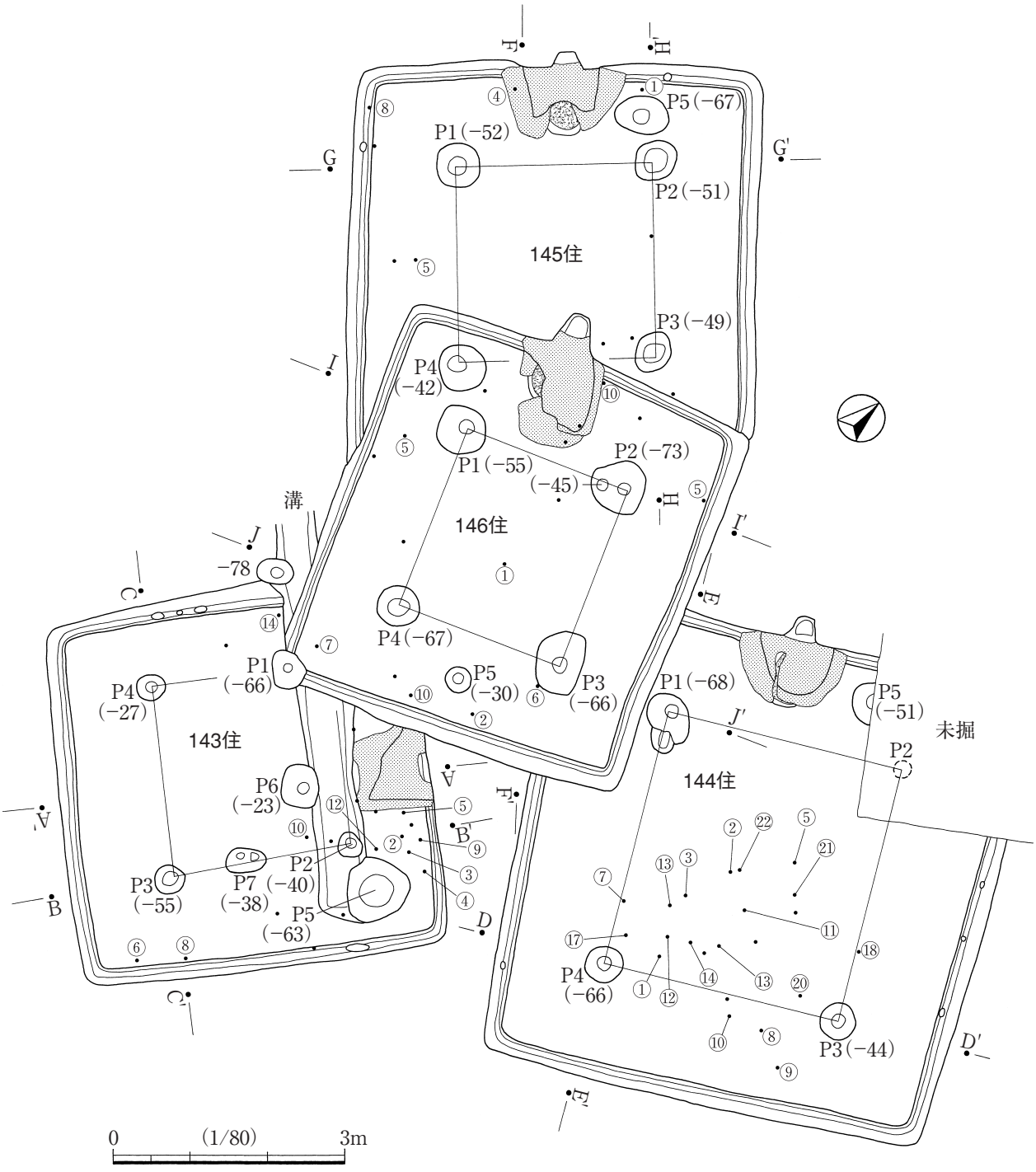
第232図　139号住居跡出土遺物



第233図　140号住居跡出土遺物



第234図　141号・142号住居跡と出土遺物

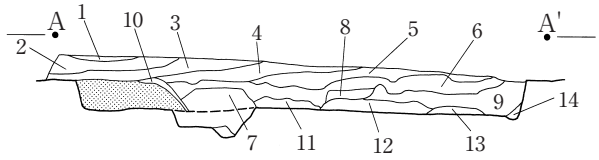


第235図　143号～146号住居跡

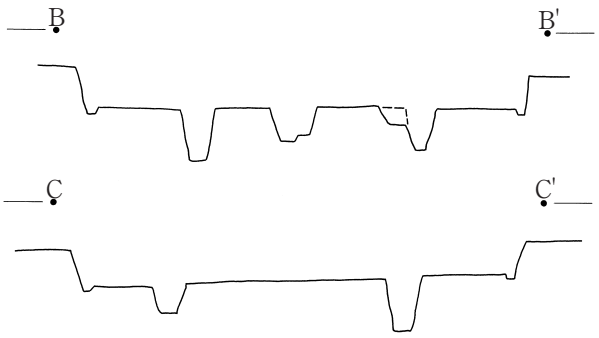
は瓦小片である。全て覆土からの検出である。１～３の土器類では２の有段口縁杯を一方の住居跡の帰属を資料と見なし、４～６の瓦類を一方の時期と見なすことができよう。住居跡の新旧関係から142号住居跡→141号住居跡となる。

143号住居跡（第235・236・241図、図版34・130）

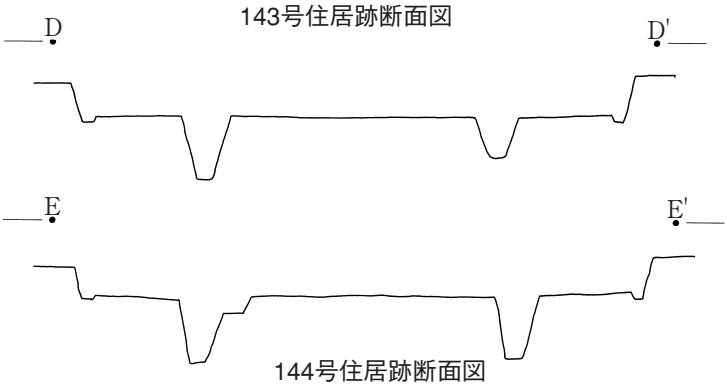
位置　中央調査区西側。M10。　**複合切り合い関係**　北隅およびカマド左袖を146住に掘り込まれ下層に溝が存在する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－32°－E。　**床面規模**　4.50m（主軸）×



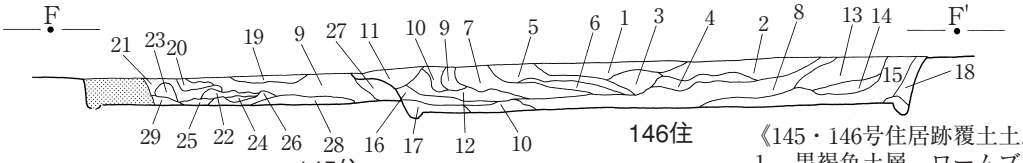
《143号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
3　茶褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
4　黒褐色土層。ローム粒を含む。
5　暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
6　黒色土層。ローム粒を少量含む。
7　黒色土層。ロームブロック（5㎝以下）を少量含む。
8　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量、焼土粒（一部）を含む。
9　黄褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
10　黒色土層。粘土を含む。
11　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。黄褐色土も少量含む。
12　黄褐色土層。ロームブロック（3㎝以下）を含む。
13　黒褐色土層。焼土を含む。
14　黄褐色土層。

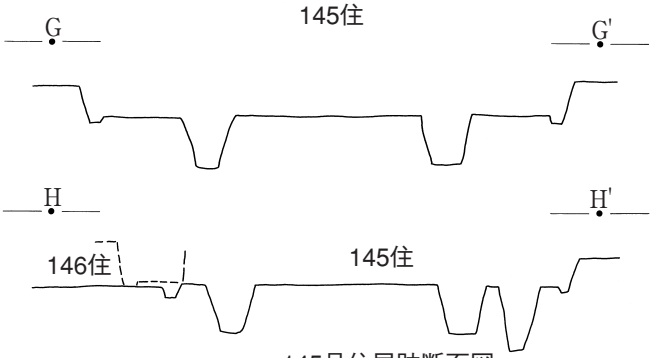


143号住居跡断面図

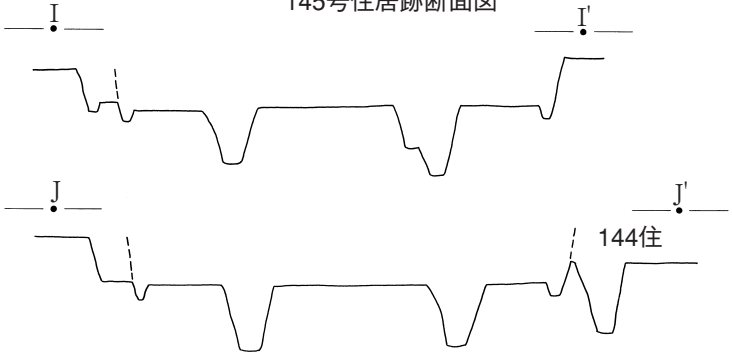


144号住居跡断面図





145号住居跡断面図

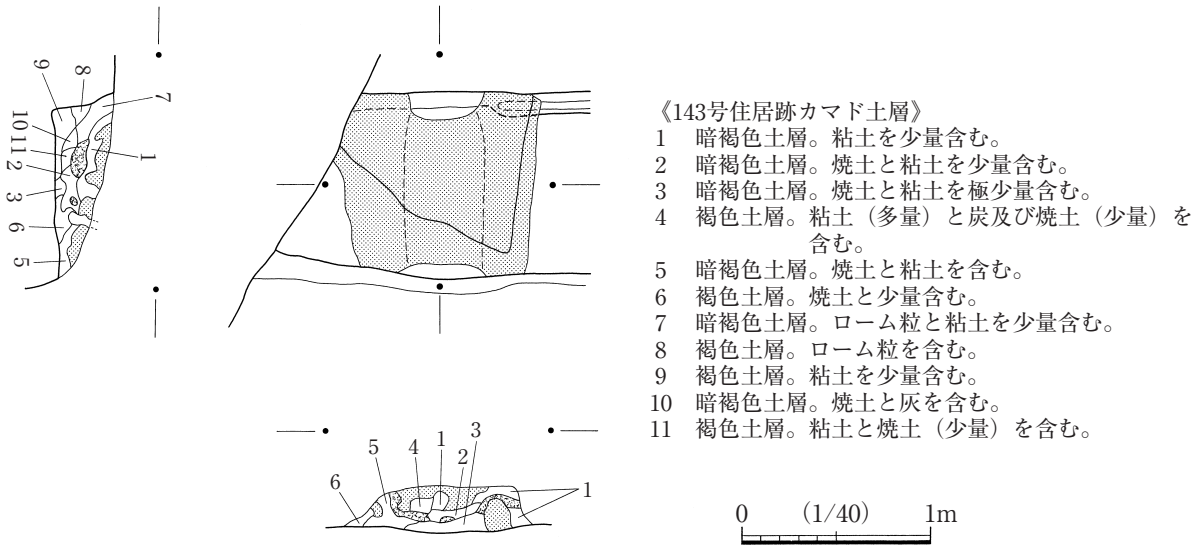


146号住居跡断面図

《145・146号住居跡覆土土層F－F'》
1　黒褐色土層。ロームブロックを染み状に含む。
2　茶褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックと粘土粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒と粘土粒（少量）を含む。
7　茶褐色土と粘土の混合土層。ローム粒を含む。
8　茶褐色土層。ローム粒と粘土粒（極少量）を含む。
9　黒褐色土層。ロームブロックを少量含む。
10　粘土層。焼土を含む。
11　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
12　粘土と黒褐色土の混合土層。
13　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
14　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
15　茶褐色土層。ローム粒を極少量含む。
16　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
17　粘土と黒褐色土の混合土層。焼土を含む。
18　黒褐色土層。ロームブロックを少量含む。
19　茶褐色土層。第14層より暗い。ローム粒を少量含む。
20　茶褐色土層。粘土と焼土を含む。
21　茶褐色土層。焼土塊を含む。
22　黒褐色土層。焼土を含む。
23　茶褐色土層。粘土ブロックを含む。
24　茶褐色土層。焼土を少量含む。
25　茶褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
26　黒褐色土層。ロームブロックを極少量含む。
27　黒褐色土層。全体にローム土を含む。
28　黒褐色土層。ローム粒を極少量含む。
29　粘土層。焼土と茶褐色土を含む。

0　(1/80)　3m

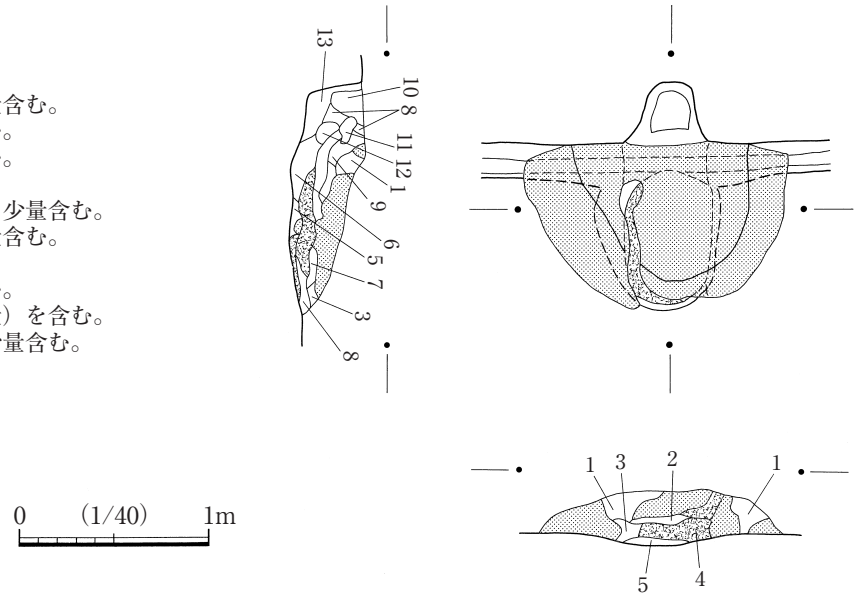
第236図　143号～146号住居跡断面図



《143号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
3　暗褐色土層。焼土と粘土を極少量含む。
4　褐色土層。粘土（多量）と炭及び焼土（少量）を含む。
5　暗褐色土層。焼土と粘土を含む。
6　褐色土層。焼土と少量含む。
7　暗褐色土層。ローム粒と粘土を少量含む。
8　褐色土層。ローム粒を含む。
9　褐色土層。粘土を少量含む。
10　暗褐色土層。焼土と灰を含む。
11　褐色土層。粘土と焼土（少量）を含む。

第237図　143号住居跡カマド

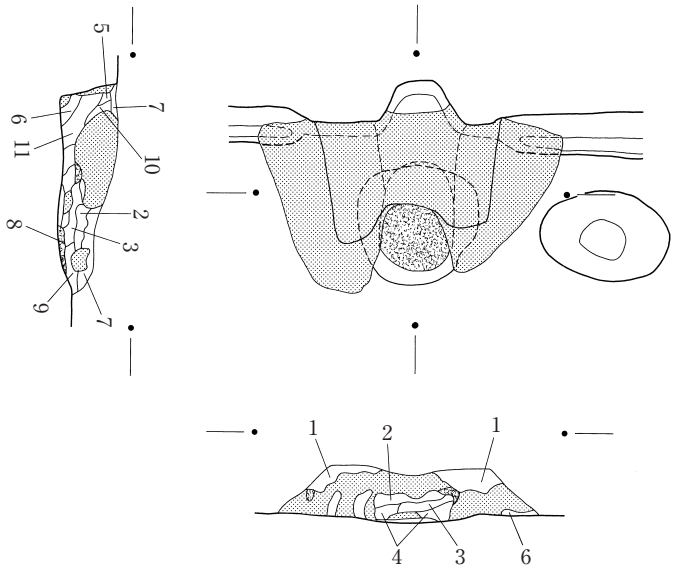
《144号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土と灰を含む。
3　褐色土層。粘土と焼土を含む。
4　灰層。焼土を少量含む。
5　褐色土層。ローム土と粘土を少量含む。
6　暗褐色土層。焼土と灰を少量含む。
7　焼土層。粘土を少量含む。
8　暗褐色土層。粘土を少量含む。
9　褐色土層。粘土と焼土（少量）を含む。
10　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
11　粘土層。焼土を少量含む。
12　褐色土層。粘土を少量含む。
13　褐色土層。粘土を含む。



第238図　144号住居跡カマド

4.62m（副軸）。　**床面積**　20.76㎡。　**残存壁高**　0.31～0.43m。　**カマド**　北東辺中央に敷設され、右袖の一部を146住に削平される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅11cm前後・深さ4cm前後の規模で四周する。　**覆土**　南西側から埋め戻された状況を呈し、床面直上に僅かに焼土堆積を示す土層が確認できるが平面範囲は不明。　**主柱穴**　P1～P4の4本柱構造であるがP1が不規則な位置に設けられる。P5は円形の貯蔵穴か。

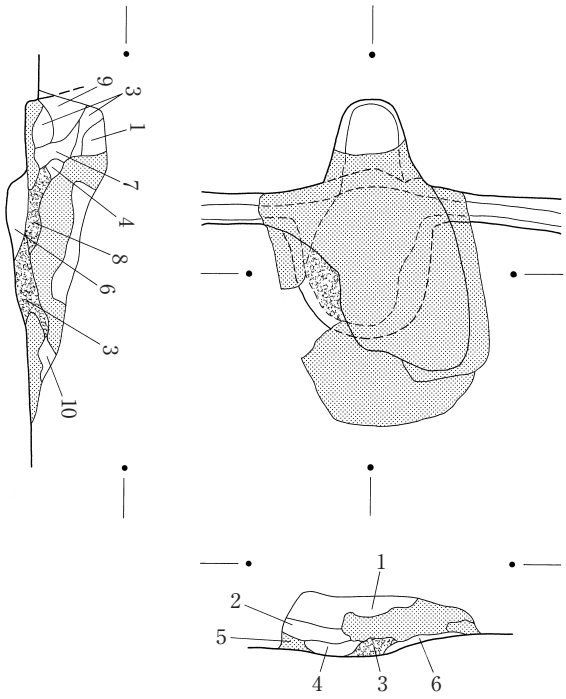
出土遺物　1は胴部上端横位の箆ナデで胴中位から下端は箆ケズリを施す中胴甕。2も1とほぼ同様だが口縁が大きく外反し口縁端部を僅かに上方へ摘み出す。3・4は外面箆ナデを施す中胴甕。5・6は外面箆ナデを施す球胴系甕。7・8は箆ナデを施す甕胴下半で中位との剥離痕が明瞭である。こ



《145号住居跡カマド土層》
1　粘土と褐色土のブロック。
2　粘土層。暗褐色土を少量含む。
3　灰と焼土の混合土層。
4　粘土層。焼土とロームを少量含む。
5　褐色土層。ローム土を含む。
6　褐色土層。粘土を少量含む。
7　褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
8　粘土層。焼土を全体に少量含む。
9　暗褐色土層。焼土粒を少量含む。
10　褐色土層。粘土と焼土を多く含む。
11　暗褐色土層。灰と粘土及び焼土を少量含む。

0　(1/40)　1m

第239図　145号住居跡カマド

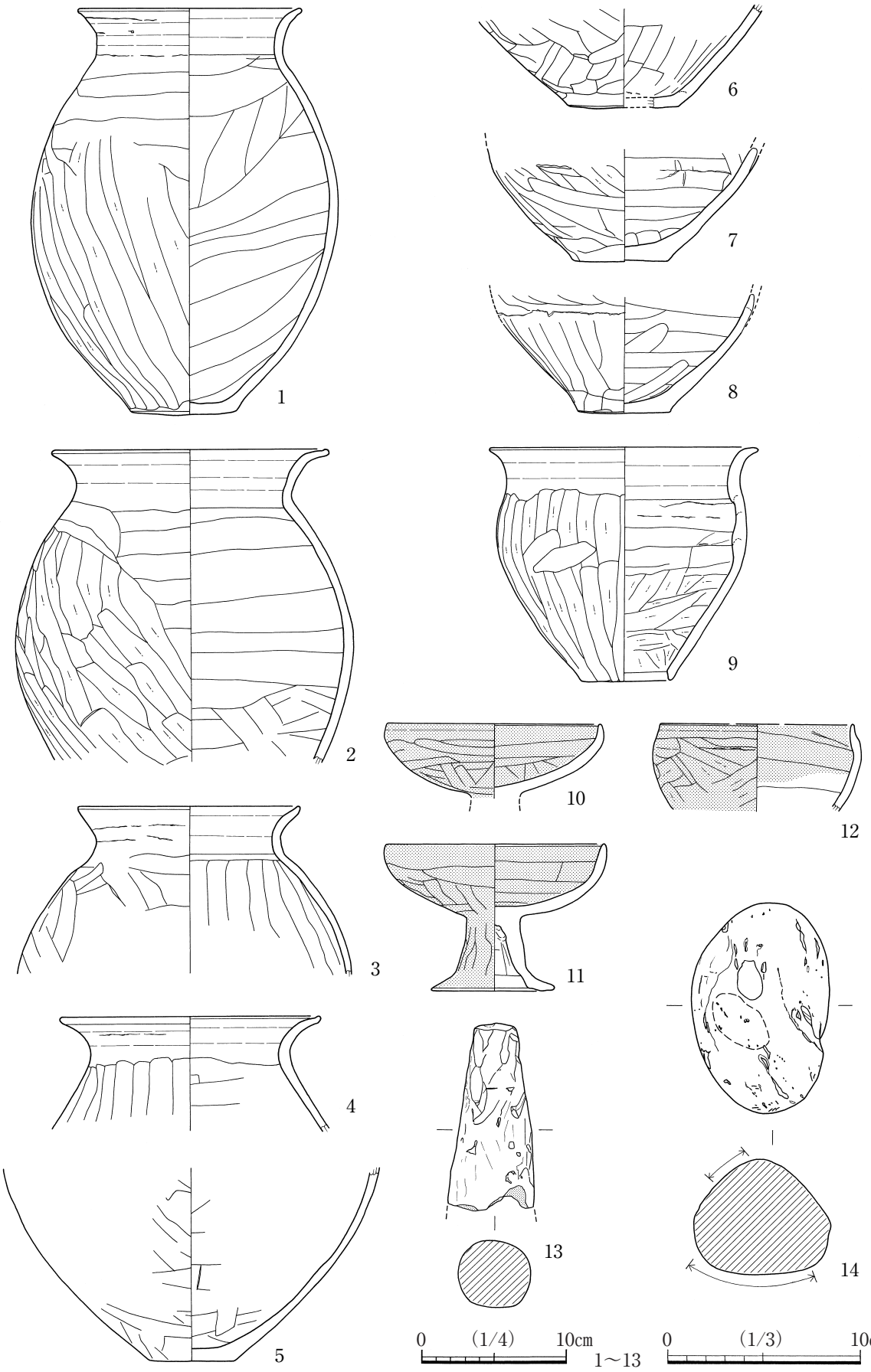


《146号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。粘土を含む。
2　暗褐色土層。粘土とローム粒を少量含む。
3　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
4　暗褐色土層。焼土を含む。
5　暗褐色土層。粘土を少量含む。
6　暗褐色土層。粘土（少量）とロームブロックを含む。
7　暗褐色土層。焼土と灰を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土と灰を含む。
9　暗褐色土層。焼土を少量含む。
10　粘土と焼土のブロック。

0　(1/40)　1m

第240図　146号住居跡カマド

のことは甕製作に関して口縁、胴部上半、胴部下半の各部位を成形の後接合して１個体の甕を整形したことを伺わせる資料となる。９は胴外面縦位箆ケズリの甑。10・11は赤彩の椀形高杯で、11の脚裾には屈曲が認められる。12は外面と内面中位に赤彩を施す内湾気味の椀である。13は土製支脚。14は研磨痕のある自然石である。遺物出土位置は、１・13がカマド燃焼部、２・３・４・６・７・８・９・10・12・14が床面直上、５ほぼ床面、覆土出土の７・11も住居跡の帰属を示す資料となる。



第241図　143号住居跡出土遺物

144号住居跡（第235・236・242図、図版34・131）

位置　中央調査区西側。L10・L11・M11。　複合切り合い関係　143住の北側に隣接し、143住を掘り込む146住にプラン西隅および床面を大きく掘り込まれ、北隅は樹木移植の為未検出である。

平面形　方形。　主軸方位　N－35°－W。　床面規模　5.90m（主軸）×5.80m（副軸）。

床面積　34.14㎡。　残存壁高　0.29～0.42m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅９～11cm・深さ５～６cm。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４のうち３穴を検出する。Ｐ２は移植樹木のため未調査である。Ｐ５はカマド右の貯蔵穴。

出土遺物　１は口縁が短く外反する胴外面縦位の箆ケズリ甕。２は大形の模倣杯。３～６は口縁が短く僅かに外反し、口縁直下に鈍い稜を有する杯蓋模倣杯で内面ミガキを施す。７・８は口縁直下の鈍い稜と直線的に立つ口縁を特徴とし、７は内面黒色処理でミガキを施す。９～11は小形の半円状杯で10は内面ミガキ、11は内面黒色処理でミガキを施す。12は椀形杯。13～17は扁平な皿状杯で、13・14・17は漆塗りであろう。18・19は杯身模倣杯で19は漆塗りを施す。20は丸底の深い椀。21は平底の深い椀。22は大ぶりな平底の鉢。23は内湾する小形の鉢であろうか。24は土製支脚断片。遺物出土位置は、13が床面直上、１・３・５・７・８・11・12・17・18・19・20・21がほぼ床面、23がカマド燃焼部からの出土で、他は覆土の検出である。遺物が中央に集中して検出され廃棄遺物の可能性もあるが、13が床面直上から検出された遺物であることを考慮すると、覆土検出の杯類全てが住居跡時期を示す資料と見なすことができよう。

145号住居跡（第235・236・243図、図版34・132）

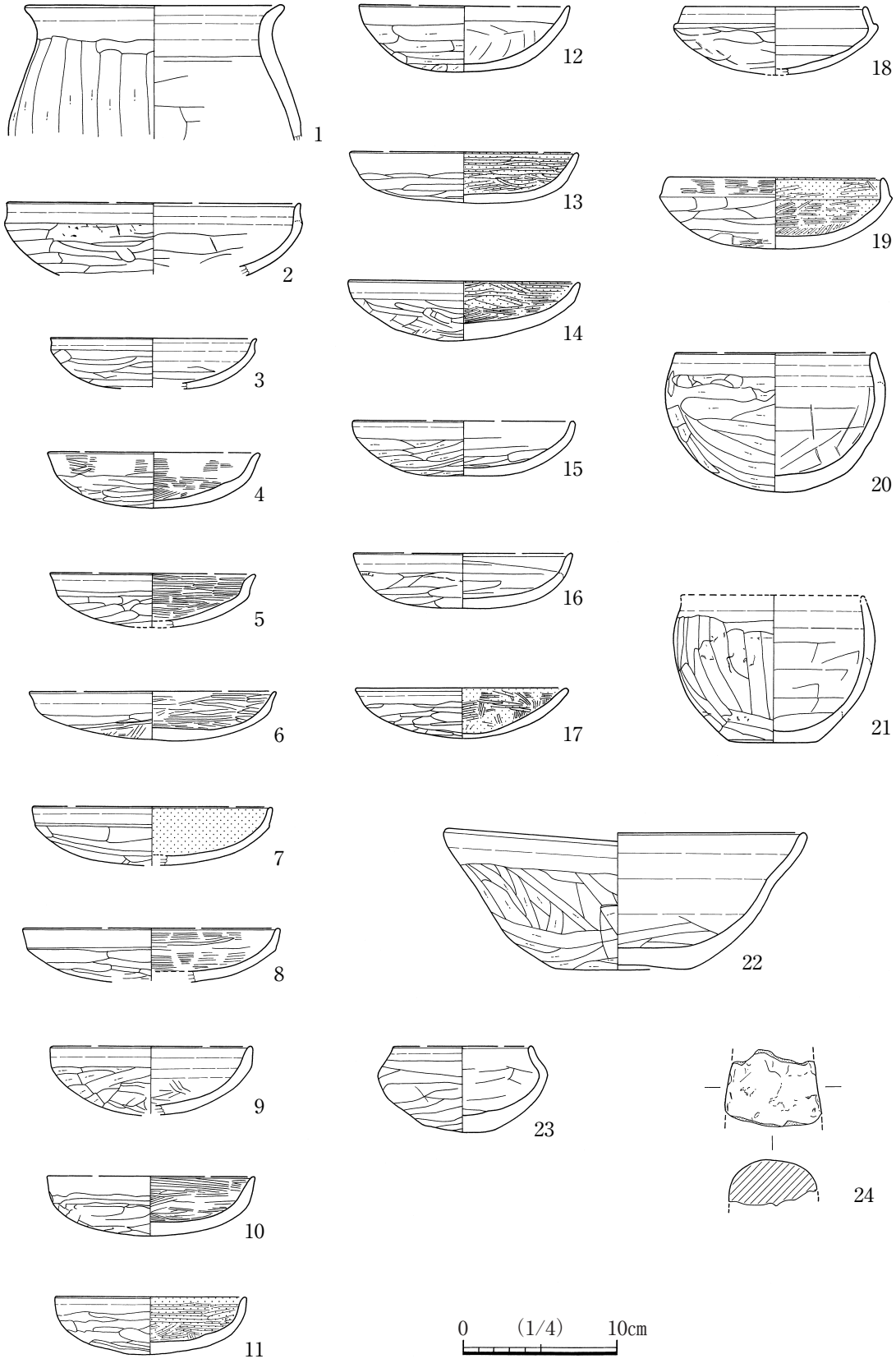
位置　中央調査区西側。L10。　複合切り合い関係　プラン南半分を146住に大きく掘り込まれる。

平面形　方形。　主軸方位　N－48°－W。　床面規模　5.00m（主軸）×4.92m（副軸）。　推定床面積　24.44㎡。　残存壁高　0.27～0.39m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　比較的平滑で堅緻である。　壁溝　幅10～11cm・深さ６～９cmで四周する。　覆土　土層Ｆ－Ｆ′では細かく細分され埋め戻された状況を呈する。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ４は146住床面下に検出する。

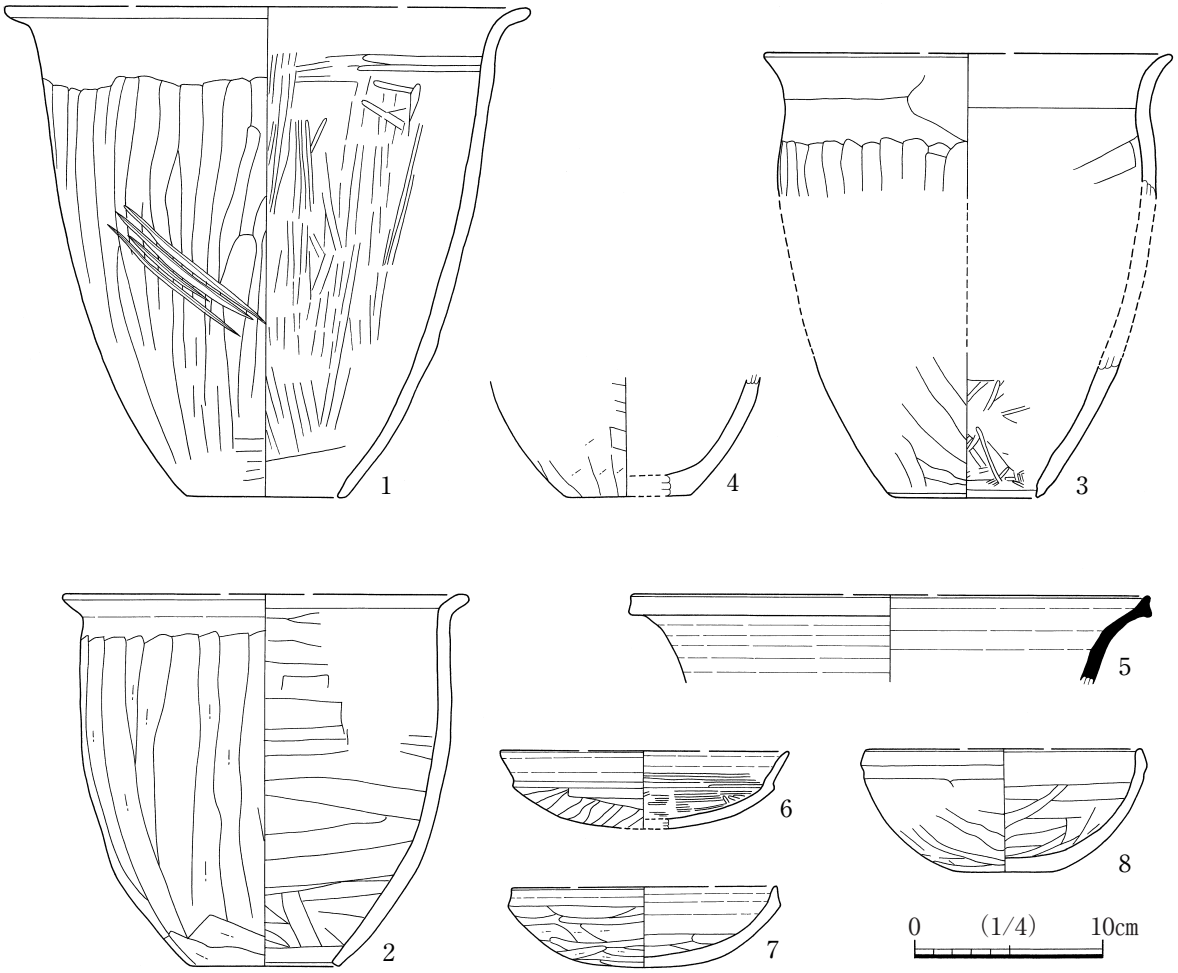
出土遺物　１は外面箆ケズリを消す箆ミガキで内面に線状のミガキを施す甑。２は口縁が短く外反し外面縦位箆ケズリを施す甑。３は口縁と底部が接合しないが同一個体と思われ外面ミガキ状を施す甑である。４は中胴甕底部。５は須恵器甕口縁。６は杯蓋模倣杯で内面ミガキを施す。７は杯身模倣杯。８は平底の内湾鉢である。遺物出土位置は、１が床面直上、４がカマド左袖に接し、８が壁溝内から出土する。他は覆土中の出土であるが住居跡の帰属を示す遺物と見なして良いであろう。

146号住居跡（第235・236・244図、図版35・132）

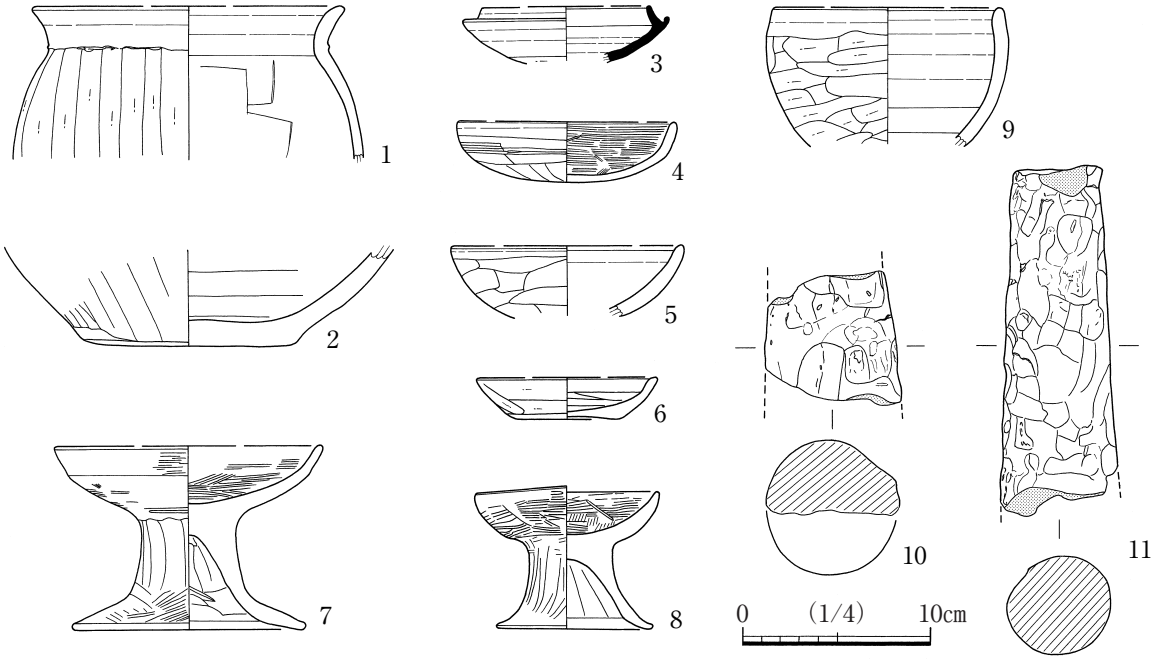
位置　中央調査区西側。L10。　複合切り合い関係　143住～145住の３軒の住居跡をそれぞれ掘り込んで検出する。　平面形　縦長方形。　主軸方位　N－29°－W。　床面規模　5.00m（主軸）×4.48m（副軸）。　床面積　21.95㎡。　残存壁高　0.50～0.56m。　カマド　北西辺中央より僅かに左に寄って敷設される。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。



第242図　144号住居跡出土遺物



第243図　145号住居跡出土遺物



第244図　146号住居跡出土遺物

壁溝　幅10～12cm・深さ４～５cmを計測し四周する。　**覆土**　土層Ｆ－Ｆ′では細かく細分されロームブロックの混入が目立ち埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ５は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１は口縁が短く僅かに外反する外面縦位篦ケズリ甕。２は外面篦ナデの球胴系甕。３は須恵器身で受部稜は丸く鈍く、TK217型式期に比定される。４は浅い半円状杯で内面漆塗りを施す。５は椀状の杯。６は平底の小形皿状の杯で内面に弱いミガキを施す。７・８は脚柱が太く裾の短い杯内面ミガキを施す高杯。９は外面篦ケズリの椀。10・11は土製支脚である。遺物出土位置は、１・７が床面直上、２・５・６・８・９・10がほぼ床面からの出土で住居跡の帰属を示す資料である。覆土検出の３・４も住居跡共伴遺物と見なすことができるが、２は混入遺物であろう。

147号住居跡（第245・246図、図版35・132）

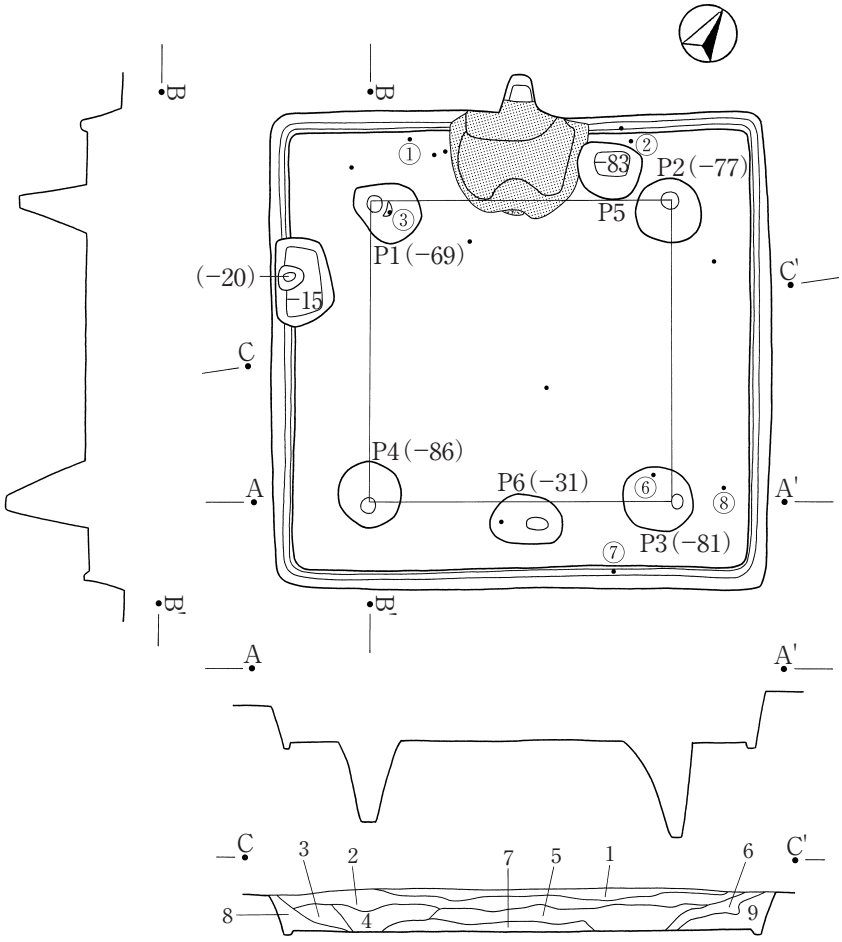
位置　西調査区東側。Ｍ９・M10。　**複合切り合い関係**　単独で検出する。　**平面形**　方形で僅かに横長方形気味を呈する。　**主軸方位**　Ｎ－29°－Ｗ。　**床面規模**　4.76m（主軸）×5.00m（副軸）。　**床面積**　24.05㎡。　**残存壁高**　0.30～0.50m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　**壁溝**　幅12cm・深さ６cm。　**覆土**　覆土下はローム土およびロームブロックを主体に埋め戻され上層は自然堆積状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ５はカマド右側に設けられた貯蔵穴でＰ６は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１は口縁がやや長く外反する外面縦位篦ケズリの胴長甕。２は胴部上半縦位、下半斜位の篦ケズリの胴長甕。３は口縁「く」の字の外面縦位の篦ケズリ中胴甕。４は篦ケズリの中胴甕胴下半。５は外面篦ケズリを残すミガキ状篦ナデを施す球胴甕胴下半。６～８は杯蓋模倣杯で、７は内外面光沢の有るミガキを施し、８は内面は漆塗りの可能性が強い。９～12は杯身模倣杯で、９は黒色処理、12は口縁を欠損する。13は平底で口縁「く」の字を呈する手捏ね状の杯。14は手捏ね土器である。遺物出土位置は、３が主柱穴のＰ１内、５がＰ６の貯蔵穴、６が主柱穴Ｐ３内、１・８がほぼ床面、２がカマド右側の壁溝に接して、７はカマド対置する壁溝内、10・12・14がカマド燃焼部などから出土し、４・９・11・13は覆土検出である。覆土検出の９・11の模倣杯と13の土器も住居跡の帰属を示す資料と言える。Ⅵ期Ｂ～Ⅵ期Ｃの標準資料となろう。

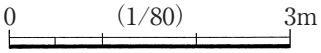
148号住居跡（第247・248図、図版35・133）

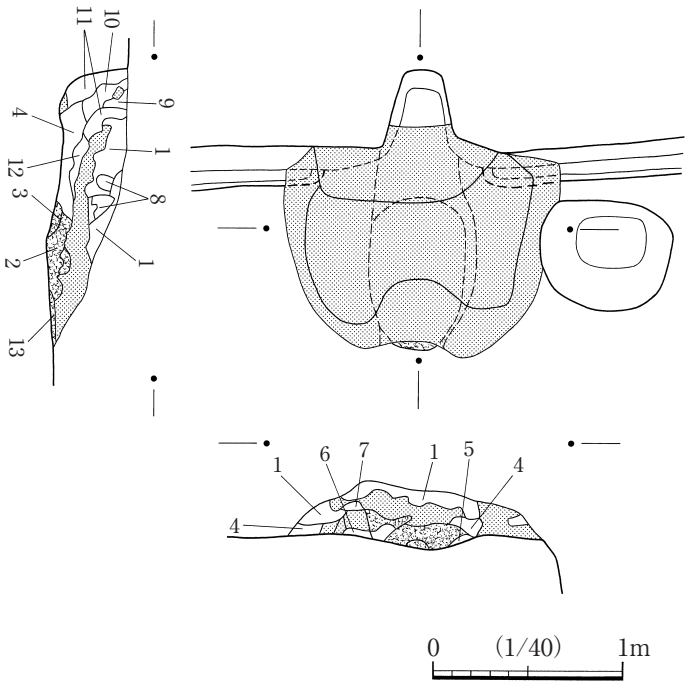
位置　西調査区東側。Ｍ９・Ｎ９。　**複合切り合い関係**　147住西南に近接し、覆土中央に149住を重複して検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｅ。　**床面規模**　6.28m（主軸）×6.10m（副軸）。　**床面積**　38.41㎡。　**残存壁高**　0.27～0.40m。　**カマド**　東辺中央より右（南側）に寄って敷設され、袖部は床面側に張り出し、炉床も同様である。　**床面**　張床であるが、比較的踏みならされており平滑である。　**壁溝**　幅10cm前後・深さ７～14cmを測り四周する。　**覆土**　細かに細分された土層は黒褐色を呈し概ね自然堆積状況を示す。また、床面直上に僅かに焼土が狭い範囲で点在する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるが、Ｐ１とＰ２は掘り直され柱間が広げられる。Ｐ６は南東隅に設けられた貯蔵穴であろう。

出土遺物　１は胴外面篦ナデの球胴甕。２は口縁が僅かに外傾し外面篦ケズリを残す雑な篦ナデの近



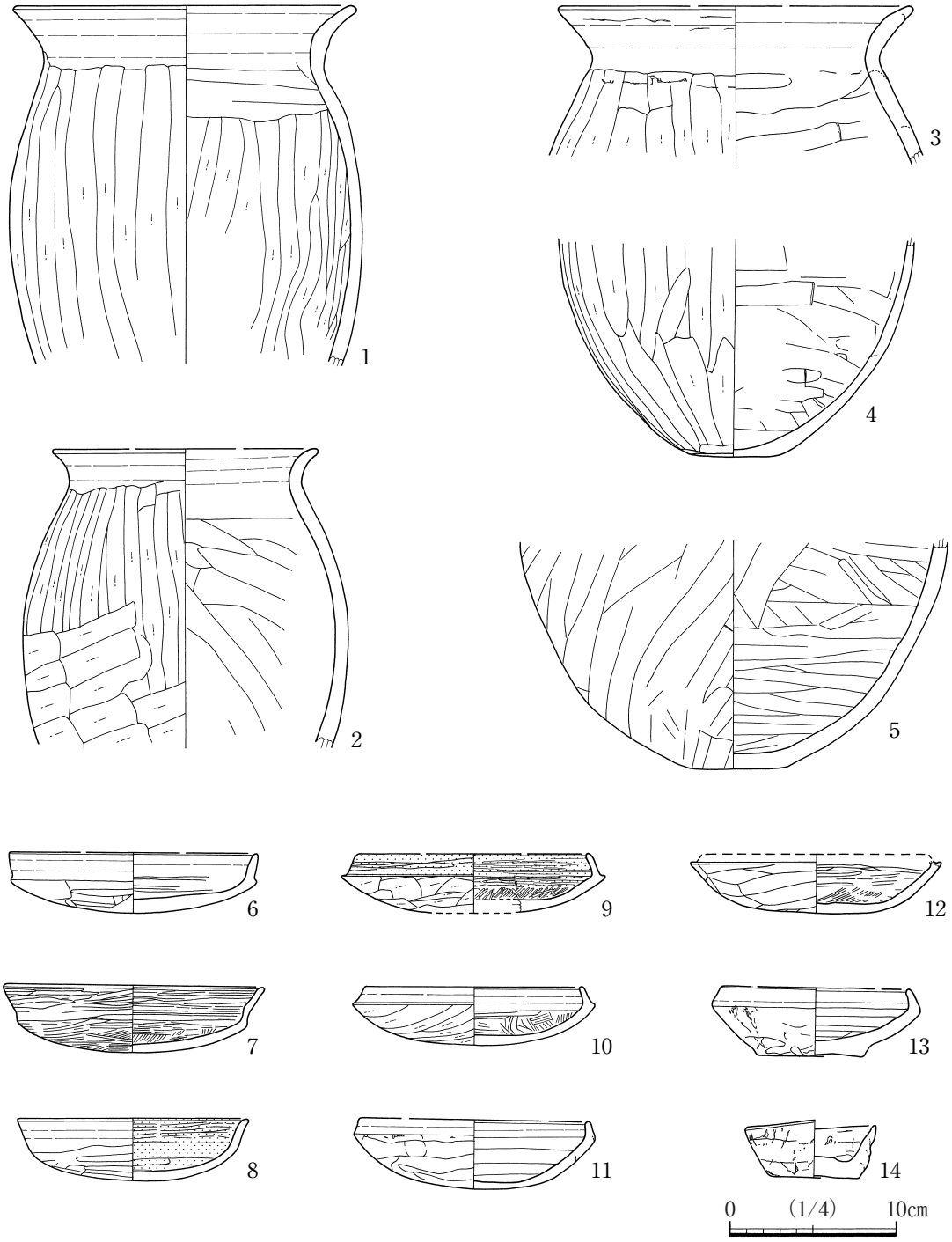
《147号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。ローム粒（5㎜以下）と焼土粒（一部）を含む。
2　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を多量に含む。
3　茶褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
4　黒褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
5　黄褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
7　黒褐色土層。黒色土とロームブロック（1㎝以下）を含む。
8　黒色土層。ローム粒を含む。
9　黒色土層。黒色土とロームブロック（1㎝以下）を含む。





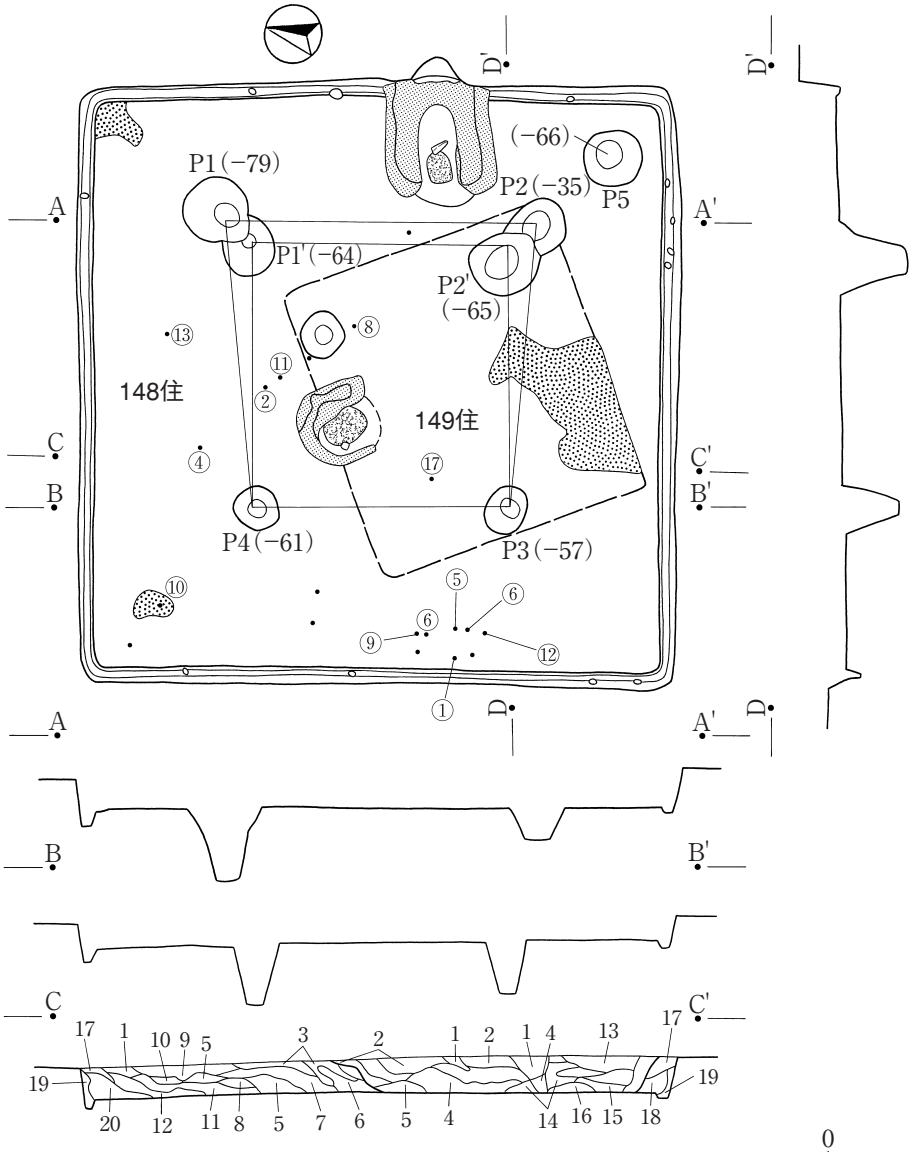
《147号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を含む。
2　焼土と粘土及び灰の混合土層。
3　焼土と灰（少量）の混合土層。
4　暗褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
5　暗褐色土層。焼土を少量含む。
6　ローム土と黒褐色土層のブロック。
7　粘土と黒褐色土層のブロック。
8　褐色土層。ローム土と粘土を含む。
9　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　暗褐色土層。焼土とローム土を少量含む。
11　暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
12　ロームブロック。
13　黒褐色土層。灰と焼土を含む。

第245図　147号住居跡とカマド



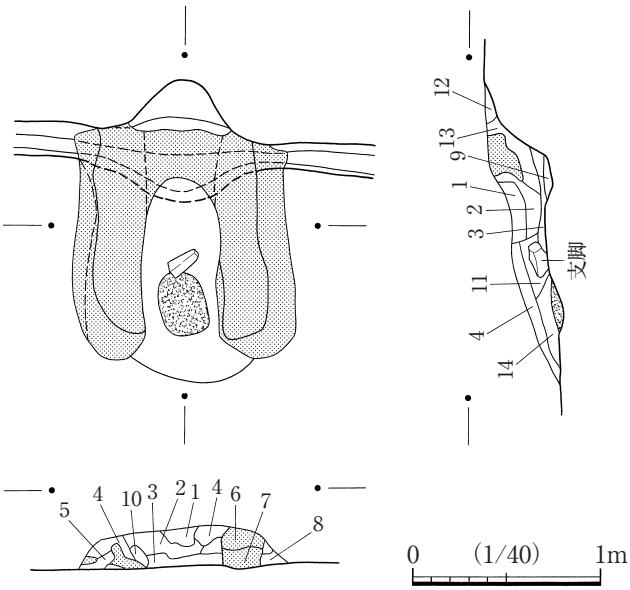
第246図　147号住居跡出土遺物

球胴甕。3は複合口縁の甕。4は口縁が大きく外反し口頸部にミガキを施す球胴甕。8は赤彩の深い椀形杯。9～12はやや深めの椀形高杯で赤彩を施す。13は赤彩の大形高杯で杯部下端に稜を有し脚が太い。14・15は断面角状土製支脚。16は手捏ね土器。17は径3.4cmの土玉。18は須恵器甕片である。遺物出土位置は、1・2・4～12・17がほぼ床面、14・15がカマド燃焼部から出土する。3・13・16が覆土から検出する。13は床面より13cm上層であるが他の共伴する遺物同様に、住居跡の帰属時期を示す資料となろう。



《148・149号住居跡覆土土層C－C'》
1　褐色土層。ローム粒を極少量含む。
2　暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　褐色土層。ローム粒を含む。
4　暗褐色土層。ローム粒を含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を含む。
6　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
7　暗褐色土層。ローム粒を多く含む。
8　黒褐色土層。ローム粒と粘土粒（少量）を含む。
9　茶褐色土層。ローム粒を含む。
10　黒褐色土層。ローム粒を極少量含む。
11　茶褐色土層。ローム粒と焼土粒（少量）を含む。
12　暗褐色土層。ローム粒を極少量含む。
13　褐色土層。ローム粒を多く含む。
14　褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
15　暗褐色土層。灰とローム粒を少量含む。
16　暗褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
17　茶褐色土層。ローム粒を多く含む。
18　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
19　茶褐色土層。第17層より明るい。ローム粒を多く含む。
20　黒色土層。ローム粒と小ロームブロックを含む。

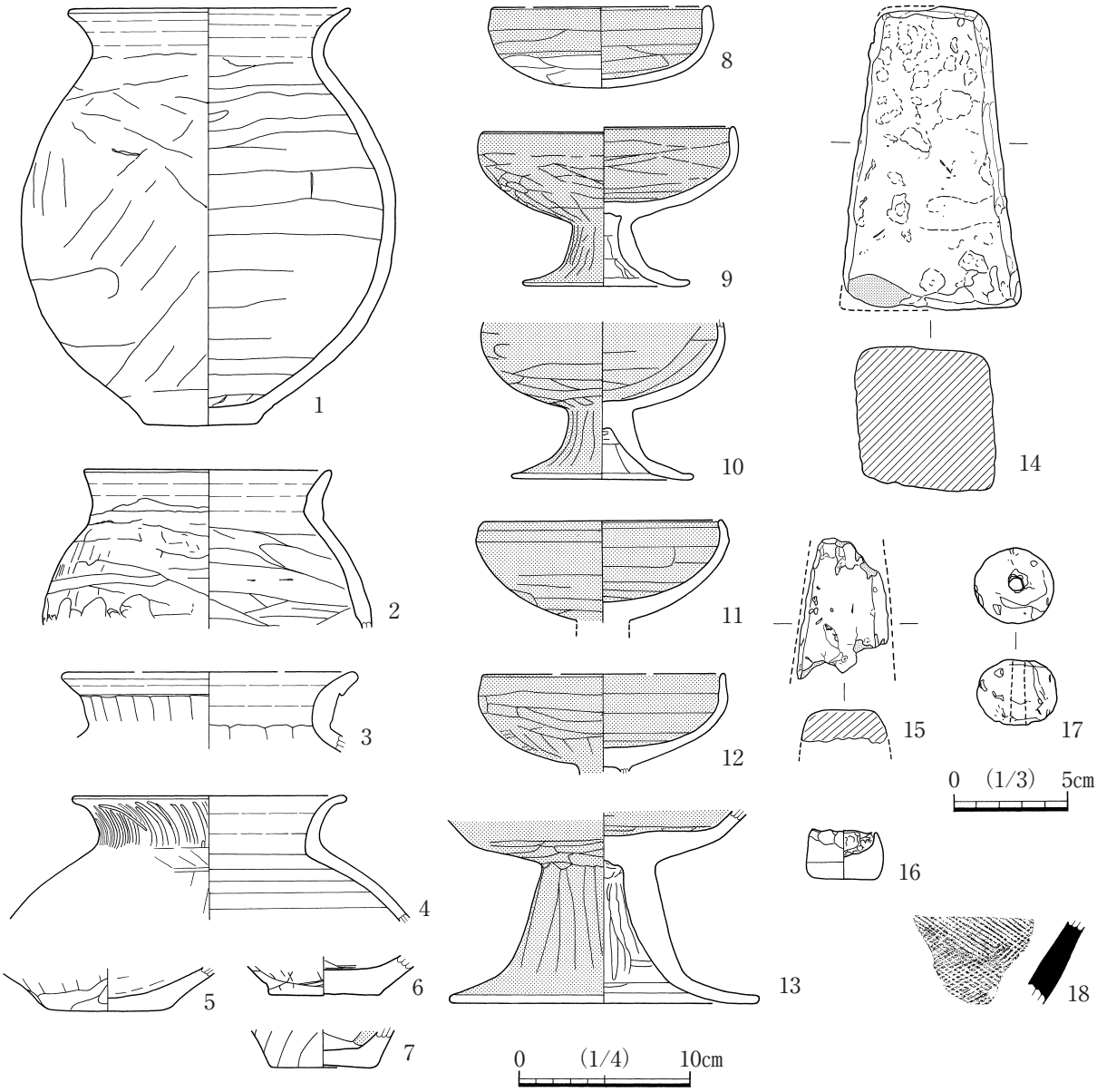
0　(1/80)　3m



《148号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。
2　暗褐色土層。粘土を含む。
3　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
4　褐色土層。粘土と焼土粒を少量含む。
5　暗褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
6　暗褐色土層。粘土とローム土粒を少量含む。
7　暗褐色土層。粘土とローム土粒を含む。
8　褐色土層。ローム粒を少量含む。
9　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
10　ロームブロック。
11　粘土と焼土の混合土層。
12　明褐色土層。ロームを全体に多く含む。
13　暗褐色土層。焼土を少量含む。
14　焼土と暗褐色土の混合土層。

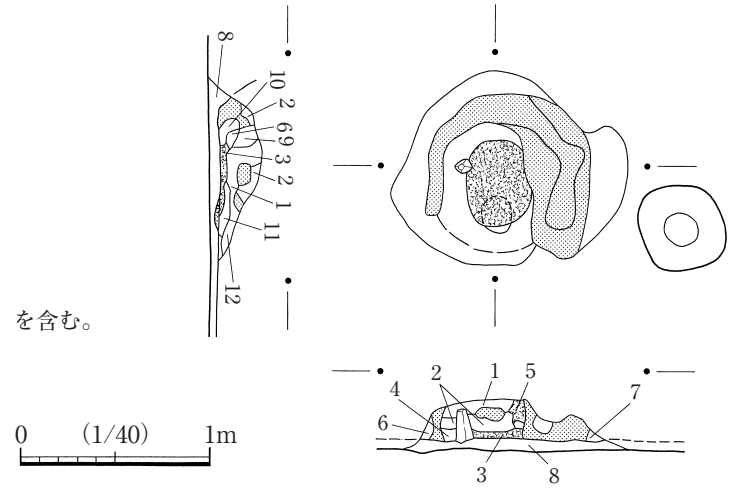
0　(1/40)　1m

第247図　148号・149号住居跡と148号住居跡カマド



第248図　148号住居跡出土遺物

《149号住居跡カマド土層》
1　粘土と褐色土のブロック。
2　褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
3　暗褐色土層。焼土と灰を少量含む。
4　暗褐色土層。粘土と灰を少量含む。
5　暗褐色土層。粘土を含む。
6　暗褐色土層。粘土を少量含む。
7　暗褐色土層。粘土とローム粒を少量含む。
8　149住の覆土。
9　暗褐色土層。粘土と焼土を含む。
10　粘土と暗褐色土のブロック。
11　暗褐色土層。焼土（多量）と粘土（少量）を含む。
12　暗褐色土層。焼土を少量含む。



第249図　149号住居跡カマド

149号住居跡（第247・249図、図版35・133）

位置　西調査区東側。Ｍ９・Ｎ９。　複合切り合い関係　148住覆土中に位置する。　平面形　方形？　主軸方位　Ｎ－32°－Ｗ。　推定床面規模　2.85m（主軸）×3.08m（副軸）。　推定床面積　8.58㎡。　残存壁高　0.35m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　張床を形成している。　壁溝　検出されない。　覆土　覆土中に焼土が堆積し火災住居である。　主柱穴　無柱。

出土遺物　本住居跡の帰属を示す遺物の出土は無い。

150号住居跡（第250図、図版35・134）

位置　西調査区南側。Ｏ８。　複合切り合い関係　単独で検出し、南東側は調査区域外に接する。カマド左袖部から西南辺に向かって床面に達する近世の溝状の攪乱穴にがある。　平面形　不整方形。　主軸方位　Ｎ－29°－Ｗ。　床面規模　5.78m（主軸）×5.85m（副軸）。　床面積　32.76㎡。　残存壁高　0.08～0.16m。　カマド　北西辺中央より右（南側）に寄って敷設され、袖部の遺存状態は不良である。　床面　張床で、あまり堅く踏みならされておらず、わずかに踏み固められた部分が認められるが、全体的に明瞭ではない。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるが、Ｐ４が不規則な位置に設けられている。Ｐ５～Ｐ７は下入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１～４は縦位篦ケズリ甕で、１・２はやや中胴気味、３・４は胴長である。５は口縁が長く大きく外反する大形の球胴系甕。６は球胴系甕の底部。７は外面篦ナデで内面赤彩を施す甕下半。８は口縁が長く内傾し、稜が鈍く屈曲する杯。９は口縁が僅かに外傾する。10は小形の赤彩椀形杯。11は肉薄の口縁が短く外傾する体部の深い赤彩椀である。12は長さ2.23㎝の土製勾玉である。遺物出土位置は、１・２・３・９・12が床面直上、５・７・８・10・11がほぼ床面から出土し、住居跡の帰属を示す資料となる。

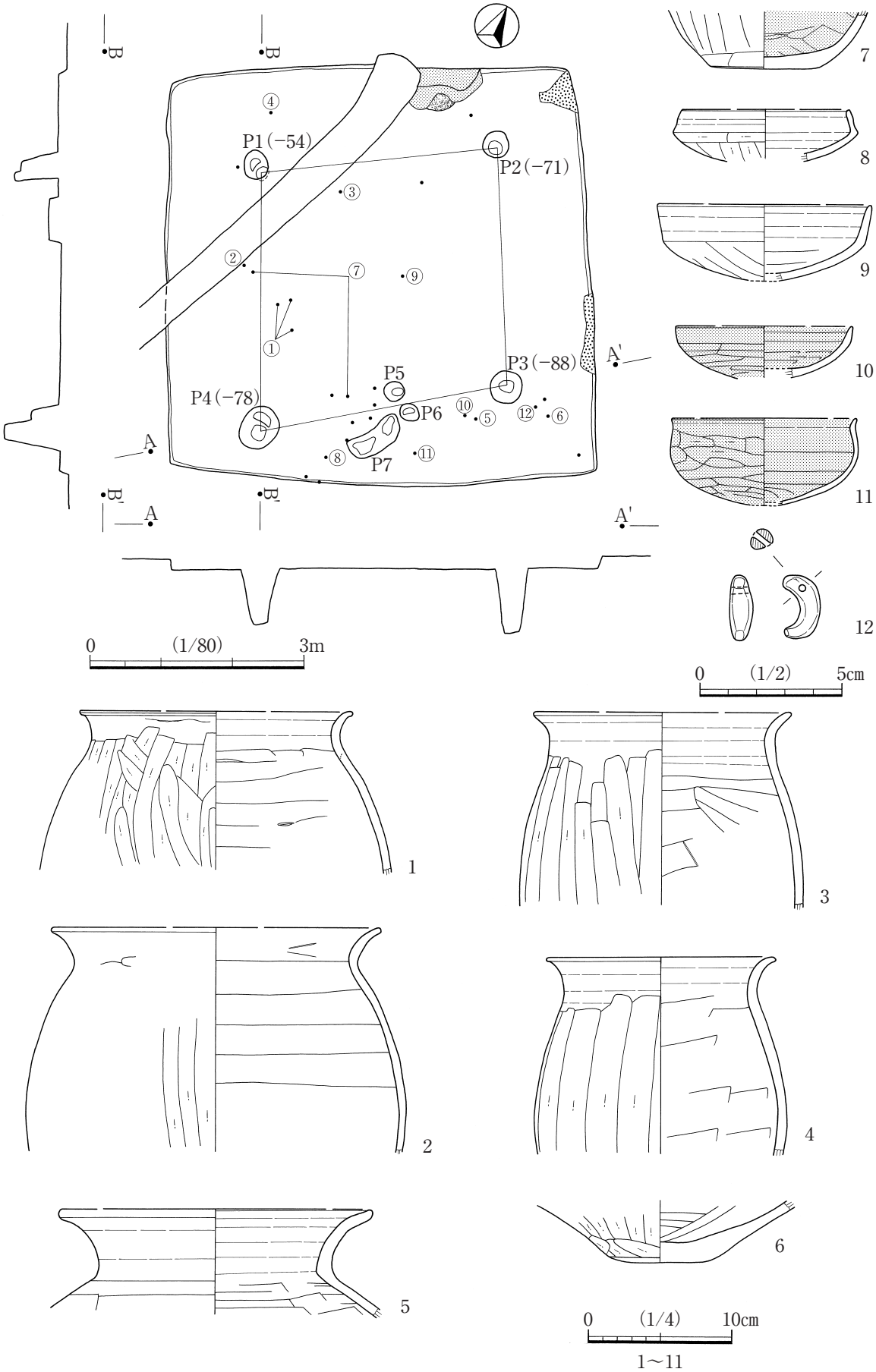
151号住居跡（弥生後期）（第251図、図版35・134）

位置　西調査区東側。Ｌ９。　複合切り合い関係　プラン北西部は調査区域外に在り未検出である。　平面形　楕円形。　主軸方位　Ｎ－23°－Ｗ。　床面規模　4.18m（主軸）×4.15m（副軸）。　推定床面積　14.92㎡。　残存壁高　0.70～0.83m。　炉跡　床面中央より北に設けられ、炉跡規模は長さ1.14m・幅0.52mを計る。　床面　ハードローム層上に形成され、全体的に堅緻である。　壁溝　幅８㎝前後・深さ８～９㎝で西側に検出されたが、南から東にかけては検出されない。　覆土　床面から40㎝程はロームブロックを含み土層により埋め戻され、上層は黒色土を主体とし自然堆積状況を示す。　主柱穴　無柱である。

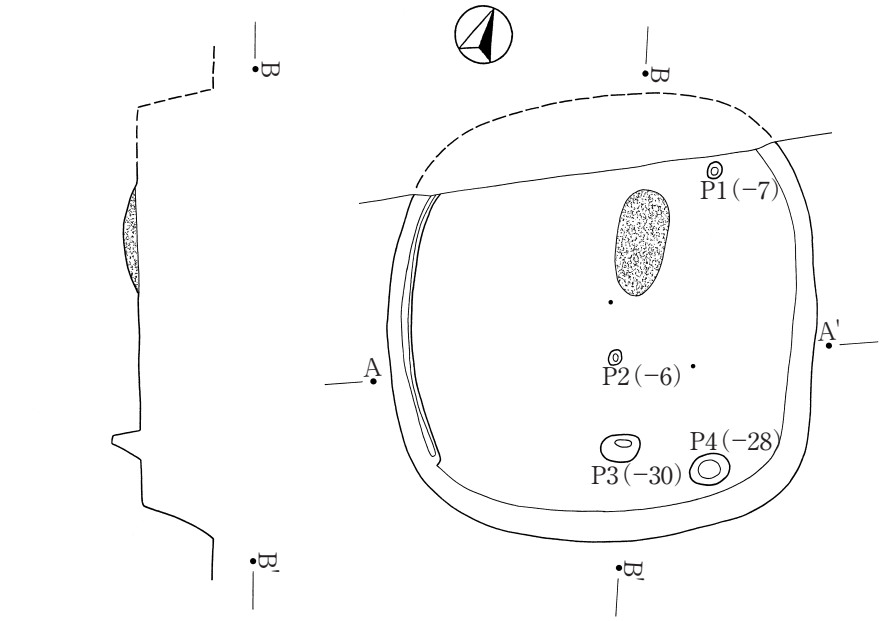
出土遺物　１は弥生土器壺の小片で外面に羽状縄文を施す。２は面取りされる軽石で一面に径0.6㎝・深さ0.5㎝程の孔を３カ所に認める。何れも覆土内からの出土であるが住居跡に伴うものと判断できる。

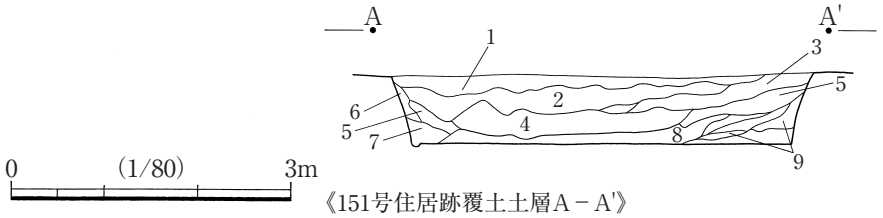
152号住居跡（弥生後期）（第252～254図、図版35・134）

位置　西調査区中央。Ｌ７・Ｌ８。　複合切り合い関係　プランの東南側を大きく155住に掘り込まれて検出する。　平面形　楕円形。　主軸方位　Ｎ－25°－Ｗ。　推定床面規模　5.05m（主軸）×

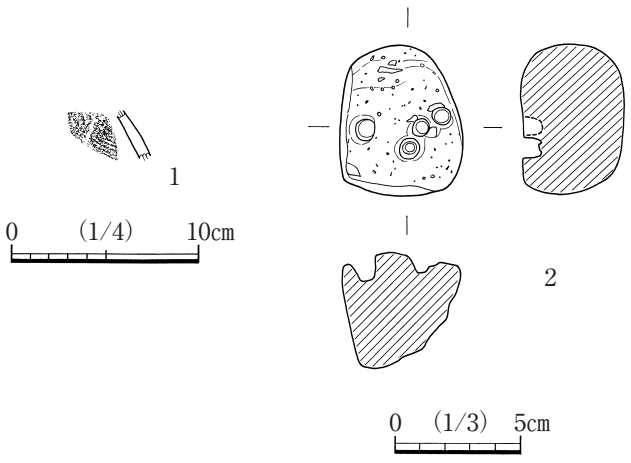


第250図　150号住居跡と出土遺物





《151号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒褐色土層。
2　黄褐色土層。第6層より暗い。ロームブロック（5cm以下）を含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。
4　黒色土層。ロームブロック（10cm以下）を多量に含む。
5　黒色土層。ローム粒を含む。
6　黄褐色土層。
7　黒褐色土層。ローム粒を含む。
8　黄褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
9　黒色土層。ローム粒を含む。



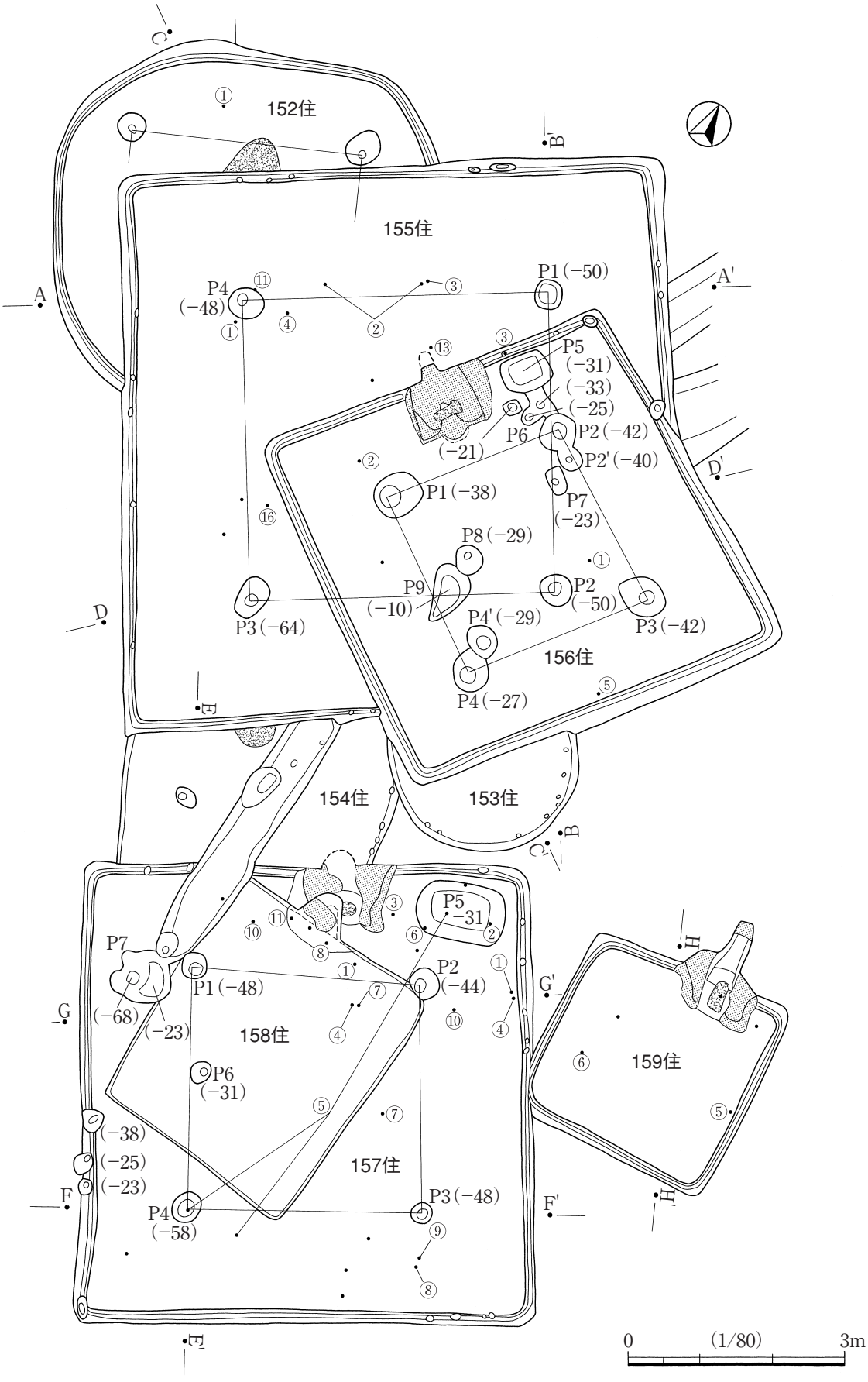
第251図　151号住居跡と出土遺物

4.70m（副軸）。　**推定床面積**　20.97㎡。　**残存壁高**　0.16～0.22m。　**炉跡**　床面中央より北西側に設けられるが２分の１以上を155住に削平され、長さは不明だが幅0.7mを測る。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、遺存部分ではあまり踏みならされた形跡がない。　**壁溝**　幅８cm・深さ３～７cmで四周するものであろう。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　４本柱のうちＰ１・２の２穴を検出する。
出土遺物　１は壺下半で外面丹彩を施す。２は壺形土器の胴下半片で上端断面に等間隔の刻みが認められ、壺製作時の部位毎に作り上げられ、接合して製作された状況を示す資料となる。３～５は複合口縁壺口縁片。６は口縁押捺、７は輪積みの甕。８～10は壺小片。11は各面に研磨痕が残る棒状の非鉄器砥石であろう。住居跡共伴遺物は、１が床面直上から出土する以外は覆土内からの出土であるが、全て住居跡の帰属を示す資料となろう。

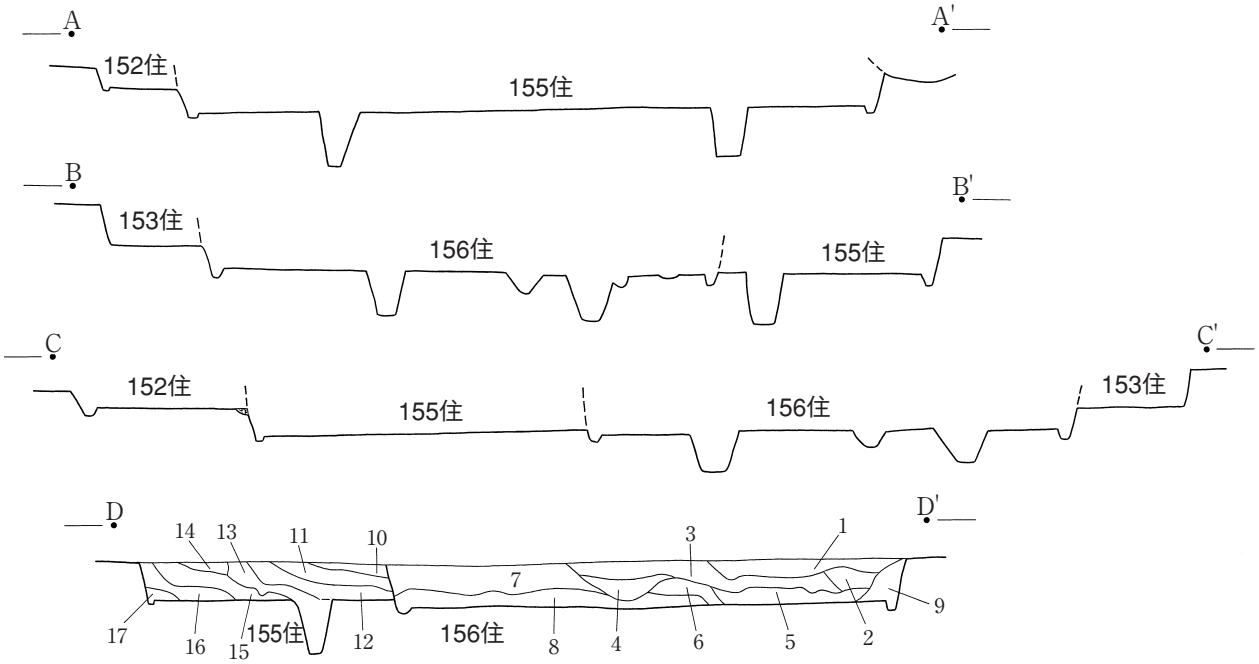
153号住居跡（弥生後期）（第252・253図、図版35）
位置　西調査区南東側。Ｍ８。　**複合切り合い関係**　プランの北西半分を156住に掘り込まれる、また、西壁は154住と壁を接する。　**平面形**　円形。　**主軸方位**　不明。　**推定床面規模**　2.35m（主軸）。　**推定床面積**　4.90㎡。　**残存壁高**　0.44m前後。　**炉跡**　検出されない。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱である。
出土遺物　出土遺物は無い。

154号住居跡（弥生後期）（第252～254図、図版36・135）
位置　西調査区南東側。Ｍ８。　**複合切り合い関係**　プランの北西側を155住に、南側を158住に掘り込まれ、また、東壁で153住と接して検出する。　**平面形**　不明。　**主軸方位**　不明。　**床面規模**　3.80m（副軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.2m前後。　**炉跡**　残存する北側床面にその形跡を留める。　**床面**　踏み跡が円形に画される。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１・Ｐ２を検出するが無柱であろう。
出土遺物　１は内外面に丹彩を施し小形鉢であろう。２・３には羽状縄文を施し、２は沈線で仕切る。４は破片上端に櫛状工具による刺突文が施され、２～４は壺の小片である。住居跡共伴遺物については、何れも覆土内からの出土であるが、全て住居跡の帰属を示す資料となろう。

155号住居跡（第252・253・257図、図版135）
位置　西調査区ほぼ中央。Ｌ７・Ｌ８・Ｍ９。　**複合切り合い関係**　プラン西側で152住、南側で154住を掘り込み、西側でカマドおよび床面を156住に掘り込まれ検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－58°－Ｅ。　**床面規模**　7.40m（主軸）×7.36m（副軸）。　**床面積**　54.68㎡。　**残存壁高**　0.40～0.43m。　**カマド**　156住と11号溝に削平される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅８～10cm・深さ８cm前後で四周する。　**覆土**　概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。
出土遺物　１・２は口縁が僅かに外傾する口縁を特徴とし、１は外面斜位の篦ナデ、２は外面ナデ状篦ケズリを施す。３は口縁「く」の字に外傾し外面篦ナデの甕。５・６は須恵器大甕の小片。７は須

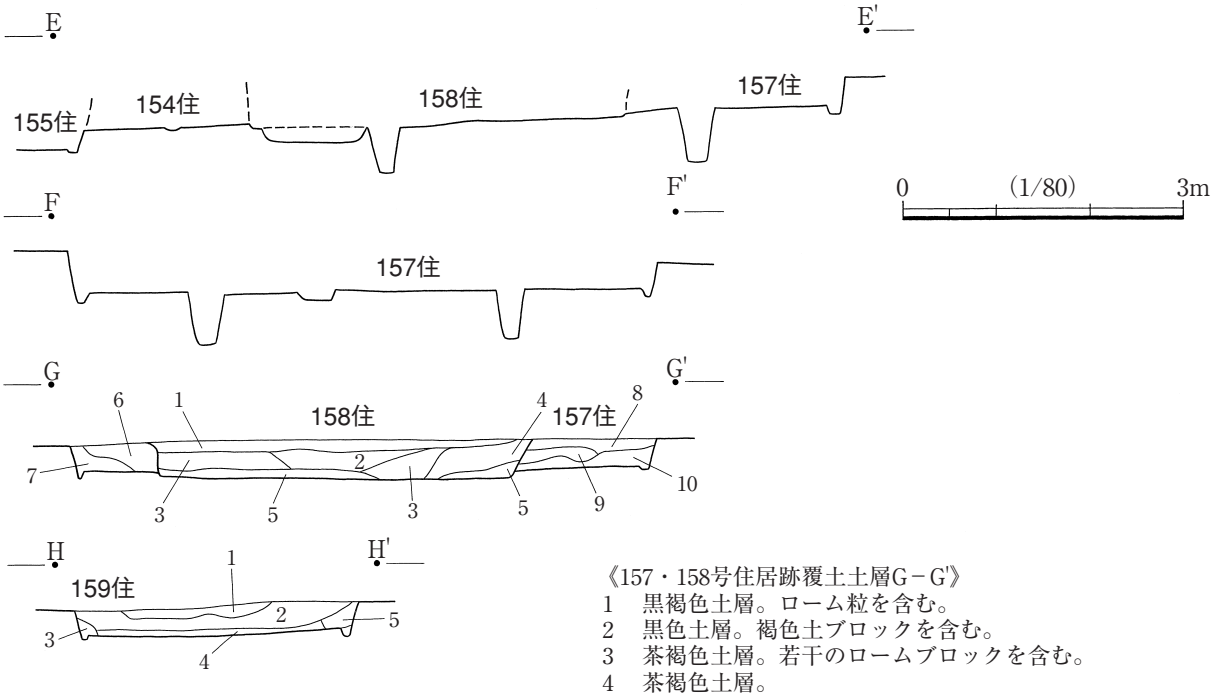


第252図　152号～159号住居跡



《155・156号住居跡覆土土層D－D'》

1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。褐色土ブロックを含む。
3　黒褐色土層。若干のロームブロックを含む。
4　茶褐色土層。
5　黒褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒を含む。
7　黒色土層。ローム粒を含む。
8　黒褐色土層。ロームブロックと少量の焼土粒を含む。
9　茶褐色土層。ローム土混入。
10　黒色土層。
11　黒褐色土層。ローム粒を含む。
12　黒色土層。ロームブロック含む。
13　黄褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
14　黒色土層。
15　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
16　茶褐色土層。
17　9層に同じ。



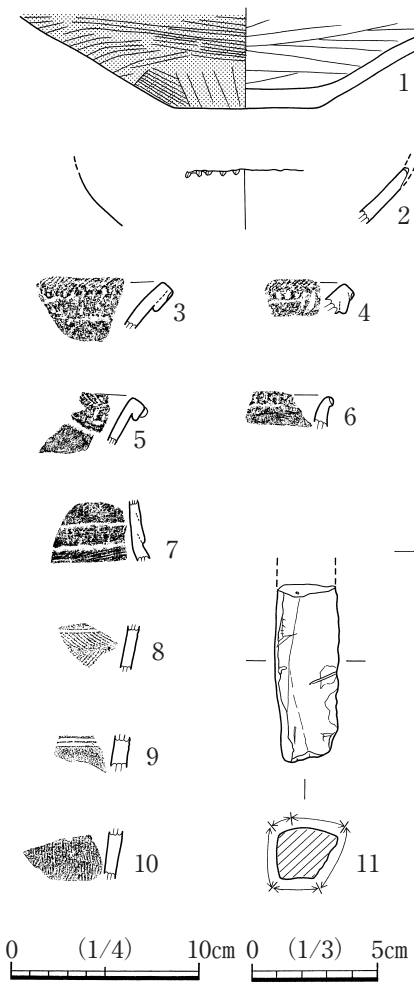
《159号住居跡覆土土層H－H'》

1　黒色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　茶褐色土層。
4　黒褐色土層。一部ソフトロームを含む。
5　茶褐色土層。ローム粒を含む。

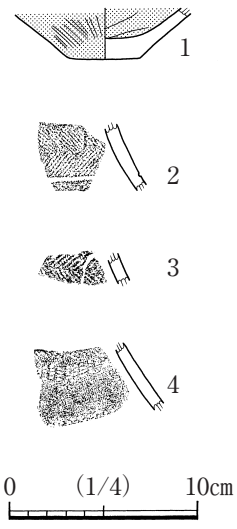
《157・158号住居跡覆土土層G－G'》

1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒色土層。褐色土ブロックを含む。
3　茶褐色土層。若干のロームブロックを含む。
4　茶褐色土層。
5　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
6　黒色土層。ローム粒を含む。
7　茶褐色土層。ローム粒を含む。
8　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
9　黒色土層。ローム土混入。
10　茶褐色土層。ローム粒を含む。

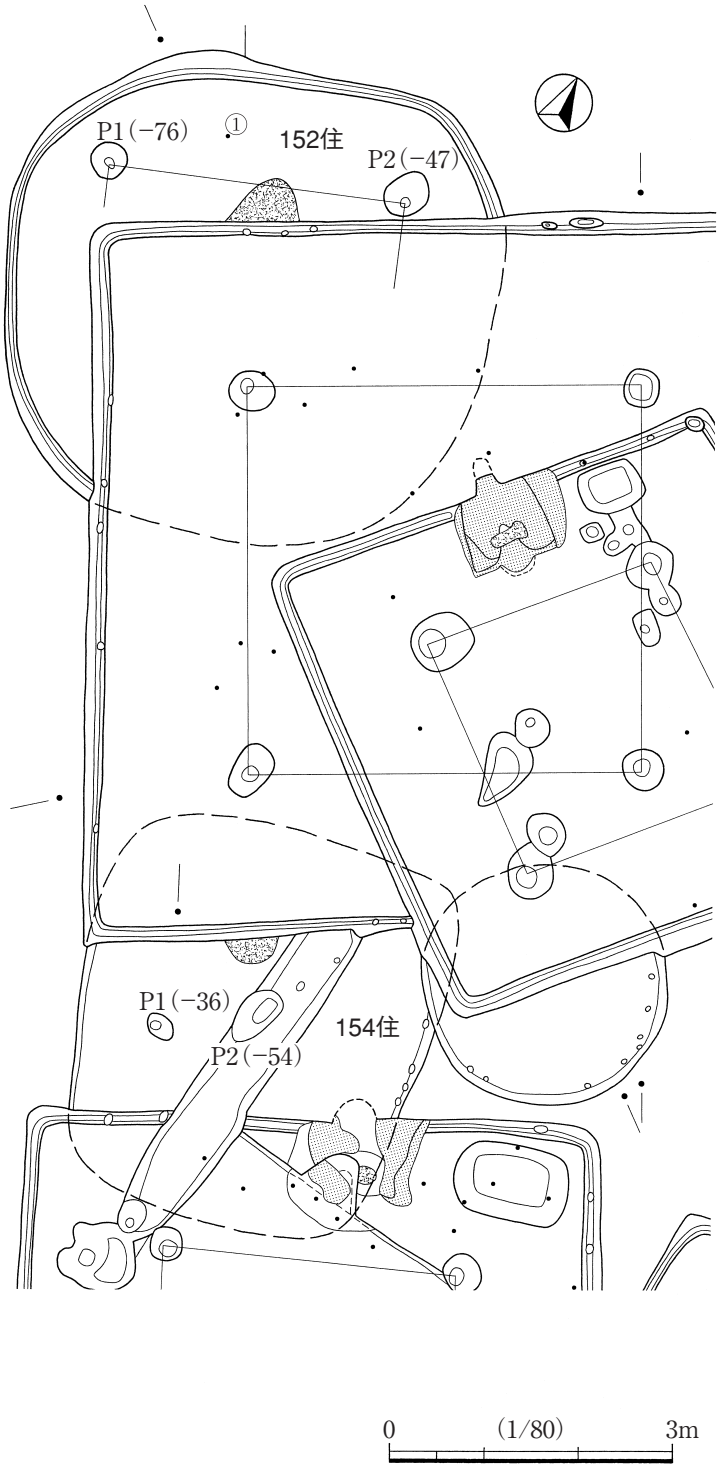
第253図　152号～159号住居跡断面図



152号住居跡出土遺物



154号住居跡出土遺物



第254図　152号・154号住居跡と出土遺物

恵器ハソウ口縁小片。８～10の外面にはスタンプ状の斜格子目の叩き目が残り、内面雑なナデが施され中世の大甕片である。11～16は赤彩の椀形高杯。17も内外に釉を被る常滑の甕片である。18は内外面赤彩の椀。遺物出土位置は、１～４・11・12・16がほぼ床面やカマド燃焼部からの出土である。覆土出土の13～15と18も同様に住居跡の帰属時期を示す資料となろう。８～10・17は北東側に検出される11号溝の混入遺物と判断できる。

156号住居跡（第252・253・258図、図版135）

位置　西調査区南東側。Ｌ８・Ｍ８。　複合切り合い関係　155住東側を大きく掘り込み重複する。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－55°－Ｗ。　床面規模　5.02m（主軸）×5.15m（副軸）。　床面積　25.79㎡。　残存壁高　0.51～0.66m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　壁溝　幅８～10cm・深さ８cm前後で四周する。　覆土　概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるがＰ２とＰ４に掘り直しを示すピットが重複して検出され竪穴の建て替へが行われた状況を示す。Ｐ５はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。

出土遺物　１は大形の土師器甕で外面細かく不規則な篦ケズリを施す。３は内湾口縁杯で内面光沢の有るミガキで仕上げられ漆塗りの可能性がある。４は輪積み痕を残し整形の雑な椀形杯。５は杯身模倣杯で僅かに受部稜が突出する。６は円錐形の土製支脚である。遺物出土位置は、１・５が床面直上、４・６がカマド覆土、２がほぼ床面、３は壁溝内からの出土で、４以外の遺物は住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

157号住居跡（第252・253・259図、図版36・135・136）

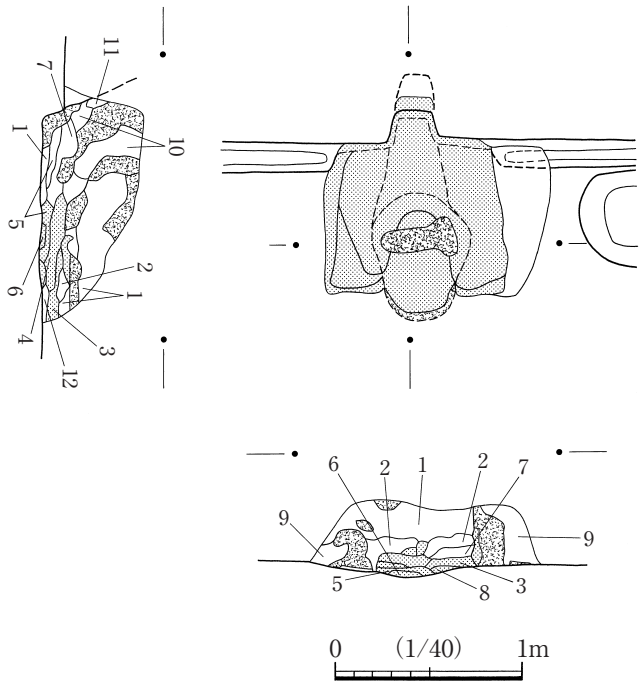
位置　西調査区南東側。Ｍ８。　複合切り合い関係　プラン北側で154住を掘り込み、中央床面を158住に大きく掘り込まれ重複し、また、北東壁に159住が壁を僅かに掘り込んでいる。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－28°－Ｗ。　床面規模　6.06m（主軸）×6.02m（副軸）。　床面積　36.98㎡。　残存壁高　0.21～0.43m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　張床で比較的良く踏みならされている。　壁溝　幅６～10cm・深さ５～８cmの規模で四周する。　覆土　黒色土を主体とし概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。Ｐ５はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。

出土遺物　１～３は口縁が長く外反する甕で胴外面にはケズリ状篦ナデや篦ナデを施す。４は口縁が長く外反する甕で肩部にミガキを施す。５は大形の土師器甕で外面ミガキ状篦ナデを施し、４と同一個体の可能性もある。６は胴外面篦ケズリを残す斜位の篦ミガキを施す。７は赤彩の椀形杯。８・９は赤彩の高杯で脚が長くなる傾向にある。10は正面・背面と周縁に敲打を残す。

遺物出土位置は、１・４・10が床面直上、２・５・６がカマド右側の貯蔵穴内、３・７がほぼ床面からの出土で全て住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

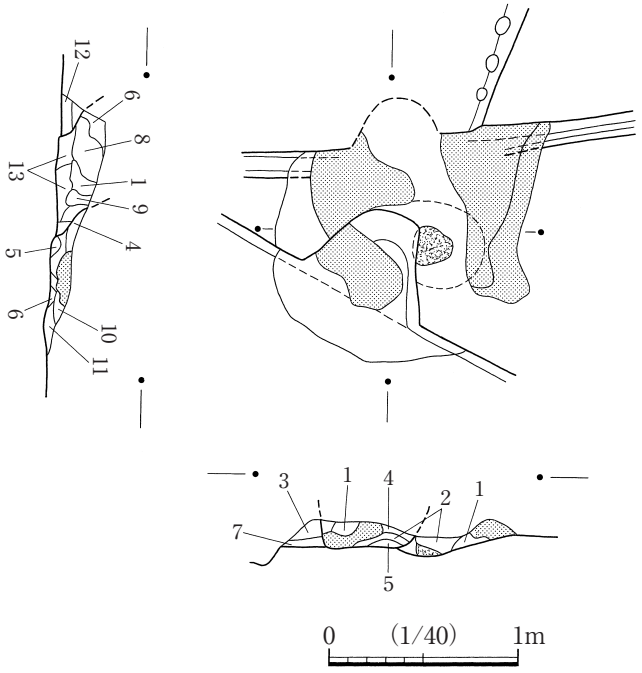
158号住居跡（第252・253・260図、図版36・136）

位置　西調査区南東側。Ｍ８。　複合切り合い関係　157住の床面中央を大きく掘り込み検出する。



《156号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を含む。
2　粘土と焼土の混合土層。暗褐色土を少量含む。
3　灰と焼土の混合土層。
4　灰と粘土の混合土層。焼土が少量入る。
5　暗褐色土層。灰と焼土を含む。
6　焼土と灰の混合土層。
7　暗褐色土層。粘土と焼土を含む。
8　焼土層。灰を含む。
9　暗褐色土層。粘土を全体に少量含む。焼土粒と灰を極少量含む。
10　粘土層。暗褐色土を含む。
11　粘土と焼土の混合土層。
12　暗褐色土層。焼土を含む。

第255図　156号住居跡カマド

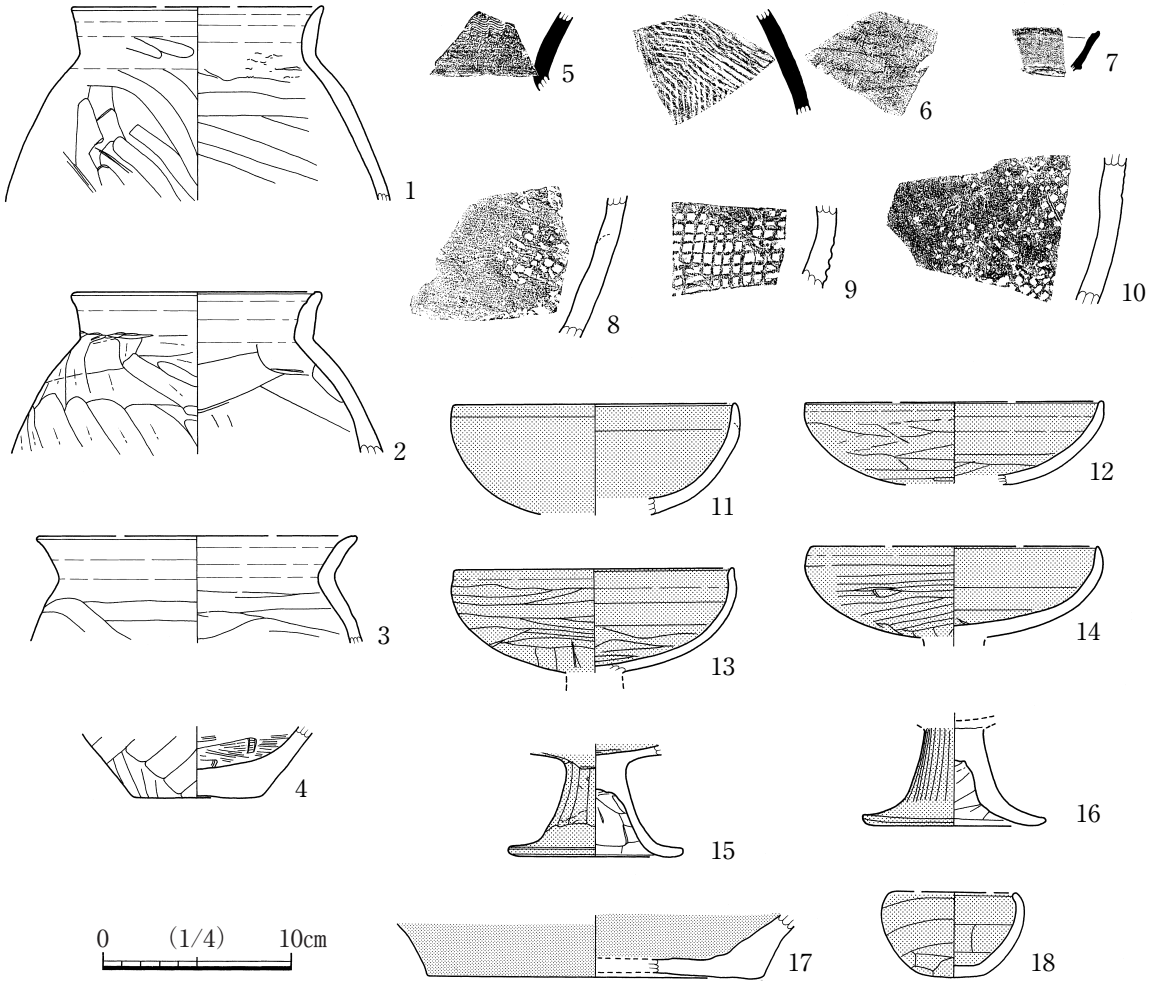


《157号住居跡カマド土層》
1　極暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　暗褐色土層。粘土と焼土を含む。
3　暗褐色土と焼土のブロック。
4　褐色土層。粘土と焼土を含む。
5　暗褐色土層。焼土粒を少量含む。
6　褐色土層。焼土粒を少量含む。
7　褐色土層。粘土粒とローム粒を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土粒（5㎜以下）と炭粒（少量）を含む。
9　粘土と暗褐色土のブロック。
10　黒褐色土層。粘土を少量含む。
11　褐色土層。焼土粒とローム粒を含む。
12　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を含む。
13　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。

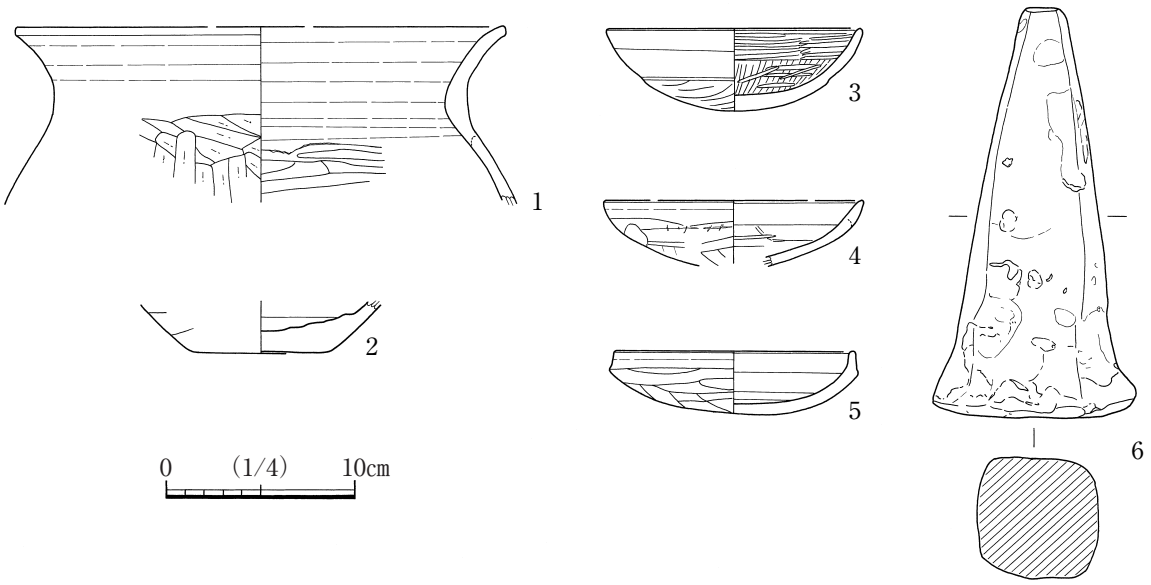
第256図　157号住居跡カマド

平面形　縦長方形。　**主軸方位**　N－7°－E。　**床面規模**　3.54m（主軸）×3.05m（副軸）。　**床面積**　10.69㎡。　**残存壁高**　0.41～0.42m。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　約10㎝の厚さの張床で、堅く踏みならされ、やや凹凸が目立つ。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　覆土中層にロームブロックを含む土層が観察され埋め戻された状況を示す。　**主柱穴**　無柱と思われる。

出土遺物　1・2は肉薄の胴外面横位のそぎ取る様な篦ケズリ甕で、1は口縁が外傾し、2の口縁はは外傾して内湾気味となる。3・4は台付甕で胴外面縦位の篦ケズリを基調とする。5は端部が下方に折れる須恵器蓋。6は高台付杯の体部片。7は体部下端手持ち篦ケズリと底部一定方向の篦ケズリ

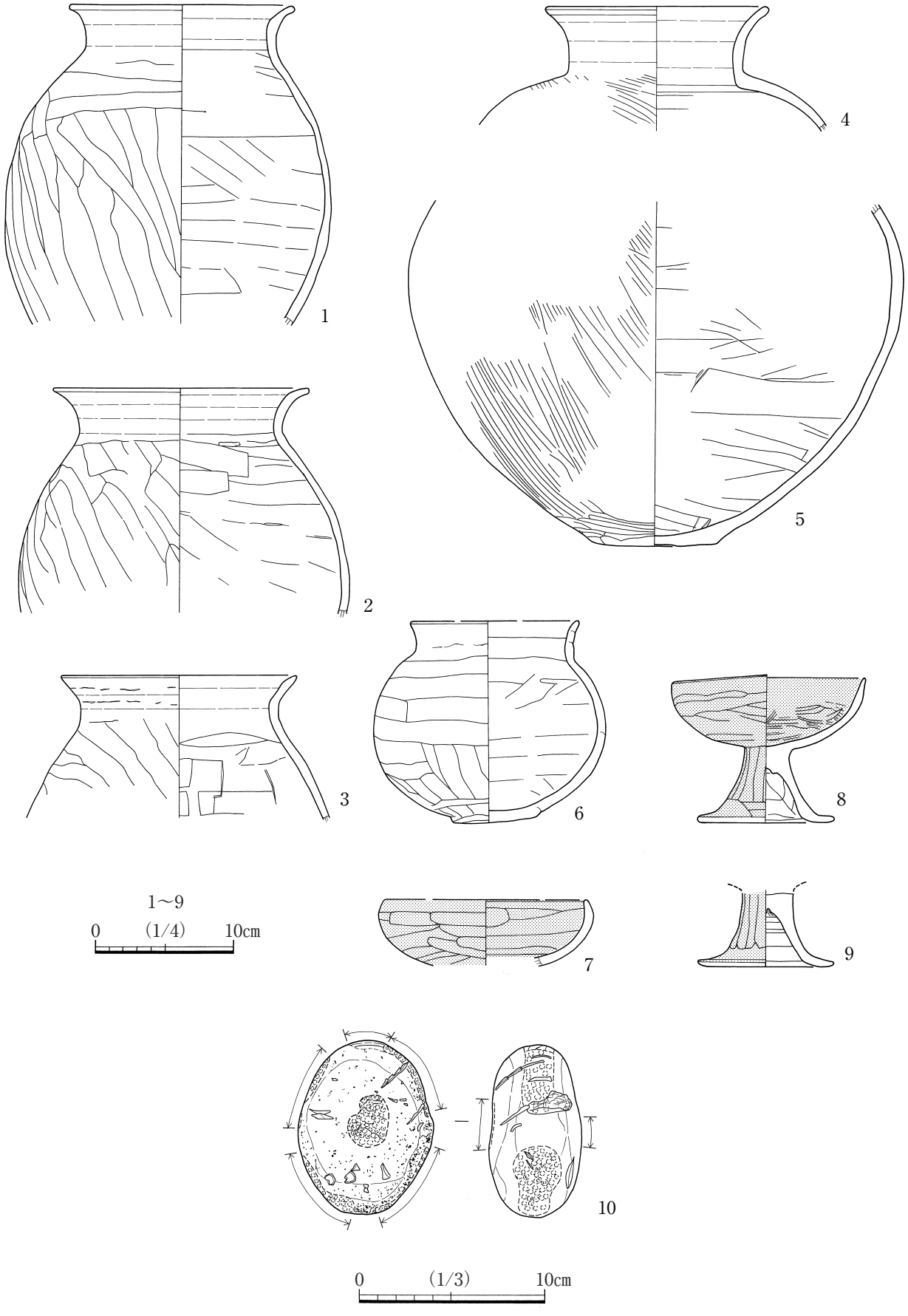


第257図　155号住居跡出土遺物

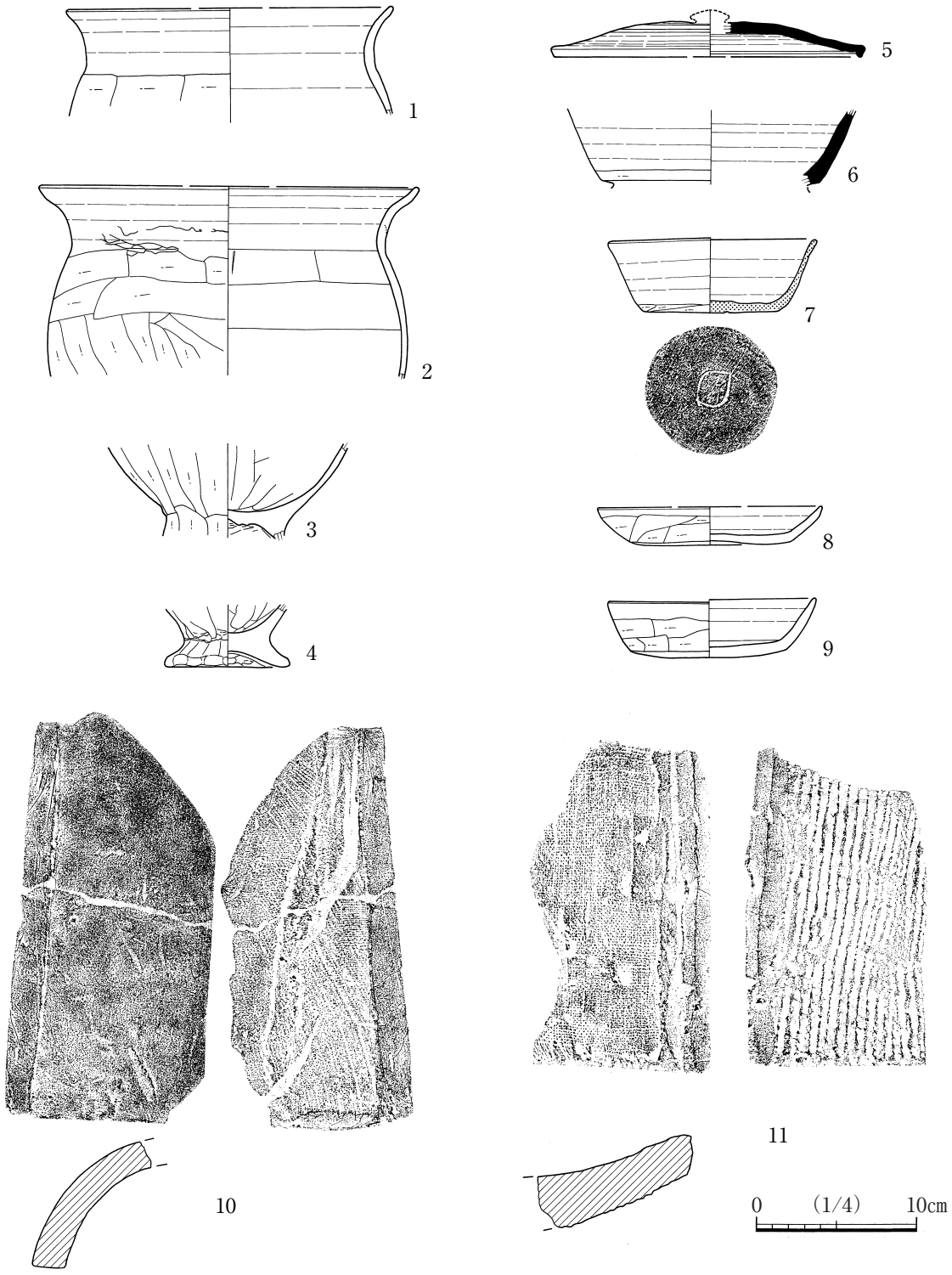


第258図　156号住居跡出土遺物

に焼成前の円形の線刻を施す、千葉市域産の南河坂産の須恵器杯である。8は皿状の杯で内面に螺旋状暗文が僅かに認められる。9は内面見込みが明瞭な体部と底部が手持ち篦ケズリを施す。10は丸瓦。11は平瓦である。遺物出土位置は、1～3・8・11がカマド燃焼部、4・9・10が床面直上からの出土で、5・6の須恵器も覆土出土であるが住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。



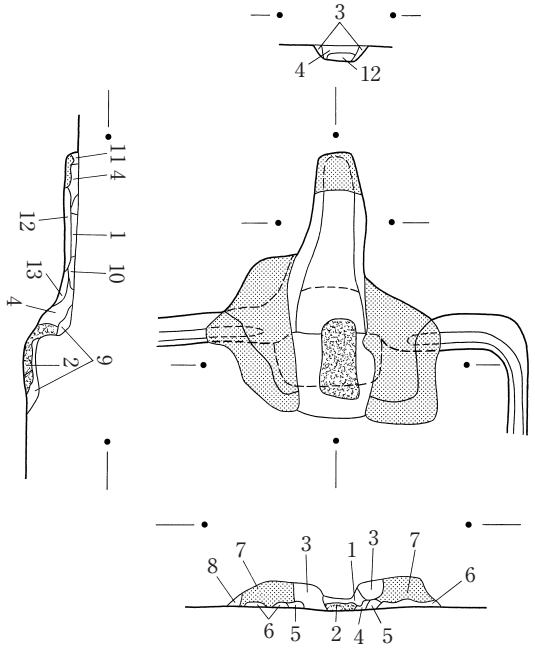
第259図　157号住居跡出土遺物



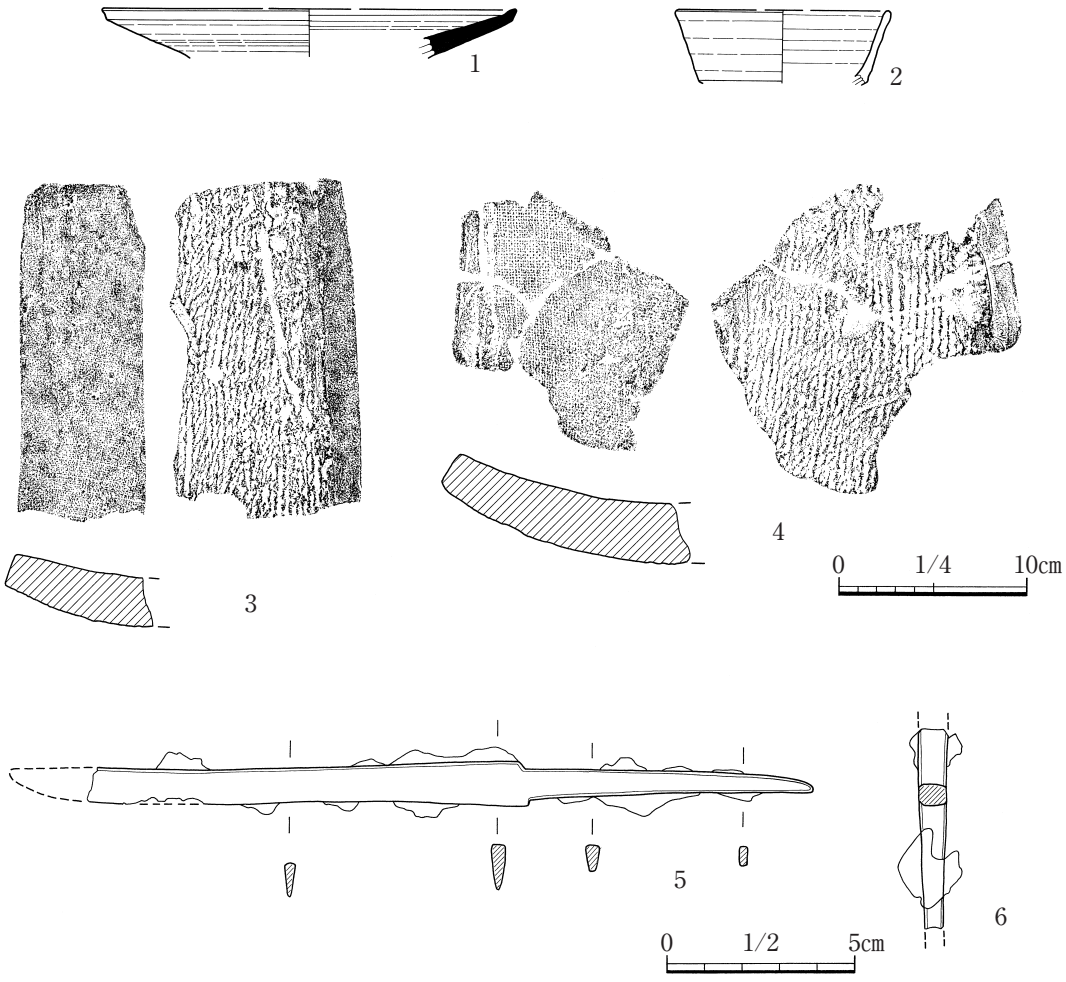
第260図　158号住居跡出土遺物

159号住居跡（第252・253・261図、図版36・136）

位置　西調査区南東側。M８・M９。　複合切り合い関係　プラン南西隅で157住壁を僅かに掘り込んでいる。　平面形　西辺が東辺より短くやや不整な方形を呈する。　主軸方位　N－１°－W。　床面規模　2.70m（主軸）×2.88m（副軸）。　床面積　7.42㎡。　残存壁高　0.26～0.35m。　カマド　北辺中央より右側（東）に寄って敷設される。　床面　ハードローム上に形成され、全体的に



《159号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。焼土を少量含む。
2　褐色土層。焼土と灰を少量含む。
3　暗褐色土層。焼土粒と粘土粒を少量含む。
4　暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
5　暗褐色土層。粘土を少量含む。
6　褐色土層。
7　粘土と暗褐色土のブロック。焼土を少量含む。
8　褐色土層。粘土を少量含む。
9　褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　褐色土層。ローム粒を含む。
11　粘土層。暗褐色土を多く含む。
12　暗褐色土層。ローム土と焼土粒を少量含む。
13　明褐色土層。



第261図　159号住居跡カマドと出土遺物

堅緻である。　**壁溝**　幅10cm・深さ６cmの規模で四周する。　**覆土**　黒色土層を主体とし概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　無柱構造である。

出土遺物　１は須恵器盤の小片。２は箱形のロクロ土師器杯の小片か。３・４は平瓦。５は切先を欠損する推定全長22cm程を計測する両関刀子。６は断権角状の釘断片であろう。

遺物出土位置は、３が東端のほぼ床面、他は覆土からの出土であるが住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

160号住居跡（弥生後期）（第262・266図、図版36・137）

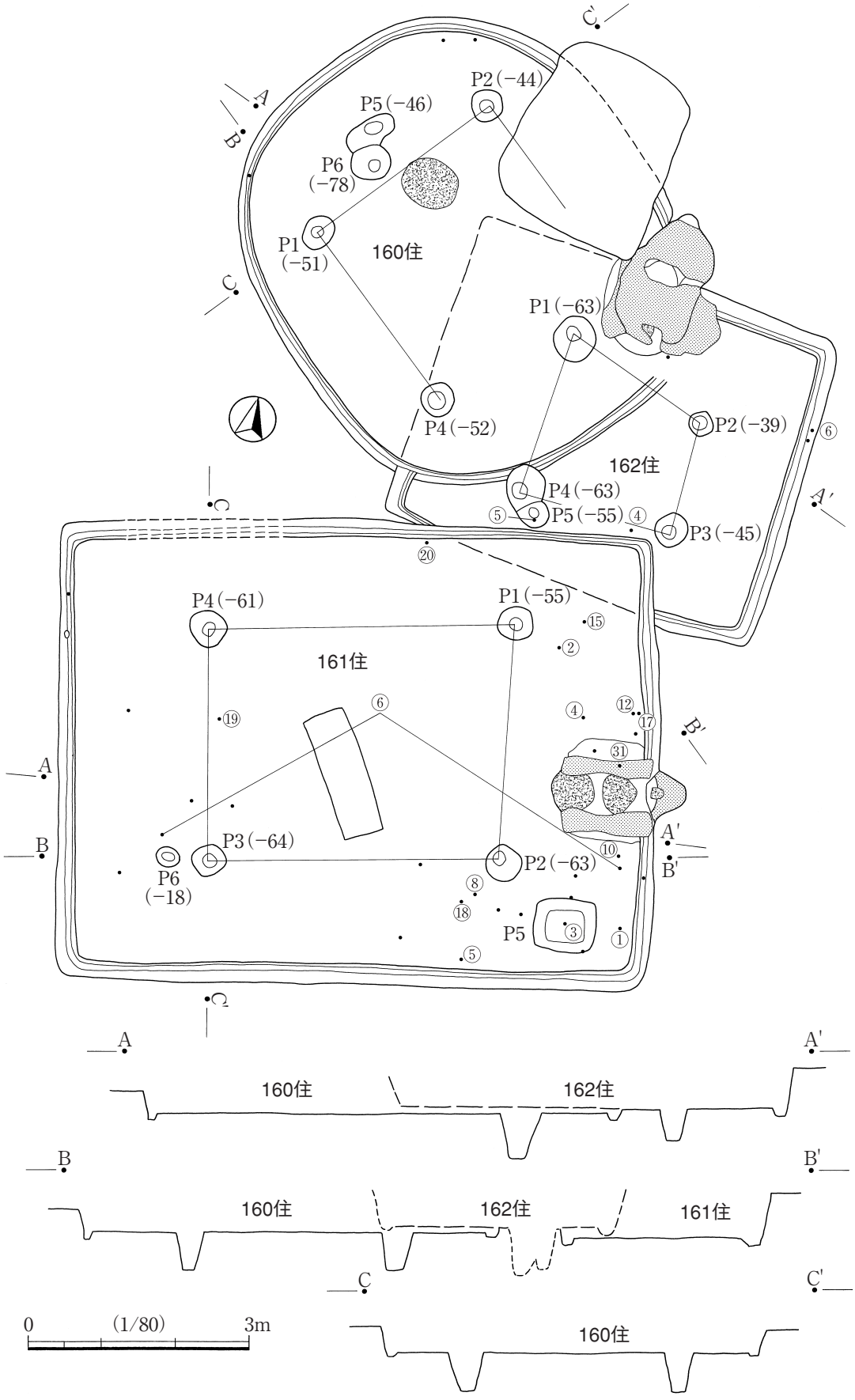
位置　西調査区中央南側。Ｌ７・Ｍ７。　**複合切り合い関係**　プラン南東側にほぼ床面レベルを同一に置く162住、北東側に大形の攪乱穴（未掘で地下式土壙の可能性あり）によりそれぞれ掘り込まれ検出する。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－48°－Ｗ。　**床面規模**　6.00m（主軸）×5.15m（副軸）。　**床面積**　26.49㎡。　**残存壁高**　0.32m前後。　**炉跡**　床面中央から北西側に寄って検出される。75cm×64cmの円形を呈する。　**床面**　張床であるが、比較的堅く踏みならされており、やや凹凸が強い。　**壁溝**　残存壁下および162住床面に幅15cm前後・深さ８cm前後を測り検出され本来は四周する物であろう。　**覆土**　覆土中にはロームブロックを含む土層が確認されるものの概ね自然堆積状況を示す。但し、平面図には記載されないが床面直上には焼土が広範囲に堆積し火災住居であることがわかる。　**主柱穴**　４本柱構造と思われるがＰ３は未検出である。

出土遺物　１は壺で折返しの複合口縁で側面に縄文帯を施し、円形浮紋の貼付がある。２・３は壺肩部片で上端に結節紋と羽状縄文帯が認められる。４は沈線で仕切られた縄文帯。５～８は甕片。５は口縁押捺の波状を呈し肩部接合部に円形竹管の刺突紋を回らす。６は口縁押捺波状で外面刷毛目。７は輪積みの甕口縁片。８は肩部接合部に縄文の刺突紋を回らす。９は小形の壺。10は複合口縁の鉢。11は外面に２段の羽状縄文帯と口唇部に縄文を回らす。１～11の全ての遺物は住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。

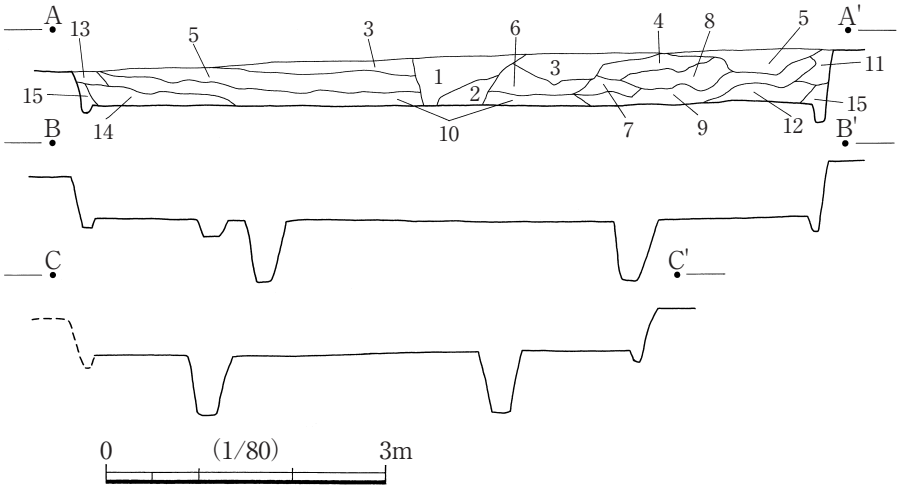
161号住居跡（第262～264・268図、図版36・137）

位置　西調査区中央南側。Ｍ７・Ｎ７。　**複合切り合い関係**　プラン北東隅上層に162住が壁を掘り込んでいる。　**平面形**　縦長方形。　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｅ。　**床面規模**　7.90m（主軸）×5.93m（副軸）。　**床面積**　46.77㎡。　**残存壁高**　0.41～0.58m。　**カマド**　東辺中央よりやや右側（南）に寄って敷設される。袖部および火床は床面側に張り出す。　**床面**　貼床で全体的に平滑で堅く踏みならされている。　**壁溝**　幅10～18cm・深さ10～20cmのを測り四周する。　**覆土**　覆土中にはロームブロックを含む土層が確認され埋め戻された状況を示す。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。Ｐ５はカマド右側の南西隅に設けられた貯蔵穴である。

出土遺物　１は球胴系甕で口縁径21.5cm・胴径24.0cm・器高22.4cmの口頸径が大きく口縁端部摘み上げ気味で、胴外面上半刷毛ナデ、下半篦ナデを施す。２～５は胴外面篦ナデの甕。６～８は甕底部で８は外面赤彩を施す。９は須恵器蓋で天井部外面回転篦ケズリを施し稜は鈍い。10は全面赤彩の杯身模倣杯。11は赤彩椀形杯。12は外面に赤彩を施した高台状の楕円形の底部である。13は外面赤彩のハソウ。14～20は赤彩の高杯で、14の杯部下端には稜を有する。15の脚は長く、20の脚は袋状気味で和

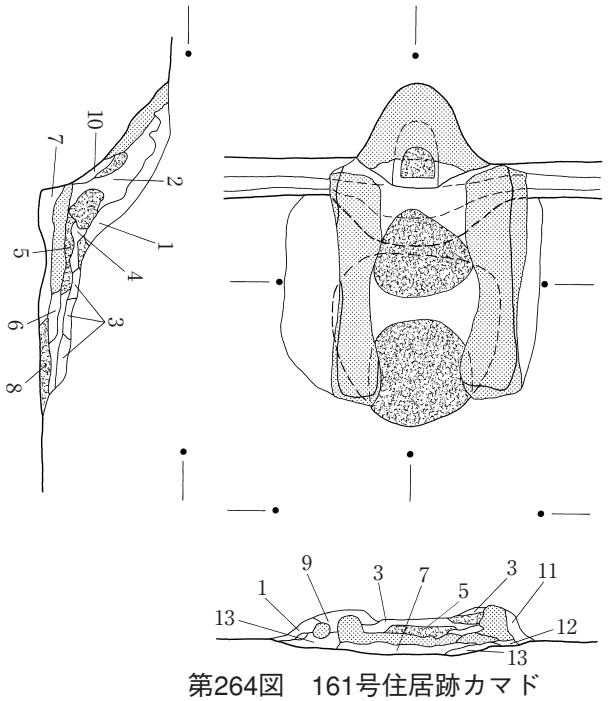


第262図　160号・161号・162号住居跡



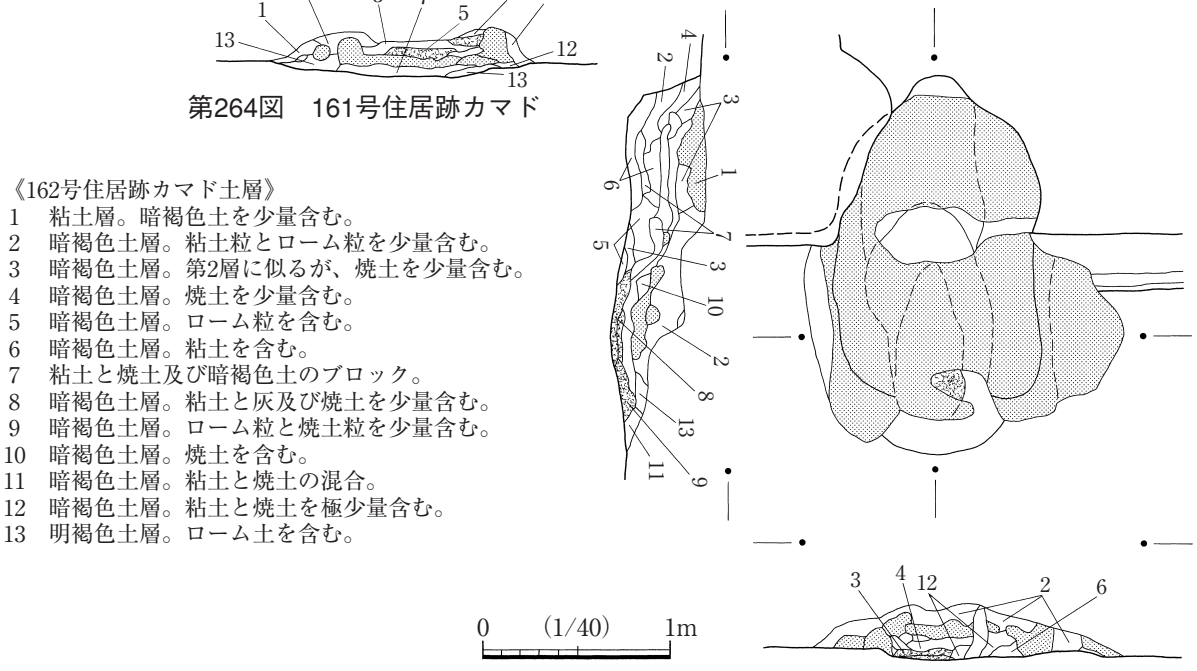
《161号住居跡覆土土層A－A'》
1　灰褐色土層。硬質。ローム粒（5㎜以下）を含む。
2　灰褐色土層。第6層より少し暗い。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
3　黒色土層。
4　茶褐色土層。第8層より少し暗い。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
5　黒褐色土層。
6　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
7　黄褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
8　黒褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を少量含む。
9　茶褐色土層。焼土粒を含む。
10　黒褐色土層。第2層より少し明るい。ロームブロックを染み状に含む。
11　黄褐色土層。
12　粘土層。焼土粒を含む。
13　茶褐色土層。ロームブロック（4㎝以下）を染み状に含む。
14　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
15　黄褐色土層。ロームブロックを多く含む。

第263図　161号住居跡断面図



《161号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
2　焼土と暗褐色土の混合土層。
3　暗褐色土層。焼土を含む。
4　灰と焼土の混合土層。
5　暗褐色土層。焼土と灰を含む。
6　粘土層。暗褐色土層を少量含む。
7　暗褐色土層。粘土を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土とローム粒及び粘土を少量含む。
9　暗褐色土層。ローム粒と粘土粒を少量含む。
10　暗褐色土層。粘土と灰を少量含む。
11　粘土と暗褐色土の混合土層。焼土粒を少量含む。
12　暗褐色土層。ローム粒を含む。
13　黒褐色土層。粘土を少量含む。

第264図　161号住居跡カマド



《162号住居跡カマド土層》
1　粘土層。暗褐色土を少量含む。
2　暗褐色土層。粘土粒とローム粒を少量含む。
3　暗褐色土層。第2層に似るが、焼土を少量含む。
4　暗褐色土層。焼土を少量含む。
5　暗褐色土層。ローム粒を含む。
6　暗褐色土層。粘土を含む。
7　粘土と焼土及び暗褐色土のブロック。
8　暗褐色土層。粘土と灰及び焼土を少量含む。
9　暗褐色土層。ローム粒と焼土粒を少量含む。
10　暗褐色土層。焼土を含む。
11　暗褐色土層。粘土と焼土の混合。
12　暗褐色土層。粘土と焼土を極少量含む。
13　明褐色土層。ローム土を含む。

第265図　162号住居跡カマド

泉期の高杯の影響を残す。21は土玉断片。22はやや扁平気味の紡錘車である。遺物出土位置は、７・13・16カマド燃焼部、１・４・20床面直上、３がＰ５貯蔵穴内、８・10・18・19がほぼ床面からの出土である。覆土出土の他の遺物も住居跡の帰属時期をほぼ示す資料と見て差し支えないものであろう。

162号住居跡（第262・265・267図、図版37・138）

位置　西調査区中央南側。Ｍ７・Ｍ８。　複合切り合い関係　プラン西半分で床面をほぼ同一レベルに置く160住を南側で161住北東隅周辺の壁を掘り込み検出する。　平面形　横長方形。　主軸方位　Ｎ－６°－Ｅ。　床面規模　4.12m（主軸）×4.95m（副軸）。　推定床面積　20.03㎡。　残存壁高　0.46～0.56m。　カマド　北辺中央に敷設される。煙道部は壁から大きく張り出す。　床面　張床であるが平滑で比較的堅く踏まれている。　壁溝　遺存部分では幅15cm前後・深さ15～20cmを測ることから本来は四周するものであろう。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるが各柱間が異なり不規則な配置を示す。

出土遺物　１～３は肉薄の口縁がやや長く外傾する甕で、１は斜位、２は縦位、３はそぎ取る横位のそれぞれ篦ケズリを施す。４は須恵器蓋で口縁が下方に折れる。５は体部および底部手持ち篦ケズリの上総型杯。６は平底で内面にミガキを施す。７は平瓦である。遺物出土位置は、１～３・７がカマド燃焼部、５が床面直上、６が東側壁に接して出土し、１～７の全ての遺物が住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

163号住居跡（第269図、図版37・138）

位置　西調査区中央南側。Ｍ６・Ｍ７・Ｎ６・Ｎ７。　複合切り合い関係　北東隅で161住壁と接する。また、中央床面を近世の芋貯蔵用穴と思われる溝状遺構に攪乱される。　平面形　やや均整を欠く方形。　主軸方位　Ｎ－20°－Ｅ。　床面規模　3.54m（主軸）×3.54m（副軸）。　床面積　12.48㎡。　残存壁高　0.42m前後。　カマド　北辺中央に敷設され、煙道部は0.95m突出する。

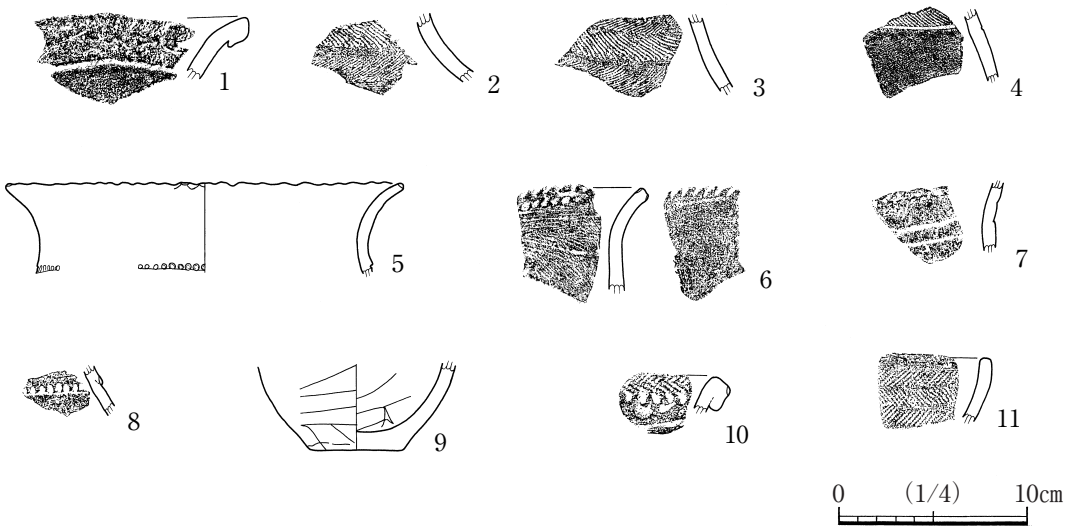
床面　カマドから中央部にかけて凹凸が少々目立つものの堅緻であるが、壁周辺部は平滑で軟弱である。　壁溝　幅８～12cm・深さ９～20cmを測り北側西半分と西・南壁下に回る。　覆土　概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるがＰ２・Ｐ４に掘り直しの跡が認められる。Ｐ５は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１は胴外面上半縦位篦ケズリ、下半篦ナデ。２・３は肉薄の口縁がやや長く外傾する甕で、外面そぎ取る横位の篦ケズリを施す。４は盤状の杯で内面見込みに明瞭な稜を有し、外面は手持ち篦ケズリを施す。５・６は土製支脚である。遺物出土位置は、５以外の遺物はカマド燃焼部およびカマド右袖床面付近から出土し、住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

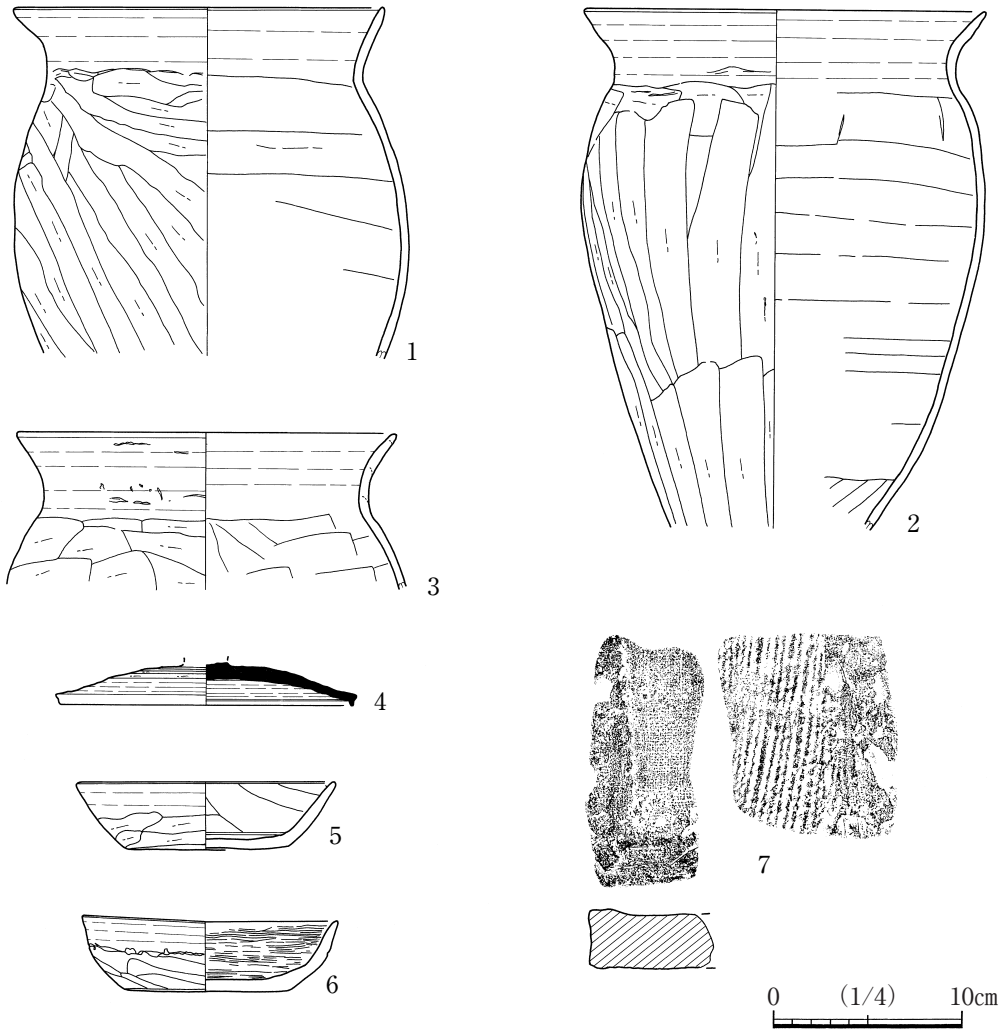
164号住居跡（第270～272図、図版37・138）

位置　西調査区南側。Ｎ６・Ｎ７・Ｏ６・Ｏ７。　複合切り合い関係　プラン北西に165住が掘り込み、また西側一帯に中世の台地整形を伴う墓壙が群衆し、この台地整形により西壁が削平される。

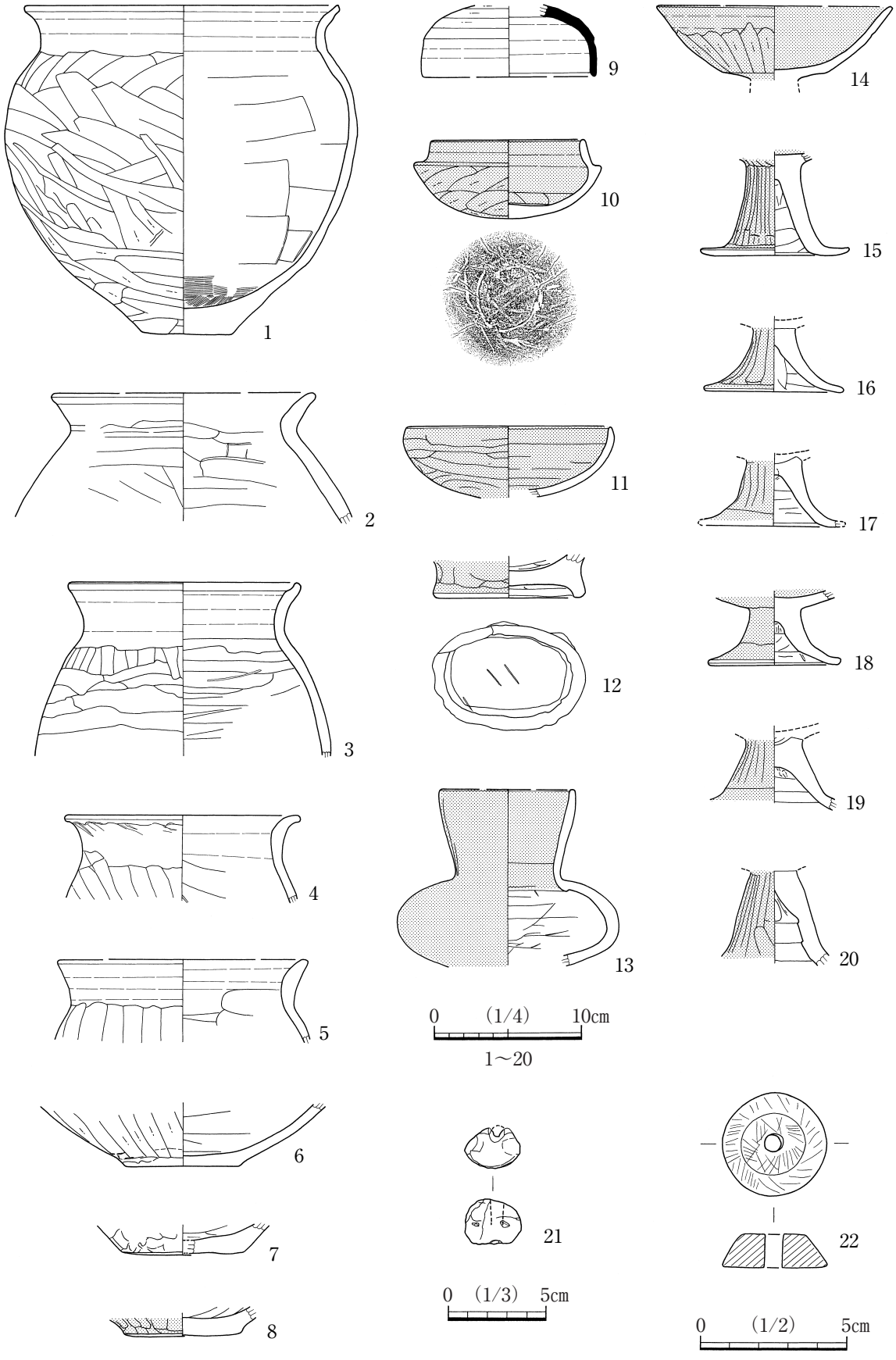
平面形　不整方形。　主軸方位　Ｎ－43°－Ｅ。　床面規模　6.04m（主軸）×6.32m（副軸）。



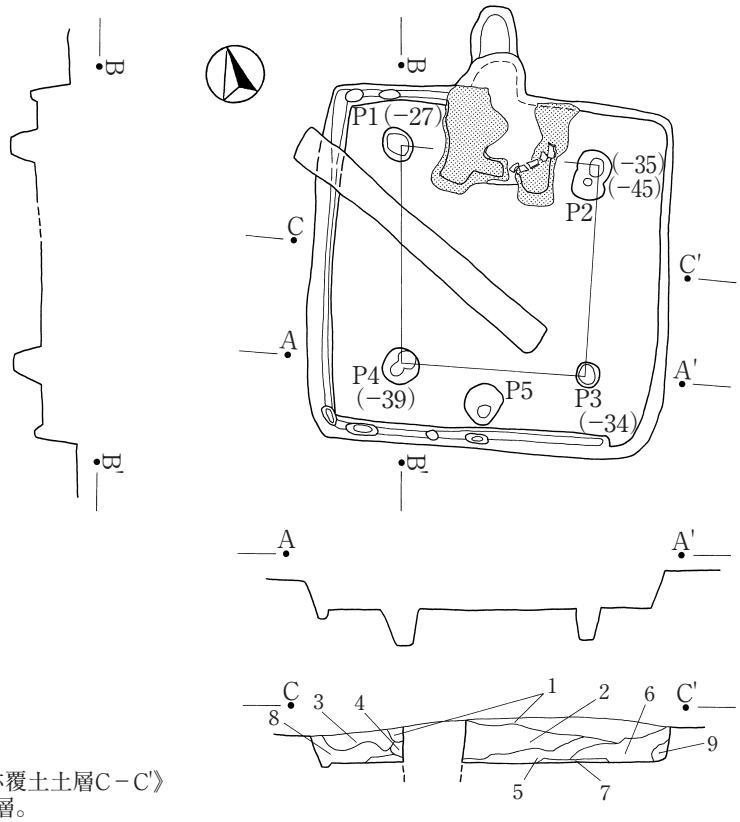
第266図　160号住居跡出土遺物



第267図　162号住居跡出土遺物

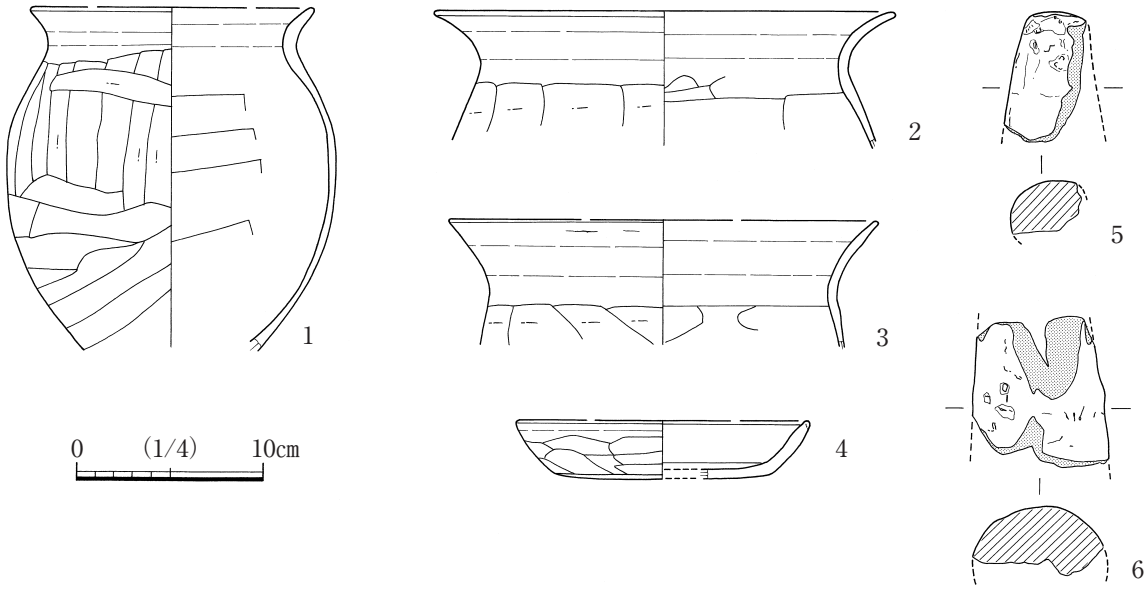


第268図　161号住居跡出土遺物



《163号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
5　黒褐色土層。
6　黒色土層。ローム粒を少量含む。
7　茶褐色土層。
8　黒色土層。ロームブロックを含む。
9　茶褐色土層。

0　(1/80)　3m



第269図　163号住居跡と出土遺物

推定床面積　37.84㎡。　**残存壁高**　0.13～0.22m。　**カマド**　北東辺の南側に寄って設けられ、袖部は床面側に大きく張り出している。　**床面**　やや凹凸が目立ち、堅く踏みしめられている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　不明。　**その他**　カマド右側の南辺に添って長さ3.05・幅1.70mの範囲（270図164住のトーン部分）は周りが床面より10cm程土手状に堅く盛り上がり中を更に区画する土手状の施設が設けられている。

出土遺物　1～3は土師器中胴甕。1は口縁「く」の字に開き外面ケズリ状篦ナデ。2は口縁が短く開き外面ケズリ状篦ナデ。3は球胴系甕で口縁が僅かに開き口唇玉状を呈し胴外面斜位篦ナデ。4は甑で胴外面斜位篦ナデを施す。5～8は赤彩の椀形杯で、5は腰が張りやや深い、8は半円球状を呈する。9は内湾気味の口縁が僅かに立つ椀、10・11は強く湾曲する胴部に短く直立する口縁を有する短頸壺で、10の内面にも赤彩が塗られる。12は杯下端に稜を有する赤彩高杯か。13は摩耗が著しく赤彩を残さないが和泉期の影響を残す脚柱袋状を呈する。遺物出土位置は、6・12が床面直上、1・4・5・13がほぼ床面、10・11が東隅のP1内からの出土で住居跡の所属時期を示す資料である。

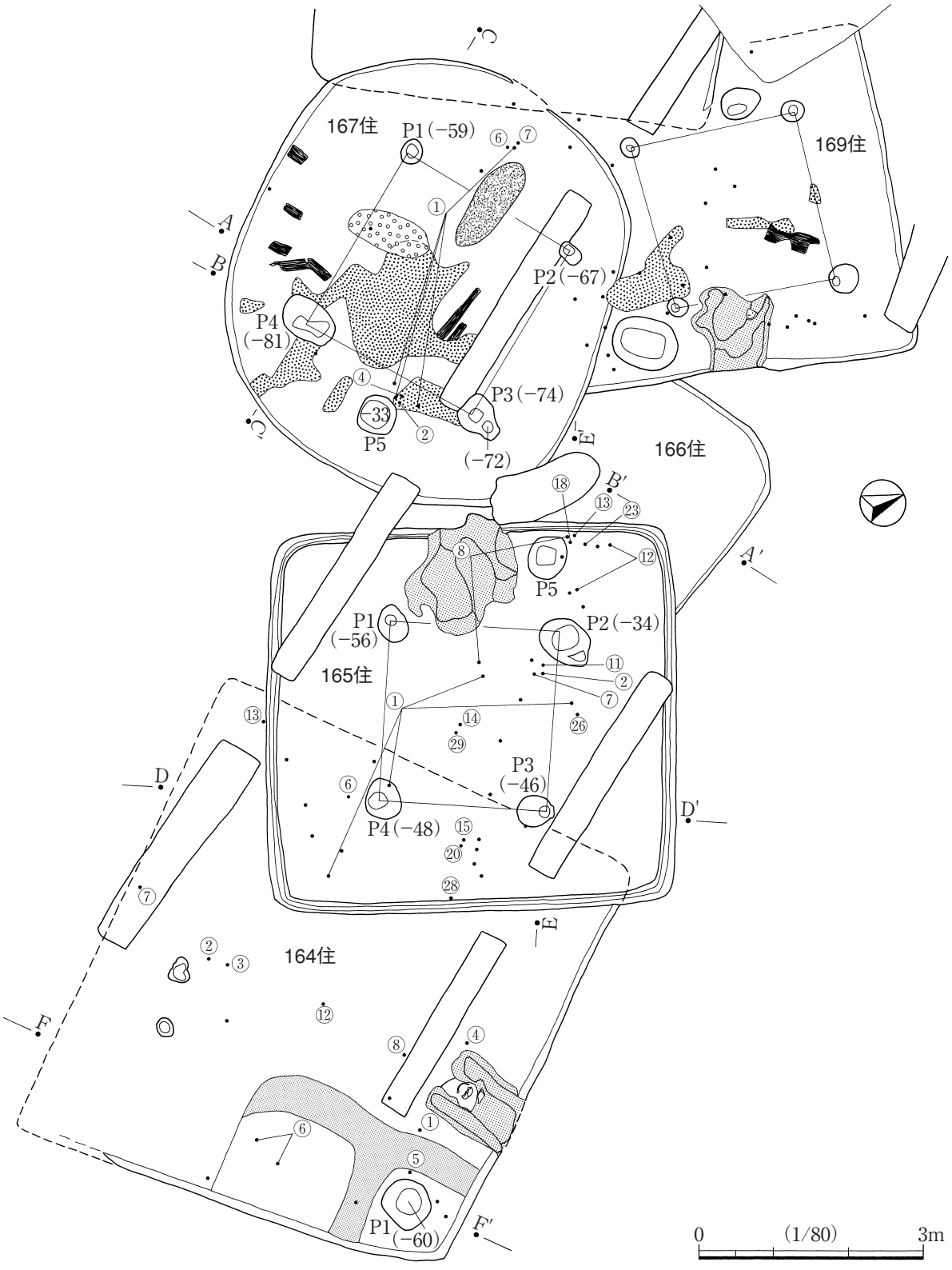
165号住居跡（第270・271・273図、図版37・139）

位置　西調査区南側。N6・N7。　**複合切り合い関係**　164住北西側床面を大きく掘り込み検出する。また、西と東側に溝状の近世遺構の攪乱（芋穴）が存在する。　**平面形**　隅丸気味の方形。　**主軸方位**　N－68°－W。　**床面規模**　4.96m（主軸）×5.32m（副軸）。　**床面積**　25.84㎡。　**残存壁高**　0.40～0.49m。　**カマド**　西辺の中央に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、総体的に堅緻である。　**壁溝**　幅8cm前後・深さ8～10cmを測り四周する。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造である。P5はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。

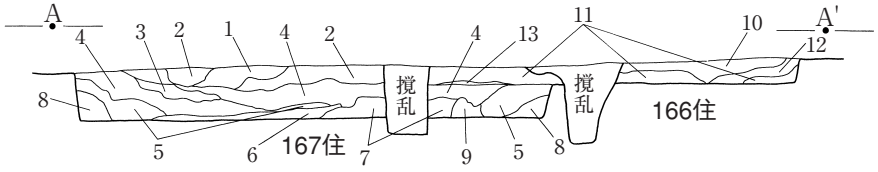
出土遺物　1は口縁が大きく外反する胴外面縦位の篦ケズリ甕。2・3も同様な甕であるが2は篦ナデ、3は斜位の篦ケズリを施す。4は大形の腰高の外面斜位の篦ケズリ甕。5は肉厚の甕。7・8は接合しないものの同一個体で外面縦位の篦ケズリに内面線状のミガキを施す甑。9～11は小形の鉢か。12・13は鉢で口縁が立ち僅かに外反する。14は短頸壺。15・16は杯身模倣杯で「く」の字の受部稜は僅かに突出する。17は内面内黒の有段口縁杯で段部が156住3と比べ口縁側に寄って位置する。18は内湾口縁杯。19～22は土師器杯。23～26は高杯で杯内面にミガキを施す。27～29は鉢状の手捏ね土器。30は土製支脚である。遺物出土位置は、3・4・5・9・17がカマド燃焼部、14・19・22・25が床面直上、12・13・24がほぼ床面、16がカマド右側の貯蔵穴P5内で、他は覆土中の出土である。4が球胴甕で胴外面斜位の篦ケズリを呈し古相を呈する他は概ね同時期の住居跡の所属時期を示す資料と言えよう。

166号住居跡（第270・271・274図、図版38・140）

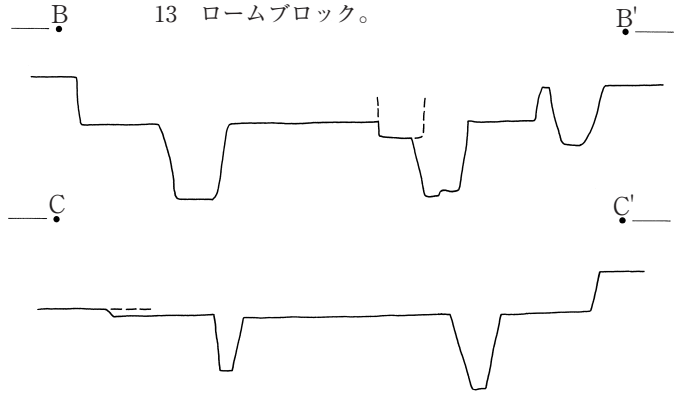
位置　西調査区南側。N7。　**複合切り合い関係**　竪穴住居跡が複雑に複合する中に位置し、南東側に165住、西に169住、南に167住が複合する。複合関係は167住→166住・169住→170住であろうか。　**平面形**　方形プランの1隅のみの検出で隅円方形を呈するものであろう。　**主軸方位**　不明。　**床面規模**　不明。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.23m前後。　**カマド**　検出されない。　**床面**　不明。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造であろう。



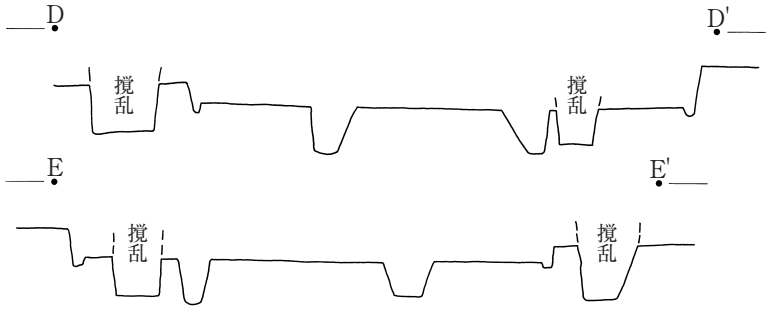
第270図　164号～167号住居跡



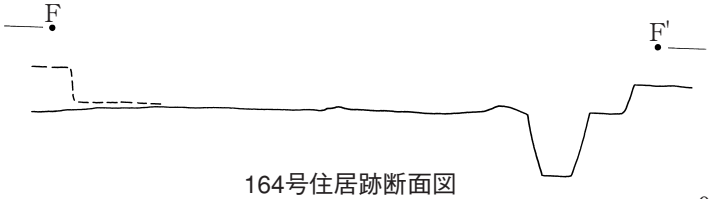
《166・167住号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
3　黒褐色土層。ロームブロックとのブロック。
4　茶褐色土層。ローム粒と焼土粒を少量含む。
5　茶褐色土層。淡褐色土ブロックとローム粒が多量に含まれる。
6　黒褐色土と焼土の混合土層。
7　茶褐色土層。第4層に似る。
8　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
9　ロームブロック。
10　黒褐色土層。
11　茶褐色土層。
12　黒色土層。
13　ロームブロック。



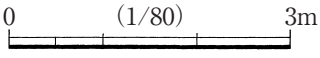
167号住居跡断面図



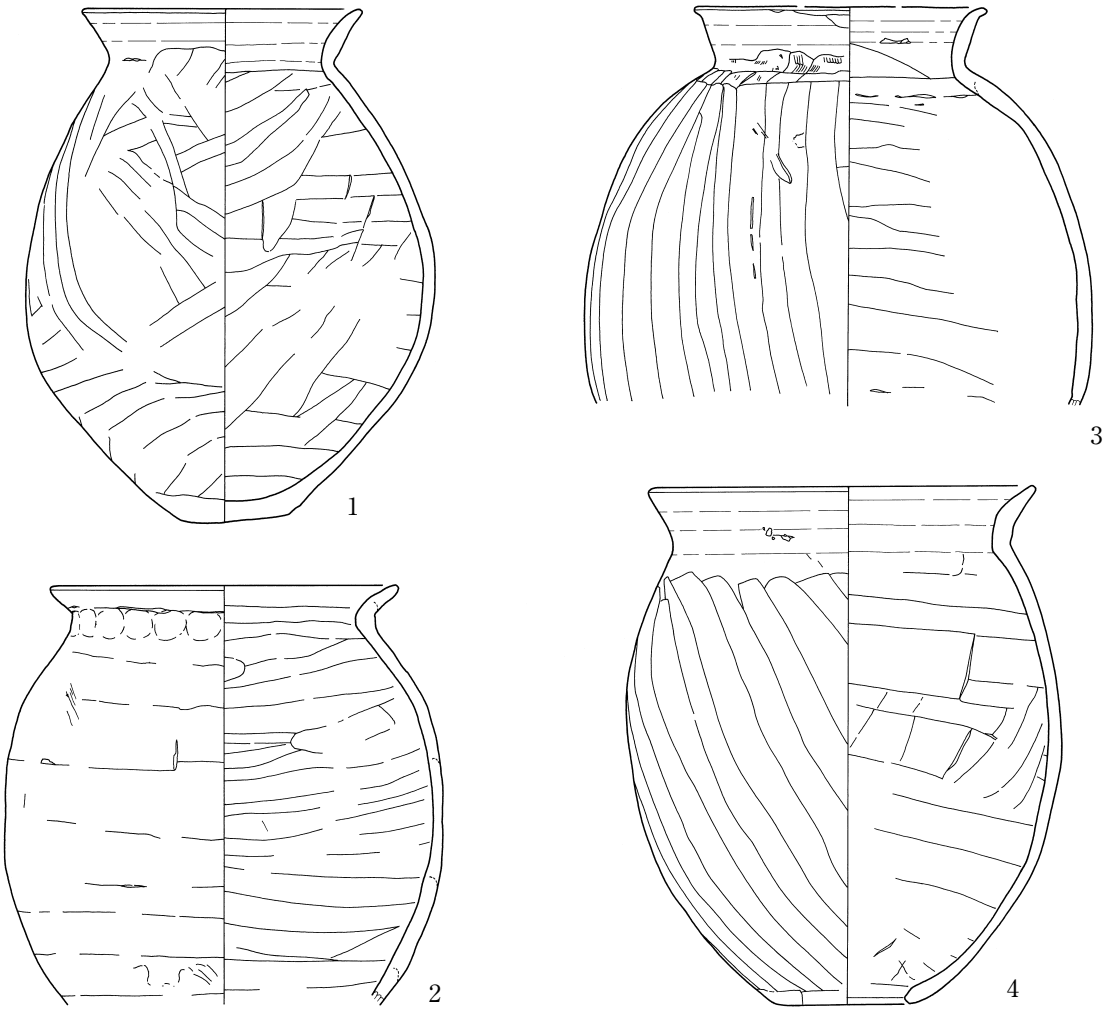
165号住居跡断面図



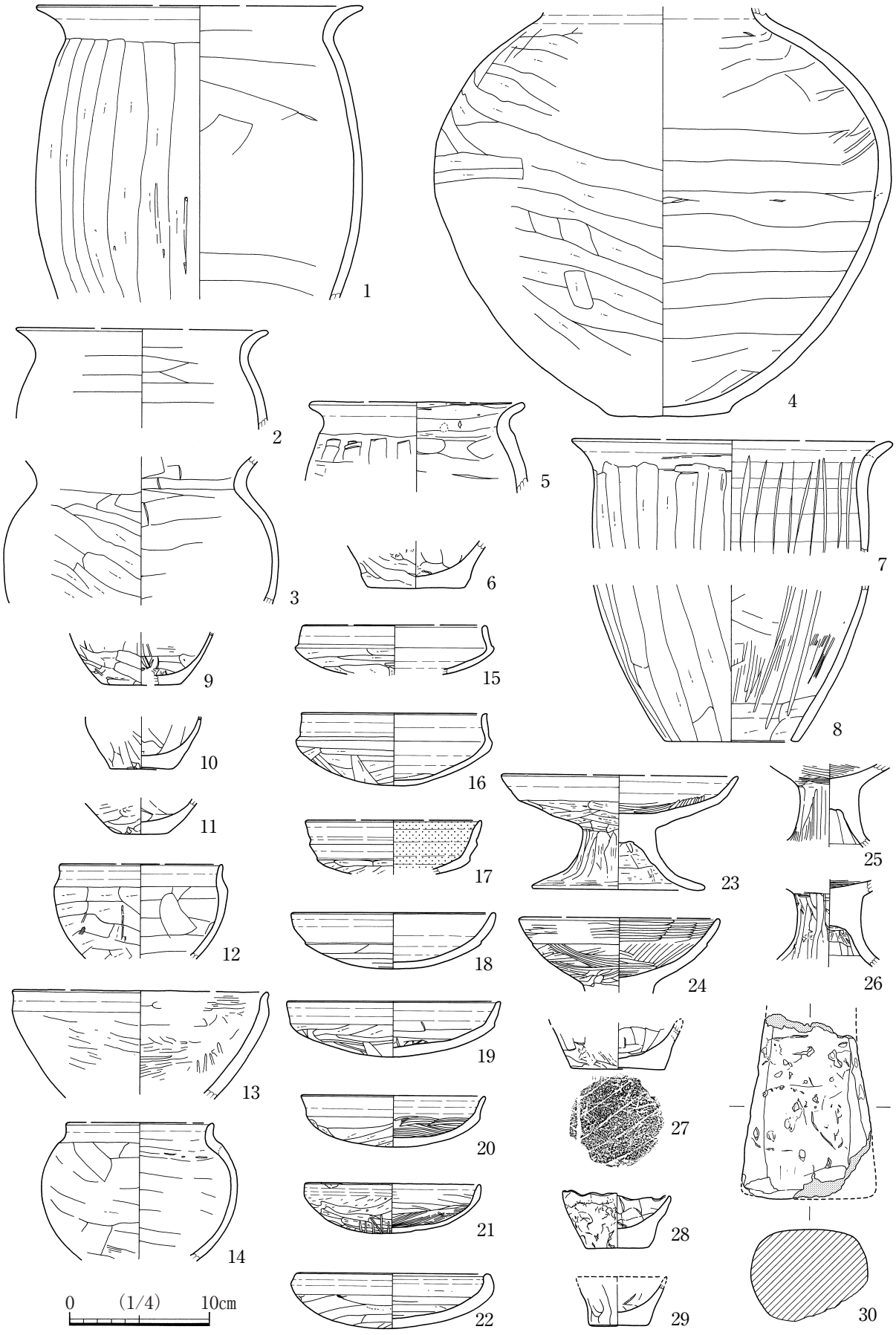
164号住居跡断面図



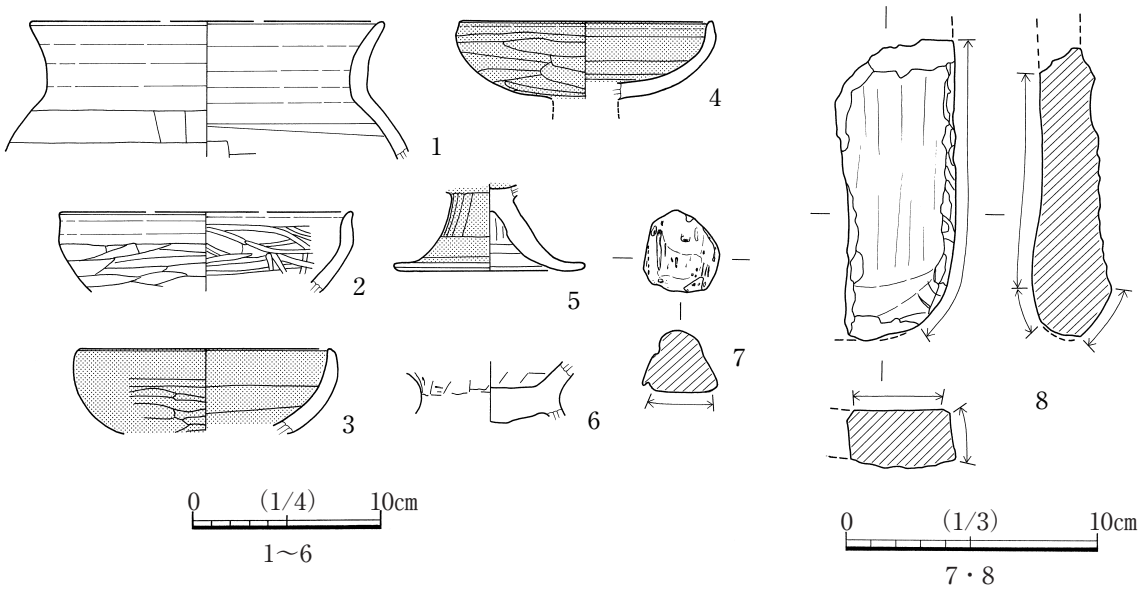
第271図　164号～167号住居跡断面図



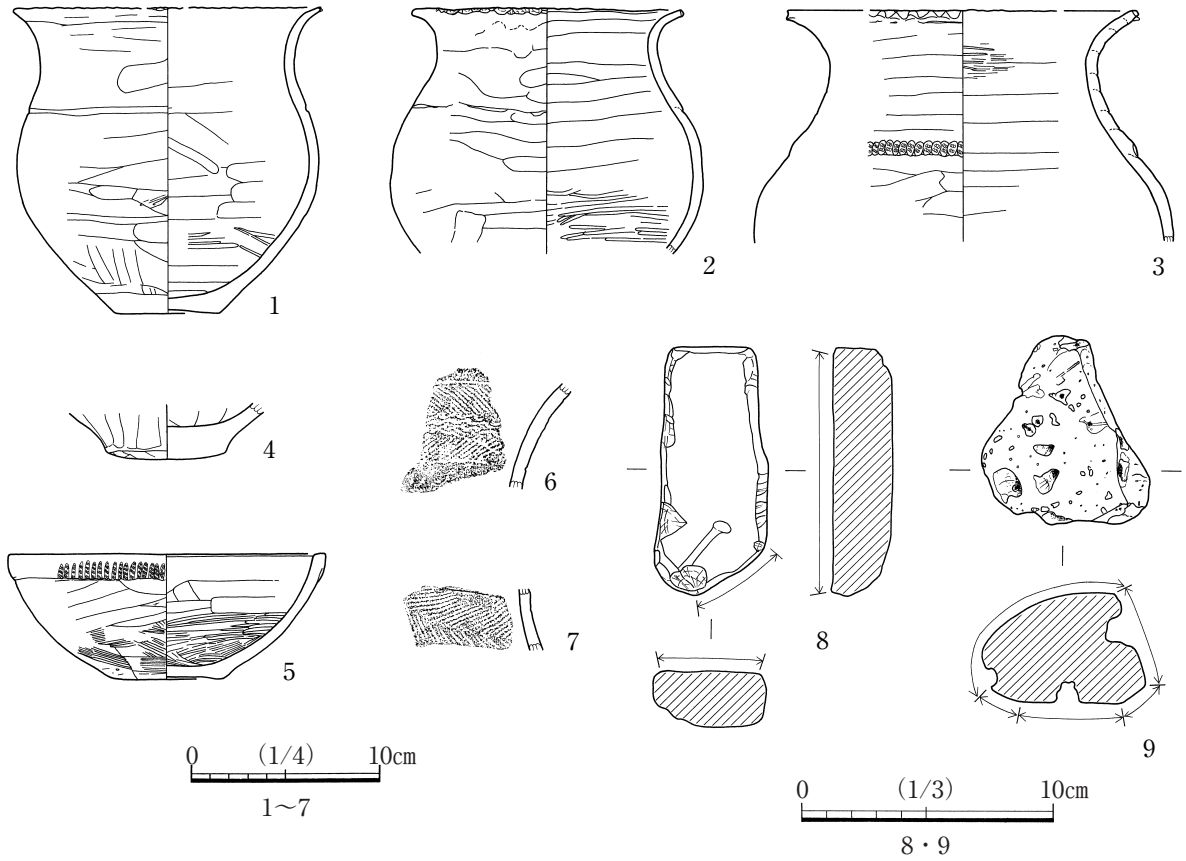
第272図　164号住居跡出土遺物



第273図　165号住居跡出土遺物



第274図　166号住居跡出土遺物



第275図　167号住居跡出土遺物

出土遺物　1は口縁がやや長く外反する甕。2は口縁端部僅かに外反する杯。3は赤彩椀形杯。4・5は赤彩椀形高杯。6は甕台付底部。7は軽石。8は片面と周縁に研磨痕を残す非鉄器の砥石状の石器で167住の弥生後期住居跡からの混入遺物とも考えられる。全て覆土中の出土で、住居跡の所属時期を示す資料を明確にできない。

167号住居跡（弥生後期）（第270・271・275図、図版38・140・141）

位置　西調査区南側。Ｎ５・Ｎ６。　複合切り合い関係　竪穴住居跡が複雑に複合する中に位置し、北東に166住、北に169住、西に170住がそれぞれ各壁を掘り込む。　平面形　楕円形。

主軸方位　Ｎ－48°－Ｗ。　床面規模　5.58m（主軸）×4.84m（副軸）。　床面積　22.82㎡。

残存壁高　0.45～0.60m。　炉跡　床面中央から北西に寄って設けられ、長さ1.36m・幅0.50mを測る。　床面　ハードローム層中に形成され、堅緻である。　壁溝　検出されない。　覆土　土層中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。また、床面一面に焼土と炭化材が広範囲に検出され火災住居跡であることを物語っている。また、覆土中央付近に貝の堆積が認められた。

主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。Ｐ５は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１・２は口縁指頭押捺で波状を呈し、肩部接合部に段を有す。３は口縁指頭押捺で波状を呈し、口頸部輪積み痕を明瞭に残し、肩部接合部に段を有し縄文の刺突を施す。５は折返し複合口縁を呈し、口縁外面に縄文の刺突紋を施す。６は上下沈線間に羽状縄文と３段の結節紋を施す。８は１面に研磨痕を残す砥石状石器である。９はやや大きめの軽石で研磨痕を残す。１～９の遺物は弥生後期の遺物として、住居跡の共伴遺物と見なしてよかろう。

168号住居跡（第276・277図、図版38・141）

位置　西調査区南側。Ｎ５。　複合切り合い関係　単独で検出し、プラン南側に溝状の近世遺構の攪乱（芋穴）が存在する。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－85°－Ｅ。　床面規模　3.62m（主軸）×3.50m（副軸）。　床面積　12.41㎡。　残存壁高　0.08～0.17m。　カマド　東辺の中央から右側（南）に寄って敷設される。　床面　平滑で且つ堅く踏みしめられている。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。Ｐ５はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。Ｐ６・Ｐ７は出入り口関連ピットであろう。

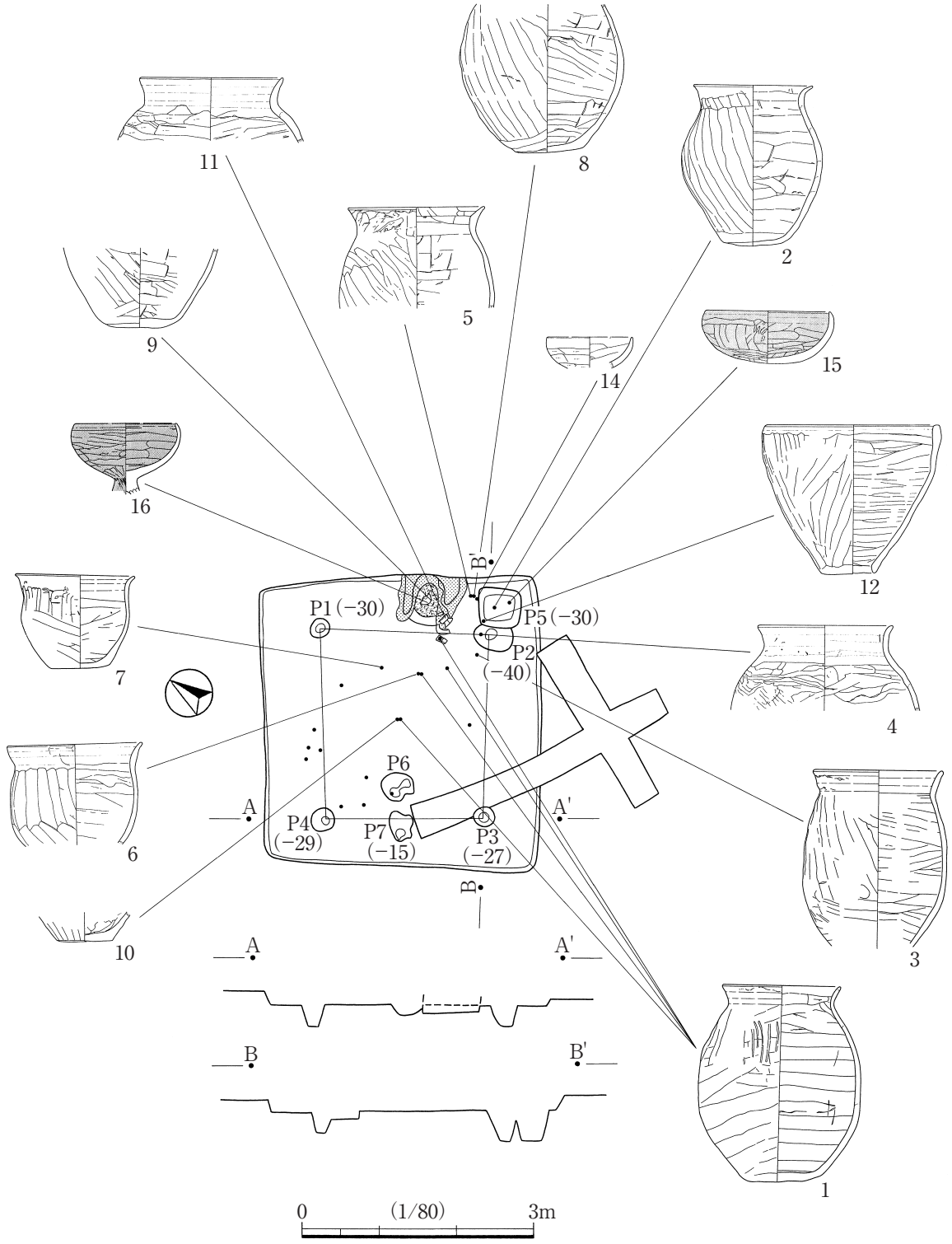
出土遺物　１・２は平底気味の外面斜位の篦ナデ甕。３も底部を欠損するが同種の甕。４は口縁が長く外反し外面ミガキ状篦ナデを施す。５は外面斜位の篦ケズリ甕。６・７・８・９・10・は外面篦ナデの甕。11は外面横位の篦ケズリ甕。12は外面ミガキ状篦ナデの甑。13は小型化した須恵器杯身でTK217形式。14は半円球状の椀形杯。15は赤彩の深い椀形杯である。遺物出土位置は、８・９・11・16がカマド燃焼部、５はカマド右袖に接し、１・３・４・６・７・12が床面直上、２・15がカマド右側の貯蔵穴内からそれぞれ出土する。本住居跡の出土遺物の甕類については、やや個性的な特徴が目立つが、胴外面斜位の篦ナデを基調とし、赤彩の椀が伴う。13・14は後世の混入遺物と考えてよい。

169号住居跡（第278・283・284図、図版38・39・142・143）

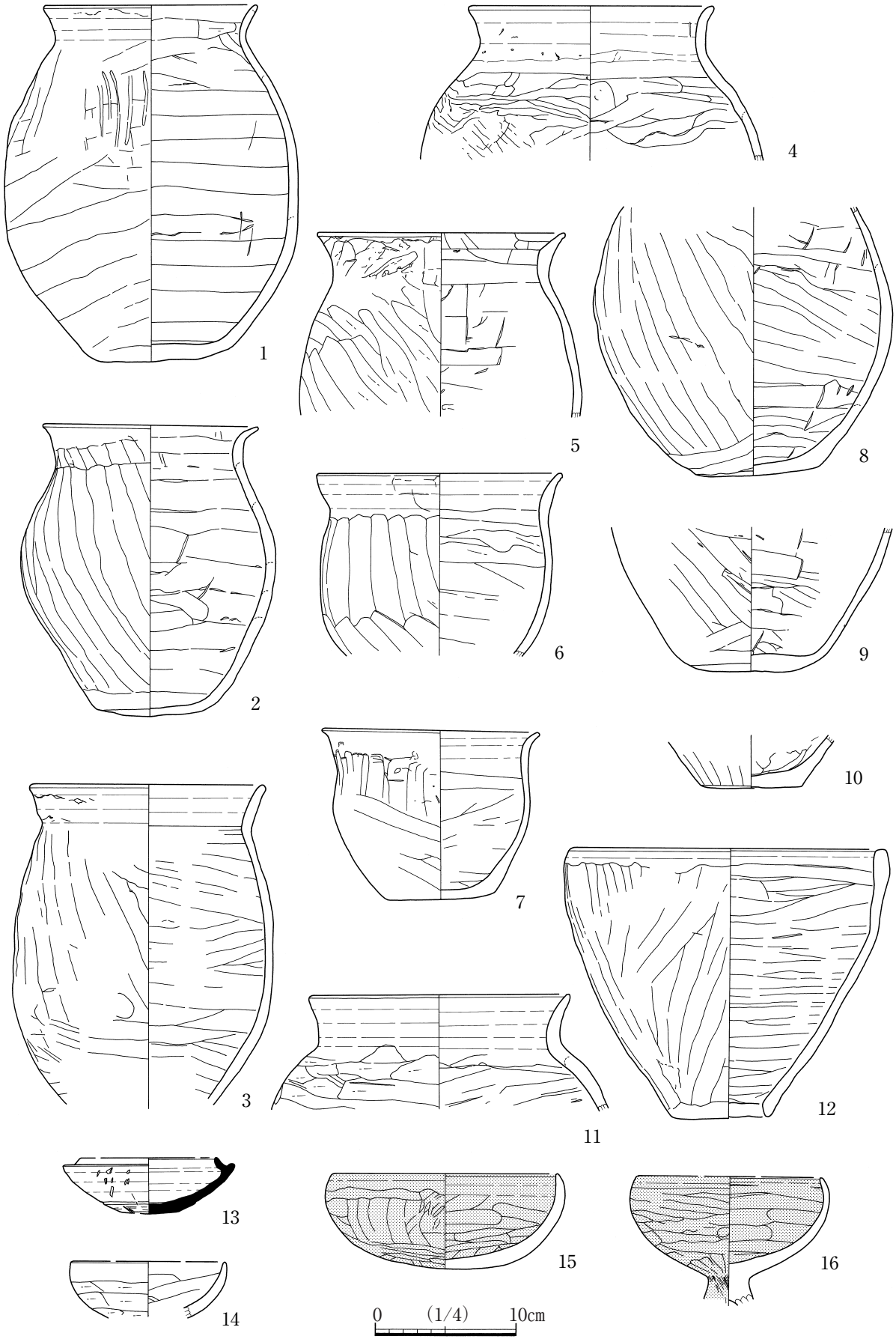
位置　西調査区南側。Ｍ６・Ｎ６。　複合切り合い関係　竪穴住居跡が複雑に複合する中に位置し、北東に172住、東に166住、南に167住、西に170住がそれぞれ複合する。複合関係は167住・172住→169住・166住→170住であろうか。また、北西辺は移植樹木のため未調査である。

平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－100°－Ｅ。　床面規模　4.40m（主軸）。　推定床面積　18.00㎡

残存壁高　0.44～0.49m。　カマド　東辺中央に敷設されたものと思われる。　床面　平滑で且つ堅緻である。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。Ｐ５はカ



第276図　168号住居跡と遺物出土状況



第277図　168号住居跡出土遺物

マド右側に設けられた貯蔵穴である。Ｐ６は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　１は球胴甕で口縁が短く僅かに外傾し、胴部横位篦ナデを施す。２～４は口縁が「く」の字にやや長く外反し、２はミガキ状篦ナデ、３は丁寧な篦ナデ、４は篦ケズリ残す篦ナデを施す。５は斜位の篦ナデ甕。６は篦ナデ甕で胴中位に半円形の大きな窓を有する。７はナデ甕の底部。８は内外面ミガキ状篦ナデを施す甑。９は外面ケズリ状篦ナデで内面刷毛目を残す篦ナデを施す甑で外面に痘痕状の付着物が認められる。10～12は赤彩の椀形杯である。10は腰に張りがありやや深い、11は小形で平底気味、12は肉厚の半円球状を呈する。13～28は赤彩の高杯である。13～22の杯は深く口縁が内湾し、23～26は杯部がやや浅く内湾気味に開き、27は杯部が開く。脚では全体的に短く、15・17に屈曲を僅かに認めるが、13・18・20・21・23・28は外反し、14・27は肉厚で外傾して「ハ」の字に開く。遺物出土位置は、４・５・10・15・20がカマド燃焼部、１・７・８・９・11～14・17が床面直上、６・18・19・21～28がほぼ床面から出土する。本住居跡の出土遺物には６の胴に窓を開ける甕と10～28の赤彩の椀や椀形高杯に象徴される祭祀関連の遺物である。また、これらの遺物が住居跡床面からの出土が目立ち、住居跡内で祭祀が行われた事を物語り、住居跡の帰属時期を直接示すものであろう。

170号住居跡（第278・280・285図、図版39・143）

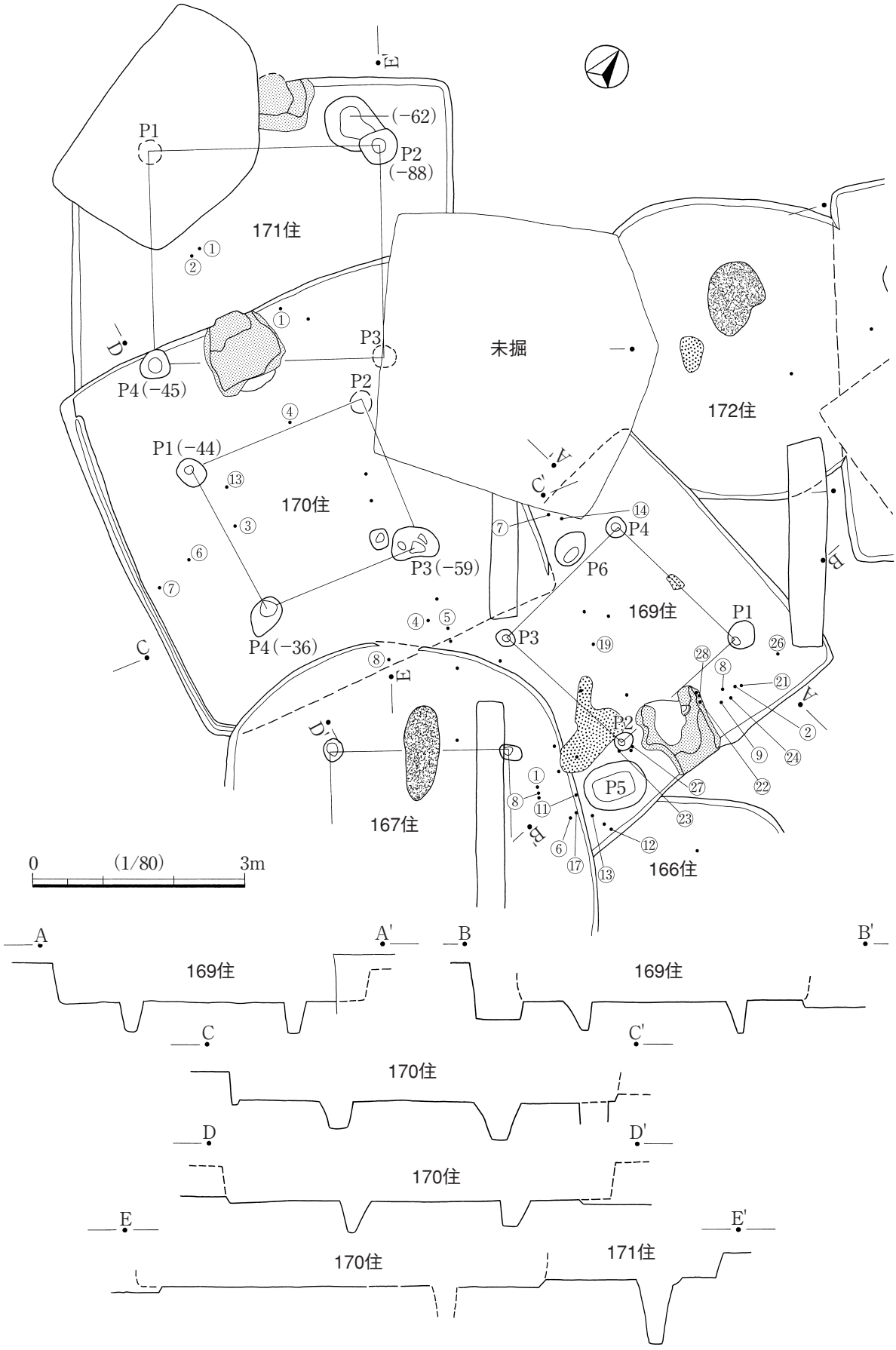
位置　西調査区南側。Ｍ５・N5.Ｎ６。　**複合切り合い関係**　竪穴住居跡が複雑に複合する中に位置し、北西に171住、東に169住、南東167住がそれぞれ複合する。複合関係は167住→169住・171住→170住であろうか。また、北東辺は移植樹木のため未調査である。　**平面形**　未確認部分が存在するが方形であろう。　**主軸方位**　Ｎ－26°－Ｅ。　**床面規模**　5.22m（主軸）×5.40m（副軸）。　**推定床面積**　27.85㎡。　**残存壁高**　0.30～0.38m。　**カマド**　西辺中央に敷設されたと思われる。　**床面**　169住と同一レベルに有り、平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅８～11㎝・深さ８～９㎝。西側だけに設けられる。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であると思われるがＰ２は未検出で、Ｐ３には２回以上の掘り直しが認められる。

出土遺物　１は口縁が短く大きく外反する胴外面縦位の篦ケズリ甕。２も同様な胴下半。３は球胴の篦ケズリ甕の底部。４の突出気味の底部には木の葉が認められる。５は球胴の篦ナデ甕。６・７は赤彩の椀形杯。８は内面ミガキの杯。９は杯身模倣杯で受部稜は「く」の字に屈曲する。10は赤彩高杯脚。11は内面ミガキの高杯脚。12は手捏ね土器で小品である。13は円柱状の土製支脚。14・15は土玉である。遺物出土位置は、２・８・９・13がカマド燃焼部、１・14が床面直上、６・７・11がほぼ床面から出土する。６は169住からの混入遺物と思われる。３・５・６・７・10以外の遺物が住居跡の帰属時期を示すものであろう。

171号住居跡（第278・286図、図版39・143）

位置　西調査区南側。Ｍ５・Ｎ５。　**複合切り合い関係**　竪穴住居跡が複雑に複合する中に位置し、プラン南側を大きく170住に掘り込まれ検出し、東辺は移植樹木のため未調査である。また、西隅周辺は後世の攪乱穴により不明である。　**平面形**　方形を呈するものであろう。

主軸方位　Ｎ－26°－Ｗ。　**床面規模**　4.65m（主軸）×5.25（副軸）。　**推定床面積**　25.40㎡。



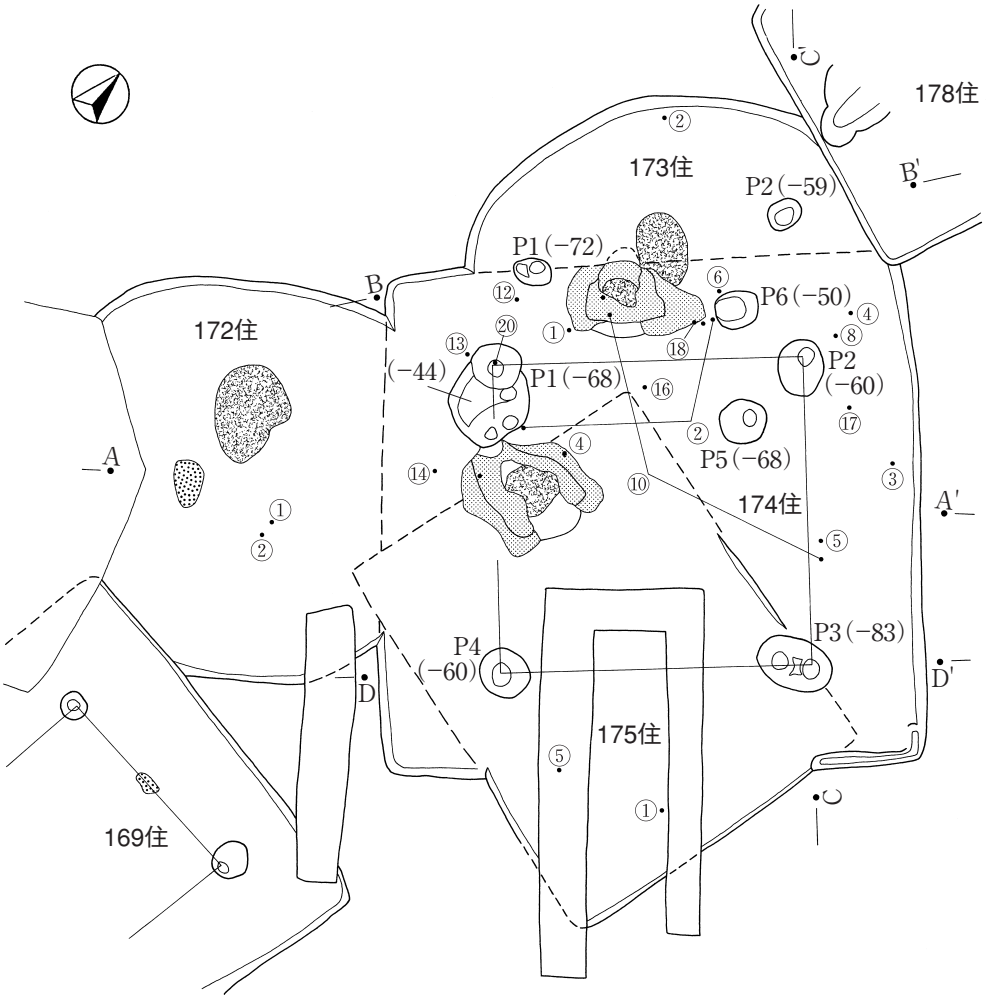
第278図　169号～171号住居跡

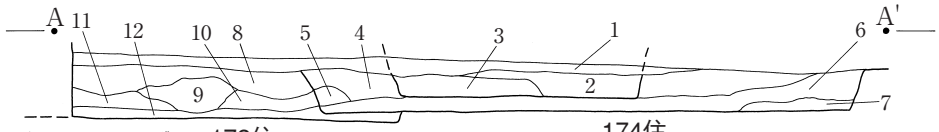
残高壁高　0.33～0.46m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　貼床状を呈するが、比較的平滑で堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　P１～P４の４柱構造であると思われるがP１・P３は未検出である。
出土遺物　１は外面篦ケズリの球胴甕。２は縦位の篦ケズリ甕。３は内湾する胴部と短く外傾する口縁を有する胴部上半と内面口縁に赤彩を施す鉢である。何れの遺物も覆土中からの出土で住居跡の正確な時期判断のできる資料が無いが、６世紀前葉と看取される。

172号住居跡（弥生後期）（第279・287図、図版39・144）
位置　西調査区中央南側。M６。　複合切り合い関係　北東側を174住に掘り込まれ、西南側は移植樹木のため未調査である。　平面形　不整円形。　主軸方位　N－37°－W。　推定床面規模　4.05m（主軸）×3.57m（副軸）。　推定床面積　12.77㎡。　残存壁高　0.38～0.52m。
炉跡　床面中央から北西に寄って設けられ、1.05m×0.85mの範囲を火床とする。　床面　床は、堅く踏みしまり凹凸が目立つ。炉を中心に中央部がやや高く盛り上がっており、この部分が特に凹凸が強い。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。
出土遺物　１は外面篦ミガキで丹を施す壺であろう。２は小片で上端に羽状縄文を沈線で仕切る。他に遺物が無いが双方とも住居跡床面直上からの出土である。

173号住居跡（弥生後期）（第279・288図、図版39・144）
位置　西調査区中央南側。M６。　複合切り合い関係　プラン南東側を174住に、北辺側を178住にそれぞれ掘り込まれ、全体の４分の１ほどを残すだけである。　平面形　楕円形を呈するものと思われる。　主軸方位　N－50°－W。　床面規模　不明。　床面積　不明。　残存壁高　0.27m。　炉跡　床面中央から北西に寄って設けられるものと思われ、0.85m×0.53mの範囲を火床とする。　床面　174住と同一平面上に形成され、平滑で比較的堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　P１～P４の４柱構造であると思われるがP３・P４は174住プラン内に有り未検出である。
出土遺物　１～３は壺の肩部小片で、１の上端には羽状縄文を下方は沈線で仕切る。２は上下沈線間に羽状縄文帯を回らす。３は沈線の山形紋区画内を羽状縄文で埋める。４は摩擦痕を有する軽石。５は厚い皿状の自然石で凹面中央に僅かに敲打痕を認める。２が床面直上から出土する以外は覆土一括であるが住居跡に伴うものと判断できる。

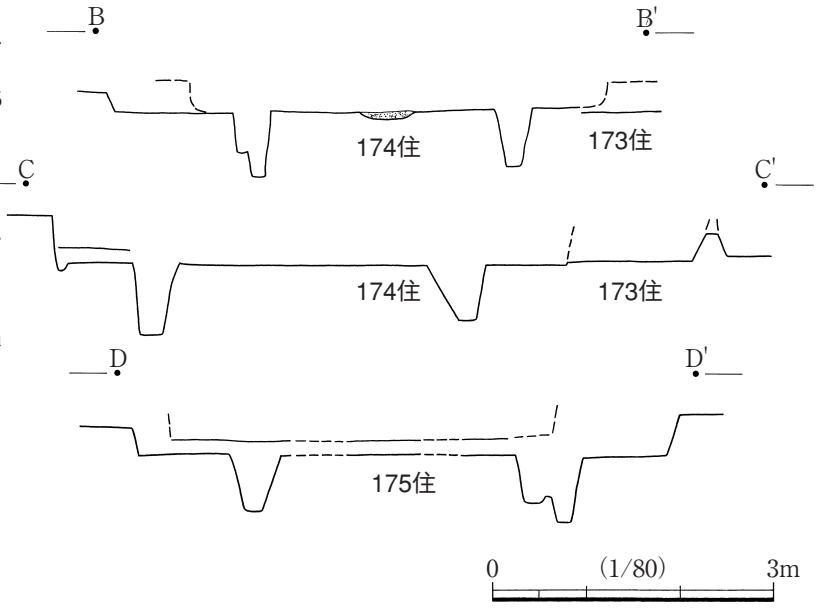
174号住居跡（第279・281・289図、図版39・40・144）
位置　西調査区中央南側。M６。　複合切り合い関係　プラン南西辺で弥生時代後期の172住に、北西辺で173住に掘り込まれ、南半分覆土中を175住に大きく掘り込まれて検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－42°－W。　床面規模　5.25m（主軸）×5.50m（副軸）。　推定床面積　29.02㎡。　残存壁高　0.16～0.32m。　カマド　北西辺中央に構築される。　床面　複合する３軒の住居跡の床面がほぼ同一レベルにあり判断し難いが、ほぼ平滑で堅く踏まれている。　壁溝　南辺の東隅に一部検出するのみである。　覆土　黒色土を主体とし自然堆積状況を示す。　主柱穴　P１～P４の４柱





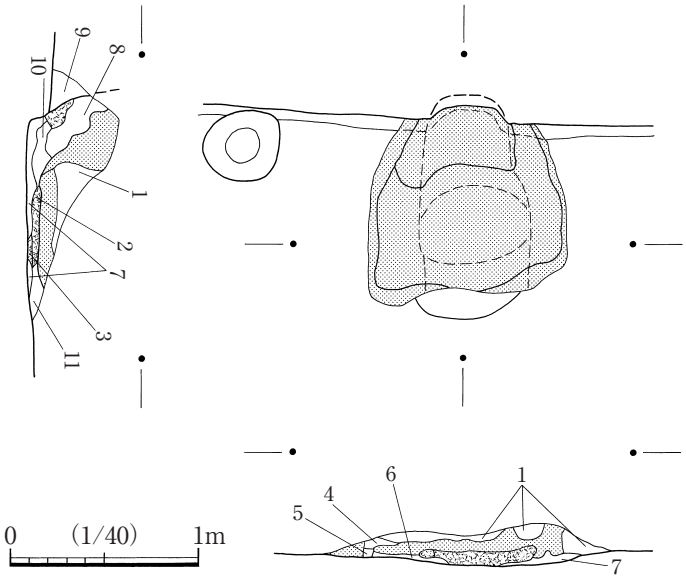
《172・174号住居跡覆土土層A－A'》

1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
3　黒褐色土層。多量の粘土を含む（175住カマド）。
4　黒褐色土層。粘土粒とローム粒を含む。
5　茶褐色土層。焼土を含む。
6　黒色土層。小ロームブロック（1㎝以下）を少量含む。
7　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
8　黒褐色土層。小ロームブロック含む。
9　黄褐色土層。小ロームブロック（1㎝以下）を少量含む。
10　黄褐色土層。小ロームブロックと焼土粒を含む。
11　黄褐色土層。小ロームブロックと粘土粒を含む。
12　黄褐色土層。ロームブロックと黒褐色土ブロックの混合土（硬質）。

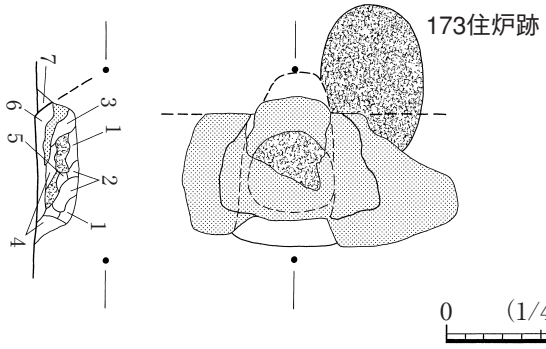


第279図　172号～175号住居跡

《170号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を多量含む。
2　焼土・灰に粘土粒を多量に含む。
3　焼土と褐色土の混合土層。
4　粘土と焼土層に暗褐色土を少量含む。
5　暗褐色土層に粘土と少量の焼土を含む。
6　暗褐色土層に粘土を少量含む。
7　暗褐色土層に粘土とローム土を少量含む。
8　焼土・粘土および褐色土の混合土層。
9　褐色土層。171住の覆土。
10　黒褐色土と粘土の混合土層。
11　焼土・灰・ローム塊の混合土層。



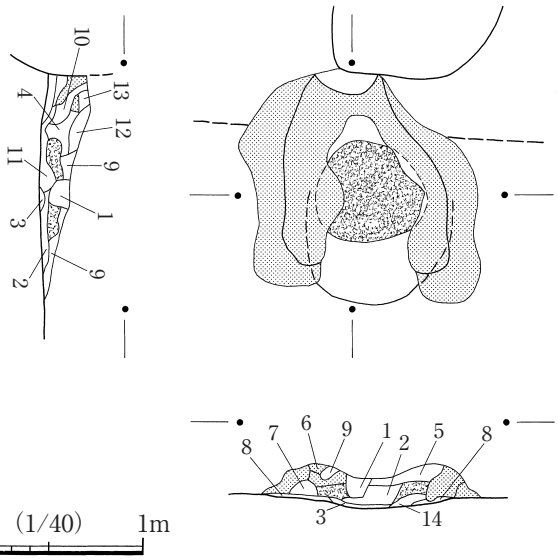
第280図　170号住居跡カマド



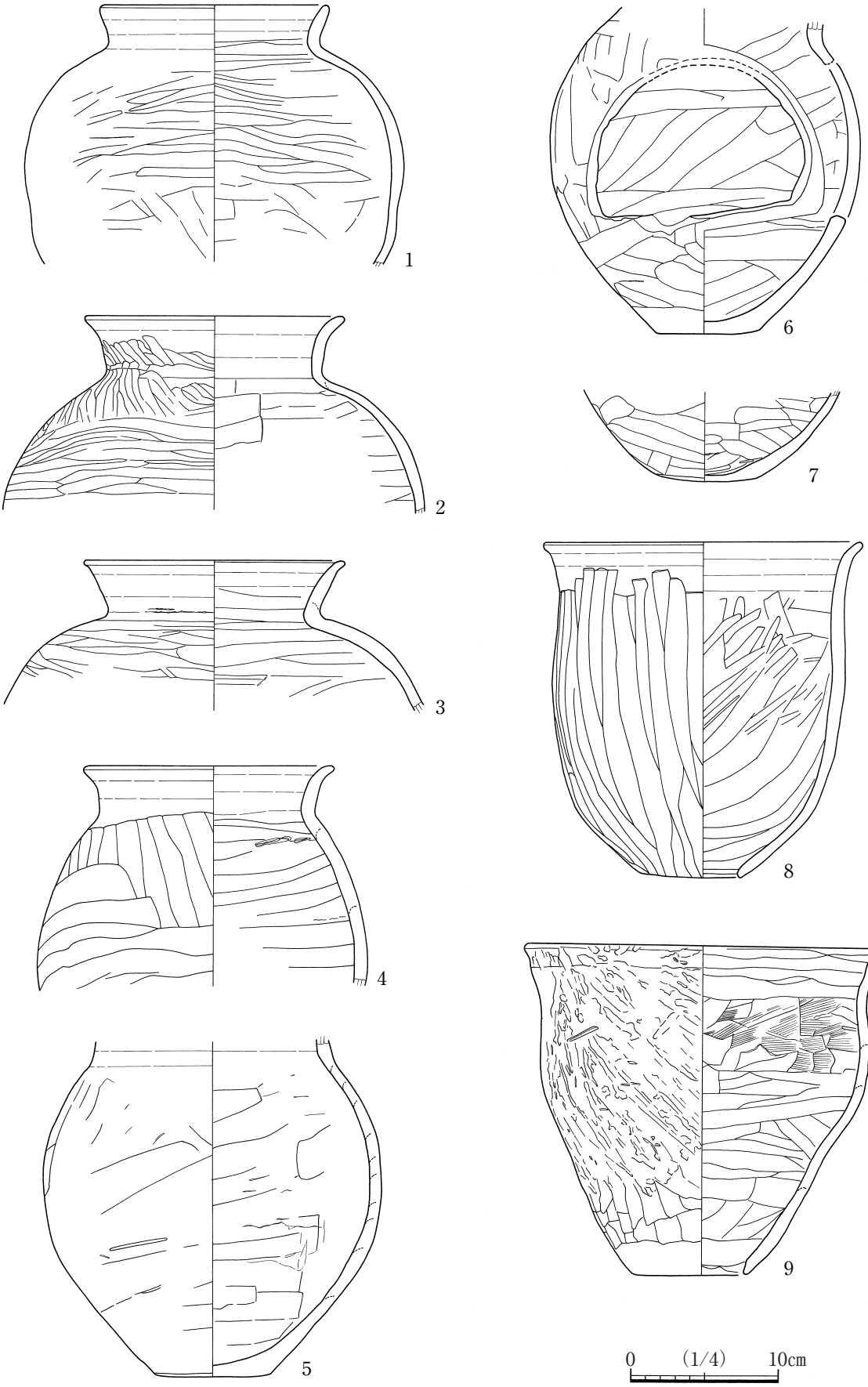
《174号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
2　暗褐色土層。粘土を少量含む。
3　粘土と焼土の混合土層。
4　暗褐色土層。焼土を含む。
5　暗褐色土層。粘土を含む。
6　暗褐色土層。ローム粒と粘土粒を含む。
7　暗褐色土層。ローム土を少量含む。

第281図　174号住居跡カマド

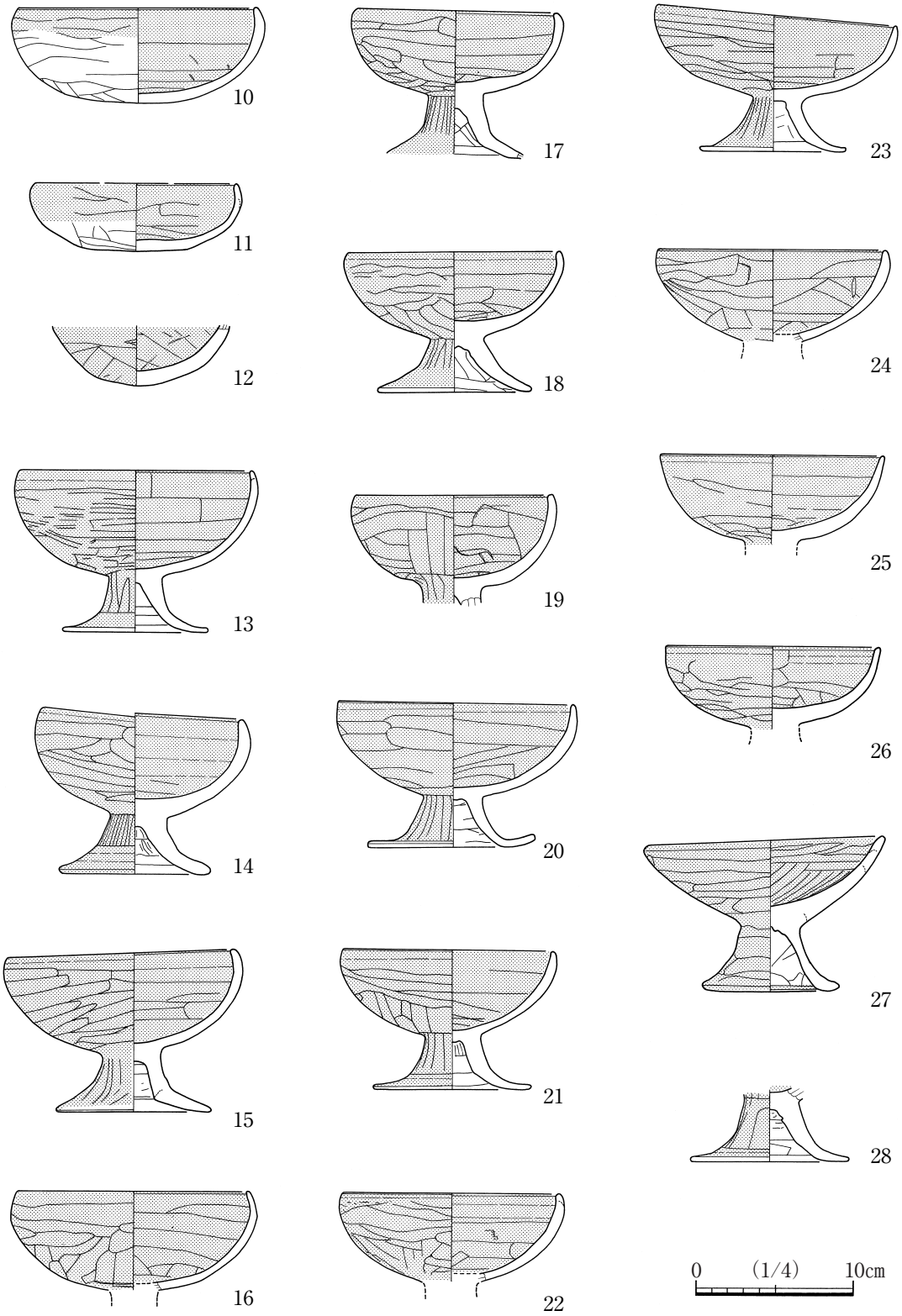
《175号住居跡カマド土層》
1　黒褐色土層。焼土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土を含む。
3　暗褐色土層。粘土を少量含む。
4　焼土層。暗褐色土と粘土を少量含む。
5　粘土と暗褐色土の混合土層。焼土を少量含む。
6　粘土と焼土の混合土層。
7　粘土と暗褐色土の混合土層。
8　暗褐色土層。粘土を少量含む。
9　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
11　暗褐色土層。焼土粒（2㎜以下）を少量含む。
12　暗褐色土層。粘土を少量含む。
13　粘土と暗褐色土の混合土層。焼土を少量含む。
14　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。



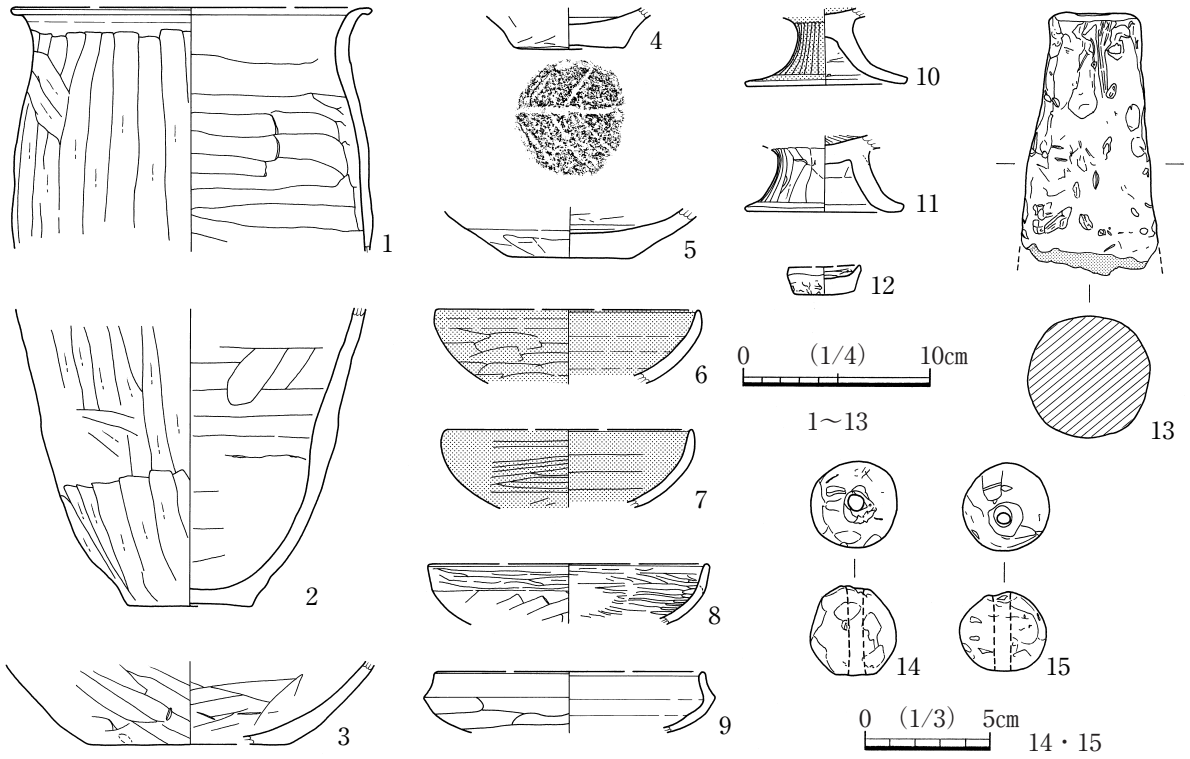
第282図　175号住居跡カマド



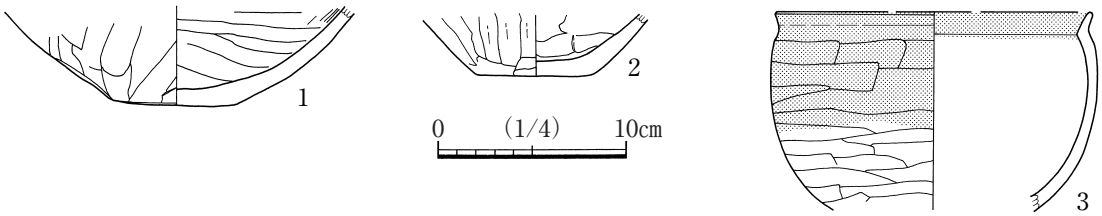
第283図　169号住居跡出土遺物（1）



第284図　169号住居跡出土遺物（2）

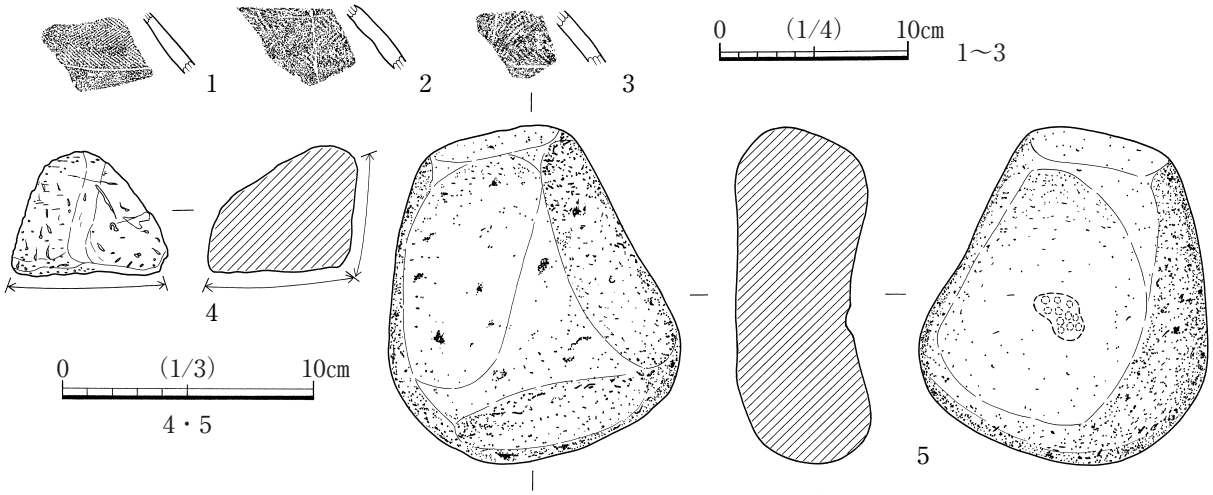


第285図　170号住居跡出土遺物

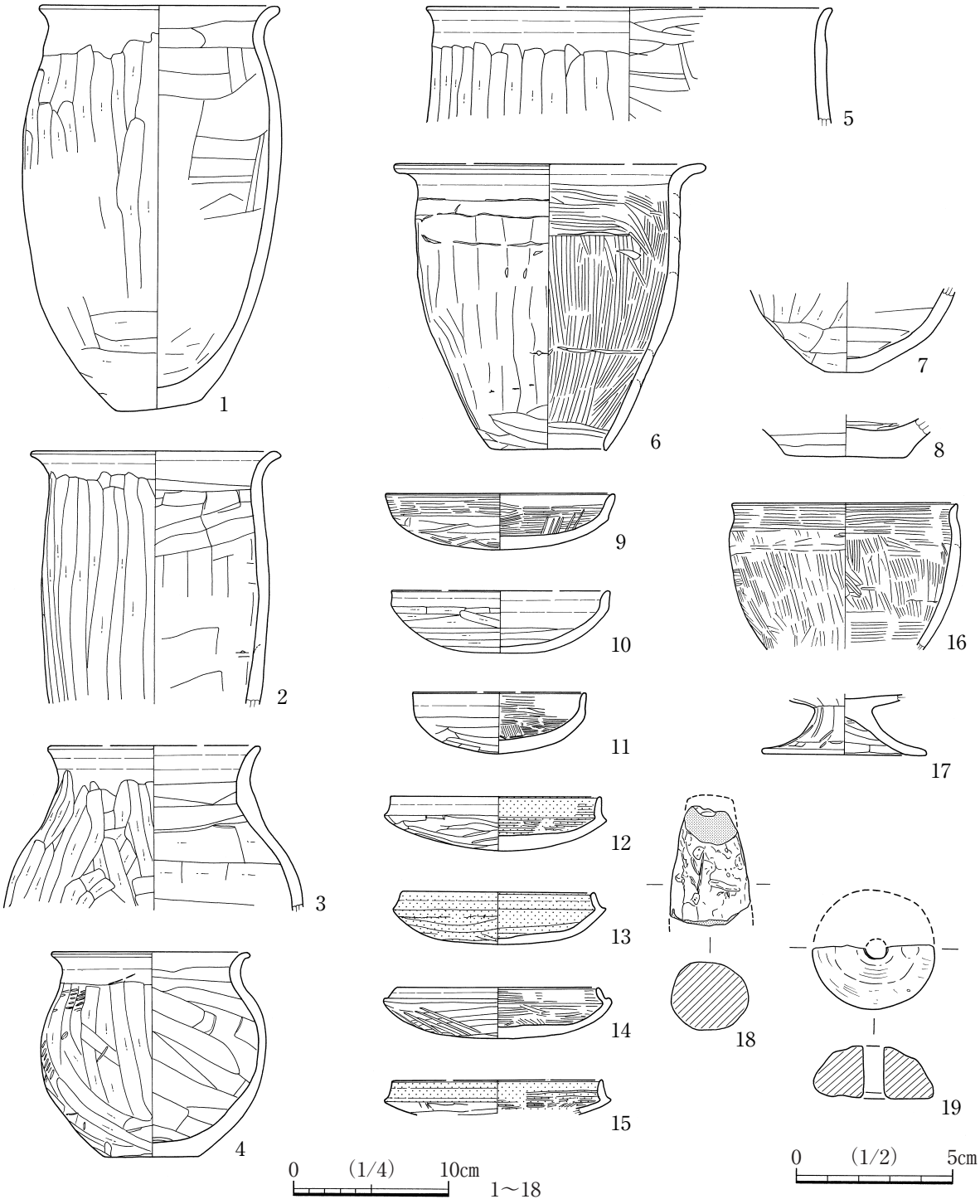


第286図　171号住居跡出土遺物

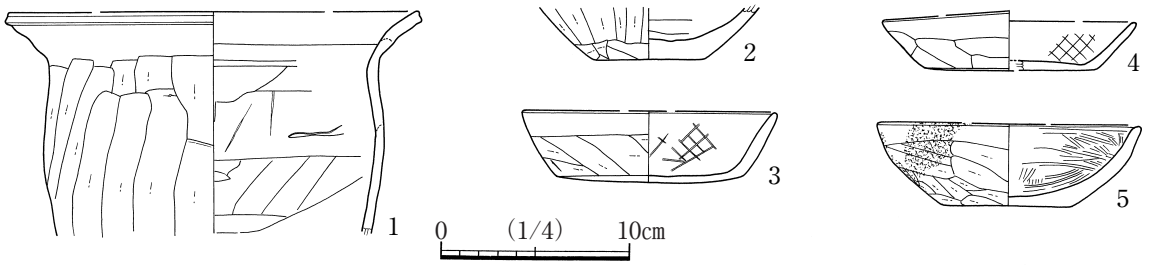
第287図　172号住居跡出土遺物



第288図　173号住居跡出土遺物



第289図　174号住居跡出土遺物



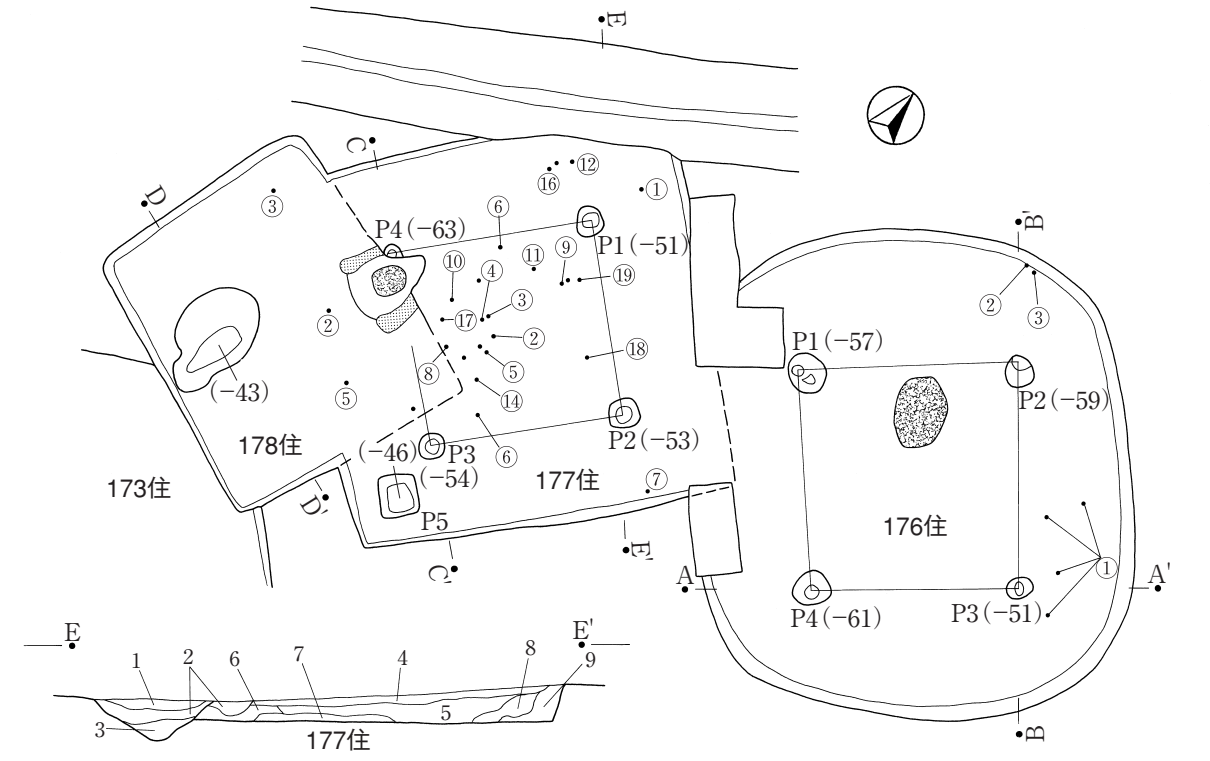
第290図　175号住居跡出土遺物

構造である。
出土遺物　1・2は口縁が短く外反し胴外面縦位の箆ケズリ甕。3はやや球胴で口縁僅かに外反する箆ケズリ甕。4は小形で口縁径と器高がほぼ同一で口唇玉状で胴外面縦位の箆ケズリ甕。5は口縁が僅かに開く無頸で甑か。6は口縁が大きく外反し胴外面ミガキ状箆ナデで内面ミガキを施す甑。9～11は杯蓋模倣杯で、9の内面はミガキで仕上げられ漆塗りであろうか。12～15は杯身模倣杯で、12・13・15は内黒、14は漆塗りか。16は口縁僅かに外反する内外面ミガキの漆塗り鉢。17は杯内面ミガキの高杯脚。18は土製支脚。19は滑石製の紡錘車で面は摩耗する。遺物出土位置は、1・2・5・10・12～14・16が床面直上、4・6・8・17がほぼ床面、9が主柱穴Ｐ4内から出土し、覆土から出土する15も同時期の遺物と見なしてよかろう。11は新相を呈し混入遺物であろう。

175号住居跡（第279・282・290図、図版145）
位置　西調査区中央南側。Ｍ6。　**複合切り合い関係**　174住プラン内の南側を大きく掘り込み検出し、床面を174住覆土中に置き、壁も同様な為プランの形状が不鮮明であるがカマド位置等から平面形を復元した。　**平面形**　縦長方形。　**主軸方位**　Ｎ－67°－Ｗ。　**床面規模**　4.05m（主軸）×3.30m（副軸）。　**推定床面積**　12.30㎡。　**残存壁高**　0.35m前後。　**カマド**　西辺中央に敷設されたと思われる。　**床面**　床は張床であるが中央部は平滑で固く踏みしまっている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　1は無頸で口縁が大きく外傾して開き口唇部はシャープな「コ」の字を呈する縦位の箆ケズリ甕。2はケズリ甕底部。3・4は内面に明瞭な見込みを有し、体部内面に斜格子暗文を施す非ロクロ土師器杯。5は平底で口縁が外傾して開き内面ミガキ、外面箆ケズリの杯である。遺物出土位置は、1が床面直上、4がカマド右袖上、2・3・5は覆土や攪乱内から出土し、5以外は住居跡の帰属時期を示すものであろう。

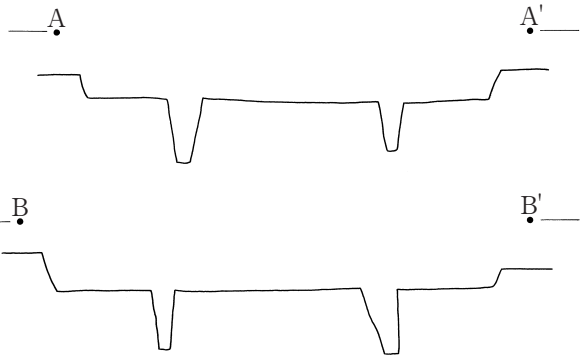
176号住居跡（弥生後期）（第291・292図、図版145）
位置　西調査区中央。Ｌ6・Ｌ7。　**複合切り合い関係**　プラン西辺で177住と僅かに接し、また、西辺には近世の攪乱穴がある。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－30°－Ｗ。　**床面規模**　4.90m（主軸）×4.35m（副軸）。　**床面積**　18.85㎡。　**残存壁高**　0.18～0.33m。　**炉跡**　床面中央より僅かに北西に設けられ、0.80m×0.58mの楕円形を呈する。　**床面**　不明。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ1～Ｐ4の4柱構造である。
出土遺物　1は胴部上半と底部が接合しない個体からの復元で、胴上端に羽状縄文帯を回らし下端を沈線で仕切る。胴外面は箆ミガキで下端刷毛目を残し外面丹彩色を施す。2～3は壺片で羽状縄文帯を沈線で仕切る。何れの遺物も住居跡と伴うものであろう。

177号住居跡（第291・293図、図版40・145）
位置　西調査区中央。Ｌ6。　**複合切り合い関係**　プラン北辺で176住と僅かに接し、南西辺は178住に掘り込まれる。また、北西辺には近世以降の攪乱穴がある。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－46°－Ｗ。　**床面規模**　4.05m（主軸）×3.98m（副軸）。　**推定床面積**　15.98㎡。　**残存壁高**　0.22～

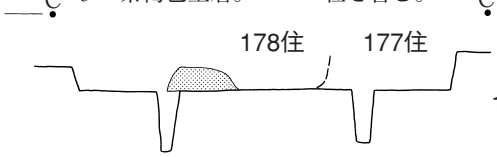


0 (1/80) 3m

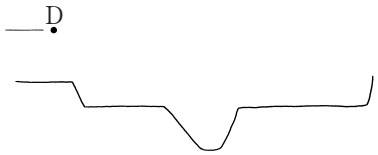
《177号住居跡覆土土層Ｅ－Ｅ'》
1　黒褐色土層。
2　黒色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
4　黒色土層。
5　茶褐色土層。
6　黄褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
7　茶褐色土層。ローム粒と焼土粒を含む。
8　黄褐色土層。ローム粒を含む。
9　茶褐色土層。ローム粒を含む。



176号住居跡断面図

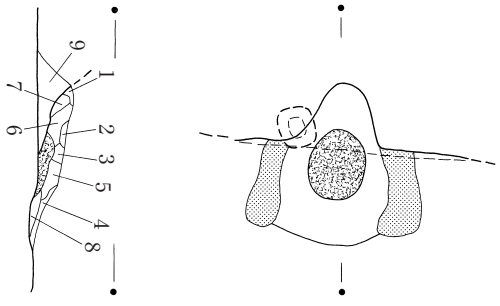


177号住居跡断面図



178号住居跡断面図

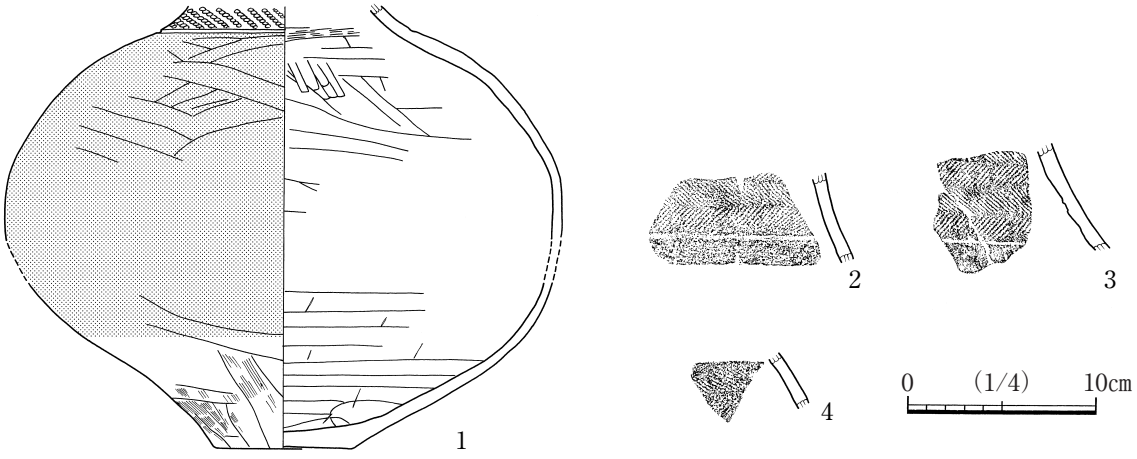
《178号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。ロームブロックと粘土（少量）を含む。
2　暗褐色土層。ローム土を少量含む。
3　暗褐色土層。粘土を少量含む。
4　暗褐色土層。焼土を少量含む。
5　焼土と暗褐色土の混合土層。
6　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
7　粘土と暗褐色土の混合土層。
8　暗褐色土層。焼土を含む。
9　177住の覆土



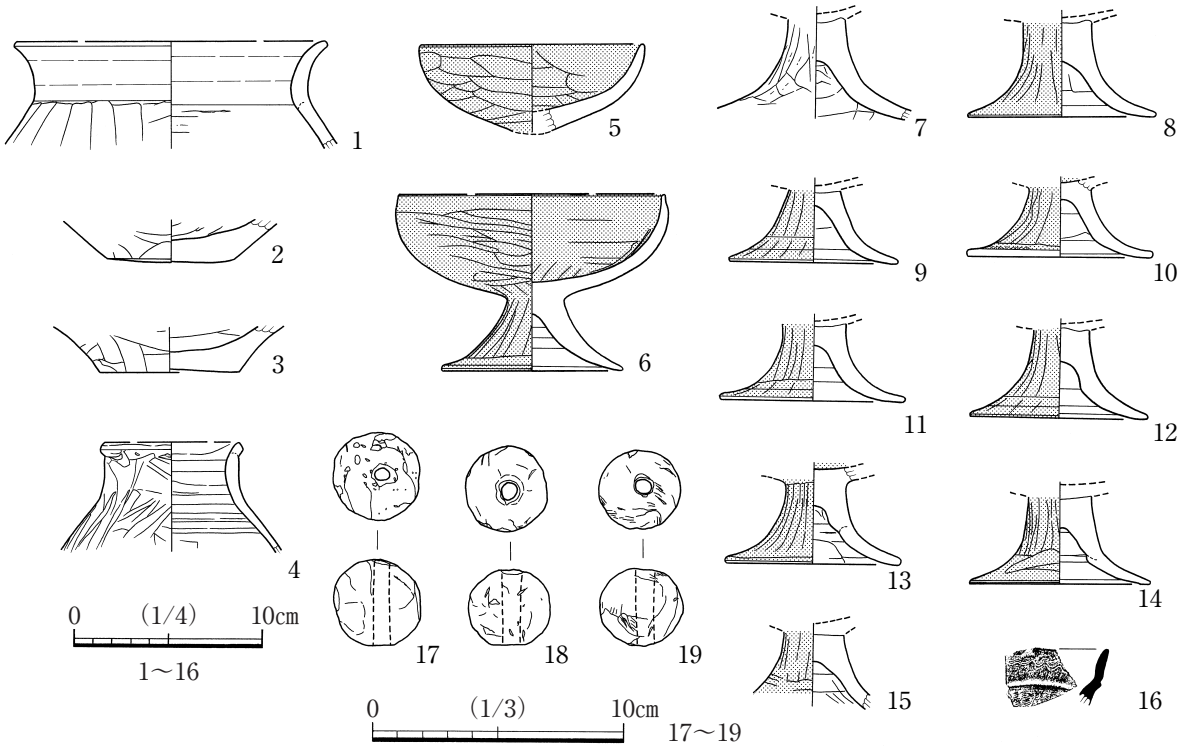
0 (1/40) 1m

178号住居跡カマド

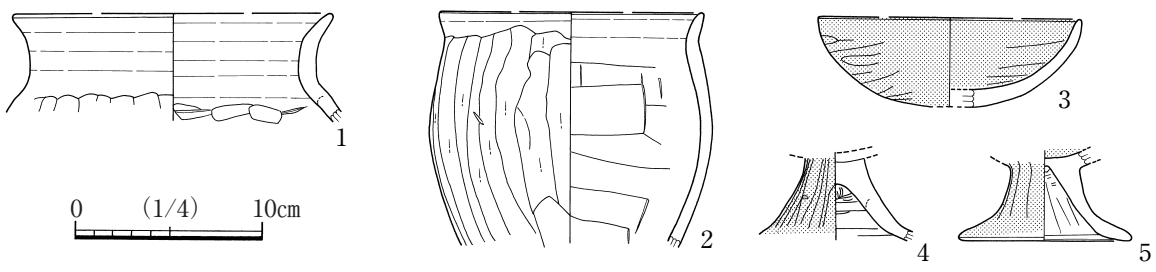
第291図　176号・177号・178号住居跡



第292図　176号住居跡出土遺物



第293図　177号住居跡出土遺物



第294図　178号住居跡出土遺物

0.36m。　カマド　北西辺の近世以降の攪乱穴により掘られ失われたものと思われる。　床面　178住と同一平面上に置き、比較的平坦で堅緻である。　壁溝　検出されない。　覆土　図示されないが床面直上には焼土を含む土層が確認でき、また覆土の主体を成す土層中に小ロームブロックを含むことから火災住居跡が埋め戻された状況を呈する。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。

出土遺物　１は胴外面縦位篦ナデの甕。４は口縁が壺頸部の様に直立し口唇玉状を呈し、外面粗い篦ミガキを施す。５は底部突出気味の赤彩椀形杯。６・８～15は赤彩椀形高杯である。６は杯部がやや深く腰の張る形態を呈する。16の須恵器ハソウ口縁片は、櫛状工具で波文を施す。17～19は土玉である。遺物出土位置は、７・８が床面直上、２～６・９～14・16～19がほぼ床面から出土する。本住居跡の出土遺物には赤彩の高杯９点と土玉３点が有り、赤彩の椀や椀形高杯に象徴される祭祀関連の遺物と判断でき、土玉もまた同様の性格を有することを物語っている。また、これらの遺物が住居跡のほぼ床面から出土することは住居内祭祀が行われた事が指摘できる。

178号住居跡（第291・294図、図版40・145）

位置　西調査区中央。Ｌ６。　複合切り合い関係　プラン北側で床面レベルを同じくする177住を掘り込み、南側で弥生後期の173住と複合して検出する。　平面形　横長方形。　主軸方位　Ｎ－25°－Ｅ。　床面規模　2.55m（主軸）×3.05m（副軸）。　推定床面積　7.79㎡。　残存壁高　0.27～0.33m。　カマド　ほぼ北東辺中央に敷設されれる。　床面　平滑で堅く踏みならされている。プラン南側に土壙状の攪乱が床を切り込んでいる。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

出土遺物　１は胴外面縦位篦ナデの甕。２は口縁が短く僅かに外傾する鉢形甕で胴外面縦位篦ケズリを施す。３は赤彩椀形杯。４は赤彩椀形高杯である。遺物出土位置は、１・３・４がカマド燃焼部、２・５がほぼ床面から出土し、住居跡の帰属時期を示す資料である。

179号住居跡（弥生後期）（第295図、図版40）

位置　西調査区中央。Ｍ５・Ｍ６。　複合切り合い関係　プラン北西半分を180住に掘り込まれ検出する。　平面形　楕円形？。　主軸方位　Ｎ－40°－Ｗ。　床面規模　3.60m（副軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.19～0.24m。　炉跡　180住に削平される。　床面　ソフトローム層上に張床を形成され、比較的堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　検出されず無柱構造であろう。

出土遺物　出土遺物は無いが周辺の状況から弥生後期に位置づけられよう。

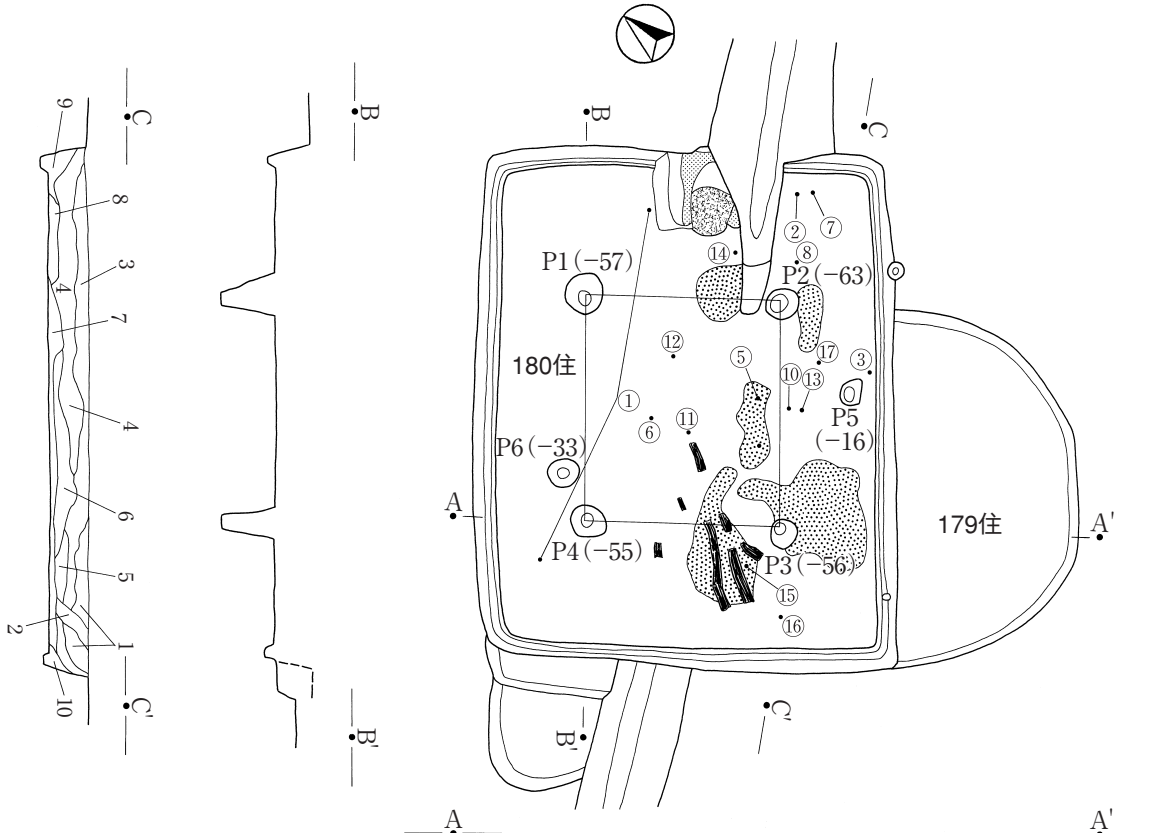
180号住居跡（第295・296図、図版40・146）

位置　西調査区中央。Ｌ５・Ｌ６・Ｍ５。　複合切り合い関係　プラン南西辺で弥生後期の179住を掘り込み、主軸方向に床面中央を後世の10号溝によって掘り込まれ検出する。　平面形　縦長方形。

主軸方位　Ｎ－51°－Ｅ。　床面規模　5.27m（主軸）×4.22m（副軸）。　床面積　21.79㎡。

残存壁高　0.29～0.41m。　カマド　北東辺中央に敷設されるが右袖を10号溝に削平される。

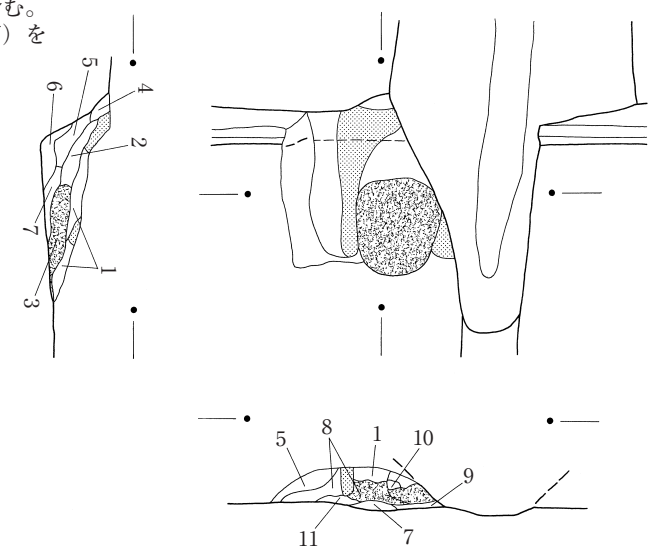
床面　張床である総体的に軟弱である。中央から北東部にかけて下末吉層の貼り付けが認められる。





0 (1/80) 3m

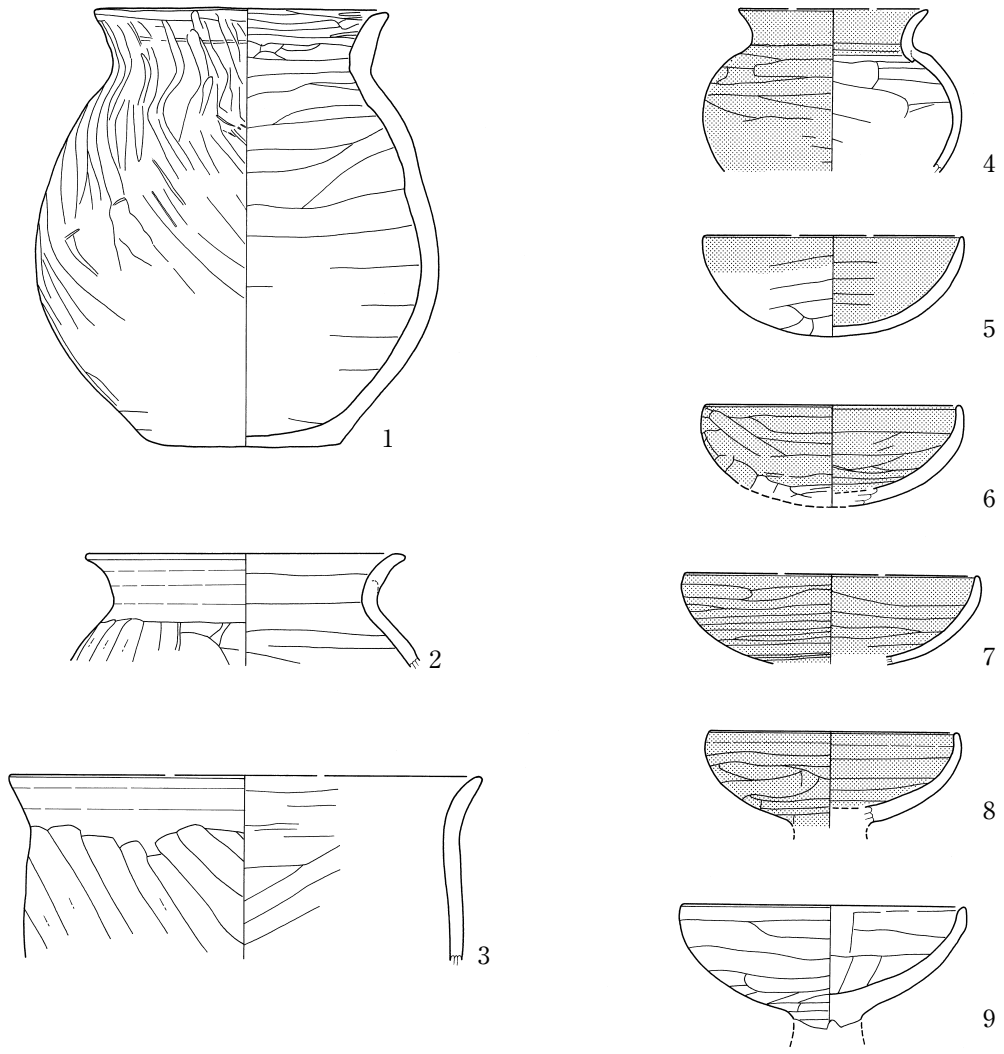
《180号住居跡覆土土層C－C'》
1　黄褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
2　茶褐色土層。焼土とローム粒を含む。
3　黒褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）と焼土粒を含む。
4　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
5　茶褐色土層。ロームブロック（5㎝以下）を含む。
6　黒褐色土層。炭と焼土を含む。
7　黒褐色土層。焼土を含む。
8　黒褐色土層。炭とローム粒を含む。
9　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
10　黄褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。



《180号住居跡カマド土層》
1　粘土を少量含む焼土層。
2　暗褐色土と焼土（少量）の混合土層。
3　焼土と灰及び暗褐色土の混合土層。
4　ローム土と粘土（少量）の混合土層。
5　暗褐色土層。粘土と焼土少量ずつ含む。
6　暗褐色土層。粘土（少量）とロームブロック（少量）を含む。
7　暗褐色土層。灰を少量含む。
8　褐色土層。ローム土と粘土を少量含む。
9　暗褐色土層。ローム土を少量含む。
10　暗褐色土層。焼土を含む。
11　焼土と灰の混合土層。

0 (1/40) 1m

第295図　179号・180号住居跡とカマド



第296図　180号住居跡出土遺物

その厚さは最高５㎝くらい。　**壁溝**　幅８～12㎝・深さ８～12㎝を測り四周する。　**覆土**　床面直上に焼土や炭化材が広範囲に認められ火災住居跡である。また、覆土の主体を成す土層中にロームブロックが含まれることから、火災後埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、柱間も平面に即し主軸方向に長く、副軸は短い。

出土遺物　１は肉厚で口縁僅かに外傾し、胴外面斜位篦ナデの甕。２は口縁が外反し、胴外面篦ケズリの甕。３鉢甕ないし甑であろう。胴外面斜位の篦ケズリを施す。４小形の赤彩壺で口縁が短く外反し、胴外面横位の丁寧な篦ナデを施す。５・６は赤彩椀形杯。７は赤彩の椀形高杯の杯部であろう。８は赤彩の椀形高杯。９は内外面摩耗により赤彩が剥離したもので赤彩の椀形高杯であろう。10～15は赤彩高杯の脚で裾部が総体的に短く外反する傾向にある。16・17は土玉である。遺物出土位置は、１～３・14・16が床面直上、９がカマド燃焼部、５・８・10・13がほぼ床面から出土し、他は覆土からの出土であるが全ての遺物が住居跡の帰属時期を示すものと考えてよかろう。本住居跡も177住同様に赤彩椀形・赤彩椀形杯・土玉に象徴される祭祀関連の遺物と判断でき住居内祭祀が行われた事が指摘できる。

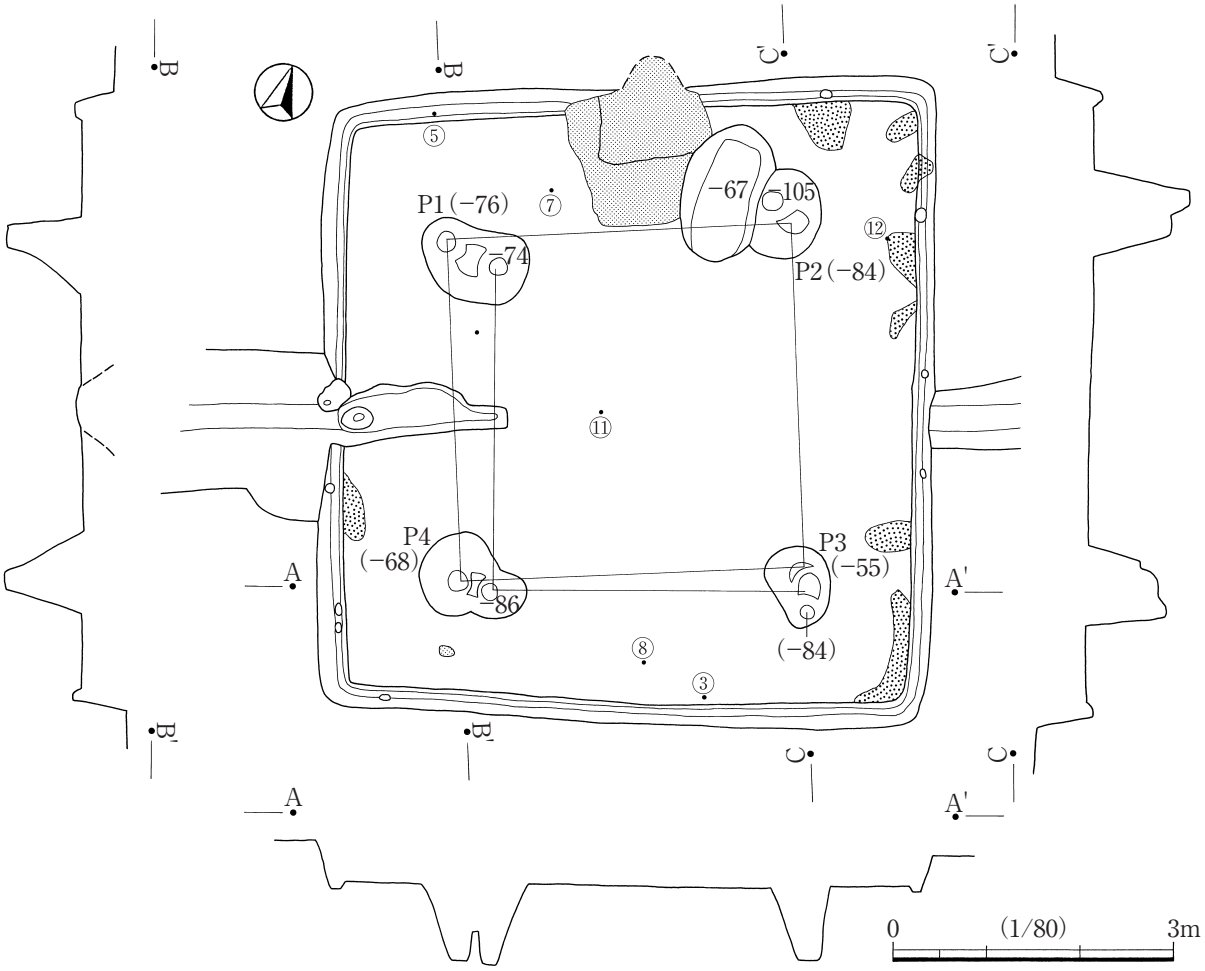
181号住居跡（第297図、図版41・146）

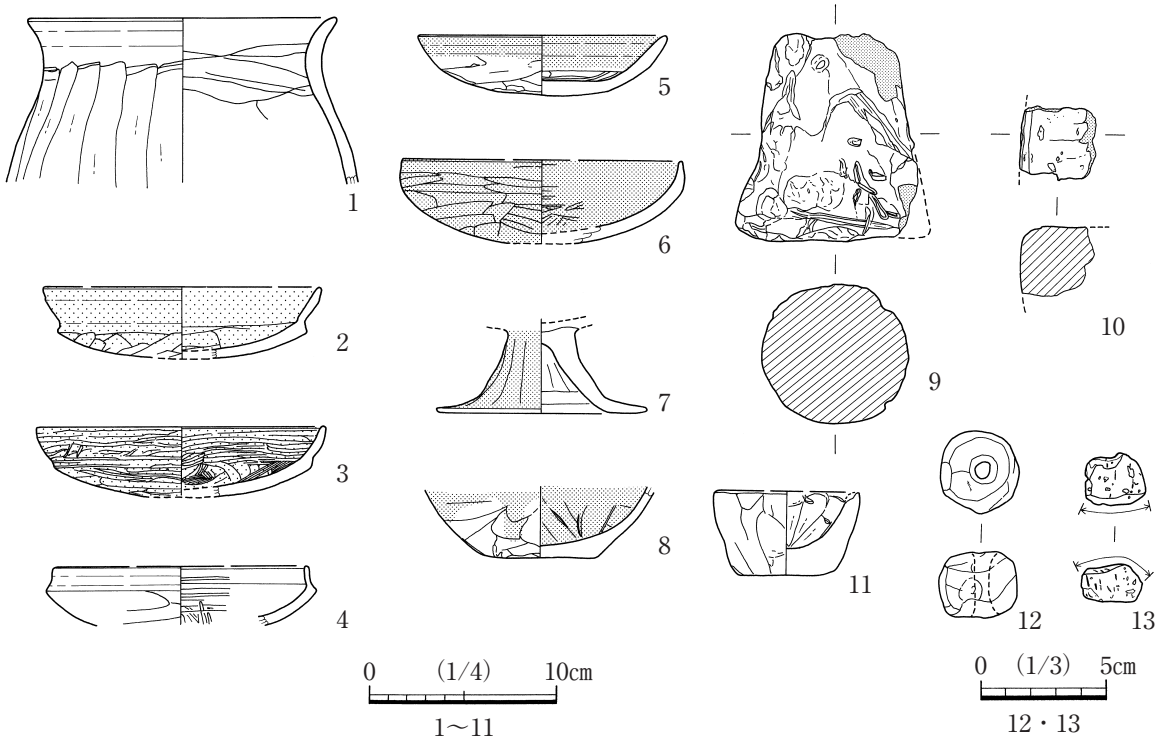
位置　西調査区西南。Ｌ５・Ｌ６・Ｍ５・Ｍ６。　**複合切り合い関係**　プラン北東隅で弥生時代後期の182住を掘り込み、古墳時代の他の住居跡との複合は無い。但し、プラン中央を東西方向に後世の10号溝によって掘り込まれ溝床は西側では床面を僅かに掘り込み検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－17°－Ｗ。　**床面規模**　6.48ｍ（主軸）×6.26ｍ（副軸）。　**床面積**　40.08㎡。　**残存壁高**　0.32～0.52ｍ。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　やや凹凸があるものの比較的平坦で堅緻である。　**壁溝**　幅12～14㎝・深さ７～10㎝を測り四周する。　**覆土**　床面直上に焼土が点在して認められることから火災住居跡である。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、各柱穴は掘り直され建て替えられた状況を示す。

出土遺物　１は口縁僅かに外傾し、胴外面縦位篦ケズリの甕。２・３は杯蓋模倣杯で稜段が明瞭で内外面に黒色処理を施す。４は杯身模倣杯で受部稜は鋭く「く」の字を呈する。５は浅い椀形杯で口縁部外面に赤彩を施す。４は口縁が直立気味に立つ椀形杯である。７は赤彩の高杯脚。８は内外面に赤彩を施す鉢か。９・10は土製支脚。11は手捏ね土器。12は土玉。13は擦り跡を残す軽石小片である。遺物出土位置は、１・３・８・12が床面直上、４がカマド燃焼部、７がほぼ床面、５が北側壁溝から出土し、他は覆土内からである。６は覆土内の検出で一部の遺存で住居跡との共伴関係は明確にできないが、本遺構内出土遺物は、新旧が混在する。

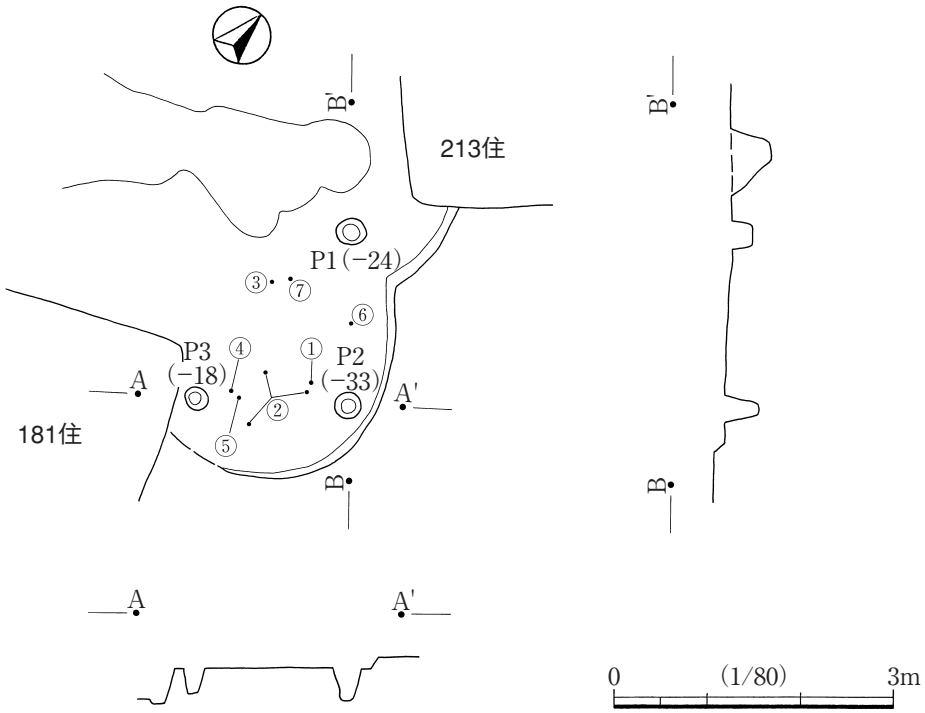
182号住居跡（弥生後期）（第298図、図版41・147）

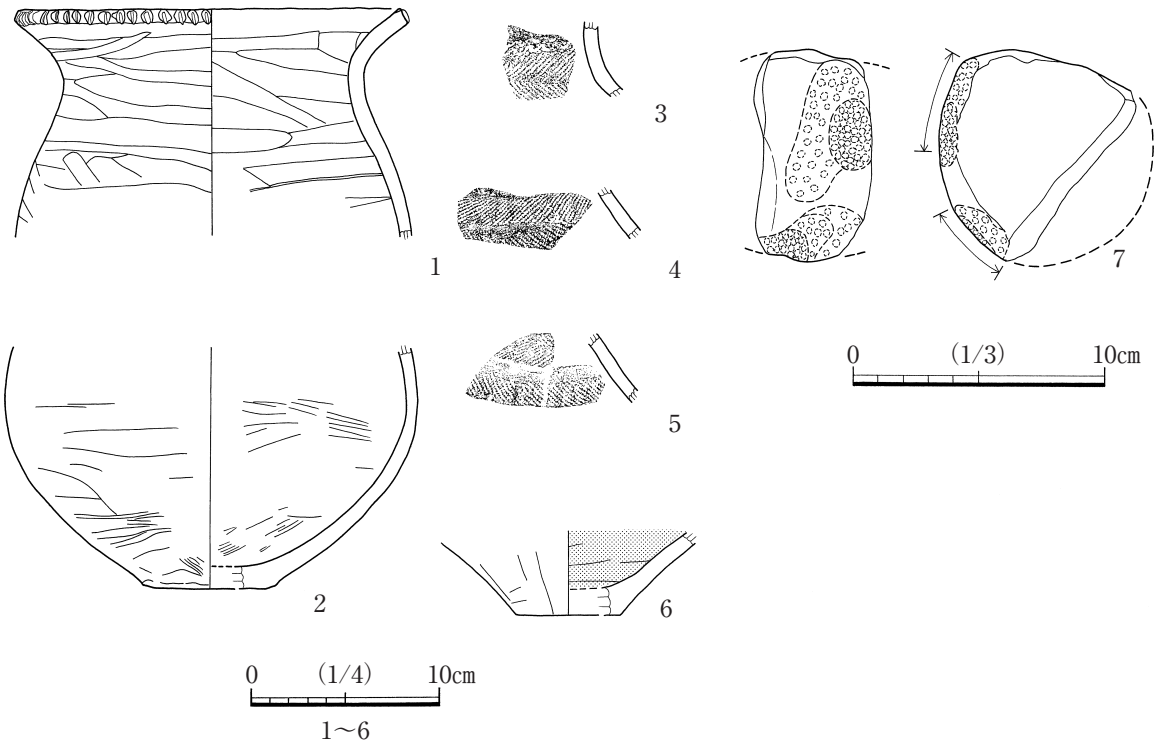
位置　西調査区西南。Ｌ５。　**複合切り合い関係**　181住の北側に検出し、壁および床面範囲が不明確な遺構である。　**平面形**　不整円形。　**主軸方位**　Ｎ－40°－Ｗ。　**床面規模**　2.5ｍ四方に床面を思わせる範囲が確認される。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.06～0.16ｍ。　**炉跡**　検出されない。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、中央部に踏み跡が楕円形に認められ堅く踏みならされている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　プラン推定範囲内にＰ１～Ｐ３を検出する





第297図　181号住居跡と出土遺物





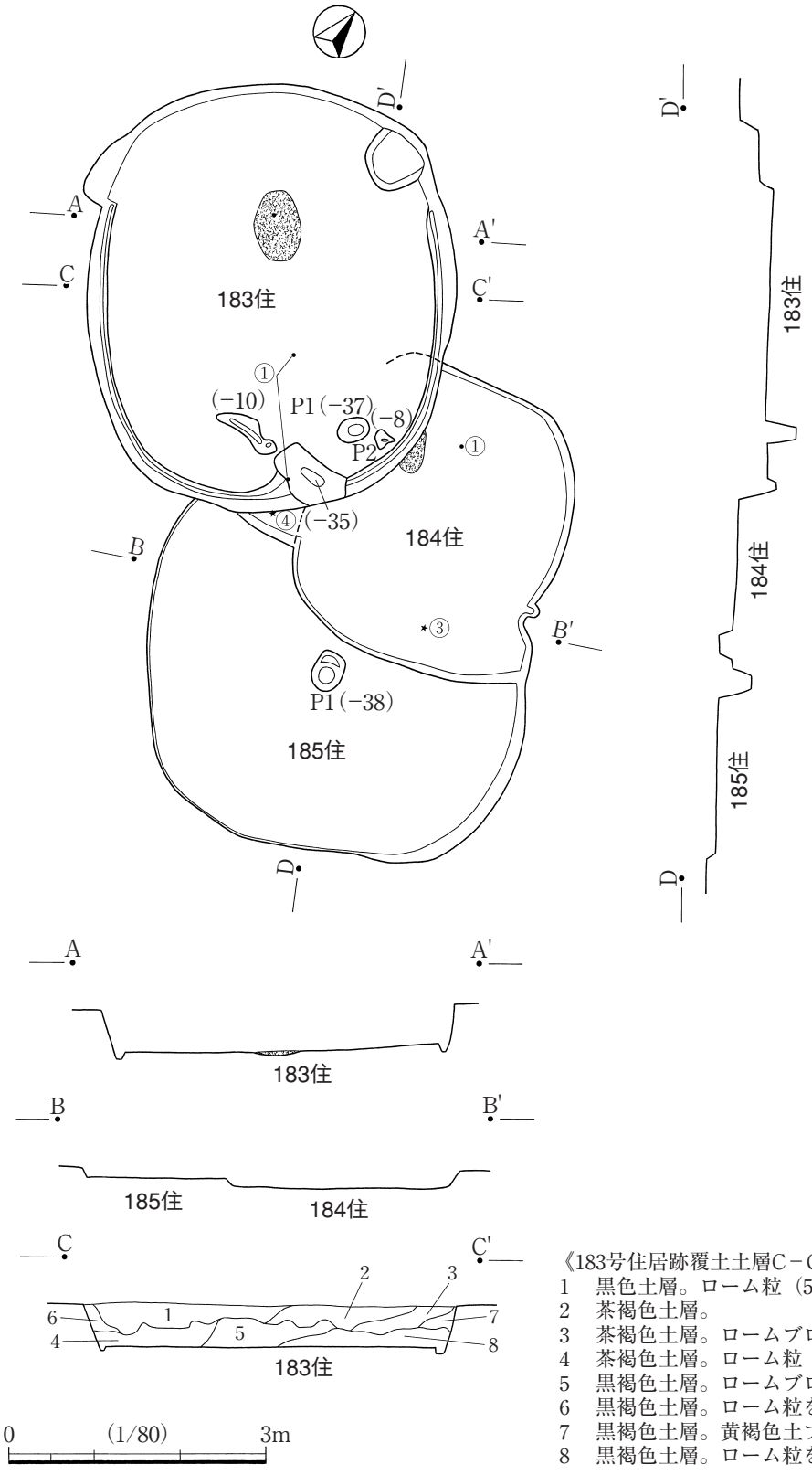
第298図　182号住居跡と出土遺物

が主柱穴は不明である。
出土遺物　1は口唇に刻みを施す甕で外面に薄く刷毛目を残す。2は外面ミガキ状の篦ナデを施す甕か。3～5は壺文様帯小片である。1は羽状縄文帯の上端に結節文で仕切る。4・5は羽状縄文を回らす。6は内面に丹彩を施す鉢である。7は敲打痕を残すハンマー型の石器である。何れの遺物も床面直上から出土し住居跡の帰属時期を示す資料となる。

183号住居跡（弥生後期）（第299・300図、図版41・147）
位置　西調査区西南。Ｍ4。　**複合切り合い関係**　プラン南側に184住・185住の3軒の弥生後期の竪穴住居跡が複合する。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－40°－Ｗ。　**床面規模**　4.70m（主軸）×3.95m（副軸）。　**床面積**　15.79㎡。　**残存壁高**　0.42～0.51m。　**炉跡**　床面中央からやや北西側に設けられ、規模は0.82m×0.56mである。　**床面**　中央部にやや凹凸が目立つが堅緻で壁寄りはやや堅い。　**壁溝**　炉跡の北西側は未検出で他は幅8～10㎝・深さ8㎝前後を測る。　**覆土**　主体を成す土層中にロームブロックを含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　南西壁寄りにＰ1を検出するが、柱穴は検出されず無柱構造である。
出土遺物　1は折返しの複合口縁を呈し、口唇部に縄文帯、口縁と体部上半にそれぞれ1段の羽状縄文帯を回らし、体部羽状縄文下端は結節文、折返し下端に刺突を配し、内外面丹彩を施す。2は赤彩の高杯脚片である。1は床面中央の直上から、2は覆土内で混入遺物である。

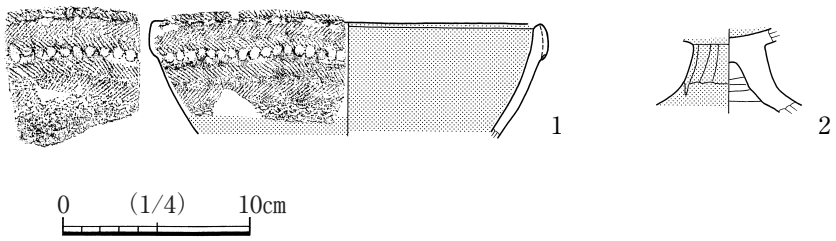
184号住居跡（弥生後期）（第299・301図、図版41・147）
位置　西調査区西南。Ｍ4・Ｍ5。　**複合切り合い関係**　183住の東側上層に床面の一部を置き検出し、プラン南側で185住と大きく複合する。　**平面形**　不整楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－20°－Ｗ。　**床面規模**　3.26m（主軸）×2.80m（副軸）。　**推定床面積**　8.38㎡。　**残存壁高**　0.15m前後。　**炉跡**　プラン北側に検出する。　**床面**　ソフトローム層上に形成され僅かに踏まれている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　1は内外面篦ミガキを施し、壺ないし鉢であろう。2は外面刷毛目を残す台付甕台部片。3・4は擦り跡を残す軽石である。1と3がほぼ床面から出土し、2・4は覆土からの出土であるが、全ての遺物が住居跡に伴うものであろう。

185号住居跡（弥生後期）（第299・302図、図版41・147）
位置　西調査区西南。Ｎ4・Ｍ5・Ｎ4・Ｎ5。　**複合切り合い関係**　プラン北側で183住・184住と複合する。　**平面形**　不整円形。　**主軸方位**　Ｎ－60°－Ｅ。　**床面規模**　4.30m（主軸）×4.10m（副軸）。　**推定床面積**　15.46㎡。　**残存壁高**　0.08～0.18m。　**炉跡**　北側床面を大きく184住に掘り込まれた為に失われる。　**床面**　ソフトローム層上に形成されている。平滑で比較的堅く踏みならされている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　1は柱状の底部で深鉢形を呈するものであろう。2は赤彩の体部下端に稜を有する高杯であろうか。3は高杯脚裾小片である。全ての遺物が覆土内からの出土で、住居跡の所属時期を明確に示す資料が無い。

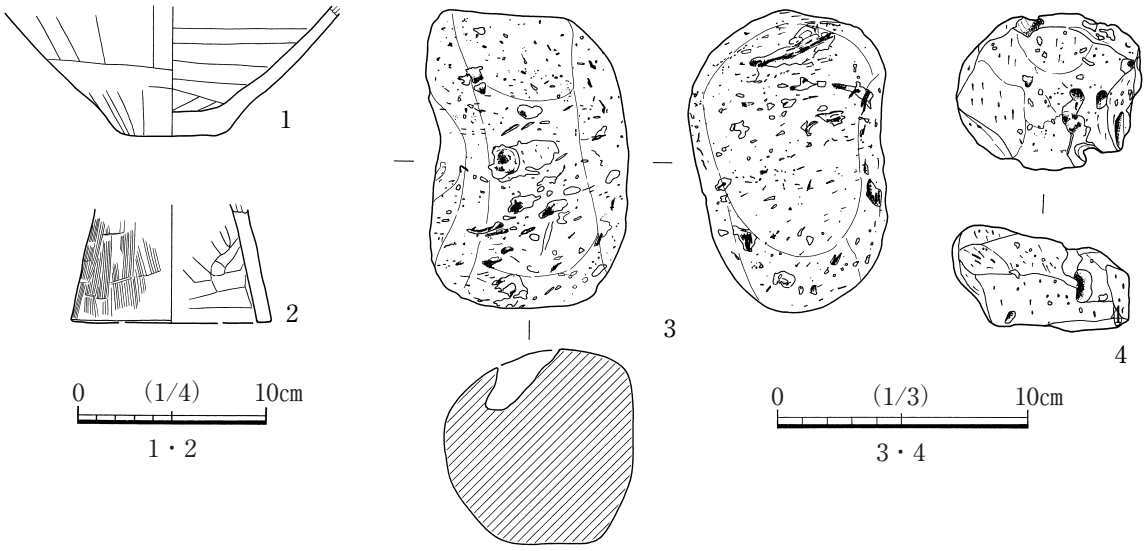


《183号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
2　茶褐色土層。
3　茶褐色土層。ロームブロック（1㎝以上）を含む。
4　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
5　黒褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
6　黒褐色土層。ローム粒を含む。
7　黒褐色土層。黄褐色土ブロックを染み状に含む。
8　黒褐色土層。ローム粒を含む。

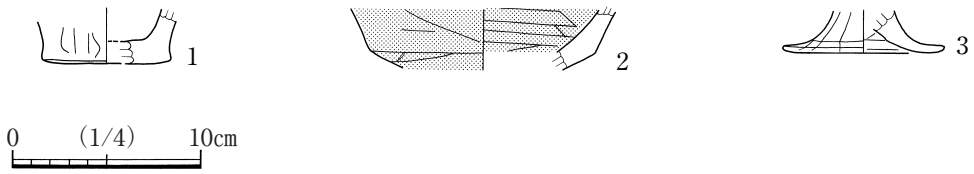
第299図　183号・184号・185号住居跡



第300図　183号住居跡出土遺物



第301図　184号住居跡出土遺物



第302図　185号住居跡出土遺物

186号住居跡（弥生後期）（第303図、図版41・147）

位置　西調査区西南端。N３。　複合切り合い関係　プラン東側を187住に大きく掘り込まれ、南側は調査区域外と接し未調査である。　平面形　円形？　主軸方位　不明。　床面規模　不明。　床面積　不明。　残存壁高　0.23～0.28m。　炉跡　床面中央寄りに187住に削平され一部を検出する。　床面　ソフトローム層上に形成され、炉周辺に堅緻な踏み跡が認められるが、他はあまり踏まれていない。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　未調査や削平部分が多く不明だが無柱構造であろう。

出土遺物　１は炉器台の頭部片。２は敲打痕を残す石器である。双方とも炉跡からの出土で住居跡に伴うものである。

187号住居跡（第303図、図版41・147）

位置　西調査区西南端。Ｎ３・Ｎ４。　複合切り合い関係　プラン西側で186住を掘り込んで検出し、南側は調査区域外と接し未調査である。　平面形　方形？。　主軸方位　Ｎ－33°－Ｗ。　床面規模　2.90m（現存主軸）×3.00m（副軸）。　推定床面積　8.63㎡。　残存壁高　0.47～0.55m。　カマド　北西辺中央に敷設さる。　床面　ハードローム層上に形成され、総体的に踏みならされて堅緻である。　壁溝　カマド右側以外の現存範囲に検出し、幅10cm・深さ５cmを測る。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

出土遺物　１は胴部上半篦ケズリ、下半篦ナデを施す甕。２は胴外面ケズリ状篦ナデを施す甕。３は肉薄の外面シャープな篦ケズリを施す球胴甕。４は内外面ミガキを施す杯蓋模倣杯。５は内外面光沢の有るミガキを施すやや肉厚の半球状の杯である。遺物出土位置は、１・２・５がカマド燃焼部、３・４は覆土内からの出土である。３は前段階の混入遺物と判断される。

188号住居跡（弥生後期）（第304・305図、図版41）

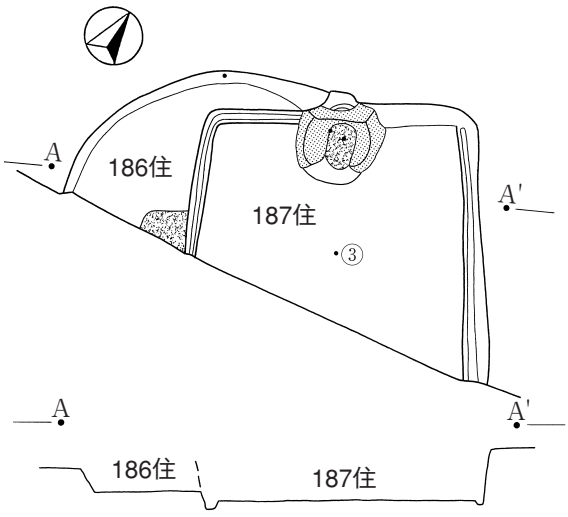
位置　西調査区北端。Ｇ５・Ｇ６。　複合切り合い関係　プラン北側３分の１程を古墳時代住居跡の189住に掘り込まれ検出する。　平面形　楕円形？　主軸方位　Ｎ－20°－Ｗ？　床面規模　不明。　床面積　不明。　残存壁高　0.12～0.17m。　炉跡　床面を189住に大きく削平され失われたものであろう。　床面　ソフトローム層上に床が形成され、残存範囲は平滑であるがあまり踏みならされた形跡は認められない。　壁溝　伴わない。　覆土　不明。　主柱穴　南東壁に接しＰ１を検出するが無柱構造である。

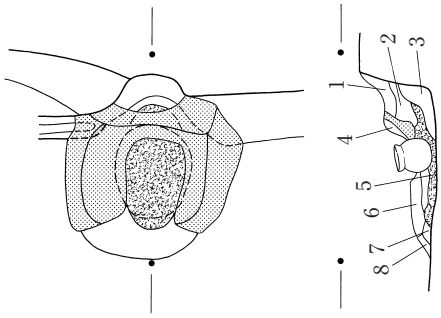
出土遺物　１は深鉢の底部。２は小片で羽状縄文を施す。１・２ともに覆土内の出土であるが住居跡に伴うものである。

189号住居跡（第304・306図、図版42・147・148）

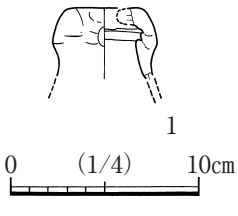
位置　西調査区北端。Ｇ５・Ｇ６。　複合切り合い関係　プラン南側で188住を掘り込み、東側を190住に掘り込まれ検出する。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－70°－Ｅ。　床面規模　4.64m（主軸）×4.75（副軸）。　床面積　22.05㎡。　残存壁高　0.28～0.33m。　カマド　東辺に敷設されたと思われるが190住に削平され失われる。　床面　平滑で堅緻である。　壁溝　西と南壁下に検出され幅10cm・深さ５～10cmを測る。北壁下には小ピットが連なり壁溝の存在を否定できない。　覆土　概ね自然堆積状況を示し、僅かに床面直上に焼土が堆積する。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、Ｐ１は190住プラン内に検出する。南東隅のＰ５は長方形を呈する貯蔵穴である。

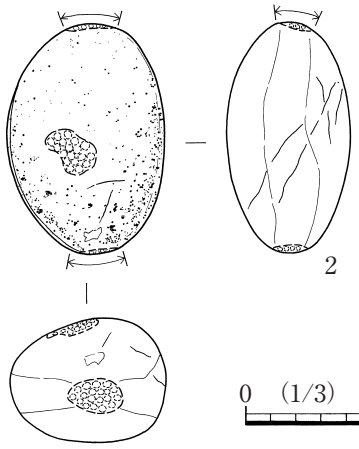
出土遺物　１は口唇玉状を呈し、口縁外反する球胴の大甕で胴外面上半篦ミガキ、下半ケズリ状篦ナデを施す。２は胴外面篦ケズリの小形甕。３・４は胴外面シャープな斜位の篦ケズリを施す甕。５は口縁「く」の字状に内傾する深い椀形杯で無彩である。６～11は赤彩椀形高杯で、脚端が短く僅かに外反する６や折れる７・８がある。12・13は無彩の椀形高杯。14はミニチュアで赤彩を施す。15は手捏ね状のミニチュア土器。16・17は径１cm前後を計測する作りの丁寧な土玉である。遺物出土位置は、１・３～６・９・12～17が床面直上、２・７・８・11が南東隅の貯蔵穴内、10は覆土内から出土するが共伴遺物と見なして良く、図示した全ての遺物が住居跡の所属時期を示す資料となる。また、

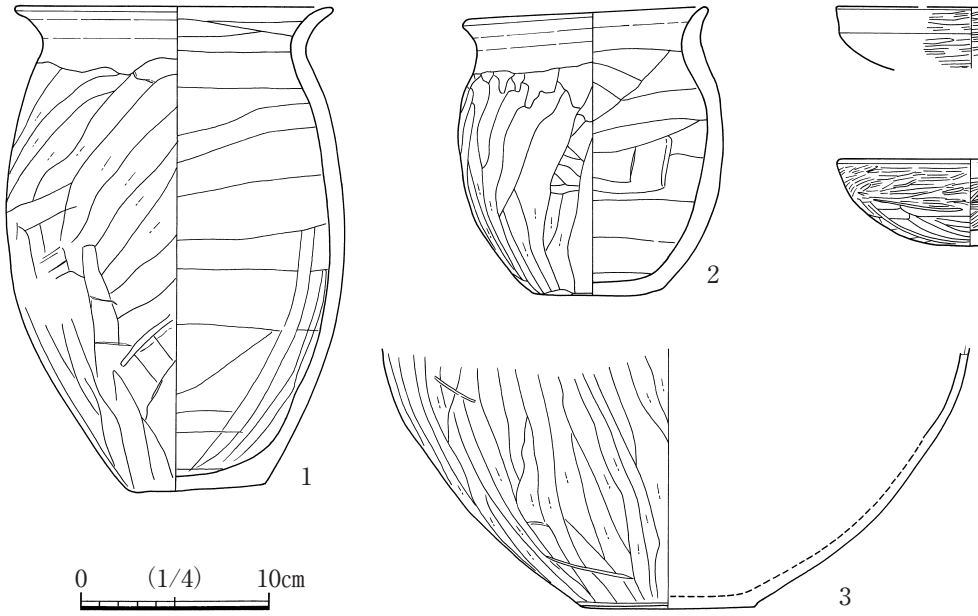




《187号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。ローム土と粘土（少量）を含む。
2 粘土と暗褐色土の混合土層。
3 暗褐色土層。粘土と焼土を極少量含む。
4 暗褐色土層。粘土を含む。
5 灰と焼土の混合土層。
6 粘土と焼土（少量）及び暗褐色土の混合土層。
7 明褐色土層。粘土を全体に少量含む。
8 暗褐色土層。粘土を含む。







第303図　186号・187号住居跡と出土遺物

ここでも赤彩高杯・土玉・ミニチュア土器が床面から検出され住居内祭祀が行われた事が指摘できる。

190号住居跡（第304・307図、図版42・148）

位置　西調査区北端。G５・G６。　複合切り合い関係　プラン西側で189住床面を大きく掘り込み、東と北側は調査区域外と接し未調査である。　平面形　方形。　主軸方位　N－48°－W（北西辺カマド？）。　床面規模　≒６ｍ（主軸）。　床面積　≒36㎡。　残存壁高　0.34～0.56ｍ。　カマド　調査区域外にあり未検出であるが、北または東カマドと思われる。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で比較的堅緻である。　壁溝　西側壁下に一部残存するだけで幅15～18㎝・深さ５～10㎝を測る。　覆土　床面直上に広範囲に焼土が堆積し、覆土層主体を占める２層（305図Ｃ－Ｃ′）はロームブロックを含むことから埋め戻された状況が判る。　主柱穴　４柱構造であると思われるが２穴は調査区域外で未検出である。

出土遺物　１は須恵器身で口縁は短く内径、受部稜はやや鋭く、底部は２分の１ほどに回転篦ケズリを施し、TK43型式に比定される。２は内外面漆塗りの杯蓋模倣杯。３・４は小片であるが有段口縁杯である。５・６は口縁「く」の字に短く内傾し、６はやや大形の杯身模倣。全て覆土中の出土であるが、全て住居跡の所属時期を示す資料と見なしてよかろう。

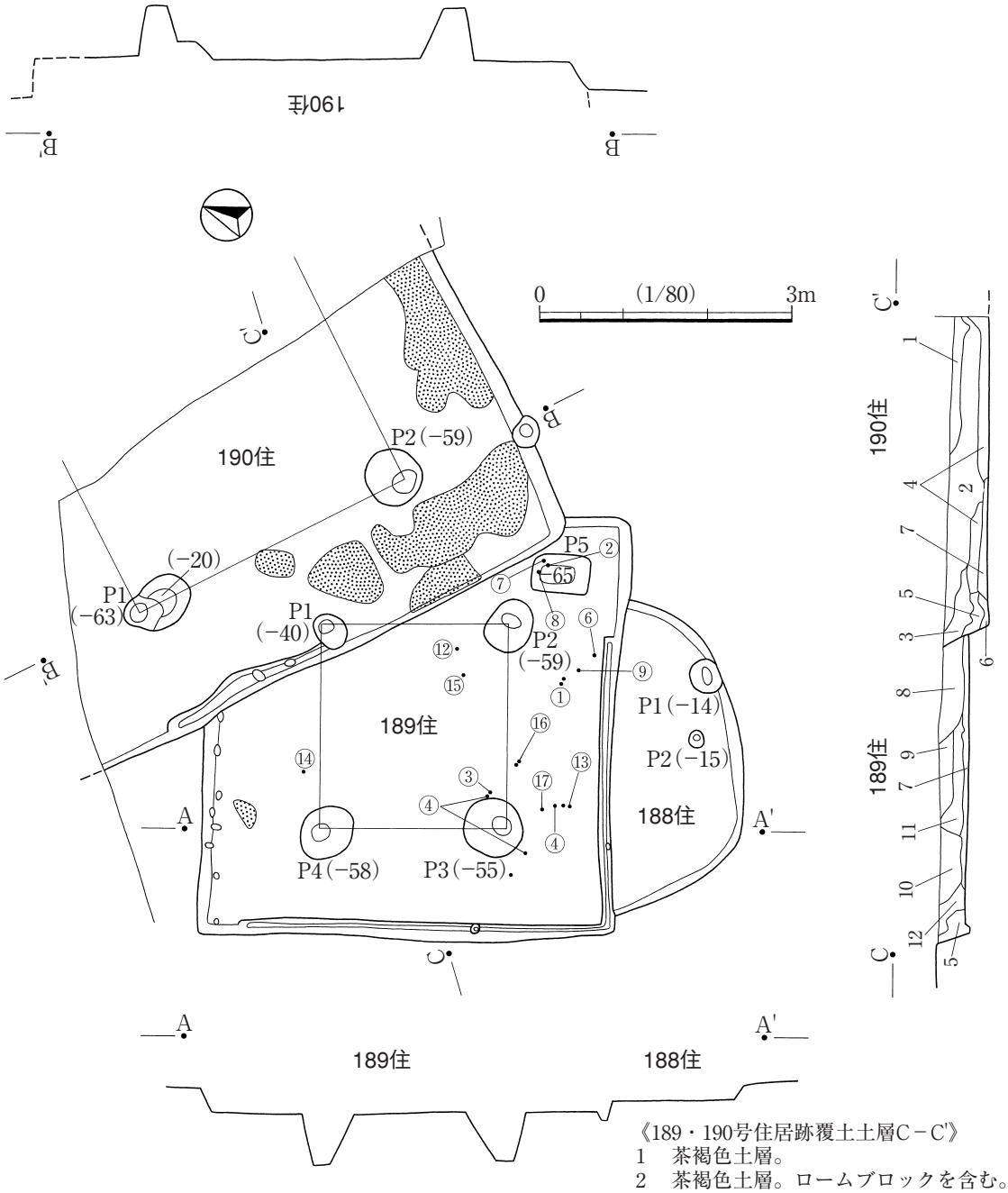
191号住居跡（弥生中期）（第308・310図、図版42・148）

位置　西調査区北端。G６。　複合切り合い関係　190住南東に隣接する。プラン南西壁と炉跡および炉跡周辺と南側床面の検出で、北側半分を欠失し北壁は調査区域外に位置するものであろう。　平面形　楕円形？　主軸方位　北方位。　床面規模　６ｍ以上（長軸長）。　床面積　不明。　残存壁高　0.10～0.12ｍ。　炉跡　プラン内北側に検出し、北半分は攪乱され失う。　床面　ソフトローム層上に形成され、中央部は平坦で踏み跡が認められる。　壁溝　検出されない。　覆土　床面直上土層は黒褐色土で焼土粒を含む。　主柱穴　未検出。

出土遺物　１は把手で２孔が穿孔される。２は台付鉢脚部で柱には丹彩が施され、底部端は抉りを施し波状を呈する。双方ともに覆土内の出土であるが住居跡に伴うものである。

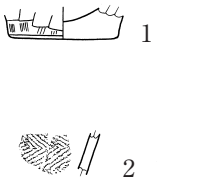
192号住居跡（第308・312図、図版42・148・149）

位置　西調査区北端。G６・G７。　複合切り合い関係　191住の東側床面を大きく掘り込み検出し、東側は193住に掘り込まれる。　平面形　方形。　主軸方位　N－11°－W。（北カマドの場合）　床面規模　6.30ｍ（主軸）×6.10ｍ（副軸）。（北カマドの場合）　床面積　38.40㎡。　残存壁高　0.14～0.26ｍ。　カマド　北辺中央と東辺中央からやや南側に寄って２カ所検出される。北カマドは煙道部のみの遺存で左右の袖部は失われていた。一方東カマドは煙道部を193住に掘り込まれるものの遺存状態が良く、住居跡廃絶時には東カマドが機能していたことが判る。　床面　平滑で堅く踏みならされている。　壁溝　幅８～９㎝・深さ７～８㎝測り遺存範囲は回る。　覆土　各土層にロームブロックを含み埋め戻された状態が窺える。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、Ｐ１・Ｐ２には掘り直しが認められる。南東隅のＰ５は円形の貯蔵穴である。

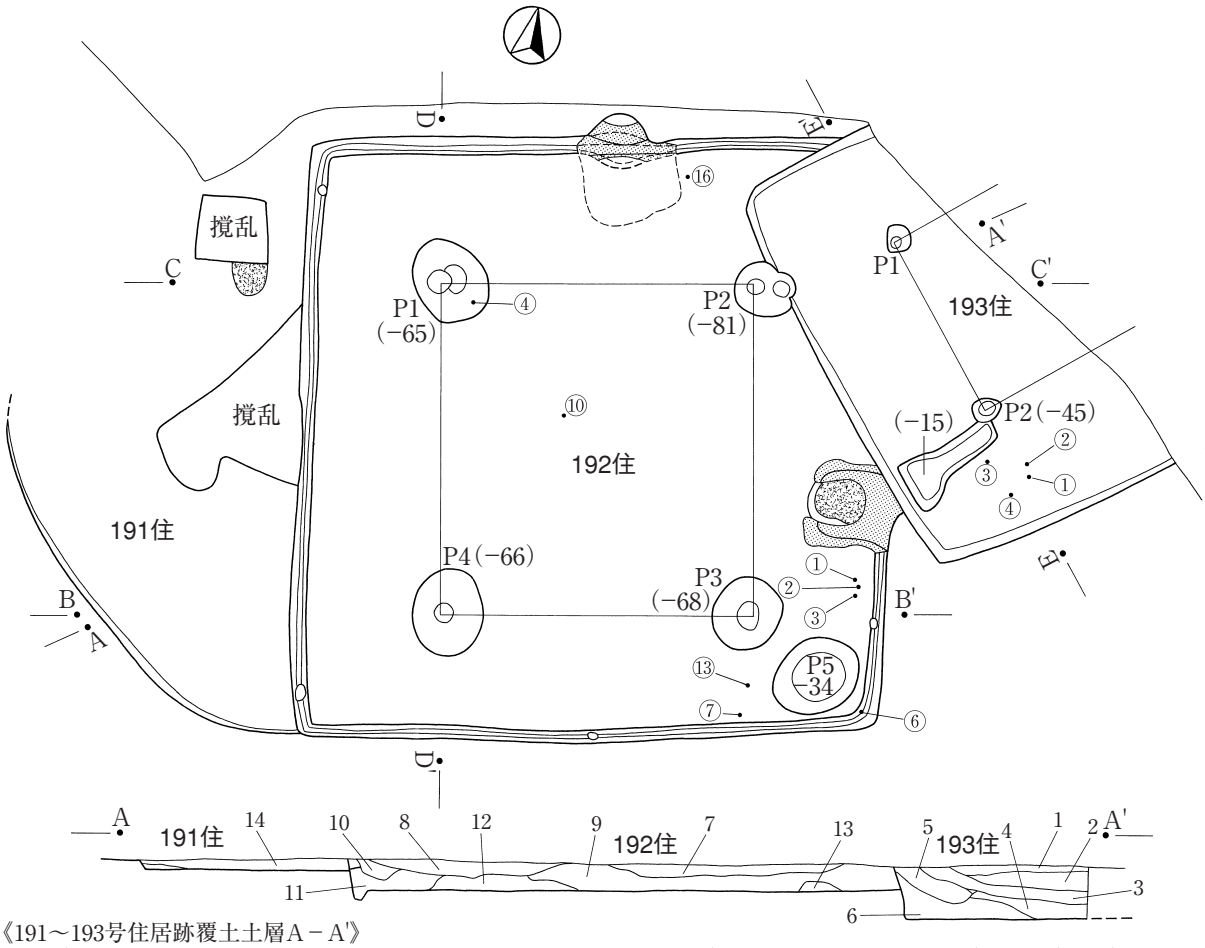


《189・190号住居跡覆土土層C－C'》
1　茶褐色土層。
2　茶褐色土層。ロームブロックを含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。
4　茶褐色土層。ロームブロックと焼土ブロックを含む。
5　黄褐色土層。焼土を含む。
6　暗褐色土層。ロームブロックを含む。
7　黒褐色土層。大小のロームブロックを含む。
8　黒褐色土層。ローム粒と焼土塊を含む。
9　黒褐色土層。
10　黒色土層。
11　黒色土層。ロームを霜降り状に含む。
12　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。

第304図　188号～190号住居跡

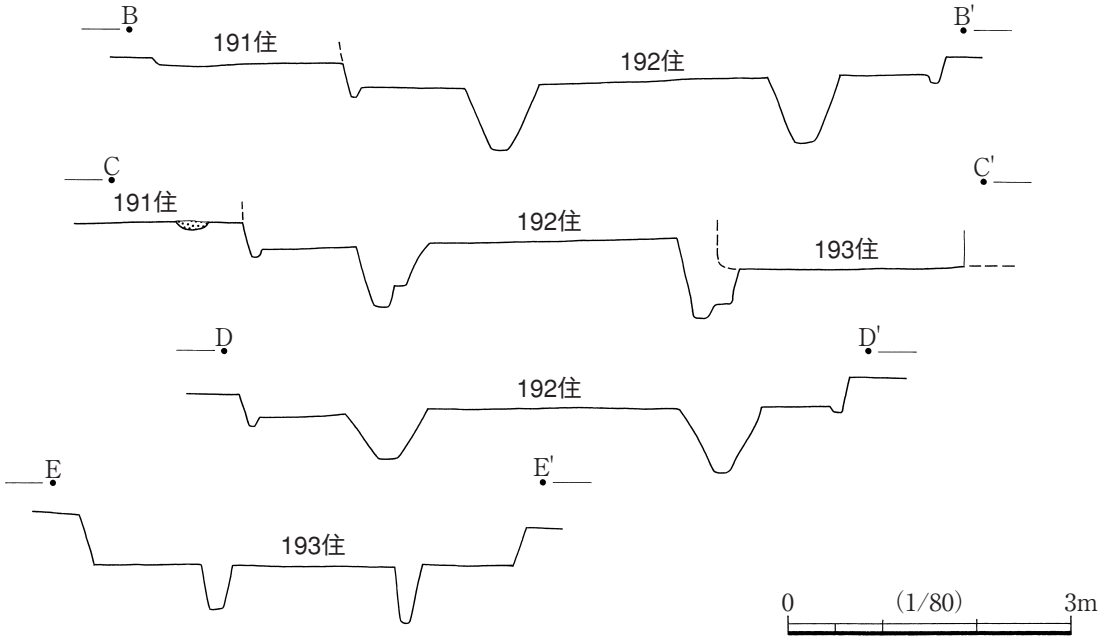


第305図　188号住居跡出土遺物

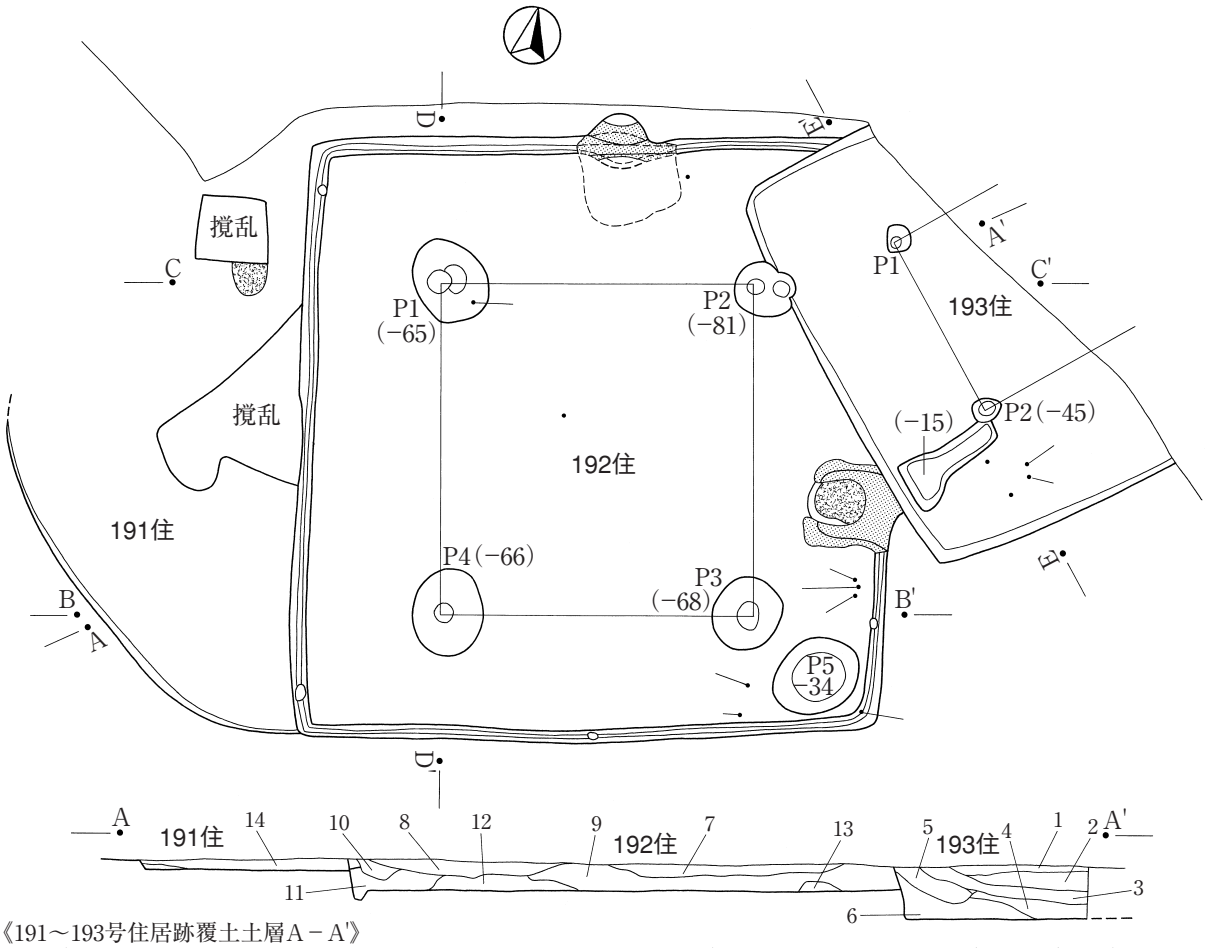


《191～193号住居跡覆土土層A－A'》

1　黒色土層。
2　茶褐色土層。焼土粒（5㎜以下）を含む。
3　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）と炭及び焼土を含む。
4　黄褐色土層。ロームブロック（5cm以下）を含む。
5　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以上）と焼土粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
7　黄褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を多く含む。
8　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
9　黒色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
10　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）と焼土粒及び一部に粘土を含む。
11　茶褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
12　黄褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を多く含む。
13　黒色土層。ロームブロック（2cm以下）を多く含む。
14　黒褐色土層。少量の焼土を含む。

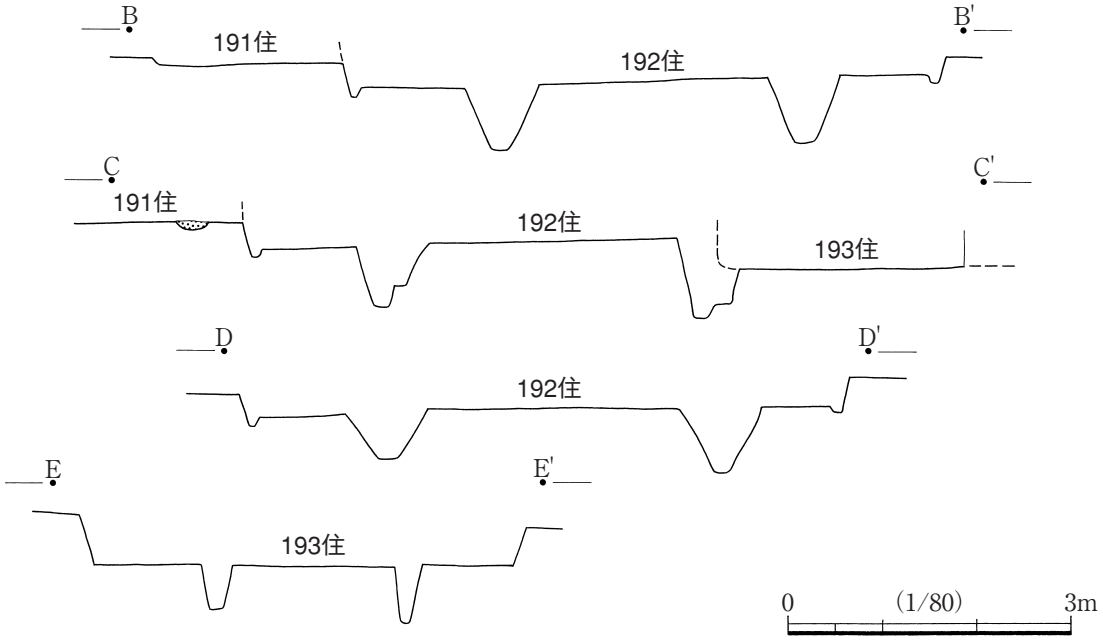


第308図　191号～193号住居跡

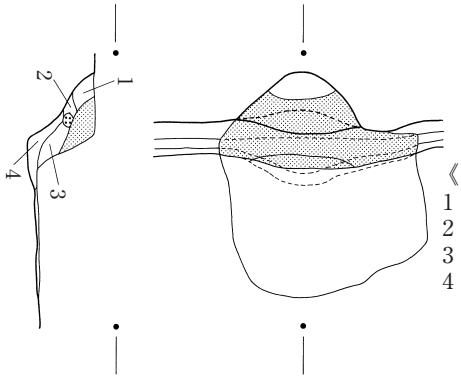


《191～193号住居跡覆土土層A－A'》

1　黒色土層。
2　茶褐色土層。焼土粒（5㎜以下）を含む。
3　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）と炭及び焼土を含む。
4　黄褐色土層。ロームブロック（5cm以下）を含む。
5　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以上）と焼土粒を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
7　黄褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を多く含む。
8　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
9　黒色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
10　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）と焼土粒及び一部に粘土を含む。
11　茶褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
12　黄褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を多く含む。
13　黒色土層。ロームブロック（2cm以下）を多く含む。
14　黒褐色土層。少量の焼土を含む。

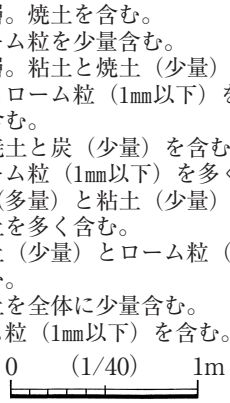


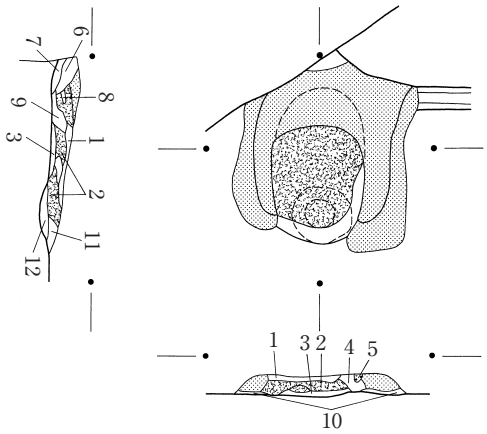
第308図　191号～193号住居跡



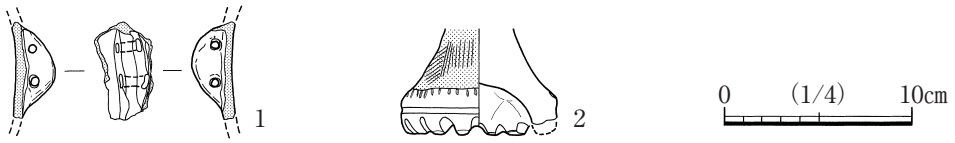
《192号住居跡北カマド土層》
1　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。
2　褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
3　褐色土層。焼土とローム粒及び灰を少量含む。
4　暗褐色土層。ローム粒を多く含む。焼土粒を微量に含む。

《192号住居跡東カマド土層》
1　にぶい黄褐色土層。粘土（多量）と焼土を含む。
2　にぶい赤褐色土層。焼土を含む。
3　暗褐色土層。ローム粒を少量含む。
4　にぶい黄褐色土層。粘土と焼土（少量）を含む。
5　褐色土層。粘土とローム粒（1㎜以下）を全体に少量含む。
6　暗赤褐色土層。焼土と炭（少量）を含む。
7　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。
8　黒褐色土層。炭（多量）と粘土（少量）を含む。
9　赤褐色土層。焼土を多く含む。
10　黒褐色土層。焼土（少量）とローム粒（微量）を含む。
11　赤褐色土層。焼土を全体に少量含む。
12　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。

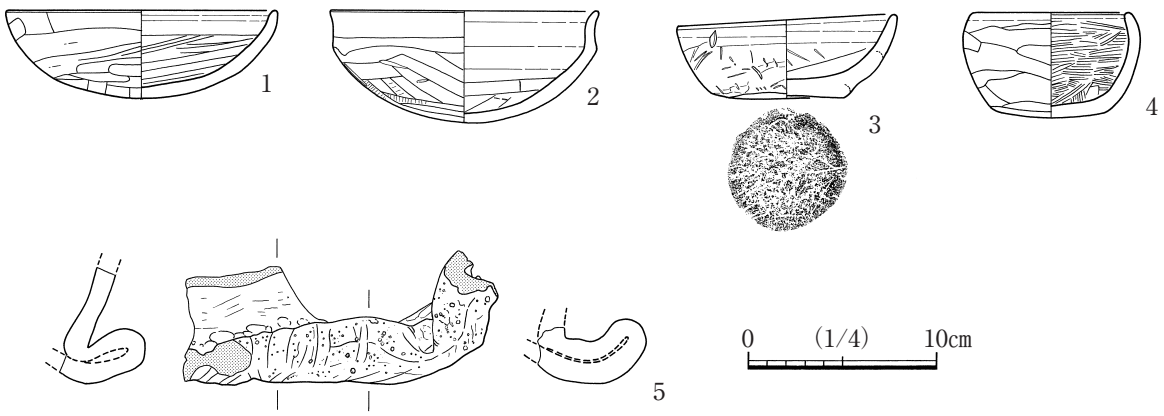




第309図　192号住居跡カマド

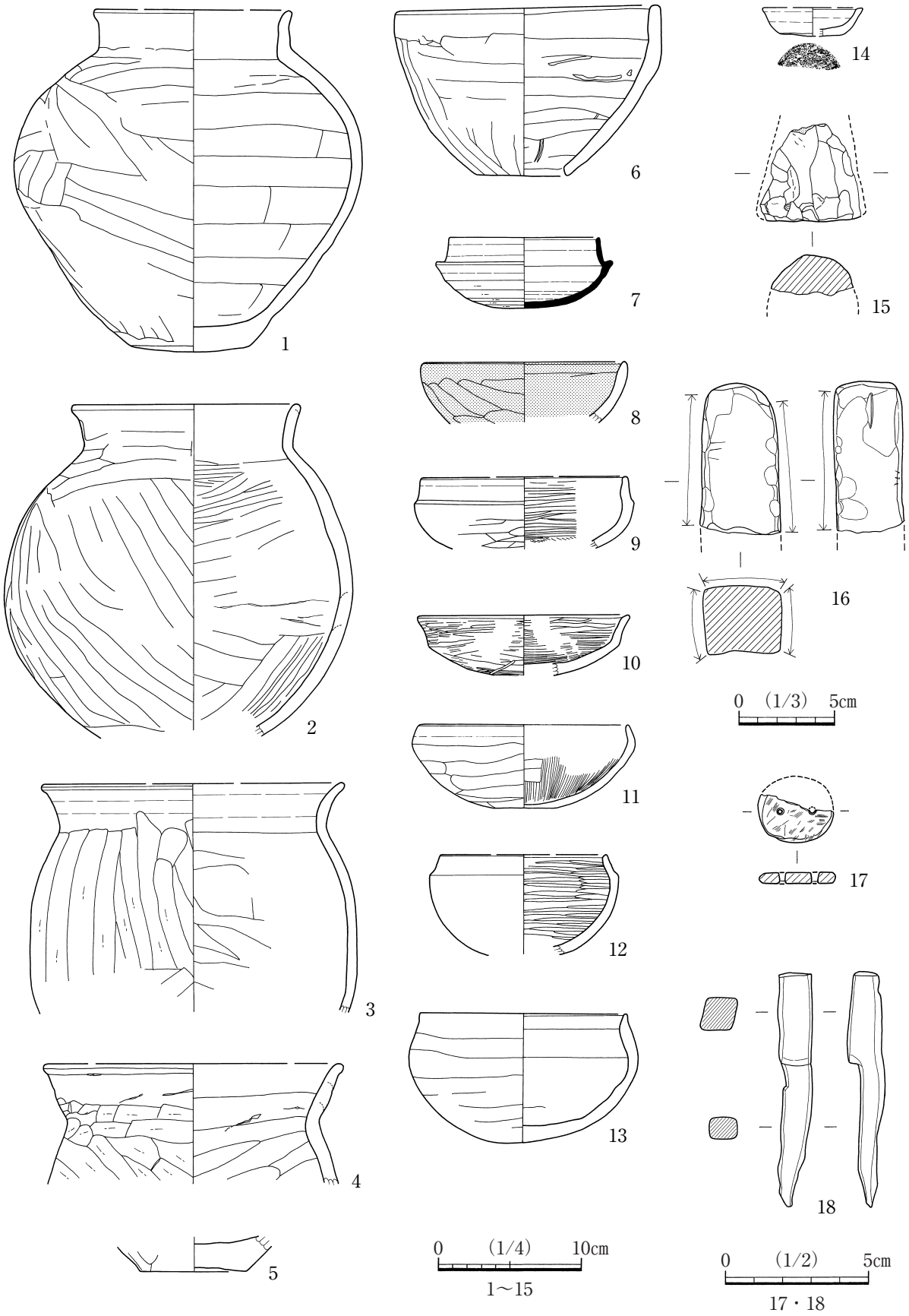


第310図　191号住居跡出土遺物

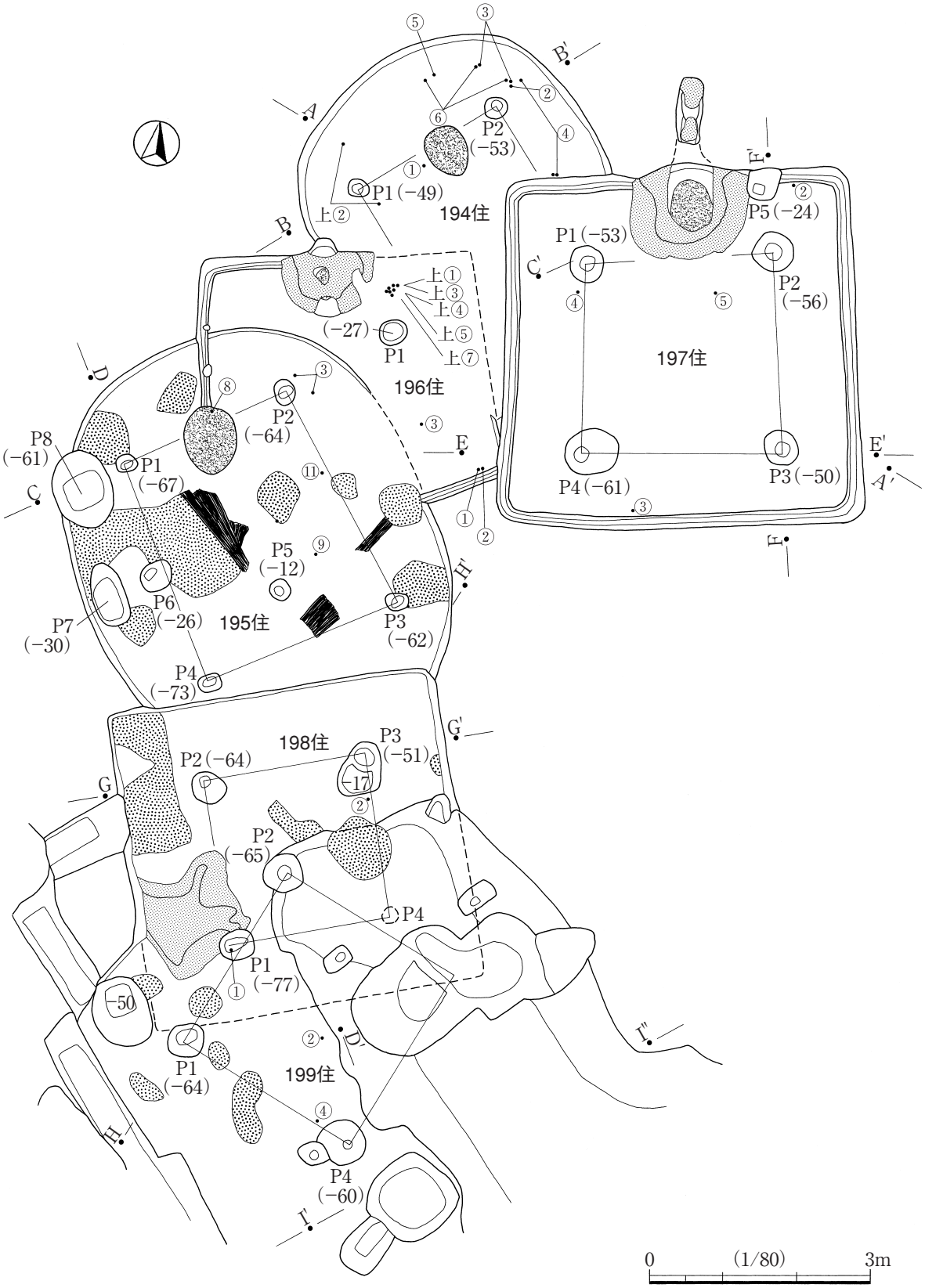


第311図　193号住居跡出土遺物

出土遺物　1・2は口縁が直立気味に立ち端部で僅かに外反する肉厚の球胴甕で、同外面斜位の箆ナデを施す。3は外面縦位の箆ケズリ甕。4は斜位の箆ケズリ甕。6は鉢形の甑で外面箆ケズリを施す。7は須恵器身で稜はやや鈍く底体部外面箆ケズリも大きくTK23～MT47に比定できよう。8は赤彩の椀形杯。9は杯身模倣杯。10・11は漆塗りで、10は内外面光沢の有るミガキを施す。11は口縁が鈍い「く」の字を呈する。12は小形の内面ミガキの椀。13は椀。14は小形のカワラケ。15は土製支



第312図　192号住居跡出土遺物



第313図　194号～199号住居跡

脚。16は研磨痕を有する砥石。17は滑石製の双孔円盤。18は断面角状の釘である。遺物出土位置は、１・２・５・10が床面直上、７・13がほぼ床面、４が主柱穴のＰ１、６が南東隅の壁溝内、３・８・９・11・12・14・15・17・18が覆土からの出土である。床面直上ないしほぼ床面出土の中でもやや時間差が見られ、記録類の誤記も考慮しなければならないが、１・２・６・７が共伴遺物で10・13が混入遺物の可能性がある。

193号住居跡（第308・311図、図版42・149）

位置　西調査区北端。Ｇ７。　複合切り合い関係　192住の東壁面を掘り込み、プラン東半分は調査区域にあり未調査である。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－41°－Ｗ？　床面規模　4.38m（副軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.35～0.50m。　カマド　北ないし東辺に設けられたものと思われるが調査区域外で不明である。　床面　平滑で堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　上層は黒色土を主体とし自然堆積を示すが、下層にはロームブロックを含み埋め戻しの状況が窺える。　主柱穴　４柱構造であると思われるが２穴は調査区域外で未検出である。

出土遺物　１は半球状の椀形杯で底体部外面篦ケズリに内面弱いミガキを施す。２は口縁が直立し僅かに外反する深い椀形杯で底体部外面篦ナデを施す。３は木の葉の平底で体部外面輪積みを残す篦ナデで内面弱いミガキを施す。４は小形の内湾する鉢で平底を呈し、内面に弱いミガキ、外面ミガキ状篦ナデを施す。５は気泡状の吹き出しが認められる発泡土器で、元は大形の土師器甕であろうか。遺物出土位置は、１が床面直上、２・３がほぼ床面、４・５は覆土からの検出である。覆土からの遺物はやや疑問も残るが全て共伴遺物と見なしてよかろう。

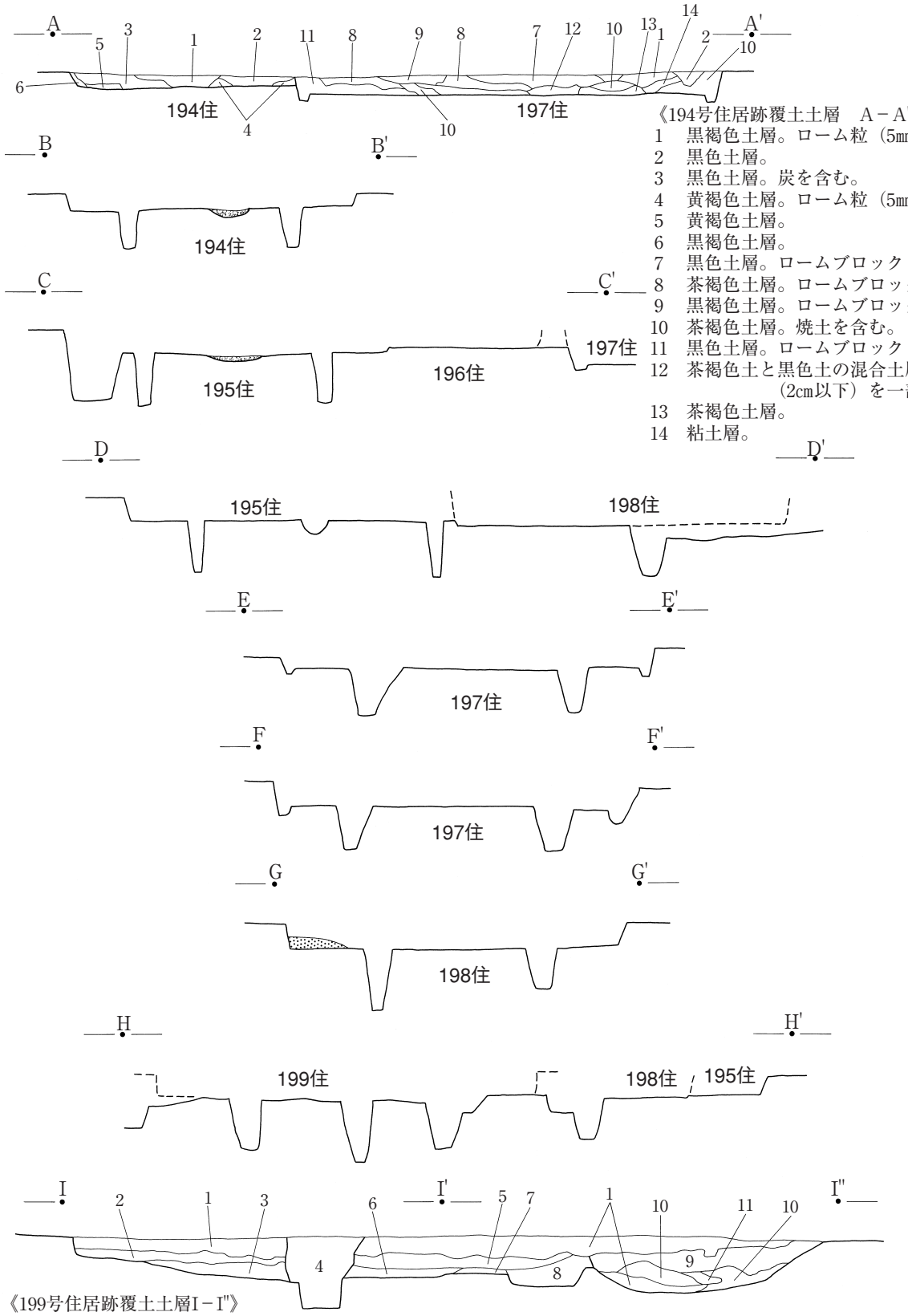
194号住居跡（弥生後期）（第313・314・317図、図版43・149・150）

位置　西調査区北側。Ｇ７。　複合切り合い関係　193住南東に隣接する。プラン南半分は西側で196住に東側で197住にそれぞれ掘り込まれプラン北側半分の遺存である。　平面形　楕円形。　主軸方位　Ｎ－48°－Ｗ。　床面規模　4.00m（主軸）×3.72m（副軸）。　推定床面積　12.43㎡。　残存壁高　0.06～0.23m。　炉跡　床面中央から北側に寄って設けられ、規模は0.75m×0.54mを測る。　床面　平滑で堅くふみならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　黒色系を呈し概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　炉跡を挟んでＰ１・Ｐ２を検出し４柱構造であると思われるがＰ３・Ｐ４の２穴は後世の床面下に想定でき未検出である。

出土遺物　１は口縁刻み胴外面ミガキ状篦ナデで内面刷毛目を残す甕。２は口縁押捺で波状を呈する甕。３は複合口縁で口縁側面に羽状縄文と円形浮文を配し、円形浮文には縦横３列の刺突が施される。４は沈線文で仕切られた羽状縄文を無文帯を挟んで回らす壺。５・６は外面篦ミガキないしミガキ状篦ナデを施した壺下半部。７は外面篦ケズリの壺か。遺物出土位置は、１・３・４・５・６が床面直上、２がほぼ床面、７が覆土からの出土で、７以外が住居跡共伴遺物である。

195号住居跡（弥生中期）（第313・314・318図、図版43・150）

位置　西調査区北端。Ｈ７。　複合切り合い関係　194住の南西に隣接する。プランは北東側で床面レベルが僅かに浅い196住に壁を大きく掘り込まれ、南側は198住に床面を大きく掘り込まれる。　平



《194号住居跡覆土土層　A－A'》
1　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
2　黒色土層。
3　黒色土層。炭を含む。
4　黄褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
5　黄褐色土層。
6　黒褐色土層。
7　黒色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
8　茶褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を含む。
9　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）含む。
10　茶褐色土層。焼土を含む。
11　黒色土層。ロームブロック（5cm以下）を含む。
12　茶褐色土と黒色土の混合土層。ロームブロック（2cm以下）を一部に含む。
13　茶褐色土層。
14　粘土層。

《199号住居跡覆土土層I－I"》
1　黒色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。
4　撹乱層。
5　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
6　黒褐色土層。ロームブロックを少量を含む。
7　黒褐色土層。
8　黒褐色土層。ロームブロックを含むザクザク土層。
9　黄褐色土層。ロームブロックを含む。
10　黒褐色土層。ローム土を含む。
11　黄褐色土層。

第314図　194号～199号住居跡断面図

面形　楕円形。　**主軸方位**　N－31°－W。　**床面規模**　5.80m（主軸）×4.60m（副軸）。　**推定床面積**　21.95㎡。　**残存壁高**　0.19～0.28m。　**炉跡**　床面中央から北側に寄って設けられ、規模は0.98m×0.70mを測る。　**床面**　ソフトローム層上に形成されているが、比較的平滑で堅く踏みならされている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　床面直上には広範囲に焼土および炭化材が確認でき火災住居である。　**主柱穴**　炉跡を挟んでＰ１・Ｐ２を対位置にＰ３・Ｐ４を検出し４柱構造である。他にＰ５～Ｐ８が確認されるがＰ８は後世の土壙状の遺構で、他は性格不明ピットである。

出土遺物　１は口縁押捺で波状を呈し胴外面ミガキを施す深鉢。２は複合口縁片。３は折返しの複合口縁で口縁押捺を施し波状を呈し、胴部刷毛目に羽状条痕文を配す。４～７は深鉢片で、４～６には羽状条痕文、７は刷毛目を施す。８は壺頸部で篦ミガキ、下端に沈線仕切の間を１段半の羽状縄文で埋める。９・10は沈線仕切の間を羽状縄文で埋める。11は山形文で沈線仕切の間を１段半の羽状縄文で埋める。12は重弧の沈線区画を配し無文は赤彩を施す。13～15は台付鉢の台端部片である。皆刻みと縄文を施す。遺物出土位置は、１・３・８・９・11が床面直上やほぼ床面、他は覆土からの出土であるが、全てが住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。

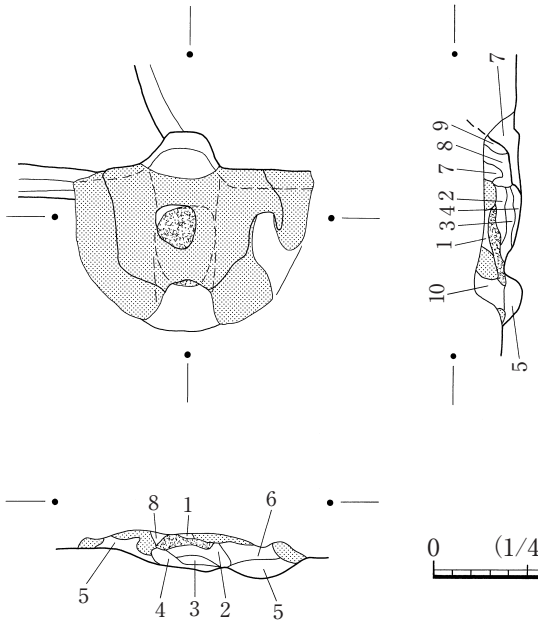
196号住居跡（第313・314・320図、図版43・150）

位置　西調査区北側。Ｈ８。　**複合切り合い関係**　195住の北東側に床面レベルを０～５㎝上に置き検出する。北東では弥生後期の194住を掘り込む。東側には197住と壁を接する。　**平面形**　不整方形。　**主軸方位**　N－14°－W。　**床面規模**　3.30m（主軸）×3.55m（副軸）。　**推定床面積**　11.41㎡。　**残存壁高**　0.12～0.21m。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　194住と同一平面上に形成され、比較的堅く踏みならされ凹凸が目立つ。　**壁溝**　幅８～10㎝・深さ９㎝前後を計測し部分的に遺存する。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　床面中央から北東側にＰ１を検出するものの他は検出されず無柱構造と思われる。

出土遺物　１は胴外面上半縦位篦ケズリ、下半横位篦ケズリを施す甕。２は杯身模倣杯で全面赤彩を施す。３は口縁外反の杯蓋模倣杯である。口縁が直立し僅かに外反する深い椀形杯で底体部外面篦ナデを施す。３は木の葉の平底で体部外面輪積みを残す篦ナデで内面弱いミガキを施す。４は小形の内湾する鉢で平底を呈し、内面に弱いミガキ、外面ミガキ状篦ナデを施す。５は気泡状の吹き出しが認められる発泡土器で元は大形の土師器甕であろうか。遺物出土位置は、皆ほぼ床面から出土し住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。

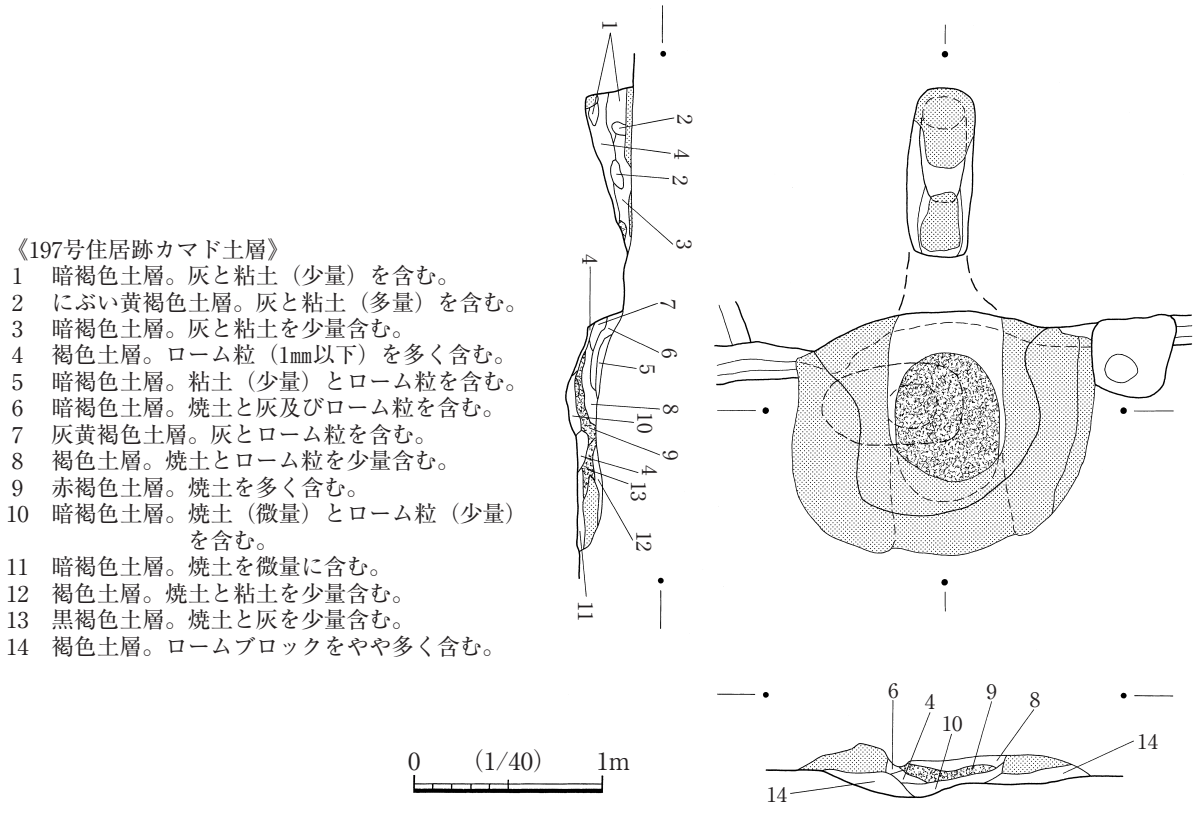
197号住居跡（第313・314・321図、図版43・151）

位置　西調査区北東端。Ｇ７・Ｇ８・Ｈ７・Ｈ８。　**複合切り合い関係**　プラン西側に196住が壁を接し、北西側で弥生後期の194住の床面を大きく掘り込んで検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－５°－W。　**床面規模**　4.65m（主軸）×4.66m（副軸）。　**床面積**　21.73㎡。　**残存壁高**　0.25～0.38m。　**カマド**　北辺中央に敷設され、煙道は1.2mと長く突出する。また、煙道部先端は深く掘られる構造である。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　**壁溝**　幅10～15㎝・深さ８～14㎝を計測し四周する。　**覆土**　各層位にロームブロックを含み埋め戻された状況を示す。また、東壁寄りの覆土には焼土を多く含む土層が確認でき平面図には焼土範囲が示され



《196号住居跡カマド土層》
1　にぶい黄褐色土層。粘土とローム粒を含む。
2　灰褐色土層。灰と粘土及び焼土を少量含む。
3　赤褐色土層。焼土（少量）とローム粒（1㎜以下）を含む。
4　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
5　黒褐色土層。ロームブロックを少量含む。
6　黒褐色土層。焼土（微量）と粘土（少量）含む。
7　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
8　灰黄褐色土層。焼土と灰及び粘土（少量）を含む。
9　灰褐色土層。焼土と灰と粘土を全体に少量含む。
10　黒褐色土層。粘土とローム粒（1㎜大以下）を含む。

第315図　196号住居跡カマド

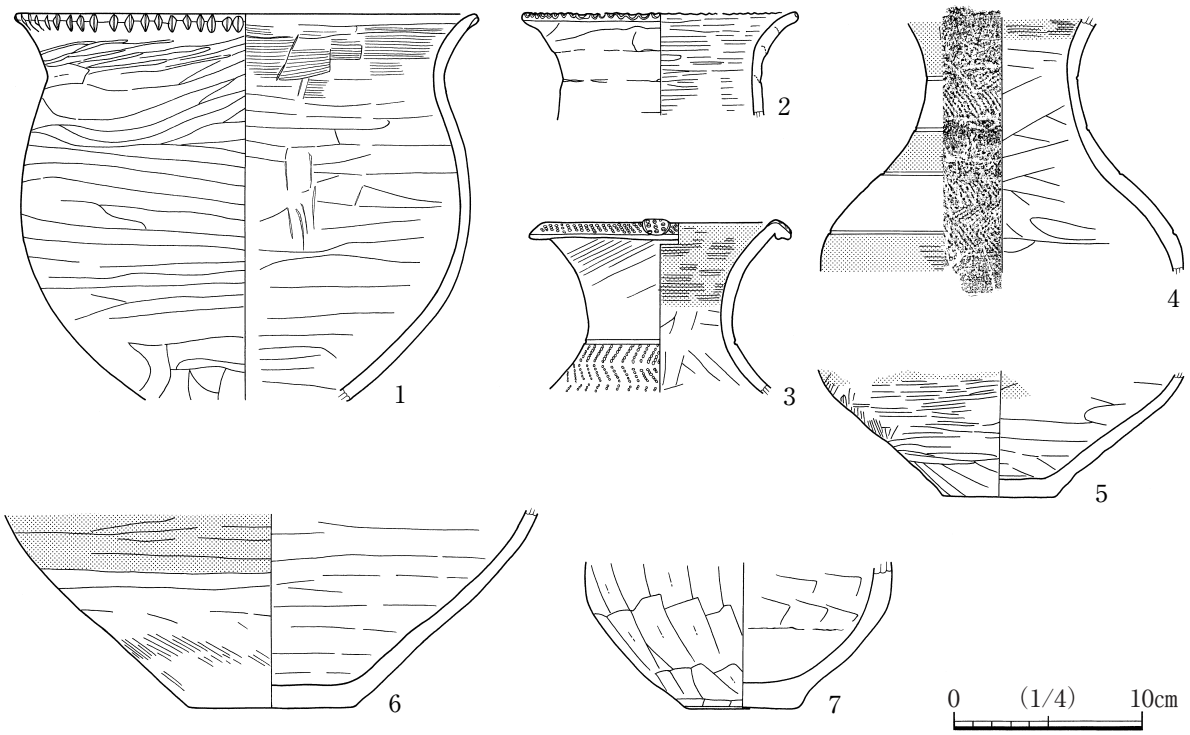


《197号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。灰と粘土（少量）を含む。
2　にぶい黄褐色土層。灰と粘土（多量）を含む。
3　暗褐色土層。灰と粘土を少量含む。
4　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。
5　暗褐色土層。粘土（少量）とローム粒を含む。
6　暗褐色土層。焼土と灰及びローム粒を含む。
7　灰黄褐色土層。灰とローム粒を含む。
8　褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
9　赤褐色土層。焼土を多く含む。
10　暗褐色土層。焼土（微量）とローム粒（少量）を含む。
11　暗褐色土層。焼土を微量に含む。
12　褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
13　黒褐色土層。焼土と灰を少量含む。
14　褐色土層。ロームブロックをやや多く含む。

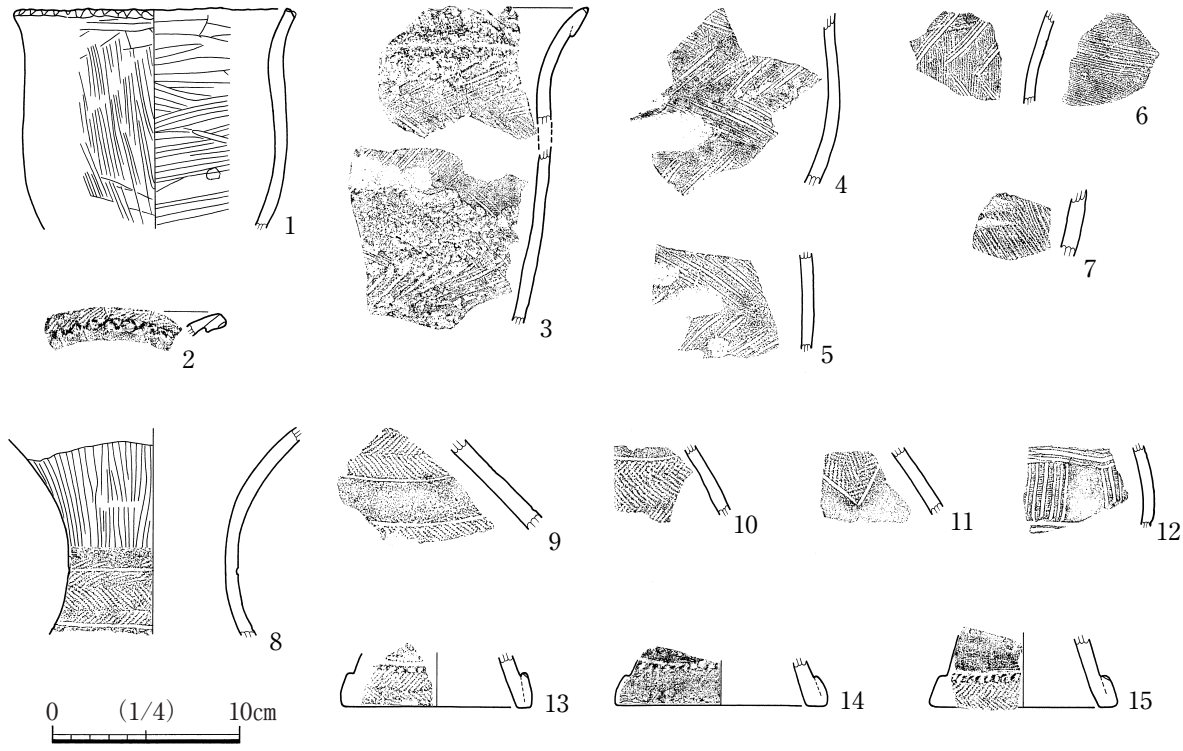
第316図　197号住居跡カマド

ないが火災住居の可能性を残す。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造で柱間ほぼ等間隔である。

出土遺物　1は須恵器甕片である。2は鉢形の甕で口縁が大きく外反して垂れ、胴外面縦位箆ケズリを施す。3は平底気味の口縁が外傾して端部僅かに外反する内面ミガキの杯。4は滑石製紡錘車で側面に加工痕のケズリ痕を明瞭に残す。5は径1㎝弱の土玉である。遺物出土位置は、1以外は床面直上やほぼ床面で住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。また、196住居跡のカマド右袖手前に掘り込み

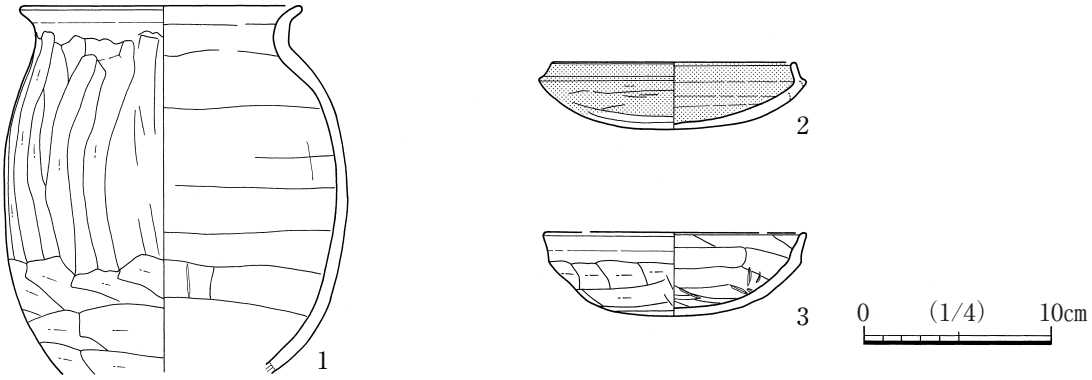


第317図　194号住居跡出土遺物

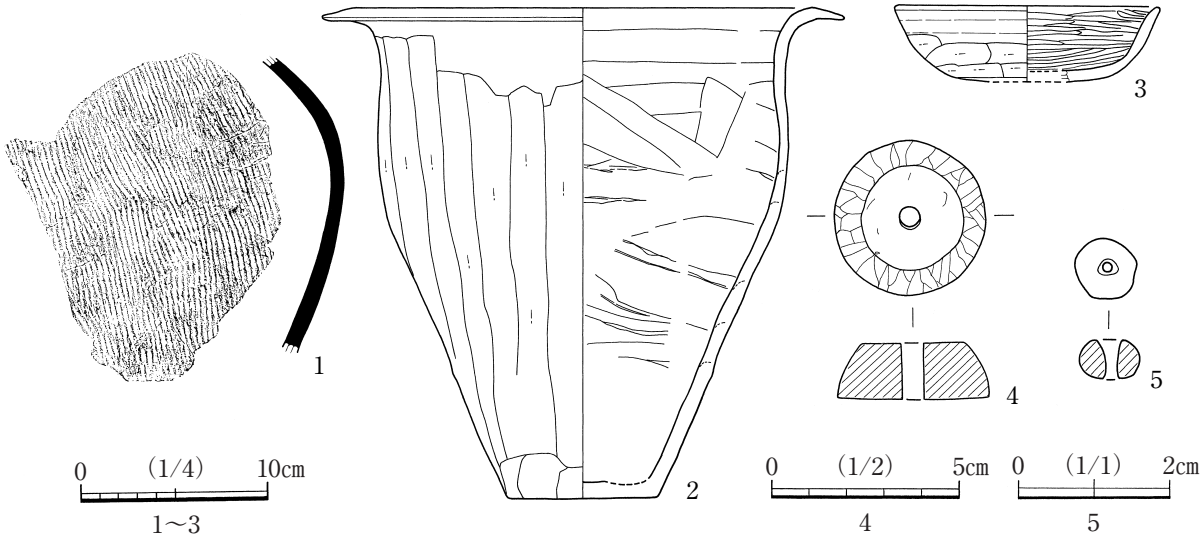


第318図　195号住居跡出土遺物

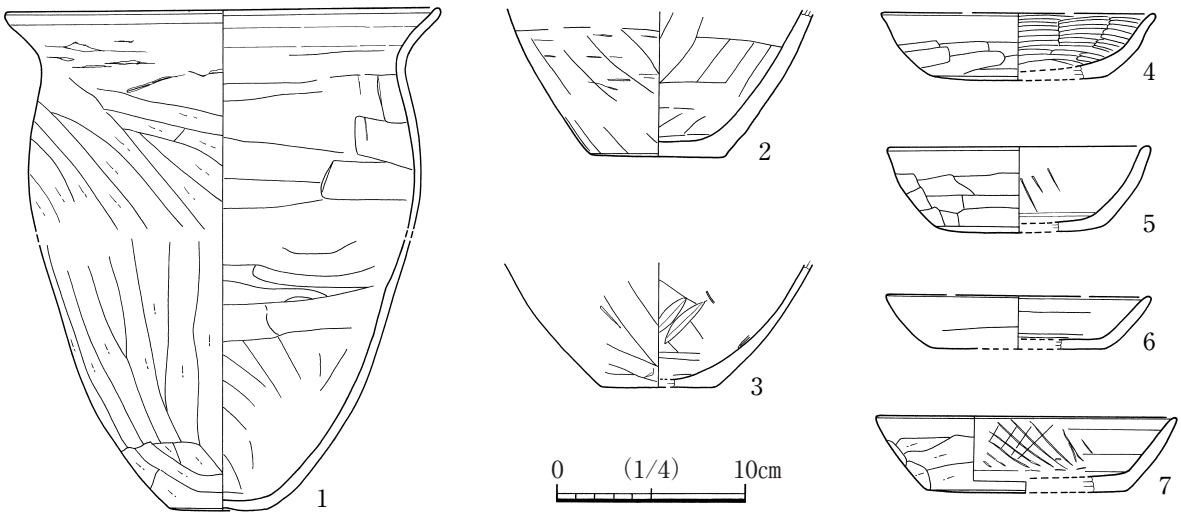
規模不明の遺物を伴う196号住居跡上層出土遺物が検出する。1は肉薄で胴外面斜位の箆ケズリを施す甕。2は箆ナデ甕。3は箆ケズリ甕。4は平底気味の口縁が外傾して端部僅かに外反する内面ミガキの杯。5は内面見込みが明瞭な器高の高い平底つきで内面に弱いミガキ、外面および底部手持ち箆ケズリを施す。6・7は非ロクロ土師器杯で7の内面には斜格子暗文が施される。この上層遺物は197住遺物と見なすことができる。



第319図　196号住居跡出土遺物



第320図　197号住居跡出土遺物



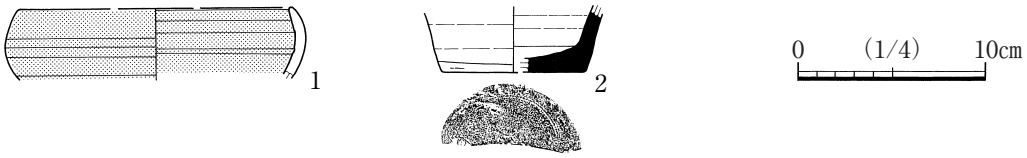
第321図　196号住居跡上層出土遺物

198号住居跡（第313・314・322図、図版43・151）

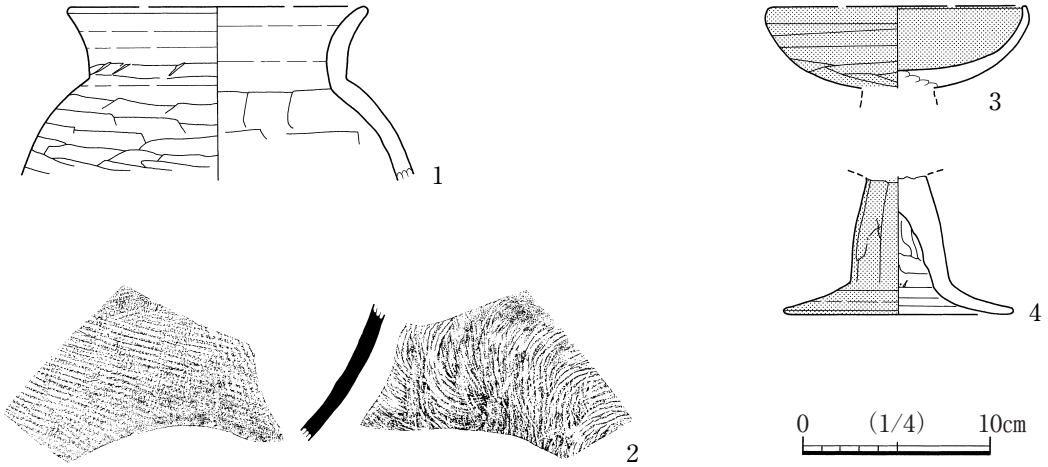
位置　西調査区北側。H７。　複合切り合い関係　プラン北側で弥生後期の195住を掘り込み、南側で199住と複合し、また、南東床面は中世の５号大型の竪穴状遺構に掘り込まれている。　平面形　方形。　主軸方位　N－109°－W。　床面規模　4.25m（主軸）×4.20m（副軸）。　推定床面積　17.92㎡。　残存壁高　0.29m前後。　カマド　西辺中央から左側（南）に寄って敷設される。　床

面　北側半分の良好な残存範囲では平滑で堅く踏みならされているが、南半分は遺存状態が不良である。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　床面直上には広範囲に焼土が確認でき火災住居である。　**主柱穴**　P１～P４の４柱構造で柱間ほぼ等間隔である。

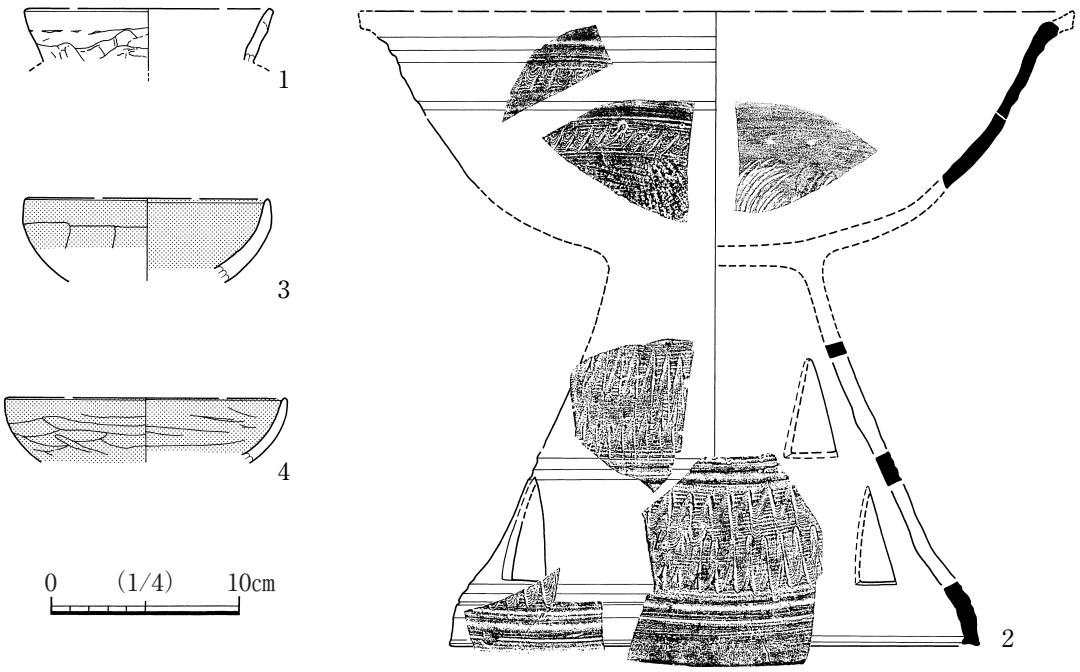
出土遺物　１は強く内湾する赤彩椀形杯。２は須恵器コップで永田・不入窯産である。遺物出土位置は、１が覆土、２は床面とあるが、２の遺物が明確に住居跡の所属時期を示すものか断言できない。



第322図　198号住居跡出土遺物



第323図　199号住居跡出土遺物



第324図　200号住居跡出土遺物

199号住居跡（第313・314・323図、図版43・151）

位置　西調査区北側。Ｈ７・Ｉ７。　複合切り合い関係　198住南側床面下に検出し、東と南側は大きく中世の５号大型の竪穴状遺構に掘り込まれている。　平面形　方形？　主軸方位　不明。　床面規模　不明。　床面積　不明。　残存壁高　0.28m前後。　カマド　中世の大型竪穴状遺構に削平された可能性とカマドを伴わない炉跡の可能性がある。　床面　遺存良好な範囲は平滑で堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　床面直上には焼土がまばらに確認され火災住居跡の可能性が強い。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造と思われるが１穴は大型竪穴状遺構に削平される。

出土遺物　１は胴外面横位箆ナデを施す甕。２は須恵器甕片で外面平行叩き目、内面凹凸のある同心円文。３・４は赤彩椀形高杯で４の脚は袋状の柱状を呈し端部が「く」の字に強く折れ、和泉期の特徴を残すものである。遺物出土位置は、１が番号不明ピット内、２は床面直上、３は出土位置不明、４はほぼ床面からの出土である。出土位置が不明なものを含め住居跡に共伴する遺物とみなすことができよう。

200号住居跡（第324・325・326図、図版43・151）

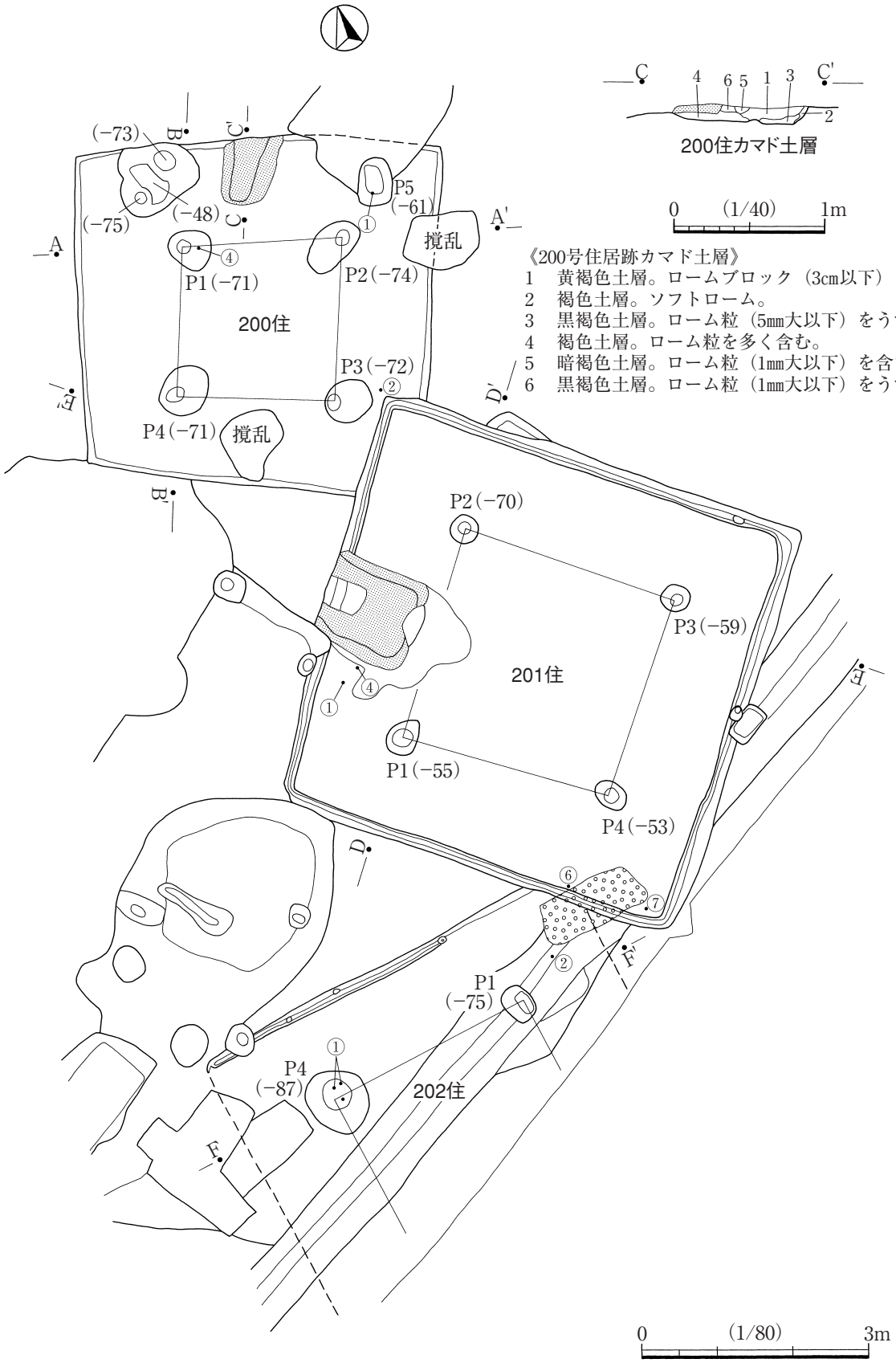
位置　西調査区北東側。Ｈ８・Ｈ９。　複合切り合い関係　プラン北東辺を攪乱され、南東隅を201住に掘り込まれ検出する。　平面形　南辺が対応する辺と比べやや短く不整方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－17°－Ｅ。　床面規模　4.38m（主軸）×4.50m（副軸）。　床面積　19.61㎡。　残存壁高　0.08～0.17m。　カマド　北辺に設けられるが一方の袖部の白色粘土の痕跡を残すだけである。　床面　ソフトローム層上に形成されているが、平滑で堅く踏みならされている。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。

出土遺物　１は口縁外面に輪積みを残す雑な整形の甕。３・４は赤彩椀形杯。２は須恵器高杯形器台で部分的な小片から復元したものである。杯部外面に浅い帯状の沈線で仕切られた間に櫛状工具で波状文と下端刻み目の叩き目、内面底部同心円文。脚は２段の三角形透かしを配し櫛状工具で波状文をそれぞれ２段配し、脚端は内湾気味でややシャープさを欠く仕上げで、TK23型式期と判断できよう。遺物出土位置は、１がＰ５内、２がほぼ床面、４が主柱穴のＰ１内、３が覆土からの出土である。１以外の遺物が住居跡に共伴する遺物とみなすことができよう。

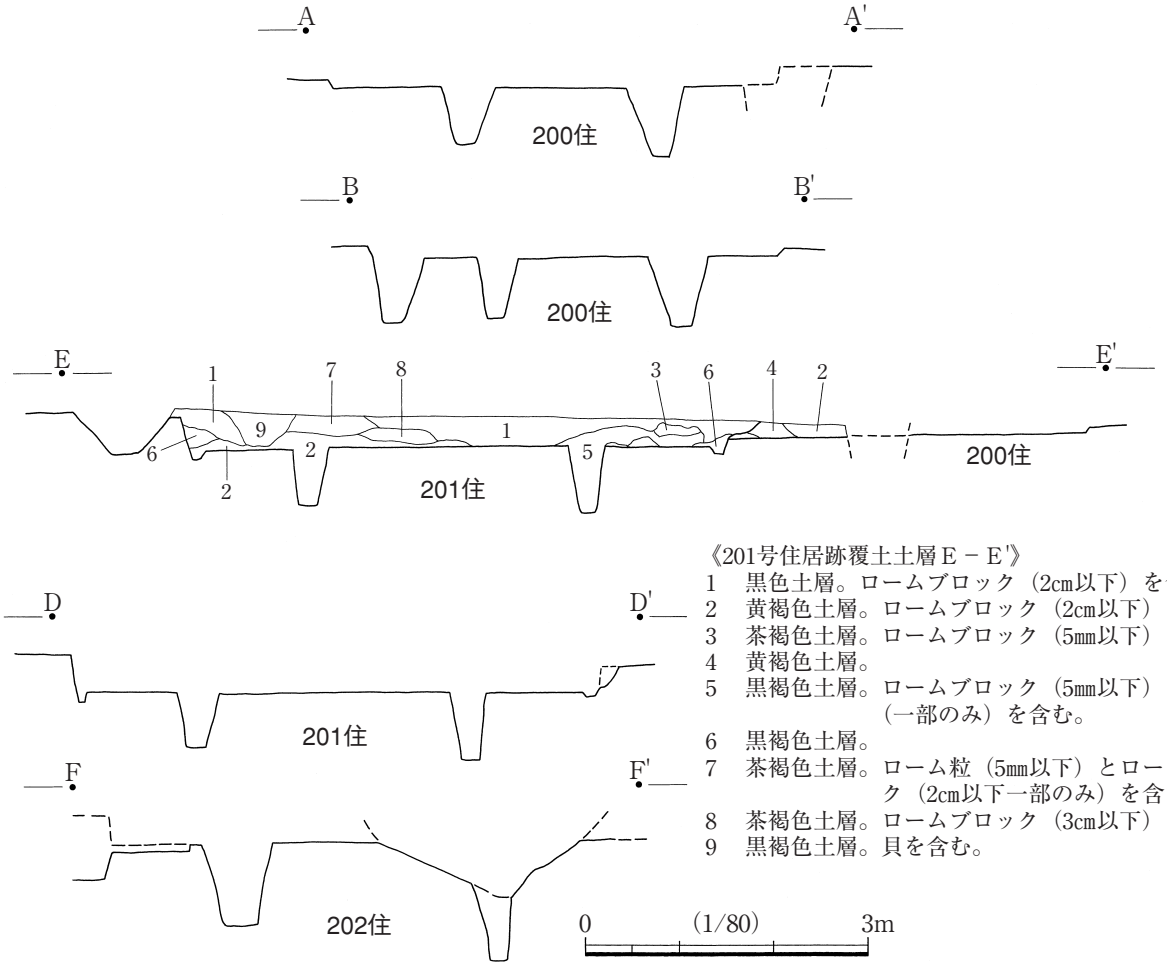
201号住居跡（第325～328図、図版44・152）

位置　西調査区北東側。Ｉ８。　複合切り合い関係　200住の南東隅を掘り込み検出し、東南部辺上層を中世の９号溝に掘り込まれている。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－54°－Ｗ。　床面規模　5.55m（主軸）×5.44m（副軸）。　床面積　30.11㎡。　残存壁高　0.09～0.38m。　カマド　北西辺中央に設けられる。　床面　平滑で比較的堅く踏みしめられている。　壁溝　幅10㎝・深さ８～10㎝を測り四周する。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間ほぼ等間隔である。

出土遺物　１は近球胴甕で整形不明。２は有段口縁杯で口縁内外面ヨコナデ、底体部外面箆ケズリで内面底部に弱いミガキを施す。３は口縁が外傾して開く丸底の杯で内面黒色処理を施す。５は内湾鉢である。６はハンマー形の敲打痕を残す石器。７は研磨痕と剥離加工痕を認める。８は摩耗痕のある軽石である。遺物出土位置は、１がカマド右袖床、２・３・５がカマド燃焼部、６・７が床面直上、



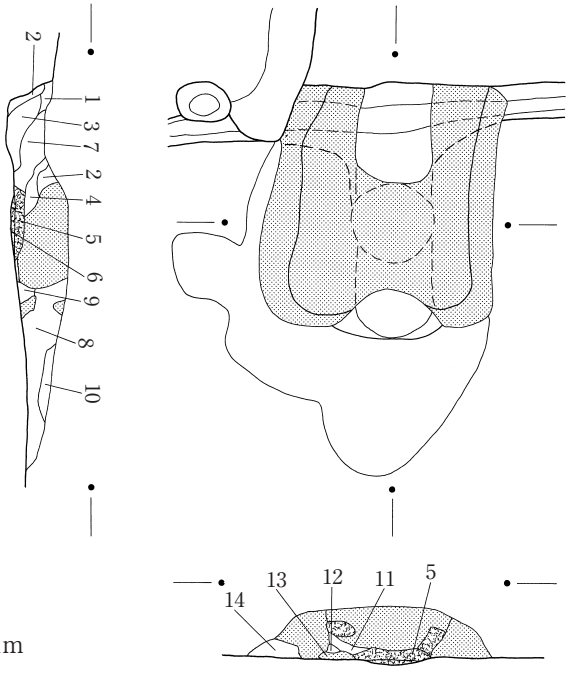
第325図　200号・201号・202号住居跡



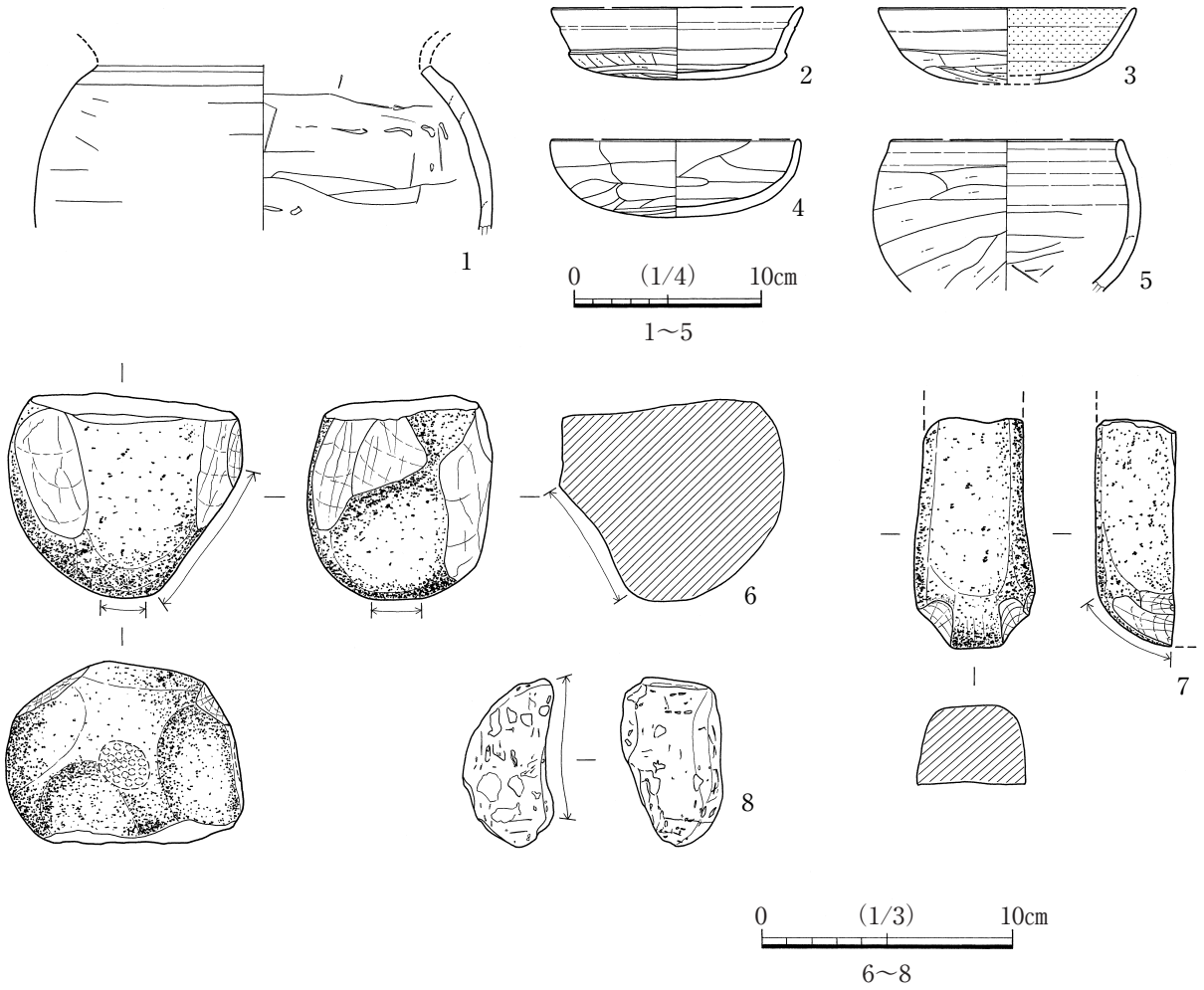
《201号住居跡覆土土層Ｅ－Ｅ'》
1　黒色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
2　黄褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
3　茶褐色土層。ロームブロック（5㎜以下）を含む。
4　黄褐色土層。
5　黒褐色土層。ロームブロック（5㎜以下）と粘土（一部のみ）を含む。
6　黒褐色土層。
7　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）とロームブロック（2㎝以下一部のみ）を含む。
8　茶褐色土層。ロームブロック（3㎝以下）を含む。
9　黒褐色土層。貝を含む。

第326図　200号・201号・202号住居跡断面図

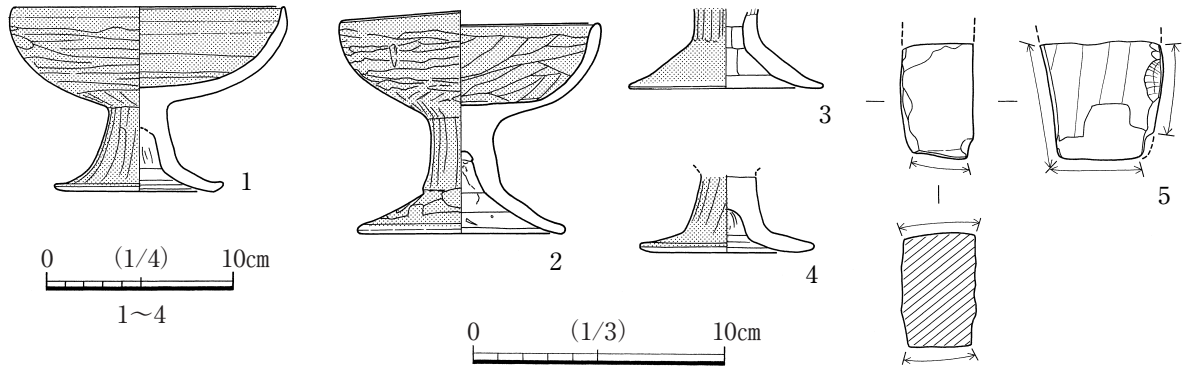
《201号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土（少量）を含む。
2　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
3　にぶい黄褐色土層。粘土（多量）とロームブロック（3㎝以下少量）を含む。
4　暗褐色土層。粘土を含む。
5　にぶい赤褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
6　黒色土層。焼土と灰を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）粘土（少量）及び貝を含む。
8　暗褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を含む。
9　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土（少量）を含む。
10　にぶい黄褐色土層。粘土とローム粒を含む。
11　褐色土層。焼土とローム粒（少量）を含む。
12　灰褐色土層。焼土と灰を含む。
13　にぶい黄褐色土層。粘土と焼土及びローム粒を少量含む。
14　暗褐色土層。焼土粒（2㎜大）を少量含む。



第327図　201号住居跡カマド



第328図　201号住居跡出土遺物



第329図　202号住居跡出土遺物

8が覆土からの出土である。2～4の土師器杯が住居跡の所属時期を示す好資料となろう。

202号住居跡（第325・326・329図、図版44・152）

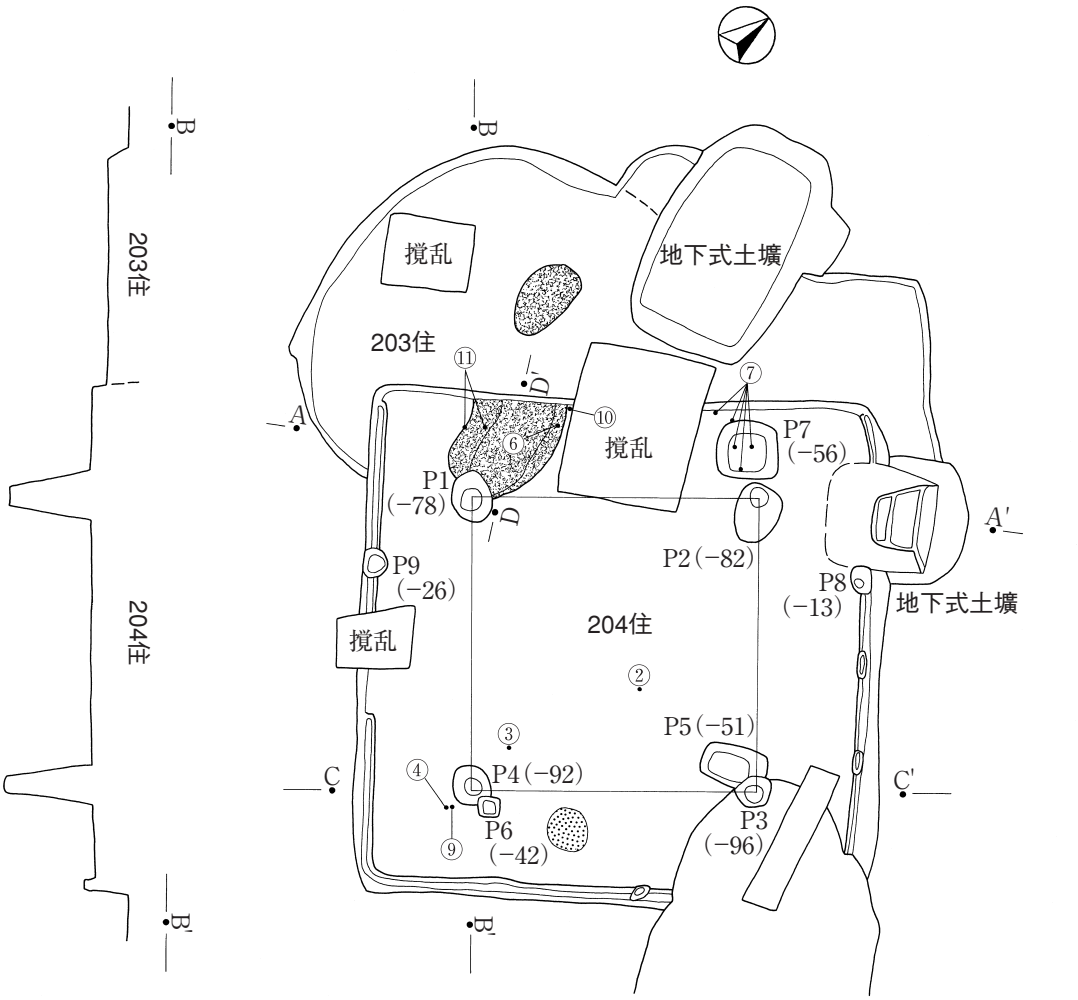
位置　西調査区北東側。I8。　**複合切り合い関係**　プラン南側は中世の9号溝に掘り込まれ、更に南側を調査区域外に置き北辺部だけの検出である。　**平面形**　方形？　**主軸方位**　N－74°－E？　**床面規模**　5.40m（一辺）　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.30m前後。　**カマド**　東辺に敷設されたものと思われる。　**床面**　比較的平滑で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　幅10cm・深さ8～10cmを

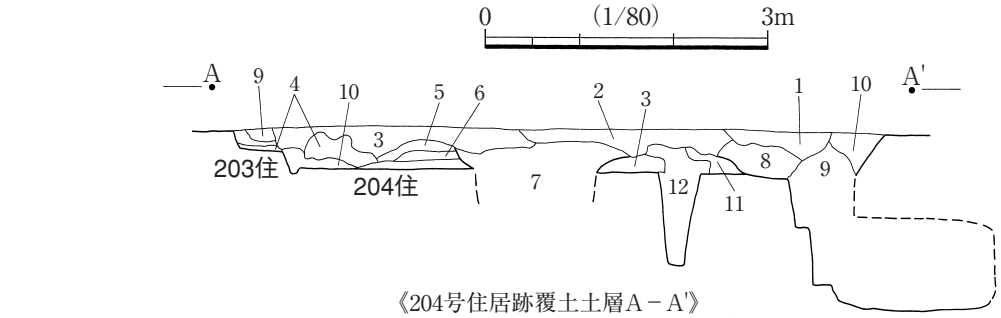
測り北辺の一部に設けられる。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であると思われるが２柱穴は調査区域外である。
出土遺物　１～４は赤彩の椀形高杯である。１はやや長脚の裾が外反する脚を有する。２・３の脚は柱状で裾部境に段を有する。４は短脚で裾が「く」の字に弱く折れる。５は研磨痕を残す砥石片である。遺物出土位置は、１が主柱穴Ｐ４内、２・４が後世の溝に落ち込んで、３・５が覆土からの出土であるが、全ての遺物が住居跡の所属時期を示す資料となろう。

203号住居跡（弥生後期）（第330図、図版44）
位置　西調査区北側中央。Ｈ６。　**複合切り合い関係**　プラン東南半分を古墳時代終末期の204住に、東北側を中世の６号地下式土壙にそれぞれ掘り込まれる。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－11°－Ｗ？　**床面規模**　4.00m（主軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.13～0.23m。　**炉跡**　床面中央から北側に寄って設けられ、規模は0.84m×0.50mを測る。　**床面**　約６cmの厚さの張床である。上下二層にあり、上層の床面では、炉は検出されない。比較的堅く踏みならされている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　時期を示す遺物が検出されないが弥生後期に比定できよう。

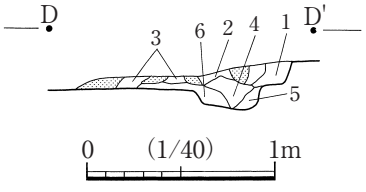
204号住居跡（第330・331図、図版44・152）
位置　西調査区北側中央。Ｈ６・Ｉ６。　**複合切り合い関係**　プラン北西辺で203住を大きく掘り込み検出され、北東辺北端に中世の７号地下式土壙が、東隅に中世の５号大型の竪穴状遺構にそれぞれ掘り込まれている。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－51°－Ｗ。　**床面規模**　5.27m（主軸）×5.30m（副軸）。　**床面積**　27.82㎡。　**残存壁高**　0.31～0.36m。　**カマド**　北西辺に設けられたと思われるが、北西辺中央を土壙状遺構に攪乱され袖の一部白色粘土と焼土を含む土層を残すにとどまる。　**床面**　全体的に若干凹凸が目立つ。　**壁溝**　幅８～10cm・深さ５～10cmの規模で部分的に回る。　**覆土**　床面直上土層に焼土を含む層位が確認でき、また床面僅かではあるが焼土の堆積がみられることから火災住居跡と判断される。覆土上層は中世の攪乱層で構成される。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間はほぼ等間隔である。Ｐ７はカマド右側に敷設された方形の貯蔵穴である。
出土遺物　１～６は土師器甕。１・３は口縁大きく外反、３は胴外面篦ケズリを施す。２・４は小さく外反し、４胴外面縦位篦ケズリを施す。７は胴外面縦位篦ケズリで内面篦ナデを施す甑。８は内外赤彩を施す口縁が「く」の字状に立つ杯。９は丸底の椀形土器。10は肉厚の底部柱状の雑な整形の小形鉢か。11は敲打痕と周縁に擦り面を残す。12は中央に石皿に付される窪みを有す。13は変形の砥石で３面に研磨痕が確認できる。14は頭部平面と断面角状の釘である。遺物出土位置は、２・３・６が床面直上、９・11がほぼ床面、７がＰ７の貯蔵穴内、１・４・５・８・10・12・13が覆土、14は不明である。土器では10以外が住居跡の所属時期を示す資料となろう。

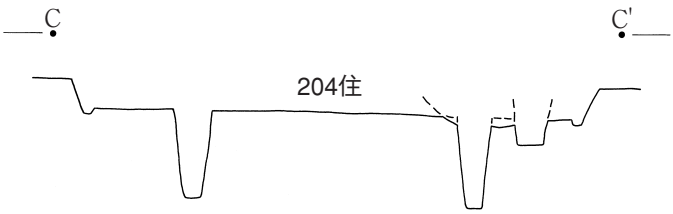
205号住居跡（第332・333図、図版44・153・154）
位置　西調査区中央東端。Ｋ７・Ｋ８。　**複合切り合い関係**　プラン東辺を大きく調査区域外に置き検出し、北西隅に206住が接する。　**平面形**　正方形。　**主軸方位**　Ｎ－23°－Ｗ。　**床面規模**





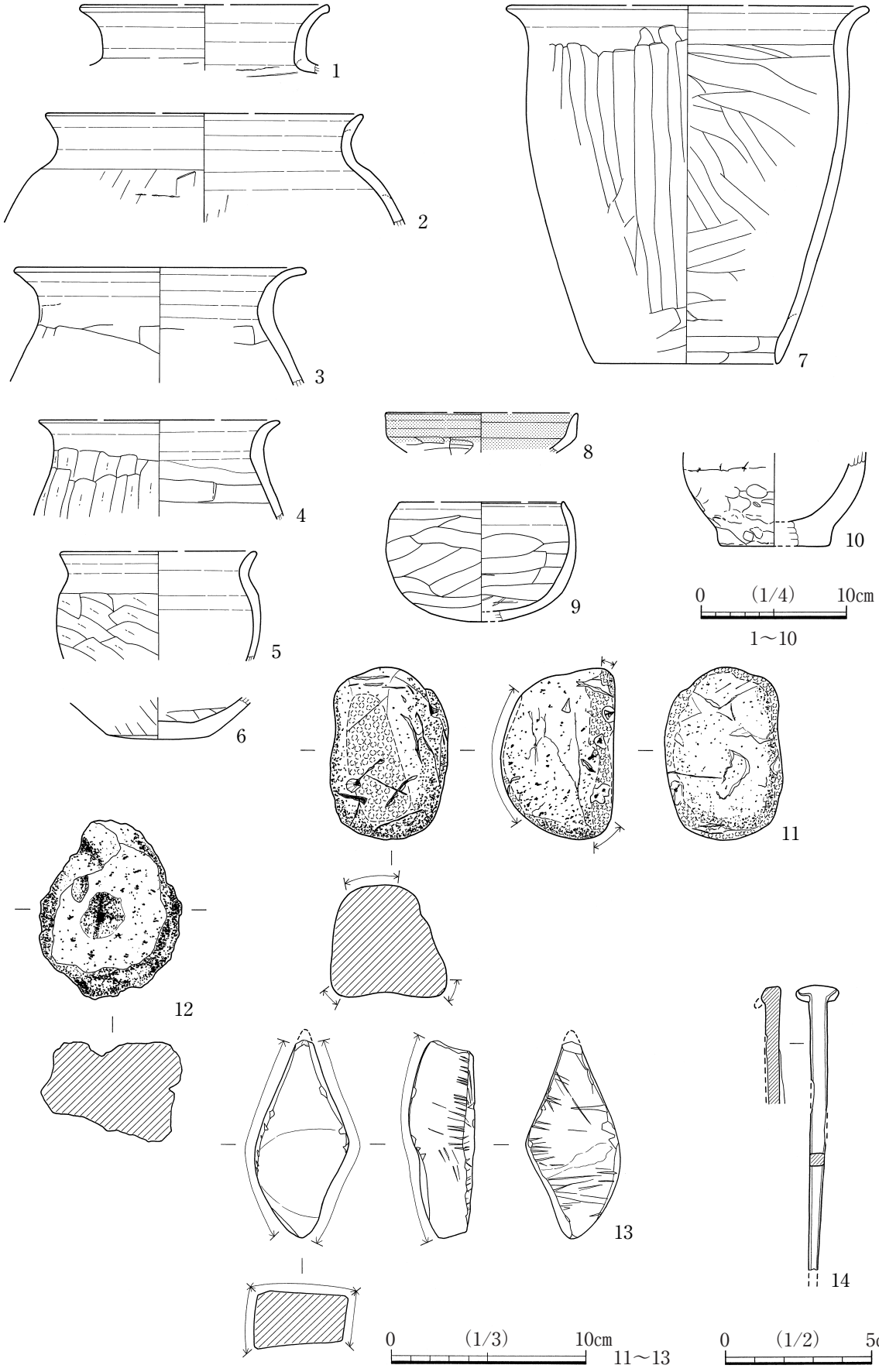
《204号住居跡覆土土層A－A'》
1 暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
2 黒色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
3 暗褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
4 茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
5 黒褐色土層。焼土粒を含む。
6 黒褐色土層。焼土粒と粘土を含む。
7 撹乱層。
8 暗褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
9 黒褐色土層。
10 黒褐色土層。ローム粒を含む。
11 茶褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
12 黒色土層。



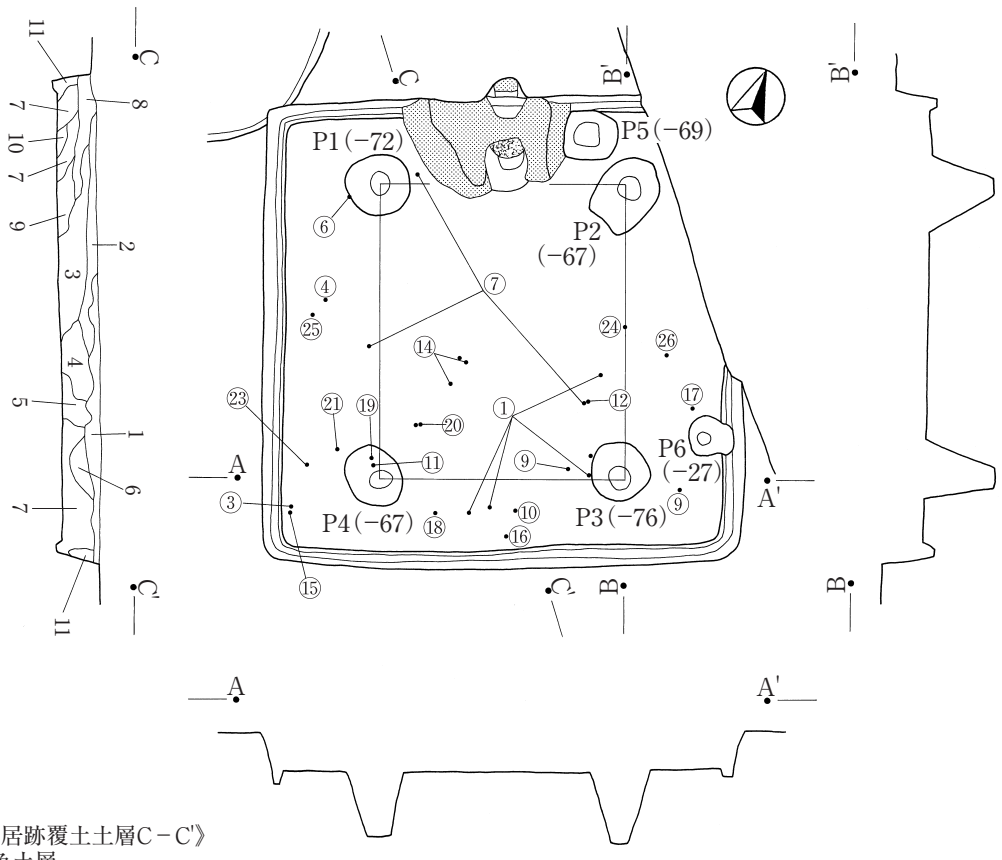


《204号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
2 暗褐色土層。粘土とローム粒（1㎜以下）を少量含む。
3 褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を含む。
4 黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。焼土粒（1㎜大以下）を微量に含む。
5 褐色土層。ローム粒（2㎜大以下）と焼土粒（1㎜大以下）を微量に含む。
6 暗褐色土層。ロームブロックを多く含む。

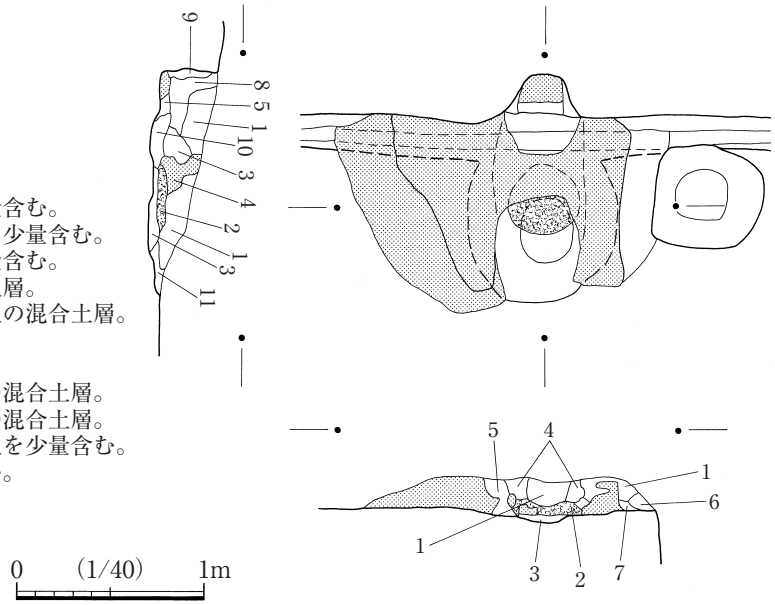
第330図　203号・204号住居跡



第331図　204号住居跡出土遺物

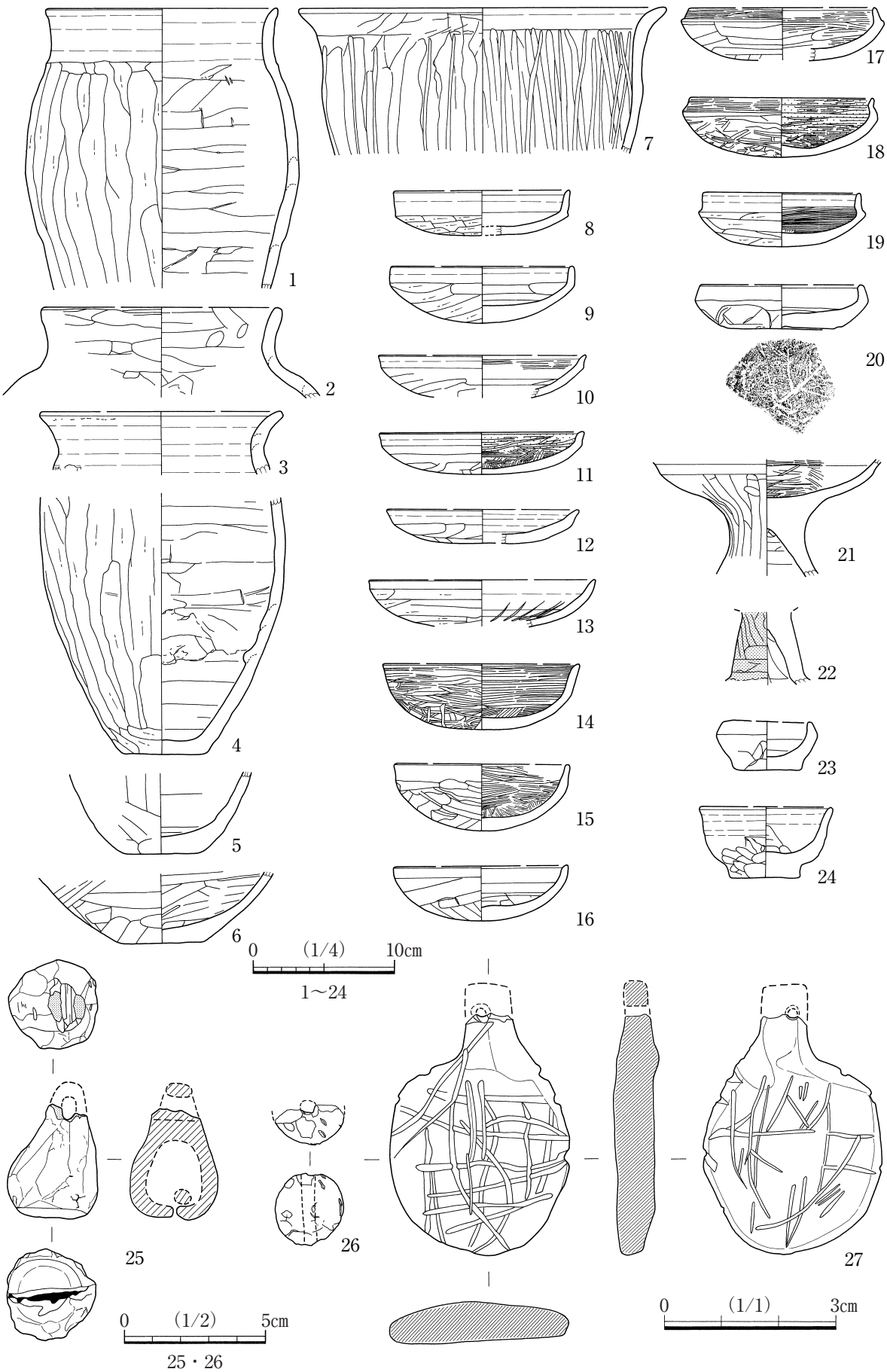


《205号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層に小さな焼土ブロック少し混入。
3　黒褐色土層にところどころソフトロームが入っている。
4　黄褐色土層に5㎜くらいのブロック混入。
5　ソフトロームに1㎜くらいのブロック混入。
6　黄褐色土層に1㎜くらいのブロック混入。
7　黒褐色土層に小さなブロックと小さな焼土ブロック混入。
8　黒褐色土層に小さなブロック混入。
9　黒褐色土層に5㎜くらいのブロック大量に混入。
10　灰褐色土に小さな焼土ブロック少し混入。
11　褐色土層。



《205号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。粘土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土と灰を少量含む。
3　暗褐色土層。焼土を少量含む。
4　粘土と暗褐色土の混合土層。
5　粘土と暗褐色土及び焼土の混合土層。
6　粘土と焼土の混合土層。
7　ロームブロック。
8　暗褐色土と焼土及び灰の混合土層。
9　粘土と焼土及び褐色土の混合土層。
10　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
11　暗褐色土層。焼土を含む。

第332図　205号住居跡とカマド



第333図　205号住居跡出土遺物

4.82m（主軸）×4.80m（副軸）。　**床面積**　23.02㎡。　**残存壁高**　0.37～0.46m。　**カマド**　北辺に設けられる。　**床面**　ハードローム層上に形成されているが、あまり踏みならされた形跡がなく、堅緻ではない。　**壁溝**　幅11cm・深さ８～12cmを計測し四周する。　**覆土**　土層にロームブロックを含み不規則な堆積をすることから埋め戻された可能性が強い。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間が主軸方向3.12m・副軸方向に2.60mと長方形の配置を示し、平面形が正方形を呈するのとは対象的である。Ｐ５はカマド右側に敷設された貯蔵穴である。

出土遺物　１は口縁が直立気味で僅かに外傾し、胴外面縦位箆ケズリの甕。２は１と同様な口縁球胴気味である。４・５は１と同様な甕底部。６は球胴甕の底部で箆外面ナデを施す。７は内外面に線状のミガキを施し甑である。８・９は口縁が直立する丸底杯。10・11・12は口縁が短く僅かに外傾する皿状の杯。13は扁平皿状杯で内面放射の暗文を施す。14・15は内外面に光沢有るミガキを施す椀形杯。16は椀形杯。17～19は杯身模倣杯で内面にミガキを施し、18は内面黒色処理を施す。20は木の葉の平底で口縁が強い「く」の字を呈する。21は杯内面ミガキを施す高杯。22は赤彩の脚柱袋状の高杯脚片。23・24は手捏ね土器。25は取っ手を欠損し、現存高4.0cmを計る土鈴で中は空中で小石ないし小玉が仕込まれ、振ると音色が聞こえる。26は土玉。27は取っ手を欠損し現存長4.2cm・幅3.1cmを計るペンダント形土製品で両面に弱い線刻が焼成前に刻まれる。遺物出土位置は、23・24が床面直上、２・22がカマド燃焼部、１・４・７・９・10・12・13・14・16・17・21・26がほぼ床面、11・19がＰ４の主柱穴内、３・５・６・15・18・20・25・27が覆土からの出土であるが覆土出土の遺物も住居跡と共伴するものであろう。本住居跡からは出土状況が不明であるが、25の土鈴や27の土製ペンダントと云った特異な遺物が検出され、当該期の住居跡祭祀遺物として注目できよう。

206号住居跡（弥生中期）（第334図、図版44・154）

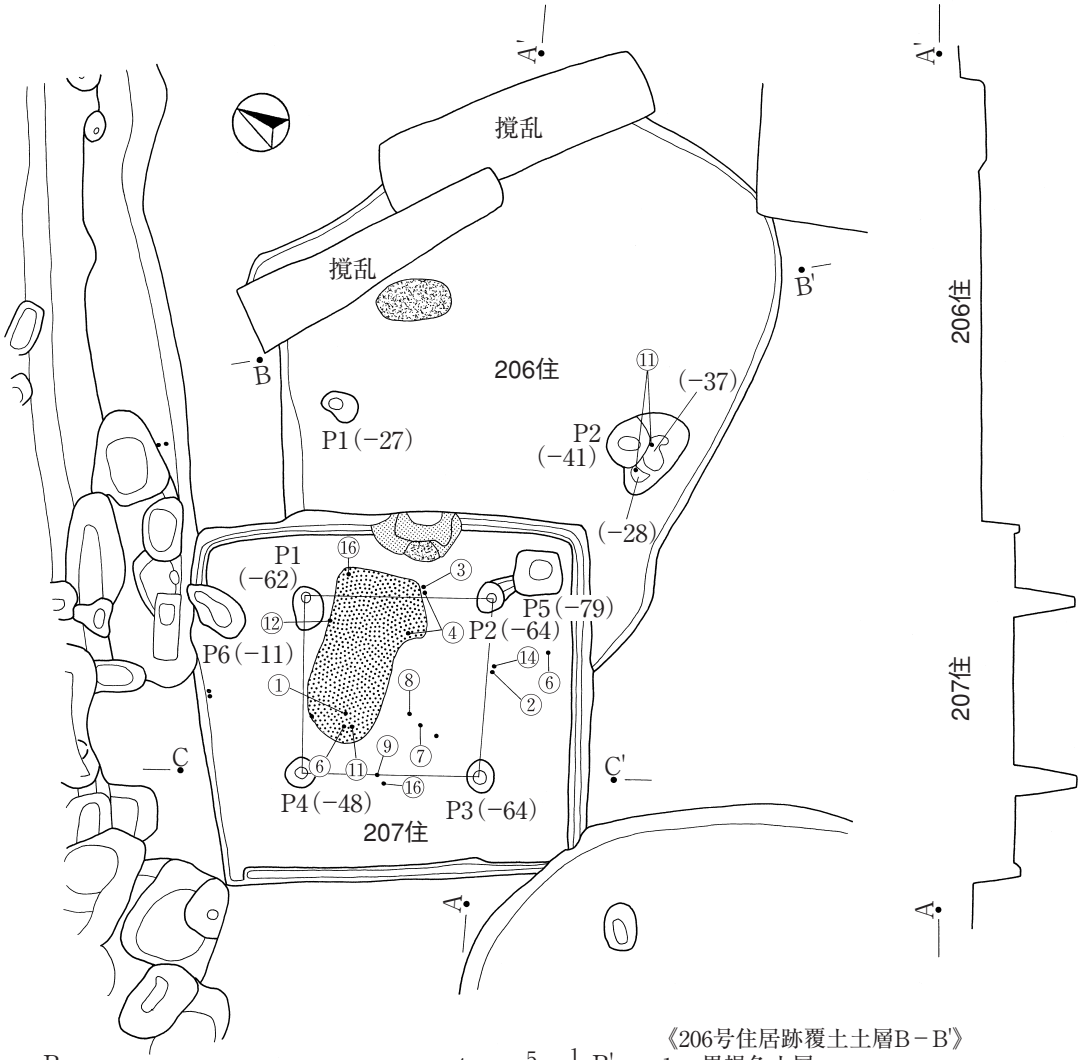
位置　西調査区中央東側。Ｊ６・Ｊ７・Ｋ６。　**複合切り合い関係**　205住の西北に接して検出し、プラン東側を溝状の攪乱層に掘り込まれる。　**平面形**　不整円形。　**主軸方位**　Ｎ－92°－Ｗ。　**床面規模**　5.45m（主軸）×4.25m（副軸）。　**推定面積**　20.34㎡。　**残存壁高**　0.10～0.21m。

炉跡　床面中央から北側に寄って設けられ、規模は0.80m×0.46mを測る。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、平滑である。炉を中心に踏み跡が認められ、やや堅緻である。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　僅かにロームブロックを含む土層も確認されるが、覆土の主体は黒色土系の土層で概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　プラン東側にＰ１・Ｐ２を検出するが、炉跡を挟んで対応する位置にピットが検出されず詳細は不明である。

出土遺物　１～９は深鉢形土器である。１は口縁口縁押捺で波状、２～６は外面刷毛目、７～９は刷毛目に羽状条痕文を施す。10・11は深鉢底部で底部木の葉が施される。遺物出土位置は、11がＰ２内から出土する以外は覆土からの検出であるが、全て住居跡の帰属時期を示す資料となる。

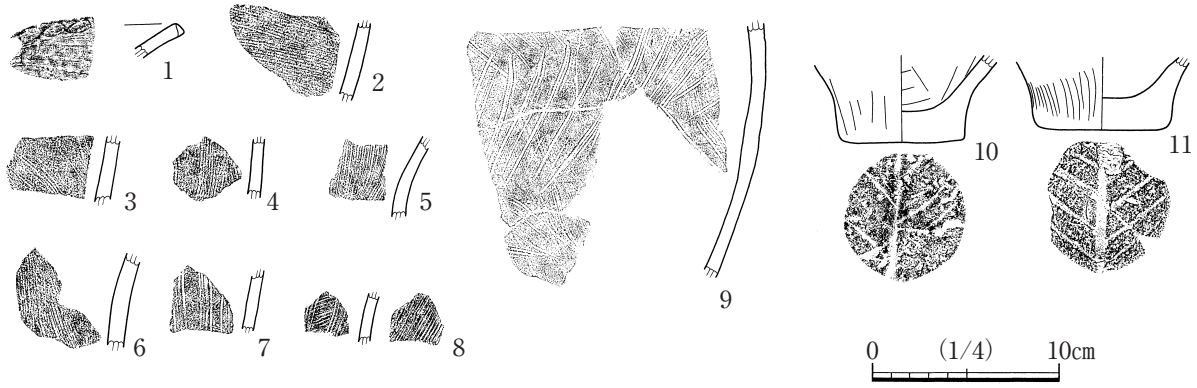
207号住居跡（第334・335図、図版44・154・155）

位置　西調査区中央。Ｋ６・Ｋ７。　**複合切り合い関係**　プラン東側で206住を掘り込み、北辺を中世の９号溝に掘り込まれて検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－56°－Ｅ。　**床面規模**　3.78m（主軸）×4.00m（副軸）。　**床面積**　14.82㎡。　**残存壁高**　0.38～0.47m。　**カマド**　東辺中央

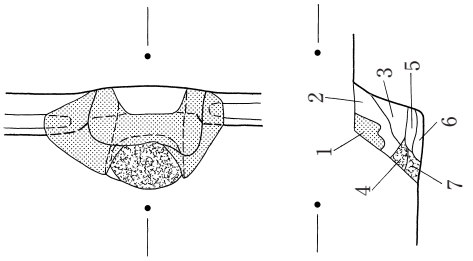


《206号住居跡覆土土層B－B'》

1 黒褐色土層。
2 黒色土層。ローム粒を少量含む。
3 黒褐色土層。黄褐色土ブロックを一部に含む。
4 黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
5 茶褐色土層。黄褐色土ブロックを一部に含む。
6 黒褐色土層。黄褐色土ブロックを染み状に一部含む。
7 黄褐色土層。

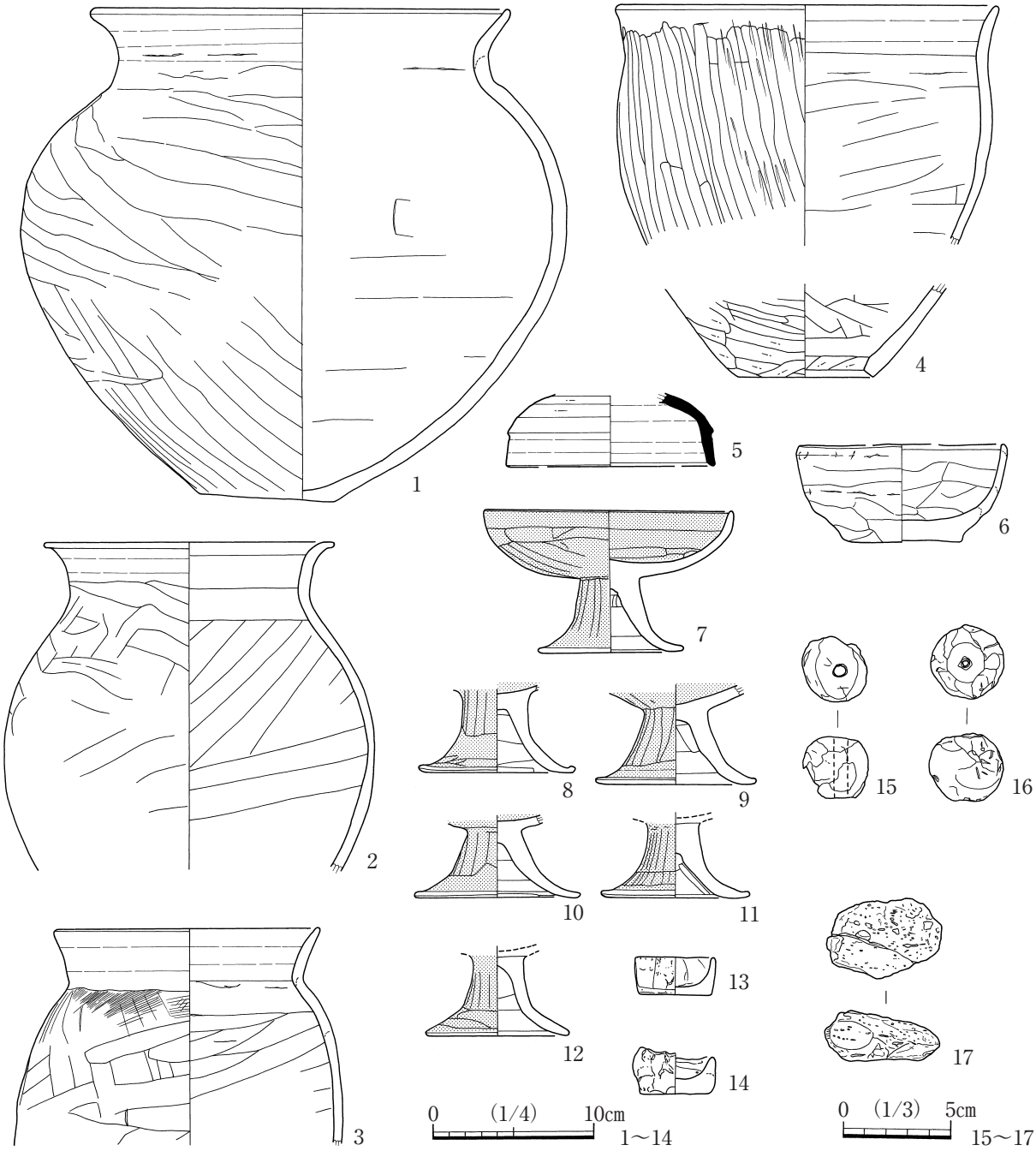


第334図　206号住居跡と出土遺物



《207号住居跡カマド土層》
1　粘土層。暗褐色土を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土を含む。
3　暗褐色土層。焼土とロームブロックを少量含む。
4　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
5　暗褐色土層。粘土を少量含む。
6　暗褐色土層。ロームブロックを含む。
7　暗褐色土層。焼土を含む。

0　(1/40)　1m



第335図　207号住居跡カマドと出土遺物

からやや右（南）に寄って敷設される。　**床面**　ハードローム層上で形成されるが、張床で中央部は堅く踏みならされている。周辺部はやや軟弱である。　**壁溝**　幅10cm・深さ３～５cmの規模で四周する。　**覆土**　中央に白色粘土と焼土の混合土層が検出される。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、Ｐ５は南東隅に設けられた方形を呈する貯蔵穴である。

出土遺物　１は球胴甕で口唇を僅かに上方に摘み上げ、胴外面斜位のケズリ状篦ナデを施す。２は近球胴甕口縁が長く外反し、外面篦ナデを施す。３は口縁が外傾し、口縁直下に刷毛目を残し外面斜位篦ナデを施す。４は甑で外面丁寧な篦ケズリ、内面ケズリ残す篦ナデを施す。５は須恵器蓋で稜はやや鈍い、TK23～TK47形式に比定できよう。６～11は赤彩の椀形高杯で、６の杯部はやや浅く内湾して立つ。脚には段が無く外反して開く。12は大ぶりの手捏ね土器。13・14はミニチュアで、14は手捏ねである。15・16は径3.4cmの土玉。17は軽石である。遺物出土位置は、15がほぼ床面から出土する以外覆土からの出土で住居跡廃絶後に廃棄された状況を呈する。これらの廃棄遺物は土玉・ミニチュア土器・手捏ね土器などが検出され祭祀関連遺物と理解できよう。従って本住居跡の帰属時期もこれらの遺物を含め先行する時期に当たる。

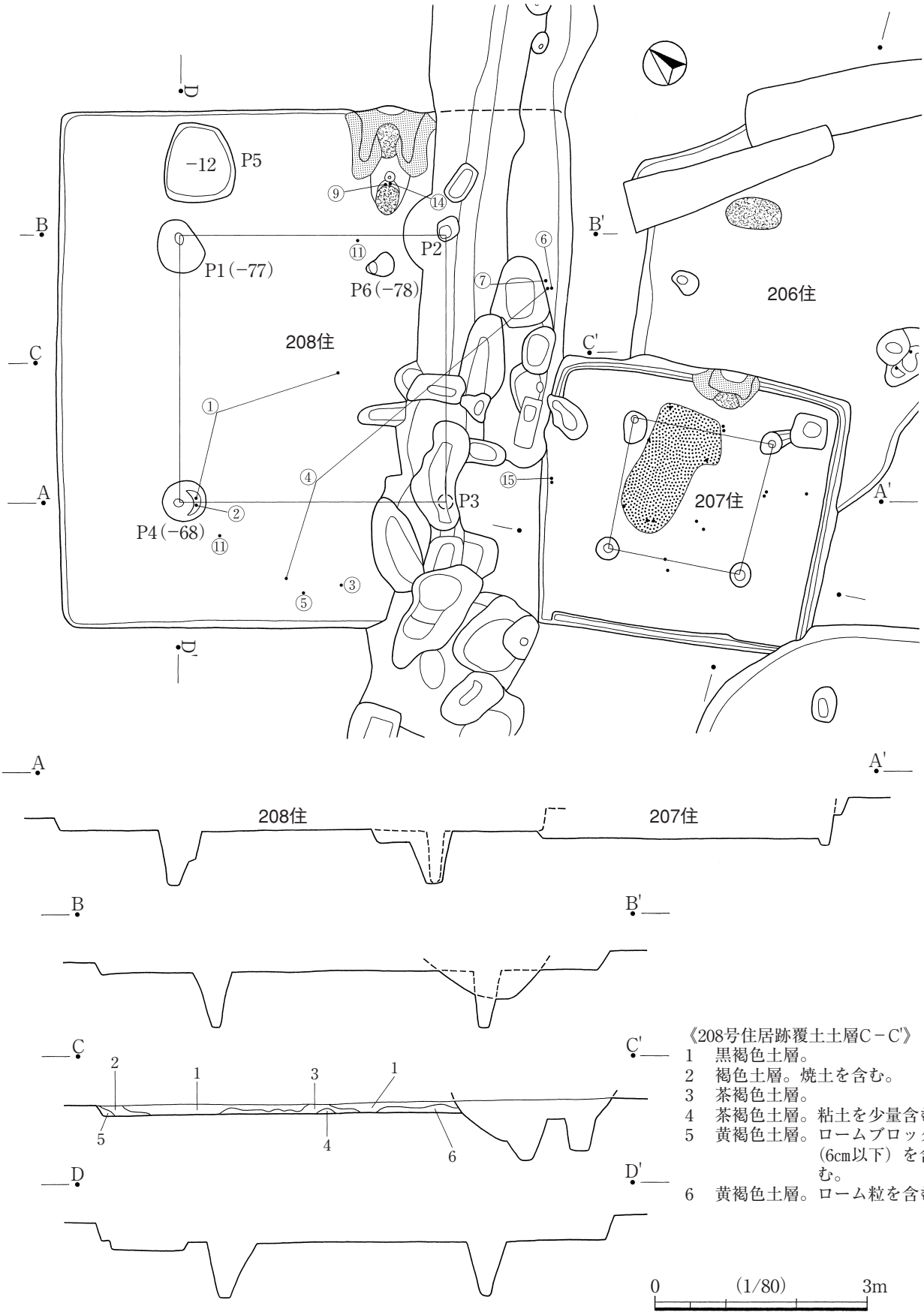
208号住居跡（第336・337図、図版45・155）

位置　西調査区中央。Ｊ６。　**複合切り合い関係**　プラン南東辺を中世の９号溝に大きく掘り込まれ検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－51°－Ｅ。　**床面規模**　7.10ｍ（主軸）×7.10ｍ（副軸）。　**推定床面積**　50.35㎡。　**残存壁高**　0.16～0.20ｍ。　**カマド**　北東辺中央から右（南）に寄って敷設される。炉床がカマド内と両袖部よりはみ出した床面側との２カ所に検出される。　**床面**　ソフトローム層中に構築されるが平滑で堅緻である。　**壁溝**　図示されないが幅８～10cm・深さ５～10cmで東・南側に回り、他は検出されない。　**覆土**　床面直上に焼土を含む土層が検出され火災住居跡の可能性がある。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間はほぼ等間隔の平面形同様の正方形を呈する。

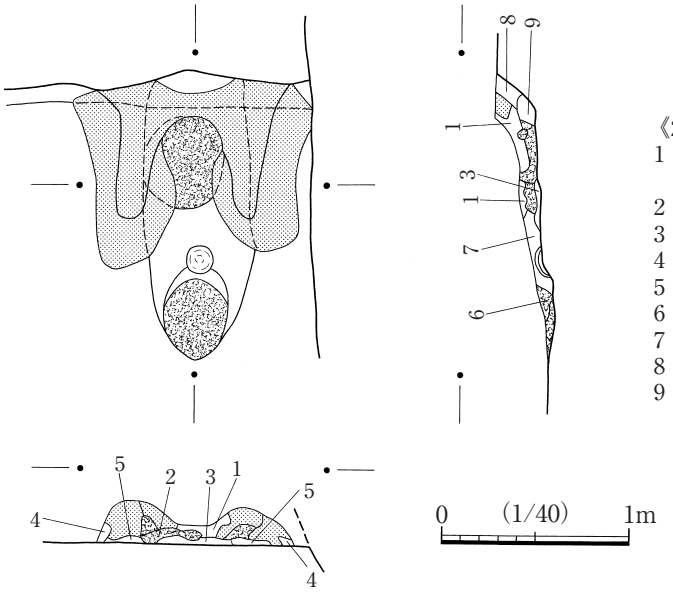
出土遺物　１は口縁「く」の字に開き外面篦ナデを施す球胴甕。２は口縁に輪積みを残し外面雑な篦ナデを施す甕。３は篦ナデの甕底部。４は短形壺で外面胴上半の型部が丁寧な篦ナデ、胴中位から下端は篦ケズリ、内面ケズリ取るような刷毛目を施す。５・６は赤彩の椀形杯。７は内面に丁寧なミガキを施す丸底の鉢。８は坩の口縁で内外面赤彩を施す。９～12は赤彩の椀形高杯で、９の口縁はやや内湾、10は開き、11は僅かに内傾気味となる。９・10の脚は、長脚気味で脚柱が柱状気味で裾部が折れる特徴がそれぞれ見られる。遺物出土位置は、１・10・11が床面直上、１・２が主柱穴のＰ４内、４～７がほぼ床面、９・14がカマド燃焼部、３・８・12・13・15が覆土から出土するが、図示した遺物は住居跡の帰属時期を示す資料として差し支えないものであろう。

209号住居跡（弥生後期）（第338・339・341図、図版45・156）

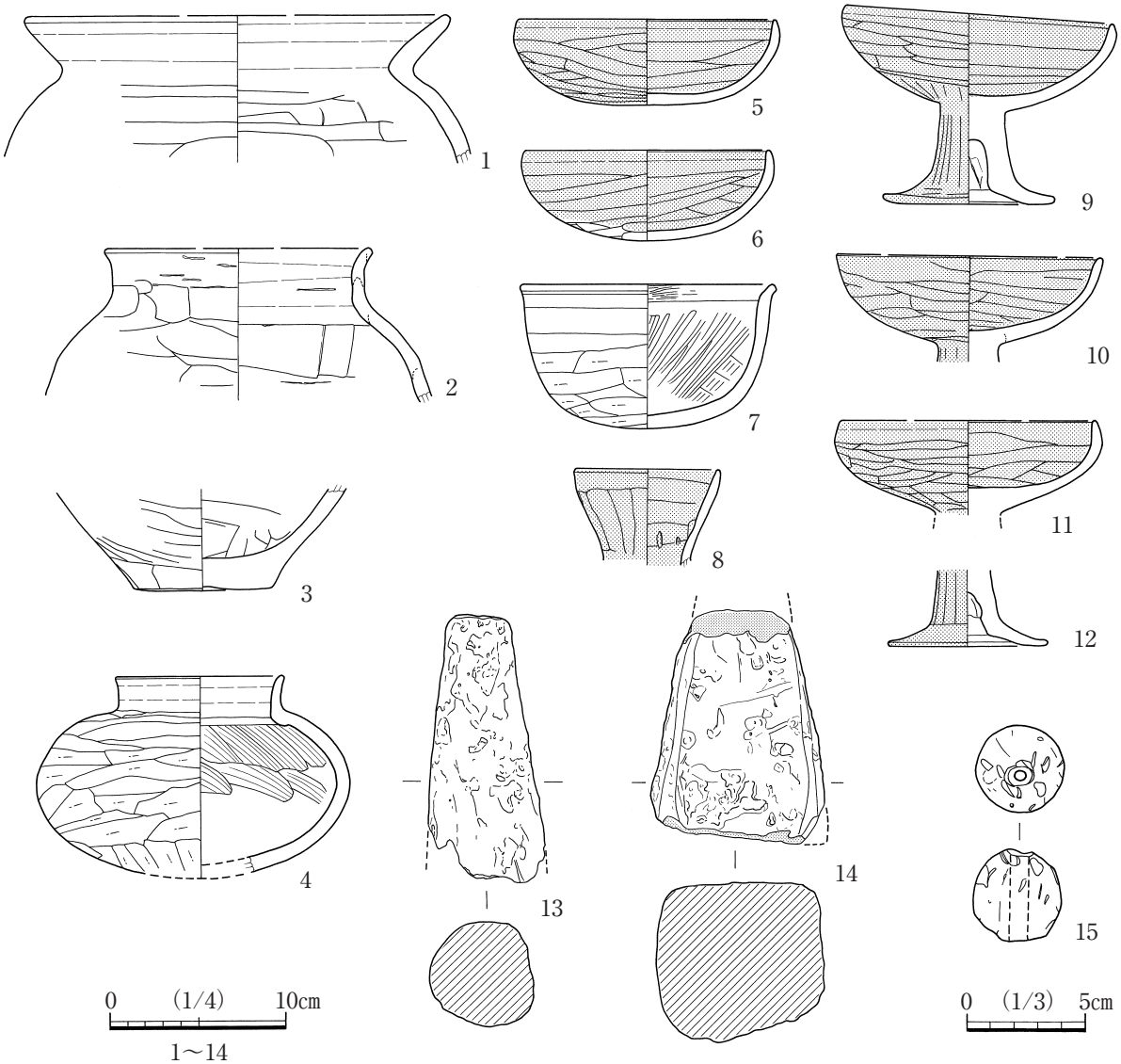
位置　西調査区中央。Ｋ６・Ｋ７・Ｌ６。　**複合切り合い関係**　プラン北西部を古墳時代後期の211住に、北東辺で207住と壁を接して検出する。また、覆土上層を東西に走るピットを伴う柵列状の８号溝に掘り込まれる。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　Ｎ－25°－Ｗ。　**床面規模**　6.40ｍ（主軸）×5.43ｍ（副軸）。　**床面積**　28.95㎡。　**残存壁高**　0.35～0.77ｍ。　**炉跡**　床面中央から北側に寄っ



第336図　208号住居跡



《208号住居跡カマド土層》
1 暗褐色土層。焼土粒（3㎜以下）と粘土（少量）を含む。
2 暗褐色土層。焼土を少量含む。
3 暗褐色土層。焼土を含む。
4 黒褐色土層。粘土を少量含む。
5 暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
6 焼土と暗褐色土の混合土層。
7 暗褐色土層。焼土と粘土（少量）を含む。
8 暗褐色土層。ローム土と粘土を少量含む。
9 暗褐色土層。ローム粒を少量含む。



第337図　208号住居跡カマドと出土遺物

て設けられ、規模は1.00m×0.72mを測る。　**床面**　ハードローム層中に構築され平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　床面直上全体に多量の焼土と炭化材が認められ火災住居跡である。また、焼土上層にはロームブロックを含む土層が確認され、火災住居跡が埋め戻された状況を呈している。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で炉跡と対位置するＰ７は出入り口関連ピットである。

出土遺物　１は口縁押捺で波状の甕、口頸部８段の輪積みを明瞭に認められ、内面縄文の刺突が回る。２は口縁押捺で波状の輪積み痕は認められない。３は口縁内面が複合口縁を有する鉢で、口唇部に縄目を施す。４は刷毛目の深鉢小片。５・６は外面沈線に羽状縄文を回らし、５は甕か。６は鉢。７は内湾する鉢で上端に沈線区画の羽状縄文を回らし、内外面丹彩を施す。８は内湾の複合口縁を呈する鉢形土器で、胴部上半に２段の羽状縄文で下端沈線区画の文様帯を回らし、口縁に２孔一対の孔を有する。９は口縁が大きく開く鉢で、口縁に２段の羽状縄文と口唇に縄目をそれぞれ回らし、内外面に丹彩を施す。10はハンマー型で敲打痕を有する。遺物出土位置は、１が炉内、５がＰ８内、７・８・９・10が床面直上、２・３・６が覆土から出土する。覆土内出土の遺物も本住居跡に共伴する遺物として差し支えないものであろう。

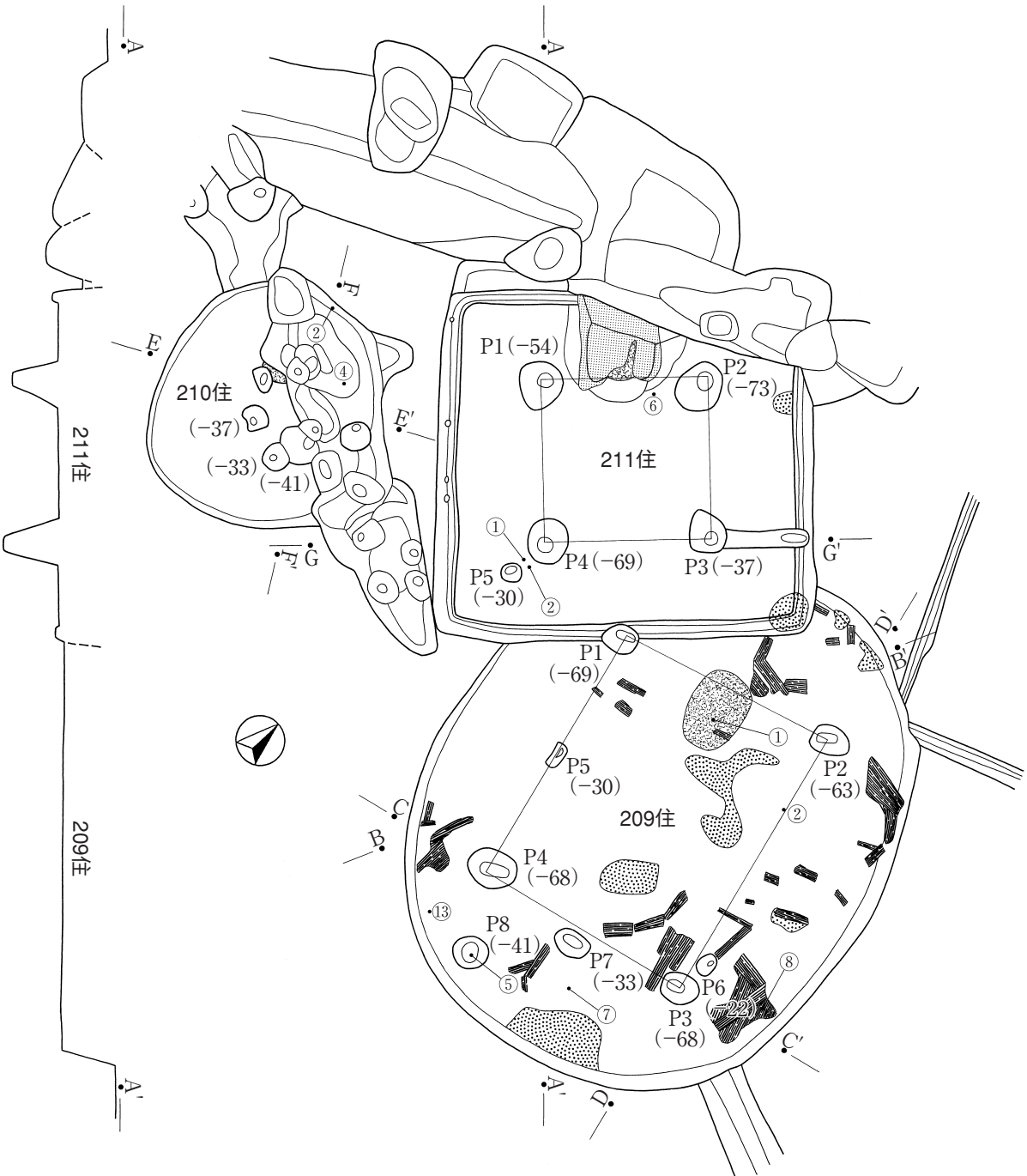
210号住居跡（弥生後期）（第338・339・342図、図版45・156）

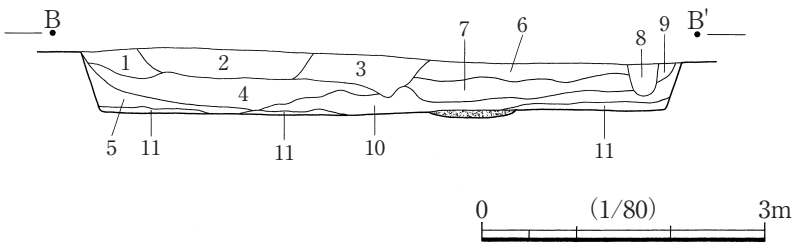
位置　西調査区中央。Ｋ５・Ｋ６。　**複合切り合い関係**　プラン中央を東西に走るピットを伴う柵列状の８号溝に大きく掘り込まれ検出する。　**平面形**　不整円形。　**主軸方位**　Ｎ－26°－Ｗ。　**床面規模**　2.56m（主軸）×2.85m（副軸）。　**推定床面積**　6.02㎡。　**残存壁高**　0.25～0.31m。　**炉跡**　床面中央から北側に寄って設けられ、８号溝やピットに削平され僅かに残存するだけである。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、あまり踏みならされた形跡はない。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造であると思われる。

出土遺物　１は須恵器短頸壺口縁。２は中世の大甕片でスタンプ状の平行叩き目が施される。３は須恵器身で口縁内面および受部稜はシャープな成形でTK23形式であろう。４は平瓦片。５は複合口縁の壺口縁部で複合下端には刻み目、側面に縄目、内外面に丹彩を施す。６は１面に研磨痕を残す鉄器用砥石であろう。遺物出土位置は、全ての遺物が覆土内の出土で住居跡の時期を示す資料では５が適当であろう。他の遺物は、住居跡の中央を掘り込む８号溝や、北側に隣接する中世の９号溝からの混入と見なしてよかろう。

211号住居跡（第338～340・343図、図版45・156）

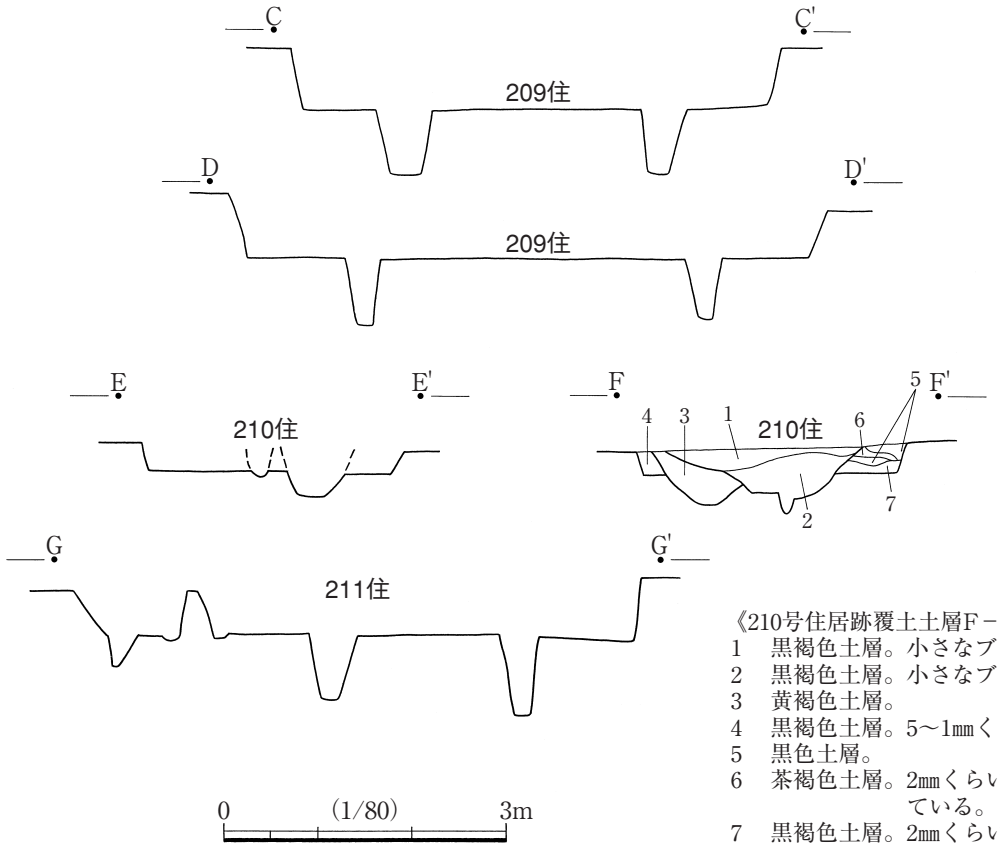
位置　西調査区中央。Ｋ６。　**複合切り合い関係**　プラン南側で弥生時代後期の209住を掘り込み、北西辺で中世の９号溝に掘り込まれて検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－50°－Ｗ。　**床面規模**　4.20m（主軸）×4.38m（副軸）。　**床面積**　18.27㎡。　**残存壁高**　0.44～0.60m。　**カマド**　北西辺中央に敷設されるが煙道部は北西辺東側と共に９号溝により削平される。　**床面**　張床で総体的に平滑であるがあまり踏みならされた形跡はない。　**壁溝**　残存部分は幅15～20cm・深さ５～10cmを測り回る。　**覆土**　北東辺の床面直上に僅かに焼土が確認される。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間はほぼ等間隔の平面形の正方形を呈する。





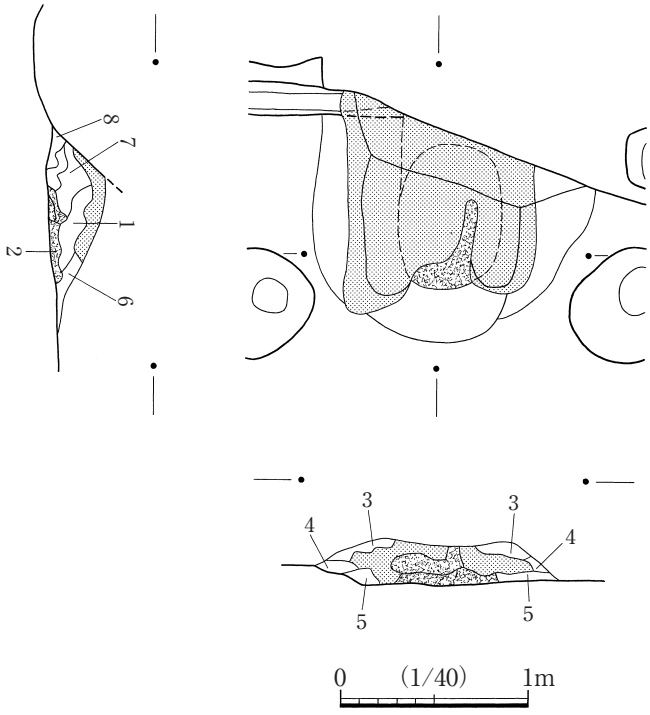
《209号住居跡覆土土層B－B'》
1　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　黒褐色土層。焼土粒（5㎜以下）を少量含む。
3　黒色土層。
4　黒褐色土層。ローム粒と焼土粒を少量含む。
5　黄褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を少量含む。
6　黒褐色土層。
7　黒褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）と焼土粒を含む。
8　黒色土層。貝層を含む。
9　茶褐色土層。
10　茶褐色土層。焼土を含む。
11　茶褐色土層。多量の焼土と木炭を含む。

第338図　209号・210号・211号住居跡



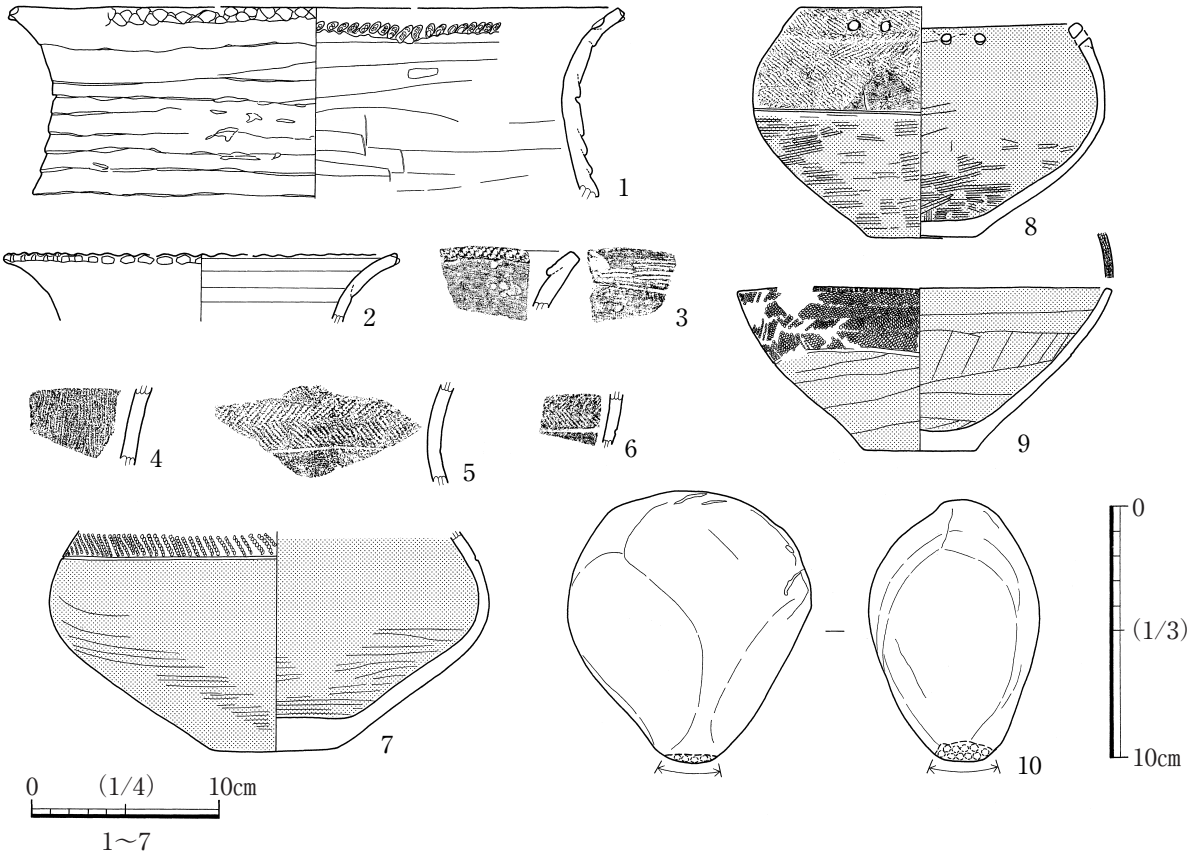
《210号住居跡覆土土層F－F'》
1　黒褐色土層。小さなブロックを少し混入。
2　黒褐色土層。小さなブロックを多量に混入。
3　黄褐色土層。
4　黒褐色土層。5～1㎜くらいのブロック混入。
5　黒色土層。
6　茶褐色土層。2㎜くらいのブロックが二箇所入っている。
7　黒褐色土層。2㎜くらいのブロックが入っている。

第339図　209号・210号・211号住居跡断面図

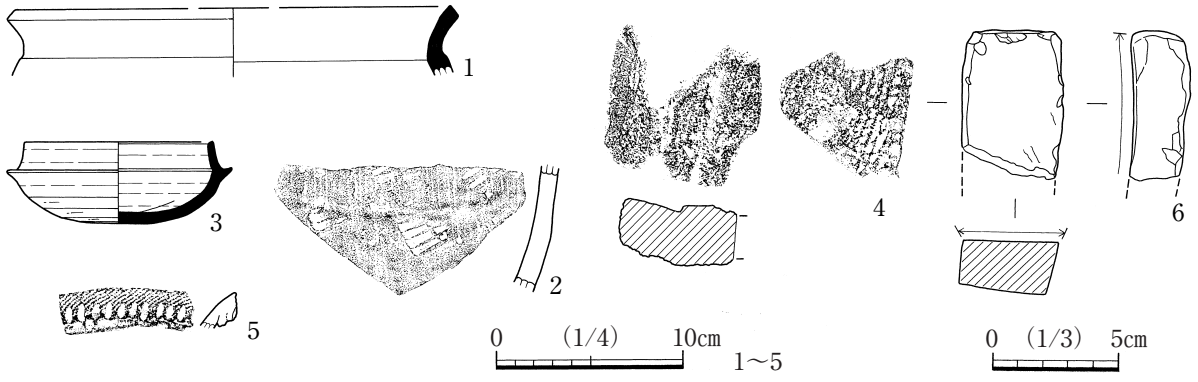


《211号住居跡カマド土層》
1　焼土（少量）と暗褐色土（微量）を含む粘土層。
2　粘土と暗褐色土及び焼土の混合土層。
3　暗褐色土層。粘土を多く含む。
4　暗褐色土層。粘土を少量含む。
5　粘土とロームブロックの混合土層。
6　暗褐色土層。粘土（多量）と焼土（少量）を含む。
7　灰と焼土及び粘土の混合土層。
8　焼土と粘土及びローム土の混合土層。

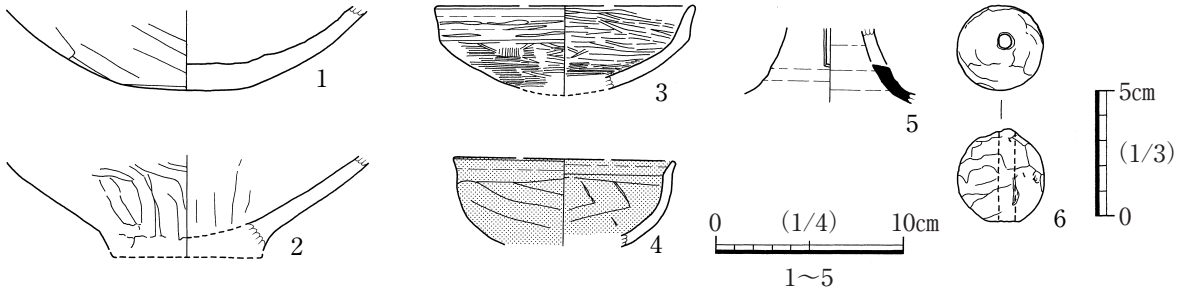
第340図　211号住居跡カマド



第341図　209号住居跡出土遺物

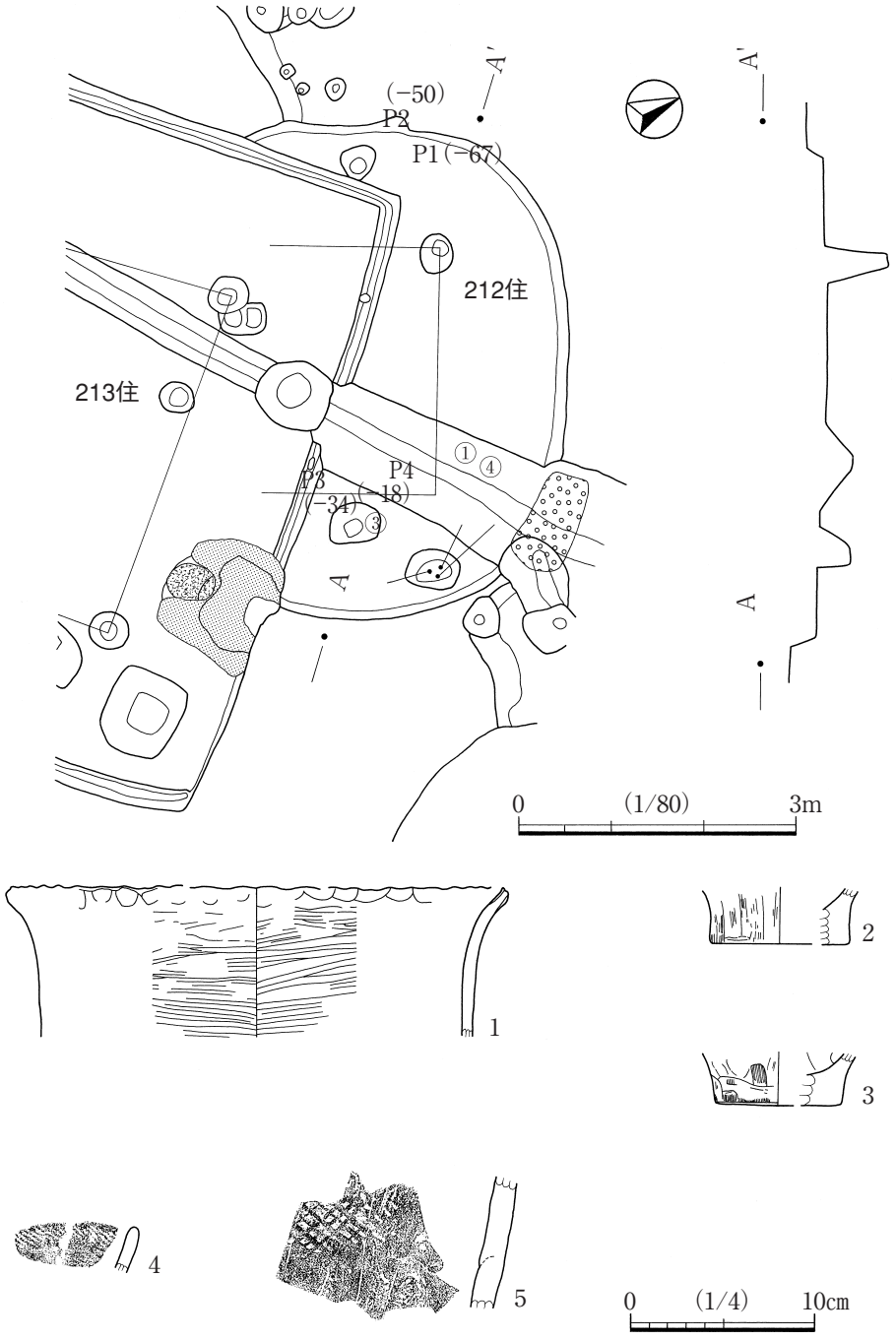


第342図　210号住居跡出土遺物



第343図　211号住居跡出土遺物

出土遺物　1は丸底気味のやや大ぶりな外面篦ナデの甕。2は突出する甕底部で外面ミガキ状篦ナデを施す。3は内外面ミガキの口縁が外反して立つ杯蓋模倣杯。4は内外面赤彩の椀形鉢で口縁が僅かに外傾する。5は須恵器高杯脚片で長方形透かしが施される。6は土玉である。遺物出土位置は、1・2・6が床面直上ないしほぼ床面から出土し、他の遺物は覆土からである。1・2・4・6が住居跡の帰属時期を示す資料として扱えよう。



第344図　212号住居跡と出土遺物

212号住居跡（弥生後期）（第344図、図版45・156）

位置　西調査区中央。K５。　複合切り合い関係　プラン南西半分を古墳時代後期の213住に掘り込まれ、また、東側で中世の９号溝に掘り込まれ検出する。　平面形　楕円形を呈するものと思われる。　主軸方位　N－60°－W。　床面規模　5.10m（主軸）。　床面積　不明。　残存壁高　0.11～0.25m。　炉跡　プラン北西側に設けられたと思われるが213住に削平され不明である。　床面　ソフトローム層上に形成され、部分的に堅く踏みしまっているが、総体的に踏みならされた形跡がない。　壁溝　図示されないが僅かに存在の痕跡を示す。　覆土　不明。　主柱穴　４柱構造と思われるが後世の遺構に削平され不明である。Ｐ４は胞衣ピットであろうか。

出土遺物　１は口縁押捺で波状を呈する深鉢。２・３は柱状の底部で深鉢である。４は外面に縄目を施す口縁小片。５中世大甕の胴部片で格子目のスタンプが施される。遺物出土位置は、１・３・４がプラン南東のＰ４の胞衣ピットから出土し、他は覆土である。５がプラン中央を掘り込む９号溝からの混入遺物で他は住居跡の帰属時期を示す資料として扱えよう。

213号住居跡（第345・346図、図版45・157）

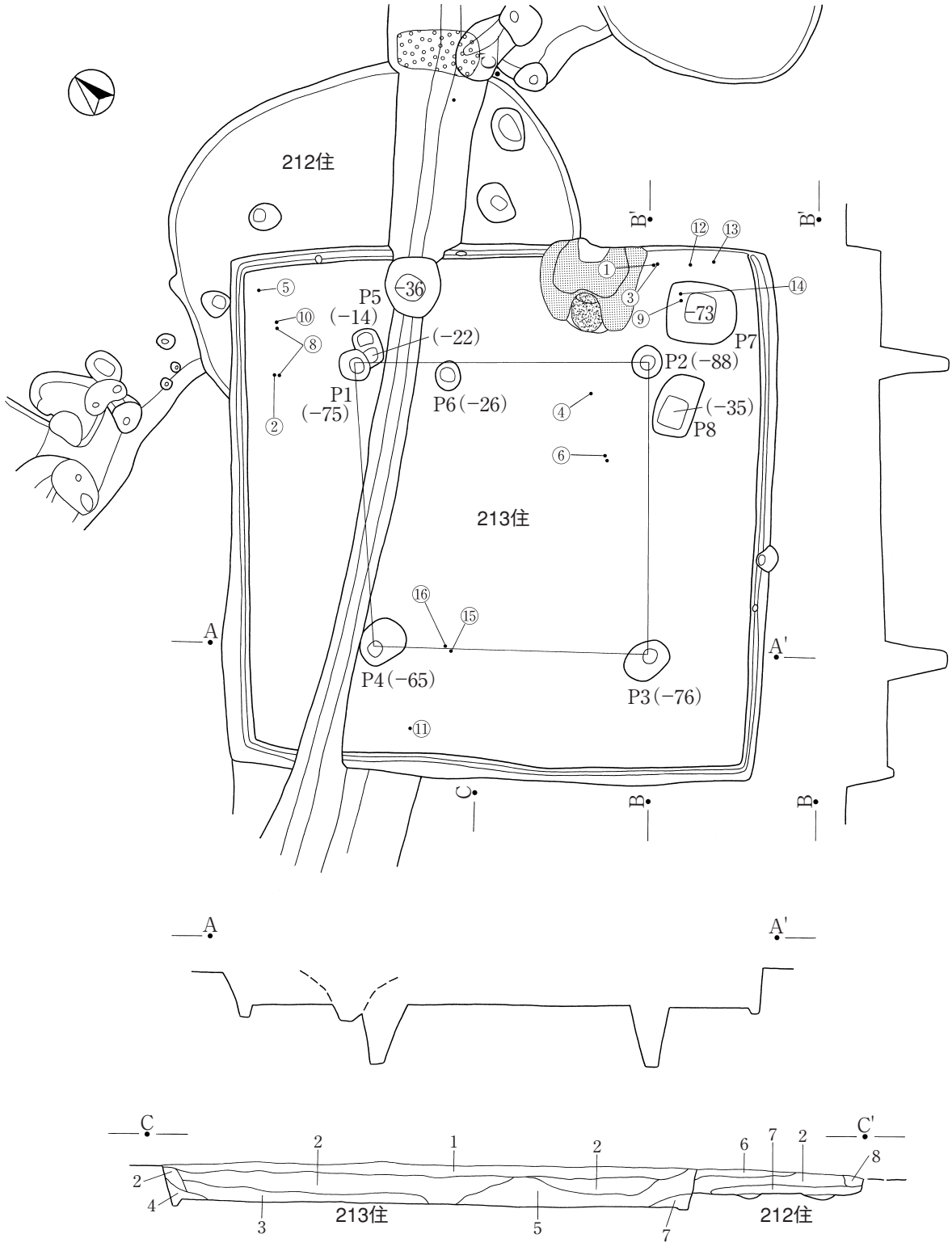
位置　西調査区中央。K５・L５　複合切り合い関係　212住の南西側に複合し、プラン北西側を貫く９号溝に床面を掘り込まれ検出する。　平面形　方形。　主軸方位　N－50°－E。　床面規模　6.82m（主軸）×6.88m（副軸）。　床面積　46.02㎡。　残存壁高　0.42～0.54m。　カマド　北東辺中央から右（南）に寄って敷設される。カマド炉床部は壁からやや離れ設けられている。　床面　ハードローム層中に構築され、張床であまり踏みならされた形跡がない。　壁溝　残存部分は幅10cm前後・深さ６cm前後でほぼ四周する。　覆土　床面直上土層にはロームブロックを含むが概ね自然堆積状況を示す。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ４がやや不規則な位置に設けられる。Ｐ７はカマド右側の東隅に設けられた方形を呈する貯蔵穴である。

出土遺物　１は口縁外反して開き外面斜位篦ナデを施す中胴甕。２・３は口頸部が直立し口縁外反し、外面丁寧な篦ナデを施す甕で、３の口縁は上方へ摘み上げる。６～８は赤彩の椀形杯、７・６の口縁端は僅かに外反気味である。９～11は赤彩の高杯で脚柱は開き気味である。12～14は赤彩の坩形土器で12・13は完形で、口頸部ケズリ状篦ナデ、胴部ミガキ状篦ナデをそれぞれ施す。15は径2.8cmの扁平な盤状の土製玉で片寄って１孔を有す。16は径3.4cmの土製玉。17は縄文時代の石皿窪み石である。遺物出土位置は、１・３がカマド右袖に接し床面直上、５・８・10・13・15・16が床面直上、４・６・12がほぼ床面、９・14がカマド右側貯蔵穴内、２・７・11・17が覆土から出土する。覆土出土の、２・７・11も住居跡の帰属時期を示す資料として差し支えないものであろう。

214号住居跡（第347～349図、図版46・157～159）

位置　西調査区中央。J５・J６・K５・K６。　複合切り合い関係　プラン北西辺上層を中世の３号大形の竪穴状遺構に掘り込まれ北西辺を削平されるが竪穴住居の複合は無い。　平面形　方形。　主軸方位　N－54°－E。　床面規模　6.04m（主軸）×6.00m（副軸）。　床面積　37.17㎡。

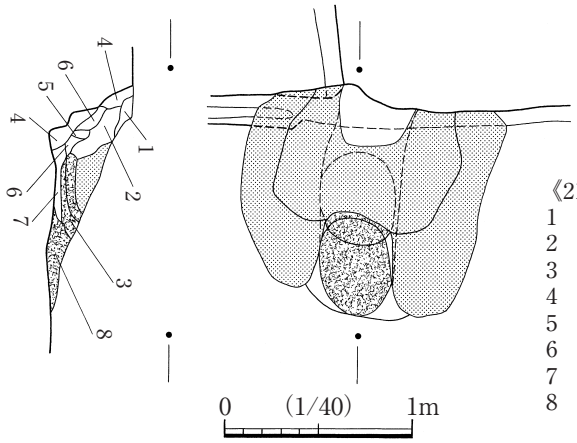
残存壁高　0.32～0.41m。　カマド　北東辺中央から右（南）に寄って敷設される。　床面　ソフトローム層上に形成される。壁近く部分的に軟弱であるが、カマド周辺より中央部南壁にかけて深く踏



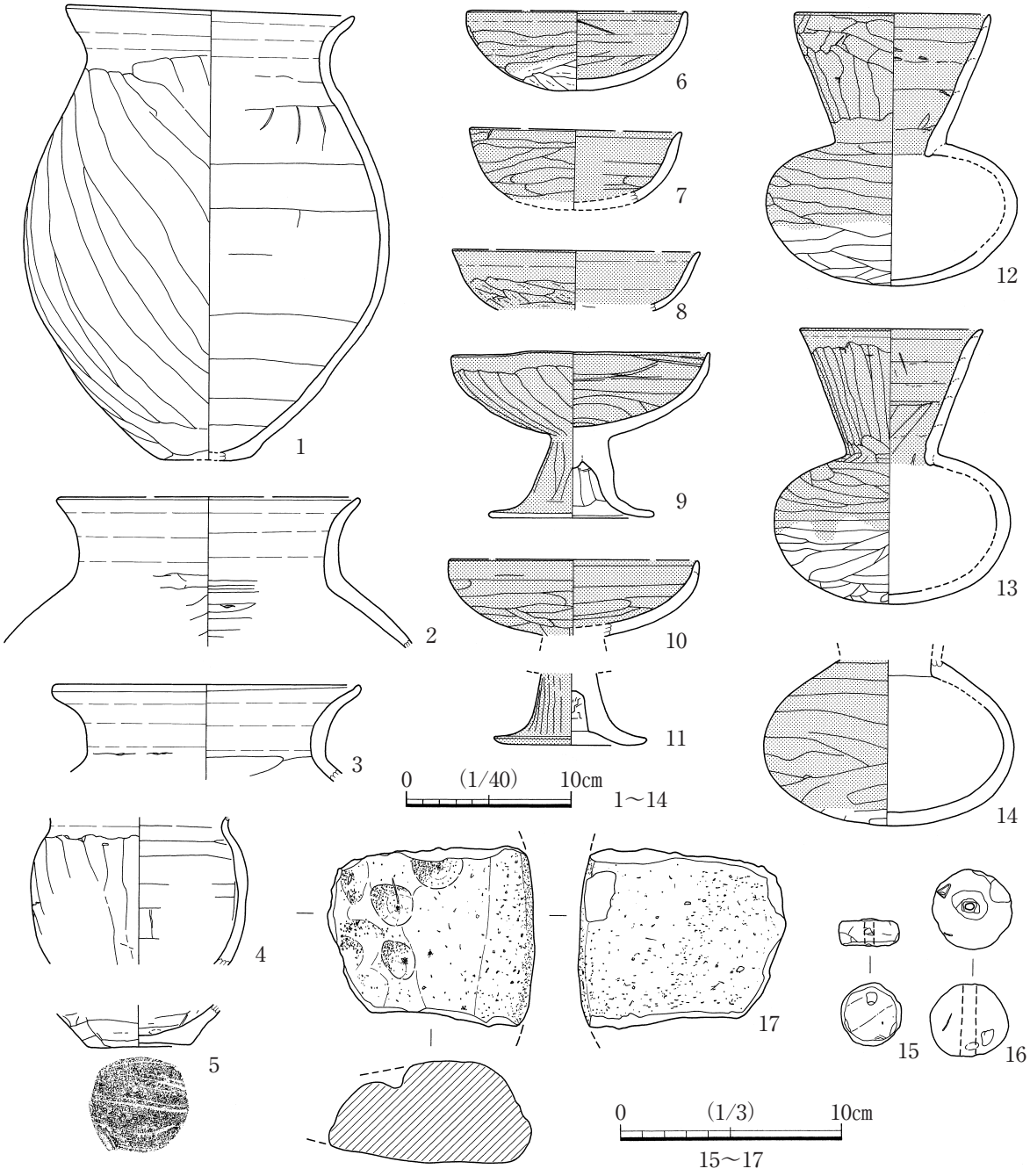
《213号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。
2　黒色土層。ローム粒を少量含む。
3　黒色土層。ロームブロックを含む。
4　茶褐色土層。
5　黒色土層。ローム粒（5㎜以下）を多量に含む。
6　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
7　黒褐色土層。
8　黒褐色土層。ロームブロックを含む。

0　(1/80)　3m

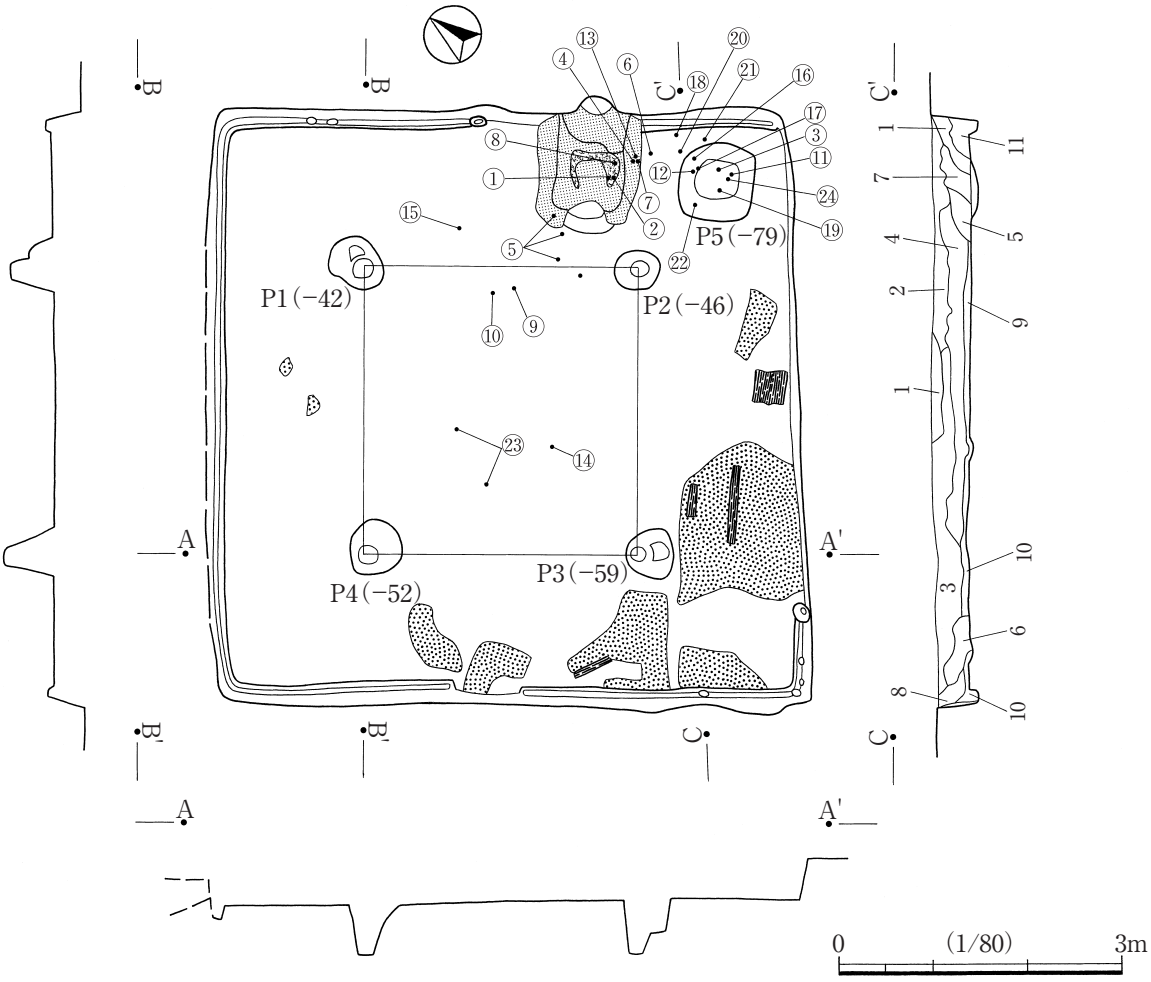
第345図　213号住居跡

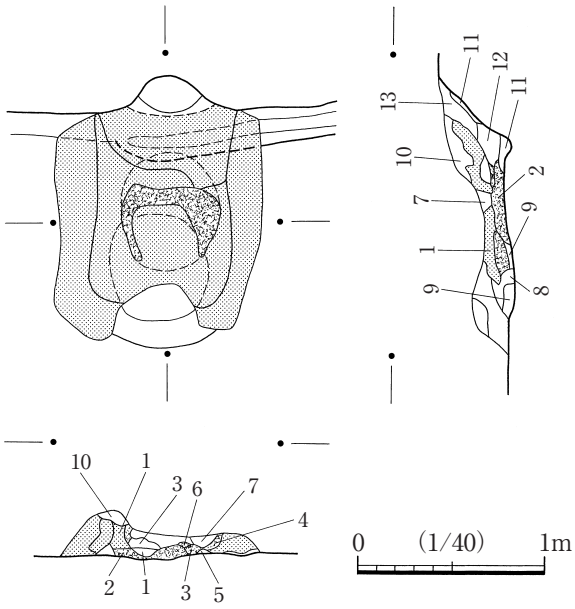


《213号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。焼土と粘土を極少量含む。
2　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
3　灰層。焼土を少量含む。
4　暗褐色土層。ローム土と粘土（極少量）を含む。
5　ロームブロック。
6　暗褐色土層。焼土を少量含む。
7　焼土（少量）と暗褐色土（少量）を含む粘土層。
8　粘土（少量）と暗褐色土（少量）を含む焼土層。



第346図　213号住居跡カマドと出土遺物

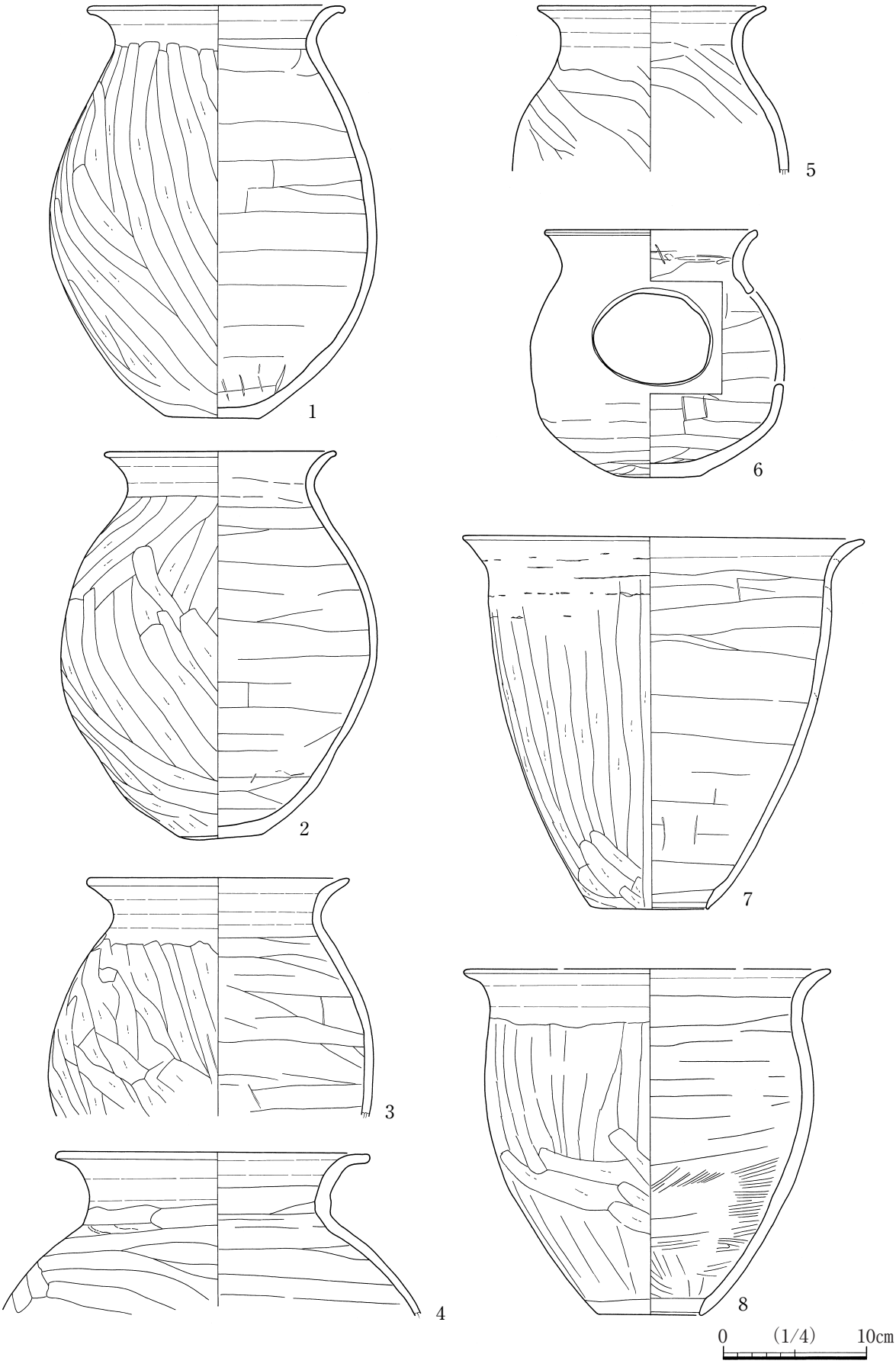




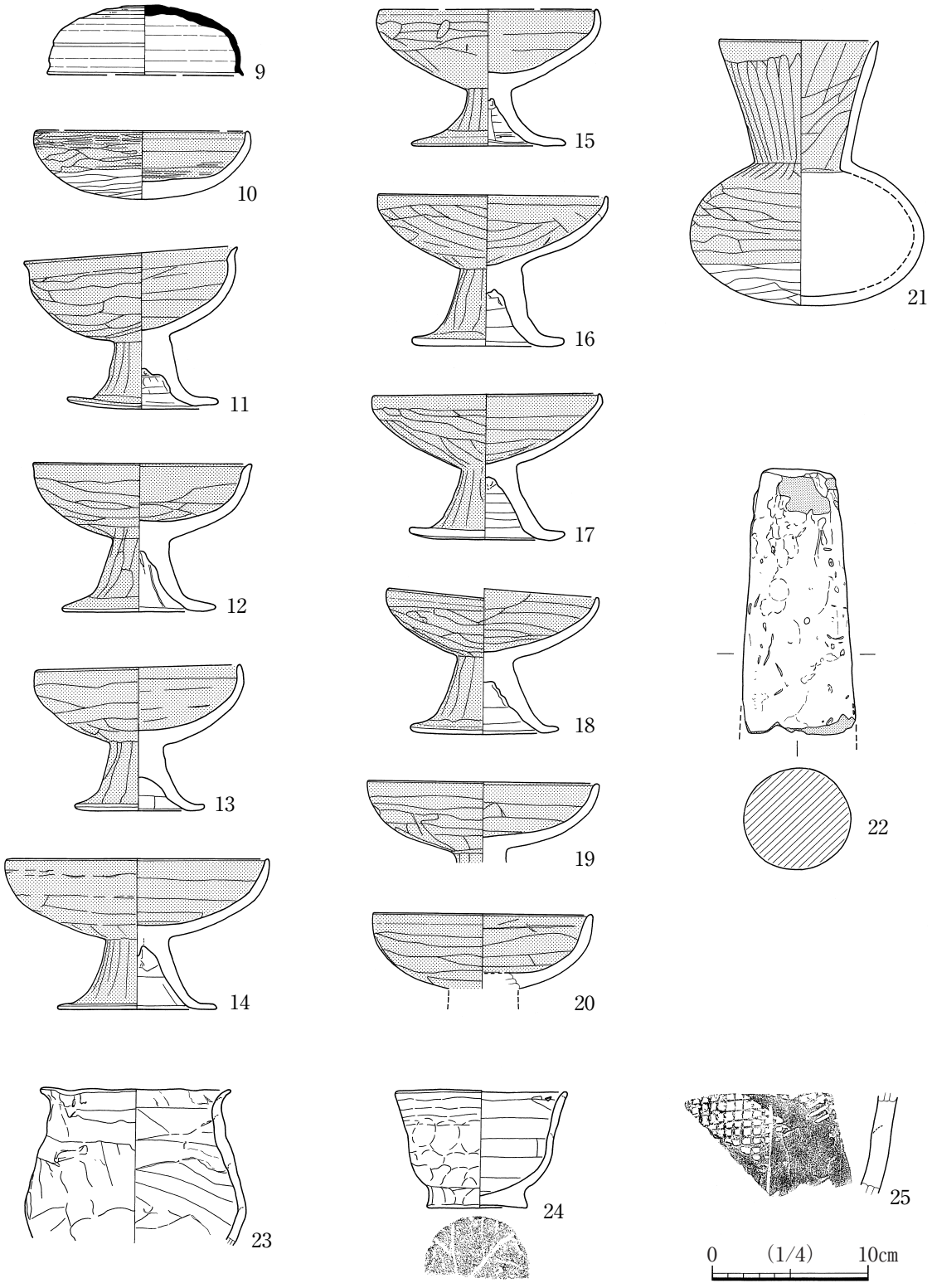
《214号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を一部に含む。
3　黒褐色土層。ローム粒（5mm以下）を一部に含む。
4　茶褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
5　茶褐色土層。ローム粒を含む。
6　黒褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒と粘土を含む。
8　黒褐色土層。ローム粒（5mm以下）を含む。
9　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
10　黒褐色土層。炭と焼土を含む。
11　茶褐色土層。

《214号住居跡カマド土層》
1　白色粘土層。焼土と少量の暗褐色土を含む。
2　焼土層。少量の粘土に暗褐色土層を含む。
3　灰層に焼土含む。
4　白色粘土層に焼土と少量の灰を含む。
5　白色粘土層。褐色土を含む。
6　暗褐色土層（よくしまっている。）
7　暗褐色土層。粘土を少量混入。
8　白色粘土層に焼土と暗褐色土層を含む。
9　焼土層に暗褐色土を含む。
10　暗褐色土層。粘土と少量の焼土粒を含む。
11　白色粘土層。ロームと少量の焼土を含む。
12　暗褐色土に粘土・焼土・灰を薄く含む。
13　ローム少量・粘土・焼土。

第347図　214号住居跡とカマド



第348図　214号住居跡出土遺物（1）



第349図　214号住居跡出土遺物（2）

みならされている。　**壁溝**　幅10㎝・深さ８㎝で部分的に途切れる。　**覆土**　床面直上に多量の焼土と部分的に炭化材が認められ火災住居跡である。また、焼土上層にはロームブロックを含む土層が確認され、火災住居跡が埋め戻された状況を呈している。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で柱間はほぼ等間隔の平面形同様な正方形を呈する。Ｐ５はカマド右側の東隅に設けられた方形を呈する貯蔵穴である。

出土遺物　１～３は中胴甕で口縁が大きく外反し、外面斜位の篦ナデ状篦ケズリを施す。４は口縁が大きく外反水平となり、胴横位篦ナデを施す球胴甕であろう。５は１～３と器形は同一だが外面篦ナデ成形を施す。６は球胴のやや小形甕で、胴中位に円形の窓を開け、胴横位の篦ナデを施す。７・８は甑である。７は胴縦位篦ケズリに内面横位篦ナデを施す。８は胴部上半縦位篦ナデ、中位斜位篦ケズリ、下端篦ナデを施す。９は須恵器蓋で体部稜もやや鈍く、TK47～MT15型式期に比定される。10は赤彩の椀形杯。11～20は赤彩の椀形高杯。11・12は口縁端が僅かに開く。13は内湾内傾、14・19が内湾して開き、15～18は口縁が僅かに「く」の字に内傾気味となる。脚は基部から下方に開き裾部外反する。脚柱には和泉期の袋状を呈し、裾部で屈曲するものが見られない。21は坩で口頸に縦位篦ナデ、胴部横位篦ナデを施す。22は円柱状土製支脚。23は手捏ね状の土師器甕。23は盤状の輪高台に底部木の葉を施す。25は中世大甕片である。遺物出土位置は、１・２・８がカマド燃焼部、４・６・７・13がカマド右袖に接し、14・15・18・20・21・23が床面直上、３・11・12・16・17・19・22がカマド右側貯蔵穴内、５・９・10がほぼ床面、25が覆土から出土する。25は北側覆土上層を掘り込む中世遺構の遺物で１～24が本住居跡に伴う遺物である。その出土状況はカマド右側の貯蔵穴や床面から出土する顕著な傾向を示す。

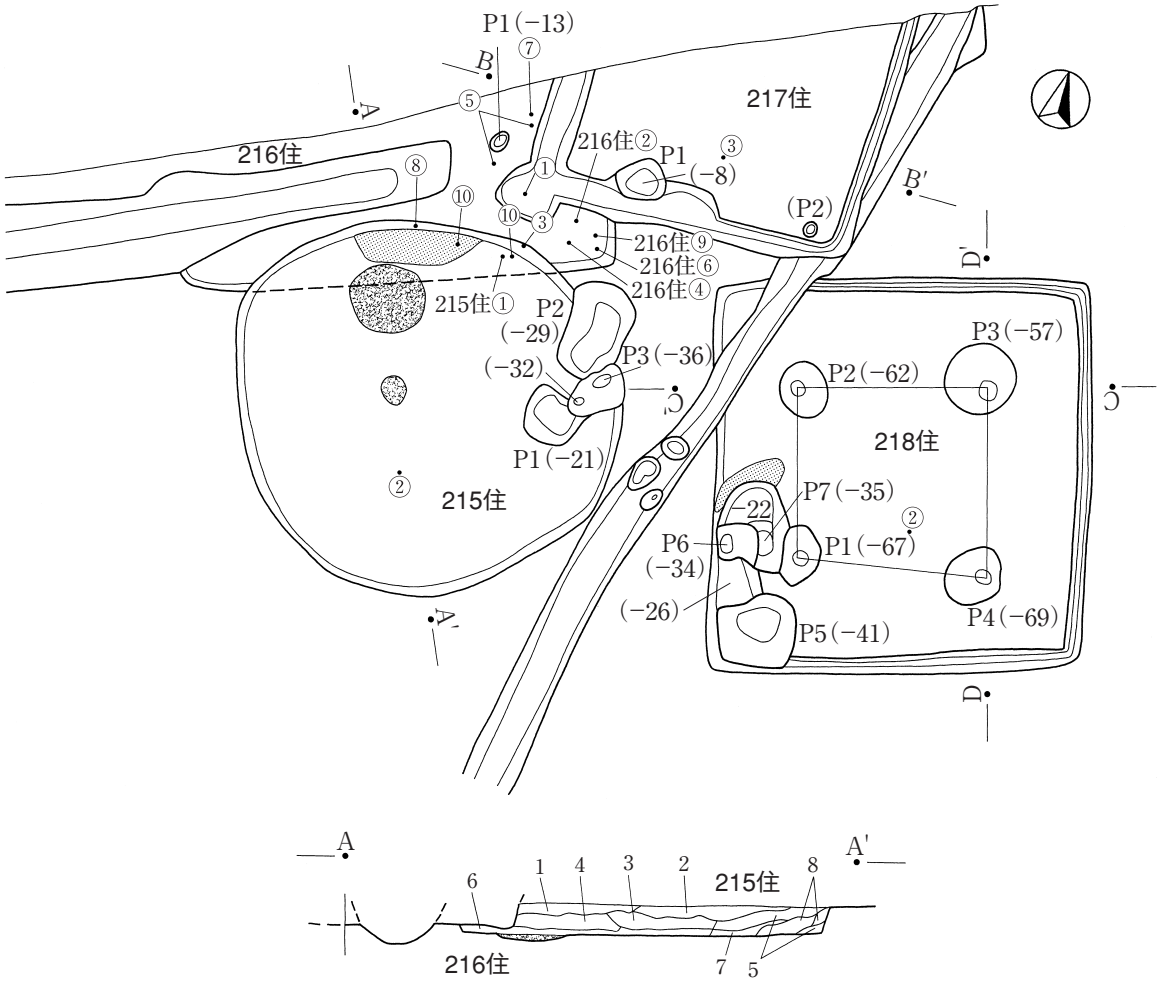
215号住居跡（弥生後期）（第350・351図、図版46・159）

位置　西調査区北端。Ｇ４・Ｈ４。　**複合切り合い関係**　プラン北側上層に古墳時代216住が複合する。　**平面形**　円形。　**主軸方位**　Ｎ－25°－Ｗ。　**床面規模**　3.80m（主軸）×3.62m（副軸）。　**床面積**　11.59㎡。　**残存壁高**　0.32m前後。　**炉跡**　床面中央から北西側と中央に床面が強い加熱を受け堅く焼土化する２カ所を確認する。北側炉跡は0.80m×0.72mの円形、中央は0.32m×0.27mの円形を呈する。　**床面**　プランの中央は特に堅く踏みならされ堅緻である。その範囲は、北側炉を頂点に楕円形が画される。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　土層中に茶褐色土などが確認されるが概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　東側壁に不整形の土壙状のピットを有するが後世の所産と思われ無柱構造である。　その他の施設に、炉北側壁面に棚状にローム土を堅く盛り上げた範囲が確認される。

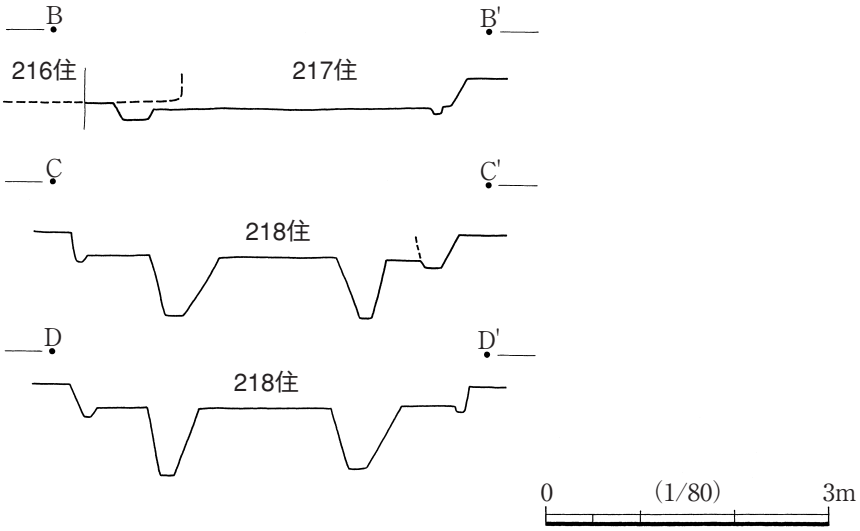
出土遺物　１は胴下に重心を置き、胴上半篦ミガキ、下半ケズリ状篦ナデを施す。２は小形の複合口縁の内湾鉢で、内外面ミガキで丹彩を施す。３は土玉片。４は研磨痕の有る軽石である。遺物出土位置は、２が床面直上から出土する以外は覆土からであるが、１も住居跡の帰属時期を示す資料として扱える。

216号住居跡（第350・354図、図版46・47・159）

位置　西調査区北端。Ｇ４。　**複合切り合い関係**　プラン北側の３分の２以上を調査区域外に置き、南側で215住と複合し、東側に217住、中央から西側に５号溝がそれぞれ床面を掘り込まれ遺存する。



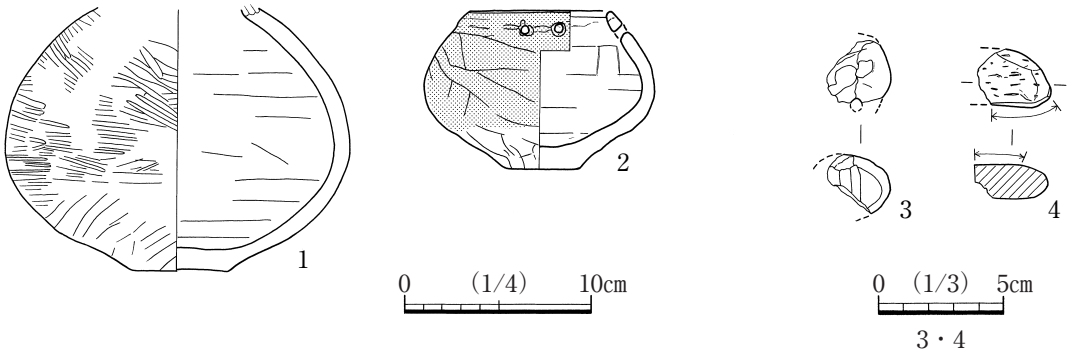
《215号住居跡覆土土層A－A'》
1　茶褐色土層。
2　黄褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。
4　茶褐色土層。ローム粒とソフトロームを含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
6　黒褐色土層。ソフトロームを少量含む。
7　黒色土層。
8　黒褐色土層。ローム粒を含む。



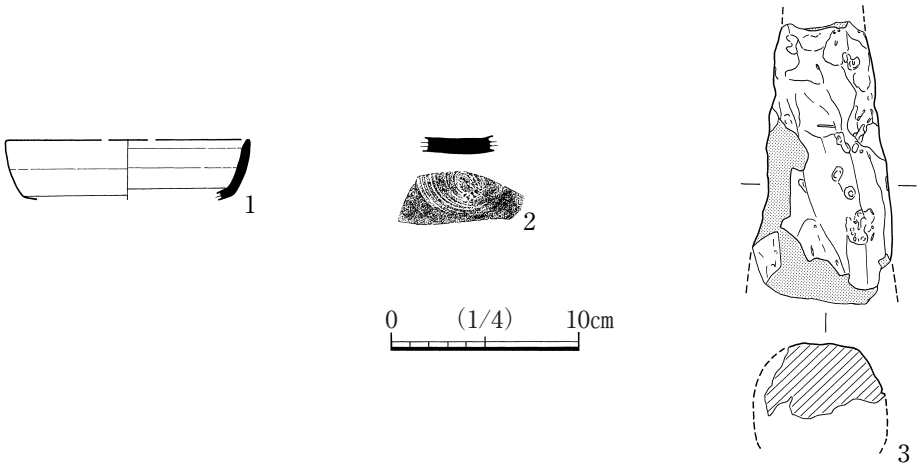
第350図　215号～218号住居跡

平面形　方形？　主軸方位　不明。　床面規模　一辺≒4.65m。　床面積　不明。　残存壁高　0.24～0.29m。　カマド　不明。　床面　僅かな残存部分は床面の存在をやや感じられる程度である。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　検出されない。

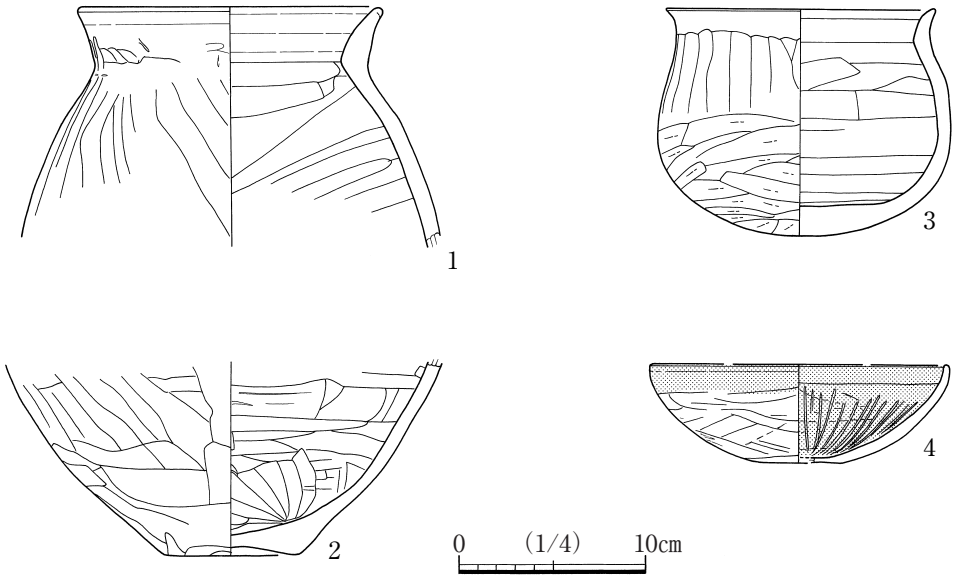
出土遺物　1は中胴甕で口縁外反し、胴部縦位ミガキ状篦ナデを施す。2は球胴甕で胴部上半刷毛目、下半ミガキ状篦ナデを施す。3は「く」の字状の口縁の球胴甕で、胴部上半横位篦ナデで下半ケズリ状篦ナデを施す。4は外面篦ナデの球胴甕。5は丸底気味の雑な篦ケズリを施す。6は片口の平



第351図　215号住居跡出土遺物



第352図　217号住居跡出土遺物



第353図　218号住居跡出土遺物

底の鉢形を呈し、胴外面にタール状煤が付着し、外面篦ナデである。7は口縁に指頭圧痕で段を有し直立となり、外面篦ケズリを施す。8は赤彩の椀形杯。9は赤彩高杯で杯部下端に屈曲する稜を有し杯内面底部平底となる。10の赤彩高杯脚は長脚で柱状を呈し和泉期の特徴を留めている。遺物出土位置は、1・2が床面直上、3～10がほぼ床面、11が覆土から出土する。図示した遺物全てが住居跡に共伴すると見なしてよいと考える。

217号住居跡（第350・352図、図版46・159）

位置　西調査区北端。G4・G5。　**複合切り合い関係**　プラン北側の2分の1を調査区域外に置き、西側で216住床面を掘り込み遺存する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－90°－E。　**床面規模**　一辺≒3.30m。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.28～0.34m。　**カマド**　調査区域外に北辺ないし西辺であろう。　**床面**　ソフトローム層上総体的にやや軟である。　**壁溝**　幅10～40cm・深さ8～9cmで遺存部は回る。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　南辺にP1・P2を検出するが本来の柱穴位置になく無柱構造と思われる。

出土遺物　1は須恵器杯で口縁立ち上がりが短く、内面見込みが明瞭で火だすきを残す。2は須恵器底部片で回転糸切りに回転篦ケズリを施す。3は円柱状土製支脚。遺物出土位置は、全て覆土からの出土であるが、1・2の須恵器杯が住居跡の帰属時期を示す資料と言える。

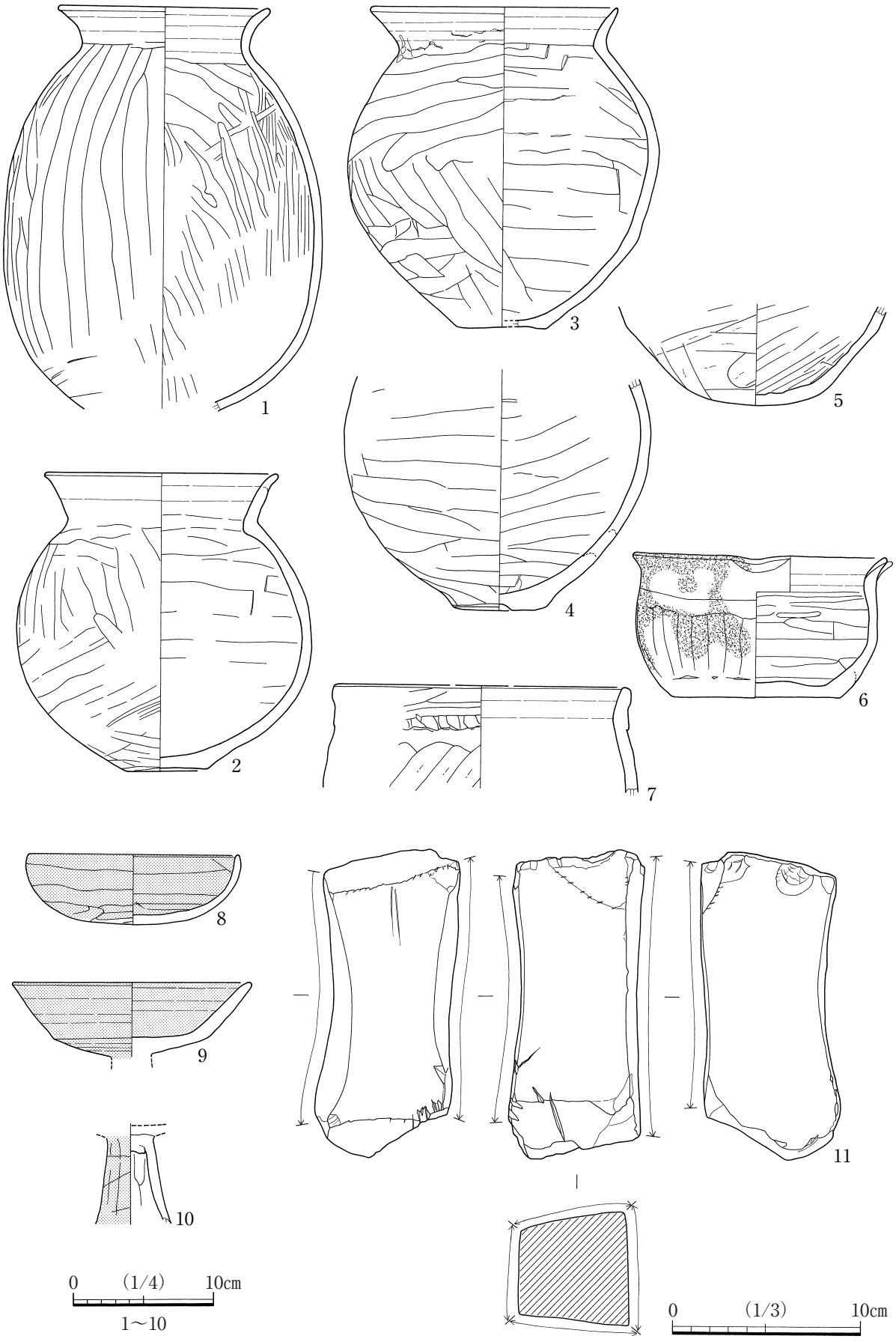
218号住居跡（第350・353図、図版47・160）

位置　西調査区北端。G5・H5。　**複合切り合い関係**　217住南側にプラン北西隅を後世の7号溝に掘り込まれ遺存する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－106°－W。　**床面規模**　4.05m（主軸）×3.84m（副軸）。　**床面積**　15.26㎡。　**残存壁高**　0.21～0.27m。　**カマド**　西辺中央から左（南）に寄って左袖部と燃焼部を取り壊され右袖のみ検出する。　**床面**　総体的に平滑で堅く踏みならされている。　**壁溝**　幅8～12cm・深さ7cmを測り北・東・西辺に回る。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造でP1がやや不的確な位置に設けられる。

出土遺物　1は口縁外傾し胴部ケズリ状篦ナデを施す甕。2も外面ケズリ状篦ナデを施すが、中胴甕であろう。3の鉢形丸底甕は胴部上半ミガキ状篦ナデで下半篦ケズリを施す。4は平底の椀形杯で口縁外面と内面に赤彩し内面丁寧なミガキを施す。遺物出土位置は、2が床面中央に僅かに浮いてほぼ床面、3が南西隅のP5内、1・4覆土からの出土である。2確実な住居跡共伴遺物で他の3も大差ないものであろう。

219号住居跡（弥生時代）（第355・360図、図版47・160）

位置　西調査区中央北側。H5。　**複合切り合い関係**　プラン北側を古墳時代220住、南側で221住にそれぞれ掘り込まれ遺存する。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　N－30°－W。　**床面規模**　3.40m（副軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.32～0.38m。　**炉跡**　北側床面を大きく掘り込む220住に削平される。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、平滑であるがあまり踏みならされた形跡は認められない。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　南側床面にP1を検出し4柱構造が想定される。



第354図　216号住居跡出土遺物

出土遺物　１・２は共に深鉢底部片で住居跡共伴遺物であろう。

220号住居跡（第355・361図、図版47・160）

位置　西調査区中央北側。Ｈ５。　複合切り合い関係　プラン南側で弥生時代の219住を大きく掘り込み検出する。　平面形　横長方形。　主軸方位　Ｎ－12°－Ｗ。　床面規模　3.15m（主軸）×3.70m（副軸）。　床面積　11.25㎡。　残存壁高　0.31m前後。　カマド　北辺中央からやや右（東）に寄って敷設される。煙道部突出長1.62mを測る。　床面　張床で堅く踏みならされており、全面的に平滑である。　壁溝　幅８～15cm・深さ８～16cmを測り四周する。　覆土　不明。　主柱穴　床面北側に副軸方位に２穴を検出し、２柱構造である。

出土遺物　１・３は頸部無頸気味で口縁が大きく外反して開き、胴外面縦位箆ケズリを施す。３は口縁短く僅かに外反し胴外面縦位箆ケズリを施す。４は甕最下端で外面斜位の箆ケズリで千葉市域産須恵器の特徴を残す。５は須恵器大甕片。６は非ロクロ土師器杯である。遺物出土位置は、１・３・５・６床面直上、２・４がカマド燃焼部からの出土で、出土した全ての遺物が住居跡共伴遺物であろう。

221号住居跡（第355・362図、図版47・160）

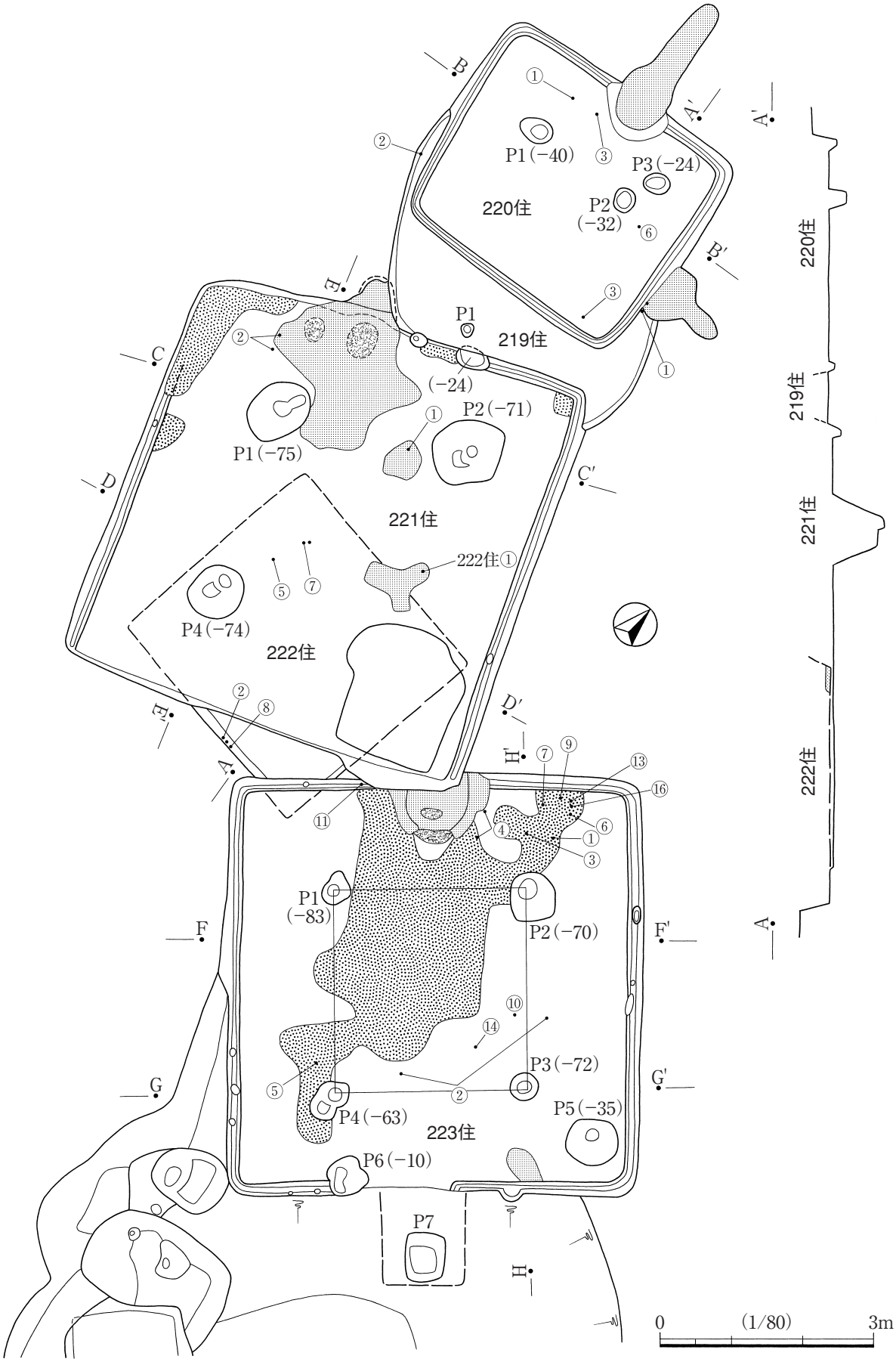
位置　西調査区中央北側。Ｈ５・Ｈ６。　複合切り合い関係　プラン北側で弥生の219住を南東隅で223住を掘り込み、南側覆土内に222住が遺存して検出する。また、南東隅床面を掘り込み中世の４号地下式土壙が掘り込まれる。　平面形　僅かに縦長の方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－27°－Ｗ。　床面規模　5.92m（主軸）×5.63m（副軸）。　床面積　32.74㎡。　残存壁高　0.39～0.51m。　カマド　北西辺中央からやや左（西）に寄って敷設される。天井部や袖部を覆う白色粘土がカマド全面の床面に広く流失して確認される。　床面　平滑で堅緻である。　壁溝　幅10～12cm・深さ10cm前後を測り、西・北・東辺で部分的に途切れ回り、南側は検出されない。　覆土　床面北側に焼土が広範囲に確認され火災住居跡であろう。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ３は地下式土壙に掘り込まれ失われる。また、検出された３穴も掘り替えの跡が認められ、建て替えが行われたことが想定できる。

出土遺物　１は杯身模倣杯で内面ミガキを施す。２・３は土製支脚である。遺物出土位置は、１・２がほぼ床面、３がカマド燃焼部からの出土で住居跡共伴遺物である。

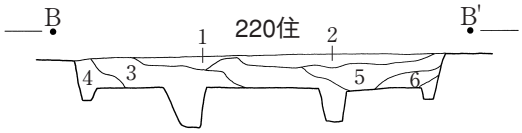
222号住居跡（第355・363図、図版160）

位置　西調査区中央北側。Ｉ５。　複合切り合い関係　221住覆土南側に床面を大きく置き検出する。　平面形　方形？。　主軸方位　Ｎ－２°－Ｅ。　床面規模　3.32m（主軸）×3.55m（副軸）。　推定床面積　10.64㎡。　残存壁高　0.41m前後。　カマド　北辺中央に敷設されたものと思われる。　床面　硬化面が不明確であるが221住床面より５cm前後上層に床面を置くものと思われる。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

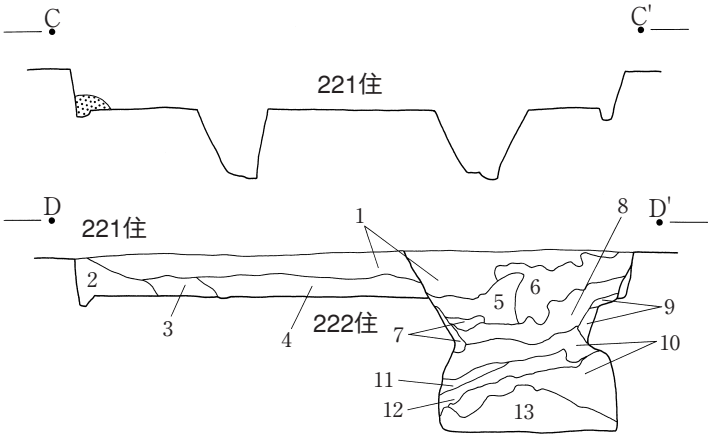
出土遺物　１は口縁外反し端部摘み上げで胴外面縦位箆ケズリを施す。２は須恵器口縁で器形不明である。３～６は非ロクロ土師器杯で、内面見込みが明瞭な４～６と不鮮明な３が存在する。７・８は刀子である。遺物出土位置は、２・８が床面直上、１がカマド燃焼部、５・７がほぼ床面、３・４・



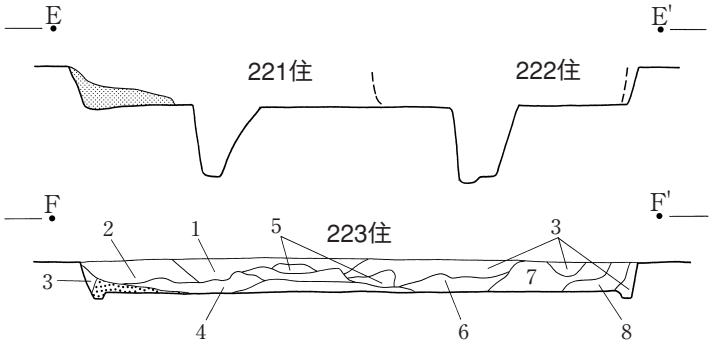
第355図　219号～223号住居跡



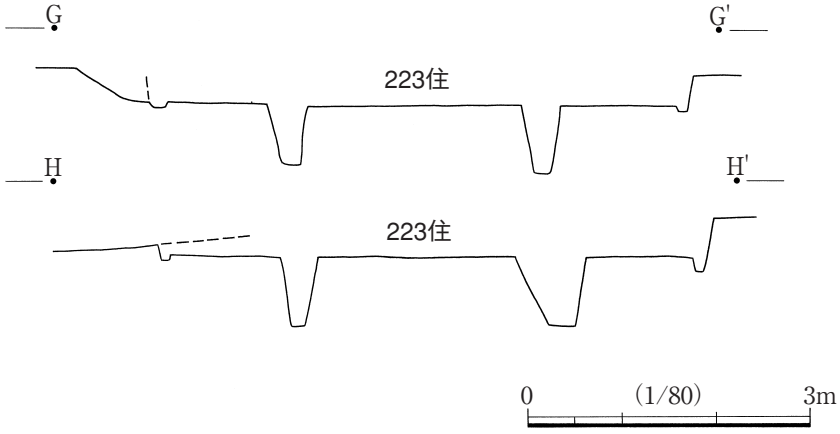
《220号住居跡覆土土層B－B'》
1　黒褐色土層。
2　黒褐色土層。ロームブロックが霜降り状に含まれる。
3　黒褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を一部に含む。
4　暗褐色土層。ロームブロック（4cm以下）を一部に含む。
5　黒褐色土層。ローム粒（5mm以下）を一部に含む。
6　茶褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。



《221・222号住居跡覆土土層D－D'》
1　黒色土層。
2　黒色土層に5mmくらいのブロック混入。
3　黒褐色土層に5mm～1cmくらいのブロック混入。
4　黒色土層に一部2cmくらいのブロックと粘土混入。
5　黒褐色土層に5mmくらいのブロック混入。
6　黄褐色土層に1cm～2cmくらいのブロック混入。
7　黄褐色土層。
8　黒褐色土層に一部ロームと炭を混入。
9　黄褐色土層に2cmくらいのブロック混入。一部ハードローム。
10　黒色土層に5mm～2cmブロック混入して全体にざくざくした感じ。
11　黒色土層に一部ソフトロームが入っている。
12　黒色土層。
13　ハードロームの間に一部黒色土が入っている。

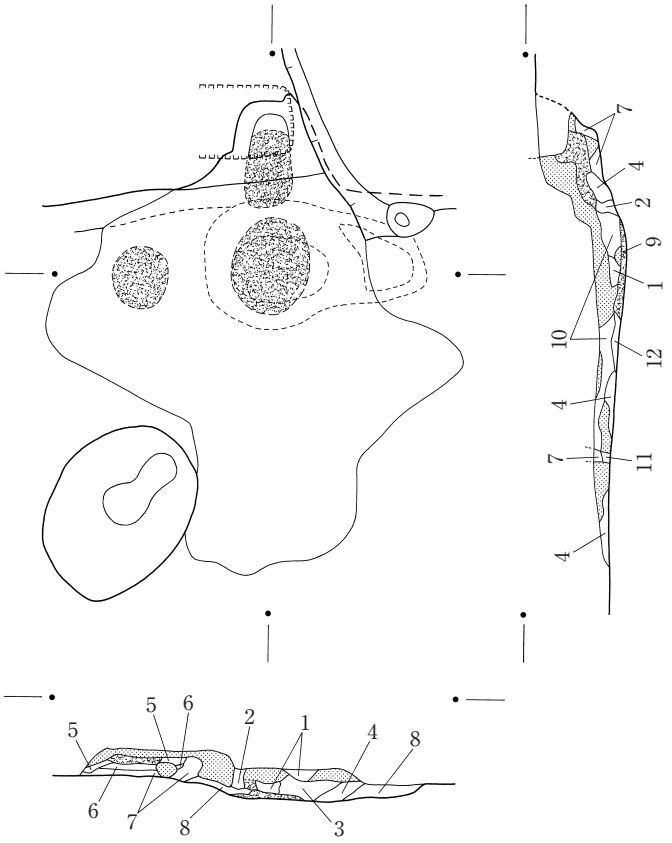


《223号住居跡覆土土層F－F'》
1　茶褐色土層。ローム粒を少量含む。
2　茶褐色土層。
3　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
4　ロームブロック。茶褐色土を含む。
5　茶褐色土層。ロームブロックを少量含む。
6　茶褐色土層。焼土を含む。
7　黄褐色土層。ローム粒を多く含む。
8　黄褐色土層。ロームブロックを少量含む。



第356図　219号～223号住居跡断面図

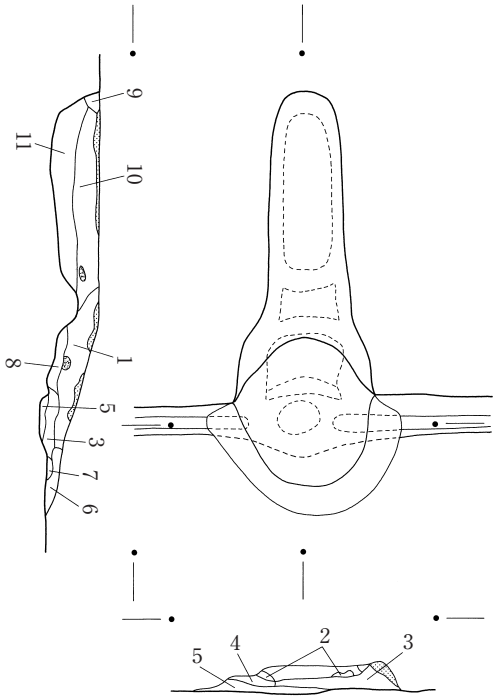
《220号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。焼土粒（2㎜以下）とローム粒及び粘土（少量）を含む。
2　灰黄褐色土層。焼土とローム粒及び灰を少量含む。
3　褐色土層。第1層に似るが、焼土粒は少量含まれる。
4　ロームブロック。
5　極暗褐色土層。ローム粒（3㎜以下）を多く含む。
6　にぶい黄褐色土層。焼土と粘土及びローム粒を少量含む。
7　黒褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土粒（1㎜大以下）とローム粒及び灰を少量含む。
9　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含み、炭も微量に含む。
10　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土粒（微量）を含む。
11　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。



第358図　221号住居跡カマド

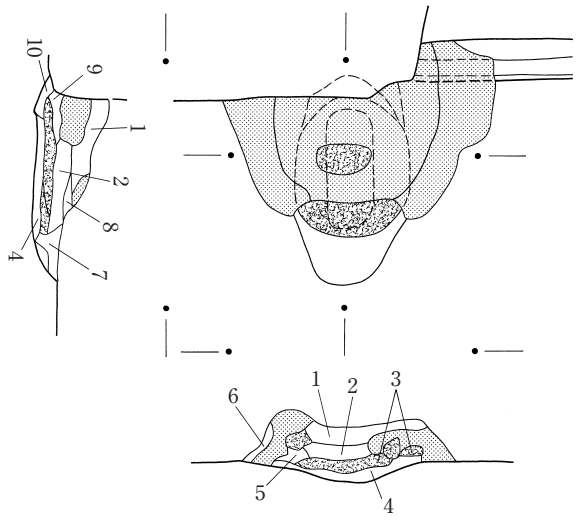
《223号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と粘土（少量）を含む。
2　褐色土層。焼土粒（1㎜大以下）と粘土（少量）を含む。
3　暗褐色土層。焼土と灰（少量）を含む。
4　褐色土層。ロームブロックを含む。
5　褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
6　極暗褐色土層。焼土とローム粒（少量）を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土を含む。
8　にぶい黄褐色土層。焼土粒と粘土を少量含む。
9　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土を含む。
10　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。

0　(1/40)　1m

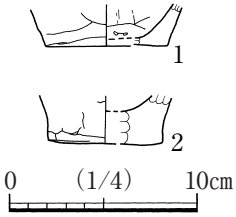


第357図　220号住居跡カマド

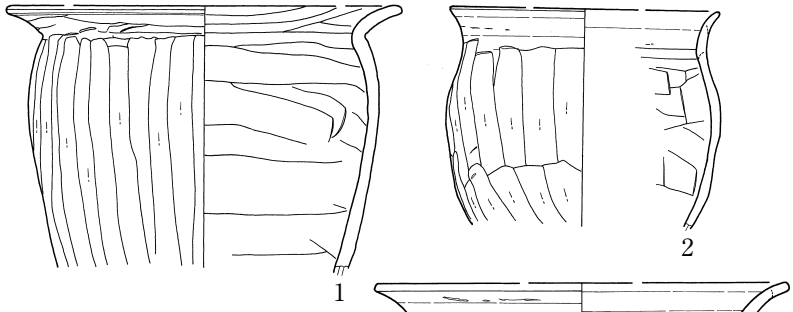
《221号住居跡カマド土層》
1　黒褐色土層。粘土を少量含む。
2　灰層。粘土粒を含む。
3　にぶい黄褐色土層。粘土（多量）と焼土及びローム粒を少量含む。
4　暗褐色土層。焼土とローム粒を少量含む。
5　赤褐色土層。焼土（多量）とローム粒（少量）を含む。
6　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土（微量）を含む。
7　褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を多量に含む。
8　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多量に含む。
9　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含み、炭も微量認められる。
10　にぶい黄褐色土層。粘土（多量）と焼土及びローム土を少量含む。
11　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
12　黒褐色土層。焼土と灰を少量含む。

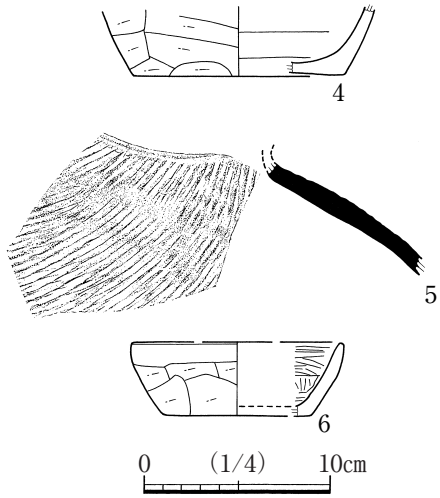


第359図　223号住居跡カマド

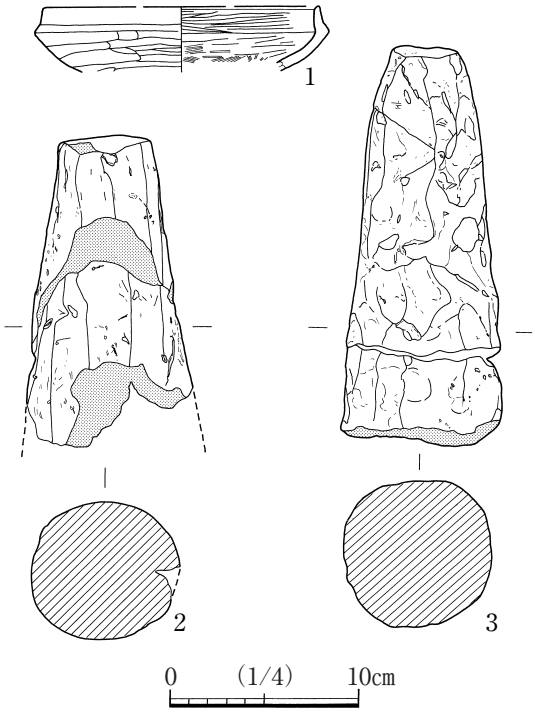


第360図　219号住居跡出土遺物

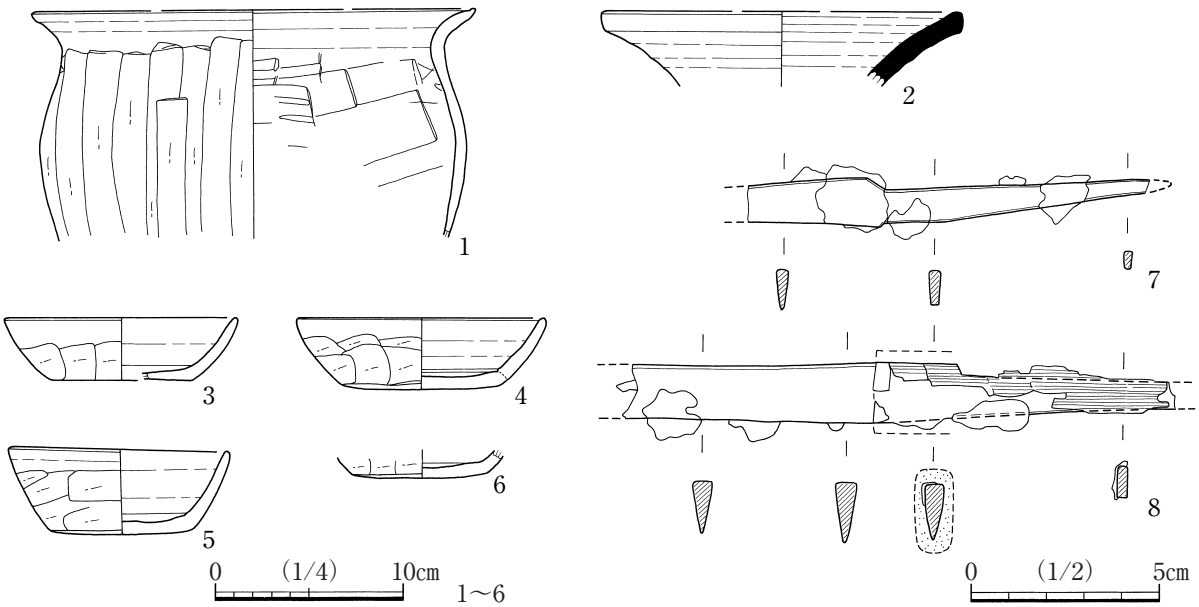




第361図　220号住居跡出土遺物



第362図　221号住居跡出土遺物



第363図　222号住居跡出土遺物

6が床面直上からの出土で、2には疑問が残るが出土した全ての遺物が住居跡共伴遺物であろう。

223号住居跡（第355・364図、図版48・161）

位置　西調査区中央北側。I5・I6。　複合切り合い関係　北辺壁とカマド煙道部を221住に掘り込まれ、また、南辺から西辺上層に中世の4号大形竪穴状遺構に掘り込まれ検出する。　平面形　南東辺中央に張り出しを有し方形を呈する。　主軸方位　N－45°－W。　床面規模　5.82m（主軸）×5.60m（副軸）。　床面積　32.52㎡。　残存壁高　0.11～0.42m。　カマド　北西辺中央に敷設され、煙道部は221住に掘り込まれる。　床面　ハードローム層上に形成され平滑で且つ堅緻である。　壁溝　幅10cm前後・深さ5～8cmを測り四周する。　覆土　床面直上に広範囲に焼土が検出され火災住居跡である。　主柱穴　P1～P4の4柱構造でP4には掘り直しの跡が認められる。　その他の施設　南東辺中央に幅1.18m・長さ1.40m程の張り出しを有し、中央には0.64×0.58mの方形の貯蔵穴が設けられる。

出土遺物　1は口縁肉厚で外反し、胴部上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリを施す中胴甕。2は球胴甕で外面斜位篦ケズリを施す。3は中胴甕で口縁大きく外反し、胴外面縦位篦ケズリ残す横位篦ナデ。4・5はやや小形の中胴甕で、4は縦位篦ケズリ、5は上半縦位篦ケズリ下半斜位篦ケズリを施す。6・7・9は胴長気味甕で外面縦位篦ケズリを施す。9・10は中胴甕で、9は篦ナデ、10は篦ケズリを施す。11は甑で外面斜位篦ケズリ、内面ナデを施す。12は杯身模倣杯で内面光沢のあるミガキで漆塗りであろう。13・14は杯蓋模倣杯で、13は内面光沢のあるミガキで漆塗りであろう。15は半円形の皿状の杯。16は口縁に強いヨコナデで段を有する鉢。17・18は軽石である。遺物出土位置は、10が床面直上、8がカマド燃焼部、2・4・5・13・14・16がほぼ床面、11がカマド左側壁面に接し、1・3・6・7・9・12・15・17・18が覆土からの出土である。覆土から出土した1・3・6・7の甕類や12の杯も住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。

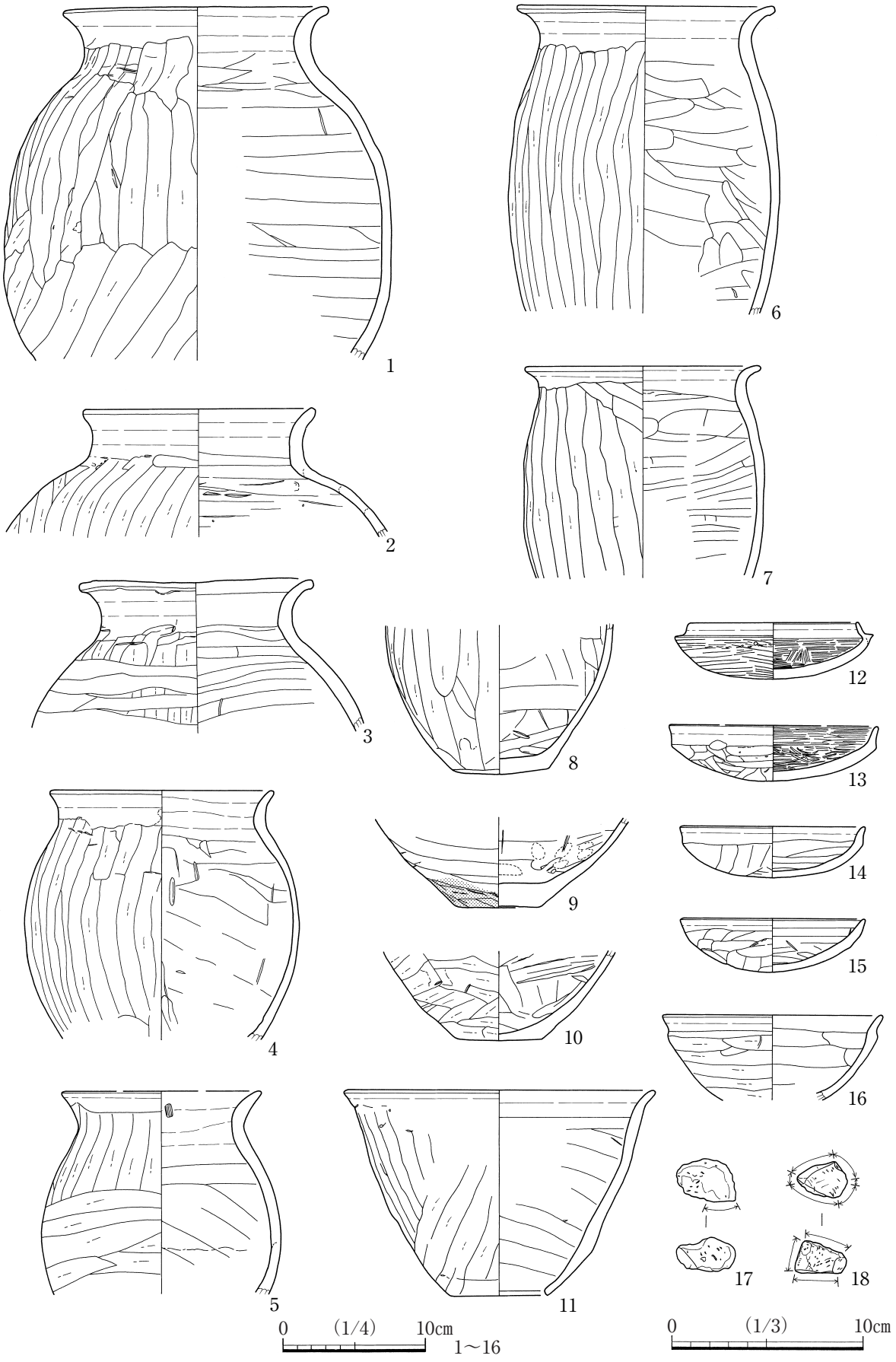
224号住居跡（弥生後期）（第365図、図版48・162）

位置　西調査区北側。H4・I4。　複合切り合い関係　中央を7号溝に掘り込まれ検出する。　平面形　不整円形。　主軸方位　N－21°－W。　床面規模　3.45m（主軸）×3.23m（副軸）。　床面積　8.99㎡。　残存壁高　0.08～0.13m。　炉跡　床面中央からやや北に寄って設けられ、0.52×0.62mのほぼ円形を呈する。　床面　ソフトローム層上に形成され、堅く踏みしめられており平滑である。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

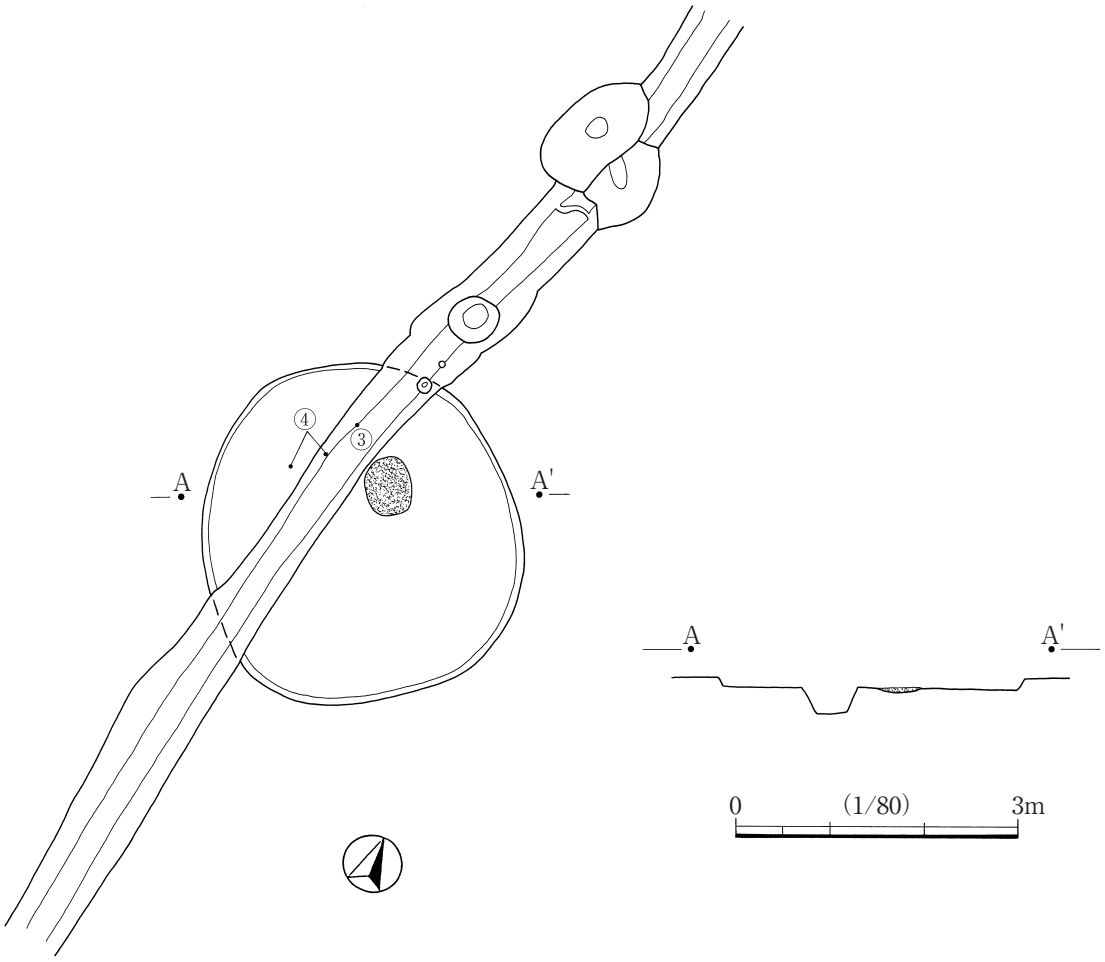
出土遺物　1は口唇部刻み波状を呈し、外面刷毛ナデを施す甕。2は口縁押捺で波状を呈し輪積みである。3は甑で外面不規則な篦ケズリを施す。4は土師器甕で外面斜位篦ケズリ。5はロクロ成形の須恵器杯である。遺物出土位置は、4がほぼ床面から出土し、他は覆土からの出土である。住居跡平面形を考慮すると1・2が住居跡共伴遺物として見なし、他はプラン中央を掘り込む後世の溝からの混入遺物であろう。

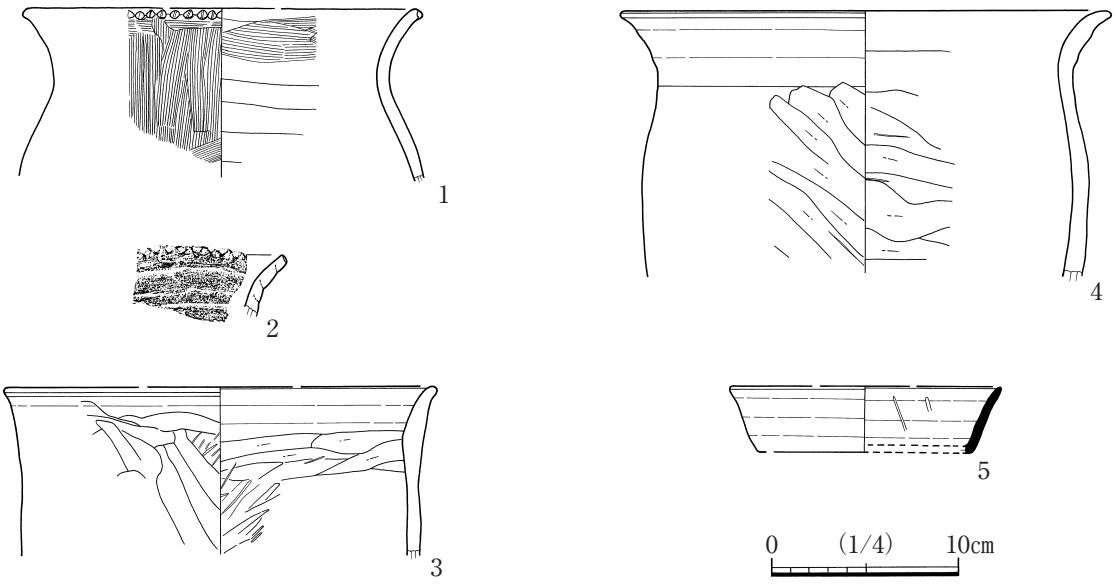
225号住居跡（第366図、図版48・162）

位置　西調査区中央西端。J4・K4。　複合切り合い関係　南辺外側に接して性格不明のピットが



第364図　223号住居跡出土遺物





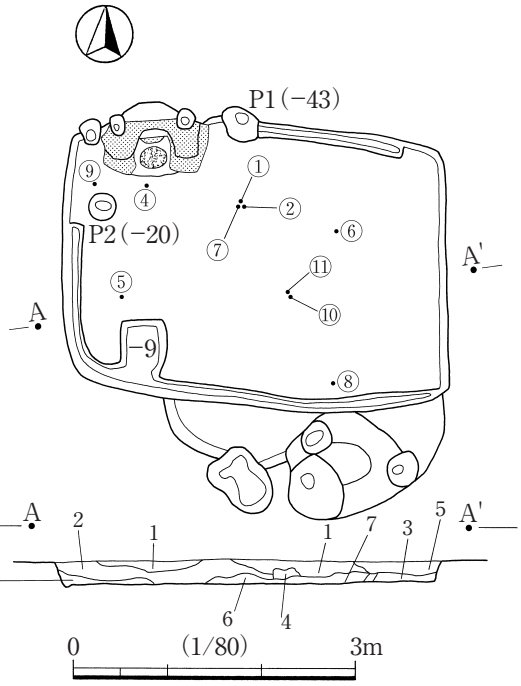
第365図　224号住居跡と出土遺物

存在するが、竪穴住居跡の複合は無く単独で検出する。　**平面形**　横長方形。　**主軸方位**　N－2°－W。　**床面規模**　2.90m（主軸）×3.88m（副軸）。　**床面積**　10.62㎡。　**残存壁高**　0.13～0.26m。　**カマド**　北辺の北西隅に接して敷設され、カマド両袖の壁に接してそれぞれ2穴カマドに付随するようなピットを検出する。　**床面**　ソフトローム層中に形成され、カマド周辺は堅く踏まれているが他は僅かに硬化面を確認できる程度である。　**壁溝**　北・西・南辺に部分的に途切れ幅15cm前後・深さ13cm前後で回り、東壁には検出されない。　**覆土**　ロームブロックを含む土層も認められるが黒色土系を主体とし概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　無柱構造である。
出土遺物　1は小形甕で口縁が短く外傾し、胴部縦位箆ケズリを施し、下半は欠損するが台付小形甕であろう。2・3は外面箆ケズリの甕底部。4は須恵器甕片。5は須恵器蓋。6・7は非ロクロ土師器杯。8は赤彩の高杯脚。10は鉄製品で板状釘ないし楔であろう。11は断面円形を呈し鉄製紡錘車軸であろう。遺物出土位置は、1・2・4・7・9～11が床面直上、5・6・8がほぼ床面、3が覆土から出土する。8はほぼ床面から出土するが混入遺物である。

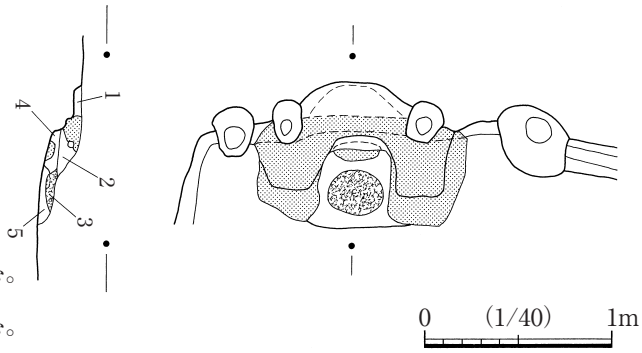
226号住居跡（弥生後期）（第367・373図、図版48・162）
位置　西調査区北西端。H2・H3。　**複合切り合い関係**　プラン北東側を調査区域外に置き未調査で、北西側を中世と思われる4号溝に、南側を228住にそれぞれ掘り込まれ検出する。　**平面形**　楕円形。　**主軸方位**　N－43°－W。　**床面規模**　5.05m（副軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.27～0.34m。　**炉跡**　床面中央からやや北に寄って設けられ、0.34×0.48mの楕円形を呈する。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、あまり踏みならされた形跡はない。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造と思われるがP3は228住に削平され検出されない。
出土遺物　本住居跡の出土遺物は、炉跡内から検出された輪積みが明瞭な甕口縁片1点である。

227号住居跡（弥生後期？）（第367・374図、図版48・162）
位置　西調査区北西側。I3。　**複合切り合い関係**　プラン北半分を229住・230住に掘り込まれ検出する。　**平面形**　楕円形？。　**主軸方位**　不明。　**床面規模**　不明。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.22～0.31m。　**炉跡**　削平され検出されない。　**床面**　平坦で堅く踏みしめられている。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　無柱構造と思われる。
出土遺物　1は須恵器甕で口縁複合口縁を呈し、外面および口縁内面に降灰により釉を被る。2は須恵器杯底部で体部下端底部手持ち箆ケズリを施す。3は底部と体部下端に手持ち箆ケズリを施す千葉市域産須恵器杯。4は非ロクロ土師器杯である。遺物出土位置は、全て覆土から検出し、住居跡との共伴関係には疑問を残す。住居跡平面形が円形で有ることを考慮すれば混入遺物であろう。

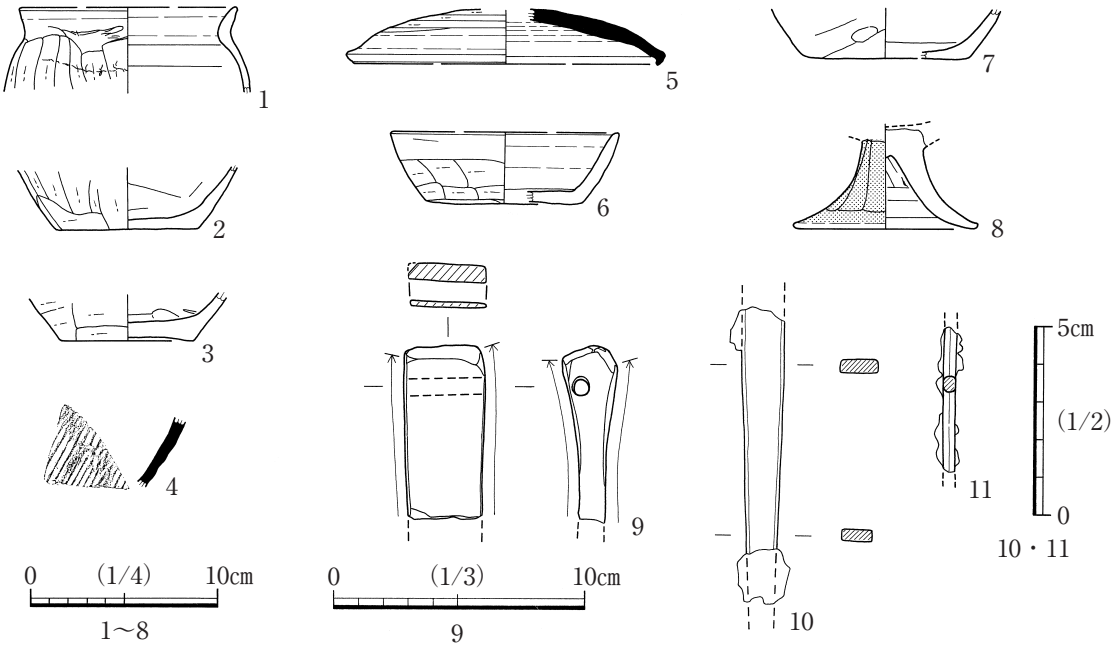
228号住居跡（第367・375図、図版48・162）
位置　西調査区北西側。H2・H3・I2・I3。　**複合切り合い関係**　複数の住居跡が複合する範囲に位置する。プラン北側で226住を掘り込み、中央に同規模の229住が床面を覆土中に置き、南側では230住、西辺で231住にそれぞれ覆土を掘り込まれ検出する。また、東辺で232住・233住と複合する。複合関係は、226住・227住・232住（弥生後期）→233住→228住→229住（古墳）→230住（奈良）→



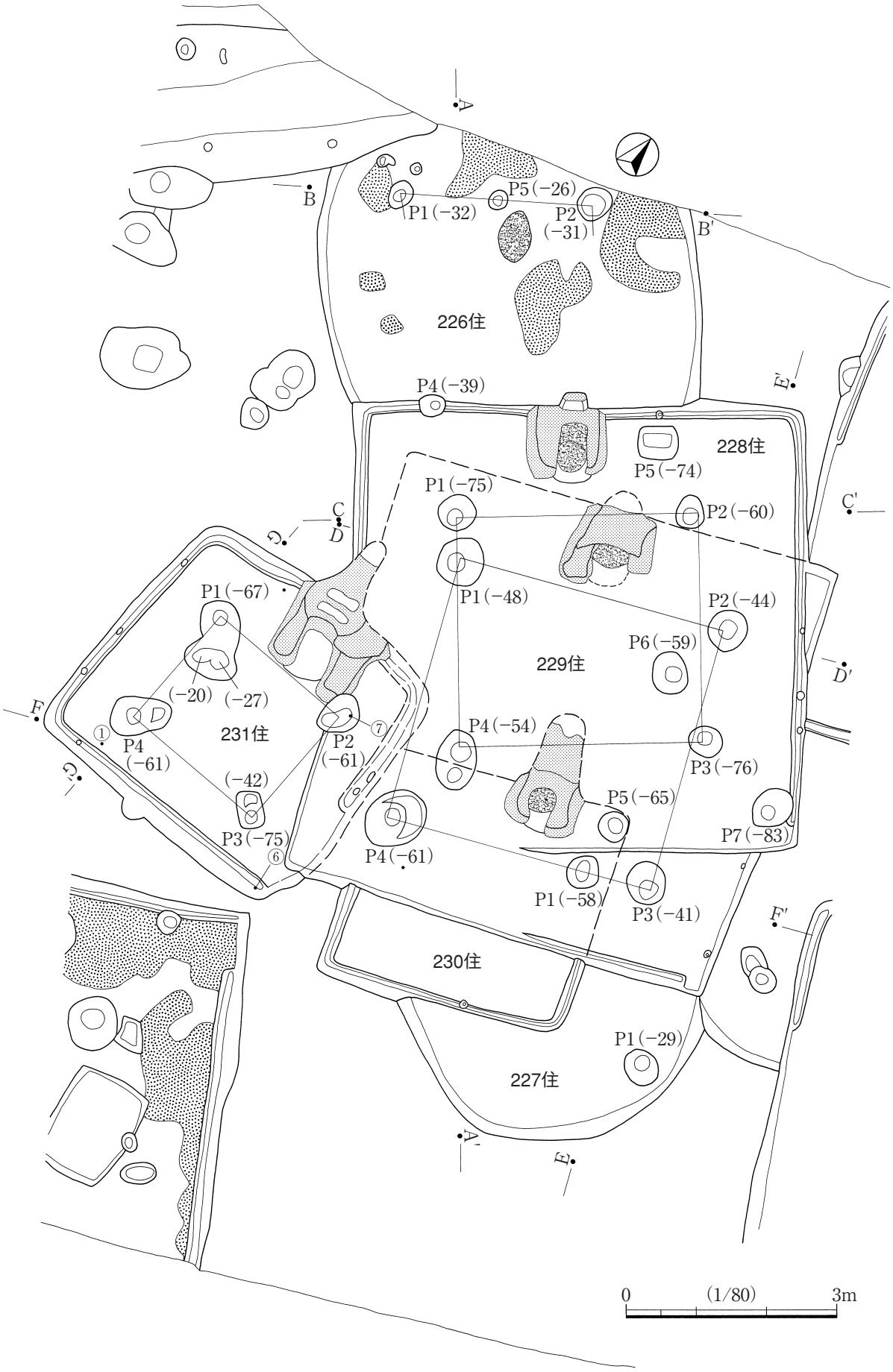
《225号住居跡覆土土層A－A'》
1　黒色土層。
2　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）と焼土粒を含む。
3　茶褐色土層。粘土を少量含む。
4　黒褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。
5　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
6　黒色土層。焼土粒を少量含む。
7　黄褐色土層。



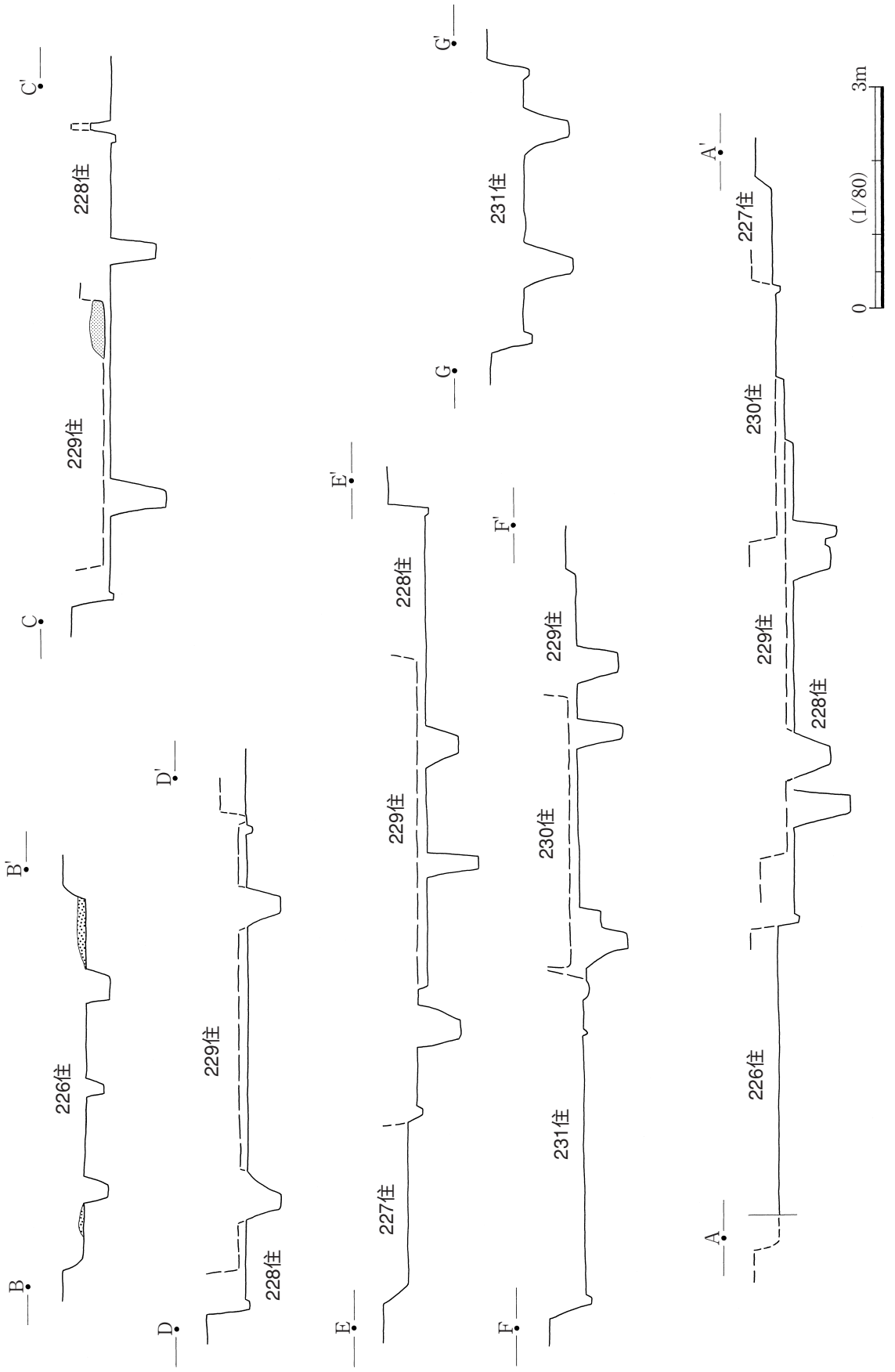
《225号住居跡カマド土層》
1　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を少量含む。
2　暗褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
3　暗褐色土層。焼土粒（3㎜以下）と粘土を含む。
4　にぶい黄褐色土層。粘土を少量含む。
5　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。



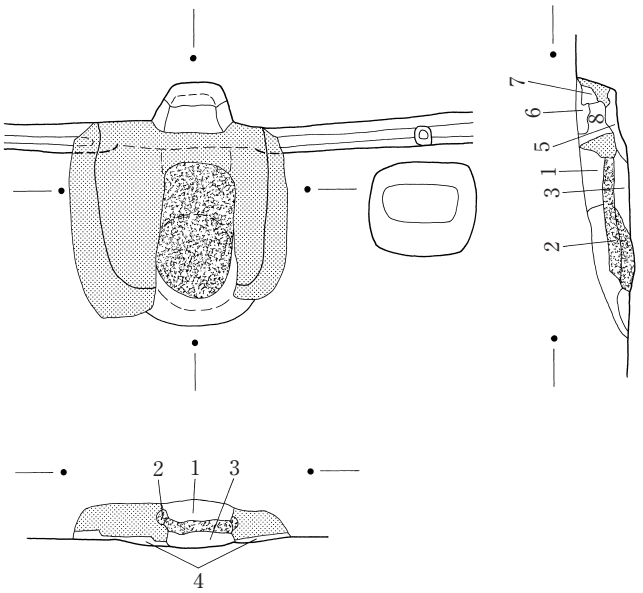
第366図　225号住居跡と出土遺物



第367図　226号～231号住居跡

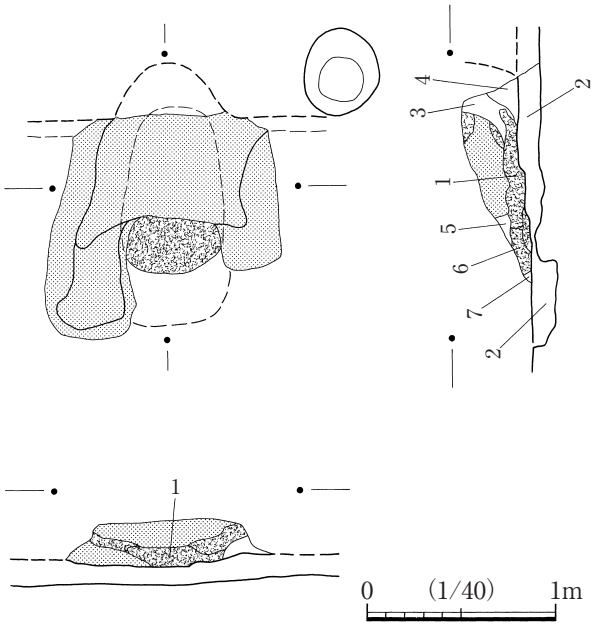


第368図　226号～231号住居跡断面図



《228号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。粘土とローム粒及び焼土（少量）を含む。
2　灰層。焼土粒（2㎜以下）を少量含む。
3　黒褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土粒（少量）を含む。
4　暗褐色土層。粘土粒とローム粒（2㎜以下）を含む。
5　暗褐色土層。粘土粒（少量）とローム粒（1㎜大以下）を含む。
6　にぶい黄褐色土層。焼土（少量）と粘土及びローム粒（1㎜大以下）を含む。
7　灰層。ローム粒を少量含む。
8　褐色土層。灰と焼土及びローム粒を少量含む。

第369図　228号住居跡カマド



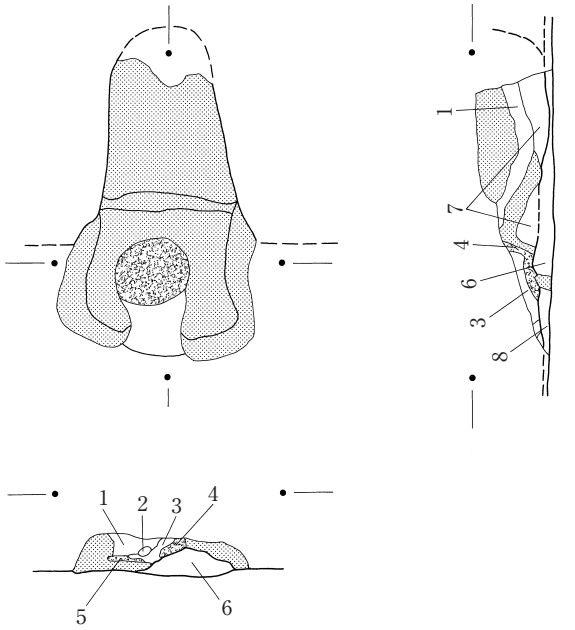
《229号住居跡カマド土層》
1　灰層。焼土と粘土粒を少量含む。
2　暗褐色土層。ローム粒（2㎜大以下）を含む。
3　にぶい黄褐色土層。2㎜以下のローム粒と焼土粒を含む。
4　褐色土層。ローム粒（少量）と粘土（多い）及び炭（少量）を含む。
5　暗褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と焼土（少量）を含む。
6　灰赤色土層。焼土と灰及びローム粒（少量）を含む。
7　灰褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と灰を含む。

第370図　229号住居跡カマド

231住（奈良～平安）である。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－40°－W。　**床面規模**　6.16m（主軸）×6.25m（副軸）。　**床面積**　38.44㎡。　**残存壁高**　0.49～0.62m。　**カマド**　北西辺中央北に敷設される。　**床面**　ハードローム層上に形成され、平滑で堅緻である。　**壁溝**　幅８～10cm・深さ７～９cmで四周するが南東辺と西南辺南半分は複合により不明確である。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　P１～P４の４柱構造でP４には掘り直しの跡が認められる。P５はカマド右側に設けられた方形を呈する貯蔵穴である。

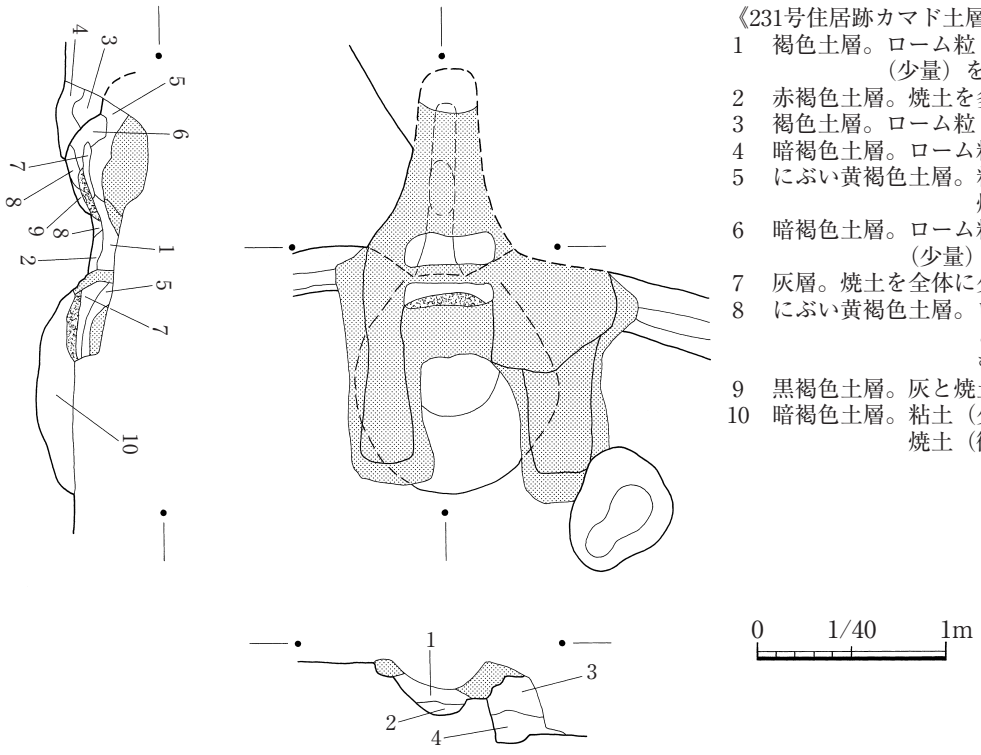
出土遺物　１は外面縦位箆ケズリ甕。２は内面ミガキの杯蓋模倣杯で内面漆塗りであろう。３は須恵

器脚片で長方形の透かしと段を有する。4は鉢形甕で外面ケズリ状篦ナデを施す。遺物出土位置は、全て覆土から検出し、住居跡との共伴遺物を明確にできない。帰属時期は他の住居跡との切り合い関係から推察できよう。



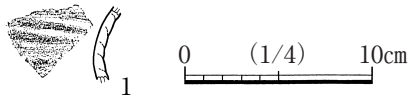
《230号住居跡カマド土層》
1　にぶい黄褐色土層。2㎜以下のローム粒と焼土粒を含む。
2　灰黄褐色土層。粘土（多い）と焼土及びローム粒（2㎜以下）を少量含む。
3　褐灰色土層。粘土と焼土粒（多い）を含む。
4　灰黄褐色土層。粘土（多い）と焼土及びローム粒を少量含む。
5　灰層。粘土と焼土を全体に少量含む。
6　暗褐色土層。ローム粒（2㎜大以下）を含む。
7　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土（少量）を含む。
8　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を多く含む。

第371図　230号住居跡カマド

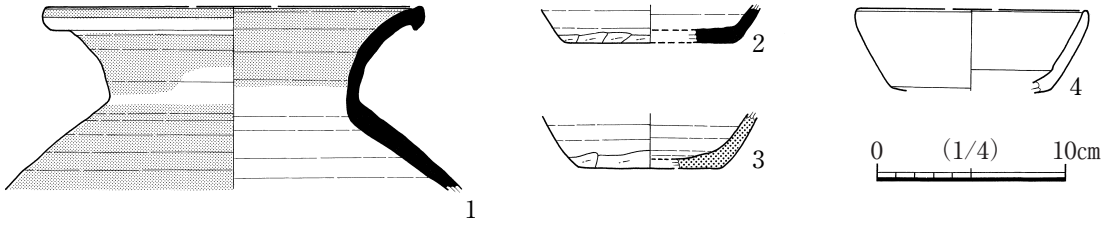


《231号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土（少量）を含む。
2　赤褐色土層。焼土を多く含む。
3　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を含む。
4　暗褐色土層。ローム粒（2㎜以下）を含む。
5　にぶい黄褐色土層。粘土とローム粒および焼土を少量含む。
6　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土（少量）及び炭を含む。
7　灰層。焼土を全体に少量含む。
8　にぶい黄褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土（少量）を含む。
9　黒褐色土層。灰と焼土（少量）を含む。
10　暗褐色土層。粘土（少量）とローム土及び焼土（微量）を含む。

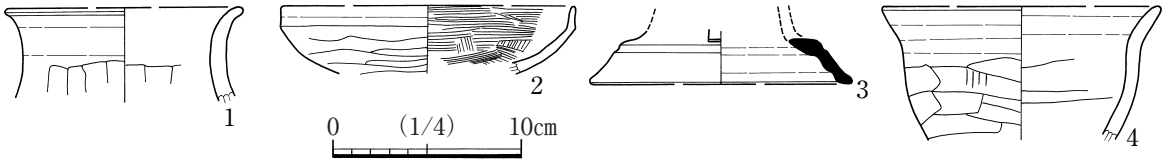
第372図　231号住居跡カマド



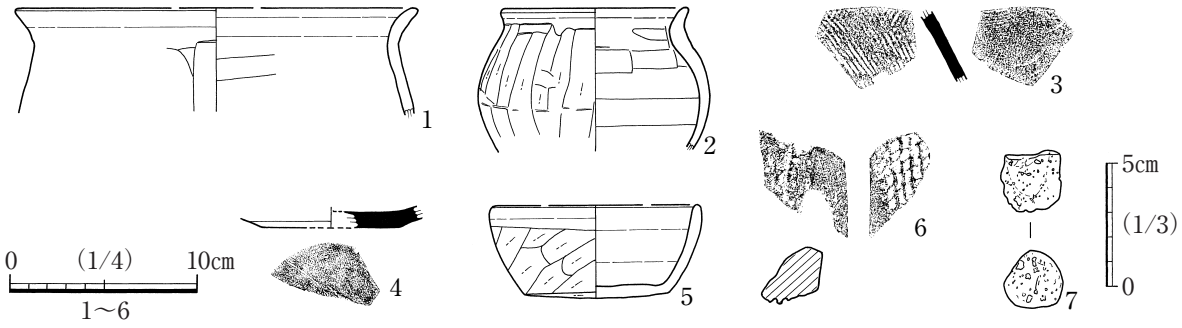
第373図　226号住居跡出土遺物



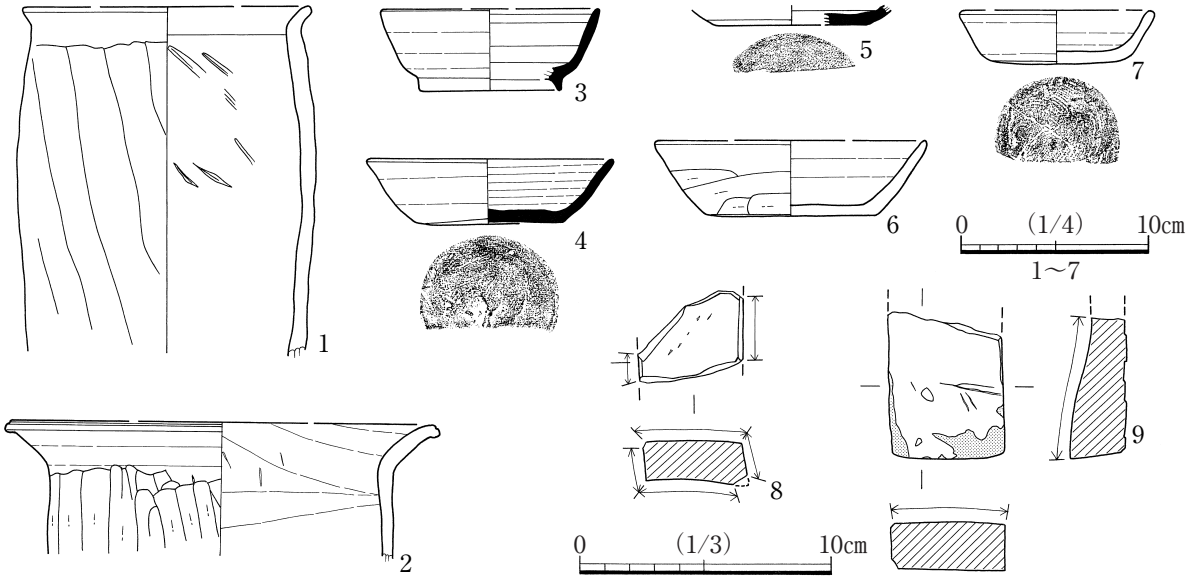
第374図　227号住居跡出土遺物



第375図　228号住居跡出土遺物



第376図　230号住居跡出土遺物



第377図　231号住居跡出土遺物

229号住居跡（第367・378図、図版49・162・163）

位置　西調査区北西側。Ｈ２・Ｈ３・Ｉ２・Ｉ３。　複合切り合い関係　228住覆土南に大きく掘り込み重複する。また、西南辺で231住、南覆土中に230住にそれぞれ掘り込まれ検出する。　平面形　北西隅が228住覆土中に構築され確認されないが方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－20°－Ｗ。　推定床面規模　6.07ｍ（主軸）×6.25ｍ（副軸）。　推定床面積　36.99㎡。　残存壁高　0.45～0.46ｍ。　カマド　北辺中央に敷設されるものであろう。　床面　ハードローム層を深く掘り込み形成されている。229住の床と０～５㎝の差であり、一部は229住床面と区別できない。　壁溝　南側の一部で確認するだけであるが。本来は全周していたことと思われる。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ４には掘り直しの跡が認められる。

出土遺物　１～４は外面縦位、下端斜位の篦ケズリを施す甕で口径19.5㎝～20.7㎝、１・２の器高29.6～31.7㎝を計る。５は口縁が僅かに外反する球胴甕気味の甕で外面篦ナデを施す。６は肉薄で口縁大きく折れ口縁端部を上方に摘み出す縦位篦ケズリの甕。７は須恵器身で口縁短く内径し底部２分の１程に回転篦ケズリを施す。TK209型式期に比定できよう。８は径１㎝・長さ3.8㎝の管状の土製品。９は擦痕を残す自然石形の軽石である。遺物出土位置は、１～６・８がカマド燃焼部、７・９が覆土から検出する。住居跡共伴遺物は１～６の甕類と９の土製品で７・９は228住居跡の帰属時期を示す資料と見なすことができよう。

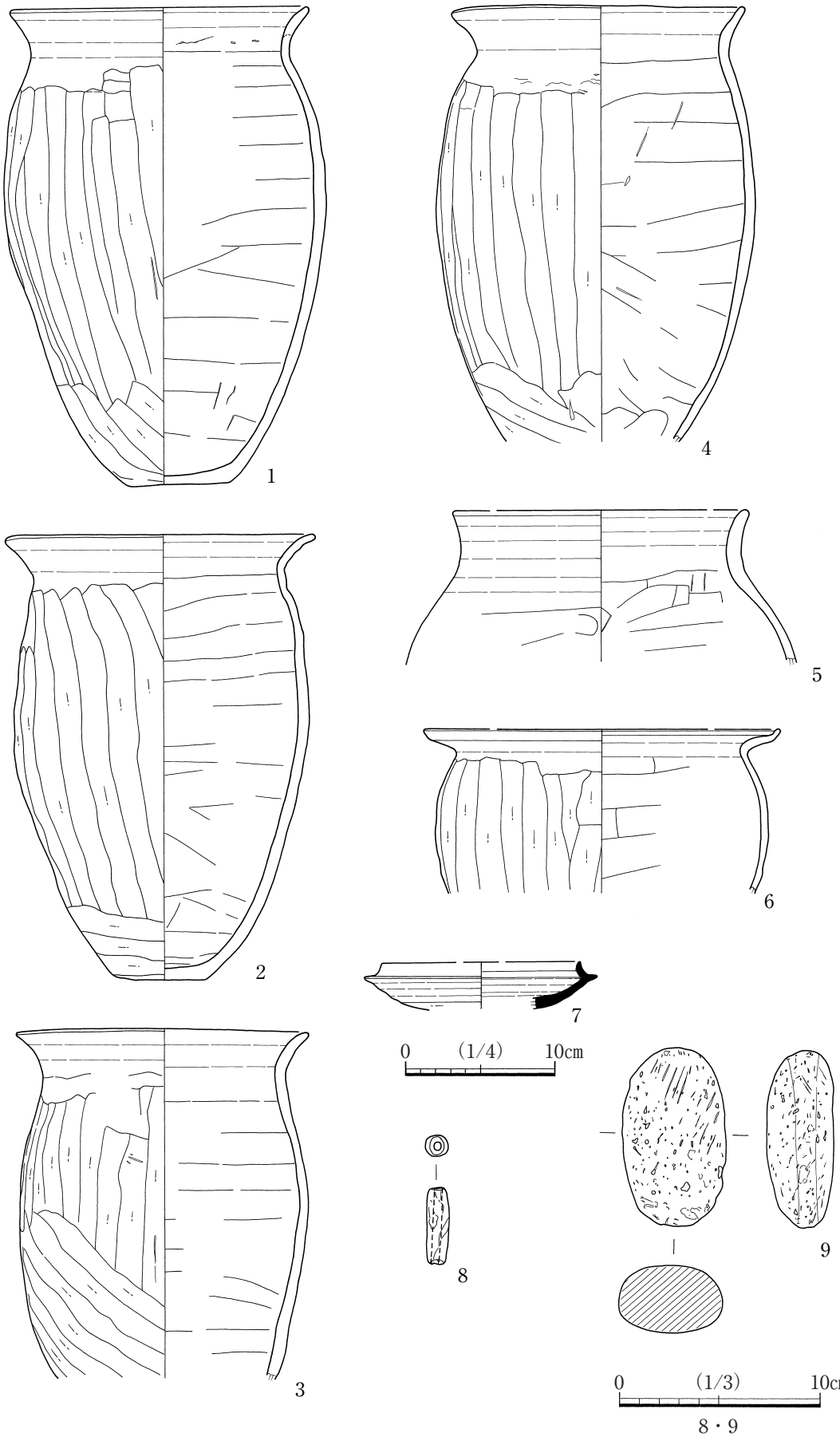
230号住居跡（第367・376図、図版49・163）

位置　西調査区北西側。Ｉ３。　複合切り合い関係　229住の覆土中にプラン北半分を構築し、南東辺で弥生後期の227住を掘り込んで検出する。　平面形　プラン北半分の掘り込みは未確認であるが南半分が遺存し方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－18°－Ｗ。　推定床面規模　3.20ｍ（主軸）×3.40ｍ（副軸）。　推定床面積　11.09㎡。　残存壁高　0.24～0.33ｍ。　カマド　北辺中央から右（東）に寄って敷設される。　床面　ハードローム層上面に形成され、あまり踏みならされてはいない。　壁溝　南半分は幅８～10㎝・深さ６～10㎝で回ることから本来は四周するものであろう。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造であろう。

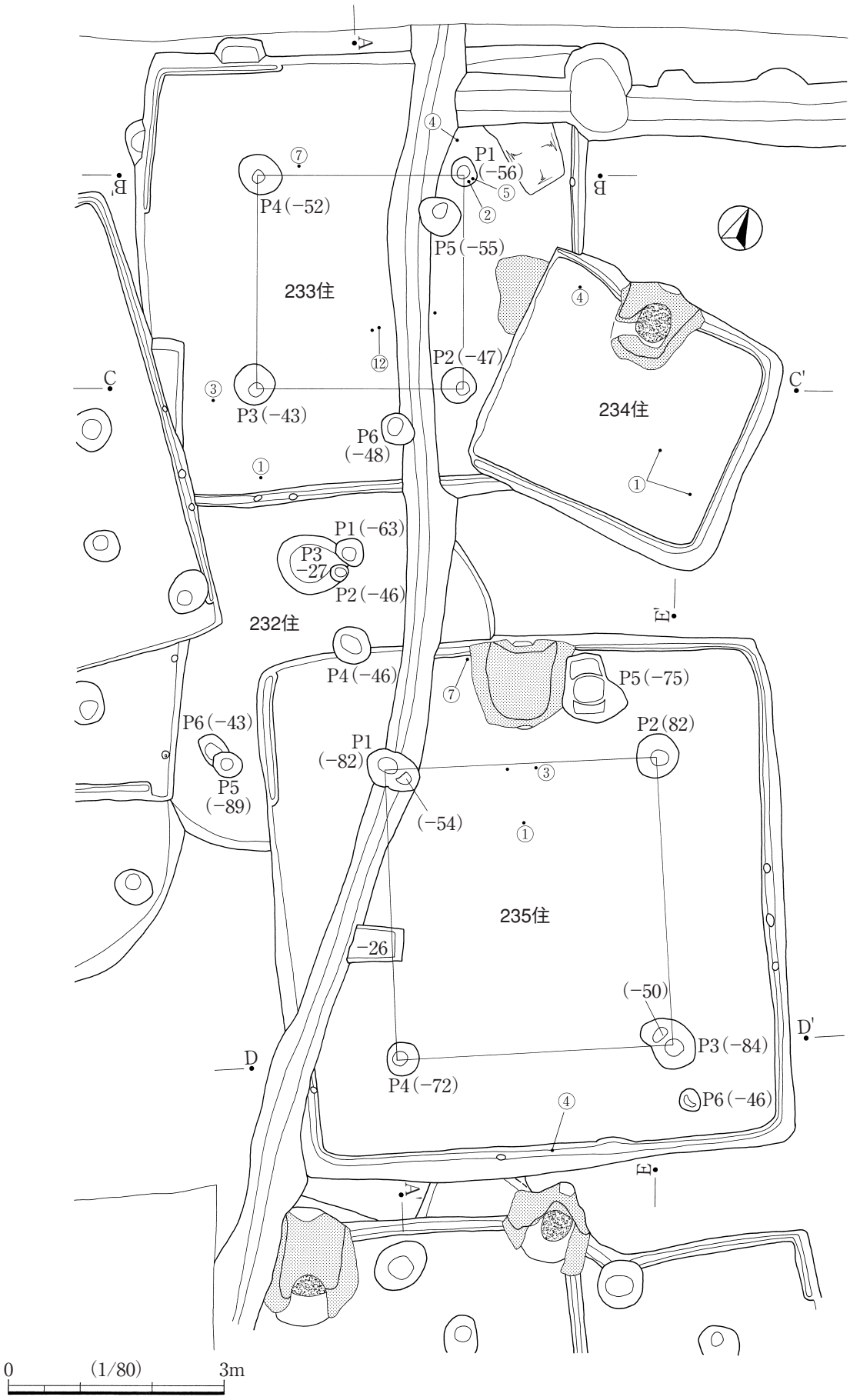
出土遺物　１は口縁が短く外傾する篦ケズリの甕。２は小形の縦位篦ケズリ甕。３は須恵器甕小片。４は底部回転篦ケズリの須恵器杯。５は箱形の非ロクロ土師器杯。６は平瓦片。７は擦痕を残す自然石形の軽石である。遺物出土位置は、１・３がカマド燃焼部、２・４・５が覆土から出土する。全ての遺物が住居跡の帰属時期を示す資料と見なされる。

231号住居跡（第367・377図、図版49・163）

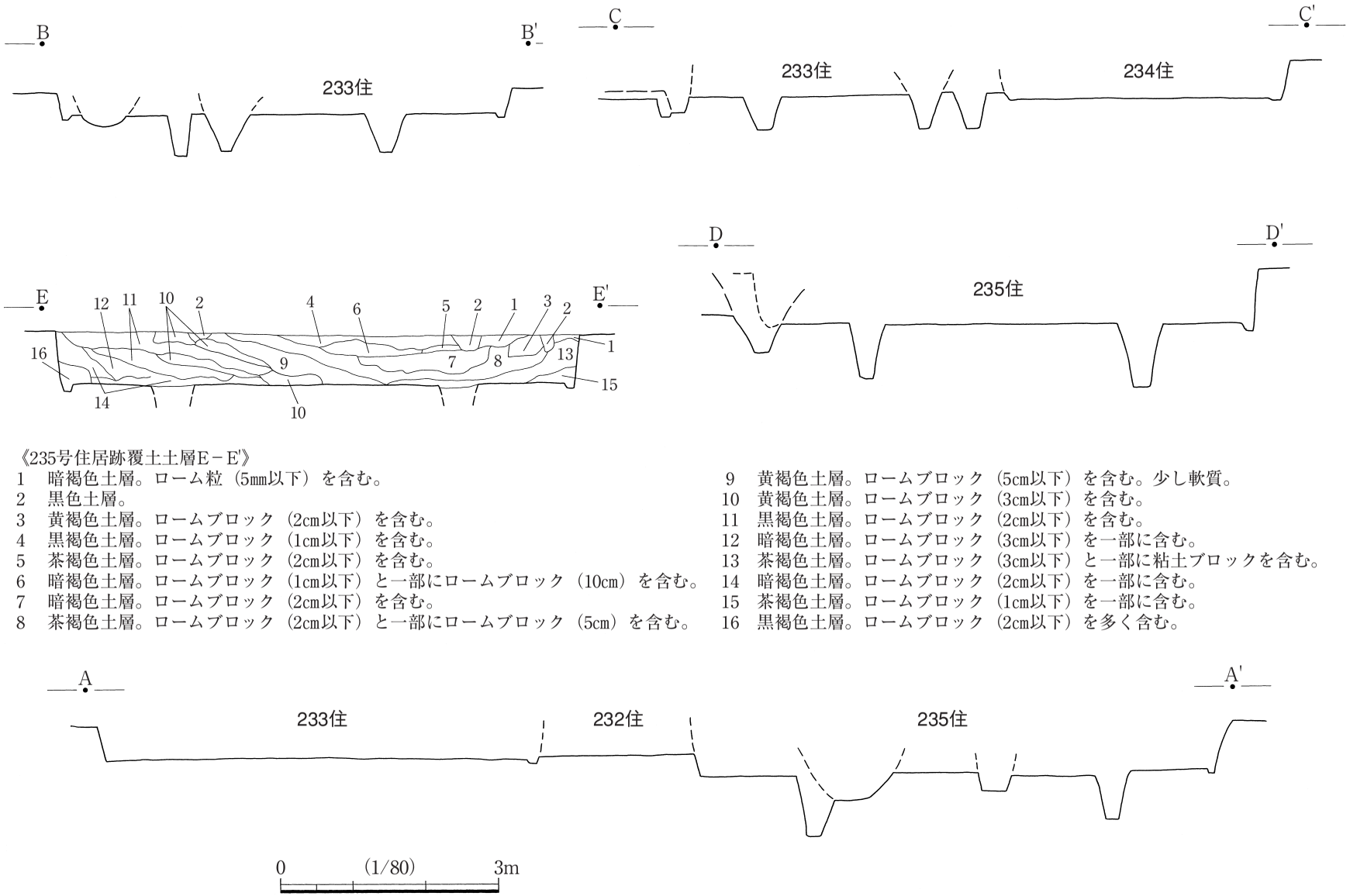
位置　西調査区北西側。Ｉ２・Ｉ３。　複合切り合い関係　プラン東辺で228住・229住・230住をそれぞれ掘り込み検出する。　平面形　東辺が229住覆土中に構築され不鮮明であるが隅円方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－２°－Ｅ。　床面規模　3.73ｍ（主軸）×4.20ｍ（副軸）。　床面積　15.32㎡。　残存壁高　0.40～0.50ｍ。　カマド　北辺中央に敷設され、煙道部は壁から1.0ｍ程突出する。　床面　ハードローム層上に形成され、平滑で且つ堅緻である。　壁溝　東辺が不鮮明であるが幅10～20㎝・深さ７～10㎝を測りほぼ四周するものであろ。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の



第378図　229号住居跡出土遺物



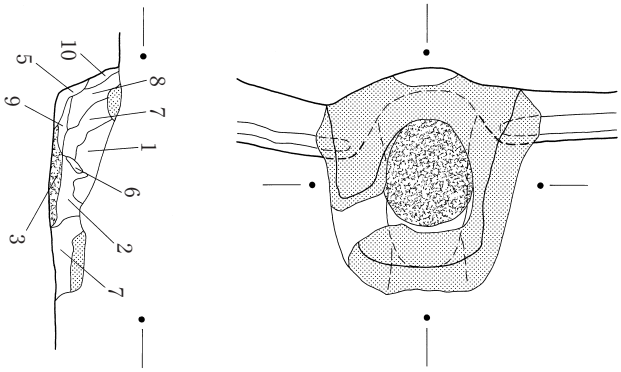
第379図　232号～235号住居跡



《235号住居跡覆土土層E－E'》

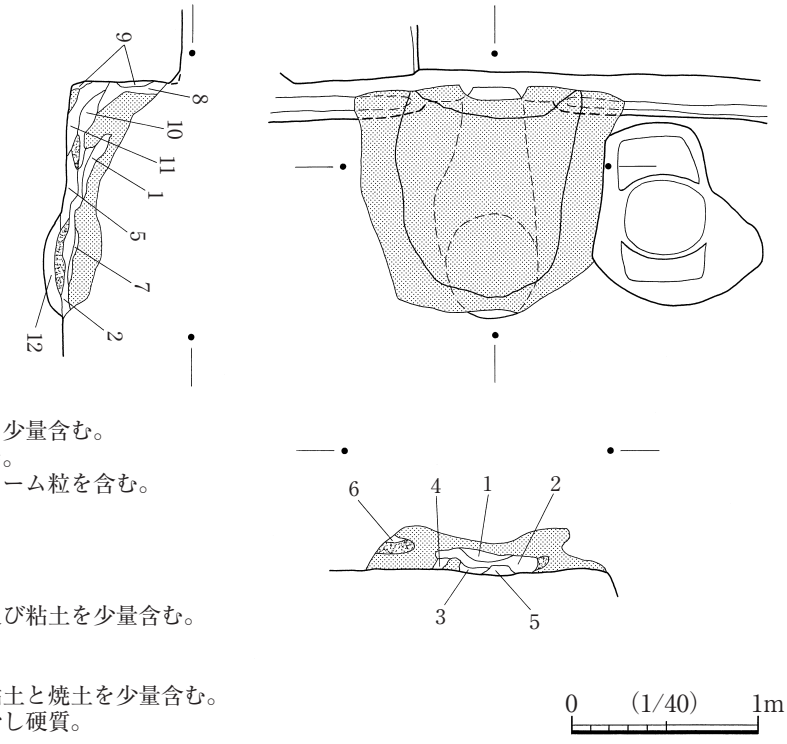
1　暗褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
2　黒色土層。
3　黄褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
4　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
5　茶褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
6　暗褐色土層。ロームブロック（1cm以下）と一部にロームブロック（10cm）を含む。
7　暗褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
8　茶褐色土層。ロームブロック（2cm以下）と一部にロームブロック（5cm）を含む。
9　黄褐色土層。ロームブロック（5cm以下）を含む。少し軟質。
10　黄褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を含む。
11　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
12　暗褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を一部に含む。
13　茶褐色土層。ロームブロック（3cm以下）と一部に粘土ブロックを含む。
14　暗褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を一部に含む。
15　茶褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を一部に含む。
16　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を多く含む。

第380図　232号～235号住居跡断面図



《234号住居跡カマド土層》
1　にぶい赤色土層。2㎜以下のローム粒と粘土粒を含む。
2　褐色土層。焼土と粘土及びローム土を含む。
3　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土粒（3㎜以下）を含む。
4　黒褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
5　暗褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土（少量）を含む。
6　焼土をうすく含む灰層。
7　褐色土層。1㎜大以下のローム粒と粘土粒を少量含む。
8　褐色土層。焼土と粘土及びローム粒を少量含む。
9　暗褐色土層。焼土と炭とローム粒を少量含む。
10　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を多く含む。

第381図　234号住居跡カマド



《235号住居跡カマド土層》
1　灰黄褐色土層。ローム粒と粘土粒を少量含む。
2　青灰色土層。焼土粒を少量含む灰層。
3　明赤褐色土層。焼土粒（多い）とローム粒を含む。
4　ロームブロック。
5　褐色土層。ローム粒を含む。
6　灰色土層。粘土粒を含む。
7　炭層。
8　にぶい黄褐色土層。焼土とローム及び粘土を少量含む。
9　褐色土層。ローム粒を多く含む。
10　暗褐色土層。第8層に似る。
11　黒褐色土層。ローム粒（多い）と粘土と焼土を少量含む。
12　褐色土層。ローム粒を多く含み、少し硬質。

第382図　235号住居跡カマド

4柱構造で各柱穴には掘り替えの跡が認められ建て替えが行われたことが想定できる。

出土遺物　1は口縁が短く外傾する筒状の甕。2は無頸の縦位箆ケズリの甕。3は三角形断面の高台を有する須恵器。4は底部手持ち箆ケズリ須恵器杯。5は底部回転箆ケズリの須恵器杯。6は内面見込みが明瞭な底部手持ち箆ケズリの非ロクロ土師器杯。7は底部回転糸切りでカワラケ。8・9は鉄器用砥石である。遺物出土位置は、7が主柱穴のＰ2、1がほぼ床面、2がカマド燃焼部、6は南東隅の壁溝内、3・4・8が覆土から出土する。7のカワラケ以外は住居跡に共伴するものであろう。

232号住居跡（弥生後期）（第379図、図版49）

位置　西調査区北西側。Ｈ３・Ｉ３。　複合切り合い関係　複数の住居跡が複合する範囲に位置する。プラン北側で233住、南東で235住、西辺228住と229住にそれぞれ掘り込まれ、また、東側床面を南北に貫通する６号溝に掘り込まれ検出する。　平面形　円形？。　主軸方位　Ｎ－29°－Ｗ。　推定床面規模　一辺5.40ｍ。　推定床面積　不明。　残存壁高　0.30～0.36ｍ。　炉跡　削平され検出されない。　床面　ソフトローム層上に形成され、中央部が踏みならされて堅い。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ４・Ｐ５が主軸に直交する南側柱列と思われ４柱構造と思われる。

出土遺物　出土遺物は無いが住居跡平面形円形を呈することから弥生後期であろう。

233号住居跡（第379・383図、図版49・163・164）

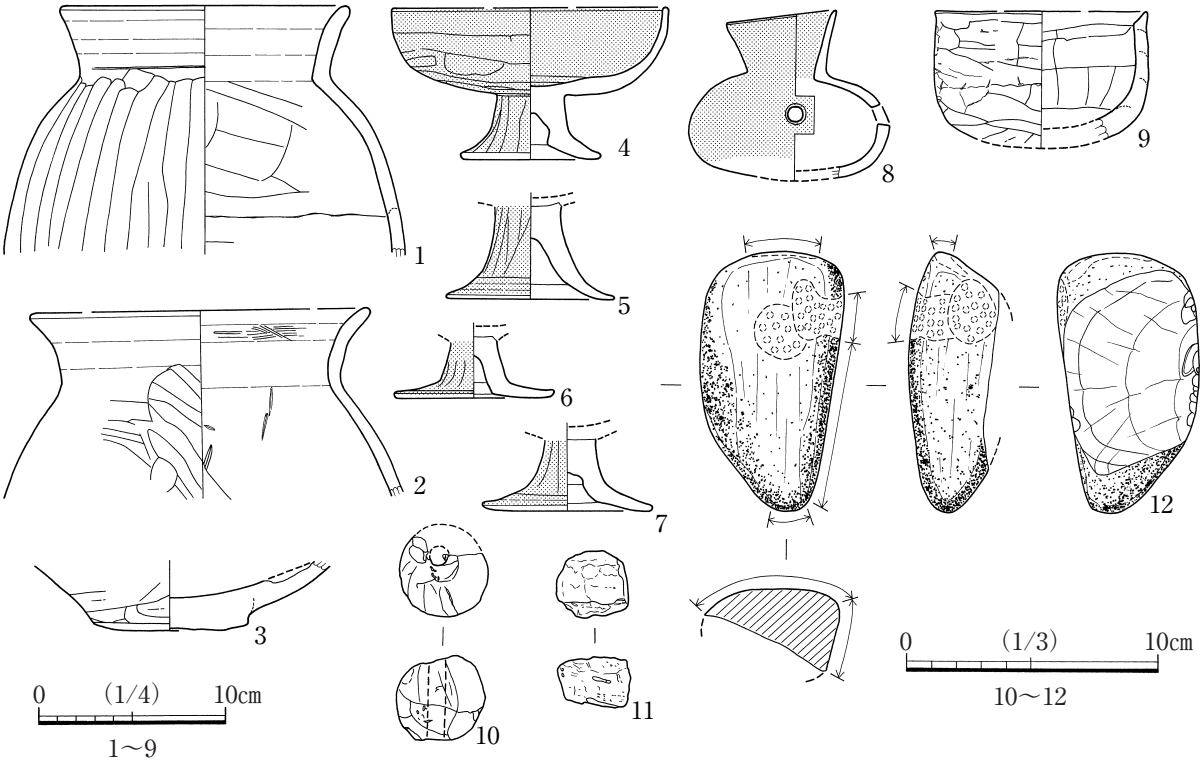
位置　西調査区北西側。Ｈ３。　複合切り合い関係　複数の住居跡が複合する範囲に位置する。プラン北側は調査区域外と接し、北東半分は５号溝に、西南辺は228住と229住に、東隅は234住にそれぞれ掘り込まれ検出する。また、床面南北方向に後世の溝が貫く。　平面形　方形。　主軸方位　Ｎ－67°－Ｅ。　床面規模　5.85ｍ（主軸）×5.97ｍ（副軸）。　床面積　34.82㎡。　残存壁高　0.38～0.40ｍ。　カマド　234住に削平されカマド構築材の白色粘土を検出するだけで、東辺中央からやや右（南）側に寄って敷設される。　床面　ハードローム層を掘り込み形成され、平坦で堅緻である。　壁溝　遺存部分は北辺東半分を除き幅８～10㎝･深さ４～７㎝を測り回る。　覆土　土層全体にロームブロックを含みプラン南側から埋め戻された状況が窺える。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造である。

出土遺物　１は口縁「く」の字気味に外傾する中胴甕で胴部縦位箆ナデを施す。２は口縁外反する箆ナデ甕。３は突出する底部で球胴甕であろう。４～７は赤彩の椀形高杯である。４の杯部は腰が張りやや深い椀で短脚である。脚は、４・６・７が裾部が屈曲気味である。８は口縁が短く僅かに外傾する赤彩の坩形土器で胴中位に１孔を有する。９は丸底で輪積みが明瞭に残る鉢で口縁内面に面を有する。10は径3.5㎝の土玉。11は軽石小片。12は敲打痕と磨る面が認められる石器である。遺物出土位置は、２・５が主柱穴のＰ１、３・４・７・９・12がほぼ床面、１・６・８・10・11が覆土から出土する。主柱穴やほぼ床面出土の遺物の他に、覆土出土の１・６・８も住居跡の帰属時期を示す資料と見て良い。

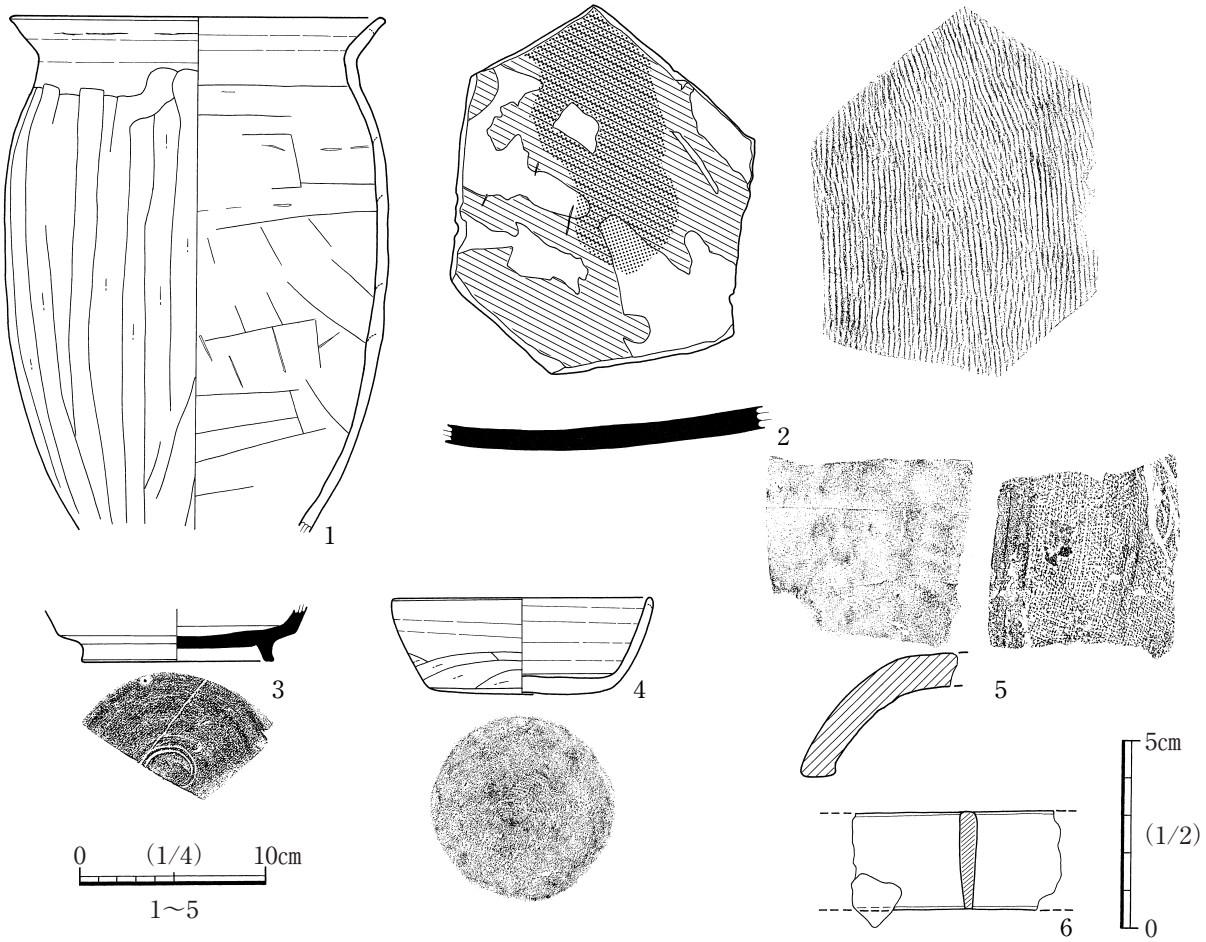
234号住居跡（第379・384図、図版50・164）

位置　西調査区北西側。Ｈ３・Ｈ４。　複合切り合い関係　233住東辺および床面を掘り込み検出する。　平面形　隅円で横長方形。　主軸方位　Ｎ－１°－Ｅ。　床面規模　3.00ｍ（主軸）×3.80ｍ（副軸）。　床面積　11.44㎡。　残存壁高　0.47～0.49ｍ。　カマド　　北辺中央に敷設される。　床面　平滑で堅緻である。　壁溝　北・東・南辺に幅12～14㎝・深さ４～12㎝を測り回り、西辺には検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

出土遺物　１は口縁外傾する胴部縦位の箆ケズリ甕。２は須恵器大甕片で六角形を呈し、凹面に研磨痕（斜線範囲）と墨（ドット範囲）が付着する転用硯である。３はやや肉厚の須恵器高台付杯。４は内面見込みが明瞭な非ロクロ土師器杯。５は丸瓦片。６は板状の鉄製品である。遺物出土位置は、４



第383図　233号住居跡出土遺物



第384図　234号住居跡出土遺物

が床面直上、１がほぼ床面、２・５がカマド燃焼部、３・６が覆土から出土する。６以外の遺物が住居跡の帰属時期を示す資料である。

235号住居跡（第379・385図、図版50・164）

位置　西調査区北西側。Ｈ３・Ｈ４・Ｉ３・Ｉ４。　複合切り合い関係　234住南側に近接して位置し、プラン北西隅で弥生後期の232住を掘り込んで検出する。また、西側には南北に貫く６号溝が床面を掘り込む。　平面形　僅かに縦に長い方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－29°－Ｗ。　床面規模　7.05ｍ（主軸）×6.70ｍ（副軸）。　床面積　46.90㎡。　残存壁高　0.63～0.73ｍ。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　全体的に堅く踏みしめられており堅緻である。やや凹凸が目立つ。　壁溝　北と西辺で一部途切れるが幅15㎝前後・深さ８～15㎝を測り回る。　覆土　不明。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造でＰ１・Ｐ３には掘り直しの跡が認められ建て替えの可能性を示す。Ｐ５はカマド右袖に接して設けられた貯蔵穴で、プラン円形と方形の掘り直しの跡が認められる。

出土遺物　１は扁平な皿状杯で内面に弱いミガキ、底体部外面ミガキ状篦ナデを施す。２は杯蓋模倣杯で内面光沢のあるミガキを施す。３は口縁が「く」の字に短く内傾する平底気味の杯身模倣杯。４・５は半円球状の小形杯。６は大形高杯で口縁外面に段を有し、全面光沢のあるミガキで漆塗りであろう。７は杯内面ミガキで短脚気味の高杯。８は円錐台形状の土製支脚である。遺物出土位置は、７が床面直上、８がカマド燃焼部から出土する以外は覆土からの出土であるが、全ての遺物が住居跡の帰属時期を示す資料と見なしてよかろう。

236号住居跡（弥生後期？）（第386図、図版164）

位置　西調査区中央北西側。Ｊ４。　複合切り合い関係　プラン北半分を237住・238住に掘り込まれ、西側覆土上層に239住が複合し、床面西側を７号溝が南北に貫き僅かに遺存する。　平面形　不整円形？　主軸方位　不明。　床面規模　不明。　床面積　不明。　残存壁高　0.08ｍ前後。

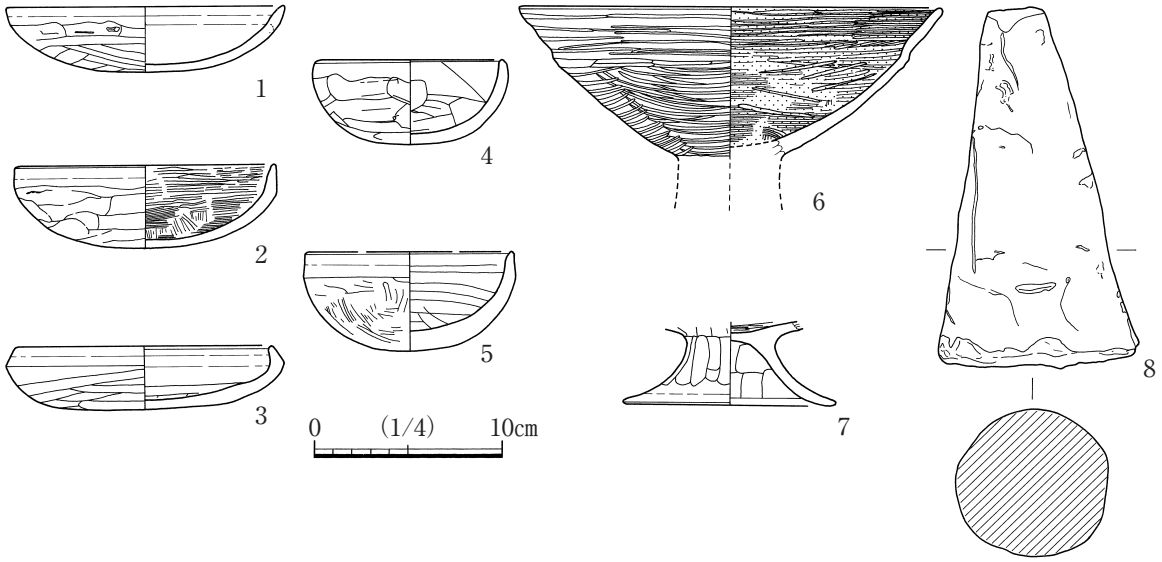
炉跡　プラン北側に炉跡の存在が想定されるが238住に削平され検出されない。　床面　ソフトローム層中に構築されやや堅い程度である。　壁溝　検出されない。　覆土　不明。　主柱穴　無柱構造である。

出土遺物　１・２は杯身模倣杯で底体部外面篦ケズリ、内面底部に弱いミガキを施す。遺物出土位置は、２点共覆土から検出し、住居跡との共伴関係には疑問を残す。住居跡平面形が円形であることを考慮すれば混入遺物であろう。

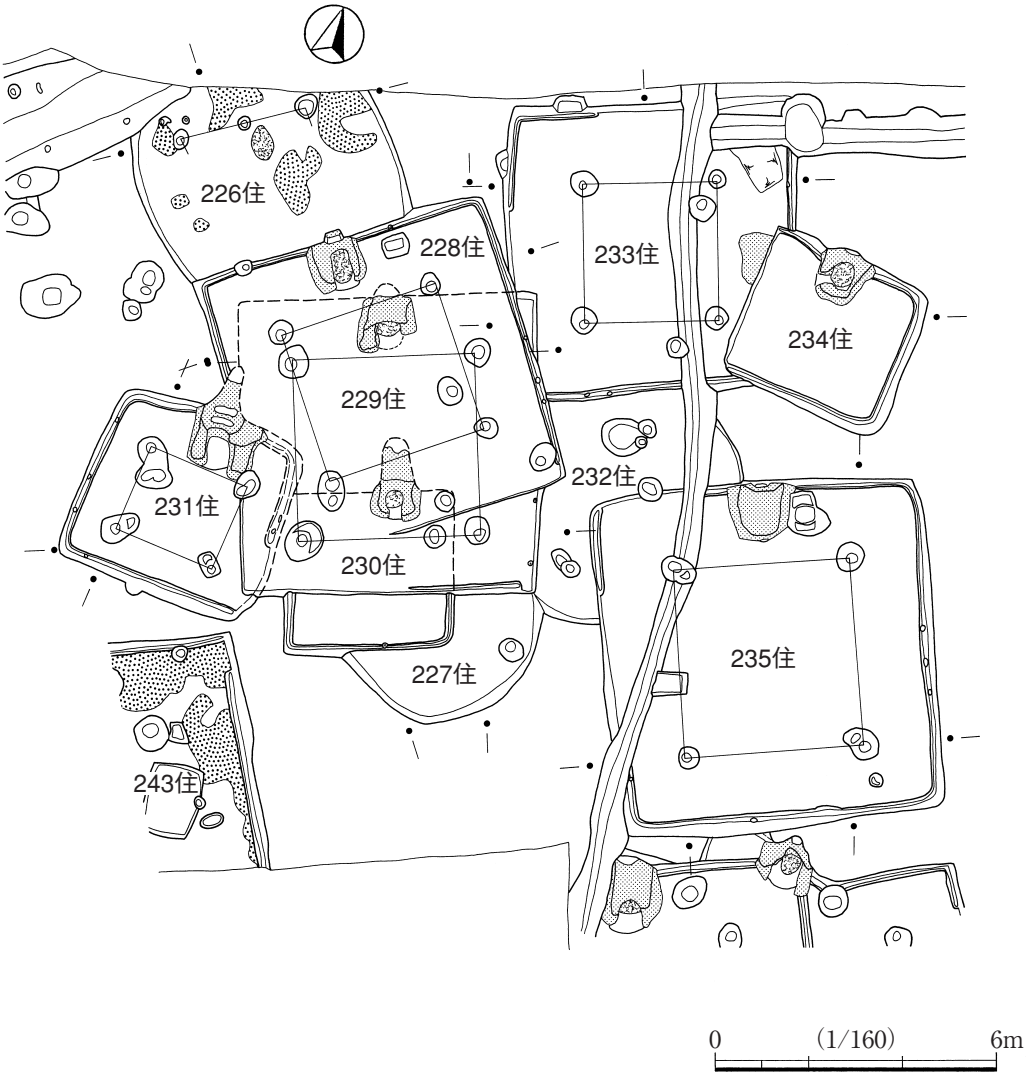
237号住居跡（第386・393図、図版50・165）

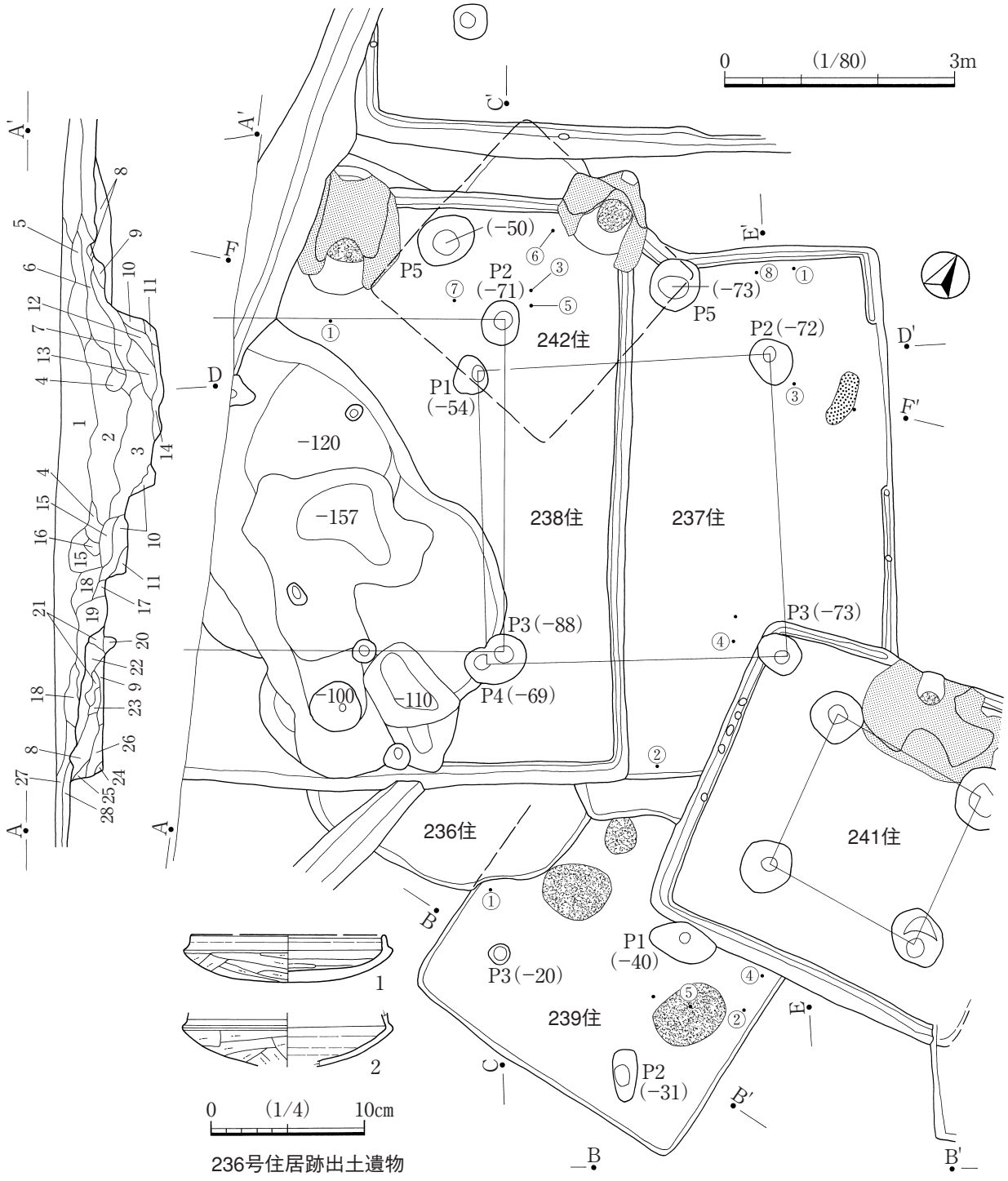
位置　西調査区北西側。Ｉ４・Ｊ４。　複合切り合い関係　プラン西側半分を238住と242住に大きく床面まで削平され、東南側で東隅および床面を241住に掘り込まれ検出する。　平面形　方形？

主軸方位　Ｎ－33°－Ｗ。　推定床面規模　6.60ｍ（主軸）×6.65ｍ（副軸）。　推定床面積　43.33㎡。　残存壁高　0.53～0.55ｍ。　カマド　北西辺に敷設されるものと思われるが削平され詳細は不明である。　床面　238住床面より僅かに高位に形成され、残存する東側半分は比較的堅く踏みしめられている。　壁溝　残存部分は途切れ幅10㎝前後・深さ15㎝前後を測り回る。　覆土　床面直上土



第385図　235号住居跡出土遺物

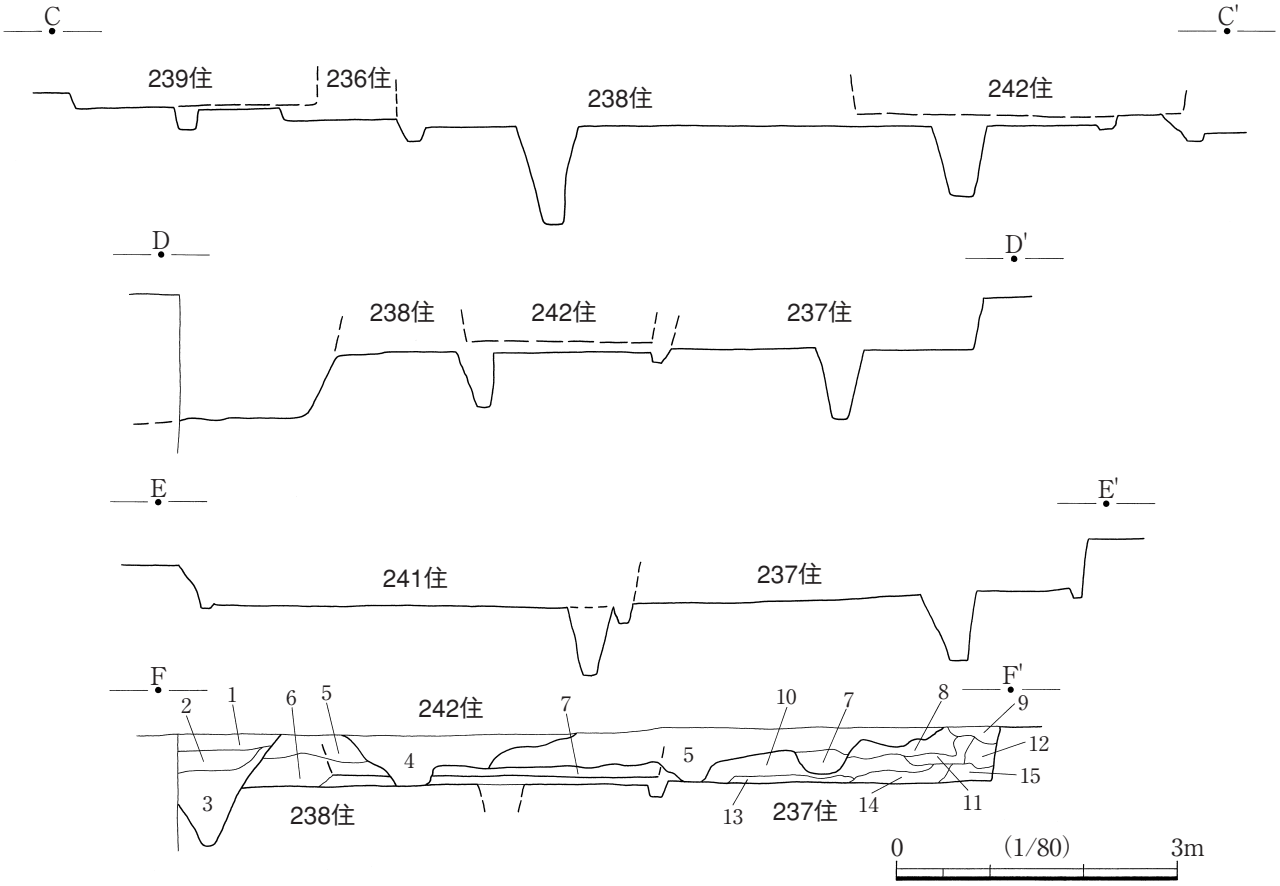




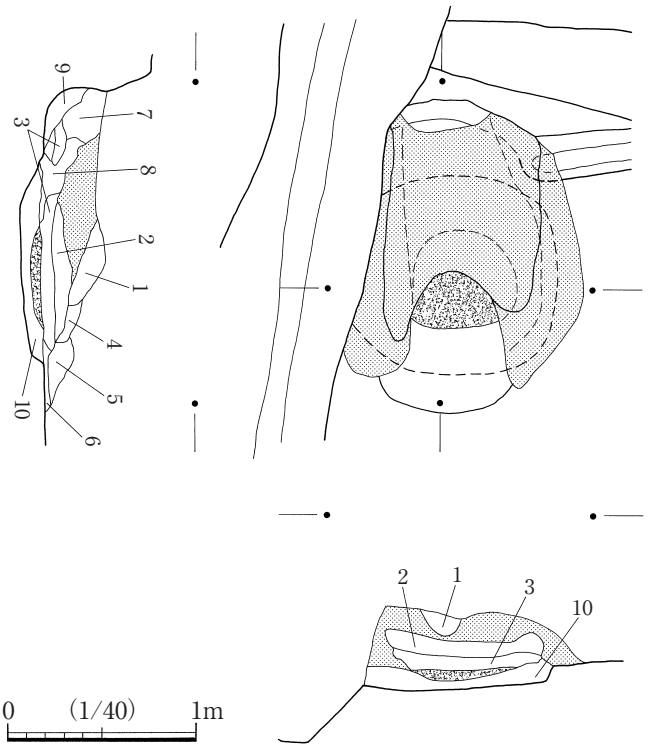
《238号住居跡覆土土層A－A'》

1　黄褐色土層。ロームブロック（2～3㎜）を混入。(10YR5/8)
2　黒褐色土層。ロームブロック（0.5～1㎜）を混入。(5YR3/1)
3　褐色土層。ロームブロック（5～6㎜）を混入。(10YR4/4)
4　黄褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を多く混入。(10YR5/6)
5　黒褐色土層。ロームブロック（0.5～1㎜）を多く混入。(5YR3/1)
6　暗赤褐色土層。ロームブロック（0.5～1㎜）を多く混入。(5YR3/2)
7　黒褐色土層。ロームブロック（0.5～1㎜）を極少量混入。(5YR2/1)
8　黄褐色土層。ロームブロック（2～3㎜）を混入（多め）。(10YR5/6)
9　褐色土層。ロームブロック（2～3㎜）と焼土ブロック混入。(10YR4/6)
10　暗褐色土層。ロームブロック（2～3㎜）を混入。(10YR3/3)
11　褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を混入（多量）。(10YR4/4)
12　黒褐色土層。ロームブロック（0.5～1㎜）を混入（少量）。(5YR2/1)
13　暗褐色土層。ロームブロック（2～3㎜）を混入（10より少量混入）。(10YR3/3)
14　黒褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を混入（少量）。(5YR2/1)
15　暗褐色土層。ロームブロック（1㎜前後と2～3㎜）を混入。(10YR3/4)
16　黒褐色土層。木の根によるカク乱。(10YR3/2)
17　黒褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）と灰（少量）を混入。(5YR2/1)
18　褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を混入。(10YR4/4)
19　暗褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を混入。(10YR3/3)
20　黒褐色土層。ロームブロック（2㎜前後）を混入。(10YR2/3)
21　暗褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を混入（18・19より少量混入）。(10YR3/3)
22　暗褐色土層。ロームブロック（2㎜前後）を混入。(10YR3/4)
23　暗褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。(10YR3/3)
24　黒褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。(10YR2/2)
25　黒褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。(10YR3/2)
26　褐色土層。ロームブロック（1～2㎜）を多く混入。(10YR4/4)
27　褐色土層。ロームブロック（2㎜前後）を混入。(10YR4/6)
28　にぶい黄褐色土層。ロームブロック（2㎜前後）を混入。(10YR4/3)

第386図　236号～239号・242号住居跡



第387図　236号～239号住居跡断面図



《238号住居跡覆土土層F－F'》
1　黒色土層。
2　黒色土層。ローム粒を少量含む。
3　黒褐色土層。ロームブロックを含む。
4　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
5　黒褐色土層。
6　茶褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
7　黒褐色土層。ロームブロック（1cm以下）を含む。
8　茶褐色土層。ローム粒（5mm以下）を含む。
9　黒褐色土層。ローム粒（5mm以下）を含む。
10　茶褐色土層。ロームブロック（3cm以下）を多量に含む。
11　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
12　黒褐色土層。ロームブロック（2cm以下）を含む。
13　黒褐色土層。炭と焼土を少量含む。
14　黄褐色土層。ローム粒（5mm以下）を含む。
15　黄褐色土層。黒色ブロックとローム粒（5mm以下）を含む。

《238号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。ローム粒（1mm大以下）を多く含む。
2　橙色土層。灰を少量含む焼土。
3　灰層。焼土粒を少量含む。
4　にぶい黄褐色土層。焼土（少量）とローム粒（1mm大以下を多量）を含む焼土。
5　褐色土層。ローム粒（1mm大以下）と粘土（少量）を含む。
6　黒褐色土層。ローム粒（3mm以下）と焼土を少量含む。
7　褐色土層。ローム粒（1mm大以下）と焼土（少量）を含む。
8　褐色土層。焼土（多量）と粘土（少量）を含む。
9　暗褐色土層。ローム粒（1mm大以下）を多く含む。
10　褐色土層。ロームブロックを多く含む。

第388図　238号住居跡カマド

層に焼土および炭化材片が混入し火災住居を想定させ、覆土にロームブロックを含むことから、火災住居跡が埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造で、北辺壁面に接するＰ５はカマド右側に設けられた円形の貯蔵穴の可能性がある。

出土遺物　１は口縁が短く外反する胴部縦位の箆ケズリ甕。２は杯蓋模倣杯で内面光沢のあるミガキで漆塗りを施す。３は杯身模倣杯で口縁が「く」の字に短く内傾する杯。４は丸底の口縁が外反する杯。５は内面黒色処理ミガキの高杯。６は研磨痕を残し砥石と思われる。７は研磨痕が明瞭に認められる鉄器用砥石。８は磨り面が認められる自然石形の石器である。遺物出土位置は、２・３・８が床面直上、４・６・７がほぼ床面、１・５を覆土から検出する。土器や石器全てが住居跡に共伴する遺物であろう。

238号住居跡（第386・394図、図版50・165）

位置　西調査区北西側で西半分は調査区域外に接する。Ｊ４。　**複合切り合い関係**　プラン西側半分は未調査で、北側に242住が覆土中に床面を置き、西側で237住を、南辺で236住をそれぞれ掘り込み検出する。　**平面形**　西半分は未調査であるが方形を呈するものであろう。

主軸方位　Ｎ－31°－Ｗ。　**床面規模**　7.45m（主軸）。　**推定床面積**　55.0㎡。　**残存壁高**　0.50前後。　**カマド**　北西辺中央に敷設されるものと思われ、左袖部は６号溝に削平されて遺存する。

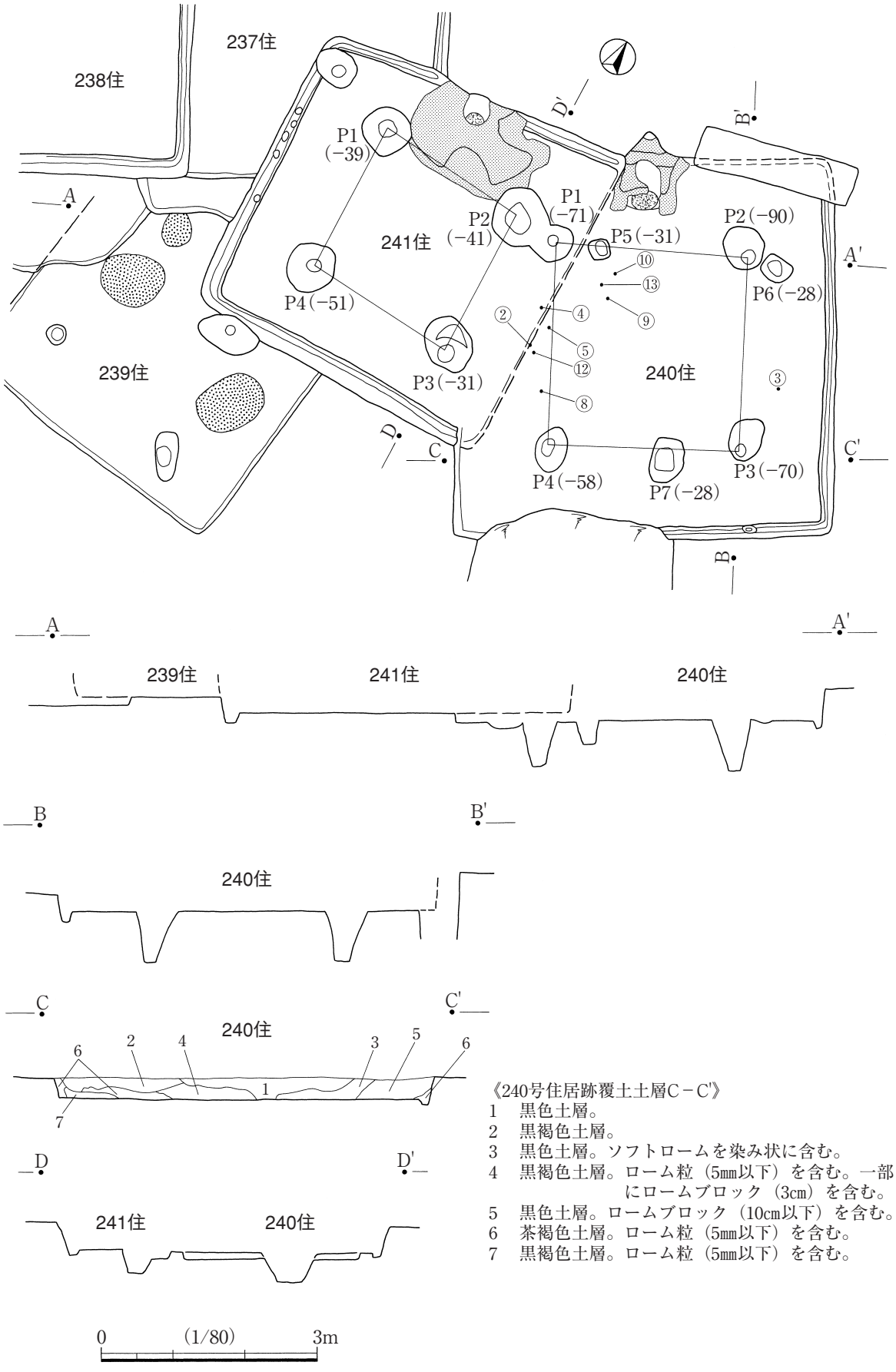
床面　残存部分はハードローム層を掘り込み比較的平坦で堅緻である。　**壁溝**　残存部には幅８～10㎝・深さ10㎝を測り回る。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　４柱構造で有るがＰ１・Ｐ４は調査区域外にあり未検出である。Ｐ５はカマド右側に設けられた円形の貯蔵穴である。

出土遺物　１は胴部縦位の箆ケズリ甕。２口縁シャープな「コ」に字状で胴部ヨコナデを施す甕。３は無頸の縦位箆ケズリ甕。４は無頸で口縁が大きく外反し甑であろう。５は縦位箆ケズリ甕。６は須恵器甕片。７は平底で口縁内湾気味の内外面黒色処理を施す。８はカワラケの小皿。９はミニチュア土器。10は丸瓦片。11は研磨痕が認められ鉄器用砥石である。遺物出土位置は、１が床面直上、２・４・10がカマド燃焼部から出土し、他は覆土からである。１は遺存度から見ても住居跡共伴遺物と認められるが、カマド出土遺物については242住のカマド遺物と誤認した可能性もありその出土状況に疑問が残る。

239号住居跡（第386・395図、図版50・165）

位置　西調査区北西側。Ｊ４・Ｊ５。　**複合切り合い関係**　プラン北東側で241住に掘り込まれ、西辺で236住覆土層中に床面を置き検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　Ｎ－４°－Ｅ。　**床面規模**　4.00m（副軸）。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.08～0.15m。　**炉跡**　記録類では不明確であるが、床面に円形の焼土範囲が３カ所認められ炉跡である可能性が濃厚である。炉跡１は0.40×0.44m・炉跡２は0.78×0.84m・炉跡３は0.72×0.95mで楕円形を呈する。　**床面**　ソフトローム層中に形成され平坦で堅緻である。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　不明。　**主柱穴**　Ｐ１・Ｐ２を検出し４柱構造が想定されるが２穴のみの検出である。

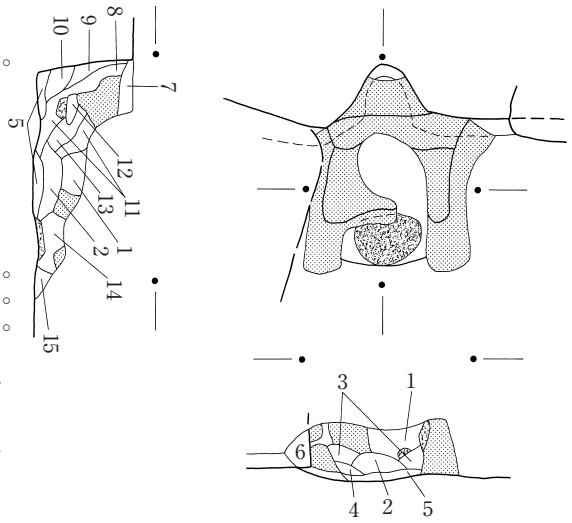
出土遺物　１は丸底胴長甕で胴外面上半ミガキ状箆ナデ、下半ケズリ状箆ナデを施し希薄な存在である。２は球胴甕胴部で上下に疑問が残るが上半箆ナデ、下半ミガキを施す。３は赤彩の平底を呈し、



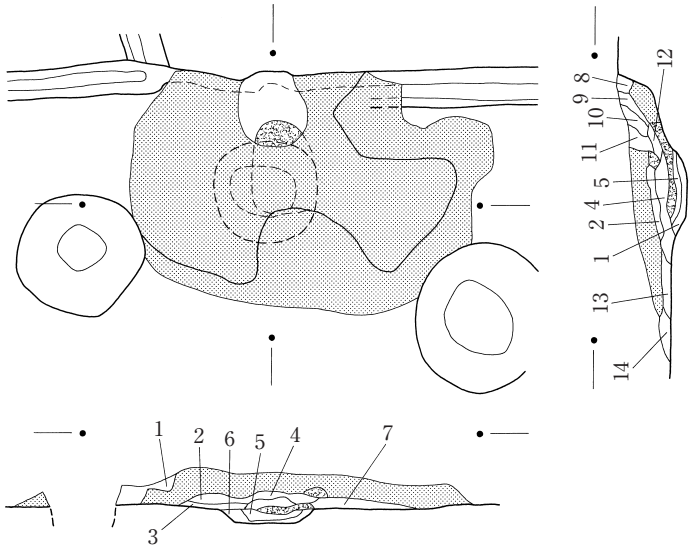
《240号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒色土層。
2　黒褐色土層。
3　黒色土層。ソフトロームを染み状に含む。
4　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。一部にロームブロック（3㎝）を含む。
5　黒色土層。ロームブロック（10㎝以下）を含む。
6　茶褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。
7　黒褐色土層。ローム粒（5㎜以下）を含む。

第389図　240・241号住居跡

《240号住居跡カマド土層》
1　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土（微量）を含む。
2　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と粘土と焼土を含む。
3　灰褐色土層。粘土（少量）と焼土及び炭を含む。
4　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土（少量）を含む。
5　褐色土層。粘土とローム土及び焼土を含む。
6　暗褐色土層。粘土とローム粒（1㎜大以下）を含む。
7　褐色土層。粘土にローム粒（1㎜大以下）を多く含む。
8　灰黄褐色土層。焼土と灰を少量含む。
9　にぶい黄褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土を含む。
10　褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土（微量）を含む。
11　暗褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土（少量）を含む。
12　灰褐色土層。粘土（少量）と焼土及び炭を含む。
13　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）と焼土（微量）及び粘土（少量）を含む。
14　褐色土層。粘土（少量）と焼土及び灰（微量）を含む。
15　黒褐色土層。焼土とロームブロック（2㎝大以下）を少量含む。



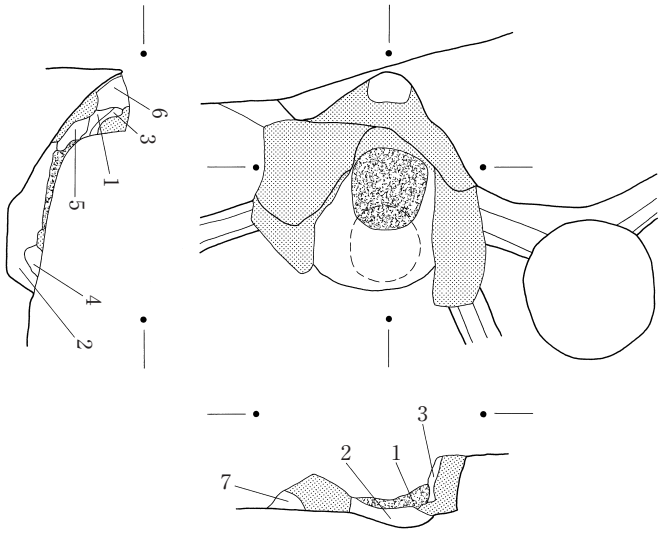
第390図　240号住居跡カマド



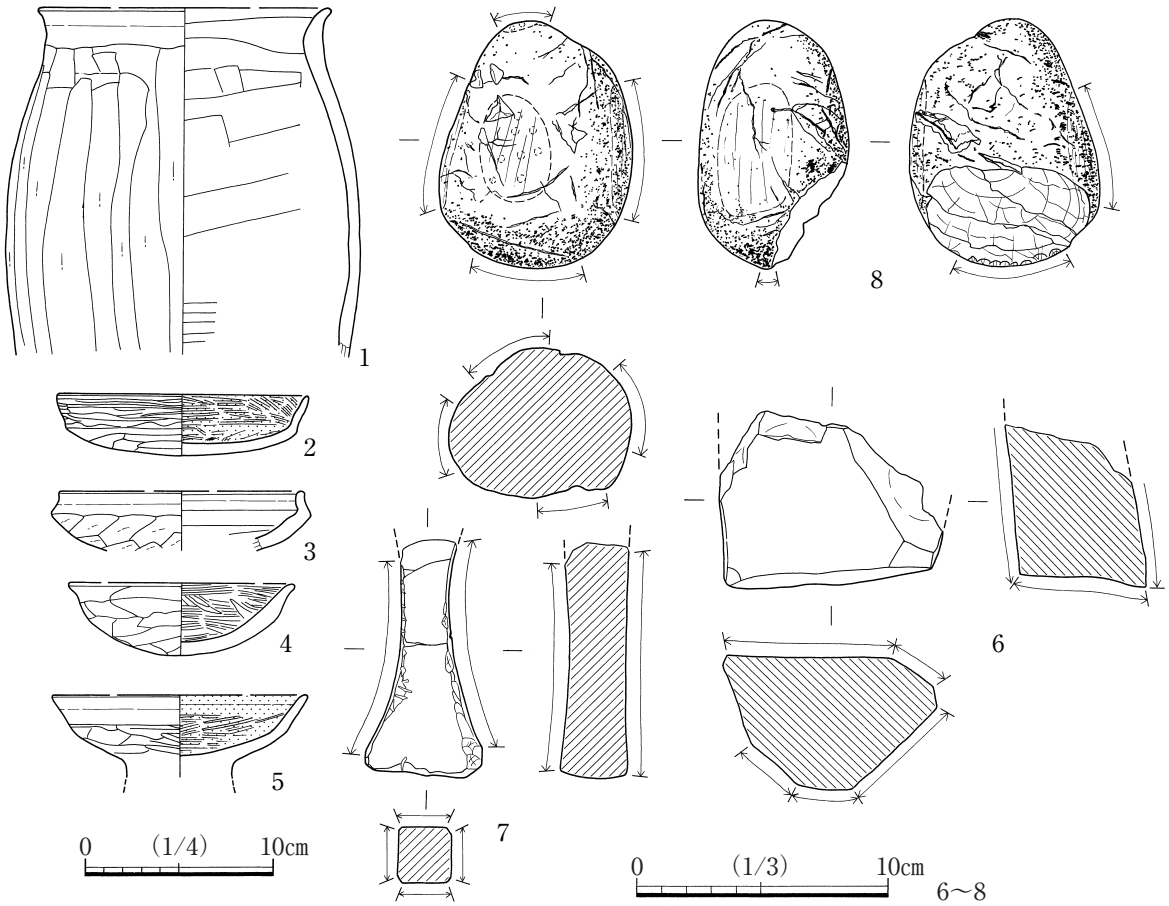
《241号住居跡カマド土層》
1　極暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）を少量含む。
2　褐灰色土層。焼土と粘土を少量含む灰層。
3　暗褐色土層。粘土と焼土（少量）を含む。
4　明赤褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
5　にぶい赤褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
6　褐色土層。ローム粒（1㎜以下）を含む。
7　明褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
8　黄褐色土層。粘土を少量含む。
9　褐色土層。粘土を含む。
10　暗褐色土層。焼土と灰（少量）を含む。
11　褐色土層。粘土とローム粒を少量含む。
12　褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土（微量）を含む。
13　黒褐色土層。焼土とローム粒（1㎜以下）を少量含む。
14　暗褐色土層。焼土と粘土を含む。

第391図　241号住居跡カマド

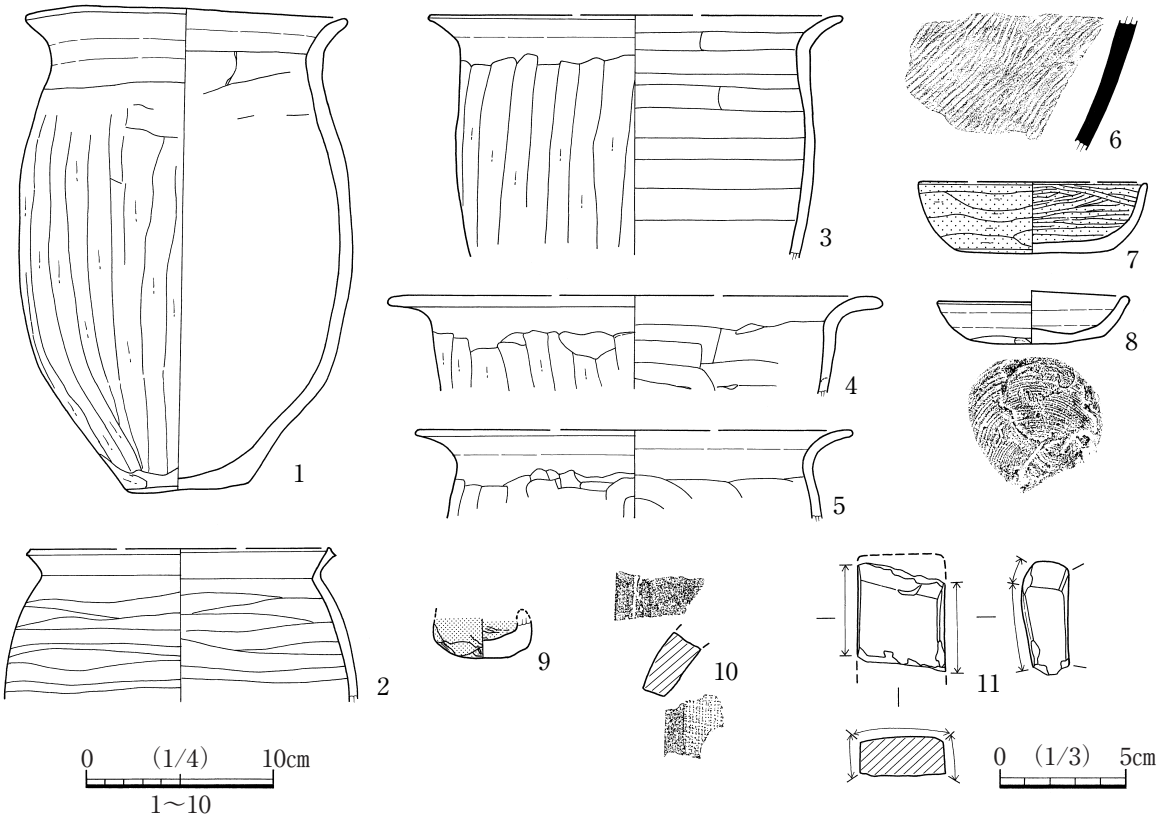
《242号住居跡カマド土層》
1　青灰色土層。（5PB6/1）焼土粒を含む灰層。
2　暗褐色土層。（7.5YR3/4）1㎜前後のローム粒を含む。
3　褐色土層。（7.5YR4/3）焼土と粘土（少量）を含む。（灰も微量含む。）
4　褐色土層。（7.5YR4/6）ローム塊を含む（1㎜前後のローム粒も多く含む）
5　明褐色土層。（7.5YR5/6）1㎜前後のローム粒を多く含む。
6　褐色土層。（7.5YR4/3）1㎜前後の粘土（薄く）を含む。
7　褐色土層。（7.5YR4/4）1㎜前後のローム粒を含む。



第392図　242号住居跡カマド



第393図　237号住居跡出土遺物



第394図　238号住居跡出土遺物

内面底部弱いミガキを施す。4は赤彩の椀形杯。5は赤彩高杯で杯部下に明瞭を有し、脚柱は柱状の袋状を呈し、裾部が屈曲する和泉期の特徴を明瞭に留める。6は軽石断片である。遺物出土位置は、2・4が床面直上、1・3・5がほぼ床面から出土し、6の軽石以外の土器全てが住居跡の帰属時期を示す資料と見なしてよかろう。

240号住居跡（第389・396図、図版50・51・166）

位置　西調査区中央から北西側。I5・J5。　**複合切り合い関係**　プラン北西側で241住に覆土上層と西辺を掘り込まれ、北東隅を近世の溝状の攪乱穴に、また南辺を中世の3号大型の竪穴状遺構に掘り込まれ検出する。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－33°－W。　**床面規模**　5.10m（主軸）×5.00m（副軸）。　**床面積**　26.23㎡。　**残存壁高**　0.24～0.43m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　平滑で堅緻である。　**壁溝**　東・南辺で幅8～10cm・深さ5～10cmを測り回るが西辺には検出されない。　**覆土**　黒色系を主体とし概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造で、P7は出入り口関連ピットであろう。

出土遺物　1は外面篦ケズリ甕。2は須恵器身でTK43～TK209型式期に比定できよう。3は杯身模倣杯で受部稜が僅かに鈍く突出し「く」の字に内傾する。4は浅い半円状の椀形杯。5も同様であろう。6は非ロクロ土師器杯で内面に斜格子暗文が施される。7は口縁外面に段を有する大形模倣杯。8は内外面に光沢のあるミガキを施し漆塗りであろう。9は丸底で口縁が短く開鉢。10は径3cm前後を計する土玉で孔無く表面に繊維状の紐の痕が残ることから、土玉を生乾きの状態で稲藁などで巻いた巻いたものと判断できる。11は鎌。12・13は刀子片であろう。遺物出土位置は、5・8が床面直上、2・4・9・10・12・13がほぼ床面、11がカマド覆土から出土し、1・3・6・7が覆土である。覆土出土の3・7も住居跡の帰属時期を示す資料と見なしてよかろう。

241号住居跡（第386・389・397図、図版50・51・166）

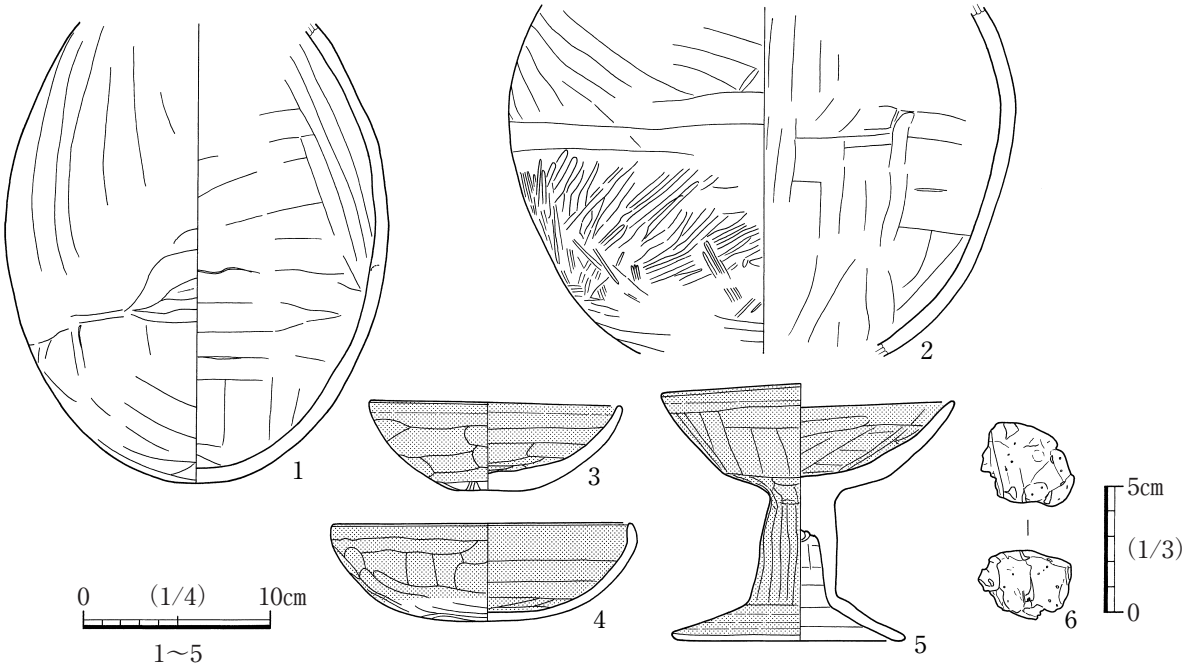
位置　西調査区中央から北西側。I4・I5・J4・J5。　**複合切り合い関係**　プラン北西側で237住、南西側で239住、東側で240住をそれぞれ掘り込み、東辺は不明確で検出する。　**平面形**　不整方形。　**主軸方位**　N－1°－W。　**床面規模**　4.24m（主軸）×4.30m（副軸）。　**推定床面積**　17.25㎡。　**残存壁高**　0.22～0.40m。　**カマド**　北辺中央に敷設される。　**床面**　中央に凹凸が目立つが比較的堅緻である。　**壁溝**　不明確な東辺以外では幅10～15cm・深さ5～10cmを測り回る。

覆土　不明。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造で、P2・P3には掘り直しが認められる。

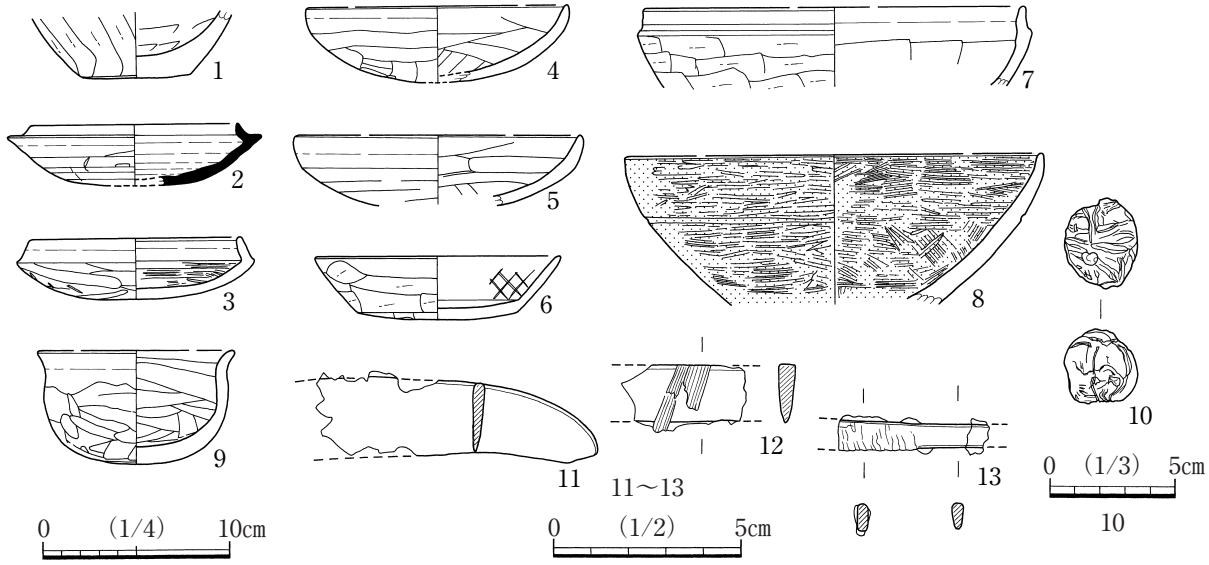
出土遺物　1は内面ミガキで丸底気味の鉢？2は口縁が立つ杯。3は接合しない2片からなり現存長10.5cm程を計る断面角状で釘とも思われる。遺物出土位置は、何れも覆土からの出土である。共伴する遺物が明確に認められないが、複合する240住－6の非ロクロ土師器杯が伴う可能性がある。

242号住居跡（第386図）

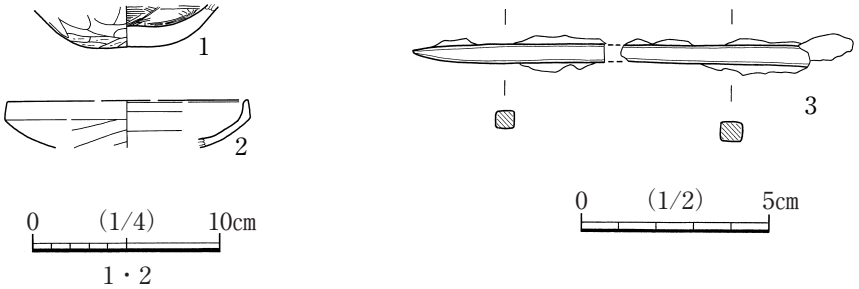
位置　西調査区北西側。I4。　**複合切り合い関係**　237住・238住の北側覆土に床面の大半を構築して検出し、平面形および掘り込み規模は不明確である。　**平面形**　方形？　**主軸方位**　N－12°－E。　**推定床面規模**　3.00m（主軸）×3.05m（副軸）。　**推定床面積**　9.09㎡。　**残存壁高**　0.40



第395図　239号住居跡出土遺物



第396図　240号住居跡出土遺物

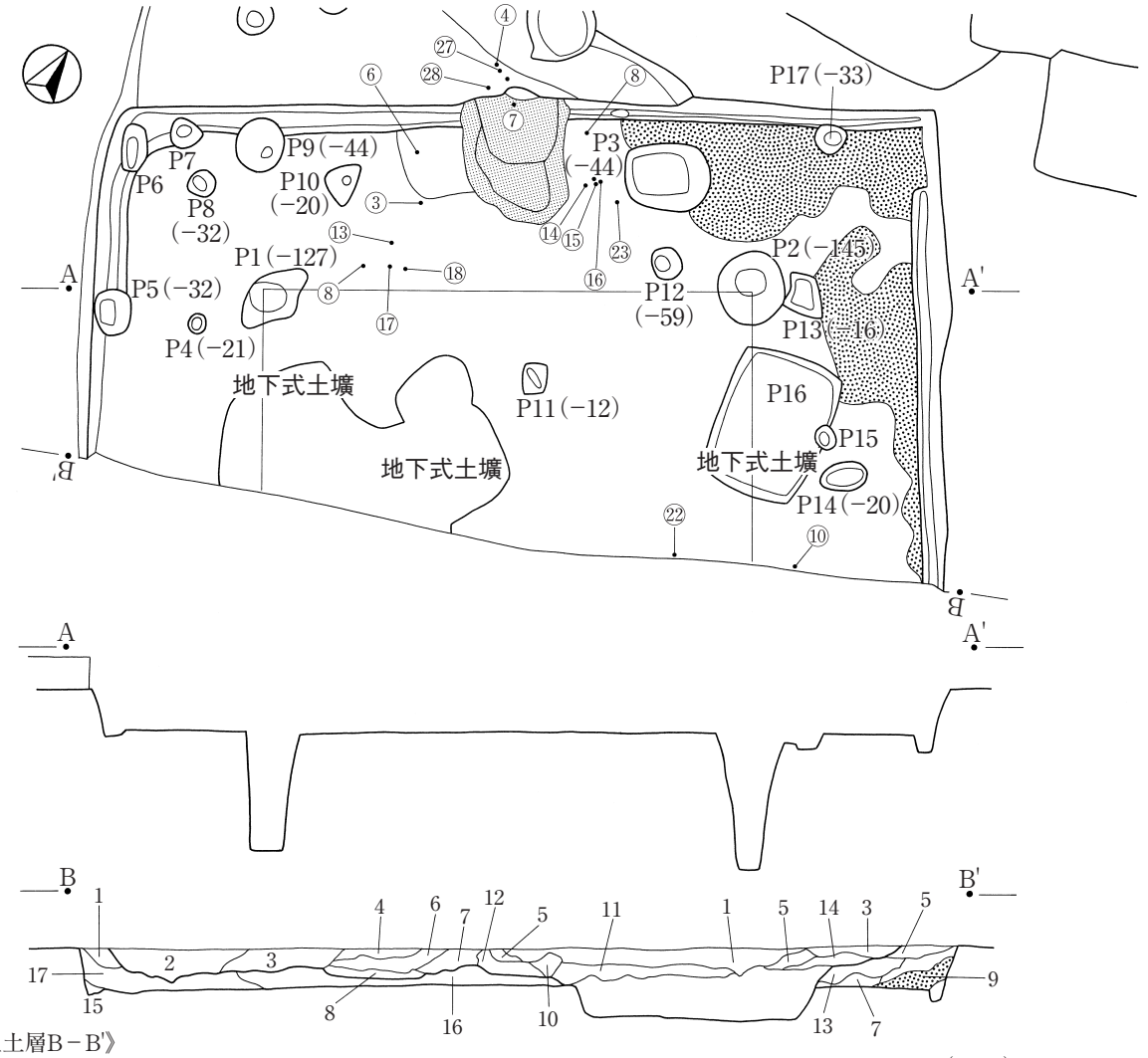


第397図　241号住居跡出土遺物

m前後。　カマド　北辺中央に敷設されるものと思われる。　床面　不明。　壁溝　カマド右の北辺壁下に検出されるだけである。　覆土　不明。　主柱穴　規模等から察して無柱構造であろう。
出土遺物　本住居跡の出土遺物は検出されないが先行して複合する238住－２・３・５の甕が本住居跡の共伴遺物である可能性がある。

243号住居跡（第398～400図、図版51・167）
位置　西調査区北西端。Ｉ２・Ｉ３・Ｊ２・Ｊ３。　複合切り合い関係　南半分を調査区域外に置き、上層を中世の１号大形の竪穴状遺構に掘り込まれ、これに伴う遺構と考えられる３基の地下式土壙が床面を掘り込み検出する。　平面形　南半分は未調査であるが方形を呈する。　主軸方位　Ｎ－28°－Ｗ。　床面規模　8.85m（副軸）。　推定床面積　78.0㎡。　残存壁高　0.32～0.57m。　カマド　北西辺中央に敷設される。　床面　ハードローム層中に形成され、平滑且つ堅緻である。　壁溝　検出部分は幅８～20cm・深さ21～15cmを測り途切れて検出される。　覆土　床面直上に焼土が広範囲に堆積し、特に北東側に顕著に検出され火災住居跡であることが判る。また、覆土上層はロームブロックやローム土を含む土層で埋まる中世の大型の竪穴状遺構が占める。　主柱穴　Ｐ１～Ｐ４の４柱構造であるが、本来のＰ３・Ｐ４は調査区域外にあり未検出である。カマド右側のＰ３は貯蔵穴である。
出土遺物　１は口縁が大きく外傾し、外面縦位箆ケズリ甕。２は１の底部か。３は球胴甕底部で外面箆ナデである。４～７は須恵器大甕胴部片で外面平行叩き目に内面同心円文消し去るナデを施し、４・５・７は接合しないものの同一個体と思われる。８は須恵器蓋で口縁と天井間に沈線を回らす。９・10は須恵器身で底部に焼成前の線刻で「×」を刻み、口縁はやや短く内傾し、受部稜は丸味を有し突出する。８～10の須恵器はTK217型式期に比定できよう。11は須恵器蓋で端部は折れて垂れる。12～15は須恵器高台付杯である。12は体部下端に丸味を有して立ち上がり、口縁は鋭く、高台は角でやや内側に張る。13は箱形を呈し、口唇内面に鋭い稜を有し、高台は「ハ」の字状にやや踏ん張る。14は箱形を呈し、角高台を呈する。15の角高台は内外面面取り状でやや細身を呈する。16～20は須恵器杯で底部回転箆ケズリを施し、17には火襷が認められる。21は底部を欠損し高台付杯の可能性がある。22は須恵器高盤で三方に透かしを有する。23は内面光沢有るミガキを施す杯部に比して太い脚柱のバランスの悪い土師器高杯である。24は底部回転糸切りのカワラケ状の皿。25はミニチュアの内湾鉢を呈する。26は土製支脚断片。27は須恵器双耳瓶で外面には釉を被る。28は紡錘車で軸部両端を欠損する。29は擦り痕が認められる軽石小片である。遺物出土位置は、３・８・10が床面直上、２がカマド右側貯蔵穴Ｐ３から出土し、４・５・７・25・26・28がカマド調査時にカマド燃焼部やカマド覆土から検出している。また、ほぼ床面には11・15・16の須恵器類が出土している。本住居跡出土の８～22の須恵器杯類は、８～10と11～22の時期に２分でき、住居跡の帰属時期は前者に当たり、後者は覆土内に設けられた何らかの施設の時期を示すものであろう。

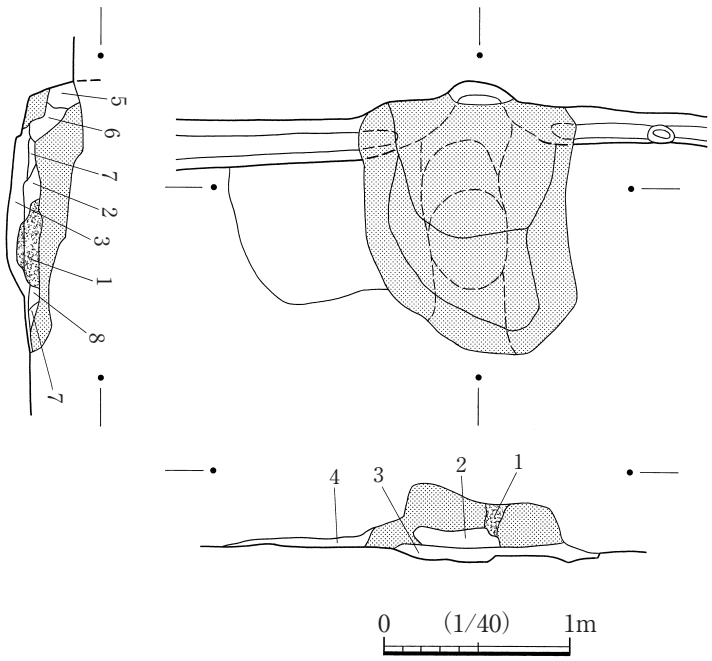
244号住居跡（第401図、図版51・167）
位置　西調査区中央西端。Ｌ３。　複合切り合い関係　プラン西側半分を調査区域外に置き、床面中央を東西に貫く９号溝に、床面中央に南北に２カ所近世の溝状攪乱穴に、また、南辺は３号方形区画遺構の南溝によりそれぞれ掘り込まれ検出する。　平面形　楕円形。　主軸方位　不明。　床面規模



《243号住居跡覆土土層B－B'》

1　黒褐色土層。
2　黒色土層。
3　暗褐色土層。
4　黒褐色土層。ローム粒を含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
6　黒褐色土層。焼土と炭を含む。
7　茶褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。ロームブロックを含む。
9　茶褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　茶褐色土層。黒色土を少量含む。
11　黒褐色土層。ローム土と粘土を霜降り状に含む。
12　茶褐色土層。ローム粒を含む。
13　茶褐色土層。ロームブロック（5㎜以下）と焼土及び粘土を極少量含む。
14　茶褐色土層。ローム粒を含み、一部にロームブロック（4㎝以下）を含む。
15　茶褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
16　暗褐色土層。焼土を部分的に少量含む。
17　茶褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。

0　(1/80)　3m

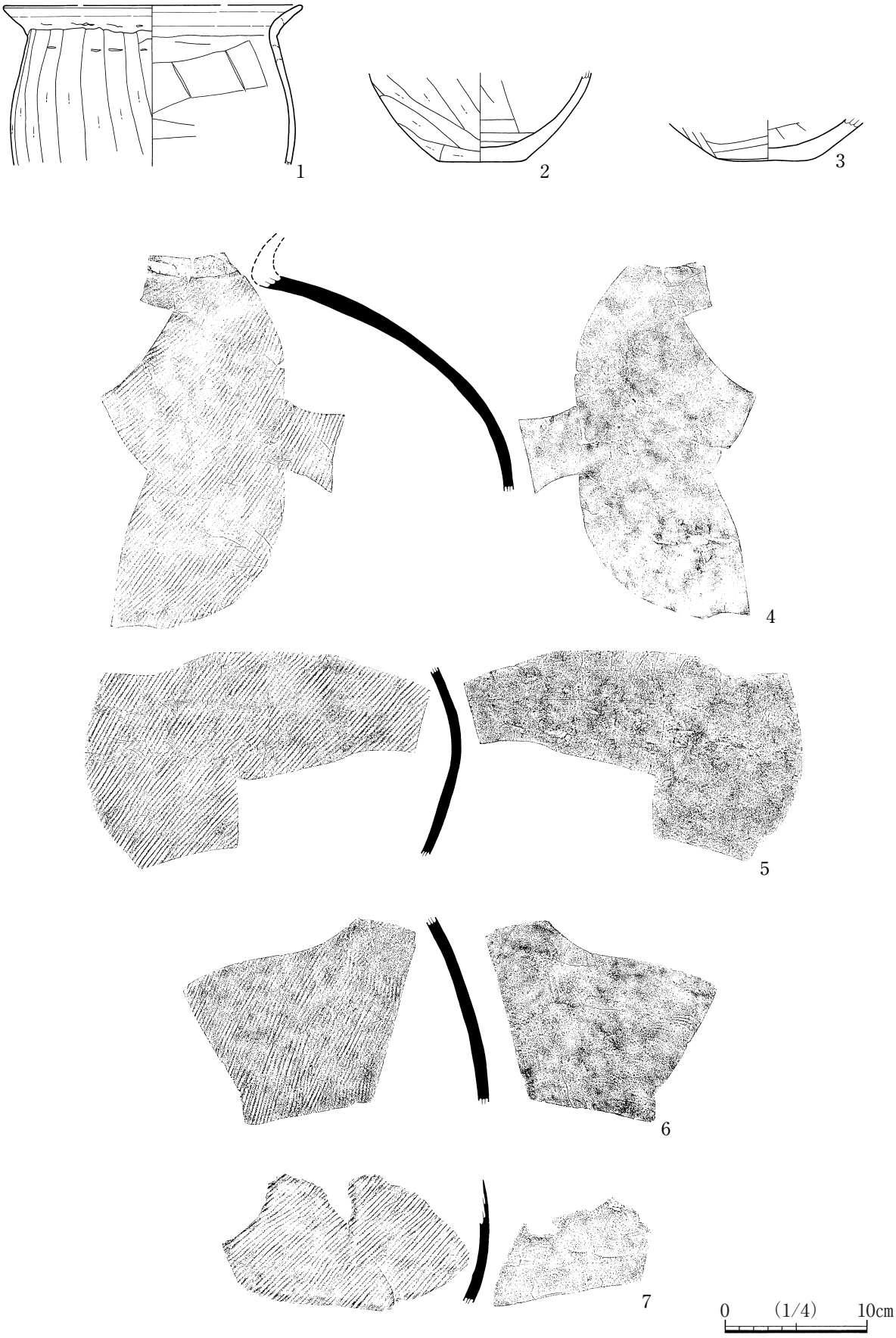


《243号住居跡カマド土層》

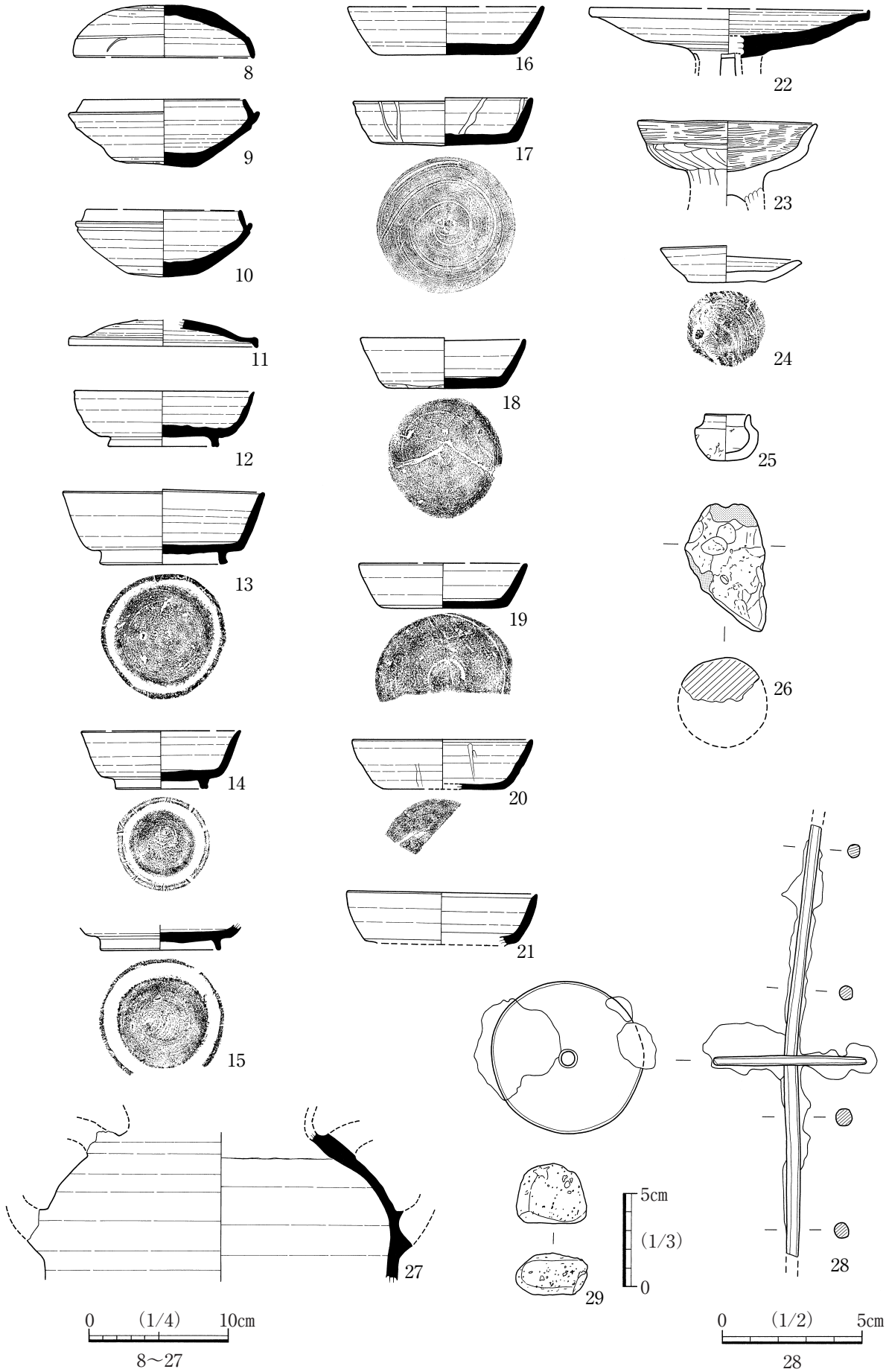
1　灰層。焼土と粘土を含む。
2　にぶい黄褐色土層。焼土（少量）と灰（微量）及び粘土（多い）を含む。
3　褐色土層。焼土と粘土を少量含む。
4　粘土と暗褐色土の混合土層。
5　暗褐色土層。粘土とローム土及び焼土を少量含む。
6　にぶい黄褐色土層。粘土と焼土（微量）を含む。
7　黒褐色土層。灰と粘土及び焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。焼土と粘土及びローム粒（2㎜以下）を少量含む。

0　(1/40)　1m

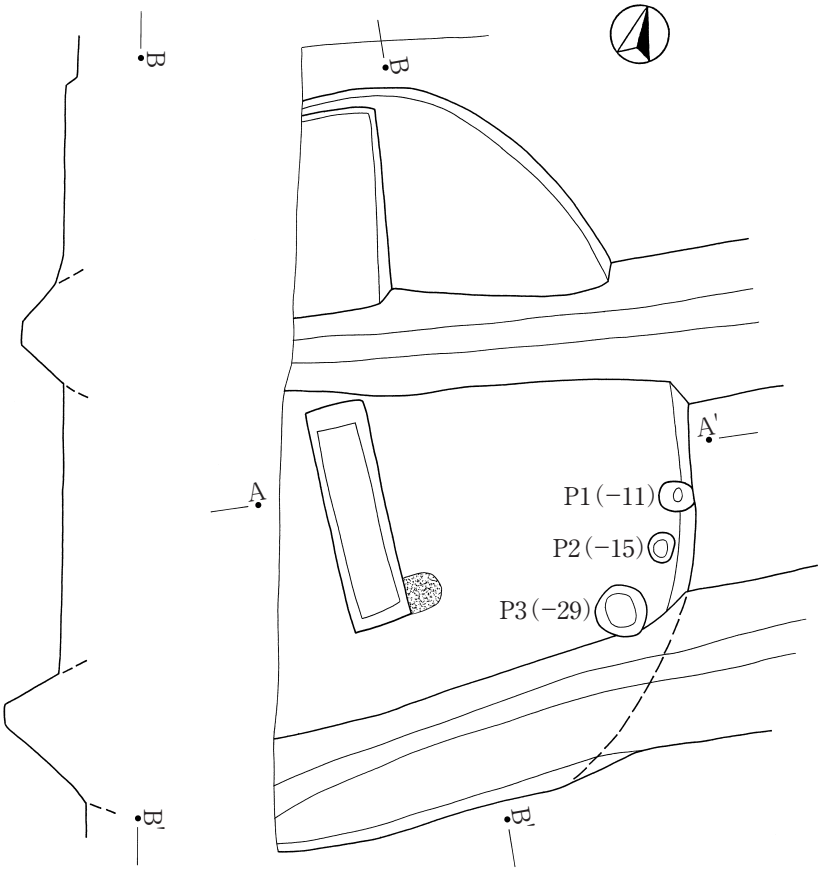
第398図　243号住居跡とカマド

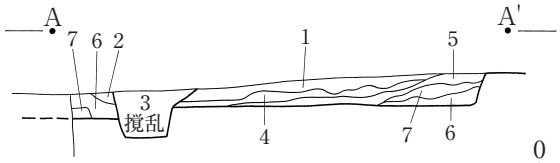


第399図　243号住居跡出土遺物（1）



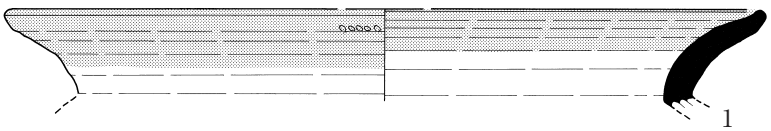
第400図　243号住居跡出土遺物（2）



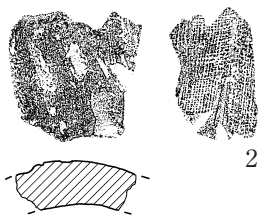


0 (1/80) 3m

《244号住居跡覆土土層A－A'》
1　茶褐色土層。ソフトロームを含む。
2　黒褐色土層。ロームブロックを染み状に含む。
3　茶褐色土層。ローム粒を含む。
4　黄褐色土層。
5　黒色土層。
6　黒褐色土層。
7　黄褐色土層。ローム粒を含む。



0 (1/4) 10cm

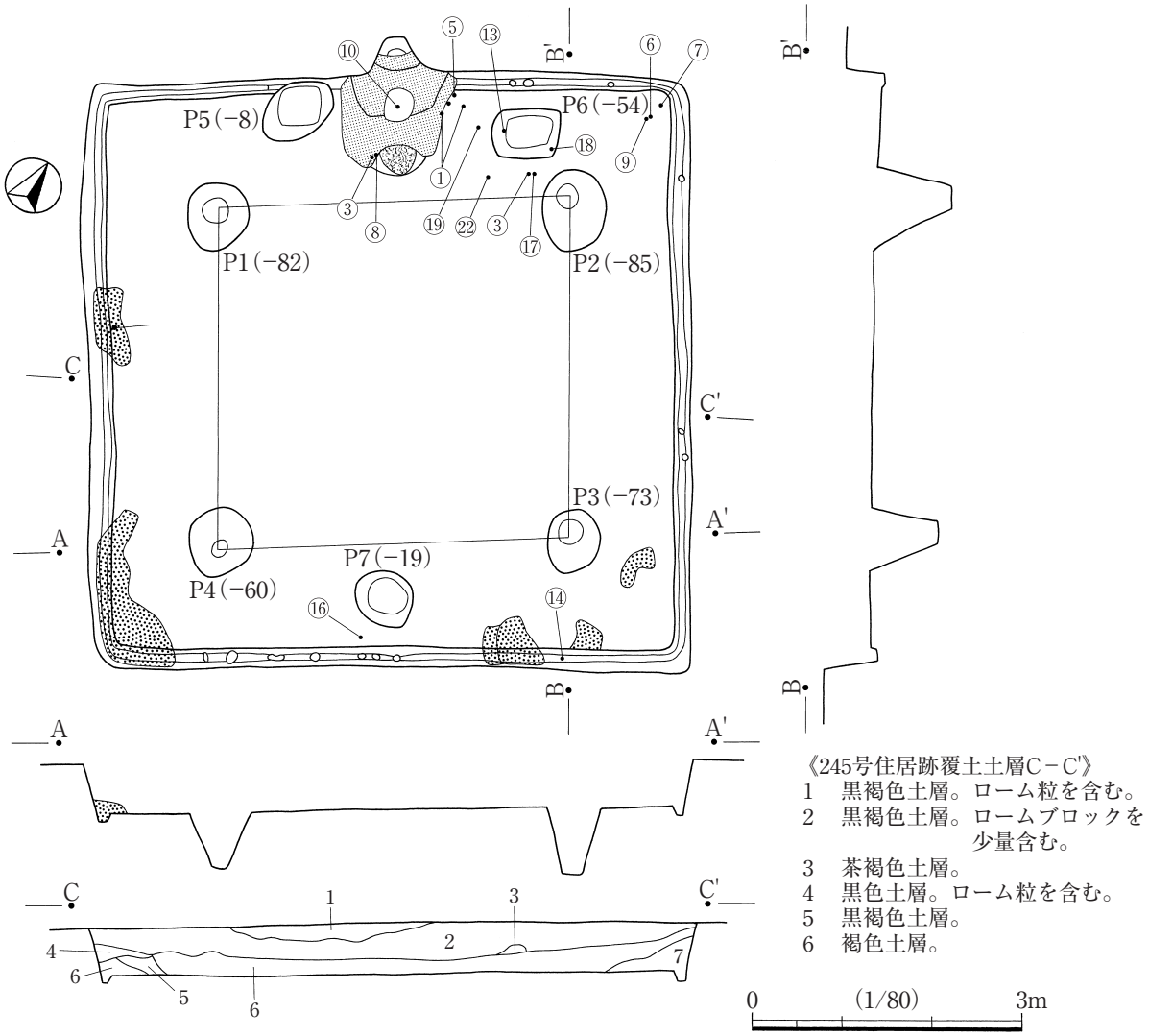


第401図　244号住居跡と出土遺物

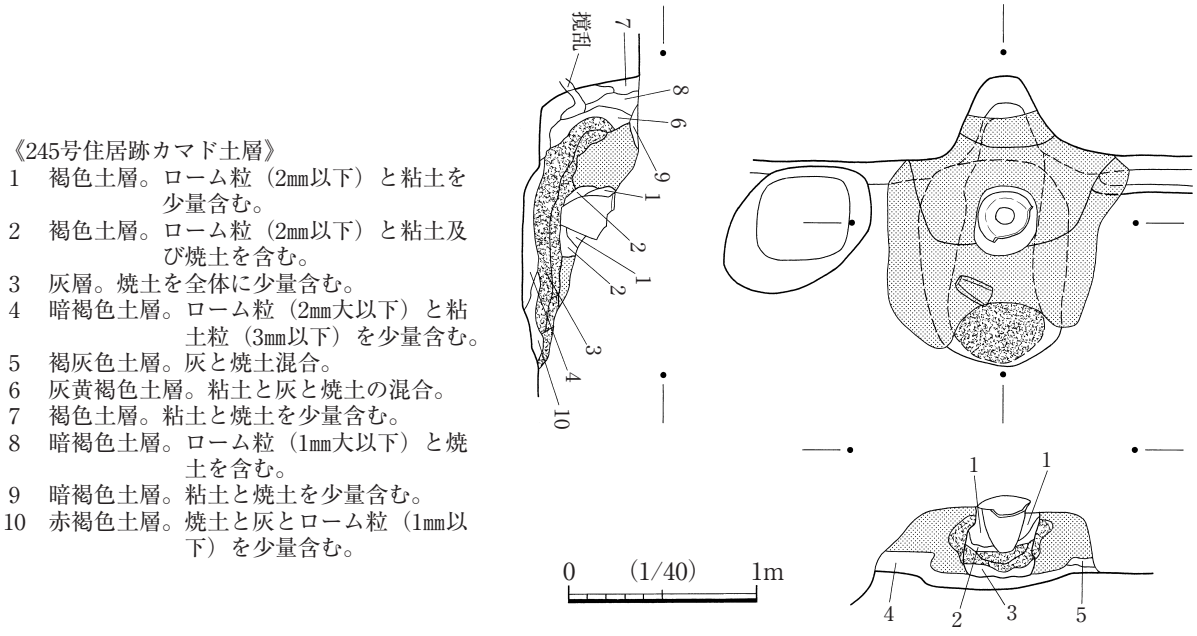
長軸長≒7.7m。　**床面積**　不明。　**残存壁高**　0.28～0.36m。　**カマド**　南側床面に西半分を攪乱される径0.4m程の炉跡状の焼土堆積を確認する。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、あまり堅く踏みならされていない。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　ローム土を含むが概ね自然堆積状況を示す。　**主柱穴**　P1～P3が検出されるが主柱穴とは想定しにくく不明である。
出土遺物　1は須恵器大甕口縁部片で口縁内外面に釉を被る。2は丸瓦である。何れも覆土からの出土で住居跡に伴うものではない。住居跡の帰属時期は楕円の平面形と炉跡を考慮するなら弥生時代となろう。

245号住居跡（第402～404図、図版52・167・168）
位置　西調査区北側の離れ調査区。C2・C3・D2・D3。　**複合切り合い関係**　単独で検出し遺存状況良好。　**平面形**　方形。　**主軸方位**　N－31°－W。　**床面規模**　6.37m（主軸）×6.45m（副軸）。　**床面積**　40.85㎡。　**残存壁高**　0.37～0.58m。　**カマド**　北西辺中央に敷設される。　**床面**　ソフトローム層上に形成され、中央部は堅く踏みしめられているが、壁よりの周辺部分は踏みならされず軟らかい。　**壁溝**　幅12～14cm・深さ9～15cmを測り四周する。　**覆土**　床面直上に散在して焼土が認められ火災住居跡である。　**主柱穴**　P1～P4の4柱構造である。P5はカマド左側、P6はカマド右側に設けられた貯蔵穴である。また、P7は出入り口関連ピットである。
出土遺物　1～3はやや長胴気味の甕で、胴外面縦位箆ケズリを施す、7は同形甕の下半である。4は1～3形の小形甕。5は口径と胴径の差が小さい中胴甕。6・8は更に差が縮まり球胴形を呈する縦位箆ケズリ甕。9は丸底の球胴甕で縦位箆ケズリを施す。10は外面縦位箆ケズリで、内面線状のミガキを施す甑。11は須恵器蓋で摘みを欠損する。12・13は杯蓋模倣杯で内面黒色処理でカーボン状の煤が付着したかの様で、稜が僅かに突出する。14は扁平な皿状杯で内面黒色処理を施す。15は内面ミガキの小形化した皿状杯で内面漆塗り？16は半球状の小形杯。17～21は口縁「く」の字に鈍く屈曲する杯で、口径の深さにばらつきが認められる。22は有蓋高杯模倣高杯で口縁内外面および内面にミガキを施し、内面漆塗りであろう。23はミニチュアの赤彩壷形土器である。24～26は円柱状の土製支脚。27は土玉。28は無茎石鏃である。遺物出土位置は、1・5～9・12・17・19・22・23が床面直上、2・3・10・14・21がカマド燃焼部、4・13・18がカマドと対位置するP7、他は覆土からの検出である。覆土の3・12も同様に住居跡共伴遺物と見なしてよかろう。11・15・16は後出する遺物と理解できる。

246号住居跡（第405図、図版53・169）
位置　西調査区北側の離れ調査区。D3。　**複合切り合い関係**　単独で検出する。　**平面形**　方形？。　**主軸方位**　N－57°－E？（東カマドを想定）。　**床面規模**　4.03m（主軸）？　**推定床面積**　16.0㎡。　**残存壁高**　0.31～0.40m。　**カマド**　東カマドないし炉跡が想定されるが未検出である。　**床面**　ソフトローム層上に形成され中央には凹凸が目立つが比較的堅緻である。　**壁溝**　検出されない。　**覆土**　ロームブロックやローム土を含み埋め戻された状況を呈する。　**主柱穴**　P1～P5を検出するが本来の4柱構造の位置には検出されず不明である。
出土遺物　1は赤彩の椀形杯。2は赤彩高杯で、体部下端が屈曲し和泉期の特徴を留める。3は平底

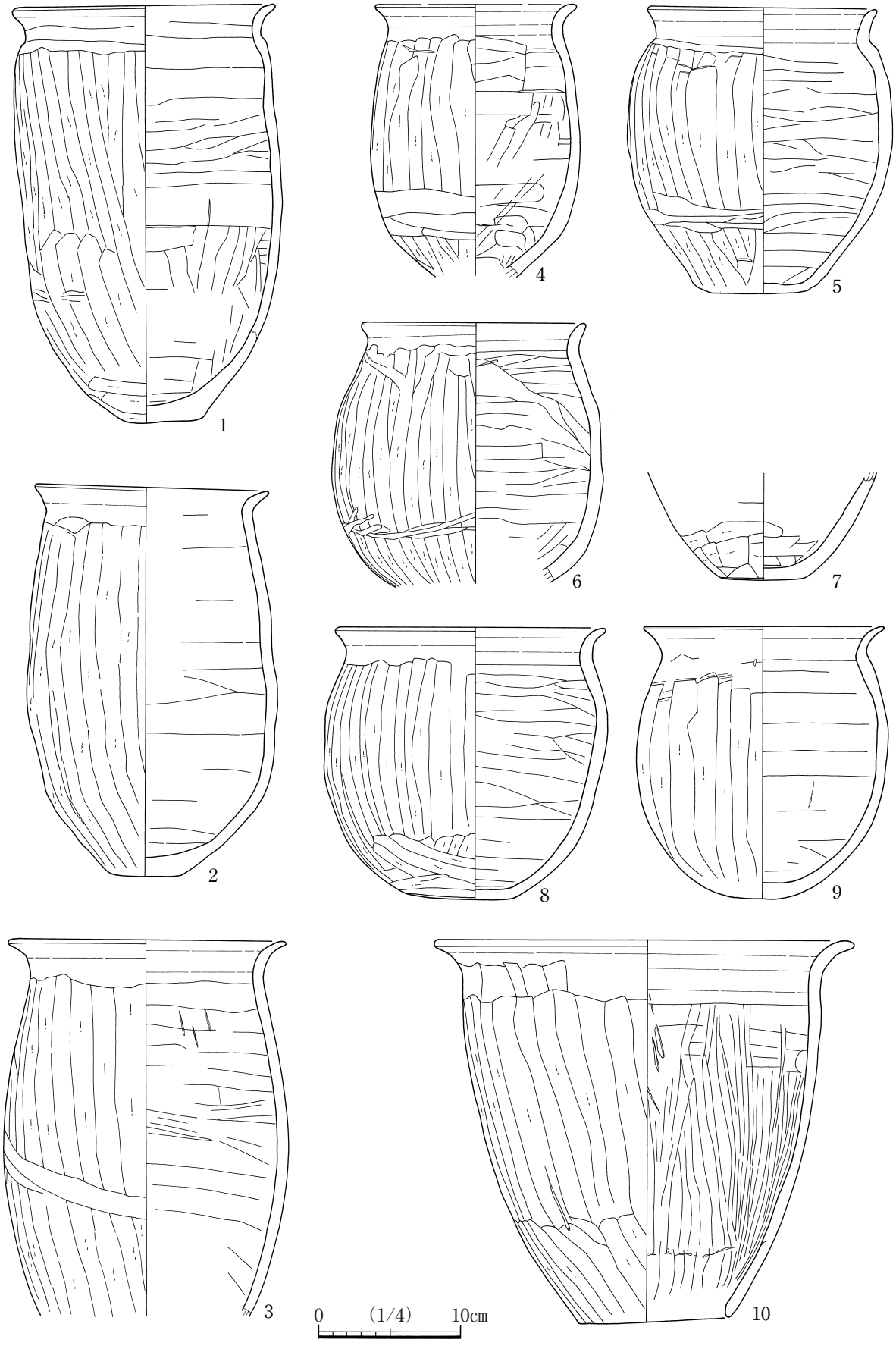


《245号住居跡覆土土層C－C'》
1　黒褐色土層。ローム粒を含む。
2　黒褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土を少量含む。
3　茶褐色土層。
4　黒色土層。ローム粒を含む。
5　黒褐色土層。
6　褐色土層。

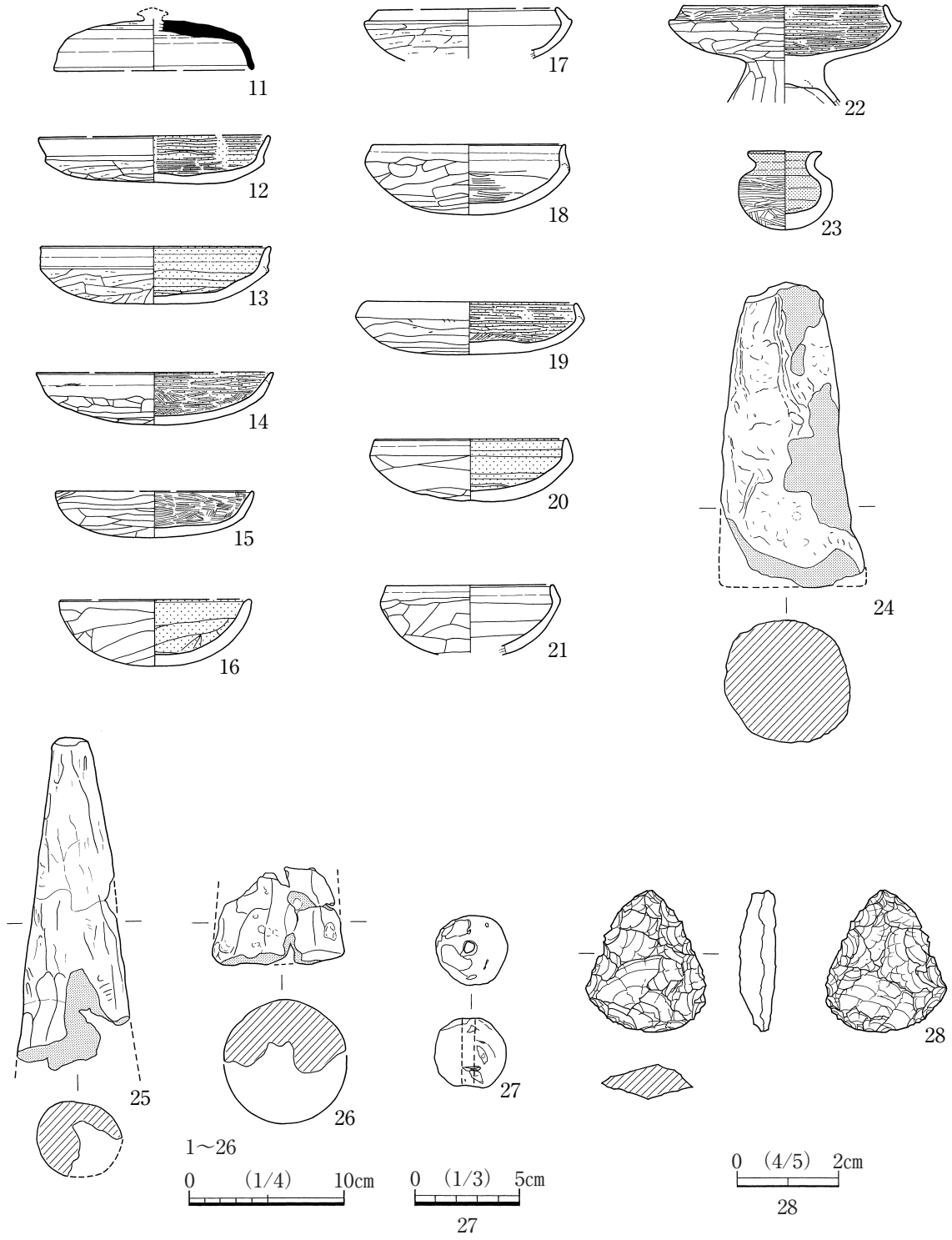


《245号住居跡カマド土層》
1　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土を少量含む。
2　褐色土層。ローム粒（2㎜以下）と粘土及び焼土を含む。
3　灰層。焼土を全体に少量含む。
4　暗褐色土層。ローム粒（2㎜大以下）と粘土粒（3㎜以下）を少量含む。
5　褐灰色土層。灰と焼土混合。
6　灰黄褐色土層。粘土と灰と焼土の混合。
7　褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。ローム粒（1㎜大以下）と焼土を含む。
9　暗褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　赤褐色土層。焼土と灰とローム粒（1㎜以下）を少量含む。

第402図　245号住居跡とカマド



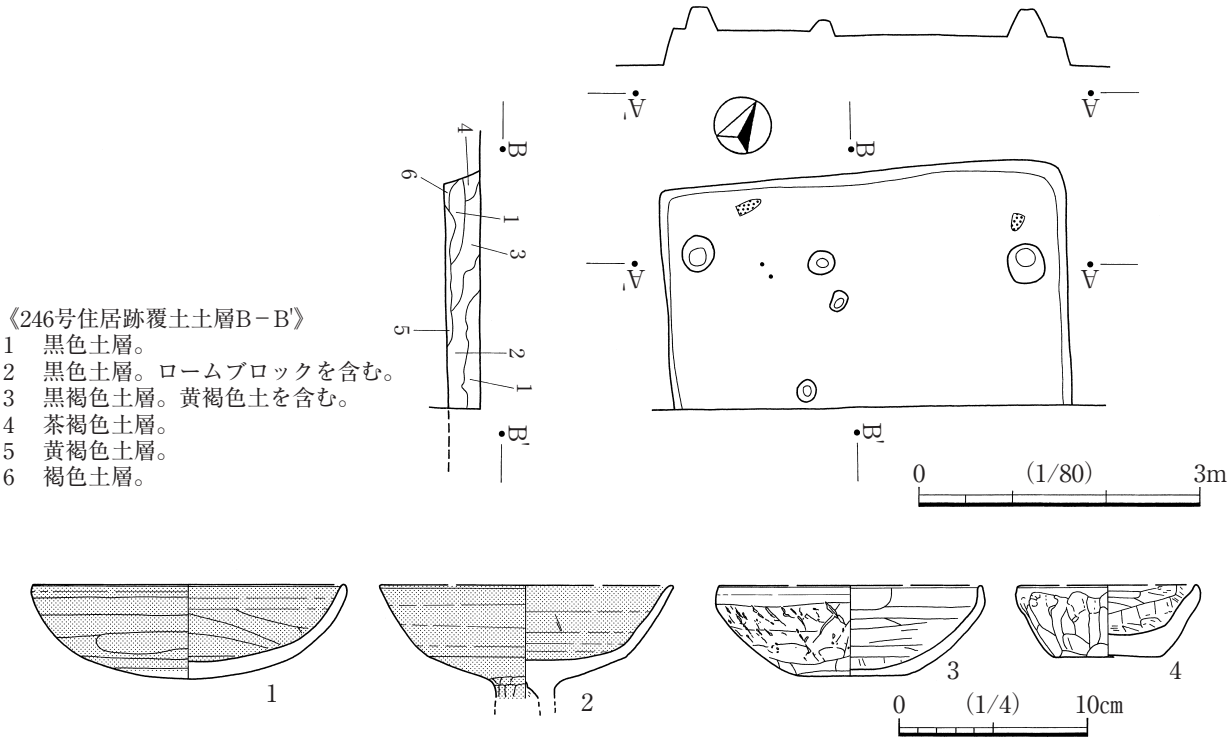
第403図　245号住居跡出土遺物（1）



第404図　245号住居跡出土遺物（2）

で外面の輪積みを残す雑な成形の鉢。4も同様な器形成形で小振りの手捏ね土器である。

遺物出土位置は、2・4がほぼ床面、1・3が覆土から出土するが、全て住居跡共伴遺物とみて差し支えないものであろう。



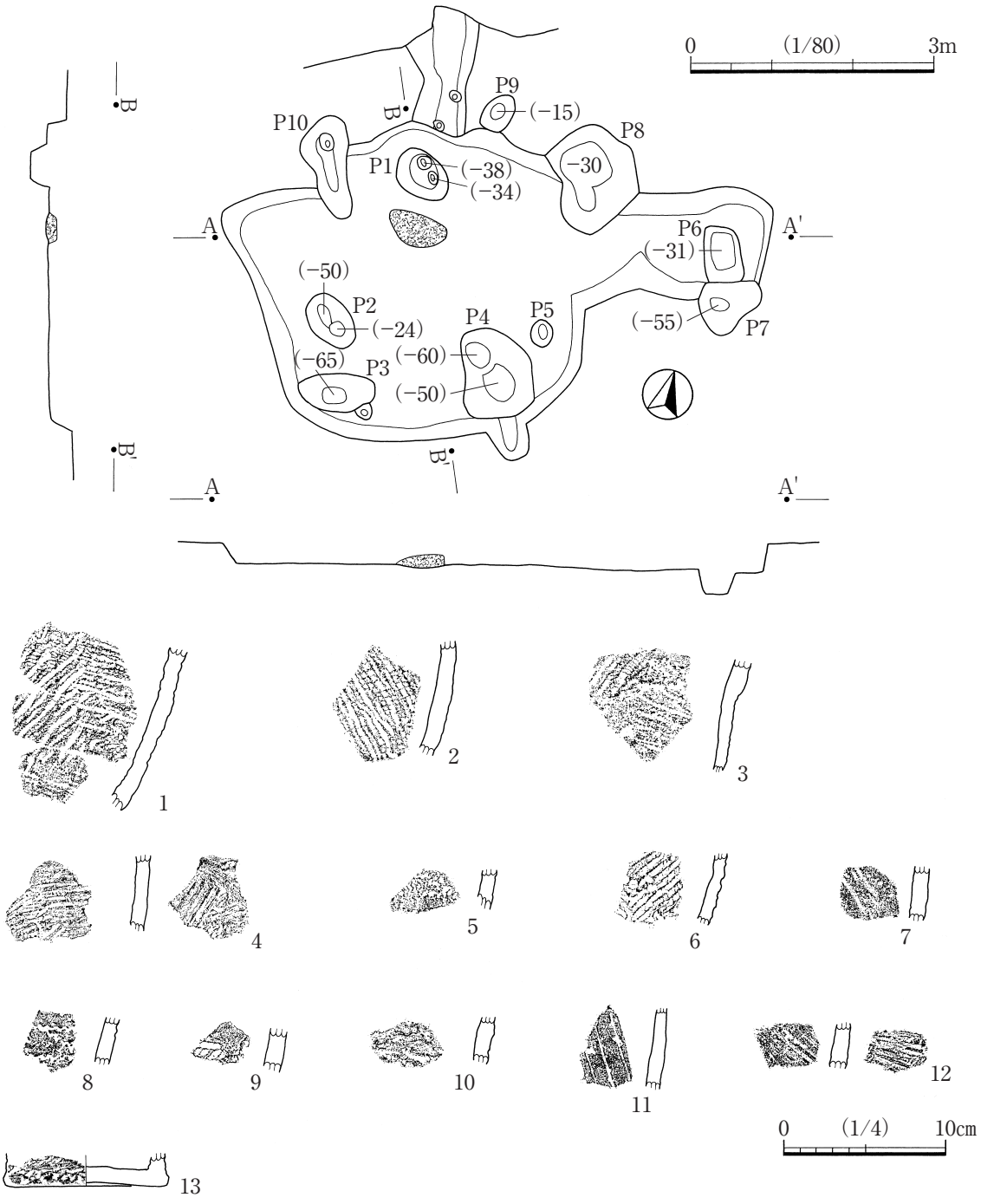
第405図　246号住居跡と出土遺物

247号住居跡（第406図、図版53・169）

位置　西調査区北側の離れ調査区。B３・B４。　複合切り合い関係　単独で検出する。　平面形　不整形。　主軸方位　不明。　床面規模　3.7m（南北）×3.9m（東西）。　床面積　10.72㎡。　残存壁高　0.15～0.26m。　カマド　北側床面に炉跡状の焼土範囲を確認する。　床面　（記載なし）。　壁溝　（記載なし）。　覆土　不明。　主柱穴　不明。

出土遺物　１・２は同一個体である。羽状縄文を地文とし、１の上端にわずかながらループ文がみられる。ループは緩い曲線によるもので、縄文は軸縄に２本の付加縄を巻きつけた付加条縄文であろう。３・７・10も同一個体であり、このほかに３片の破片がある。構成は不明だが、外面に不規則な段をもつ、縄文はその上下とも１・２と同様の付加条縄文とみられるが、比掲載の破片には普通の単節縄文も施文されている。６と13も同一個体で、判然としないが接合するようである。無節縄文をやや張り出した外面の下端まで羽状に施文する。底面は磨いている。比較的破片が大きく、接合破片をもつ以上の３個体は、いずれも前期前葉・関山式に比定される繊維土器であり、遺構の時期を示す可能性が高い。

これ以外の土器は、いずれもごく小片である。４・12は繊維を含み、内外面に貝殻条痕文を施す早期後葉の土器である。９も繊維を含み、縄文原体圧痕による区画文を施す。文様は前期初頭から前葉にみるものであるが、詳細は不明としておく。５・８はフネガイ科の腹縁圧痕文をもつもので前期後葉・浮島式であろう。11は間隔のあいた１本引きの沈線をもつもので時期は不明である。



第406図　247号住居跡と出土遺物

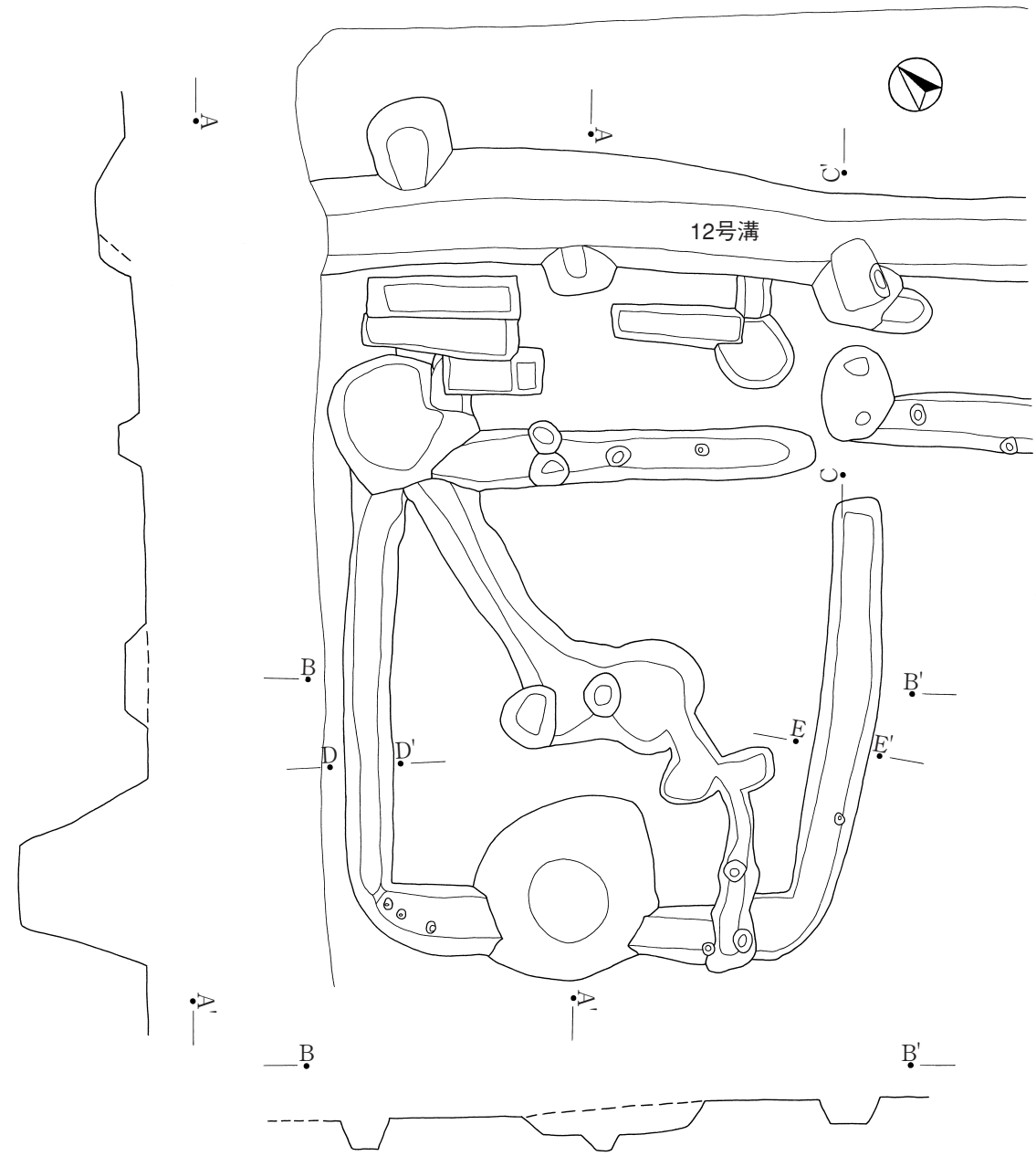
第２節　方形区画遺構と出土遺物

１号方形区画遺構

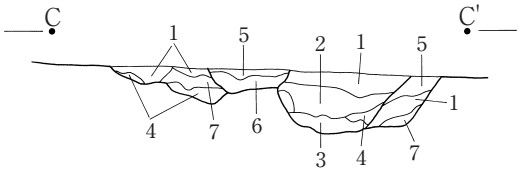
位置　G14。　**複合切り合い関係**　単独で検出し、南西溝中央に井戸状土壙を有し、時期・性格不明の溝や土壙状の遺構が複合する。また、北東側2.4ｍに12号溝、南東側９ｍに13号溝・12ｍに14号溝が平行に走る。　**平面形**　方形状の区画溝で西隅はブリッジ状に途切れ、各隅は隅丸状を呈する。**方位**　Ｎ－45°－Ｅ？を指向する。　**床面規模**　周溝外径7.8ｍ×7.6ｍ、周溝内径6.2ｍ×6.0ｍ。**占有面積**　57.04㎡。　**溝深さ**　北東溝0.30～0.36ｍ・南東溝0.13～0.38ｍ・南西溝0.26～0.47ｍ・北西溝0.33～0.39ｍ。　**溝幅**　0.56～0.78ｍ。　**溝断面形**　Ｕ字状。　**その他**　井戸状遺構外径2.5ｍ×2.7ｍ・深さ1.97ｍ。井戸状土壙と周溝の共有関係については、小規模方墳と井戸状土壙との時期の異なる遺構の複合関係との見方も有るが、井戸状土壙内から検出した土器と溝内から覆土一括として出土した土器片が接合することから本稿では方形区画溝と井戸状土壙が共有関係にあるものとして取り扱う。遺物の出土状況は、周溝内からの出土は無く、南西溝中央の井戸状遺構の確認面から0.5ｍ下方から集中的に須恵器類を中心に出土し、その一部はレベルの記録が無いがより下層の土壙底面から１ｍ程からも検出されている。(写真図版53－⑥)

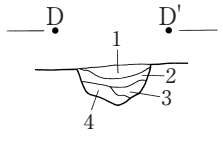
出土遺物　１は口縁端部を上下に摘み出し、器高40.7㎝・口径24.2㎝の大形の須恵器甕で胴外面平行叩き目、内面ナデ整形を施す。２・３も同様な須恵器甕片であるが１とは個体が異なる。４は口縁部丸味を有し肉厚で複合口縁状を呈する。５は大形の須恵器甕で内外面摩耗と剥離が著しいが外面平行叩き目を施す。６は外面平行叩き目、内面同心円文を施す須恵器甕片。７は須恵器広口長頸壺。８～11は土師器甕。８・９は大形甕で外面篦ケズリを施す。10は無頸の甕で外面篦ケズリ。11は外面篦ケズリの鋭い肉薄気味の甕。12～17は土師器台付甕。18～19は非ロクロ土師器杯。18～20は器高が低く、29は内面見込みが不明瞭で大きく開く。30～34は須恵器蓋。口縁端部の形態は、30が鈍く僅かに垂れ、31～33はややシャープに垂れ、34は丸く収まる。35～37は須恵器高台付杯で、35は深く、36は浅く、37は肉厚である。38～44は須恵器杯で底部回転篦ケズリを施し、38～42の口縁がやや開くタイプと43・44の箱形が存在する。45・46は須恵器盤で突出する底部である。47～53は須恵器高盤。47・48はシャープな整形で端部が水平に折れる。49～52は脚で49・50の脚柱には棒状の三方透かしを有する。54～58は長頸壺で57は須恵器、他は所謂原始灰釉陶器の範疇で捉えられるものである。54～56は三段構成である。59は灰釉平瓶であるが口頸部は同部と接合しない。60は土製支脚片。61は平瓦。62は土製玉。63は砥石。64～66の鉄滓は土壙内一括遺物で出土位置が不明であるが、１～59の祭祀用器物と一緒に廃棄されることは、鉄滓が何らかの祭祀遺物の役割を担っていたものと思われ興味深く、類例としては時期が下るが10世紀前半の国分寺台遺跡群の稲荷台遺跡第１号土器埋納遺構の中には50点以上のロクロ土師器杯・灰釉長頸壺１点とともに椀形鉄滓２点が埋納されている。

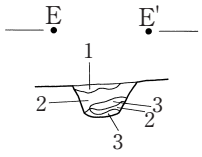
38～44の無台の須恵器杯には、39～43の二段底部状が認められる。この内、回転糸切りが確認されるものは43の１点で、39～42は二段底部を呈しながらも、底部周縁まで回転篦ケズリが確認でき新相を呈するものであろう。54～58の長頸壺には、原始灰釉と記したが須恵器の範疇で考えることが妥当であるが、須恵器素地色が暗灰色や灰色あるのに対して、本遺構出土例は素地色が灰白色や白灰色を



0 (1/100) 5m







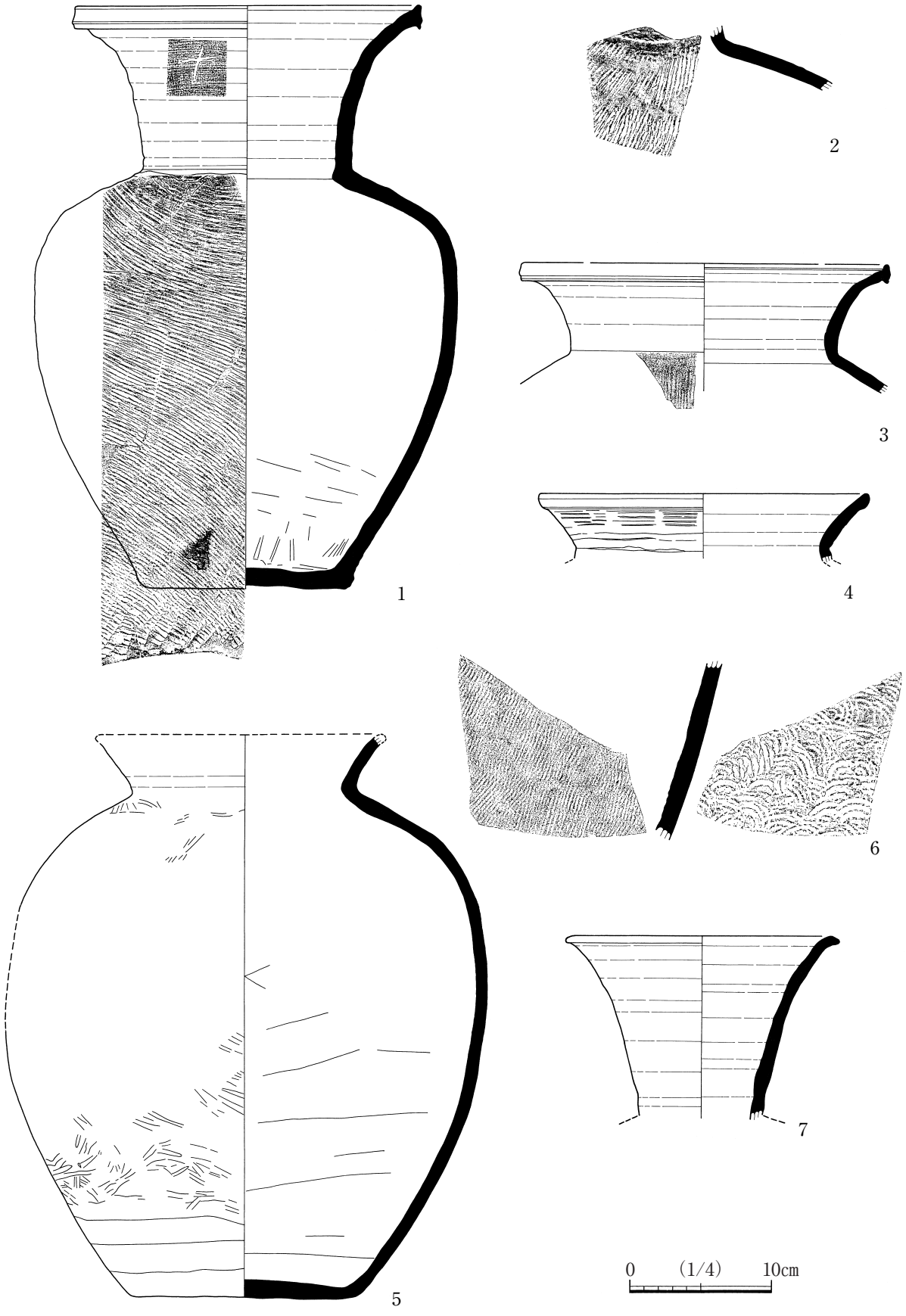
0 (1/80) 3m

《1号方形区画遺構土層C－C'》
1　黒褐色土層。
2　茶褐色土層。茶褐色土層にロームブロック混入。
3　黄褐色土層。ロームブロック土層。
4　茶褐色土層。
5　黒色土層。
6　黒色土。木炭と焼土を混入。
7　黄褐色土層。

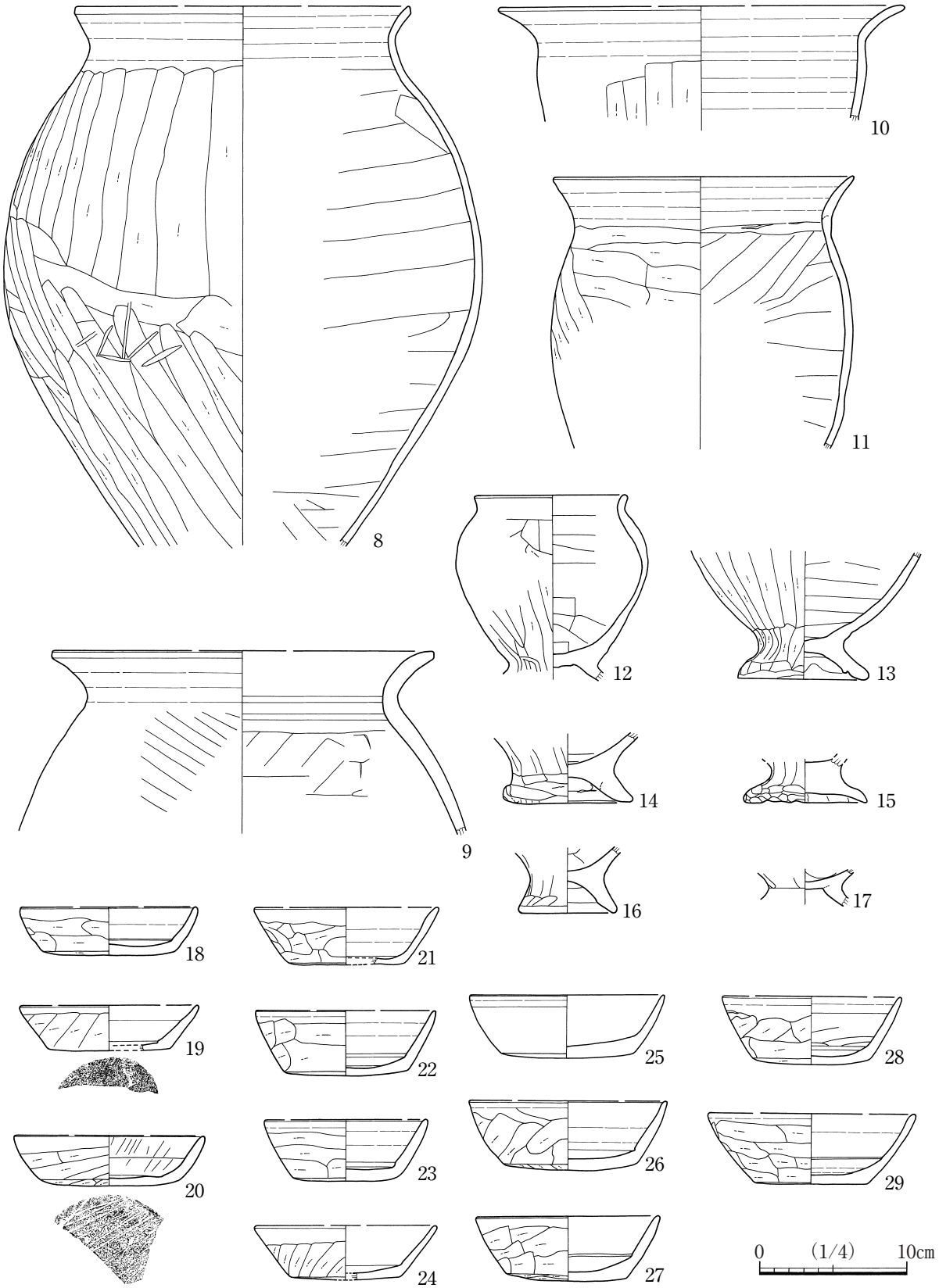
《1号方形区画遺構土層D－D'》
1　黒色土層。ローム粒を含む。
2　茶褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。
4　黒色土層。ソフトロームブロック含む。

《1号方形区画遺構土層E－E'》
1　黒褐色土層。
2　茶褐色土層。ローム粒を含む。
3　黒褐色土層。

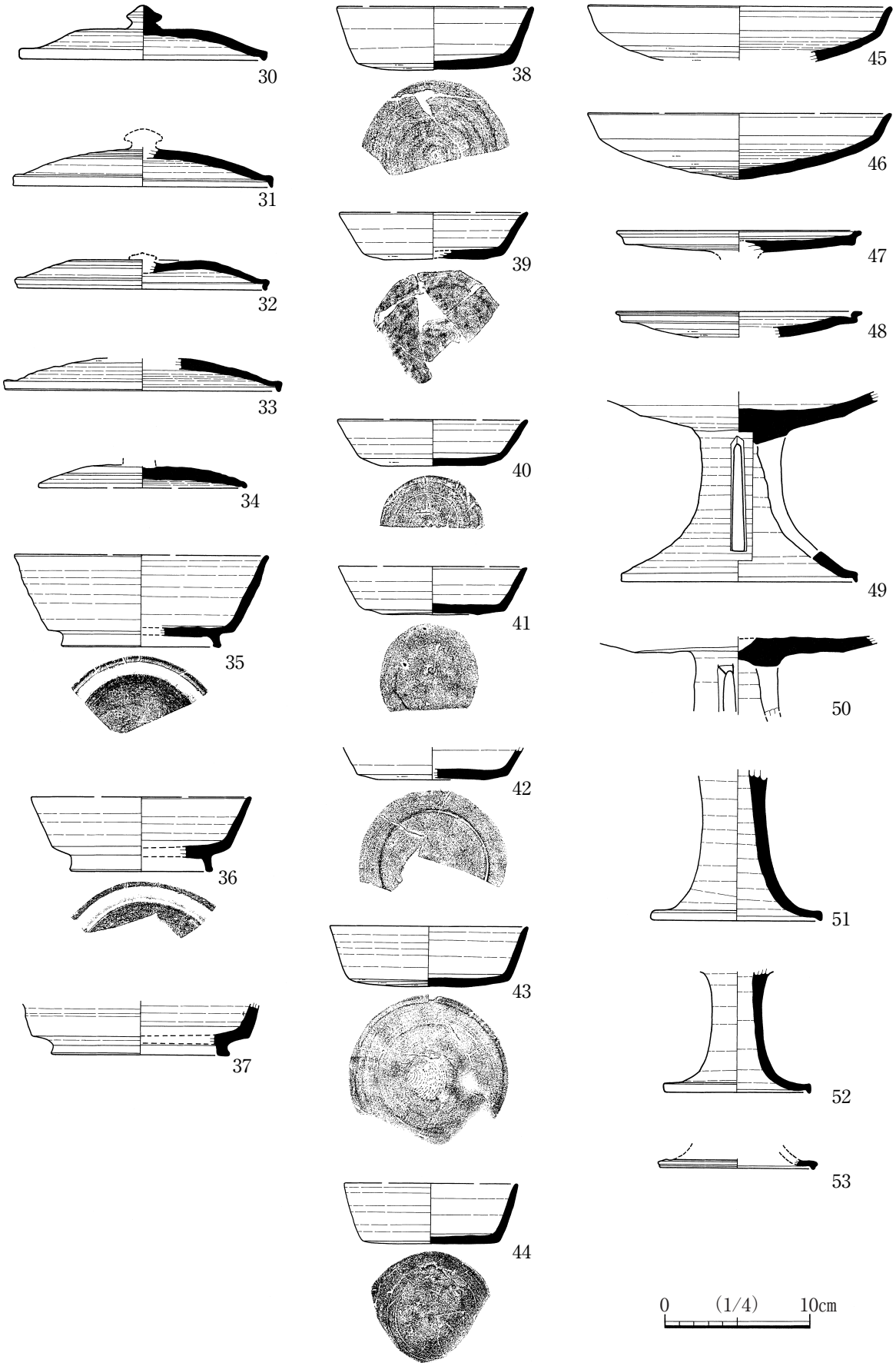
第407図　1号方形区画溝遺構



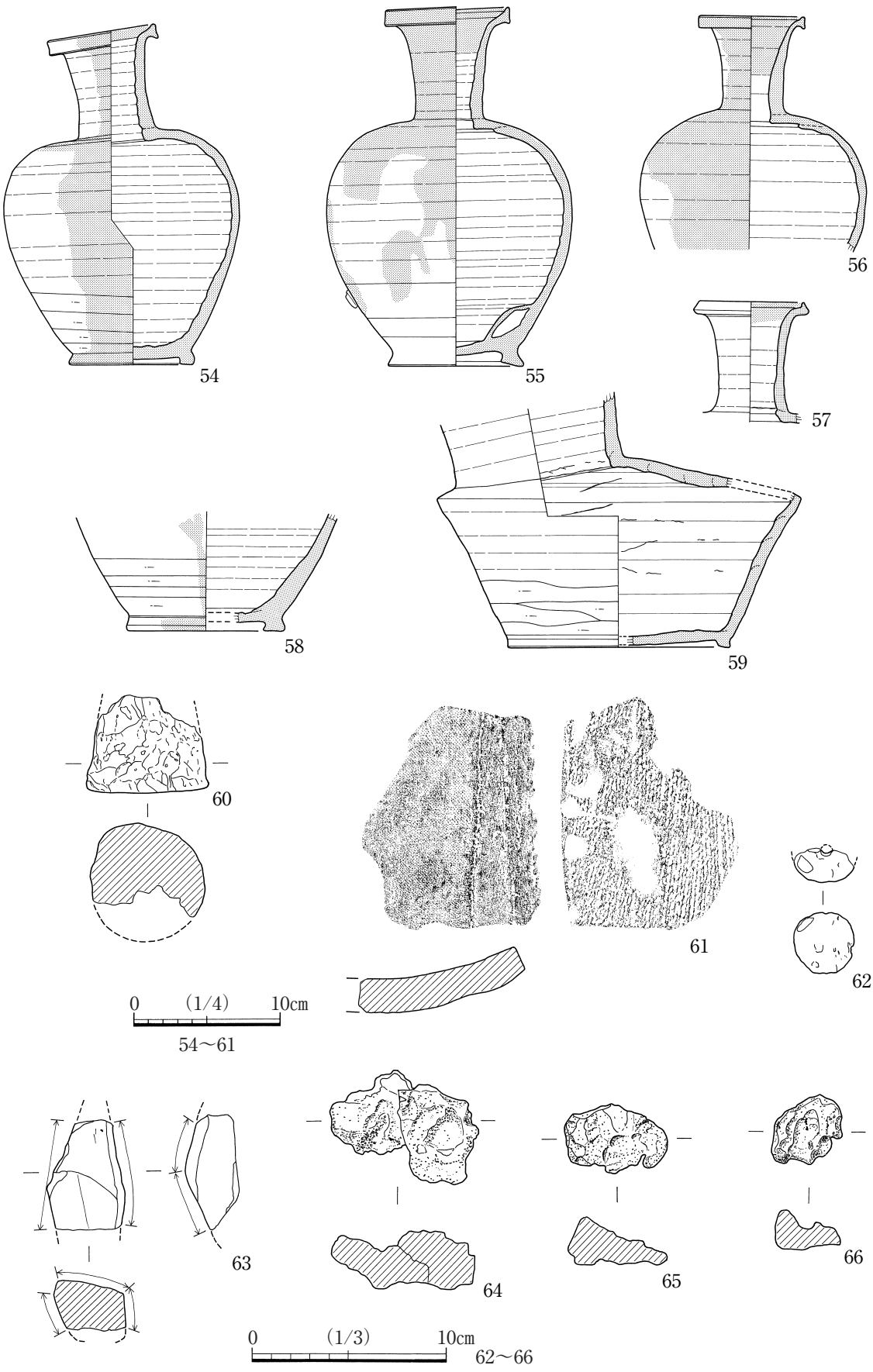
第408図　1号方形区画溝遺構出土遺物（1）



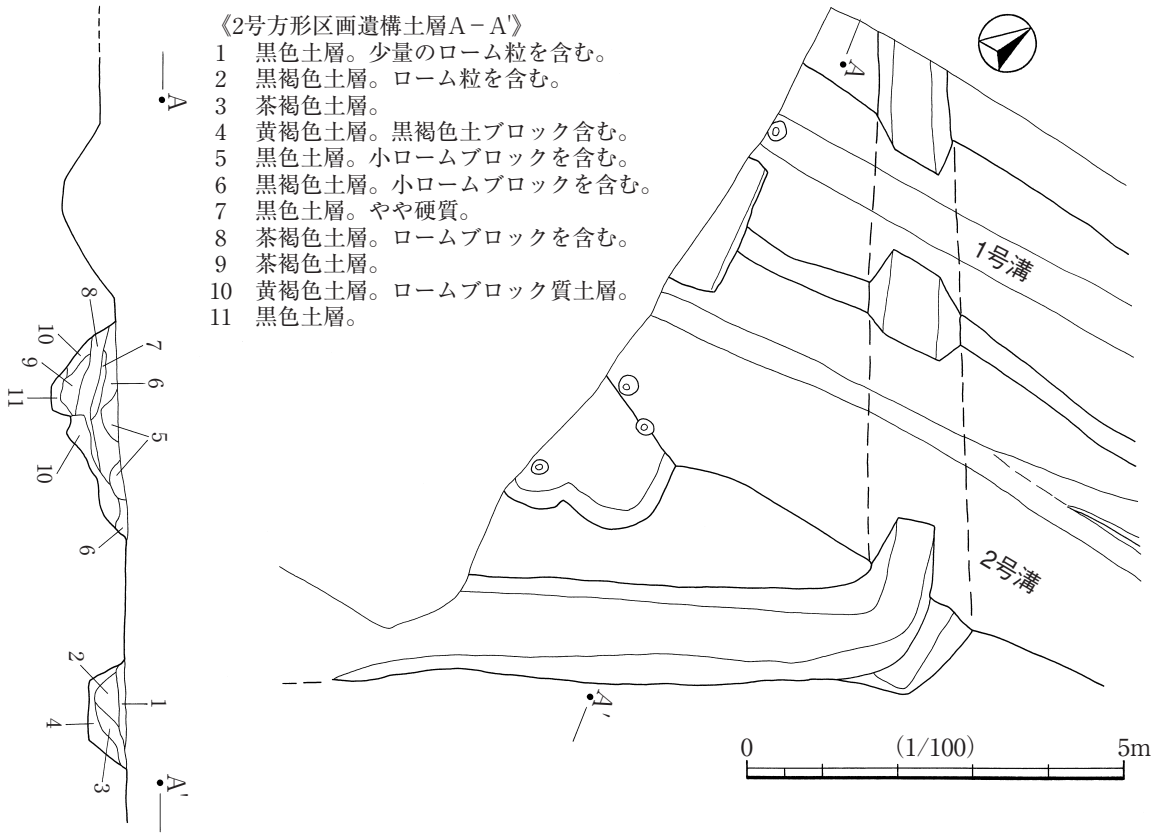
第409図　1号方形区画溝遺構出土遺物（2）



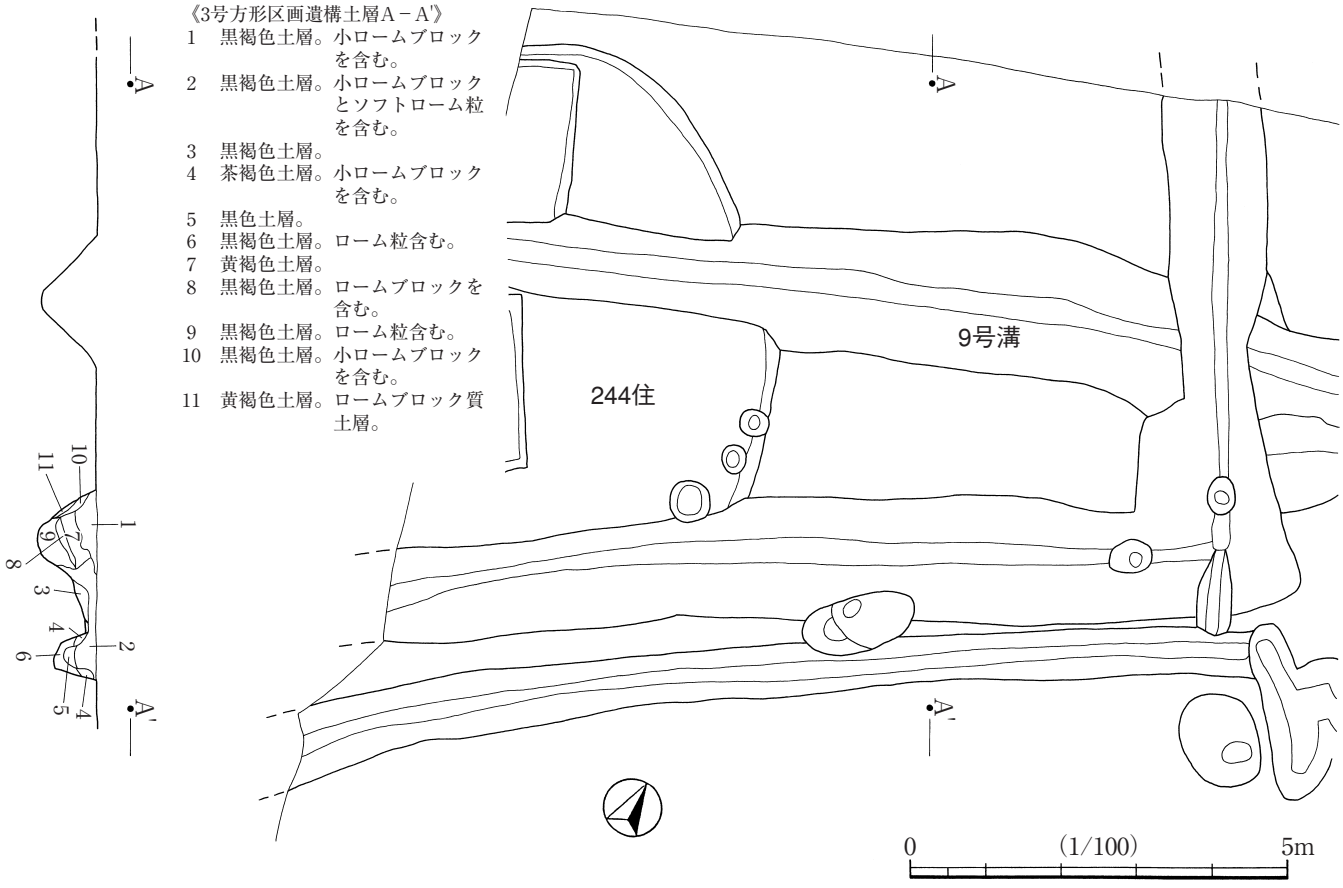
第410図　1号方形区画溝遺構出土遺物（3）



第411図　1号方形区画溝遺構出土遺物（4）



第412図　2 号方形区画溝遺構



第413図　3 号方形区画溝遺構

呈し、釉が均一に被るものが認められることから灰釉的な存在で有ることを示す物として注目される。この内、須恵器の素地色である暗灰色を呈する54は、肩部に張りがあるものの胴部下半は直線的下降し底部に至っている。55・58も胴下半の形状が同様なことから同時期と見なして良いが、35～37の須恵器高台椀や38～44の須恵器無台杯とは時間的な相異が認められ、検討が必要である。

２号方形区画遺構

位置　西離れ調査区Ｂ３・Ｃ３。　**複合切り合い関係**　大部分を調査区域外に置き、検出された西側も１・２号溝に大きく掘り込まれ、隅は西隅１カ所を検出するだけである。　**平面形**　Ｌ字状に検出する方形状の区画溝であろう。　**方位**　Ｎ－34°－Ｅ？を指向する。　**規模**　北東辺長8.6m以上・南東辺長8.5m以上。　**占有面積**　73.0㎡以上。　**溝深さ**　北東溝0.30～0.36m・南東溝0.34～0.47m。　**溝幅**　0.9～1.3m。　**溝断面形**　Ｕ字状？　**出土遺物**　図示する遺物は、無い

３号方形区画遺構

位置　西調査区Ｌ３・Ｌ４。　**複合切り合い関係**　西側半分を大きく調査区域外に置き、中央に弥生後期の244住を掘り込み９号溝に掘り込まれ、西隅１カ所を検出する。　**平面形**　Ｌ字状に検出する方形状の区画溝で、南東溝は二重である。　**方位**　Ｎ－64°－Ｅ？を指向する。　**規模**　北東辺長6.8m以上・南東辺長12.0m・南東辺外側溝長12.8m以上。　**占有面積**　115㎡以上。　**溝深さ**　北東溝0.30～0.36m・南東溝0.34～0.47m。　**溝幅**　0.9～1.3m。　**溝断面形**　Ｕ字状で床面および壁立ち上がり凹凸顕著。　**出土遺物**　図示する遺物は、無い。

第３節　溝状遺構

１号溝

位置　西離れ調査区Ｂ３・Ｂ４。　**複合切り合い関係**　東・南側で調査区域外に接する。西側で２号方形区画遺構を掘り込み、南側で２号溝と重複する。　**方位**　Ｎ－65°－Ｅを指向する。　**規模**　長さ15.6m・幅2.1m・深さ0.5～0.6m。　**溝断面形**　底面平坦な舟形で凹凸あり。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

２号溝

位置　西離れ調査区Ｂ３・Ｂ４。　**複合切り合い関係**　東・西側で調査区域外に接し、西側で２号方形区画遺構を掘り込み、北側で１号溝に掘り込まれ重複する。また、底面から掘り込まれたと思われる地下式土壙２基が存在する。地下式土壙は、縦坑の深さのみの記録で形態・規模等は不明である。**方位**　Ｎ－65°－Ｅを指向し、東端で南に鈍く折れる。　**規模**　長さ15.6m・幅2.1m・深さ0.5～0.6m。　**溝断面形**　壁は緩く立ち、底面は狭い角状を呈する。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

３号溝

位置　西離れ調査区Ｃ４。　**複合切り合い関係**　東・南側で調査区域外に接し、弧状に検出する。**規模**　長さ3.2m・幅1.1～1.25m・深さ0.32～0.35m。　**溝断面形**　壁は緩く立ち、底面は船底形。**出土遺物**　大窯１平行の瓦質の擂り鉢を出土する。

4号溝

位置　西調査区Ｈ2。　複合切り合い関係　北・西側で調査区域外に接し、北東で226住を掘り込んでいる。　方位　Ｎ－40°－E。　規模　長さ8.0m・幅2.25～2.50m・深さ0.62～0.75m。　溝断面形　緩やかなＵ字状。壁および底面凹凸無し。北側壁面に小ピットあり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

5号溝

位置　西調査区Ｇ4・Ｈ3・Ｈ4。　複合切り合い関係　西側で233住を掘り込み、6号溝にほぼ直交して止まる。　方位　Ｎ－65°－E。　規模　長さ11.8m・幅0.75～1.0m・深さ0.60～0.72m。　溝断面形　Ｕ字状で底面やや凹凸あり。出土遺物　時期を示す遺物は無い。

6号溝

位置　西調査区Ｈ3・Ｉ3・Ｉ4。　複合切り合い関係　北・南側で調査区域外と接し、232～238住を掘り込む。　方位　Ｎ－13°－Ｗを指向し、やや蛇行する。　規模　長さ19.0m・幅0.9m前後・深さ0.85～0.95m。　溝断面形　底面の幅のあるＶ字形を呈し、底面にやや凹凸あり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

7号溝

位置　西調査区Ｇ5～Ｊ4。　複合切り合い関係　北・南側で調査区域外と接し、全ての住を掘り込む。　方位　Ｎ－12°－Ｅを指向し、ほぼ直線。　規模　長さ36m・幅0.60～0.8m・深さ0.35～0.45m。　溝断面形　底面の幅広、急な立ち上がり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

8号溝

位置　西調査区Ｋ4・Ｌ8。　複合切り合い関係　東・西側で調査区域外と接し、全ての住を掘り込む。　方位　Ｎ－98°－Ｅを指向し、途切れて検出する。　規模　長さ41m・幅0.7m～1.65m・深さ0.2～0.3mを測り一様ではない。　溝断面形等　溝内外に大小の不規則な柱列状のピットを伴う。　出土遺物　複合する210住出土遺物中に古代の瓦片や中世の甕と思われるものが存在する。

9号溝

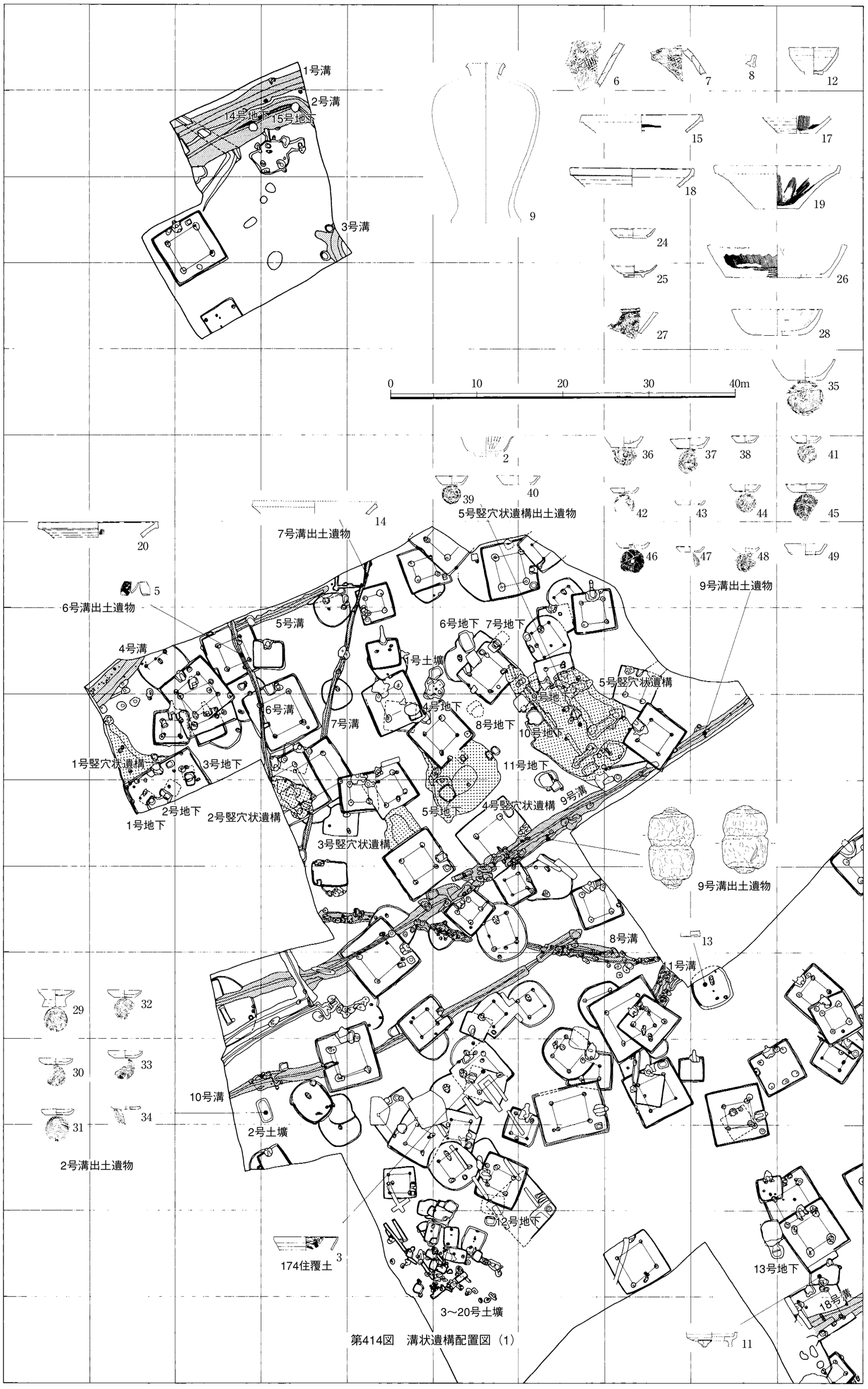
位置　西調査区Ｉ9～Ｌ3。　複合切り合い関係　東・西側で調査区域外と接し、複合する全ての遺構を掘り込む。　方位　Ｎ－57°－Ｅを指向しするが、西端寄りでＮ－72°－Ｅに向きを変える。　規模　長さ72m・幅１m～２m・深さ0.35～0.65mを測り西側が深い。　溝断面形等　溝内外に大小の不規則な土壙状の落ち込みや柱列状のピットを伴う。　出土遺物　中世遺物のうち6～9・35～38・41～49と五輪塔空風輪2点が出土している。

10号溝

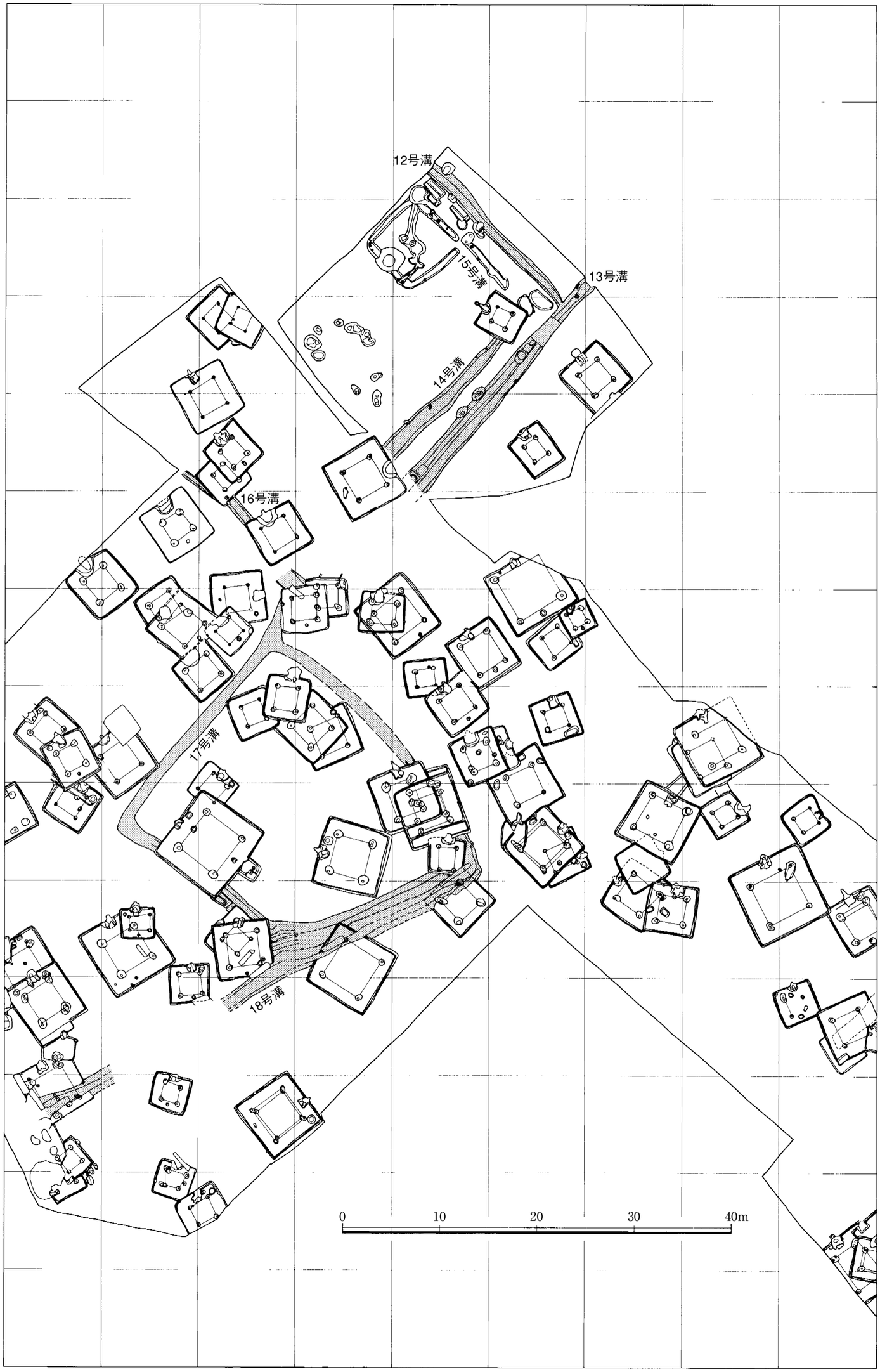
位置　西調査区Ｋ7～M10。　複合切り合い関係　西側で調査区域外と接し、複合180・181住を掘り込む。　方位　Ｎ－60°－Ｅを指向するが、西端寄りでＮ－72°－Ｅに向きを変える。　規模　長さ45.5m・幅0.8m～1.2m・深さ0.28～0.63mを計測するが一様ではない。　溝断面形等　北側10mにほぼ平行する9号溝と断面規模に相異があるもののほぼ形状を同じくする。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

11号溝

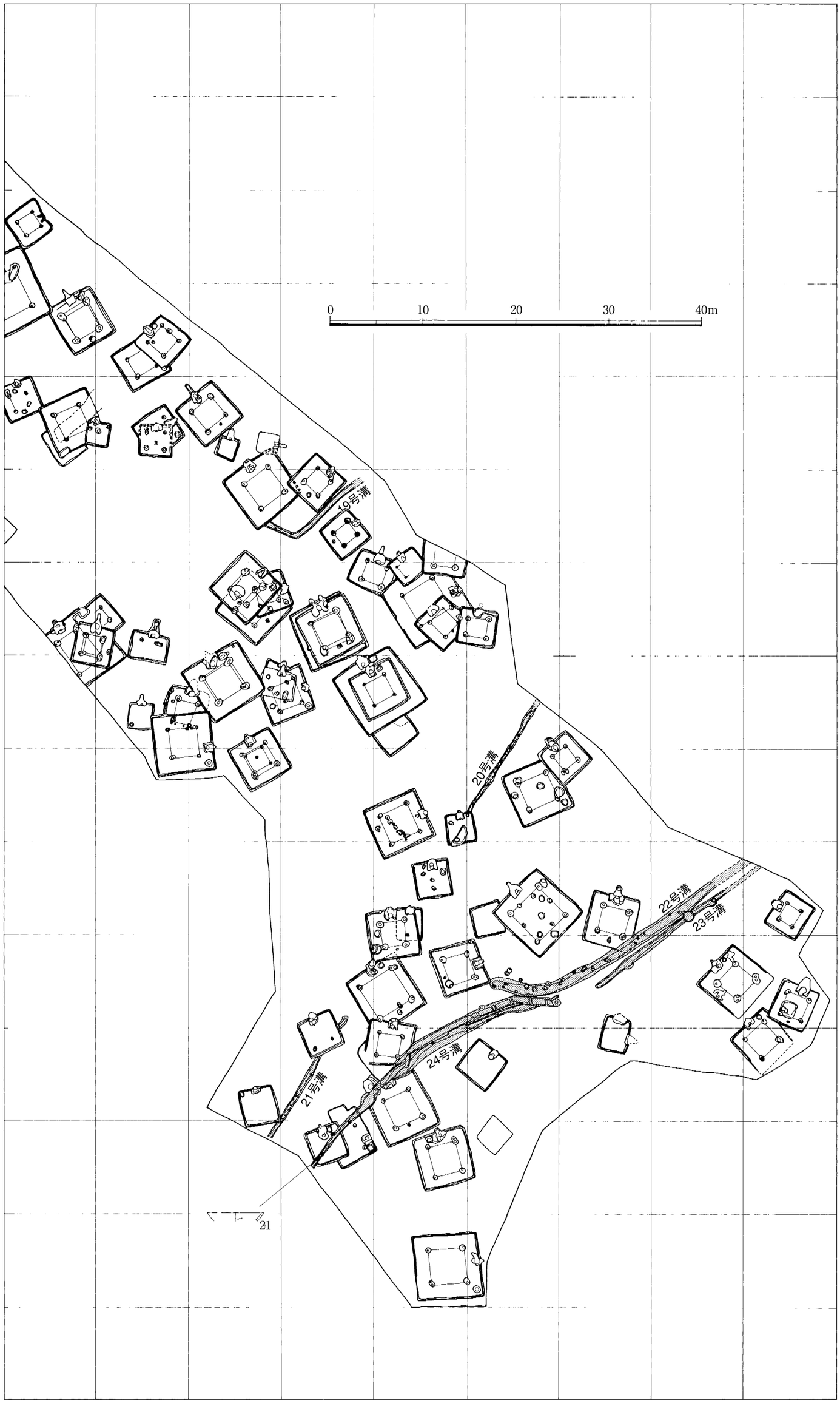
位置　西調査区Ｌ8。　複合切り合い関係等　北側で調査区域外と接し、南側は　155住・156住の覆



第414図　溝状遺構配置図（1）



第415図　溝状遺構配置図（2）



第416図　溝状遺構配置図（3）

土中に構築されると思われ検出されない。　方位　N－23°－Eを指向する。　規模　長さ4.5m・幅1.7m～2.2m・深さ0.21～0.25mを計測するが一様ではない。　溝断面形等　幅0.7mと0.9mの2条の溝から成り、柱穴状のピットが不規則にある。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

12号溝

位置　中央調査区F14・G14・G15。　複合切り合い関係等　1号方形区画遺構の北東辺に1mの間隔でほぼ平行に走る。南西端は13号溝と直交して止まる。北西側は調査区域外と接する。　方位　N－44°－Wを指向する。　規模　長さ39m・幅0.4～0.7m・深さ0.23～0.71mを測り、幅・深さ共に南東側に寄るに従い減じる。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

13号溝

位置　中央調査区H15・I14。　複合切り合い関係等　北東側は調査区域外と接し、南東側は10住で止まる。2条の深さの異なる溝からなる（北西側A溝・南東側B溝）。　方位　N－41°－Eを指向する。　規模　長さ27m・幅2m～2.3m（A溝1～1.3m・B溝1～1.1m）・深さ（A溝0.6～0.7m・B溝0.34～0.42m）を測る。　断面形等　逆台形で凹凸あり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

14号溝

位置　中央調査区H14・I14。　複合切り合い関係等　13号溝の北西側1.5m程にほぼ平行に走る。北東側は42住・南東側は10住で止まる。　方位　N－42°－Eを指向する。　規模　長さ17m・幅1.0～1.9m・深さ0.23～0.40m前後。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

15号溝

位置　中央調査区G14～15。　複合切り合い関係等　1号方形区画遺構北東辺溝の延長上に位置する。　方位　N－45°－Wを指向する。　規模　長さ6.6m・幅0.75前後・深さ0.2m前後を測る。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

16号溝

位置　中央調査区I11・J12。　複合切り合い関係等　8・9・14住の間と14住覆土内に確認されるが両端は未掘で不明。　方位　N－44°－Wを指向する。　規模　長さ17m・幅0.8～2m。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は、9住の常滑甕片の17・18が参考となる。

17号溝

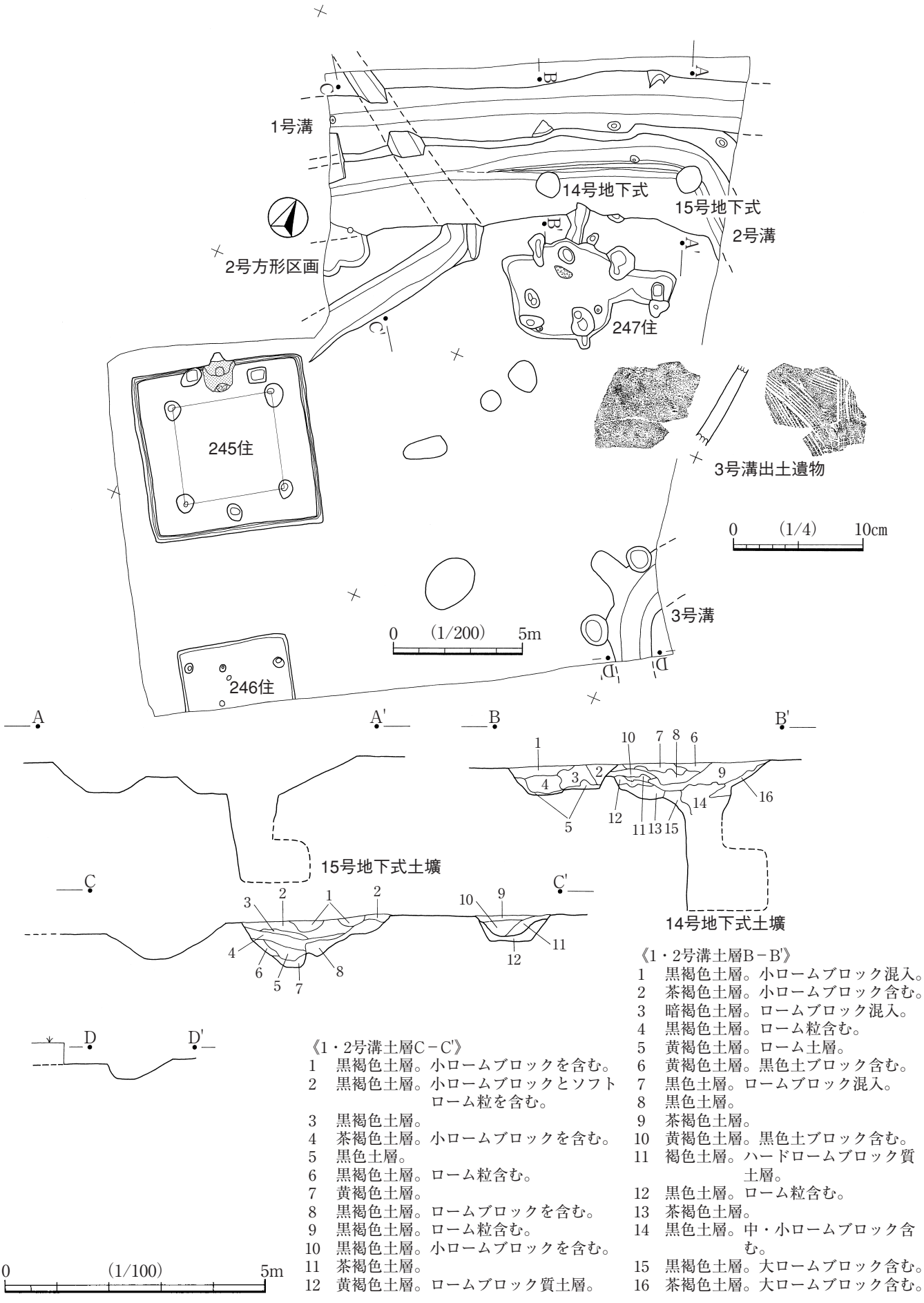
位置　中央調査区K12～N14。　複合切り合い関係等　全ての住居跡を掘り込み方形に回るものと思われるが未掘で詳細不明。　規模　25m×32m。　溝断面形　浅いUの字。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

18号溝

位置　中央調査区N14～P10。　複合切り合い関係等　全ての住居跡を掘り込むが未掘カ所があり詳細不明。　方位　N－60°－Eを指向する。　規模　長さ52m・幅1.8～2m・深さ0.2～0.4m前後。　溝断面形　浅いUの字。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

19号溝

位置　東調査区P20・P21。　複合切り合い関係等　北端は調査区域外に接し、西端は65住と複合。L字状を呈する。　規模　長さ13.5m・幅0.6m前後・深さ0.11～0.19m。　溝断面形　底面平坦。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。



《1・2号溝土層C－C'》
1 黒褐色土層。小ロームブロックを含む。
2 黒褐色土層。小ロームブロックとソフトローム粒を含む。
3 黒褐色土層。
4 茶褐色土層。小ロームブロックを含む。
5 黒色土層。
6 黒褐色土層。ローム粒含む。
7 黄褐色土層。
8 黒褐色土層。ロームブロックを含む。
9 黒褐色土層。ローム粒含む。
10 黒褐色土層。小ロームブロックを含む。
11 茶褐色土層。
12 黄褐色土層。ロームブロック質土層。

《1・2号溝土層B－B'》
1 黒褐色土層。小ロームブロック混入。
2 茶褐色土層。小ロームブロック含む。
3 暗褐色土層。ロームブロック混入。
4 黒褐色土層。ローム粒含む。
5 黄褐色土層。ローム土層。
6 黄褐色土層。黒色土ブロック含む。
7 黒色土層。ロームブロック混入。
8 黒色土層。
9 茶褐色土層。
10 黄褐色土層。黒色土ブロック含む。
11 褐色土層。ハードロームブロック質土層。
12 黒色土層。ローム粒含む。
13 茶褐色土層。
14 黒色土層。中・小ロームブロック含む。
15 黒褐色土層。大ロームブロック含む。
16 茶褐色土層。大ロームブロック含む。

第417図　1・2・3号溝

20号溝

位置　東調査区 R23・S23。　複合切り合い関係等　北端は調査区域外に接し、南端は85住と複合し止まる。南延長線上25mには21号溝が存在する。　方位　N－31°－E。　規模　長さ13.5m・幅0.4～0.7m・深さ0.16～0.34m。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

21号溝

位置　東調査区 V21。　複合切り合い関係等　南端は調査区域外に接し、北側で111住覆土を掘り込んでいる。北延長線上25mには20号溝が存在する。　方位　N－31°－E。　規模　長さ15.5m・幅0.5～0.75m・深さ0.29～0.42m。　断面形　逆台形で底面凹凸あり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

22号溝

位置　東調査区 T25・U23・U24。　複合切り合い関係等　北端は調査区域外に接し、中央で101住を掘り込む。西端で24号溝を避ける様に弧状に接する。溝内外面には柱穴状のピットを有する。　方位　N－55°－E。　規模　長さ41m・幅１～1.4m・深さ0.21～0.42m。　断面形　逆台形で底面凹凸あり。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

23号溝

位置　東調査区 T25・U24。　複合切り合い関係等　北端は調査区域外に接し、北東側に22号溝と方向を同じくしてほぼ接する。　方位　N－55°－E。　規模　長さ22m・幅0.6m前後・深さ0.34～0.48m。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

24号溝

位置　東調査区 T25・U24。　複合切り合い関係等　南西端は調査区域外に接し、複合する住居跡を全て掘り込む。弧状を呈し、長方形の土壙が連続する。　方位　N－50°－E。　規模　長さ33m・幅1.5～２m・深さ0.40～1.2m。　断面形　逆台形。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

第４節　竪穴状遺構・地下式土壙等

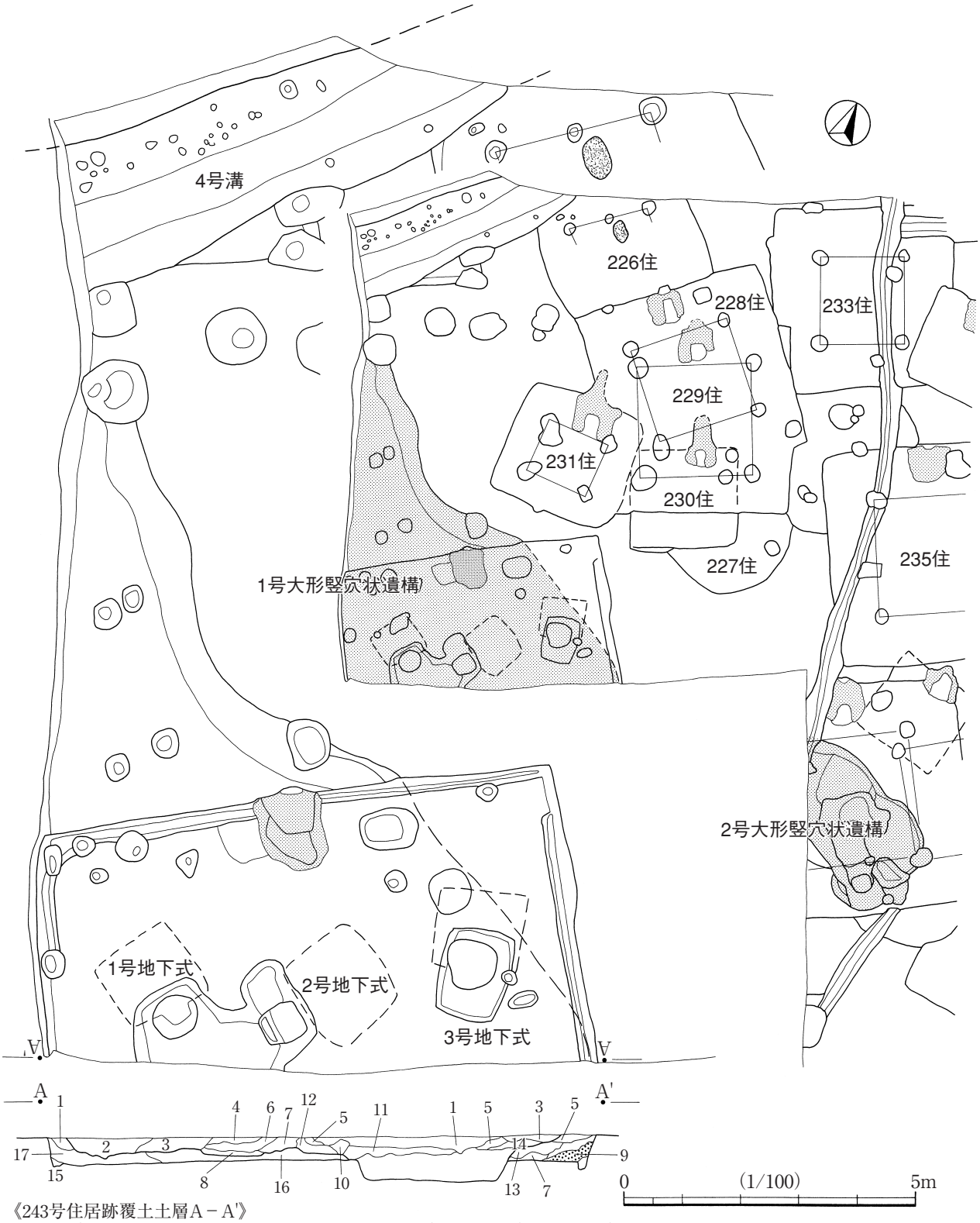
本遺跡から検出された地下式土壙は竪穴状遺構と密接な関係があることから一緒に取り扱う。

１号大形竪穴状遺構

位置　西調査区Ｉ２・Ｊ２。　複合切り合い関係等　西・南側は調査区域外に接し、下層には243住が位置し、１～３号地下式土壙が包括される。　平面形　部分的な検出でプラン全体は不明であるが不整形を呈し、壁立ち上がりは緩やかで底面は凹凸が著しく柱穴状のピットを不規則に有する。また、底面から掘り込まれたと思われる１～３号地下式土壙基が存在する。　規模　南北長12m以上・東西長9.5m以上・深さ0.45m前後を計測する。　出土遺物　243住上層から８世紀後半代の須恵器杯類が出土するが、本遺構に帰属する資料ではあるまい。

２号大形竪穴状遺構

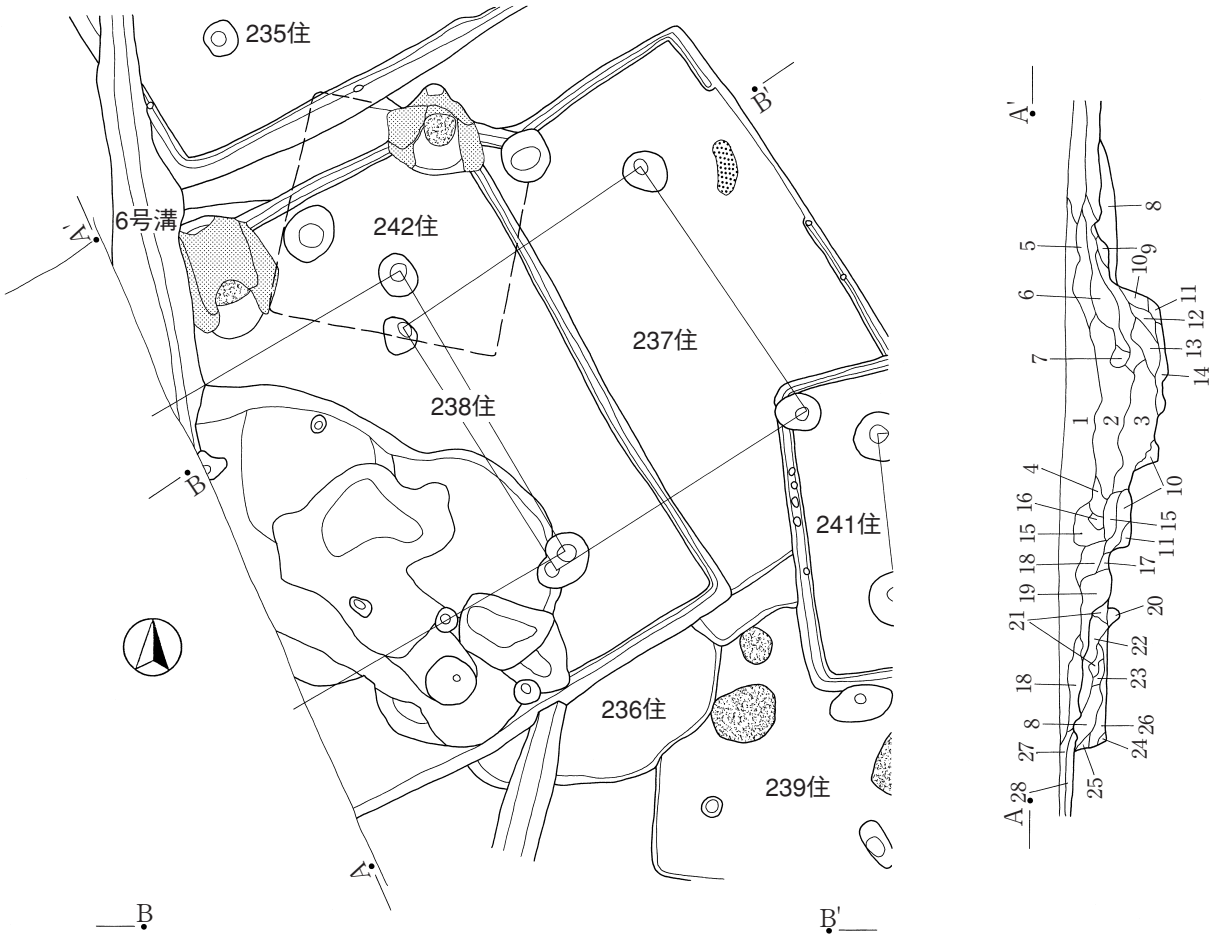
位置　西調査区Ｉ４・Ｊ４。　複合切り合い関係等　１号竪穴遺構の７m東に位置し、西側は調査区域外に接し、238住覆土と床面を大きく掘り込み構築され、西端で６号溝に掘り込まれる。１号区画との間が未調査で一連の同一遺構の可能性もある。　平面形　部分的な検出でプラン全体は不明であ

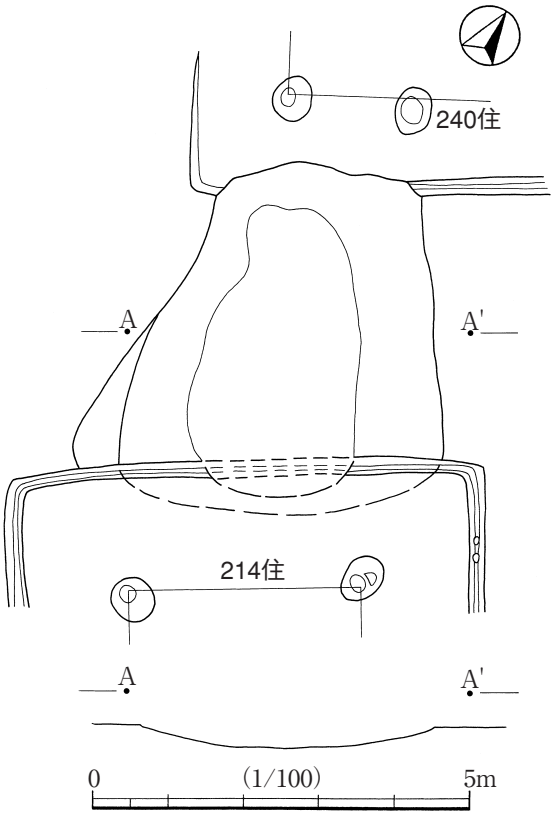


《243号住居跡覆土土層A－A'》

1　黒褐色土層。
2　黒色土層。
3　暗褐色土層。
4　黒褐色土層。ローム粒を含む。
5　黒褐色土層。ローム粒を少量含む。
6　黒褐色土層。焼土と炭を含む。
7　茶褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
8　暗褐色土層。ロームブロックを含む。
9　茶褐色土層。粘土と焼土を少量含む。
10　茶褐色土層。黒色土を少量含む。
11　黒褐色土層。ローム土と粘土を霜降り状に含む。
12　茶褐色土層。ローム粒を含む。
13　茶褐色土層。ロームブロック（5㎜以下）と焼土及び粘土を極少量含む。
14　茶褐色土層。ローム粒を含み、一部にロームブロック（4㎝以下）を含む。
15　茶褐色土層。ロームブロック（1㎝以下）を含む。
16　暗褐色土層。焼土を部分的に少量含む。
17　茶褐色土層。ロームブロック（2㎝以下）を含む。

第418図　1号大形竪穴状遺構

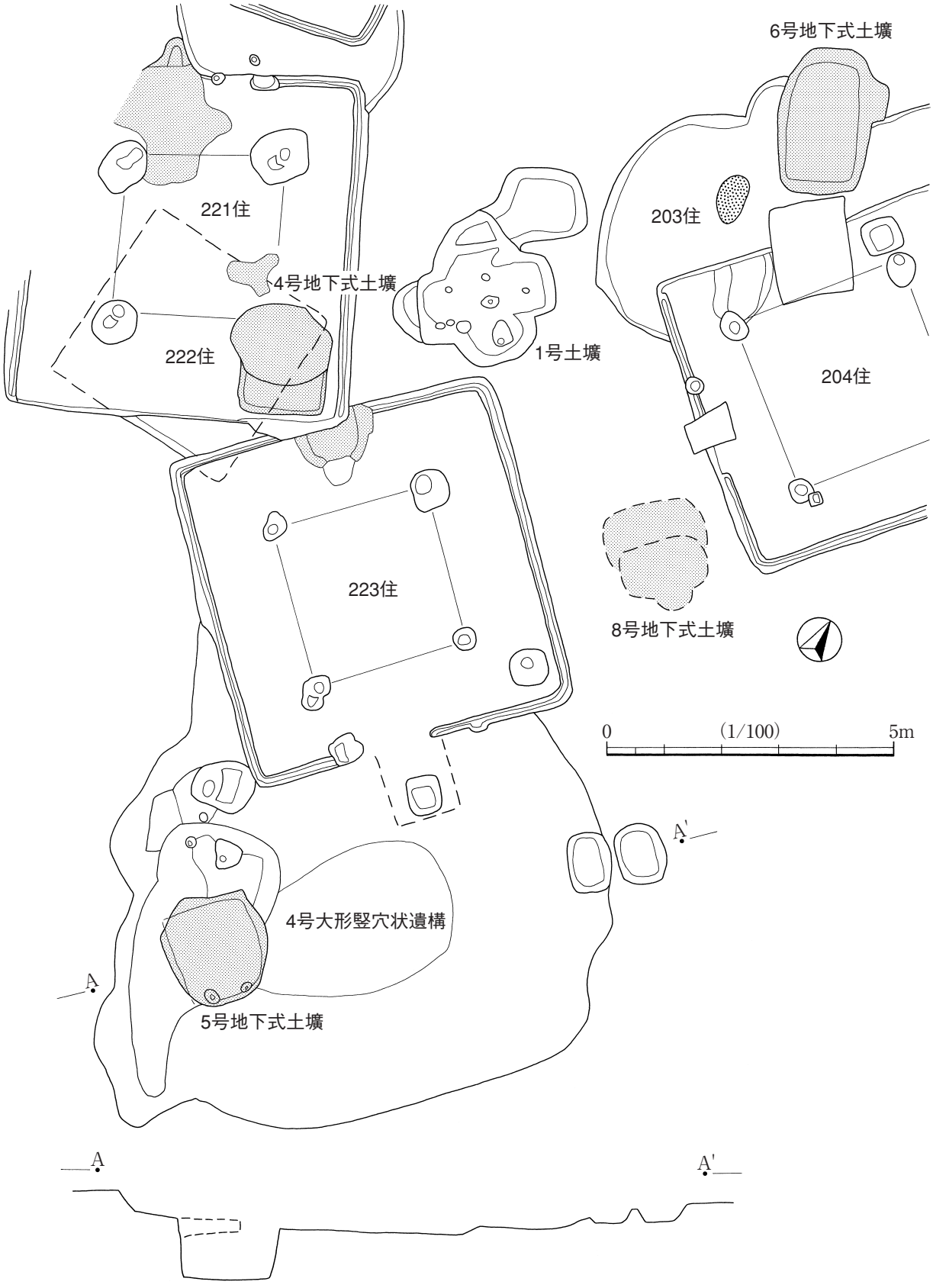




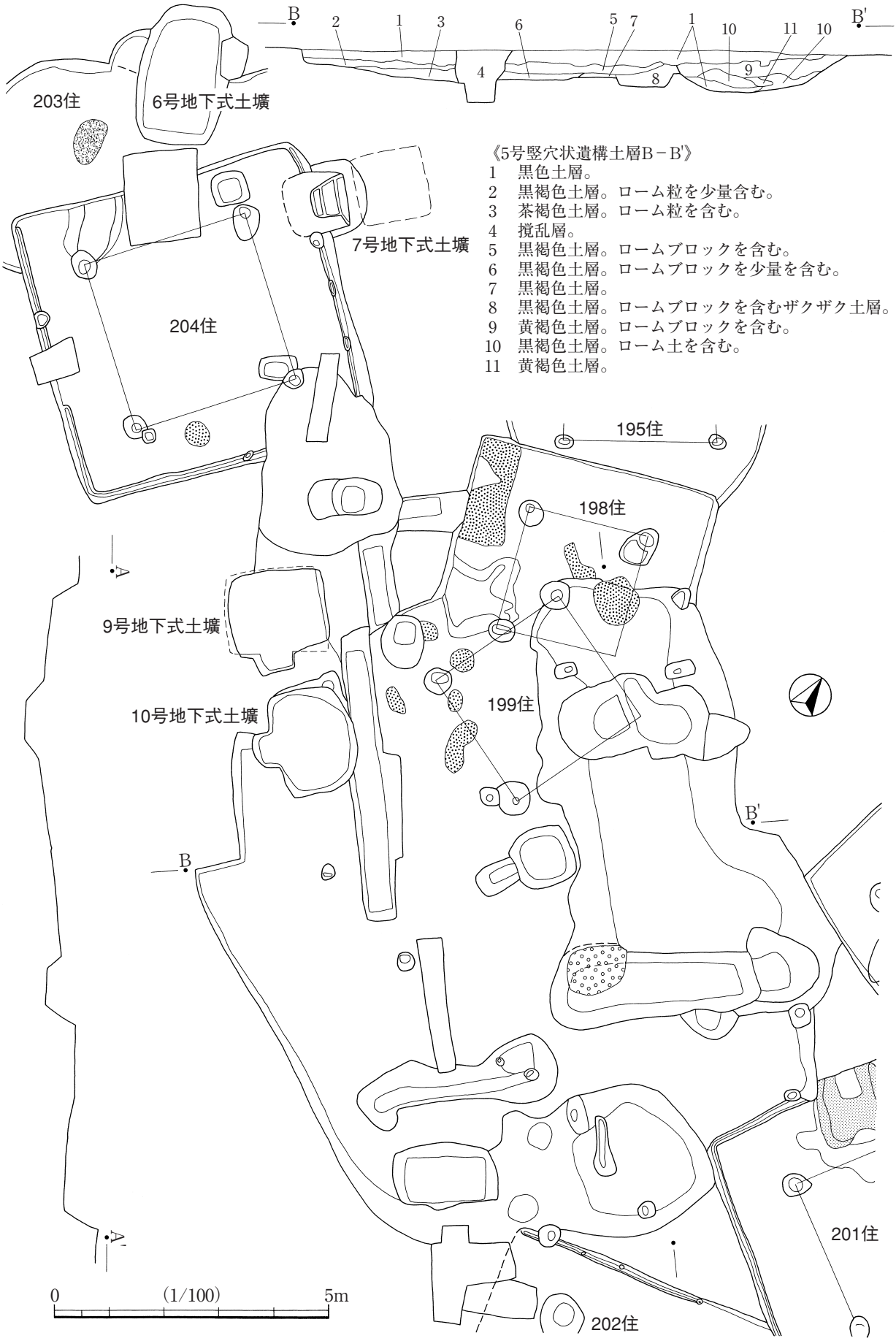
3号大形竪穴状遺構

《2号竪穴状遺構土層A－A'》
1　黄褐色土層（10YR5/8）。ロームブロック（2～3㎜）を混入。
2　黒褐色土層（5YR3/1）。ロームブロック（0.5～1㎜）を混入。
3　褐色土層（10YR4/4）。ロームブロック（5～6㎜）を混入。
4　黄褐色土層（10YR5/6）。ロームブロック（1～2㎜）を多く混入。
5　黒褐色土層（5YR3/1）。ロームブロック（0.5～1㎜）を多く混入。
6　暗赤褐色土層（5YR3/2）。ロームブロック（0.5～1㎜）を多く混入。
7　黒褐色土層（5YR2/1）。ロームブロック（0.5～1㎜）を極少量混入。
8　黄褐色土層（10YR5/6。ロームブロック（2～3㎜）を混入（多め）。
9　褐色土層（10YR4/6）。ロームブロック（2～3㎜）と焼土ブロック混入。
10　暗褐色土層（10YR3/3）。ロームブロック（2～3㎜）を混入。
11　褐色土層（10YR4/4）。ロームブロック（1～2㎜）を混入（多量）。
12　黒褐色土層（5YR2/1）。ロームブロック（0.5～1㎜）を混入（少量）。
13　暗褐色土層（10YR3/3）。ロームブロック（2～3㎜）を混入（10より少量混入）。
14　黒褐色土層（5YR2/1）。ロームブロック（1～2㎜）を混入（少量）。
15　暗褐色土層（10YR3/4）。ロームブロック（1㎜前後と2～3㎜）を混入。
16　黒褐色土層（10YR3/2）。木の根によるカク乱。
17　黒褐色土層（5YR2/1）。ロームブロック（1～2㎜）と灰（少量）を混入。
18　褐色土層（10YR4/4）。ロームブロック（1～2㎜）を混入。
19　暗褐色土層（10YR3/3）。ロームブロック（1～2㎜）を混入。
20　黒褐色土層（10YR2/3）。ロームブロック（2㎜前後）を混入。
21　暗褐色土層（10YR3/3）。ロームブロック（1～2㎜）を混入（18・19より少量混入）。
22　暗褐色土層（10YR3/4）。ロームブロック（2㎜前後）を混入。
23　暗褐色土層（10YR3/3）。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。
24　黒褐色土層（10YR2/2）。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。
25　黒褐色土層（10YR3/2）。ロームブロック（1～2㎜）を薄く混入。
26　褐色土層（10YR4/4）。ロームブロック（1～2㎜）を多く混入。
27　褐色土層（10YR4/6）。ロームブロック（2㎜前後）を混入。
28　にぶい黄褐色土層（10YR4/3）。ロームブロック（2㎜前後）を混入。

第419図　2・3号大形竪穴状遺構



第420図　4 号大形竪穴状遺構



第421図　5 号大形竪穴状遺構

るが楕円状の不整形を呈し、壁立ち上がりは比較的急で底面には幾つもの土壙状の底面と柱穴状のピットが数カ所確認できる。　**規模**　西端調査区外土層観察ラインで、上場6.2m、238住床面掘り込み規模は、長軸（東西）６m以上・短軸（南北）3.4m以上・深さ1.52mで、表土掘り込み位置からは1.8mを計測する。　**出土遺物**　238住－８の覆土内出土のカワラケが時期を示す資料となろう。

３号大形竪穴状遺構

位置　西調査区Ｊ５。　**複合切り合い関係等**　北側で240住、南で214住をそれぞれ掘り込む。　**平面形**　南端が明瞭で不明確であるが、概ね不整な方形状の竪穴を呈し、壁立ち上がりは緩やかで底面は凹凸が著しい。　**規模**　詳細な記録が失われ不明確であるが、復元規模は、４×５m・深さ0.4m前後を計測する。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

４号大形竪穴状遺構

位置　西調査区Ｉ６・Ｊ６。　**複合切り合い関係等**　３号竪穴遺構の北東３mに位置し、北西側は223住覆土内に掘り込まれ、西端に５号地下式土壙、北東辺内外に土壙状遺構２基を伴う。また、範囲外の北西に４号、北東に８号地下式土壙が接近する。　**平面形**　楕円状の不整形を呈し、壁立ち上がりは緩やかで底面は凹凸が著しい。　**規模**　北東側が不明確であるが、９m以上×9.5m・深さ0.5～0.72mを計測する。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

５号大形竪穴状遺構

位置　西調査区Ｈ７・Ｉ７・Ｉ８。　**複合切り合い関係等**　４号竪穴遺構の北東５mに位置し、北から東側は198～202住を掘り込み複合し、プランが不明確である。また、本遺構は幾つかの擂り鉢状や土壙状の遺構の集合から構築され、北西側には９・10号地下式土壙が存在する。　**平面形**　楕円状の不整形を呈し、壁立ち上がりはやや急で底面は凹凸もある。　**規模**　北側が不明確であるが、17m×10m・深さ0.4～1.2mを計測する。　**出土遺物**　中世土器の24が時期を示す遺物となろう。

１号地下式土壙

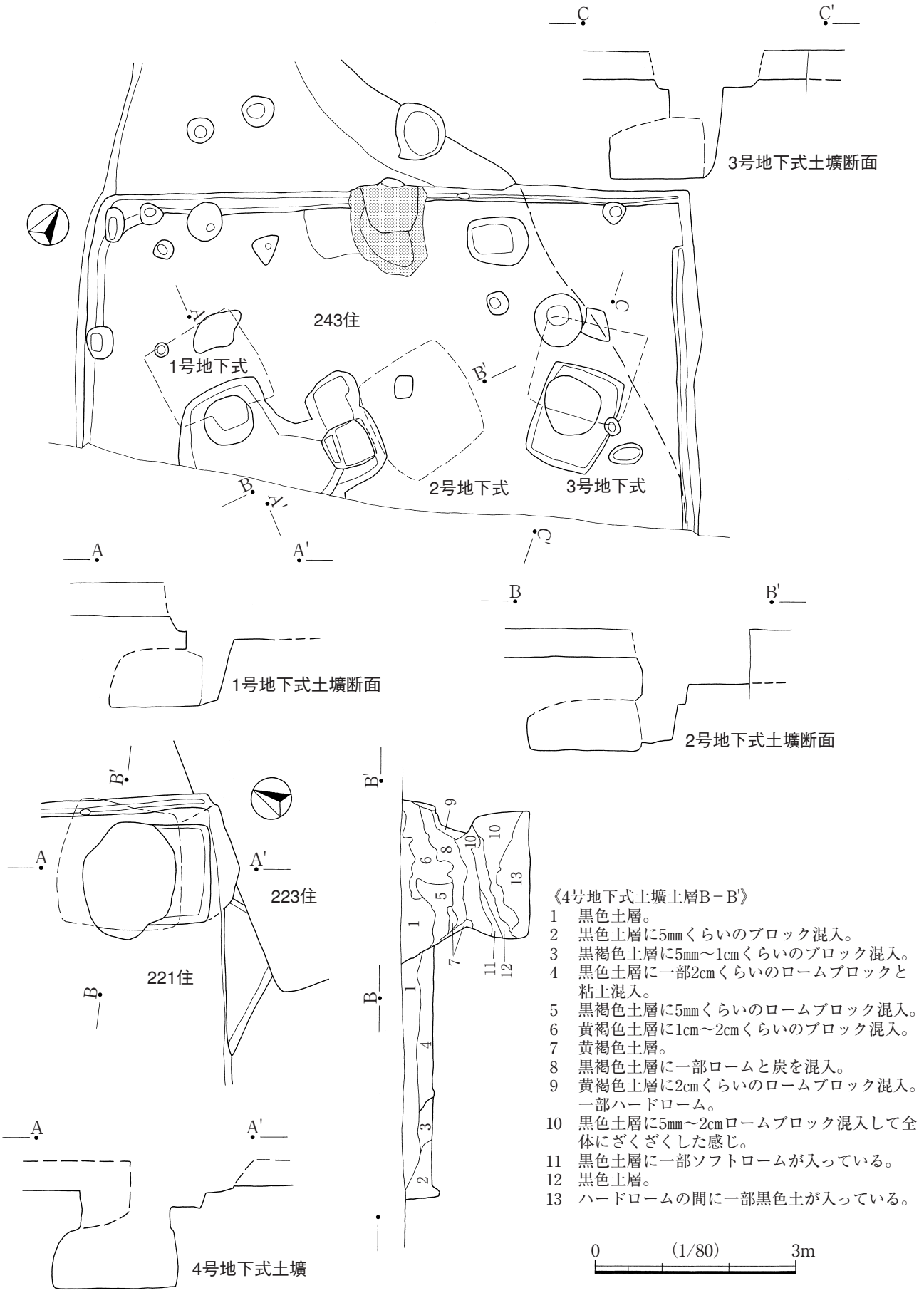
位置　西調査区１号竪穴状遺構内。Ｊ２。　**複合切り合い関係**　243住床面を掘り込む竪穴状遺構内に小竪穴を伴い、小竪穴底面から１・２号の地下式土壙縦坑を設ける。　**入口方位**　Ｎ－53°－Ｗ。　**規模**　縦坑深さ1.85m（ソフトローム上面から）、玄室1.35m（奥行き）×1.5m（幅）・天井高さ0.84m。　**付属施設等**　縦坑と玄室に僅かに段差あり。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

２号地下式土壙

位置　西調査区１号竪穴状遺構内。Ｊ２。　**複合切り合い関係**　243住床面を掘り込む竪穴状遺構内に小竪穴を伴い、小竪穴底面から１・２号の地下式土壙縦坑を設ける。　**入口方位**　Ｎ－33°－Ｅ。　**規模**　縦坑深さ1.75m（ソフトローム上面から）、玄室1.56m（奥行き）×1.65m（幅）・天井高さ0.75m。　**付属施設**　縦坑に１段のステップを有す。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

３号地下式土壙

位置　西調査区１号竪穴状遺構内。Ｉ３・Ｊ３。　**複合切り合い関係**　243住床面を掘り込む竪穴状遺構内に１・２号とは別の小竪穴（長方形1.58×1.18m）を伴い、小竪穴底面から地下式土壙縦坑を設ける。　**入口方位**　Ｎ－14°－Ｗ。　**規模**　縦坑深さ1.96m（ソフトローム上面から）、玄室1.40m（奥行き）×1.48m（幅）・天井高さ0.86m。　**付属施設等**　縦坑と玄室に段差なし。　**出土遺物**　時



第422図　1 ～ 4 号地下式土壙

期を示す遺物は無い。

４号地下式土壙

位置　西調査区。Ｉ５。　**複合切り合い関係**　４号竪穴状遺構の北に隣接し、221住床面を掘り込む。縦坑は小竪穴（長方形1.2？×1.08m）を伴い、小竪穴底面から地下式土壙縦坑を設ける。　**入口方位**　Ｎ－21°－Ｗ。　**規模**　縦坑深さ1.88m（ソフトローム上面から)、玄室1.82m（奥行き）×1.8m（幅)・天井高さ≒0.9m。　**付属施設等**　縦坑と玄室に段差が無く一体型。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

５号地下式土壙

位置　西調査区。Ｊ６。　**複合切り合い関係**　４号竪穴状遺構内の西側に構築される。縦坑と玄室が一体形のタイプである。　**入口方位**　Ｎ－137°－Ｗ？　**規模**　深さ1.36m（ソフトローム上面から)、玄室1.45m（奥行き）×1.7m（幅)・天井高さ≒0.8m。　**付属施設等**　玄室内南壁直下に小ピットを有す。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

６号地下式土壙

位置　西調査区。Ｈ６。　**複合切り合い関係**　230住床面を掘り込む。天井部および玄室部は不明瞭で土壙状を呈する（谷島メモで地下式土壙)。　**入口方位**　Ｎ－23°－Ｗ（長軸)。　**規模**　2.46m×1.62m・深さ1.19m（ソフトローム上面から)。　**付属施設等**　プラン東辺北寄りに縦坑を思わせる輪郭認められる。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

７号地下式土壙

位置　西調査区。Ｈ６。　**複合切り合い関係**　243住北東壁を掘り込む小竪穴（長方形1.15×1.1m）を伴い、小竪穴底面から地下式土壙縦坑を設ける。　**入口方位**　Ｎ－40°－Ｗ。　**規模**　縦坑深さ1.81m（ソフトローム上面から)、玄室≒1.3m（奥行き）×≒1.3m（幅)・天井高さ≒１m。　**付属施設等**　縦坑に２段のステップを有す。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

８号地下式土壙

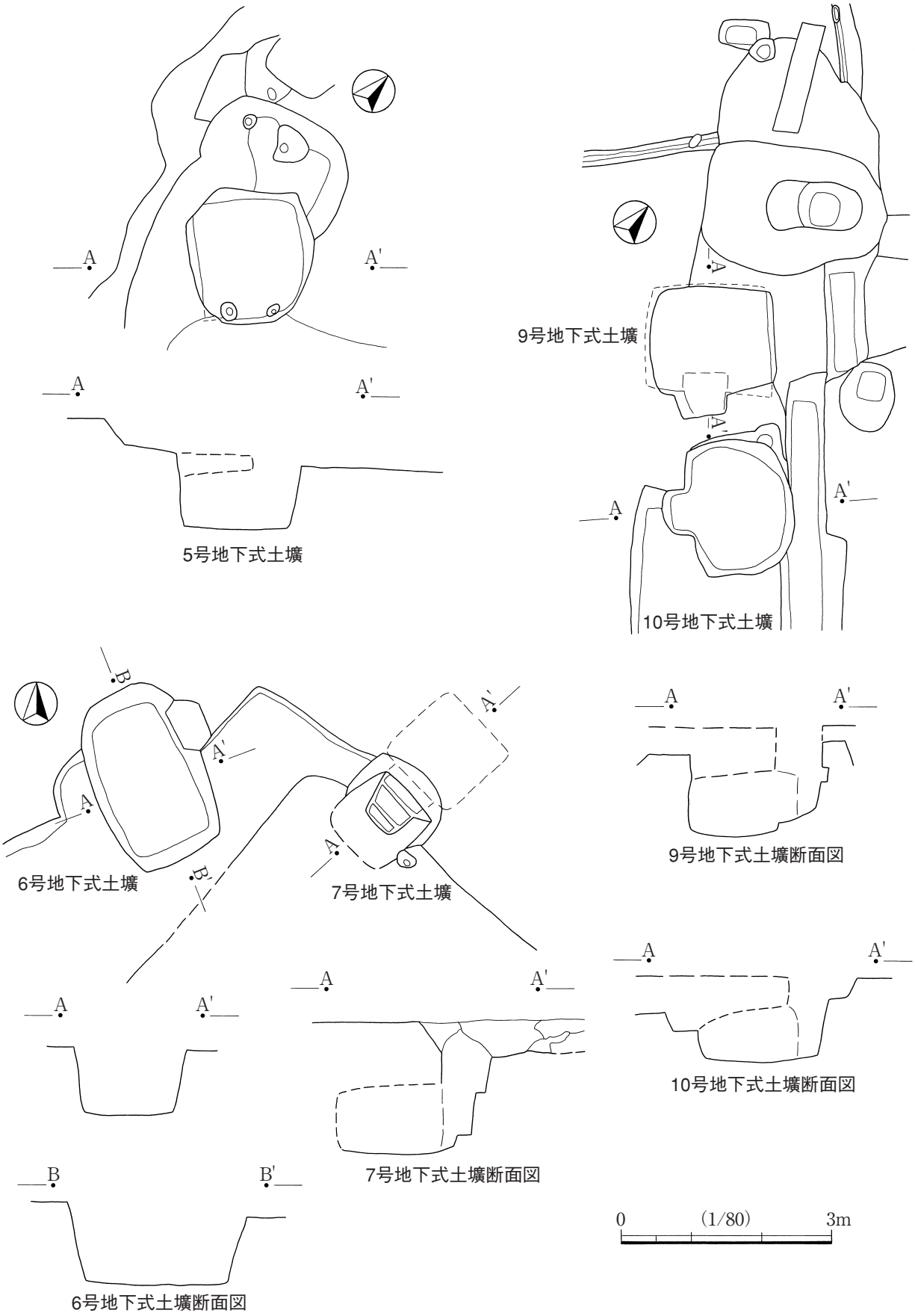
位置　西調査区。Ｉ６。　記録が無く不明であるが全体図に記入あり。

９号地下式土壙

位置　西調査区５号竪穴状遺構内。Ｉ７。　**複合切り合い関係**　５号竪穴状遺構西側壁に複合する。縦坑と玄室の境が不明瞭で縦坑の半分が玄室にかかる。縦坑と玄室は緩やかな段差を有する。　**入口方位**　Ｎ－37°－Ｗ。　**規模**　縦坑深さ1.28m（ソフトローム上面から)、玄室最深部1.67m（ソフトローム上面から)、玄室1.5m（奥行き）×1.75m（幅)・天井高さ≒0.9m。　**付属施設等**　縦坑壁上半にステップ状の窪みを有す（幅28㎝・23㎝・奥行き14㎝)。縦坑底面は１×1.1mの範囲で堅く踏まれている。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。

10号地下式土壙

位置　西調査区５号竪穴状遺構内。Ｉ７。　**複合切り合い関係**　５号竪穴状遺構西側壁に接し、９号地下式土壙の南から検出する。縦坑と玄室の境が不明瞭で縦坑の半分が玄室にかかる。縦坑と玄室は緩やかなスロープ状を呈し、玄室は不整楕円形である。　**入口方位**　Ｎ－50°－Ｅ。　**規模**　縦坑深さ1.15m（ソフトローム上面から)、玄室最深部1.27m（ソフトローム上面から)、玄室1.32m（奥行き）×1.7m（幅)・天井高さ≒0.7m。　**出土遺物**　時期を示す遺物は無い。



第423図　5～7・9・10号地下式土壙

11号地下式土壙

位置　西調査区１号竪穴状遺構内Ｉ７・Ｊ７。　複合切り合い関係　南側で方形の土壙と複合する。方形の小竪穴（幅１ｍ）を伴い、小竪穴底面から地下式土壙縦坑を設ける。　入口方位　Ｎ－117°－Ｗ。　規模　縦坑深さ1.57ｍ（ソフトローム上面から)、玄室1.40ｍ（奥行き）×1.8ｍ（幅)・天井高さ≒0.7ｍ。　付属施設等　縦坑に２段のステップを有す。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

12号地下式土壙

位置　西調査区１号竪穴状遺構内。Ｎ６・06。　複合切り合い関係　３～24号土壙墓群が隣接する。縦坑と玄室が明瞭に分かれている。　入口方位　Ｎ－４°－Ｅ。　規模　縦坑深さ1.6ｍ（ソフトローム上面から)、玄室最深部3.2ｍ（ソフトローム上面から)、玄室2.2ｍ（奥行き）×2.6ｍ（幅)・天井高さ≒２ｍ。付属施設等　縦坑と玄室に1.6ｍの段差を有す。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

13号地下式土壙

位置　西調査区。09。　複合切り合い関係　東側で134・135住を掘り込む。縦坑と玄室が明瞭に分かれる。縦坑と玄室に段差を有する。　入口方位　Ｎ－15°－Ｗ。　規模　縦坑深さ1.02～1.15ｍ（ソフトローム上面から)、玄室最深部2.6ｍ（ソフトローム上面から)、玄室1.5ｍ（奥行き）×1.75ｍ(幅)・天井高さ≒1.75ｍ。　付属施設等　縦坑と玄室間にスロープ状の通路を有す。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

14・15号地下式土壙

位置　西調査区２号溝内。Ｂ３・Ｂ４。　複合切り合い関係　２号溝底面から縦坑が掘られるが、記録類が無く、形状等不明である。　規模　縦坑深さ、14号2.93ｍ（ソフトローム上面から)、15号2.4ｍ（ソフトローム上面から)。

１号土壙墓

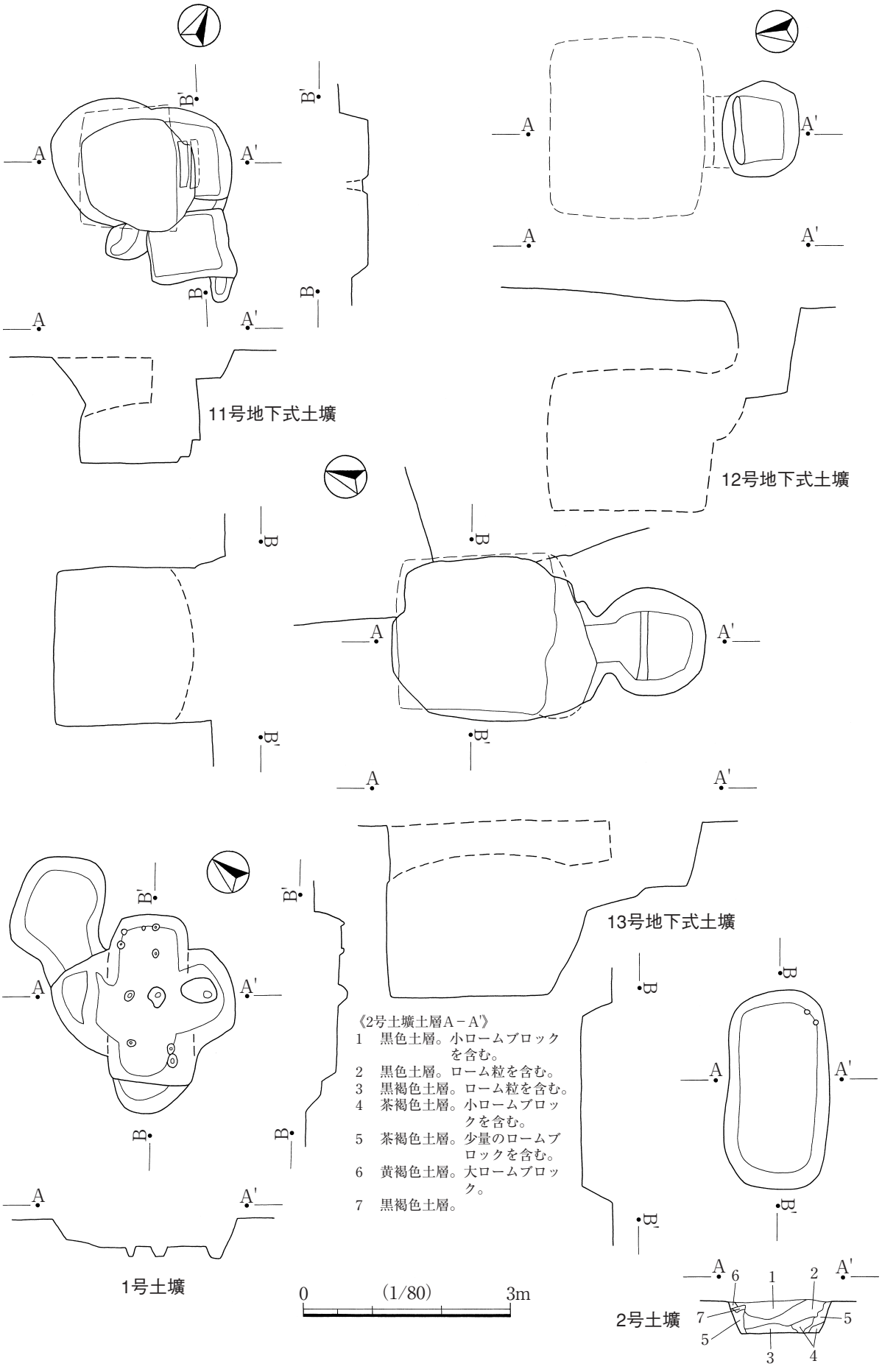
位置　西調査区。Ｈ５・Ｈ６。　複合切り合い関係　３から４基の複数の方形土壙状落ち込みと複合する。平面形は隅円長方形を呈する。　方位　Ｎ－50°－Ｅ（長軸)。　規模　長軸：上場長2.4ｍ・床2.14ｍ、短軸長：上場1.14ｍ・床0.84ｍ、深さ0.42ｍ。　付属施設等　壁下や床面に径0.1～0.25ｍの小ピットを有す。　出土遺物　時期を示す遺物は無い。

２号土壙墓

位置　西調査区。Ｍ４。　複合切り合い関係　単独で検出し、平面形は隅円長方形を呈する。　方位　Ｎ－15°－Ｗ（長軸)。　規模　長軸：上場長2.84ｍ・床2.44ｍ、短軸長：上場1.48ｍ・床1.12ｍ、深さ0.47ｍ。　付属施設等　北壁直下に径0.1弱の小ピット２穴を有す。　出土遺物　中世土器29～34のカワラケ５点・柱状高台１点を出土する。

３～24号土壙墓

位置　西調査区。Ｎ５・Ｎ６・Ｏ５・Ｏ６。　複合切り合い関係　東西10ｍ・南北11ｍほどの範囲に集中的に検出するが、各土壙の複合関係については、土層等の記録が無いため不明である。この内９・11・12・13号の長方形で大型の土壙は良好に遺存し、複合関係は明確に言い切れないが南北に長軸を置く９・11・12号が先行し、東西に長軸を置く13号が後出と推測され、周辺にある方形の小土壙より後出するものと思われる。また、遺物が未検出のため時期も示せないが、中世の後半代から近世と看取される。



第424図　11～13号地下式土壙と１・２号土壙墓

3号土壙墓　平面形等：不整方形で2基以上の可能性あり。規模：長軸長2.1m・短軸長1.9m・深さ0.48m。長軸方位　N－81°－W。

4号土壙墓　平面形等：北西隅のみ遺存。規模：長軸長－（不明）・短軸長－・深さ0.99m。

5号土壙墓　平面形等：方形。底面ピット1穴を有す。規模：長軸長1.52m・短軸長1.3m・深さ2.3m。長軸方位　N－59°－W。

6号土壙墓　平面形等：方形二隅のみ遺存。規模：長軸長－・短軸長1.14m・深さ1.06m。

7号土壙墓　平面形等：方形二隅のみ遺存。規模：長軸長2.3m・短軸長1.6m・深さ1.04m。長軸方位N－74°－W。

8号土壙墓　平面形等：方形で2基以上の可能性あり。規模：長軸長－・短軸長1.80m・深さ0.71m。

9号土壙墓　平面形等：長方形。南東隅に粘土（下末吉白色粘土）張る。底面ピット2穴有す。規模：長軸長2.4m・短軸長1.65m・深さ0.81m。長軸方位　N－13°－E。

10号土壙墓　平面形等：胴張り長方形。規模：長軸長1.4m・短軸長0.95m・深さ0.39m。長軸方位　N－62°－E。

11号土壙墓　平面形等：長方形。底面ピット3穴有す。規模：長軸長2.4m・短軸長1.92m・深さ0.67m。長軸方位　N－4°－E。

12号土壙墓　平面形等：長方形。南壁に接し床面に粘土（下末吉白色粘土）張る。底面ピット6穴有す。規模：長軸長3.0m・短軸長2.5m・深さ0.67m。長軸方位　N－19°－E。

13号土壙墓　平面形等：長方形。西壁に接し床面に粘土（下末吉白色粘土）張る。底面ピット2穴有す。規模：長軸長2.5m・短軸長1.7m・深さ0.83m。長軸方位　N－101°－E。

14号土壙墓　平面形等：方形。12号土壙南東隅に複合。規模：長軸長1.3m・短軸長1.0m・深さ0.72m。長軸方位　N－28°－E。

15号土壙墓　平面形等：長方形。北壁にピット複合。規模：長軸長1.3m・短軸長0.9m・深さ0.37m。長軸方位　N－67°－W。

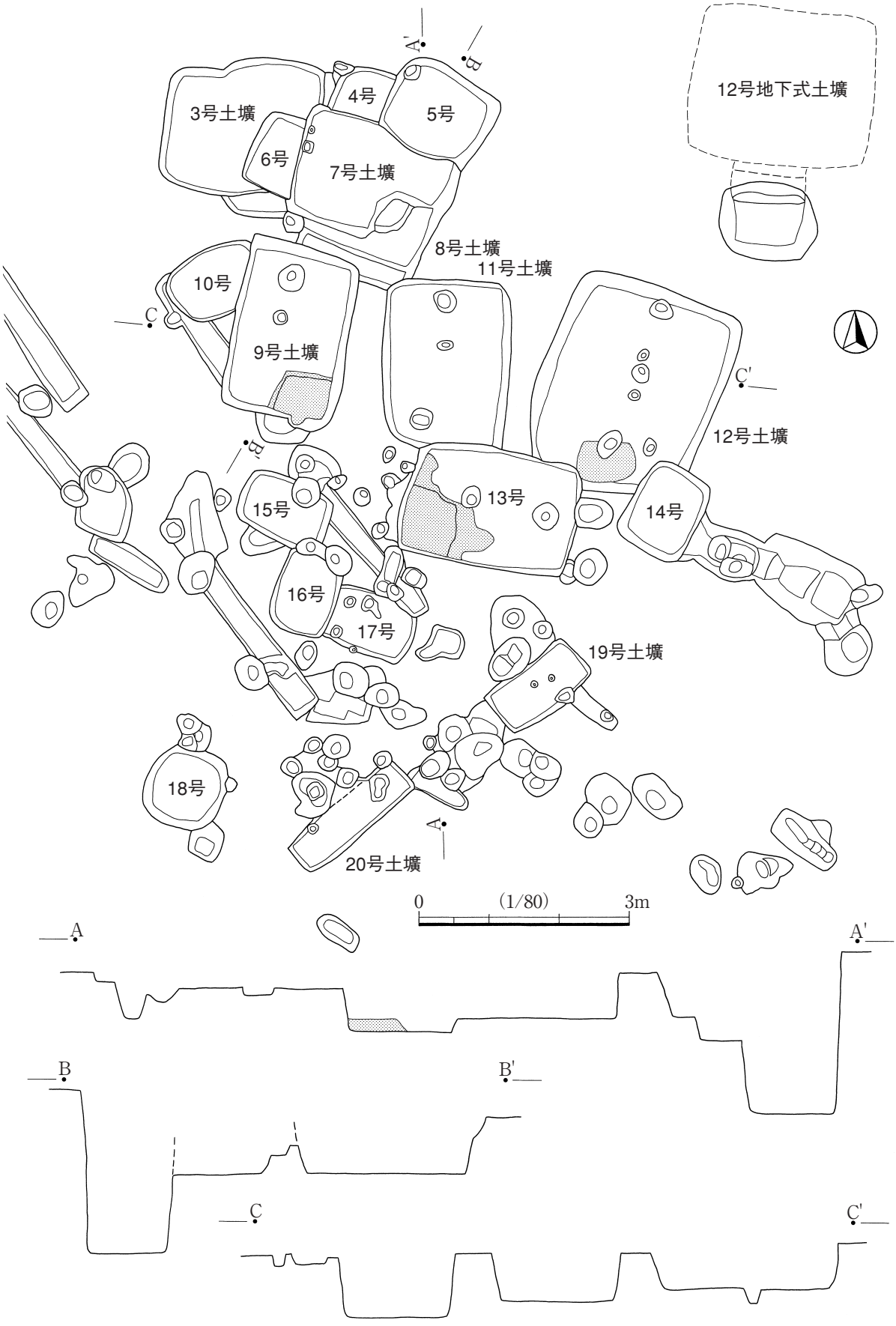
16号土壙墓　平面形等：長方形。15・16号土壙と複合。規模：長軸長1.3m・短軸長0.9m・深さ0.47m。長軸方位　N－17°－E。

17号土壙墓　平面形等：長方形。。底面ピット3穴有す。規模：長軸長1.2m・短軸長0.85m・深さ0.4。長軸方位　N－71°－E。

18号土壙墓　平面形等：胴張り方形規模：長軸長1.15m・短軸長1.1m・深さ0.57m。

19号土壙墓　平面形等：長方形。底面ピット2穴有す。規模：長軸長1.45m・短軸長0.8m・深さ0.15m。長軸方位　N－51°－E。

20号土壙墓　平面形等：長方形。底面ピット2穴有す。規模：長軸長1.95m・短軸長0.6m・深さ0.4m。長軸方位　N－50°－E。



第425図　3～20号土壙墓

第５節　遺構外の出土遺物

縄文土器（第426・427図）

当遺跡において、縄文時代の生活痕跡は全体に希薄といえる。ここに記載するのは、弥生時代以降の遺構中や遺構外で取り上げあげられたものである。総量は不明であるが、掲載資料をみる限り、広大な調査面積に比して縄文土器は少量といえよう。そのなかで、比較的まとまっているのは、早期後葉、中期中葉加曽利ＥⅡ式である。

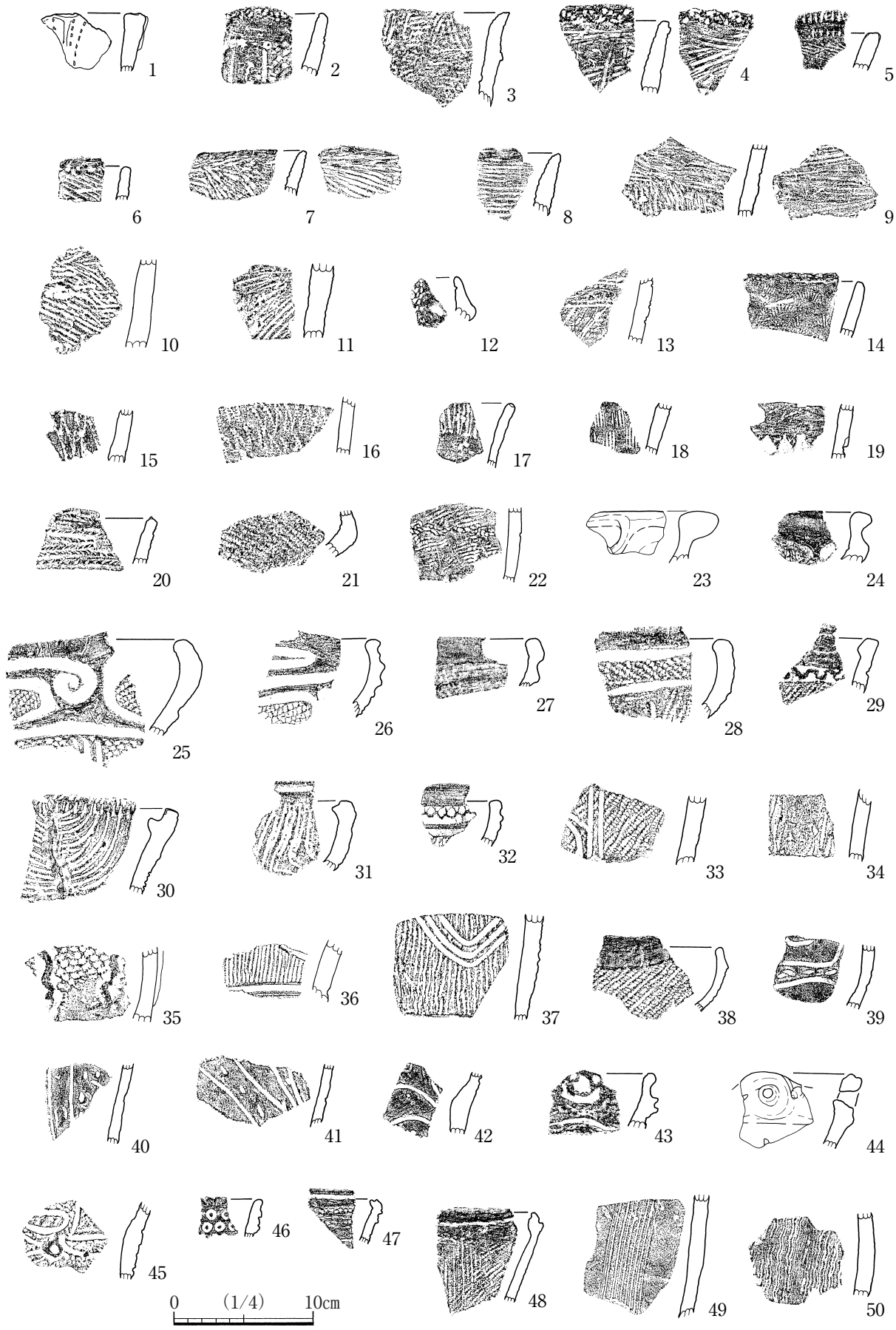
早期後葉　１～11は条痕文土器である。１は波状口縁の波頂部片で、口唇上に刻みを有す。半截竹管の角を使った列点文を隆帯に沿って施し、三角形の区画文を形成する。２は沈線区画内に押引文を充填する。３は口縁に隆帯による狭い区画文をもつ。縦方向の条痕は意匠的である。４は口唇上に斜めの原体圧痕を有するが、原体は不明である。５は口唇の内外にフネガイ科貝類の腹縁を使った刻みをもつ。６も刻みをもつ。７・８は無文の口縁、９～11は無文の胴部破片である。１の条痕は弱く、２は磨消されている。他の条痕は顕著である。５のみは繊維の混入が見られない。

前期～中期初頭　12は時期不明で土器であるかも明確でない。土器であるとすれば、突起となる。繊維を多量に含み、細い管状の工具による列点文をもつ。13は縄文上に半截竹管の内側による結節沈線意匠文を施す。黒浜式である。14～21は前期後葉の土器であろう。14はハイガイの殻表、15・16はフネガイ科貝類の腹縁による圧痕文をもつ。17は短沈線帯をもち、口縁が刻まれる。18は４本１組の短沈線文をもつ。19は器壁の厚い口縁部の下端が三角形に刻まれている。以上は浮島系の土器であろう。20は刻み隆帯を貼り付けて意匠を描くもので、口唇内側も何らかの剥離痕がある。21は縄文 RL の地文をもつ。胴部が強く張り出す土器であろう。以上の２点は諸磯系の土器であろう。22は無節Ｌと結節回転文をもつ胴部片であり、中期初頭の土器であろう。

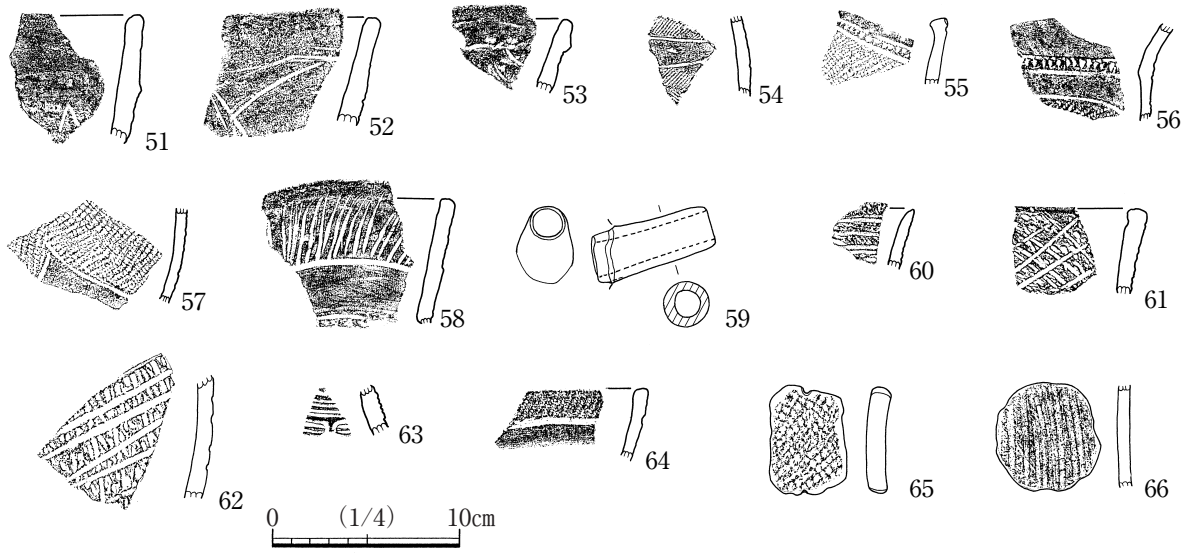
中期　23～37は加曽利Ｅ式前半の土器である。23～28はキャリパー型の口縁部である。28はＥⅢ式と区分し得ないが概ねＥⅡ式の土器であろう。33～35はその胴部とみられる。30・31は曽利系、32・36・37は連弧文系、29はその他の加曽利Ｅ式前半に伴う土器である。縄文原体は33・48が単節 RL、24～26・35は複節 LRL、32・34・36・37は撚糸文である。38は中期後葉・ＥⅢ式の口縁部片である。

後期初頭～前葉　39～42は沈線意匠文内に列点文を充填するもので、称名寺Ⅱ式であろう。43～48は堀之内式の口縁部である。43・44は突起部分、45は頸部の破片である。46は円形刺突を施した口縁部から隆帯が下に伸びるようである。口唇は細かく刻まれる。47は微隆帯と刺突をもつ口縁部の下に横方向の縄文帯をもつ。48は LR を縦横に施文する。47は堀之内２式、他は１式であろう。49～53は後期初頭・前葉の素文系の土器であろう。51・53は口縁部無文帯をもち、以下に沈線意匠文を描くものである。52は口縁の区画をもたないものである。50・51もいずれかの胴部破片であろう。沈線は、49・50が櫛状工具、53が櫛または半截竹管によるもの、51・52が単独の沈線である。

後期中葉～晩期　54は沈線区画文内に LR と RL による羽状縄文を充填する。内面は丁寧に磨かれており、加曽利Ｂ式であろうか。55～57は頸部で一旦括れ、小さな底部をもつ深鉢土器である。区画文は沈線と刻みによるものである。曽谷式から安行１式であろう。58は加曽利Ｂ式の鉢または浅



第426図　縄文土器拓影図（1）



第427図　縄文土器拓影図（2）

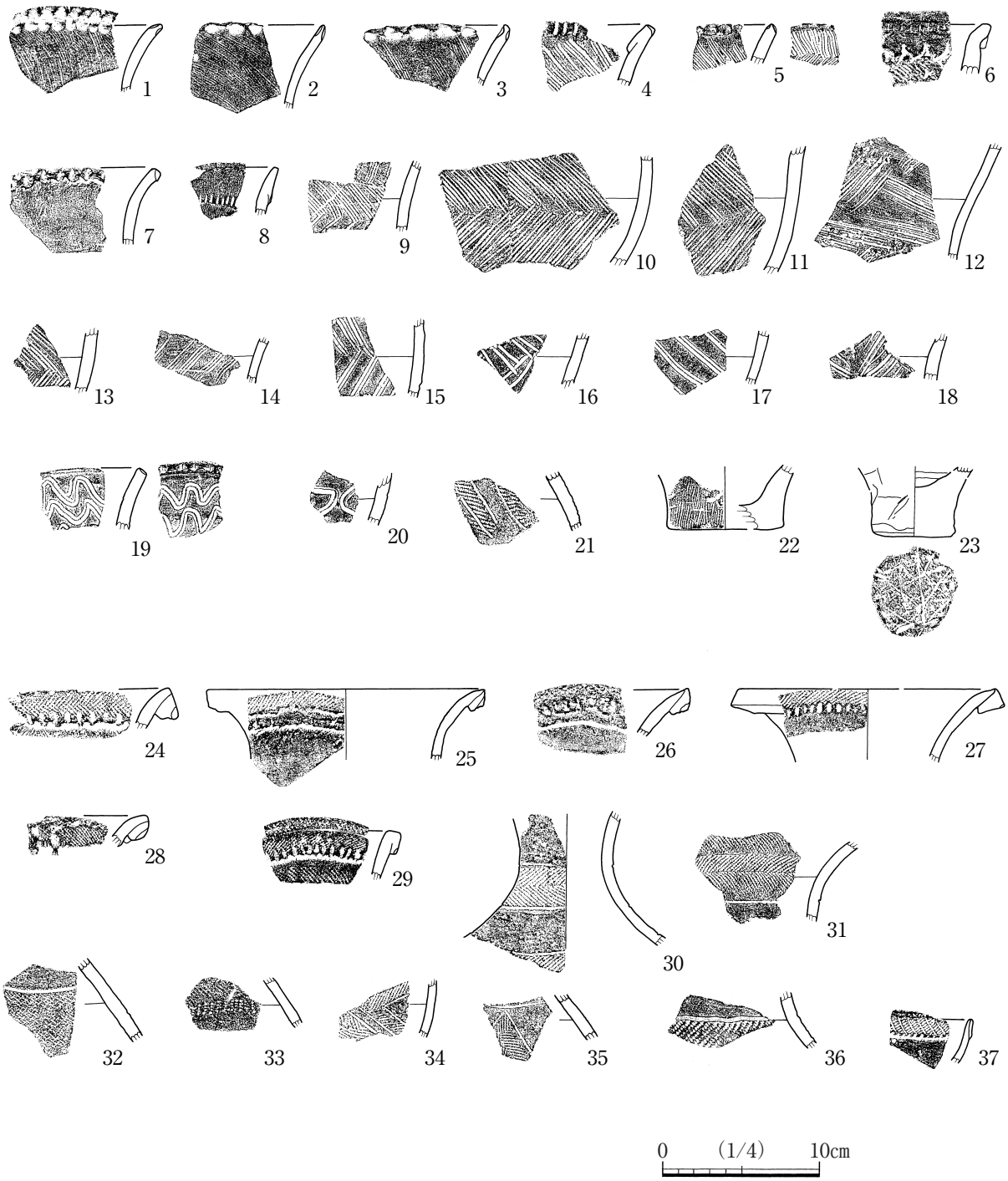
鉢であろう。59は注口である。60は加曽利Ｂ式の粗製土器であろう。口唇外面上端に紐線の剥離痕がある。61・62は縄文の上に格子状沈線を引く土器である。63はごく小片であるが晩期後半の壷であろう。

弥生土器（第428図）

本遺跡から検出した弥生時代の遺構は竪穴住居跡で、中期宮ノ台期５軒・後期から出現期28軒が存在するが、遺構外出土の土器が若干存在する。１～23は中期、24～37は後期の土器と思われるものである。

中期　１～７は深鉢、１～３は口縁押捺で波状を呈し、浅い刷毛目のナデを施す。４は口縁を内側に折返し、口縁に刻みを外面に粗い櫛状工具による斜位のナデを施す。５は口縁押捺で口縁内外面に粗い３本一対の櫛状工具によるナデを施す。６は口縁外面に折返す下向きの山形文と外面粗い櫛状工具によるナデを施す。７は口縁押捺で波状を呈し、内外面丁寧なナデを施す。８は外面に折返しの壷口縁で、口唇部および口縁外面に刺突状の刻みを密に回らし、折返し端部に刻み、口頸部に櫛状工具による縦位のナデを施す。９～11が深鉢胴部片で羽状条痕文を施す。９は４本一対、10は４本一対を密に、11は３本一対を密に施す。12は刷毛目の上に不規則な羽状条痕文を施す。13・14は刷毛目の上に３本一対の羽状条痕文を施す。15～17は丁寧なナデに２本一対の羽状条痕文を施す。18は縦位の不規則な羽状条痕文を施す。19は口唇部指頭圧痕で波状を呈し、外面刷毛目の上に内外面２本一対の波状文を大きく施す。20は向きが不明確であるが外面刷毛目の上に２本一対の沈線で円形状の文を施す。21は壷胴部片で山形文の沈線区画に縄文を施す。22は柱状を呈する底部で外面刷毛目を施す。23は柱状を呈する底部で外面雑なナデで底部木の葉を施す。

後期　24は折返し複合口縁で口縁に羽状縄文と下端に縄文の刺突状の刻目を施し、内面と口頸部外面に丹彩が明瞭に認められる。25は折返し複合口縁で口縁に羽状縄文を施し、内面と口頸部外面に丹彩が明瞭に認められる。26は折返し口縁で口縁に羽状縄文と下端に刺突状の刻目を施し、内面と口頸部外面に丹彩の痕跡が認められる。27は折返し口縁で口縁に斜縄文と下端に刻目を施す。28は折返し口縁で斜縄文と棒状浮文を施し、内面と口頸部外面に丹彩の痕跡が認められる。29は折返し口縁で口



第428図　弥生土器拓影図

縁に斜縄文と下端に刻目、口頸部外面に斜縄文を施す。30は細頸の壺で上下沈線区画内に羽状縄文を施し、無文帯に丹彩の痕跡が認められる。31は細頸の壺で下端沈線区画内に羽状縄文２段を施し、無文帯に丹彩を明瞭に残す。32は壺胴片で上端線区画内に網目を施し、無文帯に丹彩を明瞭に残す。33は壺胴片で上方羽状縄文、下方に４点一対の刺突文を回らす。34・35は壺胴片で山形文沈線区に縄文を施し、無文帯に丹彩は認められない。36は太い沈線区画内に斜縄文を施す。折返し口縁の鉢小片で口縁外面に斜縄文に斜行の沈線を施し、内外面に丹彩を明瞭に残す。

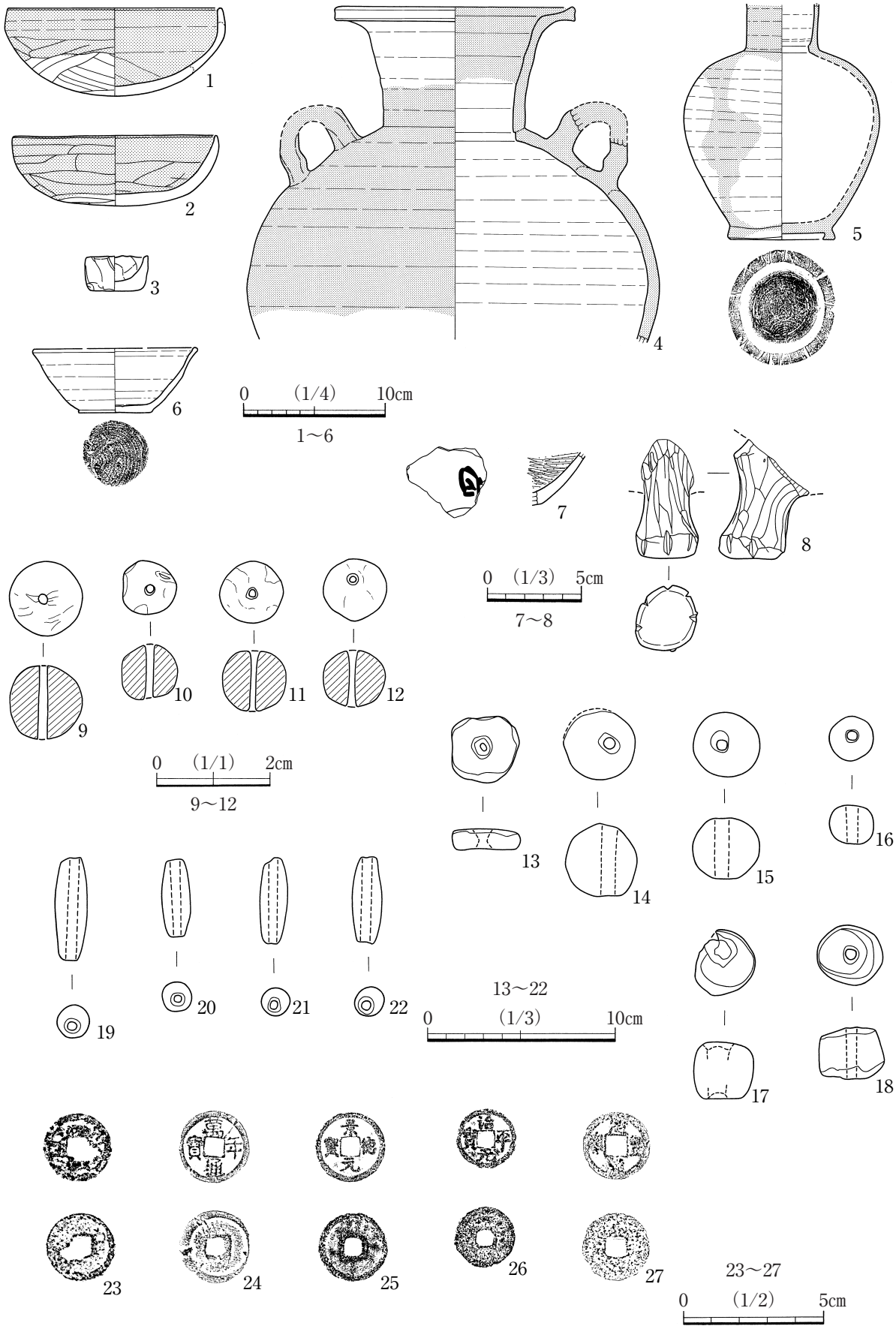
その他の土器

注記が不鮮明で出土位置が不明になった物、地下式土壙や遺構外の出土遺物で遺存状態の良好遺物や特徴的な遺物について記述する。

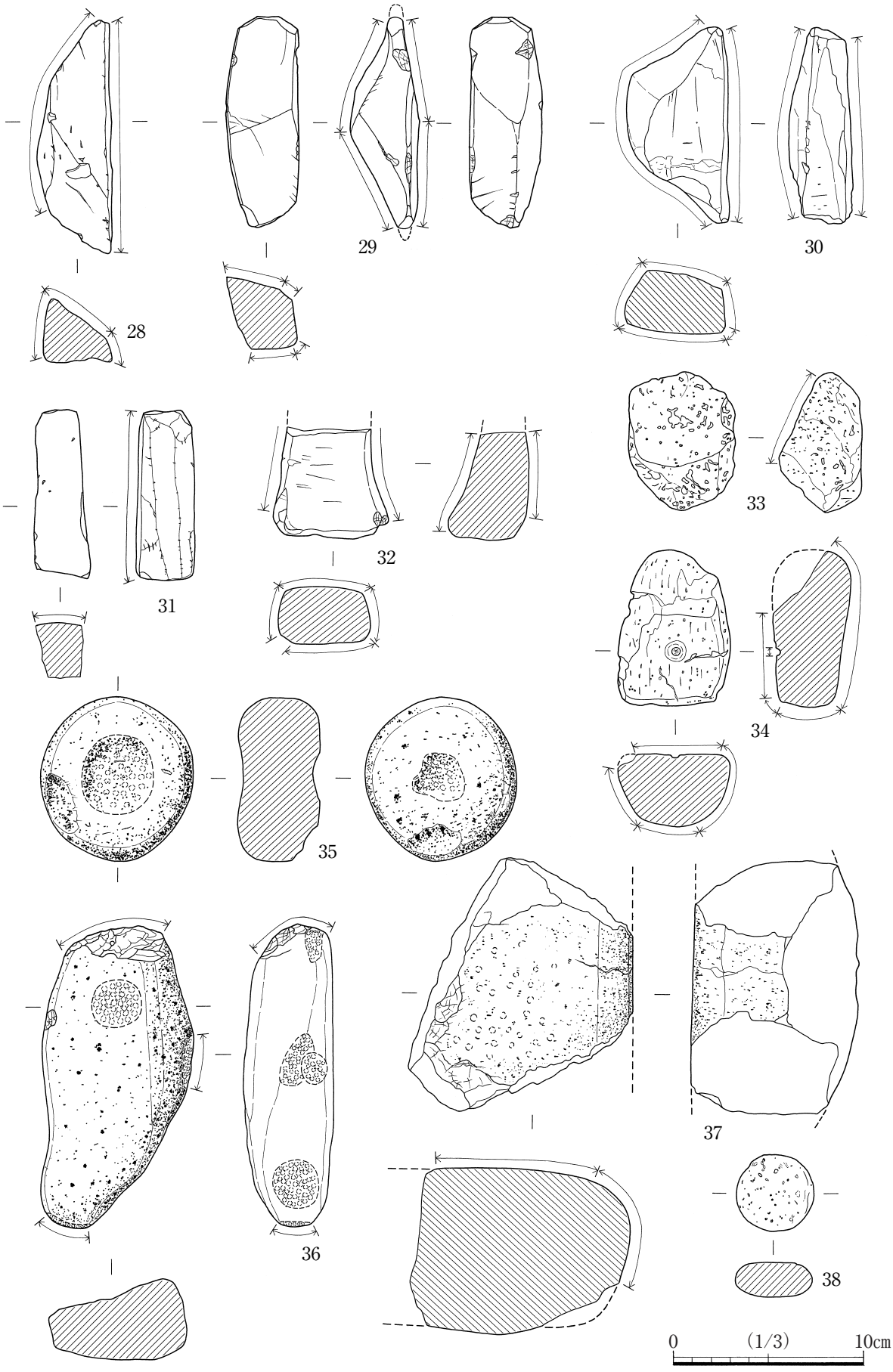
1は深い赤彩の椀形杯で、口径15.0cm・器高6.1cmを計り、口縁の2分の1を欠損する。出土位置は中世の9号溝一括であることから、9号溝に掘り込まれた5世紀後葉の住居跡の共伴遺物である可能性が高く、202住・207住・208住・213住の何れかの遺物である。2はほぼ完形の浅い平底気味の赤彩の椀形杯で表採資料で出土位置は不明である。口径14.3cm・器高4.9cmを計り、5世紀後葉の遺物である。3はほぼ完形の手捏ね土器で、口径4.4cm・器高2.5cmをはかり、表採資料で遺跡内の類例6世紀代を中心とする遺物であろう。4は太頸系の2段構成の灰釉相耳瓶で上半の部分的な遺存で、口径16.9cm・胴径（最大径）29.1cm・頸部径10.0cmを計る。口縁内面と口頸部下から胴部上半に刷毛塗りの施釉痕を明瞭に認めることができる。口縁端部仕上げに鋭さを欠き、肩部には張りが無く、施釉も雑であることから稲荷台Ⅲ期新～Ⅳ期古（9世紀末～10世紀前葉）を中心とした時期の所産と考えられるが、加茂遺跡A・B地点でこの時期に該当する遺構は皆無である。5は胴径13.8cm・胴高13.5cmを計る小振りの灰釉長頸壺で、頸部は2段構成である。外面剥離が多いが暗緑色の釉を口頸部から肩部に被り底部に垂れている。肩部の張りが認められることから稲荷台Ⅱ古～Ⅱ新（9世紀中葉）を中心とした時期の所産であろう。6は口径11.7cm・器高4.5cmのロクロ土師器杯で底部回転糸切り無調整である。7はロクロ土師器杯の小片で内面黒色処理を施す墨書土器である。墨書は下端を欠損するが、横位で左を上にした「罡」と読める。8は表採資料の須恵器獣脚で表面には自然釉を斑なく薄く被り篦ケズリもシャープで、爪を表現したと思われる刻みは5カ所認められ優品である。9～12は、径1.1cm程の土製小玉で表面が丁寧に仕上げられ、穿孔も2㎜前後の小径で14～16の土玉とは明らかに相異が認められ、出土位置は東端の113号住居跡の遺構外であるが正確な位置は不明である。遺跡内での同例では、189住にありⅤ期C～Ⅵ期A（5世紀後葉～6世紀前葉）の所産で、隣接した113住の共伴遺物の可能性もある。13は径3.5cmの土器片を再加工した1孔を有する有孔円盤型土製品である。14～16は土製土玉で土錘状を呈するものである。14は径3.8cm、15は径2.7cm、16は径2.3cmを計る。17は径3.5cmの柱状土玉で穿孔後に粘土を詰め込んでいる。17は径3.4cmの土玉で作りの丁寧な製品である。19～22は管状の土錘状土製品で長さ4.1～5.4cm、径1.5cmを計る。13～22の出土位置は、17が2号溝から出土する以外不明である。堆積の類例から8世紀から9世紀の所産であろう。

23～25は銅銭である。23は径2.43cmを計るが、表面が摩滅し判読できない。24は径2.59cmを計る、皇朝十二銭の内の一点で「萬年通寶」、鋳造は760年とされる。25は径2.50cmの北宋銭の「景徳元寶」で始鋳造は1004年とされる。26は径2.19cmで北宋銭の「治平通寶」で始鋳造は1064年とされる。27は径2.45cmで表面が摩滅するが北宋銭の「元豊通寶」と思われ始鋳造は1078年とされる。何れも表採資料で出土位置不明である。

28～32は砥石で、28～31は肉眼観察で同一の石材と看取されるもので、31以外は弧状の変則的な加工面を有し、鉄器用か否かの判別は不明である。出土位置が、28・30が9号溝、29が7号地下式土壙内であることから中世の砥石と判断できる。32は平坦な加工面を有し鉄器用砥石で9号溝の出土である。33・34・38は加工痕を有する軽石で、34の平坦面には円形の窪みを有する。35は扁平な円形で両面に敲打による凹を有する。36は周縁の部分に敲打痕と破砕された一辺を有しハンマー状の石器と思

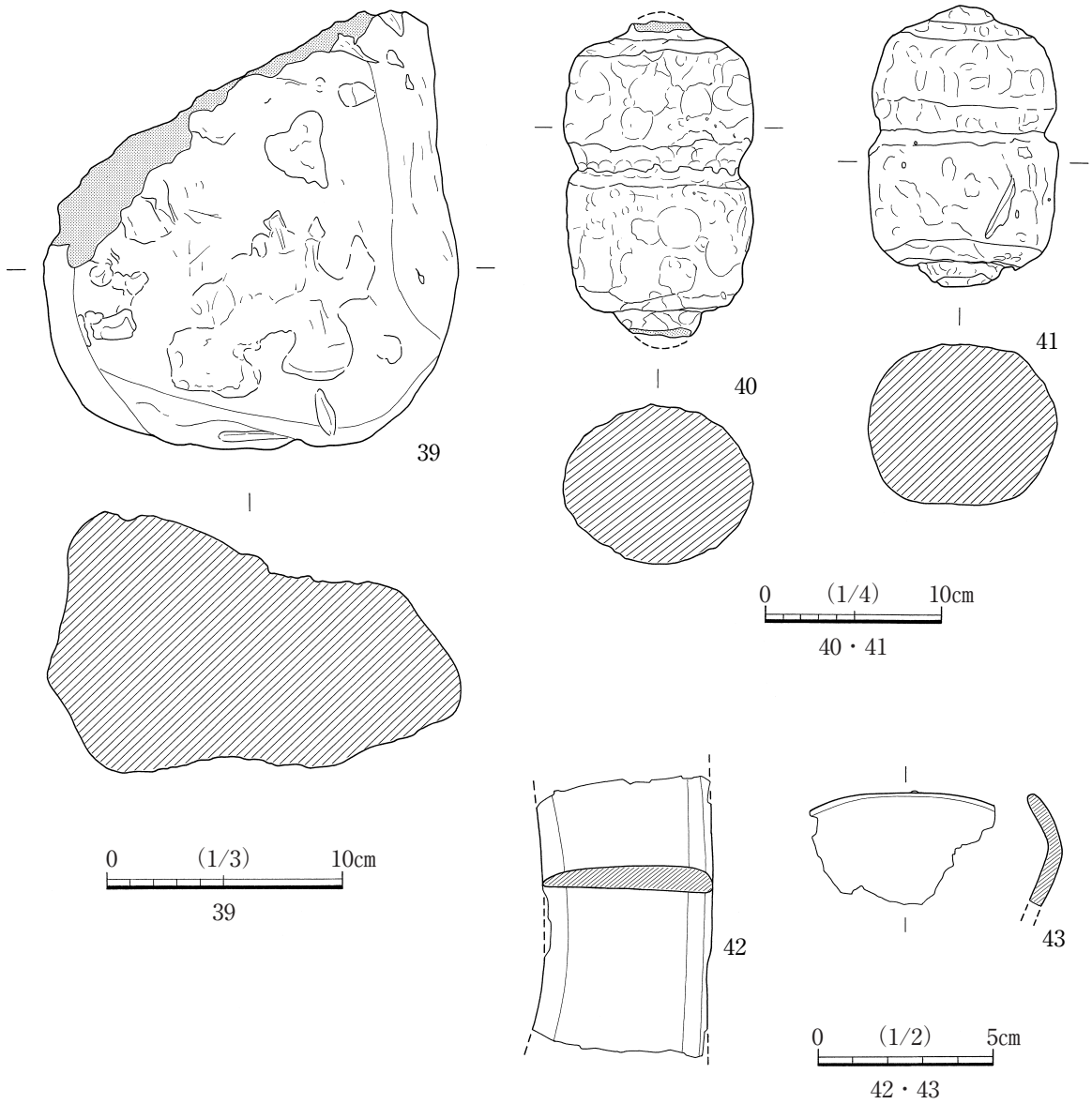


第429図　その他の出土遺物（1）



第430図　その他の出土遺物（2）

われる。37は大形の扁平な石片で平坦面に僅かに敲打痕が認められ、９号地下式土壙から検出される。39は大形の自然石で２分の１程の遺存で、７号地下式土壙玄室内から出土する。40・41は五輪塔最上部の空風輪で９号溝から出土する。（写真図版55―①・②）40は長さ17.3cm・径10.6cm・重さ2,420g、41は長さ15.9cm・径10.5cm・重さ2,280g を計る。42は両端を欠損する鉄製品で幅4.8cm・厚さ７㎜の片面に片刃状の加工痕が認められる。43は湾曲する鍋状の破片と思われる。42・43は、何れも表採資料である。



第431図　その他の出土遺物（3）

第3章　ま　と　め

第1節　加茂遺跡A・B地点出土の貝類遺体について

第2節　加茂遺跡A・B地点の中世陶磁器群について

第3節　各期の設定と集落変遷

第3章　ま　と　め

第1節　加茂遺跡出土の貝類遺体について

資料と分析の方法

加茂遺跡からは、4ヶ所の竪穴建物跡から貝層が検出された。各貝層の廃棄時期は、37号遺構が6世紀第4四半期、125号遺構が7世紀第2～3四半期、64号・117号遺構が8世紀第4四半期とされる。貝層の出土状況については、各遺構図面を参照されたい。

採取された貝層の選別作業は、すでに発掘調査現場において行なわれていた。今回行なった分類作業により検出された動物遺存体は大型貝類のみで、微小貝類や脊椎動物骨は認められなかった。しかし、貝層の採取から選別に至る作業がどのような方法で行なわれたのか不明であるため、微小な動物遺存体資料が遺失した可能性は否定できない。

出土貝類種の同定は、市原市文化財センター所蔵の現生・貝塚出土貝類標本との比較により行なった。集計は、腹足綱（巻貝）では軸部を完存するもの、二枚貝綱では殻頂部の残存するものを対象とした。二枚貝類は左右殻の出土数量の多い方をもって出土個体数（最小個体数）とし、ハマグリの出土が多く見られた64号・117号遺構では、左右殻の数量の多い方から完形資料を抽出し、1㎜目方眼紙上で殻高・殻長の計測を行なった。なお、ヒストグラムの表示については殻高のみ行ない、2㎜階級幅で示した。

同定結果と組成・サイズの特徴

加茂遺跡からは、腹足綱（巻貝）9種・二枚貝綱11種の計20種の貝類が同定された（表1）。各遺構の貝類組成を見ると、125号遺構が内湾域棲息種に限定されるのに対し、他の遺構からは遺跡周辺で採集不可能な岩礁域棲息種が少量ずつ含まれるという特徴が見られる。特に37号遺構では、トコブシ・アワビ類・サザエの3種が検出されたほか、内湾域棲息種であっても、ある特定の貝種に偏らないという傾向が認められる。これまで、地点による貝種組成のばらつきについては、貝類の採集・利用時における種選択の多様化の可能性（樋泉1992）が示唆されているが、37号遺構における貝類出土の傾向は、採集場所の異なるそれぞれの貝種が、ある程度の時間差をもって入手・廃棄されたと考えるにしても、自家消費的な食料残滓とはやや趣が異なるように見受けられる。

64号・117号遺構から検出されたハマグリの殻高平均値は、それぞれ37.36㎜と42.86㎜。殻長平均値は45.14㎜と52.13㎜であった。全体的に小型の個体が目立つが、ばらつき幅が大きく、一定の大きさを選択して採集した様子は認められない。一方、計測を行なわなかったイボキサゴやウミニナ類については、縄文期のものに比べて明らかに大型の個体が多い。また、ウミニナ類の殻頂部には、ほとんどの個体で破損が認められ、これらは食痕と考えられている（西野1997）。

搬入貝についての若干の検討

岩礁域棲息種のうちアワビ類は、6世紀末葉の37号遺構からのみ検出された。大きく破損し、中央部を欠くが、1個体に由来する個体と考えられる。殻の縁辺部付近には、径2.5㎜程度を測る穿孔が最低2ヶ所確認される。このアワビが食用とされたものか、あるいは殻のみが持ち込まれたものかは

定かではないが、人為的になされたと考えられる穿孔が認められることから、貝殻そのものが何らかの用途を持ち、紐を通すなどして利用されていたことが考えられる。

これに対し、サザエは殻と蓋が同時に検出されることから、食用として生きたまま持ち込まれたことが考えられる。サザエには有棘タイプと無棘タイプの両方が見られたが、同一遺構内から両タイプが同時に出土することはなく、有棘タイプは大型、無棘タイプは小型の個体に限られている。サザエの出土を時間軸で見ると、6世紀第4四半期には有棘タイプとトコブシ・アワビ類が共に検出されるのに対し、8世紀第4四半期では無棘タイプのみが検出される。棘の有無によってサザエの棲息場所が異なるとすれば、各時期に異なる採集地からの搬入ルートが存在した可能性を考えてもよいのだろうか。一般的な知識として、サザエの棘の有無は波浪の強弱に影響を受けるとされるが、房総半島南端に位置する白浜町沢辺遺跡（6世紀後葉～7世紀前葉）から大量に検出されたサザエは、全て無棘タイプとされており（西野2003)、一概に周辺地形のイメージから両タイプの採集場所を想定することは困難なようである。特に、房総半島南端の海岸地域一帯は、縄文時代から隆起を繰り返してきたことが知られており、この点も現在の海岸線から連想される地形イメージと若干の相違を生んでいるのかもしれない。また、サザエの形態の点から、さらに踏み込んだ採集地の推定を行なうには、海岸部の微地形と波浪の影響、そして両タイプの棲息状況との関係、さらに棘の発生・成長の段階など、生態面からの検討も今後必要となるだろう。

一方、東京湾岸における搬入土器と海産物の分布状況の検討から、6世紀後半から8世紀代の東京湾の水運を利用した交通ルートの存在が想定されている（笹生2004)。これまでに市内では、古墳時代中期の加茂遺跡D地点（小橋2002)、古墳時代後期（6世紀中葉）の椎津茶ノ木遺跡（樋泉1992）から、無棘タイプのサザエが検出されており、少なくとも古墳時代中期段階には、岩礁域からサザエを搬入するルートが存在していたことが明らかになっている。そして、6世紀末段階にも、南房総地域からの海産物入手が可能な社会状況にあり、加茂遺跡もこの交通・交易ルートに組み込まれていたことが確認された。また、継続性は明確でないが、8世紀末段階にも搬入が行なわれていたことが明らかになった。この時期には、上総国（現大原町周辺）からもアワビが貢納品として都へ納められたことが平城宮跡出土木簡に記されている（天野2001）が、遺跡周辺には上総国府の存在が想定され、政治・経済の中心地であった可能性が高いこと、周辺遺跡からもダンベイキサゴなどの搬入貝類が出土している（忍澤2002）ことからすると、東京湾岸ルートからの搬入ばかりでなく、上総国内に位置する外海・岩礁域とを結び、房総半島を横断するような方向の交通・交易ルートも、いくつか存在していたことが考えられる。（鶴岡英一）

参考・引用文献

天野　努　2001「古代房総の漁撈民とその生産活動」『千葉県立安房博物館　研究紀要』VOL.8　56～81頁

忍澤成視　2002「住居内および土坑内出土の貝の概要」『坊作遺跡（第1分冊　本文編)』市原市教育委員会　185～214頁

小橋健司　2002「407号遺構検出貝類」『市原市加茂遺跡D地点』（財）市原市文化財センター　186～187頁

笹生　衛　2004「房総半島における擬餌針の系譜」『千葉県立安房博物館　研究紀要』VOL.11　40～50頁

千葉県立安房博物館　2004『平成16年度企画展　房総漁村の原風景　古代房総の漁撈民とその生活』

樋泉岳二　1992「椎津茶ノ木遺跡出土の動物遺体について」『市原市椎津茶ノ木遺跡』（財）市原市文化財センター　286～303頁

西野雅人　1997「ウミニナの身を取り出す2つの方法」『研究連絡誌』第50号　（財）千葉県文化財センター　1～7頁

西野雅人　2003「第3章　第2節　貝類遺体」『青木松山遺跡・沢辺遺跡発掘調査報告書』（財）総南文化財センター　115～119頁

表１　出土貝類種名一覧

綱	Class	目	Order	科	Family	種	Species
腹足綱	GASTROPODA	原始腹足目	ARCHAEOGASTROPODA	ミミガイ科	Haliotidae	メガイアワビ	*Nordotis gigantea* (Gmelin)
						トコブシ	*Sulculus diversicolor aquatilis* (Reeve)
				ニシキウズガイ科	Trochidae	イボキサゴ	*Umbonium* (*Suchium*) *moniliferum* (Lamarck)
						ダンベイキサゴ	*Umbonium* (*Suchium*) *giganteum* (Lesson)
				サザエ科	Turbinidae	サザエ	*Turbo* (*Battillus*) *cornutus* (Lightfoot)
		中腹足目	MESOGASTROPODA	ウミニナ科	Batillaridae	ウミニナ科種不明	Batillaridae gen. et sp. Indet.
				タマガイ科	Naticidae	ツメタガイ	*Glossaulax didyma* (Röding)
		新腹足目	NEOGASTROPODA	アッキガイ科	Muricidae	アカニシ	*Rapana verosa* (Valenciennes)
				ムシロガイ科	Nassariidae	アラムシロ	*Raticunassa festiva* (Powys)
二枚貝綱	BIVALVIA	フネガイ目	ARCOIDA	フネガイ科	Arcidae	サルボウガイ	*Scapharca kagoshimensis* (Tokunaga)
		ウグイスガイ目	PTEROIDA	イタボガキ科	Ostreidae	イタボガキ	*Ostrea denselamellosa* Lischke
						マガキ	*Crassostrea gigas* (Thunberg)
		マルスダレガイ目	VENEROIDA	バカガイ科	Mactridae	バカガイ	*Mactra chinensis* Philippi
						シオフキガイ	*Mactra quadrangularis* Deshayes
				マテガイ科	Solenidae	マテガイ	*Solen grandis* dunker
				マルスダレガイ科	Veneridae	カガミガイ	*Phacosoma japonicum* (Reeve)
						アサリ	*Ruditapes philippinarum* (A.Adams et Reeve)
						オキアサリ	*Gomphina* (*Macridiscus*) *aequilatera* (Sowerby)
						ハマグリ	*Meretrix lusoria* (Röding)
						オキシジミ	*Cyclina sinensis* (Gmelin)

※　分類・配列・種名は『改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類』　2004　世界文化社　に準拠

表２　遺構別貝類集計表

遺構№	サンプル№	遺構種別	時期	海産貝類																														備考
				腹足綱											二枚貝綱																				
				メガイアワビ	トコブシ	イボキサゴ	ダンベイキサゴ	サザエ（有蝶タイプ）	サザエ（無蝶タイプ）	サザエ（蓋のみ）	ウミニナ科	ツメタガイ	アカニシ	アラムシロ	サルボウ		イタボガキ		マガキ		バカガイ		シオフキ		マテガイ		カガミガイ		アサリ		オキアサリ		ハマグリ		オキシジミ		
															L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	
37号	H34.35	竪穴建物	6世紀第4	1	2	30	2	5		1	37	6	3		5	4		1	18	10	2	1	15	21	3	1	11	6	9	12			3	9			サザエ蓋：長径52.31㎜
64号	H59A		8世紀第4			293	1		5		255	7		3		4			18	15			168	161	6	10	56	56	123	126	1		694	682	4	7	
117号	H107		8世紀第4			6814				1	55	9		72	3	2			8	10			145	158	60	72	52	62	9	16			309	340			サザエ蓋：長径17.66㎜
125号	H115		7世紀第2～3			262					1			5	3	2							41	42									25	19			

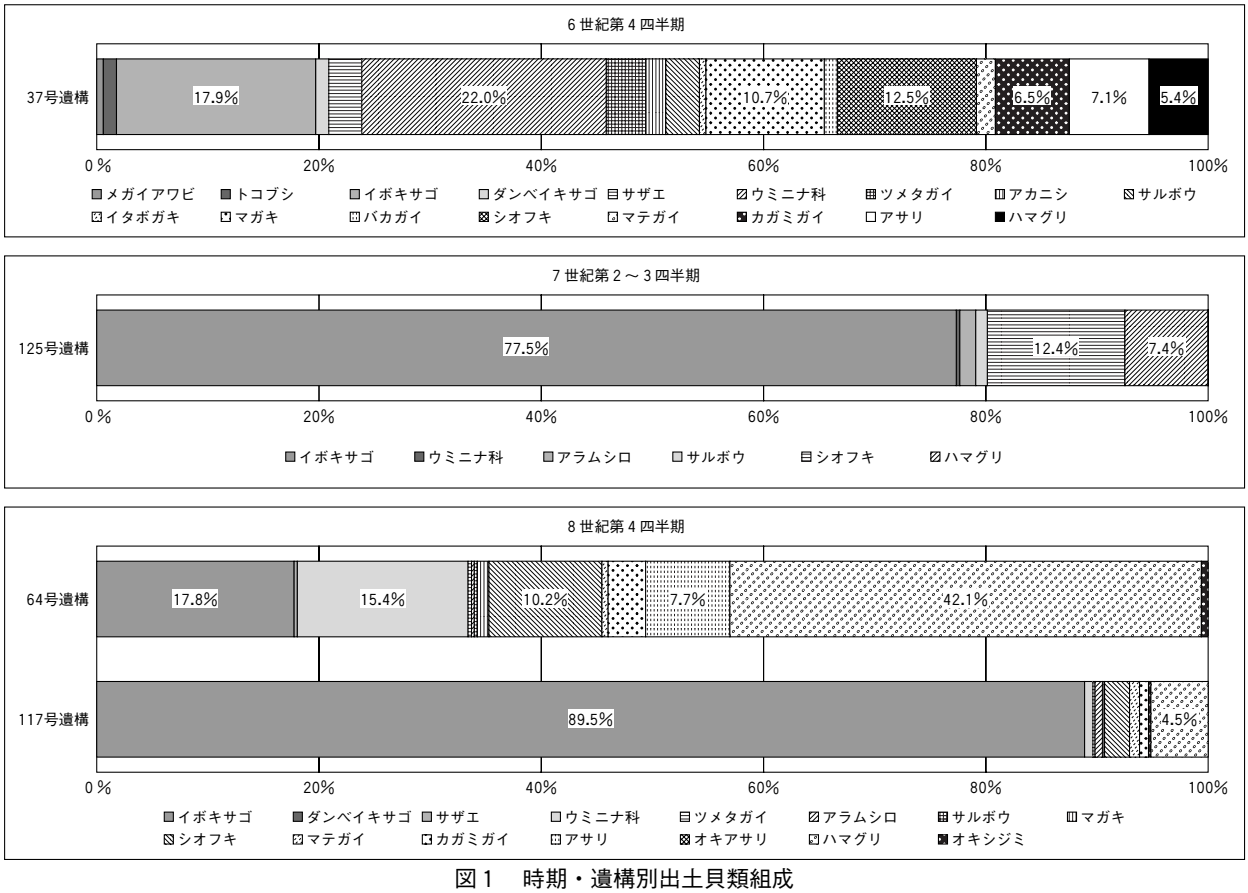


図１　時期・遺構別出土貝類組成

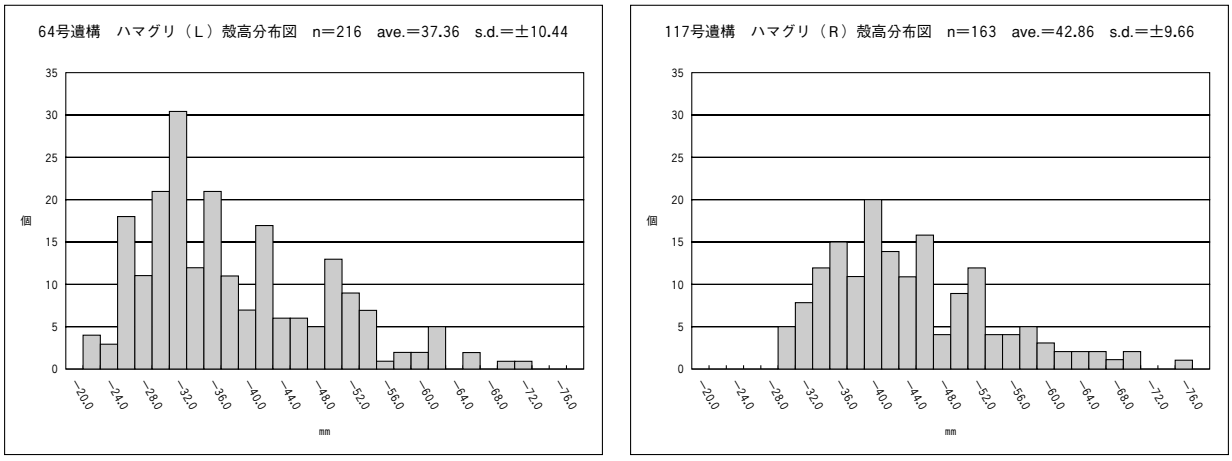
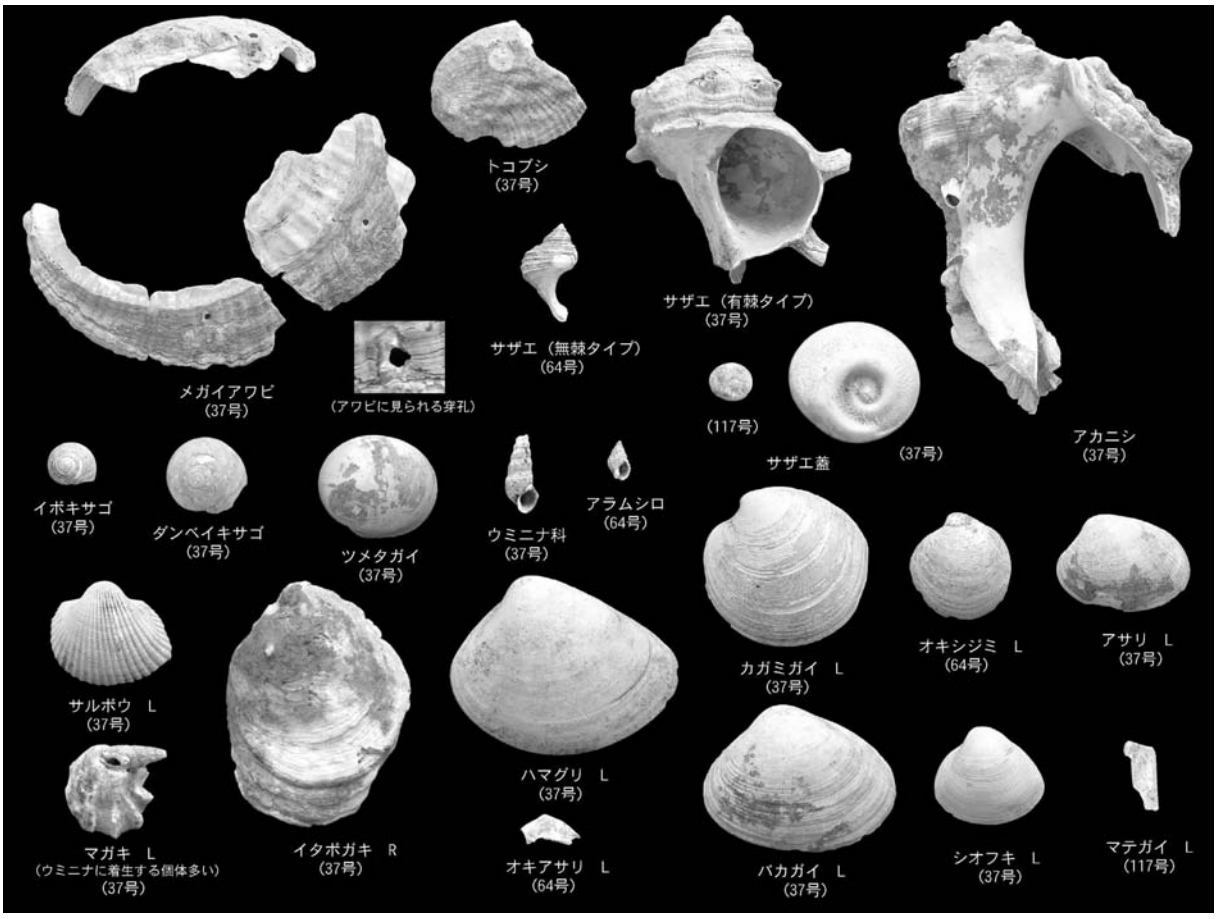


図２　ハマグリ殻高分布図



加茂遺跡出土貝類　（S＝１／３）

第２節　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の中世陶磁器群について

ここでは12世紀初頭から瀬戸窯連房１小期に至る陶磁器類を取り扱うもので、総数90点であった。加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の調査面積は15,280㎡なので、１㎡あたりの出土点数は0.01点未満である。ただし90点中88点が西側小谷に面するＢ地点からの出土なので、遺物分布は小谷寄りに集中することになる。Ｂ地点（5,230㎡）は１㎡あたり0.02点で、房総における一般農村の遺物密度に並ぶものである(1)。

ちなみに本遺跡の中世遺構は、土壙、方形竪穴遺構群、台地整形区画を伴った地下式坑群、溝などがあるが、遺物は中世前期の２号土壙出土カワラケを除き、ほとんどが遺構に直接伴わない。

市原市内における中世陶磁器類の生産期定量は、中世前期と戦国期の２群に大別できる。一般に12世紀中葉以降から常滑６ａ型式期にかけて一定量の遺物群があり、14世紀から15世紀初頭に減少期を迎え、古瀬戸後期様式後半期に大きく増加するのである。もっとも遺物群の消長は遺跡ごとに大小差異が認められ、各遺跡周辺における遺物消費活動の特徴として捉えうる。以下、周辺遺跡と加茂遺跡の共通・相違点を見ながら、本遺跡周辺における土地利用の推移を想定してみたい。

中世前期遺物群（27点）

加茂遺跡は12世紀において一定の遺物消費が認められ、鎌倉時代初頭頃にピークがあり、瀬戸・美濃前期様式終末期まで継続する（グラフ７）。このピークは２号土壙出土カワラケによるものであり、遺跡が墓域の一角であったことは確実である。また、瓶類・水注に代表される特殊調度品が一定量入るので（グラフ５）、墓域・供養、あるいはこれに関連する宗教的な活動による消費が想定される。これら特殊遺物の奢侈性から、供養行為の当事者を、開発領主や国衙在庁などの特定階層者に限定できるのではないかと思う。しかしこのような特殊・高級遺物は、国分寺台地区一帯の台地上遺跡において、遺構に伴わない状態で少数かつ広く分布することが解ってきており(2)、本地域に中世初期から前期にわたる重要遺跡群が展開した可能性も指摘しうるので、現段階では「供養行為に伴う消費」と断定することはできない。問題解決は国分寺台地区遺跡群の整理進展を待つしかないが、現時点における本遺跡出土中世前期遺物群の解釈としては、

①　他の国分寺台地区遺跡に比べ一定量が認められること

②　上記の特殊品にカワラケを加えると器種組成の50％に達すること（グラフ５）

③　カワラケはすべて２号土壙に伴うこと

の三点から、遺物群全体をもって全くの流れ込みと判断せず、調査区を含めた周辺で直接的な遺物消費活動が行われたものと捉え、在地領主・あるいは富裕百姓などの葬送・供養空間で消費されたもの、と捉えておきたい。

中世後期遺物群（53点）

市内の中世遺跡は、全体的に古瀬戸後期様式後半期の量が突出し、大窯２・３並行期は減少する傾向にあるが(3)、本遺跡は大窯期の比重が高い。

カワラケが器種組成の主体を構成するが（グラフ６）、実際の点数は13点に止まるので、饗宴に代表されるハレ的な使用は想定できない。地下式坑群の利用に伴い消費されたものと思われ(4)、遺構群

と直接関連するものと捉えた。

その他の遺物群は貯蔵・調理・煮沸・供膳具から構成される日常生活的な組成を示しており（グラフ６）、戦国期村落における消費形態の一例と捉えられよう。これらはほとんどＢ地点出土なので、消費主体たる生活空間は、本遺跡西側の小谷に存在したと思われる。ただし鉢類の一部はカワラケと同様に、遺構群との関わりのなかで捉えるべきなのかもしれない。

本遺跡と西側小谷における陶磁器類消費活動の開始期は、14世紀後葉から15世紀前葉あたりに求め得るが（グラフ７）、遺跡内においては方形竪穴遺構群の使用期に当たるのであろう。しかし量的に少なく、遺跡付近に日常生活の場を想定することは困難である。

遺物量から村の画期を追うのであれば、大窯第１段階並行期あたりが妥当で、西側小谷に生活空間が成立したものと考えられる。遺跡内においては、古瀬戸後Ⅲ期以降に、方形竪穴遺構の機能を引き継ぐ形で地下式坑の構築が開始されたものと思われる。しかしカワラケの形態から見ても、地下式坑群の展開は大窯期に求められよう。

次にこれらを消費した階層であるが、東国の村落遺跡からあまり出土しない染付碗１点、比較的高価であった菊花状の白磁碗(5) １点、喫茶具である天目茶碗３点が認められることから、村落組織における最上流階層、小領主クラスが該当するのではなかろうか。

まとめ

中世前期、12世紀は柱状高台土器とカワラケ（小皿）を埋納した土壙があり、台地上に墓域空間が置かれたことは確実である。加えて奢侈性の高い特殊調度品が目立つことから、在地領主や在庁官人など特定階層の供養を示す可能性がある。このような土地利用は13世紀をもって一旦は終了したものと思われる。しかし後述するように、空間の無縁性が生き続け、中世後期の土地利用方法に影響を与えた可能性は考慮すべきである。

南北朝内乱期以降の中世後期、14世紀中葉以降になると方形竪穴遺構群が台地上に構築されたが、古瀬戸後期様式Ⅲ期以降には、同様の機能を持つ地下式坑群に交代したものと思われる。

続いて瀬戸・美濃大窯第１段階期には、西側小谷に村落居住域が成立し、現代村落景観の基礎になったものと考えられる。もっとも本遺跡出土遺物群のみをもって、村落全体の動向と捉えるのは危険である。周辺遺跡、特に小谷向かいの台遺跡（Ｂ地点）が古瀬戸後期様式後半期に遺物量のピークを置くことから、加茂地区周辺の村は、少なくとも15世紀中葉から後葉頃には集村化し、活発な活動を始めていたと思われる。よって今回示した資料は、むしろ個別の屋敷地の消長を示す可能性もある。Ｂ地点に隣接する小谷部に、村落最上階層の屋敷地があったのかもしれない。

最後に、中世後期遺構群の性質について触れてみたい。西側小谷に想定した居住域に対する台地上（方形竪穴遺構群と地下式坑群）の位置づけが問題となるが、現段階では不明と言わざるを得ない。近年、方形竪穴遺構や地下式坑を貯蔵施設と見なす意見が強くなりつつあるが(6)、本遺跡においては屋敷地などの生活空間に伴うものでなく、土壙状遺構が近在すること、溝状遺構から小型五輪塔空・風輪２点が出土していること、屋敷地背後の展開が想定されることなどから、どちらかと言えば葬送関連施設と捉えたほうが解りやすいことは確かである(7)。恐らく本遺跡における方形竪穴遺構の構築期には、中世前期における葬送・供養の場たる空間の無縁性がまだ生きていたものと思われるので、葬送施設たる方形竪穴遺構が再構築されたとの解釈も成り立つわけである。

いずれにせよこの問題は、谷向かいに立地する台遺跡の調査成果も含め綿密に検討すべきで、台遺跡の整理過程において、ある程度明らかにできるものと期待している。

註釈

⑴ 井上哲郎2004「千葉県内中世遺跡出土陶磁器類の組成について」千葉県立房総のむら編『中世房総やきもの市場』所収

⑵ 西広貝塚は15世紀前葉から近世に継続する民衆の屋敷地であるが、これには伴わない中世前期の遺物が若干混入し、渥美壺１点と白磁水注１点を含む（近年中に発掘調査報告書を刊行する予定)。

山田橋大山台遺跡は国衙に通じる中世の道路遺構が検出され、遺物型式は古瀬戸後期様式期から大窯１並行期に集中する。しかし中世前期の遺物も若干混入し、白磁の四耳壺を１点含む（大村直2004『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第88集)。

⑶ 台地上は大山台遺跡・台遺跡Ｂ地点、河岸段丘・沖積平野・海岸平野では小鳥向遺跡・西野遺跡群・八幡御墓堂遺跡など。

大村直2004『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第88集

半田堅三2003『市原市台遺跡Ｂ地点』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ　市原市教育委員会発行

櫻井敦史2005「市原八幡宮と中世八幡の都市形成」『市原市文化財センター研究紀要Ⅴ』所収

西野遺跡群は2005年度上半期に報告書刊行予定。

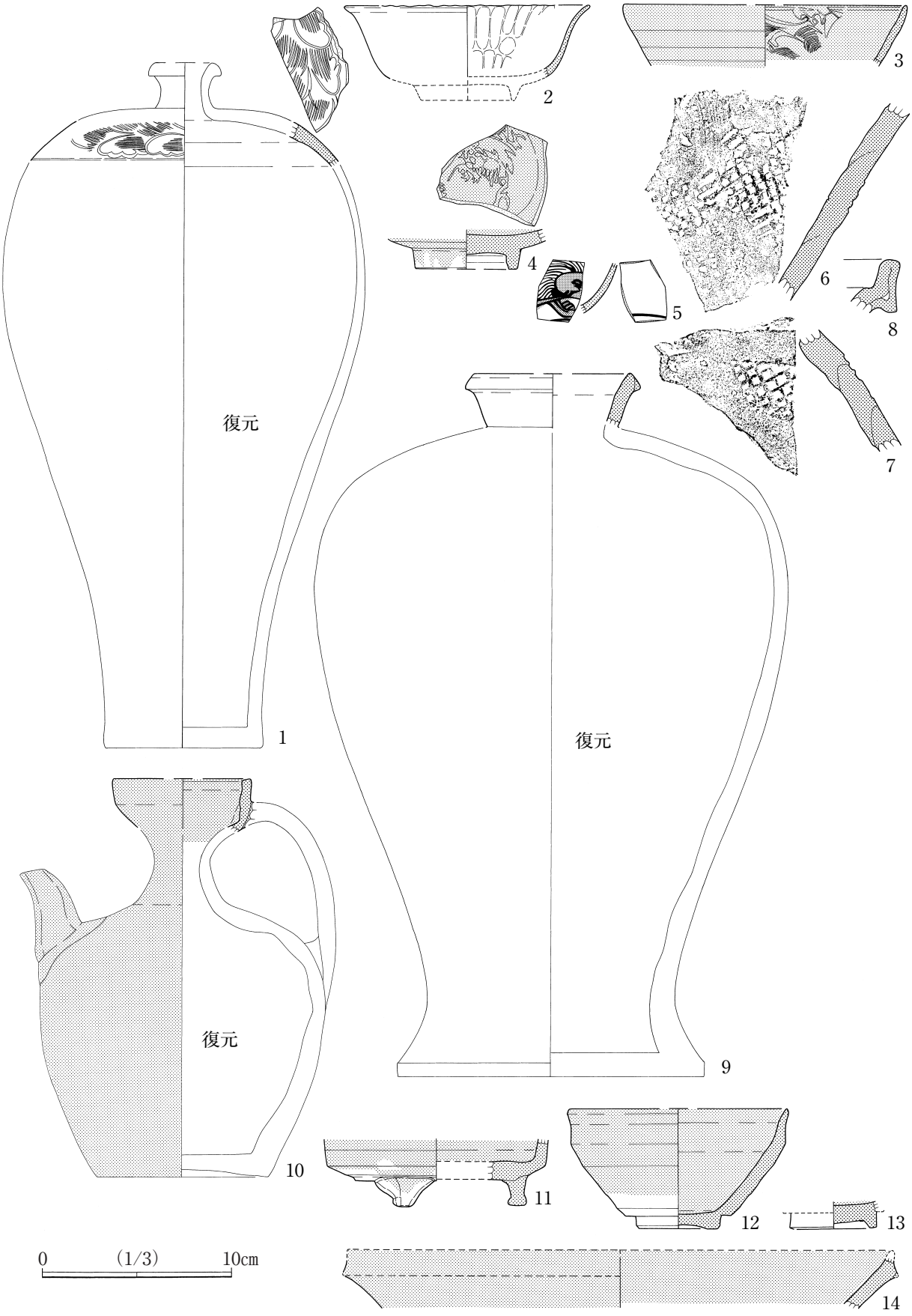
⑷ 分目要害遺跡の14号地下式坑からは、大窯３・４並行期と見られるカワラケ群が床に置かれた状態で出土している。油煙痕の付いた個体が複数あることから、灯明具として坑内に置かれたものと思われる（櫻井敦史1997「分目要害遺跡」『市原市文化財センター年報』平成５年度　所収)。

⑸ 小野正敏2004「中世陶磁器の流通と消費」千葉県立房総のむら平成16年度企画展記念講演会資料

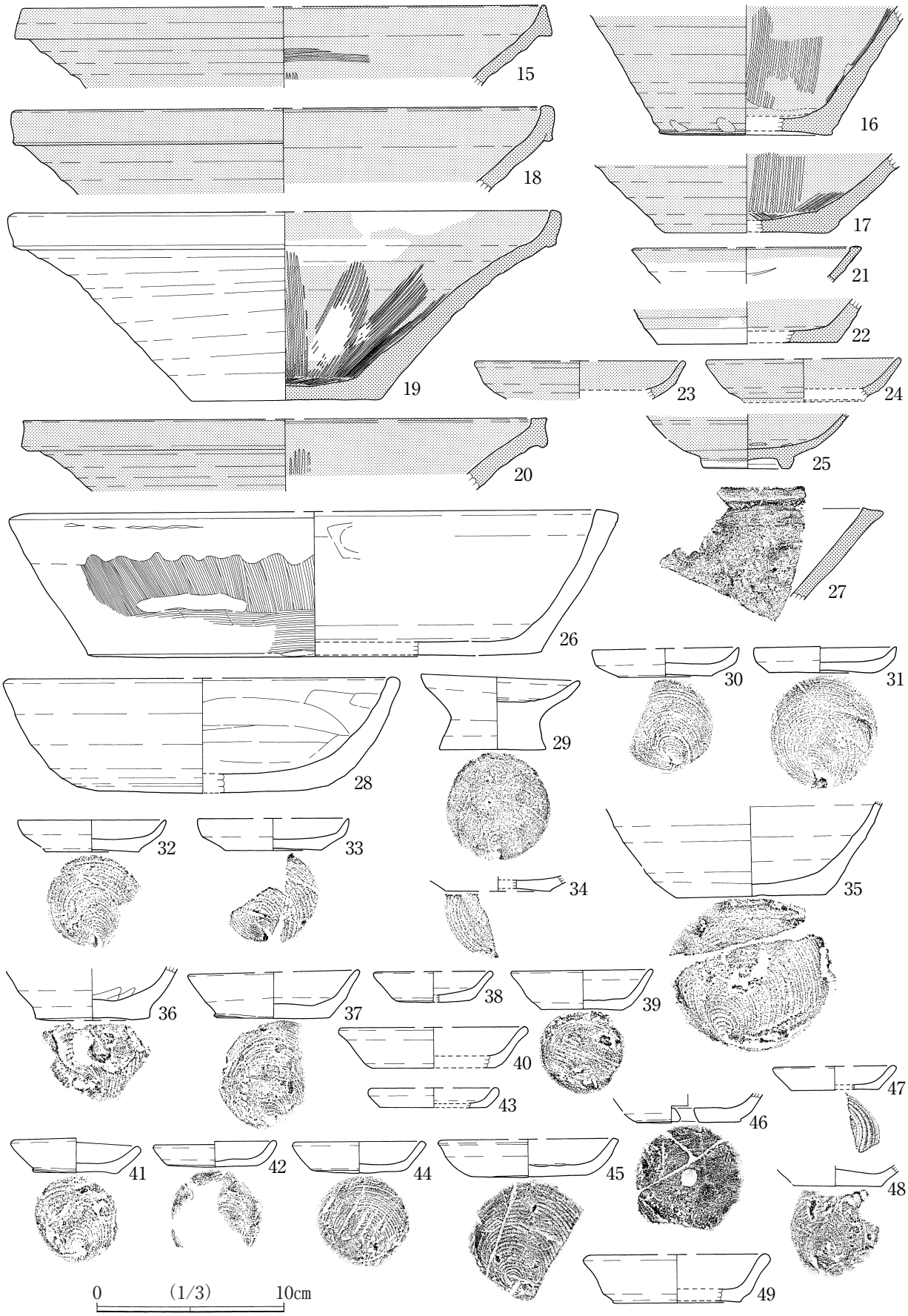
⑹ 簗瀬裕一2001「房総の地下式坑について」『千葉史学』第三七号　所収

笹生衛2003「地下式坑の掘られた風景」萩原三雄・小野正敏編『戦国時代の考古学』高志書院　所収

⑺ 屋敷地背後の台地上に屋敷墓と耕地を併せ持つ例として、付近に根田代遺跡がある（大村直2005『根田代遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅷ　市原市教育委員会発行)。また、山木白船城跡（３次調査）では、地下式坑の壁に面した床に小型五輪塔の残欠が３点並べられた状態で出土しており、供養行為に関連した可能性がある（櫻井敦史1997『白船城跡Ⅱ』市原市文化財センター調査報告書第35集)。小規模方形竪穴遺構や地下式坑をもって、必ずしも墓域の指標とし得ないにせよ、逆にすべてを貯蔵施設に限定することもできないわけで、葬送・収蔵それぞれを含めた多目的施設と捉えるべきではないだろうか。

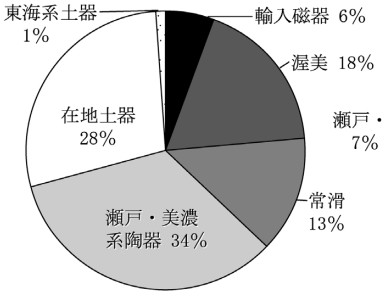


第432図　中世の遺物（1）

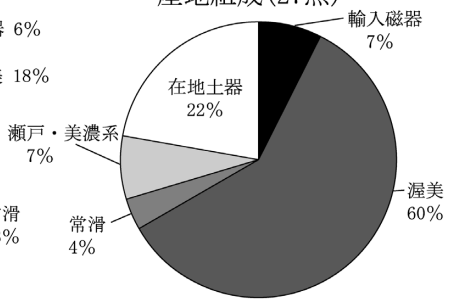


第433図　中世の遺物（2）

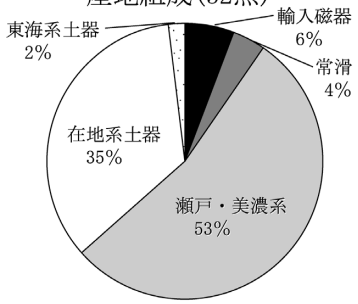
グラフ1 中世陶磁器類
全体の産地組成(89点)



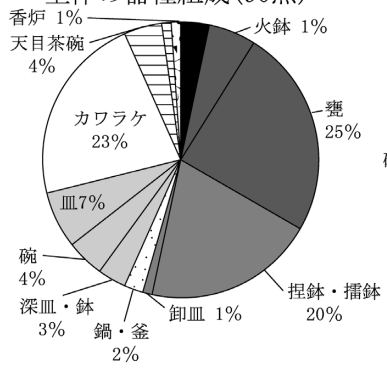
グラフ2 中世前期の
産地組成(27点)



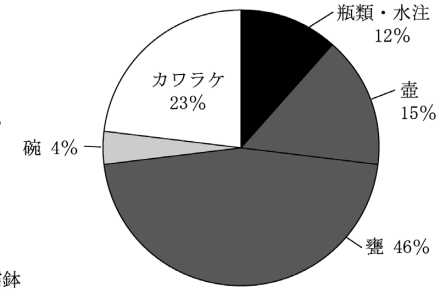
グラフ3 中世後期の
産地組成(52点)



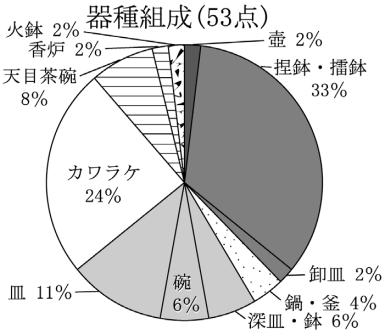
グラフ4 中世陶磁器類
全体の器種組成(90点)

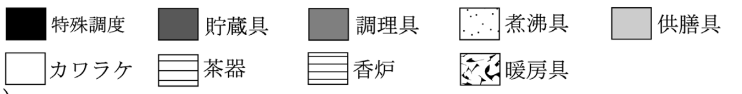


グラフ5 中世前期の
器種組成(26点)

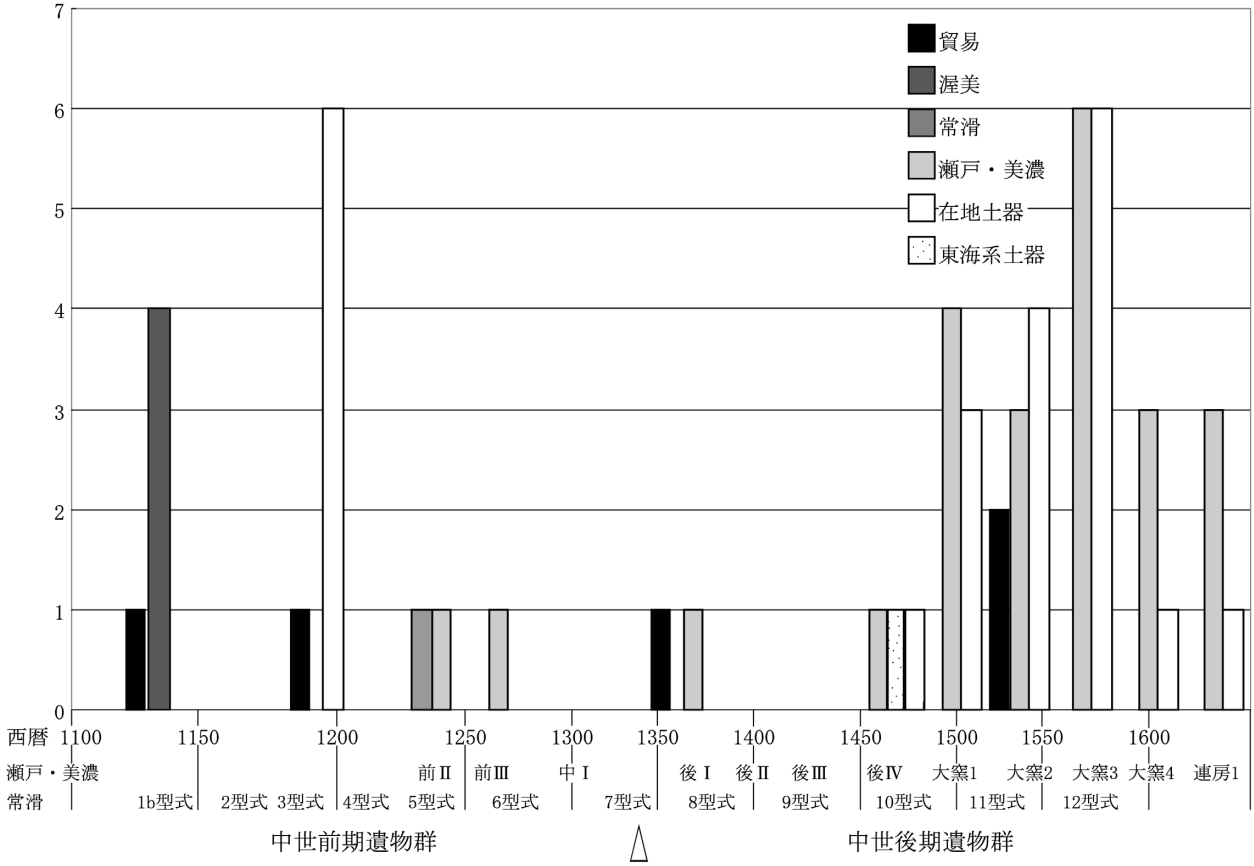


グラフ6 中世後期の
器種組成(53点)





グラフ7 生産期ごとの定量推移(56点)



別表１　中世実測遺物観察表

（　）は復元値　　単位：cm

№1	出土遺構	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	遺存度	焼成	色調器面／断面	口径	最大径	底径	器高	胎土	時期	備考
1	表採	一括	白磁	瓶	肩部に劃花文　牡丹花弁の外枠は片切彫、内側は櫛描　透明釉施釉し光沢あり	横ナデ	破片	優	白	—	—	—	—	密で硬い　微黒粒含む	11～12c	威信財的な遺物か
2	5号竪穴状遺構	H33	白磁	椀	口縁端反る　透明釉比較的厚く施釉	菊花状の花弁を半肉彫りに刻出　透明釉施釉	破片	優	5GY8/1灰白/白	(13.0)	(13.0)	—	—	緻密で硬質	白磁皿C群並行	比較的高級品と思われる
3	173住覆土	H64・65	龍泉窯系青磁	椀	口縁下位以下は回転ヘラ削り調整、青磁釉10Y6/2オリーブ灰(光沢)施釉、釉層厚くない	劃花文、全面施釉	破片	良	5Y7/1灰白	(14.4)	(15.0)	—	—	密で焼き締まる	Ⅰ-3類	
4	表採	一括	龍泉窯系青磁	椀	体部回転ヘラ削り、削り出し高台高い　高台部を掴み青磁釉5GY7/1を漬け掛け、指頭痕として露胎　畳付から底面は無釉	見込み牡丹文のスタンプ押印する	破片	良	5Y7/1灰白	—	—	(5.4)	—	龍泉青磁としては粗い部類で、白色小粒含む	14c	
5	6号溝	H11	染付	碗	呉須で横線上に獅子文を線描き後、鬣以外の体部をダミで塗りつぶす　呉須の発色は良く、濃い藍色	見込み境に呉須で横線を引く	破片	優	白	—	—	—	—	緻密で硬質	染付碗C・D群並行期	
6	9号溝	C-13	渥美	甕	格子目タタキによる押印帯入る	横方向ナデ	破片	良	10YR7/2にぶい黄橙	—	—	—	—	密		
7	9号溝	C-13	渥美	甕	格子目タタキによる押印帯入る　降灰5Y7/2灰白	指頭で押圧するが輪積み痕残す	破片	良	2.5Y7/1灰白	—	—	—	—	密で白色微粒含む		3と同一個体の可能性あり
8	9号溝	C-13	常滑	甕	口縁部外側に張り出し、上方に伸ばし、折り返す　張り出し部をやや強く横ナデ	口縁部立ち上がる	破片	優	5YR4/4にぶい赤褐/10YR7/1灰白	—	—	—	—	長石小粒・微黒粒	5型式	
9	9号溝	C-13	瀬戸・美濃	瓶子J類	口縁部粘土紐貼り付け突帯廻らすが断面三角形にナデ調整し、玉縁に近い印象　灰　釉5Y5/2灰　オリーブ施釉、釉層薄く安定	頸部灰釉施釉	破片	優	2.5Y8/1灰白	(8.1)	—	—	—	赤色微粒微量	前Ⅱb	
10	9号溝	一括	瀬戸・美濃	水注	口縁部に断面円形の把手貼り付け、口縁部若干直立、鉄釉2.5yr2/1赤黒施釉、釉層薄く安定しない	把手部押し窪める　口唇部平坦、鉄釉施釉	破片	良	2.5Y8/1灰白	6.3	—	—	—	赤色微粒	前Ⅲか	
11	137住覆土	H137	瀬戸・美濃	香炉	体部直立し下位は屈曲、底部若干突出　体部から底部を右回転ヘラ削り調整、体部下位を手で掴み鉄釉7.5YR4/3褐を漬け掛け　指で調整した脚を体部最下位部に貼り付け	全面鉄釉施釉	破片	良	2.5Y8/2灰白	—	—	(8.4)	—	赤色小粒少	大窯3か	
12	9号溝	H36 P6	瀬戸・美濃	天目茶碗	底部碁笥底状の削り出し高台、体部下位回転ヘラ削り調整、鉄釉7.5YR4/2灰褐施釉するが釉層薄い　露胎部に鉄化粧5YR4/3にぶい赤褐	口縁部やや上方に伸び口唇鋭い　全面鉄釉施釉	1/4	良	10YR8/2灰白	(11.4)	(11.6)	4.2	6.4	長石大粒少	大窯3(前)	
13	151住覆土	H84	瀬戸・美濃	天目茶碗	削り出し高台高い　露胎	鉄釉7.5YR3/2施釉	破片	良	10YR8/3浅黄橙	—	—	(4.6)	—	赤色微粒	大窯4	
14	7号溝	H9	瀬戸・美濃	擂鉢	口縁断面三角形を呈するが張り出し育たない　全面鬼板10YR3/3暗褐施釉	全面鬼板施釉	破片	良	10YR8/3浅黄橙	(28.6)	(29.3)	—	—	白色小粒少	大窯1(前)	砥石転用　仕上砥
15	5号竪穴状遺構	H34	瀬戸・美濃	擂鉢	体部横ナデ痕顕著、口縁部断面三角形状で、口唇部幅狭い　全面鬼板5R2/1赤黒施釉	口縁やや直立するため若干窪む　口縁下部に横位の擂り目一条　全面鬼板施釉	破片	優	10YR8/3浅黄橙	(27.8)	(28.6)	—	—	硬質、白色小粒	大窯1(後)	
16	表採	一括	瀬戸・美濃	擂鉢	底部右回転糸切痕無調整、体部下端に指頭圧痕あり　体部横ナデ痕顕著、全面鬼板2.5YR3/1暗赤灰施釉	27条一単位の擂り目を比較的幅広い間隔で施す　見込みは擂り目十字状か	破片	良	10YR8/2灰白	—	—	(9.2)	—	赤色微粒	大窯1か	
17	5号竪穴状遺構	H37	瀬戸・美濃	擂鉢	底部右回転糸切痕無調整、鬼板5YR3/1黒褐施釉	11条一単位の擂り目を比較的幅広に施す　見込みの擂り目は3～4単位の交差か	破片	良	10YR8/2灰白	—	—	(8.8)	—	長石小粒少	大窯2か	
18	9号溝	C-13	瀬戸・美濃	擂鉢	口縁折り返す　口唇部やや平坦　全面鬼板5R3/1暗赤灰施釉	体部開くが口縁は直立気味　全面鬼板施釉	破片	良	10YR8/2灰白	(27.5)	(29.0)	—	—	白色大粒含む	大窯3(後)	

No	出土遺構	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	遺存度	焼成	色調器面／断面	口径	最大径	底径	器高	胎土	時期	備考
19	9号溝	C-11	瀬戸・美濃	擂鉢	底部右回転糸切痕無調整、口縁下が外方向に育つ 口唇部ぬるい面あり 全面鬼板施釉7.5YR3/1黒褐	底部ほぼ全面に擂り目、体部放射状に擂り目 全面鬼板施釉	1/3	良	10YR8/2灰白	(28.3)	(29.5)	10.0	10.1	密、白色微粒少	大窯3(後)	内面使用による磨耗
20	6号溝	H11	瀬戸・美濃	擂鉢	口縁部折り返す 口唇部幅広かつ平坦 鬼板5PB2/1青黒施釉	鬼板施釉	破片	良	10YR8/1灰白	(26.2)	(28.0)	—	—	白色小粒少	大窯4(後)	
21	24号溝	C-4t	瀬戸・美濃	卸皿	体部横ナデ、口縁のみ 灰 釉10Y5/2オリーブ灰施釉	口唇内側に若干張り出す 口縁部に灰釉施 釉、見込みに卸目刻む	破片	良	2.5Y8/1灰白	(11.0)	(12.2)	—	—	密で焼き締まる 微黒粒少	後Ⅰ	
22	不明	土坑12-298	瀬戸・美濃	鉢か	体部下位～底部回転ヘラケズリ調整、体部鉄釉7.5YR3/3暗褐施釉	横ナデ、全面鉄釉施釉	破片	良	10YR8/2灰白	—	—	(9.5)	—	長石中粒少	大窯3	
23	表採	一括	瀬戸・美濃	端反皿	口縁直下を強く横ナデし、若干端反る 灰釉2.5Y7/3浅黄施釉、釉層比較的厚い	見込み比較的平坦、灰釉施釉	破片	良	2.5Y8/1灰白	(11.1)	(11.3)	—	—	やや粗、赤色微粒少	大窯1	
24	5号竪穴状遺構	H35	瀬戸・美濃	丸皿	口縁下位やや強く横ナデ、灰釉5Y7/3浅黄(光沢)施釉、貫入	灰釉施釉、貫入あり	破片	良	2.5Y8/1灰白	(10.2)	(10.4)	(2.3)	(6.4)	やや硬質で赤色微粒微量	大窯3	
25	9号溝	C13-290	不明陶器	皿	体部下位から回転ヘラケズリ調整、削り出し高台 体部最下位以上に灰釉7.5Y7/2灰白	全面灰釉施釉、見込み三ヶ所に胎土目痕あり	1/4以下	優	2.5Y8/2灰白	—	—	4.7	—	密で焼き締まる 微黒粒入る		
26	9号溝	C-13	土師質土器	内耳土器	体部開き気味で口唇部平坦、体部上方向ハケメを右回りに施した後、体部下位に左方向のハケメを施す その後、口縁部を横方向ナデ 内耳部の外面は外側に膨らむ 底部は横方向ナデ後、外周部を立ち上がりに沿いナデ	横ナデ、内耳は遺存しないが、内耳部をナデにより窪ませる	破片	良	7.5YR5/4にぶい褐	(30.1)	(32.4)	(24.2)	7.8	やや硬く、金雲母比較的多く含む	大窯4並行期か	外面全面に煤付着
27	9号溝	C-13	土師質土器	擂鉢	体部縦方向ヘラ削り後横方向ナデ、口縁部横ナデ、口唇部面あるが若干窪む	擂り目あり	破片	優	2.5Y3/1黒 褐/5YR5/6明赤褐	—	—	—	—	白色小粒・金雲母含む	大窯1並行期	
28	9号溝	C-11	土師質土器	鉢	輪積み成形、全面横方向ナデ、体部下端をナデ調整し、丸底にする 口唇部丸み帯びる	見込み横方向ナデ	1/4以下	良	10YR3/2黒 褐/10YR7/3にぶい黄橙	(20.2)	(21.1)	(13.5)	6.1	海微量、金雲母	近世	
29	2号土壙	H52西土坑382	土師質土器	柱状高台	底部右回転糸切痕ナデ消す 柱状部やや強く横ナデ、口縁部横ナデで若干屈曲するが顕著ではない	見込み微弱なナデ払い	3/4	優	10YR7/3にぶい黄橙	8.3	8.5	5.7	3.9	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
30	2号土壙	H52西土坑302	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整で若干突出、口縁部横ナデし立ち上がる	見込みナデない 見込み平坦で立ち上がりぬるい	1/2以上	優	10YR7/3にぶい黄橙	(7.9)	(7.9)	5.0	1.5	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
31	2号土壙	H52西土坑303	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整、口縁部横ナデし立ち上がる	見込み微弱なナデ払い 平坦で立ち上がりぬるい	ほぼ完形	優	10YR7/3にぶい黄橙	7.6	7.6	5.5	1.4	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
32	2号土壙	H52西土坑300	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整で若干突出、口縁部横ナデし立ち上がる	見込みナデない 見込み平坦で立ち上がりぬるい	1/4以上	優	10YR7/3にぶい黄橙	(7.9)	(7.9)	5.0	1.7	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
33	2号土壙	H52西土坑299	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整、口縁部横ナデし立ち上がる	見込み微弱なナデ払い 平坦で立ち上がりぬるい	1/2	優	10YR7/3にぶい黄橙	(8.0)	(8.1)	(5.2)	1.7	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
34	2号土壙	H52西土坑301	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整	見込み微弱なナデ払い 平坦で立ち上がりぬるい	破片	優	10YR7/3にぶい黄橙	—	—	(5.6)	—	密で硬質、小砂粒含む	12c末～13c第1	やや白味強い
35	9号溝	c13-289	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整	見込み軽く横方向ナデ	1/4	良	7.5YR6/6橙	—	—	8.0	—	海・白色小粒含む	後Ⅳ並行か	
36	9号溝	C11	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整で底部突出、体部は丸みを帯びつつ立ち上がる	見込み抉るように横方向ナデ	1/4以下	良	10YR6/4にぶい黄橙	—	—	6.2	—	硬質、海微量、石英微粒少	大窯2並行期	
37	9号溝	C-11	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整、体部段ナデ	見込み強く横方向ナデ	1/4	良	10YR6/4にぶい黄橙	(9.0)	(9.2)	(6.1)	2.5	やや硬質、海微量、金雲母少	大窯2並行期か	
38	137住覆土	H49(16号溝)	土師質土器	カワラケ(小皿)	口縁部若干肥大、底部回転糸切痕軽くナデ消す	見込み横方向ナデ	1/4	良	7.5YR6/6橙	(6.0)	(6.3)	(3.8)	1.6	金雲母微粒少	大窯2並行期か	

No	出土遺構	注記	種別	器種	外面の特徴	内面の特徴	遺存度	焼成	色調器面／断面	口径	最大径	底径	器高	胎土	時期	備考
39	5号竪穴状遺構	特殊遺構H34隣351	土師質土器	カワラケ（小皿）	底部右回転糸切痕無調整、網代状圧痕付く	見込み横方向ナデ	ほぼ完形	良	7.5YR7/6橙	7.3	7.6	4.4	2.1	海微量、赤色小粒少	大窯2並行期か	
40	5号竪穴状遺構	特殊遺構H34隣	土師質土器	カワラケ	体部最下位を横ナデ口縁下部やや強く横ナデ	見込み横方向ナデ	1/4以下	良	10YR6/4にぶい黄橙	(9.6)	(10.0)	(6.5)	2.1	赤色中粒含む	16c後	
41	9号溝	C-11	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整、体部若干丸み帯びる	見込み横方向ナデ、口縁厚くぬるい面あり	完形	良	10YR6/4にぶい黄橙	6.5	7.0	4.5	1.6	密、海微量、白色微粒少	大窯3並行期か	
42	9号溝	C-13	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整だが体部下端をナデ、底部との境がやや丸みを帯びる口縁部のナデは若干強いが、全体に丸く調整	見込み横方向ナデ	1/2	良	10YR7/4にぶい黄褐	6.4	6.7	4.9	1.4	密	大窯3並行期か	
43	9号溝	C-13	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整だが体部下端をナデ調整し、底部突出しない	見込み横方向ナデ	1/4以上	良	10YR7/4にぶい黄橙	(6.7)	(7.0)	(5.7)	1.1	金雲母微量	大窯3並行期か	
44	9号溝	H36-152	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕無調整で網代状圧痕付く	見込み強く横方向ナデ	3/4以上	良	10YR6/4にぶい黄橙	6.7	7.1	4.8	1.7	海微量、石英小粒少	16c後	
45	9号溝	H37-156	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕未調整で突出しない口縁部やや強く横ナデ	見込み強く横方向ナデ	1/4以上	良	10YR6/4にぶい黄橙	(9.1)	(9.6)	(6.2)	2.0	海微量、金雲母微粒少	16c後	
46	9号溝	H37-155	土師質土器	カワラケ	底部回転糸切痕ナデ消す	見込み強く横方向ナデ	1/4以下	良	10YR6/4にぶい黄橙	—	—	5.4	—	海微量、金雲母微粒少	16c後	底部焼成後穿孔
47	9号溝	H37-156	土師質土器	カワラケ（小皿）	底部右回転糸切痕未調整	見込み横方向ナデ	1/4	良	10YR6/4にぶい黄橙	(6.1)	(6.6)	(4.7)	1.3	白色小粒少	16c後	
48	9号溝	H36-154	土師質土器	カワラケ	底部右回転糸切痕未調整	見込み横方向ナデ	1/4	良	10YR6/4にぶい黄橙	—	—	4.6	—	海微量、金雲母微粒少		
49	9号溝	C-11	土師質土器	カワラケ	底部風化するが回転糸切痕無調整と思われる　体部段ナデ、口縁部若干端反る	見込み横方向ナデ	1/4以下	良	10YR7/4にぶい黄橙	(9.3)	(10.0)	(6.9)	2.6	海微量、金雲母少	17c前葉か	

別表２　中世陶磁器類全体の内訳（90点）

産　地	器種	型式	点数	砥石転用
138住		合計	2	0
常滑産陶器	甕		1	0
瀬戸・美濃	香炉	大窯３か	1	0
13号溝		合計	1	0
瀬戸・美濃	卸皿	後Ⅰ	1	0
９号溝		合計	9	0
染付	碗	碗C･D群並行	1	0
渥美産陶器			3	0
	壺	１ｂ	3	
瀬戸・美濃	擂鉢	大窯３（後）	1	0
土師質土器	カワラケ		4	0
		大窯２並行か	2	
		大窯３並行か	1	
		連房１並行か	1	
９号溝		合計	15	0
渥美産陶器	甕		5	0
		12ｃ中葉～13ｃ中葉	5	
常滑産陶器	甕		2	0
		不明	1	
		５型式	1	
瀬戸・美濃			2	0
	瓶子Ｊ類	前Ⅱｂ	1	
	擂鉢	大窯３（後）	1	
不明陶器	皿		1	0
土師質土器			5	0
	内耳鍋	大窯４並行か	1	
	擂鉢	大窯１	1	
	カワラケ		3	
		後Ⅳ並行か	1	
		大窯３並行か	2	
２住		合計	1	0
瀬戸・美濃	擂鉢	後Ⅳ（新）～大窯４	1	0
218住（７号溝）		合計	4	0
常滑産陶器	甕	不明	3	0
瀬戸・美濃	擂鉢	大窯１（前）	1	0
234住		合計	2	0
瀬戸・美濃	擂鉢	大窯４（後）	1	0
志戸呂産　陶器	壺	大窯並行期	1	0
198住		合計	2	0
白磁	椀	ⅢＣ群並行	1	0
瀬戸・美濃	天目茶碗	大窯２	1	0
199住		合計	1	0
瀬戸・美濃	擂鉢	大窯１（後）	1	0
201住		合計	5	0
瀬戸・美濃			3	0
	擂鉢	大窯１～４	1	
	天目茶碗	大窯３（前）	1	
	丸皿	大窯３	1	
土師質土器	カワラケ		2	0
		16ｃ後葉	1	
		不明	1	
202住		合計	5	0
常滑産陶器	片口鉢Ⅱ類		1	0
瀬戸・美濃	擂鉢		2	0
		大窯２か	1	
		後Ⅳ（新）～大窯４	1	
土師質土器	カワラケ	16ｃ後葉	2	0
244住		合計	1	0
渥美産陶器	甕	12ｃ中葉～13ｃ中葉	1	0

産　地	器種	型式	点数	砥石転用
185住		合計	1	0
常滑産陶器	片口鉢Ⅱ類	不明	1	0
173・175住		合計	1	0
龍泉窯系青磁	椀	Ⅰ－３類	1	0
154住		合計	1	0
常滑産陶器	甕	不明	1	0
151住		合計	1	0
瀬戸・美濃	天目茶碗	大窯４	1	0
150住		合計	1	0
常滑産陶器	甕	不明	1	0
155住		合計	4	0
渥美産陶器			3	0
	壺	12ｃ中葉	1	
	甕	不明	2	
常滑産陶器	甕	不明	1	0
210住		合計	1	
渥美産陶器	甕	不明	1	0
212住		合計	1	0
渥美産陶器	甕	不明	1	0
214住		合計	1	0
渥美産陶器	甕	不明	1	0
竪穴遺構		合計	1	0
在地（瓦質）	火鉢	不明	1	0
西離れ調査区落ち込み		合計	3	0
常滑産陶器	甕	不明	1	0
瀬戸・美濃	鉢か	大窯３	1	0
在地土器	擂鉢	後Ⅳ（新）～大窯１	1	0
10号溝		合計	1	0
土師質土器	カワラケ	大窯２並行か	1	0
特殊遺構（34住隣）		合計	2	0
土師質土器	カワラケ		2	
		大窯２	1	
		16ｃ後葉	1	
２号土壙		合計	6	0
産　地	器種	型式	点数	砥石転用
土師質土器			6	0
	カワラケ	常滑３～４型式並行	5	
	柱状高台土器	〃	1	
３号溝		合計	1	0
在地（瓦質）	擂鉢	大窯１並行か	1	0
一括		合計	16	1
白磁	瓶	11ｃ後～12ｃ前	1	0
龍泉窯系青磁	椀	14ｃ	1	0
渥美産陶器	甕	不明	1	1
瀬戸・美濃			12	0
系陶器	水注	前Ⅲか	1	
	擂鉢		4	
		大窯１か	1	
		後Ⅳ（新）～大窯４	2	
		連房１	1	
	深皿	後Ⅲ（後）～後Ⅳ	1	
	天目茶碗		1	
	折縁皿	大窯２（後）	1	
	端反皿	大窯１	1	
	志野丸皿		3	
		大窯４	1	
		連房１	2	
東海系土器	羽釜	後Ⅳ期並行期	1	0

第３節　各期の設定と集落変遷

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の調査では、縄文時代～中世の遺構が検出され、遺跡の主体を構成する時期は、古墳時代中期末から終末期と奈良時代であった。各期の設定については、縄文・弥生中期・弥生後期をそのまま縄文期、弥生中期・弥生後期とし、古墳出現期、古墳時代前期・中期・後期・終末期、奈良時代、平安時代とした。古墳時代以降については、今後、国分寺台遺跡群から検出された遺構を共通の年代感を与え、相互に外観することを最終目的としたい為、年代感を各期に設定した。例えば４世紀代をⅣ期、５世紀代をⅤ期、６世紀代をⅥ期、７世紀代をⅦ期、８世紀代をⅧ期、９世紀代をⅨ期、10世紀代をⅩ期とし、期をＡ（前葉）・Ｂ（中葉）・Ｃ（後葉）の三小期に分け、必要に応じ小期を古相（a）・新相（b）に細分した。従って、今回の加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の調査で検出されない期も存在する。各期と小期は第１表「加茂遺跡Ａ・Ｂ地点検出遺構時期別一覧表」に示し、各期の出土遺物を第434～437図に挙げた。検出遺構時期別一覧表の各期共伴須恵器や年代根拠については、Ⅴ期Ｂ～Ⅷ期Ｂは「市原市椎津茶ノ木遺跡」（文献１）、Ⅷ期Ｃ以降は「市原市稲荷台遺跡」（文献２）を概ね元にした。各期の出土遺物については、出土状況から排除と選択を行い遺構毎の遺物共伴関係を明確にし各期の遺物を提示しなければならないが、本遺跡は遺構の重複関係が著しく、選別が充分とは言えず、共伴関係に疑問を残す遺物も存在する。また、特徴的な遺物であっても記録類の不備から共伴関係を断定しかねる遺物も多々あり、共伴遺物である可能性をも含め挙げている。今後、国分寺台遺跡群の整理進捗状況に合わせ、資料を追加し当該期の遺物については別項で示したい。出土遺物の分類については、甕はＡ～Ｄ、高杯はＡ・Ｂ、杯はＡ・Ｂに分類し、各期の土器に通し番号と（○住―１）出土遺構と土器番号を記した。

縄文期　本期に該当する遺構は、247住居跡１軒で前期前葉の関山式期に比定される。選地状況は、西離れ調査区の台地先端部に位置し、周辺に土器等の散布が見られないことから、希薄な分布であることが予測される。また、縄文時代の土器片には、早期後葉の条痕文土器、前期～中期初頭、中期、後期初頭～前葉、後期中葉～晩期が僅かながら検出される。（第426～427図）

弥生中期　本期に該当する遺構は、中期後半の宮ノ台式の土器を検出した191住・195住・206住・212住・219住の５軒が存在する。深鉢土器には羽状条痕文を施すものと施さない両者が存在し、古相と新相が見られる。遺構分布は、西側調査区の台地先端部に寄って検出される。また、本遺跡東側約200ｍに隣接する加茂遺跡Ｄ地点では、８軒の中期竪穴住居跡が報告され、接近した同時期の集落跡の存在が明らかとなり、国分寺台遺跡群での弥生中期後半の集落跡が国分寺台の北西部に集中して急速に展開された状況を示すことになった。これまでの中期集落跡は、向原台遺跡20軒、台遺跡Ｂ地点９軒＋α、御林跡遺跡10軒以上、長平台遺跡２軒＋αが存在する。墓域では、台遺跡や諏訪台遺跡で群を構成して検出されている。

弥生後期～末期　本期に該当する遺構は107住・151住～154住・160住・167住・172住・173住・176住・179住・182住～186住・188住・194住・203住・209住・210住・215住・224住・226住・227住・232住・236住・244住の28軒が存在し、この内184住・186住の２軒は後期末の古墳出現期に降るものであろう。住居跡の中には、遺物が検出されるものと、平面形だけから本期に属すと判断した住居跡

が存在し、平面形だけで判断した住居跡の中には、先行する宮の台期や後出の後期末～古墳出現期に属するものが存在する可能性もある。遺構分布は、宮の台期の集落跡が拡大して分布する傾向を示すが、東端に検出した遺物の伴わない107住１軒が離れて存在する。この住居跡は、東側に隣接した加茂遺跡Ｄ地点から検出された、弥生中期乃至後期に連続する集落の北西端の限界線と考えられる。

弥生後期末に数軒の竪穴住居跡が存在し、以降200年近い空白時期を経過した後、古墳時代中期末に再度集落が出現する。従って、第１表に上げた古墳出現期～古墳時代中期中葉のⅢ期後半～Ⅴ期Ａは存在しない。

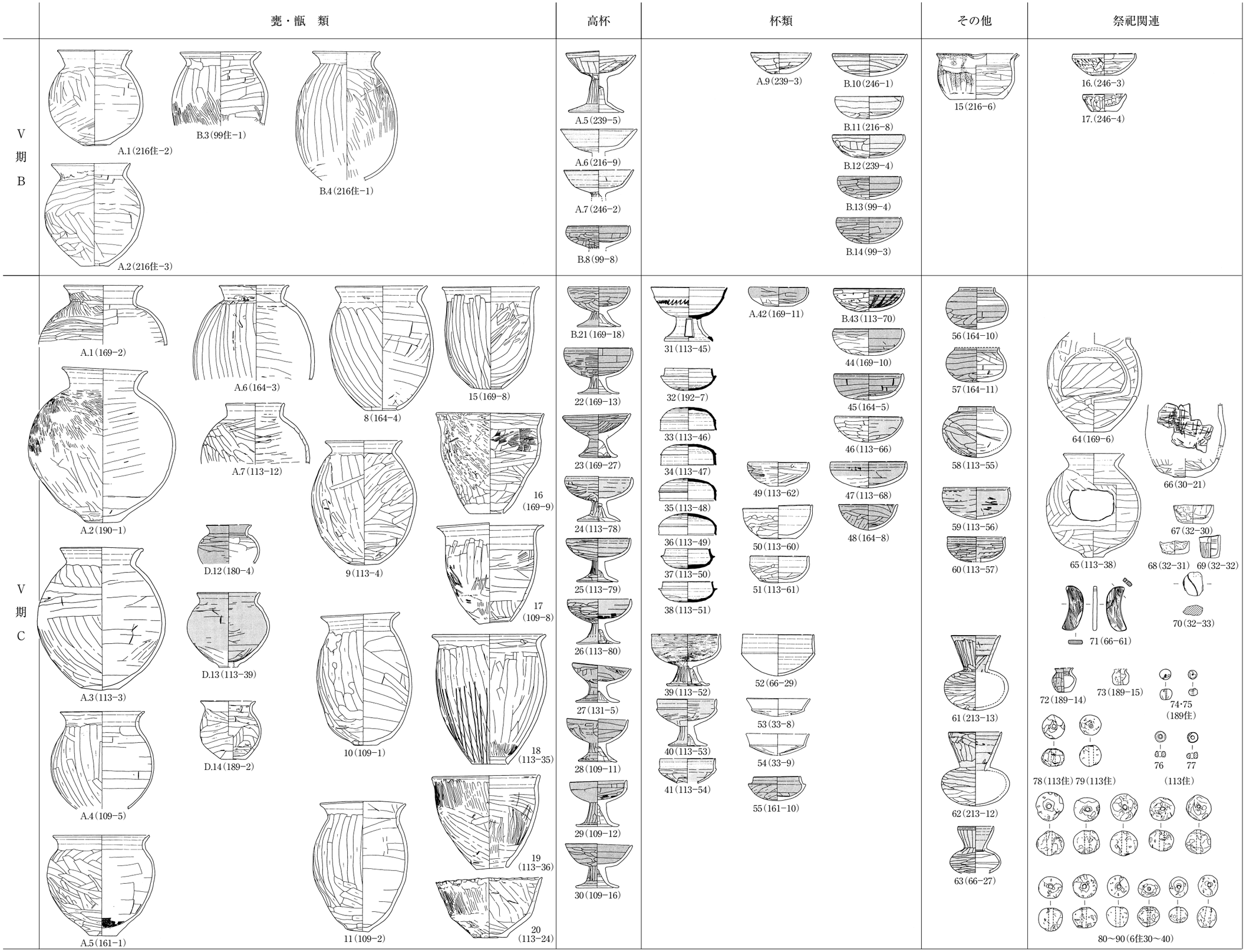
Ⅴ期Ｂ　検出遺構は古相239住・246住、新相の26・99・199・216住の計６軒が存在する。

本期は和泉期の最終段階に当たる時期で、和泉式土器の標準資料である高杯Ａ（５：杯部下端に明瞭な稜を有するもので、脚柱は袋状の中空で脚柱裾が「く」の字に折れ、赤彩を施す。）の共伴とカマドを附設しない住居跡を当てた。高杯では、99住に高杯Ａの脚と共伴する後出の高杯Ｂ（８：椀形高杯で赤彩を施す。）も認められる。甕は、甕Ａ（球胴甕）と甕Ｂ（近球胴甕）が存在し、甕Ｃの長胴甕は認められない。整形は、外面斜位の篦ナデを基調とし、ミガキも認められる。杯は、杯Ａ（９：平底で小形、体部僅かに内湾気味で開き、赤彩を施す。）・杯Ｂ（10～14丸底で全体に内湾する杯である。）と高杯Ａが239住で共伴する。杯Ａでは、和泉的な口縁内側に面を有するものは認められず、口縁が内湾気味に開いている。杯Ｂは、10（246住―１）や14（99住―３）の器高・杯部の深さ・口縁形態で細分可能である。また、祭祀遺物と思われる無彩平底の大小の杯16・17（246住―３・４）が存在する。須恵器の共伴は無いが、文献１でTK216型式段階の和泉式期でも新段階のものであることを指摘している。本期のメルクマールとした高杯Ａは、文献１の高杯が外反して開き口唇に面を有するのに対して、本遺跡例は直線的に口縁が開きやや新相を呈している。

竪穴住居跡は、全ての住居跡が複合し、後出する遺構に掘り込まれ全体を留めるものは存在しない。最も遺存状態の良好な26住は、西南隅に寄った位置に炉跡を備え、カマドが無く、他の住居跡も同様の平面形を有するものと思われる。続くⅤ期Ｃ段階の住居跡のカマド位置が、東辺の南東隅寄りに検出される例が多く住居跡形態から見ればカマド出現前夜と言えよう。この時期の国分寺台遺跡群での良好な資料は、御林跡遺跡にTK216型式の須恵器を伴う住居跡が検出されている。（文献３）住居跡平面復元規模では、10～15㎡に収まり傑出した住居跡の存在は無い。集落跡の分布は、台地先端部寄りに選地する傾向にある。

Ⅴ期Ｃ　42軒の住居跡が検出され、検出遺構・遺物が豊富な時期である。須恵器では、TK23～TK47型式期を中心とした５世紀後葉に当たる。土器では、和泉的な要素が残る高杯Ａが消滅し、高杯Ｂが主体を占める他、須恵器模倣杯類の出現、甕の長胴化、甑の定着が挙げられる。長胴甕や甑の定着は、カマドの附設と密接に関係することが分かる。また、出土状況が明確で無いが、土製の小玉や土錘状の土玉が手捏ね土器等の祭祀遺物と共伴し、集落内の祭祀遺物の一つである、前段階の石製模造品が土製玉に取って代わったことが指摘できる。

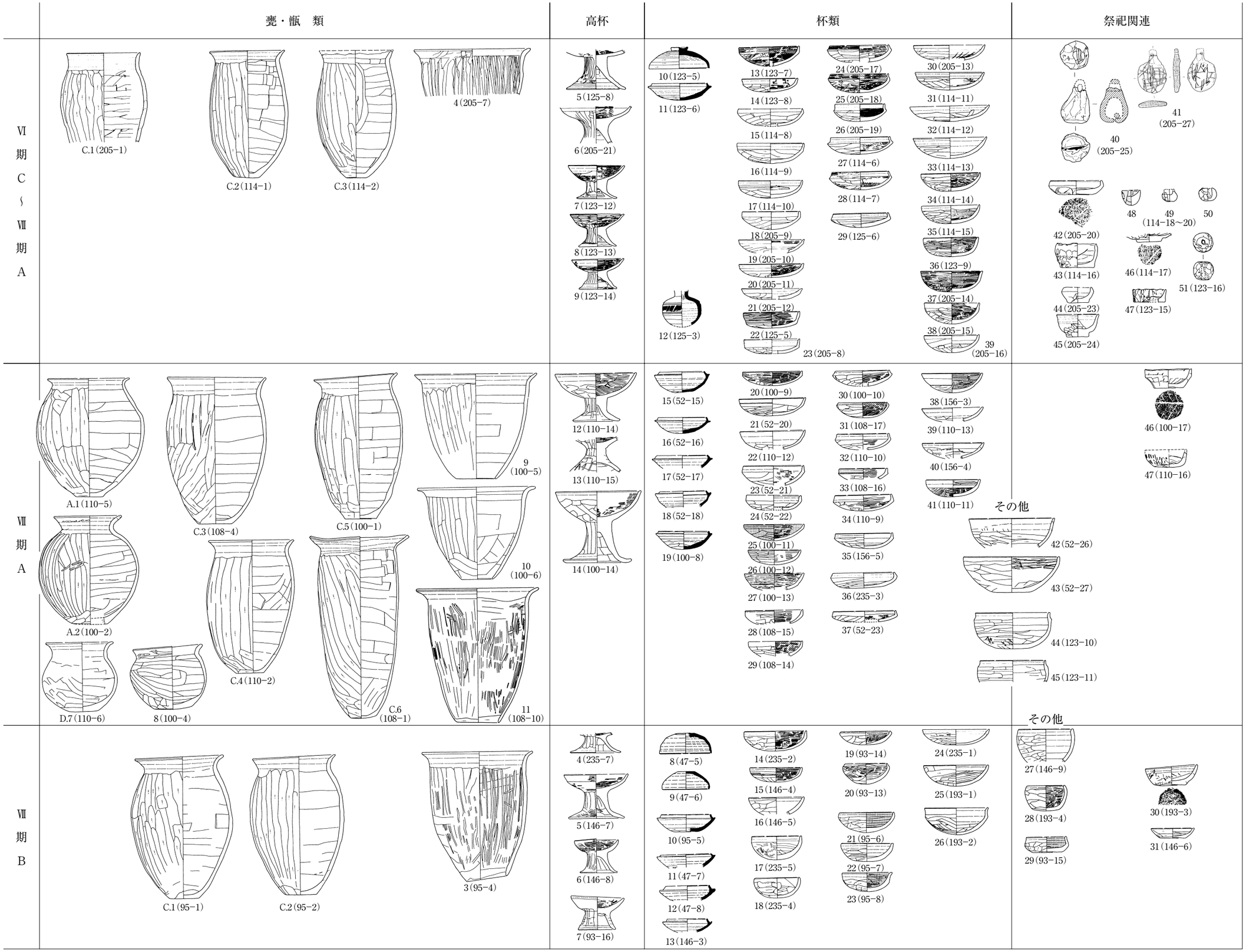
高杯Ｂは、脚柱下端に屈曲が見られるものの短脚から長脚の傾向が明瞭である（21～30）。杯では、前段階に少数であった杯Ｂ（43～47）が主体を占め、杯Ａが形骸化した口縁の内湾する42や古相の丸底で深い赤彩椀（48）が僅かながら存在する。甕類は、前段階から引き続き球胴Ａ・近球胴（中胴甕）Ｂと長胴甕Ｃが顕著に見られ、小形甕Ｄ（12～14）には赤彩を施し祭祀的な要素が伺われ


甕・甑　類
高杯
杯類
その他
祭祀関連
V期B
V期C
A.1(216住-2)
B.3(99住-1)
B.4(216住-1)
A.2(216住-3)
A.5(239-5)
A.6(216-9)
A.7(246-2)
B.8(99-8)
A.9(239-3)
B.10(246-1)
B.11(216-8)
B.12(239-4)
B.13(99-4)
B.14(99-3)
15(216-6)
16.(246-3)
17.(246-4)
A.1(169-2)
A.6(164-3)
8(164-4)
15(169-8)
A.2(190-1)
A.7(113-12)
16(169-9)
D.12(180-4)
9(113-4)
17(109-8)
A.3(113-3)
D.13(113-39)
10(109-1)
18(113-35)
A.4(109-5)
D.14(189-2)
19(113-36)
A.5(161-1)
11(109-2)
20(113-24)
B.21(169-18)
22(169-13)
23(169-27)
24(113-78)
25(113-79)
26(113-80)
27(131-5)
28(109-11)
29(109-12)
30(109-16)
31(113-45)
32(192-7)
33(113-46)
34(113-47)
35(113-48)
36(113-49)
37(113-50)
38(113-51)
39(113-52)
40(113-53)
41(113-54)
A.42(169-11)
49(113-62)
50(113-60)
51(113-61)
52(66-29)
53(33-8)
54(33-9)
55(161-10)
B.43(113-70)
44(169-10)
45(164-5)
46(113-66)
47(113-68)
48(164-8)
56(164-10)
57(164-11)
58(113-55)
59(113-56)
60(113-57)
61(213-13)
62(213-12)
63(66-27)
64(169-6)
65(113-38)
66(30-21)
67(32-30)
68(32-31)
69(32-32)
70(32-33)
71(66-61)
72(189-14)
73(189-15)
74･75
(189住)
76
77
(113住)
78(113住)
79(113住)
80～90(6住30～40)

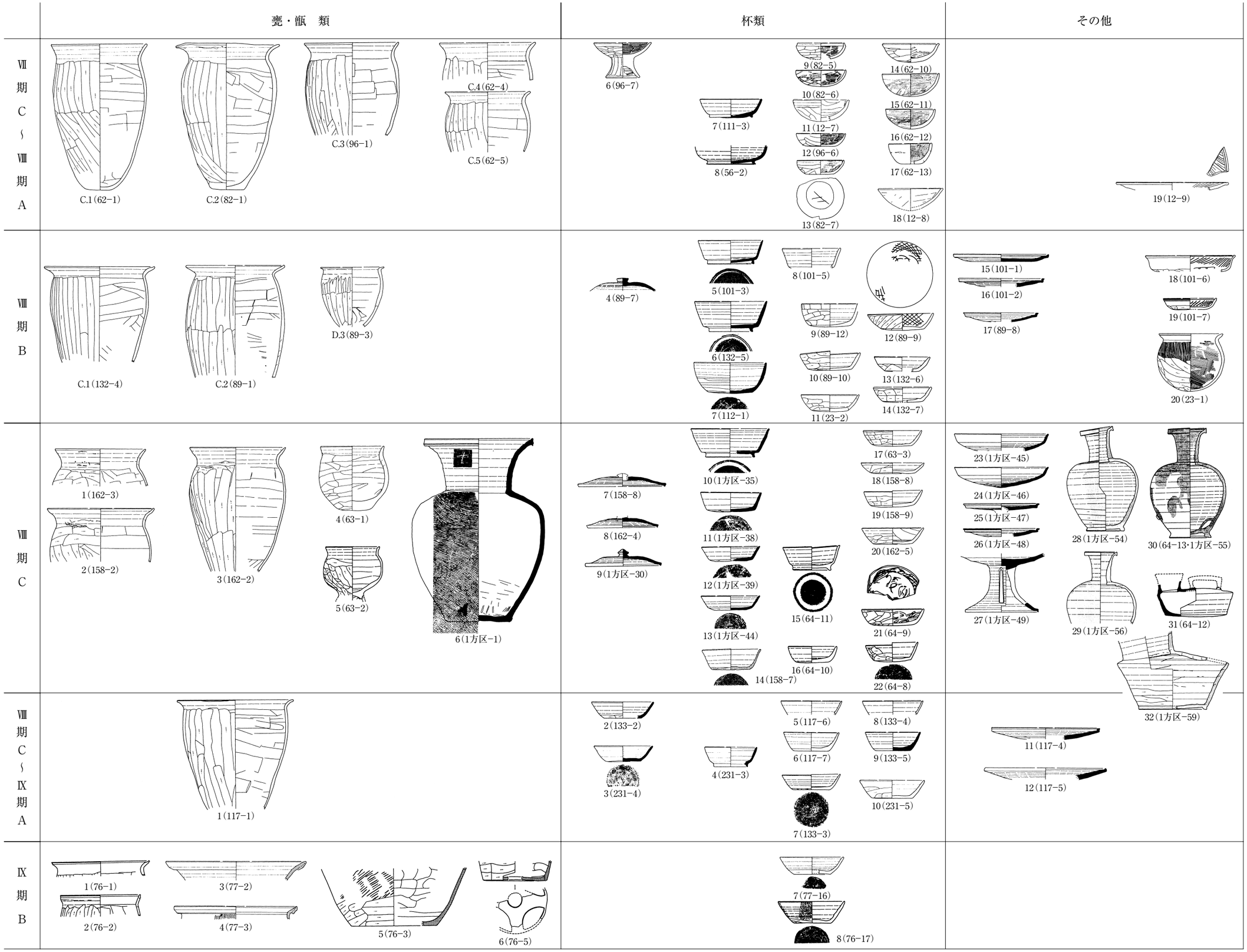
第434図　Ⅴ期の土器

	甕・甑　類	高杯	杯類	その他	祭祀関連
Ⅵ期A	A.1(192-2)　A.3(150-5)　C.4(192-3)　7(192-6)　A.2(192-1)　C.5(28-2)　C.6(150-3)		B.8(150-10)　12(28-12)　16(28-13)　B.9(28-17)　13(25-4)　17(50-6)　B.10(192-8)　14(50-7)　18(28-14)　B.11(192-11)　15(150-9)　19(150-8)　20(68-13)	21(150-11)　22(150-7)　23(192-13)	24(150-12)　25(19-5)　26(19-6)
Ⅵ期B	A.1(92-1)　D.6(92-6)　C.4(92-2)　A.2(28-1)　B.3(33-2)　C.5(33-1)　7(223-11)		8(92-7)　12(92-9)　18(28-15)　9(28-10)　13(28-16)　19(147-9)　10(28-11)　14(147-7)　20(147-10)　B.11(181-5)　15(192-10)　21(223-12)　16(147-8)　17(223-13)	22(223-16)	23(147-13)　24(147-14)　25(28-22)　26(28-23)
Ⅵ期C	A.1(18-4)　A.2(18-5)　D.5(174-4)　D.6(174-3)　C.3(18-1)　4.(65-1)　7(25-1)　8(174-6)	9(235-6)　10(18-16)　11(165-23)　12(165-24)　13(174-17)	14(190-1)　15(37-8)　16(37-9)　17(37-10)　18(65-5)　19(181-2)　20(181-3)　21(65-6)　22(190-2)　23(21-10)　24(165-20)　25(165-19)　26(65-8)　27(65-9)　28(174-9)　29(174-10)　30(174-11)　31(165-16)　32(37-14)　33(37-15)　34(174-12)　35(174-13)　36(174-14)　37(35-13)　38(35-12)　39(190-6)　40(130-4)　41(130-5)　42(190-3)　43(190-4)　44(165-17)　45(165-18)	46(174-16)　47(18-14)　48(130-6)　49(130-7)　50(35-17)　51(18-15)	52(18-21)　53(165-27)　54(165-28)　55(165-29)　56(35-19)

第435図　Ⅵ期の土器


甕・甑　類
高杯
杯類
祭祀関連
Ⅵ期C～Ⅶ期A
C.1(205-1)
C.2(114-1)
C.3(114-2)
4(205-7)
5(125-8)
6(205-21)
7(123-12)
8(123-13)
9(123-14)
10(123-5)
11(123-6)
12(125-3)
13(123-7)
14(123-8)
15(114-8)
16(114-9)
17(114-10)
18(205-9)
19(205-10)
20(205-11)
21(205-12)
22(125-5)
23(205-8)
24(205-17)
25(205-18)
26(205-19)
27(114-6)
28(114-7)
29(125-6)
30(205-13)
31(114-11)
32(114-12)
33(114-13)
34(114-14)
35(114-15)
36(123-9)
37(205-14)
38(205-15)
39(205-16)
40(205-25)
41(205-27)
42(205-20)
43(114-16)
44(205-23)
45(205-24)
48
49(114-18～20)
50
46(114-17)
47(123-15)
51(123-16)
Ⅶ期A
A.1(110-5)
A.2(100-2)
C.3(108-4)
C.4(110-2)
C.5(100-1)
C.6(108-1)
D.7(110-6)
8(100-4)
9(100-5)
10(100-6)
11(108-10)
12(110-14)
13(110-15)
14(100-14)
15(52-15)
16(52-16)
17(52-17)
18(52-18)
19(100-8)
20(100-9)
21(52-20)
22(110-12)
23(52-21)
24(52-22)
25(100-11)
26(100-12)
27(100-13)
28(108-15)
29(108-14)
30(100-10)
31(108-17)
32(110-10)
33(108-16)
34(110-9)
35(156-5)
36(235-3)
37(52-23)
38(156-3)
39(110-13)
40(156-4)
41(110-11)
その他
42(52-26)
43(52-27)
44(123-10)
45(123-11)
46(100-17)
47(110-16)
Ⅶ期B
C.1(95-1)
C.2(95-2)
3(95-4)
4(235-7)
5(146-7)
6(146-8)
7(93-16)
8(47-5)
9(47-6)
10(95-5)
11(47-7)
12(47-8)
13(146-3)
14(235-2)
15(146-4)
16(146-5)
17(235-5)
18(235-4)
19(93-14)
20(93-13)
21(95-6)
22(95-7)
23(95-8)
24(235-1)
25(193-1)
26(193-2)
その他
27(146-9)
28(193-4)
29(93-15)
30(193-3)
31(146-6)

第436図　Ⅶ期の土器



第437図　Ⅷ～Ⅸ期の土器

る。また、甕の整形では斜位の篦ナデが主流を成し、甕Ｃでは縦位篦ケズリも一定量が認められる。良好な一括資料に113住から須恵器無蓋高杯１点・須恵器杯蓋４点・須恵器杯身２点・ハソウと共に土師器甕・赤彩椀形杯・赤彩椀形高杯（高杯Ｂ）・模倣高杯・赤彩小形甕、169住居跡から土師器甕・甑・赤彩椀形杯・赤彩椀形高杯等があり、両者の高杯Ｂの比較から短脚から長脚化が明瞭に認められる。赤彩椀形杯ではバリエーションに富み細分が可能であるが、赤彩椀形高杯（高杯Ｂ）の杯部でも同様なことが言える。祭祀遺物では、胴部に窓を有する球胴甕（甕Ａ）・手捏ね土器・土玉・土製品の他、石製臼玉（76・77）・勾玉型石製模造品（71）が存在する。土玉は覆土から単独乃至数個で出土する傾向が多く、60住の11個は例外的な出土である。記録類の不備から遺構との共伴関係が必ずしも明確ではないが、他の遺跡で見られる前段階まで集落内祭祀遺物として存在する、石製の有孔円盤の出土例と酷似している。

遺構の分布では、調査区域全体から検出され、急速に拡大する状況を示している。竪穴住居跡の面積は、最大で54.68㎡が存在し、以下50㎡以上２軒・40㎡以上５軒・30㎡以上８軒・20㎡以上10軒・20㎡以下13軒である。カマド位置は、42軒中、北～西３軒、北～東が37軒と東カマドが主体である。北～西に振れる住居跡は本期でも後出の存在と言える。

Ⅵ期Ａ　19軒の住居跡を検出したとしたが、本期に比定した住居跡には時期を示す遺物が検出されず、複合関係から時期を想定した遺構も多く存在し、集落の衰退時期でもある。遺物も他の時期より少なく良好な一括資料が無く、器種が欠け他の時期との比較が充分でない。模倣杯の定着する時期でもある。須恵器では、MT15～TK10型式期の６世紀前葉に当たる。

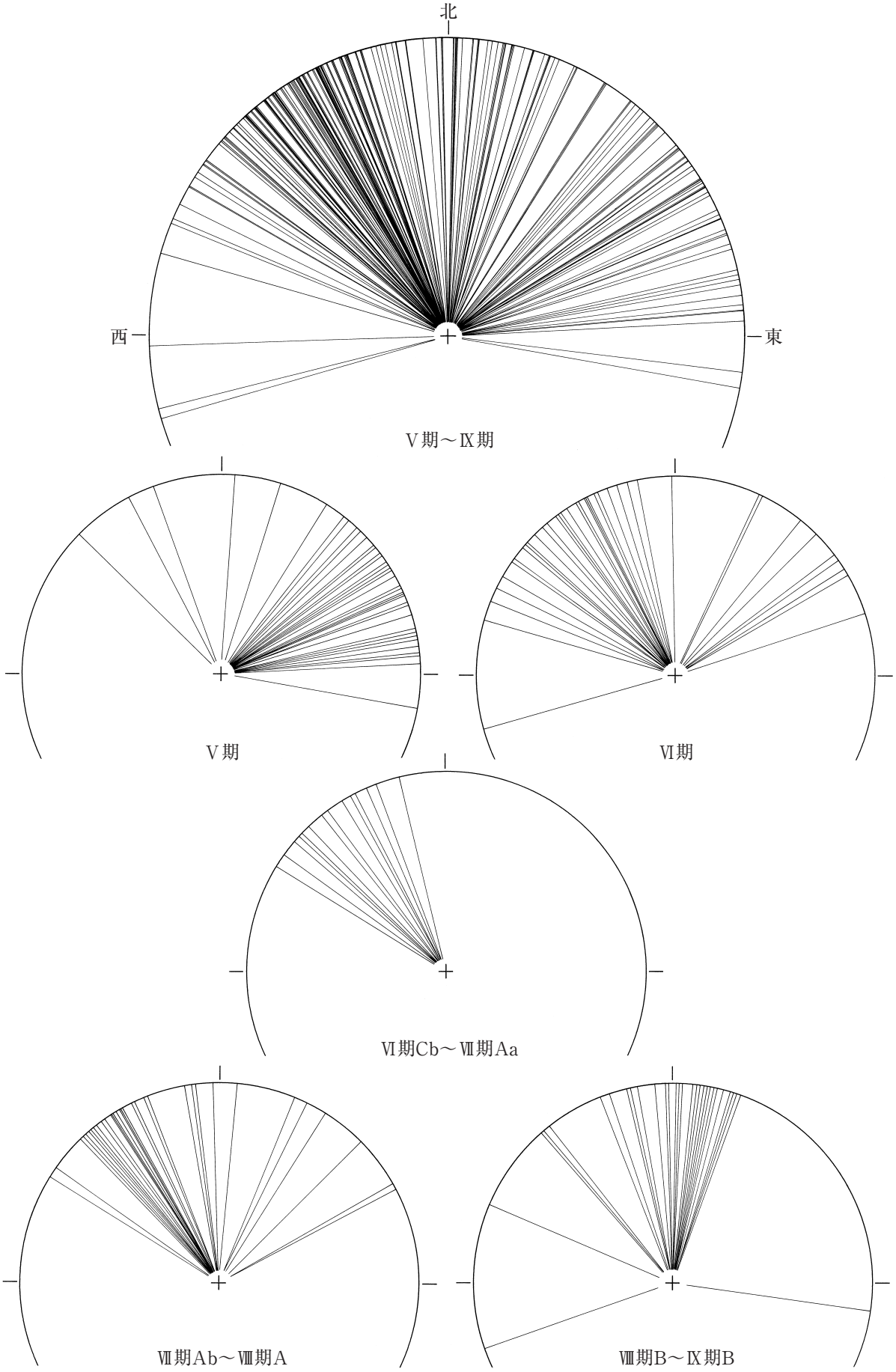
甕Ａは横位の篦ナデを基調に篦ミガキは消滅し、甕Ｃは縦位の篦ケズリが主体を成す。高杯には良好な資料が存在しないが、他の遺跡では前段階よりの赤彩椀形杯の長脚化したものが共伴する。杯類は、前段階の赤彩椀形杯の他、赤彩の模倣杯が定着し、黒色処理を施す模倣杯が存在する。祭祀遺物には土製勾玉・ミニチュア土器・土玉等が共伴する。

竪穴住居跡の面積は、最大54.16㎡が検出し、以下30㎡以上７軒・20㎡以上５軒・20㎡以下６軒と規模が傑出した住居跡が認められる。カマド位置は、北～東５軒、北～西13軒と一定では無いが北西辺カマドが主体となる。

Ⅵ期Ｂ　９軒の住居跡を検出したとしたが、Ⅵ期Ａ同様に時期を示す遺物が少なく、複合関係から想定した遺構も存在し、集落が更に衰退する時期である。須恵器はTK10～TK85段階の６世紀中葉に当たる。

甕は、Ａ・Ｂ・Ｃが存在し、甕Ａ（１）は大形で最大径を胴上半に有する物が存在する。甕Ｃ（４・５）は縦位の篦ケズリを基調とし、胴長化が顕著である。杯類では、伝統的な赤彩椀形杯Ｂ（11）の最終段階である。杯蓋模倣杯には、赤彩（12・13）や内外面ミガキで黒色処理を施す杯蓋模倣（14～17）、杯身模倣（18～21）が存在し、扁平化と大型化が顕著である。（黒色処理については、科学的分析を実施しておらず肉眼観察で行い、黒色に仕上げたものや褐色を呈するものも存在する。これらについては、炭素吸着法、樹脂焼き付け、由煙を使用した方法が指摘されているが、褐色に仕上げられたものについて漆塗り、他は黒色処理と表記している。）祭祀遺物では、20～23の手捏ね土器や土玉の共伴が確認できる。

集落は、前段階の範囲を僅かに縮小し密度が減少する。竪穴住居跡の面積は、最大44.32㎡、以下



第438図　竪穴住居跡時期別主軸方位図

30㎡以上２軒・20㎡以上４軒・20㎡以下２軒である。カマド位置は、北～東が２軒、北～西が７軒と北西カマドが主体となる。

Ⅵ期Ｃ　22軒の住居跡を検出し、集落が再び盛行する時期である。須恵器では TK43～TK209型式期古相で６世紀後葉に当たる。

甕Ａの大形（１・２）・甕Ｃ（３・４）・甕Ｄ（５・６）が存在し、甕Ｂ（近球胴甕）には資料がない。甕の整形は、甕Ａの大型に篦ナデが残る程度で、甕Ｃ・Ｄは縦位の篦ケズリを基調とする。高杯（９）は、大型で長脚と10～13の短脚小形が共存する。模倣杯は、扁平化と多用化が顕著で黒色処理や漆塗り無彩のミガキ整形を施す模倣杯が主流を占める。42～46の有段口縁杯や45の内湾口縁杯が客体的に散見する。祭祀遺物では53～57の土玉や手捏ね土器が共伴する。

集落は、前段階の範囲を僅かに縮小し密度を増す。竪穴住居跡の面積は、最大40.1㎡・30㎡以上９軒・20㎡以上８軒・20㎡以下４軒である。カマド位置は、北～東が２軒、北～西が20軒と北西カマドが主体となる。

Ⅵ期Ｃ～Ⅶ期Ａ　18軒の住居跡を検出し、前段階の集落が僅かに衰退傾向にある。須恵器では TK209型式期を中心とし、６世紀末～７世紀初頭に当たる。

甕Ｃは前段階と比して口径と胴系がほぼ同一なものが認められ長胴化が顕著である。高杯は大型（５）と小形（７～９）が認められる。小形の高杯は、須恵器10と11に共伴し、本期に当てたがⅦ期Ｂの６・７と酷似し、時期に問題を残す。模倣杯は須恵器を忠実に模倣したものと形骸化したものが混在する。また、30～32の丸底の扁平皿状杯と34～38の口径の縮小した半球状の椀形杯が認められる。祭祀遺物には、共伴関係が明確で無いが205住出土の土鈴（40）・土製ペンダント（41）の他に42～47の手捏ね土器・ミニチュア・土玉が認められる。土玉は、これ以後認められず、手捏ね土器などの祭祀遺物が減少する傾向を示す。

集落は、調査区域内に散在し、前段階の範囲と密度をほぼ踏襲する。竪穴住居跡の面積は、調査区最大規模の78.1㎡、次ぐ規模の63.5㎡が存在し、以下40㎡以上３軒・30㎡以上２軒・20㎡以上５軒・20㎡以下４軒で規模の傑出２軒が存在する。カマド位置は、全てが北～西に位置する。

Ⅶ期Ａ　15軒の住居跡を検出し、調査区全域に散見され、前段階の集落が僅かに衰退傾向にある。須恵器では TK209新相～TK217古相段階を中心とし、７世紀前葉に当たる。

甕Ａ・Ｃ・Ｄが認められ、旧来の甕Ａは斜位の篦ナデを主流としていたが、本期には甕Ｃ同様縦位の篦ケズリを施している。甕Ｃ（６）は、長胴化が最大となる武蔵型甕で外面斜位の篦ケズリで器肉を極端に薄く仕上げられた搬入品で、108住には他に同種の甕２点がある。模倣杯は、前段階より形骸化し、縮小化、扁平化が認められる。祭祀土器には、46・47の手捏ね土器が認められる。

竪穴住居跡の面積は、最大で63.49㎡が存在し、以下40㎡以上３軒・30㎡以上３軒・20㎡以上５軒・20㎡以下３軒で規模の傑出した１軒が前段階同様に認められる。同時期の例では、国分寺台遺跡群の東に隣接する郡本大宮遺跡60号住居跡は平面規模118㎡を測る、当該期の最大級の竪穴住居跡が確認され、７世紀前半の特徴に傑出した規模の住居跡の存在が指摘できる。カマド位置は、北～東２軒、北～西12軒で北西側が主体である。

Ⅶ期Ｂ　19軒の住居跡を検出し、調査区全域散見され前段階の集落が僅かに密度を増す傾向を示す。須恵器では TK217新相～TK46古相段階を中心とし、７世紀中葉に当たる。

第１表　　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点竪穴住居跡一覧表

住居番号	旧住居番号	平面形	カマド・炉の有無および位置等	主軸方位	規模（m） 確認面 主軸長×副軸長	規模（m） 床面 主軸長×副軸長	床面積（㎡）	深さ（cm）	主柱穴	主な出土遺物	複合関係	備考	時期
1	B H1	方形	北西辺中央	N-43°-W	5.70 5.35	5.68 5.36	28.78	35 61	4	甕２・須恵器杯１・杯２・椀１・支脚２・敲打石１	無	火災住居	Ⅶa
2	B H2	縦方形	西辺中央	N60°-W	4.40 4.16	4.12 3.82	16.29	38 47	4	甕２・甑２・須恵器杯身１・杯３・須恵器高杯１・支脚１・敲打石１			Ⅵc
3	B H3	縦方形	北西辺中央	N-36°-W	4.83 4.58	4.10 3.85	17.83	37 46	4	甕３・甑１・杯２・高杯１・須恵器長頸壺片３・須恵器甕片８		火災住居の可能性有り	Ⅵc～Ⅶa
4	A H1	隅丸方形	西辺中央	N-64°-W	4.72 4.50	(4.52) (4.46)	(19.65)	50 74	4	甕14・甑２・杯14・高杯５・鉢１・放射状暗文土器杯１・短頸壺１・須恵器短頸壺１・須恵器蓋１・須恵器甕片４・須恵器提瓶？１・陶器小皿１・支脚１	４住→５住	覆土上層に貝層と焚き火（護摩）の跡	Ⅵc
5	A H2	方形	北東辺？４住に削平	N-44.5°-E	(4.91) (4.74)	(4.80) (4.64)	(21.87)	38 55	４？	同　　上	４住→５住		Ⅴc
6	A H3	方形	北西辺	N-26.5°-W	5.81 5.62	5.80 5.62	31.94	23 34	4	甕９・甑３・須恵器甕１・須恵器坏身１・杯５・椀２・高杯３・壺１・坩１・短頸壺１・手捏土器１・支脚１・土玉11・擦り石２			Ⅵa
7	A H4	方形	北西辺中央	N-43°-W	4.74 4.62	4.70 4.50	20.78	32 55	4	甕２・甑１・須恵器杯２・杯４・椀２・鉢１・高杯３・須恵器甕１・支脚１・砥石１	８住→７住		Ⅶb
8	A H5	方形	北東辺？７住に削平	N-40°-E	4.42 4.32	(4.34) (4.42)	(17.93)	21 48	4	甕17・甑２・壺２・椀１・杯３・高杯10・手捏土器２・土玉３・砥石１	８住→７住		Ⅴc
9	A H6	方形	北西辺中央	N-29.5°-W	5.02 4.86	5.32 5.08	25.68	38 50	4	甕５・甑３・杯４・須恵器高杯１・高杯１・須恵器甕片２・中世陶器甕片２・ミニチュア土器１・支脚１・土玉３・軽石１			Ⅶa
10	A H7	方形	北東辺中央	N-58°-E	6.63 6.50	6.62 6.44	41.29	32 67	4	甕12・甑２・鉢１・須恵器甕片２・須恵器短頸壺片１・坩１・須恵器杯２・中世陶器甕片１・杯４・鉢１・椀１・高杯５・砥石１・軽石１			Ⅴc
11	A H8	方形	北西辺中央？12住に削平	N-38°-W	6.86 6.68	6.36 6.14	40.85	40 54	4	杯４・須恵器甕片３・高杯１・砥石１	11住→12住		Ⅵc～Ⅶa
12	A H9	方形	北辺中央	N-５°-E	4.32 4.16	4.60 4.48	18.27	35 55	4	甕５・須恵器甕１・杯２・放射状暗文土器高盤１・石製紡錘車１	11住→12住		Ⅶc～Ⅶa
13	A H10	方形 胴張り	北辺？溝に削平	N-１°-E	(4.14) (3.98)	4.07 3.92	(15.18)	26 39	4	甕２・須恵器短頸壺蓋１・杯１・椀１・鉢１・須恵器長頸壺片１・石製紡錘車１	14住→13住		Ⅶc
14	A H11	方形 胴張り	北辺？溝に削平	N-２°-W	4.84 4.78	4.78 4.54	20.53	28 55	4	同　　上	14住→13住		Ⅶc～Ⅶa
15	A H12	方形	東辺中央	N-82°-E	5.51 5.42	5.32 5.16	(28.05)	30 38	4	甕16・甑１・杯15・高杯２・須恵器蓋２・須恵器杯１・須恵器不明脚１・手捏土器１	15住→16住	火災住居	Ⅴc
16	A H13	方形 胴張り	北西辺中央	N-46°-W	3.77 3.64	3.80 3.70	13.21	49 55	4	甕４・甑２・須恵器杯１・杯３・高杯２・椀１・支脚１・土玉１・砥石１・石製玉１	15住→16住		Ⅵc～Ⅶa
17	A H14	方形	北西辺中央	N-40°-W	4.80 4.61	4.72 4.54	20.26	28 42	4	甕４・杯９・高杯１・鉢３・須恵器高杯１・須恵器甕１・擦り石１	18住→17住		Ⅶa
18	A H15	方形	北西辺中央	N-54°-W	5.54 5.32	5.72 5.54	(28.88)	35 46	4	甕５・杯８・高杯３・支脚２・鉢１・短頸壺１・土製品丸玉１・砥石１	19住→18住		Ⅵc
19	A H16	方形 胴張り	北東辺？	N-55°-E	5.00 4.88	(4.96) (4.75)	(22.79)	25 33	4	甕１・杯３・手捏土器１・土玉１	19住→18住		Ⅵa
20	A H17	方形	北西辺中央	N-37°-W	5.76 5.70	5.60 5.52	31.66	20 26	4	甕３・須恵器甕１・杯２・高杯１			Ⅵa
21	A H18	隅円方形	北西辺中央	N-40°-W	5.86 5.60	5.60 5.44	30.04	43 51	4	甕６・杯11・高杯３・椀１・須恵器甕２・須恵器短頸壺１・コップ１・支脚１・土玉１		火災住居	Ⅵc
22	A H19	隅円方形	北東辺？23住に削平	N-66.5°-E	(4.58) (4.40)	4.60 4.40	(19.12)	31 44	4	甕14・甑４・須恵器杯蓋１・杯10・高杯10・椀２・鉢２・須恵器甕１・坩１・灰釉陶器長頸壺１・土玉１・管状土錘１・擦り石１	22住→24住→→23住		Ⅴc
23	A H20	隅円方形	北辺中央	N-11°-E	4.59 4.40	4.54 4.38	19.07	21 25	4	甕１・杯１・鉄製釘１	22住→24住→→23住		Ⅶb
24	A H21	方形	北西辺？23住に削平	N-45°-W	5.76 5.58	(5.48) (5.40)	(29.61)	13 40	4	杯４・高杯３・椀１・鉢２・須恵器甕１・灰釉陶器椀１・支脚１・鉄製鎌１	22住→25住→→24住→23住	火災住居	Ⅵc
25	A H22	方形	北東辺？24住に削平	N-23°-W	(5.64) (5.40)	(5.44) (5.26)	(28.38)	30 52	4	甕１・甑１・杯３・鉢１・須恵器ハソウ１	22住→25住→→24住→23住	火災住居	Ⅵca
26	A H23	縦方形	東側床面に炉跡２カ所	N-87°-E	(4·48) 4.34	(3.78) 3.60	(15.45)	22 27	4	甕５・壺１・杯11・高杯２・椀２・鉢１・須恵器甕１・支脚１・土玉３・管状土錘１・砥石１	26住→27住	床面に炉跡２カ所	Ⅴb
27	A H24	隅円方形	北西辺中央	N-36°-W	5.10 5.06	5.18 5.12	25.20	43 50	4	甕２・杯３・須恵器杯身１・椀１・須恵器壺片１・須恵器甕片１・石製品１	28住→27住	火災住居の可能性	Ⅶb
28	A H25	方形	北西辺中央	N-36°-W	5.82 5.68	5.70 5.56	30.91	26 45	4	甕９・須恵器甕片２・杯７・須恵器杯身２・鉢１・土玉２	28住→27住	火災住居	Ⅵb
29	A H26	方形	北西辺中央	N-32°-W	6.80 6.58	7.26 7.14	(47.07)	25 38	4	甕２・須恵器甕片３・甑１・杯５・須恵器杯蓋２・高杯１・椀１・支脚１・土玉２			Ⅶc～Ⅶa
30	A H27	方形	北東辺？31住に削平	N-51°-E	4.66 4.48	4.24 4.04	(17.87)	22 32	4	甕22・壺１・杯６・高杯２・椀１・鉢３・支脚１・土玉２・石製品１	30住→31住		Ⅴc
31	A H28	方形	北西辺中央	N-26°-W	3.36 3.20	3.24 3.10	9.94	47 51	4	甕５・須恵器甕片１・甑１・杯２・支脚１・石製ハンマー１・土製品管玉１		火災住居	Ⅵc～Ⅶa
32	A H29	方形	北辺東より	N-20°-W	4.58 4.48	4.54 4.38	19.77	24 31	4	甕10・甑２・杯８・高杯５・鉢２・坩１・須恵器壺１・手捏土器２・ミニチュア土器１・緋状圧痕付土製品１			Ⅴca
33	A H30	方形	北西辺中央	N-24°-W	5.03 4.96	4.83 4.71	(24.94)	26 33	4	甕７・須恵器甕１・杯４・高杯４・椀２・須恵器ハソウ１・支脚１・土玉２	34住→35住→→33住	火災住居の可能性	Ⅵb
34	A H31	方形？	東辺中央？	N-70°-E	(4.00)	(4.00)		22		甕11・壺２・杯２・椀１・鉢１・土玉１・鉄鏃１	34住→35住→→33住		Ⅴc
35	A H32	方形	北西辺中央	N-27°-W	6.30 6.16	6.44 6.32	(39.22)	26 41	4	甕７・杯８・高杯１・鉢１・短頸壺１・手捏土器１・土製品丸玉１	34住→35住→→33住→37住	火災住居	Ⅵc
36	A H33	隅円方形	北辺中央	N-６°-E	2.64 2.50	2.68 2.52	(6.03)	42 52	無	甕２・杯２・非ロクロ土師器杯１・須恵器杯１・須恵器杯蓋１	35住→37住→→36住		Ⅶc
37	A H34	正方形	北東辺中央	N-45°-E	6.20 6.10	6.24 6.14	(37.18)	30 52	4	甕４・須恵器甕片３・小形短頸壺１・杯６・須恵器身３・高杯５・椀２・鉢３・支脚２	35住→37住→→36住	建て替え有り	Ⅵc
38	A H35	方形	北東辺	N-64°-E	(4.70) (4.60)	(4.76) (4.68)	(21.57)	24	4	甕６・須恵器甕３・甑２・杯１・高杯４・椀１・鉢１・土玉２	35住→37住→→36住		Ⅴc
39	A H36	隅円方形	北辺中央	N-21°-W	6.24 6.04	6.26 6.08	36.35	43 59	4	甕２・須恵器甕１・杯１・須恵器杯身１・高杯２・須恵器ハソウ１・ミニチュア１・支脚１	40住・41住→→39住	建て替え有り 火災住居	Ⅶb
40	A H37A	方形	北辺？39住に削平	N-20°-W	6.22 5.94	6.20 6.20	(36.42)	51 58	4	須恵器甕１・杯２・放射状暗文土器杯１・須恵器短頸壺１・石製管玉１・刀子１			Ⅵa?
41	A H37B	方形	北辺？39住に削平	N-20°-W	6.48 6.36	6.40 6.20	39.78	51 61	4	同　　上			Ⅵa?
42	A H38	方形	北辺中央	N-３°-E	3.62 3.34	3.84 3.52	(11.84)	55	4	甕１・須恵器甕８・杯４・須恵器杯１・土玉１・瓦５			Ⅸa
43	A H39	方形？	北西辺？溝に削平	N-47°-W?	(5.40) (5.30)	5.38 5.30	(27.63)	51	4	甕１・杯３・須恵器杯１		火災住居	Ⅵc～Ⅶa
44	A H40	隅円方形	北西辺中央	N-55°-W	5.46 5.22	5.84 5.66	(29.13)	31 40	4	甕１・須恵器甕３・壺１・杯２・高杯２	44住→45住→→47住→46住	火災住居の可能性	Ⅵa
45	A H41	方形	北東辺中央？47住に削平	N-60°-E	4.49 4.41	4.62 4.58	(19.90)	26 35	無	甕１・須恵器甕６・杯２・高杯１・支脚１	45住→47住		Ⅶa
46	A H45	方形	北辺中央	N-11°-E	5.05 4.96	5.30 5.16	25.52	36 46	4	甕２・須恵器甕１・杯７・須恵器杯１・ロクロ土師器杯１・手捏土器１	44住→46住		Ⅶb
47	A H42	方形	北東辺中央	N-32°-E	6.46 6.36	6.68 6.55	(41.86)	41 45	4	甕２・須恵器甕１・杯１・須恵器杯身２・高杯１・須恵器杯蓋２・小形短頸壺１・手捏土器１・支脚３	45住→47住		Ⅶb
48	A H46	方形	北東辺東より	N-58°-E	4.06 3.96	3.88 3.76	(14.45)	35 42	4	甕３・高杯１・小形短頸壺１・支脚１		火災住居	Ⅵb
49	A H44	方形	北西辺中央	N-30°-W	7.10 6.98	6.95 6.81	(46.95)	38 54	3 4	甕３・甑１・杯４・須恵器杯身１・椀１・鉢１・支脚２・叩き石１	50住→49住	火災住居	Ⅶa

住居番号	旧住居番号	平面形	カマド・炉の有無および位置等	主軸方位	規模（m）		床面積（㎡）	深さ（cm）	主柱穴	主な出土遺物	複合関係	備考	時期
					確認面　主軸長×副軸長 床　面　主軸長×副軸長								
50	A H43	方形？	北西辺中央？49住に削平	N-30°-W?	(5.30)	5.40 5.30	(26.00)	27	4	甕３・甑１・杯２・須恵器提瓶１・支脚１・叩き石１	50住→49住	火災住居	ⅥA
51	A H47	隅円方形	北東辺東より	N-53°-E	3.90 3.85	4.14 4.00	15.38	23 37	4	甕３・杯１・高杯２・支脚１・叩き石１		火災住居	ⅤC
52	A H48	方形	北西辺中央	N-26°-W	8.20 8.02	8.04 7.92	63.49	36 54	4	甕11・須恵器甕１・杯７・須恵器杯身４・高杯５・椀１・鉢５・支脚１・石製品１		火災住居	ⅦA
53	A H49	方形	北西辺中央	N-29°-W	5.76 5.32	5.34 5.12	27.10	40 45		甕７・杯８・須恵器杯身１・高杯１・椀１・鉢３・手捏土器１・支脚１・石製品１・刀子１		火災住居 拡張建て替え有り	ⅥB
54	A H50	隅円方形	北辺中央	N-21°-W	4.04 3.96	4.14 4.04	15.57	19 29		甕３・杯３・須恵器杯１・砥石１		火災住居	ⅧCb～ⅨA
55	A H51A	方形	北東辺？溝に削平	N-62°-E?	5.72 5.56	5.70 5.62	(31.18)	31 36	4	甕２・須恵器甕１・甑１・杯１	55住→57住	火災住居の可能性	ⅦB
56	A H51B	長方形	無	N-38°-W? 長軸	(4.12) 3.96	(3.48) 3.34	(12.83)	38	無	甕１・須恵器高台付杯２・須恵器杯１	55住→56住		ⅦA
57	A H52	隅円方形	北辺西より	N-10°-E	2.64 2.54	2.74 2.64	(6.51)	40 47	2 4	甕４・須恵器甕１・甑１・杯１・瓦１・手鎌１	55住→57住		ⅦB
58	A H53	方形	北東辺？59住に削平	N-59°-E	4.85 4.72	4.74 4.62	(21.95)	19 31	3 4	甕１・須恵器甕１	58住→59住		ⅤC?
59	A H54	正方形	北西辺中央	N-49°-W	4.44 4.25	4.42 4.28	17.98	40 53	4	甕２・杯３・須恵器杯１・須恵器長頸壺１・支脚１・石製玉未製品１・石製管玉１	58住→59住		ⅥC～ⅦA
60	A H56	方形	北辺中央	N-５°-E	(3.42) (3.32)	(3.64) 3.45	(11.14)	48 55	4	甕４・須恵器甕１・杯１・高杯１・須恵器提瓶１	61住→60住		ⅦC
61	A H55	方形	北東辺中央	N-60°-E	(4.36) (4.20)	(4.42) (4.28)	(17.32)	46 60	4	甕５・杯２・高杯１・支脚１	61住→60住		ⅥB
62	A H57	正方形	北西辺中央	N-40°-W	5.30 5.18	5.36 5.22	26.84	46 53	4	甕９・須恵器甕４・杯４・高杯１・鉢１・支脚１・石製品１			ⅦC
63	A H58	不整方形（台形）	北辺中央	N-17°-E	2.30 2.15	2.26 2.12	4.53	44 55	無	甕１・台付甕１・杯１・刀子１		火災住居	ⅦC
64	A H59	隅円方形	東辺中央	N-98°-E	2.36 2.28	2.18 2.14	(4.69)	18 28	無	甕３・台付甕２・杯１・須恵器杯１・鉢１・ロクロ土師器杯１・ロクロ土師器高台付坏１・螺旋暗文土器１・灰釉陶器平瓶１・灰釉陶器長頸壺１・刀子１		覆土貝層充満	ⅦC
65	A H60	方形	北西辺中央	N-35°-W	6.46 6.26	6.38 6.24	(38.67)	24 35	4	甕３・杯４・須恵器杯身１・高杯１・鉢１・須恵器ハソウ１・支脚２・石製品３	66住→65住	埋め戻し	ⅥC
66	A H61	方形	北東辺中央	N-47°-E	4.74 4.60	4.60 4.44	20.46	43 56	4	甕16・須恵器甕１・甑２・壺１・杯19・高杯６・須恵器高杯１・椀１・鉢５・坩２・須恵器ハソウ１・手捏土器１・ミニチュア土器２・土玉２・石製勾玉１・砥石１・擦り石１	66住→65住	火災住居 祭祀遺物	ⅤC
67	A H62	方形	北東辺中央	N-53°-E	4.20 4.04	4.28 4.10	16.24	21 33	4	甕４		火災住居	ⅥA
68	A H65	方形	東辺中央	N-72°-E	4.20 4.04	4.04 3.92	(15.94)	45 49	4	甕８・須恵器甕１・杯３・高杯５・鉢１・手捏土器１・支脚１・石製品１	68住→69住→ →70住		ⅥA
69	A H63	方形	北東辺中央	N-45°-E	5.90 5.64	5.86 5.58	31.23	62	4	同　　上	68住→69住→ →70住		ⅦA
70	A H64	隅円方形	北西辺中央	N-55°-W	6.10 5.80	5.70 5.60		39	4	同　　上	68住→69住→ →70住	火災住居	ⅦB
71	A H66	横長方形	北辺中央	N-９°-E	3.09 2.78	4.28 4.00	11.09	50 60	2	甕11・須恵器甕１・壺１・杯２・須恵器高台付杯１・台付椀１・砥石１・石製紡錘車１			ⅦC
72	A H72	台形？	北西辺中央？	N-38°-W	7.15 7.00	(7.50)	(49.00)	25	4	甕１・須恵器甕１・甑１・杯２・手捏土器２・支脚２	72住→73住→ →74住	建て替え有り	ⅦB
73	A H70	方形	北西辺南より	N-39°-W	4.19 4.00	4.14 4.00	16.00	38 44	2 4？	甕１・須恵器甕１・杯３・椀１	72住→73住→ →74住		ⅦC～ⅦA
74	A H71	方形	北辺中央	N-13°-W	4.36 4.26	4.30 4.18	17.60	42 48	4	甕１・須恵器甕１・杯３・須恵器杯１・鉄鏃１	72住→73住→ →74住	火災住居 建て替え有り	ⅦB
75	A H68	方形	東辺南より	N-84°-E	6.38 6.28	6.26 6.14	38.59	46 55	4	甕８・須恵器甕２・甑１・杯２・高杯７・手捏土器１・砥石１・石製紡錘車１・刀子１	75住→76住→ →77住	火災住居	ⅤC
76	A H67	方形	北辺中央	N-６°-E	2.92 2.78	2.74 2.58	7.06	24 28	無	甕２・須恵器甕10・甑２・ロクロ土師器11・須恵器杯２・鉢１・灰釉陶器長頸壺１・灰釉陶器平瓶１・瓦１	75住→76住		ⅨA～B
77	A H69	隅円縦方形	北辺	N-20°-E	(5.40) (5.00)	(4.50) (4.10)		35	4	甕１・須恵器甕10・ロクロ土師器杯３・須恵器杯２・須恵器高台付杯１・須恵器甕片転用硯１・銅製帯金具１・刀子２	75住→78住→ →77住	建て替え	ⅨB
78	A H73	方形	北西辺中央	N-32.5°-W	6.53 6.28	6.90 6.64	41.59	52 58	4	甕４・杯４・高杯５・支脚３・土玉１・敲打石１・叩き石１		建て替え有り 火災住居址	ⅦC
79	A H74	不整方形	北東辺中央	N-65°-E	5.09 4.92	(5.01) 4.86	(23.24)	23 36	4	甕６・甑１・須恵器杯蓋１・杯１・椀１・高杯７・ミニチュア土器１・支脚１・石製紡錘車１・擦り石１	79住→80住→ →81住		ⅤC
80	A H75B	方形	北辺	N-19°-E				36	無	甕５・杯１・須恵器鉢１・須恵器杯１・非ロクロ土師器杯１	79住→80住→ →81住		ⅦCa
81	A H75A	横長方形	北西辺中央	N-15°-E	2.92 2.82	3.62 3.54	9.76	44	2？	同　　上	79住→80住→ →81住		ⅦCb
82	A H76A	方形	北西辺2基	N-26°-W	5.87 5.70	6.03 5.88	32.83	50 70	4	甕２・甑１・鉢２・杯３・線刻土器杯１・須恵器甕片１・ミニチュア土器１・支脚１・砥石１	83住→82住		ⅦC
83	A H76B	方形	北西辺	N-25°-W	6.83 6.61	6.68 6.52	42.12	25 36	0 不明	同　　上	83住→82住		ⅦB
84	A H77	横方形	北辺中央	N-22°-E	3.99 3.88	(4.56) (4.40)	(16.68)	20 30	4	甕１・鉢１・高杯１・支脚１	86住→84住→ →85住	火災住居	ⅦB～C
85	A H78	横長方形	北西辺中央	N-40°-W	3.02 2.96	3.35 3.29	(9.39)	13 35	2？	甕１・高台付杯１	86住→84住→ →85住→87住		ⅦB
86	A H79	方形	北東辺	N-58°-E	7.52 7.40	(7.52) (7.40)	(54.13)	46	4	甕５・杯２・手捏土器１	86住→84住→ →88住→85住	火災住居	ⅤC
87	A H80	方形	北辺？調査区域外	N-８°-E?		(4.71) (4.50)		28 30	2 4？	須恵器蓋１・高杯１	86住→85住→ →87住		ⅦB～C
88	A H81	方形	北西辺中央	N-44°-W	4.33 4.16	4.61 4.42	(18.16)	30 35	4	甕３・杯１・敲打石１	86住→88住→ →89住		ⅦB
89	A H82	方形	北辺中央	N-11°-E	3.89 3.74	4.20 3.96	14.57	35 55	4	甕４・須恵器甕２・須恵器蓋１・須恵器盤１・斜格子暗文土器杯１・杯４	86住→88住→ →89住		ⅦB
90	A H84	方形	北東辺？	N-34°-W		(4.35) (4.20)		14 27	無	無し	90住→91住→ →92住		不明
91	A H83B	方形	北西辺中央	N-30°-W	7.60 7.40	7.61 7.38	54.16	36 44		鉢３・甕１	90住→91住→ →92住	火災住居	ⅥA
92	A H83A	正方形	北西辺中央	N-26°-W	5.28 4.98	5.25 4.98	24.32	81 101	4	甕５・壺１・須恵器杯身１・杯３・支脚１・石製品３・鉄製鎌１	90住→91住→ →92住		ⅥB
93	A H85	正方形	北西辺中央	N-30°-W	5.24 5.06	5.26 5.11	25.43	30 35	8 4	甕９・甑１・杯２・高杯３・椀１・坩１・手捏土器１・叩き石１		拡張建て替え	ⅦB
94	A H86	縦長方形	東辺中央	N-69°-E	6.29 6.05	5.56 5.41	32.59	32 55	4	甕２・須恵器甕１・高杯５・鉢１			ⅤC
95	A H87	方形	北辺中央	N-７°-W	3.31 3.20	3.19 3.08	9.49	25 39	2 無	甕３・甑１・杯３・須恵器杯身１・支脚１			ⅦB
96	A H88	方形	北辺中央	N-10°-W	4.12 3.82	3.90 3.70	14.13	23 54	2？	甕３・甑２・杯１・高杯１			ⅦC
97	A H89	方形	北東辺中央	N-66°-E	(6.04) 5.88	6.04 5.88	34.22	27 58	4	甕３・甑１・須恵器壺１・椀２・鉢２・高杯２・手捏土器１・石製紡錘車１	97住→98住	火災住居	ⅤC
98	A H90	方形	北西辺中央	N-41°-W	4.39 4.10	4.26 4.10	16.59	34 52	4	甕１・杯１・高台付椀１・鉢１・手捏土器１・支脚１			ⅩB
99	A H93	台形	東辺？	N-79°-E	3.36 3.24	3.47 3.38	10.51	8 37	無	甕２・杯５・高杯３・須恵器蓋１・椀１	99住→100住		ⅤB

住居番号	旧住居番号	平面形	カマド・炉の有無および位置等	主軸方位	規模（m） 確認面 主軸長×副軸長	規模（m） 床面 主軸長×副軸長	床面積（㎡）	深さ（cm）	主柱穴	主な出土遺物	複合関係	備考	時期
100	A H94	方形	北西辺中央	N-42°-W	7.21 7.00	7.00 6.88	47.23	19 50	12 6	甕4・甑3・杯5・須恵器杯身1・高杯1・鉢1・須恵器鉢1・手捏土器1・太刀1・鉄鏃1・鉄製釘1			ⅦA
101	A H96	縦長方形	北辺中央	N-13°-E	5.72 5.58	5.32 5.12	28.34	26 36	4	甕1・ロクロ土師器杯1・須恵器高台付杯2・放射状暗文土器杯1・須恵器盤2・盤1・放射状暗文土器盤1・鉢1・須恵器大甕1・コップ1・土錘1			ⅧBa
102	A H95	方形	東辺中央	N-73°-E	5.21 4.92	5.18 4.98	26.64	24 61	4	甕3・須恵器甕1・壺1・杯1・高杯2・椀1		建て替え有り	ⅤC
103	A H91	方形	北辺中央	N-8°-W	5.30 5.12	5.44 5.24	(26.37)	33 48	4	須恵器甕1・杯2	103住→104住		ⅦA
104	A H92	縦長方形	北辺中央	N-1°-W	(2.88) (2.74)	(3.55) (3.40)	(8.96)	18	1 無	須恵器高台付杯1・須恵器コップ1	103住→104住		ⅧB
105	A H97	方形	北西辺中央	N-32°-W	6.58 6.44	6.41 6.25	(39.76)	28 36	4	甕2・杯2	103住→105住→ →106住	建て替え有り	ⅧB
106	A H98A	不整方形	北辺中央	N-13°-E	4.56 4.42	5.08 4.96	(21.86)	45	4	甕2・鉢1・杯1・須恵器杯1・高杯1・須恵器皿1・手捏土器1	107住→105住→ →106住		ⅧB
107	A H98B	楕円形			4.2以上			33		同　　上			弥生後期
108	A H104	方形	北辺中央	N-26°-W	6.42 6.28	6.46 6.14	(38.26)	35 67	4	甕9・甑4・杯4・支脚2・擦り石1		火災住居	ⅦA
109	A H99	横方形？	東辺南より	N-61°-E	(4.48) 4.32	(4.56) (4.36)	(18.70)	22 44	4？	甕7・甑1・杯1・高杯8・支脚1・叩き石1	109住→110住	カマド右貯蔵穴	ⅤCa
110	A H100	方形	北辺中央	N-21°-W	4.00 3.76	4.05 3.82	13.94	46 64	0 無？	甕7・須恵器甕片1・杯5・高杯2・手捏土器1・支脚2			ⅦA
111	A H102	方形	北辺中央	N-24°-W	4.12 3.86	4.20 3.97	15.10	30 50	0 無	甕2・須恵器高台付杯1			ⅧAa
112	A H101	方形	北辺中央	N-18°-W	4.05 3.89	3.92 3.78	14.27	25 29	0 無	須恵器鉢1・支脚1・刀子1		北西隅ピット	ⅧB
113	A H110	正方形	西辺	N-85°-E	7.07 6.98	7.05 6.92	47.74	71	4	甕29・須恵器甕5・甑5・壺3・須恵器壺1・杯16・高杯17・須恵器高杯1・椀5・鉢7・短頸壺1・須恵器杯蓋4・須恵器杯身2・須恵器ハソウ2・支脚2・土玉2・砥石1・擦り石1・滑石製玉2・敲打石2・鉄製釘2		南東隅ピット	ⅤC
114	A H103	正方形	北辺中央	N-13°-W	5.90 5.62	5.86 5.71	31.21	27 57	4	甕3・鉢2・杯10・手捏土器2・ミニチュア土器3・支脚1・叩き石1		カマド左貯蔵穴	ⅥC～ⅦA
115	A H105	不整方形	無	N-38°-E （長軸）	3.08 3.02	2.96 2.92	8.63	3 18	0 無	甕3・甑1・杯3・鉢1・高杯2・叩き石1			ⅤC
116	A H106	正方形	北東辺	N-39°-E	4.18 4.02	4.22 4.02	15.98	20 55	0 無	甕3・高杯1・土玉2・擦り石1			ⅥA
117	A H107	長方形	北辺・東辺 2カ所	N-20°-E?	3.78 3.52	3.12 2.84	9.65	26 68	0 無	甕1・須恵器甕1・甑2・須恵器高盤2・ロクロ土師器杯1・須恵器杯1・鉢1・土玉1		覆土中に貝層有り	ⅦC
118	A H138	方形	北西辺中央	N-49°-W	6.04 5.78	5.87 5.76	33.49	17 51	4	支脚1		カマド右にピット東辺壁削平。火災住居跡	ⅥA?
119	A H108	方形	北西辺中央	N-58°-W	3.94 3.78	4.38 4.16	15.63	18 58	4	甕3・杯4・ロクロ土師器杯1・鉢1・支脚1		火災住居跡	ⅦA
120	A H109	方形	北辺	N-26°-E	4.62 4.46	4.32 4.20	18.38	6 58	4	杯2・須恵器杯身1・支脚1・叩き石1・不明鉄製品1	121住→120住		ⅦB
121	A H111	方形	北西辺中央	N-43°-W	(5.09) 4.90	(5.06) 4.86	(23.90)	14 56	4	甕4・鉢2・杯3・土玉1	121住→120住		ⅥC～ⅦA
122	A H112	方形	北東辺中央	N-38°-E	(4.02) 3.88	4.08 3.96	(15.22)	22 27	4	甕10・甑1・鉢1・杯2・椀2・高杯3・短頸壺1・須恵器ハソウ1・ミニチュア土器2・支脚1・土玉2	123住→122住		ⅤCa
123	A H113	方形 張り出し付き	北西辺中央	N-54°-W	8.10 7.84	8.54 8.26	63.50	27 52	4＋1 4	甕2・鉢2・杯3・須恵器杯身1・須恵器蓋1・椀2・高杯3・手捏土器1・土玉1	123住→122住	南東辺中央張り出し付き 火災住居跡	ⅥC～ⅦA
124	A H114	方形	西辺中央	N-74°-W	6.83 6.58	7.12 6.86	44.32	37 53	4	甕4・甑1・鉢3・杯1・須恵器杯身1・支脚1			ⅥB
125	A H115	正方形	西辺中央	N-32°-E	7.26 7.02	7.25 7.08	48.38	29 62	4	甕2・杯3・須恵器ハソウ1・鉢1・高杯1・ミニチュア土器1			ⅥC～ⅦA
126	A H118	方形？	北西辺中央	N-46°-W		(5.26) 5.02	(26.44)	18 34	4	甕8・須恵器甕3・甑3・杯2・須恵器杯身1・須恵器線刻土器杯蓋1・鉢1・椀1・須恵器長頸壺1・高杯3・支脚3・磨石1	126住→127住		ⅥC～ⅦA
127	A H119	方形	北辺中央	N-8°-W	5.76 5.62	5.88 5.84	(32.68)	4 39	4	同　　上	126住→127住		ⅦC
128	A H117	方形	北辺中央	N-2°-E	3.23 3.04	3.58 3.41	10.43	43	4	甕5・須恵器甕1・鉢1・杯1・須恵器杯1・椀1・刀子1	128住→129住		ⅦC
129	A H116	方形	北西辺中央	N-32°-W	7.40 7.25	7.24 7.06	50.62	30 42	4	甕1・須恵器甕片2・杯2・須恵器鉢1・支脚2	128住→129住	火災住居跡	ⅦC
130	A H120	方形	北辺中央	N-1°-W	3.92 3.78	4.08 3.94	14.64	19 33	4	甕1・甑1・杯3・鉢3・支脚1	無	カマド左側に貯蔵穴	ⅥC
131	A H122	方形	北東辺中央	N-54°-E	6.58 6.41	6.56 6.31	40.80	36 50	4	甕3・・高杯4・砥石2	無	建て替え有り。西隅に貯蔵穴	ⅤC
132	A H121	方形	北辺中央	N-13°-E	3.83 3.62	3.98 3.84	13.49	33 42	4	甕2・須恵器甕2・杯2・須恵器高台付杯1・砥石1・石製紡錘車1・鉄製手鎌1	無		ⅧB
133	A H126	方形	北辺中央	N-10°-W	2.58 2.38	2.93 2.76	6.46	19 32	0 無？	甕1・杯2・ロクロ土師器杯1・須恵器杯1	134住→133住		ⅨA
134	A H125	方形	北辺中央	N-26°-W		6.22 6.08		32	4	甕2・杯4・短頸壺1	134住→135住→ →133住	建て替えの可能性有り 火災住居	ⅥC～ⅦA
135	A H124A	方形	北辺中央	N-36°-W	6.28 6.14	6.21 6.10	(37.97)	22 34	4	甕7・杯1・ロクロ土師器杯1・鉢1・高杯2・土玉1	134住→135住→ →136住	建て替え有り 火災住居	ⅦB
136	A H124B	方形？	不明			(4.00)		30	0 無？	同　　上	135住→136住→ →137住		不明
137	A H137B	横方形	北辺東より	N-2°-E	(3.50) (3.32)	(2.61) (2.42)	(7.72)	31	0 無	甕1・瓦2	138住→137住		ⅦC?
138	A H137A	方形	北辺中央	N-30°-W	6.24 6.10	(6.22) 6.06	(36.83)	20 39	4	甕3・杯3・支脚1・土玉1	138住→137住	建て替え有り火災住居	ⅥC
139	A H123A	方形	北辺中央	N-17°-E	3.73 3.54	(3.84) 3.65	(12.93)	29 42	4	甕1・須恵器甕片転用硯1・杯4・支脚1・瓦1・鉄製紡錘車1	140住→139住	建て替え有り火災住居	ⅦC
140	A H123B	隅円方形	北辺	N-30°-W	(5.15) (4.50)	4.84 4.56	(20.50)	37 54	4	甕8・須恵器甕1・須恵器蓋1・須恵器身1・杯1・支脚1	140住→139住		ⅥA
141	A H128A	方形	北西辺？	N-38°-W	3.72 3.58	3.50 3.34	(11.59)	23 40	4	甕1・杯1・鉢1・瓦3	142住→141住	火災住居	ⅦB?
142	A H128B	方形？	不明		(3.80)			20	2 4？	同　　上	142住→141住		ⅥC～ⅦA
143	B H86	方形	北東辺中央	N-32°-E	4.75 4.50	4.92 4.62	(20.76)	31 43	3 4	甕8・甑1・高杯2・鉢1・支脚1・磨石1	143住→146住	北隅ピット	ⅤC
144	B H89	方形	北西辺中央	N-35°-W	6.12 5.90	6.07 5.80	(34.14)	29 42	3 4	甕1・杯18・椀2・鉢2・支脚1	144住→146住		ⅦA
145	B H88	方形	北西辺中央	N-48°-W	(5.30) (5.00)	5.21 4.92	(24.44)	27 39	4	甕1・須恵器甕1・甑3・杯2・鉢1	145住→146住		ⅥC
146	B H87	縦方形	北西辺中央	N-29°-W	5.26 5.00	4.70 4.48	21.95	50 56	4	甕2・杯3・須恵器杯身1・高杯2・椀1・支脚2	145住→146住		ⅦB
147	B H85	方形	北辺中央	N-29°-W	5.00 4.76	5.27 5.0	24.05	30 50	4	甕5・杯7・鉢1・手捏土器1	無	カマド右側に貯蔵穴	ⅥB
148	B H90A	方形	東辺南より	N-77°-E	6.42 6.28	6.26 6.10	38.41	27 40	6 4	甕7・杯1・高杯5・支脚2・手捏土器1・土玉1・須恵器甕片1	148住→149住	建て替え有り	ⅤC

住居番号	旧住居番号	平面形	カマド・炉の有無および位置等	主軸方位	規模（m） 確認面 主軸長×副軸長	規模（m） 床面 主軸長×副軸長	床面積（㎡）	深さ（cm）	主柱穴	主な出土遺物	複合関係	備考	時期
149	B H90B	方形？	北辺	N-32°-W	(3.00) (2.85)	(3.25) (3.08)	(8.58)	35	0 無	同上	148住→149住	火災住居	不明
150	A H136	不整方形	北辺東より	N-29°-W	5.88 5.78	5.94 5.85	32.76	8 16	4	甕７・杯３・椀１・土製勾玉１	無	火災住居	ⅥA
151	B H84	楕円形	北側床面 炉跡	N-23°-W	(4.72) (4.18)	4.53 4.15	(14.92)	70 83	0 無？	壺１	無		弥生後期
152	B H73	楕円形	北側床面 炉跡	N-25°-W	(5.25) (5.05)	(4.91) (4.70)	(20.97)	16 22	2 4	甕６・壺４・砥石１	152住→155住		弥生後期
153	B H81	円形	不明	N-55°-W 長軸	(2.55) (2.35)		(4.90)	44	0 無？	無し	153住→156住		弥生後期
154	B H79	不明	北側床面 炉跡			(3.80)		20	無？	鉢１・壺３			弥生後期
155	B H74	方形	不明 東辺？	N-58°-E	7.64 7.40	7.57 7.36	54.68	43	4	甕４・須恵器甕片２・杯２・高杯４・須恵器ハソウ１・中世陶器甕片４・ミニチュア土器１	152住→155住→→156住		ⅤC
156	B H75	方形	北西辺中央	N-55°-W	5.30 5.02	5.30 5.15	25.79	51 66	4	甕２・杯３・支脚１	155住→156住	建て替え有り カマド右側貯蔵穴	ⅧA
157	B H80	方形	北辺	N-28°-W	6.20 6.06	6.20 6.02	36.98	21 34	4	甕５・鉢１・杯１・高杯２・叩き石１	157住→158住	北東隅貯蔵穴	ⅤC
158	B H82	縦長方形	北辺	N-７°-E	3.60 3.54	3.13 3.05	10.69	41 42	0 無	甕２・台付甕２・須恵器杯蓋１・杯１・斜格子-螺旋暗文土器杯１・須恵器高台付杯１・須恵器線刻土器杯１・瓦２	157住→158住		ⅧC
159	B H83	不整方形	北辺東より	N-１°-W	2.82 2.70	2.92 2.88	7.42	26 35	0 無	須恵器盤１・ロクロ土師器杯１・瓦２・刀子１・鉄製釘１			ⅧC～ⅨA
160	B H76	楕円形	北側床面 炉跡	N-48°-W	6.19 6.00	(5.38) (5.15)	(26.49)	32	3 4	甕片４・壺５・鉢２	160住→162住		弥生後期末
161	B H78	縦長方形	東辺南より	N-78°-E	8.14 7.90	6.22 5.93	46.77	41 58	4	甕６・壺２・須恵器蓋１・杯１・椀１・台付異形土器１・坩１・高杯７・土玉１・石製紡錘車１	161住→162住	南隅貯蔵穴	ⅤC
162	B H77	横長方形	北辺中央	N-６°-E	(4.42) (4.12)	5.08 4.95	(20.03)	46 56	4	甕３・須恵器蓋１・杯２・瓦１	161住→162住	建て替えの可能性有り	ⅧC
163	A H127	方形	北辺中央	N-20°-E	3.78 3.54	3.78 3.54	12.48	42	4	甕３・杯１・支脚２	161住→163住	建て替え有り	ⅧB
164	A H134	不整方形	北東辺南より	N-43°-E	(6.20) (6.04)	(6.46) (6.32)	(37.84)	13 22	2 不明	甕３・甑１・杯４・椀１・短頸壺２・高杯２	164住→165住	東隅に貯蔵穴有り	ⅤCa
165	A H133	方形	西辺中央	N-68°-W	5.12 4.96	5.46 5.32	25.84	40 49	4	甕６・甑２・鉢５・短頸壺１・杯８・高杯４・手捏土器３・支脚１	164住→165住	カマド右側に貯蔵穴	ⅥC
166	A H129	隅円方形	不明					23	0 不明	甕１・台付甕１・鉢１・杯１・高杯２・磨石１			ⅤC
167	A H132	楕円形	北側床面 炉跡	N-48°-W	5.65 5.58	4.93 4.84	22.82	45 60	4	甕４・鉢１・壺２		建て替えの可能性有り 火災住居	弥生後期
168	A H135	方形	東辺南より	N-85°-E	3.72 3.62	3.58 3.50	12.41	8 17	4	甕11・甑１・須恵器杯身１・杯２・高杯１	無	北東隅貯蔵穴	ⅤC
169	A H130	方形	東辺中央	N-100°-E	(4.40)		(18.00)	49	4	甕７・甑２・杯２・椀１・高杯16	169住→170住	カマド右側に貯蔵穴	ⅤC
170	A H131	方形	西辺中央	N-26°-E	(5.35) (5.22)	(5.55) (5.40)	(27.85)	30 38	3 4	甕５・杯４・高杯２・手捏土器１・支脚１・土玉２	169住→171住→→170住		ⅥC
171	B H59	方形	北西辺中央	N-26°-W	(4.92) (4.65)	(5.48) (5.25)	(25.40)	33 46	2 4	甕２・鉢１	171住→170住		ⅥA
172	B H63	不整円形	北東側床面 炉跡	N-37°-W	4.20 4.05	(3.80) (3.57)	(12.77)	38 52	0 無	壺１・鉢１			弥生後期
173	B H64	楕円形	北東側床面 炉跡	N-50°-W				27	2 4	壺３			弥生後期
174	B H65A	方形	北西辺中央	N-42°-W	(5.46) (5.25)	(5.70) (5.50)	(29.02)	16 32	4	甕６・甑２・杯７・鉢１・高杯１・支脚１・石製紡錘車１	174住→175住		ⅥC
175	B H65B	縦長方形	西辺中央？	N-67°-W	(4.18) (4.05)	(3.42) (3.30)	(12.30)	35	0 無	甕２・杯２・斜格子暗文土器杯１	174住→175住		ⅧB
176	B H68	楕円形	北側床面 炉跡	N-30°-W	5.15 4.90	(4.61) (4.35)	(18.85)	18 33	4	壺４			弥生後期
177	B H67	方形	不明 北東辺？	N-46°-W	4.20 4.05	(4.12) (3.98)	(15.98)	22 36	4	甕３・壺１・杯１・高杯10・須恵器ハソウ１・土玉３	177住→178住	南隅に貯蔵穴	ⅤC
178	B H66	横長方形	北辺中央	N-25°-E	(2.70) (2.55)	(3.31) (3.05)	(7.79)	27 33	0 無	甕２・杯１・高杯２	177住→178住		ⅥA
179	B H58	楕円形？	不明	(N-40°-W)		(3.80) (3.60)		19 24	0 無	無し			弥生後期
180	B H57	縦長方形	北東辺中央	N-51°-E	5.48 5.27	4.46 4.22	21.79	29 41	4	甕２・甑１・短頸壺１・椀２・高杯９・土玉２		火災住居	ⅤC
181	B H51	方形	北辺中央	N-17°-W	6.68 6.48	6.36 6.26	40.08	32 52	4	甕１・杯５・高杯１・鉢１・支脚２・手捏土器１・土玉１		火災住居 建て替え有り	ⅥC?
182	B H56A	不整円形	不明	N-40°-W?				6 16	3 不明	甕２・壺片３・鉢１			弥生後期
183	B H52	楕円形	北西側床面 炉跡	N-40°-W	4.95 4.70	4.28 3.95	15.79	42 51	1 無	鉢１・高杯１	183・184		弥生後期
184	B H53	不整楕円	北側床面 炉跡	N-20°-W	3.41 3.26	(2.98) (2.80)	(8.38)	15	0 無	壺１・台付甕１	183・184・185		弥生後期末
185	B H54	不整円形	不明	N-60°-E	4.43 (4.30)	(4.23) (4.10)	(15.46)	8 18	1	鉢１・高杯２	183・184・185		弥生時代
186	B H55B	円形？	西側床面 炉跡					23 28		炉器台１	186→187住		弥生後期末
187	B H55A	方形？	北西辺中央	N-33°-W	(3.04) (2.90)	3.15 3.00	(8.63)	47 55	0 無	甕３・杯２			ⅧB
188	B H８	楕円形？	不明					12 17	2 無	鉢２			弥生後期
189	B H７	方形	東辺？ 複合削平	N-70°-E	4.82 4.64	(4.81) (4.75)	(22.05)	28 33	4	甕３・鉢１・高杯８・椀１・ミニチュア土器２・土製丸玉２	189住→190住		ⅤC
190	B H６	（方形）	不明 調査区域外	N-48°-W?	(6.00)		(36.00)	34 56	2 4	杯５・須恵器杯身１	189住→190住	火災住居	ⅥC
191	B H27	楕円形？	北側床面 炉跡	北方位				12	不明	蓋１・台付鉢１			弥生中期
192	B H28A	方形	北・西辺 2カ所	N-11°-W	6.46 6.30	6.20 6.10	38.40	14 26	4	甕５・甑１・杯４・須恵器杯身１・鉢２・かわらけ１・支脚１・鉄製釘１	192住→193住	建て替え可能性有り	ⅥA
193	B H28B	方形	不明 調査区域外	N-41°-W		4.60 4.38		35 50	2 4	杯３・鉢１・発泡土器甕１	192住→193住		ⅧB
194	B H29	楕円形	北西側床面 炉跡	N-48°-W	(4.21) (4.00)	(3.90) (3.72)	(12.43)	6 23	2 4	甕２・壺５			弥生後期
195	B H32	楕円形	北西側床面 炉跡	N-31°-W	(6.06) (5.80)	4.76 4.60	(21.95)	19 28	4	甕７・壺５・台付鉢片３		火災住居	弥生中期
196	B H31	不整方形	北辺	N-14°-W	(3.49) (3.30)	(3.60) (3.55)	(11.41)	12 21	1 無	甕１・杯２			ⅥC
197	B H30	方形	北辺中央	N-５°-W	4.79 4.65	4.81 4.66	21.73	25 38	4	甕１・須恵器甕１・杯１・石製紡錘車１・土製丸玉１		火災住居跡可能性有り	ⅧB
198	B H33	方形	不明	N-109°-W	4.48 4.25	(4.32) (4.20)	(17.92)	29	4	杯１・須恵器コップ１			ⅧB
199	B H34	方形？	不明					28	4	甕１・須恵器甕１・高杯２			ⅤB?
200	B H35	不整方形	北辺中央	N-17°-E	4.60 4.38	4.64 4.50	(19.61)	8 17	4	壺１・須恵器高杯形器台１・杯１・椀１	200住→201住		ⅤC

住居番号	旧住居番号	平面形	カマド・炉の有無および位置等	主軸方位	規模（m） 確認面 主軸長×副軸長 / 床面 主軸長×副軸長	床面積（㎡）	深さ（cm）	主柱穴	主な出土遺物	複合関係	備考	時期
201	B H36	方形	北西辺中央	N-54°-W	5.72 × 5.61 5.55 × 5.44	30.11	9 38		甕１・杯３・鉢１	200住→201住		ⅥC
202	B H37	（方形）	不明	N-80°-E?			30		高杯４			ⅤC
203	B H25	楕円形	北側床面炉跡	北方位	(4.00)		13 23	無	無し			弥生後期
204	B H26	方形	北西辺西より	N-39°-W?	5.40 × 5.60 5.27 × 5.30	(27.82)	31 36	4	甕５・鉢１・甑１・鉢２・椀１・鉄製釘１			ⅥC～ⅦA
205	B H72	正方形	北辺中央	N-23°-W	5.00 × 5.00 4.82 × 4.80	23.02	37 46	4	甕６・甑１・杯13・高杯２・手捏土器２・土鈴１・土玉１・土製品垂飾１			ⅥC～ⅦA
206	B H71	不整楕円	北側床面炉跡	N-92°-W	(5.78) × (4.50) (5.45) × (4.25)	(20.34)	10 21	2 不明	甕１・鉢10			弥生中期
207	B H70	方形	東辺南より	N-56°-E	4.10 × 4.13 3.78 × 4.00	14.82	38 47	4	甕３・甑１・須恵器蓋１・高杯６・手捏土器３・土玉２			ⅤC
208	B H39	正方形	北東辺南より	N-51°-E	7.28 × (7.30) 7.10 × (7.10)	(50.35)	16 20	3 4	甕３・短頸壺１・杯２・鉢１・坩１・高杯４・支脚２・土玉１		火災住居跡可能性有り	ⅤC
209	B H69	楕円形	北側床面炉跡	N-25°-W	(6.73) × 5.71 (6.40) × 5.43	(28.95)	35 77	5 4？	甕２・鉢６・壺１		火災住居跡	弥生後期
210	B H61	不整円形	床面中央炉跡	N-26°-W	(2.76) × 3.05 (2.56) × 2.85	(6.02)	25 31	無？	須恵器短頸壺１・中世陶器甕片１・須恵器杯身１・甕１・瓦１			弥生後期
211	B H62	方形	北西辺	N-50°-W	4.66 × 4.63 4.20 × 4.38	18.27	44 60	4	甕２・杯１・鉢１・須恵器高杯１・土玉１			ⅥA
212	B H48	楕円形	炉跡不明	N-60°-W	5.30 5.10		11 25	3 不明	鉢４・中世陶器甕片１			弥生中期
213	B H49	方形	北東辺南より	N-50°-E	7.00 × 7.07 6.82 × 6.88	46.02	42 54	4	甕４・鉢１・杯２・椀１・高杯３・坩３・土製有孔円盤１・土玉１			ⅤC
214	B H46	方形	東辺南より	N-54°-E	6.33 × 6.32 6.04 × 6.00	37.17	32 41	4	甕６・胴部穿孔土器甕１・甑２・杯１・須恵器杯蓋１・高杯10・坩１・鉢１・中世陶器甕片１・支脚１		火災住居	ⅤC
215	B H10A	円形	北側床面と床面中央に炉跡	N-25°-W	4.04 × 3.98 3.80 × 3.62	11.59	32	無	壺１・鉢１・土玉１・磨石１			弥生後期
216	B H10B	（方形）？	不明		(4.65)		24 29	不明	甕６・鉢１・杯１・高杯２	216住→217住		ⅤB
217	B H10C	（方形）	不明	N-0°	3.45 3.30		28 34	無？	須恵器杯２・支脚１	216住→217住		ⅧC
218	B H９	方形	西辺南より	N-106°-W	4.16 × 3.94 4.05 × 3.84	15.26	21 27	4	甕３・椀１			ⅥA?
219	B H23B	楕円形	炉跡不明	N-30°-W	(3.40)		32 38	不明	甕１・鉢１			弥生中期？
220	B H23A	横長方形	北辺	N-12°-W	3.31 × 3.92 3.15 × 3.70	11.25	31	3 2	甕３・須恵器甕１・鉢１・非ロクロ土師器杯１			ⅧC
221	B H24A	縦長方形	北辺	N-27°-W	6.21 × 5.88 5.92 × 5.63	(32.74)	39 51	3 4	杯１・支脚２		建て替え 火災住居	ⅥC
222	B H24B	方形？	北辺	N-2°-E	(3.32) × (3.55)	(10.64)	41	無？	甕１・須恵器甕１・非ロクロ土師器杯４・刀子２			ⅧC
223	B H38	方形 張り出し付き	北西辺	N-45°-W	5.96 × 5.72 5.82 × 5.60	32.52	11 42	4	甕10・甑１・杯４・鉢１		火災住居 張り出し付き	ⅥB
224	B H22	不整円形	北側床面炉跡	N-21°-W	3.58 × 3.40 3.45 × 3.23	8.99	8 13	無	甕３・甑１・須恵器杯１			弥生後期
225	B H47	横長方形	北辺西より	N-2°-W	3.01 × 4.06 2.90 × 3.88	10.62	13 26	無	甕３・須恵器甕１・須恵器杯蓋１・非ロクロ土師器杯２・高杯１・砥石１・鉄製楔１・鉄製紡錘車１			ⅧC
226	B H14	楕円形	北西側床面炉跡	N-43°-W	(5.32) (5.05)		27	2 4	甕１		火災住居	弥生後期
227	B H20	楕円形？	不明				22 31	1 不明	須恵器甕１、須恵器杯２・非ロクロ土師器杯１			弥生時代？
228	B H15	方形	北西辺	N-40°-W	6.35 × (6.40) 6.16 × (6.25)	(38.44)	49 62	4	甕１・杯１・須恵器高杯１・鉢１	228住→229住→→230住		ⅥC?
229	B H16	方形		N-20°-W	(6.22) × (6.35) (6.07) × (6.25)	(36.99)	45	4	甕６、須恵器杯身１・土製管状土錘１			ⅥC～ⅦA
230	B H17	方形	北辺東より	N-18°-W	(3.35) × 3.61 (3.20) × 3.40	(11.09)	24 33	無	甕２・須恵器甕１・杯１・須恵器杯１・瓦１			ⅧC
231	B H19	隅円方形	北辺中央	N-2°-E	4.11 × (4.40) 3.73 × (4.20)	(15.32)	40 50	4	甕２・須恵器高台付杯１、須恵器杯２・杯１・かわらけ１		建て替え	ⅨA
232	B H13	円形？	炉跡不明	N-29°-W	(5.40)		30 36	2？	無し			弥生後期
233	B H12	方形	西辺	N-67°-E	6.03 × 6.15 5.85 × 5.97	(34.82)	40	4	甕３・高杯４・坩１・鉢１・土玉１			ⅤC
234	B H11	横長方形	北辺	N-1°-E	3.32 × (3.98) 3.00 × (3.80)	(11.44)	49	無	甕１・須恵器甕片転用硯１・須恵器高台付杯１・杯１・瓦１・不明鉄製品１			ⅧCa
235	B H21	隅円方形	北辺	N-29°-W	7.40 × 7.00 7.05 × 6.70	(46.90)	63 73	4	杯３・椀２・高杯２・支脚１		建て替え可能性有り	ⅧB
236	B H44	不整円形	炉跡不明				8	不明	杯２			弥生後期？
237	B H42	方形	北西辺？	N-33°-W	(6.65) × (6.80) (6.60) × (6.65)	(43.33)	55	4	甕１・杯３・高杯１			ⅦA
238	B H43	（方形）	北西辺	N-31°-W	7.75 7.45	(55.00)	50	2 4	甕４・甑１・須恵器甕片転用硯１・杯１・かわらけ１・手捏土器１・瓦１・砥石１			ⅧC
239	B H45	（方形）	炉跡３カ所？	N-4°-E?	(4.00)		8 15		甕２・杯２・高杯１	239住→241住		ⅤBa
240	B H40	方形	北辺中央	N-33°-W	5.28 × 5.10 5.10 × 5.00	(26.23)	24 43	4	甕１・須恵器杯身１・杯４・斜格子暗文土器杯１・鉢２・土製玉１・鉄製鎌１・刀子２	240住→241住		ⅥC
241	B H41	不整方形	北辺中央	N-1°-W	4.52 × (4.40) 4.24 × (4.30)	(17.25)	22 40	4	鉢１・杯１・鉄製釘１	240住→241住		ⅧB?
242		方形？	北辺	N-12°-E	(3.00) × (3.05)	(9.09)	40	無？	無し	237住→238住→→242住		ⅧB～C?
243	B H18	方形	北辺中央	N-28°-W	(9.10) (8.85)	(78.00)	20	2 4	甕３・須恵器甕片４・須恵器杯蓋２・須恵器線刻土器杯身２・杯１・須恵器杯７・須恵器高台付杯２・須恵器高盤１・高杯１・須恵器双耳瓶１・かわらけ１・ミニチュア土器１・支脚１・鉄製紡錘車１		火災住居	ⅦA
244	B H50	楕円形？	炉跡不明		7.70 （長軸）		28 36	不明	須恵器甕１・瓦１			弥生後期？
245	B H４	方形	北西辺中央	N-31°-W	6.55 × 6.65 6.37 × 6.45	40.85	37 58	4	甕９・甑１・須恵器蓋１・杯10・高杯１・ミニチュア土器１・支脚３・土玉１・石鏃１		火災住居	ⅥC～ⅦA
246	B H５	（方形）	不明	N-57°-E	4.20 4.03		31 40		杯２・高杯１・手捏土器１			ⅤBa
247	落込２	不整形	北側床面炉跡	N-20°-E?	3.7	3.9	15 26		土器片			縄文前期

＊主軸方位は磁北。規模の確認面は上場、床面は下場。床面積は下場を計測。（ ）内数値は推定値。深さは上段に最小値、下段最大値。

１・２の甕Ｃは、胴部が僅かに球胴気味で旧形態を留める。小形高杯では、６・７の杯部下端に稜を有する物が認められる。杯類は、極小化し、半円状（24・22）から半円球状（17・18）が数量を増す。

竪穴住居跡の面積は、最大で49.0㎡が存在し、以下40㎡以上３軒・30㎡以上４軒・20㎡以上４軒・20㎡以下４軒である。カマド位置は、北～東４軒、北～西15軒である。

Ⅶ期Ｃ～Ⅷ期Ａ　７世紀後葉～８世紀の前葉に当り、14軒の住居跡を検出した。前段階までの期間を考慮すると半減以下となり、遺構・遺物とも激減する。

甕は、甕Ｃの口径に最大径を有するものが主流となる。高杯は前段階の極小化した物が引き続き認められる。杯類は、半円球状（11・12）と平底の杯（13・14）が認められる。また、畿内産の暗文を施した盤（20）が存在する。

竪穴住居跡の面積は、最大で50.26㎡が存在し、以下40㎡以上２軒・30㎡以上２軒・20㎡以上２軒・20㎡以下６軒である。これ以後、竪穴住居跡規模が縮小傾向を辿る。カマド位置は、北西に北寄りに位置する傾向が強い。

Ⅷ期Ｂ　８世紀中葉に当たる時期で、19軒の住居跡を検出し密度が倍増する。また、住居跡は２軒乃至１軒単独で検出される傾向を示す。

甕Ｃは肉薄で最大径を口径に有する。杯は10～14の扁平な非ロクロ土師器杯を主体に斜格子の暗文が存在する。畿内産の18・19の暗文土器や20の丸底甕が認められる。８は、箱形のロクロ土師器であろう。11と20は23住の共伴遺物である。

竪穴住居跡の面積は、最大で28.34㎡が存在し、以下20㎡以上３軒・10㎡以上10・10㎡以下４軒である。カマド位置は、時期が明確で無い２軒が西側で他は北を中心に位置する。

Ⅷ期Ｃ　８世紀後葉に当たる時期で、18軒の住居跡を検出し、前段階の集落規模および住居跡密度をほぼ踏襲する。

甕Ｃには、１・２の外面横位のそぎ取る様な篦ケズリを施した器肉の極薄が認められる。また、新たに５の台付甕が認められる。杯類は、前段階の非ロクロ土師器杯を踏襲するが、体部立ち上がり角度が強く箱形を呈し、器高が増す傾向を示す。須恵器杯では千葉市域産14の須恵器杯が認められる。ロクロ土師器杯では、須恵器を模倣した15・16が僅かに存在する。28～30は三段構成の長頸壺で、29・30は素地が灰白で施釉は不明と言わざるを得ないが、口頸部から胴上半に釉を厚く被る。

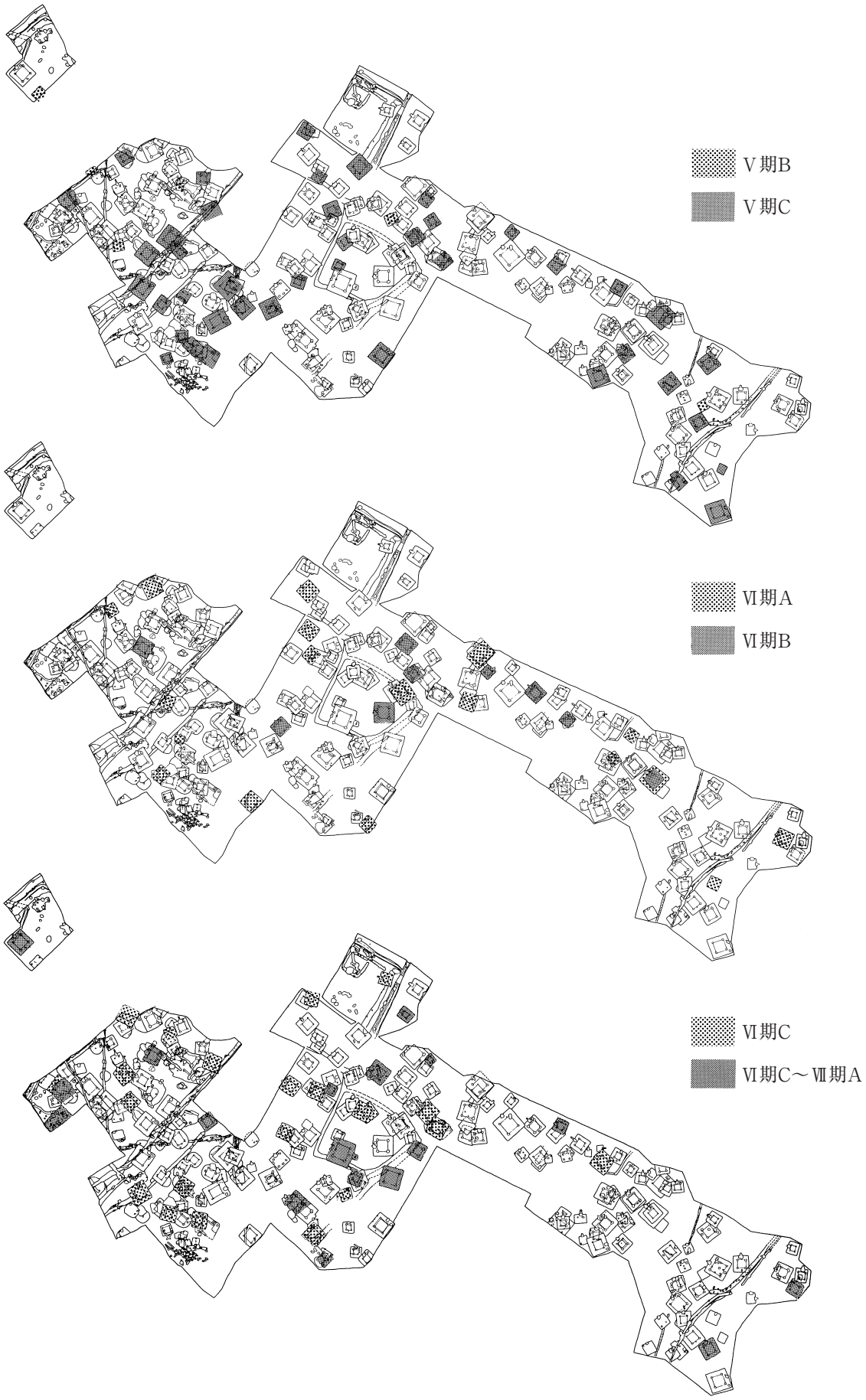
本期の特質する遺構に１号方形区画遺構が存在し、遺構内の井戸状遺構からは須恵器や原始灰釉とも言える長頸壺等を多量に検出し、祭祀供膳具が一括廃棄されたものと推定される。土器には、やや時間差が読み取れ、須恵器高台付杯・無台の平瓶・高盤は古相で非ロクロ土師器杯や長頸壺が新相を呈している。この種の祭祀供膳具のまとまった出土例は無く、原始灰釉の長頸壺が共伴する事に注視したい。当地域の資料を元にした原始灰釉陶器の編年では、坂野和信氏論文（文献４）があり、此れによると、28～30の長頸壺は次の段階のⅧ期Ｃ～Ⅸ期Ａに挙げなければならないが、共伴する須恵器類の中には前段階のⅧ期Ｂの物も含まれ、共伴遺物に四半世紀以上の差が見られ矛盾点が生じ、使用期間と廃棄の仕方が問題となるが記録が無く今後検討が必要であろう。

竪穴住居跡の面積は、最大で20.03㎡が存在し、以下10㎡以上10軒・10㎡以下４軒である。

Ⅷ期Ｃ～Ⅸ期Ａ　８世紀末～９世紀前葉に当たる時期で、７軒の住居跡を検出するが新旧関係が存

第２表　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点検出遺構時期別一覧表

時期					検出遺構	
縄文	前期				247住	
弥生時代	中期				191・195・206・212・219住	
	後期				107・151～154・160・167・172・173・176・179・182～186・188・194・203・209・210・215・224・226・227・232・236・244住	
						年　代
古墳時代	出現期					
	前　期	Ⅳ				
	中　期	Ⅴ	A			
			B	ON−46	26・99・199・216・239・246住	460
				TK−208		
			C	TK−23	5・8・10・15・22・30・32・34・38・51・58・66・75・79・86・94・97・102・109・113・115・122・131・143・148・155・157・161・164・166・168・169・177・180・189・200・202・207・208・213・214・233住	
				TK−47		
	後　期	Ⅵ	A	TK−47末 MT−15	6・19・20・40・41・44・50・67・68・91・116・118？・140・150・171・178・192・211・218住	500
				TK−10		
			B	TK−10新～NT−85古	28・33・48・53・61・92・124？・147・223住	
				MT−85新		
			C	TK−43古	2・4・18・21・24・25・35・37・65・130・138・145・165・170・174・181？・190・196・201・221・228？・240住	
				TK−43新～TK−209極頭		
					3・11・16・31・43・59・114・121・123・125・126・134・142？・204・205・229・243・245住	600
	終末期	Ⅶ	A	TK−209新		
					1・9・17・45・49・52・69・100・103・108・110・119・144・156・237住	
				TK−217		
			B	TK−217～TK−46	7・27・39・47・55？・70？・72・83？・84・88・93・95・105・120・135・146・187・193・235住	
			C	TK−46～MT−21	12・14・29・56・60・62・73・78・82・96・111・127・129・238住	
		Ⅷ	A	MT−21		700
			B		23・46・57・74・85・87・89・101・104・106・112・132・141？・163・175・197・198・241？・242？住	
			C		13・36・63・64・71・80・128・137？・139・158・162・217・220・222・225・230・234住	
					54・81・117・159住	
		Ⅸ	A			800
					42・133・231住	
			B		76・77住	
			C			
		Ⅹ			98住	



第439図　加茂遺跡A・B地点集落変遷図（1）



第440図　加茂遺跡A・B地点集落変遷図（2）

在し、密度が激減する集落の終焉と言えよう。前段階の箱形の須恵器杯（11～13）から口縁が開くタイプ（２・３）と変化する。土師器杯はロクロ土師器と非ロクロ杯が認められ量的に二分する。ロクロ土師器杯は底径の大きな箱形に近いものである。

竪穴住居跡の面積は、最大で15.32㎡が存在し、以下10㎡以上２軒・10㎡以下４軒である。カマド位置は、東カマド１軒以外は、北を中心に狭い範囲にまとまりが認められる。

Ⅸ期Ｂ　９世紀中葉に当たる時期である。隣接する２軒の住居跡を検出するだけで、既に集落としての機能が消滅している。土器では土師器甕や千葉市域産の須恵器甕が確認できるが、須恵器杯は僅かに前半に供給されるだけである。土師器杯は、非ロクロ土師器杯の消滅とロクロ土師器杯が普遍化する時期である。ロクロ土師器杯は、体部および底部回転篦ケズリで前段階より口縁が開くタイプである。

Ⅹ期　10世紀代で、98住１軒だけが該当する。希薄な遺物の多くが覆土からの検出で所属時期が不確定である。覆土から出土した比較的遺存度の良い土器に時期を求めた。10世紀代でも中葉～後葉に当たろう。

加茂遺跡Ａ・Ｂ地点の集落変遷は、Ⅴ期Ｃの５世紀後葉、Ⅵ期Ｃ～Ⅶ期Ａの６世紀末～７世紀初頭、Ⅷ期Ｂの８世紀中葉に集落が拡大し、衰退と盛行を繰り返し集落変遷に画期が読み取ることができる。カマド位置や住居跡規模についても、一定の成果を得ることができた。遺物類では、Ⅴ期ＣとⅦ期Ａに最も器種・量とも充実し、Ⅵ期Ｃ～Ⅷ期には、有段口縁杯・内湾口縁杯・武蔵型甕など他地域の土師器も一定量が認められ、周辺の集落跡と比較可能な好資料が得られた。また、祭祀遺物には注目できるものが認められ、これらの遺構や遺物が本遺跡の特徴と言える。

集落跡の衰退と盛行の起因は何処にあるのか。今後、国分寺台遺跡群や周辺遺跡の、集落跡や古墳群の時期別の分布が示され、類例の増加を踏まえて論じる必要があろう。これには、個々の遺跡の報告書刊行が前提となるが、国分寺台遺跡群の整理事業はまだ道半にも達していない。

国分寺台の発掘調査開始以来、30数年の歳月が流れ、遺跡の存在した場所は住宅地として生まれ変わり、此処に遺跡が存在したことを知らない人々も暮らしている。遺跡調査の為に尽力された方々や直接調査に従事した人々も、現在その立場はさまざまであろうとも、思いは調査報告書の刊行を待ちわびているに違いない。記録保存で調査後に消滅した物言わぬ遺跡の為、どの様な形であろうと記録としての調査成果を世に残す事が、これまで尽力された関係者に対す敬意であり、当時発掘調査に従事した者達の責務であろう。

文献参考文献

１．木對和紀『市原市椎津茶ノ木遺跡』財団法人市原市文化財センター1992年
２．浅利幸一ほか『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター2003年
３．谷島一馬『御林跡遺跡の調査』「上総国分寺台調査概要」市原市教育委員会・上総国分寺台遺跡調査団 1979年
４．坂野和信『平安施釉陶器の編年―稲荷台遺跡の施釉陶器と祭祀―』「市原市稲荷台遺跡」財団法人市原市文化財センター2003年
５．白井久美子ほか『中永谷遺跡』「千原台ニュータウンⅣ」財団法人千葉県文化財センター1991年
６．小沢　洋ほか『小浜遺跡群Ⅱ「マミヤク遺跡」』財団法人君津郡市文化財センター1989年

第３表　　加茂遺跡Ａ・Ｂ地点土器観察表

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
1住	1	ＢH1 Po5	ほぼ床面	土師器	甕 (総型？)	胴下部1/4～胴上部～口縁部1/3	(16.6)	20.9＋	(19.5)		胴最大径下端。外面篦ケズリ。内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を多く含む	黒褐色、黄灰色、浅黄色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	普通	総型甕？ 外面少し剥離
	2	ＢH1 Po2	床面直上	土師器	甕	胴中位1/4～胴上部2 5～口縁部1/4	(15.2)	12.3＋	(17.6)		口縁外反。外面横位の篦ケズリ。	小礫３㎜以下を含む	橙色、明黄褐色、浅黄色	黄灰色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	ＢH1 ＋	覆土	須恵器	杯身	口縁部1/6	(11.4)	2.5＋	後部径14.2		内外面ロクロナデ。	白色砂粒含む	淡暗灰色	淡暗灰色	普通	
	4	ＢH1 カマド	カマド覆土	土師器	杯	4/5	13.3	4.1	13.9		口縁内彎。底体部ナデ状の篦ケズリ。	小礫２㎜大以下を多く含む	灰黄褐色、浅黄 色、黄 灰色、赤色	浅黄橙色、赤色、にぶい黄橙色	やや良好	内面黒色処理の可能性がある
	5	ＢH1 Po3	床面直上	土師器	杯	体上 部1/2～口縁部1/4	(12.7)	4.1			口縁内彎。底体部ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	淡黄色、灰黄色、黒褐色	浅黄色、にぶい黄色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い。内面黒色処理の可能性がある。
	6	ＢH1	覆土	土師器	椀 内黒土器	1/2 口縁部1/4	(12.4)	6.2	13.3	7.5	外面篦ケズリ。内面ミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	暗赤灰色、橙色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内面黒色処理。
	7	ＢH1 カマド	カマド覆土	土製品	支脚	基部欠損		16.2＋	7.9		側面―円錐台 断面―円	密	にぶい褐色、灰褐色、にぶい黄橙色		不良	
	8	ＢH1 カマド	カマド覆土	土製品	支脚	基部		8.6＋			側面―円錐台 断面―円	褐鉄鉱粒最大１cm以下を極少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色		不良	底部以外は表面が剥れ1/5くらい残る
	9	ＢH1 Po1	床面直上	石製品	叩き石	ほぼ完存	長さ9.3cm・幅5.5cm・厚さ3.6cm　292.9ｇ									
2住	1	ＢH2 Po6 ＋	カマド焚口床面直上	土師器	甕 (総型甕)	底部3/5強～胴部3/5～口縁部1/2	(19.4)	31.6	20.5	6.0	胴長。外面篦ケズリ。	小礫６㎜以下を含む	赤色、赤黒色赤灰色	褐灰色	不良	内外面摩耗多い、剥離もある
	2	ＢH2 Po6	カマド焚口床面直上	土師器	甕	体下部1/3～体上部1/2 底部欠損	(19.2)	17.6＋	20.1		玉状口唇。胴部篦ケズリ消す篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	褐灰色、明褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面少し剥離。２次加熱有り
	3	ＢH2 カマド	カマド覆土	土師器	甑	胴下部2/5～胴上部3/5強～口縁部4/5	25.7	20.8＋			内面ミガキ状の篦ナデ。外面篦ケズリ。	小礫２㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	橙色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗多い、内面やや剥離
	4	ＢH2 Po3	覆土 ＋8	土師器	甑	下端孔部～胴下部1/5		10.9＋		(7.8)	内外面ミガキ状の篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	ＢH2 Po4	床面直上	須恵器	杯身	わずかに欠損	10.0	3.8	後部径11.9		口縁～体部ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	灰白色粒２㎜以下を少量含む	灰色、灰赤色暗赤灰色	灰色、灰黄色	普通	ＴＫ217
	6	ＢH2 Po2	ほぼ床面	土師器	杯 比企型杯 赤彩土器	体部～口縁部1/4 底部欠損	11.4	3.9＋	(11.4)		口縁直立気味。底体部篦ケズリ。	小礫２㎜以下を多く含む	赤色、橙色	赤色、暗赤色	やや良好	口縁外面と内面赤彩
	7	ＢH2 Po2	ほぼ床面	土師器	椀形杯	体部～口縁部片 底部欠損	(13.9)	5.1			丸底？	褐鉄鉱粒４㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	にぶい褐色、黒褐色	普通	
	8	ＢH2 Po2	ほぼ床面	土師器	椀形杯	体部～口縁部1/4	(15.1)	4.3＋			外面ミガキ状の篦ナデ。内面篦ミガキ。	褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	
	9	ＢH2 Po1	覆土 ＋18	須恵器	高杯	脚裾部一部～柱状 部4/5～杯 底部		5.4＋		脚径(11.0)	外面篦ナデ、段有す	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	10	ＢH2 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	両端部欠損		8.2＋			側面―柱状 断面―円	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色		不良	
	11	ＢH2 カマド	カマド燃焼部	石製品	叩き石	一部欠損	現存長10.5cm・幅6.2cm・厚さ4.4cm　323.3ｇ									
3住	1	ＢH3 Po5	北隅ほぼ床面	土師器	甕	底部1/2～胴部3/5～口縁部4/5強	14.4	15.9	14.5	(4.8)	外面縦位の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	浅黄色、暗灰黄色、にぶい橙色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	ＢH3 Po4	カマド右袖床面	土師器	甑	口縁部片	(20.0)	3.9＋			口縁大きく外反。胴縦位篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を多く含む	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色、灰黄褐色	良好	
	3	ＢH3 Po3 カマド	カマド燃焼部･床面	土師器	甕	底部 胴下部1/5		7.4＋		7.4	胴外面篦ナデ？	密	明黄褐色、橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 橙色、灰黄褐色	不良	
	4	H3 Po1+	覆土 ＋17	土師器	甕	底部4/5～胴最下部3/5強		2.7＋		6.9		小礫１㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい褐色	にぶい橙色、にぶい褐色	わずかに不良	
	5	H3 カマド	カマド覆土	土師器	杯 杯蓋模倣内黒土器	口縁部片	(13.0)	2.8＋			口縁直立気味。	密	黒褐色	黒褐色、にぶい黄橙色	普通	内面黒色処理
	6	ＢH3 ＋	覆土	土師器	大形杯 内黒土器	一部	(18.2)	6.3＋	(18.8)		口縁内傾く。	密	黒褐色	褐色	普通	内面黒色処理
	7	ＢH3 Po2	床面直上	土師器	高杯 内黒土器	杯部わずかに欠損	14.2	8.3		脚径9.5	杯部大きく外傾。内面ミガキ。	褐鉄鉱粒５㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黒褐色	黒褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。杯内面黒色処理
	8	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部片	(18.0)	1.2＋			口縁大きく水平に開き上方摘み出す。	緻密	暗灰色	暗灰色	良好	
	9	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部片	(22.0)	1.6＋			口縁大きく水平に開き上方摘み出す。	密 微砂粒含む	暗灰色	暗灰色	良好	
	10	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部片	(17.5)	2.4＋			内面降灰？	密	黒灰色	暗緑灰色	良	胎土色―淡赤灰色
	11	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫２㎜以下、褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	灰白色、灰色 にぶい黄橙色	灰白色、黄灰色、灰オリーブ色	やや不良	
	12	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	普通	灰色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	13	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	小礫２㎜大以下を含む	灰色、灰オリーブ色	浅黄色、灰色	わずかに不良	
	14	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	小礫２㎜大以下を極少量含む	灰黄色、黒褐色	灰色、灰白色	普通	
	15	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を少量、小礫６㎜以下を極少量含む	灰黄色、浅黄色、黒褐色、黄灰色	灰色、黄褐色	わずかに不良	
	16	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	密	オリーブ黒色	灰色	良好	
	17	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	密	淡黄色、灰色 灰オリーブ色	灰色	わずかに不良	外面自然釉付着
	18	ＢH3 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を少量含む	オリーブ黒色 灰色	灰色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
4・5住	1	H1.2 Po1	4住 北隅床面	土師器	甕 (球胴甕)	4/5	17.2	23.5	22.9	6.9	球胴。外面縦位篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む。一ヶ所3㎜の小礫を含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	不良	
	2	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕 短頸甕	胴上部～口縁部1/4	(18.0)	9.3+			口縁短く外反。球胴系？	小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、灰黄褐色	橙色、にぶい橙色	良好	
	3	H1.2 Po4	4住 カマド右袖床面	土師器	甕 (総型)	胴下部2/5～胴中位～上部3/5～口縁部一部	(21.8)	27.1+	(20.9)		やや胴長。外面縦位の篦ケズリ。	小礫3㎜大以下をかなり多く含む	橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色、暗赤褐色	不良	内外面とも摩耗多い
	4	H2 Po3	4住 カマド右袖床面	土師器	甕 (総型)	4/5	19.2	32.8	21.2	6.6	やや胴長。外面縦位の篦ケズリ。	小礫7㎜以下を含む	にぶい黄橙色黒褐色、浅黄橙色	にぶい黄橙色黒褐色、浅黄橙色、暗褐色	普通	内面に少し剥離
	5	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(15.8)	4.2+			内外面ヨコナデ、外面頸部篦状工具によるナデ痕。	小礫1㎜以下を含む	明黄褐色、黄灰色	浅黄色、黄灰色	良好	
	6	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	口縁部片	(15.0)	5.8+				緻密	褐灰色、にぶい黄褐色	褐灰色、にぶい黄褐色	やや不良	内面が少し摩耗
	7	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(16.0)	3.9+				小礫3㎜以下を極少量含む	明黄褐色、橙色	にぶい黄橙色橙色	わずかに不良	内面は剥離が多い外面は少し摩耗
	8	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	口縁部片	(16.3)	6.6+				小礫3㎜以下を少量含む	橙色	赤褐色	良好	外面の一部が少し摩耗
	9	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/6		2.7+		(8.6)		小礫1㎜前後を少量含む。一ヶ所5㎜大の小礫を含む	にぶい黄橙色褐灰色	黒色、灰白色	やや不良	
	10	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/3		3.4+		(8.6)		緻密	橙色、にぶい橙色	にぶい赤褐色にぶい橙色	少し不良	
	11	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/4		3.0+		(8.0)		緻密	黒色、灰黄褐色、橙色	にぶい黄橙色	良好	
	12	H2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/3		2.9+		(8.1)		小礫2㎜以下を少量含む	褐灰色、橙色	灰褐色	わずかに不良	わずかに摩耗
	13	H2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/4		3.5+		(9.0)		緻密	灰黄色、にぶい黄色	にぶい黄橙色	少し不良	
	14	H2+	4･5住 覆土	土師器	甕	底部1/4		3.5+		8.0		小礫3㎜以下を少量含む	褐灰色	褐灰色	不良	内面の一部に塊付着。内外面剥離多い
	15	H1.2 Po7	4住 カマド左袖床面	土師器	甑	一部欠損	25.2	23.0		9.4	外面篦ケズリ。内面立位のミガキ状の篦ナデを施す。	小礫1㎜大を極少量含む	浅黄橙色	浅黄橙色	わずかに不良	外面全体と内面口唇部が少し摩耗
	16	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	甑または鉢形甕	胴上部～口縁部片	(24.0)	7.7+			外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、橙色	黄橙色、橙色	不良	
	17	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/6	(12.1)	5.1			外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤褐色、暗赤灰色	赤褐色、暗赤灰色	良好	外面わずかに摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	18	H1 Po10	4･5住 覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部1/2～口縁部1/4	(13.4)	5.2	(13.8)		外面篦ナデ。	密 小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、暗赤灰色、にぶい橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面少し摩耗、内面少し剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	19	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部～口縁部片	(12.8)	3.5+			外面篦ナデ。	緻密	赤褐色	明赤褐色	良好	内外面赤彩
	20	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部1/4	(12.8)	3.6+			外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	赤色、明黄褐色	赤色、明黄褐色	やや不良	内外面とも少し摩耗。内外面赤彩
	21	H1.2 H2カマド	5住 ほぼ床面	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/3	(15.0)	4.7+			口唇シャープな整形。	密 小礫1㎜以下を極少含む	赤色、赤黒色	赤色	良好	赤彩
	22	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片 裾部1/4		5.4+		脚径(9.7)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	橙色、にぶい褐色	橙色、灰褐色	少し不良	内外面とも摩耗多い。赤彩
	23	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2 裾部欠損		4.8+			脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、明黄褐色	にぶい黄橙色	良好	外面少し摩耗。赤彩
	24	H2+	4･5住 覆土	土師器	杯 赤彩土器	体上部～口縁部片	(13.4)	2.1+			口縁外面直下に稜線を有す。	緻密	赤色	赤色	良好	内外面赤彩
	25	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	短頸壺 赤彩土器	1/3 底部欠損	(11.8)	9.7+	14.0		外面篦ナデ。内面布ナデ。	緻密	赤色、赤黒色	赤色	大変良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	26	H1.2+	4･5住 覆土	須恵器	短頸壺	口縁部1/2	(11.2)	6.3+			口唇内面シャープな稜線。	小礫2㎜弱を含む	灰色、オリーブ黒色、暗オリーブ灰色	暗灰色	良好	口唇内面と外面降灰
	27	H2 Po2	4住 床面直上	土師器	杯 内黒土器 暗文土器	一部欠損	(13.4)	3.3			底部篦ケズリ。内面放射状暗文	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色、にぶい黄橙色	黒褐色、褐灰色	良好	内面黒色処理（炭素吸たん）。放射状暗文
	28	H2 カマド	4住 カマド 覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	体部～口縁部1/4 底部欠損	(12.8)	3.5			底部外面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	浅黄色、褐灰色、橙色	にぶい黄橙色褐灰色	少し不良	
	29	H2	4住 覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	体上部～口縁部一部	(12.5)	2.2+			底部外面篦ナデ。内面放射状のミガキ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄色、黒褐色	黄灰色、黒褐色	良好	
	30	H2Po4 H1	4住 覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	破片	(11.9)	3.3+			底部外面篦ケズリ	小礫1㎜大以下を含む	橙色、灰褐色	浅黄橙色、黒褐色	良好	
	31	H2 カマド	4住 カマド 覆土	土師器	杯 有段口縁	体上部～口縁部片	(12.3)	3.5+			底部外面篦ケズリ	小礫1㎜以下を含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	少し不良	内部の一部に粘土が付着
	32	H2+	4住 覆土	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部片	(12.3)	2.2+	稜部径(13.6)		口縁内外面光沢有り。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	
	33	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	杯 内黒土器	体上部～口縁部1/5	(12.4)	3.5+			内面光沢の有るミガキを施す。	緻密	浅黄色、黄灰色	黒色、灰黄色	わずかに不良	内外面ともわずかに摩耗。内面黒色処理
	34	H2+	4住 覆土	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部一部	(12.6)	2.7+	(13.4)		雑な整形。	緻密	明黄褐色、灰黄色	明黄褐色、灰黄色	良好	
	35	H1.2 H2カマド	4住 カマド 覆土	土師器	椀形杯	口縁部1/3	(12.4)	3.2+			摩耗不明。	緻密	明黄褐色、褐灰色	黄褐色	やや不良	内外面とも摩耗
	36	H1.2 Po5	4住 ほぼ床面	土師器	椀形杯	4/5	12.4	4.1		2.9	外面輪積み残す、篦ナデ？	密	にぶい橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄色	不良	内外面とも摩耗多い
	37	H1 Po4	4･5住 覆土	土師器	小形鉢 内黒土器	3/5強	12.1	6.0			外面雑。内面光沢の有るミガキを施す。	密	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面とも摩耗多い。内面黒色処理
	38	H1.2 Po4	4･5住 覆土	土師器	高杯	杯部1/2	(16.8)	6.1+			外面ケズリ状の篦ナデ。	密	褐灰色、灰黄褐色、黒褐色	橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面とも摩耗多い
	39	H1.2+	4･5住 覆土	土師器	高杯	脚部 裾部欠損 杯一部		4.6+			杯内面ミガキ。	緻密	にぶい橙色、明褐灰色	にぶい橙色、灰褐色	良好	
	40	H1.2+	4･5住 覆土	須恵器	蓋	口縁部片	(13.4)	1.1+			ロクロナデ。	緻密	灰黄色	浅黄色	良好	
	41	H2+	4･5住 覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。	灰白色粒3㎜以下を含む	灰色	灰色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
4住・5住	42	H2+	4･5住 覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。	白色粒１㎜大以下を含む	灰白色	灰色	良好	
	43	H1.2+	4･5住 覆土	須恵器	提瓶？	胴部片					外面カキ目。	緻密	黄灰色	黄灰色	良好	
	44	H1.2+	4･5住 覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。	小礫３㎜大以下を含む。	黄灰色、黒褐色	黄灰色	良好	
	45	H1.2+	4･5住 覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。	小礫２㎜以下を含む	灰白色、灰色	オリーブ色、	良好	
	46	H2 Po9	4･5住 覆土＋24	陶器	小皿	4/5	(12.5)	2.3		7.2	器表面泡状を呈する。	灰白色粒７㎜を１ヶ所含む	灰白色、浅黄色	灰白色、浅黄色	良好	外面底部中央以外は灰白色の釉付着。ブク有り
	47	H2 カマド	4住 カマド 覆土	土製品	支脚	3/5強		23.1＋	8.2		側面―円錐台 断面―円	小礫３㎜以下を少量含む	黄橙色、灰黄褐色		少し不良	
6住	1	H3 カマド	6住 カマド燃焼部	土師器	甕	1/2	(19.8)	25.7	(24.0)	7.2	球胴。胴上半刷毛目、下半ケズリ状の篦ナデ。底部内面刷毛目。	小礫１㎜以下含み、褐鉄鉱粒２㎜以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	少し不良	内外面とも摩耗と剥離多い
	2	H3	床面直上	土師器	甕	一部欠損	17.6	17.5	18.4	7.4	篦ケズリ消すミガキ状の篦ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	外面の胴部が摩耗、剥離多い
	3	H3 Po10	カマド 前面床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部4/5	(16.1)	10.8＋			胴部篦ナデおよびケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい橙色、橙色、褐灰色黒褐色	にぶい褐色、灰黄褐色、褐灰色、橙色	少し不良	内外面とも摩耗と剥離有り
	4	H3 Po5	ほぼ床面 ＋6	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(17.2)	11.4＋			篦ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含み一部1.5cmの物もある	にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色	やや不良	内外面一部摩耗と剥離
	5	H3 Po8	中央床面直上	土師器	甕	口縁部1/3	(16.6)	6.0＋			丁寧な篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	黄灰色、にぶい黄色、黒褐色	浅黄色、黄灰色	やや不良	外面わずかに摩耗、内面摩耗多い
	6	H3 Po7 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形甕	胴部～口縁部1/4	(14.0)	7.8＋	(13.1)		ナデ状の篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を極少量含む	赤色、赤黒色灰赤色	橙色，灰赤色	少し不良	内外面摩耗、剥離多い
	7	H3 Po2 Po10	ほぼ床面	土師器	甕 小形球胴	口縁部1/2	(10.1)	4.8＋			胴外面篦ナデ？	小礫１㎜以下極少量含む	にぶい褐色、にぶい赤褐色	浅黄色、灰黄褐色	良好	外面摩耗、剥離多い
	8	H3 Po13	床面直上	土師器	甕	底部 胴最下部1/3		3.1＋		8.3	外面篦ナデ	密	浅黄色、黒褐色	浅黄色、黄灰色	わずかに不良	内面やや摩耗
	9	H3 Po4Po5	床面直上	土師器	甕	口縁部1/4	(28.8)	6.3＋			内外面刷毛目薄く残す。	褐鉄鉱粒３㎜大以下多く含む	橙色、赤橙色赤褐色、にぶい褐色	橙色、赤橙色灰赤色	やや不良	内外面とも摩耗有り
	10	H3 Po5 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	胴最上部～口縁部1/4	(29.4)	8.6＋			胴外面ケズリ消し去る篦ナデ。内面刷毛目残る。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	黄橙色、灰褐色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、灰褐色	やや不良	内外面とも摩耗多い
	11	H3 Po10	カマド燃焼部	土師器	甑	胴下部1/3		14.8＋		(6.0)	内外面雑なナデ状のミガキ。	褐鉄鉱粒６㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄橙色	普通	内外面ともわずかに摩耗。籾痕有り
	12	H3 Po2Po5	ほぼ床面	土師器	甑	胴下部3/5強		7.6＋		7.7 孔径 7.1	外面雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色橙色、黒褐色	にぶい黄橙色橙色	やや不良	内外面とも摩耗と剥離が少しみられる
	13	H3 黒土層	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目	小礫２㎜大以下を少し含む	灰色	灰色	良好	
	14	H3 Po8	ほぼ床面	須恵器	杯身	口縁部一部	(11.1)	4.3＋	(13.0)		丁寧な整形。断面淡茶色。底部回転篦ケズリ。	小礫３㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	良好	
	15	H3 Po10 Po12	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 底部中央欠損	15.2	5.4			底部ケズリ状の篦ナデ。	小礫最大４㎜を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面の底部付近が少し摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	16	H3 Po2	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部一部	(14.5)	2.9＋			底部ケズリ状の篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	赤色	赤色	良好	内外面赤彩
	17	H3 Po2	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部1/5～口縁部1/3	(13.4)	4.3＋	(14.4)		底部ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色にぶい黄橙色赤灰色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面とも少し摩耗。内外面赤彩
	18	H3 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部片	(12.6)	3.7			底部ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、赤色	浅黄橙色、暗赤色	少し不良	わずかに内外面摩耗。内外面に赤彩痕
	19	H3	覆土	土師器	皿条扁平杯 漆塗り？	1/4	(15.0)	3.4			内面ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色黒褐色	にぶい黄橙色黒褐色	少し不良	内外面とも摩耗多い。漆塗り？
	20	H3	覆土	土師器	椀	ほぼ完形	13.5	6.4			外面刷毛目消し去る丁寧な篦ナデ。	緻密	明赤褐色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	少し良好	
	21	H3 Po10	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部欠損 柱状部3/5強 杯下部2/5		5.3＋			脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫２㎜以下を含む	暗赤褐色、橙色、赤褐色	赤色、赤褐色	わずかに不良	全面ともやや摩耗。赤彩
	22	H3 黒土層	覆土	土師器	高杯？ 赤彩土器	脚部･裾部部分		3.1		脚径 (12.0)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	橙色、にぶい橙色、黒褐色		わずかに不良	外面やや摩耗。赤彩
	23	H3 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 杯一部 脚裾部2/3欠損		5.1＋		脚径 (9.4)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	褐灰色、明赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい赤褐色赤黒色	不良	外面は摩耗と剥離多く、杯内面摩耗多い。脚一部剥離。杯内面赤彩。
	24	H3 黒土層 Po7Po8 Po9	ほぼ床面	土師器	椀 赤彩土器	底部欠損 体部3/5～口縁部1/3	(12.2)	8.3＋	(14.0)		外面やや雑なケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	暗赤色、赤黒色、灰赤色	暗赤色、赤黒色、灰赤色、赤色	やや良好	内外面にやや剥離。内面底部附近除き内外面赤彩
	25	H3 Po1 Po5 Po9	ほぼ床面	土師器	壺 赤彩土器	口縁部片	(9.6)	5.2＋			肉厚気味。口縁僅かに外傾して直立気味。	小礫３㎜以下（白色粒多い）を含む	暗赤色	暗赤色、浅黄橙色	良好	口縁部内外面赤彩
	26	H3 黒土層	覆土	土師器	坩 赤彩土器	口縁部1/4	(10.1)	3.2＋			口縁外面刷毛目残る。	小礫１㎜以下を含む	にぶい赤色、にぶい黄橙色	にぶい赤色	良好	外面が少し摩耗。内外面赤彩
	27	H3	覆土	土師器	小形短頸壺	口唇部3/5欠損	(8.6)	6.5	10.4		外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄橙色浅黄橙色	少し不良	外面摩耗、内外面剥離著しい
	28	H3 黒土層	覆土	手捏土器	杯形	1/2	(4.0)	2.6	(4.4)	(3.6)	指頭圧痕。	緻密	にぶい黄橙色黒褐色	にぶい黄橙色黒褐色	普通	
	29	H3 カマド	カマド	土製品	支脚	上端欠損		17.1＋	10.5		側面―四角錐台 断面―角状	密	明黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
	30	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径4.4～4.7cm･高さ4.1cm･孔径0.9cm　68.7ｇ									
	31	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	一部欠損	径4.2～4.3cm･高さ3.9cm･孔径0.9cm　(56.8ｇ)									
	32	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	ほぼ完形	径4.3～4.5cm･高さ4.1cm･孔径0.8cm　67.8ｇ									
	33	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.8～4.1cm･高さ3.5cm･孔径0.8cm　47.5ｇ									
	34	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.9～4.2cm･高さ4.0cm･孔径0.7cm　54.4ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
6住	35	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.5～4.0cm・高さ3.8cm・孔径0.8cm　46.9ｇ									
	36	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.9～4.0cm・高さ3.4cm・孔径0.7cm　42.7ｇ									
	37	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.6～3.7cm・高さ3.3cm・孔径0.7cm　38.0ｇ									
	38	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.0～3.6cm・高さ3.4cm・孔径0.5cm　(31.7ｇ)									
	39	H3 Po8	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.1～3.4cm・高さ2.6cm・孔径0.6cm　24.1ｇ									
	40	H3	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.3～3.6cm・高さ3.4cm・孔径1.0cm　35.5ｇ									
	41	H3 Po7	覆土 ＋10	石製品	擦り石	完存	長さ11.0cm・幅5.8cm・厚さ4.8cm　434.8ｇ									
	42	H3 Po12	ほぼ床面	石製品	擦り石	完存	長さ8.2cm・幅6.3cm・厚さ3.8cm　47.9ｇ									軽石
7住	1	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	甕(総型甕)	胴下部～底部欠損	19.3	27.1＋	(20.4)		胴部縦位の篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色 黒褐色	少し不良	内外面とも摩耗著しい
	2	H4 ＋	覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(17.9)	5.7＋			胴外面横位の篦ケズリ。	緻密	黒褐色、明黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	良好	
	3	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	甑	口縁部1/4	(22.3)	9.4＋			外面篦ケズリ。内面ミガキ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	灰黄褐色、橙色	にぶい黄橙色 橙色	少し不良	全体にやや摩耗、外面胴部に少し擦過痕有り
	4	H4 ＋	覆土	須恵器	杯身	底部一部		2.1＋		(3.2)	底部回転篦ケズリ。	緻密	暗灰黄色	暗灰黄色	良好	外面にヘラ記号有り
	5	H4 ＋	覆土	須恵器	杯身	一部	(7.7)	3.2＋	稜部径 (9.7)		内外面シャープなロクロ整形。	緻密	灰色	灰色	良好	
	6	H4 ＋	覆土	土師器	杯	1/3	(13.3)	4.5	(13.6)		内面ミガキ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面とも少し摩耗
	7	H4 ＋	覆土	土師器	杯 漆塗り？	破片	(14.0)	4.2＋	(14.6)		内面ミガキ。	緻密	浅黄色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	少し不良	内外面とも剥離多い
	8	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	椀	4/5 口縁部3/5	13.2	5.6			肉厚。内面ミガキ。	緻密	橙色、赤褐色	浅黄橙色、にぶい橙色	少し不良	内外面の一部摩耗
	9	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	椀	1/3	(14.9)	6.2		(6.1)	肉厚。内外面篦ナデ消し去る布ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	黄灰褐色、にぶい黄橙色	不良	内外面とも摩耗多い
	10	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	杯	体上部～口縁部1/4	(13.4)	4.9＋			肉厚。内外面篦ナデ消し去る布ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色	少し不良	内外面とも摩耗が激しい
	11	H4 カマド	カマド燃焼部？	土師器	鉢 漆塗り？	口縁部片	(19.3)	4.8＋			口縁外面直下と内面漆塗り。	緻密	橙色、黒褐色 暗赤褐色	黒褐色、にぶい黄橙色	やや不良	外面がやや摩耗
	12	H4 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部片	(17.0)	4.0＋	(18.1)		外面ケズリ状の篦ナデ。内面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面ともやや摩耗。赤彩
	13	H4 ＋	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部～杯底部 脚部2/5		6.4＋		脚径 (10.1)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	赤色、赤褐色	赤色	わずかに不良	赤彩
	14	H4 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部欠損		4.0＋		脚径 (19.1)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色	赤色	わずかに不良	内外面ともわずかに摩耗。赤彩
	15	H4 Po5	覆土 ＋27	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部2/5		4.1＋		脚径 (9.0)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色		良好	赤彩
	16	H4 Po1	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	白色粒3㎜大以下を含む	オリーブ黒色	灰色	良好	
	17	H4 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	下部欠損		15.2＋	6.8		側面―柱状 断面―六角柱	小礫2㎜以下を含む	橙色、暗黄橙色		不良	断面が角張った円である
	18	H4 ＋	覆土	石製品	砥石	頭部欠損	現存長6.3cm・幅3.8cm～厚さ5.0cm　80.6ｇ									
8住	1	H5 Po2	覆土 ＋10	土師器	甕	1/2 底部欠損	16.9	28.3	(22.4)	(7.5)	胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、明褐色、灰黄色	灰黄色、褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内面の口縁部と外面全体が摩耗多い
	2	H5 Po2 Po11	覆土 ＋10	土師器	甕	3/5強 口縁部2/5	(18.1)	27.0	22.6	6.8	胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、明褐色、褐灰色	浅黄色、灰黄色、にぶい黄橙色	普通	内面の口縁部と外面全体が少し摩耗
	3	H5	覆土	土師器	甕	1/3	12.5	19.6	(18.5)	(6.6)	胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	褐灰色、橙色 灰褐色	褐灰色、橙色 灰褐色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗
	4	H5 Po6 Po2	覆土 ＋18	土師器	甕	胴上位～口縁部1/4	(17.8)	11.4＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗
	5	H5 Po9 Po10	覆土 ＋25	土師器	甕	口縁部1/3	(23.4)	9.3＋			胴外面刷毛目。口縁内外面刷毛目消し去るヨコナデ。	緻密	明黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	明黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	良好	
	6	H5	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部3/5強	17.1	16.4＋			胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色	褐灰色、にぶい褐色	不良	内外面摩耗と剥離多い
	7	H5 Po7	覆土 ＋15	土師器	小形鉢形甕	胴中位～口縁部3/5強	16.3	11.1＋			胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	浅黄橙色、橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	8	H5 Po2 Po7	覆土 ＋15	土師器	甕	胴最上部1/6～口縁部3/5強	(16.6)	7.9＋			胴部斜位シャープな篦ケズリ。	普通	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	9	H5	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(19.4)	8.1＋			外面斜位篦ケズリ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色	良好	
	10	H5 Po10	覆土 ＋25	土師器	甕	口縁部片	(18.9)	6.1＋			外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	にぶい橙色	灰黄色、橙色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	11	H5 Po6	覆土 ＋18	土師器	小形甕	体上部～口縁部1/5	(13.7)	6.4＋	15.3		外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄色、黒褐	にぶい黄橙色	良好	
	12	H5 Po6	覆土 ＋18	土師器	壺	口縁部片	(13.4)	5.6＋			口縁内外面ヨコナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	良好	
	13	H5 Po10 ＋	覆土 ＋25	土師器	壺	胴部1/4		16.8＋	(21.7)		外面ミガキ状の篦ナデ。内面篦ナデ。	緻密	褐灰色、橙色	浅黄色、暗灰黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	14	H5 Po5 ＋	覆土	土師器	甑	胴下部～口縁部1/3	(25.5)	23.6＋	(23.9)		外面ケズリを残すミガキ状の篦ナデ。	小礫5㎜弱を多く含む	橙色、にぶい黄橙色	黄褐色	良好	
	15	H5 ＋	覆土	土師器	甑または鉢形甕	口縁部1/4	(17.2)	7.5＋	(16.4)		口縁外面に刷毛目。内面篦ナデ。	緻密	黒褐色	灰黄褐色、にぶい黄褐色	良好	
	16	H5 ＋	覆土	土師器	甕	胴下部1/3		5.6＋			断面に刻みを残し、部位毎に作られたものが組み上げられた状況を示す。	小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	
	17	H5	覆土	土師器	甕	底部		5.5＋		8.6	外面雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、灰黄褐色	明黄褐色、にぶい黄橙色	良好	
	18	H5 Po7	覆土 ＋15	土師器	甕	底部		5.0＋		(6.4)	外面雑な篦ナデ。接合断面に凹凸を残す。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	黒褐色、褐灰色	淡黄色、浅黄色	やや良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
8 住	19	H5+ Po9	覆土 +25	土師器	甕	胴下部～底部 1/3		4.7+		(8.3)	外面篦ナデ。	緻密	褐色、褐灰色	褐灰色、浅黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い。内面に剥離多い
	20	H5 +	覆土	土師器	甕	底部1/3		2.8+		(6.8)	突出。	小礫1㎜以下少し含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色、褐灰色	少し不良	外面は摩耗多い
	21	H5 +	覆土	土師器	甕	胴上部片					外面刷毛目。内面輪積みを残す篦ナデ。	緻密	黒褐色、赤褐色	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	良好	
	22	H5 Po1	覆土 +16	土師器	椀 赤彩土器	1/2 底部中央欠損	(11.6)	9.8+	13.1		外面ケズリ状の篦ナデ。内面布ナデ。	密	にぶい赤褐色 にぶい黄橙色	にぶい赤褐色 にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	23	H5 Po9+	覆土 +25	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5 口縁部3/5	13.3	5.4	14.2		外面篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい橙色	赤色、にぶい橙色	普通	外面底部附近除き内外面赤彩
	24	H5	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部	(12.8)	4.6+	(13.5)		口縁直下に稜有り。外面ケズリ状の篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	赤褐色、にぶい赤褐色	赤色	良好	内外面赤彩
	25	H5 Po9 Po12 +Po2	覆土 +15	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3 口唇部欠損	(13.4)	5.2+	14.4		外面ケズリ状のシャープな篦ナデ。内面丁寧なナデ状のミガキ。丁寧な整形。	緻密	黒褐色、赤色 にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	全体に摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	26	H5	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	1/4	(13.7)	5.0+	(14.5)		外面丁寧な篦ナデ、口縁内面布ナデ。丁寧な整形。	緻密	褐灰色、赤色	赤色	良好	外面一部摩耗。赤彩
	27	H5 Po10	覆土 +25	土師器	椀形高杯？ 赤彩土器	一部	(13.8)	5.7+	(14.9)		外面ケズリ状の篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、浅黄橙色	少し不良	内外面とも摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	28	H5 Po4 + Po3	覆土 +7	土師器	椀形高杯？ 赤彩土器	1/3	(14.9)	5.8+	(15.2)		外面ケズリ状の篦ナデ。内面ナデ。	緻密	赤褐色、にぶい黄橙色	赤褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	29	H5	覆土	土師器	椀形高杯？ 赤彩土器	1/6	(15.3)	3.6+	(15.7)		外面丁寧な篦ナデ、口縁内面布ナデ。丁寧な整形。	緻密	赤褐色	明赤褐色、にぶい赤褐色	良好	内外面赤彩
	30	H5 Po12・Po7	覆土 +15	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5強～杯部1/2～口縁部1/4	13.6	7.8		脚径7.9	短脚気味。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	赤色、赤褐色 浅黄橙色	赤色、にぶい赤褐色、暗赤灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	31	H5 Po9	覆土 +25	土師器	高杯 赤彩土器	脚基部		4.1+			脚外面縦位の篦ナデ。	緻密	赤色（脚）	赤色	良好	赤彩
	32	H5 Po10	覆土 +25	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5 脚裾部一部		4.3+		脚径(11.3)	脚外面縦位の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色		やや不良	赤彩
	33	H5 Po13	覆土 +10	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5		4.6+		脚径(10.1)	脚外面縦位の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色		良好	赤彩
	34	H5 Po1	覆土 +16	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片 裾部欠損		5.2+			脚外面縦位の篦ナデ。	緻密	赤色	褐色	良好	赤彩
	35	H5 Po8 Po9	覆土 +15	土師器	高杯 赤彩土器	3/5 脚部欠損	27.8	13.6+			口縁大きく開く。外面丁寧な篦ナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を多く含む	暗赤色、赤褐色、浅黄色	赤色、赤灰色	やや不良	内外面とも摩耗多い。内外面赤彩
	36	H5 Po1	覆土 +16	ミニチュア土器	小形高杯	口縁部3/5強 脚部欠損	(7.6)	3.6+			手捏状	金雲母？極少量含む	黒褐色、にぶい橙色	黒褐色、にぶい橙色	良好	内外面赤彩の可能性有り。
	37	H5 Po11	覆土 +12	ミニチュア土器	コップ	底部～体下部 2/3		4.0+			手捏状	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	黒褐色	普通	
	38	H5 +	覆土	土製品	土玉	2/5	径(4.0cm)・高さ4.1cm・孔径0.7cm （21.1ｇ）									
	39	H5 Po2	覆土 +10	土製品	土玉	1/2	径(3.6cm)・高さ3.5cm・孔径0.7cm （19.5ｇ）									
	40	H5 +	覆土	土製品	土玉	1/4	径(4.6cm)・現存高3.2cm・孔径0.7cm （11.6ｇ）									
	41	H5 +	覆土	石製品	砥石	1/2	現存長12.2cm・現存幅6.8cm・現存高6.0cm 342.2ｇ									凝灰岩
9 住	1	H6 +	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(21.2)	5.8+			胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜弱以下を含む	黒褐色	黒褐色、暗灰黄色	良好	
	2	H6 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/5	(14.5)	8.5+			胴部外面ケズリ。内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰黄褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	良好	
	3	H6 +	覆土	土師器	甕	口縁部片	(16.1)	6.0+			肉厚。	褐鉄鉱が多い。小礫3㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 明赤褐色	良好	
	4	H6 +	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(16.6)	4.2+			口縁部輪積み跡残す。	小礫3㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	
	5	H6 +	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(17.2)	6.7+			口縁立つ。胴部外面雑なミガキ。内面ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色	明黄褐色	良好	
	6	H6 +	覆土	土師器	甑	口縁部一部	(19.4)	5.8+			胴部外面篦ナデ？	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	明黄褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内面摩耗
	7	H6 +	覆土	土師器	甑	1/6 胴下部～下端（孔）		9.6+		(6.6)	外面ナデ状の篦ケズリに雑なミガキを施す。内面雑なミガキ。	小礫2㎜以下を少量含む	黒色、浅黄色	灰黄色、浅黄色	わずかに不良	外面少し摩耗
	8	H6 カマド Po1	カマド燃焼部とカマド右袖床面	土師器	甑	胴下部1/3		11.0+		(9.2)	胴部外面ケズリ状の篦ナデ。内面雑なミガキ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	黒褐色、にぶい黄橙色	黒褐色	やや不良	外面摩耗多い内面は少し有り
	9	H6 Po2	ほぼ床面	土師器	杯 杯身模倣	3/5 底部中央欠損	12.2	3.0+	稜部径13.2		内外面ナデ？	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	明黄褐色、橙色、にぶい黄橙色	赤褐色、明黄褐色、橙色	わずかに不良	わずかに摩耗剥離
	10	H6 カマド	カマド燃焼部？	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部一部	(12.0)	2.6+			底部外面雑なケズリ状の篦ナデ。内面雑なミガキ。	緻密	黄橙色	橙色	少し不良	内外面の体部は摩耗
	11	H6 カマド	カマド燃焼部？	土師器	鉢形杯？	1/3 口縁部1/5	13.8	5.5			底部外面ケズリ状の篦ナデ。内面ナデ？やや肉厚。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む。小礫も1㎜有る	橙色、灰褐色	褐灰色、赤色 にぶい橙色	良好	内面の体部は摩耗
	12	H6 Po2	ほぼ床面	土師器	椀形杯	4/5 口縁部3/5強	10.6	5.0		5.2	平底気味。内面ナデ。外面篦ナデ？	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい橙色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	13	H6 +	覆土	須恵器	高杯	脚部1/4		4.8+			ロクロナデ。	緻密	灰色、灰オリーブ色		良好	
	14	H6 +	覆土	土師器	高杯	脚部1/2 裾部欠損 杯一部		4.1+			脚外面縦位の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	明赤褐色	少し不良	杯底部内面、脚部外面が摩耗
	15	H6 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					内外面成形痕消し去るナデ。	緻密	灰色、浅黄色	灰黄色	良好	
	16	H6 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面格子目叩き。	小礫1㎜大以下を含む	灰黄褐色、暗オリーブ色	オリーブ黒色	良好	
	17	H6 +	覆土	中世陶器	甕	胴部片(肩付近)					外面に厚く濃緑色の釉をかぶる。内面輪積み痕を残す。	小礫2㎜大以下を含む	オリーブ灰色	黄灰色、暗灰	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
9住	18	H6 +	覆土	中世陶器	甕	胴部片					内外面成形痕消し去るナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	黄褐色	にぶい黄褐色	良好	断面1辺に摩耗痕を残し砥石に転用されている。
	19	H6 カマド	カマド覆土	ミニチュア土器	合子身形	1/3	(2.8)	2.5		(2.7)	僅かに指頭圧痕認める。	密	浅黄色	黄褐色、浅黄橙色	普通	
	20	H6 カマド	カマド燃焼部？	土製品	支脚	一部欠損		19.5	11.9		側面―円錐 断面―円	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰褐色		やや不良	
	21	H6	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.7～3.8cm・高さ3.3cm・孔径1.2cm　35.8ｇ									
	22	H6	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.8～4.0cm・高さ3.3cm・孔径1.4cm　38.1ｇ									
	23	H6	ほぼ床？	土製品	土玉	完形	径3.6～3.8cm・高さ2.8cm・孔径1.4cm　28.8ｇ									
	24	H6 +	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ4.3cm・幅2.9cm・厚さ2.0cm　7.6ｇ									軽石
10住	1	H7 Po2	カマド右袖	土師器	壺形甕	2/5	(9.6)	20.4	(18.6)	7.9	口縁直立気味で僅かに外反、細頸で、胴最大径を下端に有す。外面篦ナデ。	緻密 一部5㎜以下の褐鉄鉱粒有り	浅黄色、黄灰色、明褐色、黒褐色	にぶい橙色、浅黄色、黄灰色	やや不良	内面の口縁部と外面摩耗
	2	H7 カマド内	カマド覆土	土師器	甕	ほぼ完形	11.2	16.7	12.3	3.8	手づくね状の小形甕。内外面に輪積みを残す。	緻密	にぶい赤橙色 にぶい黄橙色 褐灰色	橙色、にぶい橙色	少し不良	使用痕跡がなく実用的な物ではなく、カマド祭祀用の甕？
	3	H7 Po5	カマド手前床面	土師器	甕	胴部～口縁部1/4	(17.0)	10.6＋			肉薄い。外面斜位の篦ケズリ、内面ケズリ消し去るナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	明黄褐色、黒褐色	灰黄褐色、褐灰色	少し不良	外面少し摩耗
	4	H7 Po5	カマド手前床面	土師器	甕	口縁部1/4	(12.5)	5.5＋			外面縦位の篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	
	5	H7 Po4	カマド右側床面	土師器	甑？	口縁部1/4	(17.2)	6.5＋			やや肉厚。外面篦ナデ。	小礫1㎜以下少し含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	少し不良	外面少し摩耗
	6	H7 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑？	口縁部～胴中位1/2	(17.6)	17.9＋			雑な整形。外面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	赤色、明黄褐色、黒褐色	赤色、明黄褐色	少し不良	内外面少し摩耗
	7	H7 カマド	カマド覆土	土師器	鉢	3/5強 底部～体下部一部欠損	14.4	9.3		(4.3)	手捏状の小形鉢。外面に輪積み、内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、灰黄褐色	橙色、明黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H7 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部		6.3＋		5.0	外面ケズリ状の篦ナデ。内面刷毛目を残す篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	黒褐色、褐灰色	黒褐色	良好	底部にカマド粘土付着
	9	H7 +	覆土	土師器	甕	底部1/4		4.0＋		(7.0)	外面篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内面剥離多い
	10	H7 Po4	カマド右側床面	土師器	甕	底部1/3		3.1＋		(6.5)	外面篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗、内面剥離
	11	H7 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部付近1/2		4.0＋		4.5	雑な整形。外面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量、褐鉄鉱粒5㎜以下を含む	橙色、褐灰色 黒褐色	橙色、褐灰色	少し不良	内外面摩耗多い
	12	H7 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5		2.4＋		6..6	外面篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい褐色、褐灰色	褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	13	H7 +	覆土	土師器	甕？	底部		2.7＋		4.1	外面ケズリ状の篦ナデ。内面篦ケズリ。雑な成形。	褐鉄鉱粒3㎜を多く含む	褐色、浅黄橙色	黒褐色	良好	
	14	H7 Po7	覆土 ＋9	土師器	甕	底部1/2		1.9＋		7.2	突出気味。	緻密	橙色、褐灰色	褐灰色	良好	
	15	H7 Po7	覆土 ＋9	土師器	甕	底部3/5		2.1＋		7.3	突出気味。	緻密	にぶい橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	良好	
	16	H7 +	覆土	中世陶器	甕	底部片					内面指頭圧痕残す。	緻密	浅黄色	灰白色	良好	中世の大甕底部。
	17	H7 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面格子目叩き。内面同心円文。	小礫1㎜以下少し含む	灰色	灰色	良好	
	18	H7 Po6	覆土 ＋20	須恵器	甕	胴部片					外面格子目叩き。内面同心円文。	密	灰色、灰黄色	灰色、灰黄色	普通	
	19	H7 +	覆土	須恵器	短頸壺	胴上部片					外面平行叩き目。	密	灰色、灰黄色	灰色、オリーブ黒色	普通	
	20	H7 +	覆土	土師器	坩 赤彩土器	口縁部1/5	(11.8)	8.3＋			外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤色、褐灰色	赤色、暗赤褐色	良好	内外面赤彩
	21	H7 カマド	カマド燃焼部	須恵器	杯身	破片					外面回転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を多く含む	暗オリーブ灰色	暗オリーブ灰色	良好	
	22	H7 カマド	カマド覆土混入	須恵器	杯	底部付近1/4		0.8＋		(8.6)		緻密	灰白色	灰白色	少し不良	少し摩耗。8世紀後半代。
	23	H7 Po1	覆土 ＋20	土師器	杯	3/5 底部欠損	12.4	3.7＋			外面篦ナデ。内面ミガキ？	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	24	H7 カマド	カマド	土師器	鉢 赤彩土器	4/5 体上部～口縁部一部欠損	12.6	6.4		4.4	平底。外面篦ナデ。内面ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	明赤褐色、橙色、赤色	明赤褐色、赤色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗剥離。内外面赤彩
	25	H7 +	覆土	土師器	平底椀 赤彩土器	1/3 口縁部1/4	(10.8)	4.5		6.8	平底。外面篦ナデ。内面ヨコナデ。底部木の葉状の圧痕を残す。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内面少し摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	26	H7 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3	(11.2)	5.5＋			外面ケズリ状の篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	にぶい赤色、暗赤褐色、にぶい黄橙色	赤色、暗赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	27	H7 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4 底部欠損	(15.2)	5.3＋			外面篦ナデ。内面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下多く含む	橙色、赤色	橙色	少し不良	全体に摩耗少し有り。内外面赤彩
	28	H7 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部一部	(15.6)	3.9＋			外面篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	赤褐色、灰赤色	赤褐色、灰赤色	良好	内外面赤彩
	29	H7 +	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	1/3	(15.0)	5.2＋			外面篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	橙色、赤色、黒褐色	暗赤色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	30	H7 Po6	覆土 ＋20	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部 裾部欠損 杯底部一部		5.1＋		脚径 (11.9)	縦位の篦ナデ。	緻密	赤色、赤黒色	赤褐色	良好	赤彩
	31	H7 Po5	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部 杯一部 脚裾部1/5		6.4＋		脚径 (8.1)	縦位の篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	橙色	少し不良	全体に摩耗多い。赤彩
	32	H7 +	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部		6.0＋		脚径 9.5	縦位の篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	赤橙色		やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	33	H7 Po4	カマド右側ほぼ床面	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部 裾部欠損 杯一部		5.7＋		脚径 (10.3)	縦位の篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	にぶい赤色	やや不良	脚外面少し摩耗、杯底部剥離多い。赤彩
	34	H7 +	覆土	石製品	砥石	1/2以下	現存長5.0cm・幅2.6cm・厚さ2.5cm　43.5ｇ									流紋岩
	35	H7 Po7	覆土 ＋9	石製品	擦り石	完存	長さ5.9cm・幅4.0cm・厚さ3.3cm　14.4ｇ									軽石

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
11住	1	H8+	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	一部 底部付近欠損	(12.2)	2.7+	稜部径13.2		口縁外面と内面ミガキ。外面篦ナデ。	緻密	黄灰色、浅黄色	褐灰色	やや不良	外面の体部摩耗。全面漆塗りの可能性有り。
	2	H8+	覆土	土師器	杯 杯身模倣	3/5	(12.4)	4.1	(13.9)		口縁外面と内面ミガキ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	灰褐色、にぶい橙色	灰褐色、にぶい橙色	わずかに不良	全面漆塗りの可能性有り。
	3	H8+	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部1/4	(15.0)	3.8+			口縁外面と内面ミガキ。外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	わずかに不良	全面漆塗りの可能性有り。
	4	H8+	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	一部 底部付近欠損	(14.3)	3.4+			口縁外面と内面ミガキ。外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 黒褐色	明黄褐色、褐灰色	良好	全面漆塗りの可能性有り。
	5	H8+	覆土	須恵器	大甕	胴部片					内外面ナデ。	緻密	灰色	灰オリーブ色	良好	
	6	H8	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円紋。	緻密	灰オリーブ色	灰色	良好	
	7	H8+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円紋消し去るナデ。	緻密	褐灰色	灰色	良好	
	8	H8+	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/3 下部欠損		4.4+			縦位篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色		良好	大形高杯。赤彩
	9	H8+		石製品	砥石	一部欠損	現存長10.5cm・幅4.1～8.3cm・厚さ2.3cm　190.2ｇ									砂岩
12住	1	H9 Po1	床面直上	土師器	甕	胴中位～口縁部 3/5	14.1	12.1+	16.2		胴外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫5㎜大以下を含む	明赤褐色、暗赤灰色	褐灰色、にぶい黄橙色	普通	
	2	H9+	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/2	18.6	15.0+			胴外面縦位篦ケズリ。内面横位の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む、一部褐鉄鉱粒2㎜大を含む	にぶい黄橙色 暗黄褐色	にぶい黄橙色 暗黄褐色	普通	
	3	H9+	覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(15.1)	5.0+			胴外面ケズリ状の篦ナデ？	褐鉄鉱粒少し混入	灰黄褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	良好	外面少し摩耗
	4	H9+	覆土	土師器	甕 赤彩土器	胴上部～口縁部 1/4 口唇部欠損	(16.0)	8.2+	(17.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴内面篦ナデ。外面不明。	褐鉄鉱粒3㎜以下含む	明赤褐色、浅黄橙色	褐灰色、黄橙色	少し不良	外面摩耗著しい。口縁部赤彩。
	5	H9+	覆土	土師器	丸底甕？	底部		2.7+			外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	明黄褐色、黄灰色	黒色	やや不良	内外面少し摩耗。内面ミガキなし、内面黒色処理？
	6	H9+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面指頭圧痕。	密	灰色	灰色	良好	
	7	H9+	覆土	土師器	椀形杯	1/4	(12.4)	4.7+			外面ケズリ状の篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	わずかに不良	
	8	H9+	覆土	土師器	鉢形杯	一部	14.4	4.4+			外面ケズリ状の篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	浅黄色、灰黄色	浅黄色	やや不良	外面摩耗
	9	H9+	覆土	土師器	高盤 暗文土器	破片	(25.0)	1.7+			内面放射状暗文。この字上のシャープな口唇で口縁内面に幅広の条線を有する。	小礫2㎜以下と褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	良好	放射状暗文。搬入品。
	10	H9	覆土	石製品	紡錘車	完存	径3.85～3.90cm・厚さ1.63cm・孔径0.92cm　28.4ｇ									
	11	H9	覆土	石製品	不明	1/2	現在長6.1cm・幅2.8cm・現存厚0.6cm　23.1ｇ									
13・14住	1	H10 黒土層 H11	覆土	土師器	甕 武蔵型	口縁部一部	(20.8)	8.0+			口縁～頸部ヨコナデ。胴外面横位の器肉を薄く仕上げる篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	良好	薄手
	2	H10 黒土層	覆土	土師器	甕 武蔵型	口縁部1/6	(20.2)	5.4+			口縁～頸部ヨコナデ。胴外面横位の器肉を薄く仕上げる篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色	橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗。薄手
	3	H10	覆土	須恵器	短頸壺蓋	口縁部1/4	11.2	3.1+			ロクロ成形を基本とし、天井部外面大きく回転篦ケズリ。	緻密	灰白色、灰色	灰色	良好	短頸壺蓋。
	4	H11 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部1/2	11.6	3.7+			外面ケズリ状の篦ナデ。内面ヨコナデ。	緻密	赤色	赤色	良好	内外面赤彩
	5	H10 Po3	覆土 +13	土師器	椀	1/2	13.0	8.8	14.7	8.8	胴外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を少量含む	暗赤褐色、赤色、黒色、灰赤色	赤褐色、赤灰色	少し不良	
	6	H10	覆土	土師器	鉢	ほぼ完形	12.6	7.4		6.6	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、黒色、にぶい橙色	橙色、褐灰色 にぶい橙色	普通	
	7	H10 黒土層 H8	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部1/4	(12.6)	2.5+			シャープなロクロナデ。	緻密・微黒粒含む。	白灰色、灰色	白灰色	良好	猿投窯産？
	8	H10	覆土	石製品	紡錘車	完存	径3.7～3.8cm・厚さ1.54cm・口径0.70～0.90cm　36.1ｇ									
15住	1	H12 Po5	ほぼ床面	土師器	甕 球胴甕	一部欠損	15.5	24.0	22.7	7.0	胴上半丁寧な篦ナデ。胴下半雑なミガキ状の篦ナデ。	密だが一部に5㎜大の小礫有り	浅黄橙色、橙色、黒褐色	浅黄橙色、橙色、にぶい橙色	やや良好	外面少し摩耗、内面胴下部～底部剥離多い
	2	H12 Po2	床面直上	土師器	甕 球胴甕	4/5	14.2	24.7	23.1	7.6	胴上半篦ナデ。	緻密	褐色、にぶい黄橙色、赤褐色	橙色、にぶい橙色	わずかに不良	内面の口縁部と外面全体が摩耗
	3	H12 Po3	床面直上	土師器	甕 球胴甕	一部欠損	11.7	23.9	21.9	8.0	口唇僅かに玉状を成す。胴外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む。一部に小礫3㎜弱もある	橙色、にぶい赤褐色、黒褐色	橙色、赤褐色 灰褐色	やや不良	内面の口縁部と外面全体が摩耗
	4	H12 Po4	床面直上	土師器	甕 球胴甕	3/5強 底部欠損	13.9	21.5+	20.2		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、赤褐色、黒褐色	浅黄橙色、暗褐色、黒褐色	普通	胴下部の外面摩耗、内面剥離
	5	H12 黒土層	覆土	土師器	甕 球胴甕	胴上部～口縁部 一部	(20.4)	11.0+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面輪積み残す篦ナデ。	緻密	黒褐色、にぶい褐色	褐灰色、灰黄褐色	少し不良	内外面わずかに摩耗
	6	H12 Po3 Po2 黒土層	ほぼ床面	土師器	甕 球胴甕	胴上部～口縁部 1/4	(19.3)	11.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面輪積み残す篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	暗灰黄色、橙色	良好	内外面少し摩耗。粘土紐接合痕。指頭痕
	7	H12 黒土層	覆土	土師器	甕 球胴甕	口縁部1/4	(14.7)	5.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	褐色、黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	8	H12 黒土層	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(14.6)	3.5+			口縁外面縦位の雑なミガキ状の篦ナデ。	緻密	褐灰色、明黄褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、赤褐色	良好	
	9	H12 黒土層	覆土	土師器	甕 球胴甕	口縁部1/4	(18.4)	7.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面輪積み残す篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 黒褐色	灰黄褐色、黒褐色	良好	
	10	H12 黒土層	覆土	土師器	甕 球胴甕	胴上部1/4～ 口縁部1/3	(13.3)	13.1+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗著しい

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
15住	11	H12 黒土層	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(23.6)	8.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	黒褐色、暗灰黄色	黒褐色、暗灰黄色	良好	
	12	H12 Po1	焼土中	土師器	甕	底部4/5強～胴下部1/2		12.0+		6.0	胴外面雑なミガキ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	黒褐色、灰褐色	褐灰色、灰褐色	普通	内外面一部摩耗
	13	H12 黒土層	覆土	土師器	小形甕？	3/5強 口縁部1/2	13.7	11.0	14.8	5.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	14	H12 黒土層	覆土	土師器	甕 赤彩土器	胴上部～口縁部 1/4	(13.7)	9.1+	(19.1)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ。	小礫7㎜以下を一部に極少含む	赤色、赤褐色	赤色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	大変良好	胴外面と口縁部内外面赤彩。
	15	H12 黒土層	覆土	土師器	甕	底部一部		2.3+		(7.8)	篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色	淡い黒色	わずかに不良	外面少し摩耗。木の葉底。(内面黒色処理か？)
	16	H12 黒土層	覆土	土師器	甕	底部1/4		2.5+		(6.2)	雑な整形。外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	橙色	にぶい橙色	少し不良	内外面少し摩耗
	17	H12 黒土層	覆土	土師器	甑 漆塗り	胴下部～底部片		4.7		(5.9)	内面シャープな篦ケズリながら漆塗りにより光沢有り。外面雑な篦ナデ。	小礫3㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	黒色	良好	内面漆塗り。
	18	H12 黒土層	覆土	須恵器	杯蓋	口縁部～体上部 1/6	(15.1)	2.9+			内外面ロクロ成形。天井部外面大きく回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰色	灰色	良好	
	19	H12 黒土層	覆土	須恵器	杯蓋	口縁部片	(12.9)	2.4+			内外面ロクロ成形。天井部外面大きく回転篦ケズリ。	小礫1㎜を含む	灰色、オリーブ灰色	灰色、オリーブ灰色	良好	
	20	H12 黒土層	覆土	須恵器	杯身	体上部～口縁部 1/4	(13.8)	4.6+	稜部径 (15.5)		口唇部やや玉状。内外面ロクロ成形。底部回転篦ケズリ。	小礫1㎜大を少量含む	灰白色	灰白色	良好	
	21	H12	覆土	土師器	杯	口縁部一部	(12.0)	5.0+			口縁内外面光沢を帯びるヨコナデ。稜線はやや鋭い。	緻密	橙色	橙色	良好	
	22	H12 黒土層	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	一部	(12.3)	3.4+	稜部径 (13.8)		内外面光沢を帯びた篦ミガキ。	小礫1㎜大を極少量含む	褐色	灰褐色、にぶい褐色、黒褐色	良好	全面漆塗りである。
	23	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(15.2)	5.1			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少し含む	浅黄橙色、赤褐色	浅黄橙色、赤褐色	少し不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	24	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3	(15.0)	5.7+			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	緻密	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、赤色	わずかに不良	内外面摩耗多い。内面赤彩
	25	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(16.0)	4.9+			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜大を少量含む	赤褐色、にぶい黄橙色	橙色	わずかに不良	内外面赤彩
	26	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(13.4)	3.9+			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤色	良好	内外面赤彩。赤色顔料刷毛塗り痕明瞭。
	27	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体中部～口縁部 1/3	(14.4)	4.0+			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄橙色、赤色	橙色、赤色	少し不良	内外面赤彩痕
	28	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部～口縁部 4/5	13.0	4.7+	13.6		口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	緻密	赤色、灰赤色	赤色、灰赤色	良好	内外面赤彩厚い。
	29	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4 底部欠損	(13.4)	3.9+			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜弱を少量含む	赤色	赤褐色	良好	内外面赤彩
	30	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2 口縁部1/5	(11.0)	4.9			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。成形やや雑。	小礫3㎜以下を少量含む	暗赤色、暗赤灰色	暗赤色、暗赤灰色	良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	31	H12 Po1+7	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強	15.4	15.2	16.0		口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を多く含む	黄灰色、にぶい黄橙色、橙色	橙色	不良	外面底部附近除き内外面赤彩。赤彩定着悪い。
	32	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(16.0)	7.0	16.7		口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜大を含む	橙色、暗赤褐色、赤黒色	明褐色、にぶい褐色	良好	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	33	H12 黒土層	覆土	土師器	椀形杯	1/4 底部欠損	(13.2)	5.1+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	緻密	褐色、灰黄褐色、黒褐色	褐色、灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	体上部やや摩耗
	34	H12 Po5	ほぼ床面	土師器	椀形杯	体中位～口縁部 1/3	(14.0)	5.7+			口縁内外面ヨコナデ。外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	緻密	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	少し不良	内外面摩耗多い。外面に指頭痕有り
	35	H12 黒土層	覆土	土師器	杯	1/5	(14.6)	2.6+			口縁外面ヨコナデ。底部ナデ状の篦ケズリ。内面ミガキ。	緻密	褐灰色、にぶい黄橙色	黒褐色、にぶい黄橙色	良好	内面漆塗りの可能性有り。
	36	H12 黒土層	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5 裾部欠損		3.5+			縦位篦ナデ。	緻密	赤色		少し不良	内外面やや摩耗。赤彩
	37	H12 Po1	覆土 +7	土師器	高杯 赤彩土器	脚基部～杯底部		5.2+			縦位篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	赤褐色（脚）	赤褐色	わずかに不良	赤彩
	38	H12 黒土層	覆土	手捏土器	小鉢形	3/5 口縁部は1/3	(9.0)	4.5		5.7	外面輪積み残す。内面丁寧な篦ナデ。底部木の葉。	密	明褐色、にぶい褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	粘土紐接合痕残る
	39	H12 黒土層	覆土	須恵器	不明脚	脚部 裾端部欠損		3.2+			内外面ロクロナデ。	白色粒2㎜大以下を含む	灰色	浅黄色	良好	
16住	1	H13 Po7	カマド左 ほぼ床面	土師器	甑	3/5	28.4	29.2	23.9	10.0	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を含む	にぶい橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	外面擦過痕多い。内外面部分的に摩耗
	2	H13 Po1 Po2 Po4	ほぼ床面	土師器	甑	一部欠損	25.0	24.6	21.3	7.9	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位の篦ナデ状の篦ケズリ。内面篦ケズリ消し去る篦ミガキ。	小礫1㎜以下を少量含む。一部に5㎜大の小礫有り	にぶい褐色、にぶい橙色、明赤褐色	にぶい褐色、にぶい橙色、明赤褐色	やや不良	内面の口縁部と外面全体が摩耗
	3	H13 黒土層	覆土	土師器	甕 常総型甕	口縁部片	(26.4)	5.9+			口唇部外面直立。口縁内外面シャープなヨコナデ。頸部にはミガキ状の篦ナデを施す。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 赤褐色	浅黄橙色	良好	
	4	H13 Po3	覆土	土師器	甕	底部		3.5+		7.6	外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	明黄褐色、灰黄色	明黄褐色、灰黄色	わずかに不良	外面摩耗多い。内面剥離有り
	5	H13 黒土層	覆土	土師器	甕	底部～胴最下部片		4.9+		(5.2)	外面篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を少量含む	赤褐色、黒褐色	橙色、にぶい橙色	少し不良	内外面摩耗多い
	6	H13 Po2	覆土 +8	土師器	甕	底部片		2.9+		(6.4)	外面篦ナデ。	緻密	褐灰色、灰黄褐色	にぶい褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	7	H13 黒土層	覆土	須恵器	杯身	口縁部片	(13.9)	2.0+	稜部径 (14.7)		内外面ロクロナデ。	白色粒1㎜以下を少量含む	灰白色、灰色	灰白色、灰色	良好	
	8	H13 黒土層	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	1/2	13.2	3.2	13.8		内面ナデ。底部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	少し不良	内外面摩耗多い。漆塗り
	9	H13 Po2	覆土 +8	土師器	杯	1/4	(14.1)	3.8			内外面ミガキ？	緻密	橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い。
	10	H13 黒土層	覆土	土師器	杯	1/4	(15.9)	4.0+			内外面光沢を帯びた篦ミガキ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色	橙色、にぶい橙色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
16住	11	H13 Po6	覆土 +12	土師器	椀 赤彩土器	3/5強	10.3	5.2			底部肉厚。外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、にぶい赤色	赤色、赤褐色	普通	ほとんど丸底。外面口縁部、内面赤彩
	12	H13 Po7	カマド左 覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2		3.8+			外面篦ケズリ。	緻密	赤色	赤色	やや不良	全体にやや摩耗有り。赤彩
	13	H13 Po6	覆土 +12	土師器	高杯	脚部1/2		4.4+		脚径 11.0	脚端部コの字状、ケズリ状の篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい橙色		わずかに不良	外面少し摩耗
	14	H13 Po2	北隅床面	土製品	支脚	上部片		8.1+	6.3		側面一円柱状 断面一円	緻密	橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色	少し不良	少し摩耗有り
	15	H13	覆土	石製品	玉	完存	径0.52～0.54cm・長さ0.32cm・孔径0.2cm 0.133ｇ									
	16	H13 Po5	ほぼ床面	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.4～3.5cm・高さ2.7cm・孔径1.0cm 26.6ｇ									
	17	H13 黒土層	覆土	石製品	砥石	完存	長さ8.9cm・幅3.2～4.6cm・厚み1.9～4.0cm 162.5ｇ									
17住	1	H14 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部片	(15.1)	6.0+			口縁端大きく外反する。胴縦位篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗激しい
	2	H14 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/5 口縁部と胴下部～底部欠損		23.9+	(23.6)		外面雑な縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫4㎜以下を多く含む	にぶい褐色、黒褐色	黄橙色、にぶい黄褐色	良好	
	3	H14 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5		3.3+		6.1	外面篦ケズリ。	小礫3㎜大以下を多く含む	黒褐色、灰黄褐色	にぶい黄褐色 黒褐色	普通	底部外面にカマド粘土付着
	4	H14 +	覆土	土師器	甕	底部4/5		2.2+		6.3	外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	黄橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色	良好	
	5	H14 +	覆土	土師器	鉢	1/2	13.9	11.3	14.9	5.5	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	緻密 1ヶ所2㎜白色小礫有り	暗赤灰色、赤色、黄橙色	橙色	少し不良	内外面摩耗多い
	6	H14 +	覆土	土師器	鉢	底部～体中部 1/3		8.1+	(11.6)	(4.6)	胴外面ケズリ状の篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色	にぶい黄橙色	普通	
	7	H14 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣 漆塗り	1/4	(16.4)	3.0+			口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少し含む	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 黒褐色	少し不良	内面漆塗りの可能性有り
	8	H14 Po3	ほぼ床面 +8	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部片	(14.4)	3.5+			口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	緻密	暗褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	少し不良	口唇部に剥離
	9	H14 Po3	ほぼ床面 +8	土師器	杯 杯蓋模倣	1/6	(16.2)	3.1+	稜部径 (15.7)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	灰黄褐色、浅黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 黒褐色	少し不良	内外面摩耗多い
	10	H14 + Po3？	ほぼ床面 +8	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3 底部欠損	(14.2)	3.5+			口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ケズリ。	褐鉄鉱粒と小礫1㎜以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、褐灰色	普通	内外面一部剥離
	11	H14 Po3	ほぼ床面 +8	土師器	杯 杯身模倣	1/4	(14.3)	2.5+	稜部径 (14.8)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ケズリ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を多く含む	褐灰色、浅黄橙色	灰白色、褐灰色	普通	外面少し擦過痕有り
	12	H14 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	体上部～口縁部一部	(14.2)	2.9+	稜部径 (15.0)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	内面漆塗り。
	13	H14 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	1/4	(14.2)	4.0+	稜部径 (15.2)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色	黒褐色、灰黄褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	14	H14 Po2	ほぼ床面＋8	土師器	杯 杯身模倣	1/4	(11.8)	4.4	(11.9)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少し含む	黒褐色	黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H14 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3 底部～体中部欠損	(15.6)	4.7+	(16.1)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤橙色、赤黒色、灰白色	浅黄橙色、橙色	普通	内外面赤彩
	16	H14 +	覆土	土師器	大形鉢	口縁部1/6	(35.0)	4.6+			口縁内外面および内面強いヨコナデ。体部外面雑な篦ナデ。	緻密	にぶい褐色、灰褐色	褐灰色、にぶい黄橙色、黒褐色	少し不良	内外面摩耗、剥離
	17	H14 +	覆土	須恵器	高杯	脚部片		6.4+			ロクロ成形。	白色粒1㎜以下を少量含む	灰白色、オリーブ黒色	灰色	良好	
	18	H14 Po3	ほぼ床面 +8	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2 杯一部 脚裾部欠損		5.6+			縦位篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少し含む	にぶい黄橙色 褐灰色	橙色	少し不良	脚外面摩耗。杯内面赤彩
	19	H14 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面成形痕消し去るナデ。	緻密	暗灰黄色、灰黄色	灰色	良好	
	20	H14 +	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ5.6cm・幅4.9cm・厚さ2.7cm 11.1ｇ									軽石
18住	1	H15 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	4/5	17.3	27.4	20.7	6.5	口唇肉厚で丸い。口縁内外面ヨコナデ。胴部縦位の粗い篦ケズリ。内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫4㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 暗赤色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗、内面剥離
	2	H15 Po3	覆土 +11	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(17.4)	7.1+			口縁内外面篦ヨコナデ。胴外面縦位篦ナデ。	緻密	赤褐色、赤灰色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	良好	
	3	H15 +	覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(19.6)	4.8+			口縁内外面シャープな篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色、橙色	普通	
	4	H15 Po2	P5内	土師器	甕 大形球胴	胴上部1/2～口縁部・口唇部3/5強	20.0	10.6+			胴部に比してやや細頸で、口唇つまみ上げ開く。頸部外面輪積みを残す。胴外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	少し不良	内外面少し摩耗
	5	H15 p－5	P4内	土師器	甕	頸部附近1/5	頸部径 (21.1)	7.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。	緻密であるが一部に褐鉄鉱粒3㎜大を含む	浅黄色	浅黄色、黒褐色	普通	外面に剥離多い
	6	H15 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/4 底部欠損	(12.6)	3.2+	稜部径 (13.0)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	明褐色、黒褐色	やや不良	
	7	H15 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣 漆塗り	体上部～口縁部 1/4	(15.0)	3.2+			口縁内外面及び内面ヨコナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	明黄褐色、灰黄褐色	黄褐色	やや不良	内面漆塗り？
	8	H15 +	覆土	土師器	杯	一部 底部欠損	(12.0)	4.8+	稜部径 (12.6)		口縁内外面及び内面ヨコナデ。底体部雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫2㎜、一部に認められる	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	9	H15 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	口縁部一部	(12.8)	2.8+	稜部径 (13.9)		口縁内外面及び内面ミガキ。底部篦ナデ。	緻密	黄灰色、浅黄色	黄灰色、浅黄色	良好	
	10	H15 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	体上部～口縁部 一部	(15.2)	3.0+	稜部径 (15.1)		口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ。底部ヘケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	黒褐色	黒色	普通	内面黒色処理
	11	H15 Po6	ほぼ床面 +6	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	4/5 底部中央欠損	13.0	3.3	稜部径 14.2		内面ミガキ。底部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	極暗赤褐色、黒色、にぶい赤褐色、浅黄橙色	極暗赤褐色、黒褐色、にぶい赤褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。全面漆塗り。

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
18住	12	H15	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5 底部欠損	(14.8)	3.6+				緻密	にぶい黄橙色 にぶい橙色	明褐灰色、橙色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗。内外面赤彩わずかに残る
	13	H15	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	ほぼ完形	13.0	6.2			外面篦ナデ。口縁内外面ヨコナデ。内面底部篦ナデ。	緻密	赤色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面赤彩
	14	H15 H15ト13複合部分	覆土	土師器	短頸壺	一部欠損	9.0	8.3	12.6	6.0	口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色、灰褐色	やや良好	
	15	H15 Po3	覆土 +11	土師器	鉢	1/3 口縁部一部	(20.8)	12.5		(7.0)	内面丁寧なナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 灰赤色、明赤褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	良好	木の葉底
	16	H15 Po7	覆土 +8	土師器	高杯	4/5 口縁部1/2	14.9	8.7		脚径 10.4	口縁外面ヨコナデ。杯部内面ミガキ。杯外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい赤褐色	浅黄色、暗灰黄色	やや不良	全面とも摩耗多い
	17	H15 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/4 杯一部		6.0+		脚径 (9.3)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。屈曲。	小礫1㎜以下を含む	赤色	にぶい赤色	少し不良	全体わずかに摩耗。赤彩
	18	H15 カマド	カマド 燃焼部	土師器	高杯 内黒土器	脚基部片		5.1+			脚柱篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、にぶい黄橙色	黒色	やや不良	外面少し摩耗。内面黒色処理
	19	H15 Po4	覆土 +18	土製品	支脚	基部を欠く		12.4+	7.6		側面一円錐台 断面一円	小礫3㎜以下を含む	褐色		不良	灰付着
	20	H15 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部をわずかに欠く		17.7+	8.9		側面一円錐台 断面一不整形	小礫1㎜前後含む	明黄褐色、灰褐色		不良	
	21	H15 カマド	カマド燃焼部？	土製品	丸玉	完形	径1.04～1.06cm・厚さ0.76cm・孔径0.15cm　0.936ｇ									
	22	H15 Po4	床面直上	石製品	砥石	1/2	現存長7.1cm・幅4.1cm・厚さ4.1cm　182.5ｇ									
19住	1	H16 Po1	床面直上	土師器	甕	口縁部のみ	18.5	7.1+			口縁大きく開く。口頸部に輪積みを残し、内外面ヨコナデ。	小礫7㎜以下を極少量含む	橙色、浅黄橙色	にぶい橙色、橙色、灰褐色	わずかに不良	
	2	H16	覆土	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	体上部～口縁部 1/5	(10.0)	2.7+	稜部径 (11.0)		口縁内外面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩。
	3	H16 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部1/6	(9.6)	2.6+			内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜弱を少量含む	赤褐色、暗赤灰色	赤色	良好	内面赤彩
	4	H16	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部 底部欠損	(15.2)	4.1+	(15.2)		内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	灰白色、明赤褐色	やや不良	外面摩耗多い。内外面赤彩
	5	H16 +	覆土	手捏土器	鉢形	1/2	4.3	4.1		3.5	胴中位で屈曲。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	良好	
	6	H16	覆土	土製品	土玉	完形	径2.6～2.7cm・高さ2.2cm・孔径0.5cm　13.3ｇ									
20住	1	H17 +	覆土	土師器	甕	口縁部一部	(15.6)	7.2+			口縁内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	明赤褐色	灰褐色、橙色	良好	
	2	H17	覆土	土師器	甕	口縁部1/6	(16.9)	2.9+			口縁内面横位の刷毛目、外面縦位の刷毛目を残す。	密	灰黄褐色、褐灰色	黒褐色	良好	五領
	3	H17	覆土	土師器	甕	底部1/2		1.6+		6.4	内面ナデ。外面篦ナデ。	緻密	暗黄褐色	暗黄褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	H17 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面荒い篦ナデ成形。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰白色	灰白色	良好	
	5	H17 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部片	(14.6)	2.0+			口縁内外面ヨコナデ。底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大を少量含む	赤褐色、浅黄橙色	赤色	良好	内外面赤彩
	6	H17 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部一部	(13.8)	4.0+			口縁内外面ヨコナデ。底体部篦ナデ。体部外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	良好	内外面赤彩
	7	H17 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚上部1/4		1.9+			縦位篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色		良好	赤彩
	8	H17		石製品	叩き石	一部	大きさ8.2cm×5.5cm×4.3cm　215.5ｇ									
21住	1	H18 Po4	ほぼ床面 +6	須恵器	短頸壺？	口縁部一部	18.7	5.1			口唇コの字状を呈し稜線明瞭、内面に条線を有する。口縁内外面シャープなロクロナデ、体部外面細かな平行叩き目。	緻密 白色粒1㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	大変良好	成形・焼成・胎土ともに有品。
	2	H18 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目？	緻密	褐灰色	褐灰色	良好	
	3	H18 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。	小礫1㎜以下を少量含む	オリーブ黒色	灰オリーブ色	良好	
	4	H18 Po6	覆土 +9	土師器	甕	胴中位1/6～ 口縁部3/5	15.1	13.4+	(18.5)		胴外面ナデ状の篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	赤褐色、暗赤褐色、褐色	赤褐色、にぶい黄褐色、褐灰色	少し不良	内外面少し摩耗
	5	H18 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/2	14.6	9.6+			胴外面篦ナデ。	緻密	橙色、黒褐色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	不良	外面は摩耗、内面は剥離が多い
	6	H18 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 一部	(12.8)	8.6+	(11.7)		胴外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	橙色、にぶい褐色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面胴部が摩耗
	7	H18 +	覆土	土師器	甕	胴中位～口 縁部1/2	12.8	9.2+	12.2		胴外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	明黄褐色	良好	
	8	H18 Po2 Po6 +	ほぼ床面 +6	土師器	甕	上半1/4		7.7+	(28.0)	8.2	胴外面斜位の丁寧なケズリ状の篦ナデ。	緻密	にぶい褐色	橙色	良好	内面の一部が剥離
	9	H18 +	覆土	土師器	甕	底部		4.0+		8.4	胴外面斜位の篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい赤褐色 赤黒色	にぶい黄橙色	良好	内面剥離著しい
	10	H18 Po3	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣	3/5 底部附近欠損	16.2	4.0+			口縁外面ヨコナデ。底部外面篦ケズリで一部ミガキ。内面ミガキ。	緻密	黒褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 明褐色、黒褐色	やや良好	
	11	H18 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣 漆塗り	一部 底部欠損	(13.3)	4.0+	稜部径 (12.8)		口縁外面ヨコナデ。底部外面篦ナデ。内面ミガキ。	緻密	浅黄色、黒褐色	黄灰色、黒褐色	わずかに不良	外面少し摩耗。内面漆塗り？
	12	H18 Po1	ほぼ床面	土師器	杯	3/5	13.6	3.6			内面丁寧なミガキ。底部外面やや粗いミガキ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	少し良好	
	13	H18 +	覆土	土師器	杯	部分 底部欠損	(13.8)	3.1+			口縁内外面丁寧なヨコナデ。底部外面篦ケズリ。	緻密	黄橙色、褐灰色	黄灰色、浅黄色	少し不良	内外面少し摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
21住	14	H18	覆土	土師器	杯 内黒土器	1/3 底部附近欠損	(14.8)	4.3+			内面篦ミガキ。底部外面ミガキ状の篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 明褐色	黒色、灰褐色	やや不良	外面やや摩耗、内面少し剥離。内面黒色処理または漆塗り。
	15	H18 +	覆土	土師器	杯 比企型杯 赤彩土器	口縁部1/5	(13.0)	2.9+			口唇内側に条線を有し、口縁内外面ヨコナデ。底部外面篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 赤色	にぶい赤色、 赤色	良好	外面口縁部、内面赤彩
	16	H18 南ピット 内	P3内	土師器	杯 杯身模倣	完形	12.8	4.2	稜部径 13.7		口縁内外面シャープなヨコナデ。底部外面篦ケズリを残す篦ナデ。	緻密	淡黄色、にぶい黄橙色	黒褐色、にぶい黄橙色	やや良好	
	17	H18 + Po(4)？	ほぼ床面	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	1/2	13.3	3.4	稜部径 13.9		口縁内外面ヨコナデ。底部外面篦ケズリを残す篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大を含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	黒色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗有り。内面黒色処理
	18	H18 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	1/3 口唇部一部・底部欠損	(12.8)	4.0+	稜部径 (13.5)		口縁内外面ヨコナデ。底部外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	褐灰色、黒色	わずかに不良	内外面摩耗有り。内面漆塗り。
	19	H18 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	2/3 口縁部一部	(10.8)	4.1	12.2		口縁内外面ヨコナデ。底部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	橙色、浅黄橙色、灰黄色、黄灰色	にぶい黄色、にぶい黄褐色	少し不良	内外面摩耗多い
	20	H18 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	口縁部片	(11.8)	3.4+	稜部径 (12.5)		口縁内外面ヨコナデ。底部外面篦ナデ。	緻密褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	灰黄色、黄灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	21	H18 Po6	ほぼ床面	土師器	高杯	脚部2/3 下部欠損		4.7+			外面縦位のミガキ状の篦ナデ。杯内面ミガキ。	緻密	黄灰色、浅黄色	黄灰色、浅黄色	やや不良	全体に摩耗、特に杯部は著しい
	22	H18 Po2	ほぼ床面 +6	土師器	高杯 赤彩土器	脚部分		3.9+			外面縦位の篦ナデ。	小礫2㎜弱を含む	赤褐色、暗赤灰色		普通	脚上部わずかに摩耗。赤彩
	23	H18 Po2	覆土 +10	土師器	高杯	脚上部1/2		4.7+			外面縦位の篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい黄橙色	橙色、明褐灰色	不良	内外面摩耗
	24	H18 + Po2	ほぼ床面 +6	土師器	椀 内黒土器	3/5強 底部欠損	14.0	8.9	15.4		口縁内外面ヨコナデ。底体部輪積み残すケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	黒色	少し不良	内外面少し摩耗、内面の一部剥離。内面黒色処理
	25	H18 +	覆土	土師器	コップ	底部		2.5+		5.3	内面凹凸残す篦ナデ。	緻密	褐灰色、にぶい黄橙色	明黄褐色	良好	
	26	H18 Po6	ほぼ床面	土製品	支脚	両端欠損一部		7.8+		8.0	側面一円錐台か？ 断面一円か？	緻密	にぶい黄橙色 明黄褐色		不良	
	27	H18 +	覆土	土製品	土玉	1/2	径3.0cm・高さ2.7cm・孔径0.7cm　(15.2ｇ)									
22住	1	H19 黒土層内	覆土	須恵器	甕	口縁部片	(18.3)	3.4+			口縁端部摘み上げ、口唇外面下端と頸部にシャープな突帯を当て具を使用して整形。	小礫1㎜大以下を極少量含む	暗灰色	オリーブ灰色 暗オリーブ灰色	良好	
	2	H19 Po10	床面直上	土師器	大甕	胴最上部2/5～口縁部1/4	(27.4)	12.2+			口唇部コの字状。口縁内外面ナデ。胴内外面篦ナデ。	小礫1㎜以下と褐鉄鉱粒3㎜以下含む	暗赤褐色、極暗赤褐色、橙色	暗赤褐色、極暗赤褐色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	H19 Po14 黒土層	覆土 +11	土師器	甕	胴上部～口縁部1/6	(27.8)	8.6+			肉厚。口縁内面ヨコナデ。外面縦位の雑な篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	暗赤灰色、明赤褐色	暗赤灰色、明赤褐色	やや不良	内面の剥離が著しい
	4	H19 Po16+3	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部3/5～口縁部3/5強	16.1	11.1			肉厚気味。口縁内面ヨコナデ。外面縦位のケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜弱以下を少量含む	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	普通	
	5	H19 Po16+3 Po17 Po19	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部3/5強	15.4	9.1			肉厚気味。口縁内面ヨコナデ。胴外面斜位のケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	浅黄色	浅黄色、明黄褐色	良好	
	6	H19 黒土層	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部1/3	(15.7)	6.2+			肉厚気味。口縁内面に輪積み痕を残すヨコナデ。胴外面斜位のケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい赤褐色 明赤褐色	にぶい赤褐色 灰黄褐色	普通	内外面一部に剥離。籾圧痕あり
	7	H19 Po20	覆土 +13	土師器	甕	口縁部片	(16.3)	5.7+			肉厚気味。口縁内面ヨコナデ。胴外面斜位のケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下が少し目立つ	黒褐色	黒褐色	普通	色調、胎土が他と少し違う
	8	H19 Po15+11 黒土内	覆土 +11	土師器	小形丸底 甕	1/4 底部欠損	(13.6)	12.9+	(15.0)		口縁内面ヨコナデ。胴外面斜位のケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む。一部3㎜弱の小礫有り	橙色、にぶい橙色、褐灰色 黒褐色	橙色、にぶい橙色、褐灰色 黒褐色	普通	二次焼成ない
	9	H19 Po15+11	覆土 +11	土師器	小形丸底 甕	底部4/5～体部1/2～口縁部2/5	(11.6)	13.9	13.1	4.6	口縁内面ヨコナデ。胴外面不規則な篦ケズリ消し去るミガキ状の篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、黒褐色、褐灰色	にぶい橙色、橙色	普通	丸底ぎみ
	10	H19 Po7	覆土 +16	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部3/5強	16.7	16.3+	22.6		口縁部立つ。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	灰黄褐色、浅黄色、黒褐色	灰黄褐色、浅黄色、黒褐色	やや不良	外面剥離多い。内面やや摩耗
	11	H19 貝層内	貝層内	土師器	甕	胴上部～口縁部一部	(24.9)	8.7+			口縁大きく開く。口唇丸く僅かに上方に。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。	小礫2㎜を含む	浅黄色、黒褐色、橙色	浅黄橙色、にぶい褐色	良好	胎土や口縁部の形態など少し他と違う
	12	H19 Po11	覆土 +10	土師器	甕	底部1/2		5.6+		6.5	外面篦ナデ。	小礫3㎜大以下を少量含む	褐灰色、灰黄褐色	明黄褐色	やや不良	外面に摩耗、剥離
	13	H19 貝層内 Po15	貝層内	土師器	甕	底部1/2		3.5+		7.6	外面篦ナデ。	緻密	明赤褐色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	わずかに不良	外面に少し摩耗有り
	14	H19 黒土層内	覆土	土師器	甕	底部		3.9+		7.2	外面篦ナデ。底部外面輪状を呈する。	小礫3㎜以下を含む	にぶい赤褐色	明黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内面の剥離が著しい。底部、雑な成形による粘土接合痕が高台状の段になっている
	15	H19 貝層内	貝層内	土師器	甑または 鉢形甕	口縁部1/5	(21.3)	7.2+			口縁僅かに外反しヨコナデ。胴内面横位の篦ナデ、外面ミガキ状の縦位の篦ナデ。	小礫1㎜大を少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色	良好	
	16	H19 Po10	覆土 +17	土師器	甑または 鉢形甕	胴上部～口縁部1/5	(16.4)	6.9+			口縁僅かに外反しヨコナデ。胴内面横位の篦ナデ、外面縦位の篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大を含む	にぶい黄橙色 黒褐色、黄褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色	良好	
	17	H19 Po16+3	ほぼ床面	土師器	甑または 鉢形甕	胴下部2/5～胴上部4/5～口縁部3/5強下端欠損	27.2	13.9+			口縁外反ヨコナデ。胴外面横位の篦ケズリ。内面雑な篦ナデ。	小礫2㎜以下と褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少含む	黒褐色、にぶい黄橙色、赤褐色	黒褐色、にぶい黄橙色、赤褐色	普通	
	18	H19 Po20 黒土内	覆土 +13	土師器	甕	底部～胴下部1/3		7.6+		(8.8)	胴外面斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤黒色、にぶい赤褐色	浅黄色、黄灰色	良好	
	19	H19 Po11	覆土 +11	土師器	甑	下端孔部3/5～胴部4/5～口縁部2/5	(19.5)	16.4		7.1	口縁立ち、ヨコナデ。胴外面斜位の篦ケズリ。内面ミガキ状の篦ナデ。	小礫2㎜大を含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、黒褐色	普通	外面の胴下半やや摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
22住	20	H19 Po11	覆土 +11	須恵器	杯蓋	口縁部～体上部 1/4	(11.8)	4.0+			口唇シャープに摘みだす。天井部外面と口縁外面降灰による釉かぶる。	小礫3㎜大以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色	良好	外面降灰。陶邑古窯産。TK23.
	21	H19	覆土	土師器	杯 大形模倣	体上部～口縁部 1/4	(14.7)	5.7+	(15.6)		口縁及び内面丁寧なヨコナデ。体部外面篦ミガキ。	緻密	褐灰色、明褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	良好	
	22	H19 Po6	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5 口縁部3/4	13.6	4.3			口縁及び内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、橙色、灰赤色、赤黒色	赤色、橙色、灰赤色、赤黒色	やや不良	内外面わずかに摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	23	H19 Po14+11	覆土 +11	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 口縁は一部	(12.0)	4.7	(12.2)	4.6	底部肉厚。外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜弱以下を少量含む	赤色、赤黒色 浅黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。厚手。底部やや丸底ぎみ。内外面赤彩
	24	H19 黒土内	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(15.3)	4.7			外面篦ナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。	緻密	黄橙色、明黄褐色、褐灰色	黄橙色、明赤褐色	少し不良	内外面赤彩
	25	H19 Po5	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	15.2	5.4	15.7		口縁及び内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	浅黄色、黒褐色、赤色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	26	H19 Po17-2	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5 口縁部3/5	14.7	5.0	15.0		口縁内湾気味。口縁内外面ヨコナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	27	H19 Po17 黒土層	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4 底部欠損	(14.4)	4.4+	(15.3)		口縁内湾。口縁内外面ヨコナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大を含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	少し不良	内外面少し摩耗、内面の口縁部は一部剥離。内外面赤彩
	28	H19 Po21	ほぼ床面 +3	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4 口縁部は一部	(14.4)	5.2	(14.9)		口縁内湾。口縁内外面丁寧なヨコナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	赤色、赤黒色 暗赤灰色	浅黄橙色、にぶい赤橙色	良好	比較的薄手。内面赤彩
	29	H19 Po2+2	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 口縁部1/3	(14.3)	6.5	(14.8)		深い。口縁内湾気味。口縁内外面ヨコナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	赤色、浅黄橙色、灰黄褐色	赤色、浅黄橙色、にぶい褐色	不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	30	H19 Po9	ほぼ床面 +7	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2	(13.8)	6.4	(14.4)		深い。口縁内湾気味。口縁内外面ヨコナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、暗赤灰色	にぶい赤色、赤色、灰黄色	少し不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	31	H19 Po1+2	貝層内	土師器	椀 赤彩土器	底部附近3/5強～体部1/6	(14.3)	9.6			口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。底体部篦ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、灰黄褐色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。内外面の底部附近除き内外面赤彩
	32	H19 Po21 Po17 黒土層	ほぼ床面 +3	土師器	椀 赤彩土器	3/5 口縁部欠損		6.8+	(13.3)		内面ミガキ状の篦ナデ。底体部篦ナデ。	緻密	橙色、赤褐色	橙色、赤色、暗赤灰色	やや不良	内外面少し摩耗あり。外面底部附近除き内外面赤彩
	33	H19 貝層内	貝層内	土師器	鉢 赤彩土器	口唇部1/2欠損	12.5	8.8		5.8	口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。体部ミガキ状篦ナデ。底部篦ナデ。	密	赤褐色、赤黒色、暗赤灰色	にぶい赤色、赤黒色	普通	外面底部除き内外面赤彩
	34	H19 貝層内	貝層内	土師器	鉢	完形	10.2	8.8	10.6	6.0	口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。体部ミガキ状篦ナデ。底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒6㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	わずかに不良	
	35	H19 Po11	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部片	(17.4)	4.7+			口縁内外面および内面ヨコナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。	緻密	褐灰色、淡橙色	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩痕有り
	36	H19 黒土内 Po11	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部 杯部1/3	(14.0)	10.1		脚径 8.1	口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。脚丁寧な縦位の篦ナデ。	小礫2㎜以下、褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	赤色、黒褐色	赤色、にぶい黄橙色	普通	赤彩
	37	H19 +1	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚上部～杯部 3/5強 口縁部3/5	15.1	8.7	15.2		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。脚丁寧な縦位の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い。赤彩
	38	H19 Po3	覆土 +13	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5強～杯部4/5	14.6	10.0	15.0	脚径 9.4	口縁薄くシャープに仕上げ内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面ミガキ状の篦ナデ。脚丁寧な縦位のミガキ状の篦ナデ。	小礫6㎜以下を少量含む	赤色、にぶい褐色、赤灰色	赤色・灰赤色	やや良好	杯底部内面やや摩耗。赤彩
	39	H19 Po4+3	ほぼ床面 +3	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5 口縁部1/5	(14.4)	5.7+	(14.9)		口縁内外面ヨコナデ。内面雑ナデ。外面輪積みを残す雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	赤色、にぶい橙色	赤色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	40	H19 Po8+13	覆土 +13	土師器	坩？ 赤彩土器	杯部1/3		6.5+	(14.6)		外面篦ナデ。内面篦ナデ。	緻密	赤色、灰黄褐色	にぶい黄色、黄灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗。外面赤彩
	41	H19 Po21 黒土内	ほぼ床面 +3	土師器	高杯 赤彩土器	杯部の体中位～口縁部1/3	(17.0)	8.0+			口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。外面ケズリ痕を残す篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	全面赤彩。
	42	H19 貝層内	貝層内	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		4.1+		脚径 9.0	外面縦位篦ナデ。	1ヶ所3㎜大の褐鉄鉱粒有り	赤褐色		良好	赤彩
	43	H19 Po11	覆土 +9	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		4.7+		脚径 8.2	外面縦位の雑な篦ナデ。	緻密	赤褐色、浅黄橙色		良好	赤彩
	44	H19 黒土層	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5 脚裾部一部		8.2+		脚径 (11.0)	外面縦位の雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒(最大5㎜大)含む	にぶい黄橙色 赤色	赤色	良好	赤彩
	45	H19 黒土層	覆土	土師器	高杯	脚部3/5強 裾部は2/5 杯一部		5.3+		脚径 (9.5)	外面縦位の雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	灰黄褐色、橙色	橙色	やや不良	杯内面と脚内面裾部が摩耗
	46	H19 黒土内	覆土	灰釉陶器	長頸壺	口縁部1/4	(9.3)	4.0+			口唇外面帯条のコの字を呈する。口頸部外面条線有り。全体に降灰あり。	白色粒2㎜大を極少量含む	にぶい赤褐色 暗オリーブ色	オリーブ黒色 灰白色	良好	釉色はにぶい濃緑色。
	47	H19 床面		土製品	土玉	4/5	径4.3～4.6cm・高さ4.2cm・孔径0.6cm (61.3ｇ)									
	48	H19 黒土内	覆土	土製品	管状土錘	2/5	径(2.7cm)・現存高4.5cm・孔径0.4cm (14.0ｇ)									
	49	H19	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ3.8cm・幅2.6cm・厚さ2.0cm 5.9ｇ									軽石
23住	1	H20 Po1	床面直上	土師器	甕 畿内産丸底甕 山城産？	口縁部1/2欠損	14.2	12.8	14.9		口唇は丸く摘み出す。口縁内外面ナデ。胴外面上半縦位刷毛目、下半篦ケズリ。内面丁寧な刷毛目成形。	小礫3㎜以下を多く含む	淡赤橙色、淡橙色、灰白色、黒褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	不良	摩耗、剥離多い。畿内山城産？搬入品
	2	H20 Po8	床面直上	土師器	杯	3/5	13.0	4.2		7.8	僅かに出尻気味の平底。体部外面斜位の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下少量、浅黄橙色粒3㎜以下を極少含む	橙色、浅黄橙色、灰褐色	橙色、にぶい褐色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	3	H20	覆土	鉄製品	釘	一部	現存長6.0cm・径0.5cm×0.5cm 6.2ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
24住	1	H21	覆土	土師器	鉢？	底部～胴下部 1/2		2.7＋		5.8	体部下端雑な篦ナデ。内面篦ナデ。底部木の葉痕。	小礫1㎜以下を含む	明赤褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、橙色	やや良好	木の葉底
	2	H21＋	覆土	土師器	鉢	底部1/2		1.9＋		5.8	外面篦ナデ。内面篦ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	明黄褐色、橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離
	3	H21	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	良好	
	4	H21＋	覆土	灰釉陶器	椀？	底部1/4		1.4＋		(5.1)	厚みの有る三角形高台を貼り付ける。	緻密	白灰色	白灰色	普通	
	5	H21 Po1	ほぼ床面	土師器	杯 杯蓋模倣	1/2	14.0	3.7	稜部径 13.3		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部ミガキ状の篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面体部の摩耗が著しい
	6	H21 Po4	覆土 ＋11	土師器	杯 杯蓋模倣	1/4 底部欠損	(13.0)	3.6＋			口縁外面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。内面丁寧なミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少し含む	橙色、灰褐色	にぶい橙色、黒褐色	やや不良	内外面の体部が少し摩耗
	7	H21 Po1	ほぼ床面	土師器	杯 杯蓋模倣	2/5	(14.6)	3.7＋			口縁外面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。内面丁寧なミガキ。	緻密	橙色、浅黄色 黒褐色	橙色、浅黄色	普通	
	8	H21	覆土	土師器	杯 杯身模倣	一部 底部欠損	(12.9)	3.2＋	稜部径 (14.3)		口縁内外面ヨコナデ。内面丁寧なナデ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	9	H21	覆土	土師器	小形椀	1/2	11.7	4.4			内面ナデ。外面輪積み残すナデ？	小礫1㎜以下を極少量含む	浅黄色、灰黄色	にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗、内面は剥離有り
	10	H21 Po2	床面直上	土師器	高杯？	杯体上部～口縁部1/2	19.0	5.5＋			口縁内外面ヨコナデ。内面丁寧なナデ。体部外面篦ナデ状の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	明黄褐色	橙色	やや不良	全体に少し摩耗
	11	H21	覆土	土師器	椀形杯？ 赤彩土器	体上部～口縁部片	(13.0)	3.5＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	内外面赤彩
	12	H21	覆土	土師器	高杯	脚部1/2		4.8＋			杯内面篦ミガキ。脚縦位の篦ナデ。	緻密	赤色、灰赤色	灰褐色	普通	
	13	H21＋	覆土	土製品	支脚	両端欠損一部		4.5＋	4.8		側面一円柱状？ 断面一円	緻密	灰黄褐色		比較的良好	
	14	H21 Po1		鉄製品	鎌	部分	推定復元長9.5㎝　基部幅3.1㎝・厚さ0.4㎝　11.4ｇ									
25住	1	H22 Po3 H21	ほぼ床面焼土中	土師器	甑	2/5 口縁部1/2 下端欠損	25.7	25.4＋	(23.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位の篦ケズリ。内面縦位の篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、橙色、褐灰色	にぶい橙色、橙色、褐灰色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	H22＋	覆土	土師器	甕	底部～胴下部 1/4		3.1＋		5.9	外面篦ケズリ。内面丁寧なナデ。	緻密	にぶい橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	黄灰色、黒褐色	わずかに不良	内面剥離多い
	3	H22＋	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/4	(14.0)	3.9			全面にミガキを施し、部分的に光沢有り。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	暗灰黄色、淡黄色、褐色	淡黄色、明黄褐色、黄灰色	良好	
	4	H22 Po5	覆土 ＋15	土師器	杯 杯蓋模倣 赤彩土器	4/5	13.6	3.7	13.5		口縁内外面ヨコナデ。底体部篦ケズリ。	緻密	赤色、にぶい赤褐色	赤色、にぶい橙色	良好	内面（少し荒い塗り方）と外面体部（底部はなし）まで赤彩
	5	H22 Po3	ほぼ床面	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3	(12.9)	3.5	稜部径 (14.2)		口縁内外面ヨコナデ。底体部篦ケズリ。内面底部ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H22 Po1	覆土 ＋9	土師器	鉢	口縁部1/2	(19.0)	5.6＋			口縁内外面強いヨコナデで外面に稜線を作り出している。内面丁寧なナデ。	緻密	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	普通	外面胴部は摩耗、内面胴部は剥離有り
	7	H22＋ H30＋	覆土	須恵器	ハソウ	口縁部1/2	11.2	4.2＋				小礫1㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色、浅黄色	淡黄色、オリーブ黄色、オリーブ色、灰色	普通	内面に薄く自然釉かかる。33住-19と接合
26住	1	H23 Po4	ほぼ床面＋5	土師器	甕	口縁部1/5	(17.3)	5.3＋			口縁内外面ヨコナデ。口頸部縦位のミガキ上の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤褐色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	赤褐色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	普通	内面の口縁部一部剥離
	2	H23 Po3	ほぼ床面	土師器	甕	1/3 口縁部一部 胴下部欠損	(13.4)	9.1＋	(14.0)		口縁内外面ヨコナデ。口頸部内面篦ナデ、外面強い篦ナデ状圧痕有り。	緻密	にぶい橙色、橙色、褐灰色	にぶい赤褐色 橙色、灰赤色	わずかに不良	外面少し摩耗
	3	H23 Po5	ほぼ床面＋6	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(14.5)	7.5＋			口縁部外面ヨコナデ。内刷毛目消し去るヨコナデ。胴内面斜位篦ナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	灰黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	4	H23 Po3 H24カマド	ほぼ床面	土師器	鉢形甕	胴上部～口縁部 1/4	(16.2)	7.0＋			器表面荒れ不明。頸部広く口縁僅かに開く。	褐鉄鉱粒3㎜大を含む	灰褐色、橙色	褐灰色、橙色	少し不良	内外面摩耗。内外面摩耗激しく不詳多い
	5	H23 Po4 ＋	ほぼ床面＋5	土師器	甕	口縁部3/5強	15.7	4.5＋			肉厚。口縁部外面縦位刷毛目消すナデ。内面刷毛目多く残る。	小礫3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、浅黄橙色	少し良好	
	6	H23 Po4 ＋	ほぼ床面＋5	土師器	壺	上半1/2 口縁部3/5	11.8	9.4＋			口縁内面ヨコナデ。外面縦位の篦ナデ。胴外面ミガキ上の篦ナデ。胴内面輪積み明瞭に残る。	小礫6㎜以下を極少量含む	橙色、明赤褐色、灰褐色	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面の頸部は摩耗多い。内面の口縁上部が一部剥離が多い
	7	H23 Po4 Po10 ＋	ほぼ床面＋5	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 底部欠損	14.3	5.7＋			口縁内外面及び内面ナデ。底体部篦ナデ。	小礫2㎜以下と褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、黄橙色	赤色、灰赤色 明黄褐色	やや不良	内外面一部摩耗。内外面赤彩
	8	H23 Po3	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部欠損	14.0	4.9	14.5		口縁内外面及び内面ナデ。底体部篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色、赤褐色	不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	9	H23 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(14.2)	4.3	(14.6)		口縁内外面及び内面ナデ。底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤褐色、浅黄橙色	赤色	普通	内外面わずかに摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	10	H23 ＋ Po4	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	2/5	(13.8)	4.4	(14.3)		口縁内外面及び内面ナデ。底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を多く含む	赤色、明黄褐色	赤色、明黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面の口縁部附近赤彩
	11	H23 Po8 Po9	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強	14.0	5.1	14.7		口縁内外面及び内面ナデ。底体部丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜弱以下を含む	にぶい赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面口縁部赤彩
	12	H23 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2	13.5	5.2	14.5		口縁内外面及び内面ナデ。底体部ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大を含む	赤色、浅黄橙色	赤色、赤灰色	普通	外面底部附近除き内外面赤彩
	13	H23 Po7 ＋	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 底部欠損	14.4	6.2＋	15.6		口縁内外面ナデ。内面篦ミガキ。底体部外面ミガキ状の丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	赤色、浅黄色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面小さい剥離が多い。外面底部附近除き内外面赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
26住	14	H23 Po3	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(14.9)	5.7＋	(16.0)		口縁内外面および内面篦ミガキ。体部外面ミガキ状の丁寧な篦ナデ。底部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、赤褐色	赤色、赤褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	15	H23 Po1	P4内	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/6	(13.9)	5.4＋			口縁内外面及び内面ナデ。底体部ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	明赤褐色、にぶい赤褐色、黒褐色	赤色、にぶい赤褐色	普通	外面底部附近除き内外面赤彩
	16	H23 Po2	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片		5.5＋		脚径 9.7	脚外面縦位の篦ナデ。杯内面ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色	にぶい赤色	わずかに不良	脚部外面少し摩耗。赤彩
	17	H23 Po4	ほぼ床面	土師器	大形高杯 赤彩土器	脚部片		5.2＋		脚径 (17.2)	脚外面縦位のケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤色、赤灰色		普通	赤彩
	18	H23 Po10	ほぼ床面	土師器	椀 赤彩土器	口縁部1/6	(13.2)	4.0＋			口縁内外面ヨコナデ。外面体部篦ナデ？	小礫2㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	内面赤彩
	19	H23 Po10	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部一部	(11.7)	2.8＋	(12.4)		口縁内外面ヨコナデ。外面体部篦ナデ？	褐鉄鉱粒、小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい褐色、黒褐色	黒褐色、褐色	普通	内外面赤彩
	20	H23 Po8	ほぼ床面	土師器	椀 赤彩土器	一部 底部欠損	(10.1)	4.6＋	(10.4)		粗雑。口縁内外面ヨコナデ。外面体部篦ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	明赤褐色、明黄褐色	少し不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	21	H23 Po1	P4内	土師器	杯 赤彩土器	一部 底部欠損	(11.2)	4.8＋			口縁内外面ヨコナデ。外面体部篦ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤褐色	赤褐色	普通	内外面赤彩
	22	H23 ＋	覆土	土師器	鉢 赤彩土器	1/4	(14.3)	8.2＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。外面体部篦ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤色、橙色、赤灰色	赤褐色､橙色、灰赤色	普通	外面底部附近除き内外面赤彩
	23	H23 Po3	ほぼ床面	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き。	小礫1㎜大以下を含む	灰色	灰色	良好	
	24	H23 Po8		土製品	支脚	一部		5.7＋			側面―不明 断面―円	緻密	褐灰色、淡黄橙色		不良	
	25	H23 ＋	覆土	土製品	土玉	1/2	径(4.0cm)・高さ3.6cm・孔径0.7cm （21.6ｇ）									
	26	H23 ＋	覆土	土製品	土玉	1/4	径(4.0cm)・現存高4.0cm・孔径0.6cm （13.8ｇ）									
	27	H23 ＋	覆土	土製品	管状土錘	2/5	径3.0cm・現存高3.7cm・孔径0.5cm （16.8ｇ）									
	28	H23	覆土	土製品	土玉	2/5	径(3.0cm)・現存高2.4cm・孔径0.4cm （5.4ｇ）									
	29	H23 ＋	覆土	石製品	砥石	一部	現在長7.3cm・現在幅1.6～2.7cm・厚さ4.0cm 96.5ｇ									流紋岩
27住	1	H24 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/3	(17.2)	7.6＋			口唇摘み僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ナデ状の篦ミガキ。内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	明赤褐色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	橙色、浅黄色	良好	
	2	H24 カマド H23Po3	ほぼ床面	土師器	甕 (小形)	1/4 底部欠損	(16.0)	12.8＋	(17.0)		器表面荒れ成形不鮮明。口縁部僅かに外傾。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色 明黄褐色	不良	内外面摩耗が著しい
	3	H24 ＋	覆土	須恵器	杯身	1/5 底部欠損	(14.0)	4.0＋	稜部径 (16.0)		内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰オリーブ色 灰色	灰白色、浅黄色	良好	
	4	H24 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	体上部～口縁部 一部	(12.2)	3.1＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大を極少量含む	灰黄褐色、褐灰色	褐灰色、浅黄色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	5	H24 ＋	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3	(15.3)	4.4＋	(15.2)		口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒5㎜を含む	浅黄色、暗灰黄色	浅黄色、暗灰黄色 黒褐色	良好	
	6	H24 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5	(17.2)	5.1＋	(17.5)		やや肉厚。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	赤褐色、灰赤色	赤褐色、灰赤色、橙色	わずかに不良	内外面赤彩
	7	H24 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形椀	1/2	(10.3)	5.6＋	(10.8)		口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下極少量含む	にぶい褐色、褐灰色	灰褐色、黒褐色	やや不良	内面摩耗少し、外面剥離多い
	8	H24 カマド	カマド燃焼部	須恵器	壺？	胴部片					海面平行叩き目。内面凹凸圧痕。	緻密	灰色	灰黄色	良好	
	9	H24 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面細かい平行叩き目。内面ナデ。外面降灰有り。	浅黄橙色と黄橙色の粒3㎜以下を含む	灰オリーブ	灰オリーブ	良好	黒色降灰。
	10	H24 Po2		石製品	不明	完存	長さ8.4cm・幅2.6～3.5cm・厚さ1.7cm 64.4ｇ									砂岩
28住	1	H25 Po5	床面直上	土師器	大形甕	口縁部片 口唇部1/5	(23.9)	7.7＋	頸部径 (16.3)		口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、灰黄褐色、橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	
	2	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下部～口縁部 2/5	(19.2)	27.6＋	(22.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。頸部外面圧痕残る。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	3	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/4	(16.0)	5.7＋			肉厚気味。内外面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄橙色、明赤褐色	にぶい黄橙色 浅黄橙色、灰色	やや不良	内外面摩耗
	4	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部一部	(22.4)	6.2＋			肉厚気味。内外面ヨコナデ。	小礫1㎜以下を含む	褐灰色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面剥離有り
	5	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 一部	(18.5)	7.8＋			口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	明褐色、にぶい橙色	明褐灰色、にぶい橙色	少し不良	内外面少し摩耗有り
	6	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4 口縁部一部	(16.1)	10.7＋	(17.1)		口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	明褐色、灰白色	灰白色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	7	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部一部	(13.1)	4.1＋			頸部太い。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	灰褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面と内面の一部摩耗有り
	8	H25 Po4 ＋	ほぼ床面	土師器	甕	底部～胴下部 1/4		9.0＋		(7.4)	胴外面斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	緻密	明黄褐色、褐灰色	明黄褐色	普通	
	9	H25	覆土	土師器	甕	底部		2.5＋		5.6	不鮮明	緻密	にぶい褐色、褐灰色	褐灰色	やや不良	外面は摩耗、内面は剥離が多い
	10	H25 Po2 ＋	覆土 ＋21	須恵器	杯身	3/5	13.4	4.7	稜部径 15.6		内外面ロクロナデ。底部雑な回転篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰色、黄橙色	灰色	良好	外面に自然釉
	11	H25	覆土	須恵器	杯身	1/2	12.4	3.6+	稜部径 14.6		内外面ロクロナデ。底部雑な回転篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	灰色、灰褐色 オリーブ灰色	灰色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
28住	12	H25 Po1	ほぼ床面＋4	土師器	杯 赤彩土器	1/2	13.2	3.8			口縁内外面丁寧なヨコナデ。底部外面丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、暗赤灰色	赤橙色、にぶい黄橙色	良好	内外面少し剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	13	H25 ＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	1/6 口縁部は一部	(11.4)	4.1＋	稜部径 (12.0)		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	外面の体部は摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	14	H25 ＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	1/2	(12.2)	4.4	(12.5)		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部篦ケズリ。	褐鉄鉱粒１㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	15	H25	覆土	土師器	杯 杯身模倣	3/5強	11.8	3.7	稜部径 12.6		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	橙色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	16	H25 Po3	覆土 ＋10	土師器	杯 杯蓋模倣 赤彩土器	1/2	(15.6)	3.9＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、明黄褐色	にぶい赤褐色 灰赤色、赤色	わずかに不良	外面底部附近除き内外面赤彩
	17	H25 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部～口縁部片	(14.0)	3.5＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を少し含む	明赤褐色、浅黄橙色	橙色、灰褐色	やや不良	内面が少し摩耗。内外面赤彩
	18	H25 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部片	(13.3)	3.4＋			口縁外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜と小礫１㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	19	H25 ＋	覆土	土師器	鉢 赤彩土器	口縁部一部	(18.6)	7.3	(19.7)		口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ミガキ状の篦ナデ。	緻密	褐灰色、にぶい黄橙色、明赤褐色	灰白色、にぶい黄橙色、明赤褐色	普通	厚手。口縁部内外面赤彩
	20	H25 カマド	カマド燃焼部	須恵器	甕	胴部片					外面格子叩き目。内面同心円文。	小礫２㎜以下を極少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	21	H25 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面圧痕。	密	灰色、にぶい黄橙色	灰色、にぶい黄橙色	普通	
	22	H25 カマド	カマド覆土	土製品	土玉	完形	径3.6～3.7cm・高さ3.2cm・孔径1.0cm　35.6ｇ									
	23	H25 ＋	覆土	土製品	土玉	2/5	径(3.4cm)・高さ2.3cm・孔径0.8cm　(10.6ｇ)									
29住	1	H26 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(21.0)	9.3＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ナデ状の篦ナデケズリ。	小礫２㎜大以下を多く含む	黄橙色、橙色 褐灰色	橙色、褐灰色	普通	
	2	H26 Po2	ほぼ床面	土師器	甑	胴上部～口縁部 1/4 口縁部は一部	(32.0)	13.9＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位の篦ケズリ。	小礫３㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	良好	
	3	H26	覆土	土師器	壺形甕	胴中位～口縁部 1/5	(11.0)	14.2＋	(21.8)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位の篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 橙色、一部褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	4	H26 Po2	ほぼ床面	須恵器	杯蓋？	1/3	(10.6)	3.8＋			ロクロナデ。口唇内面僅かに玉状なす。天井部外面手持ち篦ケズリ。	オリーブ黒色粒１㎜以下を少量含む	灰白色、灰色	灰白色、灰色	やや不良	内面少し摩耗
	5	H26 Po2	ほぼ床面	須恵器	杯蓋？	1/3 天井部欠損	(10.4)	2.8＋			ロクロナデ。口唇内面僅かに玉状なす。天井部外面回転篦ケズリ。	緻密	灰色、灰白色	灰白色、灰色	普通	
	6	H26 Po1	ほぼ床面	土師器	杯 杯蓋模倣	1/4	(13.0)	3.5＋			口縁部外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	少し不良	内外面摩耗有り
	7	H26 Po2	ほぼ床面	土師器	杯	一部	(11.6)	3.0＋			内外面丁寧なナデ？	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗有り
	8	H26 Po1	ほぼ床面	土師器	杯	口縁部1/4	(15.0)	3.3＋			外面丁寧な篦ナデ。内面ミガキ。	緻密 １ヶ所小礫２㎜有り	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 浅黄褐色	少し不良	内外面摩耗多い
	9	H26 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀 内黒土器	1/3	(16.6)	4.8			外面丁寧なケズリ状の篦ナデ。内面篦ミガキ	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色、一部橙色	黒色、一部橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗有り。内面黒色処理
	10	H26 Po2	ほぼ床面	土師器	杯	1/4 口縁部一部	(13.6)	4.1			外面ケズリ消し去る篦ミガキ。内面篦ミガキ。平底をていする。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	良好	
	11	H26 Po5 ＋	ほぼ床面	土師器	杯	一部	(13.2)	3.3＋			口縁部外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面篦ケズリ状の篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗有り
	12	H26 Po5	ほぼ床面	土師器	高杯	1/3 口縁部1/2 脚下部欠損	14.7	6.3＋			口縁外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。体部外面ナデ状の篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗有り
	13	H26	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目にカキ目。内面丁寧なナデ	緻密	灰黄色	灰黄色	普通	
	14	H26 カマド	カマド覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面雑なナデ	緻密	灰黄色	黄灰色	普通	
	15	H26 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面ナデ	緻密	灰黄褐色	灰黄褐色	普通	
	16	H26 Po6	ほぼ床面	土製品	支脚	3/5強		(20.5＋)	5.3		側面―円錐台 断面―円	小礫２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 明黄褐色、黄橙色		少し不良	
	17	H26 ＋	覆土	土製品	土玉	一部欠損	径3.2～3.3cm・高さ2.9cm・孔径0.5cm　(24.6ｇ)									
	18	H26 ＋	覆土	土製品	土玉	1/5	径(3.0cm)・高さ3.0cm・孔径0.9cm　(8.4ｇ)									
30住	1	H27 Po3	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部 一部	(18.2)	7.2＋			肉厚。口縁内外面強いヨコナデ。胴内面輪積み残すナデ、外面篦丁寧なナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	褐灰色、にぶい橙色、黒褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	少し不良	外面少し摩耗
	2	H27 Po12 ＋	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(16.4)	9.2＋			口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴内面雑な条線残す篦ナデ、外面斜位の篦ケズリ。	緻密	橙色、明黄褐色	橙色、明黄褐色、褐灰色	良好	
	3	H27 Po1	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/2	(18.4)	13.0			やや肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴内面ナデ、外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 明赤褐色	にぶい黄橙色	良好	
	4	H27 ＋	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(14.8)	8.8			口縁内面ヨコナデ、外面斜位の篦ナデ。胴内面斜位篦ケズリ、外面ナデ状の篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	橙色、褐灰色	橙色、にぶい橙色	少し不良	外面摩耗が多い
	5	H27 Po8	覆土 ＋18	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/2	(14.6)	11.1			口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴内面輪積み残す雑な篦ナデ、外面ナデ状の篦ケズリ。	小礫３㎜以下を含む	橙色	橙色、褐灰色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
30 住	6	H27 Po5 Po9	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/5	(15.6)	11.5			口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫２㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	
	7	H27 Po5	床面直上	土師器	壺形甕	3/5	10.2	18.7	(17.9)	(4.4)	口縁僅かに外傾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	密	赤色、赤黒色にぶい黄橙色	にぶい橙色、褐灰色	少し不良	内外面摩耗多い
	8	H27 Po21	床面直上	土師器	甕	3/5 胴中部～下部 2/5	11.3	16.8	(17.3)	6.0	口縁内面輪積み残すヨコナデ、外面篦ナデ。胴外面上半ミガキ状の篦ナデ、下半ナデ状の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	浅黄橙色、明赤褐色、黒褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い
	9	H27 Po3	床面直上	土師器	甕	口縁部	14.6	4.6＋			やや肉厚。口縁外面ヨコナデ、内面篦ミガキ。	小礫１㎝弱以下を含む	赤色、暗赤褐色	橙色、灰褐色	良好	
	10	H27 Po10 ＋	覆土 ＋10	土師器	甕	口縁部1/6	(11.8)	4.0＋			口縁内外面ヨコナデ。雑な成形。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜以下少量を含む	褐灰色、にぶい橙色、赤色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。
	11	H27 Po1	ほぼ床面	土師器	甕？	胴上部～口縁部 1/4	(17.6)	10.7			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位雑な篦ナデ,内面篦ナデ。	緻密	浅黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色、赤色	良好	内面胴部に赤彩材料が付着
	12	H27 Po9	ほぼ床面	土師器	鉢	口縁部一部	(15.0)	3.9＋			口縁内面ヨコナデ。外面部分的にミガキ。胴外面篦ミガキ、内面ナデ。	緻密だが褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	浅黄橙色	普通	
	13	H27カマド ＋Po12 Po4, Po11 Po5,Po10+	ほぼ床面	土師器	甕	下半3/5		(20.1＋)	(34.5)	8.9	突出気味の平底。外面篦ナデ。内面丁寧な篦ナデ。	密	にぶい黄褐色にぶい黄橙色にぶい赤褐色赤黒色	にぶい黄褐色にぶい黄橙色灰黄褐色	少し不良	内外面摩耗多い。内面剥離有り
	14	H27 Po10 ＋	覆土 ＋21	土師器	甕	底部～胴下部 1/5		6.1＋		(7.2)	外面雑な篦ナデ、内面篦ナデ。	緻密	褐灰色、橙色	褐灰色、橙色	普通	内外面の一部剥離
	15	H27 カマド	カマド 燃焼部	土師器	甕	底部1/3		2.4		(6.2)	突出気味の平底。外面篦ナデ。内面丁寧な篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	暗褐色、橙色	橙色	普通	内外面の底部中央附近摩耗。内外面少し擦過痕有り
	16	H27 Po5	覆土 ＋10	土師器	甕	底部1/3		3.1＋		(8.2)	突出気味の平底。外面雑な篦ナデ。内面篦ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	浅黄色、褐灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	17	H27 Po7	Ｐ内	土師器	甕	底部1/2		2.2		(8.9)	突出気味の平底。外面篦ケズリ。内面丁寧な篦ナデ。底部外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい橙色、橙色	にぶい橙色	普通	
	18	H27 +Po18	覆土 ＋13	土師器	甕	底部		3.5		6.2	突出気味の平底。外面篦ナデ。内面丁寧な篦ナデ。	白灰色粒５㎜以下を多く含む	灰黄褐色	にぶい黄橙色黒褐色	少し不良	内外面わずかに摩耗
	19	H27 Po11	ほぼ床面	土師器	甕	底部		1.6		(6.5)	突出気味の平底。外面篦ナデ。内面篦ナデ。	白灰色粒３㎜以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色	褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	20	H27 Po10 ＋	覆土 ＋21	土師器	甕	底部3/5		1.9		7.6	突出気味の平底。外面雑な篦ナデ。内面ミガキ状の篦ナデ。	緻密	にぶい橙色、赤灰色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	21	H27 ＋ Po17	覆土 ＋9	土師器	甕 線刻土器	下半 胴部一部		(16.2＋)		4.9	全体に雑な整形。外面ケズリ状の篦ナデ、内面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	灰褐色、灰黄褐色、淡赤橙色、にぶい橙色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	胴外面中位に線刻有り
	22	H27 Po15	覆土 ＋9	土師器	甕	底部1/3		1.9		(6.8)	外面篦ケズリ。内面丁寧な篦ナデ。底部外面篦ケズリ。	小礫２㎜大以下を多く含む	灰褐色、橙色	黄灰色、浅黄色	やや不良	内外面剥離有り
	23	H27 Po8	覆土 ＋18	土師器	甕	底部4/5				(8.1)	外面篦ケズリ状の篦ナデ、。内面雑な篦ナデ。底部外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色	橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	24	H27 Po11	ほぼ床面	土師器	壺？	底部1/2		1.9＋		(6.3)	肉厚。内外面篦ナデ。	緻密	灰色、浅黄色 オリーブ黒色	浅黄色、灰色	良好	
	25	H27 ＋ Po12	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器？	1/2	16.4	5.0			内面ナデ？外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫２㎜以下を極少量含む	赤色、橙色、一部暗赤灰色	赤色、橙色、赤灰色	やや不良	内外面摩耗多い。少し厚手。内外面赤彩？
	26	H27 ＋ Po9 Po11	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2	16.0	5.5			口縁僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗有り。薄手である。外面底部附近除き内外面赤彩
	27	H27 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部～口縁部 1/3	(13.4)	4.5＋			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤色、明黄褐色	赤褐色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	28	H27 Po16	覆土 ＋18	土師器	杯 赤彩土器	1/4	(14.4)	5.5	(14.7)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	密	赤色、浅黄色	赤色、浅黄色 暗赤灰色	やや不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	29	H27 ＋ Po17	覆土 ＋9	土師器	鉢 赤彩土器	3/5	14.5	6.2			口縁内外面ヨコナデ。底部内面ミガキ状の篦ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	浅黄橙色、赤色	浅黄橙色、赤色	良好	内外面の口縁部に赤彩
	30	H27 Po3	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部4/5	14.4	4.9＋			口縁内外面ヨコナデ。外面丁寧な篦ナデ。	小礫３㎜大以下を含む	赤色、橙色、灰赤色	赤色、橙色	不良	内外面摩耗多い。赤彩
	31	H27 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	1/2 杯上部欠損		6.0＋		脚径 9.6	杯部内面ナデ。外面篦ナデ。脚外面縦位の篦ナデ。	緻密	赤色、暗赤灰色、明黄褐色	赤褐色・橙色(杯)，灰 褐色・にぶい褐色（脚）	少し不良	内外面少し摩耗。赤彩
	32	H27 ＋	覆土	土師器	椀	1/3	(14.8)	6.1＋			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ナデ。	緻密	淡黄色	浅黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	33	H27 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	1/3 底部附近欠損	(11.0)	3.6＋			口縁内外面ヨコナデ。体部内面ナデ、外面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄橙色	明黄褐色	わずかに不良	内面の体下部少し摩耗。外面に（ヘラ記号）有り
	34	H27 Po19	覆土 ＋13	土師器	鉢	3/5	10.6	6.5		7.5	口縁部外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。体部外面篦ミガキ。	褐鉄鉱粒５㎜大以下を極少量含む	にぶい橙色、明褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、明褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗有り
	35	H27 カマド H28+	カマド燃焼部	土師器	杯 内黒土器	底部～体下部 1/2		2.7＋			底体部内面篦ミガキ、外面雑な篦ナデ。	緻密	淡黄色、黒褐色	黒色	わずかに不良	外面が少し摩耗。底部は丸底。内面黒色処理
	36	H27 ＋	覆土	土製品	支脚	一部		6.4＋			側面一不明 断面一円	小礫１㎜以下を少量含む	橙色、灰黄色		不良	
	37	H27+	覆土	土製品	土玉	完形	径3.7～3.8cm・高さ3.7cm・孔径1.0cm　46.8ｇ									
	38	H27+	覆土	土製品	土玉	完形	径3.8cm・高さ3.7cm・孔径0.7cm　47.1ｇ									
	39	H27 Po14	床面直上	石製品	叩き石	完存	長さ13.5cm・幅6.2cm・厚さ4.5cm　597.8ｇ									輝石安山岩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
31住	1	H28 H29+	覆土	土師器	甑	胴下部～底部欠損	(20.6)	27.3＋	(20.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面横位篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色、灰黄褐色、橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色、橙色、にぶい黄橙色	不良	
	2	H28 ＋	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部片1/4	(20.5)	11.5＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面横位篦ナデ。	小礫3㎜以下を含む	黒褐色	灰黄褐色	普通	
	3	H28 ＋	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部片1/4	(21.2)	8.4＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面横ヨコナデ。	小礫6㎜大以下を多く含む	褐灰色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	4	H28 ＋	覆土	土師器	甕	底部1/3		2.4＋		(7.3)	外面篦ケズリ。	小礫1㎜前後を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、橙色	わずかに不良	
	5	H28 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面細かい格子叩き目、内面深い同心円文	小礫3㎜以下を少量含む	灰白色	灰白色	普通	
	6	H28 ＋	覆土	土師器	甕	体上部片					外面ナデ。	緻密	橙色、明黄褐色	橙色、明黄褐色	不良	頸部直下に線刻3本線
	7	H28 ＋	覆土	土師器	杯	1/3 底部欠損	(12.2)	3.9＋			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面雑なミガキ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H28 ＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部片	(12.9)	3.4＋	(14.6)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ状篦ナデ、内面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	外面の体部と内面の口縁部が摩耗
	9	H28 ＋	覆土	土師器	甕	底部片		2.7＋		(6.9)	突出で出尻。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	
	10	H28	覆土	土製品	支脚	上端部		8.9＋	4.0		側面―四角錐台？ 断面―四角	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色		不良	
	11	H28	覆土	土製品	管玉	一方端部一部欠損	径1.05～1.20cm・長さ3.5cm・孔径0.25cm　5.0ｇ									
	12	H28 ＋	覆土	石製品	ハンマー？	完存	長さ4.3cm・幅3.9cm・厚さ2.8cm　14.0ｇ									軽石
32住	1	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部欠損 胴部2/5 口縁部3/5	18.7	29.2＋	(29.8)		口唇シャープなコノ字、口縁外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色、褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	外面は摩耗、剥離多い
	2	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/2	(16.3)	26.5	(23.6)	(6.8)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデで部分ミガキ、内面ナデ。	小礫3㎜大以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色 にぶい褐色	わずかに不良	内外面少し摩耗と剥離有り
	3	H29 Po9 ＋	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部 4/5	16.2	9.3＋			口唇シャープなコノ字、口縁外面丁寧な篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤褐色、にぶい黄橙色	普通	
	4	H29+ カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/2	(14.8)	10.1＋	(21.4)		口縁内外面ヨコナデ。頸部指頭圧痕。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面ナデ状の篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む	明黄褐色、にぶい黄褐色	明黄褐色、にぶい黄褐色、灰褐色	わずかに不良	
	5	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部4/5	17.8	5.7＋			口縁ヨコナデ。口頸部に刷毛目状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 明褐色、にぶい褐色	橙色、明褐色	普通	
	6	H29 ＋ カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/3	(20.0)	6.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色、赤色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	良好	
	7	H29 Po2	ほぼ床面	土師器	甕	4/5 口縁部1/2	(13.3)	19.5	18.5	6.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状の篦ナデで部分光沢有り、内面ナデ。	緻密	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	良好	2次加熱受けていない
	8	H29 Po8 ＋	ほぼ床面 ＋6	土師器	甑	3/5	23.0	21.7	(21.9)	6.7	口縁外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ。内面光沢の有る篦ミガキ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色	やや良好	
	9	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	一部欠損	23.6	24.3	22.5	7.0	口縁外面ヨコナデで口頸部に縦位の細かい刷毛目。胴外面ミガキ状篦ナデ。内面光沢の有る篦ミガキ。	小礫2㎜大を少量含む	橙色、明黄褐色、浅黄色	橙色、明黄褐色、浅黄色、灰褐色	やや良好	外面一部少し摩耗
	10	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5強		2.1＋		8.0	底部上げ底。外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	橙色、灰褐色	にぶい橙色、橙色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離多い
	11	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/2		3.3＋		7.1	底部上げ底。外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰黄褐色、黒褐色、橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	少し不良	
	12	H29 Po3	床面直上	土師器	甕	底部1/4		3.0＋		(8.2)	底部上げ底。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下、小礫1㎜以下を極少量含む	明褐色、にぶい褐色、褐灰色	灰褐色、黒褐色	普通	
	13	H29 ＋	覆土	土師器	鉢	胴部～口縁部 1/4	(16.9)	11.5＋			口縁摘み出し状のヨコナデ。胴外面雑な篦ナデ、内面篦ミガキ状の篦ナデ。	小礫3㎜弱を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色	普通	外面やや摩耗
	14	H29 カマド	覆土	土師器	鉢	口縁部1/5	(18.0)	7.7＋	(20.5)		口縁内湾。口縁ヨコナデ。胴内外面ケズリ状篦ナデ。	小礫5㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、黒褐色	灰黄褐色、褐灰色	普通	
	15	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部片	(16.0)	4.0＋			口縁部長い。内外面ヨコナデ。底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下・1㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、褐灰色、にぶい褐色	橙色	不良	内外面摩耗多い、剥離有り
	16	H29 ＋	覆土	土師器	杯 赤彩土器	4/5 口縁部一部欠損	13.6	5.2	14.0		口縁外面および内面ナデ。底体部篦ナデ状の篦ケズリ。	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色	良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	17	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 赤彩土器	体上部～口縁部片	(18.4)	4.2＋			口縁外面および内面ナデ。底体部篦ケズリ状の篦ナデ。	緻密 一部に3㎜大の小礫有り	赤褐色	赤色、暗赤灰色	普通	外面少し摩耗。内外面赤彩
	18	H29 カマド ＋	カマド燃焼部	土師器	杯 赤彩土器	口縁部1/4	(13.7)	3.5＋			口縁外面および内面ナデ。底体部篦ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤褐色	赤褐色	やや不良	内外面剥離有り。内外面赤彩
	19	H29 Po4	ほぼ床面	土師器	杯 赤彩土器	一部 底部欠損	(14.4)	4.0＋	(14.6)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面シャープな篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜弱極少量含む	赤色、にぶい褐色	暗赤色、暗赤灰色	普通	内外面赤彩
	20	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 赤彩土器	体部～口縁部 1/6	(11.6)	3.8＋			口縁外面および内面ナデ。底体部篦ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい黄褐色	にぶい赤色	普通	内外面赤彩
	21	H29 カマド Po5	ほぼ床面	土師器	杯 赤彩土器	1/3 口縁部一部	(12.0)	4.3	(12.4)		口縁外面および内面雑なナデ。底体部雑な篦ケズリ。	小礫5㎜以下を含む	橙色、灰褐色 黒褐色	赤色、赤褐色	良好	外面口縁部、内面赤彩
	22	H29 Po7	ほぼ床面	土師器	杯 赤彩土器	一部欠損	13.2	4.9	13.9		口縁外面および内面ナデ。底体部篦ケズリ状の篦ナデ。手馴れた整形。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、橙色	良好	外面底部附近除き内外面赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
32住	23	H29 カマド＋	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	杯下部1/3		2.6＋			外面稜部丸身を有し、口縁は大きく開く？内外面ヨコナデ。	緻密	赤色	赤色	普通	内面の一部剥離。赤彩。結合器台？
	24	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片		7.0＋			柱状部袋状。外面縦位篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色	赤褐色	良好	赤彩。29住－23の脚部？
	25	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		2.9＋		脚径 9.7	短部ヨコナデ。	緻密	赤褐色、にぶい橙色		やや不良	内外面に少し剥離。赤彩
	26	H29 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯体下部 脚部3/5		5.2＋		脚径 10.0	短部ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 赤色	にぶい橙色	やや不良	杯部内面剥離、脚部外面摩耗多い。赤彩
	27	H29 Po4	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		6.1＋			柱状部やや袋状。外面縦位篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色		少し不良	内外面摩耗、外面の一部剥離
	28	H29 カマド	カマド燃焼部	土師器	坩 赤彩土器	胴部		7.3＋	15.2		胴部扁平球状。丁寧な篦ナデ？	小礫2㎜弱を少量含む	赤色、黒色、褐灰色	黒褐色	普通	外面赤彩
	29	H29 ＋	覆土	須恵器	壺？	口縁部片					外面明瞭なロクロナデ状の段を有し、内面ロクロナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	灰黄色	浅黄色、黄灰色	普通	外面の稜部が少し摩耗
	30	H29 カマド	カマド燃焼部	手捏土器	鉢形	3/5 口縁部1/4欠損	(8.9)	4.1		4.4	指頭圧痕と指ナデ。	密	橙色、にぶい橙色、褐灰色	橙色、にぶい橙色	普通	
	31	H29 カマド	カマド燃焼部	手捏土器	杯	3/5強	6.6	2.9		5.6	指頭圧痕と指ナデ。	密	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	普通	
	32	H29 床	床面直上	ミニチュア土器	コップ	一部欠損	4.6	5.0		3.6	外面縦位の篦ケズリ。	普通	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	明褐色、にぶい橙色	普通	内外面の一部剥離有り
	33	H29 ＋	覆土	土製品	紐状圧痕付土製品							緻密 茎状の植物繊維を入れている	橙色、灰褐色		少し不良	手捏状の扁平な土製品の片面条線残る。
33住	1	H30 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	2/5 口縁部1/5	(16.0)	29.3	(19.8)	(5.8)	胴部外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	橙色、暗褐色	橙色、暗褐色 浅黄色	不良	内外面摩耗、剥離多い
	2	H30 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/4		25.3＋	(24.1)		胴部上半外面縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	黒褐色、極暗赤褐色	褐灰色、橙色	やや良好	擦過痕少し有り
	3	H30	覆土	土師器	甕	胴中位～上部 3/5強～口縁部わずかに一部欠損	14.7	14.6＋	17.9		口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下と褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	黄橙色、黒褐色、褐灰色	にぶい橙色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗、内面一部剥離
	4	H30 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/6	(16.2)	11.2＋	(16.8)		口縁内外面ヨコナデ。胴部外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少含む	灰黄色、黒褐色、黄褐色、橙色	灰黄色、褐灰色、黄褐色、橙色	少し不良	内外面摩耗多い、内面剥離有り
	5	H30	覆土	土師器	甕	1/2		11.5＋		(5.0)	胴部外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	暗赤褐色、赤黒色、浅黄色	明黄褐色、褐灰色	良好	擦過痕少し有り
	6	H30 Po3	ほぼ床面	土師器	甕	底部		1.7＋		7.5		黄褐色粒3㎜以下含む	にぶい赤褐色 黒褐色	明黄褐色	普通	
	7	H30 ＋	覆土	土師器	甕	1/2		1.5＋		(7.6)		緻密	灰黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面やや摩耗
	8	H30	覆土	土師器	杯 漆塗り？	口縁部1/2～体上部一部	(14.0)	4.0＋			稜突出。口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	暗赤褐色	暗赤褐色	良好	漆塗り可能性有り。
	9	H30 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	1/4	(14.0)	4.9			稜突出。口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜前後を多く含む	明赤褐色	明赤褐色、暗赤灰色	良好	
	10	H30 Po5	ほぼ床面	土師器	杯 杯身模倣	3/5	(13.0)	4.1	稜部径 (14.8)		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ？底体部外面篦ケズリ。	密	にぶい黄橙色 浅黄橙色、褐灰色	暗褐色	わずかに不良	内外面少し摩耗
	11	H30	覆土	土師器	小形杯	3/5	9.2	4.0	稜部径 9.9		口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	明赤褐色、極暗赤褐色	にぶい橙色	少し不良	全体に少し摩耗
	12	H30 H34 H32カマド	覆土	土師器	椀 赤彩土器	2/5	(16.4)	6.7			平底気味内湾。磨耗不明。	緻密	橙色、浅黄橙色、赤褐色	浅黄橙色、にぶい橙色、赤橙色	不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	13	H30 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯下部1/6		4.4＋			基部細い。	緻密	暗赤褐色	にぶい赤色	わずかに不良	内外面摩耗。赤彩
	14	H30	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚柱状部		6.1＋			基部やや太く大形品？	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	赤色、明黄褐色	にぶい黄橙色	わずかに不良	外面やや摩耗。赤彩
	15	H30	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2		4.3＋		脚径 (9.0)	内面稜明瞭。	緻密	浅黄橙色、赤色		やや不良	全体に摩耗。赤彩
	16	H30 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		3.9＋		脚径 10.8	内面稜明瞭。	密	橙色、赤灰色		わずかに不良	赤彩
	17	H30 ＋	覆土	土師器	大形椀 杯身模倣	1/4	15.3	9.8＋	稜部径 (17.3)		底体部深い。口縁および内面ナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を非常に多く含む	明赤褐色	橙色	良好	
	18	H30 ＋	覆土	須恵器	甕	口縁部片	(15.0)	4.0＋			口縁端部上下に摘み出すがやや鈍い。内外面ロクロナデ。	密	灰色	灰色	普通	
	19	H30 ＋ H22+	覆土	須恵器	ハソウ	頭上部～口縁部 1/2	11.2	4.2＋			口縁内面凹面、外面口縁直下と頸部に細かい櫛描文。	小礫1㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色、浅黄色	淡黄色、オリーブ黄色、オリーブ色、灰色	普通	内面に薄く自然釉かかる。25住－7と接合
	20	H30 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損		12.1＋	6.2		側面一円錐台 断面一円	鉄分粒2㎜以下を含む	黄橙色、にぶい黄橙色		やや不良	
	21	H30 ＋	覆土	土製品	土玉	1/2	径3.5cm・高さ3.3cm・孔径0.5cm （17.4ｇ）									
	22	H30 Po6		土製品	土玉	ほぼ完形	径3.5～3.7cm・高さ3.3cm・孔径0.6cm 36.9ｇ									
34住	1	H31	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/3	(16.8)	10.5＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ消し去るナデ。	小礫3㎜以下を極少量含む	褐灰色、灰黄褐色、浅黄橙色	褐灰色、灰黄褐色、浅黄橙色	普通	
	2	H31	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/4	(17.2)	12.5＋			頸部篦ケズリ消し去るナデ。胴外面篦ケズリ？	小礫3㎜以下を多く含む	橙色、灰褐色	橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	3	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 一部	(17.4)	6.2＋			口縁短く外反。摩耗不明。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色、にぶい黄褐色	にぶい黄色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面かなり摩耗
	4	H31	覆土	土師器	壺 赤彩土器	口縁部1/4	(16.9)	5.5＋			肉厚。口縁内外面シャープなヨコナデ	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色 明赤褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。外面赤彩
	5	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/6	(10.6)	5.5＋			口縁コノ字状。	小礫2㎜以下を含む	灰黄褐色、橙色、褐灰色	橙色、灰褐色	やや不良	内外面に少し摩耗、外面に剥離有り
	6	H31 Po3	ほぼ床面 ＋6	土師器	甕	4/5	14.4	14.9	14.8		口縁輪積み残すヨコナデ。胴外面上半刷毛目、下半斜位篦ケズリ。内面凹凸残るナデ。	密	浅黄色、黒褐色、黄灰色	浅黄色、黄褐色、黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗、特に内面の摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
34住	7	H31 Po3 Po7	ほぼ床面＋5	土師器	甕	3/5強 口縁部欠損		16.6＋	(17.1)	6.3	外面ナデ状の篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	やや不良	外面少し摩耗
	8	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部		5.2＋		6.3	外面ナデ状の篦ケズリ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色、褐灰色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	9	H31 Po7	ほぼ床面	土師器	甕	底部3/5		2.4＋		(5.1)	丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	灰黄色、オリーブ褐色、橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	10	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/2		2.8＋		(6.0)	摩耗不明。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	褐灰色、にぶい褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	H31 Po7	ほぼ床面	土師器	鉢	口縁部1/4	(15.1)	7.9＋			外面輪積み残す雑なケズリ状の篦ナデ。内面やや雑な篦ナデ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	褐色、橙色	良好	雑な作り
	12	H31 Po3	ほぼ床面	土師器	甕？	口縁部1/4	(14.1)	6.8＋			口頸部篦圧痕。内面雑なナデ。	小礫2㎜以下を含む	灰白色粒2㎜大以下を含む	黄灰色、灰黄色	やや不良	内外面にわずかに摩耗有り
	13	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕？	体上部～口縁部片	(13.0)	5.9＋			口縁内外面ヨコナデ。口頸部外面篦圧痕。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	良好	雑な作り
	14	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	1/2	(14.0)	3.5	稜部径 (13.1)		口縁内外面ヨコナデ。内面粗なミガキ。底体部ナデ状篦ケズリ。	小礫2㎜弱以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H31 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形杯 赤彩土器	杯部1/6	(13.0)	3.9			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色、赤褐色	赤褐色	やや不良	内面の一部と外面が摩耗。内外面赤彩。
	16	H31カマド H30+ H32カマド	カマド燃焼部	土師器	椀？ 赤彩土器	下半3/5		7.8＋	(15.2)		外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜以下と褐鉄鉱粒3㎜大を極少量含む	暗赤褐色、赤黒色	暗赤褐色、にぶい赤色	普通	外面全体、内面赤彩
	17	H31 Po7	ほぼ床面	土師器	壺 有段口縁	口縁部1/4	(18.6)	6.5			口唇シャープなコノ字状。口縁上半ヨコナデ、下半外面ミガキ状の篦ナデ。	小礫1㎜大を少量含む	暗灰黄色、にぶい黄色	暗灰黄色、にぶい黄色、にぶい黄橙色	良好	
	18	H31 Po7		土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.4～3.6cm・高さ3.3cm・孔径0.6cm （34.8ｇ）									
	19	H31	覆土	鉄製品	鉄鏃	刃部	現存長3.1cm・幅2.2cm・厚さ0.3cm 2.7ｇ									
35住	1	H32	覆土	土師器	甕	1/4	(16.0)	11.7＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	黒褐色、浅黄橙色	明黄褐色、浅黄橙色	やや不良	
	2	H32 Po5	覆土＋10	土師器	甕	1/4	(16.5)	9.1＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	橙色、明黄褐色	橙色、明黄褐色	良好	
	3	H32 Po4	覆土＋10	土師器	甕	胴上部1/4	(17.4)	8.2			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	密	赤灰色、にぶい赤褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに剥離有り
	4	H32 Po9	ほぼ床面＋4	土師器	甕	口縁部1/4	(15.6)	5.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	灰褐色、橙色	不良	内外面摩耗多い
	5	H32 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/4	(18.4)	5.4＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい橙色	褐灰色、黒褐色、暗赤褐色	やや不良	内面剥離著しい
	6	H32 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部片		2.1＋		(6.4)	底部木の葉圧痕？	密	橙色、にぶい黄橙色	橙色	やや不良	
	7	H32	覆土	土師器	甕	底部3/5強		1.9＋		6.4		小礫2㎜大以下を含む	赤褐色、暗赤灰色	浅黄色	わずかに不良	
	8	H32	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	1/4	(14.6)	3.9＋			口縁外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、内面篦ナデ。	緻密	褐灰色、灰黄褐色	褐灰色、浅黄色	緻密	内面漆塗り可能性有り
	9	H32 P–		土師器	杯 杯身模倣	1/3	(13.0)	4.6			稜鈍い。口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	良好	
	10	H32 Po2	ほぼ床面＋7	土師器	杯 杯身模倣	1/2	(12.4)	4.3＋	(12.8)		稜鈍い。口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ケズリ。	普通	褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色、褐灰色	普通	
	11	H32 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形杯 杯身模倣	ほぼ完形	9.7	3.4			稜鈍い。口縁外面ヨコナデ、内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残るミガキ。	緻密 褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	橙色、明黄褐色	黒褐色、明黄褐色	やや不良	
	12	H32	覆土	土師器	小形杯 杯身模倣	1/2	(13.0)	4.9	稜部径 (13.5)		稜出る。摩耗不明。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄色、暗灰黄色	黄灰色、暗灰黄色	不良	
	13	H32 Po12	焼土中＋5	土師器	小形杯 杯身模倣	1/2	13.9	3.6	稜部径 14.7		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面シャープな篦ナデで僅かにミガキ。	緻密	赤褐色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	わずかに不良	
	14	H32 Po7	覆土＋7	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾端部欠損		4.1＋			外面篦ナデ消し去るヨコナデ。	緻密	赤色、黒褐色		わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内面一部剥離
	15	H32	覆土	土師器	大形杯 杯身模倣	1/3 体下部～底部欠損	(15.7)	7.2＋	稜部径 (17.4)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒2㎜以下少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 明黄褐色、褐色	やや不良	全体に摩耗多い
	16	H32 Po1	覆土＋15	土師器	大形杯 杯身模倣	1/4	(16.0)	8.4＋	(17.4)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ナデ状篦ケズリ、内面ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	わずかに不良	内外面一部摩耗
	17	H32	覆土	土師器	鉢	4/5	20.4	13.1		5.5	口縁内外面シャープなヨコナデ。内面ナデ。外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下、小礫1㎜大以下を極少含む	赤色、赤褐色 暗赤褐色、赤黒色、にぶい黄橙色	黒褐色、褐灰色、赤褐色	やや不良	破損後、２次加熱
	18	H32 Po3	覆土＋16	土師器	短頸壺	胴上部～口縁部1/3	(19.4)	18.1＋	(35.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下含み、一部小礫5㎜弱有り	浅黄橙色	褐灰色、橙色 にぶい黄橙色	良好	
	19	H32 カマド	カマド燃焼部	手捏土器	甕形	1/4	(7.8)	3.7		(4.8)	内外面指ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄色	普通	
	20	H32 Po18	覆土＋6	土製品	丸玉	完形	径1.9～2.0cm・高さ1.9cm・孔径0.2cm 5.9ｇ									
36住	1	H33 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部3/5	20.8	14.4＋	20.2		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ,内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、褐灰色	明赤褐色、橙色、褐灰色	やや不良	内外面剥離有り。薄手
	2	H33 カマド Po1	カマド燃焼部	土師器	甕	下半		15.4＋		7.3	胴中位縦位、下端斜位篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	褐灰色、灰黄褐色、にぶい赤色	黒褐色	やや不良	内面剥離が多い。底部２次穿孔

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
36 住	3	H34 カマド	カマド燃焼部	須恵器 千葉市域産	杯	1/5 底部中央欠損	(10.6)	3.7		(5.6)	ロクロナデ。体部下端および底部外面手持ち篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒 1㎜以下を極少量含む	灰色、にぶい黄色	灰色	普通	
	4	H33 カマド	カマド燃焼部	非ロクロ土師器	杯	一部	(12.5)	3.7		(8.9)	内面底部境に明瞭な変換線を有す。体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒 3㎜大以下を含む	浅黄橙色	黄橙色、にぶい橙色	不良	全体に摩耗．底部成形不明
	5	H33 カマド	カマド覆土	土師器	杯	体中部～口縁部 1/6	(15.3)	4.3＋			口縁内外面ヨコナデ。底内面篦圧痕残るナデ、底体部外面篦ケズリ。	小礫 1㎜以下をやや多く含む	黒褐色、にぶい黄橙色	黒褐色、にぶい黄橙色	良好	
	6	H33 カマド	カマド覆土	土師器	杯	口縁部片	(11.0)	2.6＋			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫 2㎜以下を多く含む	橙色	橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	7	H34 ＋	覆土	須恵器	杯蓋	体上部～口縁部 1/6	(18.0)	1.5			ロクロナデ。口縁端部下方に摘み出す。	緻密	オリーブ黒色、灰色	灰オリーブ色、オリーブ黒色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
37 住	1	H34 Po5 ＋	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(24.5)	10.8＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫 1㎜以下、褐鉄鉱粒 2㎜大以下を含む	浅黄色、灰黄色、口唇部一部橙色	浅黄色、黒褐色	良好	
	2	H34 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中部～口縁部 1/2	(16.1)	19.5＋	(18.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫 2㎜大以下を含む	橙色、褐灰色	明赤褐色、赤灰色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	3	H34 Po4	ほぼ床面＋5	土師器	甕	体上部～口縁部 1/2	(13.4)	8.6＋	(14.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位のナデ状の篦ケズリ、内面ナデ。	小礫 1㎜以下を少量含む	明黄褐色、灰黄褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗
	4	H34 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下部～胴上部 3/5		20.6＋	(29.0)		上半篦ナデ状のミガキで部分光沢。下半斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫 3㎜大以下を極少量含む	黄橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、浅黄橙色	わずかに不良	外面に摩耗
	5	H34 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。外面暗黒茶褐色の釉被る。	灰白色粒 1㎜以下を少量含む	黒褐色	灰オリーブ色、灰色	良好	
	6	H34 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	灰白色	灰白色	普通	
	7	H34 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	灰白色	灰白色	普通	
	8	H34 カマド ＋	カマド燃焼部	須恵器	身	1/3 底部欠損	(13.0)	4.0＋	稜部径 (15.4)		ロクロナデ。底部外面2分の1回転篦ケズリ。稜やや鈍い。	小礫 2㎜大以下を少量含む	灰色	灰色	普通	
	9	H34 ＋	覆土	須恵器	身	体上部～口縁部 1/5	(14.0)	3.3＋	稜部径 (16.4)		ロクロナデ。底部外面2分の1回転篦ケズリ。稜鈍い。	淡黄色粒 1㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色	普通	
	10	H34 ＋ H33カマド	カマド燃焼部	須恵器	身	1/3 底部～体下部欠損	(11.4)	2.7＋	稜部径 (13.7)		ロクロナデ。底部外面僅かに篦ケズリ見える。稜鈍い。	小礫 1㎜大以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	11	H34 ＋ Po5	ほぼ床面	土師器	杯 内黒土器	一部 底部欠損	(14.0)	3.1＋			半円球状。内面ミガキ。底体部外面篦ナデ？	緻密	淡黄色	黒色	やや不良	外面と口縁部は摩耗。内面黒色処理
	12	H34 ＋	覆土	土師器	杯	1/2	(12.6)	2.9			肉厚。稜鈍い。底体部外面篦ナデ、内面ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 にぶい橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	不良	内外面摩耗と剥離有り、特に内面著しい。厚手
	13	H34 Po5 ＋	ほぼ床面	土師器	杯 杯蓋模倣 内黒土器	1/4	(13.4)	3.3			内面ミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒 1㎜大極少量含む	淡黄色、黒褐色	淡黄色、黒褐色	少し不良	内外面少し摩耗。内面黒色処理
	14	H34 ＋ H33 Po2+15	ほぼ床面＋8	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	体上部～口縁部 1/5	(14.0)	3.5＋	稜部径 (15.3)		稜シャープ。内面ミガキ。口縁外面ヨコナデ。底体部ナデ状篦ケズリ。	緻密	黒褐色	黒褐色、灰黄褐色	普通	内外面一部わずかに摩耗。内面黒色処理
	15	H34 Po6	ほぼ床面＋4	土師器	杯	3/5強	(13.3)	3.5	稜部径 (14.7)		口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	黄橙色、橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	外面摩耗著しい
	16	H34 Po7	覆土 ＋9	土師器	小形椀 内黒土器	1/2 底部欠損	(9.5)	4.8＋			内面やや荒いミガキ。体部上半篦ケズリ消し去る篦ミガキ。下半ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒 2㎜以下を含む	にぶい黄橙色	黒色、灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗。内面黒色処理
	17	H34 ＋	覆土	土師器	椀	1/3	(15.1)	6.8＋	(15.8)		口縁内外面および内面ナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒など 小礫 1㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	
	18	H34 Po5	覆土＋	土師器	椀形杯 赤彩土器	体中部～口縁部片	(14.3)	4.0＋	(14.8)		口縁内外面ヨコナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色	やや不良	外面は摩耗、内面は剥離有り。外面底部附近除き内外面赤彩
	19	H34 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2 裾部欠損		4.8＋			柱外面篦ナデ、脚端ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒 1㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色		わずかに不良	外面わずかに摩耗、剥離。赤彩
	20	H34 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部		4.3＋		脚径 (8.4)	柱外面篦ナデ、脚端ナデ。	褐鉄鉱粒 2㎜大以下を含む	浅黄橙色、赤色		わずかに不良	外面が少し摩耗。赤彩
	21	H34	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片		3.8＋			柱外面篦ナデ、脚端ナデ。	褐鉄鉱粒 5㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色、赤灰色		やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	22	H34	覆土	土師器	高杯 漆塗り	3/5強 脚下半欠損	15.7	7.6＋			口縁内外面ヨコナデ。内面ミガキ。外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄色、黒褐色	にぶい黄色、黒褐色	やや不良	杯部中位より下は摩耗と剥離が多い。杯内面は漆塗り。
	23	H34 ＋	覆土	土師器	高杯	脚部片 杯一部		5.2＋		脚径 10.1	柱から脚ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒 2㎜以下を多く含み一部に5㎜弱の粒有り	浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	24	H34 ＋	覆土	土師器	鉢	1/3	(14.6)	11.1	(14.0)	7.2	やや肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	緻密	浅黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	普通	
	25	H34	覆土	土師器	鉢	胴上部～口縁部 1/4	(14.3)	6.6＋	(14.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	小礫 1㎜以下を含み、褐鉄鉱粒 3㎜大を少量含む	浅黄色、黒褐色	暗灰黄色、黒褐色	普通	
	26	H34 Po1 ＋ H33-35+	ほぼ床面＋7	土師器	鉢	1/2 底部欠損	(13.6)	9.3＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面ナデ状篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒 3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	27	H34	覆土	土師器	小形短頸壺 内黒土器	3/5	(10.1)	9.2	13.7		口縁内外面および内面上半ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫 3㎜大以下を含む	浅黄色、にぶい黄色	黒色、浅黄色	普通	内面黒色処理

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
37住	28	H34 Po2 +5	ほぼ床面＋8	土製品	支脚	上半		9.7＋	6.9		側面―円錐台 断面―円	小礫２㎜大以下を多く含む	灰黄褐色、橙色		不良	
	29	H34	覆土	土製品	支脚	一部欠損		14.1	6.3		側面―四角錐台 断面―四角	緻密	橙色、灰黄褐色		やや不良	
38住	1	H35	覆土	土師器	甕	部分	(24.7)	27.7	(27.6)	7.7	口頸部外面指頭圧痕。胴外面篦ナデ、内面輪積み残すナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色黒褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	H35 Po2 Po1	床面直上	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部	15.9	11.1＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	浅黄色、暗灰黄色	浅黄色、暗灰黄色	少し不良	外面摩耗多く、内面少し摩耗
	3	H35 ＋ Po5	ほぼ床面＋4	土師器	甕	1/4	(18.7)	8.8＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	黄褐色、黒褐色、灰黄褐色	橙色、褐灰色灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	4	H35 Po4	床面直上	土師器	小形甕	下半3/5		8.5＋	12.2	3.8	胴外面篦ナデ、内面ナデ。	緻密	にぶい赤褐色赤黒色	橙色、黒褐色	不良	内外面摩耗、剥離多い
	5	H35 ＋	覆土	土師器	甕	底部3/5		3.0＋		5.2	内面刷毛目状のケズリ。	褐鉄鉱粒を少量含み、一部に５㎜大の塊もある	にぶい黄橙色黒褐色	にぶい黄橙色褐灰色	わずかに不良	外面摩耗多い
	6	H35 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5強		1.9＋		7.3	内面篦ナデ。	緻密	褐灰色	黒褐色	やや不良	
	7	H35 Po1	ほぼ床面	土師器	甑	口縁部1/4	(29.6)	9.8＋			口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。	緻密	浅黄色、明赤褐色、褐灰色	浅黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H35 Po5	ほぼ床面	土師器	甑	口縁部1/6	(26.0)	7.1＋			口縁外反、ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面斜位のミガキ。	緻密	黄橙色、褐灰色	明黄褐色、灰白色	やや不良	
	9	H33－35 ＋	覆土	須恵器	甕	口縁部片	21.1	4.5＋			口唇端部上方に摘み出す。口縁直下に櫛描き波状文、口頸部に２条の沈線。ロクロナデ。内面降灰。	白色粒２㎜以下を含む	暗青灰色	暗青灰色、灰オリーブ色	良好	
	10	H35 Po1	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円消し去るナデ。	灰白色粒２㎜以下を極少量含む	灰黄色	浅黄色	普通	
	11	H35 カマド	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円消し去るナデ。	灰白色の小礫２㎜弱以下を極少量含む	灰黄褐色、褐灰色	灰色、灰オリーブ色	やや不良	
	12	H35 ＋	覆土	土師器	杯 有段口縁	一部	(14.3)	3.8＋			口唇外側端部摘み出し、口唇に凹線状の沈線を作り出し、口縁外面段を有す。端部口縁内外面および内面ヨコナデ。外面底体部篦ケズリ。	小礫１㎜以下を多く含む	黒褐色	灰黄色	わずかに不良	
	13	H35 Po3	床面直上	土師器	椀 赤彩土器	体部3/5～口縁部2/5	(14.0)	5.4＋	(14.7)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒４㎜以下を含む	明赤褐色、浅黄橙色、灰黄褐色	灰黄褐色、浅黄橙色、赤色	普通	内外面赤彩
	14	H35 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	杯部2/5	27.2	9.9＋			大きく開く。内面ナデ。外面丁寧なナデ。	緻密	赤色、暗赤色にぶい橙色、浅黄色	赤色、暗赤色にぶい橙色、浅黄色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗。外面に赤彩刷毛塗り痕跡留める。
	15	H35 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯	1/2		7.8＋			摩耗不明。	小礫２㎜以下を極少量含む	にぶい黄褐色橙色	にぶい黄橙色明黄褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	16	H35 Po1	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		3.7＋		脚径9.2	柱外面篦ナデ、脚端ナデ。	緻密	赤褐色、暗赤褐色		やや不良	全体に摩耗が多い。赤彩
	17	H35 Po1	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片 裾部欠損		4.3＋			柱外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色		やや不良	赤彩
	18	H35 Po4	床面直上	土師器	小形鉢？	1/5	(10.1)	6.2＋			摩耗不明。	白色粒１㎜以下を含む	にぶい黄橙色黒褐色	橙色、黄橙色	やや不良	
	19	H35	覆土	土製品	土玉	1/2	径(3.6cm)・高さ3.2cm・孔径0.6cm （15.8ｇ）									
	20	H35 Po5		土製品	土玉	1/5	径(3.2cm)・高さ3.0cm・孔径0.7cm （6.2ｇ）									
39住	1	H36 黒土層	覆土	土師器	甕	1/2 底部附近欠損	(20.0)	28.3＋	(20.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜以下を多く含む	明黄褐色、赤灰色、橙色	にぶい赤褐色黒褐色	やや不良	内面の口縁部に少し剥離
	2	H36 Po4-5 黒土層	ほぼ床面＋7	土師器	甕	底部1/3～胴下部1/6		8.1＋		(10.2)	外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い
	3	H36 Po6-5	ほぼ床面＋5	須恵器 湖西	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面丁寧なナデ。	密	青灰色	青灰色	良好	
	4	H36 Po2-9	ほぼ床面＋7	須恵器	杯身	1/3 底部中央欠損	(10.2)	4.8＋			口縁内外面ロクロナデ。口縁内面に凹線状沈線有り。口縁直下外面２条の沈線。底部回転篦ケズリで平底気味、底体部下端１段のみ回転篦ケズリ。内面底部ヌタ痕跡有り。	緻密	灰色、灰オリーブ色	灰白色	普通	杯蓋の可能性有り
	5	H36 Po8-8 H37黒土層	覆土＋12	土師器	杯	体部～口縁部1/4	(14.4)	3.8＋	(14.6)		口縁外面および内面ナデ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫３㎜以下を極少量含む	橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H36 Po4	ほぼ床面＋7	土師器	高杯	杯部1/4～脚上部1/3	(16.8)	5.7＋			杯内面ミガキ。外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、灰黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	7	H36 Po1－10	覆土＋10	土師器	高杯	脚部3/5強		7.3＋		脚径11.7	柱外面篦ナデ、脚端ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜弱以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	橙色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H36 Po5	覆土＋12	須恵器	ハソウ	口縁部1/4	(10.5)	3.2＋			口縁外面に凹状沈線３条、口唇内面平縁。全面に降灰による釉被る。	緻密	淡灰緑色	灰オリーブ色オリーブ黒色	良好	内外面とも自然釉付着
	9	H36 黒土層	覆土	ミニチュア土器	コップ	1/4	(5.6)	4.2		(3.6)	指頭圧痕消し去るナデ。	緻密	にぶい黄橙色	褐灰色	普通	内面漆塗り可能性有り
	10	H36	覆土	土製品	支脚	部分 両端欠損		8.4＋			側面―角柱状 断面―四角	小礫１㎜大以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
40・41住	1	H37	覆土	須恵器 湖西	短頸壺	胴中位1/3		12.8＋	(25.8)		内面丁寧なロクロナデ。外面篦ケズリ消し去るロクロナデ？肩部に強く降灰有り。	緻密	オリーブ褐色淡黄色、浅黄色	灰色	良好	外面肩部より垂れ下がる降灰
	2	H37	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面丁寧なナデ。	灰白色粒２㎜大以下を極少量含む	灰色、灰黄色	灰色、灰黄色	やや不良	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
40・41住	3	H37 Po1 床面	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣	1/4	(15.8)	4.4	稜部径 (15.6)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面ナデ状篦ケズリ。	小礫2㎜以下を少し含む	明黄褐色、黒褐色	明黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	4	H37 黒土層	覆土	土師器	杯 暗文土器	1/4	(9.9)	3.7			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面放射状ミガキ。	密	橙色、黒褐色	橙色、黒褐色	普通	薄手。不規則な放射状暗文
	5	H37 黒土層	覆土	土師器	杯	1/5	(12.0)	3.7			口縁外面ヨコナデ、内面ナデと雑なミガキ。	密	明褐色	明褐色	普通	
	6	H37	覆土	石製品	管玉	欠損	径0.91～0.95cm・現存長0.84cm・孔径0.2cm　0.868ｇ									
	7	H37 B	覆土 ＋15	鉄製品	刀子	茎部	現存長9.5cm・幅1.1cm・棟厚0.5cm　9.1ｇ									
42住	1	H38 Po4-2 Po5-2 Po12-5	ほぼ床面 ＋4	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/3	(20.1)	17.3＋	(19.0)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	浅黄橙色、黒褐色	普通	内面の一部剥離
	2	H38	覆土	須恵器 千葉市 域産	甕	口縁部1/5	(24.0)	4.4＋			口縁鉢付け、口唇端部摘み上げ。頸部外面縦位平行叩き目。内面ナデ。	灰白色粒3㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	やや不良	胴部内面一部が摩耗
	3	H38 Po13	壁接する	須恵器 千葉市 域産	甕	底部3/5～胴下部1/3		7.8＋		(15.6)	体部下端篦ケズリ、内面指頭圧痕残すナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰黄色	灰黄色、灰色	少し良好	
	4	H38 Po5-2	ほぼ床面 ＋4	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	灰白色粒1㎜以下を極少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰白色、灰色	普通	
	5	H38 Po2-8 Po9-16	覆土 ＋16	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、下端篦ケズリ。内面指頭圧痕残すナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	暗灰黄色、にぶい黄橙色	暗灰黄色、にぶい黄橙色	やや不良	
	6	H38 カマド	カマド燃焼部	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、下端篦ケズリ。内面指頭圧痕残すナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗
	7	H38 Po12+5	壁接する ＋5	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	明赤褐色、灰褐色	明赤褐色、黒褐色	わずかに不良	内面の一部摩耗
	8	H38 Po10-5	ほぼ床面 ＋5	須恵器 湖西？	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	緻密	焦茶褐色	褐灰色	良好	外面釉薬か？
	9	H38 カマド	カマド燃焼部	須恵器 湖西？	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	小礫4㎜以下を含む	褐灰色	褐灰色	少し良好	
	10	H38 Po7-2	床面直上	須恵器 石川産	杯	3/5強 口唇部1/2	(13.2)	4.1		7.4	ロクロナデ。底部回転糸切り。	密	浅黄色、灰色 オリーブ黒色	浅黄色、灰色	不良	内外面摩耗多い
	11	H38 Po12-5	ほぼ床面 ＋5	土師器	杯	1/3 底部中央欠損	(12.2)	3.4		(7.1)	ロクロナデ？底部のみ回転糸切り。	緻密	橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗
	12	H38 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	底部4/5～体下部1/5		2.4＋		6.7	ロクロナデ？底部回転糸切り。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい褐色、橙色	にぶい褐色、橙色	少し不良	内外面摩耗、外面少し剥離
	13	H38	覆土	土師器	杯	1/2	(12.4)	4.0		(6.3)	ロクロナデ？体部下端と底部手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰褐色、にぶい橙色、黒褐色	灰褐色、にぶい橙色、黒褐色	少し良好	
	14	H38	覆土	土師器	杯	4/5 口縁部1/2	13.0	4.0		8.5	ロクロナデ？体部下端手持ち篦ケズリ。底部回転糸切り。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗
	15	H38 Po1,6	床面直上	土師質	平瓦						１枚造り。凹面布目。凸縄叩き目。					
	16	H38	覆土	土師質	平瓦						１枚造り。凹面布目。凸縄叩き目。					
	17	H38 Po12,15	覆土 ＋15	土師質	平瓦						１枚造り。凹面布目。凸縄叩き目。					
	18	H38 黒土層	覆土	土師質	平瓦						１枚造り。凹面布目。凸縄叩き目。					
	19	H38 黒土層	覆土	土師質	丸瓦						１枚造り。凹面布目。凸丁寧な篦ナデ。					
	20	H38 黒土層	覆土	土製品	土玉	1/2	径3.7cm・高さ3.3cm・孔径1.3cm　(21.1ｇ)									
43住	1	H39 Po2床面	床面直上	須恵器	杯	体部～口縁部片	(12.4)	2.9＋	稜部径 (14.5)		ロクロナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰　色、灰　オリーブ色	灰白色、淡黄色	わずかに不良	
	2	H39	覆土	土師器	杯	体部～口縁部片	(13.4)	3.5＋	(13.4)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面篦ケズリ残る雑なミガキ。	緻密	黒褐色、にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	H39 Po1－2	ほぼ床面 ＋2	土師器	杯	体中位～口縁部 1/6	(16.0)	3.8	(16.4)		口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	明褐色、褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	4	H39 ピット内	Ｐ3内	土師器	大形模倣杯	体部～口縁部 1/3	(19.2)	6.7＋			口縁部外面シャープなヨコナデ残る篦ミガキ、内面丁寧なミガキ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	淡黄色、灰黄褐色、黒褐色	浅黄色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	内外面わずかに摩耗
	5	H39 ピット内	Ｐ4内	土師器	甕	底部1/3		2.1＋	(8.2)		外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、黒褐色	橙色	少し不良	内外面摩耗多い
44住	1	H40 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴下部 1/4		4.1		5.5	外面篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を多く含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗剥離多い
	2	H40 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目僅かに残る。内面圧痕。	緻密	黄灰色	黄灰色	普通	
	3	H40 ＋	覆土	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目。条線内面圧痕。	緻密	灰色	灰色	良好	
	4	H40 ＋	覆土	須恵器 千葉市 域産	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面圧痕。	緻密	暗灰黄色	灰色	良好	
	5	H40 ＋	覆土	土師器	杯	1/4	(12.2)	3.1		(7.5)	体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	黄橙色、灰黄褐色	黄橙色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗多い
	6	H40 ＋	覆土	土師器	杯	体下部～底部 1/4		2.2＋		(9.9)		小礫1㎜以下を多く含む	にぶい橙色、灰褐色	橙色	やや不良	内面摩耗
	7	H40 ＋	覆土	土師器	小形壺？	体部3/5		9.2＋		13.3	外面摩耗で整形不鮮明。丸底。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	少し不良	外面摩耗著しい。外面赤彩の可能性有り
	8	H40 Po2	覆土 ＋21	土師器	高杯 赤彩土器	脚部～杯底部		7.0＋		脚径 9.0	柱外面ケズリ状の篦ナデ、脚端ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	全体少し摩耗。赤彩
	9	H40 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片 裾部欠損		4.7＋			柱外面ケズリ状の篦ナデ、脚端ナデ。	緻密	赤褐色、にぶい橙色	赤褐色	普通	内外面赤彩。脚内面紅ガラ付着

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
45住	1	H41+	覆土	土師器	甕	口縁部片	(18.4)	1.8+			口唇端部上方へ摘み上げ、外面凹面作り出す。全体にシャープなヨコナデ。	緻密	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色	普通	
	2	H41+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	灰オリーブ色 オリーブ黄色	灰黄色	普通	
	3	H41+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	浅黄色	灰白色	やや不良	外面やや摩耗
	4	H41+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	灰色	灰白色	やや不良	外面に剥離
	5	H41+	覆土	須恵器	甕？	胴上部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	灰色	灰色	普通	
	6	H41+	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	暗赤灰色、にぶい赤褐色	灰褐色	普通	
	7	H41 Po1	壁接する	須恵器 湖西	大甕	胴下部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫4㎜以下を極少量含む	浅黄色、暗灰黄色、にぶい褐色	浅黄色、灰色 灰白色	良好	外面に何か塗る？
	8	H41+	覆土	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	体上部～口縁部片	(12.7)	3.4			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	赤褐色、浅黄橙色	灰赤色	不良	外面底部附近除き内外面赤彩
	9	H41 Po1	床面直上	土師器	小形杯 杯身模倣	ほぼ完形 口唇部わずかに欠く	9.8	3.3	稜部径 10.4		口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、灰黄褐色	普通	
	10	H41+	覆土	土師器	高杯	脚上部～杯下部		4.4+			杯部内面ミガキ。柱状部篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、浅黄橙色	褐灰色	わずかに不良	外面摩耗、内面(杯)剥離有り
	11	H41 Po2	床面直上	土製品	支脚	一部		8.7+	6.0		側面—円柱状 断面—円	小礫3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色		普通	
46住	1	H45 Po2	壁溝 +10	土師器	甕	覆土	21.6	8.4+			肉薄。口縁内外面シャープなロクロナデ。胴外面横位の鋭い篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	砂粒含む	明褐色	明褐色	良好	武蔵型甕
	2	H45 Po2	壁溝 +10	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/3	(21.8)	13.1+	(21.0)		肉薄。口縁内外面および内面ナデ。胴外面斜位篦ケズリ。	緻密	橙色、明褐色 褐灰色、黒褐色	橙色、明褐色、灰褐色	普通	外面少し摩耗、内面少し剥離。武蔵型甕
	3	H45 Po3	ほぼ床面	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消すナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	浅黄色	灰白色	普通	
	4	H45+	覆土	須恵器	杯	一部 底部中央欠損	(10.6)	2.7		(6.4)	ロクロナデ。	褐色粒1㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰黄褐色	わずかに不良	焼成不良
	5	H45 Po3		土師器	杯	底部～口縁部片	(13.0)	2.3+			体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	緻密	橙色	橙色	不良	内外面摩耗著しい
	6	H45+	覆土	土師器	杯	1/6 底部中央欠損	(14.0)	2.5		(9.4)	体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	緻密	灰黄褐色	浅黄橙色	不良	内外面摩耗
	7	H45 カマド		土師器	杯	一部 底部中央欠損	(13.4)	2.7		(8.6)	体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	緻密	褐灰色、橙色	浅黄橙色、橙色	不良	内外面摩耗多い
	8	H45+	覆土	土師器	杯	体上部～口縁部片	(14.5)	3.9+			口縁外面ヨコナデ、内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	明赤褐色、褐灰色、黒褐色	明赤褐色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	9	H45+	覆土	土師器	杯	体上部～口縁部 1/5	(12.1)	3.0			口縁外面ヨコナデ、内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐色	やや不良	内面少し剥離
	10	H45+	覆土	土師器	杯	口縁部1/4	(13.2)	2.6+	(13.4)		口縁外面および内面ヨコナデ、底体部外面篦ケズリ。	緻密	灰黄褐色	黒褐色、明黄褐色	普通	内面一部剥離
	11	H45+	覆土	土師器	杯 赤彩土器	口縁部片	(12.2)	2.3+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ミガキ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	外面赤彩
	12	H45 Po3	ほぼ床面	ロクロ土師器	杯	底部1/4～体部 1/6 底部中央欠損		2.1+		(6.2)	体部下端および底部周縁手持ち篦ケズリ。底部中央回転糸切り。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量、微粒の金雲母を僅かに含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	
	13	H45+	覆土	手捏土器	鉢形	体上部～口縁部 3/5	3.6	3.8		3.8	指頭圧痕。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色	褐灰色	わずかに不良	厚手。内面黒色処理か？
47住	1	H42 Po6+	床面直上	土師器	甕	口縁部1/4	(19.1)	6.2+			口縁外傾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	少し不良	内面の剥離が著しい
	2	H42 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴上部 1/3		18.2+		(8.0)	胴外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい褐色、褐灰色、明褐灰色	にぶい褐色、褐灰色	不良	内外面剥離が著しい
	3	H42+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目	緻密	灰色	灰色	良好	
	4	H42 Po4	床面直上	土師器	小形短頸壺	胴中部～口縁部 1/2	(12.5)	10.0+	(14.7)		口縁内外面および内面篦ナデ。胴外面篦ケズリ。	白色粒1㎜以下を少量含む	にぶい褐色	にぶい褐色	少し不良	外面摩耗、内面は剥離が多い
	5	H42+	覆土	須恵器	杯蓋	一部 底部欠損	(11.5)	4.4			ロクロナデ。天井部外面篦ケズリ。	灰白色粒1㎜大以下を極少量含む	黄灰色	黄灰色	普通	
	6	H42 Po3	ほぼ床面 +3	須恵器	杯蓋	3/5	(10.4)	3.9	10.6		ロクロナデ。天井部外面篦ケズリ。	緻密	灰色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	7	H42+	覆土	須恵器	杯身	1/6 底部欠損	(11.0)	3.0+	稜部径 (13.0)		ロクロナデ。底体部下端回転篦ケズリ。	白色粒1㎜以下を極少量含む	灰オリーブ色	灰オリーブ色	わずかに不良	
	8	H42	覆土	須恵器	杯身	1/6 底部欠損	(9.7)	3.4+	稜部径 (12.4)		ロクロナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	普通	
	9	H42+	覆土	土師器	杯 赤彩土器	口縁部片	(14.2)	3.2+			口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	10	H42+	覆土	土師器	高杯	脚部片		3.2+			杯部内面ミガキ。柱状部篦ナデ。	緻密	褐灰色、にぶい橙色	にぶい褐色、にぶい赤色	やや不良	杯内面の一部と脚部外面が摩耗
	11	H42+	覆土	手捏土器	コップ？	底部片		2.2+		3.1		緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少し不良	外面摩耗
	12	H42+ Po7	床面直上	土製品	支脚	基部欠損		15.3+	7.9		側面—円錐台 断面—円 紐による圧痕が有る	小礫1㎜以下を含む	褐色、にぶい褐色、灰黄褐色		やや不良	
	13	H42 Po1	床面直上	土製品	支脚	上半1/2		11.1+	6.0		側面—円錐台 断面—円 紐による圧痕が有る	小礫1㎜以下を含む	灰黄褐色、明褐色、黒褐色		やや不良	
	14	H42+	覆土	土製品	支脚	破片		3.0+	4.7		側面—円柱状 断面—円	小礫3㎜以下を含む	橙色、褐色、灰褐色		不良	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
48 住	1	H46 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/3	(17.2)	5.6			口縁内外面ヨコナデ。頸部外面指頭圧痕。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を多く含む	黒褐色、にぶい黄橙色	浅黄色、黄灰色、暗灰黄色	良好	
	2	H46 Po1	ほぼ床面 +3	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4 口縁部一部	(20.4)	5.8+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面篦ナデ。	小礫1㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	浅黄色、灰黄色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	H46 Po1	ほぼ床面 +3	土師器	甕	口縁部1/4	(15.0)	4.3+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	橙色	橙色	やや不良	内面の口縁部やや摩耗
	4	H46 +	覆土	土師器	小形短頸壺 赤彩土器	胴下部～口縁部 1/4	(12.2)	8.4	(14.6)		口縁内外面および内面ナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	黒褐色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	普通	体上部外面剥離多い。外面全体と内面口縁部赤彩
	5	H46 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片 裾部欠損		5.2+			脚柱部篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤褐色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	6	H46 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	一部欠損		13.1	8.2		側面—円柱 断面—円	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 浅黄色、灰黄褐色		比較的良好	
49 住	1	H44 +	覆土	土師器	甕 球胴甕	胴下部～底部 1/2		3.6+		(11.8)	体部外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	浅黄橙色	黄褐色	不良	外面摩耗、内面は剥離が著しい
	2	H44 Po6	ほぼ床面	土師器	甕	底部1/5		3.4		(5.9)	底部柱状。内外面篦ナデ。	緻密	明褐色、にぶい褐色	橙色、灰褐色	少し不良	外面少し摩耗
	3	H44 Po1	覆土 +14	土師器	甕	底部3/5		2.2		7.5	やや突出気味。外面丁寧な篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	褐灰色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	外面少し摩耗。外面にカマド粘土少し付着
	4	H44	覆土	土師器	甑	脚部2/5 口縁部3/5	28.2	25.5	23.9		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	橙色、浅黄色	橙色、浅黄色 黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H44 Po5	ほぼ床面 +3	土師器	鉢	3/5	(11.4)	8.5		3.8	内外面指指ナデ？やや雑な整形。	密 褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	6	H44 Po2	覆土 +10	土師器	椀	口縁部片	(20.1)	4.8+	(20.6)		胴外面篦ナデ、内面ミガキ。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	内外面一部摩耗
	7	H44 Po6	ほぼ床面	須恵器	杯身	一部	(14.8)	3.3+			ロクロナデ、底体部外面回転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	灰色、灰白色	灰色、灰白色	良好	
	8	H44 +	覆土	土師器	杯 内黒土器	1/4	(12.3)	4.1+			口縁外面ナデ。底体部外面篦ケズリ、内面光沢の有るミガキ。	小礫1㎜以下を多く含む	明黄褐色	明黄褐色、黄灰色	わずかに不良	外面わずかに摩耗。内面黒色処理
	9	H44 Po1	覆土 +14	土師器	杯	杯部片	(13.3)	3.2+	稜部径 (14.0)		口縁内外面ヨコナデ。底ｔ外部外面篦ケズリ残るミガキ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色	普通	
	10	H44 Po3 カマド	ほぼ床面	土師器	杯	体上部～口縁部 1/3	(10.3)	4.0+	(11.0)		底体部外面ケズリ状篦ナデ。内面ミガキ。	緻密	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗多い
	11	H44 Po3	ほぼ床面	土師器	杯	1/4	(15.9)	4.9	稜部径 (17.1)		口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	明黄褐色、褐灰色	少し不良	内外面少し摩耗
	12	H44	覆土	土製品	支脚	一部		8.1+	6.3		側面—四角錐台 断面—四角	密	灰黄色、浅黄橙色		不良	
	13	H44	覆土	土製品	支脚	上端部わずかに欠損		14.5+	7.9		側面—四角錐台 断面—四角	密	浅黄色、にぶい黄橙色		不良	
	14	H44 Po3	壁溝	石製品	叩き石？	完存	長さ11.2cm・幅6.1cm・厚さ3.1cm 341.3ｇ									石英斑岩
50 住	1	H43 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 片	(19.2)	10.5+	(18.8)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ナデ状の篦ナデケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、灰赤色	橙色、にぶい橙色	少し不良	内面剥離著しい
	2	H43 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(19.8)	8.6+			口縁僅かに外傾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面不規則な篦ケズリ、内面指頭圧痕残る雑なナデ。	緻密	褐灰色、灰黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	普通	
	3	H43 +	覆土	土師器	甕	底部1/4		2.7+		(7.7)	外面篦ケズリ。	小礫2㎜弱以下を含む	明黄褐色、灰黄褐色	橙色、灰褐色	少し不良	内外面わずかに摩耗
	4	H43 +	覆土	土師器	甑	口縁部1/4	(12.0)	5.4			口縁大きく外反。口縁ヨコナデ。胴外面篦ケズリ､内面ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 にぶい橙色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	少し不良	
	5	H43 +	覆土	須恵器	提瓶？	体上部片1/4					稜部に沈線の条線4本。内外面ロクロナデで下端にわずかに回転篦ケズリ見える。肩部には降灰有り。	黒色粒1㎜以下を少量含む	灰白色、オリーブ灰色	灰黄色	良好	
	6	H43 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣 赤彩土器	一部	(11.8)	4.3	稜部径 (12.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデで底部ミガキ。	緻密	浅黄橙色、赤色	浅黄橙色、赤色	良好	内外面赤彩
	7	H43	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣 赤彩土器	一部欠損	14.6	3.5			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデで底部ミガキ。	緻密	にぶい黄橙色 明赤褐色	にぶい黄橙色 明赤褐色	良好	内外面赤彩
	8	H43 +	覆土	土製品	支脚	一部		9.2+			側面—角柱か？ 断面—四角か？	緻密 わずかに繊維状の破片を含む	灰黄褐色、黄褐色		不良	
	9	H43 Po1	焼土中	石製品	叩き石？	完存	長さ10.9cm・幅6.1cm・厚さ3.1cm 343.5ｇ									蝉緑岩
51 住	1	H47 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/2 胴下部～中位 1/5	19.0	23.8	25..0	8.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	密	にぶい赤色、にぶい黄橙色 赤色、黒褐色 橙色	橙色、暗赤褐色、黒褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	2	H47 Po2	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/3	(16.8)	7.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、暗赤褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	少し不良	外面摩耗多い
	3	H47 Po4	床面直上	土師器	甕	3/5強	13.5	14.5	15.0	6.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を含む	黄褐色、褐灰色、にぶい黄褐色、黒褐色	にぶい黄色、褐灰色、浅黄色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	4	H47 Po3－10	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	一部欠損	(13.8)	9.0		脚径 9.3	杯部内面横位の丁寧な篦ナデ。外面篦ナデ。脚柱～裾まで篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄褐色、暗赤灰色	赤色、橙色	わずかに不良	内面の一部と外面少し摩耗。内外面赤彩
	5	H47 カマド 黒土層	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 杯部3/5 裾部欠損	(14.0)	9.3+			杯部内面横位の丁寧な篦ナデ。外面篦ナデ。脚柱～裾まで篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、浅黄橙色	赤色、暗赤褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	6	H47 黒土層	覆土	土師器	杯 赤彩土器	1/4 底部欠損	(13.4)	3.7+			杯部内面ナデ、外面篦ナデ	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色	赤色	普通	内外面赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
51 住	7	H47	覆土	土製品	支脚	下半 一部欠損		12.9＋	9.7		側面―円柱状 断面―円	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい橙色、明褐灰色		不良	
	8	H47 Po5-2	床面直上	石製品	叩き石？	一部	現存長5.0cm・幅6.8cm・厚さ3.8cm　205.5ｇ									石英斑岩
52 住	1	H48 Po4	床面直上	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/4	(16.9)	11.8＋	(18.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面横位篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい橙色、橙色	褐灰色、にぶい橙色	良好	
	2	H48 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/5	(17.8)	4.1＋			口唇玉状。	小礫６㎜以下を含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色、橙色	普通	
	3	H48 Po7+15	覆土 ＋15	土師器	鉢	胴上部～口縁部 1/5	(19.1)	7.3＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	小礫３㎜以下を多く含む	明赤褐色、橙色	橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	H48 Po15+	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	口縁部1/3	(20.8)	4.3＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	小礫３㎜以下を多く含む	黄褐色、赤褐色、橙色	黄褐色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H48 Po2 P- ＋	ピット内	土師器	甕	3/5	22.0	25.3	21.0	12.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫２㎜大以下を多く含む	橙色、明黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色褐灰色、明黄褐色	やや不良	外面摩耗多い
	6	H48 Po7+15	覆土 ＋15	土師器	甕	底部片		3.3＋		(9.4)	外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、明黄褐色	黄橙色	少し不良	内外面少し摩耗
	7	H48 Po4	床面直上	土師器	甕	底部1/3		2.6＋		(7.5)	外面篦ケズリ。内面ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色黒褐色、明褐色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	
	8	H48	覆土	土師器	甕	底部3/5強		2.7＋		8.0	外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫４㎜以下を多く含む	浅黄色、黄灰色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗、一部剥離
	9	H48	覆土	土師器	甕	底部1/3		1.9＋		(8.6)	外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫１㎜以下を含む	にぶい褐色、橙色	浅黄色、にぶい黄色	やや不良	内面少し摩耗
	10	H48 Po13+13	覆土 ＋13	土師器	甕	底部		3.3＋		8.0	底部柱状。底部木ノ葉	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色橙色	にぶい黄橙色橙色	やや不良	
	11	H48 ＋ Po6 Po9+8	床面直上	土師器	鉢？	底部～体中位		6.4＋	(12.7)	6.3	胴外面不規則な篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	灰白色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	12	H48 ＋ Po2	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	底部～体中位 1/3		9.7＋	(16.1)		丸底。胴外面不規則な篦ケズリ。内面ヌタ痕を残すナデ。	小礫２㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。薄手。丸底
	13	H48 P-	ピット内	土師器	鉢？	体中部～口縁部 1/2	(10.4)	7.2＋	(10.0)		雑な作り、外面指頭圧痕残す縦位篦ケズリ、内面篦ケズリと篦ナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色灰黄褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	普通	
	14	H48	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面篦ケズリ。	灰白色粒１㎜以下を主とする小礫を少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	良好	
	15	H48 Po5	床面直上	須恵器	杯身	一部欠損	10.0	4.7	後部径 12.3	4.1	やや深い。ロクロナデ。底体部回転篦ケズリ。	灰白色粒３㎜大以下を少量含む	灰白色、浅黄色、灰色	灰オリーブ色オリーブ黄色	普通	
	16	H48 ＋ Po5+	ほぼ床面	須恵器	杯身	1/2	10.8	3.6	後部径 12.4		ロクロナデ。底体部回転篦ケズリ。	灰白粒、灰色粒３㎜大以下を多く含む	灰色、灰オリーブ色、灰白色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	17	H48 Po5+	ほぼ床面	須恵器	杯身	体上部～口縁部 片	(11.3)	2.9	後部径 13.4		ロクロナデ。	灰白色粒３㎜大以下を多く含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	18	H48	覆土	須恵器	杯身	口縁部1/4	(10.4)	3.6	後部径 12.4		ロクロナデ。	灰白色、黒色粒１㎜以下を含む	灰色、灰白色	灰色、灰白色	良好	
	19	H48 ＋	覆土	土師器	杯？	1/3 底部欠損	(15.8)	3.6＋			内面ナデ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	橙色	橙色	不良	内外面摩耗激しい
	20	H48 Po14+11	焼土中	土師器	杯	接合完形	14.8	3.9			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、褐灰色	普通	
	21	H48 Po8+	床面直上	土師器	杯	1/2 底部欠損	(13.4)	4.4＋	後部径 (14.0)		口縁外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面篦ナデ状のケズリ。	小礫２㎜弱以下を含む	にぶい橙色、灰白色、褐灰色	明黄褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	22	H48 ＋	覆土	土師器	杯	一部	(12.3)	3.3	(12.5)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	23	H48 Po4	床面直上	土師器	杯	1/6 底部欠損	(14.0)	2.6	後部径 (14.6)		稜鈍い。内面ミガキ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	24	H48 Po3+13	覆土 ＋13	土師器	杯	3/5強 底部欠損	11.5	3.4			口縁外面ヨコナデ。内面光沢の有るミガキ。底体部外面丁寧なケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	にぶい黄橙色橙色	灰黄褐色、褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	
	25	H48 ＋	覆土	土師器	杯	体上部～口縁部 1/4	(12.6)	2.9＋			内外面ミガキ。	緻密	浅黄橙色、明赤褐色	にぶい橙色	少し不良	内外面やや摩耗
	26	H48 Po15+	ほぼ床面 ＋8	土師器	鉢	体上部～口縁部 1/4	(19.0)	6.5＋			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。内面底部篦ケズリ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色灰黄褐色、橙色	にぶい黄橙色灰黄褐色、橙色	普通	
	27	H48 P-	ピット内	土師器	鉢	1/2 口縁部1/5	(21.4)	7.8		8.0	口縁内面ミガキ。外面篦ナデ？	小礫２㎜大以下を含む。褐鉄鉱粒も多い	にぶい黄橙色橙色、にぶい黄色	浅黄色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	28	H48 Po11	ほぼ床面 ＋3	土師器	鉢 内黒土器	体上部～口縁部 1/4	(19.0)	4.7			外面口縁直下に段を有す。口縁外面シャープなヨコナデ。体部篦ケズリ残る篦ナデ。内面内黒ミガキ。	小礫１㎜以下を極少量含む	橙色、明黄褐色	黒色	普通	内面黒色処理（炭素吸着）
	29	H48 Po10+		土師器	小形椀	1/2 底部欠損	(9.1)	5.2＋	(10.4)		口縁内外面および内面ナデ。底体部外面ナデ状篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	橙色、浅黄橙色	褐灰色、浅黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	30	H48 ＋	覆土	土師器	高杯	脚部片 裾部欠損		7.1＋			雑な作り、杯外面縦位篦ケズリ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を多く含む	灰褐色、褐灰色、にぶい橙色		不良	杯部内面剥離が著しい。外面摩耗多い
	31	H48	覆土	土師器	高杯	胴上部～体下部 片		2.7＋			外面篦ケズリ。内面ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い
	32	H48 Po2	ほぼ床面 ＋3	土師器	高杯	脚部 裾部欠損		9.6＋			柱肉薄く、長い。	小礫１㎜以下を多く含む	赤色、浅黄色暗灰黄色	にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗が激しい。支柱転用か？
	33	H48 Po2	ほぼ床面 ＋3	土師器	高杯	脚部1/4		6.1		脚径 (13.6)	脚裾附近までケズリ状の篦ナデ。端部ヨコナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色		わずかに不良	
	34	H48	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部片		4.2＋			柱篦ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	明黄褐色、明赤褐色		不良	内面少し摩耗、外面摩耗・剥離著しい。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
52住	35	H48 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部わずかに欠く		20.0＋	7.0		側面―円錐台 断面―円	小礫1㎜以下を含む	黄橙色、橙色 明黄褐色		やや不良	
	36	H48	覆土	石製品	不明	完存	長さ6.8cm・幅6.1cm・厚さ3.6cm 39.7ｇ									軽石
53住	1	H49	床面直上 カマド燃焼部	土師器	甕	一部欠損	18.2	23.1	20.5	5.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面手調れた篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	普通	外面わずかに摩耗、内面剥離多い
	2	H49	床面直上 カマド燃焼部	土師器	甕	3/5強	16.6	29.9	21.2	6.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面手調れた篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 浅黄橙色、灰黄褐色	普通	内外面わずかに摩耗
	3	H49	床面直上 カマド燃焼部	土師器	甕	4/5	17.0	32.8	20.7	6.4	突出気味底部。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色、黄橙色、浅黄橙色	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	
	4	H49 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部片	(17.0)	4.1＋			口縁短く外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 明黄褐色	にぶい黄橙色 明黄褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	5	H49 Po7	覆土 ＋18	土師器	甕	頸部～口縁部 1/4	(23.5)	6.8＋			口頸部コノ字状。口縁内外面手調れたヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	6	H49 Po7	覆土 ＋12	土師器	甕	頭部片1/4		4.7＋			口頸部コノ字状を呈し、肩が張る。口縁内外面手調れたヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	緻密	浅黄色、黄灰色、黒褐色	浅黄色、黄灰色、黒褐色、にぶい黄橙色	良好	
	7	H49 黒土層	覆土	須恵器	杯身	体部～口縁部片	(12.9)	2.6＋	稜部径 (15.0)		受部および口縁鋭く摘み出す。内外ロクロ整形。	白色粒1㎜大以下を少量含む	灰オリーブ色 灰色、オリーブ黒色	灰オリーブ色 灰色	良好	体部に一部自然釉付着
	8	H49 黒土層	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/5 体下部～底部欠損	(13.4)	4.0＋			口縁立ちあがり長い。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ残るミガキ。	小礫3㎜以下を少量含む	赤褐色、黒褐色	橙色、にぶい橙色	普通	
	9	H49 黒土層	覆土	土師器	杯 有段口縁杯蓋模倣	1/4 底部欠損	(14.0)	4.9＋			口縁外面有段。口縁内外面およ内面シャープなヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を多く含み、褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	にぶい褐色	にぶい褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	10	H49 黒土層	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/2	(15.5)	4.5			口縁内外面および内面光沢の有るミガキ。底体部外面篦ケズリ消し去るミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	橙色、褐灰色	良好	
	11	H49 黒土層	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	1/2	(15.5)	4.2			口縁内外面ミガキ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ、内面ミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	灰黄色、にぶい橙色、黒褐色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H49 Po14	覆土 ＋9	土師器	杯 杯蓋模倣	体部～口縁部 1/5	(16.2)	4.1＋			全面光沢の有るミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	灰黄褐色、灰白色、明褐色	浅黄橙色、褐灰色	良好	
	13	H49 Po7 黒土層	覆土 ＋12	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	体上部～口縁部 1/4	(15.4)	3.4＋	稜部径 (16.3)		受部稜鋭い。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ナデ状篦ケズリ。	緻密	赤色、淡黄色	赤色、淡黄色 暗灰黄色	やや不良	内面の一部が剥離。外面口縁部と内面赤彩
	14	H49 黒土層	覆土	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	体部～口縁部 1/4	(14.4)	4.2＋	稜部径 (16.0)		受部稜丸い。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄色、暗灰黄色	浅黄色	やや不良	内外面やや摩耗
	15	H49 Po6	覆土 ＋12	土師器	杯	1/3	(12.8)	3.1	(13.5)		口縁内外面および内面ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	灰黄褐色、黒褐色	褐灰色、灰黄褐色	やや不良	内外面の体部摩耗多い。体部は少し厚手
	16	H49 Po8	覆土 ＋13	土師器	椀	一部欠損	11.2	5.4			丸底。口縁内外面雑なヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ナデで部分ミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色、褐灰色	やや良好	内面の体下部剥離が多い
	17	H49 Po11	床面	土師器	鉢	1/2	13.7	7.6		5.7	口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、にぶい黄色、暗灰黄色	にぶい橙色、灰褐色、褐灰色	わずかに不良	外面わずかに摩耗、内面剥離多い
	18	H49 黒土層	覆土	土師器	鉢	体部～口縁部 1/4	(13.2)	5.7＋	(14.0)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	19	H49 Po12	床面直上	土師器	小形甕	底部～胴下部 1/2		5.4＋		5.5	胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内面摩耗、内面一部剥離
	20	H49 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形鉢	体上部～口縁部 1/6	(11.4)	4.6＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい褐色	橙色	普通	
	21	H49 Po9	覆土 ＋8	土師器	高杯 内黒土器	脚部 裾部欠損		5.1＋			杯部内面ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下と小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	黒褐色、黒色	少し不良	内外面摩耗多い。内面黒色処理
	22	H49 黒土層	覆土	手捏土器	鉢形？	底部附近		2.0＋			不明	小礫1㎜以下を少量含む	灰黄褐色、褐色	暗褐色	普通	
	23	H49	覆土	土製品	支脚	上半		11.7＋	4.3		側面―四角錐台 断面―四角	小礫1㎜以下を含む	橙色、灰褐色		普通	
	24	H49	覆土	石製品	不明	完存	長さ6.1cm・幅3.7cm・厚さ3.1cm 18.6ｇ									赤城系軽石
	25	H49 Po13+2	床面直上	鉄製品	刀子	刃一部	現存長4.4cm・幅1.1cm・棟厚0.4cm 6.0ｇ									
54住	1	H50 ＋	覆土	土師器	甕	口縁部片	(25.4)	3.6＋			口縁貼り付け、端部側面凹状。口縁直下に段有す。内外面手調れたヨコナデ。頸部外面に縦位篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色	橙色	良好	
	2	H50 ＋	覆土	土師器	甕	底部～胴下部 1/3 底部中央欠損		3.9＋		(10.0)	外面ナデ状篦ケズリ。	緻密	浅黄橙色、灰黄褐色	淡黄色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	3	H50 Po4	粘土中 ＋14	土師器	甕	底部3/5		2.2＋		(7.0)	外面雑な篦ナデ。	緻密	淡黄色、黒褐色	灰黄色、黄灰色	やや不良	内面摩耗著しい
	4	H50 Po1	覆土 ＋8	土師器	杯 杯身模倣	1/3 底部欠損	(12.0)	3.0＋	稜部径 (12.6)		受部稜鈍い「く」の字。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面ミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を含む	浅黄色、灰黄色、黒褐色	浅黄色、灰黄色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H50 Po1	覆土 ＋8	土師器	杯 杯身模倣	一部 体下部欠損	(13.2)	2.8＋	稜部径 (13.9)		受部稜「く」の字。口縁外面ヨコナデ、内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄色、灰黄色	浅黄色、灰黄色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
54住	6	H50 Po4	粘土中 ＋14	土師器	杯	1/3	(12.7)	6.1		(8.0)	内面体部と底部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面手持ち篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を含む	黄橙色、にぶい橙色	橙色	普通	
	7	H50 Po4	粘土中 ＋14	須恵器 千葉市城産	杯	底部3/5		1.1		(8.0)	内面ロクロナデ。体部下端および底部手持ち篦ケズリ。	小礫１㎜以下を含む	灰オリーブ色 灰色	灰色	普通	薄手
	8	H50 Po2	床面直上	石製品	砥石	頭部欠損	現在長8.3cm・幅2.9～6.4cm・厚み2.1～5.5cm　240.1ｇ									流紋岩
55住	1	H51 Po10	ほぼ床面	土師器	甕	胴部1/3～口縁部4/5	(15.9)	18.9＋	(18.5)		肉厚気味。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色、赤橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H51A Po-1	ほぼ床面 ＋2	土師器	甕	4/5 底部～胴下部欠損	15.6	17.5＋	19.1		口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位ケズリ状の篦ナデ、内面ナデ。	密	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	普通	
	3	H51 ＋	覆土	土師器	甑？	胴上部～口縁部1/4	(16.6)	7.3＋			口縁外面刷毛目残すナデ、内面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面凹凸残す篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	良好	
	4	H51 ＋	覆土	須恵器	甕	頸部～口縁部片					口縁直下に鈍い凸状の隆帯回る。内外面ロクロナデ肩部平行叩き目。	緻密	灰色	灰色、浅黄色	普通	
	5	H51 ＋	覆土	土師器	椀形杯	1/4 底部欠損	(13.1)	4.4			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫２㎜以下を多く含む	灰黄色、黒褐色、黄灰色	明黄褐色、灰黄色、黄灰色	やや不良	内外面摩耗多い（特に内面）
56住	1	H51 Po3 ＋	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(27.0)	5.9＋			口縁水平に外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を含む	黄灰色、にぶい黄橙色	灰黄色、褐灰色、橙色	普通	
	2	H51 Po4	ほぼ床面	須恵器	高台付杯	底部～体下部1/4		4.2＋		(11.0)	底部出尻気味。高台シャープな角状。内外面ロクロナデ。底体外面回転篦ケズリ残すロクロナデ。	淡黄色粒２㎜以下を少量含む	暗緑灰色、オリーブ灰色	暗オリーブ灰色、オリーブ灰色	普通	
	3	H51 ＋	覆土	須恵器	高台付杯	底部片		1.1＋		(8.8)	内外面ロクロナデ。	緻密	浅黄色	浅黄色	やや不良	
	4	H51 ＋	覆土	須恵器	杯	底部1/4		0.8＋		(5.8)	内面ロクロナデ。体部下端回転篦ケズリ。底部手持ち篦ケズリ。	緻密	浅黄色	灰白色	やや不良	
57住	1	H52 Po1	ほぼ床面 ＋3	土師器	甕？	胴部～口縁部3/5	22.3	23.6	19.3		口唇僅かに上方に摘みだし「コ」の字状気味。口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫７㎜以下を含む	橙色、褐灰色 黒褐色、にぶい黄橙色	橙色、褐灰色 黒褐色、にぶい黄橙色	普通	
	2	H52 Po2 Po5	ほぼ床面 ＋2	土師器	甕	胴中位～口縁部1/2	21.6	11.8＋	18.6		口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	灰白色、橙色	普通	
	3	H52 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上位～口縁部1/4	(16.9)	15.5			口縁僅かに外傾。口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴外面雑な篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫２㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	H52 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	1/2	19.5	19.5		(9.0)	口縁僅かに外傾き内面に稜線。口縁内外面ヨコナデ、胴外面篦ケズリ残す篦ナデ、内面雑な篦ケズリ。	小礫６㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、灰黄褐色	やや良好	
	5	H52 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	にぶい橙色	灰白色	良好	外面施釉？
	6	H52 ＋	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	口縁部片	(13.6)	2.6＋			摩耗不明。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	灰白色、灰黄色、橙色	灰白色、橙色	不良	内外面摩耗著しい
	7	H52 Po5	ほぼ床面	土師器	甕	底部1/4		1.1＋		(10.0)	内面ミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 黄灰色	にぶい黄橙色	良好	
	8	H52 カマド	ほぼ床面	土師質	平瓦						１枚造り。凹面布目、凸面縄叩き目。					
	9	H52 Po4+11		鉄製品	手鎌	一部欠損	推定復元長10.6cm・幅2.3cm・厚さ0.3cm・孔径0.3cm　13.7ｇ									
58住	1	H53 Po1	床面直上	土師器	甕	胴最上部1/6～口縁部2/5	(23.6)	8.4＋			口唇「コ」の字状。口縁内外面刷毛目明瞭に残すナデ。胴外面刷毛目残す篦ナデ、内面ナデ。	小礫４㎜大以下を含む。褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや良好	
	2	H53 ＋	覆土	須恵器	甕	頸部片					内外面ナデ。	緻密	灰白色	灰黄色、灰色	普通	
59住	1	H54 Po3	床面直上	土師器	甕	底部1/2		2.1＋		6.8	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	灰黄色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、黒褐色	普通	内面剥離多い
	2	H54 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3		3.3＋		(5.0)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を含む	橙色、にぶい黄色、黒褐色	にぶい黄色、灰黄色	普通	
	3	H54 ＋	覆土	須恵器	杯	体上部～口縁部片	(13.4)	2.4＋	稜部径 (15.0)		口唇鋭く摘み出す、受部稜丸身。内面ロクロナデ。	緻密	オリーブ黒色 灰白色、灰オリーブ色	灰色	普通	
	4	H54 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	体上部～口縁部1/3	15.3	3.2＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	
	5	H54 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	1/2	13.8	4.4	稜部径 14.4		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残す篦ナデで稜直下ミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜弱以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	6	H54 ＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣	1/2	7.0	3.6	稜部径 13.2		口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	浅黄橙色、灰黄褐色、赤橙色	赤橙色、灰黄褐色、浅黄橙色	少し不良	内面少し摩耗
	7	H54 ＋	覆土	須恵器	長頸壺	頸部1/3		5.6＋			３段構成？頸部外面厚く釉被る。内面ロクロ目残し、薄く降灰被る。	緻密	オリーブ灰色 灰オリーブ色	にぶい黄褐色 灰色	良好	
	8	H54 ＋	覆土	土製品	支脚	上端欠損		11.9＋	7.9		側面―円柱状 断面―円	小礫１cm大以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色		やや不良	
	9	H54 黒土層	覆土	石製品	石製玉未製品	完存	径1.4～1.5cm・厚さ0.78cm・孔径0.30～0.35cm　2.412ｇ									
	10	H54 黒土層内	覆土	石製品	管玉	欠損	径0.55cm・現存長0.45cm・孔径0.2cm　0.204ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
60住	1	H56 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/3	(17.0)	29.8	(26.0)	(8.9)	肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	H56 Po7	ほぼ床面	土師器	甕	口縁部1/4	(16.2)	4.3+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	3	H56	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部1/4	(24.6)	12.9+	(22.8)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ消し去るナデ。	小礫1㎜大以下を含む	橙色、浅黄色 黄灰色	橙色、灰褐色	良好	
	4	H56 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部片		3.1+		8.0	外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	やや不良	外面少し摩耗、内面一部剥離
	5	H56 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	黒色粒1㎜大以下を少量含む	灰黄色	浅黄色	普通	
	6	H56 Po3	ほぼ床面	土師器	杯	1/3 底部欠損	(13.8)	3.6+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ナデ状篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	橙色、にぶい褐色	橙色	やや不良	内外面少し摩耗。薄手
	7	H56 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器?	杯口縁部欠損		5.4+		脚径6.9	杯部内面ミガキ。柱部ミガキ状篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 明赤褐色、褐灰色、橙色	にぶい黄橙色 明褐色、赤色	不良	内外面摩耗多い。杯内面剥離有り。脚内面以外赤彩?
	8	H56 Po5	ほぼ床面 +5	須恵器	提瓶	体上半部1/3		8.4+			外面回転カキ目、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	灰色、暗灰黄色	灰色	良好	
61住	1	H55 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部3/5	15.8	13.6+	24.5		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	明赤褐色、橙色、褐灰色	明赤褐色、橙色、褐灰色	普通	外面わずかに摩耗
	2	H55 Po4 H56+	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(16.6)	7.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む。褐鉄鉱粒一部に3㎜含む	浅黄橙色、橙色、にぶい赤褐色	灰黄褐色、にぶい橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	H55 カマド H56カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部5/6	20.7	4.7			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	赤褐色、灰赤色、にぶい赤褐色	赤褐色、灰赤色、にぶい赤褐色	やや不良	内面摩耗多い。2次加熱受けている
	4	H55 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/4	(26.6)	6.4+			肉薄。口縁「く」の字外反。口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、黒褐色	少し不良	2次加熱受けている
	5	H55 Po2	覆土 +20	土師器	甕	口縁部1/4	(25.0)	5.5+			肉薄。口縁「く」の字外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を含む。一部に小礫5～7㎜大有り	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	内面口縁部にタール付着
	6	H55 カマド	カマド燃焼部	土師器	皿状杯	3/5	13.5	3.1			口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	普通	
	7	H55 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	3/5強	13.5	3.7		9.8	底体部境に内外面共に稜線有り。底部出尻。体部と底部外面手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大を少量含む	橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗激しい
	8	H55H56 +	覆土	土師器	高杯	脚部1/3		5.7+			杯部内面篦ミガキ。脚柱部ケズリ状の篦ナデ。	緻密	浅黄色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面わずかに摩耗
	9	H55 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	下部一部欠損		14.6	7.4		側面一円柱状 断面一円	小礫1㎜以下と褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色		少し不良	
62住	1	H57 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5強	25.3	32.3	20.8	(5.5)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ。内面篦ナデ消し去るナデ。	小礫3㎜大以下を多く含む	褐灰色、赤色 浅黄橙色	褐灰色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H57 H57カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部1/4	(11.6)	11.2+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	褐灰色、橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い。外面にカマド粘土付着
	3	H57 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～上位1/3	(19.4)	15.6+			肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を含む	褐灰色、橙色	褐灰色、橙色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離多い
	4	H57 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部1/3	(21.4)	8.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。全体にカマド粘土付着(頸部は少ない)
	5	H57 カマド +	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部1/4	(19.0)	13.3+	(19.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 明黄褐色	不良	内外面摩耗多く、内面剥離
	6	H57 +	覆土	土師器	甕	底部3/5～胴下部1/4		4.5+		(9.6)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒2㎜以下わずかに含む	にぶい黄橙色	橙色	やや不良	内外面やや摩耗。2次加熱受けていない
	7	H57 Po4+	ほぼ床面 +6	土師器	甕	底部～胴下部 胴下部2/5		9.4+		7.4	外面篦篦ナデ状の篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗、内面一部剥離
	8	H57 +	覆土	土師器	甕	底部		3.9+		7.3	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多く、内面剥離
	9	H57 Po6+	覆土 +10	土師器	甕	底部		5.0+			丸底気味。外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄色、黒褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	普通	2次加熱受けていない
	10	H57 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	3/5	12.7	4.2			丸底杯。口唇内面稜線。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残るナデ状ミガキ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	明黄褐色、黒褐色	普通	
	11	H57 Po5	床面直上	土師器	杯	3/5	12.6	5.0			丸底杯。口唇内面稜線。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残るナデ状ミガキ。	小礫1㎜以下と褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、明赤褐色	黒褐色、淡黄色、赤褐色	普通	
	12	H57 Po1+	ほぼ床面 +8	土師器	杯	3/5強	11.1	4.6			丸底杯。口唇内面稜線。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残るナデ状ミガキ。	小礫2㎜以下を極少量含む	明黄褐色、灰黄褐色、暗赤褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	13	H57	覆土	土師器	鉢 内黒土器	1/3	(9.8)	4.5		(5.3)	内面光沢の有る内黒ミガキ。外面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄色、黄灰色	黒色	やや不良	外面摩耗、内面剥離。内面黒色処理
	14	H57 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	一部 底部中央欠損	(12.0)	2.9+	稜部径(12.6)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	淡黄色、黄灰色	浅黄色、黄褐色、黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
62住	15	H57+	覆土	土師器	高杯	脚部1/2		5.4+			杯部内面強いミガキ。脚柱雑なナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	不良	外面摩耗
	16	H57+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰オリーブ色	灰オリーブ色	普通	
	17	H57+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰オリーブ色浅黄色	灰オリーブ色	普通	
	18	H57	覆土	須恵器	甕	胴下部片					外面叩き目消し去るナデ。	緻密	灰黄色	灰色、明黄褐色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	19	H57+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	黒色粒1㎜以下を極少量含む	灰オリーブ色	灰オリーブ色	普通	
	20	H57Po3	床面直上	土製品	支脚	上部片		6.1+	3.9		側面—角柱？断面—角？	小礫1㎜以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色、明黄褐色		不良	
	21	H57Po2+	ほぼ床面+4	石製品	叩き石	完存	長さ9.5cm・幅6.8cm・厚さ4.9cm　431.2ｇ									砂岩
63住	1	H58	覆土	土師器	甕	1/2	14.2	14.5	15.4	5.4	口縁短く僅かに外反。口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面篦ナデ残るナデ。	密	褐灰色、浅黄橙色、橙色	浅黄色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	
	2	H58カマド	カマド燃焼部	土師器	台付甕	台欠損	12.2	11.8+	13.3		口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色黒褐色、褐灰色	にぶい黄橙色黒褐色、橙色	やや不良	
	3	H58	床面直上	土師器	杯	ほぼ完形口唇部わずかに欠く	13.0	3.5		8.9	内面体部と底部境明瞭。体部外面および底部手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含み、褐鉄鉱粒3㎜以下を一部含む	橙色、にぶい橙色、にぶい赤褐色	橙色	不良	内外面摩耗
	4	H58	覆土	鉄製品	刀子	切っ先わずかに欠く	現存長17.0cm・関幅0.9cm・茎長さ6.4cm・茎幅0.8cm・茎棟厚0.35cm　14.2ｇ									
64住	1	H59カマド黒土層H60	カマド燃焼部	土師器	甕	1/4	(22.5)	30.0	(20.1)	5.7	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少し含む	にぶい赤褐色灰赤色、褐灰色	橙色、灰褐色黒褐色	やや不良	
	2	H59カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部片	(22.2)	4.5+			口唇僅かに上方に丸く摘み出す。口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴縦位篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	明赤褐色、浅黄色	明赤褐色、浅黄色	良好	
	3	H59Po4黒土層	ほぼ床面+5	土師器	甕	底部胴下部1/3		8.9+		5.6	胴外面ナデ状の篦ケズリ。内面ナデ。	小礫4㎜以下を含む	黒褐色、灰黄褐色、明赤褐色	褐色、黒褐色	良好	
	4	H59Po2	覆土	土師器	鉢？	底部5/6～体部3/5		10.0+	12.2	6.6	底部柱状気味。内外面摩耗不明。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む。小礫2㎜大以下を含む	浅黄色、にぶい黄橙色、褐灰色	浅黄色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。2次加熱受けていない
	5	H59黒土層	覆土	土師器	台付甕	脚部2/5～甕底部2/5		4.4+		脚径9.1	甕底内面篦ナデ消し去るナデ。外面篦ケズリ。脚内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、赤褐色	にぶい赤褐色赤褐色	普通	
	6	H59黒土層	覆土	土師器	台付甕	脚部～甕底部3/5		4.0+		脚径8.8	甕底内面篦ナデ消し去るナデ。外面篦ケズリ。脚内面ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	黒褐色	にぶい橙色	やや良好	甕内面は少し摩耗
	7	H59黒土層	覆土	須恵器	杯	一部	(12.4)	3.4		(9.0)	内外面丁寧なロクロナデ。体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	灰オリーブ色灰色	灰オリーブ色灰色	やや不良	
	8	H60	床面直上	土師器	杯	3/5強	12.0	4.4		8.4	底と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。体部および底部外面手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒8㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	良好	
	9	H59カマド	床面直上	土師器	杯暗文土器	1/3	(14.0)	3.7		(10.4)	底と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。体部および底部外面手持ち篦ケズリ。内面に乱れた螺旋状暗文。	小礫2㎜以下を（褐鉄鉱粒も）極少量含む	明褐色、橙色にぶい褐色、褐灰色	橙色、にぶい褐色、褐灰色	普通	螺旋暗文
	10	H59黒土層カマド	床面直上	ロクロ土師器	杯	3/5口縁部1/3	(10.9)	3.8		(7.6)	肉厚。内外面ロクロナデ？	緻密	橙色、極暗赤褐色、にぶい黄橙色	橙色、極暗赤褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	11	H59	覆土	ロクロ土師器	高台付杯	ほぼ完形口唇部わずかに欠く	13.0	5.5		8.7	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ消し去るナデ。高台貼り付け	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい赤褐色にぶい橙色、褐灰色、橙色	橙色、にぶい橙色、褐灰色	少し良好	内面の口縁上部が摩耗
	12	H59	覆土	灰釉陶器？	平瓶	ほぼ完形口縁部と把手部欠損		8.1+	17.0	13.7	体部篦ケズリ消し去るナデ。底部回転篦ケズリ残すナデ。天井部・体部の一部・頸部内外面に釉被る。シャープな稜線。	灰白色粒1㎜以下を少量含む	オリーブ灰色淡黄色、灰白色	灰白色、灰色	良好	釉は体部全面に無いことから降灰か。
	13	H59B大壙	床面直上	灰釉陶器	長頸壺	底部一部欠損胴部1/3欠損上半分は1号方形区画土壙内から出土	8.5	24.6	16.8	9.3	3段構成。内面ロクロ整形。口縁～胴中位ロクロナデ。胴下半回転篦ケズリ消し去るロクロナデ。器表面釉被る。	密	淡緑色、淡橙色	淡灰色	良好	ブク有り。施釉。1号方形区画遺構－55の大形土壙内出土品と接合。
	14	H59	床面直上	鉄製品	刀子	切っ先わずかに欠く	現存長17.4cm・関幅1.0cm・関棟厚0.4cm・茎長さ7.4cm　20.0ｇ									
65住	1	H60カマド	カマド左床面直上	土師器	甕	底部～胴部3/5～口縁部底部中央欠損	15.5	28.1	18.9	6.7	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫4㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、明赤褐色、褐灰色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	2	H60Po3		土師器	甕？	胴上部～口縁部片	(17.6)	10.1+	(19.8)		口縁肉厚。口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面輪積み残る篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む。一部に6㎜の小礫もある	橙色、浅黄色	にぶい黄橙色灰黄褐色、灰色	良好	2次加熱受けていない
	3	H60	床面直上	土師器	鉢	ほぼ完形	13.4	14.1	14.1	6.6	口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面輪積み残るナデ状篦ケズリ、内面ナデ。	密	橙色、にぶい褐色、灰黄褐色	橙色、にぶい褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い。内面一部剥離
	4	H60Po3	覆土	土師器	甕	口縁部1/2	13.3	3.0+			内外面シャープなヨコナデ。	緻密	灰黄褐色、にぶい黄橙色	橙色、灰褐色	普通	
	5	H60+	覆土	須恵器	杯身	1/3底部欠損	(11.7)	4.5+	稜部径(13.6)		ロクロナデ。体部下端と底部外面カ移転篦ケズリ。	緻密	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	6	H60+	覆土	土師器	杯杯蓋模倣	1/2底部中央欠損	(12.0)	3.8+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ？	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色	橙色	不良	内外面摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
65住	7	H60 Po6	ほぼ床面＋7	土師器	杯 杯蓋模倣	3/5 口縁部1/2	14.5	3.8＋			口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	明黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	外面摩耗が多い
	8	H60 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	1/2	3.1	14.8			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面ナデ状篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内面やや摩耗
	9	H60 Po4	ほぼ床面＋3	土師器	杯	1/3 底部中央欠損	(14.1)	4.6＋	(14.0)		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	緻密	橙色、灰赤色 黒褐色	にぶい褐色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、特に外面に多い
	10	H60 Po5	床面直上	土師器	高杯	脚部 裾端部1/2		5.0＋		脚径 (9.4)	脚柱ケズリ状の篦ナデ、裾部ヨコナデ。	緻密	にぶい橙色、黒褐色	橙色	やや不良	内外面摩耗
	11	H60 ＋	覆土	須恵器	ハソウ	体部2/5 口縁部欠損		6.6＋	(9.0)		肉厚。頸部が細い。体部上半に櫛歯状工具による刺す突文が密な間隔で施され上下を凹状の条線で区切っている。底部外面はカキ目を消し去るナデ整形。口縁が存在しないが胴径より口縁径が大きくなるタイプ。	密	灰白色、灰色	灰白色、灰色 灰黄色	良好	ＴＫ43～ＴＫ209型式
	12	H60	床面直上	土製品	支脚	両端欠損		10.8＋	6.5		側面―角柱 断面―角状	緻密	にぶい黄橙色 灰白色		普通	
	13	H60	床面直上	土製品	支脚	基部欠損		13.6＋	6.7		側面―円錐台 断面―円	緻密	にぶい黄橙色 灰白色、橙色		わずかに不良	
	14	H60	覆土	石製品	不明	完存	大きさ2.5cm×1.2cm×1.1cm　1.8ｇ									軽石
	15	H60	覆土	石製品	不明	完存	大きさ3.8cm×2.4cm×2.0cm　4.1ｇ									軽石
	16	H60	覆土	石製品	不明	完存	大きさ2.5cm×1.5cm×1.3cm　2.2ｇ									軽石
66住	1	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/5～胴部1/2～口縁部1/3	(18.6)	27.0	21.2	(7.4)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を含む	にぶい橙色、明褐色、褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	わずかに不良	
	2	H61 Po2+7 Po11	床面直上	土師器	甕	3/5	13.9	21.3	18.7	7.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	橙色、褐灰色 赤色	浅黄橙色、灰黄褐色、明黄褐色	わずかに不良	外面少し摩耗
	3	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/3	(16.0)	5.4＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、褐灰色	普通	
	4	H61 Po6	覆土＋18	土師器	甕？	胴上部～口縁部3/5	(15.0)	8.1＋			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面ナデ。	緻密	橙色、灰褐色 にぶい橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	少し厚手
	5	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部1/3	(15.9)	12.7＋			口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色、褐灰色	にぶい褐色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H61 Po1	覆土＋14	土師器	甕	胴上部3/5～口縁部わずかに欠く	14.2	14.1＋	(20.1)		肉厚気味。ほぼ立つ。口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	小礫４㎜以下を含む	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面やや摩耗
	7	H61 Po11	ほぼ床面＋8	土師器	甕	胴下部1/3 胴中位～口縁部4/5	15.3	22.0＋	20.1		肉厚気味。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面篦ナデ。	密	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色、灰褐色、褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	8	H61 Po9 Po11 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部1/2	(16.0)	14.7＋	(19.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	外面は摩耗と剥離、内面は口縁部が少し摩耗
	9	H61	覆土	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部3/5	(14.4)	12.5＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデで部分ミガキ。胴内面輪積み残すナデ。	緻密	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色	普通	外面の胴部一部剥離
	10	H61 Po8+5 Po2+7	ほぼ床面＋5	土師器	甕	胴上部～口縁部3/5	15.3	8.8＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面篦ナデ。	緻密	浅黄色、黒褐色、明赤褐色	褐色、褐灰色	やや良好	
	11	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/3 口縁部1/4 底部欠損	(19.2)	22.8＋	(25.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	明赤褐色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	明赤褐色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H61 Po1	覆土＋14	土師器	甕	底部1/4～胴下部1/3		8.3＋		(6.4)	外面丁寧なケズリ状の篦ナデ。内面雑な篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	普通	２次加熱受けていない
	13	H61 Po11 Po16	ほぼ床面	土師器	甕	底部		3.9＋		7.9	外面雑な篦ケズリなれど光沢あり。内面篦ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良好	
	14	H61 Po11	覆土＋8	土師器	甕	底部		2.4＋		5.6		緻密	明黄褐色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面わずかに摩耗。２次加熱受けていない
	15	H61 Po6	覆土＋18	土師器	甕？	底部1/3		2.7＋		(7.6)	外面ナデ状の篦ケズリ。内面丁寧なナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	赤色、灰赤色 暗赤灰色	暗赤褐色、にぶい褐色、褐灰色	良好	
	16	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部		2.7＋		7.0	外面ナデ状の篦ケズリ。内面丁寧なナデ。	緻密	橙色、赤灰色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	外面少し剥離
	17	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	胴上部～口縁部1/4	(22.6)	13.3	(20.4)		口縁外傾して内湾気味。口唇内面玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	18	H61 Po4	ほぼ床面	土師器	甑	4/5	18.3	22.4	19.8	6.6	口縁内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	明赤褐色、赤褐色、にぶい橙色	明赤褐色、褐色、にぶい橙色	わずかに不良	外面摩耗、剥離多い
	19	H61 Po15	壁接する	土師器	壺 赤彩土器	口縁部欠損 口縁部1/5	(8.8)	8.4	11.5	4.4	平底。口縁短く外傾。口縁鋭く尖る。口縁内外面ヨコナデ。胴丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を含む	赤色	赤色、灰黄褐色	普通	内面一部剥離。外面と内面口縁赤彩。底部×印
	20	H61 Po5	壁接する	土師器	鉢 赤彩土器	体下部～口縁部1/4	(12.8)	8.0＋	(14.0)		口縁短く外傾。口縁鋭く尖る。口縁内外面ヨコナデ。胴丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内面多く、外面少し摩耗。内外面赤彩
	21	H61 Po12	ほぼ床面	土師器	坩？ 赤彩土器	体部 上部欠損		9.9＋	(14.9)		丸底、肉厚。外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	灰赤色、浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面摩耗、内面一部剥離。胴中位まで赤彩
	22	H61 Po4	ほぼ床面	土師器	鉢	底部～体下部1/4		4.2＋			丸底気味。外面篦ケズリ、内面雑なナデ。	小礫１㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	丸底

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
66 住	23	H61 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面網目状平行叩き目。内面深い同心円文。	小礫1㎜大以下（一部に灰白色粒2㎜大）を少量含む。	灰色	灰色、灰黄色	良好	
	24	H61 Po6	覆土 ＋18	須恵器	無蓋高杯	口縁部片					口縁端部外方に僅かに摘み出す。外面篦描き条線。	密	灰オリーブ色	オリーブ灰色	良好	内外面均一に降灰による釉被る。
	25	H61 Po6	覆土 ＋18	須恵器	ハソウ	口縁部4/5	12.0	4.1＋			口縁端部僅かに外方に開く。口唇部凹状の条線。口縁直下にシャープな突帯、突帯下には櫛歯状工具による波状文内外面丁寧なロクロナデ。	灰白色粒2㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	ＴＫ208～ＴＫ23型式
	26	H61 Po16 +	覆土	土師器	椀？	1/3 底部欠損	(9.5)	6.9＋	(11.1)		口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色、赤色	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色、赤色	少し良好	口縁部内外面僅かに赤彩か。
	27	H61 Po1Po11 Po25表採 カマド	覆土 ＋8	土師器	坩 赤彩土器	体部1/3～口縁部3/5強 底部欠損	8.0	10.4＋	(11.4)		口縁外傾僅かに内湾。口縁内外面ヨコナデ。口頸部外面ケズリ状の篦ナデ。体部外面横位篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	赤褐色、にぶい黄橙色	橙色、赤褐色にぶい黄橙色	わずかに不良	体下部少し摩耗。内面口縁、外面赤彩
	28	H61 Po24	覆土	土師器	鉢	1/4 底部欠損	(13.6)	5.1＋			口縁外傾内湾、口唇鋭く上方摘み上げ。丸底。口縁内外面シャープなヨコナデ。内面体部斜行ミガキ、底部ミガキ。底体部外面上半篦ナデ、底部篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を多く含む	橙色	橙色	良好	
	29	H61 Po5+28	壁接する	土師器	杯	1/2	(15.8)	9.2	(16.2)		口唇凹状の条線。器高高い。口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ？	緻密	明赤褐色、暗赤褐色	橙色、明赤褐色、にぶい橙色	やや不良	外面の口縁部上位以外摩耗多い。内面剥離多い
	30	H61 Po1 +	覆土 ＋14	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部 1/3	(15.2)	3.9＋	(15.6)		口縁および内面ヨコナデ。体部ミガキ状篦ナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	31	H61 Po12 Po17	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部 1/3	(14.8)	5.0＋	(14.9)		口縁および内面ヨコナデ。体部ミガキ状篦ナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ、内面摩耗。	緻密	赤褐色、橙色 灰褐色	にぶい橙色、橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	32	H61 Po18	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部 1/3	(13.1)	4.2＋	(13.4)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	赤色、にぶい橙色	赤色、灰褐色	普通	内外面赤彩
	33	H61 Po7	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(14.7)	5.0	(15.3)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面な篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	暗赤色	赤色、灰赤色	普通	内面やや摩耗。外面底附近除き赤彩
	34	H61 Po14	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/6	(14.3)	4.5	(14.6)		口縁および内面ヨコナデ。体部ミガキ状篦ナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ、内面摩耗。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤褐色、暗赤褐色	橙色、にぶい赤褐色	普通	外面底部除き内外面赤彩
	35	H61	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5 口縁部1/4	(14.5)	5.3	(15.0)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色	良好	内外面赤彩
	36	H61 Po3 Po6	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(13.6)	4.2	(14.0)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	赤褐色、浅黄橙色	にぶい橙色、にぶい赤褐色、明黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い。外面底部以外内外面赤彩
	37	H61 Po18	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(11.8)	4.7	(12.4)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	暗赤色、赤色にぶい橙色	赤色、にぶい赤色	わずかに不良	内面口縁部～外面全体が少し摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	38	H61 Po8	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(14.1)	5.3			口縁および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい赤色、浅黄橙色	浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	39	H61 + Po5 Po6	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(15.8)	6.1	(16.4)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色浅黄橙色	にぶい橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。外面口縁、内面赤彩
	40	H61 Po7 Po3	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3	(13.9)	5.4	(14.9)		口縁および内面ヨコナデ。体部外面ミガキ状篦ナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	暗赤色、赤褐色、灰赤色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	41	H61 + Po18	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部 1/4	(17.0)	5.8＋	(17.8)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、明赤褐色、灰褐色	赤色	やや不良	内外面やや摩耗。外面口縁、内面赤彩
	42	H61 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部 1/3	(15.0)	4.9＋	(15.1)		口縁および内面ヨコナデ。内面摩耗。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	灰赤色、にぶい赤褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離。外面口縁、内面赤彩
	43	H61 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	13.8	5.5	15.1		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗、内面の一部は剥離。外面口縁部、内面赤彩
	44	H61 Po7 +	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部 1/4	(15.6)	4.9	(15.9)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	赤色	赤色	普通	内外面赤彩
	45	H61 Po21	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(13.0)	6.8	(13.8)		口縁および内面ヨコナデ。底部内面ミガキ。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	砂粒多く、不良	暗赤色	暗赤色	普通	内面剥離。内外面赤彩
	46	H61 Po26 Po6 Po9	ほぼ床面 ＋5	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	14.0	6.2	14.2		口縁および内面ヨコナデ。内面摩耗。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色、浅黄橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い。外面口縁部、内面赤彩
	47	H61 Po4 Po8	ほぼ床面	土師器	椀 赤彩土器	1/3	(13.3)	6.5	(14.0)		口縁および内面ヨコナデ。内面摩耗。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	明赤褐色、浅黄橙色	橙色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	48	H61 Po20	覆土	土師器	椀形杯	1/4 底部中央欠損	(14.4)	5.0＋			内外面光沢有るミガキ。底部外面丁寧な篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面小さな剥離多い。内面摩耗多い
	49	H61 Po4 Po8	ほぼ床面	土師器	鉢	2/5	(14.2)	6.3		6.0	口縁内外面ヨコナデ。底体部内外面雑なミガキ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
66住	50	H61 Po6	覆土 ＋18	土師器	椀形高杯 赤彩土器	3/5 底部中央欠損	16.9	6.3＋	17.3		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	わずかに全体に摩耗。赤彩
	51	H61 Po6 Po9 Po1	覆土 ＋18	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/4～杯1/2 脚裾部欠損	(14.4)	8.3＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部ミガキ状の篦ナデで摩耗。脚柱篦ナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	暗赤褐色、にぶい黄橙色	やや不良	杯部やや摩耗。赤彩
	52	H61 Po25	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 杯部1/5 口縁部欠損		8.9＋		脚径8.7	内面篦ナデ。外面ケズリ状の篦ナデ。脚柱雑な篦ナデ。	緻密	にぶい橙色、赤灰色	にぶい橙色、褐灰色	普通	赤彩
	53	H61 ＋ Po10	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部2/5～杯下部1/2		7.2＋			杯内面丁寧なナデで摩耗。外面ケズリ状篦ナデ。脚柱篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	杯底部内面剥離多い。赤彩
	54	H61 Po2	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		5.5＋		脚径9.5	杯内面ナデ。脚柱篦ナデ。	小礫２㎜弱以下を多く含む	赤色、褐灰色	灰赤色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	55	H61 Po8	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5強		5.0＋		脚径8.4	脚柱篦ナデ。	緻密	赤色		普通	赤彩
	56	H61	覆土	ミニチュア土器	鉢形	底部3/5		1.2＋		2.6	底部柱状で上げ底。内面丁寧な篦ナデ。	緻密	黒褐色	灰黄褐色	普通	
	57	H61 Po13+	覆土	ミニチュア土器	鉢形	3/5	3.8	2.5	4.0	(3.1)	輪積みと指頭圧痕。	緻密	にぶい赤褐色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	
	58	H61	覆土	土製品	支脚	基部		14.3＋	11.4		側面―円錐台 断面―円	小礫８㎜以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色		不良	
	59	H61 Po1	覆土 ＋14	土製品	土玉	1/4	径(3.2cm)・高さ3.0cm・孔径0.7cm　(9.1ｇ)									
	60	H61 カマド	カマド燃焼部	土製品	土玉	完形	径3.4～3.6cm・高さ3.2cm・孔径0.6cm　43.9ｇ									
	61	H61	覆土	石製模造品	勾玉	完存	長さ4.9cm・幅1.6cm・厚さ0.4cm・孔径0.18～0.20cm　8.1ｇ									
	62	H61 ＋	覆土	石製品	砥石	1/2以下	現在長4.3cm・幅5.3～7.1cm・厚さ0.9～1.5cm　647.0ｇ									
	63	H61	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ6.1cm・幅5.1cm・厚さ5.0cm　33.8ｇ									軽石
67住	1	H62 Po1	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(20.4)	10.4＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデで部分ミガキ、内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫４㎜以下(一部５㎜大)を少量含む	橙色、にぶい橙色	にぶい黄橙色	やや良好	
	2	H62 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/3	(12.9)	13.0	(13.2)	6.2	口縁片口。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ナデ状篦ケズリ、内面ケズリ状の篦ナデ。底部木の葉痕跡有り。	小礫３㎜大以下を多く含む	明黄褐色、灰黄褐色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	普通	
	3	H62 Po2	床面直上	土師器	小形甕	底部1/3		2.6＋		(5.4)	柱状底部。	緻密	にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	4	H62 Po2 黒土層	覆土	土師器	甕	胴部片					内外面刷毛目整形。	小礫１㎜以下を極少量含む	暗茶褐色	暗茶褐色	わずかに不良	
68・69・70住	1	H63 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4 口縁上部欠損		9.0＋			口縁内面刷毛目。胴外面刷毛目。内面篦ケズリ消し去るナデ。	小礫４㎜以下を含む	明赤褐色、褐灰色	明赤褐色、褐灰色	普通	内面一部剥離
	2	H63 ＋		須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	緻密	明オリーブ色、暗灰色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	3	H65 Po1		土師器	甕	胴上部～口縁部1/6	(16.7)	13.8＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ,内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	赤褐色、黒褐色	赤褐色、黒褐色、灰褐色	不良	内外面摩耗。内面口縁部剥離。２次加熱受けている
	4	H65 Po7		土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(14.2)	7.1＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ナデで部分ミガキ、内面ナデ。	淡黄色石粒最大８㎜以下を含む。銀雲母0.5㎜以下を多く含む	明黄褐色	浅黄色、にぶい黄橙色、赤褐色	やや良好	
	5	H63 カマド H64 H65Po?		土師器	甕	底部～胴中位		12.9＋		5.3	内面荒い刷毛目。外面ナデ状の篦ケズリ。	小礫２㎜以下を含む	黒褐色、明褐灰色、赤色	灰赤色、灰褐色	やや不良	
	6	H63 Po3 H64+		土師器	甕	底部～胴下部2/3		3.8＋		(6.5)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を極少量含む	黄灰色、灰黄色	灰黄色、にぶい黄褐色	やや不良	
	7	H63 カマド		土師器	甕	底部3/5強		3.4＋		(6.5)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜以下を含む	灰黄褐色、黒褐色	灰黄褐色	不良	内外面剥離多い
	8	H65 カマド		土師器	甕	胴下部～口縁部1/4	(14.6)	20.5＋	(18.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫５㎜以下を含む	黒褐色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	9	H63 カマド		土師器	甕	3/5	13.4	13.2	15.1	4.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ナデ状篦ケズリ、内面ナデ？	小礫３㎜以下を含む	橙色、赤灰色	橙色、明赤褐色	やや不良	
	10	H65 ＋ カマド H63カマド H64+		土師器	鉢	胴上部～口縁部1/4	(21.7)	8.7＋			口唇篦ナデ状のケズリ後ミガキ。胴外面雑なミガキ、内面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫２㎜弱を少量含む	浅黄色、明黄褐色	にぶい黄橙色 明黄褐色	良好	
	11	H65 ＋		土師器	椀形杯 赤彩土器	体下部～口縁部片	(14.7)	4.5			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	12	H63 カマド		土師器	杯 漆塗り	底部～口縁部1/5 底部欠損	(12.8)	3.1＋			口縁外面ヨコナデ。底体部内面光沢の有るミガキ、外面篦ナデ。	緻密	明黄褐色、褐灰色、黒褐色	褐灰色、黒褐色	やや不良	外面摩耗。内面漆塗り
	13	H63 H65？		土師器	杯	ほぼ完形	12.9	6.4	13.1		口縁内外面シャープなヨコナデ。底体部内面篦ナデ、外面丁寧な篦ケズリ。	小礫１㎜以下を含む	明赤褐色	明赤褐色	やや不良	体部内外面わずかに摩耗。
	14	H64 Po2 Po4 ＋		土師器	高杯	脚部 脚裾部1/2 杯部1/2	(19.1)	14.5			口縁内外面および内面ヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	橙色、褐灰色 黒褐色	橙色、褐灰色 黒褐色、浅黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H64 Po10		土師器	高杯	脚部 脚下半部1/3		11.0＋		脚径(11.4)	杯内面荒い篦ナデ。脚柱篦ケズリ。脚裾僅かにヨコナデ。荒い整形。	小礫２㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 褐灰色	灰褐色、黒褐色	普通	
	16	H64 ＋ H63Po1		土師器	高杯	脚部1/3		9.5＋		脚径(13.0)	杯内面ミガキ。脚柱篦ナデ残るミガキ。裾ヨコナデ。	小礫２㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗
	17	H64 Po8 ＋		土師器	高杯？	脚部片1/3		7.1＋			肉薄。脚柱外面シャープな篦ナデで光沢有る。	緻密	橙色	橙色、褐灰色	やや不良	外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
68・69・70住	18	H64 Po12		土師器	高杯	脚部 脚裾部1/3		7.1＋		脚径 (11.8)	肉薄。脚柱状外面シャープな篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	19	H64 Po9		手捏土器	鉢形	1/2		3.0＋		(5.2)	内面指ナデ強い。底部摩耗光沢有り。	緻密	灰白色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	浅黄色	普通	
	20	H64		土製品	支脚	上半		12.5＋	6.6		側面―円錐台 断面―円	緻密	灰黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
	21	H65		石製品	擦り石	完存	長さ3.5cm・幅3.4cm・厚さ2.0cm 5.1ｇ多									軽石
71住	1	H66 カマド＋	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下位～中位 1/3～上位～口縁部3/5	23.0	18.2＋	(20.3)		ややシャープな口唇。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫２㎜以下を含む	橙色、赤褐色 暗赤灰色	橙色、にぶい赤褐色、黒褐色	普通	
	2	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～上部 1/2 口縁部一部欠損	21.5	17.5＋	19.5		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫２㎜以下を多く含む	橙色、灰赤色 赤黒色	橙色、灰赤色 赤黒色、にぶい黄橙色	普通	
	3	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(20.0)	8.7＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	橙色、褐灰色 にぶい赤褐色	橙色、褐灰色	普通	
	4	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(22.0)	8.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫３㎜弱以下を含む	褐灰色、にぶい褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	普通	
	5	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(23.6)	10.0＋			ややシャープな口唇。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色、灰黄色	良好	
	6	H66 Po1	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(21.0)	7.8＋			口唇端部上方へ僅かに摘み出す。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫３㎜以下を含む	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内面少し摩耗
	7	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(24.2)	7.5＋			口縁端部外面に凹状の条線有り。口縁内外面ヨコナデで外面に輪積み残す。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	橙色、赤灰色 灰赤色、にぶい黄橙色	橙色、黒褐色 にぶい黄橙色	少し良好	
	8	H66 ＋ カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/4	(25.0)	5.0			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒最大３㎜を少量含む	にぶい橙色、褐灰色、明赤褐色	橙色、褐灰色	普通	
	9	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 片	(14.2)	5.2			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	灰黄色、橙色	黒褐色、橙色	普通	
	10	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形甕	口縁部1/4	(13.6)	3.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	橙色、極暗赤褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	11	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/2		3.5＋		(4.6)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大を含む	橙色、明黄褐色	橙色	普通	内面一部剥離
	12	H66 ＋	覆土	土師器	台付椀？	脚部		2.6＋		脚径 8.9	指頭圧痕。	緻密	橙色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	普通	
	13	H66 Po4	壁溝	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	灰黄色、灰白色	灰黄色、灰白色	普通	
	14	H66 Po1	ほぼ床面	土師器	壺？	口縁部片	(16.4)	5.2＋			口頸部内面横位ケズリ状ミガキ、外面縦位篦ナデ。口唇玉状気味。	小礫１㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい橙色、橙色	普通	
	15	H66 Po2	壁溝	須恵器	高台付杯	1/3	(11.8)	4.2		(7.7)	内外面シャープなロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	黒褐色粒１㎜大以下を少量含む	暗オリーブ灰色、オリーブ灰色	灰オリーブ色 オリーブ灰色	わずかに不良	
	16	H66 カマド Po1	カマド燃焼部	土師器	杯	3/5	11.8	4.4		8.0	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	緻密	橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい黄橙色	不良	全体的摩耗
	17	H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	底部1/3		1.9＋		(7.6)	体部下端および底部手持ち篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を含む	浅黄色、にぶい黄色	明黄褐色、暗灰黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	18	H66	床面直上	石製品	紡錘車	わずかに欠損	径4.89～4.95cm・厚さ0.94～1.10cm・孔径0.89～0.92cm 53.4ｇ									
	19	H66 ＋	覆土	石製品	砥石	頭部大きく欠損	現存長4.5cm・幅3.7cm・厚さ1.6～3.4cm 68.4ｇ									
72住	1	H72 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/4	(20.0)	15.3＋	(16.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ？	小礫３㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい黄橙色、暗褐色	やや不良	内外面摩耗著しい
	2	H72 Po1	床面直上	土師器	甑	底部～胴部3/5 ～口縁部一部	(21.9)	20.7		6.6	歪む。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面横位篦ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	浅黄橙色、褐灰色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	3	H72 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。外面円形ナデ。	灰白色粒２㎜大以下を含む	黒褐色	灰色	普通	
	4	H72 Po8	床面直上	土師器	杯	1/3	(12.0)	4.6＋	(12.6)		内面ミガキ光沢無し。底体部外面丁寧な篦ナデ？	小礫１㎜大以下を少量含む	明黄褐色、黄色、灰黄褐色	明黄褐色	やや不良	内外面摩耗
	5	H72 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	1/2	11.0	3.4		6.1	平底気味。内面ミガキ光沢無し。底体部丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を多く含む	淡黄色、黒褐色	黄灰色、灰黄色	やや不良	内外面摩耗
	6	H72 ＋	覆土	手捏？	杯	1/6 底部中央欠損	(10.2)	3.6		(9.0)	手捏状の杯。口縁内外面ヨコナデ。底部木の葉。	緻密	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	内外面やや摩耗
	7	H72 黒土層	覆土	手捏土器	皿	4/5 口縁部一部欠損	8.4	2.7		3.8	内外面指頭圧痕とナデ。	小礫１㎜以下を含む	黄橙色、明黄褐色、黒褐色	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	
	8	H72 Po7	床面直上	土製品	支脚	部分		10.7＋	6.9		側面―円柱状 断面―円	緻密	灰黄褐色、にぶい黄橙色		やや不良	
	9	H72 ＋	覆土	土製品	支脚	先端部		3.8＋	3.0		側面―四角錐台 断面―四角	緻密	にぶい黄橙色 浅黄色、暗灰黄色		不良	
73住	1	H70 Po1	覆土 ＋8	土師器	甕	胴上部～頸部 1/4		11.9＋			口頸部ヨコナデ。胴外面篦ケズリ残る篦ナデ、内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄色、赤色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、赤褐色	やや不良	内面摩耗
	2	H70 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面篦ケズリ。	小礫３㎜以下を極少量含む	浅黄色、灰黄色	浅黄色、灰黄色	普通	
	3	H70 Po5	覆土 ＋8	土師器	杯 杯蓋模倣赤彩土器	1/3 底部欠損	(13.8)	4.4			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	明赤褐色、灰赤色	普通	内外面赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
73住	4	H70+	覆土	土師器	椀	1/3	(11.7)	3.9			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色、にぶい橙色、黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	5	H70+	覆土	土師器	椀形杯	1/5底部欠損	(12.0)	4.5			摩耗不明。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、褐灰色灰褐色	黄橙色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗
	6	H70+	覆土	土師器	皿状杯	1/4					内面弱くミガク。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜大を極少量含む	浅黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	内外面摩耗
74住	1	H71Po2H71+	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部3/5	(17.0)	8.0+			口縁内外面篦ナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色褐灰色	普通	
	2	H71Po3	壁溝	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	黒色粒1㎜以下を含む	灰色、灰白色	灰色、灰白色	普通	
	3	H71+	覆土	須恵器	杯	底部～体下部1/4底部中央欠損		2.2+		(7.4)	摩耗不明。	小礫3㎜以下を含む。(銀雲母) 1㎜以下が目立つ	灰白色、灰色	灰色	不良	内外面摩耗。新治産？
	4	H71カマド+H70カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	1/4底部中央欠損	(13.6)	3.2		(9.4)	内面稜線。内面ナデ。外面体部および底部手持ち篦ケズリ。	緻密	黄橙色、橙色	黄橙色、橙色	不良	内外面摩耗
	5	H71+	覆土	土師器	杯	1/4底部1/5	(14.2)	3.4		(7.9)	内面稜線。内面ナデ。外面体部および底部手持ち篦ケズリ。	小礫4㎜大以下を含む	黄橙色、橙色にぶい黄橙色	黄橙色、橙色	不良	内外面摩耗
	6	H71+	覆土	土師器	杯	底部～体下部1/4		2.1+		(11.0)	内面ロクロナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	明黄褐色、灰黄色	浅黄橙色、褐灰色	不良	内外面少し摩耗
	7	H71	覆土	鉄製品	鉄鏃	茎欠損	現存長5.9cm　刃長さ2.5cm・幅0.9cm・厚さ0.25cm　茎径0.5cm×0.3cm　3.8ｇ									
75住	1	H68Po5床	床面直上	土師器	甕	3/4	16.7	26.0	22.8	6.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色褐灰色、浅黄橙色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い。内面剥離多い
	2	H68Po1	床面直上	土師器	甕	胴上部1/2～口縁部4/5	18.6	11.3+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色、にぶい橙色	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	普通	
	3	H68+	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部片	(24.0)	7.0+			肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	H68カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴部3/5		23.5+	24.1	6.4	胴外面篦ナデ、上半縦位、中位横位、下半者位。内面ナデ。	小礫3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色灰黄褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	やや不良	外面摩耗多い
	5	H68+Po3+19	覆土+19	土師器	甑	胴上部～口縁部1/3	(27.0)	13.7	(22.6)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ケズリ状篦ナデ、内面篦ナデ。	緻密褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	明黄褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
	6	H68Po12+	ほぼ床面+6	土師器	甕？漆塗り	頸部1/4		5.8+			口頸部ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面シャープな篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	浅黄色、黒褐色	灰白色、黒褐色	良好	内外面漆塗り？
	7	H68カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3		4.7+		(6.8)	外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	緻密	黒褐色、浅黄色	淡黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H68カマド	カマド燃焼部	土師器	甕？	底部1/2		3.2+		(5.3)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	浅黄色、黄灰色、黒褐色	浅黄色、黄灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗。2次加熱受けていない
	9	H68カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/2		2.3+		5.2	外面荒い篦ケズリ、内面刷毛目。	緻密小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、橙色	にぶい黄橙色	普通	
	10	H68+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫1ｍｍ大以下を含む	橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色	普通	
	11	H68+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰白色、淡黄色	灰色	普通	
	12	H68カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形杯	1/2	14.0	5.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	橙色、浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	赤色、浅黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多く、内面の一部剥離
	13	H68Po12+	ほぼ床面+6	土師器	椀形杯	杯部1/4	(14.2)	5.1+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ミガキ状篦ナデ、内面ミガキ。	緻密	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色、淡黄色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	14	H68+	覆土	土師器	高杯	体中位～口縁部2/5欠損	14.4	12.4		脚径9.4	口縁内外面雑なヨコナデ。杯部内面ナデ、外面ケズリ残す雑なナデ。脚柱篦ナデ。裾端ヨコナデ。	緻密	浅黄色、黄灰色、黒褐色	浅黄色、赤色黄灰色	やや不良	内外面摩耗多い。
	15	H68	覆土	土師器	椀形高杯赤彩土器	杯部口唇部わずかに欠損	13.8	5.9+			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデから荒いミガキ状篦ナデ。杯部外面ミガキ状篦ナデ。	緻密	赤色、赤黒色	赤色、にぶい赤色	良好	赤彩
	16	H68	覆土	土師器	椀形高杯赤彩土器	杯部3/5口縁部2/5	(13.3)	4.6+			口縁直立口縁内外面および内面ナデ。体部外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、にぶい赤褐色	赤色、赤褐色	少し良好	赤彩
	17	H68Po6+14	覆土+14	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部一部欠損杯部3/5強	14.2	8.8	14.4	脚径9.4	脚短。口縁内外面ナデ。体部から脚柱丁寧な篦ナデ、裾短ヨコナデ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、明黄褐色	わずかに不良	脚内面以外少し摩耗。赤彩
	18	H68+	覆土	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部～杯下部脚裾部わずか		6.5		脚径(9.2)	杯内面ミガキ状篦ナデ、外面篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色	わずかに不良	外面の脚上部少し摩耗、内面の杯部が一部剥離。赤彩
	19	H68Po8	ほぼ床面	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部3/5		3.8+		脚径10.0		小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色		わずかに不良	脚上部外面少し摩耗、脚内面一部剥離。脚内面に刃痕らしき穴有り。赤彩
	20	H68Po10+	ほぼ床面	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部		4.0+		脚径9.6		緻密褐鉄鉱粒2㎜大一部に有り	赤色		普通	赤彩
	21	H68+	覆土	手捏土器	鉢形	1/2	(6.8)	3.6		(6.0)	内面指頭圧痕。	緻密	淡黄色、黄灰色	淡黄色	普通	
	22	H68	覆土	石製品	紡錘車	完存	径3.05～3.12cm・厚さ1.18cm・孔径0.62～0.69cm　19.6ｇ									
	23	H68+	覆土	石製品	砥石	完存	長さ10.8cm・幅4.8cm・厚さ2.3cm　193.6ｇ									
	24	H68Po2+10		鉄製品	刀子	茎部	現存長11.5cm・刃幅1.9cm・刃棟厚0.5cm・茎幅0.7cm・茎棟厚0.4cm　11.4ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
76 住	1	H67 +	覆土	土師器	甕	口縁部1/5	(22.0)	3.3+			口縁端部上方に摘み出す。口縁外面に凹状の条線回る。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	普通	
	2	H68 + H69カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部1/4	(18.0)	4.9			口縁側面に凹状の条線回る。口縁内外面ヨコナデで外面輪積み残る。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜以下を少量を含む	橙色	橙色、灰黄色	やや不良	
	3	H67 Po5 カマド +	床面直上	須恵器 千葉市域産	甕	底部縁辺部～胴下部1/4		12.8+		(19.0)	外面平行叩き目、下端斜位篦ケズリ。内面指頭圧痕残すナデ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい赤褐色 赤黒色、褐灰色	にぶい赤褐色 赤黒色、褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し剥離
	4	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	底部1/4 底部中央欠損		4.3+		(18.6)	外面下端斜位篦ケズリ。内面指頭圧痕残すナデ。	小礫2㎜以下を含む	黒褐色、灰黄褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	
	5	H68+ Po15+12 H69+	覆土 +12	須恵器 千葉市域産	甑	底部1/4～胴最下部一部		4.5+		(14.2)	外面下端斜位篦ケズリ。内面指頭圧痕残すナデ。底部穿孔は中央に円孔1穴、底府縁に沿って弓形円形4穴。	小礫1㎜以下を少量含む	黒褐色	黒褐色	普通	
	6	H67 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甑	底部～胴下部1/4		12.2+		(15.0)	外面平行叩き目、下端斜位篦ケズリ。内面指頭圧痕と輪積み残すナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい褐色、暗褐色、黒褐色	にぶい褐色、暗褐色、黒褐色	普通	
	7	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴上部～口縁部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕。	緻密	黒褐色、暗灰黄色	オリーブ褐色	普通	
	8	H68+	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴上部片					把手条突起。	緻密	黒褐色、灰黄色	黒褐色	普通	
	9	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	淡黄色粒1㎜大以下を少量含む	灰黄色	黒褐色	良好	
	10	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕。	緻密	褐色、黒褐色	黄褐色、灰黄褐色	普通	
	11	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面指頭圧痕。	小礫1㎜以下を極少量含む	明褐色、にぶい褐色	橙色、黒褐色	普通	
	12	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少し含む	灰色、暗灰黄色	灰白色、灰オリーブ色	やや不良	
	13	H67 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文。	緻密 灰白色粒5㎜を1ヶ所含む	黄色、暗青灰色	灰色	良好	
	14	H67 Po5	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。外面こげ茶色	淡黄色粒1㎜大以下を少量含む	にぶい褐色	灰色	良好	外面こげ茶色で施釉の可能性有り。
	15	H68 +	覆土	須恵器	杯	底部片		1.4+		(7.5)	ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	緻密	浅黄色、灰白色	浅黄色、灰白色	やや不良	内外面少し摩耗
	16	H68 +	覆土	須恵器 千葉市域産	杯	底部～体下部1/6		2.5+		(7.1)	ロクロナデ。底部および体部下端手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色	暗黒茶色	普通	
	17	H67	覆土	ロクロ土師器	杯	完形	14.9	4.8		8.1	ロクロナデ。底部および体部下端回転篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、灰赤色 にぶい黄橙色	橙色、灰赤色	やや不良	内外面少し摩耗
	18	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	1/6	(14.4)	5.5		(6.6)	底部境に変換面有り。体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	黄橙色、橙色	にぶい橙色、橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	19	H67 Po5	覆土	ロクロ土師器	杯	口縁部1/5	(14.4)	3.7+			内外面ロクロナデ。	緻密	灰黄褐色、浅黄橙色	にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	20	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部3/5		1.3+		(6.7)	底部境に変換面有り。体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	21	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部～体下部1/3 底部中央欠損		2.7+		(6.7)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色	普通	
	22	H67 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部1/4 底部中央欠損		0.8+		(8.0)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	淡黄色	淡黄色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	23	H67 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部縁辺部～体下部1/4		1.7+		(8.8)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	にぶい黄橙色 明褐色	にぶい黄橙色 明褐色	やや不良	内外面摩耗
	24	H67 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部～体下部1/5 底部中央欠損		1.3+		(7.2)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	橙色	橙色	不良	内外面摩耗
	25	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部1/2		1.3+		(7.2)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	小礫4㎜以下を極少量含む	にぶい橙色	橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	26	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部片		1.3+		(6.3)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	橙色、にぶい橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	27	H68 +	覆土	ロクロ土師器	杯	底部～体下部1/4		2.2+		(6.2)	体部下端および底部回転篦ケズリ。	緻密	橙色、浅黄橙色	橙色、浅黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	28	H67 Po5	床面直上	土師器	小形鉢	1/2	(7.0)	5.4	(7.8)	(2.9)	内面やや雑なミガキ。外面上半雑なミガキ、下半鋭い篦ケズリ。全体に光沢有り。	小礫1㎜以下を極少量含む	明青褐色、褐灰色	黒褐色、にぶい黄橙色、にぶい赤褐色	良好	
	29	H68 +	覆土	灰釉陶器	長頸壺	口縁部片		1.7+		(9.4)	短部上下方向にシャープに引き出す。外面に釉塗る。	緻密	灰オリーブ色 灰色	白灰色	普通	猿投窯
	30	H68 Po14+19	覆土 +19	灰釉陶器	平瓶	天井部1/4		1.7+		(12.6)	天井部に釉被り	緻密	オリーブ黄色 灰白色	淡黄色、白灰色	良好	猿投窯
	31	H67 Po2	床面直上	須恵質	丸瓦						凹布目。凸無文。					
77 住	1	H69 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部1/2	(19.0)	10.5+			肉薄。摩耗不鮮明。胴内面篦ケズリ消し去るナデ？	褐鉄鉱粒2㎜弱を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色、極暗赤褐色	暗褐色、にぶい黄橙色	やや不良	
	2	H69	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	口縁部片	(31.0)	4.3+			口縁長く大きく開く。貼り付け複合口縁、内外面シャープなロクロナデ。	小礫2㎜大以下と褐鉄鉱粒を含む	黒褐色	黒褐色、暗灰黄色	普通	
	3	H69 +	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	口縁部片	(27.2)	2.9+			口縁短く開く。貼り付け複合口縁、内外面シャープなロクロナデで胴上端に平行叩き。	小礫1㎜以下を含む	黒褐色	黒褐色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
77住	4	H69+H68	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴上部片					外面平行叩き目摩滅。内面指頭圧痕残すナデ。	緻密	黒褐色、暗褐色	黒褐色、暗褐色	普通	
	5	H69+	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴上部片					外面平行叩き目摩滅。内面指頭圧痕残すナデ。	緻密	オリーブ褐色 灰黄色	暗灰黄色	やや不良	内外面やや摩耗
	6	H69+	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴上部片					外面平行叩き目摩滅。内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	明黄褐色、浅黄色、黒褐色	暗オリーブ褐色、にぶい黄色	やや不良	
	7	H69+	覆土	須恵器 千葉市域産	甕	胴部片					外面平行叩き目摩滅。内面指頭圧痕残すナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	黒褐色	黒褐色	やや不良	
	8	H69+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目摩滅。内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰白色、灰オリーブ色	灰白色、灰オリーブ色	普通	
	9	H69+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面輪積み残すナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰白色、オリーブ黒色	灰オリーブ色 オリーブ黒色	やや不良	
	10	H69 カマド	カマド燃焼部	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目摩滅。内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰白色、灰オリーブ色	灰白色、灰オリーブ色	普通	
	11	H69+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。外面こげ茶色	緻密	褐色	暗オリーブ灰色	良好	76住－14と同一個体
	12	H69+	覆土	須恵器 千葉市域産	杯	底部～体下部 2/5		2.0+		7.7	内面ロクロナデ。体部下端と底部手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	灰白色、灰オリーブ色	灰白色、灰オリーブ色	普通	
	13	H69+	覆土	須恵器	高台付杯	底部1/4		1.2+		(8.2)	内面ロクロナデ。底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。	緻密	灰色、灰オリーブ色	灰色	普通	
	14	H69+	覆土	須恵器 市原産	杯	底部1/2		0.8+		(9.0)	内面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	灰色、灰白色	灰色、灰オリーブ色	わずかに不良	火だすき
	15	H69+	覆土	ロクロ 土師器	杯	1/4	(13.2)	3.3		(7.2)	内外面ロクロナデ。体部下端と底部回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤褐色、暗赤褐色、浅黄橙色	にぶい赤褐色 にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	16	H69+ H68+	覆土	ロクロ 土師器	杯	底 部1/5～口 縁部1/3 底部中央欠損	(14.2)	3.8		(8.1)	内外面ロクロナデ。体部下端と底部回転篦ケズリ。	緻密 褐鉄鉱粒2㎜以下をわずかに含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	17	H69 カマド	覆土	ロクロ 土師器	杯	1/6 底部縁辺部一部	(14.8)	4.2+			内外面ロクロナデ。体部下端と底部回転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	橙色、浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	18	H69	覆土	須恵器	甕片 転用硯	胴部片					内面僅かに摩耗。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰白色、灰オリーブ色	灰白色、灰オリーブ色、灰白色	わずかに不良	朱墨転用硯
	19	H69	覆土	銅製品	帯金具	一部欠損	現存長4.0cm・幅3.5cm・厚さ0.2cm・孔径0.2cm 7.2g									
	20	H69	覆土	鉄製品	刀子	両端大きく欠損	現存長4.5cm・刃幅1.2cm・刃棟厚0.4cm・茎幅0.8cm・茎棟厚0.4cm 5.8g									
	21	H69 Po2+1	床面直上	鉄製品	刀子	茎欠く	現存長16.3cm・関幅1.0cm・関棟厚0.4cm・刃幅1.0cm・刃棟厚0.3cm 14.5g									
78住	1	H73 黒土層	覆土	土師器	甕	部分1/2	(17.9)	25.8+	(20.0)		口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。	小礫4㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	2	H73+	覆土	土師器	甕	口縁部片	(20.9)	4.9+			摩耗不鮮明。口縁内外面シャープなヨコナデ。頸部外面に篦圧痕有り。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色、褐灰色、浅黄橙色	橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗著しい
	3	H73	覆土	土師器	甕	口縁部1/4	(18.5)	7.4+			口縁端部上方へ摘み出し、側面に凹状の条線回る口縁内外面シャープなヨコナデ。胴篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄橙色、黒褐色	浅黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	4	H73+	覆土	土師器	甕 漆塗り	底部片		2.0+		(8.6)	球胴甕。内面ナデ。底部および体部外面漆塗り？	緻密	暗褐色、にぶい黄橙色	黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。外面漆塗り？
	5	H73 Po3	覆土 +15	土師器	杯	口縁部1/4	(13.0)	2.7+			口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	緻密	褐灰色、浅黄橙色	褐灰色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	6	H73 Po11	覆土 +16	土師器	杯	1/4	(13.0)	3.8+			摩耗不鮮明。底体部外面篦ナデ？	小礫1㎜大以下を含む	褐灰色、浅黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗著しい
	7	H73 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣	体上部～口縁部片	(12.2)	4.0+			摩耗不鮮明。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ？	褐鉄鉱粒1㎜以下を含む	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	8	H73	覆土	土師器	杯 杯身模倣	1/4	(12.9)	3.3			内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	浅黄橙色、黒褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	9	H73 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 内黒土器	3/5強 杯口縁 部3/5欠損	11.8	8.2		脚径 9.6	口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部芸面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、黒色	やや不良	全体に少し摩耗。杯内面黒色処理
	10	H73 Po3	覆土 +15	土師器	高杯	脚部～杯下部 脚端部1/2欠損		5.7+		脚径 (9.4)	杯内面ミガキ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	浅黄橙色、にぶい橙色、褐灰色	浅黄橙色	不良	杯下部内面以外は摩耗多い。2次加熱受けている
	11	H73 Po10	覆土 +23	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/3		4.2+		脚径 (10.2)	脚柱篦ナデ。裾ヨコナデ。	緻密	赤色、暗赤灰色	にぶい黄橙色	少し良好	赤彩
	12	H73	覆土	土師器	高杯	脚上部～杯部 2/5	(20.0)	8.0+			杯部内外面雑なミガキ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄褐色、橙色	やや不良	杯部内面が摩耗
	13	H73 Po5	P内	土師器	高杯	脚部～杯下部		7.7+		脚径 10.8	杯内面ミガキ。脚柱篦ナデ。裾部ヨコナデ。	緻密	橙色、灰褐色	灰褐色	普通	杯内面以外少し摩耗
	14	H73 Po4	覆土 +12	土製品	支脚	両端欠損		8.8+	5.3		側面―円錐台 断面―円	緻密	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色		不良	
	15	H73 Po14	覆土 +43	土製品	支脚	上部片		11.1+	6.9		側面―円錐台 断面―円	緻密	にぶい橙色、明褐灰色		やや不良	
	16	H73 Po16	ほぼ床面	土製品	支脚	下部欠損		12.3+	6.5		側面―円錐台 断面―円	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、灰黄褐色		やや不良	
	17	H73 黒土層	覆土	土製品	土玉	3/5	径3.5cm・高さ2.8cm・孔径1.1cm (17.4g)									
	18	H73 Po6	覆土 +11	石製品	叩き石	一部	現存長11.0cm・現存幅4.9cm・現存厚4.4cm 330.3g									石英斑岩
	19	H73	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ5.5cm・幅3.9cm・厚さ3.3cm 20.4g									赤城系軽石
79住	1	H74 Po5-26	P5内	土師器	甕	1/2	(20.1)	26.4	22.1	(6.9)	口縁大きく外反。内面および胴上半に刷毛目。胴下半刷毛目消し去る篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	やや不良	内外面一部摩耗
	2	H74+	覆土	土師器	甕	1/3	(17.8)	29.0	(22.6)	5.0	口縁大きく外反。胴外面篦ナデ。内面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	橙色、暗灰黄色、黒褐色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	普通	外面全体に少し摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
79住	3	H74 Po8+12	覆土	土師器	甕	3/5	19.5	30.2	23.1	5.8	口縁大きく外反。胴外面篦ナデ。内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	H74 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5 口縁部1/3	(15.8)	25,5	21.4	5.7	最大径胴下半。口縁内外面ヨコナデ。胴外面刷毛目、内面刷毛目。	小礫と褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色 暗赤褐色	橙色、灰褐色 暗赤褐色	やや不良	外面少し摩耗
	5	H74 カマド Po4+	床面直上	土師器	甕	胴部中央～口縁部3/5 底部～胴下部欠損	17.4	22.5+	23.4		口頸部「コ」の字状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、赤橙色、灰黄褐色	明黄褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	6	H74 + +Po11+30	覆土 +30	土師器	甑	胴上部～口縁部1/2	25.0	12.8+	20.1		口唇端部上方へ僅かに摘み出す。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内ナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色	褐色、灰褐色	やや良好	内面の口縁部少し摩耗
	7	H74 カマド Po11+30	覆土 +30	土師器	甕	胴下部～口縁部1/3	(23.8)	23.6+	(21.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ。内面ナデ？	小礫2㎜大以下を少量含む	橙色、浅黄橙色、暗褐色	橙色、浅黄橙色、暗褐色	不良	外面摩耗、内面剥離
	8	H74 +	覆土	須恵器	杯蓋	3/5強 口縁部1/3	(13.0)	4.7			内面天井部凹凸残すロクロナデ。外面大きく回転篦ケズリ	灰白色粒4㎜以下を含む	灰色、淡黄色	灰色、灰白色	普通	ＴＫ23～ＴＫ47
	9	H74 Po11+30 カマド	覆土 +30	土師器	杯 内黒土器	体中位～口縁部1/4	(13.2)	3.6+			内黒でやや雑なミガキ。外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	浅黄橙色	黒色、黒褐色 灰黄褐色	やや不良	内面黒色処理
	10	H74 Po1	床面直上	土師器	椀	3/4	13.1	6.2			丸底。口縁内面に荒い刷毛目残し、内面篦ナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	橙色、褐灰色	黒褐色、褐灰色、暗赤褐色	少し良好	
	11	H74 Po7	壁溝	土師器	高杯 赤彩土器	体中位～口縁部1/2	(14.7)	5.0			外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤褐色、浅黄橙色	赤褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面赤彩。脚欠損する杯部
	12	H74 Po6 Po7+12	壁溝	土師器	高杯 赤彩土器	3/5	14.5	10.2		脚径9.4	口縁直下に凹状の条線廻る。内面やや雑なナデ、外面篦ナデ。脚柱縦位篦ナデ、端部ナデ。	褐鉄鉱粒最大4㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	杯内面を主として全体にわずかに摩耗。赤彩
	13	H74 Po5-26 Po6	Ｐ5内	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/2 口唇部一部	(14.8)	5.3+			内面ナデ。外面雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜弱以下を含む	赤色、赤黒色	橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩。（外面黒うるし塗る？）
	14	H74 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	杯部5/6	14.6	5.4+	14.7		内面ナデ。外面雑な篦ナデ。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、橙色、灰赤色	普通	外面摩耗、内面剥離多い。外面スス付着。内外面赤彩
	15	H74 Po9床面	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5	14.8	9.2		脚径9.6	内面やや雑なナデ、外面篦ナデ。脚柱縦位篦ナデ、端部ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	16	H74 Po7+	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部5/6	14.1	5.1+			内面ナデ。外面雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい橙色	普通	赤彩
	17	H75 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部2/5		4.5+		脚径(9.4)		褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗多い。赤彩
	18	H74 Po3-4	覆土 +4	ミニチュア土器	坩形？	体部1/2		6.3+	(7.9)		外面凹凸残す雑な篦ミガキ。内面刷毛目残す篦ナデ。	密	浅黄色、オリーブ黒色	暗灰黄色	普通	
	19	H74 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	両端欠損		18.0+	10.7		側面―柱状 断面―円	小礫4㎜大以下を含む	にぶい黄褐色 褐灰色、にぶい黄橙色		不良	
	20	H74 黒土層	覆土	石製品	紡錘車	完存	径3.37～3.40cm・厚さ1.20cm・孔径0.65cm 22.0ｇ									
	21	H74 Po2-5	床面直上	石製品	擦り石	完存	長さ8.8cm・幅6.0cm・厚さ2.9cm 237.3ｇ									石英斑岩
80・81住	1	H75 ピット北	Ｐ1内	土師器	甕	口縁部1/6	(22.8)	5.5+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	2	H75	覆土	土師器	甕	口縁部1/6	(19.0)	4.2+			口縁端部横方向へ摘み出し、内外面内外面ヨコナデ。胴外面シャープな縦位篦ケズリ。	緻密	褐色、黒褐色	褐色、黒褐色	やや良好	２次加熱受けていない？ 胎土と色調が他の甕と違う
	3	H75 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部1/6	(13.6)	5.1+			口縁端部側面に凹状、内外面内外面ヨコナデ胴外面シャープな縦位篦ケズリ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色	灰黄褐色、明黄褐色	普通	
	4	H75 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部片		2.9+		(8.0)	外面および底部篦ケズリ。内面雑なナデ。	小礫1㎜以下を含む	赤褐色、灰赤色	橙色、赤灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H75 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3 中央部欠損		2.3		(9.0)	外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を多く含む	暗赤灰色、にぶい赤褐色	暗赤灰色、にぶい赤褐色	不良	内外面剥離多い
	6	H75 +	覆土	土師器	杯 内黒土器	底部縁辺部～体下部片		2.2+		(11.6)	内面内黒ミガキ。外面ケズリ状篦ナデ。	淡黄色粒1㎜以下を極少量含む	灰黄色	黒褐色	わずかに不良	内面黒色処理
	7	H75 黒土層	覆土	須恵器	鉢	胴部片					外面平行叩き目。内面ナデ。	緻密	灰白色	灰白色	良好	
	8	H75 カマド	覆土	須恵器	杯	1/6 口唇は一部	(12.6)	3.0			口縁内面玉状。内面および体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。	緻密	灰色、灰黄色	灰色、灰黄色	普通	
	9	H75 +	覆土	非ロクロ土師器	杯	体部～口縁部1/3	(11.6)	3.7+			口縁外面および内面ナデ。体部外面手持ち篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を含む	橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	10	H75	覆土	石製品	紡錘車	一部欠損	径3.88～4.23cm・厚さ2.05cm・孔径0.85cm 41.3ｇ									
	11	H75 Po2直上	床面直上	石製品	砥石	完存	長さ17.6cm・幅5.4cm・厚さ2.3～3.1cm 500.0ｇ									
	12	H75 カマド	カマド燃焼部	石製品	石皿	一部	大きさ12.3cm×7.7cm×厚さ2.2～4.1cm 700.4ｇ									輝石安山岩
82・83住	1	H76A カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5 胴中位2/5	22.8	32.3	(20.9)	7.1	口縁大きく開き内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫7㎜以下を多く含む	橙色、暗褐色	橙色、暗褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	H76A +	覆土	土師器	甑	胴中位～口縁部一部	(22.2)	15.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面シャープな縦位篦ケズリ、内面横位ミガキ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	灰黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	H76 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/4 口縁部一部	(20.5)	17.7+	(19.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を含む。一部7㎜もあり	黒褐色、橙色 灰褐色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
82・83住	4	H76B Po1+37	覆土 ＋37	土師器	鉢	胴下部～口縁部 3/5強	13.8	9.7＋	14.0		口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面縦位から斜位の篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	橙色、黒褐色 にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	普通	
	5	H76 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	1/4 底部欠損	(10.4)	3.5	稜部径 (10.0)		口縁短く内傾。内面光沢の有る丁寧なミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
	6	H76A Po1+15	覆土 ＋15	土師器	椀形杯	3/5強 体部～口縁部一部欠損	11.2	3.7			内面光沢の有る丁寧なミガキ。外面ケズリ状の篦ナデで部分ミガキ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内面わずかに摩耗
	7	H76B カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 線刻土器	3/5強 体上部～口縁部 2/5欠損	10.5	3.1		6.1	内面ミガキ。篦ケズリ。底部篦ケズリで線刻記号あり。	褐鉄鉱粒３㎜大以下と黒灰色粒３㎜以下を含む	浅黄橙色、橙色、褐灰色	浅黄色、灰黄色、明褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗。底部線刻「キ」。
	8	H76 ＋	覆土	ミニチュア土器	椀形	1/3	(3.4)	(3.8)		(3.6)	受口状。外面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	
	9	H76A Po3 23	床面下	土師器	杯 内黒土器	脚部3/5 裾部欠損		8.9＋			杯内面内黒ミガキ。脚長い。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	黒褐色、にぶい黄橙色	黒色	やや不良	すべて少し摩耗。杯内面黒色処理
	10	H76B ＋	覆土	土師器	鉢	口縁部片	(23.0)	5.4＋			口縁外面ヨコナデ。内面篦ケズリ残すミガキ状篦ナデ。外面篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を少量含む	黒褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色	普通	
	11	H76 黒土層	覆土	土製品	支脚	上端部1/2		6.7＋	4.9		側面一円錐台 断面一円	小礫２㎜大以下を極少量含む	橙色、にぶい黄橙色		不良	
	12	H76A 黒土層	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き、内面同心円消し去るナデ。	灰白色粒２㎜以下を極少量含む	褐色、褐灰色	灰色	普通	
	13	H76	覆土	石製品	砥石	一部	現存長2.7cm・幅2.0cm・厚さ1.8cm・孔径0.4cm 11.8ｇ									
84住	1	H77 東ピット内 カマド	Ｐ3内	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/3	(24.8)	14.2＋	(22.5)		口縁側面に面作る。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	赤褐色、にぶい橙色	にぶい赤褐色 赤黒色、灰赤色	わずかに不良	内面が1/3位剥離
	2	H77 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢	体部～口縁部片	(18.4)	5.5			内面ミガキ・外面篦ケズリ。	小礫２㎜以下を含む	明褐色、にぶい褐色	赤褐色、褐灰色	普通	口縁部上位少し摩耗
	3	H77 Po1+2	床面直上	土師器	高杯	脚部3/5強 裾部欠損		6.1＋			大形。	緻密	橙色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	4	H77 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損		17.3＋	6.3		側面一円錐台 断面一円	緻密	にぶい橙色、にぶい黄橙色		不良	
	5	H77	覆土	石製品	叩き石	完存	長さ4.8cm・幅3.0cm・厚さ1.8cm 8.6ｇ。ハンマー型									軽石
85住	1	H78 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴下部 胴下部3/5強		11.4＋		5.4	外面雑な篦ケズリ。内面ケズリ状の篦ナデ。	小礫６㎜以下を含む	灰黄褐色、褐灰色、黒褐色 黄褐色	にぶい黄橙色	やや不良	２次加熱受けている
	2	H77	覆土	須恵器 永田不入産	高台付杯	4/5	14.2	4.0		10.3	箱形。内外面ロクロナデ。	暗灰色粒２㎜以下を少量含む	灰白色	灰白色	やや不良	全体にやや摩耗
86住	1	H79 カマド H81カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/4 口縁部1/2	(17.3)	16.5＋	(20.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	橙色、浅黄色 黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗。内面一部剥離
	2	H79 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(19.1)	10.8＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデで部分ミガキ、内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	H81ト H82の中間	Ｐ5内	土師器	甕	底部一部欠損～胴部2/5		26.8＋	30.7	9.7	外面丁寧な篦ナデ。	緻密	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色、黄褐色	不良	内外面摩耗、剥離多い
	4	H79 Po2 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢形甕	胴中位～口縁部 1/3	(14.4)	8.9＋	(13.8)		胴外面篦ナデで荒いミガキ、内面ナデ？	緻密	にぶい黄橙色 黒褐色	浅黄色、暗灰黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H79 Po4	床面直上	土師器	甕	底部		3.2＋			内面ナデ。外面雑な篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	明赤褐色、にぶい黄橙色	黒色(黒ハン)	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H82	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	13.9	5.5	14.2		口縁外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	暗赤色、赤色 暗赤灰色	灰赤色、にぶい赤橙色、にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面の一部摩耗。内外面赤彩
	7	H79 Po5	床面直上	土師器	椀形杯	体部～口縁部 1/4	(14.2)	4.4			口縁外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	明褐色、極暗赤褐色	にぶい赤褐色 灰褐色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩不明。
	8	H79 Po6	床面直上	手捏土器	鉢形	一部欠損	5.5	3.4		4.2	指頭圧痕。	緻密	明黄褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
87住	1	H80 Po1	ほぼ床面 ＋5	須恵器	蓋	完形	15.7	2.8			天井部外面２分の１回転篦ケズリ。内面ロクロナデ。	小礫５㎜以下を極少量含む	白灰色	白灰色	やや不良	
	2	H80 Po2	ほぼ床面 ＋5	土師器	高杯 漆塗り	脚基部		5.9＋			大形高杯。杯内面光沢の有る磨き。脚縦位のミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	橙色、黒褐色	暗赤褐色	良好	
88住	1	H81 Po2	ほぼ床面	土師器	甕	胴部～口縁部 3/4	18.3	26.8	18.9		口縁短く外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ナデ、内面ナデ。	小礫最大１cm以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	普通	
	2	H81 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5	16.7	31.5	19.1	6.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫７㎜以下を含む	黒褐色、橙色 褐灰色	黒褐色、橙色 褐灰色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離著しい
	3	H81 Po3	ほぼ床面 ＋6	土師器	甕	底部		2.8＋		7.4	外面ナデ状の篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	浅黄色、灰黄色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	4	H81 Po1	床面直上	土師器	杯	4/5 口縁部3/5	12.4	4.6		5.1	口縁外面直下に鈍い稜線。底体部外面篦ケズリ、内面ナデ。	密	にぶい橙色、にぶい赤褐色	橙色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H81 Po4	床面直上	石製品	ハンマー	一部欠損	長さ13.6cm・幅10.3cm・厚さ9.0cm 1773.3ｇ									輝緑凝灰岩
89住	1	H82 Po4	床面直上	土師器	甕	胴下部～口縁部 1/4	(22.0)	24.9＋	(21.9)		口唇端部僅かに上方に摘み上げ。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	赤黒色、にぶい黄橙色	褐灰色	わずかに不良	胴下部少し摩耗
	2	H82 Po4 黒土層	床面直上	土師器	甕	底部～胴中位 1/3		17.0＋		(7.6)	外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下と一部に小礫７㎜も含む	赤褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面一部わずかに摩耗
	3	H82 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/6 底部欠損	(14.2)	13.3＋	(13.8)		口縁短く「く」字に開く。胴外面上半に輪積み残す縦位篦ケズリ。	小礫２㎜以下を多く含む	明赤褐色、赤灰色、暗赤灰色	暗赤褐色	少し良好	内面黒色を呈し、黒色処理可能性あり。
	4	H82 黒土層	覆土	土師器	甕？	体上部～口縁部 1/4	(12.2)	6.7＋	(13.8)		口縁短く外傾。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫３㎜大以下を少量含む	暗赤灰色、にぶい赤褐色	褐灰色	やや良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
89住	5	H82 黒土層	覆土	須恵器	甕	口縁部1/4	(19.8)	6.9+			口縁側面凸線状の折り返し。内外面凹凸残すロクロナデ。	緻密	灰色、灰白色	灰色、灰白色	やや不良	
	6	H82 黒土層	覆土	須恵器	甕	胴下部片					外面平行叩き目。内面同心円文残すナデ。	灰白色粒1㎜大以下を極少量含む	灰色	灰色	普通	
	7	H82 Po3	ほぼ床面 +5	須恵器	蓋	1/3 体下部以外欠損		3.1+			内面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を含む	灰色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	8	H82 Po3	ほぼ床面 +5	須恵器	盤	縁辺部(下部)～体上部片	(16.6)	2.0+			内面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	緻密	灰色	灰色	やや不良	
	9	H82 カマド 黒土層	カマド燃焼部	土師器	杯 暗文土器	1/3	(14.8)	3.7		(9.5)	内面斜格子暗文。内面ナデ。外面手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、橙色、灰赤色	黄橙色、橙色	不良	内外面摩耗多い。斜格子暗文
	10	H82 Po1	覆土 +15	土師器	杯	3/5	13.4	4.3	9.9		内面ナデ。外面手持ち篦ケズリ。	小礫2㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	11	H82 黒土層	覆土	土師器	杯	体部～口縁部 1/4	(12.8)	3.4+			内面ナデ。外面手持ち篦ケズリ。	緻密 褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H82 黒土層	覆土	土師器	杯	1/3 口縁部一部	(12.8)	5.1+		(9.4)	内面ナデ。外面手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	橙色、灰褐色	橙色	不良	内外面少し摩耗
	13	H82 Po3	覆土	土師器	杯	底部1/3		1.0+		(8.3)	内面ナデ。外面手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、橙色、黒褐色	浅黄橙色	不良	内外面摩耗
91住	1	H83-A Po3+50	ほぼ床面	土師器	鉢 赤彩土器	体上部～口縁部 1/4	(15.1)	5.8+	(15.9)		口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面ケズリ状の篦ナデ。	緻密	赤色、暗赤灰色、浅黄橙色	にぶい黄橙色 赤色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	2	H83-B Po3+50	ほぼ床面	土師器	鉢 赤彩土器	体部～口縁部 1/4	(12.1)	5.3+	(13.6)		口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面ケズリ状の篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、橙色	わずかに不良	口縁部内外面赤彩
	3	H83-B Po4+49	ほぼ床面	土師器	鉢 赤彩土器	底部		3.2+		6.0	内面ナデ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、赤色	赤色、浅黄橙色、暗赤灰色	やや不良	内外面少し摩耗。内面の一部剥離。外面の一部と内面赤彩
	4	H83-B カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部		1.1+		6.3		小礫2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	淡黄色、橙色	わずかに不良	
92住	1	H138 Po1	床面直上		甕	胴中位2/5～胴上部4/5～口縁部3/5強	26.6	28.5+	(38.2)		口縁内外面ナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を含む	橙色、黒褐色 にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	
	2	H83-A Po7	床面直上	土師器	甕	胴下部2/5～胴中部～上部4/5 口縁一部欠損	19.1	25.9+	21.3		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	密	浅黄橙色、橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	H83 Po5	覆土 +20	土師器	甕	口縁部	17.9	5.2+			口縁端部摘み上げ、側面「コ」字状、内外面ヨコナデ。頸部内面繋ぎ目明瞭。	小礫2㎜大以下を極少量含む	橙色	橙色	普通	内面少し摩耗
	4	H83-A Po8	床面直上	土師器	甕	底部わずかに欠損 胴下部1/4		7.8+		9.3	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H83-A Po6	ほぼ床面 +5	土師器	甕	底部		3.8+		8.1	外面篦ナデ、内面雑なナデ。底部木の葉。	小礫2㎜大以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色	淡黄色	やや不良	外面やや摩耗
	6	H83-A Po3	ほぼ床面 +5	土師器	壺？	3/5強 口唇部1/3	(14.2)	15.7	14.6	7.0	口頸部長い。口縁ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	緻密	赤褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	赤褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多く、内面剥離多い。2次加熱受けていない
	7	H83-A +	覆土	須恵器	杯身	4/5 口唇部1/2	(12.1)	4.0	稜部径 14.5		底部回転篦ケズリ。稜やや鈍く、内外面ロクロナデ。	小礫7㎜以下を多く含む	灰色	灰色、灰黄色	普通	TK43
	8	H83-A Po4	床面直上	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	体部～口縁部 1/3	(13.2)	3.7+	稜部径 (14.2)		内面丁寧なナデで光沢あり。底体部外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を含む	浅黄色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	普通	
	9	H83-B カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯蓋模倣 赤彩土器	1/4	(13.7)	4.1			口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	浅黄橙色、橙色、灰褐色、にぶい橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	10	H83+	覆土	土師器	椀形杯	3/5	(13.7)	4.0+			内面ヨコナデ。外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	黄褐色、黒褐色、赤色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	H83 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	両端欠損		10.0+	7.4		側面一円柱状 断面一円	褐鉄鉱粒が全体かなり含む	浅黄橙色、にぶい褐色、明赤褐色		不良	
	12	H83A Po8	ほぼ床面	石製品	不明	完存	長さ5.6cm・幅4.3cm・厚さ2.8cm　22.0ｇ									軽石
	13	H83	覆土	石製品	不明	完存	長さ2.9cm・幅2.5cm・厚さ1.5cm　3.7ｇ									軽石
	14	H83	覆土	石製品	不明	完存	長さ2.9cm・幅2.3cm・厚さ1.7cm　4.0ｇ									軽石
	15	H83A +	覆土	鉄製品	鎌	ほぼ完存	長さ12.6cm・棟厚0.4cm　基部幅2.8cm・厚さ0.3cm　29.2ｇ									
93住	1	H85 Po20+24 Po12+12	覆土	土師器	甕	胴下位1/6～中位、上位1/5～口縁部一部	(23.2)	21.8	(26.9)		胴外面縦位篦ケズリ？	砂粒多く、不良	にぶい橙色、にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい橙色、にぶい黄橙色 暗赤褐色	不良	内外面摩耗著しい
	2	H85 Po12+12	覆土	土師器	甕	胴下位～上位 1/3～口縁部 1/4	(16.4)	16.4+	(19.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄橙色、黄橙色	浅黄橙色、黄橙色、褐灰色	やや不良	内面の一部と外面摩耗
	3	H85 Po17+22	覆土	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/3	(14.2)	13.2+	(16.2)		胴外面篦ナデ？	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色 黄橙色	橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗
	4	H85 Po11	ほぼ床面 +3	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/3	(16.8)	8.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗
	5	H85 Po11	ほぼ床面 +3	土師器	甕	胴中位1/3～上位1/4～口縁部一部	(17.0)	17.9+	(21.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	不良	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	不良	外面摩耗、内面剥離多い
	6	H85 Po23-2	床面直上	土師器	甕	胴中位～口縁部 1/5	(18.0)	17.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、黒褐色	にぶい橙色、黒褐色、灰褐色	普通	
	7	H85 Po2+4	ほぼ床面 +4	土師器	甑	胴中位～口縁部 1/4 口縁部一部	(22.7)	13.9+	(20.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	8	H85 Po1+9	ほぼ床面 +9	土師器	甕	底部～胴下部 4/5		9.8+		7.3	胴外面篦ケズリ。内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	明赤褐色	浅黄色、黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	9	H85 Po18+15	覆土 +15	土師器	甕	底部～胴下位 3/5		4.6+		(8.0)	外面篦ナデ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	橙色、浅黄色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
93住	10	H85 Po3+3	ほぼ床面＋3	土師器	甕	底部～胴最下部1/3		6.1＋		(7.3)	外面篦ケズリ、内面ナデ？	小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	灰黄褐色、橙色	やや不良	内面剥離多い
	11	H85 Po2床	床面直上	土師器	坩 赤彩土器	体部1/2		7.7＋	(15.0)		外面丁寧な篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	褐灰色	やや不良	外面摩耗多く、内面剥離著しい。底部除き外面赤彩
	12	H85 Po7+14	覆土＋12	土師器	椀 内黒土器 漆塗り？	3/5	11.6	5.1	11.9		内面丁寧なミガキで光沢あり。底体部外面篦ナデ消し去る粗いミガキ。	緻密	淡黄色	黒褐色、淡黄色	やや良好	漆塗りの可能性大きい
	13	H85 Po2	床面直上	土師器	杯 漆塗り	3/5	(9.3)	(4.7)	(10.4)		内面丁寧なミガキで光沢あり。底体部外面篦ナデ消し去る粗いミガキ。	緻密	にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	14	H85 Po6	ほぼ床面＋3	土師器	杯	4/5	11.1	3.2	11.7		摩耗不明。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	褐色、黒褐色にぶい褐色	不良	外面摩耗、内面剥離著しい
	15	H85 Po23-2	床面直上	手捏土器	小形杯 内黒土器	3/5 口唇部一部	(9.0)	3.5	(9.7)	(6.5)	口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を多く含む	浅黄色、黄灰色	黒色	普通	内面黒色処理
	16	H85 Po8+23	覆土＋23	土師器	高杯	脚裾部･口唇部3/5強欠損	11.8	7.6		脚径8.4	杯内面光沢の有るミガキ、外面篦ナデ。脚柱輪積み残すナデ。	緻密	明赤褐色、にぶい橙色、黒褐色	橙色	やや不良	口唇部と外面摩耗多く、杯内面一部剥離
	17	H85 Po5	ほぼ床面＋3	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5 裾部片部1/3		5.5＋		脚径(10.3)	脚柱篦ナデ。裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色	浅黄橙色	普通	赤彩
	18	H85 Po24+17	覆土＋17	土師器	高杯	脚部上位3/5～杯下部		5.3＋			杯内面ミガキ。脚柱肉薄い。	緻密	浅黄橙色、明褐灰色	浅黄橙色、褐色	やや不良	全面やや摩耗
	19	H85 Po22+	床面直上	石製品	叩き石	部分欠く	長さ9.3cm･幅7.5cm･厚さ3.8cm 340.7ｇ									砂岩
94住	1	H86 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/4～胴下部1/2～上部4/5～口縁部3/5	(15.8)	26.5	21.1	(5.1)	口縁外面輪積み残すヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を含む	黄橙色、黒褐色、橙色	灰黄褐色、明赤褐色	やや不良	外面全体と内面口縁部は摩耗と一部剥離
	2	H86	覆土	土師器	甕	底部一部欠損胴上部1/4		20.1＋	(19.0)	5.0	胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を多く含み、一部3㎜大有り	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	黒褐色、暗赤褐色	不良	全体に摩耗
	3	H86 Po7 Po1-5 黒土層	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/4	(14.0)	4.3＋	(13.9)		内面丁寧なナデ、外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	赤色、暗赤灰色	赤色	良好	赤彩
	4	H86	覆土	土師器	高杯？ 赤彩土器	3/5強 口縁部3/5	14.0	4.3＋			内面ナデ。外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	赤色、浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	内外面摩耗、外面の一部は剥離。内外面赤彩
	5	H86 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5強～杯底部		6.5＋		脚径10.1	内面ミガキ。脚柱下端に段を有す。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	脚外面は摩耗、杯内面剥離有り。赤彩
	6	H86 Po3	床面直上	土師器	高杯	脚基部～杯底部		5.1＋			摩耗不明。	小礫2㎜以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	7	H86 Po6	ほぼ床面＋4	土師器	高杯	脚基部		5.3＋			摩耗不明。	緻密	浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗著しい
	8	H86 黒土層	覆土	土師器	鉢 赤彩土器	4/5 口縁部3/5	13.0	6.6			深い丸底の底体部。口縁内外面弱いミガキ。底体部外面丁寧な篦ナデ、内面ミガキとナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	9	H86 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面格子叩き目？内面深い同心円文。	小礫2㎜大以下を極少量含む	灰色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	10	H86 Po2－3	床面直上	石製品	砥石	頭部欠損	現存長8.8cm･幅2.3～5.6cm･厚み1.3～3.2cm 155.9ｇ									
95住	1	H87	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5強	19.6	31.8	22.5	6.5	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜大以下を含む	灰褐色、褐灰色、にぶい橙色、黒褐色	灰褐色、にぶい橙色、黒褐色	やや不良	外面の一部剥離、内面口縁部摩耗
	2	H87	カマド燃焼部	土師器	甕	3/5強	18.4	30.9	20.9	6.9	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	黒褐色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	H87 Po2	ほぼ床面＋4	土師器	甕	底部～胴下部片		10.4＋		(8.8)	外面篦ナデ。下端雑なミガキ。内面摩耗不明。	緻密	黒褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい赤橙色、赤橙色	不良	外面摩耗、内面剥離多い
	4	H87 Po1	P内	土師器	甑	4/5	24.6	28.8	21.2	9.0	口縁内外面強いヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリに雑なミガキ、内面やや雑なミガキ。	小礫1㎜以下を含む	明褐色、浅黄色	明赤褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	わずかに不良	外面少し摩耗、内面少し剥離
	5	H87 黒土層	覆土	須恵器	杯身	1/3 底部中央欠損	(11.0)	3.8	稜部径(13.0)	(5.4)	口縁短く、稜丸い。底部回転篦ケズリで平底気味。	緻密	灰色、オリーブ黒色	灰色	普通	
	6	H87	覆土	土師器	杯 内黒土器	一部欠損	12.1	4.5	12.6		鈍い稜。底体部内面篦ナデに雑なミガキ。	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色	黒色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗。内面黒色処理
	7	H87 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	完形	11.7	4.2			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。内面ナデに雑なミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、外面剥離
	8	H87 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 内黒土器	完形	11.2	4.2			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。内面ナデに雑なミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄色、黄灰色、黒褐色	黒色	わずかに不良	内面黒色処理
	9	H87	覆土	土製品	支脚	上部片		9.9＋	5.7		側面―円錐台 断面―円	小礫1㎜以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色		普通	摩耗
96住	1	H88	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位2/5～胴上部3/5強～口縁部3/5	21.1	20.9＋	(21.0)		やや肉薄気味。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫7㎜以下を含む	明赤褐色、灰赤色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 黒褐色、褐灰色	やや不良	内外面わずかに剥離
	2	H88 Po2+	覆土＋22	土師器	甕	胴部1/2～口縁部1/3	(14.3)	17.0＋	(17.6)		口縁僅かに外反。口縁内外面布ナデ。頸部から胴外面縦位篦ケズリ、中位斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	H88 Po4 ＋	ほぼ床面＋5	土師器	甑	胴上部～口縁部1/4	(25.9)	10.3＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、明黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 明黄褐色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	4	H88 Po1	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(21.8)	12.3	(25.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ？	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	橙色、褐灰色	明黄褐色、橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H88 Po4	ほぼ床面＋6	土師器	甑？	胴中位～口縁部1/4	(12.3)	9.6＋	(14.7)		口頸部短く僅かに外傾。内面ミガキ、外面篦ケズリに雑なミガキ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	明黄褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
96住	6	H88	覆土	土師器	杯 漆塗り	3/5 口唇部1/5	(11.0)	2.9	(6.8)		内面光沢の有る丁寧なミガキ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	密	明黄褐色、淡黄色、黒褐色	灰黄褐色、黒褐色	やや不良	外面摩耗、内面一部剥離
	7	H88 Po3	ほぼ床面 ＋4	土師器	高杯 内黒土器	脚部～杯底部	(12.8)	7.8		脚径 (7.6)	杯内面内黒ミガキ。外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫2㎜以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色、灰黄褐色	褐灰色	やや不良	脚内面以外少し摩耗。内面黒色処理
97住	1	H89 ＋	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(20.0)	9.4＋			口唇玉状。口縁内外面強いヨコナデ。胴外面篦ナデに雑なミガキ、内面ミガキ状篦ナデ。	緻密	橙色、明赤褐色	にぶい黄橙色 明赤褐色	普通	
	2	H89	覆土	土師器	甕	底部 胴下部1/4		8.6＋		5.3	外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、明赤褐色、赤黒色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	3	H89 ＋	覆土	土師器	甑	下端孔部～胴下部1/6		14.3＋		(8.0) 孔径 (5.8)	外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	
	4	H89 ＋ Po10+28	覆土 ＋28	土師器	甕 赤彩土器	胴上部～口縁部 1/3強	(13.3)	5.5＋			口縁内外面指頭圧痕残す雑なヨコナデ。胴外面篦ナデ？内面篦ナデ。	密 一部褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	浅黄色、にぶい橙色	浅黄色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。内外面口縁部赤彩
	5	H89 Po2+	覆土 ＋15	須恵器	壺？	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文残すナデ。	白灰色粒2㎜以下を極少量含む	灰白色	灰白色	普通	
	6	H89 ＋	覆土	土師器	椀 赤彩土器	1/2 口縁部1/3	(13.1)	6.3	(13.5)		底体部深い。外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	赤色、赤褐色 浅黄色	赤褐色、浅黄色、淡黄色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	7	H89 Po3	壁溝	土師器	鉢 赤彩土器	体上部～口縁部 1/3	(13.1)	4.0＋	(13.6)		口縁内外面ヨコナデ。外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密	赤色、赤黒色	赤色、赤橙色	普通	内外面赤彩
	8	H89 Po10+28	覆土 ＋28	土師器	椀 内黒土器	1/4 底部中央欠損	(12.2)	4.4			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	浅黄色、にぶい黄色	黒褐色	やや不良	外面体部少し摩耗。内面黒色処理
	9	H89 Po7	覆土 ＋7	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		6.1＋		脚径 9.6	脚柱～裾まで篦ナデ。	密	赤色、暗赤灰色	赤色	やや良好	赤彩
	10	H89 Po5-1	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5		5.6＋		脚径 (9.6)	脚注篦ナデ、裾部ヨコナデ。	密 金雲母0.5㎜以下を含む	赤色、にぶい赤褐色	赤色	わずかに不良	わずかに摩耗。赤彩
	11	H89 Po6	ほぼ床面＋3	土師器	鉢 赤彩土器	胴上部～口縁部 1/6	(26.0)	8.2＋			内面丁寧な篦ナデ。外面篦ケズリ消し去るナデ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	赤橙色、にぶい橙色、赤黒色	赤橙色、赤黒色	やや不良	内外面赤彩。大形高杯の可能性あり。
	12	H89 Po4	壁溝	手捏土器	コップ	口唇部1/2欠損	7.2	6.5		4.4	内外面指頭圧痕僅かに残し、部分ミガキ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 明黄褐色	褐灰色	やや良好	
	13	H89	覆土	石製品	紡錘車	完存	径2.95～3.05cm・厚さ1.44cm・孔径0.55cm　26.2ｇ									
98住	1	H90 ＋	覆土	土師器	甕？	胴上部～口縁部 1/3	(25.0)	6.8＋			胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫5㎜大以下を非常に多く含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、赤色	不良	内外面摩耗、内面一部剥離
	2	H90 ＋	覆土	土師器	杯	1/4	(11.8)	3.1		(5.2)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい橙色、灰褐色	暗灰黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	H90	覆土	土師器	高台付椀 内黒土器	1/2	12.4	5.0		5.6	内面内黒ミガキ。外面ロクロナデ。高台三角。	小礫1㎜以下を少量含む	灰黄褐色、橙色、黒褐色	黒色、褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面一部剥離。内面黒色処理
	4	H90 ＋	覆土	手捏土器	鉢形	1/4	(9.5)	3.8＋			外面輪積み明瞭。	緻密	浅黄橙色	灰黄褐色、明黄褐色	わずかに不良	
	5	H90 Po2	ほぼ床面 ＋7	土師器	鉢	体中位～口縁部 1/4	(13.0)	6.4＋	(16.8)		口縁外面ヨコナデ。体部外面篦ケズリにミガキ。内面やや雑なミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を含む	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、明黄褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	6	H90 Po4	Ｐ1内	土製品	支脚	上部片		8.4＋	5.9		側面一円錐台 断面一円	緻密	橙色、にぶい褐色、灰褐色		不良	
	7	H90 ＋	覆土	石製品	不明	完存	長さ5.25cm・幅4.8cm・厚さ2.55cm　22.2ｇ									軽石
99住	1	H93 Po4	床面直上	土師器	甕	胴中位1/2～胴上部3/5強～口縁部4/5	18.0	16.4＋	(21.2)		口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、中位篦ミガキ。胴内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	
	2	H93 Po5 Po6	覆土 ＋25	土師器	甕	胴上部1/2～口縁部1/2	(17.8)	7.4＋			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	橙色、明褐灰色	橙色	やや不良	
	3	H93 Po2 Po3	ほぼ床面 ＋3	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部欠損	14.1	5.8	14.9		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ状の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	赤色、赤褐色 浅黄橙色	赤色、赤褐色 浅黄橙色	普通	内面剥離多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	4	H93 Po3	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部欠損	13.8	5.2	14.4		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ状の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒6㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	外面体下部剥離多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	5	H93 Po2	ほぼ床面 ＋3	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5	14.1＋	6.1	14.7		やや肉薄気味。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	6	H93 ＋	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部片	(14.6)	3.6＋	(14.9)		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ状の篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、赤褐色、黒褐色 浅黄橙色	橙色、にぶい橙色	普通	外面、内面口唇部附近摩耗。内外面赤彩
	7	H93 Po4	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	13.6	5.1	14.2		口縁および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を含む	明赤褐色、にぶい赤褐色、赤灰色	にぶい赤褐色 赤灰色	やや不良	内面一部剥離。外面口縁部、内面赤彩
	8	H93 Po2	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	杯部	13.9	5.1＋	14.5		杯部内面ナデ、外面ケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	9	H93 Po3	ほぼ床面	土師器	高杯	脚部 裾部下位欠損		9.4＋			長脚柱。	小礫3㎜大以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	不良	赤彩？
	10	H93 Po2	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		4.4＋		脚径 10.4	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	11	H93 Po5	覆土 ＋25	須恵器 永田不入産	蓋	1/4 天井部中央欠損	(14.0)	1.6＋			内外面ロクロ整形、天井部外面か移転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	わずかに不良	歪みがある
	12	H93 Po2	覆土	土師器	椀	体部～口縁部 1/4	(12.4)	3.4＋			内外面ミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い。外面赤彩？
100住	1	H94 Po21-4	床面直上	土師器	甕	4/5	18.6	32.4	19.4	6.9	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫4㎜以下を多く含む	橙色、暗赤褐色、暗赤灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、暗赤褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗内面一部剥離。２次加熱受けている
	2	H94 Po14	Ｐ3内	土師器	甕	底部一部 胴部 口縁部3/5	15.1	24.2	22.1	(7.8)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ナデ状篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を含む	浅黄橙色、橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色 灰黄褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
100住	3	H94 Po17	焼土中	土師器	甕	体上部～口縁部 1/4	(13.1)	6.1＋			摩耗不明。	緻密	褐灰色、橙色	褐灰色、橙色	不良	内外面摩耗、剥離多い。２次加熱受けている
	4	H94	Ｐ4内	土師器	甕	口縁部わずかに欠損	15.5	14.2	16.9	8.3	口縁内外面ヨコナデで外面に篦圧痕。胴外面縦位ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	黄橙色、明黄褐色、橙色、灰褐色、黒褐色	黄橙色、明黄褐色、橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H94 Po23 カマド	床面直上 カマド燃焼部	土師器	甑	1/4	(27.0)	23.4		(8.5)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ナデ篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H94 Po13	焼土中	土師器	甑	1/2 口縁部1/3 下端孔1/3	(26.2)	20.4		6.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	7	H94 Po10	壁溝 焼土中	土師器	甑	胴上部～口縁部 1/4	(26.0)	8.4＋			口縁大きく開き内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ状の篦ケズリ、内面雑なミガキ。	小礫２㎜大以下を極少量含む	赤橙色、褐灰色、浅黄色	赤橙色、褐灰色、浅黄色、黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	8	H94 Po5	焼土中	須恵器	杯身	1/2	(11.2)	4.0	稜部径 (12.5)		鈍い稜。短く内傾く口縁。内面ロクロナデ、外面摩耗不明。	黒色粒２㎜以下を極少量含む	灰オリーブ色 灰色	灰オリーブ色 灰色、浅黄色	普通	ＴＫ209～ＴＫ217型式
	9	H94 ＋	覆土	土師器	杯 内黒土器 杯蓋模倣	3/5強	13.4	3.2			口縁内外面および内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残すミガキ。	小礫２㎜以下を少量含む	浅黄色、黄灰色	暗灰黄色	普通	内面の一部が少し剥離。内面黒色処理が漆塗り可能性あり。
	10	H94 ＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣	1/3	(12.1)	3.5	稜部径 (13.3)		口縁内外面および内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	小礫と褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	浅黄色、黄灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	H94 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 漆塗り	一部	(13.4)	3.6			口縁内外面および内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残すミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を多く含む	灰黄褐色	灰白色、黒色	やや不良	内外面少し摩耗。内面漆塗り
	12	H94 ＋ カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	1/4	(11.8)	3.3			口縁外面直下に僅かに稜あり。内外面やや雑なミガキ。	密	浅黄色、明褐色	浅黄色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	13	H94 Po16	焼土中	土師器	内湾口縁杯 漆塗り？	体部～口縁部 1/4	(13.3)	3.7＋			内外面光沢有るミガキ。	緻密	黒褐色	浅黄橙色	少し良好	漆塗りの可能性大きい
	14	H94 Po22-8	床面直上	土師器	高杯	脚部3/5～杯部 3/5強	19.1	15.9		脚径 (15.2)	杯部内面ミガキ。外面ケズリ状篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、脚端ヨコナデ。	褐鉄鉱粒５㎜大以下を多く含む	オリーブ黒色 淡黄色、浅黄色	淡黄色、浅黄色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H93 ＋	覆土	須恵器	鉢	1/4	(9.3)	5.9	(9.9)	4.5	肩部直下に沈線。内面ロクロナデ、体部から底部回転篦ケズリ。底部線刻「キ」記号	黒色粒１㎜大以下を少量含む	灰白色、灰色 灰オリーブ色	灰色、灰白色	普通	ＴＫ209型式期
	16	H94 Po5	焼土中	土師器	鉢 内黒土器	体部1/5～口縁部1/4	(16.0)	7.1＋			内面光沢の有る丁寧なミガキ。外面篦ナデ。	緻密	橙色、にぶい橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、わずかに剥離。内面黒色処理
	17	H94 Po16	焼土中	手捏土器	鉢形	3/5 口縁部1/5	(10.4)	4.2		6.4	外面輪積み明瞭、内面ナデ。底部木の葉	褐鉄鉱粒７㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	18	H94 ＋	覆土	石製品	擦り石	完存	長さ5.1cm・幅4.1cm・厚さ2.1cm　15.6ｇ									軽石
	19	H94 Po6-7	ほぼ床面＋7	鉄製品	太刀	刃一部	現存長10.6cm・幅2.4cm・棟厚0.6cm　30.1ｇ									
	20	H94 Po6-7	ほぼ床面＋7	鉄製品	鉄鏃	刃部	現存長5.4cm・刃幅2.2cm・刃厚0.45cm・茎径1.0cm×0.5cm　13.7ｇ									
	21	H49 Po6-7	ほぼ床面＋7	鉄製品	釘	一部	現存長4.8cm・径0.7cm×0.8cm　5.7ｇ									
101住	1	H96 Po8	ほぼ床面＋9	須恵器	盤	1/3	(21.1)	1.6			口縁端部摘み上げ。底部回転篦ケズリ消し去るロクロナデ。	小礫４㎜以下を含む	灰色	灰色	普通	
	2	H96 Po1 黒土層	ほぼ床面＋5	須恵器	盤	1/4	(19.0)	1.9			口縁端部シャープに摘み出し「コ」状を呈す。底部回転篦ケズリ。	緻密	灰白色、灰黄色	灰白色、灰黄色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	H96 Po11	ほぼ床面＋6	須恵器	高台付杯	底部3/5強 体部～口縁部 1/3	(14.4)	5.2		(10.4)	箱形。内外面ロクロナデ。高台シャープな角を呈する。	小礫１㎜大以下を極少量含む	灰色、黄灰色	灰黄色	普通	
	4	H96 黒土層	覆土	須恵器	高台付杯	体部～口縁部片	(13.0)	4.0		(9.8)	箱形。内外面ロクロナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	灰褐色、黒褐色	にぶい橙色、黄灰色	普通	焼成酸化炎。
	5	H96 黒土層	覆土	ロクロ土師器	杯	体部～口縁部 1/5	(13.0)	4.4＋			箱形。内外面ロクロナデ。	小礫２㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗高台付杯の可能性あり
	6	H96 Po3 Po10	床面直上	土師器	盤 暗文土器	体部～口縁部 1/6	(20.0)	3.6＋			口縁摘み内外面に浅い沈線作る。内外面ミガキ。内面体部に斜状暗文。	密	明赤褐色、にぶい橙色	にぶい橙色	わずかに良好	内面の一部剥離。放射状暗文
	7	H96 Po15 カマド 黒土層	ほぼ床面＋7 カマド燃焼部	土師器	杯 暗文土器	1/6	(12.0)	2.5		(7.8)	口縁摘み内面に凹状沈線作る。内外面ミガキ。内面体部に斜状暗文。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	橙色	橙色	普通	内外面剥離多い。放射状暗文
	8	H96 Po13	覆土＋13	土師器	甕	底部 胴最下部1/3		2.4＋		7.6	外面ナデ状の篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色	灰白色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、剥離著しい。
	9	H96 Po8	覆土	土師器	盤 赤彩土器	底部～体最下部 1/4		1.9＋		(9.4)	内外面ミガキで赤彩。	緻密	赤色	赤色	やや良好	外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	10	H96 Po14	覆土＋11	須恵器	大甕	胴部片					外面浅い平行叩き目、内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	暗緑灰色	灰色	良好	
	11	H96 カマド 黒土層	カマド燃焼部	土師器	鉢 赤彩土器	底部1/4～体下部1/3～体上部～口縁部一部	(17.6)	9.0			内外面ナデで底体部篦ナデ。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、赤灰色 浅黄色	わずかに不良	内外面少し摩耗。外面底部付近除き内外面赤彩
	12	H96 Po12 Po13 黒土層	覆土＋10	土師器	コップ？	体部～口縁部 1/4	(8.4)	7.8＋			手捏状の雑な整形	小礫２㎜大以下を少量含む	灰黄褐色、褐灰色	橙色、褐灰色	普通	
	13	H96	覆土	土製品	土錘	1/2	現存長2.1cm・幅3.2cm・厚さ1.0cm　(8.4ｇ)									
102住	1	H95	床面直上	土師器	甕	2/5 底部附近欠損	(11.8)	19.3＋	(16.3)		外面ケズリ状篦ナデ、口縁内面篦ナデ。胴内面ナデ？	密	黒褐色、明赤褐色、にぶい黄橙色	黒褐色	やや不良	内外面摩耗
	2	H95 Po8	Ｐ3内	土師器	甕	胴上部～口縁部 3/5	15.2	7.7＋			口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴内面輪積み残す雑なナデ、外面篦ナデ。	緻密	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	２次加熱受けていない

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
102住	3	H95 Po7+	壁接する ほぼ床面	土師器	甕	底部1/5～胴中位1/2		10.4＋		(6.0)	胴外面ケズリ状篦ナデ、内面。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	橙色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	4	H95 Po8	Ｐ3内	須恵器	甕	胴上部片					外面細い平行叩き目。内面シャーブなナデ。	小礫２㎜以下を含む	浅黄色	灰色	普通	
	5	H95 ＋	覆土	土師器	壺 赤彩土器	胴上部1/3 胴最上部～口縁部	13.2	11.3＋	(18.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ状のケズリ、内面ナデと篦ナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色、赤黒色	赤色、灰赤色 浅黄橙色、灰褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内面口縁部、外面赤彩
	6	H95 Po1-1	ほぼ床面	土師器	杯 赤彩土器	3/5 口縁部1/4	(15.0)	4.8	(15.4)		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密 わずかに褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色、褐灰色	赤色、浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	7	H95 Po1-1	ほぼ床面	土師器	椀 赤彩土器	1/4 底部附近欠損	(14.6)	4.4	(15.0)		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	8	H95 Po1-1	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部欠損		3.6＋			脚柱ケズリ状の篦ナデ。	小礫３㎜以下を含む	明褐色、赤褐色、暗赤灰色	橙色、にぶい橙色	普通	赤彩
	9	H95 Po5+	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		3.6＋		脚径 8.7	脚注ケズリ状の篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	赤色、浅黄橙	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
103住	1	H91 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目に粗い刷毛目？内面同心円文。	小礫２㎜以下を含む	灰色	灰色	良好	
	2	H91 Po1+	ほぼ床面 ＋6	土師器	杯	体下部～口縁部片1/4	(14.7)	5.5＋	(15.0)		口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	黄褐色、黒褐色	普通	
	3	H91 ＋	覆土	土師器	杯	体下部～口縁部片1/6	(14.0)	3.4＋			口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を極少量含む	黒褐色、褐色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	普通	
104住	1	H92 Po2+13	ほぼ床面 ＋5	須恵器	高台付杯	底部1/4		1.7		(6.7)	箱形の高台付杯。高い角高台。内外面ロクロナデ。	小礫２㎜大以下を含む	灰色	灰色	普通	
	2	H92 Po2+13	ほぼ床面 ＋5	須恵器	コップ	底部 体下位1/4		4.2＋		5.6	内面と体部上半ロクロナデ。体部下端と底部回転篦ケズリ。	緻密	灰色	灰オリーブ色	普通	
105住	1	H97 Po1+10	ほぼ床面 ＋10	土師器	甕	胴下部～口縁部1/6	(17.2)	21.8＋	(18.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、黒褐色、灰褐色	浅黄橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H97 Po1+10	ほぼ床面 ＋10	土師器	甕	胴中位～口縁部1/3	(17.8)	12.0＋			口縁内外面ヨコナデで条線残す。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	明黄褐色、浅黄橙色、橙色	明黄褐色、浅黄橙色、橙色 灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	H97	覆土	土師器	杯	1/3	(13.5)	4.1			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	密	灰黄色	暗灰黄色、浅黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	4	H97 ＋	覆土	土師器	杯	口縁部片	(13.6)	2.6＋			口縁外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少し含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
106・107住	1	H98 黒土層	覆土	土師器	甕 武蔵甕	胴上部1/5～口縁部1/4	(22.8)	9.0＋			肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴部外面横位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	明赤褐色、赤灰色、赤黒色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	外面一部剥離
	2	H98 黒土層	覆土	土師器	甕	口縁部1/6	(13.4)	3.7＋			口縁端部僅かに上方摘み上げシャープなヨコナデで口唇「コ」字。	密	赤褐色、灰褐色	にぶい黄橙色	普通	
	3	H98	覆土	土師器	鉢	底部～体下部1/4		3.1＋		(5.6)	摩耗不鮮明。外面篦ケズリ？	小礫１㎜以下を少量含む	褐灰色	褐灰色、黄灰色	不良	外面摩耗多く、内面剥離多い
	4	H98	覆土	須恵器	杯	底部1/4～体部～口縁部1/3 底部中央欠損	(14.8)	3.5		(8.0)	体部下端綾有す。内外面シャープなロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	黒褐色粒１㎜以下を含む	オリーブ黄色 灰色	オリーブ黒色 灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H98	覆土	須恵器	皿	底部縁片部～体下部1/4 底部中央欠損		1.2＋		(7.6)	内外面シャープなロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	淡黄色、灰色	灰色、オリーブ黄色	わずかに不良	
	6	H98	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部片	(14.0)	3.0＋	(14.9)		稜丸く鈍い。口縁内外面ヨコナデ。底体部内面弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、橙色、黒褐色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	7	H98 黒土層	覆土	土師器	高杯	脚部1/3 裾部欠損		4.2＋			外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	灰黄色、灰黄褐色		不良	内外面少し摩耗
	8	H98A カマド	カマド燃焼部	手捏土器	鉢形	口唇部と底部一部欠損	4.8	3.5		4.2	外面輪積み残す指頭圧痕。内面と底部ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	橙色、灰黄色 にぶい黄橙色	橙色、灰黄色 にぶい黄橙色 灰色	普通	
	9	H98	覆土	石製品	不明	完存	長さ11.7cm・幅6.2cm・厚さ6.4cm　65.1ｇ									軽石
108住	1	H104 Po3	床面直上	土師器	甕	4/5	22.1	40.3	17.8	5.7	肉薄。口縁大きく外傾して口唇「コ」字状。胴外面やや斜位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ。	小礫３㎜以下を多く含む	淡黄色、浅黄色、灰黄色、黒褐色	淡黄色、浅黄色、黒褐色	普通	東北系（奥羽系）
	2	H104 Po14 Po16 Po17+	ほぼ床面 ＋4	土師器	甕	胴下部2/5～胴部3/5～胴上部4/5 口縁部	21.3	30.8	(17.7)		肉薄。口縁大きく外傾して口唇「コ」字状。胴外面やや斜位篦ケズリ。	小礫３㎜以下と１㎜前後を多く含む	浅黄橙色、淡黄色、明黄褐色、褐灰色	浅黄橙色、淡黄色、明黄褐色、褐灰色	やや不良	外面の胴下半が摩耗多い。東北系（奥羽系）
	3	H104 ＋	覆土	土師器	甕	胴部3/5		28.7	18.6		胴長。胴外面縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ。内面凹凸残すナデ。	小礫３㎜以下を含む	褐灰色、にぶい橙色、橙色	褐灰色、にぶい橙色、橙色	やや不良	外面少し摩耗
	4	H104 Po21+17	床面直上	土師器	甕	4/5	21.9	32.9	22.1	7.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ,内面ナデ。	小礫５㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	わずかに不良	内外面少し摩耗、外面の一部剥離、内面は剥離多い
	5	H104 Po5	床面直上	土師器	甕	底部わずかに一部 胴部1/3～口縁部3/5	20.6	30.7	(20.2)	(8.3)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒４㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗、内面一部剥離
	6	H104 Po9	ほぼ床面 ＋8	土師器	甕	胴中位～口縁部4/5	18.2	12.9＋	(19.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫５㎜以下非常に多い	橙色、黒褐色	橙色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	7	H104 Po13+14	覆土 ＋7	土師器	甕	胴部3/5～口縁部3/5強 底部欠損	19.5	26.3＋	19.9		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫４㎜大以下を多く含む	赤褐色、にぶい黄橙色	赤褐色、にぶい黄橙色	やや不良	外面胴下部～中位と内面全体に剥離多い
	8	H104 Po15+12	覆土	土師器	甕	胴下部わずかに一部 胴中部～口縁部4/5	20.9	27.1＋	21.6		口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	橙色、赤灰色 灰赤色	にぶい褐色、にぶい橙色	わずかに不良	内面剥離多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
108 住	9	H104 +	覆土	土師器	甕	底部		1.7+		6.5	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜弱を少量含む	にぶい褐色	褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	10	H104 +10	覆土 +10	土師器	甑	1/2	27.4	29.9	22.4	(9.4)	口縁シャープなヨコナデ。胴外面篦ケズリ残す縦位の線状篦ミガキ、内面丁寧な篦ミガキ。	小礫2㎜以下を多く含む	灰黄色、にぶい黄橙色、明赤褐色	にぶい黄褐色にぶい黄橙色黒褐色	やや良好	内面わずかに剥離
	11	H104 Po3+11	覆土 +11	土師器	甑	胴上部3/5強～口縁部1/2	27.8	18.7+	23.1		やや肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ケズリ状篦ナデ、内面縦位の線状篦ミガキ。	小礫2㎜以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、にぶい黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H104 Po11	床面直上	土師器	甑	胴中位～口縁部1/4	(29.8)	21.1+			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面縦位の線状篦ミガキ。内面粗いミガキ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色明黄褐色	にぶい黄橙色明黄褐色、黄橙色	わずかに不良	内面わずかに摩耗と剥離
	13	H104 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	下端孔部～胴下部1/4		12.0+		(10.4)	外面篦ケズリ、内面線状ミガキ。	小礫2㎜以下を多く含む	浅黄橙色	浅黄橙色、明黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	14	H104 Po2+12	ほぼ床面 +12	土師器	杯 漆塗り	体上部～口縁部1/4	(12.0)	3.4+			内面光沢有る丁寧な篦ミガキ。口縁外面ヨコナデ残すミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色灰黄褐色	黒色	少し良好	内面漆塗り
	15	H104	覆土	土師器	杯	体上部～口縁部片	(12.8)	3.0+			内面光沢有る丁寧な篦ミガキ。口縁外面ヨコナデ残すミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	
	16	H104	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部片	(10.8)	2.4+			内面光沢有る丁寧な篦ミガキ。口縁外面ヨコナデ残すミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色灰黄褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	少し良好	
	17	H104 Po12+	床面直上	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	3/5強	10.8	3.4	稜部径11.7		内面光沢有る丁寧な篦ミガキ。口縁外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色、黒褐色	浅黄橙色、褐灰色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内面漆塗り？
	18	H104	カマド燃焼部	土製品	支脚	両端欠損		13.0+	9.0		側面—円柱状 断面—円	緻密	にぶい黄橙色橙色		やや不良	
	19	H104	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損		25.1+	8.5		側面—円錐台 断面—円	小礫2㎜大を極少量含む	灰黄褐色		普通	
	20	H104 Po4	ほぼ床面 +8	石製品	擦り石	完存	長さ9.0cm・幅6.6cm・厚さ4.7cm 374.4g									チャート
109 住	1	H99 Po9+15	床面直上	土師器	甕	底部～胴部4/5 口縁部3/5	17.6	29.5	21.0	5.3	重心下端、底部小さく突出。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ、内面ナデ。	浅黄橙色粒3㎜以下を極少量含む	橙色、灰褐色	灰褐色	わずかに不良	外面一部摩耗、内面口縁部剥離
	2	H99	覆土	土師器	甕	3/5強 胴下部3/5	19.1	28.6	21.1	5.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色、暗赤褐色	にぶい黄橙色暗赤褐色	普通	
	3	H99 Po1+10	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(16.0)	9.2+			口縁内外面ヨコナデで口唇僅かに玉状。胴外面やや斜位の篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	黒褐色、明黄褐色、黄橙色	黒褐色、橙色	やや不良	内面摩耗多い
	4	H99	覆土	土師器	甕	底部 胴下部1/3		9.4+		6.9	外面斜位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を極少量含む	赤色、黒褐色褐灰色	灰褐色、浅黄橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	5	H99	覆土	土師器	甕	胴下部1/3～胴中上部1/2～口縁部3/5強	(18.8)	21.6+	(22.8)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	黒褐色、橙色褐灰色	黒褐色、橙色褐灰色	不良	内外面摩耗多い。内面口縁部剥離多い
	6	H99 Po13+17 Po12 +15	床面直上	土師器	甕	胴中位2/5～胴上位3/5～口縁部2/5	(17.3)	21.4+	(29.6)		やや肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ。内面篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色赤褐色、褐灰色	赤褐色	わずかに不良	内外面剥離
	7	H99 Po6+	床面直上	土師器	小形甕	口縁部わずかに欠損	12.2	12.3	11.9	4.7	口縁雑なヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜弱以下を少量含む	橙色、灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗。内面剥離多い
	8	H99 Po11-4	P内	土師器	甑	胴部4/5～口縁部3/5強	23.9	22.7	20.4	7.0	やや肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ残す不規則な篦ミガキ。内面丁寧なナデにミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄橙色褐灰色、橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗、剥離
	9	H99	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部～口縁部1/3	(12.8)	3.3+			口縁直下に僅かに綾有す。内外面ヨコナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、黄橙色	赤色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面摩耗。内外面赤彩
	10	H99 Po5+20	ほぼ床面 +10	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部3/5・杯口唇部1/3欠損	13.0	8.6		脚径(8.9)	口縁端部僅かに外反。口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面ヨコナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、暗赤灰色	わずかに不良	外面少し摩耗、杯内面剥離多い。赤彩
	11	H99 Po7-2	P内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯体上部～口縁部1/5欠損	13.7	9.5		脚径8.6	口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含み、小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色	やや不良	外面少し摩耗、杯部内面剥離多い。赤彩
	12	H99 Po3+18	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部3/5強・杯部2/5欠損	(12.8)	10.1		脚径(9.6)	杯部緩有す。口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を多く含む	にぶい赤色、赤色、にぶい黄橙色	にぶい赤色、赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	やや不良	脚内外面外面一部、杯部内外面摩耗。赤彩
	13	H99 Po2	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部わずかに欠損	13.8	9.4		脚径9.4	口縁内外面ヨコナデで杯内面底部弱いミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	にぶい黄橙色赤褐色、浅黄橙色	普通	体部内面わずかに摩耗。赤彩
	14	H99 Po8-2	P内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部1/5欠損	14.5	9.9		脚径9.6	口縁内外面ヨコナデで杯内面底部弱いミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや良好	杯内面少し剥離。赤彩
	15	H99 黒土層	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5 口縁部1/2	(14.6)	5.3+			杯部浅く内湾気味に開く。摩耗不鮮明。	小礫2㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色、暗赤灰色	赤色、浅黄橙色	不良	内外面摩耗、剥離著しい。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
109住	16	H99 Po10-3	P内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯口縁部1/6欠損	15.1	9.8		脚径 9.7	杯部下端緩有す。口縁内外面ヨコナデで杯内面底部弱いミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	にぶい赤褐色 浅黄橙色	やや不良	杯部内面剥離多い。赤彩
	17	H99 Po2+14	ほぼ床面+4	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部		6.1+		(9.8)	脚柱外面シャープな篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤褐色、橙色	橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。脚外面赤彩
	18	H99 Po4+15	ほぼ床面+5	土製品	支脚	両端欠損		11.4+	7.1		側面—円柱状 断面—円	小礫1.5㎝弱以下を多く含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色		不良	
	19	H99	覆土	石製品	叩き石	完存	長さ11.0cm・幅7.2cm・厚さ3.2cm 361.6g									輝石安山岩
110住	1	H100 Po21-2	床面直上	土師器	甕	胴中位4/5・口縁部一部欠損	18.6	31.8	19.7	7.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、浅黄色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	2	H100	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/4～胴部3/5～口縁部1/2	18.9	29.5	19.3	(6.0)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫5㎜以下を多く含む	黒褐色、赤色赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	内外面やや摩耗
	3	H100 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴部3/5～口縁部1/4	(18.4)	32.1	20.2	(6.4)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫4㎜大以下を多く含む	赤色、暗赤褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 極暗赤褐色	やや不良	内外面やや摩耗、内面一部剥離
	4	H100	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴下部3/5強		17.0+		5.7	胴外面縦位ナデ状篦ケズリ、内面ナデ。	小礫5㎜以下を含む	暗赤褐色、にぶい黄橙色、赤黒色、淡黄色	黒褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H100 Po17	ほぼ床面+3	土師器	甕	底部～胴下部 胴中位～口縁部2/5	(18.2)	26.3	23.9	5.9	球胴甕。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下多く一部に1cm位の礫含む	にぶい黄橙色 赤色	灰褐色、橙色 黒褐色	やや不良	内面剥離多い
	6	H100 Po22-6	P内	土師器	甕	底部 胴部3/5～口縁部1/3	(15.0)	15.4	(16.6)	6.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面ナデ。肩部外面篦圧痕。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	密	内外面摩耗多い、内面一部剥離
	7	H100 Po21-2	ほぼ床面+3	土師器	甕	底部3/5		2.3+		7.8	外面篦ナデ。外面ナデ。球胴甕底部。	密	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	8	H100 Po15+	床面直上	須恵器	甕	胴部片					外面叩き目。内面同心円紋。	灰白色粒2㎜弱以下を極少量含む	灰色	灰色	良好	
	9	H100 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	1/3	(12.7)	3.6	稜部径 (13.5)		内外面やや雑なミガキ。	密	黒褐色、にぶい橙色、褐灰色	黒褐色、にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	10	H100 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	体部～口縁部1/4	(11.8)	3.5	稜部径 (12.4)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面ケズリ状篦ナデ	密	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	11	H100 Po16+	ほぼ床面+5	土師器	杯	体 部3/5強～口縁部2/5	12.0	3.9			口縁外面ヨコナデ。底体部内外面ミガキ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄色	浅黄色、黄灰色	わずかに不良	内面少し摩耗
	12	H100 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体部～口縁部1/4	(14.6)	4.1+			口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	13	H100 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体部～口縁部1/6	(13.7)	3.1+			口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	密	明黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	14	H100 Po16+ Po18+15	ほぼ床面+5	土師器	高杯	1/4	(18.2)	10.7		脚径 (10.5)	杯部内面光沢の有るミガキ。口縁外面ミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱篦ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H100 Po20+	ほぼ床面+5	土師器	高杯	脚部3/5～杯下部1/4 脚裾部欠損		7.9+			杯部内面光沢の有るミガキ。口縁外面ミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。脚柱篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい橙色、橙色、黒褐色	褐灰色	普通	
	16	H100 Po16+	ほぼ床面+6	手捏土器	杯形	口縁部欠損		3.5+		6.7	外面指頭圧痕と焼成前の線刻。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	普通	
	17	H100	覆土	土製品	支脚	上半		9.7+	7.1		側面—円錐台 断面—円	密	にぶい黄橙色 明黄褐色		やや不良	
	18	H100 Po?		土製品	支脚	両端欠損		5.1+	3.1		側面—円錐台 断面—円	浅黄橙色で少し軟質粒3㎜大以下を含む	灰褐色、明赤褐色		やや不良	
111住	1	H102 Po7+13	覆土+10	土師器	甕	口縁部1/6	(24.0)	8.1+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	浅黄橙色、黒褐色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、黒褐色、にぶい黄橙色	不良	
	2	H102 Po6+ Po4+ +	ほぼ床面+4	土師器	甕	胴下位1/4～胴上部1/3～口縁部1/4	(13.2)	11.2+	(13.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ナデ状篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多く、内面一部剥離
	3	H102 Po1+	ほぼ床面+3	須恵器	高台付杯	1/4	(13.8)	4.1		9.6	出尻気味。内外面ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ残すロクロナデ。高台低く内面面取り。	緻密	灰色	浅黄色、灰色	やや不良	内外面少し摩耗
112住	1	H101 Po3	ほぼ床面+5	須恵器	鉢	体下部一部欠損	16.2	6.9		9.6	内湾。口縁内面直下と体部外面中位に凹状条線。内外面ロクロナデ。体部中位と底部回転篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	灰黄色、灰色 浅黄色、黄灰色	灰黄色、灰色	普通	
	2	H101	覆土	土製品	支脚	一部		6.4+			側面—円柱状 断面—円	密	灰黄褐色		やや不良	
	3	H101 Po1+1	床面直上	鉄製品	刀子	両端大きく欠損	現存長8.3cm・茎幅1.0cm・茎棟厚0.5cm 12.2g									
113住	1	H110 Po66+1 Po61+6 Po57+17 Po67+17 Po65+18	床面直上	土師器	甕	胴上部3/5強～口縁部4/5	18.9	21.2+	28.0		口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ。胴内面上半ナデ、中位篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒6㎜以下を一部に極少量含む	暗灰黄色、にぶい黄橙色、黒褐色	黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面やや摩耗一部剥離
	2	H110 LP	P5内貯蔵穴	土師器	甕	底部 胴部3/5強～口縁部3/5	14.4	28.0	23.0	7.6	最大径胴上半。口縁外面篦圧痕残すヨコナデ。胴外面篦ナデで中位輪積み残す、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	普通	外面やや摩耗、内面剥離多い
	3	H110 Po4-12	床面直上	土師器	甕	底部～胴部3/5強～口縁部4/5	18.5	31.6	28.6	8.4	口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、下半ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面摩耗多く、内面剥離多い。底部不安定

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
113 住	4	H110 Po12-20	床面直上	土師器	甕	3/5強	17.3	27.8	23.5	7.3	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、下半ケズリ状篦ナデ。内面篦ケズリ。	密	にぶい橙色、にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい橙色、にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	5	H110 Po19-5	床面直上	土師器	甕	胴上部4/5～口縁部1/2	17.0	14.9＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、内面篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい赤褐色、褐灰色、橙色	にぶい橙色、褐灰色	普通	
	6	H110 Po1-4	床面直上	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部一部	(20.9)	11.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、内面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内面剥離多い
	7	H110 Po56+17	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部一部 口縁部1/3	(25.7)	17.0＋			口縁肉厚。口縁内外面ヨコナデで段を有す。胴外面上半篦ナデ、内面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、褐灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離
	8	H110 Po32 Po67+17 Po46+33	覆土 ＋9	土師器	甕	口縁部4/5強	(14.6)	3.7＋			口縁内外面ヨコナデ。	小礫2㎜大以下を多く、褐鉄鉱粒5㎜大を一部に含む	黒褐色、にぶい褐色、橙色	明褐色、にぶい褐色、黒褐色	普通	
	9	H110 Po19-5 Po9-12	床面直上	土師器	甕	口縁部1/3	(16.8)	9.6＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ケズリ残す篦ナデ。	密	灰褐色、明赤褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	10	H110 Po38-52	覆土 ＋34	土師器	甕	胴下部～口縁部1/4	(14.9)	16.7＋	(17.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密	橙色、赤灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	H110A Po3-7	ほぼ床面	土師器	甕	胴下部3/5～胴上部～口縁部4/5	14.9	23.3＋	23.5		口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面輪積み残す篦ナデとナデ。	小礫1㎜大以下を含む	黒褐色、褐灰色、にぶい橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面少し摩耗、内面剥離
	12	H110 Po77+11 Po3-7 Po2+8	ほぼ床面	土師器	甕	胴中位～口縁部1/4	(13.2)	13.4＋	(24.4)		口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデで部分ミガキ。内面輪積み残すナデ。	小礫1㎜以下を少し、褐鉄鉱粒5㎜以下を極少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	13	H110	覆土	土師器	甕	胴中位1/6～上部1/4～口縁部一部	(15.4)	15.3＋	(23.1)		口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデ状雑なミガキ。内面輪積み残すナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	灰褐色、にぶい褐色、浅黄橙色	にぶい赤褐色 灰黄褐色	普通	
	14	H110 Po43+26	ほぼ床面	土師器	甕	口縁部4/5	(16.1)	5.4			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を多く含む	灰褐色、褐灰色、明褐色	灰褐色、褐灰色、明褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	15	H110 Po7-11 カマド内	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部～胴上部1/2～口縁部4/5	16.6	21.3	(25.4)		口縁内外面ヨコナデ。頸部篦圧痕。胴外面篦ナデ状雑なミガキ、内面雑な篦ケズリ。	小礫3㎜以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	やや良好	内面一部剥離
	16	H110 黒土層内 黒土内	覆土	土師器	甕	口縁部1/2	(23.0)	6.2＋			口縁内面玉状。内外面ヨコナデ。外面頸部篦圧痕。内面篦ケズリ	小礫1㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、明黄褐色	普通	
	17	H110 Po24+25	覆土 ＋21	土師器	鉢	胴下部1/3～胴中位～上部3/5～頸部1/5		13.4＋	(16.3)		胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫4㎜大以下を少量含む	赤褐色、赤色 暗赤灰色	灰黄褐色、黒褐色	やや不良	外面口縁部は摩耗
	18	H110 Po47+12 Po36 Po60+5	床面直上	土師器	甕	底部4/5強～胴下部4/5～胴中位～上位1/2		27.4＋	32.2	8.0	胴外面ミガキ状篦ナデ、内面上半篦ケズリ、下半ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下、小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、赤黒色 赤灰色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、内面一部剥離
	19	H110 Po31 Po56+17 黒土層	床面直上	土師器	甕	底部 胴下部2/5		11.2＋		5.6	外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐色	にぶい褐色、にぶい橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面一部摩耗、内面一部剥離
	20	H110 Po75+2	ほぼ床面	土師器	甕	底部 胴下部2/5		9.7＋		7.1	外面篦ナデ、内面ナデ	小礫2㎜大以下を極少量含む	にぶい赤橙色 暗赤灰色、赤黒色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗
	21	H110 Po9-12	ほぼ床面	土師器	甕	底部 胴最下部2/5		3.7＋		5.9	肉厚。外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色	黄橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	22	H110 Po70+	覆土 ＋44	土師器	甕	底部3/5強		3.2＋		8.4	外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤橙色、灰褐色	明黄褐色、灰黄褐色、橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離
	23	H110 Po46+33	ほぼ床面 ＋9	土師器	甕	底部～胴最下部3/4		3.6＋		7.4	外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	密	灰赤色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	24	H110 Po67+10 (2)	覆土 ＋11	土師器	甕	底部3/5強～胴最下部1/2		3.0＋		6.9	外面篦ナデ、内面ナデ	密 褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	25	H110 Po57+14	ほぼ床面	土師器	壺？	底部 胴最下部1/2		2.6＋		7.2	球胴甕。内外面丁寧な篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい褐色、黒褐色、灰褐色	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	普通	２次加熱受けていない
	26	H110 Po67+17	覆土 ＋11	土師器	甕	底部～胴最下部1/2		3.3＋		7.4	内外面摩耗不明。	密	褐灰色、にぶい橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	27	H110 Po27+7	床面直上	土師器	壺	底部3/5		2.2＋		8.2＋	内面ミガキ、外面丁寧なナデ	小礫3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色	橙色	やや不良	外面少し摩耗 弥生式土器？
	28	H110 Po42+35	覆土 ＋30	土師器	甕？	底部4/5～胴最下部2/5		4.0＋		8.0	外面シャープな篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	褐灰色、黒褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、橙色	やや良好	
	29	H110 Po46+33	ほぼ床面 ＋9	土師器	甕	底部1/3		2.2＋		9.5	摩耗不明	密	赤色、明褐灰色、黒褐色	灰褐色、浅黄色	やや不良	外面摩耗多い
	30	H110 Po19-5 Po27+3 Po27+7 Po65+18	ほぼ床面	土師器	甕	胴下部1/3～胴中部～口縁部3/5	(23.2)	24.4＋	(25.9)		やや肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ。内面輪積み残すナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、特に外面多い。粘土接合痕を多く残す
	31	H110 黒土内 Po56+13	ほぼ床面 ＋7	土師器	甑？	胴上部～口縁部1/4	(24.6)	7.8＋			口唇「コ」の字状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面刷毛目、内面丁寧な篦ケズリ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色、浅黄橙色	わずかに不良	外面少し摩耗
	32	H110 Po46+33 Po43+26	ほぼ床面 ＋9	土師器	甕	底部一部～胴部～口縁部1/2	(27.8)	19.1	(26.4)	(7.0)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半横位のシャープな篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ。胴内面上半ヨコナデ、下半シャープな篦ケズリ	密 小礫2㎜大を一部に含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色、橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色	少し良好	２次加熱受けていない

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
113住	33	H110 Po46+33 黒土層	ほぼ床面 +9	土師器	甑？	口縁部1/6	(32.4)	4.0+			口縁指頭押捺で波状。胴外面雑な篦ミガキ、内面篦ケズリ残すナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	橙色	普通	113住－34と同一個体？
	34	H110 Po45-27	床面直上	土師器	鉢	底部 胴下部4/5～胴上部～口縁部2/5	(23.7)	13.4		7.6	口縁指頭押捺で波状で胴中位変換面。胴外面雑な篦ミガキ、内面篦ケズリ残すナデ。	密	にぶい黄橙色 黒褐色	灰褐色、橙色	やや不良	内面摩耗多い
	35	H110 Po13-13	床面直上	土師器	甑	下端孔部～胴部4/5～口縁部3/5強	25.4	28.9	24.7	8.1	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ状の縦位篦ケズリ、内面丁寧な篦ケズリ。	褐鉄鉱粒8㎜以下を多く含む	にぶい橙色、浅黄色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄色	やや不良	内外面やや摩耗
	36	H110 Po6-12	床面直上	土師器	甑	下端孔部～胴部4/5～口縁部1/2	(24.2)	20.9	23.0	7.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面ナデ残す縦位篦ミガキ。	密	にぶい黄橙色 明黄褐色	にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	37	H110 Po46+33 Po28+3 Po67+17	覆土 +11	土師器	甑	下端孔部1/4～胴下部3/5		9.2+		(7.6)	内外面雑な篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を多く含む	褐色、黒褐色 にぶい黄橙色	褐色、黒褐色 にぶい黄橙色 明赤褐色	やや良好	
	38	H110 Po7(-11)	ほぼ床面	土師器	甕	底部 胴部3/5強～口縁部3/5	(13.7)	23.0	20.9	4.5	肉薄。胴中焼成後穿孔。底部突出気味。口唇「コ」の字状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗 穿孔径縦7.1cm・横9.6cm。
	39	H110 Po9-12 カマド	ほぼ床面	土師器	壺 赤彩土器	底部1/3～胴中位1/6～口縁部1/4	(14.0)	16.6	(18.2)	(4.3)	底部突出気味。内面と外面胴注意赤彩。口縁シャープなヨコナデ。胴外面横位のケズリ状篦ナデ、内面ナデ	小礫1㎜以下多く含む	赤色、赤褐色 赤黒色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	外面剥離多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	40	H110 Po9(10)	ほぼ床面	土師器	鉢？ 赤彩土器	体部3/5～口縁部1/2	(15.2)	13.4+	18.4		内面と外面胴注意赤彩。口縁シャープなヨコナデ。胴外面横位のケズリ状篦ナデ、内面ナデ	小礫2㎜大以下を少量、石英粒1㎜大以下を含む	赤色、赤黒色 灰赤色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面一部に剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	41	H110 Po70+51	覆土 +44	須恵器	甕	口縁部1/6	(20.1)	5.4+			口縁端部シャープに摘み出し「コ」状を呈す。口頸部外面平行叩き目残し、内外面ロクロナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	普通	
	42	H110 黒土内	覆土	須恵器	ハソウ	口頸部1/4	(8.5)	1.9+			口頸部に櫛歯状工具による波状紋施す。突帯はシャープ。内面降灰により釉被る。	緻密	灰色	灰オリーブ色	普通	内面に自然釉付着
	43	H110 黒土内	覆土	須恵器	ハソウ？	口縁部片	(11.9)	2.4+			口縁端部上方へ摘み出し、内面にシャープな稜を有す。口頸部突帯は鋭い。口縁と口頸部に2段に櫛歯状工具による波状紋描く。	小礫3㎜以下を極少量含む	灰色	灰色	普通	
	44	H110 Po74+37	覆土 +37	須恵器	壺	体部		12.0+	15.0		丸底。胴上端の2条の沈線の間に櫛歯状工具により刺突紋を施す。内面ナデ。外面中位ナデ、底体部指頭圧痕を僅かに残す。	灰白色粒6㎜以下を多く含む	オリーブ黒色 灰白色	オリーブ黒色 オリーブ褐色	普通	
	45	H110 Po52+18 Po45+21 Po67+17	ほぼ床面 +3～11	須恵器	高杯	脚部4/5～杯部2/5	(17.0)	12.0		脚径10.8	口縁強いヨコナデで薄く仕上げる。口縁直下突帯やや鋭く突帯間に櫛歯状工具で波状紋描く。脚柱長方形4方透かし。脚端側面に凹状面有す。杯部内面に泡状自然釉被る。	小礫1㎜以下を少量含む	灰黄色、灰色 黒褐色	灰色、灰白色 灰オリーブ色	普通	脚外面と杯内面に降灰
	46	H110 Po50+18	ほぼ床面 +6	須恵器	杯蓋	口唇部わずかに欠損	12.5	5.2			口縁端部摘み出し、口唇内面に稜有す。外面稜やや鈍い。底体部回転篦ケズリで反時計周り。	小礫4㎜以下を多く含む	灰色	灰色	普通	
	47	H110 Po50+18	ほぼ床面 +6	須恵器	杯蓋	口唇部1/3欠損	12.4	4.6			口縁端部摘み出し、口唇内面に稜有す。外面稜やや鈍い。底体部回転篦ケズリで時計周り。	小礫4㎜以下を多く含む	灰色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	48	H110 Po52+18	ほぼ床面 +6	須恵器	杯蓋	一部欠損	12.6	5.0			口縁端部摘み出し、口唇内面に稜有す。外面稜やや鈍い。底体部回転篦ケズリで時計周り。	灰白色小礫4㎜以下を含む	灰色	灰色	普通	
	49	H110 黒土層	覆土	須恵器	杯蓋	3/5	12.9	4.8			口縁端部摘み出し、口唇内面に稜有す。外面稜やや鈍い。底体部回転篦ケズリで時計周り。	灰白色粒2㎜大以下を含む	灰色	灰色	普通	
	50	H110 Po27+7	床面直上	須恵器	杯身	一部欠損	9.9	4.6	稜部径12.1		口唇部凹状で鋭い。受部稜やや鋭い。口縁やや内傾気味に立つ。底体部外面回転篦ケズリ時計周り。	小礫2㎜大以下を含む	灰色、灰白色 淡黄色	灰白色、灰オリーブ色	普通	
	51	H110 黒土層	覆土	須恵器	杯身	1/2	(11.2)	4.5	稜部径(13.1)		口唇部凹状で鋭い。受部稜やや鋭い。口縁やや内傾気味に立つ。底体部外面回転篦ケズリ時計周り。	小礫1㎜大以下を含む	灰色	灰色	普通	
	52	H110 Po37+24	覆土 +20	土師器	高杯	口唇部わずかに欠損	15.3	11.4		脚径9.5	内外面脚内面にまで光沢の有るミガキを施す。脚三角形3方透かし。脚端玉状呈す。	緻密	黄橙色、橙色	黄橙色、橙色	大変良好	
	53	H110 Po30+33	覆土 +37	土師器	有蓋高杯 模倣高杯 赤彩土器	脚裾部わずかに欠損 口縁部1/4欠損	13.2	10.7	稜部径13.4	脚径8.7	受部稜やや鈍い。器表面全面丁寧な凹凸の無いナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	54	H110 Po65+18	覆土 +13	土師器	杯 赤彩土器	体上部～口縁部1/3 底部欠損	(12.4)	5.5+	稜部径(12.9)		口縁端部強く摘む。口縁外面および内面シャープなヨコナデ。底体部外面篦ケズリ	小礫2㎜以下を極少量、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色	普通	内外面赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
113 住	55	H110 Po11-7	ほぼ床面 +7	土師器	短頸壺 赤彩土器	口縁部3/5欠損	(7.9)	11.3	15.2		口縁短く立つ。丸底で球胴。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	緻密	赤色、暗赤灰色	赤色、暗赤灰色	普通	内面口縁部、外面赤彩
	56	H110 黒土層	覆土	土師器	椀形鉢 赤彩土器	1/2	(14.8)	7.1	(15.3)		口縁短く外反。口縁内外面ヨコナデ。内面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐色	浅黄橙色、明褐色	やや不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	57	H110 黒土内 Po70+58	覆土 +37	土師器	椀形鉢 赤彩土器	1/2 底部中央欠損	(13.0)	5.5			口縁内外面ヨコナデ 底体部外面ナデ、外面篦ナデ状ミガキ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗、内面一部剥離。内外面赤彩
	58	H110 Po33+6 Po58+8 Po56+18 Po65+18	ほぼ床面 +1～12	土師器	内湾鉢？ 赤彩土器	体中位～口縁部 1/3	(12.0)	6.6+	(14.7)		口縁短く立つ。口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ、内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	赤色、赤黒色 浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	外面胴下部を除き内外面赤彩
	59	H110 Po58+8	床面直上	土師器	内湾鉢？ 赤彩土器	胴下位～口縁部 1/3	(12.0)	7.2+	(13.8)		口縁短く立つ。口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ、内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	赤色、暗赤褐色、赤黒色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	60	H110 Po10-13	床面直上	土師器	椀	一部欠損	15.6	7.6		7.6	平底。口縁内面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい橙色、褐灰色	橙色、にぶい橙色	やや良好	
	61	H110 Po13-13	床面直上	土師器	椀	底部 体部～口縁部 1/4	(13.2)	6.0		8.3	平底。口縁内面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	密	橙色、にぶい橙色、にぶい褐色	橙色、にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	62	H110 Po70+51	覆土 +44	土師器	椀	4/5	13.4	5.4		3.5	平底。口縁内面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い。
	63	H110 Po46+33 Po23+8 Po58 黒土内	ほぼ床面 +6～9	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2 底部中央欠損	(14.5)	(5.8)			肉薄。口縁内外面および内面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	外面底部附近除き内外面赤彩
	64	H110 Po5-8	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部欠損	13.6	6.4			口縁内外面および内面ナデ。底内部外面やや雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい赤褐色、浅黄橙色	橙色、赤色、灰赤色	良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	65	H110 Po24+25	覆土 +21	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2 口縁部1/3	(14.5)	5.8			肉薄。口縁内外面および内面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。外面口縁部、内面赤彩
	66	H110 LP	P5内 貯蔵穴	土師器	椀形杯 赤彩土器	2/3	14.8	5.7			肉薄。口縁内外面および内面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	橙色、浅黄橙色、にぶい橙色	橙色、赤色、灰赤色	不良	内外面摩耗多い。外面口縁部、内面赤彩
	67	H110 Po69+25 Po73+1	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(13.2)	5.4			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗、内面一部剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	68	H110 Po38-52	覆土 +34	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4	(16.8)	5.8			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、赤灰色 灰黄褐色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	69	H110	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口唇部1/2欠損	13.9	5.7			やや肉厚。口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、橙色、灰褐色	赤色、橙色、灰褐色	やや不良	内外面摩耗多い。外面底部附近除き内外面赤彩
	70	H110 Po35+7	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	口唇部わずかに欠損	15.7	5.2			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。内面に放射状の篦ナデ状ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	褐灰色、灰褐色、明赤褐色 にぶい黄橙色	赤色、にぶい赤褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	71	H110 Po65+18 Po46+33	覆土 +11	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	13.0	4.6			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	72	H110 Po8-6	ほぼ床面 +8	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(13.4)	5.4			やや肉厚。口縁内外面および内面ナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜大以下と褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、灰赤色	橙色、にぶい褐色、赤色	やや不良	内外面やや摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	73	H110 Po64+9	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5	(13.5)	5.8			肉厚でやや深い。口縁強いヨコナデで僅かに外反。内面ナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	74	H110 Po51+18	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	口唇部1/3欠損	13.9	6.0		3.6	やや深い。口縁内外面および内面やや雑なナデ。底体部外面篦ケズリ残す篦ナデとミガキ。	密	赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	赤色、にぶい黄橙色	普通	外面口縁部、内面赤彩
	75	H110 Po67 Po65+18 Po28+8	覆土 +7～12	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部から口縁部1/3	(15.1)	4.2+			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	内外面摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	76	H110 Po70+51	覆土 +44	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5強	14.6	4.9			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ナデ。底部条線残る雑な篦ナデ	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	赤色、赤橙色 明黄褐色	赤色	わずかに不良	内面一部剥離。外面口縁部、内面赤彩
	77	H110 Po75+2	ほぼ床面	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2 底部附近欠損	(15.1)	5.2+			口縁内外面および内面丁寧なナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	78	H110 Po7-11	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部・口辺部 4/5強欠損	(14.6)	10.0		脚径 (9.6)	脚裾折れる。口縁内外面および内面ヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	明赤褐色、橙色、にぶい黄橙色	やや不良	杯内面剥離が著しい。赤彩
	79	H110 Po20+27	覆土 +23	土師器	高杯 赤彩土器	杯口縁部1/5欠損	14.3	9.7		脚径 9.3	脚裾折れる。口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	80	H110 Po62+28	覆土 +22	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/2・杯口縁部2/5欠損	13.9	10.0		脚径 9.8	口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	赤色、褐灰色 橙色	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
113 住	81	H110 Po42+35	覆土 ＋30	土師器	高杯 赤彩土器	杯部2/5欠損	(14.2)	9.2		脚径 9.5	脚裾折れる。口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	赤色、淡黄色 浅黄色	赤色、浅黄色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	82	H110 Po21+40	覆土 ＋36	土師器	高杯 赤彩土器	4/5 脚裾部3/5と杯口辺部4/5欠損	(14.3)	9.7		脚径 (10.4)	脚裾折れる。口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	杯内外面わずかに摩耗。赤彩
	83	H110 Po49+14	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	一部欠損	16.0	9.7		脚径 11.2	脚裾折れる。口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。杯部外面篦ナデ。脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	赤色、橙色、浅黄橙色、にぶい橙色	赤色、浅黄橙色	少し不良	内外面摩耗多い。赤彩
	84	H110 Po68+33	覆土 ＋27	土師器	高杯 赤彩土器	杯部4/5強 口唇部1/2	14.6	5.3＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	密	赤色、灰赤色 暗赤灰色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。赤彩
	85	H110 Po17-3	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部3/4	14.7	5.6＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗、内面一部剥離。赤彩
	86	H110 Po14-15	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/2 口縁部1/4	(13.6)	6.6＋			杯部やや深い。口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ	小礫６㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。赤彩
	87	H110 黒土内 Po70+51	覆土 ＋44	土師器	椀？ 赤彩土器	1/3 底部欠損	(14.7)	5.3＋			口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。体部外面丁寧な篦ナデ	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	88	H110 Po62+28 黒土内	覆土 ＋22	土師器	椀？ 赤彩土器	1/2 底部欠損	(14.0)	4.6＋			口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。体部外面丁寧な篦ナデ	緻密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色，褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	89	H110 Po56+18 P?+17C21 黒土層	覆土 ＋11	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5～杯下部3/5		6.5＋		脚径 (10.8)	脚裾折れる。杯部内面光沢ミガキ杯部外面篦ナデ。脚柱および脚裾丁寧なヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、杯内面剥離多い。赤彩
	90	H110 Po24+25	覆土 ＋21	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部1/5欠損		6.6＋		脚径 15.1	脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	橙色、赤色、灰褐色	橙色、赤色、灰褐色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	91	H110 Po39+20	ほぼ床面	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5強		4.1＋		脚径 9.6	脚柱と裾部に有段、裾反り玉状呈す。脚裾丁寧なヨコナデ。	緻密	赤色	にぶい黄橙色	やや良好	赤彩
	92	H110 R55+36	覆土 ＋12	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		4.7＋		脚径 9.0	脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	褐鉄鉱粒７㎜以下極少、小礫１㎜以下含む	赤色、暗赤灰色		普通	赤彩
	93	H110 Po39+20 Po58+8	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5		4.2＋		脚径 9.5	脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色		わずかに不良	外面やや摩耗。赤彩
	94	H110 Po37+20	ほぼ床面 ＋6	土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5強		4.1＋		脚径 9.0	脚柱ケズリ状の篦ナデ。脚裾広くヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色		普通	内外面わずかに摩耗。赤彩
	95	H110 黒土内	覆土	須恵器	甕	頸部片					外面幅広の櫛目波状紋。内面ナデ。	密	灰色	灰色	わずかに不良	
	96	H110 黒土内	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円紋消し去るナデ	緻密	灰色	灰色	普通	
	97	H110 黒土層	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円紋。	小礫１㎜以下を極少量含む	オリーブ黒色	灰色	良好	
	98	H110 黒土内	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円紋消し去るナデ	小礫２㎜以下を少量含む	オリーブ黒色	オリーブ黒色	良好	外面に釉付着。他と違う焼き方
	99	H110 Po63+3	床面直上	土製品	支脚	部分欠く		13.8＋	10.2		側面―円錐台 断面―円	小礫１㎜以下を含む	橙色、灰褐色 褐灰色		普通	
	100	H110 Po48+12	床面直上	土製品	支脚	ほぼ完存		18.2	12.2		側面―円錐台 断面―円	密	灰黄褐色、橙色		普通	
	101	H110 Po23	ほぼ床面 ＋6	土製品	土玉	完形	径3.8～4.0cm・高さ3.0cm・孔径0.7cm　38.9ｇ									
	102	H110 Po22	床面直上	土製品	土玉	一部欠損	径3.3～3.6cm・高さ3.5cm・孔径0.7cm　(37.1ｇ)									
	103	H110	覆土内	石製品	滑石製玉	完存	径0.61～0.63cm・厚さ0.32cm・孔径0.25cm　0.204ｇ									
	104	H110	覆土内	石製品	滑石製玉	完存	径0.61cm・厚さ0.33cm・孔径0.25cm　0.194ｇ									
	105	H110 Po42+8	覆土 ＋30	石製品	砥石	大きく欠損	現存長4.1cm・幅1.6～2.3cm・厚さ1.9cm・孔径0.55cm　21.4ｇ									流紋岩
	106	H110 Po66+40 Po26+3	覆土 ＋34	石製品	叩き石 磨石	完存	長さ8.2cm・幅5.1cm・厚さ4.6cm　301.6ｇ									砂岩
	107	H110 Po40+5	覆土	石製品	叩き石	完存	長さ7.7cm・幅6.5cm・厚さ3.2cm　227.7ｇ									
	108	H110 黒土層	覆土	石製品	擦り石	ほぼ完存	長さ8.8cm・幅4.4cm・厚さ4.1cm　229.8ｇ									石英斑岩
	109	H110 Po44+64	覆土 ＋40	鉄製品	釘	一部	現存長3.8cm・径0.6cm×0.6cm　3.4ｇ									
	110	H110 Po44+64	覆土 ＋40	鉄製品	釘	一部	現存長2.8cm・径0.6cm×0.5cm　1.8ｇ									
114 住	1	H103 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	一部欠損 口唇部3/5強	16.7	28.0	17.4	5.5	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を極少、褐鉄鉱粒７㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色、褐色	にぶい黄橙色 黒褐色、褐灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	2	H103 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口唇部欠損	(16.4)	27.8＋	17.7	4.3	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリで部分ミガキ、内面ナデ。	密 褐鉄鉱粒４㎜以下を一部含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	3	H103 Po13 Po16	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	口縁部1/2	22.3	7.9＋			口縁内外面ヨコナデ。胴内面ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	淡黄色、黄灰色	にぶい黄橙色 明褐色	やや不良	外面剥離著しく、内面やや摩耗
	4	H103 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢	体下位～口縁部1/3	(10.0)	9.2＋	(12.7)		口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を含む	淡黄色、黒褐色、浅黄色	黄灰色、淡黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H103 Po12	覆土 ＋11	土師器	鉢	底部 体下部2/5		4.3		4.2	外面篦ケズリ、内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内面剥離多い
	6	H103 Po10 ＋	ほぼ床面 ＋8	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	一部欠損 口唇部1/2	13.2	3.8	稜部径 14.6		口縁内外面ヨコナデ 残るミガキ。底体部内面ミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を含む	浅黄橙色、灰黄褐色	暗褐色、灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離が多い。口縁外面と内面漆塗り可能性あり。

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
114住	7	H103 Po5	床面直上	土師器	杯 杯身模倣	3/5強	12.6	4.0	稜部径 13.9		口縁内外面ヨコナデ 残るミガキ。底体部内面ミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	良好	
	8	H103 Po10	ほぼ床面+8	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3	(14.3)	(3.9)			口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色、淡黄色	普通	
	9	H103 Po11	ほぼ床面+6	土師器	杯 杯蓋模倣	1/2	(14.9)	4.4			口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	緻密	浅黄色、橙色 にぶい橙色	淡黄色、暗灰黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	10	H103 Po1	ほぼ床面+4	土師器	杯 杯蓋模倣	一部欠損	14.2	3.9			口縁内外面丁寧なヨコナデ。底体部内面部分ミガキ、外面篦ナデ。	緻密	橙色、灰赤色 明黄褐色	橙色、灰赤色 浅黄橙色	不良	内外面摩耗著しい
	11	H103 Po17	ほぼ床面+3	土師器	杯 杯蓋模倣	3/5	15.5	4.1			口縁内外面丁寧なヨコナデ。底体部内面部分ミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	淡黄色、浅黄色、黄灰色	浅黄色、黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H103 Po1	ほぼ床面+4	土師器	皿状杯	3/5 口唇部1/5	(17.7)	3.5			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	淡黄色、赤橙色	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	13	H103 Po6	床面直上	土師器	皿状杯	1/3	16.4	4.7			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、篦ミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	淡黄色、浅黄色、褐灰色	淡黄色、浅黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	14	H103 Po7	床面直上	土師器	杯	ほぼ完形	13.2	3.9			口縁外面ヨコナデ。内面やや荒いミガキ。底体部外面篦ケズリ残るミガキ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を極少量含む	にぶい橙色、褐灰色、浅黄色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや良好	
	15	H103 Po8	床面直上	土師器	杯	4/5	12.9	4.0			口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ残るミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	16	H103 Po9	ほぼ床面+4	手捏土器	鉢形	4/5	8.7	5.4	9.4	7.5	内外面輪積み残す指頭圧痕。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	淡黄色、灰黄色	淡黄色、灰黄色	わずかに不良	
	17	H103 カマド	カマド燃焼部	手捏土器	皿？	底部3/5		1.7+		(5.4)	指頭圧痕。底部木の葉	緻密	浅黄色	浅黄色	不良	内外面少し摩耗
	18	H103 カマド	カマド燃焼部	ミニチュア土器	椀形	3/5 体上部～口縁部1/3	(4.1)	(3.3)			指頭圧痕。	緻密	浅黄色、黄灰色	浅黄色、暗灰黄色、明黄褐色	不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩の可能性有り
	19	H103 Po3	床面直上	ミニチュア土器	壺形	口縁部欠損		2.5+	3.3		指頭圧痕。	密	浅黄色	浅黄色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	20	H103 Po14	ほぼ床面+7	ミニチュア土器	椀形	一部欠損	2.2	2.9	4.0		指頭圧痕。	密	浅黄色	浅黄色、にぶい黄色	普通	外面体上部一部剥離
	21	H103 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損		20.6+	7.2		側面一円錐台 断面一円	緻密	にぶい橙色、褐灰色、橙色		不良	
	22	H103 Po4		石製品	叩き石	完存	長さ10.1cm・幅6.4cm・厚さ4.7cm 368.2g									石英斑岩
115住	1	H105 Po4+	ほぼ床面+8	土師器	甕	胴下部1/6～中上部1/4～口縁部1/4	(17.2)	25.2+	25.3		口縁内外面ヨコナデ。口頸部外面荒い刷毛目。胴部外面刷毛目消し去る篦ケズリ。内面ケズリと篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含み、小礫2㎜以下を極少量含む	暗赤灰色、赤色、にぶい赤褐色、にぶい橙色	浅黄橙色、にぶい褐色、橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面少し摩耗 接合しない口縁部と胴部からなる。
	2	H105 Po4 H102+	ほぼ床面+8	土師器	甕	底部 胴下部3/5～中位2/5～胴上部1/5		20.3+	(24.4)	8.2	底部丸底気味。胴外面雑な篦ナデ。内面輪積み残す篦ナデ。	密	浅黄橙色、黒褐色、灰黄褐色、橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	3	H105 Po4	ほぼ床面+8	土師器	甕	底部3/5～胴下部3/5強		8.6+		(6.4)	外面雑な篦ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下と小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 浅黄色	やや不良	外面わずかに摩耗
	4	H105 Po+	ほぼ床面+8	土師器	甑	下端孔部～胴下部1/2		10.0+		(7.0)	外面篦ケズリ。内面ケズリ状篦ナデに部分縦位篦ミガキ。	小礫2㎜大以下を少量含む。一部に4㎜大有り	赤褐色、にぶい橙色	にぶい褐色、にぶい橙色	普通	内外面やや摩耗
	5	H105 Po4+	ほぼ床面+8	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強 口縁部1/2	14.8	5.7			内面ミガキ。外面やや粗いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	淡黄色、暗灰黄色、赤色	赤色、灰白色	やや不良	内外面わずかに摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	6	H105 Po5+ Po7	ほぼ床面+4	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	14.8	6.0			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	浅黄橙色、褐灰色、赤色、黒褐色	浅黄橙色、褐灰色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	7	H105 Po2-2	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部片	(15.4)	3.0+			内面ナデ。口縁外面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	緻密	暗赤灰色、赤褐色	赤色、暗赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	8	H105 Po8+	ほぼ床面+5	土師器	鉢	1/3	(11.6)	(7.8)	(12.2)	(4.2)	口縁内外面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。底部篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい赤褐色 赤色、橙色	にぶい橙色、橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	9	H105 Po9 Po11	ほぼ床面+6	土師器	高杯 漆塗り	1/4	(15.0)	11.3	稜部径 (15.1)	脚径 (10.3)	杯部稜シャープに突出。全面光沢の有る磨き。脚透かし4方？	緻密	黒褐色、橙色 にぶい橙色	黒褐色、にぶい黄橙色	良好	杯部と脚部は接合しない。
	10	H105 Po10+	ほぼ床面+6	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5	(14.4)	5.8			内面ナデ。外面篦ナデ	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、灰赤色	赤色、赤黒色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗、剥離。赤彩
	11	H105 Po6+	ほぼ床面+4	石製品	叩き石	完存	長さ9.4cm・幅7.0cm・厚さ4.2cm 415.8g									砂岩
116住	1	H106 Po5-7	床面直上	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部3/5	(16.4)	13.1+			口縁短部玉状、内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデで一部篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	橙色、赤灰色 赤黒色	橙色、赤灰色 にぶい黄橙色 黒褐色	普通	116住-2の上半の可能性が大きい
	2	H106	覆土	土師器	甕	底部4/5～胴下部1/4		12.6+		5.5	外面縦位から斜位篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	にぶい赤色、赤黒色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	116住-1の下半の可能性が大きい
	3	H106 Po1-1	床面直上	土師器	甕	胴中位2/5～胴上部3/5強～口縁部3/5	(18.2)	14.8+			肉薄。口縁内外面シャープな篦ケズリ、胴外面縦位の丁寧な篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫1㎜大を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面剥離
	4	H106 + Po2+	覆土 +20	土師器	高杯 赤彩土器	脚部～杯底部1/2		6.0+		脚径 (11.2)	脚柱篦ナデ。裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、浅黄橙色	灰黄褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面剥離多い。脚部外面赤彩、杯内面赤彩剥離
	5	H106	覆土	土製品	土玉	2/5	径(4.0cm)・高さ3.0cm・孔径0.6cm (12.3g)									
	6	H106 Po4+26	覆土 +26	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.5～3.8cm・高さ3.1cm・孔径0.7cm (33.7g)									
	7	H106 Po6-2	床面直上	石製品	擦り石	完存	長さ10.2cm・幅4.1cm・厚さ1.6cm 106.4g									粘板岩
117住	1	H107 Po3	壁接する +9	土師器	甑	胴下部1/5～中位1/3～胴上位～口縁部2/5	(26.0)	24.4	(23.4)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫1㎜大以下と褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	褐灰色、明赤褐色	褐灰色、明赤褐色	少し良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
117住	2	H107 Po5+	ほぼ床面＋4	土師器	甕	胴上部～口縁部1/6	(24.0)	10.0＋	(20.3)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	明褐色	暗褐色	良好	
	3	H107 Po+		土師器	甑	胴下部1/4		13.4＋		(11.0)	外面斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	明褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	
	4	H107 ＋	覆土	須恵器	高盤	一部	(24.0)	2.6＋			肉厚。短部外方折れる。内面ロクロナデ、外面カ移転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	灰色	灰オリーブ色	普通	
	5	H107 Po1+	床面直上	須恵器	高盤	一部	(27.2)	2.6＋			肉厚。短部立つ。内面ロクロナデ、外面カ移転篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	6	H107	覆土	ロクロ土師器	杯	2/5	(12.4)	4.1		7.7	内外面ロクロナデ。	緻密	橙色、にぶい褐色	橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面摩耗
	7	H107 ＋	覆土	須恵器	杯	口縁部片	(13.6)	3.1＋			内面底と体部境明瞭。内外面ロクロナデ。底部篦ナデ。	緻密	灰白色、暗灰黄色	灰白色、暗灰黄色	やや不良	内外面摩耗。焼成不良
	8	H107 ＋	覆土	土師器	鉢？	口縁部片	(19.6)	4.3＋			肉厚。内面ロクロナデ。体部下端篦ケズリ	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	9	H107 Po3+	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文消し去るナデ。	緻密	暗灰黄色、黄褐色	灰色	やや良好	
	10	H107 貝層中	貝層中	土製品	土玉	4/5	径4.1～4.3cm・高さ3.8cm・孔径0.8cm (55.1ｇ)									
118住	2	H138	覆土	土製品	支脚	先端部		9.0＋			側面―円錐台 断面―円	褐鉄鉱粒6㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色		普通	
119住	1	H108	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(19.2)	8.9＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	褐灰色、灰黄褐色	褐灰色、灰黄褐色	良好	
	2	H108 Po5	ほぼ床面＋3	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(16.6)	8.9＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎝大以下を多く含む	黄橙色、黄灰色	明黄褐色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗，剥離著しい
	3	H108 Po4	ほぼ床面＋3	土師器	甕	底部1/2		2.5＋		(8.8)	外面指頭圧痕。	小礫2㎜大以下を含む	浅黄色	にぶい橙色	やや不良	
	4	H108 ＋	覆土	ロクロ土師器	杯	3/5	14.8	4.1		7.6	摩耗不明	緻密	橙色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	5	H108 Po3	ほぼ床面＋3	土師器	杯 内黒土器	底部～胴下部1/4		5.3＋		(7.6)	内面ナデ。丁寧な篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 褐灰色	黒色	普通	内面黒色処理
	6	H108 ＋	覆土	土師器	杯	体部～口縁部1/3	(13.6)	3.6＋			口縁内外面および内面ナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	褐灰色，灰白色	黒褐色、浅黄色	普通	
	7	H108 ＋	覆土	土師器	内湾口縁杯 漆塗り	1/4	(13.4)	4.3			内外面光沢の有る丁寧なミガキ。	緻密	橙色、褐灰色 灰黄色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良好	
	8	H108	覆土	土師器	小形杯	1/4	(8.9)	3.3			手捏状の土器で内外面ナデ。	緻密	浅黄色、にぶい黄橙色	浅黄色、にぶい黄橙色	やや良好	
	9	H108 Po2	ほぼ床面＋4	土師器	鉢	3/5 口縁部1/3	(8.4)	5.6		4.2	口縁外面および内面ヨコナデ。体部篦ケズリ。	密	灰黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内面少し剥離
	10	H108	覆土	土製品	支脚	両端欠損		17.8＋	6.5		側面―円錐台 断面―円	緻密	浅黄色、にぶい黄橙色		不良	
	11	H108 Po8	床面	石製品	不明	完存	長さ8.5cm・幅8.2cm・厚さ5.5cm 33.1ｇ									軽石
120住	1	H109 Po3-1	床面直上	須恵器	杯身？	体上部～口縁部1/4	(12.0)	2.9＋	稜部径(13.2)		口縁短く内径。口縁および受部稜丸い。内外面ロクロナデ。	微砂粒含む	灰オリーブ色	灰オリーブ色	普通	ＴＫ217型式
	2	H109 ＋	覆土	土師器	杯	口縁部片	(14.4)	2.0＋			口縁「く」字内傾。口縁内外面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を含む	浅黄色、黄灰色	灰白色、黄灰色	普通	
	3	H109	覆土	土師器	杯	口縁部片	(15.2)	1.4＋				褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	黄灰色、黒褐色	浅黄色、にぶい黄色	やや不良	
	4	H109 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	先端部		6.6＋			側面―円柱状？ 断面―円？	密	灰黄色		やや良好	
	5	H109 カマド	カマド燃焼部	石製品	叩き石	1/2	現存長6.8cm・幅6.3cm・厚さ3.5cm 209.1ｇ									砂岩
	6	H109 Po2	床面直上	鉄製品	不明		現存長10.6cm・幅3.2cm・厚さ0.3cm 31.2ｇ									
121住	1	H111 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/5～胴下部3/5～口縁部1/5	(15.9)	29.2	(21.1)	(7.7)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、中位横篦ケズリ内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、黒褐色 にぶい褐色、灰褐色	橙色、黒褐色 にぶい褐色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗，内面一部剥離
	2	H111 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部～胴上部1/5～口縁部1/2	20.0	14.8＋	(19.0)		口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄褐色 黒褐色	普通	
	3	H111 Po14+32	覆土 ＋32	土師器	甕	口縁部1/6	(17.6)	4.7＋			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。口縁外面厚くタール状カーボン付着。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色	浅黄色	わずかに不良	
	4	H111 Po17+		土師器	甕	底部4/5		1.2＋		6.6	突出気味の底部？	小礫2㎜以下と一部1㎝大含む	橙色、褐灰色	灰黄褐色	わずかに不良	
	5	H111 Po21+10	覆土 ＋10	土師器	小形鉢	1/3	(10.2)	(3.5)			手捏状の土器で内面ナデで外面篦ケズリ。	密	浅黄色、黄灰色	浅黄色、黄灰色、黒褐色	普通	
	6	H111 Po15		土師器	杯 杯蓋模倣	3/5	13.2	3.5			口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を多く含む	浅黄橙色	にぶい橙色、灰黄色	不良	内外面摩耗，内面一部剥離
	7	H111 Po9+12	覆土 ＋12	土師器	鉢	口縁部1/5	(16.6)	3.4＋			口縁外面ヨコナデ。底体部内外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	褐灰色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。雑な作り
	8	H111 Po4-5	床面直上	土師器	杯 漆塗り？	3/5 口唇部1/4	12.1	4.5			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。内面底部弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	浅黄色、黄灰色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗。漆塗り。
	9	H111 Po8+		土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部1/2	(13.4)	4.3			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。内面底部弱いミガキ。	密	黒褐色、褐灰色	黒褐色、赤橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	10	H111 Po10		土製品	土玉	ほぼ完形	径3.5～3.6cm・高さ2.9cm・孔径1.1cm 33.0ｇ									
	11	H111 ＋	覆土	石製品	砥石	一部	現存長5.6cm・幅2.1～3.1cm・厚さ1.8cm 41.5ｇ									
	12	H111 Po3	床面直上	石製品	不明	完存	大きさ7.4cm×5.7cm×5.4cm 139.1ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
122住	1	H112 Po25+22 Po12+24 +	覆土 +22	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部1/6	(23.5)	15.6+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半篦ナデ、中位斜位篦ケズリ	小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄褐色灰黄褐色	わずかに不良	外面摩耗多い
	2	H112 Po12+24	覆土 +24	土師器	甕	体下部一部体中位～口縁部1/4	(12.6)	13.7+	(13.9)		雑な整形。口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面篦ケズリ残すナデ。	密	にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色灰黄褐色，褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い，特に外面
	3	H112 Po25+22	覆土 +22	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(14.1)	6.0+			口縁端部短く折れる。口縁内外面ヨコナデ。頸部から胴外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色褐灰色	普通	
	4	H112 Po12+24	覆土 +24	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(14.4)	6.3+			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面篦ケズリ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、褐灰色	普通	
	5	H112 Po25+22	覆土 +22	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/4	(17.6)	4.8+			口縁内外面強いヨコナデで条線回る。胴外面篦ナデで頸部篦圧痕、内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	6	H112 Po6+26	覆土 +26	土師器	甕	胴上部～口縁部1/2	(13.8)	6.4+			口縁肉厚で内湾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。頸部内外面に輪積み残す。	小礫2㎜以下を含む	赤褐色、灰褐色、褐灰色	赤色、灰赤色赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	7	H112 Po25+22	覆土 +22	土師器	甕	体上部～口縁部1/5	(12.0)	6.8+			口縁肉厚で内湾。口縁内外面に輪積みを明瞭に残し、指頭圧痕明瞭。	小礫4㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色	普通	
	8	H112 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部		2.0+		6.5	突出気味の底部。内外面ケズリ。	密	灰黄褐色、にぶい橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	普通	
	9	H112 Po26+19	覆土 +19	土師器	甕	底部		1.7+		6.6	突出気味の底部。内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤黒色、赤褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面一部摩耗
	10	H112 Po16	ほぼ床面 +7	土師器	甑	4/5	23.6	25.3		7.7	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面篦ナデで部分ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を極少量含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、褐灰色	わずかに不良	内外面少し摩耗
	11	H112 Po12+24 +	覆土 +24	土師器	大鉢	胴上部～口縁部1/4	(21.8)	7.7+			やや肉厚。口縁内外面ヨコナデ。外面口縁直下刷毛目、下半横位の雑な篦ミガキ。内面刷毛目残すミガキ状篦ナデ。	小礫6㎜以下を含む	褐灰色、黒褐色、灰黄褐色橙色	灰黄色、黒褐色、灰赤色	わずかに不良	内面一部少し摩耗
	12	H112 LP貝ノ中	貝層中	土師器	甕	口縁部片	(20.4)	6.0+			口縁端部僅かに折れる。口頸部外面微隆帯回る。内外面ヨコナデ。	密	橙色、明赤褐色	にぶい橙色、黒褐色、灰黄色	やや不良	内外面剥離，摩耗。
	13	H112 Po3+12 LP貝ノ中	貝層中	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部1/3 底部中央欠損	(14.6)	4.2+			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を多く含む	暗赤色、暗赤灰色、赤黒色	暗赤色、極暗赤褐色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	14	H112 LP貝ノ中	貝層中	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/6 底部中央欠損	(16.0)	4.5			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	赤色、暗赤灰色、灰赤色	赤色、暗赤灰色	やや不良	外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	15	H112 Po2+19	覆土 +19	土師器	椀 赤彩土器	体下部～口縁部1/4	(13.4)	5.9+			口縁内外面ヨコナデ。底体部内外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、にぶい赤色、赤黒色	赤色、赤黒色	普通	内外面赤彩
	16	H112 Po3+12	覆土 +12	土師器	椀 赤彩土器	体部～口縁部1/4 底部中央欠損	(15.2)	6.0+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、極暗赤褐色、赤黒色	赤色、極暗赤褐色	普通	内外面赤彩
	17	H112 Po22	ほぼ床面 +8	須恵器	ハソウ	頸部2/3と口縁部欠損		9.7+	11.6		口頸部と胴部の沈線で区画された間に櫛歯状工具で波状紋描く。肩に降灰による自然釉被る。	密	褐灰色、浅黄色	灰色、暗灰色	良好	
	18	H112 Po3+12	覆土 +12	土師器	短頸壺 赤彩土器	体下部1/3～体上部～口縁部1/2	(10.8)	8.9+	(13.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	密	赤色、赤褐色赤黒色	赤色、赤褐色	良好	内外面赤彩
	19	H113 Po5-48		土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部 杯底部		7.1+		脚径(9.2)	脚柱やや長く雑な作り。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾広くヨコナデ。	密	赤色、にぶい橙色	赤色	普通	赤彩
	20	H113 Po5-48		土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部 杯底部		5.7+		脚径(9.5)	脚柱折れて裾部へ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	橙色、にぶい赤褐色、浅黄橙色	にぶい赤褐色、浅黄橙色	不良	内外面摩耗多い，脚外面一部剥離。赤彩
	21	H113 Po5-48		土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/3～柱状部4/5 杯底部		6.7+		脚径(9.4)	杯部内面篦ナデ。脚柱折れて裾へ。	密	赤色、橙色、にぶい黄橙色	赤色、橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。赤彩（脚内面まで赤彩が及ぶ）
	22	H112 Po12+24	覆土 +24	土製品	支脚	一部		9.1+			側面―円柱状 断面―円	密 小礫3㎜1ヶ所含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色		やや不良	
	23	H112 Po17+25	覆土 +25	ミニチュア土器	鉢形	口唇部一部欠損	4.7	2.8		4.7	外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい褐色、にぶい赤褐色褐灰色	赤色、灰褐色	やや良好	
	24	H112 Po25+22	覆土 +22	ミニチュア土器	鉢形	1/4	(2.7)	(3.4)		(4.4)	外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	外面わずかに摩耗
	25	H112 Po9+12	覆土 +12	土製品	土玉	完形	径4.1～4.2cm・高さ4.0cm・孔径0.7cm　62.5ｇ									
	26	H112 Po9+12	覆土 +12	土製品	土玉	ほぼ完形	径4.2cm・高さ4.1cm・孔径0.9cm　58.7ｇ									
	27	H112	覆土	石製品	不明	完存	長さ2.6cm・幅2.2cm・厚さ1.8cm　2.3ｇ									軽石
123住	1	H113 Po20-4	床面直上	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部1/3	(18.6)	13.4+	(20.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫5㎜以下を含む	橙色、褐灰色灰褐色、黒褐色	橙色、褐灰色灰褐色、浅黄色	少し良好	
	2	H113 Po1	床面直上	土師器	甕	体上部～口縁部1/4	(12.0)	7.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位ミガキ状篦ナデ、内面もミガキ状篦ナデで部分ナデ。内外面光沢も有る。	緻密	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄橙色褐灰色	普通	外面わずかに摩耗
	3	H113 張出	床面直上	土師器	鉢	胴中位～口縁部1/3	(13.6)	8.1+	(12.9)		口縁内外面丁寧なヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色明黄褐色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	4	H113 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5		3.0+		6.2	突出気味の底部。内外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を含む	黒褐色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色褐灰色	不良	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
123住	5	H113 Po1-41	床面直上	須恵器	蓋	3/5		4.7+		脚径13.5	扁平な摘み。外面天井部回転篦ケズリ。口縁部ロクロナデ。内面凹凸残すロクロナデ。天井部外面降灰による自然釉被る。	黒色粒1㎜以下を含む	浅黄色、灰色	灰色	普通	123住－5・6は胎土・色調とも酷似し同一窯焼成品と思われる。TK209～TK217？
	6	H113 Po17-6	床面直上	須恵器	杯身	1/2	(12.2)	3.8	稜部径14.2		口縁短く内傾。内面ロクロナデ、底体部回転篦ケズリ。	灰白色粒4㎜以下含む。一部に黒褐色粒含む	黄灰色、灰色灰白色	浅黄色、灰色	わずかに不良	やや摩耗
	7	H113 張出+ Po3-44	床面直上	土師器	杯 内黒土器	1/3 底部中央欠損	(13.6)	4.3			内面黒色で粗いミガキ。底体部外面雑なケズリ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内面黒色処理
	8	H113 Po5-48 Po6-54 Po2-29 張出+	ほぼ床面	土師器	杯	3/5強	(12.5)	3.0			内面ミガキ。　杯	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	黒褐色、にぶい褐色	不良	外面摩耗、内面剥離多い。
	9	H113 Po16	壁溝内	土師器	杯	3/5強	(12.3)	4.3			内面ミガキ。外面体部ミガキ、底部篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色にぶい橙色、褐灰色	にぶい褐色、にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	10	H113 Po2-29 Po5-48	床面直上	土師器	椀	1/2 口縁部1/4	(16.6)	8.1	(17.2)		口縁内外面ヨコナデ。内面底部篦ナデ。外面底体部篦ナデ。	密	暗赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	H113 +Po4	ほぼ床面+4	土師器	椀	体上部～口縁部1/4	(14.6)	4.8+	(15.8)		口縁内外面ヨコナデ。外面底体部篦ナデ。	密	黒褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	12	H113 Po5-48 Po14 Po2-29	床面直上	土師器	高杯	脚裾部3/4欠損 杯部1/5欠損	(12.6)	7.4		脚径(9.0)	杯内面ミガキ。体部外面篦ナデ。脚柱篦ナデ。脚裾ヨコナデ。	密	にぶい黄橙色褐灰色	橙色	やや不良	脚内面以外やや摩耗
	13	H113 LP	P5内	土師器	高杯	脚部3/5～杯部3/5強～口縁部1/3	(12.0)	7.4		脚径(8.4)	杯内面および体部外面ミガキ。脚柱篦ナデ。脚裾ヨコナデ。	密	にぶい橙色、黒褐色、浅黄橙色、灰黄褐色	明黄褐色、にぶい橙色	わずかに不良	わずかに摩耗
	14	H113 Po13	床面直上	土師器	高杯	脚裾部1/3～脚柱状部～杯部3/5～口縁部1/3	(11.7)	6.7		脚径(8.5)	杯内面および体部外面ミガキ。脚柱篦ナデ。脚裾ヨコナデ。	密	明黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	明黄褐色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	15	H113 +	覆土	手捏土器	鉢形	1/4 底部中央欠損	(7.4)	2.8		(7.0)	内外面指頭圧痕。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色褐灰色、浅黄色	にぶい黄橙色褐灰色、暗灰黄色	普通	
	16	H113 Po12	覆土+12	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.2～3.3cm・高さ3.1cm・孔径0.5cm　(33.6ｇ)									
124住	1	H114 Po7 +	ほぼ床面+5	土師器	甑	胴上部一部～口縁部1/6	(23.0)	11.7+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面縦線状ミガキ。	緻密	橙色、明黄褐色	橙色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗多く、内面一部剥離
	2	H114 Po9+1 +	床面直上	土師器	甕	胴上部1/6～口縁部一部	(17.0)	12.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	密	にぶい黄橙色灰黄褐色	にぶい黄橙色橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離
	3	H114 +	覆土	土師器	鉢形甕	体部～口縁部1/4	(11.8)	6.1+			口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	灰黄色	黒褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面やや剥離。内面黒色処理の可能性がある
	4	H114 Po9-1	床面直上	土師器	甕？	底部 胴最下部2/5		3.2+		7.8	肉薄。外面シャープなケズリ。内面丁寧なナデ。	小礫1㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、黒褐色、灰黄褐色	普通	内面剥離多い
	5	H114 Po2+19	覆土+19	土師器	甕	底部～胴最下部1/2		1.5+		(9.6)	外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	黒褐色、灰褐色	黒褐色、灰黄褐色	少し不良	外面摩耗、内面剥離多い
	6	H114 Po1+6	ほぼ床面+6	土師器	鉢	体部～胴最下部		4.5+		6.4	平底。内面丁寧な光沢の有る篦ミガキ。外面シャープな篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離多い。内面光沢のある摩耗
	7	H114 Po4	床面直上	土師器	鉢	底部～胴最下部		4.3+		6.0	内面篦ナデ。外面ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	浅黄橙色、黒褐色、黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄褐色	わずかに不良	外面やや摩耗、内面剥離多い
	8	H114 Po7+12	覆土+12	須恵器	杯身	底部3/5強～体最下部1/5		2.5+		6.8	内面ロクロナデ。外面回転篦ケズリ。	灰白色粒2㎜大以下を含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	良好	
	9	H114 +	覆土	土師器	杯	体上部～口縁部1/3	(9.6)	3.7+	(10.6)		口縁外面ヨコナデ。内面光沢の有る篦ミガキ、底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	10	H114 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	体上部1/4～口縁部一部	(15.2)	4.4+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫2㎜以下を少量含む	明赤褐色、にぶい橙色、黒褐色	明赤褐色、にぶい橙色、黒褐色	やや良好	内外面赤彩
	11	H114	覆土	土製品	支脚	基部わずかに欠く		22.8+	8.8		側面―円錐台 断面―円	不良	橙色、灰黄色		不良	
125住	1	H115 Po11+5	ほぼ床面+5	土師器	甕	底 部1/2～胴 最下部2/5		3.1+		(9.0)	突出気味の板状底部。内面丁寧な篦ナデ、外面シャープな篦ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗、剥離
	2	H115 Po8-1	床面直上	土師器	甕	底部3/5		1.8+		6.6	内面ナデ。外面篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	明赤褐色、暗赤灰色	浅黄色、黄灰色	やや不良	外面摩耗
	3	H115 Po9+	ほぼ床面+7	須恵器	ハソウ	体下部～体上部1/4～頸部1/2		7.7+	(8.6)		細頸。胴部2条の沈線間は櫛歯状工具による刺突文を施す。胴下端回転篦ケズリ。内面頸部に絞り痕、ロクロナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	灰色	灰色、灰白色	普通	
	4	H115 Po7-17 + +Po4	床面直上	土師器	杯	3/5 口唇部1/5	(12.2)	3.4			口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。外面ケズリ状篦ナデ。	密	浅黄色、にぶい黄色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、内外面一部剥離
	5	H115 Po10+15	覆土+15	土師器	杯 杯蓋模倣漆塗り	1/4	(12.6)	3.5			口縁外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ケズリ残すミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄色、黄灰色	浅黄橙色、黄灰色	やや不良	内外面剥離、外面一部摩耗
	6	H115 +	覆土	土師器	杯	1/2	(12.2)	3.1	稜部径(13.2)		内面ミガキ。底体部外面篦ナデ残すミガキ。	密	灰黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	7	H115 +	覆土	土師器	鉢	1/3	(21.5)	7.4			口縁外面直下に稜線。口縁外面ヨコナデ。内面弱いミガキ？底体部外面篦ナデ。	緻密	暗赤褐色、暗赤灰色	にぶい黄橙色灰褐色、黄褐色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	8	H115 床面	床面直上	土師器	高杯	脚部～杯部下位3/5 脚裾部1/5		8.7+		脚径(13.2)	杯内外面ミガキ。脚柱縦位ミガキ。裾段を有するヨコナデ。	密	にぶい黄橙色橙色	明黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗、剥離

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
125住	9	H115 Po16	覆土＋16	ミニチュア土器	壺形	口縁部欠損		3.7＋	5.4		外面凹凸残すミガキ状篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	灰黄褐色、褐灰色	わずかに不良	外面わずかに摩耗、剥離
126・127住	1	H118 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/5～口縁部4/5	(16.5)	9.5＋	(18.6)		口縁肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面摩耗不明。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 黒褐色、にぶい黄橙色	にぶい赤褐色 褐灰色、にぶい黄橙色	不良	内外面摩耗多い、内面剥離多い
	2	H119 Po19+	ほぼ床面＋6	土師器	甑？	胴上部～口縁部1/4	(16.8)	6.3＋			外面篦ナデ？内面斜位の粗いミガキ。	小礫１㎜以下を含む	灰褐色、にぶい橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗と剥離多い
	3	H119 Po5+	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(19.3)	8.1＋			外面口縁直下に浅い条線回る。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、橙色	黒褐色、灰黄褐色	普通	内面一部剥離
	4	H119 Po４＋15	覆土＋14	土師器	甕	1/4 底部～胴下部欠損	(16.8)	10.9＋	(14.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を多く、褐鉄鉱粒６㎜以下を極少量含む	暗赤灰色、赤黒色、にぶい黄橙色	赤黒色、にぶい黄橙色	不良	２次加熱受けている
	5	H119 Po11+	ほぼ床面	土師器	甕	胴中位～口縁部1/6	(16.2)	7.3＋			口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫３㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H119 Po14+11	覆土＋13	土師器	甕	底部4/5強～胴最下部4/5		5.2＋		8.1	外面雑な篦ケズリ、内面摩耗不明。	小礫１㎜大以下を多く含む	灰褐色、にぶい褐色、橙色	灰褐色	不良	内外面摩耗、内面剥離著しい
	7	H119 Po12+	ほぼ床面＋5	土師器	甕	底部～胴下部1/2		5.1＋		(5.1)	外面ケズリ状篦ナデ。内面丁寧なナデ。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	褐灰色、灰黄褐色	黒褐色	やや不良	内外面摩耗
	8	H119 Po10+	覆土＋10	土師器	甕	底部～胴最下部1/3 底部中央欠損		3.9		(7.4)	外面篦ケズリ、内面篦圧痕残す篦ケズリ。	小礫１㎜以下を含む	黒褐色、暗赤褐色	浅黄橙色	やや不良	外面摩耗
	9	H119 Po3+17	覆土＋18	土師器	甕	底部3/5強～胴下部1/4		8.1＋		8.0	外面篦ナデ状の篦ケズリ、内面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	浅黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	10	H119 Po4+15 Po3+17	覆土＋20	土師器	甑	胴上部～口縁部1/3	(31.7)	8.8＋			口縁内外面ヨコナデ。外面篦ナデ、内面粗い縦位ミガキ。	緻密	橙色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	橙色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	11	H119 Po23-20	126住床面	土師器	甑	胴上部～口縁部3/5	(27.8)	19.4＋	(25.0)		口縁小さく外反。口縁内外面ヨコナデ。外面縦位ケズリ状篦ナデに縦位条線状ミガキ、内面縦位条線状ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	にぶい黄橙色 浅黄色、褐灰色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	外面少し摩耗
	12	H118＋	覆土	須恵器	甕	口縁部片	(37.0)	8.0＋			口縁側面に面有す。口縁直下に断面三角形の鋭い隆帯回り、ボタン状円形浮文。櫛状工具による刺突文を斜状・羽状・格子状に施す。内面ナデ。	密	灰黄色	浅黄色	普通	
	13	H119＋	覆土	須恵器	甕	口縁部片	(42.0)	3.3＋			126・127住－12同一個体？	小礫１㎜大以下を極少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	126・127住－12同一個体？
	14	H118＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面深い同心円紋。	灰白色粒１㎜大以下を少量含む	灰白色	灰オリーブ色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	15	H118＋	覆土	須恵器	長頸壺	底部1/6～体最下部一部		3.9＋		(10.2)	高台四角く踏ん張る。外面回転篦ケズリ。底内面釉垂れる。	灰白色粒１㎜大以下を含む	暗赤褐色	暗赤褐色、オリーブ黒色	良好	降灰有り
	16	H119＋	覆土	須恵器	杯蓋 線刻土器	3/5 口縁部1/4	(10.4)	3.8＋			天井部外面雑な回転篦ケズリ。内外面ロクロナデ。天井部外面「×」焼成前記号。	密	灰色	灰色	普通	
	17	H119＋H118 カマド	カマド燃焼部	須恵器	杯身	1/2 底部中央欠損	(9.0)	2.9	稜部径(10.6)		口縁短く内傾。天井部外面小さく回転篦ケズリ。内外面ロクロナデ。	緻密	灰色	灰色	普通	
	18	H118＋	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体部～口縁部1/4 底部中央欠損	(13.0)	3.1	稜部径(13.6)		口縁内外面ヨコナデ。底体部内面薄くミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	黒褐色、灰黄褐色	浅黄色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	19	H118＋	覆土	土師器	杯	底部1/3～体部1/4～口縁部一部	(13.6)	4.9		(7.6)	外面ミガキ状篦ナデ、内面光沢有るミガキ。	褐鉄鉱粒６㎜以下を極少量含む	浅黄色、黄灰色	浅黄色、黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	20	H119 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢	3/5強	(15.2)	6.1＋			内面弱いミガキ。外面篦ナデで部分ミガキ。	小礫１㎜以下を極少量含む	橙色、浅黄橙色、赤色	明黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗、一部剥離
	21	H119 Po8+	ほぼ床面＋4	土師器	椀	体上部～上部1/4	(13.9)	5.0＋	(14.3)		内面雑なミガキ、外面雑な篦ナデ。	密	明黄褐色、にぶい黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	22	H119 Po14+11	覆土＋13	土師器	高杯	体上部～口縁部1/6	(26.0)	5.6			口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。外面篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い、内面一部剥離
	23	H119 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯	脚柱上部3/5～杯部一部	(14.4)	8.3＋			内面弱いミガキ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を多く含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	24	H119 Po16+	床面	土師器	高杯脚	脚部1/4		4.0＋		脚径(11.4)	内外面摩耗不明。	密	明黄褐色、褐灰色	明黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	25	H119 Po18	覆土＋21	土師器	支脚	先端部		8.4＋			側面一円柱状 断面一円	小礫１㎜大以下を含む	橙色、にぶい橙色、褐灰色		不良	
	26	H119 Po21-3	床面	土製品	支脚	上半		10.1＋	5.8		側面一円柱状 断面一円	小礫３㎜大以下を多く含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
	27	H119 カマド	カマド燃焼部	土師器	支脚	基部わずかに欠く		16.4＋	6.6		側面一四角錐台 断面一四角	小礫２㎜大以下を含む	にぶい橙色、にぶい褐色、褐灰色		不良	
	28	H119		石製品	磨石	完存	長さ2.5cm・幅3.0cm・厚さ1.5cm				3.5ｇ					軽石
128住	1	H117 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位1/5～胴上部3/5～口縁部1/5	(25.3)	(25.4)	(22.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫６㎜大以下を少量、褐鉄鉱粒４㎜以下を極少量含む	暗赤灰色、赤橙色	暗赤灰色、褐灰色	普通	外面やや摩耗
	2	H117 Po5+18＋	覆土＋18	土師器	甕	胴上部1/4 口縁部1/2	(20.0)	14.0＋	(19.7)		肉薄。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面そぎ取る篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫５㎜以下を少量含む	明褐色、にぶい褐色	明褐色、明赤褐色、黒褐色	やや不良	内外面剥離、内面摩耗。薄手
	3	H117 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/2～口縁部1/3	(13.4)	7.0＋			肉薄。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面そぎ取る篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫１㎜以下を含む	にぶい橙色、黒褐色、褐灰色	にぶい橙色、黒褐色、褐灰色	普通	内面一部剥離。薄手

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
128 住	4	H117 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢？	底部～胴最下部 1/3 底部中央欠損		2.4＋		(4.6)	外面篦ケズリ、内面丁寧な篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	黒褐色	黒褐色、褐灰色	普通	
	5	H117 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴下部 1/6 底部中央欠損		3.8＋		(5.4)	外面篦ケズリ、内面ミガキ状篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗多い
	6	H117 Po4+26	覆土 ＋26	土師器	台付甕	脚部と甕底部の接合部		3.5＋			体部外面篦ナデ。脚外面ナデ。	密	黒褐色	黒褐色	わずかに不良	甕内面剥離多い
	7	H117 Po1+11	覆土 ＋11	須恵器	甕	胴上部片					外面平行叩き目残すナデ。内面同心円文消し去るナデ。	密	灰色	灰色	普通	
	8	H117 カマド	カマド燃焼部	須恵器（市原産）	杯	底部～体最下部 1/4		2.1＋		(6.8)	火襷有す。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	小礫（白色粒）１㎜以下を少量含む	灰色	灰色	普通	
	9	H116 ＋	覆土	土師器	杯	底 部1/6～体 部～口縁部1/5 底部中央欠損	(12.4)	4.7		(8.1)	内外面摩耗。	密	橙色、黄橙色	橙色	不良	内外面摩耗著しい
	10	H117 Po13+17	ほぼ床面 ＋10	土師器	杯 内黒土器	体上部～口縁部片	(15.2)	3.8＋			内面内黒ミガキ。外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	黄灰色、暗灰黄色	黒色	普通	内面黒色処理
	11	H117 ＋ Po2+6	ほぼ床面 ＋6	鉄製品	刀子	茎一部	現存長4.0cm・幅0.8cm・棟厚0.4cm　3.9ｇ									
129 住	1	H116 Po3	壁溝内	須恵器	小鉢	わずかに一部欠損	8.2	5.0	9.1		内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	灰白色粒１㎜以下を極少量含む	浅黄色、灰色 オリーブ黒色	灰白色、灰色	普通	降灰有り
	2	H116 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面ナデ。	灰白色粒２㎜弱を極少量含む	灰黄色	灰白色、浅黄色	わずかに不良	
	3	H116 ＋	覆土	須恵器	甕？	胴部片					外面平行叩き目残すナデ。内面同心円文消し去るナデ。	密	灰色、灰オリーブ色	灰白色	わずかに不良	
	4	H116 Po4-20	床面直上	土師器	甕	底部1/3		1.9＋		(6.8)	外面篦ナデ。内面丁寧なナデ。	橙色粒１㎜以下を多く含む	灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	普通	
	5	H116 Po1	壁接する焼土中	土師器	杯	4/5 口縁部3/5	10.9	4.3	11.6		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面ミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜台以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	褐色	わずかに不良	木の葉痕有り。黒色処理の可能性がある
	6	H116 Po4-20	床面直上	土師器	杯	体部～口縁部 1/5	(14.4)	3.7＋			内面ミガキ。外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	浅黄色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	7	H116 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	両端欠損		11.7＋	7.1		側面―円錐台 断面―円	密	褐灰色、明褐色、にぶい褐色		不良	
	8	H116	覆土	土製品	支脚	先端部	5.4＋		4.3		側面―円柱状 断面―円	密	褐灰色、褐色 灰黄褐色		普通	
130 住	1	H120 カマド	カマド右袖	土師器	甑	胴下位3/5～胴中位～口縁部 3/5強	22.1	19.5	20.4		口縁歪む。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	密 褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	2	H120 Po5+	ほぼ床面 ＋3	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(16.2)	7.3＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	密	にぶい黄橙色 明黄褐色	にぶい黄橙色 橙色	普通	内面口縁部剥離。外面カマド粘土付着
	3	H120 Po2+	壁溝	土師器	杯 内黒土器	4/5 口縁部3/5強	12.4	3.6			内面やや雑なミガキ。外面丁寧な篦ナデ。内面漆塗り可能性。	小礫２㎜以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色	褐灰色、黒色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い、一部剥離。内面黒色処理
	4	H120 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	口縁部1/2欠損	12.8	3.2	稜部径 14.2		口縁外面ヨコナデ。内面ミガキ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	
	5	H120 Po2-1	壁溝	土師器	杯 杯身模倣	わずかに一部欠損 口唇部3/5	13.0	3.3	稜部径 14.4		口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。底体部外面シャープなケズリ状の篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色、灰褐色	わずかに不良	内外面剥離
	6	H120 カマド	カマド右袖	土師器	鉢	ほぼ完形 口唇部1/2	(13.7)	8.1	14.8		全体に雑な整形。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面輪積み残す篦ミガキ。内面篦ナデ残すミガキ。	密	浅黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内面やや剥離
	7	H120 Po6+	ほぼ床面 ＋3	土師器	鉢	4/5 口縁部3/5強	9.8	6.2	10.5	5.5	全体に雑な整形。口縁外面ヨコナデ。底体部外面凹凸残す篦ケズリ。内面篦ケズリ。	小礫２㎜以下を含む	黄灰色、にぶい黄色、黒褐色	にぶい黄橙色	普通	
	8	H120 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢	体中位～口縁部 1/4	(11.0)	6.7＋	(12.5)		口縁内外面ヨコナデ。体部外面篦ナデ残す篦ミガキ、内面ナデ。	緻密	灰黄褐色、にぶい黄橙色、明黄褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、明黄褐色	普通	
	9	H120 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	先端部欠損		17.8＋	5.9		側面―四角錐台 断面―四角	緻密	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色		やや不良	
131 住	1	H122 LP–	Ｐ7内	土師器	甕	胴下部～胴上部 1/3 口縁部一部	(23.4)	23.9＋	(24.0)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色、赤褐色	明黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H122 LP–	Ｐ7内	土師器	甕	胴上部～口縁部 4/5	19.2	9.6＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデにミガキ状ナデ。頸部内面篦ナデ、胴部ナデ。	小礫１㎜大以下と褐鉄鉱粒４㎜大以下を含む	橙色、暗赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい褐色、褐灰色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	3	H122 Po3	ほぼ床面	土師器	甕	底部～胴下半		9.4＋		6.4	外面篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい赤褐色 灰褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、明赤褐色	やや良好	接合部きれいに剥離
	4	H122 Po2	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部4/5～杯部 3/5	(14.2)	(10.1)		脚径 (10.0)	杯部内面ナデ、外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫１㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	赤彩
	5	H122 Po5	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部～杯部3/5	13.1	8.8		脚径 (9.8)	短脚気味。杯部内面ナデ、外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	にぶい橙色、暗赤褐色、橙色	橙色、赤灰色	不良	内外面摩耗多く、剥離もある。赤彩
	6	H122 Po4	壁溝	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部4/5 口唇部2/5	(14.6)	4.7			杯部内面ナデ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を含む	赤色、赤黒色 暗赤褐色	赤色、赤黒色 灰赤色	不良	内外面摩耗、剥離多い。赤彩
	7	H122 Po1	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部 口唇部1/2	(14.0)	4.2＋			杯部内面ナデ、外面篦ナデとケズリ状篦ナデ。	密	赤色、赤黒色	赤色、にぶい橙色、灰赤色	普通	赤彩
	8	H122	覆土	石製品	砥石	一部	現存長4.5cm・幅3.1～3.7cm・厚み2.6cm　53.5ｇ									
	9	H122	覆土	石製品	砥石	完存	長さ9.9cm・幅2.8～4.4cm・厚さ2.0～3.0cm　139.5ｇ									
132	1	H121 カマド	カマド燃焼部	須恵器	甕	胴上部片					外面平行叩き目。内面ケズリとナデ。	小礫２㎜大以下を少量含む	灰黄色、褐灰色	灰黄色、浅黄色		内面僅かに摩耗。転用硯の可能性あり

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
132住	2	H121 黒土層 Po4	壁接する ＋31	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面ケズリとナデ。	小礫１㎜以下を含む	黄灰色	黄灰色、浅黄色	普通	
	3	H121 カマド 黒土層	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部 胴上部～口縁部 1/4	(19.8)	13.2＋	(17.4)		口縁端部外方摘み出し、口唇凹状となる。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄褐色 黒褐色、明黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、黒褐色	普通	
	4	H121 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	1/3	(24.6)	21.2＋	(21.9)		口縁端部上方摘み出す。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い、内面剥離
	5	H121 Po5	ほぼ床面 ＋4	須恵器	高台付杯	底部3/5 体部～口縁部一部	(16.2)	6.7		(9.8)	箱形。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ残る。高台内面面取り、やや開く。	密	黄灰色、灰白色	黄灰色、灰白色、灰黄色	やや不良	
	6	H121 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	一部 底部中央欠損	(12.5)	(3.2)		(7.7)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	橙色、褐灰色	橙色、褐灰色	やや不良	
	7	H121 黒土層	覆土	土師器	杯	一部 底部中央欠損	(13.0)	3.4		(9.0)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を多く含む	橙色、灰黄褐色	橙色	やや不良	
	8	H121 カマド	カマド燃焼部	石製品	砥石	大きく欠損	現存長6.4cm・幅3.7cm・厚さ2.1～2.9cm　124.1ｇ									
	9	H121	覆土	石製品	紡錘車	完存	径4.15～4.17cm・厚さ1.49cm・孔径0.71cm　36.4ｇ									
	10	H121 Po2+18	覆土 ＋18	鉄製品	手鎌	1/2	現存長4.9cm・幅1.9cm・厚さ0.2cm　5.5ｇ									
133住	1	H126 カマドPo1 ＋	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴下部 1/4		6.3＋		(7.7)	外面斜位篦ケズリ。内面ナデ。	密	灰褐色、橙色 明褐色	灰褐色、浅黄橙色	普通	内面一部剥離
	2	H125 ＋	覆土	須恵器	杯 新治産	一部	(14.0)	3.2		(8.3)	内外面ロクロナデ。体部外面手持ち篦ケズリ。底部静止篦切り？	長石４㎜以下を極少、銀雲母1/2㎜以下を多く含む	灰色	灰色	やや不良	内外面やや摩耗 新治産
	3	H126 Po3-9	ほぼ床面 ＋5	ロクロ土師器	杯	3/5強 口縁部1/2	13.0	3.5		8.1	内外面ロクロナデ。体部下端と底部回転篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	赤色，赤黒色 灰褐色	赤色，赤黒色 灰褐色	やや良好	
	4	H126 カマド Po2	カマド燃焼部	土師器	杯	1/3	(12.4)	3.4		(8.7)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	密	灰黄褐色、褐灰色、にぶい黄橙色	橙色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H126 Po4-15	床面直上	土師器	杯	3/5	(12.4)	3.6		8.2	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	明黄褐色、浅黄橙色	明黄褐色、浅黄橙色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗
134住	1	H125 カマド Po1	カマド燃焼部	土師器	甕	底部～胴下部 3/4～口縁部2/5	(20.4)	30.3	(19.4)	6.0	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	密	淡黄色、浅黄色、黒褐色、にぶい褐色	浅黄橙色、灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗
	2	H125 Po5-1 Po6+ ＋	床面直上	土師器	甕	胴中位1/4～上位～口縁部1/2	15.2	19.1	(19.1)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫２㎜以下少量、褐鉄鉱粒３㎜大以下含む	赤褐色、にぶい黄褐色、黒褐色	にぶい黄褐色 黒褐色	少し良好	
	3	H125 Po1-1	床面直上	土師器	短頸壺	1/2 口縁部1/3	(11.3)	(9.9)	(14.3)	(7.2)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒７㎜以下を少量含む	浅黄色、黒褐色	黒褐色、灰黄色、にぶい黄色	やや不良	
	4	H125 ＋	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣	体部1/4～口縁部一部	(15.4)	4.6			口縁内外面および内面ヨコナデ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	黒褐色、褐灰色、黄灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H125 P−	Ｐ5内	土師器	杯 杯蓋模倣	体中～上部1/4～口縁部1/6 底部中央欠損	(15.2)	3.0			内外面光沢の有るミガキを施す。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや良好	
	6	H125 Po2-1	床面直上	土師器	杯 杯身模倣	3/5 口縁部1/3	(13.4)	4.2	稜部径 (14.3)		口縁内外面ヨコナデ、底体部外面ケズリ状篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	淡黄色、灰黄色、黄灰色、黒褐色	浅黄橙色、灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	7	H125 P−	Ｐ5内	土師器	杯	3/5強 口縁部3/5	(10.4)	3.0		4.6	口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面凹凸残す。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	浅黄色、黄灰色	浅黄色	やや不良	内外面摩耗
135・136住	1	H124 Po3+	床面直上	土師器	甕	胴下部～中位 1/4～口縁部4/5	19.2	27.9＋	19.1		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫５㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色、褐灰色	普通	
	2	H124 Po8+	ほぼ床面 ＋4	土師器	甕	底部～胴下部 1/4		5.0＋		(5.0)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を多く含む	灰黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内面剥離多い
	3	H124 Po15+22 Po16+	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	胴上部1/6～口縁部1/3	(17.6)	7.2＋			口縁肉厚でシャープなヨコナデ。外面ヨコナデとケズリ境に稜。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面摩耗
	4	H124B	覆土	土師器	甕	胴最上部～口縁部4/5	16.0	6.4			口唇「コ」字状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ナデ？、内面篦ナデ。	緻密 褐鉄鉱粒７㎜大一部に含む	にぶい橙色、橙色 黒褐色	にぶい橙色、橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	5	H124 Po5+ ＋	床面直上	土師器	甕	底部		3.7＋		12.0	出尻気味内外面篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	浅黄橙色、褐灰色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H124 Po12+	ほぼ床面 ＋4	土師器	甕	底部～胴最下部 1/3		3.2＋		(5.2)	外面ケズリ状篦ナデ。内面ナデ。	小礫３㎜以下を含む	灰赤色，赤灰色、赤黒色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや良好	
	7	H124 Po10+	焼土中 ほぼ床面 ＋3	土師器	甕	底部 胴最下部1/2		4.1＋		6.3	底肉厚。外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜以下を多く含む	褐色、明褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	8	H124 カマド Po1	ほぼ床面 ＋5	土師器	杯	3/5強 口縁部2/5	(10.5)	3.4			内面ミガキ。外面ミガキ状篦ナデ。底部木の葉。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	9	H124 Po11+	床面直上	土師器	鉢	1/3	(12.2)	5.3		5.4	内面粗いミガキ。外面ケズリ状篦ナデで部分ミガキ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	10	H124 Po8+	ほぼ床面 ＋5	ロクロ土師器	杯	底部～体下部 1/3		1.6＋		(7.0)	内外面ロクロナデ。体部下端手持ち篦ケズリ、底部回転糸切り。	緻密	浅黄橙色	浅黄橙色、黄橙色、橙色	やや不良	内外面やや摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
135・136住	11	H124 Po14+	床面直上	土師器	高杯	脚部3/5強 脚裾部2/5 杯底部		8.6+		脚径(12.8)	摩耗不鮮明。	小礫1㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	浅黄橙色	やや不良	脚内面以外摩耗多い
	12	H124 Po7+11	ほぼ床面+5	土師器	高杯 内黒土器	脚部4/5 杯底部		7.9+		脚径11.4	内面内黒ミガキ。脚柱篦ケズリ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	浅黄色、暗灰黄色	黒色	良好	杯部内面黒色処理
	13	H124 +	覆土	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.5～3.6cm・高さ3.3cm・孔径0.5cm (38.1ｇ)									
137住	1	H137A+ H137 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴最上部1/3～口縁部一部	(21.6)	6.2+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面凹凸残す篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下、小礫1㎜以下を少量含む	浅黄橙色、黒褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗、内面の一部剥離
	2	H137 カマド	カマド燃焼部	須恵質	平瓦						凹面布目。凸縄叩き					
	3	H137B Po2	ほぼ床面+4	須恵質	平瓦						凹面布目。凸縄叩き					
138住	1	H137 カマド カマド Po2	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位1/4～胴上部1/3～口縁部1/3	(18.6)	18.0	(17.4)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、黒褐色	橙色、黒褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗。薄手
	2	H137 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部4/5～胴下部3/5		10.1+		(7.6)	外面篦ナデ状の篦ケズリ。内面篦ナデ。	密	橙色、にぶい赤色、暗赤灰色	橙色、灰赤色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	3	H137A	覆土	土師器	甕	口縁部1/2	(16.0)	5.2+			口縁端部僅かに上方摘み上げ、内外面ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、橙色	にぶい橙色、橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	H137A Po3	ほぼ床面+5	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部片	(13.6)	3.5+	稜部径(14.8)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄色，黄灰色	浅黄色，黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	H137A +	覆土	土師器	杯	体部～口縁部片 底部欠損	13.7	3.4+			摩耗不鮮明。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	浅黄橙色、黒褐色、黄灰色	浅黄橙色、黄灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	H137A +	覆土	土師器	杯 内黒土器	体部～口縁部片 底部欠損	(12.8)	3.3+			口縁内外面および内面ヨコナデ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を多く含む	橙色、灰黄色 黄灰色	橙色	不良	内外面摩耗多い、内面剥離。内面黒色処理
	7	H137A +	覆土	土製品	支脚	両端欠損		6.4+	4.2		側面一円柱状 断面一円	小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色		普通	
	8	H137A +	覆土	土製品	土玉	1/4	径3.6cm・現存高1.8cm・孔径0.9cm (14.5ｇ)									
	9	H137 カマド	カマド燃焼部	石製品	ナイフ形石器	基部欠損	現存長3.34cm・幅1.77cm・厚さ0.52cm 3.7ｇ									
139住	1	H123A Po4	床面直上	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部1/2	(22.8)	12.1+	(21.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量、金雲母0.5㎜以下を含む	橙色、黒褐色 灰白色、にぶい褐色	にぶい橙色、灰褐色	やや不良	内面の口縁部の一部と外面摩耗
	2	H123A Po2	床面直上	須恵器	甕片転用硯	胴部片					外面平行叩き目。内面二次的摩耗。	小礫2㎜以下を極少量含む	灰白色	灰白色、灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。一辺研磨
	3	H123A Po7-4 黒土層	ほぼ床面+4	土師器	杯	1/3	(14.2)	4.9			口縁内外面および内面ヨコナデ、体部および底部外面篦ケズリ。	微砂粒含む	褐色	褐色	普通	内面摩耗
	4	H123A Po6+15	覆土 +15	土師器	杯	底部1/2 体部～口縁部1/4	(13.1)	4.4		(8.1)	口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	橙色、明赤褐色、灰赤色	不良	内外面摩耗多い
	5	H123A Po5+7 黒土層	ほぼ床面+5	土師器	杯	底 部1/2～体部～口縁部1/4	(11.6)	3.4		(7.5)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密 一部に褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	浅黄橙色、橙色、にぶい赤褐色	浅黄橙色、にぶい橙色、橙色	不良	内外面摩耗多い
	6	H123A ？黒土層	覆土	土師器	杯	底部～体部 1/3～口縁部1/5 底部中央欠損	(12.3)	4.1		(7.8)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	密	橙色	橙色、黄橙色	不良	内外面摩耗多い
	7	H123A	覆土	土製品	支脚	一部		5.4+			側面一円柱状？ 断面一円？	小礫1㎜以下を含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
	8	H123A	覆土	土師質	平瓦						凹面布目。凸縄叩き。					
	9	H123	覆土	鉄製品	紡錘車	ほぼ完存	全長33.3cm・輪径4.8cm×4.8cm・輪厚0.4cm・軸径0.65cm×0.7cm 50.3ｇ									
140住	1	H123B Po10 Po1+14	覆土 +14	土師器	甕	胴下部1/6～胴上部1/3～口縁部一部	(15.7)	13.4+	(18.1)		口縁内外面やや雑なヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。頸部外面篦圧痕残す。	緻密	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	外面全体と内面一部が摩耗
	2	H123B	覆土	土師器	甕	体上部～口縁部片	(11.8)	11.9+	(13.5)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密 褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	暗灰黄色、にぶい黄橙色、赤褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	3	H123B Po9	ほぼ床面+5	土師器	甕	胴上部～口縁部1/5	(22.4)	8.1+			口縁から胴外面ケズリ状の篦ミガキ。内面口縁から胴部刷毛目残すミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、にぶい橙色	普通	
	4	H123C	覆土	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部わずかに一部欠損	17.4	11.3+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリに線状ミガキ、内面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい橙色、橙色、暗赤灰色、赤黒色	にぶい橙色、橙色、赤黒色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	5	H123C	覆土	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部4/5	(22.1)	14.3+	(23.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面ケズリ状篦ナデ。	密	褐灰色、橙色 暗赤灰色	浅黄橙色	やや不良	外面少し摩耗と剥離、内面わずかに剥離
	6	H123C	床面直上	土師器	甕	接合完形	17.0	28.6	28.4	8.8	口唇玉状。口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴外面斜位篦ミガキ、内面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜以下、褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色、褐灰色	にぶい褐色、灰褐色、黒褐色	普通	内面剥離多い
	7	H123B Po9	ほぼ床面	土師器	甕	底部4/5～胴最下部3/5強		3.8+		5.0	外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	橙色、褐灰色	黒褐色、にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	8	H123C	覆土	土師器	甕	底部3/5 中央部欠損		3.2+		(6.3)	内外面篦ナデ。	密	橙色、赤灰色	黒褐色	不良	外面摩耗多い。
	9	H123B Po4+35	覆土 +35	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目にカキ目。内面圧痕消すナデ	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色、浅黄色	灰色	普通	
	10	H123A	覆土	須恵器	蓋	1/5	(12.0)	4.5			内外面ロクロナデ。天井部外面2分の1回転篦ケズリ。	密	灰白色	灰白色	密	
	11	H123A	覆土	須恵器	身	1/5	(10.2)	3.6+	稜部径(12.2)		口縁短く内傾く。稜丸く鈍い。内外面ロクロナデ。	密	灰白色	灰色	普通	
	12	H123B +	覆土	土師器	杯 内黒土器	体上部～口縁部片	(12.3)	2.9+			内面内黒ミガキ。口縁外面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	黒色、灰黄褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内面黒色処理

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
140住	13	H123B Po11+14	カマド左袖	土製品	支脚	先端部		6.7＋			側面―円柱状 断面―円	小礫１㎜以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色		不良	
	14	H123B	覆土	石製品	不明	完存	長さ2.5cm・幅1.6cm・厚さ1.4cm　1.9ｇ									軽石
141・142住	1	H128 ＋	覆土	土師器	甕	底部4/5強～胴最下部1/2		2.4＋		7.5	円盤状底部。海綿ケズリ状篦ナデ。内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒３㎜以下を多く含む	にぶい赤褐色 褐灰色、にぶい褐色	灰黄色、黄灰色	やや不良	内外面摩耗、剥離多い
	2	H128 ＋	覆土	土師器	杯 有段口縁杯	口縁部1/6	(14.0)	2.9＋			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	緻密	暗褐色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	一部に剥離。箱形
	3	H128 床	床面直上	土師器	鉢	体中位～口縁部1/4	(13.2)	4.3			口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	密	褐灰色、黒褐色、黄褐色	浅黄色、灰黄色	やや不良	
	4	H128 ＋	覆土	土師質	瓦											
	5	H128 ＋	覆土	土師質	瓦											
	6	H128 ＋	覆土	土師質	瓦											
143住	1	B H86	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴部4/5強～口縁部3/5	15.5	28.2	21.2	7.3	口縁内外面ヨコナデ。胴上半篦ナデ、中位から下半篦ケズリ。内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色、明黄褐色	にぶい黄橙色 にぶい褐色	やや良好	
	2	B H86 Po5	床面直上	土師器	甕	胴中位～上部4/5～口縁部1/4	(19.2)	21.8＋	23.4		口縁内外面ヨコナデ。胴上半篦ナデ、中位から下半篦ケズリ。内面ナデ。	小礫２㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 橙色	普通	
	3	B H86 Po7	床面直上	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部4/5強	(15.4)	11.7＋			肉薄。口縁端部僅かに上方摘み上げ気味。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒７㎜以下を少量含む	黄灰色、浅黄色	黄灰色、浅黄色、黒褐色	やや不良	外面摩耗多い、内面一部剥離
	4	B H86 ＋ Po7	床面直上	土師器	甕	胴最上部1/4～口縁部3/5	(18.1)	8.1＋			口縁端部上方摘み出す。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色	浅黄色、にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
	5	B H86 Po3 Po7 カマド＋	ほぼ床面＋3	土師器	甕	下半部分		13.4＋		5.9	胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含み、褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	黒褐色、灰褐色、にぶい褐色、橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	6	B H86 Po16	床面直上	土師器	甕	下半		6.9＋		7.6	胴外面ケズリ状篦ナデで部分ミガキ、内面ナデ。上端部きれいに剥離。	小礫２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	明赤褐色、灰黄褐色	やや良好	
	7	B H86 ＋	覆土	土師器	甕	底 部4/5～胴 下部3/5		7.8＋		6.5	胴外面篦ケズリ、内面ナデ。上端部きれいに剥離。	褐鉄鉱粒２㎜大以下、小礫１㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色	橙色	普通	内外面わずかに剥離
	8	B H86 Po15	床面直上	土師器	甕	底部～胴下部		8.4＋		6.4	胴外面ケズリ状篦ナデで部分ミガキ、内面ナデ。上端部きれいに剥離。	小礫４㎜以下を含む	橙色、灰黄褐色	灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	内外面やや剥離
	9	B H86 Po4	床面直上	土師器	甑	下端孔部3/5強～胴部4/5～口縁部1/5	(18.6)	16.2	17.3	6.3	口縁内外面ヨコナデ。胴内面上半ナデ、下半篦ケズリ、外面縦位篦ケズリ。	小　礫５㎜以下、褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色	黒褐色、明黄褐色、赤色	やや良好	外面少し摩耗、内面一部剥離
	10	B H87 Po14-2	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5強 口縁部2/5	(14.9)	5.1＋			口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒４㎜大以下を含む	灰褐色、にぶい赤褐色	赤色、灰赤色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗、内面剥離多い。赤彩
	11	B H86 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2～杯部1/3	(15.2)	10.2		脚径 (8.5)	杯部内面ナデ、外面ケズリ状篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	明赤褐色、赤褐色、赤灰色 暗赤灰色、浅黄橙色	浅黄橙色、褐灰色、にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗、杯内面剥離有り。赤彩
	12	B H86 Po8	床面直上	土師器	椀 赤彩土器	体中位～上部1/3～口縁部一部	(13.4)	6.0＋	(14.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴内面篦圧痕残す篦ナデ、外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色、赤黒色	赤色、暗赤灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	13	B H86 Po9	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損		12.9＋	5.8		側面―円錐台 断面―円	密	にぶい黄橙色		やや不良	
	14	B H86 Po18	床面直上	石製品	磨石	完存	長さ11.0cm・幅7.1cm・厚さ5.7cm　581.7ｇ									
144住	1	B H89 Po16	ほぼ床面＋7	土師器	甕	胴上位部1/4～口縁部2/5	(16.8)	8.7＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、にぶい橙色	普通	
	2	B H89 Po11+13	覆土 ＋13	土師器	大形模倣杯	体 部1/4～口 縁部1/6	(19.0)	4.7＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ミガキ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	普通	
	3	B H89 ＋ Po21	ほぼ床面＋5	土師器	杯	1/3 底部中央欠損	(13.4)	3.3			口縁端部外反。口縁内外面シャープなヨコナデ。内面ナデ。外面篦ケズリ。	密	橙色、にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	
	4	B H89 ＋	覆土	土師器	杯	1/3	(13.8)	3.6			口縁端部外反。口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	やや良好	
	5	B H89 Po10	ほぼ床面＋8	土師器	杯	体部～口縁部1/4	13.3	3.5			口縁端部外反。口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色 黒褐色	にぶい橙色、黒褐色	少し良好	
	6	B H89 ＋	覆土	土師器	杯	底部 体 部1/3～口 縁部1/4	(16.0)	3.2			内外面やや雑なミガキ。	褐鉄鉱粒４㎜以下を極少量含む	にぶい赤橙色 橙色、黒褐色	にぶい赤橙色 橙色、黒褐色	普通	
	7	B H89 Po19	ほぼ床面＋7	土師器	杯 内黒土器	1/3 底部中央欠損	(15.6)	3.8			内面内黒ミガキ。口縁外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒１㎜以下を含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、褐灰色、黒褐色	普通	内面黒色処理
	8	B H89 Po4	ほぼ床面＋8	土師器	杯	体部～口縁部1/6	(16.6)	3.5＋			内面ミガキ。口縁外面ヨコナデ。底体部外面やや粗いミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐色、灰黄褐色	橙色、黒褐色	わずかに不良	内面わずかに摩耗
	9	B H89 Po3+17	覆土 ＋17	土師器	杯	1/4 底部中央欠損	(13.1)	4.5			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫１㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	10	B H89 Po5+21	覆土 ＋21	土師器	杯	体 部3/5～口 縁部2/5	(13.4)	3.9			内面ミガキ。外面やや粗いミガキ。	密	にぶい黄橙色 にぶい赤褐色	暗赤褐色	良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
144住	11	B H89+Po12	ほぼ床面+3	土師器	杯 内黒土器	3/5	12.4	3.7			内面内黒でやや粗いミガキ。口縁部外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ残るミガキ。	密	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内面黒色処理
	12	B H89 Po17	ほぼ床面+9	土師器	杯	体部1/3～口縁部1/4	(13.6)	4.4			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下、褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい褐色、褐灰色	わずかに不良	内面の体部摩耗多い
	13	B H89 Po20	床面直上	土師器	杯 漆塗り	1/3	(14.8)	3.3			全面やや粗いミガキ。	小礫2㎜大以下を含む	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色、灰黄褐色	普通	全面漆塗り
	14	B H89 Po15+11	覆土+11	土師器	杯 漆塗り	1/2	15.0	3.8			口縁外面および内面丁寧なミガキ。底体部外面やや粗いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄褐色	灰黄褐色、黒褐色	普通	全面漆塗り
	15	B H89 +	覆土	土師器	杯	体部1/2	(14.4)	3.6			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色	褐色、灰黄褐色	普通	
	16	B H89 +	覆土	土師器	杯	体部2/5～口縁部1/4	(14.2)	3.6			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	密	にぶい黄橙色 橙色	にぶい橙色、橙色	やや不良	
	17	B H89 Po18	ほぼ床面+8	土師器	皿状杯 漆塗り	3/5強	13.7	3.3			内面口縁ヨコナデ残すミガキ。底体部外面篦ケズリ残すミガキ	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色 黒褐色	黄褐色、にぶい黄橙色、黒褐色	わずかに不良	内外面少し摩耗。内面漆塗り
	18	B H89 + Po1	ほぼ床面+6	土師器	杯 杯身模倣	1/2 底部中央欠損	(11.8)	4.4	(13.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗著しい
	19	B H89 Po13	ほぼ床面+7	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り	体部1/3～口縁部1/6	(13.9)	4.6	(15.1)		口縁外面および内面やや粗いミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色	灰褐色	わずかに不良	内面および口縁外面漆塗り。
	20	B H89 Po2	ほぼ床面+5	土師器	椀	体部3/5～口縁部1/4	(13.0)	9.0	(14.2)		口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫3㎜弱以下を含み、褐鉄鉱粒7㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色、褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、にぶい褐色、褐灰色、黒褐色	普通	
	21	B H89 Po9	ほぼ床面+8	土師器	椀	底部1/2～体部1/3		9.0+	(13.0)	(5.8)	口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリで部分ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、褐灰色	浅黄橙色	普通	内面少し剥離。2次加熱されていない
	22	B H89 Po11	覆土+13	土師器	鉢	3/5	23.4	9.1		8.7	口縁外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒、小礫1㎜大以下を含む	浅黄橙色、褐灰色、赤橙色	にぶい橙色、褐灰色、赤橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	23	B H89 カマド Po4	カマド燃焼部	土師器	鉢	底部 体部1/4～口縁部1/3	(9.0)	5.6	(10.9)		口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部外面ミガキ。	小礫1㎜以下と褐鉄鉱粒2㎜弱以下を極少量含む	淡黄色、灰黄色、にぶい橙色	淡黄色、灰黄色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗多い
	24	B H89 +	覆土	土製品	支脚	一部		4.9+			側面一円柱状 断面一円	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色		やや不良	
145住	1	B H88 Po1 B H87+B H89Po11+13	床面直上	土師器	甑	胴下部1/3～胴上部～口縁部1/2	(28.0)	26.1		(8.6)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ消す縦位線状ミガキ。内面縦位の線状ミガキ。	密	灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	にぶい黄橙色 明黄褐色、黒褐色	普通	外面やや摩耗 胴部に断面三角形の3条の深い研磨された条線を有す。
	2	B H88 +	覆土	土師器	甑	下端部1/3～胴部1/4～口縁部一部	(21.6)	19.8	(19.7)	(8.0)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰黄色、にぶい黄色	灰黄色、にぶい黄色、にぶい黄橙色、黒褐色	わずかに不良	外面わずかに摩耗、内面わずかに剥離
	3	B H88 +	覆土	土師器	甑	下部1/6 胴上部一部～口縁部1/4 胴中位欠損	(21.7)	(23.5)	(20.0)	(7.4)	口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面上半丁寧なナデ、下半粗いミガキ。	密 褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄色	黄灰色、灰黄色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	B H88 Po10	カマド左袖	土師器	甕	底部2/5～胴下部1/5		6.3+		(6.6)	外面篦ケズリ。内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	黒褐色、暗褐色、橙色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い、特に内面著しい
	5	B H88 Po6	覆土+10	須恵器	甕	口縁部片	(27.6)	4.7+			口縁端部上下に摘み出し、口縁側面に面を有す。内外面ロクロナデ。	密	灰色	灰色	普通	
	6	B H88 +	覆土	土師器	杯	1/6 底部中央欠損	(15.4)	4.2			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ミガキ、外面粗いミガキ	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	橙色、浅黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗
	7	B H88 +	覆土	土師器	杯	1/4	(14.2)	4.3			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内面やや摩耗
	8	B H88 Po9	壁溝	土師器	鉢	1/3 口唇部一部	(14.7)	6.5		5.2	口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ナデで部分ミガキ。	密	淡黄色、黒褐色	浅黄橙色、褐灰色	わずかに不良	内面やや摩耗
146住	1	B H87 Po7	床面直上	土師器	甕	胴上部一部～口縁部1/4	(16.6)	8.2+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	黒褐色、灰黄褐色	灰黄褐色	少し良好	
	2	B H87 Po9	ほぼ床面+5	土師器	甕	底部 胴最下部1/5		5.2+		11.4	盤状底部。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色	浅黄橙色、浅黄色	やや不良	内外面摩耗
	3	B H87 +	覆土	須恵器	杯身	1/4	(9.0)	3.0+	稜部径(11.0)		受部稜丸い。内外面ロクロナデで底部2分の1回転篦ケズリ。	密	暗灰色	暗灰色	良好	
	4	B H87 Po17+21	カマド上面	土師器	杯 漆塗り	1/3	(11.6)	3.2			口縁内外面および内面丁寧な光沢の有るミガキ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、灰黄褐色	にぶい褐色	やや不良	口縁内外面および内面漆塗り？
	5	B H87 Po15-2	ほぼ床面+4	土師器	杯	1/3 底部欠損	(12.4)	3.8+			内面ミガキ、外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い、内面剥離
	6	B H87 Po8+11	ほぼ床面+8	土師器	小形杯	底部 体部3/5～口縁部1/4	(9.6)	2.2		5.5	口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下、小礫1㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	黒褐色、灰黄褐色	普通	内面やや摩耗
	7	B H87 Po12-1	床面直上	土師器	高杯	脚裾部2/5～柱状部4/5～杯部3/5	(14.3)	9.7		脚径12.4	杯部内外面粗いミガキ。脚柱篦ナデ、裾篦ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	橙色、明赤褐色、にぶい橙色	橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
146住	8	B H87 Po10	ほぼ床面+3	土師器	高杯	脚裾部一部～柱状部3/5強 杯部 口縁部1/3	(9.8)	7.6		脚径(8.3)	口縁内外面および内面ミガキ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄橙色	浅黄色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	杯内面一部剥離
	9	B H87 Po5	ほぼ床面+4	土師器	椀	1/4 底部～体下部欠損	(12.2)	7.4+	(12.9)		口縁内外面および内面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	密	にぶい黄橙色 黄褐色	にぶい黄橙色	普通	
	10	B H87 Po3	ほぼ床面+5	土製品	支脚	一部		7.2+			側面—円柱状 断面—円	小礫1㎜大以下を含む	浅黄色、明黄褐色		不良	
	11	B H87 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部欠損	18.3+		6.0		側面—円柱状 断面—円	小礫6㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色、橙色		やや不良	
147住	1	B H85 Po12	ほぼ床面+3	土師器	甕	胴中位1/5～胴上部～口縁部3/5強	(20.7)	21.8+	(21.4)		口縁外面ヨコナデで外面輪積み残す。胴外面縦位篦ケズリ、内面上半ナデ、中位篦ケズリ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗多い
	2	B H85 Po1	壁溝	土師器	甕	胴中位～口縁部1/4	(16.0)	18.1+	(19.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、中位横位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	橙色、にぶい褐色、褐灰色	橙色、にぶい褐色	やや不良	内面一部に剥離
	3	B H85 Po10	P1内	土師器	甕	胴最上部1/4～口縁部1/6	(21.4)	9.6+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	密	褐灰色、黒褐色、橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	4	B H85 +	覆土	土師器	甕	底部3/5強～胴下部2/5		13.0+		(5.0)	胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 黄褐色	わずかに不良	外面わずかに摩耗、内面剥離
	5	B H85 LP	P6内	土師器	甕	底部4/5強～胴下部3/5強		13.7+		(5.2)	胴外面篦ケズリ残すミガキ状篦ナデ。内面下半篦ナデ、中位ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下と小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、褐灰色	橙色、黒褐色 褐灰色	普通	内面やや摩耗
	6	B H85 Po5	P3内	土師器	杯 杯蓋模倣	底部～体部1/3～口縁部1/6	(15.0)	3.6			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面弱いミガキ、外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、橙色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	7	B H85 Po6 +18	壁溝	土師器	杯 杯蓋模倣	3/5強 口縁部2/5	(15.8)	4.1			口縁内外面および内面丁寧な光沢有るミガキ。底体部外面粗い篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 浅黄色、橙色	にぶい黄橙色 橙色	やや良好	内外面一部剥離。比企型
	8	B H85 Po4	ほぼ床面+4	土師器	杯 漆塗り？	一部欠損	(14.0)	3.7			口縁内外面および内面丁寧な光沢有るミガキ。底体部外面粗い篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	褐灰色、黒褐色、明赤褐色	にぶい褐色、黒褐色	少し良好	内面漆塗り？
	9	B H85 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	1/5	(13.8)	3.6	稜部径(15.9)		内面内黒。口縁内外面および内面ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	密	淡黄褐色	黒色	良好	外面口縁部、内面黒色処理
	10	B H85 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	体部3/5強～口縁部2/5	(13.2)	3.5	稜部径(14.6)		口縁内外面ヨコナデに弱いミガキ。底体部内面ミガキ、外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	淡黄色、浅黄色、黒褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黒褐色	やや不良	口縁外面および内面漆塗り可能性あり。
	11	B H85 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	底部～体部1/2～口縁部1/3	(13.9)	4.2			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ、外面篦ナデ。	密	灰黄褐色、にぶい橙色	黒褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	12	B H85 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	口縁欠損3/5	(14.0)	3.2	稜部径15.1		内面弱いミガキ。外面篦ナデ。	密	淡黄色、黄灰色、にぶい黄橙色	淡黄色、黄灰色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	13	B H85 Po?		土師器	小形鉢	底部～体部3/5～口縁部1/2	(11.4)	4.1	(12.5)	(6.4)	平底。口縁内外面ヨコナデ。底内面ナデ。体部外面輪積み残す雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大を少量含む	褐灰色、浅黄色	黒褐色、にぶい黄色	やや不良	外面剥離著しい、内面摩耗多い。内面黒色処理？
	14	B H85 カマド	カマド燃焼部	手捏土器	鉢形	底部3/5強～体部3/5～口縁部1/2	(7.9)	3.5		(5.4)	内面ナデ。外面輪積み残す指頭圧痕。底部木の葉。	密	浅黄色、黄灰色	浅黄色、黒褐色	普通	
148・149住	1	B H90 Po7	ほぼ床面+5	土師器	甕	底部4/5強～胴部3/5強～口縁部2/5	(16.6)	(24.5)	21.9	6.6	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫4㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐色、暗赤褐色	黒褐色	やや不良	内外面剥離多く、外面摩耗も多い
	2	B H90 Po16	ほぼ床面+6	土師器	甕	胴上部 口縁部4/5	14.6	9.3			口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ残す篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	赤褐色、暗灰黄色、にぶい橙色	橙色、灰黄褐色、褐灰色	良好	
	3	B H90 +	覆土	土師器	甕？	口縁部1/4	(17.4)	4.7+			複合口縁。口縁ナデ。口頸部外面篦ナデ。	密	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	黒褐色、にぶい黄橙色、褐灰色	普通	内面わずかに摩耗
	4	B H90 + Po14	ほぼ床面+9	土師器	甕	胴上部一部～口縁部3/5強	16.0	7.4+			口縁大きく外反。口縁部ヨコナデ。口頸部外面ヨコナデに縦位の粗いミガキ。胴肩部篦ナデで残すミガキ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	内面の口縁部わずかに摩耗
	5	B H90 Po6	ほぼ床面+4	土師器	甕	底部1/2～胴最下部1/4		2.5+		7.2	外面篦ナデ。内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい褐色、褐灰色、黒褐色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	6	B H90 Po9	ほぼ床面+4	土師器	甕	底部		2.3+		6.5	内面丁寧なナデ。外面ケズリ状篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色、にぶい赤褐色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内面剥離多い、外面わずかに摩耗
	7	B H90 Po6	ほぼ床面+4	土師器	甕	底部～胴最下部3/5		2.2+		6.0	内面篦ケズリ。外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	灰褐色、赤色	灰褐色、赤色	やや不良	内面剥離著しい。内面に一部赤彩付着
	8	B H90 Po19	ほぼ床面+6	土師器	杯 赤彩土器	底部～体部3/5強～口縁部1/3	(12.8)	4.7			口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ナデ。	小礫2㎜以下を含み、褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色、赤黒色	やや不良	内外面少し摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	9	B H90 Po9	ほぼ床面+4	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部3/5 柱状部 杯体部4/5強～口縁部3/5	14.7	9.3		脚径9.7	杯部口縁内外面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ、外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	10	B H90 + Po13	焼土中	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/4 柱状部 杯底部4/5～体部1/4		9.2+		脚径(10.6)	深い杯部。杯部内面底部弱いミガキ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	赤色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	11	B H90 Po17	ほぼ床面+4	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯体下部4/5～体上部2/5～口縁部一部	(14.0)	5.9+			杯部口縁内外面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ、外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤黒色、極暗赤褐色、暗赤色	赤色、暗赤灰色	わずかに良好	赤彩
	12	B H90 Po4	ほぼ床面+10	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯体部3/5～口縁部一部	(14.2)	5.9+			杯部口縁内外面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	赤色、極暗赤褐色	赤色、赤灰色 灰褐色	普通	内外面摩耗多い。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
148・149 住	13	B H90 Po15+14	覆土 +12	土師器	大形高杯 赤彩土器	脚裾部一部～柱状部4/5～杯底部4/5強		(11.2)		脚径 (18.0)	杯底部弱いミガキ。外面ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾部ヨコナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗。赤彩。大形
	14	B H90 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	一部欠損		17.7		8.2	側面―四角錐台 断面―四角	小礫２㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、明黄褐色、褐灰色		やや不良	
	15	H90 カマド	カマド燃焼部	土師器	支脚	断片		7.6＋			側面―四角錐台 断面―四角	褐鉄鉱粒３㎜大以下を極少量含む	褐灰色、灰黄褐色		不良	
	16	B H90 ＋	覆土	手捏土器	鉢形	1/2	(3.8)	2.9		3.8	外面ナデ、内面圧痕。	小礫１㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	17	B H90 Po3	ほぼ床面 +3	土製品	土玉	完形	径3.3～3.4cm・高さ2.9cm・孔径0.7cm 29.2ｇ									
	18	B H90 ＋	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面ナデ。	密	灰色	灰オリーブ色	普通	
150 住	1	H136 Po9	床面直上	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部一部	(19.1)	11.2＋			口縁端部玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H136 Po10 ＋	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(23.5)	15.7＋	(26.6)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫２㎜以下を含む	極暗赤褐色、にぶい赤褐色 赤色、灰赤色	赤色、灰赤色	やや不良	内外面摩耗多い、外面剥離多い
	3	H136 Po7 Po11 Po13	床面直上	土師器	甕	胴上部一部～口縁部1/3	(18.0)	13.6＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫１㎜大以下を少量含む	明黄褐色、褐灰色、にぶい黄橙色	明黄褐色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内面わずかに摩耗
	4	H136 Po13 ＋	覆土 +11	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(16.0)	13.9＋	(17.7)		口縁端部僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ	小礫３㎜以下を少量含む	灰黄褐色、にぶい黄褐色	灰黄褐色、にぶい黄褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	5	H136 Po6	ほぼ床面 +7	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/4	(22.0)	7.6			口縁端部「コ」字状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面丁寧なナデ、内面ナデ	密	橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、浅黄色、橙色	やや不良	内外面やや摩耗、特に外面多い
	6	H136 Po4	覆土 +12	土師器	甕	底部 胴最下部1/4		4.4＋		7.3	外面篦ケズリ。内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
	7	H136 Po8 Po10	ほぼ床面 +5	土師器	甕 赤彩土器	底部3/5強～胴最下部3/5		4.0＋		(7.6)	外面ケズリ状の篦ナデ、内面篦ナデで赤彩付着。	小礫１㎜以下を少量含む	明赤褐色、にぶい赤褐色、赤灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面摩耗多い。内面赤彩
	8	H136 Po8	ほぼ床面 +5	土師器	杯 杯蓋模倣漆塗り	体部～口縁部片 底部欠損	(11.7)	3.6＋	稜部径 (12.9)		口縁内外面および内面丁寧なヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	灰白色	浅黄色、黒褐色	良	内外面やや摩耗 全面漆塗り。
	9	H136 Po3	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3 底部中央欠損	(15.0)	5.3＋			摩耗不鮮明。	緻密	橙色、褐灰色	橙色、にぶい褐色	不良	内外面摩耗多い
	10	H136 Po6	ほぼ床面 +7	土師器	杯 赤彩土器	1/4	(12.4)	3.6＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下、小礫１㎜以下を極少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色	橙色	少し不良	内外面摩耗。赤彩
	11	H136 Po7	ほぼ床面 +5	土師器	椀 赤彩土器	2/5 底部中央欠損	(13.0)	6.1＋	(13.1)		口縁薄く仕上げる。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	赤灰色、暗赤灰色、赤色、赤黒色	赤灰色、暗赤灰色、赤色、赤黒色	わずかに不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	12	H136	床面直上	土製品	勾玉	ほぼ完存	長さ2.23cm・幅0.72×0.79cm・頭部0.62×0.75cm・孔径0.25cm 1.5ｇ									
151 住	1	B H84	覆土	弥生式土器	壺？	胴部片					外面羽状縄文。	密	にぶい黄橙色	灰白色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	B H84 ＋	覆土	石製品	不明	完存	長さ5.9cm・幅4.8cm・厚さ4.1cm 20.4ｇ									
152 住	1	B H73 Po1	床面直上	弥生式土器	壺	底部4/5～胴下部1/3		4.9＋		(7.8)	外面光沢の有るミガキ、内面ミガキ。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。外面丹塗り
	2	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	壺？	胴部片		3.0＋			胴部継ぎ目に刻み目有す。	密	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色	普通	外面の一部剥離
	3	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					折り返し口縁。口唇縄文とキザミ目。	小礫１㎜大以下を少量含む	にぶい赤褐色 褐灰色	赤色、にぶい赤色	やや良好	内面丹塗り
	4	B H74 ＋	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					折り返し口縁。口唇縄文とキザミ目。	小礫２㎜以下を含む	にぶい褐色	にぶい赤褐色	普通	
	5	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	壺	口縁部片					折り返し口縁。口唇縄文。断面かまぼこ状の浮文。	密	にぶい橙色	赤色	やや不良	内面丹塗り
	6	B H73	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					口縁押捺。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	
	7	B H74 ＋	覆土	弥生式土器	甕	胴部片					輪積み。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	
	8	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					沈線区画の羽状縄文。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	9	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	甕	胴部片					２条の沈線と刷毛目。	密	黒褐色	黒褐色	普通	
	10	B H73 ＋	覆土	弥生式土器	甕	胴部片					外面刷毛目。	密	黒褐色	灰黄褐色	やや不良	
	11	B H73 ＋	覆土	石製品	砥石？	ほぼ完存	現存長7.0cm・幅2.5cm・厚み2.0cm 54.7ｇ									
154 住	1	B H79 ＋	覆土	弥生式土器	小形鉢	底部 胴最下部1/4		2.7＋		3.6	内外面篦ミガキ。	小礫２㎜大以下を多く含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	外面底部除き内外面丹塗り
	2	B H79	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文下端を沈線で仕切る。	小礫１㎜大以下、４㎜以下(一部)を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい橙色、橙色	不良	
	3	B H79	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文。	密	灰オリーブ色 灰色	灰オリーブ色	不良	
	4	B H79 ＋	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					上端縄文に無文体を櫛状工具による刺突により仕切る。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	暗灰黄色、灰オリーブ色	浅黄色	不良	
155 住	1	B H74 Po4 B H73+	ほぼ床面 +7	土師器	甕？	胴上部1/4～口縁部1/5	(13.4)	10.3＋			口縁僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面雑なナデ。	密	にぶい黄橙色 にぶい橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	2	B H74 Po7 Po10	ほぼ床面 +5	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部3/5	(13.3)	8.6＋			肉厚気味。口縁僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面篦ナデ状の篦ケズリ。	小礫１㎜大以下、褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	褐灰色、にぶい橙色、明赤褐色	にぶい褐色、にぶい黄橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	B H74 Po10	ほぼ床面 +9	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/4	(17.0)	5.7＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面横位篦ナデ、内面そぎ取る篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	にぶい橙色、橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗、一部剥離

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
155 住	4	B H74 Po6	ほぼ床面 +2	土師器	甕	底部3/5～胴最下部2/5		3.8+		(6.8)	外面箆ナデ、内面布ナデ。	密	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内面一部、外面摩耗
	5	B H74 +	覆土	須恵器	甕	頸部片					頸部外面櫛状工具による波状文。内外面ロクロナデ。	密	灰色、淡黄色	灰色	普通	
	6	B H74 +	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面箆ケズリ。	灰白色粒1㎜以下を少量含む	灰色	灰色	良好	
	7	B H74 +	覆土	須恵器	ハソウ	口縁部片					口縁端部摘み上げ、内面稜有す。内外面シャープなロクロナデ。外面櫛状工具による波状文。	密	灰色	淡黄色、灰色	普通	内面自然釉付着
	8	B H74 +	覆土	中世陶器	大甕	胴部片					外面格子叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	密	灰白色、灰オリーブ色	灰白色、灰黄色	普通	渥美焼き 8・9・10同一個体
	9	B H74 +	覆土	中世陶器	大甕	胴部片					外面格子叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	密	浅黄色	灰白色、灰色	普通	渥美焼き
	10	B H75 +	覆土	中世陶器	大甕	胴部片					外面格子叩き目、内面指頭圧痕残すナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰白色	灰白色、灰色	良好	渥美焼き
	11	B H74 Po5 B H73+	ほぼ床面 +5	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部3/5 底部欠損	(15.0)	5.9+	(15.3)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面箆ナデ。	小礫2㎜大以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	灰黄褐色、赤色	赤色、にぶい赤褐色	やや不良	外面摩耗多く、内面剥離多い。赤彩
	12	B H75 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯？ 赤彩土器	体部2/5～口縁部一部	(15.8)	4.4+	(15.9)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面箆ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、赤色	赤色、にぶい橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	13	B H74 Po9 H75+	覆土 +11	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/2	(14.8)	5.5	(15.1)		口縁内外面および内面ヨコナデ。杯部外面箆ナデ。	密	にぶい赤色、にぶい黄橙色、赤黒色	にぶい赤色、赤色、暗赤灰色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	14	B H73 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/3	(15.2)	4.8+	(15.8)		口縁内外面および内面ヨコナデ。杯部外面丁寧な箆ナデ。	密	赤色、橙色、にぶい赤褐色、赤灰色、浅黄橙色	赤色、赤褐色	普通	外面一部摩耗、剥離。赤彩
	15	B H73 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/4～柱状部3/5強～杯底部1/3		5.9+		脚径(9.3)	脚柱ケズリ状箆ナデ、端部ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、黄灰色 灰白色	赤色、灰赤色	やや不良	外面わずかに摩耗。赤彩
	16	B H74 Po3	ほぼ床面 +8	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部欠く		5.2+		脚径 9.7	脚柱丁寧なケズリ状箆ナデ、端部ヨコナデ。	密	赤色、浅黄橙色	にぶい黄橙色 赤色	普通	外面わずかに剥離。赤彩
	17	B H75 +	覆土	中世陶器	甕	底部片		3.4+		(17.9)	平底。内外面部分的に厚く釉被る	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	黄灰色、極暗赤灰色	オリーブ灰色 灰白色	良好	
	18	B H75 +	覆土	ミニチュア土器	鉢形 赤彩土器	底部 体部1/3～口縁部1/4	(6.4)	4.5		3.7	口縁内湾で平底気味。内外面ナデ。	密	赤色、にぶい橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	明赤褐色、にぶい橙色	少し良好	外面底部附近除き内外面赤彩
156 住	1	B H75 Po2	床面直上	土師器	甕	胴上位～口縁部片	(26.0)	9.4+			口縁端部摘み上げ、口唇「コ」字状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面細かな箆ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下、小礫1㎜大以下を極少量含む	にぶい橙色、橙色	にぶい橙色、灰黄褐色	普通	
	2	B H75 Po5	ほぼ床面 +6	土師器	甕	底部3/5強～胴最下部1/3		2.8+		(7.3)	内外面摩耗不明。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、黄橙色、灰黄褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	3	B H75 Po1	壁溝	土師器	内湾口縁杯 漆塗り	3/5強	13.6	4.4			内外面光沢の有るミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黄褐色	やや不良	内外面摩耗。内面漆塗り。
	4	B H75 + カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体上部2/5	(13.8)	3.5+			外面口縁直下に輪積み残す。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状箆ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	浅黄色、黄灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	B H75 Po3	床面直上	土師器	杯	ほぼ完形	12.8	3.3	稜部径 13.2		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面箆ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H75 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	ほぼ完存		21.7	6.4		側面一四角錐台 断面一四角	小礫2㎜大以下を少量含む	橙色、浅黄色 黄灰色		不良	
157 住	1	B H80 Po7-8	床面直上	土師器	甕	胴下部1/3～胴上部3/5～口縁部1/2	16.2	23.1	23.4		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半横位箆ナデ、中位斜位箆ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、橙色	橙色、灰褐色 褐灰色	やや良好	
	2	B H80 Po6-43	P5内	土師器	甕	胴上部3/5～口縁部3/5強	18.4	16.2+	(23.8)		口縁端部僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位ケズリ状箆ナデ。内面ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	普通	内面剥離
	3	B H80 Po1	ほぼ床面	土師器	甕	胴上部～口縁部3/5	(17.0)	10.4+			口縁外面輪積み残すヨコナデ。胴外面斜位箆ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 明褐色、黒褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	4	B H80 Po7-8	床面直上	土師器	甕	胴最上部2/5～口縁部1/3	(16.0)	9.0+			口縁端部僅かに玉状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面ミガキ？内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量を含む	明黄褐色、橙色、褐灰色、明赤褐色	橙色、浅黄色 黄灰色	不良	内外面摩耗多い、内面剥離
	5	B H80 Po4-13 Po17-57 Po15	P5内	土師器	甕 赤彩土器？	底部3/5～胴下部1/4～胴中位一部		24.6+	(35.4)	(9.1)	胴外面ミガキ状箆ナデ	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	灰褐色、橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	普通	胴部内面剥離多く二次的な加熱を受け不鮮明ながら赤彩の可能性あり。
	6	B H80 Po3-20	P5内	土師器	鉢？	底部～体下部4/5～体上部1/2～口唇部一部	(12.1)	14.5	(16.6)	6.0	外面箆ケズリ残る斜位箆ミガキ。内面箆ナデ残すナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	明黄褐色、灰黄褐色、褐色	黒褐色	やや不良	外面摩耗、内面摩耗、剥離多い
	7	B H80 Po9-7	ほぼ床面 +3	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部1/3 底部欠損	(14.6)	4.8+	(15.4)		口縁内外面および内面ヨコナデ、外面ケズリ状箆ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、灰赤色 浅黄橙色	明赤褐色、橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	8	B H80 Po11+11	覆土 +15	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部2/5欠損	13.9	10.7		脚径 9.8	口縁内外面ヨコナデ。杯外面ケズリ状箆ナデ、内面雑なミガキ。脚柱凹凸残す箆ナデ、端部ヨコナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、赤黒色	赤色、赤黒色 浅黄橙色	やや良好	杯内面一部わずかに剥離。赤彩
	9	B H80 Po10	ほぼ床面 +5	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5強		5.3+		脚径 9.7	脚柱箆ナデ、端部ヨコナデ	褐鉄鉱粒4㎜以下を多く含む	橙色、にぶい橙色	橙色	良好	赤彩
	10	B H80 Po8-9	床面直上	石製品	叩き石	完存	長さ9.2cm・幅7.2cm・厚さ4.9cm 449.6ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
158住	1	B H80 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	口縁部片	(20.5)	6.7+			肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外横位篦ケズリ、内面ナデ。	砂粒多い	暗黄褐色	暗黄褐色	良	
	2	B H80 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/5～口縁部一部	(23.8)	11.9+	(22.5)		口縁外傾し内湾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい赤褐色 にぶい褐色、褐灰色	明赤褐色	良好	
	3	B H80 カマド	カマド燃焼部	土師器	台付甕	底部～胴最下部		6.0+			胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小 礫2㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	灰赤色、褐灰色、灰褐色	にぶい赤褐色 褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	4	B H82 Po2	床面直上	土師器	台付甕	脚部 甕体最下部3/5		3.9+		7.8	胴外面雑な篦ケズリ、内面篦圧痕残すナデ。台部指頭圧痕。	小礫1㎜大以下を含む	灰褐色、赤褐色	にぶい橙色	やや不良	外面少し摩耗。内外面やや粗い作り
	5	B H80 +	覆土	須恵器	杯蓋	1/5	(19.6)	2.2+			内外面シャープなロクロナデ。底外面カ移転篦ケズリ。天井部外面回転篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	灰黄色、浅黄色	灰黄色、浅黄色、灰白色、淡黄色	普通	転用硯（内面）
	6	B H80 +	覆土	須恵器	高台付杯	底部縁地～体最下部1/6		4.8			内外面ロクロナデ、体部下端回転篦ケズリ	小礫1㎜以下を極少量含む	暗赤色、暗赤灰色、赤黒色	暗赤灰色、にぶい赤褐色	普通	
	7	B H82 Po2D-1	ほぼ床面 +7	須恵器 千葉市域産	杯 線刻土器	底部 体部～口縁部3/5強	(13.0)	4.7		(8.4)	内外面ロクロナデ。体部外面下端手持ち篦ケズリ。底部一方向篦ケズリ。	小礫2㎜以下を少量含む	浅黄色、黒褐色、黄灰色	灰黄褐色、黒褐色、黄灰色	普通	底部線刻○印
	8	B H82 Po7	カマド燃焼部	土師器	皿状杯 暗文土器	底部1/5～体部～口縁部1/6	(14.1)	2.3		(10.0)	体部外面および底部手持ち篦ケズリ。内面摩耗するが僅かに螺旋状暗文。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰黄褐色、明黄褐色、黒褐色	橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗多い、特に内面著しい。内面斜格子・螺旋暗文(内面摩耗のため不鮮明)
	9	B H82 Po1	床面直上	土師器	杯	口縁部2/5欠損	13.0	3.7		9.8	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	小礫4㎜以下を少量含む	橙色、灰赤色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	10	B H82 Po3	床面直上	須恵質	丸瓦						凹面布目。凸ナデ。					
	11	B H82 Po5	カマド燃焼部	須恵質	平瓦						凹面布目。凸縄叩き					
159住	1	B H83 +	覆土	須恵器	盤	破片	(22.0)	2.6+			肉厚。口縁内外面ロクロナデ。	黒褐色、灰白色1㎜大以下を極少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色	普通	
	2	B H83 +	覆土	ロクロ土師器	杯	体部～口縁部片	(11.4)	3.9+		9.0	内外面ロクロナデ。内外体部と底部稜明瞭。	小礫1㎜以下を少量含む	灰黄褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	普通	
	3	B H83 カマド	カマド燃焼部	土師質	瓦						凹面布目。凸ナデ。					
	4	B H83 +	覆土	須恵質	瓦						凹面布目。凸縄叩き					
	5	B H83 Po3	ほぼ床面 +4	鉄製品	刀子	切っ先欠損	現存長19.2cm・関幅1.2cm・関棟厚0.4cm・茎長さ7.8cm 17.8ｇ									
	6	B H83 Po4	覆土	鉄製品	釘	両端欠損	現存長5.4cm・径0.7cm×0.6cm 20.1ｇ									
160住	1	B H76 +	覆土	弥生式土器	壺	口縁部片					摩耗不鮮明。口縁部短い複合口縁で側面に縄文と摩滅した円形浮文。	小礫1㎜以下を少量、褐鉄鉱粒1㎜大以下含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	2	B H77 +	覆土	弥生式土器	壺	頸部片					細い頸部。結節文で仕切られた縄文を配す。	小礫3㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい黄橙色	普通	
	3	B H75 +	覆土	弥生式土器	壺	頸部片					結節文で仕切られた羽状縄文を配す。	小礫1㎜以下を含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい橙色、赤褐色、暗赤褐色	普通	内面丹塗り
	4	B H76	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					沈線で仕切られた縄文。下端は篦ミガキ	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色 赤色	浅黄橙色	普通	外面丹塗り
	5	B H78 Po6	覆土	弥生式土器	甕	口縁部1/4	(21.0)	4.8+			口縁内外面丁寧なナデ。口頸部外面下端円形竹管刺突文。	小礫1㎜大以下を多く含む	赤色、暗灰黄色	赤色、暗灰黄色、にぶい黄橙色、黒褐色	わずかに不良	
	6	B H76 +	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					口縁押捺で波状。外面刷毛目。	浅黄橙色粒1㎜大以下を多く含む	浅黄色、にぶい黄色	浅黄色、にぶい黄色、橙色	不良	内外面少し摩耗。
	7	B H77	覆土	弥生式土器	甕	頸部片					３段の輪積み痕。	浅黄橙色粒1㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、褐灰色	にぶい褐色、にぶい橙色	普通	
	8	B H76 +	覆土	弥生式土器	甕	胴部片					輪積み接合部に縄刺突。	小礫1㎜以下を含む	黒褐色	黒褐色	良好	
	9	B H76 +	覆土	土師器	小形壺？	底部3/5強～体下部1/4		4.7+		(4.8)	内外摩耗不明。	小礫1㎜大以下を多く含む	橙色、褐灰色 灰褐色	灰黄色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	10	B H76	覆土	弥生式土器	鉢	口縁部片					摩耗不鮮明。口縁部短い複合口縁で側面に縄文と刺突文。	密	にぶい黄橙色	赤色	わずかに不良	内面丹塗り
	11	B H75	覆土	弥生式土器	鉢	口縁部片					外面２段の羽状縄文	浅黄橙色粒1㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	灰黄褐色、にぶい赤褐色	やや不良	
161住	1	B H78 Po5-4	床面直上	土師器	甕	底部 胴下部3/5～胴上部1/5～口縁部1/3	(21.5)	22.4	(24.0)	6.1	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半刷毛ナデ、中位から下端ケズリ状篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒6㎜大以下を含む	赤色、灰赤色 灰褐色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、明赤褐色、黒褐色	やや良好	
	2	B H78 Po26+25 +	覆土 +25	土師器	壺？	胴上部1/6～口縁部1/4	(18.0)	8.9+			肉厚。口縁端部玉状。胴外面篦ナデ、内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒5㎜以下と小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄色、にぶい橙色	にぶい黄橙色 橙色	普通	
	3	B H78 LP	P5内	土師器	甕	胴上部3/5強 口縁部	15.8	12.0+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面雑な縦位篦ナデ残す横位篦ナデ。	小礫3㎜大以下を含み、褐鉄鉱粒3㎜大以下を極少量含む	黄灰色、黒褐色、灰黄色	浅黄色、黒褐色、にぶい黄橙色	良好	
	4	B H78 Po27-1 +	床面直上	土師器	甕	胴最上部一部～口縁部2/5	(16.0)	5.9+			口縁端部玉状。口縁内外面ヨコナデで外面篦圧痕残す。	小礫1㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	B H78 Po15	覆土 +12	土師器	甕	胴最上部一部～口縁部1/3	(17.0)	5.7+			口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を含む	褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
161住	6	B H78 Po3 Po18+12 +	覆土 +12	土師器	甕	底部3/5～胴最下部1/3		4.3+		(7.8)	底部盤状に突出。篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	内面剥離多い
	7	B H78 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3 底部中央欠損		2.2+		(8.2)	外面雑な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	灰黄色、暗灰黄色、浅黄色	黄褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	B H78 Po12	ほぼ床面 +8	土師器	壺 赤彩土器	底部1/2		1.9+		(8.0)	突出気味。外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい赤色	にぶい黄橙色	やや不良	底部除き外面赤彩
	9	B H78 +	覆土	須恵器	蓋	1/5	(11.6)	4.9+			稜やや鈍い。内外面ロクロナデ。天井部外面大きく回転篦ケズリ。	砂粒含む	暗灰色	暗灰色	良好	
	10	B H78 Po1	ほぼ床面 +4	土師器	杯 杯身模倣 赤彩土器	口唇部わずかに欠く	10.5	5.4	稜部径12.7		受部稜やや鈍い。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。底内面指頭圧痕残す指ナデ。外面底部に焼成前の「○」記号？線刻を有す。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	赤色、にぶい橙色、灰赤色	赤色、赤褐色	普通	内外面少し摩耗、剥離。外面底部附近除き内外面赤彩
	11	B H78 +	覆土	土師器	椀？ 赤彩土器	体部1/2～口縁部1/4 底部欠損	(13.9)	4.9+	(14.4)		摩耗不鮮明。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、橙色、暗赤灰色	赤色、浅黄橙色、褐灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離著しい。内外面赤彩
	12	B H78 Po28+27	覆土 +27	土師器	台付異形土器 赤彩土器	台部分4/5		2.9+		(10.4)	楕円形で断面角状気味の台で外面赤彩。内面摩耗著しいが赤彩が僅かの残る。	小礫1㎜大以下を極少量含む	にぶい赤色	浅黄色、灰赤色	普通	鉢内面摩耗多い。外面底部除く内外面赤彩
	13	B H78 + カマド	カマド燃焼部	土師器	坩 赤彩土器	体部1/4～頸部～口縁部1/2 底部欠損	(9.3)	12.1+	(15.1)		口縁内外面丁寧なナデ。胴内外面丁寧なナデ。内面頸部接合痕明瞭。	緻密	橙色、にぶい橙色、赤褐色	赤色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。内面口縁部、外面赤彩
	14	B H77 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/4	(16.0)	5.0+			杯底部稜を有す。口縁内外面ヨコナデ。体部外面縦位ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密	暗赤褐色	淡赤褐色	普通	赤彩
	15	B H78 Po25+12	覆土 +12	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/4 脚柱状部 杯底部		7.0+		脚径(10.1)	やや長脚。脚柱丁寧な篦ナデ、裾反り気味で大きくヨコナデ。	密	赤色、赤褐色 灰赤色	橙色、にぶい橙色	やや不良	全体に少し摩耗。赤彩
	16	B H78 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/2～柱状部3/5		4.4+		脚径(9.5)	脚柱篦ナデ裾大きくヨコナデ。	密 小礫3㎜大を1ヶ所含む	赤色、灰赤色		やや不良	外面やや摩耗。赤彩
	17	B H78 Po28+27	覆土 +27	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部欠損		4.8+			脚柱篦ナデ裾大きくヨコナデ。	密	赤色、赤褐色		普通	赤彩
	18	B H78 Po13	ほぼ床面 +7	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/2～脚柱状部4/5強～杯底部附近		5.1+		脚径(9.0)	脚柱篦ナデ裾大きくヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜弱以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、赤色	普通	外面摩耗が激しい、杯内面剥離多い。赤彩
	19	B H78 Po21-2	ほぼ床面 +2	土師器	高杯 赤彩土器	脚柱状部		5.0+			脚柱篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、赤灰色 暗赤灰色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや良好	赤彩
	20	B H78 Po24	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	柱状部3/5		6.5+			脚柱篦ナデ。内面輪積み明瞭。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を含む	赤色、赤褐色 赤橙色		わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	21	B H78	覆土	土製品	土玉	1/3	径(3.8cm)・残存高2.3cm・孔径0.6cm (8.5ｇ)									
	22	B H78 Po31+25	カマド左袖	石製品	紡錘車	完存	径3.55cm・厚さ1.13cm・孔径0.63cm 20.4ｇ									
162住	1	B H77 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部～胴上部4/5～口縁部3/5強	(19.7)	18.7+	(21.0)		肉薄。口縁外傾、端部僅かに内湾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	灰黄褐色、にぶい橙色	普通	胴中位の内面剥離多い。薄手
	2	B H77 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下部一部～胴中位～胴上部4/5～口縁部3/5強	(21.3)	27.7+	(21.3)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下、小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	橙色、褐灰色	やや不良	外面やや摩耗、内面一部剥離。薄手
	3	B H77 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/4	(20.1)	8.3+			肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ	小礫1㎜以下を多く含む	明赤褐色、暗赤灰色	橙色、褐灰色	普通	
	4	B H77 Po4+21	覆土 +21	須恵器	蓋	1/4	(15.7)	2.2+			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	灰色粒3㎜以下を少量含む	灰白色	灰白色、灰色	わずかに不良	内面わずかに摩耗
	5	B H77 Po5	P5上床面	土師器	杯	底部3/5～体部2/5～口縁部1/3	(13.8)	3.6		(8.8)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜大を少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	6	B H77 Po2	壁接する	土師器	杯	底部～体部4/5強～口縁部3/5強	(13.6)	4.1		8.7	内面光沢の有るミガキ。体部外面輪積み。体部下半および底部手持ち篦ケズリ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 橙色	橙色、明赤褐色、黒褐色	普通	外面と口縁部内面が少し摩耗
	7	B H77 カマド	カマド	土師質	平瓦						凹面布目。凸縄叩き					
163住	1	H127 カマド右袖	カマド右袖	土師器	甕	胴部1/4～口縁部1/3	(15.0)	18.2+	(17.4)		胴部肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫4㎜大以下を含む	暗赤褐色、極暗赤褐色、赤橙色	暗赤褐色、極暗赤褐色、赤色	普通	内外面わずかに摩耗
	2	H127 カマド右袖	カマド右袖	土師器	甕	口縁部3/5	24.4	7.2+			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ。	密	明赤褐色、赤灰色	明赤褐色、橙色	少し良好	薄手
	3	H127 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴最上部1/4～口縁部1/5	(22.8)	6.7+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ。	密	明褐色、橙色	明褐色、橙色	やや良好	
	4	H127 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	底部1/6～体部～口縁部1/4 底部中央欠損	(15.6)	3.1		(11.3)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色、にぶい橙色	わずかに不良	
	5	H127	覆土	土製品	支脚	一部		6.8+			側面―円柱状 断面―円	密	褐灰色、にぶい黄橙色、黄褐色		不良	
	6	H127 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	一部		8.0+			側面―円柱状 断面―円	密	褐灰色、黒褐色、にぶい橙色		不良	
164住	1	H134 Po4	ほぼ床面 +4	土師器	甕	底部1/3～胴下部3/5強～胴上部3/5 口縁部	14.8	27.2	(21.5)	(5.7)	口縁内外面やや雑なヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	H134 Po11+14	覆土 +14	土師器	甕	胴部1/2～口縁部2/5	(18.5)	22.2+	(23.2)		口縁外面輪積み残すヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、赤褐色 暗赤灰色	橙色、赤橙色 にぶい褐色、灰褐色	やや不良	内外面摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
164住	3	H134 Po11+14	覆土 +14	土師器	甕	胴中位1/6～口縁部一部	(15.6)	21.1+	26.8		口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面刷毛目残すナデ。	小礫6㎜以下を含む	暗赤灰色、黒褐色	暗赤灰色、黒褐色、にぶい褐色	やや不良	外面胴中位以下は摩耗多い
	4	H134 Po1	ほぼ床面 +6	土師器	甑	下端孔部～胴下部1/6～胴部3/5 口縁部	20.5	27.7	(23.0)	(7.3)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	小礫6㎜以下を極少量、褐鉄鉱粒6㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	H134 カマド右-	ほぼ床面 +7	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強	15.2	5.8	15.6		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量、褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	赤色、灰赤色 赤黒色、浅黄橙色	赤色、灰赤色 浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	6	H134 Po8	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/4 底部中央欠損	(14.0)	4.6	(14.4)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤褐色、にぶい赤褐色	赤褐色、暗赤灰色	普通	内外面赤彩
	7	H134 Po13	攪乱	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/5 底部欠損	(13.7)	4.0			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	赤色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗、内面に多い。外面口縁部、内面赤彩
	8	H134 Po2	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2 口縁部1/3	(13.2)	5.7			口縁端部僅かに外反。口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	密	赤色、にぶい橙色	赤色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	9	H133 Po4+33	覆土	土師器	椀 赤彩土器	体上部～口縁部 1/5	(13.4)	3.7+	(14.3)		丸底。口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ。	密	にぶい赤褐色	赤褐色	普通	内外面赤彩
	10	H134	P1内	土師器	短頸壺 赤彩土器	口縁部1/3欠損	8.0	9.2	13.9		やや平底気味。口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ。	密	赤色、暗赤灰色	赤色、赤灰色	やや不良	外面摩耗多い。内外面赤彩，内面塗りムラ有り
	11	H134	P1内	土師器	短頸壺 赤彩土器	口唇部欠損	(9.6)	7.7	13.3	3.8	口縁部下端稜を有す。内面ナデ。	密	赤色、暗赤灰色、にぶい黄橙色、黒褐色	橙色、暗赤灰色	やや不良	外面摩耗多い。内面口縁部、外面赤彩
	12	H134 Po12	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯部下半		3.3			稜有し、接合痕残す。内外面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	赤色、赤黒色	赤色、にぶい赤色、暗赤灰色	普通	赤彩
	13	H134 Po14	ほぼ床面 +6	土師器	高杯	脚柱状部		6.7+			脚柱丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	明黄褐色、灰黄褐色、褐灰色	赤橙色、灰赤色	やや不良	内外面摩耗多い
165住	1	H133 カマド Po20 Po1+26 Po11+30 Po16+30	覆土 +26	土師器	甕	胴部1/4～口縁部一部	(23.3)	21.0+	(23.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫3㎜以下を含む	赤褐色、赤黒色	橙色、灰褐色 にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	2	H133 Po23+26	覆土 +26	土師器	甕	胴上部1/6～口縁部1/5	(18.0)	7.1+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面丁寧な篦ナデ、内面丁寧なナデ。	小礫4㎜以下を多く含む	にぶい赤褐色 赤灰色	褐灰色、明赤褐色	少し良好	
	3	H133 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部 胴上部～口縁部 1/4 口唇部欠損		10.6+	(19.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫7㎜以下を多く含む	赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	
	4	H133 カマド +	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5強～胴下部1/2～胴上部1/5 口縁部欠損		29.1+	(32.4)	8.7	胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰褐色	褐色、にぶい褐色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗、内面剥離
	5	H133 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部 1/4	(15.4)	6.5+			肉厚。内面ヨコナデ。外面摩耗不明。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗、特に外面多い
	6	H133 Po14+29	覆土 +29	土師器	甕	底部～胴最下部 1/2		3.4+		(7.0)	外面篦ケズリ残るミガキ、内面ナデ。	密	にぶい褐色、褐灰色	黒褐色	普通	
	7	H133 Po23+29	覆土 +29	土師器	甑	胴上部～口縁部 1/4	(22.8)	7.9+			口縁外面輪積み残すヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面線状のミガキ。	密	浅黄橙色、橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、橙色、にぶい黄橙色	少し不良	内外面摩耗多く、内面剥離
	8	H133 Po21 Po27	ほぼ床面 +8	土師器	甑	下端部～胴下部 1/4		11.2+		(9.6)	胴外面縦位篦ケズリ、内面線状のミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	7・8同一個体。
	9	H133 カマド	カマド燃焼部	土師器	小形鉢	底 部1/3～体 下部3/5強		3.8+		(5.6)	肉薄。外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒、小礫1㎜弱以下を少量含む	黒褐色	黒褐色	少し良好	
	10	H133 Po6+13	覆土 +13	土師器	小形鉢	底部 体最下部3/5		3.8+		4.5	肉薄。外面篦ナデ、内面ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	わずかに良好	
	11	H133 Po23+29	覆土 +29	土師器	小形鉢	底部4/5強～体最下部1/2		2.5+		4.0	肉薄。外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜弱以下、小礫1㎜弱以下を極少量含む	浅黄色、黒褐色	灰黄色	普通	
	12	H133 Po25 Po30+21	ほぼ床面 +3	土師器	鉢	体下部～口縁部 1/4	(11.6)	6.8+	(12.4)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	13	H133 Po27	ほぼ床面 +9	土師器	鉢	体部～口縁部 1/3	(18.4)	7.7+			口縁外面ヨコナデ。体部外面篦ナデ、内面やや雑なミガキ。	褐鉄鉱粒、小礫1㎜大以下を少量含む	赤橙色、にぶい橙色、灰黄褐色	赤橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。2次加熱あり
	14	H133 Po17	床面直上	土師器	短頸壺	体部～口縁部 1/3	(10.6)	9.8+	(14.0)		口縁内外面シャープなヨコナデ。体部外面篦ナデ,内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	15	H133 Po9+19	覆土 +12	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	1/5 底部欠損	(13.2)	3.6+	(14.2)		口縁内外面および内面シャープなヨコナデで口唇「コ」字状。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を多く含む	灰白色、浅黄橙色、橙色、暗赤灰色	橙色	やや良好	内面黒色処理の可能性がある
	16	H133 Po26-10	P5内	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	1/2	(13.2)	5.1	(14.0)		口縁内外面および内面シャープなヨコナデ口唇肉薄。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、暗赤灰色	橙色、赤黒色	わずかに良好	内外面やや摩耗。内面黒色処理の可能性がある
	17	H133 カマド	カマド燃焼部	土師器	有段口縁杯 内黒土器	体上部～口縁部片	(12.6)	3.8+			口縁に段を有し内外面シャープなヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	密	にぶい黄色、灰黄色	にぶい橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内面黒色処理(漆塗り可能性大きい)
	18	H133 Po27	覆土 +9	土師器	内湾口縁杯	体部1/2 口縁部1/3	(14.6)	4.0			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	淡黄色、浅黄色	黄灰色、黒褐色	少し不良	内外面摩耗多い。有段口縁杯模倣？
	19	H133 Po22-2	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣	接合完形	15.3	4.0			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黄褐色	少し良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
165 住	20	H133 Po9+19	覆土 +12	土師器	杯 杯蓋模倣	体部1/2 口縁部1/4	(13.2)	3.7			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	外面少し摩耗
	21	H133 カマド左	カマド	土師器	杯 杯蓋模倣	完形	12.5	3.6	12.5		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ残すミガキ、内面粗いミガキ。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	22	H133 Po19	床面直上	土師器	杯	3/5 口縁部1/3	(13.9)	3.9	(14.5)		稜丸く鈍い。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	23	H133 Po28	覆土 +10	土師器	高杯	脚部3/5強～杯体部1/3～口縁部1/5	(16.9)	8.2		脚径12.4	浅い杯部。口縁内外面ヨコナデ。杯部外面篦ケズリ、内面弱いミガキ。脚柱ミガキ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	にぶい橙色、にぶい褐色	黒褐色、にぶい黄橙色	やや不良	全体摩耗多い。杯内面黒色処理の可能性がある
	24	H133 Po25 Po28 カマド	ほぼ床面 +3	土師器	高杯	杯部3/5 口縁部一部	(14.4)	5.4+			口縁外面に段違いの稜有す。杯部内外面粗いミガキ。	緻密	黒褐色、にぶい黄橙色、にぶい橙色	黒褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	わずかに摩耗
	25	H133 Po24	床面直上	土師器	高杯	脚柱状部 杯下部 裾部欠損		6.0+			杯内面弱いミガキ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	浅黄色、黄灰色	浅黄色、黄灰色	やや不良	
	26	H133 Po1+26	覆土 +26	土師器	高杯 漆塗り？	脚柱状部 杯底部 裾部欠損		6.2+			杯内面光沢の有るミガキ。外面篦ナデ。脚柱ミガキ状篦ナデ。	緻密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	杯内面漆塗り？
	27	H133 Po8+18	覆土 +18	手捏土器	鉢形	底部4/5強～胴最下部4/5		3.3+		6.7	外面指頭圧痕。内面篦ナデ。底部木の葉	緻密	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	28	H133 Po10+13	覆土 +13	手捏土器	鉢形	ほぼ完形	7.7	4.2		4.4	外面輪積み残す指頭圧痕。内面篦ナデ。	緻密	灰褐色、にぶい橙色	灰褐色、にぶい橙色	普通	
	29	H133 Po17+17	覆土 +17	手捏土器	鉢形	底部 体最下部4/5		2.9+		4.1	外面丁寧なナデ。内面篦ナデ。	密	橙色、灰黄褐色、褐灰色	橙色、にぶい黄橙色	普通	
	30	H133	覆土	土製品	支脚	先端部欠損 基部一部欠く		13.2+			側面一円柱状 断面一円	小礫2㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色、褐灰色		不良	
166 住	1	H129 +	覆土	土師器	甕	口縁部1/6	(18.8)	7.3+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	緻密	橙色	橙色、にぶい橙色	わずかに不良	外面わずかに摩耗
	2	H129	覆土	土師器	鉢	体上部～口縁部1/6	(15.6)	4.3+	稜部径(15.7)		内面篦ミガキ。外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	H129 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	杯体部～口縁部1/5	(13.6)	4.5+	(14.0)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面ナデ。	灰白色粒1㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色	やや不良	外面やや摩耗。内外面赤彩
	4	H129 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/3 底部欠損	(13.4)	4.1+	(13.8)		口縁内外面シャープなヨコナデ。杯部外面篦ナデ、内面丁寧なナデ。	密	赤色、赤灰色 浅黄色	赤色、赤灰色 浅黄色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	5	H129 Po5-28		土師器	高杯 赤彩土器	脚部3/5 杯底部		4.6+		脚径(10.1)	脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	杯内面少し摩耗。赤彩
	6	H129 Po4-3		土師器	台付甕	脚と甕の接合部		3.3+			内面雑なナデ。	橙色粒1㎜大以下を多く含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	褐灰色	普通	
	7	H129	覆土	石製品	不明	完存	長さ3.2cm・幅2.9cm・厚さ2.4cm 3.6ｇ									軽石
	8	H129 Po1+		石製品	磨石	一部	現存長11.3cm・現存幅4.7cm・厚さ3.1cm 247.8ｇ									
167 住	1	H132 Po1+7 Po2+8 Po8+14 Po3+11	ほぼ床面 +7	弥生式土器	甕	底部 胴部1/3 口縁部 口唇部わずか一部	(16.4)	16.2	(16.0)	5.6	口縁押捺で波状、頸部下端僅かに段を有す。外面ナデ、内面ナデで一部ミガキ。	小礫1㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい赤橙色、灰黄褐色	橙色、にぶい赤橙色、灰黄褐色	良好	
	2	H132 Po2+8	ほぼ床面 +8	弥生式土器	甕	胴中位1/5～胴上位1/3～口縁部1/4	(14.4)	13.0+	(16.6)		口縁押捺で波状、頸部下端僅かに段を有す。外面ナデ、内面ナデで一部ミガキ。	小礫1㎜以下を多く含む	にぶい橙色、橙色、明赤褐色、褐灰色	にぶい黄橙色 明赤褐色	少し良好	
	3	H132 Po7±0	床面直上	弥生式土器	甕	胴上部～頸部1/4 口縁部一部	(18.6)	12.3+	(22.2)		口縁押捺で波状、頸部輪積み、下端段に縄文刺突文を有す。外面ナデ、内面ナデ。	橙色粒、小礫2㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	良好	
	4	H132 Po2+8	ほぼ床面 +8	弥生式土器	甕	底部3/5		2.9+		6.2	突出気味。外面篦ナデ、内面ナデ。	密	橙色、にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	不良	内外面摩耗多い
	5	H132 Po6+27	貝層中	弥生式土器	鉢	底部 体部1/3～口縁部一部	(16.8)	6.6		5.9	口縁短く複合口縁で口唇「コ」字状。口縁外面縄目刺突文。体部内外面丁寧なミガキ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 橙色	灰黄褐色	少し良好	
	6	H132 Po8+14	覆土 +14	弥生式土器	壺	頸部片					上下沈線内に羽状縄文と3段の結節文。	小礫1㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、赤色	浅黄橙色	普通	外面丹塗り有り
	7	H132 Po8+14	覆土 +14	弥生式土器	壺	頸部片					細い頸部。羽状縄文。	小礫1㎜大以下を多く含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい橙色	普通	
	8	H132 黒土層	覆土	石製品	磨石	完存	長さ9.8cm・幅3.6～4.4cm・厚さ2.3cm 136.9ｇ									
	9	H132 黒土層	覆土	石製品	磨石	完存	長さ7.4cm・幅6.4cm・厚さ4.3cm 24.5ｇ									軽石
168 住	1	H135 カマド Po4+15 Po12+17 Po10 Po3	床面直上	土師器	甕	底部3/5強～胴部2/5～口縁部1/3	(15.2)	25.3	(20.9)	(9.7)	口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面雑な篦ナデ、内面篦ナデ。	密	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、特に外面多い
	2	H135 Po7	P5内	土師器	甕	ほぼ完形	15.3	20.9	18.1	7.4	口縁内外面やや雑なヨコナデで端部薄い。胴外面篦ナデ、内面輪積み残すナデ。	褐鉄鉱粒、小礫3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	浅黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	やや不良	外面摩耗多い
	3	H135 Po9	床面直上	土師器	甕	胴部3/5～口縁部1/2	16.8	22.7+	18.3		口縁外面輪積み残すヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面輪積み残すナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、暗褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	外面わずかに摩耗
	4	H135 Po9	床面直上	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部4/5	17.4	11.0+			口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状斜位篦ナデ、内面凹凸残すナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	浅黄色、暗灰黄色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	5	H135 Po5+13	カマド右袖 +13	土師器	甕	胴中位一部 胴上位1/6～口縁部1/2	(17.6)	13.0	(20.0)		口縁内外面やや雑なヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面凹凸残すナデ。	小礫1㎜大以下、褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
168 住	6	H135 Po3 Po10 カマド	床面直上	土師器	甕	胴中位2/5～胴上位4/5～口縁部4/5強	17.5	12.9＋	16.5		口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	密 褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	7	H135 Po2	床面直上	土師器	鉢形甕	底部2/5～体部1/3～口縁部2/5	(15.4)	12.2	(14.0)	(7.6)	口縁内外面凹凸残すヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	赤色、赤黒色 灰赤色、赤灰色	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	8	H135 Po5+13	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴下部3/5～胴中位1/3		19.1＋	(21.2)	8.7	外面ケズリ状篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ	褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	浅黄色、黒褐色	浅黄色、にぶい黄橙色	普通	
	9	H135 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部3/5～胴下部一部		10.3＋		(8.9)	外面ケズリ状篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	密	黒褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色	普通	外面摩耗多い
	10	H135 Po12+17	覆土 ＋12	土師器	甕	底部 胴最下部1/2		3.8＋		7.2	外面ケズリ状篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	やや不良	外面摩耗多い
	11	H135 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部3/5	18.5	8.3＋			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面篦ケズリ。	密	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや良好	
	12	H135 Po8	床面直上	土師器	甑	下端孔部4/5強～胴部～口縁部3/5	22.3	19.5	23.0	(7.0)	やや肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ残す縦位ミガキ状篦ナデ、内面横位ミガキ状篦ナデ。	密	淡黄色、黄灰色、黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗多い、内面少し摩耗
	13	H135	覆土	須恵器	杯身	1/3	(9.8)	4.0	(12.2)	(4.1)	口縁短く内傾。稜丸く鈍い。内外面ロクロナデ。底部および体部下端回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	TK217型式
	14	H135 Po5+13	覆土 ＋13	土師器	椀形杯	体部～口縁部 1/4	(11.0)	4.0＋	(11.1)		内面ナデ。外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	15	H135 Po6+3	P5内	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強 口縁部1/2	(16.1)	6.8	17.0		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	密	赤色、赤黒色 灰褐色	赤色、灰赤色	わずかに不良	外面底部除き内外面赤彩
	16	H135 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚最上部～杯部1/2 口縁部一部	(13.1)	8.7＋	(14.1)		杯部口縁内外面ミガキ状篦ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤褐色、にぶい褐色	橙色、にぶい赤褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
169 住	1	H130 Po14+10	床面直上	土師器	甕	胴中位1/5～胴上位3/5～口縁部3/5強	(15.5)	17.6＋	(25.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	浅黄色	浅黄色	不良	内外面少し摩耗
	2	H130 Po3+18	ほぼ床面＋8	土師器	甕	胴上部4/5 口縁部	17.6	13.2＋			口縁内外面ヨコナデ。口頸部から胴部外面ミガキ状の丁寧な篦ナデ、内面ナデで部分篦圧痕残る。	密 褐鉄鉱粒4㎜大を一部に含む	にぶい黄橙色 黒褐色、橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	良好	
	3	H130	覆土	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部1/2	(17.6)	10.2＋			口縁内外面ヨコナデ。胴部外面丁寧な篦ナデ、内面やや雑なナデ。	小礫1㎜以下を少量、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	
	4	H130 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部4/5強	16.9	15.0＋	(22.3)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位ケズリ残す篦ナデ、中位横位篦ナデ内面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色、褐灰色	にぶい黄橙色 にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	5	H130 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴部2/5		22.8＋	(22.9)	7.9	頸部内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ケズリ状篦ナデ。	緻密	黒褐色、にぶい黄橙色	黒褐色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い、内面剥離
	6	H130 Po?2+15	ほぼ床面＋5	土師器	甕	底部 胴部3/5		22.1＋	(21.0)	7.0	頸部内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面輪積みと接合部残すナデ。胴中央に半円形の孔を有す。	密	浅黄色、黄灰色、にぶい橙色	浅黄色、灰黄色	わずかに不良	内外面少し摩耗。胴中央に大きな孔を有す。 11cm×15cm
	7	H130 Po23+1	床面直上	土師器	甕	底部 胴下部3/5		6.1＋		7.0	外面丁寧な篦ナデ、内面上端篦ナデ、下半ナデ。	緻密	にぶい黄橙色 橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	H130 Po14+10	床面直上	土師器	甑	下端孔部～胴部4/5～口縁部4/5強	21.6	22.8	19.8	6.7	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ケズリ残すミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含み小礫2㎜以下を少量を含む	にぶい橙色、橙色、明赤褐色、灰褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面やや摩耗
	9	H130 Po4+24	床面直上	土師器	甑	ほぼ完形	24.0	22.1	22.3	7.7	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ、内面刷毛目残すナデ。	密 一部に褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	淡黄色、黒褐色、暗灰黄色	橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	普通	
	10	H130 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(15.2)	6.0	16.0		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を多く，小礫2㎜以下を極少量含む	明褐灰色、褐灰色、明黄褐色	明赤褐色、にぶい褐色	やや不良	内外面少し摩耗。外面口縁部、内面赤彩
	11	H130 Po13-3	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部2/5 口縁部一部	(12.6)	4.3	(13.4)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	密	赤色、褐灰色 橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	外面少し摩耗。外面口縁部，内面赤彩
	12	H130 Po10-1	床面直上	土師器	椀 赤彩土器	底部附近		3.8＋			肉厚、丸底。外面凹凸残すナデ、内面雑なナデ。	密	赤褐色、にぶい赤橙色、赤黒色	にぶい赤色、赤色	わずかに不良	わずかに摩耗。雑な作り。内外面赤彩
	13	H130 Po11-2	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5～杯部1/3	(14.8)	10.2	(15.4)	脚径 (9.2)	深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒、小礫4㎜大以下を含む	赤色、赤黒色 暗赤灰色	赤色、にぶい赤褐色	良好	内外面少し摩耗。赤彩
	14	H130 Po23+1	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部4/5～杯部3/5	(12.6)	10.5	(13.7)	脚径 9.6	深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	15	H130 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部4/5～杯部3/5強	(14.4)	10.3	(15.1)	脚径 (9.8)	深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密 小礫1㎜以下が一部入る	灰褐色、にぶい橙色	赤色、灰赤色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	16	H130	覆土	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/2 脚欠損	(14.8)	6.2＋	(15.6)		深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、極暗赤褐色	赤色、極暗赤褐色	普通	内外面赤彩
	17	H130 Po13-9	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	4/5	(12.8)	9.4	13.4		深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	赤色、暗赤色	赤色、にぶい黄橙色	普通	全体にわずかに摩耗。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
169住	18	H130 Po3+18	ほぼ床面＋8	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部欠損	(13.5)	8.8	13.8	脚径(9.7)	深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗だが口唇部磨耗多い。赤彩
	19	H130 Po21+22	ほぼ床面＋13	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5強	12.5	13.0			深い杯部。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む	赤色、極暗赤褐色、褐灰色	赤色、橙色	やや不良	外面摩耗多い、内面わずかに摩耗。赤彩
	20	H130 カマド	カマド燃焼部	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/5～柱状部4/5強～杯部4/5	(15.0)	9.3	15.2	脚径(10.6)	深い杯部、脚裾反りあがる。口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	赤色、極暗赤褐色、赤黒色	赤色、極暗赤褐色	やや不良	脚内面以外は少し摩耗。赤彩
	21	H130 Po2+18	ほぼ床面＋8	土師器	椀形高杯 赤彩土器	わずかに一部欠損	13.2	8.9	13.7	脚径10.0	口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小　礫２㎜以下、褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、明黄褐色	良好	赤彩
	22	H130 Po5+2	ほぼ床面＋12	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5	(13.8)	5.5＋	14.3		口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	赤色、明黄褐色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	23	H130 Po9+13	ほぼ床面＋4	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5強～杯部1/2～口縁部1/4	(15.2)	9.3	15.4	脚径9.2	口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密 褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	赤色、浅黄色	赤色、浅黄色	やや不良	内外面摩耗、杯内面一部剥離。赤彩
	24	H130 Po3+18	ほぼ床面＋8	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部4/5	14.5	5.8＋	14.9		口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。	緻密	赤色、明黄褐色	赤色、明黄褐色	やや不良	外面少し摩耗。赤彩
	25	H130 Po18+10	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/4	(14.2)	5.7＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。外面やや雑な篦ナデ。	小礫１㎜以下を極少量、褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	赤橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色褐灰色、明赤褐色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	26	H130 Po1+11	ほぼ床面＋3	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部 口縁部1/3	(13.5)	5.2＋			口縁内外面および内面ヨコナデ。外面篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量、灰白色粒３㎜大を一部含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、赤灰色にぶい橙色、赤黒色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	27	H130 Po9+13	ほぼ床面＋5	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/3欠損	15.2	9.8		脚径8.7	肉厚。杯部ハの字に開く。口縁内外面ヨコナデ。杯内面篦ナデ、外面凹凸残すナデ。脚柱から裾ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	赤色、暗赤褐色	赤色、浅黄橙色	わずかに不良	外面，杯内面少し摩耗。赤彩
	28	H130 Po5+22	ほぼ床面＋12	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部欠損		4.6＋		脚径(10.0)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	全体摩耗多い。赤彩
170住	1	B H60 Po1-4	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(19.2)	(12.9)			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面丁寧なナデ。	小礫３㎜以下を多く含む	黒褐色、淡黄色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色黒褐色	やや不良	口縁部の内外面少し摩耗
	2	B H60 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/2～胴部1/4		15.8＋		(6.6)	接合段差明瞭。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜大以下を多く含む	にぶい赤褐色黒褐色	にぶい黄橙色黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	H131 Po14+14	覆土＋16	土師器	甕	底部～胴下部1/6		4.4＋		(10.6)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜弱以下を少量含む	灰褐色、にぶい黄橙色、橙色、黒褐色	暗灰黄色、黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H60 Po3+14	覆土＋12	土師器	甕	底部		2.2＋		5.9	外面指頭圧痕。内面ナデ。底部木の葉	小礫１㎜大以下、褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	浅黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	5	H131 Po3+14	覆土＋16	土師器	甕	底部1/2		2.7＋		(6.3)	外面篦ナデ、内面ナデ	密	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄橙色褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	6	H131 Po12+	ほぼ床面＋6	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部片	(14.0)	3.9＋			口縁内外面ヨコナデ、底体部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤色	やや不良	外面少し摩耗。内外面赤彩
	7	H131 Po10+11	ほぼ床面＋5	土師器	杯 赤彩土器	体部～口縁部片	(13.2)	4.1＋	(13.5)		口縁内外面ヨコナデ、底体部外面丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗、内面の口縁部剥離多い。内外面赤彩
	8	B H60 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体上部～口縁部1/4	(15.0)	(3.2)			口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色褐灰色	浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	9	B H60 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体上部一部～口縁部1/6	(14.4)	3.2＋	(15.4)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を含む	淡黄色、浅黄色、灰黄褐色	淡黄色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	10	H131 床	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/3 杯底部		4.0＋		脚径8.7	脚柱から裾までミガキ状の篦ナデ	密	赤色、赤灰色	赤色、赤灰色	わずかに不良	脚外面と杯内面少し摩耗。赤彩
	11	H131 Po8+	ほぼ床面＋8	土師器	高杯	脚部4/5強 杯底部		4.1＋		脚径8.4	脚柱太く裾短い。杯内面光沢有る篦ミガキ。脚柱から裾までケズリ状篦ナデ、	小礫２㎜大以下を含む	にぶい赤褐色暗赤灰色	にぶい褐色、にぶい橙色	やや良好	
	12	H132 Po4+20	覆土	手捏土器	鉢形	底部	(3.8)	1.5			外面粗いミガキ。内面凹凸篦ナデ。	密	浅黄色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	普通	
	13	B H60 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	下部欠損		13.9＋		7.3	側面―円柱状 断面―円	密	にぶい黄橙色灰黄褐色、橙色		不良	
	14	B H60 Po5	床面直上	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.4～3.5cm・高さ3.1cm・孔径0.7cm　30.0ｇ									
	15	H131 上部	覆土	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.4～3.6cm・高さ3.5cm・孔径0.6cm　(36.6ｇ)									
171住	1	B H59 Po1+31	覆土＋23	土師器	甕	底部4/5～胴最下部1/2		5.2＋		(6.6)	外面篦ケズリ、内面雑なナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色明黄褐色、褐灰色	わずかに不良	外面わずかに摩耗、内面剥離多い
	2	B H59 Po1+31	覆土＋23	土師器	甕	底部～胴最下部1/4		3.3＋		(6.0)	外面篦ケズリ、内面雑なナデ。	小礫２㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい黄橙色	普通	
	3	B H59＋H60+	覆土	土師器	鉢 赤彩土器	部分	(16.8)	10.5＋	(17.3)		口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ナデ、外面丁寧なナデ。	密	赤褐色	淡褐色	良好	黒ハン有り。外面口縁部から体中部、内面口縁部赤彩
172住	1	B H63 Po1-3	床面直上	弥生式土器	壺	底部 胴最下部4/5		3.9＋		6.3	外面篦ミガキ。内面摩耗不明。	小礫１㎜大以下を含む	赤色、灰黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色明黄褐色	やや不良	外面一部摩耗、内面摩耗と剥離多い。外面丹塗り
	2	B H63 Po1-3	床面直上	弥生式土器	鉢	胴部片					口縁外面羽状縄文で下端沈線。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色赤褐色	灰黄褐色	わずかに不良	内外面丹塗り
173	1	B H64＋	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文で下端沈線。	褐鉄鉱粒、小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色にぶい赤褐色	にぶい黄橙色	普通	外面丹塗り

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
173 住	2	B H64 Po1	床面直上	弥生式土器	壺	胴部片					上下沈線内に羽状縄文。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	明黄褐色	浅黄橙色	不良	
	3	B H65	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					沈線区画の山形文ない羽状縄文。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内面剥離多い。外面丹塗り
	4	B H64.65	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ6.2cm×5.6cm×4.8cm 26.4g									軽石
	5	B64	覆土	石製品	石皿	完存	長さ13.2cm・幅11.5cm・厚さ5.2cm 817.5g									
174 住	1	B H65 Po23,28 B H64+	床面直上	土師器	甕	底部1/5～胴部2/5～口縁部4/5	15.4	26.0	(16.6)	(5.6)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を含む	黒褐色、にぶい橙色	黒褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗 口縁歪む。
	2	B H65 Po27 Po16	床面直上	土師器	甕	胴中位1/4～胴上部1/2～口縁部4/5	(16.0)	16.2+	(14.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい赤橙色 赤黒色、赤灰色	橙色、褐灰色 灰褐色	普通	
	3	B H65 Po5	覆土 +11	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(13.6)	10.6+			口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ケズリ。	密 褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	4	B H65 Po1	ほぼ床面 +7	土師器	甕	底部～体下部 胴上部～口縁部1/2	(12.6)	13.1	(14.4)	6.1	口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色、褐灰色	褐灰色、灰黄褐色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	B H65 Po6	床面直上	土師器	甑	口縁部片	(26.0)	7.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ケズリ状ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色	普通	
	6	B H65 Po27 Po28	ほぼ床面 +5	土師器	甑	胴下位1/2～胴上部～口縁部1/4	(19.9)	(18.2)	(17.0)	(7.4)	口唇玉状。胴外面凹凸と輪積み残すミガキ状篦ナデ、内面光沢の有るミガキ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	灰褐色、橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 橙色、褐色	やや不良	外面やや摩耗
	7	B H65	覆土	土師器	甕	底部 胴最下部2/5		5.5+			丸底気味。外面篦ケズリ、内面雑なナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、黒褐色、灰褐色	黒褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い。丸底（尖底）
	8	B H65 Po3	ほぼ床面 +7	土師器	甕	底部4/5		2.6+		7.7	平底。摩耗不明。	灰白色粒1㎜大以下を非常に多く含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	黄灰色、浅黄色	不良	内外面摩耗多い
	9	B H65 Po20	P4内	土師器	杯 杯蓋模倣 漆塗り？	3/5強 口縁部2/4	(14.7)	3.7+			内外面ミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	淡黄色、暗灰黄色、黒褐色	黒褐色、にぶい黄褐色	わずかに不良	外面やや摩耗。漆塗り可能性強い。
	10	B H65 Po6 Po23	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣	1/3	(14.0)	4.0			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	密	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	11	B H 64.65 +	覆土	土師器	杯	体部1/3～口縁部一部	(11.1)	4.0			口縁外面ヨコナデ。内面光沢の有るミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	橙色、にぶい橙色、黒褐色	明赤褐色、赤黒色、灰褐色	やや不良	
	12	B H65 Po21	床面直上	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	3/5強 口縁部1/2	(13.5)	3.5	稜部径 (14.2)		口縁内外面シャープなヨコナデ。底部内面丁寧なミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	黒褐色、褐色 橙色	黒褐色、にぶい橙色	普通	内外面少し摩耗。内面黒色処理
	13	B H65 Po17	床面直上	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	わずかに一部欠損	12.4	3.3	稜部径 (13.6)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	黒褐色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色	やや良好	内外面黒色処理
	14	B H65 Po12	床面直上	土師器	杯 杯身模倣 漆塗り？	口縁部一部欠損	(12.9)	3.3	稜部径 14.6		口縁内外面および底体部内面丁寧なミガキ、外面ケズリ残すミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄色、暗灰黄色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	15	B H64 +	覆土	土師器	杯 内黒土器	体上部～口縁部1/4	(13.5)	2.2+	稜部径 (14.5)		口縁内外面シャープなヨコナデ。底体部内面丁寧なミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい橙色	にぶい褐色	普通	外面やや摩耗。外面口縁部、内面黒色処理
	16	B H65 Po24 Po26 +	床面直上	土師器	鉢 漆塗り？	体下部1/4～胴上部～口縁部3/5	(14.4)	9.4+	(14.8)		内外面光沢の有るミガキ。	密	灰褐色、黒褐色、橙色	にぶい黄橙色 褐色、黒褐色	良好	漆塗り可能性強い
	17	B H65 Po4	ほぼ床面 +4	土師器	高杯	脚部3/5～杯底部1/5		3.9+		脚径 (10.5)	杯内面弱いミガキ。脚柱篦ケズリ、裾ヨコナデ。	密	淡黄色、暗灰黄色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	普通	外面と杯内面は摩耗多い
	18	B H65 Po25	覆土 +11	土製品	支脚	両端部欠損		7.5+	5.0		側面一円柱状 断面一円	小礫5㎜弱以下を多く含む	褐灰色、明褐色		やや不良	
	19	B H64 +	覆土	石製品	紡錘車	1/2	推定径3.80～3.90cm・厚さ1.65cm・孔径0.65cm 18.4g									
175 住	1	B H65 Po9 +	床面直上	土師器	甕	胴中位～胴上位1/6～口縁部1/4	(22.1)	11.8+	(18.1)		口縁「コ」字状で口唇部凹状沈線。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	にぶい赤褐色 褐灰色、にぶい橙色	にぶい赤褐色 褐灰色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	B H64 +	覆土	土師器	甕	底部3/5～胴最下部1/4		2.8+		(5.8)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色、灰黄褐色	褐灰色、灰黄褐色	わずかに不良	
	3	B H 64.65 –	覆土	土師器	杯 暗文土器	1/4	(13.5)	3.2		(9.0)	内面底部と体部境明瞭で内面体部斜格子暗文。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密	浅黄橙色、赤橙色、黒褐色	赤色、暗赤灰色	不良	内外面摩耗多い。斜格子暗文
	4	B H65 Po15	カマド右袖上	土師器	杯 暗文土器	1/4	(13.6)	3.8		(9.8)	内面底部と体部境明瞭で内面体部斜格子暗文。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密	褐灰色、橙色 にぶい橙色	灰褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い。斜格子暗文
	5	B H65 Po10	攪乱穴内	土師器	杯	1/4	(14.0)	4.4		(7.2)	平底。口縁外面ヨコナデ。内面光沢の有るミガキ、外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	褐灰色、灰黄褐色、浅黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面の一部スス付着
176 住	1	B H68 Po3 Po4 Po5 Po6	床面直上	弥生式土器	壺	底部 胴下部2/5 胴上部1/4		(23.3+)	(29.5)	7.4	肉薄気味。頸部羽状縄文に下端沈線区画。胴外面ミガキ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	赤褐色、にぶい橙色、暗赤褐色、淡黄色、にぶい黄橙色赤灰色	浅黄色、にぶい黄橙色	普通	外面丹塗り
	2	B H68 Po1	床面直上	弥生式土器	壺	頸部片					下端沈線区画の羽状縄文。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	浅黄橙色、暗赤褐色	淡黄色	不良	外面丹塗り
	3	B H68 Po1	床面直上	弥生式土器	壺	胴部片					上端沈線区画の2段の羽状縄文。	浅黄橙色粒2㎜以下多く含む	淡黄色、暗灰黄色、赤褐色	褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗。外面丹塗り
	4	B H68 +	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文。	密	浅黄色、にぶい橙色	淡黄色	やや不良	内外面やや摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
177 住	1	B H67 Po2	覆土 +14	土師器	甕	胴最上部一部～口縁部1/3	(16.7)	5.7+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒6㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	2	B H67 Po11	ほぼ床面 +4	土師器	甕	底部3/5～胴最下部1/2		2.3+		(6.8)	内面指頭圧痕状のナデ、外面篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色	やや不良	外面少し摩耗
	3	B H67 Po10 +	ほぼ床面 +6	土師器	甕	底部 胴最下部3/5		2.5+		7.4	外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密	灰黄褐色、褐灰色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	普通	内面剥離多い
	4	B H67 Po10	ほぼ床面 +6	土師器	壺？	胴上部1/4～口縁部1/3	(7.6)	5.9+			口縁外面粗いミガキ、内面雑なナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色、灰黄褐色	にぶい橙色、褐灰色、灰黄褐色	普通	
	5	B H67 Po11	ほぼ床面 +4	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部1/3～口縁部一部 底部中央欠損	(12.0)	4.6+			底部突出？内面ナデ、外面篦ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	明赤褐色、灰赤色、浅黄橙色	赤色、淡黄色 灰黄色	やや不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	6	B H67 Po18 Po19	ほぼ床面 +4	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部3/5強 柱状部 杯部2/5～口縁部一部	(14.2)	9.3	(14.5)	脚径 9.7	口縁内外面および内面ヨコナデ。杯外面篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、にぶい赤褐色	赤色、灰赤色 浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	7	B H67 Po5	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾端部欠損		5.3+			脚柱粗い篦ケズリ。	褐鉄鉱粒5㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	赤彩
	8	B H67 Po8	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部3/5～柱状部4/5強		5.0+		脚径 (10.0)	脚柱から裾丁寧な篦ナデ。	緻密	赤色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	外面柱状部摩耗多い。赤彩
	9	B H67 Po14	ほぼ床面 +8	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部2/5～柱状部4/5強		3.9+		脚径 (9.0)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	赤色、暗赤灰色	にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	10	B H67 Po9	ほぼ床面 +5	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/3～柱状部4/5強 杯底部		4.1+		脚径 (9.9)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、灰褐色	赤色、灰褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	11	B H67 Po19	ほぼ床面 +4	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部3/5強～柱状部4/5強		4.1+		脚径 9.8	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒、小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	12	B H67 Po1	ほぼ床面 +5	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部一部～柱状部4/5強		4.7+		脚径 (9.5)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密 褐鉄鉱粒3㎜以下を1ヶ所含む	赤色、にぶい橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	赤彩
	13	B H67 Po6	ほぼ床面 +7	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部3/5強～柱状部 杯底部1/2		5.2+		脚径 9.4	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、にぶい赤褐色	赤色、にぶい赤褐色	わずかに不良	赤彩
	14	B H67 Po7	ほぼ床面 +4	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/6～柱状部3/5		4.7+		脚径 (9.6)	脚柱光沢有る篦ミガキ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい赤褐色、暗赤灰色	にぶい黄橙色	普通	赤彩
	15	B H64 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚柱状部3/5強 裾部欠損		4.1+			脚柱篦ナデ。	密	赤色、暗赤灰色	にぶい黄橙色	普通	外面少し剥離。赤彩
	16	B H65 Po1	ほぼ床面 +5	須恵器	ハソウ	口縁部片					口唇および稜鋭い。口縁と頸部に櫛状工具による波状文。	密	オリーブ黒色	オリーブ黒色 オリーブ黄色	良好	内面自然釉付着
	17	B H67 Po9	ほぼ床面 +4	土製品	土玉	わずかに一部欠損	径3.4～3.5cm・高さ3.4cm・孔径0.7cm (33.7ｇ)									
	18	B H67 Po3	ほぼ床面 +3	土製品	土玉	完形	径3.2～3.3cm・高さ2.9cm・孔径0.8cm 30.4ｇ									
	19	B H67 Po15	ほぼ床面 +6	土製品	土玉	完形	径3.1～3.3cm・高さ3.0cm・孔径0.7cm 28.3ｇ									
178 住	1	B H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴最上部1/4～口縁部1/3	(17.0)	5.8+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	外面やや摩耗
	2	B H66 カマド Po2	ほぼ床面 +4	土師器	甕	胴下部～口縁部1/4	(14.0)	12.4+	(15.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	普通	
	3	B H66 Po1	カマド燃焼部	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部～口縁部1/5 底部中央欠損	(14.0)	4.7+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色	にぶい赤褐色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	4	B H66 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部欠損		4.3+			脚柱丁寧な篦ナデ。	小礫4㎜大以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色		普通	外面少し摩耗。赤彩
	5	B H66 Po3	ほぼ床面 +4	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部一部～脚柱状部 杯底部		4.7+		脚径 (9.2)	脚柱ケズリ状篦ナデ、端部ヨコナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を多く含む	にぶい黄褐色 にぶい橙色	橙色、灰褐色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
180 住	1	B H57 Po26 + Po39	床面直上	土師器	甕	底部1/2～胴下部1/5～胴上部4/5～口縁部4/5強	15.7	23.3	(21.4)	(10.1)	肉厚。口縁外面縦位篦ナデ、内面横位篦ナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫3㎜大以下を少量含む	赤色、暗赤灰色、浅黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	胴部内面摩耗多い
	2	B H57 Po4	床面直上	土師器	甕	胴最上部1/3～口縁部3/5	17.0	6.1+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい橙色、にぶい黄橙色、橙色	にぶい橙色、にぶい黄橙色、橙色	普通	
	3	B H57 Po10	床面直上	土師器	甑？	胴上部1/6～口縁部1/4	(25.2)	9.8+			口縁内外面粗い刷毛目残るヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色、オリーブ黒色	にぶい橙色、橙色	普通	
	4	B H57 Po20	覆土 +17	土師器	小形壺 赤彩土器	体中位一部～体上位1/3～口縁部一部	(10.0)	8.7+	(13.8)		内面口頸部接合痕明瞭。口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位の丁寧な篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を少量含む	赤褐色、赤黒色、浅黄色	にぶい赤褐色 浅黄色、暗灰黄色	普通	内面口縁部、外面赤彩
	5	B H57 Po18	ほぼ床面 +7	土師器	椀形杯 赤彩土器	一部	(13.8)	5.4	(13.9)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい赤褐色	やや不良	内外面摩耗多い、特に外面著しい。外面口縁部、内面赤彩
	6	B H57 Po33	覆土 +27	土師器	椀 赤彩土器	1/2 底部中央欠損	(13.7)	5.4+	(14.0)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	赤色、赤黒色 にぶい黄橙色	赤色、赤褐色	普通	内外面わずかに摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	7	B H57 Po4	床面直上	土師器	高杯？ 赤彩土器	1/4 底部欠損	(15.6)	4.8+	(15.9)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧なミガキ状篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、明褐灰色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	8	B H57 Po6	ほぼ床面 +3	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/2	13.2	5.0+	13.6		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	赤色、暗赤灰色、明黄褐色	赤色、暗赤灰色、明黄褐色	普通	内外面やや摩耗。赤彩
	9	B H57 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯	杯部4/5強	15.2	6.7+			内外面摩耗不明。	小礫2㎜弱以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色、にぶい褐色、灰褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗著しい
	10	B H57 Po17	ほぼ床面 +8	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部 杯底部一部		5.1+		脚径 (9.2)	杯内面ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	赤色、灰赤色	赤色	普通	赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
180住	11	B H57 Po31	覆土 +19	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		4.2+		脚径 8.8	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	にぶい赤褐色 明赤褐色、灰赤色、暗赤灰色		普通	赤彩
	12	B H57 Po35	覆土 +14	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部3/5強		4.4+		脚径 7.9	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を極少量含む	赤色、赤褐色	赤色	普通	外面やや摩耗。赤彩
	13	B H57 Po17	ほぼ床面 +8	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部一部		4.7+		脚径 (8.3)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫、褐鉄鉱粒１㎜大以下を少量含む	赤色、赤灰色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	14	B H57 Po2	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部欠損		5.0+			脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、灰赤色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	赤彩
	15	B H57 Po24	覆土 +21	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5強		1.7+		脚径 (9.0)	脚裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を極少量含む	赤褐色、灰赤色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや良好	赤彩
	16	B H57 Po23	床面直上	土製品	土玉	完形	径3.7～3.8cm・高さ3.6cm・孔径0.8cm　46.1ｇ									
	17	B H57 Po9	覆土 +23	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.4～3.5cm・高さ3.3cm・孔径0.6cm　38.4ｇ									
181住	1	B H51 Po7	床面直上	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/2	(16.4)	8.8+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデで頸部内面ケズリ状篦ナデ。	密	灰黄褐色	灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	
	2	B H51 +	覆土	土師器	杯 内黒土器	1/3 底部欠損	(14.8)	3.8+	(13.2)		口縁部外傾して内湾気味で稜鋭い。口縁内外面ヨコナデ。底体部内面ミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	緻密	明褐色、黒褐色	黒褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面底部除き内外面黒色処理
	3	B H51 張り出し	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣内黒土器	4/5強 底部欠損	15.4	3.7+			口縁部外傾して内湾気味で稜鋭い。口縁内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	黒色、にぶい赤褐色、暗赤褐色	黒色、にぶい黄橙色	良好	内外面黒色処理
	4	B H51 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部1/3	(13.6)	3.1+	(14.4)		口縁外面ヨコナデ、内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ケズリ残る篦ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を含む	黒褐色、灰黄褐色	黒褐色	やや不良	内面黒色処理？
	5	B H51 Po8	壁溝+7	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2	(13.2)	3.2			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 にぶい橙色、褐灰色	灰黄褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗、内面一部剥離。口縁部附近内外面赤彩
	6	B H51 +	覆土	土師器	杯 赤彩土器	一部	(14.9)	4.4+	(15.1)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	小礫３㎜以下、褐鉄鉱粒６㎜以下を極少量含む	赤色、赤黒色 にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面摩耗多い。内外面赤彩
	7	B H51 Po9	ほぼ床面 +5	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部3/4欠損		4.5+		脚径 (11.2)	脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	赤色、にぶい橙色、灰褐色	褐灰色	やや不良	外面摩耗多い。赤彩
	8	B H51 Po5	床面直上	土師器	鉢 赤彩土器	底部 胴最下部4/5		3.8+		6.1	外面篦ケズリ、内面篦ナデ残すナデ。	密	浅黄橙色、にぶい黄橙色、赤褐色	にぶい黄橙色 にぶい赤褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗。外面一部、内面赤彩
	9	B H51	覆土	土製品	支脚	基部		10.9+	7.8		側面―円柱状 断面―円	密	にぶい黄橙色 褐色		やや不良	
	10	B H51 Po6	覆土	土製品	支脚	一部					側面―？ 断面―？	褐鉄鉱粒２㎜大以下、小礫１㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黄褐色		普通	
	11	B H51 Po6 +	覆土 +10	手捏土器	鉢形	底部 体部2/5～口縁部一部	(7.7)	4.4		5.2	内面指頭圧痕状のナデ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	暗灰黄色、浅黄色	暗灰黄色、浅黄色	普通	
	12	B H51 Po2	床面直上	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.1～3.3cm・高さ2.6cm・孔径1.2cm　22.2ｇ									
	13	B H51	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ2.4cm×1.5cm×2.0cm　2.1ｇ									
182住	1	B H56 Po3	床面直上	弥生式土器	甕	上半3/4	(21.0)	12.1+			口唇刻み。外面薄い刷毛ナデ、内面刷毛ナデ	小礫１㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	2	B H56 Po3 Po4 Po6	床面直上	弥生式土器	甕	下半1/3		12.8+	(21.9)	(7.0)	外面ミガキ状の篦ナデ、内面ミガキ？	小礫１㎜以下を多く含む	灰黄色、暗赤褐色	灰黄色、にぶい橙色	やや不良	外面やや摩耗、内面剥離著しい
	3	B H56 Po1	床面直上	弥生式土器	壺	頸部片					羽状縄文、上端結節縄文	密	にぶい黄橙色 にぶい赤褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	外面丹塗り
	4	B H56 Po5	床面直上	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文。	密	にぶい黄橙色	橙色	やや不良	
	5	B H56 Po5	床面直上	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文。	密	にぶい黄橙色	にぶい橙色	やや不良	
	6	B H56 Po2	床面直上	弥生式土器	鉢	底部1/4		4.4+		(5.6)	内外面ミガキ状篦ナデ。	小礫２㎜以下を含む	浅黄橙色、褐灰色	赤橙色、赤黒色	わずかに不良	内外面やや摩耗。内面丹塗り
	7	B H56 Po1	床面直上	石製品	叩き石 ハンマー型	一部欠損	大きさ4.5cm×8.3cm×7.5cm　356.0ｇ									
183住	1	B H52 Po1 Po5	床面直上	弥生式土器	鉢	口縁部1/4	(21.0)	6.1+			複合口縁。口唇縄文。口縁外面と体部上半１段の羽状縄文。体部下端結節文。内面丹塗りでミガキ。	小礫３㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 明黄褐色、赤色、褐灰色	赤色、暗赤褐色	やや良好	内外面丹塗り
	2	B H52 Po8	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚柱状部～杯底部3/5強		4.4+			脚柱外面篦ナデ。	小礫１㎜以下、褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面少し、杯部内面多く摩耗。赤彩
184住	1	B H53 Po1	ほぼ床面 +3	弥生式土器	壺	底部4/5～胴下部1/2		6.9+		(5.8)	内外面篦ミガキ。	小礫２㎜大以下を含む	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	浅黄色、黒褐色	普通	
	2	B H53 +	覆土	土師器	台付甕	脚部1/4		6.3+		(10.7)	外面刷毛目。内面丁寧なミガキ状篦ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	灰黄褐色	橙色、にぶい橙色	普通	
	3	B H53 Po2	ほぼ床面 +5	石製品	磨石	完存	長さ11.5cm・幅7.5cm・厚さ7.6cm　130.5ｇ									
	4	B H53 Po3	遺構外	石製品	磨石	完存	長さ7.2cm・幅6.1cm・厚さ3.8cm　27.7ｇ									
185住	1	B H54 +	覆土	土師器	深鉢	底部1/4		3.0+		(6.8)	外面ミガキ状の篦ナデ。	密	灰黒色	灰黒色	普通	
	2	B H54 +	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/4		3.3+			内面丁寧ナデ。外面丁寧な篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	普通	内外面わずかに摩耗。少し厚手。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
185住	3	BH54+	覆土	土師器	高杯	脚下部1/3		2.3+		脚径(8.6)	脚柱。裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下極少量、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色にぶい赤褐色	にぶい黄橙色灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
186住	1	BH55Aカマド	炉跡	土製品	炉器台	一部	(14.2)	3.6+	(5.6)		内外面指状圧痕。	小礫と褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色灰黄褐色	褐灰色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	2	BH55BPo2	炉跡	石製品	叩き石	完存	長さ9.0cm・幅6.2cm・厚さ4.9cm　373.3ｇ									
187住	1	BH55APo2カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部胴部4/5強～口縁部3/5強	16.9	25.9	17.9	7.2	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半箆ケズリ、下半箆ナデ。内面ナデ。	小礫3㎜以下を極少量含む	褐灰色、灰黄褐色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	外面やや摩耗、内面剥離多い。
	2	BH55Aカマド Po1-4	カマド燃焼部	土師器	甕	4/5	13.2	15.3	14.1	6.8	口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状箆ナデ、内面布ナデ	小礫3㎜大以下を極少量含む	褐灰色、黒褐色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	BH55APo3+12	覆土＋12	土師器	甕	底部胴下部1/3		13.8+		9.2	肉薄気味。底部盤状で僅かに突出。外面シャープな箆ケズリ。内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒3㎜以下と小礫3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色赤色、橙色	にぶい黄橙色橙色	やや不良	外面一部、内面全体剥離
	4	BH55+	覆土	土師器	杯杯蓋模倣	体上部～口縁部片	(14.4)	3.5+			内外面ミガキ。	密	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面赤彩？
	5	BH55カマドPo2	カマド燃焼部	土師器	杯	4/5強	(13.9)	4.6			口縁部内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面ミガキ状の箆ナデ。	密	黒褐色、にぶい黄橙色、にぶい赤褐色	褐灰色、にぶい黄橙色、赤褐色	普通	
188住	1	BH8	覆土	弥生式土器	深鉢	底部1/4		1.7+		(5.6)	外面刷毛目。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	BH8	覆土	弥生式土器	鉢？	胴部片					羽状縄文。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	赤色	普通	内面丹塗り
189住	1	BH7Po3	床面直上	土師器	甕	底部1/3～胴部3/5強～口縁部4/5強	19.1	34.3	32.7	(8.1)	口唇玉状。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面上半箆ミガキ、下半ケズリ状箆ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい赤褐色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	外面一部摩耗と剥離、内面口縁部少し摩耗、他は剥離多い
	2	BH7	P5内	土師器	鉢	底部～胴下部胴上部1/2～口縁部1/4	(12.2)	13.0	(13.5)	5.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面箆ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色、暗赤灰色	灰褐色、褐灰色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	3	BH7Po7	床面直上	土師器	甕	底部胴下部1/4		12.8+		5.7	底部線刻「×」記号。外面シャープな箆ケズリ、内面接合残すナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい赤褐色暗赤褐色、褐灰色	褐灰色、にぶい橙色	やや良好	底部焼成前線刻「×」記号。
	4	BH7Po7Po8Po6	床面直上	土師器	甕	底部胴下部2/5		13.4		5.9	外面シャープな箆ケズリ、内面接合残す粗い刷毛ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい赤褐色褐灰色	にぶい赤褐色灰褐色、黒褐色	やや良好	
	5	BH7Po4	床面直上	土師器	椀	ほぼ完形	13.1	6.6	14.0		口縁内外面および内面雑なヨコナデ。底体部外面粗い箆ケズリ残す箆ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	内面の底部やや摩耗
	6	BH7Po2	床面直上	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部2/5杯部1/6	(13.9)	9.5		脚径(8.6)	口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。脚柱箆ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。脚内面、内外面赤彩
	7	BH7	P5内	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚裾部4/5強欠損杯口縁部一部欠損	12.6	9.1		脚径(11.0)	口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。脚柱箆ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい橙色、赤黒色	赤色、橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗、杯内面一部剥離。赤彩
	8	BH7	P5内	土師器	椀形高杯赤彩土器	脚部3/5強～杯部1/2	(14.2)	9.9		脚径(10.0)	口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。脚柱箆ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を含む	赤色、灰赤色浅黄橙色	にぶい橙色、赤灰色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	9	BH7Po2	床面直上	土師器	椀形高杯赤彩土器	杯部3/5脚欠損	14.0	5.4+	14.1		口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	10	BH7+	覆土	土師器	椀形高杯赤彩土器	杯部1/3脚欠損	(14.3)	4.6+			口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗、特に外面多い。赤彩
	11	BH7	P5内	土師器	椀形高杯赤彩土器	杯部4/5強脚欠損	15.7	5.6+			口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。外面箆ナデ。	密	赤色、暗赤灰色	赤色、浅黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	12	BH7Po1	床面直上	土師器	椀形高杯	杯部3/5	15.4	5.1+			口縁外内面および内面ヨコナデ。杯外面箆ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	13	BH7Po3+	床面直上	土師器	高杯	脚部裾部1/4		4.1+		脚径9.5	脚柱箆ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色浅黄橙色	やや不良	外面摩耗多い。
	14	BH7Po10	床面直上	ミニチュア土器	壺形赤彩土器	3/5口縁部1/5	(4.1)	5.4	5.4	2.9	外面ケズリ状箆ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤褐色、灰黄褐色、にぶい黄橙色	赤褐色、灰赤色黒褐色	普通	外面と口縁内面赤彩
	15	BH7Po1	床面直上	ミニチュア土器	壺形	1/4底部中央欠損		3.3+	(3.8)	2.4+	ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	16	BH7Po8	床面直上	土製品	丸玉	完形	径1.28～1.30cm・厚さ1.22cm・孔径0.10～0.25cm　2.135ｇ									
	17	BH7Po5	床面直上	土製品	丸玉	わずかに一部欠損	径0.98cm・厚さ0.78cm・孔径0.15～0.20cm　(0.698ｇ)									
190住	1	BH6+	覆土	須恵器	杯身	1/2底部中央欠損	(11.8)	3.8	稜部径(13.8)		口縁短く内傾、受部稜やや鋭い。内外面ロクロナデ。底体部外面回転箆ケズリ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰色	灰色	普通	TK209～TK217型式
	2	BH6+	覆土	土師器	杯漆塗り	体部3/5～口縁部1/3	15.3	4.0			口縁外面シャープなヨコナデ。内面光沢有るミガキ、底体部外面ヘラケズリ残すミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色褐灰色、黒褐色	普通	内外面漆塗り。
	3	BH6+	覆土	土師器	杯有段口縁杯	体上部～口縁部1/4	(12.6)	3.4+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面箆ケズリ。	小礫1㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色	橙色、灰褐色	やや不良	内面わずかに摩耗
	4	BH6+	覆土	土師器	杯有段口縁杯	体上部～口縁部1/6	(12.6)	3.7+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面箆ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	にぶい黄橙色褐灰色	にぶい黄褐色灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
190 住	5	B H6 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	一部	(15.0)	3.2+	稜部径 (15.8)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ミガキ状篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	6	B H6 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体部～口縁部1/6	(14.6)	4.3+	稜部径 (16.0)		口縁外面ヨコナデ。底体部外面ミガキ状篦ナデ、内面光沢有るミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	
191 住	1	B H28 +	覆土	弥生式土器	蓋	鈕部分					断面カマボコ状で2孔を有す。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい橙色、灰褐色	明赤褐色	普通	
	2	B H28	覆土	弥生式土器	台付鉢	台部		5.6+		(8.3)	底部凹状。裾部複合口縁状で刻み。	密	赤色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面丹塗り
192 住	1	B H28A Po3	床面直上	土師器	甕	底部1/2～胴下部3/5強～胴上部2/5～口縁部1/3	(13.9)	24.0	(24.3)	(8.3)	口唇僅かに玉状で短く立つ。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	橙色、暗褐色 赤褐色	にぶい橙色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	B H28A Po3	床面直上	土師器	甕	胴下部1/2～胴上部3/5強～口縁部3/5	(16.0)	23.4+	(24.4)		口縁短く立ち僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい橙色、黒褐色	にぶい橙色、黒褐色	やや不良	外面やや摩耗
	3	B H28 +	覆土	土師器	甕	胴中位一部～胴上 部1/4～口 縁部一部	(21.2)	16.0+	(22.8)		口唇僅かに玉状で口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内面の一部剥離
	4	B H28 Po13	P1内	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部1/3	(21.0)	8.4+			肉厚。口唇玉状。口縁内外面ヨコナデで頸部外面施圧痕。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	密	にぶい黄橙色 赤色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	
	5	B H28A Po3	床面直上	土師器	甕	底部 胴最下部3/5		2.4+		7.5	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	6	B H28 Po4 +	壁溝内	土師器	甑	下端孔部1/2～体部3/5～口縁部1/2	(18.5)	12.1		(6.4)	肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面凹凸残す篦ケズリ、内面雑な篦ナデ。	小礫6㎜大以下を多く含む	明赤褐色、にぶい黄橙色	明赤褐色、にぶい赤褐色	普通	内外面やや摩耗
	7	B H28A Po8	ほぼ床面 +8	須恵器	杯身	4/5	10.4	5.0	稜部径 12.3		口唇内面凹状。受部稜やや鈍い。内外面ロクロナデ。底体部外面大きく回転篦ケズリ。	小礫、灰白色粒4㎜以下を多く含む	灰色	灰色	良好	TK47～MT15型式
	8	B H28 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部1/2	(14.1)	4.2+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	暗赤褐色	暗赤褐色	良	内外面赤彩
	9	B H28 B H28A B H28B	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5	(14.7)	5.9	(15.6)	(4.4)	口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ、内面放射状暗文風ミガキ。	小礫2㎜大以下を含む	暗赤褐色、赤黒色、赤褐色	赤色、暗赤褐色、赤黒色	やや不良	内外面やや摩耗、内面剥離多い。外面口縁部、内面赤彩
	10	B H28A Po10	床面直上	土師器	大形模倣杯 漆塗り	体部～口縁部片	(14.5)	5.1+	(15.3)		内外面光沢有るミガキ。	密	灰黄色	黒褐色、明褐色	普通	内外面漆塗り
	11	B H28 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣 漆塗り	1/3	(14.8)	4.3+			内面光沢の有るミガキ。口縁外面やや雑なミガキ。底体部外面雑な篦ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	褐灰色	褐灰色	わずかに不良	内面および口縁外面漆塗り。
	12	B H28 +	覆土	土師器	椀	1/5	(11.7)	7.0+	(13.2)		外面摩耗不明。内面弱いミガキ。	密	淡黄褐色	淡黄褐色	普通	外面摩耗
	13	B H28 Po7 +	ほぼ床面 +7	土師器	椀	1/2	(14.5)	9.0	(16.0)		摩耗不明。	小礫2㎜大以下を含む	暗赤灰色、明褐灰色	灰黄褐色、赤橙色	不良	内外面摩耗、剥離著しい
	14	B H27	覆土	かわらけ	杯	底部1/2～体部～口縁部1/4	(7.0)	2.0+		(4.6)	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	密	褐灰色	褐灰色、灰黄褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗、外面一部剥離
	15	B H28 +	覆土	土製品	支脚	基部一部		6.8+			側面一円錐台？ 断面一円形	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 明黄褐色		やや不良	
	16	B H28A Po1	床面直上	石製品	砥石	1/2	現存長7.7cm・幅4.0cm・厚さ3.6cm　172.3ｇ									
	17	B H28	覆土	石製品	相孔円盤	1/2	推定径(2.3)～2.65cm・厚さ0.4cm・孔径0.25～0.30cm　2.7ｇ									
	18	B H28 +	覆土	鉄製品	釘	ほぼ完存	長さ8.1cm・径1.1cm×1.1cm　40.8ｇ									
193 住	1	B H28B Po4	床面直上	土師器	椀形杯	わずかに一部欠損	14.4	4.6			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、にぶい赤褐色 橙色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗
	2	B H28B Po3	ほぼ床面 +5	土師器	杯	口縁部2/3欠損	(14.3)	5.9			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい橙色、明赤褐色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	3	B H28B Po6	ほぼ床面 +5	土師器	杯	口縁部3/5強欠損	11.7	4.4		6.2	平底。口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。外面輪積み残す篦ナデ。底部木の葉。	密	浅黄橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H28B Po5+14	覆土 +15	土師器	鉢	口縁部1/3欠損	(8.4)	5.6	9.4	5.7	平底気味。口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ミガキ状篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	5	B H28 +	覆土	土師器	甕 発泡土器	胴上部～口縁部					全体に気泡状の吹き出しが観察される。		灰褐色、灰赤色、淡赤橙色 赤灰色	灰褐色、灰赤色、淡赤橙色 赤灰色		胴上部～口縁部（口唇部なし）が高温により溶解癒着した
194 住	1	B H29 Po4	床面直上	弥生式土器	甕	胴下部一部～胴上 部2/5～口 縁部1/3	(24.6)	20.5+	(23.8)		口縁刻み。口頸部外面強いミガキ状篦ナデ、内面刷毛目。胴外面ミガキ状篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	明黄褐色、にぶい黄橙色、橙色	明黄褐色、にぶい黄橙色、橙色、浅黄色	やや不良	内外面一部摩耗
	2	B H29 Po2	ほぼ床面 +3	土師器	甕	口縁部1/3	(14.6)	5.4+			口縁口縁押捺で波状。口縁外面篦ミガキ、内面篦ミガキ。	小礫1㎜以下を多く含む	黒褐色、橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	
	3	B H29 + Po1 Po2	床面直上	弥生式土器	壺	胴最上部1/3～頸部1/2～口縁部1/4	(12.2)	9.1+			複合口縁。口唇縄文。口唇円形浮文。頸部下端沈線仕切の羽状縄文。内面ミガキ。	小礫、浅黄橙色粒1㎜大以下を含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、赤色	やや不良	内外面やや摩耗。内面口縁部丹塗り
	4	B H29 Po2 Po3	床面直上	弥生式土器	壺	胴上部1/2～頸部3/5		13.4+			頸部下端に1段、胴上半に1段半の沈線仕切の羽状縄文帯。	黄橙色粒2㎜以下を多く含む	暗赤色、にぶい黄橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、明褐色	やや不良	外面摩耗多い。内面頸部、外面丹塗り
	5	B H29 Po8 +	床面直上	弥生式土器	壺	底部3/5～胴下部1/2		6.7+		6.0	外面篦ミガキ。内面篦ナデ。	浅黄橙色粒1㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	浅黄橙色、淡黄色、灰黄色	やや不良	胴中位内外面丹塗り

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
194住	6	B H29 Po1 Po2 Po8	床面直上	弥生式土器	壺	底部 胴下部3/5強		10.4＋		8.9	外面弱い篦ミガキ。内面ミガキ状篦ナデ。	密	赤色、浅黄色 にぶい黄橙色	浅黄色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。胴中位外面丹塗り
	7	B H31 ＋	覆土	土師器	壺	下半2/3		7.8＋		6.2	外面ケズリ残すミガキ状篦ナデ、内面輪積み残す雑なミガキ状篦ナデ。	砂粒含む	暗茶褐色	暗茶褐色	良	
195住	1	B H32 焼土内	焼土内	弥生式土器	深鉢	体上部～口縁部1/5	(15.0)	11.7＋	(14.1)		口縁押捺波状。外面ミガキ。内面ミガキ状篦ナデ。	小礫１㎜弱以下を含む	黒色	にぶい黄色、灰黄褐色	普通	
	2	B H32	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					複合口縁で口縁押捺波状。口唇部縄文	浅黄橙色粒２㎜以下を多く含む	にぶい橙色	にぶい橙色	やや不良	
	3	B H32 ＋ Po2	ほぼ床面＋5	弥生式土器 弥生中期	甕	口縁・胴部片					複合口縁で押捺で波状。外面刷毛目に羽状条痕文。	密	橙色、にぶい橙色	灰褐色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面剥離多い
	4	B H32 ＋	覆土	弥生式土器 弥生中期	甕	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面ミガキ状。	密	灰褐色、にぶい褐色、にぶい橙色	灰褐色、黒褐色	少し良好	内外面一部剥離
	5	B H32 ＋	覆土	弥生式土器 弥生中期	甕	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面ミガキ状。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや良好	
	6	B H32 ＋	覆土	弥生式土器 弥生中期	甕	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面刷毛目。	小礫３㎜大以下を少量含む	黒褐色、にぶい黄褐色	黄灰色、にぶい黄色	やや良好	
	7	B H32 ＋	覆土	弥生式土器 弥生中期	甕	胴部片					外面刷毛目	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	8	B H32 Po8	床面直上	弥生式土器	壺	頸部3/5		11.2＋			頸部沈線仕切内に１段半の羽状縄文。頸部外面縦位の篦ミガキ、内面ミガキ状篦ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む	暗赤褐色、にぶい黄橙色	赤褐色、にぶい赤褐色	やや良好	
	9	B H32 Po5	床面直上	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文と沈線区画。外面無文帯ミガキ。内面ナデ。	浅黄橙色粒１㎜以下を含む	灰褐色、赤色 赤黒色	にぶい赤褐色 暗赤灰色	わずかに良好	外面丹塗り
	10	B H32 ＋	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					羽状縄文と沈線区画。	小礫、褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	浅黄色、黄灰色	浅黄色、にぶい黄色、暗灰黄色	不良	
	11	B H32 Po4	ほぼ床面＋7	弥生式土器	壺	胴部片					山形文内に羽状縄文。	小礫１㎜以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、にぶい赤褐色	淡黄色	やや不良	外面丹塗り
	12	B H32 ＋	覆土	弥生式土器	壺	胴部片					沈線重区画内赤彩ミガキ	密	にぶい黄橙色 赤色	にぶい黄橙色	やや良好	外面丹塗り
	13	B H32 ＋	覆土	弥生式土器	台付鉢	台片				(10.0)	刻みと羽状縄文。	浅黄橙色粒、褐鉄鉱粒１㎜弱以下を少量含む	黒褐色、赤褐色	黒褐色、浅黄色	わずかに不良	外面丹塗り
	14	B H32 ＋	覆土	弥生式土器	台付鉢	台片				(11.2)	刻みと羽状縄文。	淡黄色粒１㎜大以下を含む	黄灰色、にぶい黄灰色、橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	外面丹塗り
	15	B H32 ＋	覆土	弥生式土器	台付鉢	台片				(9.9)	刻みと羽状縄文。	浅黄橙色粒１㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	外面丹塗り
196住	1	B H31 Po2	ほぼ床面＋3	土師器	甕	胴下部1/5～胴上部2/5～口縁部3/5 底部欠損	15.0	19.6＋	(18.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	明黄褐色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面摩耗、内面少し剥離
	2	B H31 Po2	ほぼ床面＋3	土師器	杯 赤彩土器	3/5強	12.9	3.6	稜部径14.2		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	浅黄橙色、灰黄褐色、赤色	やや不良	内外面やや摩耗。内外面赤彩
	3	B H31 Po3	ほぼ床面＋6	土師器	杯	1/3	(14.0)	4.4			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 暗灰黄色	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	内面やや剥離。内面わずかに赤い顔料付着
197住	1	B H30	覆土	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面刷毛目多く残すナデ。	小礫１㎜以下を多く含む。灰白色粒目立つ	灰色、灰オリーブ色	灰色、浅黄色	やや良好	
	2	B H30 Po2	ほぼ床面＋3	土師器	甕	底部～胴下部2/5～胴中部3/5強～胴上部1/2～口縁部1/3	(27.7)	26.0	(21.8)	(8.1)	口縁大きく外反して歪む。口縁内外面ヨコナデ。外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫７㎜以下を含む	暗赤灰色、赤黒色、赤色、橙色	にぶい橙色、黒褐色	普通	内外面やや剥離
	3	B H30 Po4	床面直上	土師器	杯	底部1/2～体部～口縁部1/3 底部中央欠損	(14.1)	4.0		(8.2)	口縁外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。内面丁寧なミガキ。	密	にぶい黄橙色 にぶい橙色	にぶい黄橙色 にぶい橙色	やや不良	内面やや摩耗
	4	B H30 Po5	床面直上	石製品	紡錘車	完存	径4.03cm～4.15cm・厚さ1.5cm・孔径0.59cm　37.2ｇ									
	5	B H30 Po1	床面直上	土製品	丸玉	ほぼ完形	径0.85cm・厚さ0.52cm・孔径2.50～3.50cm　0.356ｇ									
196住上層	1	B H31 Po1	掘り込み	土師器	甕	底部3/5強～胴下部1/3～胴上部1/5～口縁部1/2	(23.2)	26.4	(20.8)	(5.7)	極肉薄。口縁端部僅かに内湾。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位の鋭い篦ケズリ、内面ナデで接合面残す。	小礫２㎜以下を含み、褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	黒褐色、灰黄色、橙色、褐灰色、にぶい橙色	明赤褐色、暗赤褐色、にぶい橙色、暗赤灰色	やや良好	内面底部～胴下部に剥離多い
	2	B H29 Po5 Po6 ＋	194住覆土	土師器	甕？	底部3/5強～胴下部1/3		7.9＋		7.1	内面篦ナデ。内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	灰黄褐色、黒褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	3	B H31 Po1	住居内掘り込み	土師器	甕	底部1/3～胴下部2/5 底部中央欠損		6.6＋		(6.0)	肉薄。外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を含む	黒褐色、にぶい黄橙色、橙色	にぶい橙色、褐灰色	普通	内面剥離多い
	4	B H31 Po1	掘り込み	土師器	杯	1/6	(14.6)	3.5		(9.2)	口縁外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。内面丁寧なミガキ。	緻密	明褐色	明褐色	良好	
	5	B H31 Po1	掘り込み	土師器	杯 暗文土器	1/3 底部中央欠損	(14.0)	4.5		(9.0)	口縁外面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。内面弱いミガキ。	密	にぶい黄橙色 明赤褐色	にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面摩耗多い。斜格子暗文？

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
196 住 上層	6	B H30 +	覆土	土師器	杯	1/4 底部中央欠損	(14.0)	2.8		(9.2)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。内面体部斜格子暗文薄く残る。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗著しい
	7	B H31 Po1	掘り込み	土師器	杯 暗文土器	1/3 底部中央欠損	(16.0)	4.0		(10.6)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。内面体部斜格子暗文薄く残る。	小礫、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色、橙色	橙色、にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗。格子状暗文
198 住	1	B H33 +	覆土	土師器	椀形杯？ 赤彩土器	口縁部片	(14.6)	3.8+	(16.0)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ,内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を多く含む	浅黄橙色、明赤褐色	にぶい赤褐色 灰赤色	不良	内外面赤彩
	2	B H33 Po4	床面直上	須恵器	コップ	底 部2/5～体 最下部1/3 底部中央欠損		3.5+		(7.6)	体部下端回転篦ケズリ、内面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	密	暗灰色	暗灰色	良好	
199 住	1	B H34 Po8	P内	土師器	甕	胴上部一部～口縁部1/4	(16.0)	9.2+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 明赤褐色、灰黄褐色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	2	B H34 Po7	床面直上	須恵器	甕	胴部片					外面交差する平行叩き目、内面凹凸残す同心円文。	灰白色粒1㎜大以下を極少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色、灰白色	良好	
	3	B H34		土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/4	(13.6)	4.4+	(14.0)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	赤色、灰黄褐色、黒褐色	赤色、にぶい橙色、浅黄橙色	やや良好	赤彩
	4	B H34 Po6	ほぼ床面 +6	土師器	高杯 赤彩土器	脚部		7.3+		脚径 12.2	脚柱丁寧なナデ、裾ヨコナデ。	小礫2㎜弱以下を極少量含む	赤色、橙色	にぶい橙色	少し良好	赤彩
200 住	1	B H35 Po1	P5内	土師器	壺	口縁部1/4	(13.2)	2.8+			外面輪積み残すヨコナデ。	密	黄灰色、黒褐色、浅黄色	黄灰色、黒褐色、浅黄色	普通	内面一部剥離
	2	B H35 Po3 B H39+ B H46+	ほぼ床面 +3他	須恵器	高杯形器台	部分	(37.8)	(33.3)		(28.0)	杯部口縁直下と下半に櫛状工具による波状文、下端刻み目のある平行叩き目？脚2段三角形透かしで上半と下半にそれぞれ櫛状工具による2段の波文を描く。	砂粒多く含む	浅黄色、灰色	灰色	良好	接合しない土器片5点
	3	B H35 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部1/6	(13.0)	4.4+	(13.2)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	赤色粒含む	淡黄褐色	淡黄褐色	普通	内外面剥離。外面体中部～口縁部、内面赤彩
	4	B H35 Po7	P1他	土師器	椀 赤彩土器	体上部～口縁部1/3	(15.0)	3.4+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	明赤褐色、橙色、にぶい褐色、暗赤灰色	明赤褐色、にぶい褐色、赤灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗、内面一部剥離。内外面赤彩
201 住	1	B H36 Po10 カマド	カマド左ソデ床	土師器	甕	胴上部1/4	(17.7)	8.8+	(24.4)		摩耗不明。	密	橙色、にぶい黄橙色、赤橙色	にぶい橙色、橙色	やや不良	外面摩耗激しい。疑似口縁
	2	B H36 カマド	カマド燃焼部	土師器	有段口縁杯	1/3	(13.4)	3.9			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面弱いミガキ。	小礫3㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色、黒褐色	橙色、暗赤灰色	やや不良	内外面摩耗、特に内面剥離
	3	B H36 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯 内黒土器	1/2 底部中央欠損	(13.8)	4.1			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰褐色、にぶい黄橙色	黒色、灰褐色 にぶい黄橙色 橙色	やや不良	内外面やや摩耗。口縁外面に有段口縁杯を意識した沈線が回る。
	4	B H36 Po10	床面直上	土師器	杯	1/3	(13.4)	4.1+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を多く含む	浅黄橙色、にぶい黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	B H36 カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢	1/3 底部～体下部欠損	(12.3)	8.1+	(14.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	浅黄色、黄灰色	灰黄褐色、明黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H36 Po8	床面直上	石製品	叩き石 ハシマー型	1/2強	大きさ8.0cm×9.3cm×7.2cm 784.7ｇ									
	7	B H36 Po7	床面直上	石製品	磨石	一部	現存長9.1cm・幅4.8cm・現存厚3.1cm 226.4ｇ									
	8	B H36 +	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ6.5cm×4.0cm×3.2cm 11.9ｇ									
202 住	1	B H37 Po2 P-56	P4内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5～杯部4/5強～口唇部1/2	(14.4)	9.7	14.8	脚径 8.9	口縁内外面ヨコナデ。杯内面弱いミガキ。外面丁寧な篦ナデ。脚柱ミガキ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下、小礫1㎜大以下を極少量含む	赤色、浅黄色	赤色、浅黄橙色	やや良好	内外面わずかに摩耗、杯内面剥離多い。赤彩
	2	B H37 Po2 P-56	溝内	土師器	高杯 赤彩土器	わずかに一部欠損	13.8	11.8		脚径 11.1	杯部および脚歪む。口縁内外面ヨコナデ。杯内面ミガキ状篦ナデ。外面丁寧な篦ナデ。脚柱雑な篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、暗赤灰色、浅黄色	赤色、浅黄色	やや良好	杯部内外面わずかに摩耗。赤彩
	3	B H37	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部1/2		4.2+		脚径 (10.4)	脚柱雑な篦ナデ。	微砂粒含む	赤褐色		普通	赤彩
	4	B H37溝 Po1-32	溝内	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5強 脚裾部1/3欠損		4.0+		脚径 9.2	脚柱丁寧な篦ナデ。裾ヨコナデ。	密	赤色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	5	B H37 +	覆土	石製品	砥石	一部	現存長4.6cm・幅2.9cm・厚さ3.1～4.7cm 93.7ｇ									
204 住	1	B H25.26 +	覆土	土師器	甕	口縁部片	(17.1)	4.7+			口縁側面「コ」字状。内外面ヨコナデ。	密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内面一部、外面摩耗多い
	2	B H26 Po2	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/6	(21.8)	7.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面輪積み残すケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密	橙色、黒褐色 にぶい褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	3	B H26 Po6	床面直上	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部3/5	20.5	8.1+			口頸部「コ」字状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	淡黄色、黒褐色	淡黄色、黒褐色、黄灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H26 Po5	覆土 +13	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(16.6)	6.7+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を含む	浅黄橙色、黄橙色、明褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	5	B H25.26 +	覆土	土師器	鉢	体中位～体上位1/4～口縁部一部	(13.5)	7.6+	(13.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面横位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい橙色	少し良好	
	6	B H26 Po8	床面直上	土師器	甕	底部 胴最下部1/2		2.9+		7.0	出尻気味底部。外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	7	B H26 Po11 Po12	P7内	土師器	甑	胴部一部～口縁部1/4	(24.8)	24.3	(22.0)	(12.5)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒8㎜以下を一部含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
204住	8	B H25.26 +	覆土	土師器	杯 赤彩土器	体上部～口縁部 1/6	(13.2)	2.8+	(12.9)		口縁内外面ヨコナデ。体部外面篦ケズリ。	密	赤色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	赤色、灰赤色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面赤彩
	9	B H26 Po5	ほぼ床面 +3	土師器	椀	底部～口縁部 1/4 底部中央欠損	(11.2)	8.2+	(13.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	密	褐灰色、にぶい黄橙色、赤色	にぶい橙色、灰褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	10	B H26 Po9 H25.26+	攪乱内	土師器	鉢？	底部～胴下部 1/3		6.4+	(12.5)	(7.4)	肉厚。手捏状の雑な整形土器	褐鉄鉱粒２㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色	普通	
	11	B H26 Po7	ほぼ床面 +8	石製品	叩き石	完存	長さ8.7cm・幅6.0cm・厚さ5.7cm 453.3ｇ									
	12	B H 25.26 +	覆土	石製品	凹石	完存	長さ9.1cm・幅7.2cm・厚さ5.0cm 346.7ｇ									
	13	B H25.26 +	覆土	石製品	砥石	ほぼ完存	現存長10.0cm・断面0.3～4.8cm×1.5～2.9cm 164.1ｇ									
	14	B H26 +		鉄製品	釘	先端部欠損	現在長9.8cm・径0.5cm×0.4cm 15.4ｇ									
205住	1	B H72 Po4 Po8 Po17	ほぼ床面	土師器	甕	胴下部1/4～胴上部1/3～口縁部3/5	16.4	19.8+	(19.4)		口縁端部僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒３㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 橙色、暗灰色	浅黄色、にぶい黄橙色、橙色	普通	外面やや摩耗
	2	B H72 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部一部～口縁部1/4	(17.0)	6.4+			肉厚気味。口縁外面凹凸残すヨコナデ。	密	灰黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	3	B H72 Po19	覆土 +23	土師器	甕	口縁部1/4	(17.2)	4.4+			内外面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	にぶい黄褐色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H72 Po28	ほぼ床面 +7	土師器	甕	底部 胴下部4/5強～胴中位1/3		18.2+		6.1	外面縦位篦ケズリ、内面接合面残す雑なナデ。	褐鉄鉱粒、小礫６㎜以下を含む	褐灰色、黒褐色、にぶい橙色	橙色、灰褐色	普通	
	5	B H72 +	覆土	土師器	甕	底部4/5強～胴下部1/5		5.7+		5.1	摩耗不明。	密	赤色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、灰黄褐色	不良	内外面摩耗多く、外面剥離
	6	B H72 Po29	覆土 +17	土師器	甕	底部 胴最下部3/5		4.9+		6.3	外面篦ナデ、内面ナデ	小礫１㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、灰黄褐色	やや不良	外面摩耗、内面剥離
	7	B H72 + Po10 Po26 Po30	ほぼ床面 +5	土師器	甑	胴上部2/5～口縁部3/5	(26.0)	10.3+			口縁内外面ヨコナデ。外面弱い線状の縦位篦ミガキ。内面線状篦ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜大以上を多く含む	浅黄橙色、灰褐色、黒褐色	浅黄橙色、灰褐色、黒褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	B H72 +	覆土	土師器	杯	1/5	(12.5)	3.2			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面ナデ。	密	明褐色	明褐色	普通	
	9	B H72 Po7	ほぼ床面 +8	土師器	杯	底部4/5強～体部3/5～口縁部1/5	(13.0)	4.0			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色	にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	10	B H72 Po12	ほぼ床面 +7	土師器	杯	体上部～口縁部 1/3	(14.6)	3.0+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面丁寧な篦ナデ、内面弱いミガキ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	普通	
	11	B H72 Po21	P4内	土師器	杯 内黒土器	口唇部1/2欠損	14.4	3.0			内面光沢有るミガキ、外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒７㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	黒色、灰白色 褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い。内面黒色処理
	12	B H72 Po10	ほぼ床面 +5	土師器	杯	体 部1/3～口 縁部1/6 底部欠損	(13.6)	2.4+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	13	B H72 Po9	ほぼ床面 +9	土師器	杯	体部～口縁部 1/4 底部欠損	(16.0)	3.3+			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を含む	暗灰黄色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、明黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	14	B H72 Po24	ほぼ床面 +5	土師器	杯	底部～体部3/5強～口縁部2/5	(13.8)	4.7			口縁内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面やや雑なミガキ。	密	橙色、浅黄色	橙色、黒褐色	やや良好	
	15	B H72 Po19	覆土 +23	土師器	杯	底部 体部3/5～口縁部1/3	(12.4)	4.7			口縁内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面やや雑なミガキ。	密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色、黄褐色	やや良好	
	16	B H72 Po14	ほぼ床面 +6	土師器	椀形杯	底部 体部3/5強～口縁部1/5	(12.4)	3.9			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	浅黄橙色、橙色、灰黄褐色	にぶい橙色、橙色	不良	内外面摩耗多い
	17	B H72 Po6	ほぼ床面 +4	土師器	杯 杯身模倣	体部～口縁部 1/4 底部欠損	(13.2)	3.7+	稜部径 (14.3)		口縁内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面やや雑なミガキ。	密	橙色、灰褐色 浅黄色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや良好	
	18	B H72 Po16	覆土 +22	土師器	杯 杯身模倣 内黒土器	底部～体部 4/5～口縁部3/5強	13.0	4.2	13.8		口縁内外面および内面光沢有るミガキ。底体部外面やや雑なミガキ。	密	にぶい黄橙色 褐灰色	黒褐色、褐色	普通	内面黒色処理
	19	B H72 Po21	P4内	土師器	杯 杯身模倣	底部3/5強～体部3/5～口縁部2/5	(11.2)	3.9	稜部径 (11.8)		口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面弱いミガキ。	密	にぶい黄橙色 黒褐色	灰黄褐色、黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗。内面黒色処理？
	20	B H72 Po23	覆土 +10	土師器	杯	底部1/2～体部1/3～口縁部一部	(11.5)	3.1	稜部径 (12.2)	(8.2)	稜［く］字状，口縁内外面および内面雑なヨコナデ。底部木の葉。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	雑な作り。底部木の葉
	21	B H72 Po20	ほぼ床面 +3	土師器	高杯	脚上部 杯下部1/4		8.4+			杯部内面弱い篦ミガキ、外面篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ。	密	淡黄色、橙色 灰黄褐色	灰黄褐色、褐灰色、明赤褐色	普通	
	22	B H72 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部欠損		5.1+			脚柱丁寧な篦ナデ。	密	赤色、灰褐色	橙色、褐灰色	普通	外面少し剥離。赤彩
	23	B H72 Po20	床面直上	手捏土器	鉢形	1/6	(6.3)	3.5	(7.2)	4.9	指頭圧痕。	密	灰黄褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	24	B H72 Po4	床面直上	手捏土器	椀形	底 部1/2～体 部～口縁部一部	(9.4)	5.1		(4.9)	輪積みと指頭圧痕。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	25	B H72 Po27	覆土 +12	土製品	土鈴	4/5	径3.1～3.2cm・現存高4.0cm （25.5ｇ）									
	26	B H72 Po5	ほぼ床面 +3	土製品	土玉	2/5	径(4.0cm)・高さ3.7cm・孔径0.8cm （21.4ｇ）									
	27	B H72 +	覆土	土製品	垂飾	わずかに欠く	現存長4.2cm・幅3.1cm・厚さ0.7cm （9.0ｇ）									
206住	1	B H71 +	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					口縁押捺で波状。内外面ナデ。	密	黒褐色	黒褐色	普通	
	2	B H71 +	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目。内面ナデ。	小礫３㎜以下を少量含む	黒褐色	にぶい黄橙色	普通	
	3	B H71 西	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面薄い刷毛目。	密	にぶい橙色、灰褐色	にぶい黄橙色	やや不良	
	4	B H71 +	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目。内面ナデ。	密	褐灰色	褐灰色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
206住	5	B H71+	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目。内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	褐灰色	にぶい黄橙色	わずかに不良	
	6	B H71+	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					内外面刷毛目。	小礫2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	橙色、灰褐色	やや不良	
	7	B H71西	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面ナデ。	密	黒褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	
	8	B H71西	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面薄い刷毛目。	密	橙色	にぶい褐色	普通	
	9	B H71西	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目に羽状条痕文。内面薄い刷毛目残るナデ。	密	褐灰色、にぶい黄橙色、橙色	灰黄褐色、にぶい黄橙色	わずかに不良	上部にスス付着
	10	H71西	覆土	弥生式土器	深鉢	底部～胴最下部		4.6+		6.6	柱状の底部。底部木の葉。外面篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 明黄褐色	浅黄色、暗灰黄色	やや不良	内外面少し摩耗
	11	B H71 Po4-31 Po5-22	P2内	弥生式土器	深鉢	底部3/5強～胴最下部2/5		3.9+		(6.8)	柱状の底部。底部木の葉。外面篦ナデ。	小礫3㎜大以下を多く含む	にぶい赤褐色 灰褐色、浅黄色	灰オリーブ色	やや不良	内面摩耗著しい
207住	1	B H70+	覆土+25	土師器	甕	底部4/5強～胴下部4/5～胴上部2/5～口縁部3/5	(25.9)	30.7	(33.6)	8.3	口唇摘み上げ。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位のケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 褐灰色、にぶい赤褐色、にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、褐灰色、黄灰色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	2	B H70 Po5+33+焼土内	覆土+33	土師器	甕	胴上部3/5～口縁部1/4	(18.0)	20.4+	(23.0)		口唇玉状。口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を少量含む	暗赤褐色、黒褐色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内面口縁部、外面やや摩耗
	3	B H70 Po1+14	覆土+14	土師器	甕	胴上部3/5～口縁部4/5強	(16.5)	13.4+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面輪積み残すナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下、小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、灰黄褐色、褐灰色、橙色	浅黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	わずかに不良	外面摩耗多い
	4	B H70 焼土内 Po3+27 Po1+14+	覆土+14	土師器	甑	下端孔部3/5～胴最下部2/5 胴上部2/5～口縁部4/5強	(23.8)	22.0+	(23.3)	8.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ケズリ残すナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	外面やや摩耗
	5	B H70+	覆土	須恵器	蓋	口縁部1/3～体下部1/5	(13.0)	4.5+			口縁内傾凹線状。内外面ロクロナデ。天井部外面広く回転篦ケズリ。	小礫4㎜以下を含む	暗灰色、灰色	灰色	良好	
	6	B H70 Po8+17	覆土+17	土師器	椀形高杯 赤彩土器	裾部4/5 柱状部 杯体部2/3～口縁部2/5	(15.4)	9.0	9.0		杯部口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ、外面篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色、黒褐色、にぶい赤褐色	橙色、にぶい橙色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	7	B H70 Po9+17	覆土+17	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/2 柱状部 杯底部一部		5.4+		脚径9.7	杯内面ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜弱以下を少量含む	赤色、にぶい赤褐色、灰赤色	にぶい赤色、暗赤褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	8	B H70 Po11+30	覆土+30	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部～柱状部4/5～杯底部1/5		6.2+		脚径9.9	杯内面ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	普通	外面わずかに、杯内面多く摩耗。赤彩
	9	B H70 Po6+30	覆土+30	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/2 柱状部 杯底部3/5		5.1+		脚径(10.3)	杯内面ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	赤色、にぶい赤色	にぶい橙色、赤色	やや不良	内外面わずかに摩耗。赤彩
	10	B H70 Po13+27	覆土+27	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部1/2～柱状部4/5強		4.6+		脚径(9.2)	脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫2㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい赤褐色 赤灰色、明褐灰色	褐灰色、にぶい黄橙色、黒褐色	普通	外面少し摩耗。赤彩
	11	B H70 Po15+36+	覆土+36	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部3/5～柱状部4/5		5.0		脚径(8.9)	脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色	にぶい褐色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面少し摩耗。赤彩
	12	B H70 Po13+27 焼土内	覆土+27	手捏土器	鉢形	底部 体部1/5	(12.6)	6.1		7.5	外面輪積み残す指頭圧痕と指ナデ。内面ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	普通	雑な作り
	13	B H70+	覆土	手捏土器	鉢形	1/2	(4.7)	2.5		(4.4)	指頭圧痕。	密	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色	普通	
	14	B H70 Po5+33	覆土+33	手捏土器	鉢形	4/5	4.9	3.0		4.4	指頭圧痕。	密	にぶい黄橙色 褐灰色、にぶい橙色	にぶい褐色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	15	B H70 Po16	ほぼ床面+5	土製品	土玉	2/3	径2.9～3.4cm・高さ2.8cm・孔径0.6cm (20.6ｇ)									
	16	B H70 Po10+17	覆土+17	土製品	土玉	完形	径3.3～3.4cm・高さ3.1cm・孔径0.4cm 30.6ｇ									
	17	B H70	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ5.2cm×3.6cm×2.3cm 5.8ｇ									
208住	1	B H39 Po5 Po18	P4内 床面直上	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部一部	(24.0)	8.4+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ。内面ナデ。	密	にぶい橙色、黒褐色	にぶい橙色、灰褐色	わずかに不良	外面少し摩耗
	2	B H39 Po18	P4内	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部一部	(15.1)	8.7+			口縁輪積み残す雑なナデ。胴外面雑な篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	普通	208住-3と同一個体？
	3	B H39 Po6	覆土+11	土師器	甕	底部 胴下部1/4		5.7+		7.8	外面雑な篦ナデ、内面指ナデ。	小礫3㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	外面わずかに摩耗。208住-2と同一個体？
	4	B H39 Po4 C-11 Po10	ほぼ床面+8	土師器	短頸壺	体部3/5強～口縁部1/2 底部欠損	(9.5)	10.9+	17.6		胴部扁平、丸底。口縁内外面ヨコナデ。胴上半丁寧な篦ナデ、下半篦ケズリ。内面削り取る刷毛目。	小礫7㎜以下を少量含む	にぶい橙色、灰褐色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	外面やや摩耗、一部剥離、内面剥離多い
	5	B H39 Po7	ほぼ床面+9	土師器	椀形杯 赤彩土器	体部3/5～口縁部1/2	(14.6)	4.8	(15.1)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	赤色、暗赤褐色、浅黄橙色	赤色、赤橙色 橙色	やや不良	内外面やや摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	6	B H39 Po4	ほぼ床面+2	土師器	椀形杯 赤彩土器	4/5	(13.8)	5.1	(14.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色、にぶい褐色	赤色、にぶい黄橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	7	B H39+Po4	ほぼ床面	土師器	鉢	底部～体下部1/3～口縁部1/6	(14.4)	8.1			肉厚。口縁シャープなナデにより「コ」字状。体部外面篦ケズリ、内面ナデに放射状のミガキ。	小礫2㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	8	B H39 Po16	覆土	土師器	坩 赤彩土器	口縁部1/2	(8.3)	5.5+			内外面ヨコナデ。頸部篦ナデ。	密	赤色、にぶい赤褐色	赤色、にぶい褐色	少し良好	内外面赤彩
	9	B H39 Po2 カマド	カマド燃焼部	土師器	高杯 赤彩土器	4/5強 脚裾部3/5	15.0	11.2	15.5	脚径9.7	杯部口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ、外面丁寧な篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、浅黄橙色	やや不良	外面摩耗多い、杯内面剥離多い。赤彩
	10	B H39 Po11	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	脚最上部1/3～杯体部3/5～口縁部1/3	(15.0)	6.0+			杯部口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。赤彩

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
208住	11	B H39 Po1	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	杯体部1/2～口縁部一部	(14.4)	5.3＋	(15.1)		杯部口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を多く含む	赤色、にぶい黄橙色、暗赤褐色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、にぶい赤色、赤色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	12	B H39 ＋	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/4～柱状部4/5強		4.2＋		脚径 (9.0)	脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒４㎜以下を少量含む	赤褐色	にぶい橙色、灰黄褐色、褐灰色	やや不良	外面少し摩耗。赤彩
	13	B H39	覆土	土製品	支脚	基部欠損		14.7＋	5.9		側面―円錐台 断面―円	密	灰黄褐色、褐灰色		不良	
	14	B H39 Po2	カマド燃焼部	土製品	支脚	先端部欠損		12.9＋	9.4		側面―四角錐台 断面―四角	小礫５㎜以下を含む	橙色、赤褐色		不良	
	15	B H39 Po16	207住上層	土製品	土玉	完形	径3.6～3.7cm・高さ3.8cm・孔径1.1cm　44.5ｇ									
209住	1	B H69 Po1-11	炉中	弥生式土器	甕	頸部1/4～口縁部1/6	(32.6)	10.0＋			口縁押捺波状。外面８段の輪積み。内面口縁縄刺突。内面篦ナデ。	小礫１㎜以下を含む	にぶい黄橙色、橙色、黒褐色 褐灰色	にぶい褐色、褐灰色	わずかに不良	外面の頸部剥離
	2	B H69 ＋	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片	(21.0)	3.6＋			口縁押捺で波状。外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を含む	にぶい赤褐色 赤灰色	にぶい橙色	やや良好	外面一部剥離
	3	B H69 ＋	覆土	弥生式土器 弥生中期	鉢	口縁部片					口唇縄文。内面複合口縁で刷毛目残す。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや良好	
	4	B H69 ＋	覆土	弥生式土器	深鉢	胴部片					外面刷毛目、内面ナデ	小礫１㎜大以下を少量含む	灰黄色、黄灰色、浅黄色	にぶい黄橙色	やや不良	
	5	B H69 Po8-47	P8内	弥生式土器	壺	頸部片					外面沈線区画に羽状縄文。	小礫１㎜以下を著しく含む	浅黄色、黒褐色	にぶい黄橙色	不良	
	6	B H69	覆土	弥生式土器	鉢	胴部片					外面沈線区画に羽状縄文。	浅黄橙色粒１㎜以下を含む	にぶい黄橙色 浅黄色、灰黄色	浅黄色、赤褐色	不良	内面丹塗り
	7	B H69 Po6	床面直上	弥生式土器	鉢？	底部 体部2/5 口縁部欠損		11.7＋	23.2	6.4	外面上端縄文に沈線、胴外面弱いミガキ。内面ミガキ状ナデ。	小礫１㎜大以下を多く含む。特に浅黄橙色粒多い	橙色、明褐灰色、褐灰色、赤色	黄橙色、赤色	やや不良	内外面摩耗多い。内外面丹塗り
	8	B H69 Po4	焼土中	弥生式土器	鉢	底部 体部3/5～口縁部4/5	14.7	12.2	18.7	5.7	内湾複合口縁。口縁に２孔１対穿孔２カ所。口唇縄文。胴中位まで羽状縄文で下端沈線。外面下半と内面篦ミガキ。	小礫１㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 橙色、赤色、灰黄褐色	褐灰色、暗赤褐色、赤色	わずかに不良	外面わずかに摩耗。内面剥離多い。内外面丹塗り
	9	B H69 Po2	床面直上	弥生式土器	鉢	底部～体部4/5強～口縁部1/3	(19.8)	8.7		5.9	口唇縄文。胴上半２段の羽状縄文で下端沈線。外面下半と内面弱い篦ミガキ。	小礫１㎜以下を多く含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色、にぶい赤褐色暗赤灰色	にぶい赤褐色暗赤灰色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗。内外面丹塗り
	10	B H69 Po13-4	床面直上	石製品	叩き石 ハンマー型	完存	長さ10.2cm・幅6.7cm・厚さ9.1cm　855.4ｇ									
210住	1	B H61 ＋	覆土	須恵器	短頸壺	口縁部破片	(24.0)	2.7＋			内外面シャープなロクロナデ。	密	暗灰色	暗灰色	良	
	2	B H61 Po1+18	覆土 ＋18	中世陶器	大甕	胴部片					外面スタンプ状叩き目、内面雑なナデ。	密	黄灰色	黄灰色、灰色	普通	
	3	B H61 Po9	覆土	須恵器	杯身	3/5	10.1	4.3	稜部径 12.0		口唇「コ」字状。口縁および受部稜シャープなロクロナデ。底体部広く回転篦ケズリ。内面底部同心円文薄く残るロクロナデ。	小礫最大５㎜以下を多く含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰黄色	普通	
	4	B H61 Po3-23	溝内	須恵質	平瓦						凹面布目。凸面縄叩き目。					
	5	B H61 ＋	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					複合口縁。口縁縄文、下端刻み目。内面ミガキ。	小礫、褐鉄鉱粒１㎜以下を含む	にぶい黄橙色 明赤褐色	赤色	普通	内外面丹塗り
	6	B H61 ＋	覆土	石製品	砥石	1/2	現存長5.8cm・幅4.0cm・厚さ2.2cm　81.1ｇ									
211住	1	B H62 Po2	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	底部 胴下部2/5		4.5＋		7.1	球胴甕底部。外面丁寧な篦ナデ、内面摩耗不明。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	橙色、灰黄褐色、黒褐色	浅黄橙色、灰黄褐色、黒褐色	不良	外面摩耗、内面剥離多い
	2	B H62 Po2	ほぼ床面 ＋5	土師器	甕	胴下部片		5.0＋			突出柱状。外面ミガキ状篦ナデ、内面丁寧なナデ。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む	黄灰色、にぶい黄橙色、浅黄橙色	灰黄褐色、褐灰色	わずかに不良	内面剥離多い
	3	B H62 ＋	覆土	土師器	杯	体部1/4～口縁部一部 底部欠損	(13.8)	4.4＋			内外面ミガキ。	密	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H62 ＋	覆土	土師器	椀形鉢 赤彩土器	体上部～口縁部一部1/4	(11.8)	4.7＋			口縁内外面ヨコナデ。体部外面篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	赤色、灰赤色	赤色、灰赤色	普通	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	5	B H62 ＋	覆土	須恵器	高杯	脚部片		3.9＋			３方の長方形透かし。内外面ロクロナデ。	微砂粒含む	灰色	灰色	良	透かし有り
	6	B H62 Po1	床面直上	土製品	土玉	完形	径3.4cm・高さ3.6cm・孔径0.6cm　37.2ｇ									
212住	1	B H48 ＋ Pit内	P4内	弥生式土器 弥生中期	深鉢	口縁部1/6	(27.2)	8.1＋			口縁押捺で波状。内外面ミガキ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を少量含む	暗赤灰色	橙色、にぶい橙色、黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	2	B H48 ＋	覆土	弥生式土器	深鉢	底部片		3.1＋		(7.6)	外面刷毛目。内面ナデ。	小礫２㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい褐色	普通	
	3	B H49 Po2	P4内	弥生式土器	深鉢	底部片		2.9＋		(6.8)	外面刷毛目。内面ナデ。	小礫１㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内面摩耗多い
	4	B H48 Pit内	P4内	弥生式土器	鉢	口縁部片					口縁縄文。	密	にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい褐色、橙色	やや不良	
	5	B H48	溝内	中世陶器	大甕	胴部片					外面スタンプ状叩き目。内面雑なナデ。	密	オリーブ黒色 灰オリーブ色 灰白色	オリーブ黒色 灰白色	わずかに不良	渥美焼き
213住	1	B H49 Po8	カマド右袖接する	土師器	甕	底部～胴下部3/5強～胴上部1/2～口縁部一部 底部中央欠損	(17.5)	27.6	(22.1)	(5.4)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面ナデ。	小礫１㎜大以下を少量、褐鉄鉱粒３㎜大以下を極少量含む	褐灰色、にぶい褐色、橙色	黒褐色、にぶい褐色、灰褐色	やや不良	内外面少し摩耗、内面剥離多い
	2	B H49 ＋ Po1	覆土 ＋18	土師器	甕	胴最上部一部～口縁部1/6	(18.4)	9.2＋			口唇上方摘み上げ気味玉状。内外面シャープなヨコナデ。胴内外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜大以下を少量含む	浅黄色、黄灰色	にぶい黄色、暗灰黄色	わずかに不良	外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
213 住	3	B H49 Po8	カマド右袖 接する	土師器	甕	口縁部	18.8	5.8+			口唇上方摘み上げ玉状。内外面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒、小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、橙色	浅黄橙色、褐灰色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	4	B H49 Po(9) + Po6	ほぼ床面 +5	土師器	鉢	胴部～頸部1/3		9.0+	(13.2)		外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	赤色、赤黒色	にぶい橙色、灰黄褐色	やや不良	内外面剥離
	5	B H49 Po3	床面直上	土師器	甕	底部		2.5+		6.2	外面雑な篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	浅黄色、灰黄色、にぶい黄色	にぶい黄橙色	少し良好	
	6	B H49 + Po14	ほぼ床面 +7	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/3	(13.3)	4.9			口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下、小礫1㎜以下を少量含む	明赤褐色、にぶい橙色	赤色	やや良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	7	B H49 Po14 +	覆土	土師器	椀 赤彩土器	体部～口縁部 1/4	(12.8)	4.3+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を含む	赤色、浅黄橙色	赤褐色、にぶい橙色、浅黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	8	B H49 Po1 Po2	床面直上	土師器	杯 赤彩土器	体上部～口縁部 1/3	(15.0)	3.6+			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	密 褐鉄鉱粒2㎜大以下を一部含む	赤色、にぶい赤褐色、にぶい橙色	赤褐色、にぶい赤色	普通	内外面わずかに摩耗。内外面赤彩
	9	B H49 Po11	P7内	土師器	高杯 赤彩土器	脚部4/5強～杯体部～口縁部 3/5	15.6	10.0		脚径 (10.0)	口縁内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	灰黄色、黒褐色、褐灰色、赤色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、褐灰色、赤色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	10	B H49 Po2	床面直上	土師器	高杯 赤彩土器	体部～口縁部 1/3 杯底部欠損	(15.1)	4.6+	(15.2)		口縁内外面ヨコナデ。杯部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	赤色、にぶい橙色	赤色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面一部摩耗。赤彩不良。
	11	B H49 Po15	覆土 +14	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 脚裾部1/2欠損		4.4+		脚径 (9.2)	脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、にぶい赤色	赤色、にぶい黄橙色	普通	外面赤彩で塗り残り共に良好。
	12	B H49 Po9	ほぼ床面 +4	土師器	坩 赤彩土器	完形	(11.9)	16.5	15.1		口縁内外面ヨコナデ。頸部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。胴ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、にぶい黄橙色、褐灰色	やや不良	外面全体、体部内面少し摩耗。外面胴中部～口縁部、内面口縁部赤彩
	13	B H49 Po10	床面直上	土師器	坩 赤彩土器	完形	11.0	16.6	14.2		口縁内外面ヨコナデ。頸部外面ケズリ状篦ナデ、内面ナデ。胴ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	明赤褐色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	赤色、赤褐色、褐灰色	やや良好	外面胴中部～口縁部、内面口縁部赤彩
	14	B H49 Po11	P7内	土師器	坩 赤彩土器	体部1/2		10.1+	(15.1)		外面丁寧な篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、橙色	灰黄褐色、褐灰色	やや不良	外面摩耗多い、内面一部剥離。赤彩僅かに確認できる程度。
	15	B H49 Po16	床面直上	土製品	有孔円盤	完形	径2.7～2.8cm・高さ1.2cm・孔径0.5cm 10.5g									
	16	B H49 +	床面直上	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.4～3.6cm・高さ3.2cm・孔径0.7cm 36.0g									
	17	B H49 +	覆土	石製品	石皿 凹石	一部	大きさ8.0cm×9.3cm×4.5cm(厚さ) 462.4g									
214 住	1	B H46 Po8	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴部～口縁部 4/5	18.1	28.6	22.8	6.6	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ状の篦ケズリ、内面布ナデ。	小礫2㎜以下を含む	橙色、黒褐色 にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	わずかに不良	外面摩耗多い、内面一部剥離
	2	B H46 Po8	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴下部～口縁部 3/5	16.1	26.8	22.0	5.7	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ状の篦ケズリ、内面布ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む。小礫1㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、褐灰色、にぶい黄橙色	浅黄橙色、褐灰色、にぶい黄橙色	普通	内面一部剥離
	3	B H46 LP	P5内	土師器	甕	胴上部3/5強～口縁部1/2	18.3	16.6+	(22.5)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリに部分ミガキ状篦ナデ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色、明褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、明褐色	普通	
	4	B H46 Po9	カマド右袖	土師器	甕	胴上部4/5～口縁部3/5	21.9	11.6+			口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面横位篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	明橙色、橙色	明橙色、橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	B H46 Po6 +	ほぼ床面 +4	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部1/4	(16.0)	11.6+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面斜位篦ナデ、内面ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色	褐灰色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H46 Po10	カマド右袖	土師器	甕 胴部穿孔土器	底部3/5強～胴部4/5～口縁部3/5強	(14.9)	17.2	(17.6)	(6.0)	口唇僅かに玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面横位篦ナデ。胴中位にヨコ8.4cm・縦6.9cm円孔を有す。	褐鉄鉱粒5㎜以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黒褐色、にぶい黄褐色	不良	外面胴中位～口縁部は摩耗と剥離著しい、内面の胴上部～口縁部摩耗多い。
	7	B H46 Po9	カマド右袖	土師器	甑	わずかに一部欠損	27.9	26.1		8.2	口縁内外面輪積み残すヨコナデ。胴外面篦ケズリ、横位篦ナデ。	褐鉄鉱粒と小礫1㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、橙色	明赤褐色、にぶい赤褐色、暗赤褐色	やや不良	内外面少し摩耗
	8	B H46 Po6	カマド燃焼部	土師器	甑	胴下部3/5強～胴上部1/2～口縁部1/5	(25.5)	24.1	22.8	(7.1)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ナデ、中位斜位篦ケズリ、下半篦ナデ。内面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	9	B H46 Po3	ほぼ床面 +4	須恵器	杯蓋	口縁部1/6～体部1/4～天井部3/5	(12.6)	4.4			口縁シャープなロクロナデで凹状で内面に稜。内面凹凸残すロクロナデ、天井部外面広く回転篦ケズリ。	灰白色粒3㎜大以下を多く含む	灰色、暗青灰色	灰色	良好	
	10	B H46 Po3	ほぼ床面 +3	土師器	椀形杯 赤彩土器	2/5	(13.7)	4.4	(14.0)		口縁内面ヨコナデ。内面ミガキ。口縁外面から体部ミガキ。底部ケズリ状篦ナデ。	密	赤色、浅黄橙色	赤色、暗赤灰色、にぶい橙色、黒褐色	普通	内面やや摩耗。外面口縁部附近、内面赤彩
	11	B H46 LP Po15-67	P5内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部一部欠損 口縁部3/5欠損	(13.7)	10.4		脚径 9.6	口縁外反。口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。体部外面丁寧な篦ナデ。脚柱ケズリ状篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒8㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色、褐灰色	赤褐色、褐灰色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	12	B H46 LP Po14-37	P5内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	3/5強	(14.0)	9.5		脚径 (9.8)	口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。体部外面篦ケズリ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒6㎜大以下を多く含む	赤色、にぶい橙色、にぶい褐色	にぶい橙色、赤褐色、赤黒色	やや良好	赤彩
	13	B H46 Po9	カマド右袖	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚裾部2/5～柱状部4/5強～杯体部4/5～口縁部3/5強	13.3	9.4		脚径 (8.3)	口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。体部外面篦ケズリ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫2㎜大以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黄橙色	浅黄橙色、褐灰色	不良	内外面摩耗多い、内面剥離著しい。赤彩僅かに確認できる程度に残るだけ。

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
214住	14	BH46 Po19	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部1/4～柱状部4/5強～杯部1/2	(16.8)	9.6		脚径(10.2)	口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	赤色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	15	BH46 Po1	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部3/5強～杯部1/6	(14.0)	8.7		脚径(9.9)	口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	密	赤色、浅黄橙色、淡黄色	赤色、淡黄色	やや不良	内外面摩耗。赤彩
	16	BH46 LP	P5内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	4/5	14.6	9.7		脚径9.7	口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。体部外面篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を少量含む	赤色、赤灰色にぶい橙色	赤色、浅黄橙色、暗赤褐色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	17	BH46 LP Po14-34	P5内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	わずかに一部欠損	(14.6)	9.4		脚径9.9	口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。体部外面ナデ状篦ケズリ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤色、灰白色灰赤色	赤色、灰赤色にぶい黄橙色	普通	脚外面摩耗著しい。赤彩
	18	BH46 Po11	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯裾部1/3欠損杯口縁部一部欠損	13.6	9.3		脚径9.5	口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。体部外面ナデ状篦ケズリ。脚柱篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	赤色、浅黄橙色	赤色、暗赤灰色、灰赤色	わずかに不良	外面の脚柱状部と杯下部摩耗多い。赤彩
	19	BH46 LP	P5内	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部1/2	(14.8)	5.2+			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	赤色、赤褐色浅黄橙色	赤色、にぶい橙色	普通	杯部中央内面が摩耗。赤彩
	20	BH46 Po12	床面直上	土師器	椀形高杯 赤彩土器	杯部3/5強口唇部1/2底部中央欠損	(14.1)	4.8+			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	橙色、浅黄橙色、暗灰色	橙色、浅黄橙色、暗灰色	わずかに不良	内外面摩耗多い。赤彩
	21	BH46 Po13	床面直上	土師器	坩 赤彩土器	わずかに一部欠損	10.2	17.1	15.0		口縁外面ヨコナデ。口頸部外面篦ナデ、内面ナデ。胴部篦ナデ。	褐鉄鉱粒5㎜大以下を非常に多く含む	赤色、赤褐色浅黄橙色	赤色、にぶい赤褐色、にぶい橙色、にぶい黄橙色	普通	内面体部少し剥離。内面口縁部、外面赤彩
	22	BH46 Po16-22 LP	P5内	土製品	支脚	基部欠損		16.9+	7.0		側面—円柱状断面—円	褐鉄鉱粒5㎜大以下、小礫2㎜以下を少量含む	にぶい褐色、褐灰色、にぶい橙色		不良	
	23	BH46 Po21	床面直上	土師器	甕	胴中位1/4～胴上部～口縁部3/5	12.3	9.9+	(14.2)		手捏状の甕。口縁ヨコナデ。胴内外面指頭圧痕残す。	灰白色粒3㎜以下を含む	黄灰色、暗灰黄色、暗赤褐色	暗灰黄色、明赤褐色	普通	
	24	BH46 LP Po15-67	P5内	土師器	鉢	4/5	11.0	7.6		6.5	底部高台状で木葉痕。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	25	BH46	覆土	中世陶器	大甕	胴部片					外面スタンプ格子目叩き、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	灰オリーブ色	灰白色	良好	渥美焼き
215住	1	BH10B Po22-15	覆土＋15	弥生式土器	壺	底部胴下部3/5～胴上部1/3		13.9+	(18.3)	5.0	胴上半ミガキ、下半ケズリ状篦ナデ、内面ナデ？	小礫3㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、黒褐色、にぶい黄橙色	黒褐色、灰黄褐色	やや不良	内外面少し摩耗、外面少し剥離
	2	BH10A Po3	床面直上	土師器	鉢 赤彩土器	底部4/5強～体部3/5～口縁部1/6	(7.6)	8.4	(12.2)	4.1	複合口縁状。口縁弱いミガキ、内面ミガキ？	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、赤灰色にぶい橙色	にぶい赤褐色	普通	内外面やや摩耗、内面わずかに剥離。底部附近除き外面赤彩
	3	BH10	覆土	土製品	土玉	1/4	径(4.0cm)・現存高2.3cm・孔径0.4cm　(9.7ｇ)									
	4	BH10	覆土	石製品	磨石	1/2	現存長2.8cm・幅2.2cm・厚さ1.3cm　2.5ｇ									
216住	1	BH10B Po22-15	床面直上	土師器	甕	胴下部1/3～胴上部3/5口縁部底部欠損	15.1	28.6+	(22.5)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	小礫8㎜以下を多く含む	にぶい橙色、橙色	にぶい橙色、灰褐色	少し良好	胴下部剥離多い
	2	BH10B Po4	床面直上	土師器	甕	底部～胴下部1/2～胴上部3/5強～口縁部4/5	16.6	21.1	20.9	(5.8)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半刷毛目、下半ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ？	小礫2㎜以下を極少量、褐鉄鉱粒7㎜以下を少量含む	黒褐色、褐灰色、浅黄橙色にぶい橙色	黒褐色、褐灰色、にぶい橙色	わずかに不良	内外面やや摩耗
	3	BH10B Po6	ほぼ床面＋4	土師器	甕	底部1/3～胴下部3/5～胴上部3/5強～口縁部2/5	(17.6)	22.8	(21.9)	(6.3)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半横位篦ナデ、下半ケズリ状篦ナデ、内面篦ナデ？	褐鉄鉱粒、小礫3㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、褐灰色、黒褐色にぶい橙色	にぶい橙色、灰褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離多い
	4	BH10B Po3	ほぼ床面＋7	土師器	甕	底部胴下部4/5～胴中位一部		16.5+	(21.8)	6.7	突出気味底部で中央凹状。胴外面篦ナデ、内面接合面残す篦ナデ。	小礫4㎜以下を含む	にぶい橙色、橙色	明赤褐色、にぶい赤褐色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗と剥離多い。底部中央が少し凹む
	5	BH10B Po15 Po17	ほぼ床面＋8	土師器	片口鉢甕	底部胴下部2/5		7.1+		9.2	丸底気味。外面雑な篦ケズリ、内面雑な篦ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい赤褐色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い。外面煤多く付着。
	6	BH10B Po2	ほぼ床面＋9	土師器	片口鉢	4/5強	18.0	10.2		11.8	片口で器高低い。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫3㎜以下を多く含む	にぶい橙色、にぶい褐色	橙色、褐灰色にぶい黄橙色	良好	外面スス多く付着
	7	BH10B Po17	ほぼ床面＋8	土師器？	甕	胴上部～口縁部片	(21.0)	7.4+			口縁肉厚でシャープなヨコナデ。口頸部外面指頭圧痕。胴外面篦ケズリ、内面布ナデ。	密一部に褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色、にぶい黄橙色	橙色、にぶい黄橙色	普通	
	8	BH10B Po13	ほぼ床面＋5	土師器	椀形杯 赤彩土器	3/5強口縁部1/2	(15.0)	4.9	15.2		口縁内外面ヨコナデ。底部内面弱いミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	赤色、赤褐色	赤色、灰赤色	やや不良	内外面摩耗。外面底部附近除き内外面赤彩
	9	BH10B Po1	ほぼ床面＋9	土師器	高杯 赤彩土器	杯部4/5	17.0	5.3+			やや肉厚。杯明瞭な稜線有す。口縁内外面ヨコナデ。杯部内面弱いミガキ。	密	赤色、暗赤色橙色	赤色、暗赤色明黄褐色	不良	内外面摩耗多い。少し厚手。赤彩
	10	BH10B Po12	ほぼ床面＋4	土師器	高杯 赤彩土器	脚柱状部4/5強		6.2+			脚柱丁寧な篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	赤色、浅黄橙色	にぶい黄橙色	少し良好	赤彩
	11	BH10B Po9+	覆土＋14	石製品	砥石	完存	長さ15.7cm・幅6.9cm・厚さ7.1cm　1112.0ｇ									
217住	1	BH10C＋	覆土	須恵器	杯	体部片	(13.0)	3.2+		(11.2)	器高低い。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ？	密	灰色、灰オリーブ色	灰黄色、灰色	普通	外面に火ダスキ有り
	2	BH10C＋	覆土	須恵器	杯	底部小片					底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。内面ロクロナデ。	密	灰色	灰色	わずかに不良	内面わずかに摩耗。火ダスキ有り
	3	BH10C＋Po2	覆土	土製品	支脚	両端欠損		14.9+			側面—円柱状断面—円	密	にぶい赤褐色淡黄色、にぶい黄橙色		不良	
218住	1	BH9＋	覆土	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部4/5	16.2	12.9+			肉厚。口縁内外面ヨコナデ。胴外面ケズリ状篦ナデ。内面ナデ。	密	橙色、にぶい橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
218住	2	B H9 Po3	ほぼ床面 +3	土師器	甕	底部 胴下部3/5		10.1+		7.2	胴外面ケズリ状篦ナデ、内面刷毛目残す篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	灰黄褐色、黒褐色、橙色	橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	B H9 Po5-8	P5内	土師器	甕	3/5強	(14.3)	12.0	15.5		丸底甕。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面上半縦位のミガキ状篦ナデ、下半篦ケズリ。内面丁寧なミガキ状篦ナデ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい赤褐色 赤黒色、にぶい橙色	黒褐色、褐灰色、にぶい橙色	やや不良	内外面剥離多い、特に外面著しい
	4	B H9 +	覆土	土師器	椀 赤彩土器	1/3 底部中央欠損	(15.8)	5.2	(15.9)	4.4	平底。口縁内外面ヨコナデ。内面放射状篦ミガキ。体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	赤色、にぶい褐色	赤色	良好	外面口縁部、内面赤彩
219住	1	B H23B Po1	床面直上	土師器	甕	底部1/4 中央部欠損		2.2+		(6.4)	外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	密	にぶい赤褐色 灰黄色	にぶい赤褐色 灰黄色	普通	
	2	B H23B Po2	床面直上	弥生式土器	深鉢	底部1/3 中央部欠損		2.6+		(6.0)	外面雑なナデ、内面ナデ。	密	にぶい橙色	にぶい橙色	普通	内面少し摩耗
220住	1	B H23A Po7 B H23+	床面直上	土師器	甕	胴上部～口縁部1/3	(21.0)	14.1+	(18.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	橙色、にぶい黄橙色、灰褐色	灰褐色、橙色 褐灰色	少し良好	
	2	B H23A カマド	カマド燃焼部	土師器	鉢?	体部中位～口縁部1/4	(14.4)	11.5+	(14.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい橙色、にぶい褐色、にぶい黄橙色	灰黄褐色、赤褐色	普通	内面わずかに剥離
	3	B H23A Po7	床面直上	土師器	甕	胴上部一部～口縁部1/6	(22.0)	7.9+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	明赤褐色、にぶい黄橙色	明赤褐色、灰黄褐色	やや良好	
	4	B H23A カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3～胴最下部1/4 中央部欠損		3.6+		(11.2)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色、灰黄色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内面少し摩耗
	5	B H23A Po3	床面直上	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目。内面圧痕残すナデ。	小礫2㎜以下を極少量含む	灰色、オリーブ黄色	灰色、オリーブ黒色	やや良好	自然釉少しかかる
	6	B H23A Po2	床面直上	非ロクロ土師器	杯	体部～口縁部1/6	(11.3)	3.9+		(7.9)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面ヨコナデ。内面底部と体部篦ミガキ。外面底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	暗赤灰色、灰黄色、橙色	にぶい黄色、黒褐色	やや不良	外面剥離
221住	1	B H24B Po1	ほぼ床面 +8	土師器	杯 杯身模倣	体上部～口縁部1/6	(14.7)	3.4+	稜部径(15.6)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	浅黄橙色、黒褐色	浅黄橙色、黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	2	B H24A Po10	ほぼ床面 +5	土製品	支脚	基部欠く		16.3+	8.1		側面一円錐台 断面一円	密	にぶい橙色、浅黄色、灰褐色		普通	
	3	B H24A カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	基部わずかに欠く		20.9	8.2		側面一円柱状 断面一円	密	にぶい橙色、灰褐色		普通	
222住	1	B H24A Po2 Po3 B H24+	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/3～口縁部1/4	(23.6)	12.1+	(22.7)		口縁端部上方摘み上げ、内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を含む	黒褐色、にぶい橙色、にぶい褐色	褐灰色、にぶい赤褐色	良好	内面一部剥離
	2	B H24A Po3	床面直上	須恵器 常総産	甕	口縁部片	(19.2)	4.0+			口縁肉厚で内外面ロクロナデ。	小礫灰白色粒2㎜大以下を多く含む	浅黄色、灰白色	浅黄色、灰オリーブ色	わずかに不良	内面やや摩耗
	3	B H24+	覆土	非ロクロ土師器	杯	底 部1/5～体 部～口縁部1/4	(12.4)	3.4		(7.4)	内面底部と体部境やや不明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	密 微細の金雲母含む	黄橙色、にぶい橙色	にぶい褐色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗多い
	4	B H24+	覆土	非ロクロ土師器	杯	1/3	(13.3)	3.8		(8.4)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	橙色、灰褐色 黒褐色	にぶい橙色、明褐灰色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	5	B H24B Po1	ほぼ床面 +9	非ロクロ土師器	杯	口縁部2/5欠損	(11.7)	4.8		7.6	内面底部と体部境やや不明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ	褐鉄鉱粒2㎜大以下を多く含む	浅黄色、浅黄橙色、橙色、黒褐色	橙色、にぶい橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H24+	覆土	非ロクロ土師器	杯	底部4/5		1.5+		7.2	内面底部と体部境明瞭。内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒4㎜大以下を極少量含む	橙色、褐灰色	にぶい橙色、灰褐色	不良	内外面摩耗多い
	7	B H24B Po2	ほぼ床面 +4	鉄製品	刀子	両端欠損	現存長10.7cm・刃幅1.1cm・刃棟厚0.3cm・茎幅0.9cm・茎棟厚0.3cm 12.1g									
	8	B H24B Po3	床面直上	鉄製品	刀子	両端欠損	現存長14.6cm・関幅1.5cm・関棟厚0.5cm・刃幅1.6cm・刃棟厚0.6cm・茎幅0.8cm・茎棟厚0.3cm 33.3g									
223住	1	B H38 Po11+13	覆土 +13	土師器	甕	胴下部1/5～胴上部2/5 口縁部	(18.6)	24.6+	(27.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ、内面指ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む、小礫1㎜以下を極少量含む	橙色、にぶい黄橙色	明褐色、にぶい褐色	普通	外面わずかに摩耗
	2	B H38 Po16+12 Po28 +	ほぼ床面 +8	土師器	甕	胴最上部3/5～口縁部3/5強	(16.2)	9.0+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫5㎜大以下を多く含む	橙色、灰黄褐色	橙色、灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗
	3	B H38 + Po9+25	覆土 +25	土師器	甕	胴上部2/5～口縁部1/3	(16.4)	10.8+			口唇玉状で口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ残す篦ナデ。	小礫1㎜大以下を含む	浅黄橙色	灰黄褐色、褐灰色	やや良好	
	4	B H38 Po2 Po3	ほぼ床面 +4	土師器	甕	胴部～口縁部1/3	(15.7)	17.3+	(19.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫3㎜以下を少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗、特に外面多い
	5	B H38 Po29	ほぼ床面 +4	土師器	甕	胴中位1/3～胴上部1/5～口縁部一部	(14.0)	14.2+	(16.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面指ナデ	褐鉄鉱粒6㎜以下を少量含む	にぶい橙色。黒褐色	にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面剥離多い
	6	B H38 Po15+17	覆土 +17	土師器	甕	胴中位一部～胴上部1/3～口縁部2/5	(18.0)	21.4+	(18.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面指ナデ	小礫2㎜以下を極少量含む	浅黄色、黒褐色、にぶい赤褐色	浅黄色、黒褐色、にぶい赤褐色	普通	
	7	B H38 Po12+33	覆土 +33	土師器	甕	胴上部2/5 口縁部	16.5	(14.7)	(16.7)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面指ナデ	褐鉄鉱粒3㎜以下を少量、小礫1㎜以下を極少量含む	灰黄褐色、にぶい黄褐色、にぶい黄橙色 黒褐色	灰黄褐色、にぶい黄褐色、にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	外面摩耗多い、一部剥離
	8	B H38 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴下部1/3		10.4+		6.7	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	灰黄褐色、にぶい黄褐色	わずかに不良	外面摩耗多い、内面一部剥離

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
223 住	9	B H38 Po13+25	覆土 +25	土師器	甕	底部 胴最下部1/2		6.3+		5.9	底部肉厚。外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	黒褐色、にぶい黄橙色、赤色	黒褐色	普通	外面の一部紅ガラ付着
	10	B H38 Po17	床面直上	土師器	甕？	底部1/3～胴下部1/4		6.3+		(6.0)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色	普通	
	11	B H38 Po30+19	壁接 +19	土師器	甑	下端孔部2/5～胴下部4/5～口縁部1/3	21.7	14.5		(6.7)	口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	12	B H38 +	覆土	土師器	杯 杯身模倣漆塗り？	4/5 口縁部2/5	(11.8)	3.9	稜部径13.9		受部部稜シャープ。口縁内外面ヨコナデ。内面および底体部外面光沢有るミガキ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰褐色	にぶい橙色、灰褐色	良好	全面漆塗り可能性有り
	13	B H38 Po14	ほぼ床面 +4	土師器	杯 杯蓋模倣漆塗り？	1/4	(14.6)	3.9	(14.3)		口縁内外面ヨコナデ。内面および底体部外面光沢有るミガキ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤褐色、にぶい黄橙色、褐灰色	赤褐色、暗褐色	やや良好	全面漆塗り可能性有り
	14	B H38 Po21	ほぼ床面 +3	土師器	杯	体部1/4～口縁部一部	(12.9)	3.6	(12.6)		摩耗不明。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	橙色、灰褐色 にぶい橙色	にぶい赤褐色 灰褐色	不良	内外面摩耗多い
	15	B H38 +	覆土	土師器	杯	1/2	12.9	3.8			口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。底体部外面雑な篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、浅黄色、黒褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内面少し摩耗
	16	B H38 Po14 +	ほぼ床面 +4	土師器	鉢	体部～口縁部1/2	(15.4)	5.9+			口縁内外面ヨコナデ。内面ナデ。底体部外面雑な篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	浅黄色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	17	B H38	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ3.1cm×1.7cm×2.1cm 2.8g									
	18	B H38	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ2.5cm×1.9cm×1.7cm 2.4g									
224 住	1	B H22 +	覆土	弥生式土器	甕	胴上部～口縁部1/4	(21.2)	9.1+			口唇刻み。外面薄い刷毛ナデ、内面刷毛目残すナデ。	小礫1㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい褐色	橙色、にぶい褐色	普通	内面少し剥離
	2	B H22 +	覆土	弥生式土器	甕	口縁部片					口縁押捺で波状。外面輪積み明瞭、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	浅黄色、黒褐色	やや良好	
	3	B H22 Po7	溝内	土師器	甑？	胴上部一部～口縁部1/4	(23.6)	9.0+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面および内面シャープな篦ケズリ。	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい橙色、褐灰色	少し良好	
	4	B H22 Po2+ Po5+	ほぼ床面 +4	土師器	甕	胴上位一部～口縁部1/4	(26.0)	14.1+	(23.7)		口縁肉厚でヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面も斜位篦ケズリ。	小礫4㎜以下を少量含む	赤色、灰黄褐色、暗赤褐色	灰褐色、にぶい赤褐色、にぶい褐色	やや不良	外面やや摩耗
	5	B H22 +	覆土	須恵器 市原産	杯	体部一部～口縁部1/5	(14.4)	3.5+		(11.4)	内外面ロクロナデ。	密	灰白色	灰白色、浅黄色	やや不良	内外面少し摩耗。内面火ダスキ有り
225 住	1	B H47 Po4	床面直上	土師器	甕	体上部～口縁部1/4	(11.6)	4.5+			口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面篦ケズリ。	小礫2㎜以下を含む	黒褐色、灰褐色、褐色	黒褐色、灰褐色	普通	内面少し剥離
	2	B H47 Po4	床面直上	土師器	甕	底部～胴最下部1/3		3.3+		(7.6)	外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を含む	にぶい赤褐色 黒褐色	褐灰色、にぶい橙色	やや不良	外面摩耗、内面剥離多い
	3	B H47 +	覆土	土師器	甕	底 部1/2～胴 最下部1/4		2.5+		(7.1)	外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 赤褐色、暗赤灰色、にぶい黄橙色	にぶい赤褐色 暗赤灰色	普通	内面の一部剥離
	4	B H47 Po1-2	床面直上	須恵器	甕	胴部片					外面深い平行叩き目、内面圧痕残すナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	灰白色、浅黄色	灰黄色、灰白色	普通	
	5	B H47 + Po9	ほぼ床面 +4	須恵器	杯蓋	1/3 鈕部､天井中央部欠損	(16.2)	2.9+			口縁および内面シャープなヨコナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	緻密 一部小礫2㎜弱含む	灰黄色、黄灰色	褐灰色、黄灰色、灰白色	普通	
	6	B H47 Po6	ほぼ床面 +4	非ロクロ土師器	杯	1/3 底部中央欠損	(12.2)	3.8		(8.2)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密 褐鉄鉱粒と小礫1㎜前後を含む	褐灰色、にぶい橙色	にぶい褐色、明褐色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗、一部剥離
	7	B H47 Po4	床面直上	非ロクロ土師器	杯	底部～胴最下部1/4 底部中央欠損		2.7+		(8.9)	外面篦ケズリ、内面篦ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 赤灰色、黒褐色	にぶい赤褐色	やや不良	内面摩耗著しい
	8	B H47 Po8	ほぼ床面 +6	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/4～柱状部3/5		4.3+		脚径(9.8)	摩耗不明。	小礫3㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 赤褐色	にぶい黄橙色 赤褐色	やや不良	内外面摩耗多い。赤彩
	9	B H47 Po10	床面直上	石製品	砥石	一部欠損	現存長6.8cm･幅3.2cm･厚さ1.0～2.2cm･孔径0.8cm 48.6g									
	10	B H47 Po5	床面直上	鉄製品	楔？	両端欠損	現存長7.8cm･径1.0cm×0.4cm 8.4g									
	11	B H47 Po5	床面直上	鉄製品	紡錘車の軸？	一部	現存長3.8cm･径0.3cm×0.4cm 2.0g									
226 住	1	B H14 炉中	炉内	弥生式土器	甕	頸部片					外面輪積み残すナデ、内面ナデ。	密	橙色	にぶい褐色	わずかに不良	内面わずかに摩耗
227 住	1	B H20 +	覆土	須恵器	甕	胴上部～頸下部1/6～口縁部一部	(20.0)	9.7+			内外面ロクロナデ。口頸部および肩部外面釉被る。	密 灰白色粒2㎜大以下を含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、オリーブ黄色、黄灰色灰黄色	良好	内面口縁部、外面降灰？接合しない2片。
	2	B H20 +	覆土	須恵器	杯	底部～体下部1/4		2.0+		(9.0)	内外面ロクロ整形。体部下端および底部手持ち篦ケズリ。	灰白色粒3㎜大以下を極少量含む	浅黄色、オリーブ黒色	浅黄色、灰黄色	やや不良	内外面摩耗、剥離
	3	B H20 +	覆土	須恵器 千葉市域産	杯	底部1/4 中央部欠損		2.9+		(7.6)	内外面ロクロ整形。体部下端および底部手持ち篦ケズリ。	小礫4㎜以下を少量含む	黒褐色、浅黄色	暗灰黄色、黒褐色	普通	
	4	B H20 +	覆土	非ロクロ土師器	杯	小破片	(12.4)	4.4+		(8.5)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	明橙色	明橙色	不良	内外面摩耗多い
228 住	1	B H15 +	覆土	土師器	甕	口縁部1/6	(12.6)	5.0+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を含む	黒褐色、褐灰色	灰黄褐色、褐灰色	やや不良	内外面少し摩耗、内面一部剥離
	2	B H15 +	覆土	土師器	杯 杯蓋模倣漆塗り？	体部～口縁部1/4	(15.6)	3.6+	(15.7)		口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。底体部外面丁寧な篦ナデ。	密	にぶい黄橙色 黒褐色	灰黄褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗。内面漆塗り？
	3	B H15 +	覆土	須恵器	高杯	脚下部1/5		2.9+		脚径(13.9)	内外面ロクロナデ透かしあり。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、黄灰色	普通	
	4	B H15 +	覆土	土師器	鉢	体部～口縁部1/4	(14.8)	7.1			口縁内外面および内面ナデ。胴外面ケズリ状の篦ナデ。	密	橙色、灰褐色 にぶい黄橙色	橙色、灰褐色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗、内面剥離多い
229 住	1	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部1/3～胴部～口縁部3/5	19.9	31.9	21.4	6.7	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫4㎜以下を含む	にぶい黄橙色 赤色、褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内面少し剥離

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
229 住	2	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部4/5～胴部～口縁部3/5強	20.7	29.6	19.7	6.2	口唇玉状。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、下端横位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫 8 ㎜ 以下、褐鉄鉱粒 6 ㎜以下を少量含む	暗赤褐色、赤黒色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	3	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位3/5～胴上部3/5強～口縁部3/5	19.5	23.3＋	19.2		口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下半斜位、内面ナデ。	小礫 6 ㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 明黄褐色、黒褐色	暗灰黄色、黄灰色、にぶい橙色	やや不良	外面やや摩耗、内面やや剥離
	4	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下部2/5～胴上部3/5強～口縁部4/5	19.5	29.2＋	(21.2)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫 7 ㎜以下を含む	にぶい橙色、橙色、灰褐色、黒褐色	にぶい橙色、橙色、褐灰色	やや不良	内面胴下位わずかに剥離。口縁部に少しカマド粘土付着
	5	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴部1/4～口縁部1/2	(19.6)	10.2＋			口頸部僅かに外反。口縁内外面ヨコナデ。胴内外面篦ナデ。	小礫 2 ㎜大以下を含む	にぶい黄橙色 橙色、灰白色、暗赤褐色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H16 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴中位一部～胴上部～口縁部1/3	(23.6)	10.9＋	(22.1)		肉薄。口縁摘み上げ顕著で水平に開く。口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫 2 ㎜大以下を含む	赤褐色、灰赤色、にぶい黄橙色	赤褐色、灰赤色、暗赤灰色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	7	B H16 ＋	覆土	須恵器	杯身	体部～口縁部片 底部欠損	(13.2)	3.1＋	稜部径 (15.4)		口縁および受部稜鋭く尖る。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	緻密	灰色	灰色	普通	ＴＫ209型式
	8	B H16 カマド	カマド燃焼部	土製品	管状土錘	ほぼ完形	径1.0～1.1cm・高さ3.8cm・孔径0.4cm　4.5ｇ									
	9	B H16 Po1+12	覆土	石製品	磨石	完存	長さ8.8cm・幅5.1cm・厚さ3.3cm　38.5ｇ									
230 住	1	B H17 ＋ カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部～口縁部片	(21.4)	5.6＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒 3 ㎜以下を一部含む	浅黄色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	2	B H17	覆土	土師器	小形台付甕？	体下部～中位2/5～体上部～口縁部4/5強	10.0	7.6	12.3		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	密	灰黄褐色、にぶい橙色	にぶい橙色、黒褐色	やや不良	内外面やや摩耗。内面剥離多い
	3	B H17 カマド	カマド燃焼部	須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面同心円文消し去るナデ。	密	浅黄色	灰白色	普通	外面に自然釉
	4	B H17 ＋	覆土	須恵器	杯	底部1/3 中央部欠損		1.1＋		(7.4)	内外ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	密	灰オリーブ色	灰オリーブ色 灰色	普通	内面火ダスキ有り
	5	B H17 ＋	覆土	土師器	杯	底部3/5～体部～口縁部1/4	(11.0)	4.9		(7.8)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒 2 ㎜以下を含む	橙色、浅黄橙色	橙色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗
	6	B H17 ＋	覆土		平瓦							褐鉄鉱粒 2 ㎜大以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 浅黄橙色	やや不良	
	7	B H17 ＋	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ2.3cm×2.3cm×2.2cm　2.2ｇ									
231 住	1	B H19 Po4 カマド	ほぼ床面 ＋4	土師器	甕？	胴中位1/3～口縁部1/4	(15.4)	18.6＋	(15.9)		摩耗不明。	小礫 4 ㎜大以下を多く含む	にぶい橙色、橙色、褐灰色、黒褐色	灰黄褐色、褐灰色、橙色	不良	
	2	B H19 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	胴最上部一部～口縁部1/4	(23.0)	7.1＋			口縁僅かに玉状で内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ヨコナデ。	小礫、褐鉄鉱粒 3 ㎜以下を含む	浅黄橙色、暗赤褐色、橙色	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	良好	
	3	B H19 ＋	覆土	須恵器	高台付杯	底部高台部1/4～体部1/5	(11.6)	4.4		(7.6)	高台断面三角形。内外面ロクロナデ。	灰白色粒 2 ㎜大以下を少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	普通	
	4	B H19 Po5+14	覆土 ＋13	須恵器 下総南企比産？	杯	底部～口縁部3/5強	(13.2)	3.6		(7.8)	内外面ロクロナデ。底部手持ち篦ケズリ。	砂粒多く含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰白色	普通	
	5	B H19 ＋	覆土	須恵器 市原産	杯	底部1/2		1.0＋		(8.0)	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	鉄粒 3 ㎜以下を少量含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	6	B H19 ＋ H10Po3.3	壁溝内	土師器	杯	1/4	(14.4)	4.0		(9.1)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒 3 ㎜大以下を少量含む	橙色、浅黄橙色	橙色	不良	内外面摩耗多い
	7	B H19 Pit2上	Ｐ2内	かわらけ	杯	底部3/5～体部～口縁部2/5	(10.4)	2.9		(6.8)	内外ロクロナデ。底部回転糸切り。	密	灰黄色、浅黄色	灰黄色、浅黄色	普通	
	8	B H19 ＋	覆土	石製品	砥石	一部	現存長2.9cm・幅4.1cm・厚さ1.5cm　28.4ｇ									
	9	B H19 ＋	覆土	石製品	砥石	1/2	長さ5.7cm・幅4.5cm・厚さ1.3～2.2cm　87.3ｇ									
233 住	1	B H12 Po8	覆土 ＋15	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(15.4)	13.2＋			口唇僅かに玉状で内外面ヨコナデ。胴外面ミガキ状篦ナデ、内面篦ナデ。	密	灰黄褐色、浅黄橙色	灰黄褐色、にぶい橙色	普通	内面一部剥離
	2	B H12 Po3	Ｐ1内	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部2/5	(18.0)	10.0＋			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ナデ、内面篦ナデ残すナデ。	密	褐灰色、にぶい橙色	黒褐色、橙色 浅黄橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	3	B H12 Po9	ほぼ床面 ＋9	土師器	甕	底部 胴最下部3/5強		3.8＋		8.3	突出気味。外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫 2 ㎜大以下を少量含む	にぶい橙色、褐灰色	橙色、灰褐色	やや不良	内面剥離多い
	4	B H12 Po1	ほぼ床面 ＋8	土師器	椀形高杯 赤彩土器	脚部1/2～杯体部1/3～口縁部一部	(14.7)	8.0		脚径 (7.4)	口縁内外面および内面ヨコナデ。体部篦ナデ。脚柱篦ナデ、裾僅かに玉状でヨコナデ。	褐鉄鉱粒 7 ㎜以下を含む	赤色、にぶい黄橙色、灰赤色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	5	B H12 Po3	Ｐ1内	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部1/2欠損		4.9＋		脚径 8.9	脚柱丁寧篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒 6 ㎜大以下を一部含む	赤色、灰赤色		普通	赤彩
	6	B H12 Po12	覆土	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部2/3欠損		3.3＋		脚径 (8.5)	脚柱丁寧篦ナデ、裾ヨコナデ。	褐鉄鉱粒 3 ㎜以下を少量含む	赤色、橙色		やや不良	内外面少し摩耗。赤彩
	7	B H12 Po10	ほぼ床面 ＋6	土師器	高杯 赤彩土器	脚部 裾部3/4欠損		3.8＋		脚径 (9.0)	脚柱丁寧篦ナデ、裾ヨコナデ。	小礫 2 ㎜以下を少量含む	暗赤色、褐灰色		やや不良	外面摩耗多い。赤彩
	8	B H12 ＋	覆土	坩 赤彩土器	体部4/5～口縁部2/5 底部欠損		(5.8)	8.7＋	(10.6)		口頸部短く外傾、底体部扁平。体部円1孔有り。内外面とも丁寧なナデ。	密	赤色、暗赤灰色、暗赤褐色	赤灰色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。内面口縁部、外面赤彩
	9	B H12 Po4	ほぼ床面 ＋5	土師器	鉢	1/3 口唇部1/6 底部欠損	(11.2)	6.9＋	(11.4)		口縁内外面雑なヨコナデ。胴外面輪積み残す雑な篦ナデ、内面ナデ。	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内面わずかに摩耗
	10	B H12 ＋	覆土	土製品	土玉	3/5	径3.4～3.5cm・高さ3.3cm・孔径0.7cm　(27.6ｇ)									
	11	B H12	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ2.8cm×2.6cm×1.9cm　5.0ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
233住	12	B H12 Po5	ほぼ床面 +7	石製品	叩き石	一部欠損	長さ10.2cm・幅5.3cm・現存厚3.4cm 262.1ｇ									
234住	1	B H11 Po1 Po2 +	ほぼ床面 +3	土師器	甕	胴下部1/4～胴上部1/3～口縁部1/5	(20.0)	27.2+	(20.4)		やや肉薄い。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫３㎜大以下を少量含む	灰黄褐色、にぶい赤褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	普通	
	2	B H11 カマド	カマド燃焼部	須恵器	大甕片転用硯						凹面に研磨痕跡と僅かに黒墨痕跡を留める、凸面平行叩き目。	小礫３㎜以下を極少量含む	浅黄色、灰色	灰白色、灰色	普通	
	3	B H11 +	覆土	須恵器	高台付杯	底部1/2～体下部1/3		2.8+		(10.2)	体部下端稜明瞭。高台角状。底部および体部下端回転篦ケズリ。内面ロクロナデ。	密	灰オリーブ色 灰色	灰オリーブ色 灰色	普通	
	4	B H11 Po3	床面直上	土師器	杯	底部～体部4/5～口縁部2/3	(13.8)	5.2		(9.6)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリで底部中央に回転糸切り残す。	小礫２㎜弱以下を含む	橙色、灰赤色 赤黒色	にぶい橙色、橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	5	B H11 カマド	カマド燃焼部		丸瓦						凹布目。凸無文。	小礫１㎜以下を極少量含む	灰黄色、にぶい黄橙色、にぶい褐色		わずかに不良	
	6	B H11 +	覆土	鉄製品	不明	一部	現存長5.5cm・幅2.6cm・厚さ0.5cm 23.5ｇ									
235住	1	B H21 Po6	覆土 +23	土師器	皿状杯	3/5 口縁部1/3	(14.8)	3.5			口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ、底体部外面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒２㎜以下を少量含む	橙色	黒褐色、にぶい橙色、橙色	やや不良	内外面少し摩耗。
	2	B H21 +	覆土	土師器	杯	3/5	(13.9)	4.4			口縁外面ヨコナデ。内面光沢有るミガキ。底体部外面篦ケズリ残る篦ナデ。	小礫１㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色	黒褐色、にぶい褐色	やや不良	内外面摩耗
	3	B H21 Po7	覆土 +15	土師器	杯 杯身模倣	1/2 口縁部2/5	(13.6)	3.4	(14.8)		稜「く」字で鈍い稜。口縁内外面ヨコナデ。内面凹凸残す弱いミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒６㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	4	B H21 +	覆土	土師器	椀	1/2	(9.7)	4.5	(10.4)		内面篦ナデ。外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	にぶい赤褐色 にぶい褐色	暗赤褐色	わずかに不良	内面やや摩耗
	5	B H21 +	覆土	土師器	椀	1/4	(11.1)	5.3	(11.3)		口縁外面および内面ヨコナデ。外面ミガキ。	密	にぶい黄橙色 橙色	にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H21 Po4	壁溝内	土師器	大形高杯 漆塗り？	杯部1/2	22.5	8.2+			杯部大きく外傾。口縁直下に稜有す。内外面光沢有るミガキ。	密	にぶい黄橙色 にぶい赤褐色	黒色、にぶい橙色、浅黄橙色	少し良好	内面剥離。内外面漆塗り。
	7	B H21 Po9	床面直上	土師器	高杯	脚部1/2 杯底部		4.5+		脚径 11.3	杯内面ミガキ。脚柱鋭い篦ケズリ、裾ヨコナデ。	密	灰黄色、黄灰色	灰黄色、黄灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	8	B H21 +	カマド	土製品	支脚	ほぼ完形		18.9	10.0		偶面一円錐台 断面一円	密	浅黄色、灰黄色、にぶい黄橙色		やや不良	
236住	1	B H44 Po2	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体部3/5～口縁部1/3	(12.7)	3.1	稜部径 (13.6)		口縁内外面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ。底体部外面篦ケズリ。	小礫、褐鉄鉱粒１㎜大以下を少量含む	浅黄色、にぶい黄色、黒褐色	にぶい黄橙色 浅黄色	やや不良	
	2	B H44 床	覆土	土師器	杯 杯身模倣	体部1/4～口辺下部一部		3.6	稜部径 (13.7)		肉薄い。内面ヨコナデ。外面篦ケズリ。	小礫１㎜以下を少量含む	橙色、浅黄色	橙色、浅黄色	普通	薄手
237住	1	B H42 Po2 +	覆土 +19	土師器	甕	胴中位1/6～胴上部～口縁部1/4	(15.6)	18.5+	(18.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。雑な整形。	褐鉄鉱粒４㎜大以下を含む	灰黄色、黄灰色、黒褐色、橙色	浅黄色、灰黄褐色、黒褐色 にぶい黄橙色	わずかに不良	
	2	B H42 Po7	床面直上	土師器	杯 漆塗り	3/5強	(13.3)	3.3			内面および口縁外面光沢有るミガキ。底体部外面ミガキ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を極少量含む	橙色、灰黄色	橙色、灰黄色 黒色	やや不良	外面少し摩耗、内面わずかに剥離。内面漆塗り。
	3	B H42 Po3	床面直上	土師器	杯 杯身模倣	1/6 底部附近欠損	(13.0)	3.2+	稜部径 (13.8)		口縁内外面および内面床面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	黄橙色、灰黄褐色、褐灰色	黒褐色、にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗
	4	B H42 Po5	ほぼ床面 +3	土師器	杯	1/3	(12.0)	3.9			丸底。内面光沢有るミガキ。口縁外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫１㎜以下を少量含む	赤色、赤橙色 にぶい黄橙色	灰黄褐色、明赤褐色	わずかに不良	内面摩耗、剥離多い
	5	B H42 +	覆土	土師器	高杯 内黒土器	脚最上部～杯部1/4	(13.6)	4.4+			口縁内外面ヨコナデ。杯内面底部弱いミガキ、外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	淡黄色、暗灰黄色、黒褐色	淡黄色、暗灰黄色、黒褐色	やや不良	内外面摩耗多い。内面黒色処理
	6	B H42 Po10		石製品	砥石	一部	大きさ7.0cm×8.6cm×5.0cm 335.5ｇ									
	7	B H42 Po12		石製品	砥石	一部欠損	現存長9.2cm・幅1.3～4.6cm・厚さ2.6cm 102.8ｇ									
	8	B H42 Po1	床面直上	石製品	叩き石 磨石	ほぼ完存	長さ9.7cm・幅7.5cm・厚さ5.9cm 510.6ｇ									
238住	1	B H43 Po6	床面直上	土師器	甕	底部4/5強～胴部4/5～口縁部2/5	(17.1)	25.8	17.7	6.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。胴下端接合面有り。	褐鉄鉱粒６㎜以下を含む	にぶい黄橙色 橙色	にぶい黄橙色	やや不良	
	2	B H43 カマド B H42Po4	カマド燃焼部	土師器	甕	胴上部1/4～口縁部一部	(16.4)	8.2+			口唇シャープなヨコナデで「コ」字状。胴外面ヨコナデ、内面ナデ。	小礫２㎜以下を多く含む	褐灰色、にぶい橙色、浅黄橙色	浅黄橙色、灰黄褐色	良好	
	3	B H43 Po11	覆土 +12	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(22.0)	12.9+			口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	６㎜大以下の小礫と褐鉄鉱粒を少量含む	褐灰色、橙色 灰黄褐色	褐灰色、にぶい黄橙色	やや良好	
	4	B H43 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑？	胴最上部1/6～口縁部1/4	(26.2)	5.2+			口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒３㎜以下、小礫１㎜以下を少量含む	橙色、にぶい橙色、褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、褐灰色	良好	
	5	B H43 Po11	覆土 +12	土師器	甕	胴最上部～口縁部1/4	(23.0)	4.7+			口縁大きく外反。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	密	橙色、灰褐色	橙色	良好	
	6	B H43 Po13	覆土 +10	須恵器	大甕片転用硯？	胴部片					凹面に研磨痕跡と僅かに黒墨痕跡を留める、凸面平行叩き目。	褐鉄鉱粒２㎜大以下を少量含む少量含む	灰白色	灰黄色、浅黄色、黄灰色	普通	
	7	B H43 Po9	覆土 +10	土師器	杯 内黒土器	底部 体部～口縁部1/4	(12.1)	3.8		8.5	内外面に雑な光沢有るミガキを施す。体部から底部は手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒１㎜大以下を含む	黒色、褐灰色 黒褐色	黒色、褐灰色 黒褐色	少し良好	内面一部剥離。内外面黒色処理
	8	B H43	覆土	かわらけ	皿	底部 体部4/5強～口縁部3/5	(10.2)	2.8		7.2	内面底部凹凸残すロクロナデ。底部回転糸切り。	密 一部に褐鉄鉱粒３㎜以下を含む	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや良好	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
238 住	9	B H43 +	覆土	手捏土器	鉢形赤彩土器	底部体下部1/3		2.0+			内外面指頭圧痕。	密	赤褐色、浅黄橙色	赤褐色、赤灰色	普通	内外面赤彩
	10	B H43 カマド	カマド燃焼部	須恵質	丸瓦						凹面布目。凸無文。	小礫2㎜弱以下を含む	にぶい橙色、褐灰色		普通	
	11	B H43B +	覆土	石製品	砥石	一部	長さ3.8cm・幅3.5cm・厚さ1.8cm 38.3g									
239 住	1	B H45 Po9	ほぼ床面 +4	土師器	甕	底部4/5～胴下部～胴中位3/5～胴上部2/5		24.4+	(20.3)		胴長丸底甕。胴上半ミガキ状篦ナデ。下半ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下、小礫1㎜大以下を少量含む	赤橙色、暗赤灰色	赤色、赤灰色	やや不良	内外面少し摩耗、剥離
	2	B H45 Po2	床面直上	土師器	甕	胴部3/5		18.6+	(26.9)		胴外面上半篦ナデ、下半篦ミガキ。	小礫2㎜以下を少量含む	橙色、灰黄褐色	明赤褐色、にぶい赤褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面やや剥離
	3	B H45 Po5	焼土中 ほぼ床面 +5	土師器	鉢形杯 赤彩土器	底部～体下部 体上部3/5強～口縁部1/2	(13.4)	4.8		3.9	口縁内面ヨコナデ。内面底部弱いミガキ、外面篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	赤色、橙色	赤色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	4	B H45 Po1	床面直上	土師器	椀形杯 赤彩土器	底部3/5強～体部4/5～口縁部3/5強	16.0	5.2	16.3		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	小礫1㎜大以下を少量含む	赤色、橙色、赤黒色	明赤褐色、にぶい赤褐色	やや良好	外面底部附近除き内外面赤彩
	5	B H45 Po5	焼土中 ほぼ床面 +5	土師器	高杯 赤彩土器	脚裾部1/5～柱状部～杯部4/5強	15.6	13.7		脚径(12.4)	杯内面ナデ。外面篦ナデ。脚柱丁寧な篦ナデ、裾ヨコナデ。	緻密	赤色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	赤色、にぶい赤褐色、浅黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗。赤彩
	6	B H45	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ3.5cm×3.1cm×2.7cm 8.8g									
240 住	1	B H40 +	覆土	土師器	甕	底部		3.5+		5.7	外面篦ケズリ。内面ケズリ状篦ナデ。	微砂粒含む	暗褐色	淡黒褐色	普通	
	2	B H40 Po8	ほぼ床面 +4	須恵器	杯身	1/2 底部欠損	(11.0)	3.2+	稜部径13.5		口縁および受部稜鋭く尖る。内外面ロクロナデ。底部雑な回転篦ケズリ。	灰白色粒3㎜大以下を多く含む	オリーブ黒色 灰色	灰色	普通	TTK209型式
	3	B H40 Po1	覆土 +29	土師器	杯 杯身模倣	3/5強	(11.2)	3.4	稜部径(12.6)		口縁内外面ヨコナデに弱いミガキ。底体部内面ミガキ、外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい橙色、褐灰色	暗赤褐色	普通	内外面わずかに摩耗
	4	B H40 Po10	ほぼ床面 +5	土師器	杯	1/3	(14.0)	4.0			口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	にぶい褐色、橙色	にぶい褐色、橙色	不良	内外面摩耗多い
	5	B H40 Po9	床面直上	土師器	杯？	体部～口縁部1/4	(15.4)	3.7+			口縁内外面ヨコナデ。内面弱いミガキ。底体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	褐灰色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	6	B H40 +	覆土	土師器	杯 暗文土器	1/3	(13.0)	3.4		(8.4)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。内面体部斜格子暗文。	小礫、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、赤色	橙色、にぶい褐色	不良	内外面摩耗。斜格子暗文
	7	B H40 +	覆土	土師器	大形模倣杯	口縁部片	(20.4)	4.2+	(21.0)		口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ケズリ。	微砂粒含む	暗褐色	淡褐色	普通	
	8	B H40 Po5 B H41+	床面直上	土師器	鉢？ 漆塗り	体部1/4～口縁部1/3	(22.3)	8.0+			全面光沢の有るミガキ。外面口縁直下に沈線めぐる。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	黒色、にぶい黄橙色、褐灰色	黒色、にぶい黄橙色、褐灰色	少し良好	全面漆塗り
	9	B H40 Po11	ほぼ床面 +7	土師器	小形鉢	1/2 口縁部1/4	(10.5)	6.1			口縁内外面ヨコナデ。内面底部篦ナデ。外面底体部篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	赤褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色 黒褐色	やや良好	
	10	B H40 Po13	ほぼ床面 +6	土製品	玉	完形	径2.8～3.1cm・高さ3.6cm 27.2g									
	11	B H40 カマド	カマド燃焼部	鉄製品	鎌	1/2	現存長7.5cm・幅1.9cm・棟厚0.3cm 12.1g									
	12	B H40 Po6	ほぼ床面 +4	鉄製品	刀子	刃一部	現存長3.3cm・幅1.5cm・棟厚0.45cm 5.9g									
	13	B H40 Po12	ほぼ床面 +4	鉄製品	刀子	茎一部	現存長4.0cm・幅0.8cm・棟厚0.3cm 3.5g									
241 住	1	B H41 +	覆土	土師器	丸底鉢	底部1/2		2.2+		(4.4)	外面ケズリ状篦ナデ。内面ミガキ。	小礫3㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	2	B H41 +	覆土	土師器	杯	小片	(12.8)	2.5+	(13.1)		口縁内外面および内面ヨコナデ。体部外面篦ナデ。	褐鉄鉱粒1㎜大以下を含む	灰黄褐色、にぶい黄橙色	褐灰色、橙色	不良	
	3	B H41	覆土	鉄製品	釘	頭部欠損	現存長10.5cm・径0.5cm×0.6cm 13.8g									
243 住	1	B H18 +	覆土	土師器	甕	胴上部～口縁部1/4	(21.0)	11.2+	(20.0)		肉薄。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	灰黄褐色、にぶい褐色、褐灰色	褐灰色、にぶい褐色、灰褐色	普通	
	2	B H18 LP	P3内	土師器	甕	底部1/2～胴下部1/4		6.2+		(5.8)	外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫3㎜大以下を含む	灰赤色、赤黒色、浅黄色	黒褐色、浅黄色	やや不良	内外面やや摩耗、内面一部剥離。外面一部にカマド粘土付着
	3	B H18 Po12	床面直上	土師器	甕	底部 胴最下部1/2		2.9+		6.9	外面篦ナデ、内面ナデ。	密	橙色、灰黄褐色	褐灰色、灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い、内面剥離多い
	4	B H18 Po16 カマド	カマド燃焼部	須恵器	大甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文消し去るナデ。	密	浅黄色、灰色	浅黄色、灰色	普通	243住-5・7同一個体
	5	B H18 カマド +	カマド燃焼部	須恵器	大甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文消し去るナデ。	密	灰白色、浅黄色、灰色	浅黄色、灰色	普通	243住-4・7同一個体
	6	B H18 Po13	覆土 +17	須恵器	大甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文消し去るナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	灰色	灰色、灰白色	やや良好	
	7	B H18 Po18	カマド燃焼部	須恵器	大甕	胴部片					外面平行叩き目。内面同心円文消し去るナデ。	密	灰白色、灰色	灰白色、浅黄色、灰色	普通	内面剥離多い。243住-4・5同一個体
	8	B H18 Po19	床面直上	須恵器	杯蓋	3/5 口縁部1/4	(13.0)	3.7			外面口縁直下に沈線めぐる。内外面ロクロナデ。天井部外面3分の1回転篦ケズリ。	密	灰色、灰白色	灰色、灰黄色	普通	
	9	B H18 カマド	カマド燃焼部	須恵器	杯身 線刻土器	4/5 口縁部2/5	(11.6)	4.8	稜部径13.6	4.7	底部平底。受部稜丸く鈍い。受部直下に沈線めぐる。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	黒褐色粒2㎜以下を多く含む	灰色、黄灰色	灰黄色、黄灰色	普通	底部焼成前線刻「×」
	10	B H18 Po5	床面直上	須恵器	杯身 線刻土器	1/4	(11.0)	4.7	稜部径(12.6)	(4.7)	底部平底気味。受部稜丸く鈍い。受部直下に沈線めぐる。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	黒色粒6㎜以下を極少量含む	灰黄色、黄灰色	灰黄色、黄灰色	普通	底部焼成前線刻「×」
	11	B H18 + Po2	ほぼ床面 +3	須恵器	杯蓋	体部一部～口縁部1/6	(13.6)	1.9+			口縁直角に垂れる。内外面ロクロナデ。天井部外面3分の2回転篦ケズリ。	黒褐色粒4㎜以下を少量含む	灰白色、浅黄色、灰色	灰白色、灰オリーブ色、灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
243住	12	B H18 Po8	覆土 +23	須恵器 永田不入産	杯	4/5	12.9	4.0		7.9	器高低く、角高台。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	小礫、黒褐色粒1㎜前後を含む	灰色	灰色	普通	
	13	B H18 Po11	覆土 +22	須恵器 永田不入産	高台付杯	4/5	14.4	5.3		9.0	器高高く、角高台。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。	密	淡黄色、灰色 暗灰黄色	淡黄色、灰色 暗灰黄色、にぶい黄橙色	やや不良	
	14	B H18 Po1	覆土 +9	土師器	杯	底部 体部～口縁部1/3	(11.4)	4.1		6.5	角高台。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。	密	黄灰色	黄灰色	わずかに不良	
	15	B H18 Po2	ほぼ床面 +3	須恵器	高台付杯	底部4/5		1.8+		8.6	角高台。内外面ロクロナデ。底部回転糸切り残す回転篦ケズリ。	密	灰色、灰白色 淡黄色	灰黄色、浅黄色	普通	
	16	B H18 Po2	ほぼ床面 +3	須恵器	杯	底部1/2～体下部1/4～口縁部一部	(14.0)	3.4		(9.8)	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	黒褐色粒1㎜大以下を多く含む	浅黄色、灰色	浅黄色、灰色	やや不良	内外面摩耗多い
	17	B H18 Po9	覆土 +23	須恵器	杯	完形	12.7	3.2		10.2	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	緻密	灰色、オリーブ黒色	灰色、黒褐色	普通	内外面火ダスキ有り
	18	B H18 Po10	覆土 +24	須恵器	杯	底部 体部～口縁部3/4	11.7	3.6		8.1	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	鉄粒3㎜大以下を少量含む	灰黄色、黄灰色	黒褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	19	B H18 +	覆土	須恵器	杯	底部3/5～体部1/5～口縁部一部	(12.1)	3.4		(9.3)	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	密	灰色、浅黄色 黄灰色	灰色、浅黄色 黄灰色	やや不良	内外面少し摩耗
	20	B H18 +	覆土	須恵器	杯	底部1/6～体部～口縁部1/4	(12.8)	3.5		(8.4)	内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	密	灰黄色、灰白色、灰色、明赤褐色	灰黄色、灰白色、灰色、明赤褐色	やや不良	内外面わずかに摩耗。火ダスキ有り
	21	B H18 +	覆土	須恵器	杯	底部周辺～口縁部3/5強	(13.6)	3.7+			内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	密	黄灰色、灰黄色、灰色	黄灰色、灰黄色、灰色	やや不良	内外面やや摩耗
	22	B H18 Po6	覆土 +15	須恵器	高盤	脚最上部～杯部1/5	(20.5)	3.7+			脚3方透かし。口縁端部僅かに立つ。内外面ロクロナデ。杯部底面回転篦ケズリ。	灰白色粒3㎜大以下を含む	灰黄色、浅黄色、黄灰色	灰黄色、浅黄色、黄灰色	普通	脚三方すかし
	23	B H18 Po3	覆土 +22	土師器	高杯	脚最上部～杯部1/2	(12.8)	5.7+			口縁直下に鈍い稜有り。口縁内外面および内面光沢有るミガキ。外面篦ナデ。	密	橙色、褐灰色 暗赤褐色	橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	やや不良	内外面摩耗
	24	B H18	覆土	かわらけ	皿	完形	10.1	2.7		5.5	内外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	密	明褐色、褐灰色、灰褐色	にぶい黄橙色 褐灰色、灰褐色	やや良好	ゆがみとヒビ有り
	25	B H18 カマド	カマド燃焼部	ミニチュア土器	壺形	4/5強 口唇部1/3	(3.1)	3.4	4.5	2.5	口縁内外面ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	26	B H18 カマド	カマド燃焼部	土製品	支脚	先端部1/2		8.5+			側面一円柱状 断面一円	密	浅黄色、にぶい黄橙色		不良	
	27	B H18 Po16 Po17 カマド	カマド燃焼部ほか	須恵器	双耳瓶	胴上部1/3		10.6+	(25.5)		内面ロクロナデ。外面回転篦ケズリ残すナデ。外面釉被る。	灰白色粒2㎜以下を極少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	普通	内面一部剥離。外面に釉付着
	28	B H18 Po15+21	カマド遺構外	鉄製品	紡錘車	軸両端欠損	現存長15.4cm・輪径5.4cm×5.4cm・輪厚0.4cm・軸径0.55cm×0.6cm 53.1g									
	29	B H18 +	覆土	石製品	磨石	完存	大きさ3.7cm×3.1cm×2.2cm 8.6g									軽石
244住	1	B H50 +	覆土	須恵器	大甕	口縁部片	(40.2)	5.3+			口縁肉厚で上方へ摘み上げ。内外面ナデ。	密	オリーブ黒色 灰色	灰色、灰白色	良好	
	2	B H50 +	覆土		丸瓦						凹面布目。凸無文。	密	灰オリーブ色		普通	
245住	1	B H4 Po13	床面直上	土師器	甕	底部4/5～胴下部3/5強～上部4/5～口縁部4/5強	18.4	29.5	18.4	5.4	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を含む	浅黄色、淡黄色、赤褐色、暗赤褐色	浅黄橙色、黒褐色、明赤褐色	やや不良	外面やや摩耗、内面底部一部剥離
	2	B H4 カマド	カマド燃焼部	土師器	甕	底部 胴部3/5強～口縁部2/5	(16.3)	27.4	17.5	5.0	口縁内外面ヨコナデ。胴外面凹凸残す縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下と褐鉄鉱粒7㎜以下を含む	黒褐色、橙色	褐灰色、黒褐色、にぶい橙色	不良	内外面摩耗、剥離
	3	B H4 Po11	カマド燃焼部	土師器	甕	胴下部2/5～胴上部3/5強～口縁部1/2	(19.4)	26.3+	(19.9)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	黒褐色、褐灰色、灰褐色、にぶい橙色、にぶい赤褐色	褐灰色、灰褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面剥離、摩耗多い
	4	B H4 Po7+	P7内	土師器	甕	胴下部1/4～胴中上部3/5～口縁部1/4	(14.0)	19.1+	(14.6)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫1㎜大以下を極少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	少し良好	
	5	B H4 カマド トナリ	床面直上	土師器	甕	ほぼ完形	16.0	20.1	18.4	6.9	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒1㎝大以下を含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色、橙色	浅黄橙色、にぶい黄橙色	やや不良	内外面やや摩耗、内面胴下部に剥離。底部～胴下部ヒビ有り
	6	B H4 Po6	床面直上	土師器	甕	胴中位3/5強～胴上部4/5～口縁部4/5強	15.7	18.6+	18.8		口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、橙色	にぶい黄橙色 褐灰色	やや良好	外面やや摩耗
	7	B H4 + Po6	床面直上	土師器	甕	底部 胴下部2/5		7.5+		6.0	外面篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒1㎝以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	黒褐色、灰黄褐色、にぶい褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗
	8	B H4 Po11	床面直上	土師器	甕	底部 胴下部3/5強～口縁部2/5	(19.0)	19.1	(19.8)	7.5	口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を少量含む	浅黄橙色、橙色、にぶい橙色、暗赤褐色	浅黄橙色、褐灰色	やや不良	内外面摩耗多い、内面剥離も多い
	9	B H4 Po6	床面直上	土師器	甕	底部～胴下部1/4～胴上部3/5強～口縁部1/6	(16.8)	19.0	(17.5)		丸底。口縁内外面ヨコナデ。胴外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	黒褐色、にぶい橙色、橙色	黒褐色、にぶい橙色、明赤褐色	普通	外面一部摩耗、剥離
	10	B H4 カマド	カマド燃焼部	土師器	甑	下端口唇部2/5欠損 口縁部1/5欠損	29.3	26.7		10.5	口縁内外面ヨコナデ。胴外面上半縦位篦ケズリ、下端斜位篦ケズリ。内面縦位線状の篦ミガキ。	小礫2㎜以下を少量、褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	にぶい橙色、橙色、灰褐色	にぶい橙色、橙色、灰褐色	やや不良	外面全体と内面の口縁部摩耗
	11	B H4 +	覆土	須恵器	蓋	部分	(12.8)	3.3			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	緻密	暗灰色	暗灰色	良好	
	12	B H4 Po3	床面直上	土師器	杯 杯蓋模倣内黒土器	底部～体部3/5～口縁部1/4	(14.8)	3.1			口縁外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	浅黄色、黒褐色	浅黄色、にぶい黄色	わずかに不良	内外面やや摩耗。内面カーボン付着。
	13	B H4 Po1LP–	P7内	土師器	杯 杯蓋模倣内黒土器	わずかに一部欠損	14.6	3.7	14.6		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒1㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい黄橙色 褐灰色	わずかに不良	内面少し摩耗。内面カーボン付着。
	14	B H4 カマド +	カマド燃焼部	土師器	杯 内黒土器	1/2 口縁部1/4	(15.0)	3.3			口縁外面ヨコナデ。内面篦ミガキ。底体部外面篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を極少量含む	灰黄褐色、黒褐色、にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。内面黒色処理
	15	B H4 +	覆土	土師器	杯 漆塗り	1/2	(12.6)	3.0			口縁外面ミガキ状篦ナデ。内面篦ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	浅黄色、黒褐色	浅黄色、暗灰黄色	わずかに不良	内外面やや摩耗

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
245 住	16	B H4 Po8+	覆土 +18	土師器	杯	1/2 口縁部1/4	(12.2)	4.2			内外面篦ナデ？	小礫1㎜大以下を極少量含む	淡黄色、浅黄色	黒褐色、浅黄色	やや不良	内外面摩耗多い
	17	B H4 Po3	床面直上	土師器	杯 杯身模倣	1/4	(11.6)	3.2+	稜部径 (13.2)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ケズリ。	密	暗褐色	暗褐色	普通	
	18	B H4 Po4LP−	P7内	土師器	杯	3/5強 口縁部1/2	12.3	4.6	13.0		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	密	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	やや良好	内外面一部摩耗
	19	B H4 Po1床	床面直上	土師器	杯 内黒土器？	3/5強	(13.5)	3.4	(14.5)		口縁外面および内面ミガキ。底体部外面ケズリ状篦ナデ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	淡黄色、黒褐色	淡黄色、浅黄色、暗灰黄色	少し良好	内面黒色処理？
	20	B H4 LP カマド	P7内	土師器	杯	3/5 口縁部1/3	(12.2)	4.0	12.9		摩耗不明。	小礫1㎜大以下を少量含む	淡黄色、浅黄色、黄灰色	黄灰色、暗灰黄色、淡黄色	やや不良	内外面剥離多い。16と胎土・焼成酷似。
	21	B H4 カマド	カマド燃焼部	土師器	杯	体部～口縁部 2/5 底部欠損	(10.6)	4.4	(11.5)		口縁内外面および内面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫1㎜以下を極少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	不良	内外面摩耗多い
	22	B H4 Po2 +	床面直上	土師器	高杯 漆塗り	脚上部3/5～杯部1/2	(13.0)	6.4+	稜部径 (14.8)		口縁内外面および内面ミガキ。底体部外面篦ナデ。	密	浅黄橙色、灰黄褐色	灰黄褐色	やや不良	外面少し摩耗。内面漆塗り
	23	B H4 南壁燃土上	南壁焼土中・床面直上	ミニチュア土器	壺形 赤彩土器	わずかに一部欠損	4.7	5.0	5.9		丸底。口縁内外面ヨコナデ。外面光沢有るミガキ。	密	にぶい赤褐色 黒褐色、赤色	赤色、暗赤灰色	少し良好	外面口頸部と内面赤彩
	24	B H4	覆土	土製品	支脚	部分欠く		(19.2)			側面一円柱状 断面一円	小礫7㎜大以下を少量含む	褐灰色、にぶい黄橙色		不良	
	25	B H4	覆土	土製品	支脚	基部欠損		20.7+	6.8		側面一円錐台 断面一円	密	褐灰色、にぶい黄橙色、にぶい橙色		普通	
	26	B H4	覆土	土製品	支脚	基部1/3		6.0+			側面一円柱状 断面一円	密	にぶい黄橙色 灰黄褐色		やや不良	
	27	B H4	覆土	土製品	土玉	ほぼ完形	径3.2～3.4cm・高さ3.3cm・孔径0.6cm 33.4g									
	28	B H4	覆土	石製品	石鏃	完存	長さ2.78cm・幅2.35cm・厚さ0.6cm 4.4g									
246 住	1	B H5 +	覆土	土師器	椀形杯 赤彩土器	1/2	16.8	5.0			口縁内外面ヨコナデ。内面丁寧なナデ。底体部外面篦ナデ。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜大以下を少量含む	赤色、浅黄橙色、灰赤色	赤色、にぶい橙色	やや不良	内外面少し摩耗。外面底部除き内外面赤彩
	2	B H5 Po4	ほぼ床面 +3	土師器	高杯 赤彩土器	杯部1/4	(15.6)	6.0+			杯部下端稜。口縁内外面ヨコナデ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	赤色、浅黄橙色、暗赤灰色	赤色、浅黄橙色、暗赤灰色	わずかに不良	内外面やや摩耗。赤彩
	3	B H5 Po	覆土	土師器	鉢形杯	1/4	(14.0)	4.8	(14.3)	(5.4)	平底。口縁内外面ヨコナデ。内面篦ナデ。底体部外面雑なナデ。	小礫1㎜以下、褐鉄鉱粒3㎜以下を少量含む	にぶい橙色、灰褐色	にぶい橙色、灰褐色	わずかに不良	内外面わずかに摩耗。外面は粘土のヒビ割れ多い
	4	B H5 Po5	ほぼ床面 +3	手捏土器	鉢形	体部3/5～口縁部1/4	(9.6)	3.8		5.7	平底。内面ケズリ状篦ナデ。体部外面指ナデ。	小礫1㎜以下を少量含む	にぶい橙色、にぶい黄橙色	褐灰色、にぶい黄橙色	普通	
247	1～13は本文説明															
I 号方形区画遺構	1	B 大壙		須恵器	甕	底部3/5強～胴部1/2 頸部～口縁部わずかに欠損	24.2	40.7	(29.6)	(14.0)	口縁上下摘み出し、口唇側面凹状。口縁内外面ヨコナデ。胴部外面平行叩き目、内面ナデ。	小礫5㎜以下を少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色	良好	
	2	B 大壙		須恵器	甕	胴部片					外面平行叩き目、内面圧痕残す丁寧なナデ。	密	灰オリーブ色	灰オリーブ色 灰色	普通	
	3	B 大壙		須恵器	甕	胴最上部一部～口縁部1/3	(25.5)	9.0+			口縁上下摘み出し、口縁内外面シャープなヨコナデ。胴部外面平行叩き目、内面ナデ。	灰白色粒3㎜以下を極少量含む	灰色、オリーブ黒色	灰色、灰オリーブ色	良好	
	4	B 大壙		須恵器	甕	口縁部1/6	(23.0)	4.7+			複合口縁状で丸く鈍い。口頸部外面雑なナデ、内面ナデ。	灰白色粒2㎜弱以下を含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	5	B 大壙		須恵器	甕	底部4/5～胴下部1/2～胴中位欠損～胴上部～口縁部1/3 口唇部欠損	(20.3)	(39.3)	(33.7)	15.8	内外面摩耗不鮮明。外面平行叩き目？内面ナデ？	灰白色粒6㎜以下を多く含む	浅黄色、オリーブ黒色、オリーブ黄色	浅黄色、オリーブ黒色、オリーブ黄色、明褐色	不良	内外面摩耗、剥離著しい
	6	B 大壙		須恵器	甕	胴部片					内面同心円文、外面平行叩き目。	灰白色粒2㎜大以下を含む	灰色、浅黄色	灰色、浅黄色	普通	
	7	B 大壙		須恵器	長頸壺	頸部～口縁部1/4	(19.2)	12.9+			口縁端部下方折れる。外面僅かに凹凸残すロクロナデ。内面輪積み残すロクロナデで内面口頸部に薄く釉被る。	密	灰黄色、灰色	灰白色	少し良好	内面自然釉付着
	8	B 大壙		土師器	甕	胴下部3/5～胴中位1/2～胴上部1/3～口縁部1/4	(22.8)	36.5+	(32.4)		口縁シャープなヨコナデで口唇「コ」字状。胴上半縦位篦ケズリ、下半斜位篦ケズリ。内面丁寧なナデ。	褐鉄鉱粒3㎜弱以下を多く含む	浅黄色、橙色 明赤褐色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	わずかに良好	内面胴部に剥離
	9	B 大壙		土師器	甕	胴上部1/6～口縁部1/5	(26.0)	12.5+			口唇シャープなヨコナデで「コ」字状。胴外面篦ナデ、内面ナデ。	小礫2㎜以下と褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい橙色、褐灰色	普通	
	10	B 大壙		土師器	甕	胴最上部～口縁部片	(27.6)	7.8+			口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜以下を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色、黒褐色	にぶい黄橙色 黒褐色	わずかに不良	内外面わずかに剥離
	11	B 大壙		土師器	甕	胴中位1/5～胴上部3/5～口縁部4/5	19.9	18.7+	(20.5)		肉薄。口縁内外面シャープなヨコナデ。胴外面斜位篦ケズリ、内面ナデ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を極少量含む	暗赤褐色、にぶい赤褐色、にぶい赤色、暗赤灰色、赤黒色	暗赤褐色、灰赤色、赤色	やや不良	外面少し摩耗、内面少し剥離
	12	B 大壙		土師器	台付甕	脚最上部3/5 甕胴下部1/3 口縁部2/3 甕胴中位欠損	(10.4)	12.5+	(13.0)		口縁内外面ヨコナデ。胴外面篦ケズリ、内面ナデ。	小礫2㎜大以下を多く含む	黒褐色	極暗赤褐色、明赤褐色、黒褐色	やや良好	胴部の一部わずかに剥離
	13	B 大壙		土師器	台付甕	脚部 胴下部1/4		8.8+		(8.9)	外面縦位篦ケズリ、内面ナデ。脚台指頭圧痕。	褐鉄鉱粒6㎜以下を含む	褐灰色、にぶい橙色、黒褐色	浅黄橙色、灰褐色	やや不良	外面、甕内面摩耗剥離
	14	B 大壙		土師器	台付甕	脚部3/5～胴最下部2/5		4.8+		(8.8)	外面篦ケズリ、内面ナデ。脚台指頭圧痕。	小礫2㎜以下を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	にぶい褐色、褐灰色、橙色	わずかに不良	内外面少し剥離
	15	B 大壙		土師器	台杯甕	脚部4/5強～体底部3/5強		3.0+		8.4	外面篦ケズリ、内面ナデ。脚台指頭圧痕。	小礫2㎜大以下を極少量含む	浅黄橙色、にぶい黄橙色	にぶい橙色、浅黄橙色、にぶい黄橙色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎土	色調		焼成	備考
							口径	器高	最大径	底径			外面	内面		
1号方形区画遺構	16	B大壙		土師器	台付甕	脚部1/4～甕底部		4.5+		(6.6)	外面篦ケズリ、内面ナデ。脚台指頭圧痕。	小礫、褐鉄鉱粒1㎜以下を含む	橙色、にぶい橙色	灰褐色、にぶい褐色、にぶい橙色	普通	
	17	B大壙		土師器	台付甕	脚最上部～甕底部		2.5+			外面篦ケズリ、内面ナデ。脚台指頭圧痕。	小礫1㎜以下を含む	にぶい橙色、橙色	橙色、にぶい黄橙色	やや不良	全体わずかに剥離、甕内面やや摩耗
	18	B大壙		土師器	杯	底部～体部1/2～口縁部一部	(12.1)	3.3		(9.1)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	橙色、にぶい褐色	橙色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面摩耗多い、一部剥離有り
	19	B大壙		土師器	杯	底部1/3～体部～口縁部2/5	(12.2)	3.1		(8.4)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜以下を少量含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	浅黄橙色、にぶい黄橙色、灰黄褐色	普通	
	20	B大壙		土師器	杯	底部～体部1/3～口縁部1/5	(13.0)	3.4		(9.4)	口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜以下を含む	橙色	橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	21	B大壙		土師器	杯	底部1/4～体部～口縁部1/3	(12.6)	3.9		(8.0)	口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜以下を含み、褐鉄鉱粒1㎜大を少量含む	橙色、にぶい橙色、にぶい赤褐色	明赤褐色、にぶい赤褐色	やや不良	内外面やや剥離
	22	B大壙		土師器	杯	底部4/5強～体部3/5～口縁部1/5	(12.2)	4.5		8.4	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒7㎜以下を多く含む	橙色、にぶい黄橙色、オリーブ黒色、褐灰色	にぶい黄橙色 灰黄褐色	やや不良	内外面摩耗多い
	23	B大壙		土師器	杯	底部3/5強～体部1/2～口縁部1/3	(11.1)	4.2		7.2	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒6㎜以下を含む	橙色、灰黄色	橙色、灰黄褐色、にぶい橙色	やや不良	内外面摩耗多い
	24	B大壙		土師器	杯	部分	(12.8)	3.4		(7.4)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	密	明褐色	明褐色	普通	
	25	B大壙		土師器	杯	底部3/5～体部1/2～口縁部1/3	(13.2)	4.3		(9.1)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を含む	黒褐色、灰黄褐色、にぶい褐色	灰黄褐色、にぶい黄橙色、にぶい橙色	不良	内外面剥離著しい
	26	B大壙		土師器	杯	底部4/5～体部2/5～口縁部1/4	(13.5)	4.7		9.1	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒3㎜大以下を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	橙色、にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	内外面やや摩耗、外面剥離も多い
	27	B大壙		土師器	杯	底部1/2～体部2/5～口縁部1/4	(12.2)	4.6		(8.0)	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜大以下を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色、黒褐色	にぶい橙色、にぶい褐色	やや不良	外面少し摩耗、内面一部剥離。外面一部スス付着
	28	B大壙		土師器	杯	2/3	12.5	4.4		8.2	内面底部と体部境明瞭。口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	微砂粒含む	明褐色	明褐色	良好	
	29	B大壙		土師器	杯	底部 体部3/5強～口縁部1/4	(14.1)	4.8		7.6	口縁内外面および内面ヨコナデ。底部および体部手持ち篦ケズリ。	小礫1㎜大以下、褐鉄鉱粒4㎜以下を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	普通	
	30	B大壙		須恵器	杯蓋	1/2	17.0	3.8			摘み扁平宝珠形。内外面ロクロナデ。天井部外面2分の1回転篦ケズリ。	緻密	灰色、灰白色	灰色、灰白色	普通	内外面火ダスキ有り
	31	B大壙		須恵器	蓋	1/3	(18.0)	2.7+			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を少量含む	灰色	灰色	普通	
	32	B大壙		須恵器	蓋	口縁部1/6～体部1/4	(17.2)	2.0+			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	緻密	オリーブ灰色、暗オリーブ灰色、灰黄褐色	灰黄褐色、灰色	良好	
	33	B大壙		須恵器	蓋	一部	(19.0)	2.3+			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	緻密	白灰色	白灰色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	34	B大壙		須恵器	蓋	口縁部1/4～体部1/5	(14.4)	1.5+			内外面ロクロナデ。天井部外面回転篦ケズリ。	小礫1㎜大以下を含む	灰オリーブ色 灰色、灰黄色	灰色、灰白色 にぶい黄橙色	やや不良	口唇部附近わずかに摩耗
	35	B大壙		須恵器	高台付杯	底部1/3～体部1/5～口縁部一部	(17.6)	6.4		(11.1)	角高台で箱形。口縁僅かに外反。口縁および体部内外面ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	小礫2㎜大以下を極少量含む	灰色、オリーブ黒色、灰オリーブ色	灰色、オリーブ黒色、灰黄色	普通	
	36	B大壙		須恵器	高台付杯	底部～高台部～体下部1/3～体上部～口縁部1/5	(15.2)	5.2		(9.9)	角高台で箱形。口縁外傾。口縁および体部内外面ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	小礫3㎜以下を含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	やや良好	
	37	B大壙		須恵器	高台付杯	底部～体最下部1/6		3.7+		(12.3)	肉厚。高台低く「ハ」字に開く。内外面シャープなロクロナデ。	密	灰色	灰色	普通	
	38	B大壙		須恵器	杯	底部1/2～体部2/5～口縁部1/3	(13.6)	4.6		(10.8)	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色、灰白色	灰色、灰白色 灰黄色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	39	B大壙		須恵器	杯	底部1/3～体部～口縁部1/6	(13.0)	3.2		(7.0)	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	密	灰白色、灰オリーブ色、灰色	灰白色、灰オリーブ色、灰色、淡黄色	わずかに不良	内外面やや摩耗、内面剥離多い。内外面火ダスキ有り
	40	B大壙		須恵器	杯	底部1/2～体部～口縁部1/4	(13.2)	3.3		(7.0)	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	密	灰白色、灰色 灰オリーブ色	灰白色、灰色	やや不良	内外面火ダスキ有り
	41	B大壙		須恵器	杯	底部3/5強～体部～口縁部1/3	(13.0)	3.3		6.6	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	密	灰黄色、灰色	灰色、灰白色	普通	内外面火ダスキ有り
	42	B大壙		須恵器	杯	底部1/2～体下部1/3		2.2+		(7.4)	内外面ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色、灰白色	灰白色、灰色 オリーブ黒色	わずかに不良	内面火ダスキ有り
	43	B大壙		須恵器	杯	底部3/5～体部～口縁部1/2	13.7	4.3+		11.0	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転糸切り残す回転篦ケズリ。	小礫1㎜以下を極少量含む	灰色、オリーブ黒色、灰白色	灰色、灰白色 オリーブ黒色	やや不良	内外面わずかに摩耗
	44	B大壙		須恵器	杯	底部3/5～体部～口縁部1/4	(12.0)	4.2		(9.4)	口縁および体部ロクロナデ。底部外面回転篦ケズリ。	褐鉄鉱粒2㎜弱を少量含む	灰褐色、褐色 灰色	灰色、灰褐色	普通	内面火ダスキ有り
	45	B大壙		須恵器	盤	体上部～口縁部1/5	(21.0)	3.8+			口縁僅かに外傾。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	灰白色粒1㎜以下を含む	灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
1号方形区画遺構	46	B大壙		須恵器	盤	底部～体部一部～口縁部1/4	(21.0)	4.6			口縁僅かに外傾。内外面ロクロナデ。底部回転篦ケズリ。	灰白色粒1㎜大以下を含み、褐鉄鉱粒3㎜大を一部含む	灰色、オリーブ黒色、オリーブ灰色、灰オリーブ色	灰色、灰オリーブ色	普通	
	47	B大壙		須恵器	高盤	体部～口縁部1/2	17.4	1.5+			口縁端部外に水平に開く。内外面シャープなロクロナデ	緻密	灰オリーブ色 オリーブ黒色	灰色	普通	
	48	B大壙		須恵器	高盤	杯部分	(17.0)	1.8+			口縁端部外に水平に開く。内外面シャープなロクロナデ	緻密	暗オリーブ灰色、浅黄色	灰色	普通	
	49	B大壙		須恵器	三方透かし高盤	脚裾部1/2～柱状部4/5強～杯下部3/5		13.2+		脚径(16.4)	やや肉厚。盤内面ロクロナデ、外面回転篦ケズリ。脚柱ロクロナデ、端部下に折れる。	小礫3㎜以下を少量含む	灰色、灰白色	灰色、灰白色	やや不良	内外面やや摩耗
	50	B大壙		須恵器 常陸産？	三方透かし高盤	脚上部2/5～盤底部1/3～体下部1/5		5.5+			肉厚。盤内面ロクロナデ、外面回転篦ケズリ。	小礫3㎜以下を非常に多く含み、銀雲母粒含む	灰黄色、灰白色、灰色	灰黄色、灰白色	やや不良	外面少し摩耗
	51	B大壙		須恵器	高盤	脚部 脚裾部1/4欠損		10.5+		11.8	脚柱内外面ロクロナデ、端部下方垂れる。	密	灰オリーブ色 灰色、黒褐色	灰色、灰オリーブ色	やや不良	外面わずかに摩耗
	52	B大壙		須恵器	高盤	脚部 脚裾部1/2欠損		8.3+		(10.2)	脚柱内外面ロクロナデ、端部下方垂れる。	黒褐色粒2㎜大以下を極少量含む	灰色	灰色	普通	
	53	B大壙		須恵器	高盤	脚短部破片	(10.6)	0.7+				緻密	灰色	灰色	普通	
	54	B大壙		灰釉陶器	長頸壺	3/4	7.5	23.4	16.1	8.4	3段構成？口縁上下に摘み出し、口唇「凹」状。内外面ロクロナデで、胴下端に回転篦ケズリ。高台角状で低い。頸部から肩部に白乳色の降灰有り。	灰褐色粒2㎜以下を少量含む	暗灰色	淡灰色	良好	
	55	B大壙 H59		灰釉陶器	長頸壺	底部一部欠損 胴部1/3欠損	8.5	24.6	16.8	9.3	3段構成。口縁端部上下に摘み出す。内外面ロクロナデで、胴下端に回転篦ケズリ。高台角状で低く「ハ」字気味に開く。口頸部内外面と肩部に顕著な灰淡緑色、胴下半に淡茶褐色の釉を被り、「釉」は施釉によるものと判断できる。火前明瞭。	密	淡緑色、淡橙色	淡灰色	良好	ブク有り。施釉。64住-13と接合
	56	B大壙		灰釉陶器	長頸壺	体中位1/2～体上部3/5強 頸部 口縁部4/5	7.3	16.1+	(15.5)		3段構成。口頸部やや細身。口縁端部上下に摘み出す。内外面ロクロナデ。口頸部内外面および肩部に淡い緑色色の釉被る。火前明瞭。	小礫1㎜以下を少量含む	灰色、オリーブ灰色、灰白色	灰色、灰オリーブ色、灰黄色	やや良好	
	57	B大壙		灰釉陶器	長頸壺	頸部4/5～口縁部1/2	7.1	8.3+			3段構成？口縁端部「く」字に内傾。内外面ロクロナデ。内外面に部分的に淡緑色の降灰有り。火前明瞭。	密	白灰色	白灰色	普通	
	58	B大壙		灰釉陶器	長頸壺	底部3/5～体下部1/2		8.1+		10.8	高台角状で低く「ハ」字に開く。内面ナデ、外面回転篦ケズリ。外面色調はガラス質の淡い小豆色で内面が光沢のない非ガラス質の同系色を呈する。	小礫2㎜以下を少量含む	極暗赤褐色、オリーブ黄色	灰赤色、にぶい橙色	良好	
	59	B大壙 H59		灰釉陶器	平瓶	底部4/5強～体部2/5～胴上部1/5～頸下部1/4		17.5+	(24.9)	15.2	高台角状で低く「ハ」字に開く。内面粘土紐巻き上げロクロナデ？体部外面上半ロクロナデ？、下半回転篦ケズリ。天井部外面に白乳色の降灰をゴマ塩状に被る。	密	灰色、灰黄色 淡黄色	灰色、灰黄色 淡黄色	普通	
	60	B大壙		土製品	支脚	基部片		6.7+	8.2		側面一円柱状 断面一円	小礫2㎜以下を極少量含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色		普通	
	61	B大壙		須恵質	平瓦						凹面布。凸縄叩き					
	62	B大壙		土製品	土玉	2/5	径(3.4cm)・高さ3.1cm・孔径0.6cm (11.4ｇ)									
	63	B大壙		石製品	砥石	両端欠損	現存長5.6cm・幅3.9cm・現存厚2.6cm 62.0ｇ									
	64	B大壙		鉄製品	鉄滓		大きさ7.0cm×4.9cm×2.9cm 119.5ｇ									
	65	B大壙		鉄製品	鉄滓		大きさ5.0cm×3.5cm×2.4cm 42.1ｇ									
	66	B大壙		鉄製品	鉄滓		大きさ3.3cm×3.3cm×2.0cm 9.2ｇ									
その他の遺物	1	BC-11+	9号溝	土師器	椀形杯 赤彩土器	底部 体部～口縁部1/2	15.0	6.1			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜以下を少量含む	赤色、赤褐色 にぶい黄橙色	赤色、にぶい赤褐色	普通	内面やや摩耗。外面底部付近を除き内外面赤彩
	2	表採		土師器	椀形杯 赤彩土器	口縁部一部欠損	14.3	4.9			口縁内外面ヨコナデ。底体部外面篦ナデ。内面ナデ。	小礫2㎜以下を多く、褐鉄鉱7㎜以下を含む	赤色、浅黄色	赤色	良好	外面底部を除き内外面赤彩
	3	表採		手捏土器	鉢形	口縁部一部欠損	4.4	2.5		3.3	内外面指頭圧痕。	密	にぶい橙色、にぶい黄橙色 褐灰色	にぶい橙色、にぶい黄橙色 褐灰色	普通	
	4	表採		灰釉陶器	把手付長頸壺	胴中位～口縁部2/5	(16.9)	23.6+	(29.1)		内外面ロクロナデ。釉薬刷毛塗り。	灰白色礫6㎜一部、小礫2㎜以下を含む	暗オリーブ灰色、オリーブ灰色、灰色	暗オリーブ灰色、オリーブ灰色、灰色	普通	
	5	表採		灰釉陶器	壺	底部 体部2/5～頚部1/3		16.5+	(13.8)	7.6	内外面ロクロナデ。	緻密	暗緑色		普通	外面剥離多い
	6	表採		ロクロ土師器	杯	底部 体部～口縁部1/3	(11.7)	4.5		5.0	内外面ロクロ整形。底部回転糸切り。	密 小礫1㎜以下僅かに含む	橙色、にぶい橙色	にぶい黄橙色	やや良好	
	7	表採		ロクロ土師器	杯 墨書土器 内黒土器	小片					内面内黒ミガキ。外面ロクロ整形。	密	橙色、灰褐色	黒色	やや良好	内面黒色処理
	8	B表採		須恵器	獣足	脚	器高6.3cm 脚径3.4cm×3.2cm					密 微黒粒含む	暗灰色		良好	全面降灰で薄く釉被る
	9	H 110 住居外溝		土製品	丸玉	完形	径1.31cm・高さ12.9cm・孔径0.2cm 2.123ｇ									

遺構番号	遺物番号	注記記号	出土位置	種別	器種	遺存度	計測値(cm) 口径	器高	最大径	底径	器形及び整形の特徴	胎土	色調 外面	色調 内面	焼成	備考
その他の遺物	10	H 110 住居外溝		土製品	丸玉	完形	径1.02cm・高さ0.91cm・孔径0.2cm　0.832ｇ									
	11	H 110 住居外溝		土製品	丸玉	完形	径1.13cm・高さ1.02cm・孔径0.15cm　1.251ｇ									
	12	H 110 住居外溝		土製品	丸玉	完形	径1.14cm・高さ0.95cm・孔径0.2cm　1.208ｇ									
	13	表採		土製品	有孔円盤	完形	径3.5cm・高さ1.1cm・孔径1.1cm　14.0ｇ									
	14	B 表採		土製品	土玉	4/5	径3.7cm・高さ3.8cm・孔径0.8cm　(42.1ｇ)									
	15	A 点		土製品	土玉	4/5	径3.5cm・高さ3.2cm・孔径0.7cm　(32.9ｇ)									
	16	表採		土製品	土玉	完形	径2.3cm・高さ2.0cm・孔径0.7cm　9.8ｇ									
	17	B C-6 Po1-56	2号溝	土製品	土玉		径3.2～3.5cm・高さ2.9cm　32.0ｇ									
	18	B 表採		土製品	土玉	完形	径3.4cm・高さ2.7cm・孔径0.6cm　32.1ｇ									
	19	表採		土製品	管状土錘	ほぼ完形	径1.7cm・長さ5.4cm・孔径0.5cm　(12.2ｇ)									
	20	表採		土製品	管状土錘	完形	径1.5～1.6cm・長さ4.1cm・孔径0.4cm　8.3ｇ									
	21	表採		土製品	管状土錘	ほぼ完形	径1.5cm・長さ4.5cm・孔径0.4cm　(8.1ｇ)									
	22	表採		土製品	管状土錘	ほぼ完形	径1.5～1.6cm・長さ4.6cm・孔径0.5cm　(8.5ｇ)									
	23	表採		銅製品	古銭	両面摩滅	径2.43cm　2.2ｇ									不明
	24	表採		銅製品	古銭	完存	径2.59cm　3.6ｇ									萬年通寶　(760年)
	25	表採		銅製品	古銭	完存	径2.50cm　3.3ｇ									景徳元寶　(1004年)
	26	表採		銅製品	古銭	完存	径2.19cm　2.6ｇ									治平元寶　(1064年)
	27	表採		銅製品	古銭	両面摩滅	径2.45cm　2.2ｇ									元豊通寶　(1078年)
	28	B C11 Po5	9号溝	石製品	砥石	ほぼ完存	長さ12.1cm・幅3.9cm・厚さ1.2～3.3cm　133.1ｇ									
	29	B 地下式 No8	7号地下？	石製品	砥石	ほぼ完存	現存長11.0cm・幅3.8cm・厚み0.8～3.6cm　137.1ｇ									
	30	B C13	9号溝	石製品	砥石	ほぼ完存	長さ10.2cm・幅0.7～5.8cm・厚さ2.0～3.2cm　201.8ｇ									
	31	B 落込み No2+	3号溝	石製品	砥石	部分	現存長8.6cm・幅1.8～2.9cm・厚さ3.1cm　104.4ｇ									
	32	B C13	9号溝	石製品	砥石	1/2	現存長5.7cm・幅6.0cm・厚さ2.4～4.0cm　166.1ｇ									
	33	B 特殊遺構		石製品	磨石	完存	長さ7.2cm・幅5.5cm・厚さ4.2cm　31.2ｇ									
	34	B C6+	2号溝	石製品	磨石・凹石	一部欠損	長さ8.1cm・幅5.8cm・厚さ3.9cm　38.4ｇ									
	35	B C11 Po3	9号溝	石製品	叩き石・凹石	完存	長さ8.5cm・幅8.0cm・厚さ4.2cm　457.1ｇ									
	36	表採		石製品	叩き石	完存	長さ15.1cm・幅7.9cm・厚さ4.7cm　789.8ｇ									
	37	B 地下式 No9	9号地下	石製品	磨石	一部	大きさ12.3cm×10.8cm×8.6cm　1900ｇ									
	38	H 110 住居外溝		石製品	石皿？	完存	長さ4.0cm・幅4.0cm・厚さ1.85cm　20.5ｇ									
	39	B 地下式 No8	7号地下	石製品	不明	ほぼ完存	大きさ18.0cm×17.5cm×10.9cm　4810ｇ									
	40	B C11 Po4	9号溝	石製品	五輪塔空風輪	完存	高さ17.3cm×径9.0～10.6cm　2420ｇ									
	41	B C13 Po1+33	9号溝	石製品	五輪塔空風輪	完存	高さ15.9cm×径9.0～10.5cm　2280ｇ									
	42	溝4 Po2		鉄製品	不明	一部	現存長7.7cm・幅4.8cm・厚さ0.7cm　79.6ｇ									
	43	表採		鉄製品	不明	一部	現存長5.2cm・厚さ0.4cm　15.9ｇ									

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いちはらしかもいせきえー・びーちてん
書 名	市原市加茂遺跡Ａ・Ｂ地点
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	上総国分寺台遺跡調査報告
シ リ ー ズ 番	ＸＶ
編 著 者 名	浅利幸一・田中清美
編 集 機 関	財団法人　市原市文化財センター
所 在 地	〒299－0011　千葉県市原市能満1,489番地　　TEL　0436（41）7300
発 行 年 月 日	2005年３月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
加茂遺跡Ａ・Ｂ地点	千葉県市原市加茂１丁目２ほか（ちばけんいちはらしかも）	12219	297	35度30分03秒	140度07分22秒	19750712～19760331	15,280㎡	土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加茂遺跡Ａ・Ｂ地点	集落	縄文時代前期 弥生時代後期 古墳時代 奈良時代 平安時代前期	縄文時代前期 住居跡　１軒 弥生時代中期 住居跡　５軒 弥生時代後期 住居跡　28軒 古墳時代 住居跡　150軒 奈良・平安時代 住居跡　60軒 中世 溝跡　24条 土抗　24基 地下式土壙　15基	縄文時代（前） 縄文土器 弥生時代後期 弥生土器、 古墳時代 土師器 須恵器 砥石 奈良・平安時代 土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 金属製品 瓦	古墳時代中期後半から終末期に継続して営まれた集落跡。出土土器も豊富で土器編年が可能である。 奈良時代末期の祭祀関連の井戸状遺構内から廃棄された多量の須恵器と共に原始灰釉陶器長頸壺が出土する。

上総国分寺台遺跡調査報告書ⅩⅤ
（市原市文化財センター調査報告書第94集）
「市原市加茂遺跡Ａ・Ｂ地点」

2005年３月18日　印刷
2005年３月25日　発行

編　集　　財団法人市原市文化財センター
発　行　　市原市教育委員会
〒290-8501　市原市国分寺台中央１－１－１
TEL：0436-22-1111
http://www.ichihara-chb.ed.jp/board/

印　刷　　凸版印刷株式会社